

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第 1 分 冊

1 9 9 4

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第 1 分 冊

1 9 9 4

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

序 文

千葉県の中ほどに位置する村田川周辺は、豊富な水と豊かな自然に恵まれ、その上流にある千葉市土気地区は下総台地と上総丘陵の分水嶺にあたり数多くの遺跡が所在しています。

千葉県は東京湾沿岸の臨海工業地帯の整備とともに内陸部においても工業の育成を図るため、各地に工業団地の建設を進めております。土気地区は千葉外房有料道路などの道路網の整備により、京葉臨海工業地帯・新東京国際空港とも結ばれることとなり、このような好条件を生かして土気緑の森工業団地の建設が、千葉県土地開発公社によって計画されました。

土気緑の森工業団地建設用地には広範囲におよぶ多くの遺跡が存在する可能性があるため、開発に先立ち遺跡の有無を調べるための試掘を行ったところ、すでに周知されている遺跡を含めて20遺跡が確認されました。このため、千葉県教育委員会は千葉県土地開発公社等関係諸機関と協議を行い、大野第10遺跡など一部の遺跡を工業団地内の公園として現状保存し、その他の遺跡については発掘調査を行うことになり、財団法人千葉県文化財センターが昭和60年度から平成2年度まで実施しました。

このたび、整理作業が終了し、その成果が土気緑の森工業団地内発掘調査報告書として刊行されるはこびとなりました。

本調査の結果、東大野第2遺跡や西大野第1遺跡の旧石器時代の石器群、大野第3遺跡および南大野第4遺跡の縄文時代早期の集落跡や同時期の珍しい装飾品が出土するとともに、大野第1遺跡などでみられる縄文時代の200基以上の陥穴群など注目すべき遺構を多く検出しました。

本報告書が学術資料として利用されることはもとより、千葉市の歴史に対する理解を深め、さらに文化財の保護と普及のため広く活用されることを願っております。

おわりにあたり、千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・千葉県土地開発公社をはじめとする関係諸機関のご指導ご協力に対して深く感謝いたします。また、調査補助員の皆様に対しても心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人 千葉県文化財センター
理事長 奥 山 浩

例 言

1. 本書は、千葉県土地開発公社によって計画された土気緑の森工業団地内造成工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書にいたる業務は千葉県土地開発公社の委託を受け、文化庁、および千葉県教育委員会の指導を受けて、昭和60年度から平成2年度まで財団法人千葉県文化財センターが行った。
3. 本書に記載された遺跡は、土気緑の森工業団地内に所在する大野第2遺跡、大野第3遺跡、大野第4遺跡、大野第5遺跡、大野第6遺跡、大野第7遺跡、大野第8遺跡、大野遺跡、大野第9遺跡、西大野第3遺跡、大野第1遺跡、西大野第1遺跡、東大野第1遺跡、東大野第2遺跡、大野南遺跡、南大野第1遺跡、東大野第3遺跡、南大野第4遺跡、東大野第4遺跡、南大野第5遺跡の20遺跡である。
4. 整理作業は平成3・4年度に行い、西口徹、豊田秀治が担当した。
5. 本書の執筆と編集は西口徹が担当した。
6. 第1図に使用した地図は国土地理院発行の50,000分の1地形図「千葉」・「東金」である。
7. 本書の挿図中の方位は座標北である。

本文目次

第1分冊

序文

凡例

序章	1
第1節 地理的環境	2
第2節 調査概要と調査方法	4
第1章 大野第2遺跡	9
第1節 旧石器時代	12
1 層序区分	12
2 概要	12
3 第1ブロック	12
4 第2ブロック	16
5 小結	19
第2節 縄文時代・奈良時代	19
1 概要	19
2 縄文時代の包含層の遺物について	19
3 古墳時代～奈良時代の遺物について	20
4 小結	20
第2章 大野第3遺跡	23
第1節 旧石器時代	27
1 層序区分	27
2 概要	27
3 第1ブロック	27
4 第2ブロック	30
5 第3ブロック	30
6 小結	30
第2節 縄文時代・奈良時代	33
1 概要	33
2 縄文時代の遺構・遺物について	33

3	縄文時代の包含層の遺物について	56
4	奈良時代の遺構・遺物について	68
5	奈良時代の包含層の遺物について	74
6	小結	74
第3章	大野第4遺跡	75
第1節	旧石器時代	78
1	層序区分	78
2	概要	79
3	第1ブロック	79
4	小結	79
第2節	縄文時代	81
1	概要	81
2	縄文時代の遺構・遺物について	81
3	縄文時代の包含層の遺物について	88
4	小結	88
第4章	大野第5遺跡	91
第1節	旧石器時代	93
1	層序区分	93
2	概要	93
3	遺物出土地点	93
4	小結	93
第2節	縄文時代	93
1	概要	93
2	縄文時代等の包含層の遺物について	95
3	奈良時代の遺物について	95
4	小結	95
第5章	大野第6遺跡	97
第1節	縄文時代・奈良時代	99
1	概要	99
2	縄文時代等の包含層の遺物について	99
3	奈良時代の遺物について	99
4	小結	99

第6章 大野第7遺跡	101
第1節 旧石器時代	105
1 層序区分	105
2 概要	105
3 第1ブロック	105
4 第2ブロック	109
5 第3ブロック	109
6 第4ブロック	112
7 小結	113
第2節 縄文時代・弥生時代・奈良時代・平安時代	118
1 概要	118
2 縄文時代の遺構・遺物について	118
3 縄文時代等の包含層の遺物について	157
4 弥生時代の遺構・遺物について	157
5 奈良時代・平安時代の遺構・遺物について	162
6 奈良時代・平安時代の包含層の遺物について	180
7 小結	180
第7章 大野第8遺跡	185
第1節 縄文時代以降	187
1 概要	187
2 縄文時代の遺構について	187
3 時期不明の遺構について	190
4 縄文時代の包含層の遺物について	190
5 小結	195
第8章 大野遺跡	199
第1節 旧石器時代	202
1 層序区分	202
2 概要	203
3 第1ブロック	203
4 第2ブロック	203
5 第3ブロック	205
6 その他の旧石器時代の遺物について	205

7	小結	206
第2節	縄文時代	210
1	概要	210
2	縄文時代の遺構・遺物について	210
3	縄文時代の遺構及び包含層の遺物について	230
4	小結	235
第9章	大野第9遺跡	239
第1節	縄文時代	242
1	概要	242
2	縄文時代の遺構・遺物について	242
3	縄文時代の包含層の遺物について	285
4	小結	286
第10章	西大野第3遺跡	293
第1節	縄文時代	295
1	概要	295
2	縄文時代の遺構について	296
3	縄文時代の包含層の遺物について	308
4	小結	312

第2分冊

第11章	大野第1遺跡	317
第1節	縄文時代	322
1	概要	322
2	縄文時代の遺構・遺物について	322
3	縄文時代の包含層の遺物について	408
4	奈良時代の遺構・遺物について	418
5	その他	419
6	小結	419
第12章	西大野第1遺跡	425
第1節	旧石器時代	432
1	層序区分	432
2	概要	432

3	第1ブロック (A地区)	432
4	第2ブロック (A地区)	438
5	第3ブロック (A地区)	440
6	第4ブロック (B地区)	442
7	第5ブロック (B地区)	446
8	第6ブロック (C地区)	446
9	第7ブロック (C地区)	447
10	第8ブロック (C地区)	456
11	第9ブロック (C地区)	456
12	第10ブロック (C地区)	460
13	第11ブロック (C地区)	460
14	第12ブロック (D地区)	461
15	その他の旧石器時代の遺構・遺物について	461
16	小結	461
第2節 縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代		464
1	概要	464
2	縄文時代の遺構・遺物について	464
3	縄文時代の包含層の遺物について	493
4	古墳時代の遺構・遺物について	498
5	奈良・平安時代の遺構・遺物について	498
6	奈良・平安時代の包含層の遺物について	521
7	小結	522
第13章 東大野第1遺跡		529
第1節 縄文時代		531
1	概要	531
2	縄文時代の遺構・遺物について	532
3	縄文時代の包含層の遺物について	537
4	小結	537
第14章 東大野第2遺跡		539
第1節 旧石器時代		543
1	層序区分	543
2	概要	543

3	第1ブロック (第1群)	544
4	第2ブロック (第1群)	546
5	第3ブロック (第1群)	550
6	第4ブロック (第1群)	553
7	第5ブロック (第1群)	556
8	第6ブロック (第1群)	556
9	第7ブロック (第1群)	561
10	第8ブロック (第2群)	561
11	第9ブロック (第2群)	563
12	第10ブロック (第2群)	563
13	第11ブロック (第3群)	567
14	第12ブロック (第3群)	572
15	第13ブロック (第3群)	572
16	第14ブロック (第4群)	575
17	第15ブロック (第4群)	577
18	第16ブロック (第4群)	577
19	第17ブロック (第4群)	581
20	第18ブロック (第5群)	582
21	第19ブロック (第5群)	582
22	第20ブロック (第5群)	582
23	第21ブロック (第5群)	588
24	第22ブロック (第6群)	588
25	第23ブロック (第6群)	591
26	第24ブロック (第6群)	591
27	第25ブロック (第6群)	591
28	第26ブロック (第6群)	593
29	第27ブロック (第7群)	593
30	第28ブロック (第7群)	595
31	第29ブロック (第7群)	595
32	第1焼土ブロック	596
33	第1炭化物集中地点	599
34	第2焼土ブロック及び炭化物集中地点	599

35	小結	599
第2節	縄文時代	602
1	概要	602
2	縄文時代の遺構・遺物について	602
3	縄文時代の包含層の遺物について	610
4	小結	613
第15章	大野南遺跡	615
第1節	旧石器時代	617
1	層序区分	617
2	概要	620
3	第1ブロック	621
4	第2ブロック	627
5	第3ブロック	627
6	その他の旧石器時代の遺物について	628
7	小結	628
第2節	縄文時代	630
1	概要	630
2	縄文時代の遺構・遺物について	630
3	縄文時代の包含層の遺物について	643
4	小結	643
第16章	南大野第1遺跡	647
第1節	縄文時代	648
1	概要	648
2	縄文時代の遺構・遺物について	648
3	縄文時代の包含層の遺物について	652
4	小結	652
第17章	東大野第3遺跡	653
第1節	旧石器時代	656
1	層序区分	656
2	概要	657
3	第1ブロック	657
4	第2ブロック	662

5	第3ブロック	663
6	小結	663
第2節	縄文時代	664
1	概要	664
2	縄文時代の遺構・遺物について	664
3	縄文時代の包含層の遺物について	673
4	小結	678
第18章	南大野第4遺跡	679
第1節	縄文時代	681
1	概要	681
2	縄文時代の遺構・遺物について	681
3	縄文時代の包含層の遺物について	688
4	小結	692
第19章	東大野第4遺跡	697
第1節	縄文時代・平安時代	699
1	概要	699
2	平安時代の遺構・遺物について	699
3	縄文時代・平安時代の包含層の遺物について	702
4	小結	702
第20章	南大野第5遺跡	703
第1節	縄文時代・平安時代	705
1	概要	705
2	平安時代以降の遺構・遺物について	705
3	縄文時代・平安時代の包含層の遺物について	708
4	小結	709
第21章	まとめ	711
1	旧石器時代のブロック群について	712
2	縄文時代早期の集落と包含層について	712
3	縄文時代早期から中期の陥穴群について	713
4	弥生時代について	713
5	古墳時代について	713
6	奈良時代から平安時代の集落について	713

7 最後に	713
-------------	-----

第3分冊

遺物属性表	715
抄 録	764
所載遺跡一覧	764
所載遺跡別遺構・遺物一覧	767
写真図版	

挿図目次

第1分冊

序章

- 第1図 土気緑の森工業団地 2
第2図 工業団地内遺跡位置図 3

第1章 大野第2遺跡

- 第3図 確認調査グリット配置図 10
第4図 下層本調査範囲 11
第5図 土層断面図 12
第6図 第1ブロック遺物出土状況 13
第7図 第1ブロック出土石器 14
第8図 第1・2ブロック出土石器 15
第9図 第2ブロック遺物出土状況 17
第10図 第2ブロック出土石器 18
第11図 包含層および確認グリット出土遺物(1) 21
第12図 包含層および確認グリット出土遺物(2) 22

第2章 大野第3遺跡

- 第13図 確認調査グリット配置図 24
第14図 下層本調査範囲 25
第15図 上層調査範囲および遺構配置図 26
第16図 土層断面図 28
第17図 第1ブロック遺物出土状況 28
第18図 第1ブロック出土石器 29
第19図 第2・3ブロック遺物出土状況 31
第20図 第2・3ブロック出土石器 32
第21図 002号住居跡 34
第22図 003号住居跡 34
第23図 002号住居跡出土土器 35
第24図 003号住居跡 36
第25図 003号住居跡炉 36
第26図 003号住居跡出土土器 37
第27図 004号住居跡 39

- 第28図 004号住居跡炉 39
第29図 004号住居跡遺物出土状況 40
第30図 004号住居跡出土土器(1) 40
第31図 004号住居跡出土土器(2) 41
第32図 縄文時代土坑(1) 43
第33図 縄文時代土坑(2) 46
第34図 縄文時代土坑(3) 49
第35図 縄文時代土坑(4) 52
第36図 遺構内出土土器(1) 54
第37図 遺構内出土土器(2) 55
第38図 遺構内出土土器(3) 56
第39図 遺構内出土土器(4) 57
第40図 遺構内出土土器(5) 58
第41図 包含層出土土器(1) 59
第42図 包含層出土土器(2) 60
第43図 包含層出土土器(3) 61
第44図 包含層出土土器(4) 62
第45図 包含層出土土器(5) 63
第46図 包含層出土土器(6) 64
第47図 包含層出土土器(7) 65
第48図 包含層出土土器(8) 66
第49図 遺構及び包含層出土遺物 67
第50図 001号住居跡遺物出土状況 70
第51図 001号住居跡 71
第52図 001号住居跡カマド 71
第53図 001号住居跡出土土器(1) 72
第54図 001号住居跡出土土器(2) 73
第55図 包含層出土土器 74

第3章 大野第4遺跡

- 第56図 確認調査グリット配置図 76

第 57 図	下層確認調査グリット配置図・本調査 範囲図	77	第 84 図	第 4 ブロック出土石器(2)	117
第 58 図	上層本調査範囲及び遺構配置図	77	第 85 図	009号埋燵炉	119
第 59 図	第 1 ブロック遺物出土状況	78	第 86 図	009号埋燵炉	119
第 60 図	第 1 ブロック出土石器	80	第 87 図	100号住居跡	121
第 61 図	縄文時代土坑(1)	82	第 88 図	縄文時代土坑(1)	122
第 62 図	縄文時代土坑(2)	84	第 89 図	縄文時代土坑(2)	124
第 63 図	縄文時代土坑(3)	86	第 90 図	縄文時代土坑(3)	127
第 64 図	包含層出土土器(1)	89	第 91 図	縄文時代土坑(4)	130
第 65 図	包含層出土土器(2)	90	第 92 図	縄文時代土坑(5)	132
第 4 章 大野第 5 遺跡			第 93 図	縄文時代土坑(6)	135
第 66 図	確認調査グリット配置図	92	第 94 図	縄文時代土坑(7)	138
第 67 図	遺物出土地点	94	第 95 図	縄文時代土坑(8)	140
第 68 図	出土遺物	94	第 96 図	遺構内出土土器(1)	141
第 69 図	確認調査グリット出土遺物	95	第 97 図	遺構内出土土器(2)	142
第 5 章 大野第 6 遺跡			第 98 図	縄文時代土坑(9)	145
第 70 図	確認調査グリット配置図	98	第 99 図	縄文時代土坑(10)	148
第 71 図	確認調査グリット出土遺物	99	第100図	縄文時代土坑(11)	151
第 6 章 大野第 7 遺跡			第101図	縄文時代土坑(12)	154
第 72 図	確認調査グリット配置図	102	第102図	縄文時代土坑(13)	156
第 73 図	下層本調査範囲	103	第103図	002号住居跡	158
第 74 図	上層本調査範囲及び遺構配置図	104	第104図	包含層出土土器	159
第 75 図	第 1 ブロック遺物出土状況	106	第105図	出土石器	160
第 76 図	第 1 ブロック出土遺物(1)	107	第106図	出土石器	161
第 77 図	第 1 ブロック出土石器(2)	108	第107図	001号住居跡	163
第 78 図	第 2 ブロック遺物出土状況	110	第108図	003号住居跡	164
第 79 図	第 2 ブロック出土石器	111	第109図	003号住居跡	165
第 80 図	第 3 ブロック遺物出土状況	113	第110図	004(A)(B)号住居跡	167
第 81 図	第 3 ブロック出土石器	114	第111図	遺構内出土遺物(1)	168
第 82 図	第 4 ブロック遺物出土状況	115	第112図	005号住居跡	170
第 83 図	第 4 ブロック出土石器(1)	116	第113図	遺構内出土遺物(2)	171
			第114図	101号住居跡	173
			第115図	006号掘立柱建物跡	174
			第116図	007号掘立柱建物跡	175
			第117図	008号掘立柱建物跡	176
			第118図	012号掘立柱建物跡	178

第119図	010・011号方形周溝状遺構	179	第150図	包含層出土土器(2)	232
第120図	V16区包含層出土遺物(1)	181	第151図	包含層出土土器(3)	233
第121図	V16区包含層出土遺物(2)	182	第152図	遺構・包含層出土遺物(1)	234
第122図	V16区包含層出土遺物(3)	183	第153図	遺構・包含層出土遺物(2)	236
第123図	V16区包含層出土遺物(4)	184	第154図	遺構・包含層出土遺物(3)	237

第7章 大野第8遺跡

第124図	確認調査グリット配置図	186
第125図	本調査範囲及び遺構配置図	187
第126図	縄文時代土坑	189
第127図	溝状遺構	191
第128図	縄文時代包含層出土土器	193
第129図	縄文時代包含層出土遺物	194
第130図	縄文時代包含層出土石器	196

第8章 大野遺跡

第131図	確認調査グリット配置図	200
第132図	下層本調査範囲	201
第133図	上層本調査範囲及び遺構配置図(1)	202
第134図	第1・2ブロック遺物出土状況	204
第135図	第3ブロック(単独出土)遺物出土状況	206
第136図	第1・2ブロック出土石器	207
第137図	第2ブロック出土石器	208
第138図	第2・3ブロック及びグリット出土石器	209
第139図	グリット出土石器	210
第140図	上層本調査範囲及び遺構配置図(2)	211
第141図	縄文時代土坑(1)	213
第142図	縄文時代土坑(2)	215
第143図	縄文時代土坑(3)	218
第144図	縄文時代土坑(4)	221
第145図	縄文時代土坑(5)	224
第146図	縄文時代土坑(6)	226
第147図	縄文時代土坑(7)	228
第148図	縄文時代土坑(8)	230
第149図	包含層出土土器(1)	231

第9章 大野第9遺跡

第155図	確認調査グリット配置図	240
第156図	上層本調査範囲及び遺構配置図	241
第157図	080号住居跡	243
第158図	100号住居跡	244
第159図	110号住居跡	245
第160図	縄文時代土坑(1)	247
第161図	縄文時代土坑(2)	249
第162図	縄文時代土坑(3)	252
第163図	縄文時代土坑(4)	255
第164図	縄文時代土坑(5)	257
第165図	縄文時代土坑(6)	259
第166図	縄文時代土坑(7)	263
第167図	縄文時代土坑(8)	265
第168図	縄文時代土坑(9)	268
第169図	縄文時代土坑(10)	270
第170図	縄文時代土坑(11)	272
第171図	縄文時代土坑(12)	275
第172図	縄文時代土坑(13)	277
第173図	縄文時代土坑(14)	279
第174図	縄文時代土坑(15)	282
第175図	縄文時代土坑(16)	284
第176図	遺構内出土土器	287
第177図	包含層出土土器(1)	288
第178図	包含層出土土器(2)	289
第179図	出土石器(1)	290
第180図	出土石器(2)	291
第181図	出土石器(3)	292

第10章 西大野第3遺跡

第182図	確認調査グリット配置図	294
第183図	上層本調査範囲及び遺構配置図	295
第184図	008号住居跡	297
第185図	縄文時代土坑(1)	298
第186図	縄文時代土坑(2)	301
第187図	縄文時代土坑(3)	304
第188図	縄文時代土坑(4)	307
第189図	遺構出土土器(1)	309
第190図	遺構出土土器(2)	310
第191図	包含層出土土器	311
第192図	003号遺物出土状況	313
第193図	出土石器(1)	314
第194図	出土石器(2)	315
第195図	出土石器(3)	316

挿図目次

第2分冊

第11章 大野第1遺跡

第196図	上層本調査範囲	318	第230図	縄文時代土坑⑭	393
第197図	確認調査グリット配置図	319	第231図	縄文時代土坑⑮	396
第198図	上層本調査範囲及び遺構配置図－西側	320	第232図	縄文時代土坑⑯	399
第199図	上層本調査範囲及び遺構配置図－東側	321	第233図	縄文時代土坑⑰	402
第200図	001号住居跡	323	第234図	縄文時代土坑⑱	405
第201図	030号住居跡	323	第235図	縄文時代土坑⑲	407
第202図	105号住居跡	325	第236図	遺構出土土器(1)	410
第203図	106号住居跡	325	第237図	遺構出土土器(2)	411
第204図	197(A)(B)号住居跡	326	第238図	遺構出土土器(3)	412
第205図	241号住居跡	328	第239図	包含層出土土器	413
第206図	244号住居跡	328	第240図	遺構及び包含層出土土器(1)	414
第207図	縄文時代土坑(1)	329	第241図	遺構及び包含層出土土器(2)	415
第208図	縄文時代土坑(2)	332	第242図	遺構及び包含層出土土器(3)	416
第209図	縄文時代土坑(3)	335	第243図	遺構及び包含層出土土器(4)	417
第210図	縄文時代土坑(4)	338	第244図	104号住居跡	420
第211図	縄文時代土坑(5)	341	第245図	100号掘立柱建物跡	421
第212図	縄文時代土坑(6)	344	第246図	101号掘立柱建物跡	421
第213図	縄文時代土坑(7)	346	第247図	出土土器	422
第214図	縄文時代土坑(8)	349	第248図	出土石製品・土製品	423
第215図	縄文時代土坑(9)	352			
第216図	縄文時代土坑(10)	354	第12章 西大野第1遺跡		
第217図	縄文時代土坑(11)	357	第249図	上層確認調査グリット配置図	426
第218図	縄文時代土坑(12)	360	第250図	上層本調査範囲(西地区)及び遺構配置図	427
第219図	縄文時代土坑(13)	362	第251図	上層本調査範囲(東地区)及び遺構配置図	428
第220図	縄文時代土坑(14)	365	第252図	上層本調査範囲(北地区)及び遺構配置図	429
第221図	縄文時代土坑(15)	368	第253図	下層確認調査配置図	430
第222図	縄文時代土坑(16)	370	第254図	下層本調査配置図	431
第223図	縄文時代土坑(17)	373	第255図	IV－V層遺物出土状況及び接合図	433
第224図	縄文時代土坑(18)	376	第256図	A地区第1ブロック遺物出土状況	434
第225図	縄文時代土坑(19)	379	第257図	A地区第1ブロック出土土器(1)	435
第226図	縄文時代土坑(20)	381	第258図	A地区第1ブロック出土土器(2)	436
第227図	縄文時代土坑(21)	384	第259図	A地区第1ブロック出土土器(3)	437
第228図	縄文時代土坑(22)	387	第260図	A地区第2・3ブロック遺物出土状況	439
第229図	縄文時代土坑(23)	390	第261図	A地区第2ブロック出土土器	440
			第262図	A地区第3ブロック出土土器	441

第263図	B地区第4・5ブロック遺物出土状況	443	第298図	001号方墳・001主体部及び石室	500
第264図	B地区第4ブロック出土石器(1)	444	第299図	001号方墳・002・003主体部	501
第265図	B地区第4ブロック出土石器(2)	445	第300図	002号住居跡(1)	502
第266図	B地区第5ブロック出土石器(1)	448	第301図	002号住居跡(2)	503
第267図	B地区第5ブロック出土石器(2)	449	第302図	003号住居跡	505
第268図	B地区第5ブロック出土石器(3)	450	第303図	004号住居跡	506
第269図	B地区第5ブロック出土石器(4)	451	第304図	005号住居跡	507
第270図	C地区第6ブロック遺物出土状況及び 接合図	452	第305図	006号住居跡	509
第271図	C地区第6・7ブロック遺物出土状況	453	第306図	007号住居跡	510
第272図	C地区第6ブロック出土石器	454	第307図	012号・023号住居跡	511
第273図	C地区第7ブロック出土石器	455	第308図	037号住居跡	513
第274図	C地区第8～11ブロック遺物出土状況 図	457	第309図	065号住居跡	514
第275図	C地区第8ブロック出土石器	458	第310図	073号・069号住居跡	516
第276図	C地区第9ブロック出土石器	459	第311図	土坑	518
第277図	C地区第10・11ブロック出土石器	460	第312図	溝	520
第278図	D地区出土石器	461	第313図	出土土器(1)	523
第279図	D地区遺物出土状況	462	第314図	出土土器(2)	524
第280図	確認調査時検出炭化材及び礫出土状況	463	第315図	出土土器(3)	525
第281図	031号住居跡	464	第316図	出土土器(4)	526
第282図	045号住居跡	465	第317図	出土土器(5)	527
第283図	071号住居跡	466	第318図	出土遺物	528
第284図	縄文時代土坑(1)	467	第13章 東大野第1遺跡		
第285図	縄文時代土坑(2)	470	第319図	確認調査グリット配置図	530
第286図	縄文時代土坑(3)	473	第320図	上層本調査範囲及び遺構配置図	531
第287図	縄文時代土坑(4)	477	第321図	縄文時代土坑(1)	533
第288図	縄文時代土坑(5)	481	第322図	縄文時代土坑(2)	535
第289図	縄文時代土坑(6)	483	第323図	包含層出土遺物	537
第290図	縄文時代土坑(7)	487	第14章 東大野第2遺跡		
第291図	縄文時代土坑(8)	491	第324図	下層本調査範囲	540
第292図	縄文時代土坑(9)	492	第325図	確認調査グリット配置図	541
第293図	出土土器(1)	494	第326図	上層本調査範囲及び遺構配置図	542
第294図	出土土器(2)	495	第327図	ブロック分布図	543
第295図	出土土器(3)	496	第328図	第1群、第1・2ブロック遺物出土状況	544
第296図	出土石器	497	第329図	第1群、第1ブロック出土石器	545
第297図	001号方墳	499	第330図	第1群、第2ブロック出土石器(1)	547

第331図	第1群、第2ブロック出土石器(2)	548	第368図	第7群、第27～29ブロック遺物出土状況	594
第332図	第1群、第2ブロック出土石器(3)	549	第369図	第7群、第27・28ブロック出土石器	596
第333図	第1群、第3ブロック出土石器(1)	550	第370図	第7群、第28・29ブロック出土石器	597
第334図	第1群、第3ブロック遺物出土状況	551	第371図	第7群、第29ブロック出土石器	598
第335図	第1群、第3ブロック出土石器(2)	552	第372図	第1焼土ブロック	600
第336図	第1群、第4・6ブロック遺物出土状況	554	第373図	第1炭化物集中地点	600
第337図	第1群、第5・7ブロック遺物出土状況	555	第374図	第2焼土ブロック及び炭化物集中地点	601
第338図	第1群、第4ブロック出土石器	557	第375図	縄文時代土坑(1)	603
第339図	第1群、第4・5ブロック出土石器	558	第376図	縄文時代土坑(2)	606
第340図	第1群、第5ブロック出土石器	559	第377図	縄文時代土坑(3)	609
第341図	第1群、第5～7ブロック出土石器	560	第378図	出土石器	611
第342図	第2群、第8～10ブロック遺物出土状況	562	第379図	包含層出土石器	612
第343図	第2群、第8～10ブロック出土石器(1)	564			
第344図	第2群、第8～10ブロック出土石器(2)	565	第15章 大野南遺跡		
第345図	第2群、第8～10ブロック出土石器(3)	566	第380図	下層本調査範囲	616
第346図	第2群、第8ブロック出土石器	567	第381図	上層確認調査グリット配置図	617
第347図	第3群、第11・12ブロック遺物出土状況	568	第382図	下層確認調査グリット配置図	618
第348図	第3群、第11ブロック出土石器	569	第383図	上層本調査範囲及び遺構配置図	619
第349図	第3群、第12ブロック出土石器(1)	570	第384図	第1ブロック遺物出土状況	620
第350図	第3群、第12ブロック出土石器(2)	571	第385図	第1ブロック出土石器(1)	622
第351図	第3群、第13ブロック遺物出土状況	573	第386図	第1ブロック出土石器(2)	623
第352図	第3群、第13ブロック出土石器(1)	574	第387図	第1ブロック出土石器(3)	624
第353図	第3群、第13ブロック出土石器(2)	575	第388図	第1ブロック出土石器(4)	625
第354図	第4群、第14～17ブロック遺物出土状況	576	第389図	第1ブロック出土石器(5)	626
第355図	第4群、第14ブロック出土石器	578	第390図	第2・3ブロック遺物出土状況	628
第356図	第4群、第14・15ブロック出土石器	579	第391図	第2・3ブロック出土石器	629
第357図	第4群、第15～17ブロック出土石器	580	第392図	016号住居跡遺物出土状況	630
第358図	第4群、第17ブロック出土石器	581	第393図	019・020号住居跡	631
第359図	第5群、第18～21ブロック遺物出土状況	583	第394図	縄文時代土坑(1)	633
第360図	第5群、第18ブロック出土石器	584	第395図	縄文時代土坑(2)	636
第361図	第5群、第19・20ブロック出土石器	585	第396図	縄文時代土坑(3)	638
第362図	第5群、第20・21ブロック出土石器	586	第397図	縄文時代土坑(4)	641
第363図	第5群、第20ブロック出土石器	587	第398図	出土石器	644
第364図	第6群、第22～26ブロック遺物出土状況	589	第399図	出土石器	645
第365図	第6群、第22・23ブロック出土石器	590			
第366図	第6群、第24～26ブロック出土石器	592	第16章 南大野第1遺跡		
第367図	第6群、第26ブロック出土石器	593	第400図	位置図及び遺構配置図	648

第401図	上層確認調査グリット配置図	649	第434図	包含層出土石器(3)	691
第402図	下層確認調査グリット配置図	649	第435図	包含層遺物出土状況(1)	693
第403図	縄文時代土坑	650	第436図	包含層遺物出土状況(2)	694
第404図	包含層出土石器	651	第437図	包含層遺物出土状況(3)	695

第17章 東大野第3遺跡

第405図	上層及び下層本調査範囲図	654
第406図	確認調査グリット及び本調査範囲図	655
第407図	上層本調査範囲及び遺構配置図	656
第408図	第1ブロック遺物出土状況	657
第409図	第1ブロック出土石器	658
第410図	第2ブロック遺物出土状況	659
第411図	第3ブロック出土状況	660
第412図	第1・2ブロック出土石器	661
第413図	第2・3ブロック出土石器	662
第414図	002・003号住居跡	665
第415図	010・011号住居跡	666
第416図	縄文時代土坑	668
第417図	包含層遺物出土状況(1)	670
第418図	包含層遺物出土状況(2)	671
第419図	包含層遺物出土状況(3)	672
第420図	包含層出土石器	673
第421図	包含層出土石器(1)	674
第422図	包含層出土石器(2)	675
第423図	包含層出土石器(3)	676
第424図	包含層出土遺物	677

第18章 南大野第4遺跡

第425図	遺跡範囲	680
第426図	確認調査グリット配置図	681
第427図	本調査範囲及び遺構配置図	682
第428図	001・010号住居跡	683
第429図	縄文時代土坑	685
第430図	包含層出土石器(1)	687
第431図	包含層出土石器(2)	688
第432図	包含層出土石器(1)	689
第433図	包含層出土石器(2)	690

第19章 東大野第4遺跡

第438図	位置図及び遺構配置図	698
第439図	確認調査グリット配置図	699
第440図	炭窯跡	701
第441図	包含層出土石器	702
第442図	包含層出土石器	702

第20章 南大野第5遺跡

第443図	位置図及び遺構配置図	704
第444図	確認調査グリット配置図	705
第445図	平安時代以降の遺構	707
第446図	包含層出土石器	708
第447図	包含層出土石器	708

表 目 次

表1	大野第2遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	715
表2	大野第2遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	715
表3	大野第2遺跡	縄文時代グリット出土石器属性表	715
表4	大野第2遺跡	グリット出土土器観察表(縄文)	715
表5	大野第2遺跡	グリット出土土器観察表(古墳)	716
表6	大野第3遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	716
表7	大野第3遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	716
表8	大野第3遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	716
表9	大野第3遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	717
表10	大野第3遺跡	縄文時代グリット出土土製品属性表	717
表11	大野第3遺跡	遺構・グリット出土土器観察表(縄文)	718
表12	大野第3遺跡	グリット出土土器観察表(奈良)	718
表13	大野第3遺跡	遺構出土土器観察表(奈良)	719
表14	大野第4遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	720
表15	大野第5遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	720
表16	大野第7遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	721
表17	大野第7遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	721
表18	大野第7遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	721
表19	大野第7遺跡	旧石器時代第4ブロック他遺物属性表	722
表20	大野第7遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	722
表21	大野第7遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	722
表22	大野第7遺跡	グリット出土土器観察表(奈良・平安)	723
表23	大野第7遺跡	遺構出土土器観察表(奈良・平安)	725
表24	大野第7遺跡	奈良・平安時代遺構・グリット出土石製品属性表	725
表25	大野第8遺跡	縄文時代グリット出土石器・石製品属性表	726
表26	大野遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	727

表27	大野遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	727
表28	大野遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	727
表29	大野遺跡	旧石器時代ブロック外遺物属性表	727
表30	大野遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品属性表	728
表31	大野第9遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	729
表32	大野第9遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	729
表33	西大野第3遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	730
表34	西大野第3遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	731
表35	大野第1遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	732
表36	大野第1遺跡	縄文時代遺構出土土器観察表	733
表37	大野第1遺跡	奈良時代遺構等出土土器観察表	733
表38	大野第1遺跡	石製品・土製品計測表(縄文～奈良・平安)	734
表39	西大野第1遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	735
表40	西大野第1遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	736
表41	西大野第1遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	736
表42	西大野第1遺跡	旧石器時代第4ブロック遺物属性表	736
表43	西大野第1遺跡	旧石器時代第5ブロック遺物属性表	737
表44	西大野第1遺跡	旧石器時代第6ブロック遺物属性表	738
表45	西大野第1遺跡	旧石器時代第7ブロック遺物属性表	739
表46	西大野第1遺跡	旧石器時代第8ブロック遺物属性表	739
表47	西大野第1遺跡	旧石器時代第9ブロック遺物属性表	739
表48	西大野第1遺跡	旧石器時代第10ブロック遺物属性表	740
表49	西大野第1遺跡	旧石器時代第11ブロック遺物属性表	740
表50	西大野第1遺跡	旧石器時代第12ブロック遺物属性表	740
表51	西大野第1遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	741
表52	西大野第1遺跡	縄文時代遺構出土土器観察表	741
表53	西大野第1遺跡	奈良・平安時代遺構及び包含層出土土器観察表	741
表54	西大野第1遺跡	鉄製品・石製品計測表(古墳～奈良・平安)	745
表55	東大野第2遺跡	旧石器時代第1群遺物属性表	746
表56	東大野第2遺跡	旧石器時代第2群遺物属性表	748
表57	東大野第2遺跡	旧石器時代第3群遺物属性表	750
表58	東大野第2遺跡	旧石器時代第4群遺物属性表	751

表59	東大野第2遺跡	旧石器時代第5群遺物属性表	752
表60	東大野第2遺跡	旧石器時代第6群遺物属性表	753
表61	東大野第2遺跡	旧石器時代第7群遺物属性表	754
表62	東大野第2遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品属性表	754
表63	大野南遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	755
表64	大野南遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	756
表65	大野南遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	756
表66	大野南遺跡	旧石器時代ブロック外遺物属性表	756
表67	大野南遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	757
表68	大野南遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	757
表69	東大野第3遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	758
表70	東大野第3遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	759
表71	東大野第3遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	759
表72	東大野第3遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品・土製品属性表	760
表73	南大野第4遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品属性表	762

写真図版目次

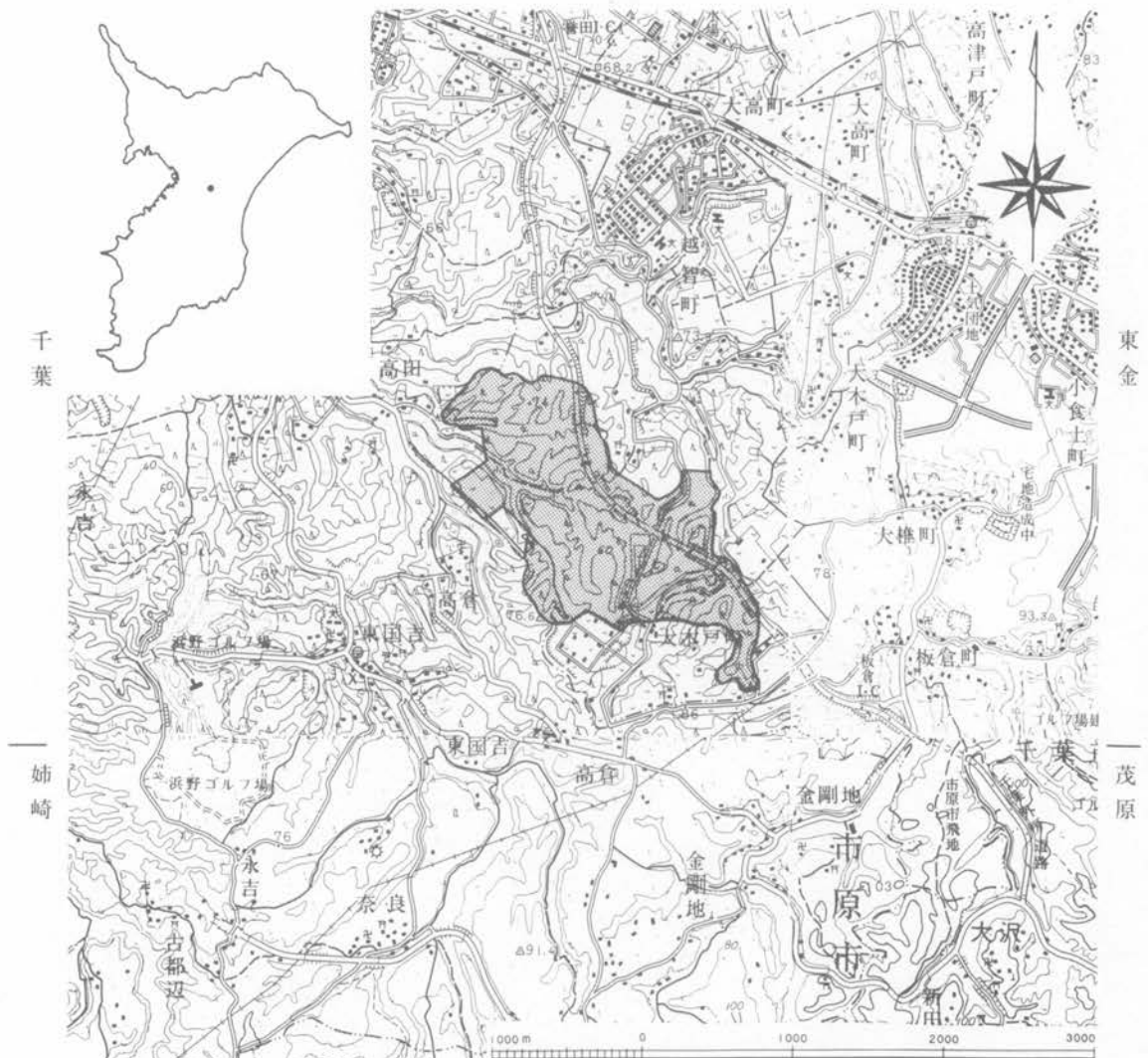
図版1	大野第2遺跡	図版80	大野第1遺跡
図版4	大野第3遺跡	図版119	西大野第1遺跡
図版14	大野第4遺跡	図版152	東大野第1遺跡
図版18	大野第5遺跡	図版154	東大野第2遺跡
図版19	大野第6遺跡	図版177	大野南遺跡
図版20	大野第7遺跡	図版187	南大野第1遺跡
図版47	大野第8遺跡	図版189	東大野第3遺跡
図版49	大野遺跡	図版200	南大野第4遺跡
図版59	大野第9遺跡	図版206	東大野第4遺跡
図版76	西大野第3遺跡	図版208	南大野第5遺跡

序 章

第1節 地理的 環境

土気緑の森工業団地建設予定地は、東京湾に注ぐ村田川の最奥部に位置し標高60m～80mほどの比較的高い台地上にある。この地域は村田川とその支流により開析された比較的小規模な台地が展開し、その台地上に遺跡が点在している。

大野第2遺跡他19遺跡は、千葉市の南東側に位置し、この北側には土気駅周辺の遺跡群や小食土廃寺などがある。また西側の村田川中流域にかけては当文化財センターが発掘調査を進めている千原台地区や千葉東南部地区内に多くの遺跡がある。



第1図 土気緑の森工業団地位置図

(1/50,000)



- | | | | | | | |
|------------------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| 1 大野第 2 | 2 大野第 3 | 3 大野第 4 | 4 大野第 5 | 5 大野第 6 | 6 大野第 7 | 7 大野第 8 |
| 8 大野 | 9 大野第 9 | 10 西大野第 3 | 11 大野第 1 | 12 西大野第 1 | 13 東大野第 1 | 14 東大野第 2 |
| 15 大野南 | 16 南大野第 1 | 17 東大野第 3 | 18 南大野第 4 | 19 東大野第 4 | 20 南大野第 5 | 21 大野第 10 (保存地区) |
| 22 南大野第 4 (保存地区) | 23 力地区 (保存地区) | | | | | |

第 2 図 工業団地内遺跡位置図 (1/25,000)

第2節 調査概要と調査方法

大野第2遺跡は、千葉市大木戸町1210-23他に所在する。昭和60年7月5日から昭和60年10月31日まで調査した。対象面積は10,000㎡で、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。またローム層が存在しない部分を除いて、上層の50%の範囲で下層の確認を行った。

その結果、上層では縄文時代中期(加曾利E)・奈良時代の土器片、下層では旧石器時代の遺物が少量検出されたので、下層の本調査80㎡を実施し2ブロック合計16点の遺物が検出された。なお、遺構についてはまったく検出されなかった。

大野第3遺跡は、千葉市大木戸町1209-5他に所在する。昭和60年12月17日から昭和61年2月14日まで調査した。対象面積は13,000㎡で、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて、遺構・遺物の確認を行った。また下層については大野第2遺跡と同様な方法で実施した。

その結果、上層では縄文時代中期(加曾利E)の遺構・遺物、下層では3地点で旧石器時代の遺物が検出されたので、上層の本調査1,672㎡、下層の本調査928㎡を実施し縄文時代中期の住居跡が3軒、平安時代の住居跡1軒、土坑17基が検出された。下層は3ブロック合計19点の遺物が検出された。

大野第4遺跡は、千葉市大木戸町1210-12他に所在する。対象面積は14,000㎡で昭和61年1月21日から昭和61年3月8日まで調査した。上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げ遺構・遺物の確認を行った。

その結果、上層の本調査4,200㎡について昭和61年11月17日から昭和62年2月3日まで行い、土坑14基、粘土採掘坑1か所が検出された。遺物は縄文時代中期(加曾利E)の土器片が少量出土した。あわせて下層の確認調査を行い、2か所については拡張した結果合計15点の遺物が検出された。

大野第5遺跡は、千葉市大木戸町1210-20他に所在する。対象面積は3,600㎡で昭和61年2月3日から昭和61年2月28日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定(確認対象の10%)し、立川ローム層上面まで掘り下げ遺構・遺物の確認を行った。引き続いて、遺構等を検出したグリット以外について下層の確認を行った。

その結果、上層550㎡、下層40㎡の本調査を昭和62年1月8日から昭和62年2月6日まで行った。確認調査時に遺構とされたものはすべて風倒木痕であることが判明した。下層の遺物も確認調査時の1点の検出にとどまった。

大野第6遺跡は、千葉市大木戸町1210-2他に所在する。対象面積は4,200㎡で昭和61年3月3

日から昭和61年3月17日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。引き続き、遺構等を検出したグリット以外について下層の確認を行った。

その結果、旧石器時代の遺物1点と若干の縄文時代・平安時代の土器片を検出したが、遺構等は検出されなかったので確認調査をもって終了した。

大野第7遺跡は、千葉市大木戸町1209-22他に所在する。対象面積は26,000㎡で昭和61年2月17日から昭和61年3月27日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。引き続き、遺構等を検出したグリット以外について下層の確認を行った。

その結果、上層7,636㎡および下層264㎡の本調査を昭和61年4月1日から昭和61年8月31日まで行った。その結果、住居跡8軒(縄文3、弥生1、平安4)、周溝状遺構2基、掘立柱建物跡4棟、土坑84基(陥穴68、その他16)が検出された。遺物は縄文土器、土師器、須恵器を中心に検出された。下層は4ブロックで合計88点の遺物が検出された。

大野第8遺跡は、千葉市大木戸町1215-4、1216-4に所在する。対象面積は4,000㎡で昭和61年1月20日から昭和61年1月31日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。引き続き、遺構等を検出したグリット以外について下層の確認を行った。

その結果、上層500㎡の本調査を昭和61年10月27日から昭和61年12月26日まで行い、土坑9基(縄文)、溝2条(時期不明)が検出された。遺物は縄文時代中期頃の石器と土器片が主体である。

大野遺跡は、千葉市大木戸町1215-3他に所在する。全体の対象面積が15,600㎡で、一次調査(5,000㎡)は昭和61年9月1日から昭和61年10月18日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて、遺構・遺物の確認を行った。引き続き、遺構等を検出したグリット以外については下層の確認を行った。

その結果、上層670㎡の本調査を昭和61年10月28日から昭和62年11月15日まで行い、住居跡1軒(縄文)、土坑10基(縄文)が検出された。遺物は縄文土器(早期～中期)が主体である。

二次調査(10,600㎡)は昭和62年2月4日から昭和62年2月28日まで調査し、2m×2mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。引き続き、遺構等を検出したグリット以外については下層の確認を行った。

その結果、上層2,000㎡および下層320㎡の本調査を昭和62年4月20日から昭和62年5月20日まで行い、土坑40基(うち陥穴5基)が検出された。遺物は縄文土器(早期～中期)が主体である。下層は2ブロックで合計171点の遺物が検出された。

大野第9遺跡は、千葉市大木戸町1293他に所在する。対象面積は12,000㎡で昭和62年3月10日から昭和62年3月27日まで調査し、2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。

その結果、上層11,000㎡の本調査を昭和62年5月21日から昭和62年8月4日まで行い、住居跡3軒（縄文）、土坑108基が検出された。遺物は縄文土器（前期～中期）が主体である。引き続いて下層の確認調査を昭和62年8月5日から昭和62年10月26日まで行ったが、遺物が1点検出されたのみで本調査まではいたらなかった。

西大野第3遺跡は、千葉市大木戸町1391-1他に所在する。対象面積は4,500㎡で昭和62年10月27日から昭和63年1月14日まで上層の本調査を行い、住居跡1軒、土坑24基、埋め嚢1基が検出された。遺物は縄文土器（前期～後期）と石器（石鏃や石斧等）が多く見つかった。引き続いて下層の確認調査を昭和63年1月18日から昭和63年1月30日まで行ったが、遺物はまったく検出されなかった。

大野第1遺跡は、千葉市大木戸町1202-32他に所在する。対象面積は80,200㎡で昭和62年4月1日から昭和62年9月10日まで調査し、2m×4mのトレンチを一定間隔で設定(4,968㎡)し、立川ローム層上面まで掘り下げて、遺構・遺物の確認を行った。

その結果、上層24,000㎡の本調査を昭和62年9月11日から昭和63年3月29日まで行い、住居跡9軒（縄文8、平安1）、小竪穴1基、掘立柱建物跡2棟、土坑236基（うち陥穴227基）が検出された。遺物は縄文土器（前期～中期）が多く、他に土師器や石鏃や石斧などの石器も検出された。引き続き下層の確認調査（確認対象の4%）も行ったが、遺物が1点のみで本調査へは移行しなかった。

西大野第1遺跡は、千葉市大木戸町1206-28他に所在する。全体の対象面積が39,500㎡で一次調査(7,000㎡)は昭和63年3月16日から昭和63年3月29日まで調査し、2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。

その結果、上層4,200㎡の本調査を昭和63年4月6日から昭和63年8月5日まで行い、住居跡5軒（縄文2、平安3）、土坑41基、埋め嚢1基、溝1条が検出された。遺物は縄文土器、石器、土師器、須恵器などが検出された。引き続き下層の確認調査に移行し、遺物が出土した地点を中心に300㎡の本調査を行い、2ブロック合計13点の遺物が検出された。

二次調査(30,500㎡)は平成元年1月18日から平成元年3月29日まで調査し上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。その結果、上層12,000㎡の本調査を平成元年4月1日から平成2年3月30日まで実施した。遺構は住居跡10軒（縄文1、奈良・平安9）、方墳1基、土坑34基（縄文32、奈良・平安2）が検出された。遺物は各遺構に伴って縄文土器、土師器が多く検出された。引き続き

上層の残り2,000㎡の確認調査と下層の確認調査を実施し、下層については498㎡の本調査を行い、10ブロック合計600点以上の遺物が検出された。

東大野第1遺跡は、千葉市大木戸町1217-21他に所在する。対象面積が3,400㎡で昭和63年4月6日から昭和63年5月30日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。あわせて下層の確認調査を行ったが、遺物は検出されなかった。

その結果、昭和63年6月1日から昭和63年6月18日まで上層700㎡の本調査を行い、土坑(陥穴)11基が検出された。遺物は縄文時代中期の遺物が少量検出された。

東大野第2遺跡は、千葉市大木戸町1217-31他に所在する。対象面積が18,000㎡で昭和63年6月20日から昭和63年11月30日まで調査し、上層については2m×4mのトレンチを一定間隔で設定し、立川ローム層上面まで掘り下げて遺構・遺物の確認を行った。あわせて下層の確認調査を行った。

その結果、昭和63年12月1日から平成元年2月28日まで上層の本調査5,750㎡、下層の本調査1,860㎡を行い、住居跡1軒(縄文)、土坑37基(陥穴14)が検出された。遺物は縄文土器が少量であった。下層は7ブロック合計866点の遺物が検出されて土気緑の森工業団地内の旧石器の遺跡では質、量とも最大であった。

南大野南遺跡は、千葉市大木戸町1350他に所在する。対象面積は13,500㎡で平成元年7月1日から平成元年8月31日までA地区(8,000㎡)の上層確認と下層確認を行い、土坑8基と縄文土器(前期・中期)の土器片少量および旧石器時代の石器が2点検出されたが、拡張調査のみで本調査へは移行しなかった。

B地区(5,500㎡)は平成元年9月1日から平成元年10月16日まで上層と下層の確認調査を行った。

その結果、確認調査に引き続いて平成元年10月31日まで上層の本調査511㎡を行い、住居跡3軒(縄文)、土坑17基が検出された。遺物は縄文時代中期の土器片や石器が検出された。なお上層の本調査中に旧石器時代の遺物が約100点(1ブロック)が検出された。

南大野第1遺跡は、千葉市大木戸町1200-34に所在する。対象面積は2,000㎡で平成元年10月1日から平成元年10月31日まで上層の確認、下層の確認を行い、土坑3基と若干の縄文土器片を検出したが、拡張調査のみで本調査へは移行しなかった。なお下層は遺物なしであった。

東大野第3遺跡は、千葉市大木戸町1309他に所在する。対象面積は31,100㎡で平成2年4月2日から平成2年8月31日まで上層の確認、下層の確認を行った。

その結果、上層の本調査1,070㎡、下層の本調査232㎡について平成2年9月1日から平成2年10月23日まで行い住居跡4軒(縄文早期)、小竪穴1基、土坑7基が検出された。下層は3ブ

ロックで合計45点の遺物が検出された。

南大野第4遺跡は、千葉市大木戸町1195-5他に所在する。対象面積は7,500㎡で平成2年10月24日から平成2年11月16日まで上層の確認、下層の確認を行った。

その結果、上層の本調査1,125㎡について平成2年11月24日から平成2年12月19日まで行い、住居跡2軒（縄文早期）、土坑8基（陥穴1）が検出された。遺物は縄文時代早期の土器片および石器・礫を多量に発見した。なお下層では遺物は発見できなかった。

東大野第4遺跡は、千葉市大木戸町1172-2他に所在する。対象面積は5,000㎡で平成2年12月21日から平成2年1月16日まで上層の確認と下層の確認を行い、炭窯3基と若干の縄文時代の遺物と平安時代の遺物を検出したが、拡張調査をするにとどまり、本調査には移行しなかった。なお下層は遺物なしであった。

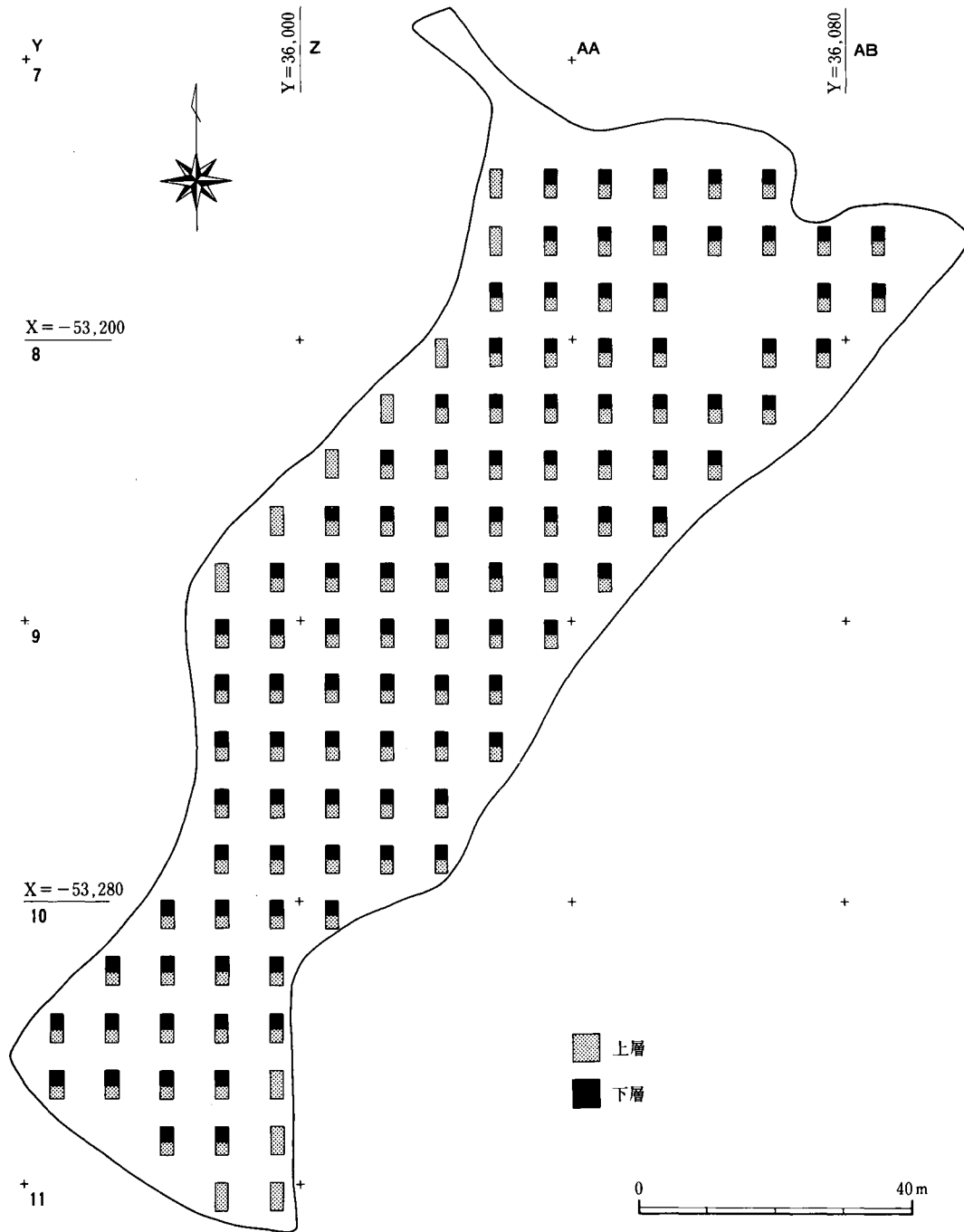
南大野第5遺跡は、千葉市大木戸町1194-28他に所在する。対象面積は13,400㎡で平成3年1月17日から平成3年2月12日まで行い、炭窯2基（平安1、近世1）、作業小屋1軒とそれに伴う土師器等が検出されたが、拡張調査にとどまり、本調査へは移行しなかった。

第 1 章

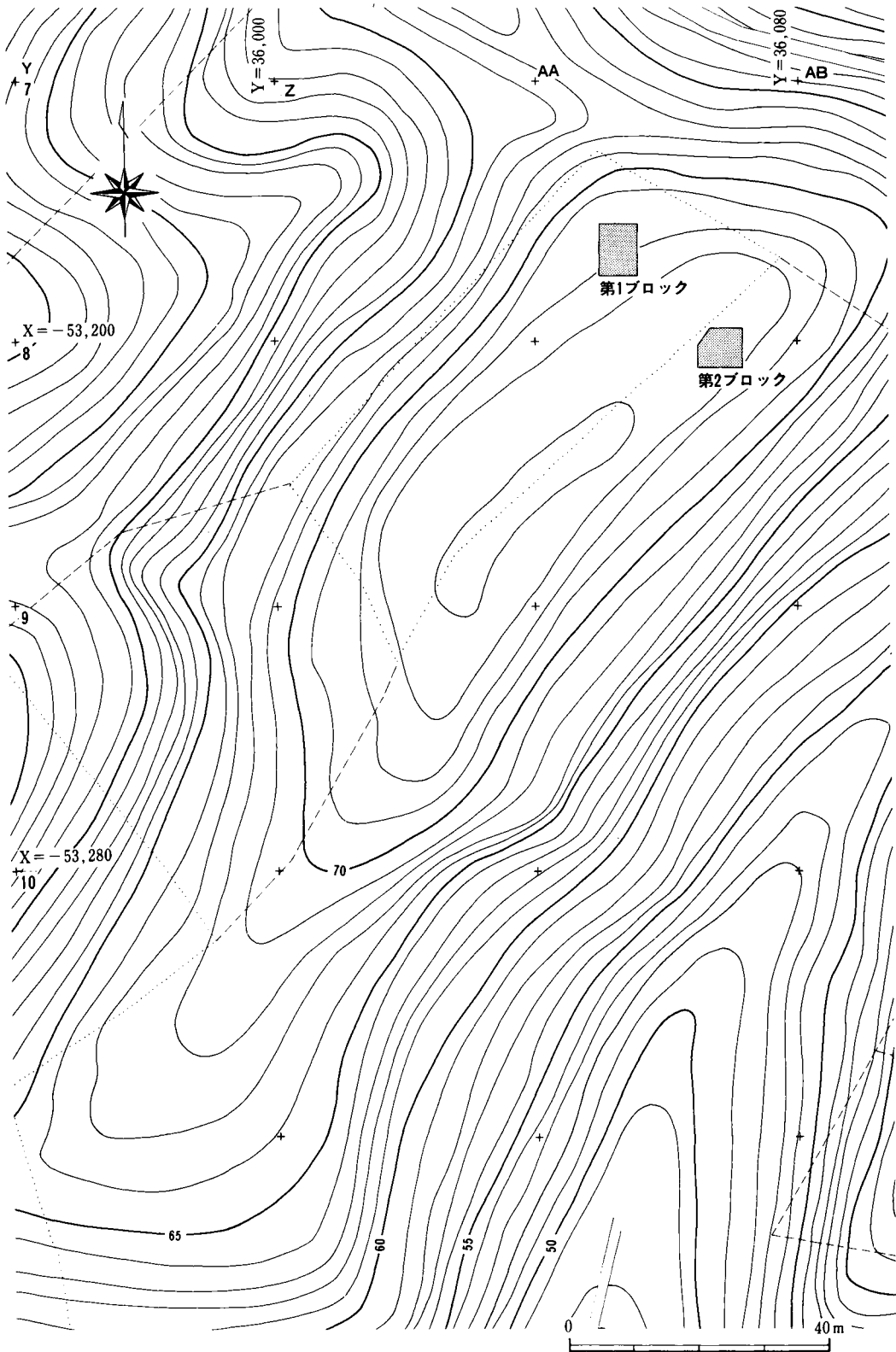
大 野 第 2 遺 跡

遺跡コード 201-064

調査担当者 高橋博文



第3図 大野第2遺跡確認調査グリッド配置図(1/1000)

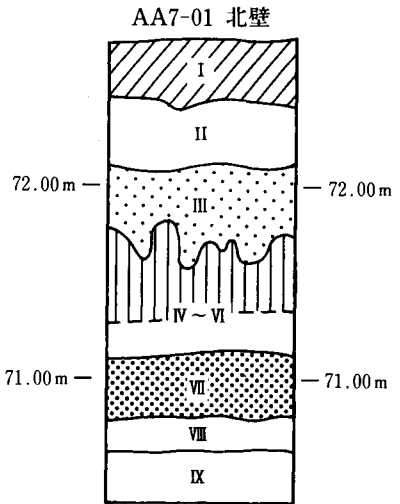


第4図 大野第2遺跡下層本調査範囲(1/1,000)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分 (第5図)

- I層 黒色土 ……一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II層 暗褐色土 ……ローム粒を少し含む。遺物包含層である。II b層は区分け不可能である。
- III層 黄褐色土 ……ソフトローム層、下部で若干のハードロームブロックを含む。
- IV～VI層 褐色土 ……始良パミスをブロック状に含む。クラックが激しい。スコリアを少量含む。
- VII層 褐色土 ……スコリアを多く含む。炭化粒を若干含む。第2黒色帯に相当すると思われる。
- VIII層 褐色土 ……スコリヤを少し含む。
- IX層 灰褐色土 ……堆積はやや疎でローム層がやや軟質になる。



第5図
大野第2遺跡
土層断面図

2. 概要 (第3・4図)

大野第2遺跡では下層の確認調査を行った際に2か所で遺物が検出された。いずれも本調査の結果、少量であるが遺物の広がりが見られた。

3. 第1ブロック (第6・7・8図)

(1) 分布状況

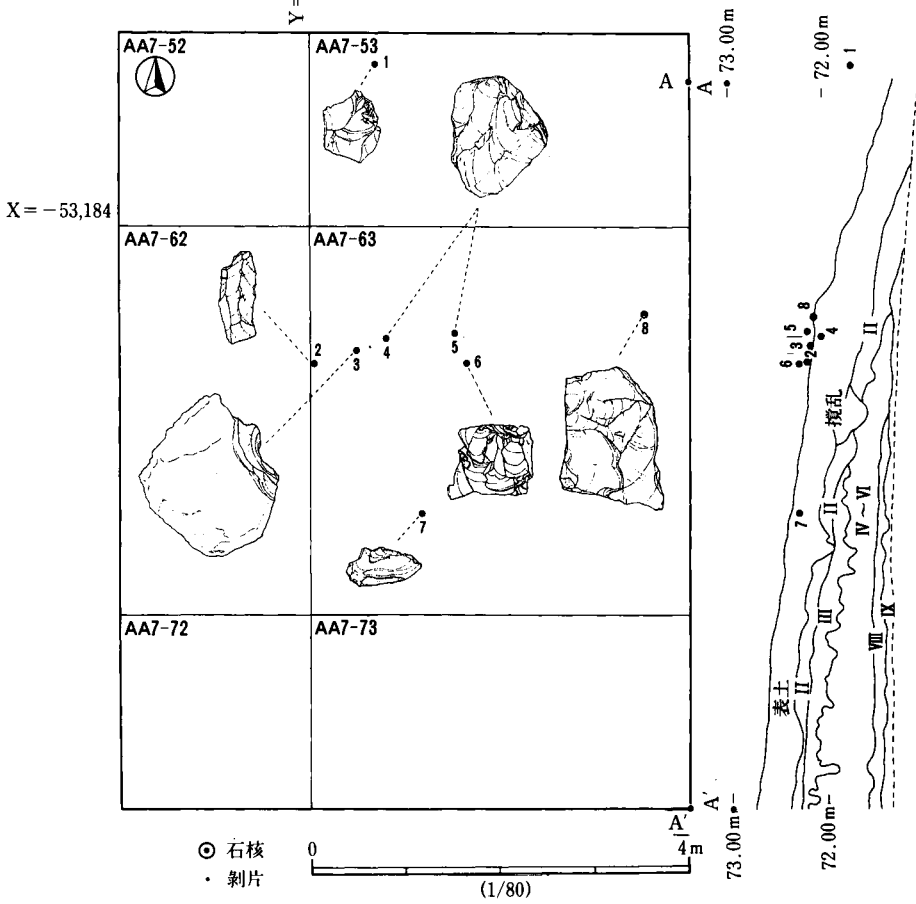
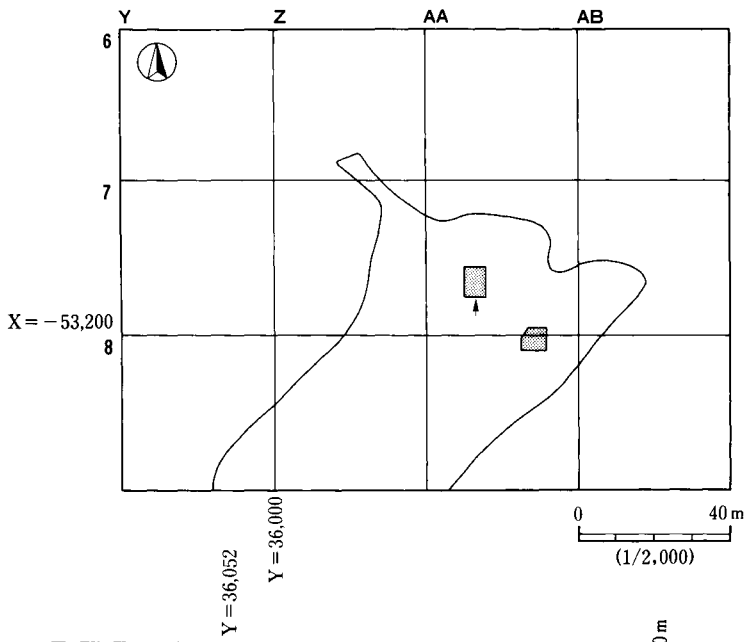
AA7-63グリットを中心として8点検出された。分布状況はほぼ径4m範囲にやや散満に広がっている。石材は3種類の珪質頁岩で構成される。いずれもIII層下部に相当する時期のものと思われるが、北側が斜面部に向かって地形のため正確に断面投影はされていない。

(2) 石器組成

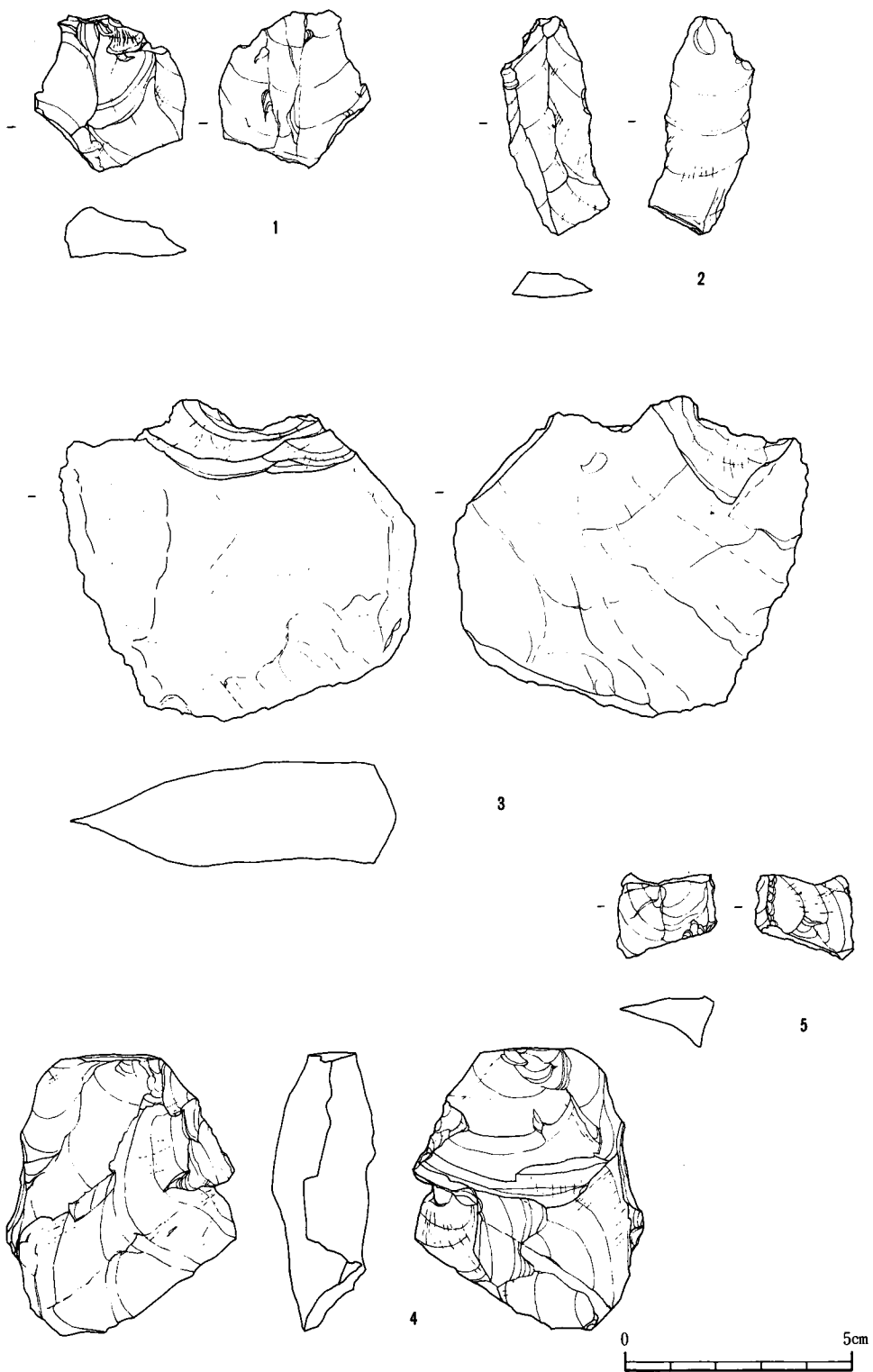
検出された石器の総数は8点である。器種組成は刃器状剥片1点、石核1点、大形の剥片2点、剥片4点である。石材は珪質頁岩で構成されている。

(3) 出土遺物

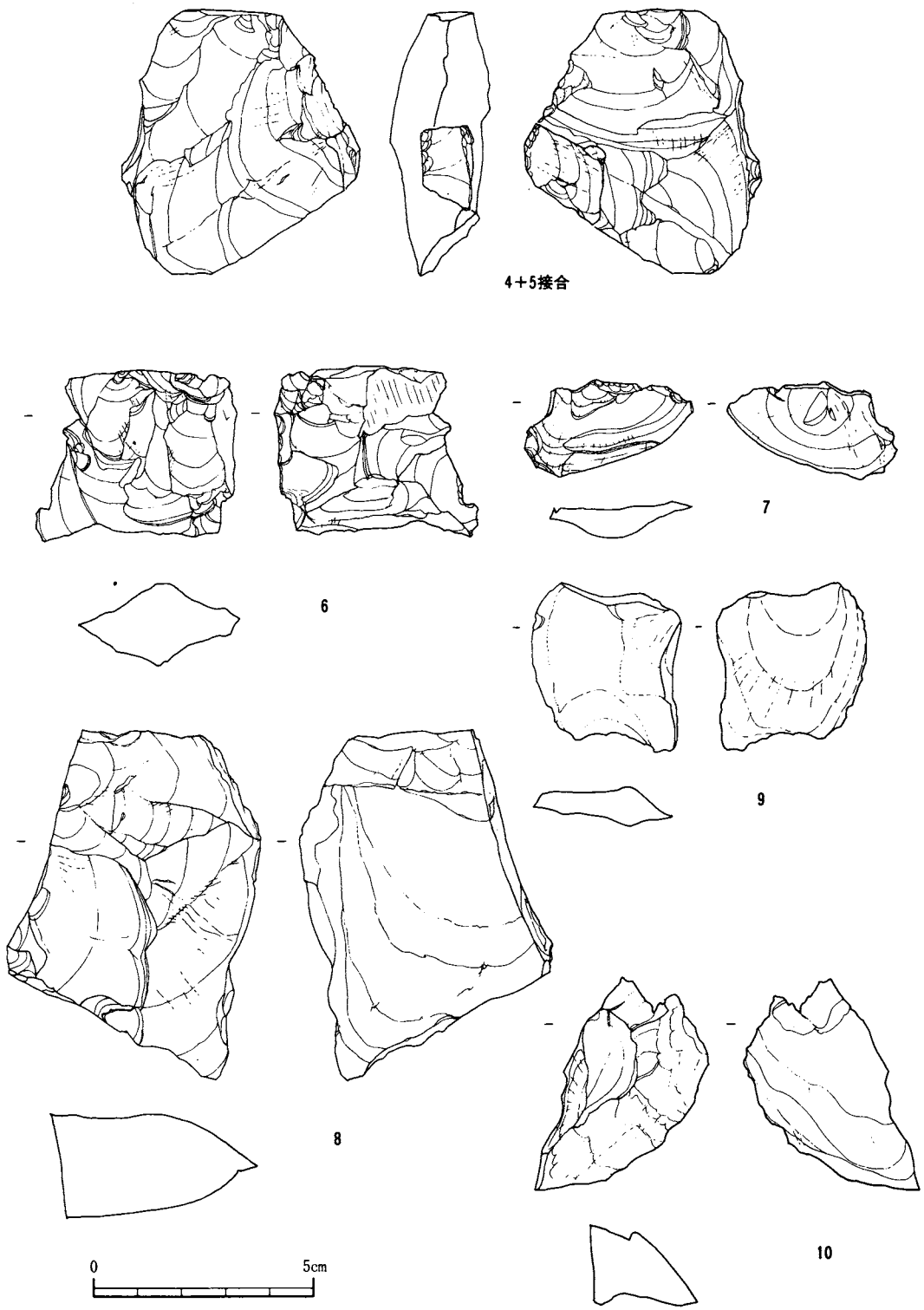
刃器状剥片 (第7図2) 珪質頁岩製のものが下端部に右方向からの剥離が1条みられるが、



第6図 大野第2遺跡第1ブロック遺物出土状況



第7図 大野第2遺跡第1ブロック出土石器(2/3)



第8図 大野第2遺跡第1・2ブロック出土石器(2/3)

上端部からの3条以上の剥離痕がある。

石核 (第8図8) 珪質頁岩製のものである。表裏とも上方向からの縦長の剥離痕がみられる。

剥片 (第7・8図1・3～6・7) 1は背部に多方向からの剥離痕をもつ剥片である。3は背部に礫面をもつ珪質頁岩の大形剥片である。剥離された後に剥片剥離を行った形跡がある。7は一見すると横長な剥片であるが他の剥片と同じ製作過程のなかで生じたものと思われる。珪質頁岩製である。4と5は接合資料である。4の残核様の剥片の剥離面の観察からは剥片剥離の方向は7の他は一定しておらず、むしろ多方向からの剥片剥離が行われていたように思われる。5の剥片は上からの剥離が行われた際の碎片かとも思われる。珪質頁岩製である。

4. 第2ブロック(8・9・10図)

(1) 分布状況

A A8-01グリットを中心として8点(内2点は一括資料)検出された。分布状況はほぼ径3m範囲にやや散満に広がっている。石材は第1ブロックと異なり点数の少ない割に種類が多い。いずれもⅢ層下部に相当する時期と思われる。ただ東側にかけて斜面に向かうためⅢ層そのものが薄くなる傾向がみられる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は8点である。器種組成は石核1点、R・フレイク(加工痕のある剥片)2点、U・フレイク(使用痕のある剥片)1点、剥片4点である。石材構成は2種類の安山岩、頁岩、粘板岩、2種類の砂岩の6種類である。

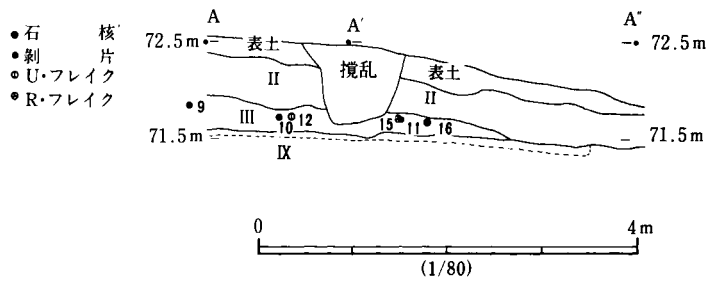
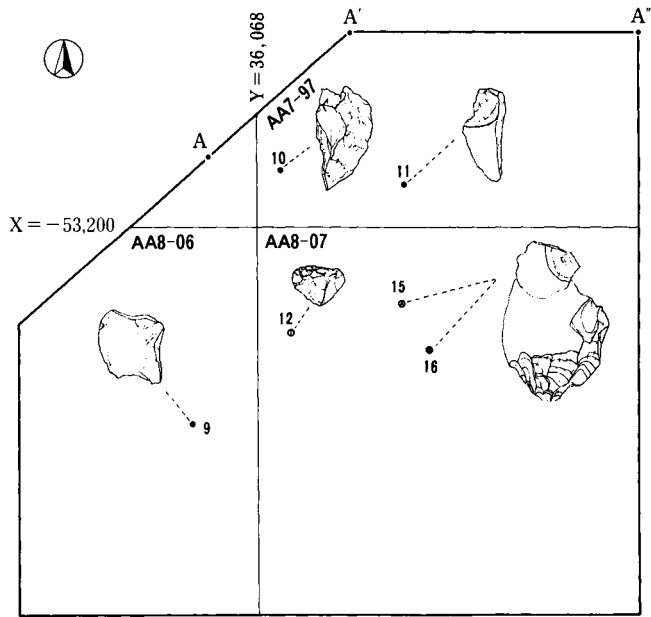
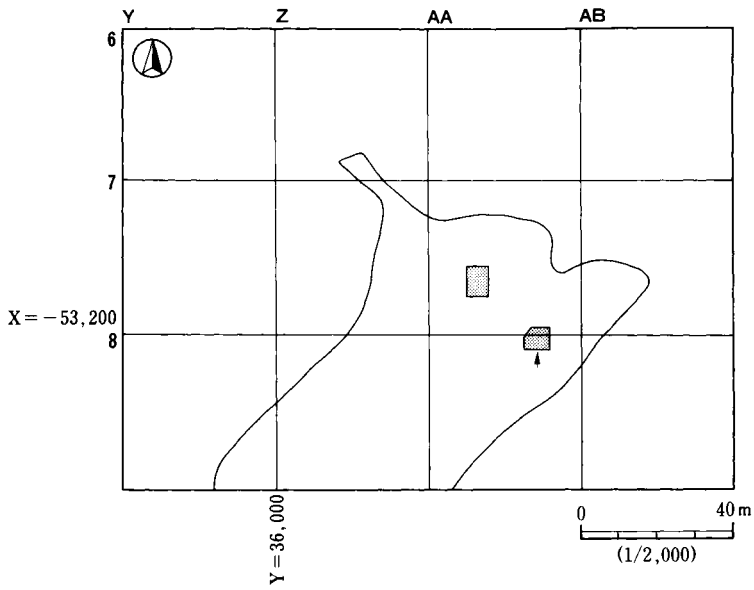
(3) 出土遺物

石核(第10図16) 砂岩製のものである。表裏とも上下方向からの剥離痕が多くみられるが、剥された剥片は接合した剥片(15)と同様に幅広で寸詰まりのものが多と思われる。

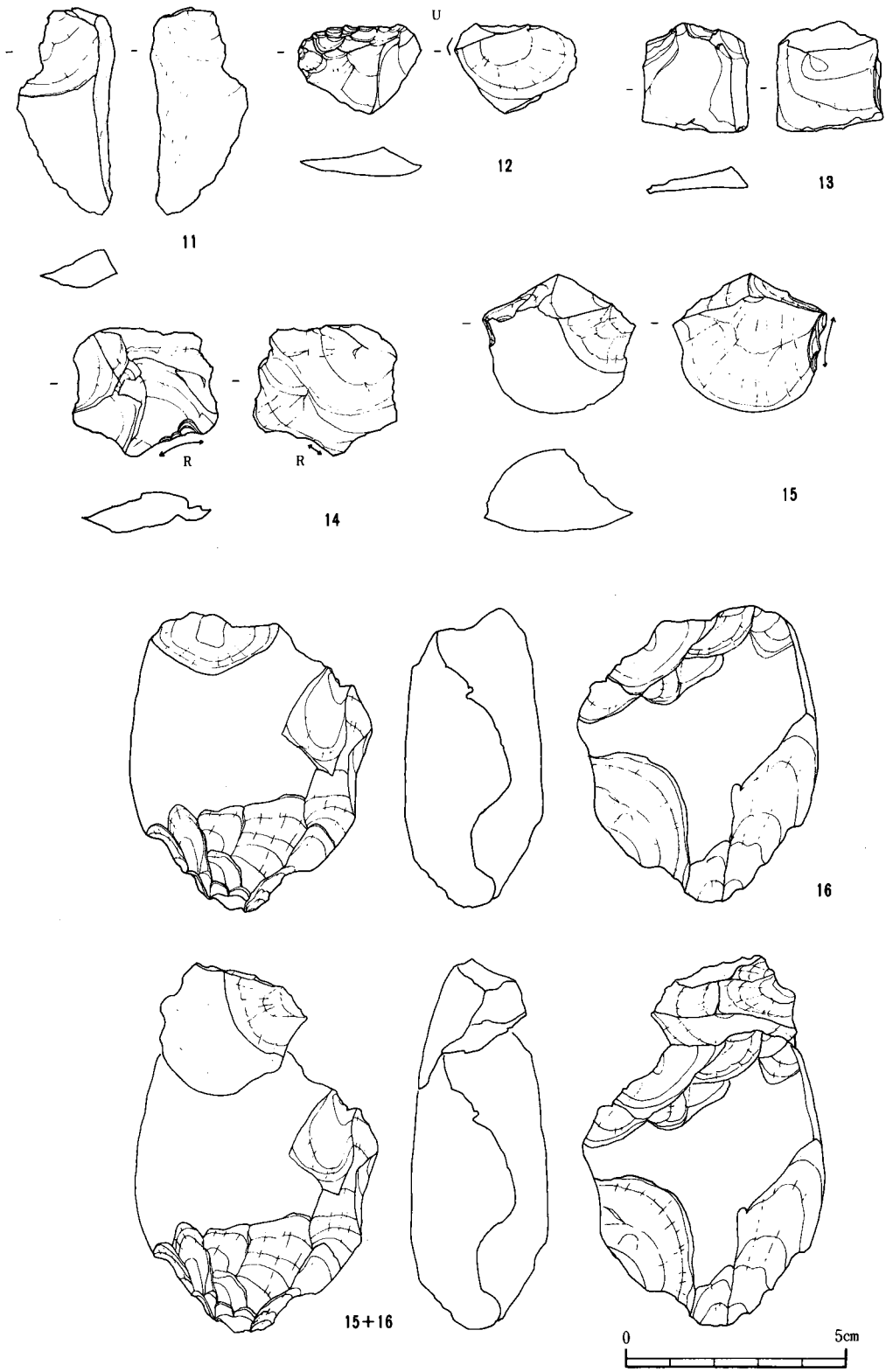
R・フレイク(第10図13・15) 13は頁岩製の小剥片の右下に3回の加工痕がみられる。一括資料のため出土位置が不明だがこのブロックに帰属する。15は砂岩製の16の石核から剥された剥片で左側辺に加工痕がみられる。

U・フレイク(第10図12) 頁岩製のものである。ほぼ逆三角形を呈する剥片の左側辺部に細かな使用痕と思われる剥離がみられる。

剥片(第8・10図9～11・13) 9は安山岩(細かい粒のもの)製の剥片である。全体に摩滅が著しい。背面と逆位に剥離されている。10は安山岩(粒が荒い)製の剥片である。背面は階段状に剥離している。11は砂岩(15,16に比べて粒が荒い)製の剥片である。薄く縦長に近い形をしている。背面に自然面をもつ。13は粘板岩製の剥片である。背面は板状の剥離がみられる。



第9図 大野第2遺跡第2ブロック遺物出土状況



第10図 大野第2遺跡第2ブロック出土石器(2/3)

5. 小結

大野第2遺跡では、点数的には2ブロック合計16点と少ない。これらのブロックがどのような過程で形成されたかは把握できかねるが、時期的には第1、第2ブロックともⅢ層下部に相当するにもかかわらず技術的にみても、あるいは石材的な面からもお互いの内容に共通性がみいだせない。第1ブロックの遺物は3種類の珪質頁岩で構成されるが、第2ブロックの石材は砂岩、粘板岩系の石材で構成されている。製作技法も背面構成から推測しても第1ブロックのほうが剥離打面が比較的一定している傾向がうかがえる。第2ブロックは背面構成からみて剥離打面が変化している様子が見られる。これらの違いが時間的なものか、あるいは集団の違いかは判断しきれない。いずれも短期間の行動結果に基づき残されたものであろう。

第2節 縄文時代・奈良時代

1. 概要

大野第2遺跡では上層の確認調査を行った際に遺構はまったく検出されなかった。Ⅰ～Ⅱ層中から若干の遺物が検出されたのみであった。以下では確認調査時の遺物の報告を行う。

2. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器 (第11 1～4・12図8～15)

1～4は縄文時代中期の土器片である。1はキャリパー形の深鉢の胴部の大形破片である。地文にRL縄文を縦位に施したのち胴部を縦方向の2条の沈線で区画している。2は小形の深鉢の口縁部の破片である。粘土紐の突帯で区画ののちRL縄文を横位に施している。突帯より下はRL縄文を縦位に施している。突帯の貼り付け部分はナデで仕上げてある。3は口縁部張り出し部分の破片である。幅のある深い沈線によって区画されている。4は底部のみの破片である。断定はできないが当該時期の深鉢の底であろう。磨かれていて施文はみられない。

8～15は縄文土器の破片である。8と10はLR縄文を縦位に施している。9と10は木葉痕のある縄文土器の底部破片である。12は不連続の細い沈線を施している。13は口縁部破片で胴部にかけてRL縄文を縦位に施してある浅鉢の破片であろう。14は櫛搔き文を施したのち沈線で区画している。15はRL縄文を横位に施してある。

(2) 石器 (第12図20)

20は包含層出土の打製石斧である。大きな礫を打ち搔いた剝片をもちいてつくられている。形態は両側辺部を挟んであるいわゆる分銅形の石斧である。刃部は使用のためか破損がみられる。

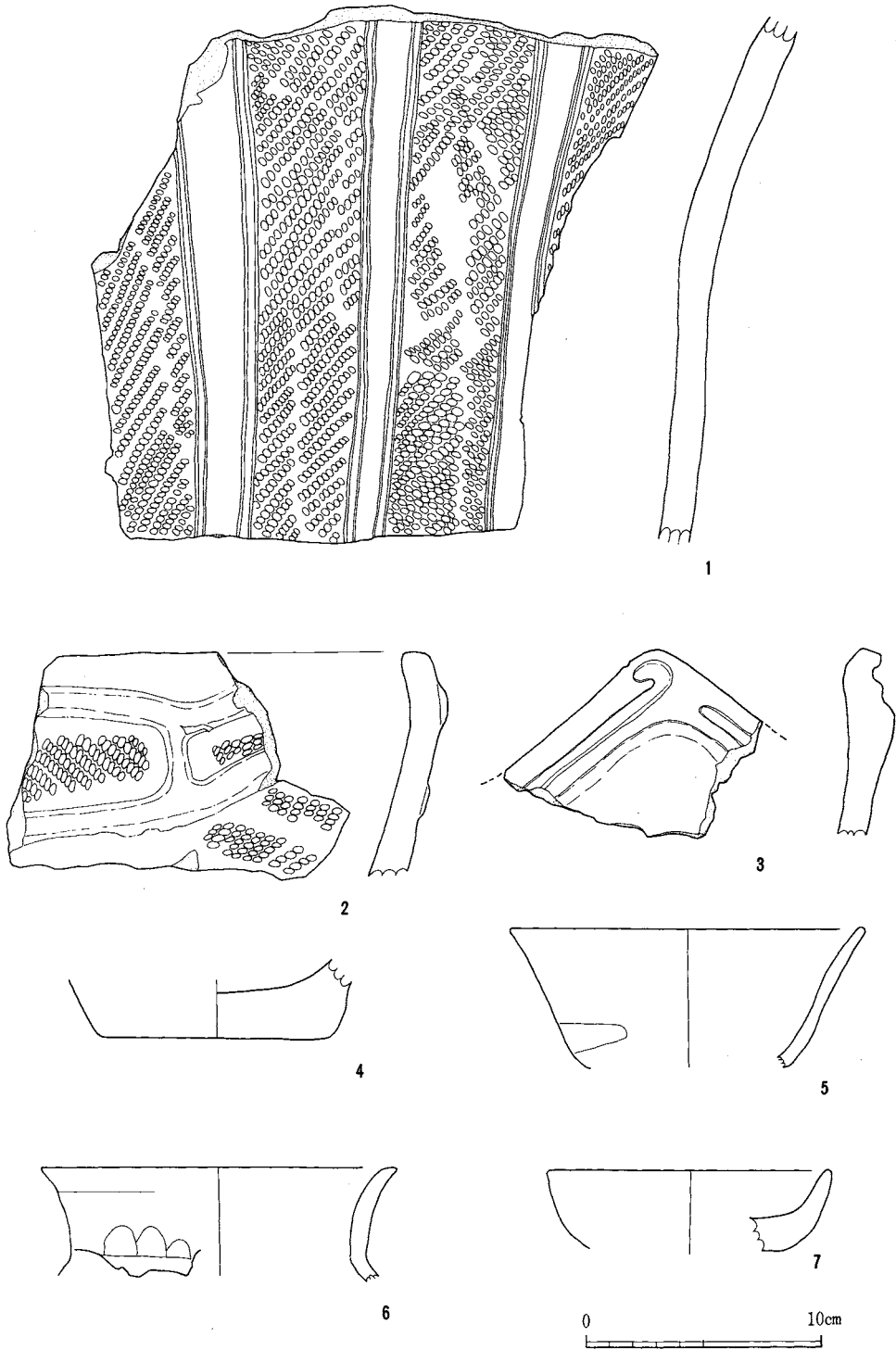
3. 古墳時代～奈良時代の遺物について

(1) 土師器（第11図5～7・12図16～19）

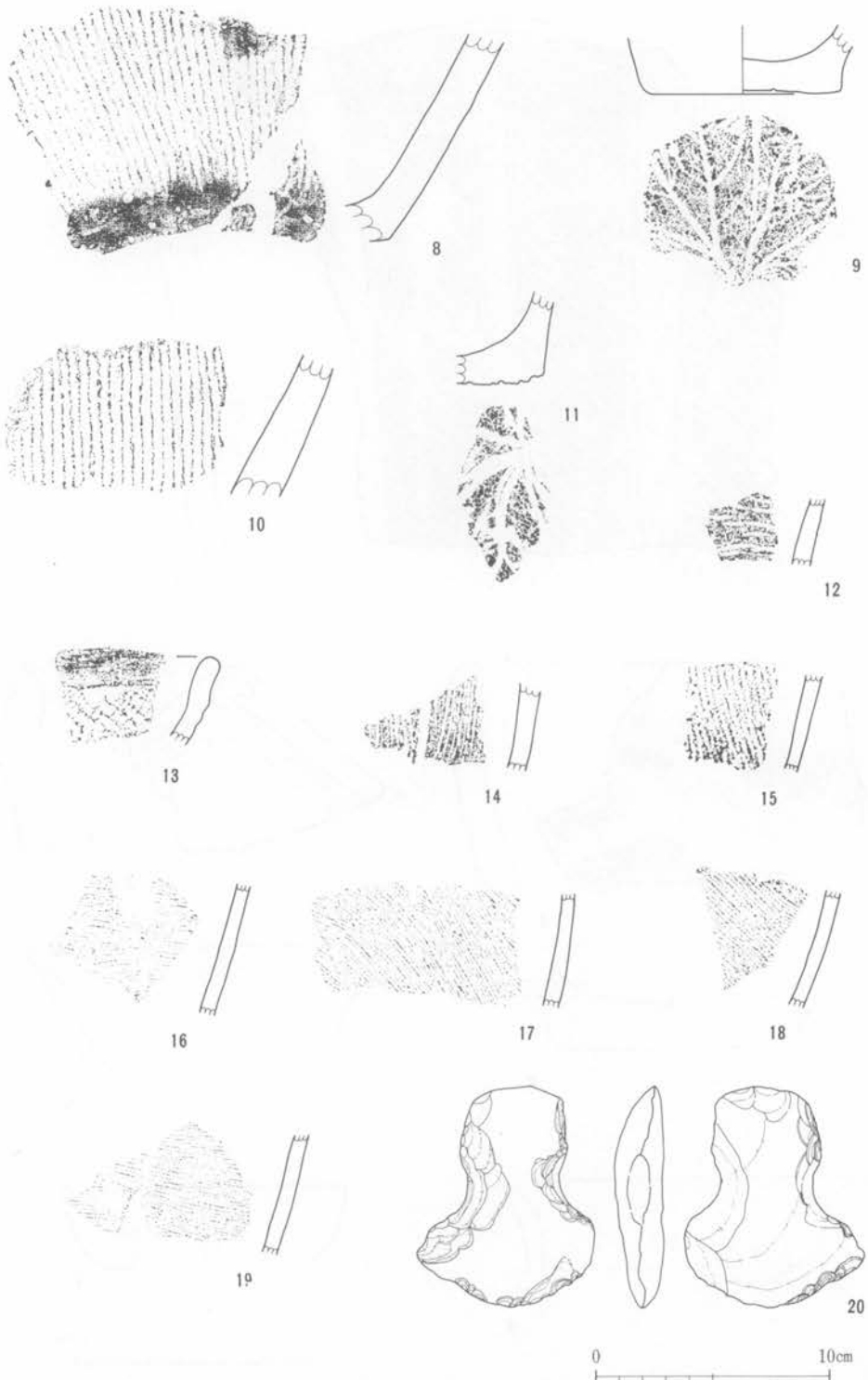
5～7、16～19は奈良時代前半の土師器である。5は杯の破片である。下端部にかけて横方向にへら削りで調整してある。内面外面ともに細かな粘土で目つぶしを行っている。16～19は古墳時代の櫛目の調整をしてある甕の破片である。内面は丁寧なナデ調整がみられる。6は甕の頸部の破片である。横方向のナデの後くびれ部をへら削りで調整している。7は手づくね風の杯の破片である。全体に分厚く細かな調整もされていない。

4. 小結

遺物のみの出土であり、小規模な活動の場としかとらえようがない。



第11図 大野第2遺跡包含層および確認グリット出土遺物(1) (1/3)



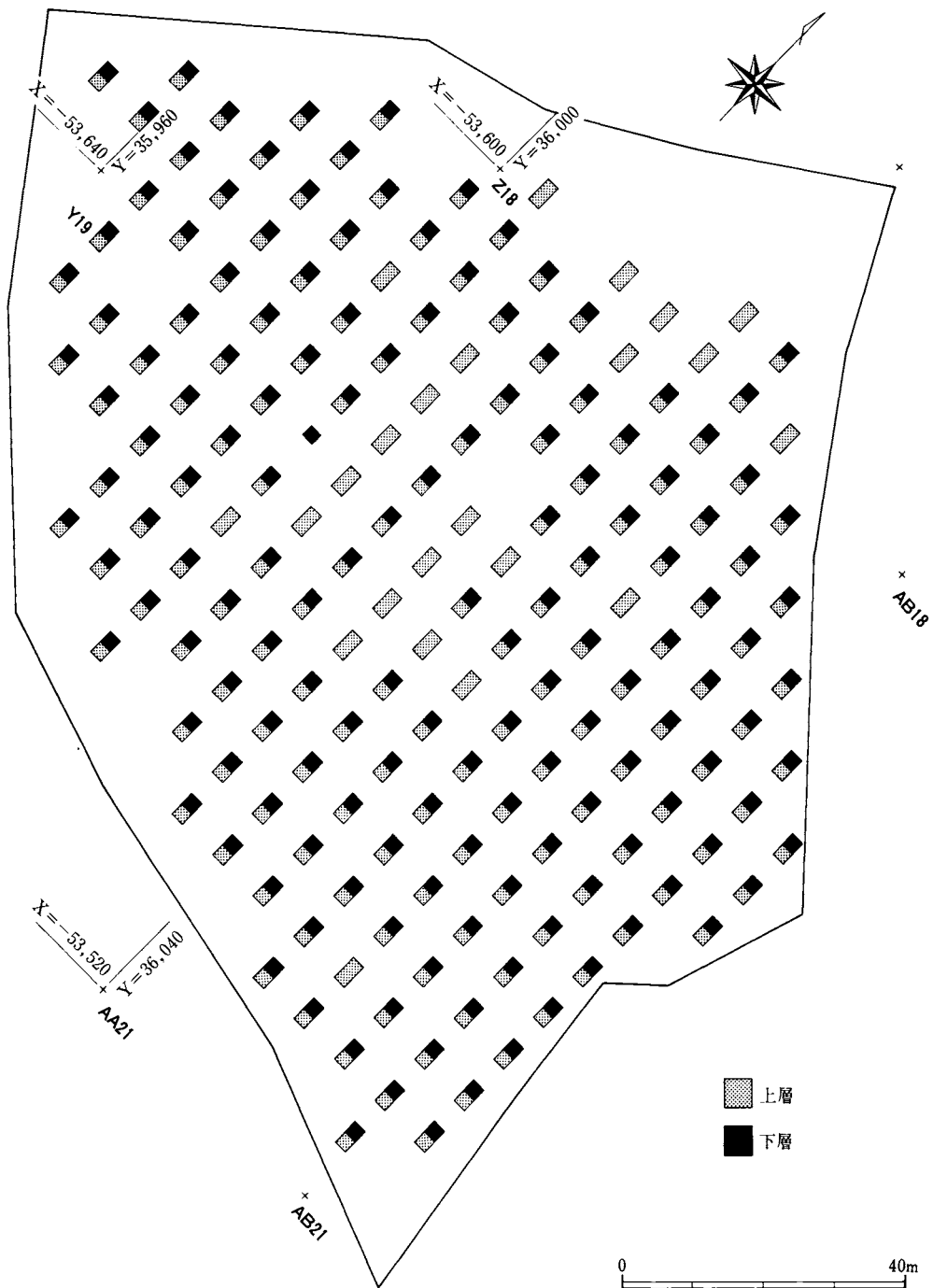
第12図 大野第2遺跡包含層および確認グリッド出土遺物(2)(1/3)

第 2 章

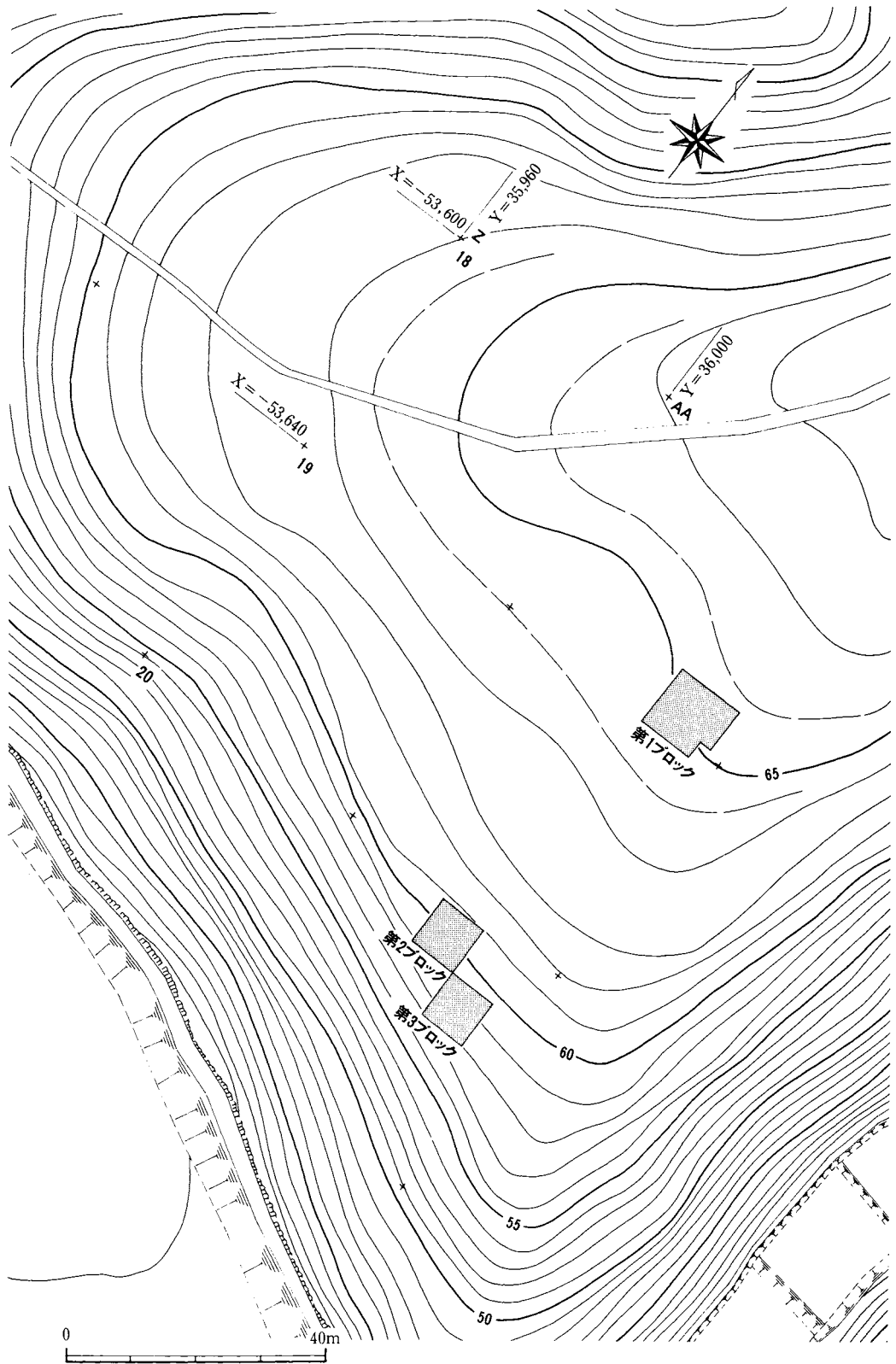
大 野 第 3 遺 跡

遺跡コード 201-065

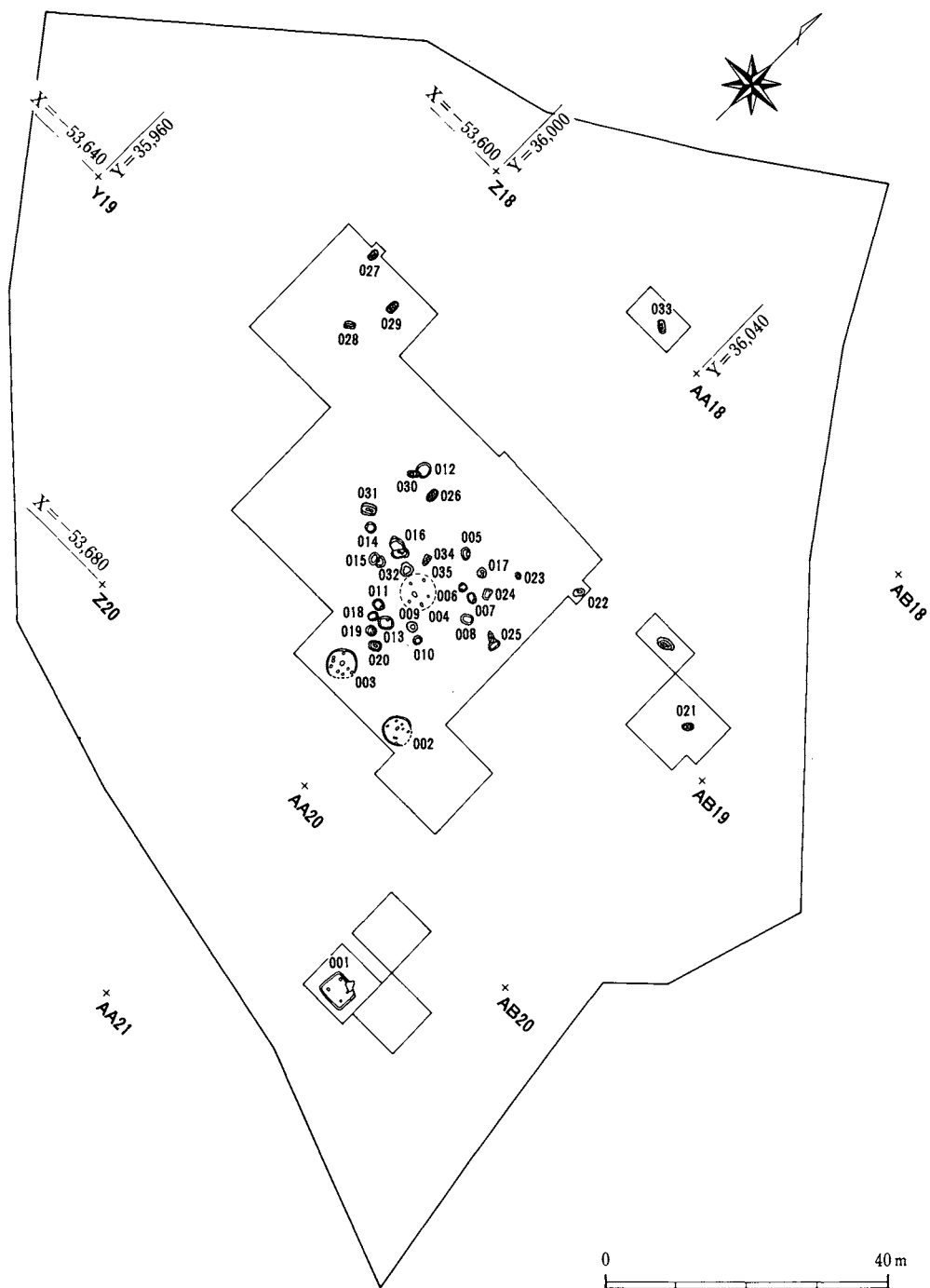
調査担当者 高橋博文



第13図 大野第3遺跡確認調査グリッド配置図(1/1000)



第14図 大野第3遺跡下層本調査範囲(1/1,000)



第15図 大野第3遺跡上層調査範囲および遺構配置図(1/1000)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分 (第16図)

- I層 黒褐色土……一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II a層 黒色土 ……もともとの表土層である。遺跡の一部地域で見られる。
- II b層 黄褐色土……火山灰層 (いわゆる新期テフラ) である。
- II c層 暗褐色土……縄文時代の遺物包含層である。
- III層 黄褐色土……ソフトローム層、下部で若干のハードロームブロックを含む。一部IV層の土を含むと思われる。
- IV～VI層 褐色土 ……下部に始良パミスブロック状を含む。クラックが激しい。スコリアを少量含む。
- VII層 暗褐色土……スコリアを多く含む。炭化粒を若干含む。第2黒色帯に相当すると思われる。
- VIII層 黄褐色土……スコリヤを少し含む。立川ローム最下部に相当すると思われる。
- IX層 褐色土 ……堆積はやや疎でローム層がやや軟質になる。武蔵野ロームに相当すると思われる。
- X層 灰褐色土……粘性が強くやや軟質なローム層である。武蔵野ロームに相当すると思われる。

2. 概要 (第13・14・15図)

大野第3遺跡では下層の確認調査を行った際に3か所で遺物が検出された。そのうち1か所では16点の遺物の広がりが見られた。他はいずれも単独出土に終わった。

3. 第1ブロック (第17・18図)

(1) 分布状況

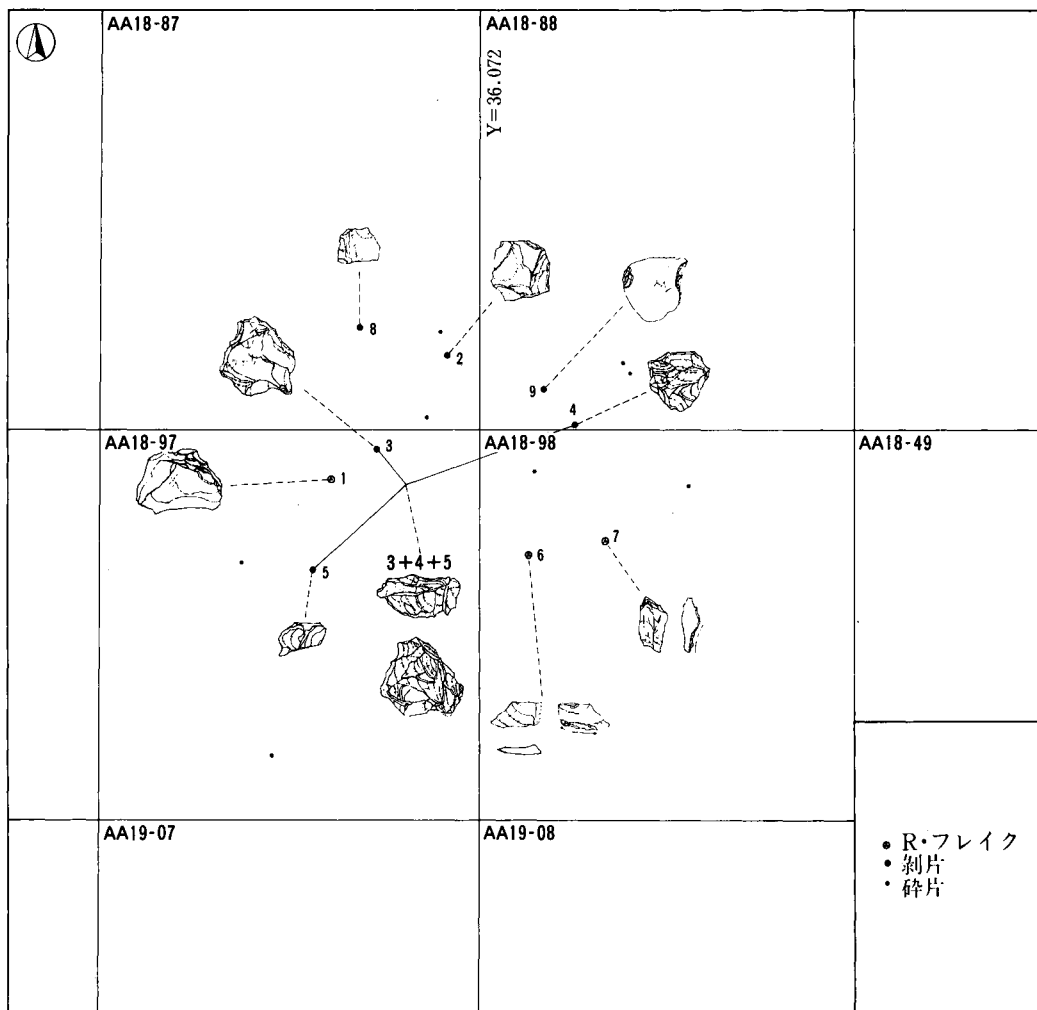
AA18-48グリットを中心として16点検出された。分布状況はほぼ4m～5mの範囲にやや散満に広がっている。石材は灰色がかった珪質頁岩を主体として構成される。他に珪質頁岩、瑪瑙珪岩が少量出ている。いずれもVI層に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

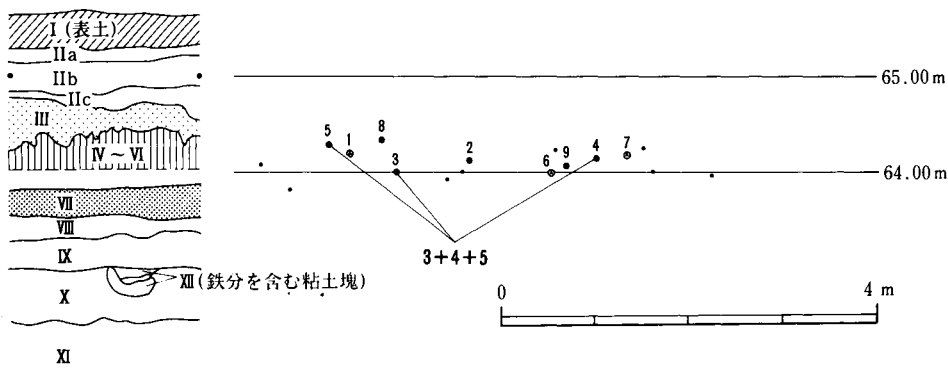
検出された石器の総数は16点である。器種組成はR・フレイク3点、剥片6点、碎片8点である。石材構成は珪質頁岩11点、珪質頁岩3点、珪岩1点、瑪瑙1点である。

(3) 出土遺物

R・フレイク (第18図1・6・7) 1は珪質頁岩製のやや横広の剥片で左下縁辺に調整がみられる。6も珪質頁岩製で小剥片の下端部の縁辺にやや細かな調整が施されている。7は珪岩

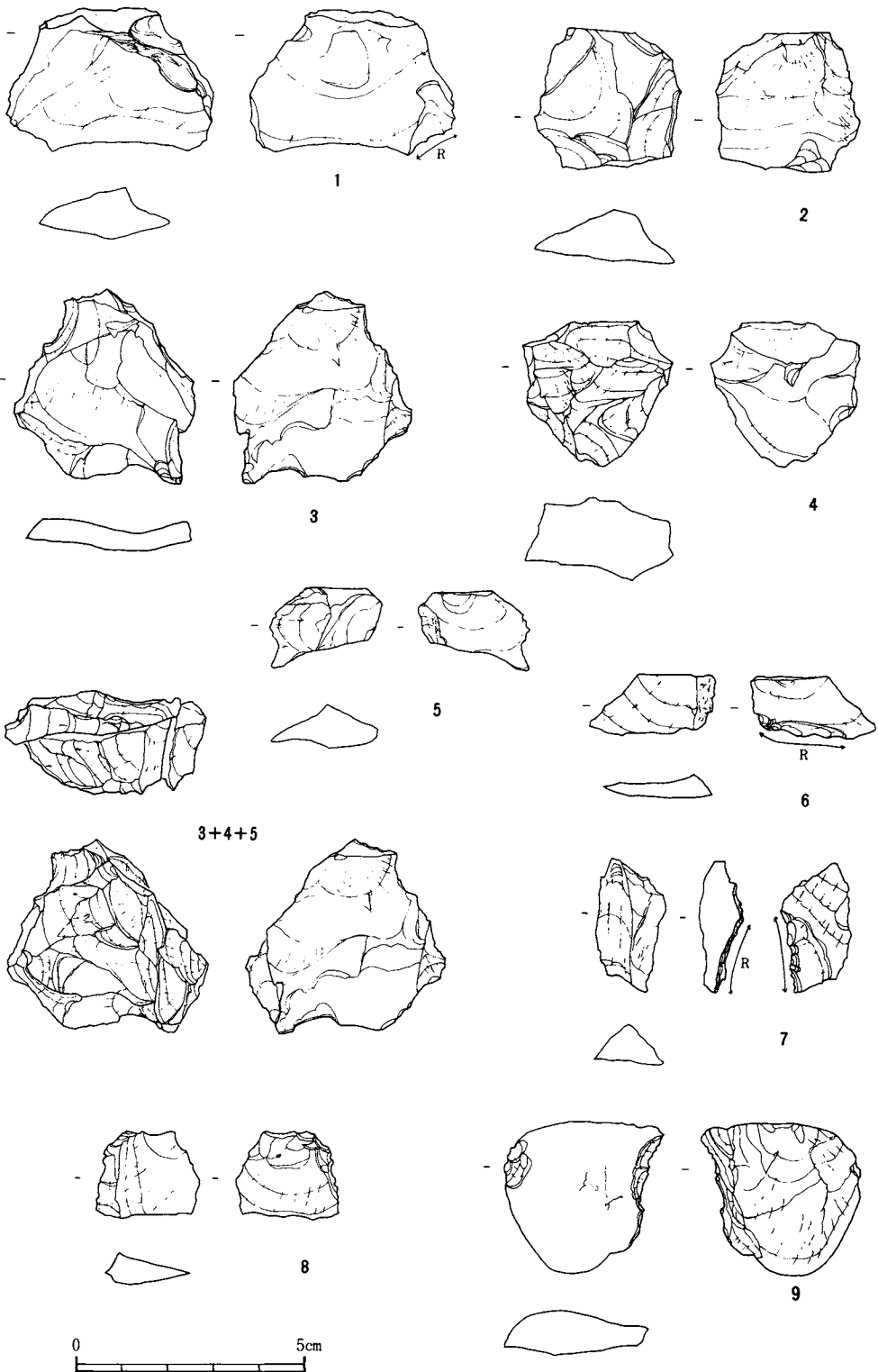


AA18-98 北陸



第16図 大野3遺跡
土層断面図

第17図 大野第3遺跡第1ブロック遺物出土状況(1/80)



第18図 大野第3遺跡第1ブロック出土石器(2/3)

①製の剥片の縁辺部に細かな調整が施されている。

剥片（第18図2～5・8・9）2は珪質頁岩製で背部に多方向からの剥離痕をもつ剥片である。一部礫面がみられる。剥片の下端に両極打法の打痕がみられる。3～5は珪質頁岩製の接合資料である。接合状態からは剥離方向が変化していることがうかがわれる。8も同様の珪質頁岩製の剥片である。縦長の剥片というよりは台形に近い形をしている。9は黒味をおびた珪質頁岩製の剥片で背面はほとんど礫面である。ネガティブバルブを剥離面にもつところからコア（残核）としたほうがよいかもしれない。

4. 第2ブロック（第19・20図）

(1) 分布状況

A A19-65グリットで単独で検出された。石材はオリーブ色の頁岩である。IV層に相当する時期と思われる。拡張調査が行われたが、他の遺物は検出されなかった。

(2) 石器組成

ハンマーストーンが1点のみである。石材構成は、頁岩1種類の構成である。

(3) 出土遺物

ハンマーストーン（第20図10）頁岩製のものである。細長いやや楕円礫の先端近くに細かな打痕がみられる。

5. 第3ブロック（第19・20図）

(1) 分布状況

A A19-87グリットで単独で検出された。石材は青緑色の粒の比較的荒い珪質頁岩である。第2ブロック同様にIV層に相当する時期と思われる。拡張調査が行われたが、他の遺物は検出されなかった。

(2) 石器組成

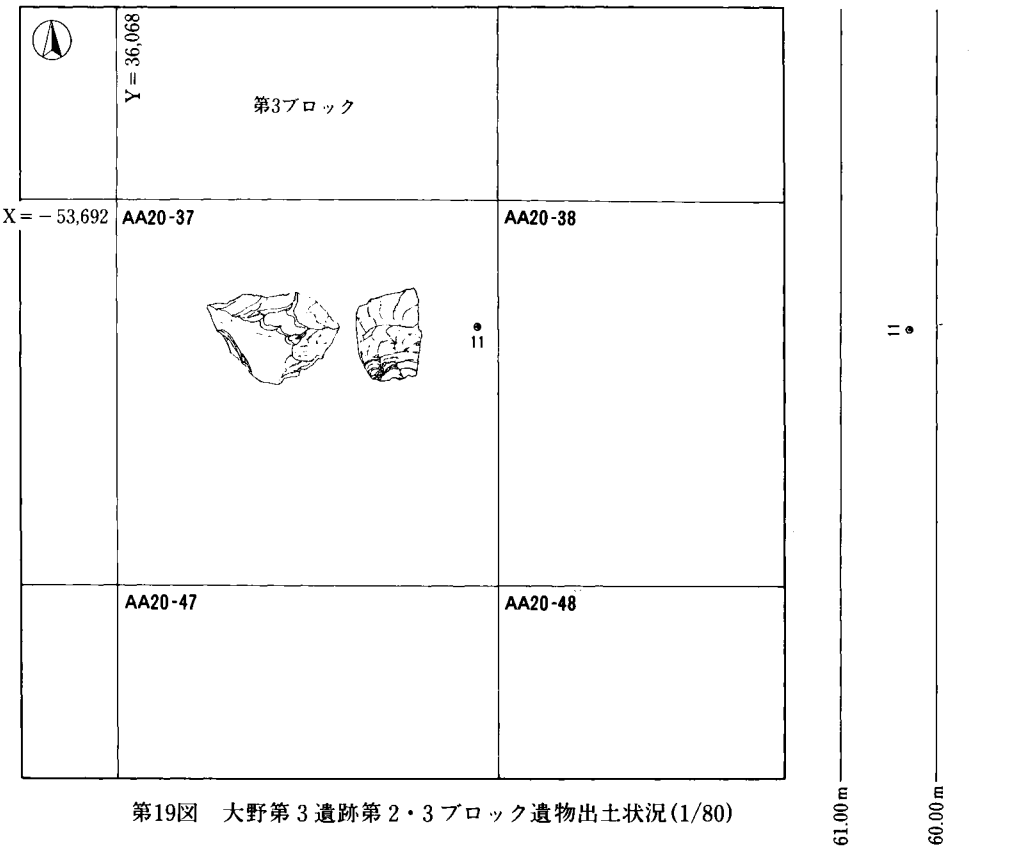
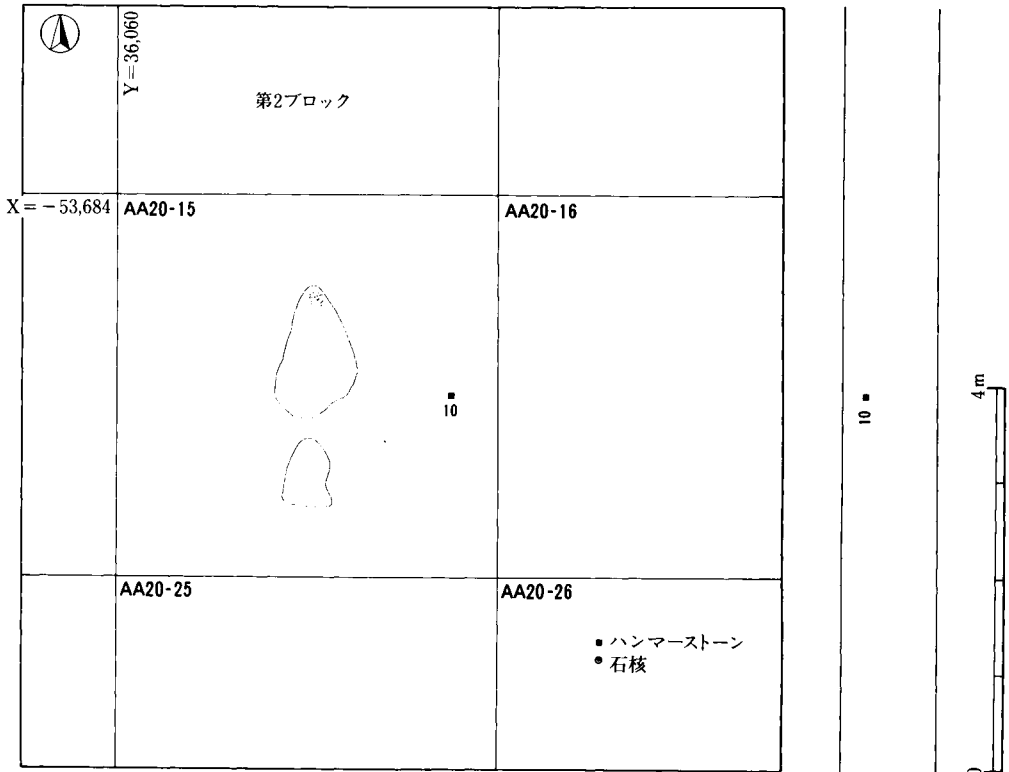
石核が1点のみである。石材構成は、珪質頁岩1種類の構成である。この石材は第1ブロックの珪質頁岩に非常に似ている。強いていうならばやや珪質化していないぐらいである。

(3) 出土遺物

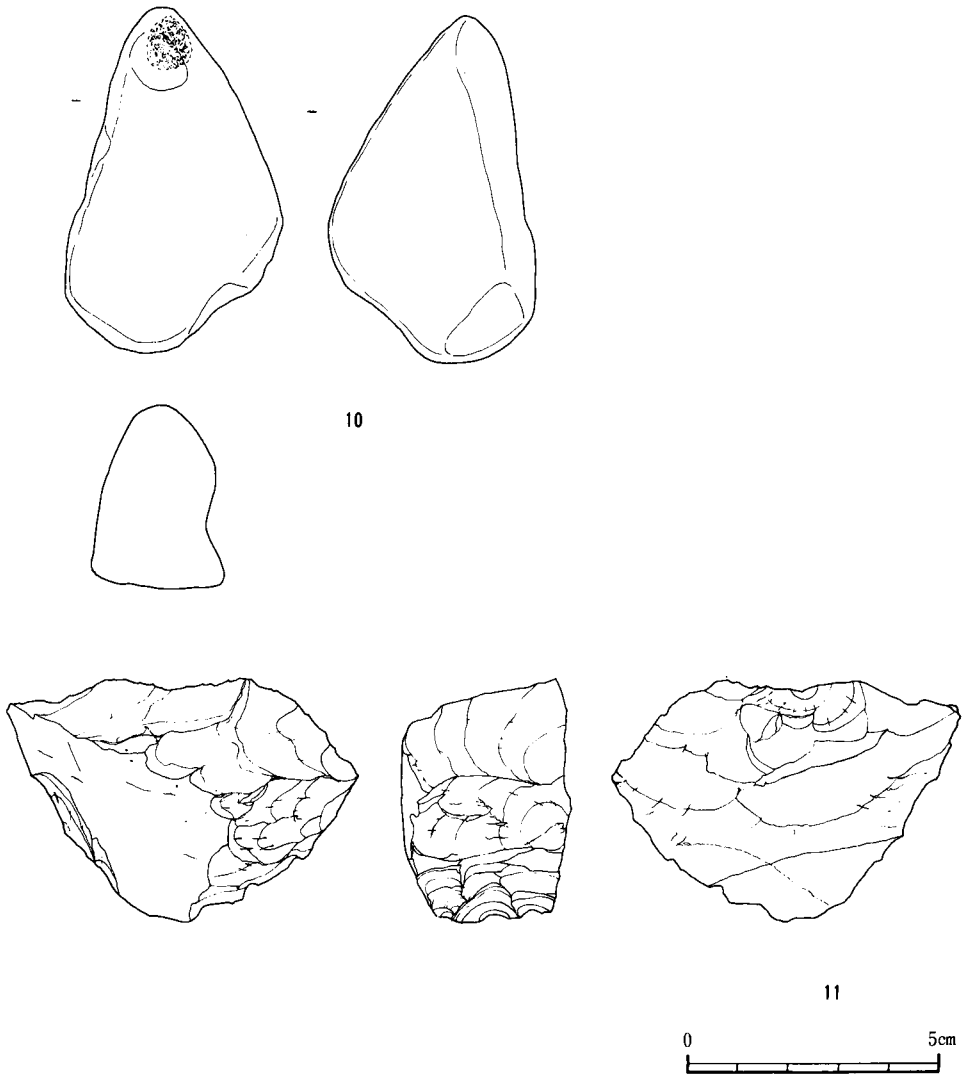
石核（第20図11）珪質頁岩製のものである。最初に打ち欠いた面を打面にして比較的小さな剥片を剥いである。一部礫面を残している。

6. 小結

大野第3遺跡では、点数的には3ブロック合計18点と少ないのでこれらのブロックがどのような形でいとなまれてきたかは把握できかねるが、ほぼ同時期の所産（IV層）と思われる。第1ブロックの遺物は4種類の石材で構成されるが、大半は珪質頁岩で構成されている。その内容は剥片剥離の工程の一部、強いていえば中程に位置するのではないかとと思われる。技法的に



第19図 大野第3遺跡第2・3ブロック遺物出土状況(1/80)



第20図 大野第3遺跡第2・3ブロック出土石器 (2/3)

は打面転移を繰り返し小剥片を両極打法によって作出する様子が剥片や背面構成などからうかがわれる。第2ブロック・第3ブロックは各1点ずつの石器の構成で同時期の所産と考えるならばその組み合わせも非常に興味深いものがある。

第2節 縄文時代・奈良時代

1. 概要（第15図）

大野第3遺跡では上層の確認調査を行った際に遺構が検出され1,672㎡の本調査を実施した。その結果縄文時代中期の住居跡4軒、縄文時代土坑31基、奈良時代の住居跡1軒が検出された。他にⅠ～Ⅱ層中から多少の当時期の遺物が検出された。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

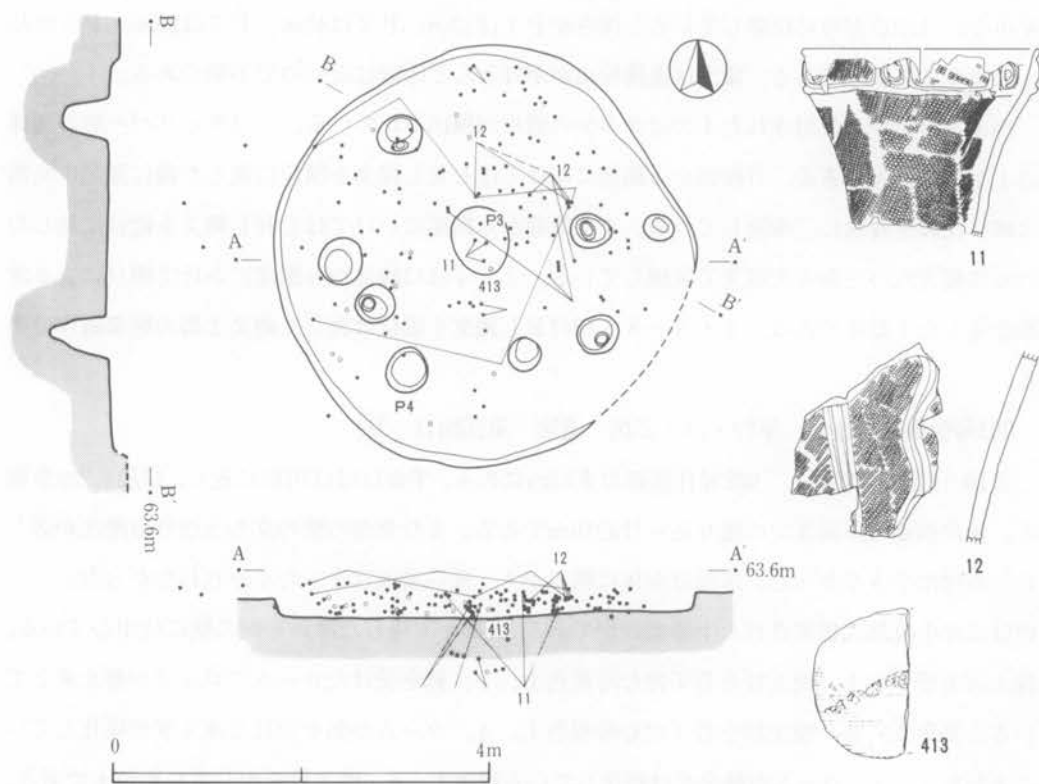
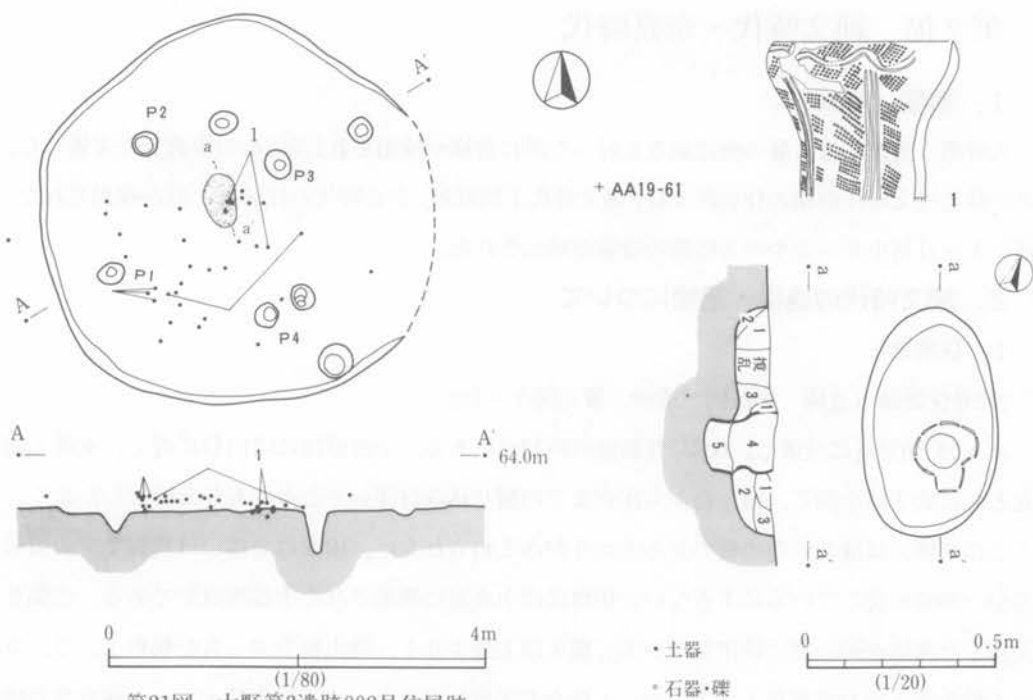
002号住居跡（遺構 第21図 遺物 第23図1～10）

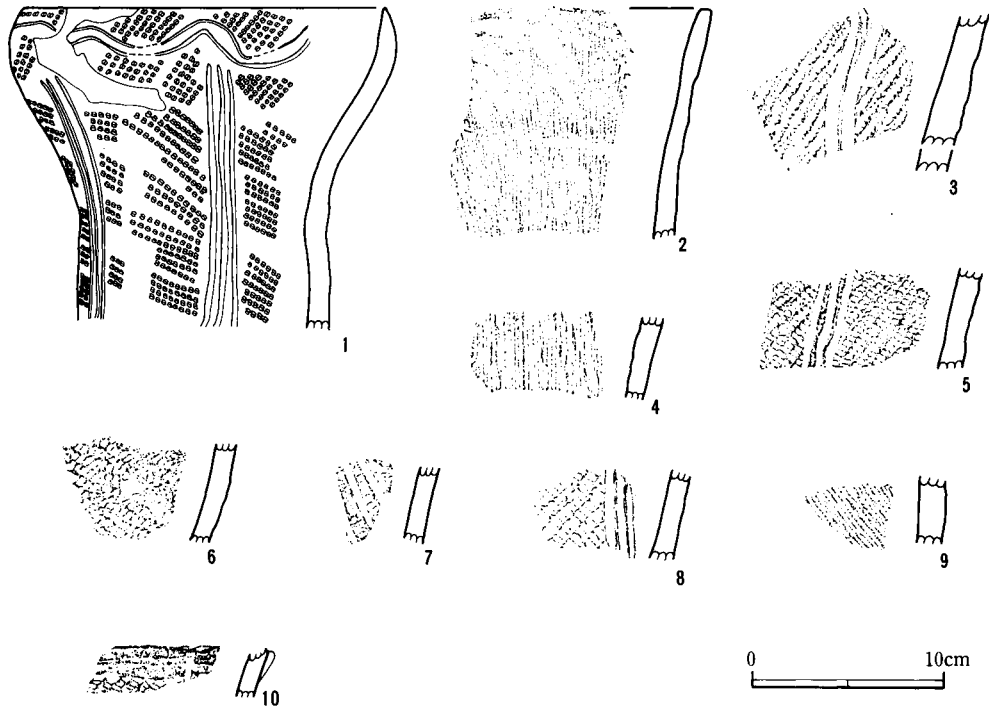
A A19-10付近に位置し、003号住居跡の西12mにある。平面形はほぼ円形に近く、東西・南北ともに約4mを測る。検出面から床面までの掘り込みは深いところでも5cmほどしかなく、とくに東側では攪乱のため壁の立ち上がりがみとめられない。床面は全体には軟質で炉の周辺部が一部硬質化しているにすぎない。炉はほぼ中央部に構築された土器埋設炉である。底部を欠損した深鉢を炉の壁に使用している。覆土は上層より1. 焼土粒を多く含む褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む褐色土。4. 焼土粒・ローム粒を含む暗褐色土。5. 炭化粒を含む焼土ブロック堆積土となる。柱穴はP1～P4の4本柱である。炉を中心にほぼ正方形に位置している。深さがP1は12cm、P2は43cm、P3は26cm、P4は45cmでややまちまちである。覆土は遺構検出面がほとんど床面に近いので不明である。

出土遺物は炉に使用された1のほか多少の破片が検出されている。1はキャリパー形の深鉢の上半分の個体である。口縁部から頸部にかけてはLRL縄文を横位に施した後に頸部中央部に細い沈線を波状に二条施している。また頸部から胴部にかけてはLRL縄文を縦位に施したのちに縦方向の三条の沈線文で区画している。2・4は口縁部から胴部にかけて櫛目による沈線を施した土器片である。3・5～8・10はLRL縄文を縦位に施した縄文土器の胴部破片である。

003号住居跡（遺構 第22・24・25図 遺物 第26図11～38）

Z19-19付近に位置し、002号住居跡の東12mにある。平面はほぼ円形に近く、径約4.2mを測る。検出面から床面までの掘り込みは約10cmである。また東側の壁の立ち上がりは攪乱が著しいため検出できなかった。床面は全体に軟らかく、硬い場所はまったくみられなかった。炉はほぼ中央部に構築された土器埋設炉である。底部を欠損した深鉢を炉の壁に使用している。覆土は上層から1. 焼土粒を若干含む暗褐色土。2. 熱を受けたロームブロックが層を成している赤褐色土。3. 焼土粒を若干含む暗褐色土。4. ロームが熱を受けて赤く変色硬化している赤褐色土。5. ロームが熱を受け硬化している褐色土。6. 焼土粒を少し含む褐色土である。



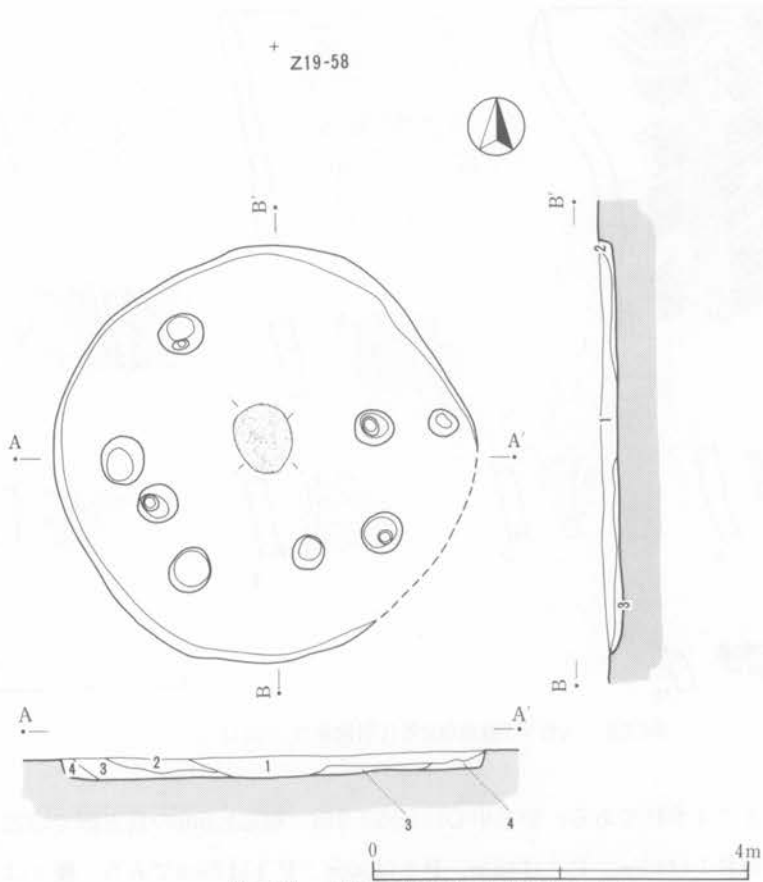


第23図 大野第3遺跡002号住居跡出土土器(1/4)

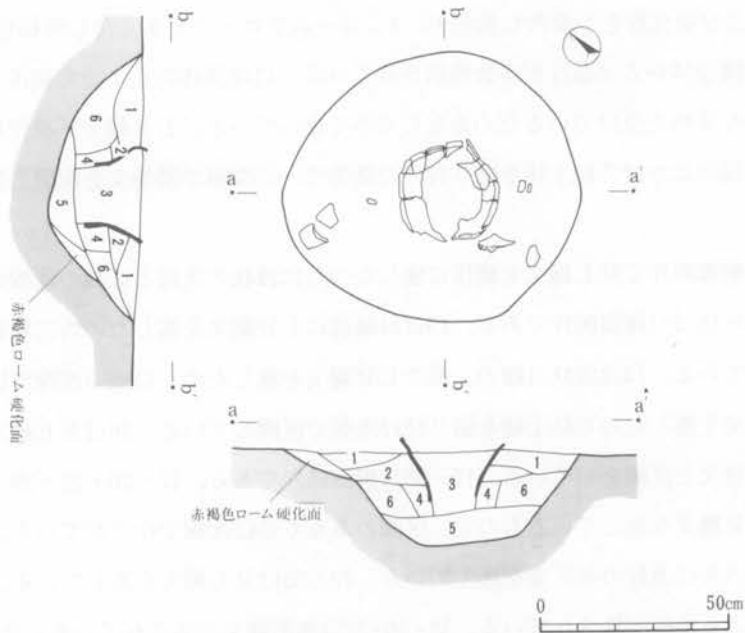
柱穴はP 1～P 2の4本柱である。炉を中心に長辺2.2m、短辺1.5mの長方形で短辺方向が北東を向く。深さがP 1は43cm、P 2は46cm、P 3は50cm、P 4は25cmである。覆土は、1. 小ロームブロック・ローム粒を少量含む暗褐色土。2. ローム粒を含むやや堆積の疎な暗褐色土。3. ローム粒および炭化粒を少量含む褐色土。4. ロームブロックを多く含む明褐色土である。

出土遺物は遺構全体から土器片が多数検出されている。11は深鉢の上半分の個体である。土器そのものはかなり熱を受けているため赤化しもろくなっている。LR縄文を横位に施したのちに口縁部から頸部にかけて粘土紐を貼り付けた隆帯で一定間隔で渦巻文を配置し区画している。

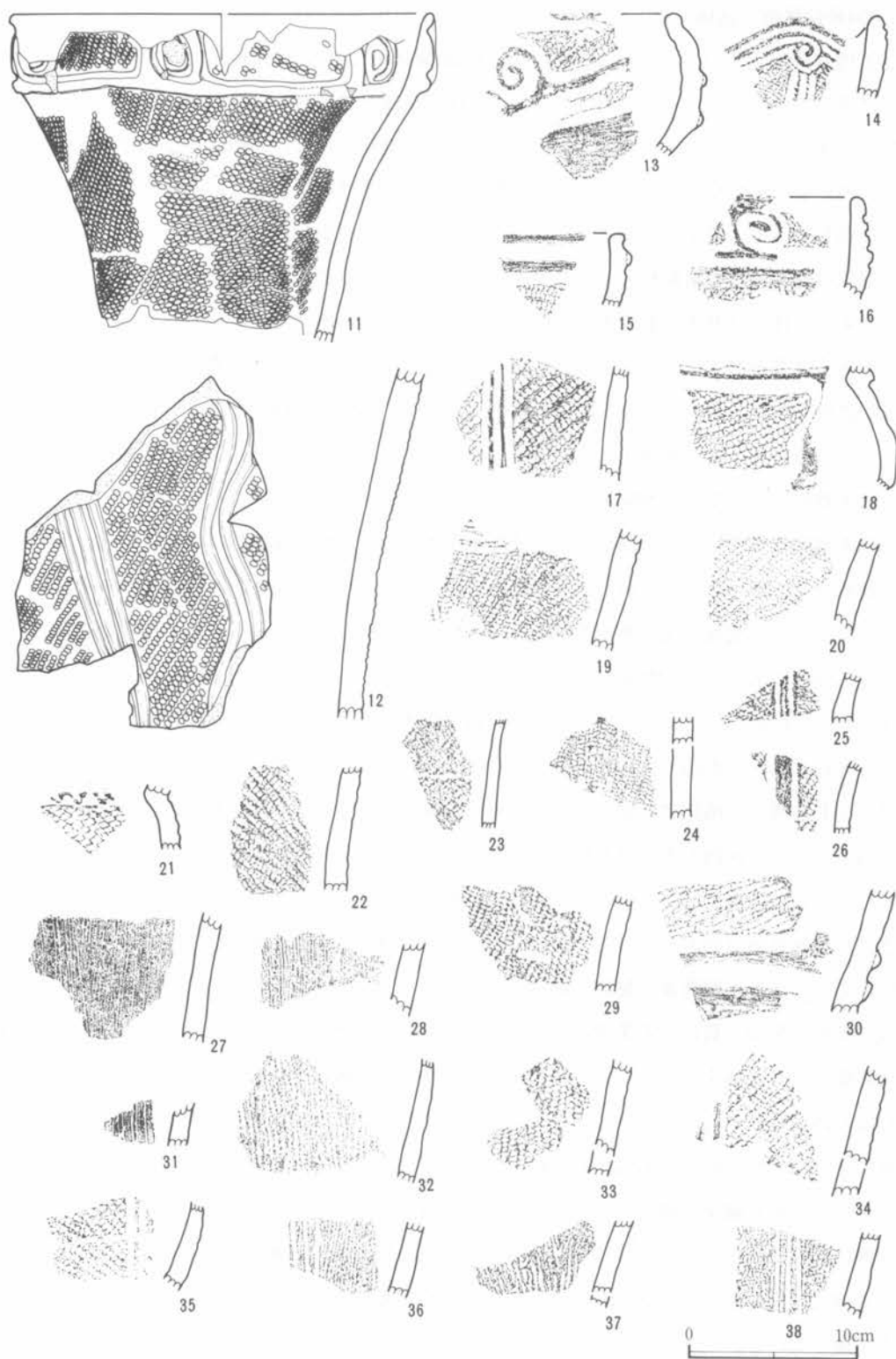
12は大形深鉢の胴部破片でRL縄文を縦位に施したのちに波状の沈線と直線の沈線によって区画している。13～16は口縁部破片である。13は口縁部にLR縄文を施したのちに隆帯で渦巻文と直線で区画している。14は波状口縁の一部でLR縄文を施したのちに細い沈線で区画している。15はRL縄文を施したのち粘土紐を貼り付け隆帯で区画している。16はRL縄文を施したのちに沈線で渦巻文と区画をしている。17～38は胴部破片である。17～20・23～26・29・30・33・34・38はLR縄文を施しているもので、区画のあるものは沈線でなされている。21はLR縄文を施したのちに連続の刺突文を施している。22と35はRL縄文を施している。27・28・31は櫛状工具による条線が施されている。32・36・37は無節縄文が施されている。他に413の磨



第24図 大野第3遺跡003号住居跡(1/80)



第25図 大野第3遺跡003号住居跡炉(1/20)



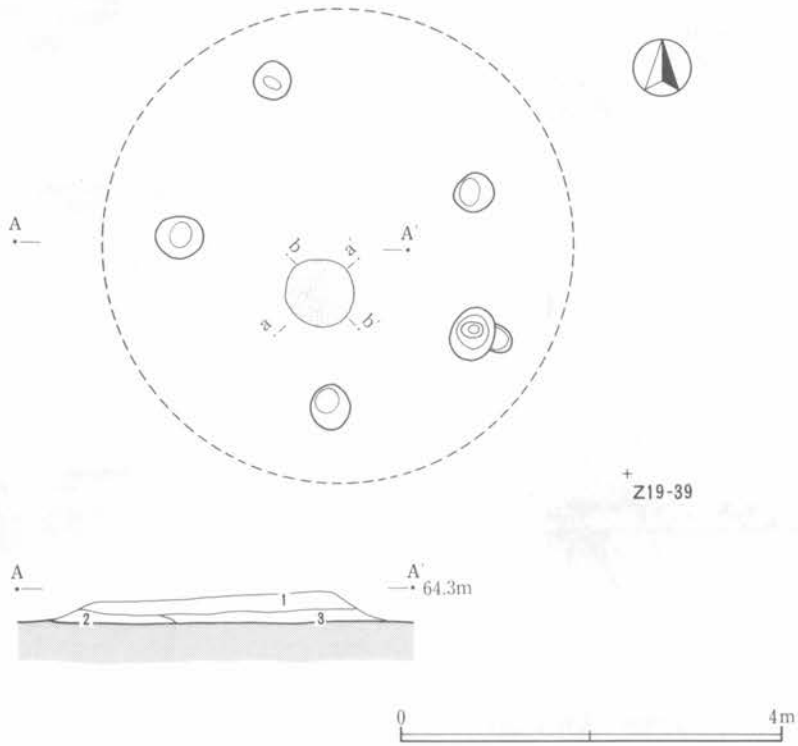
第26图 大野第3遺跡003号住居跡出土土器(1/4)

石が出土している。

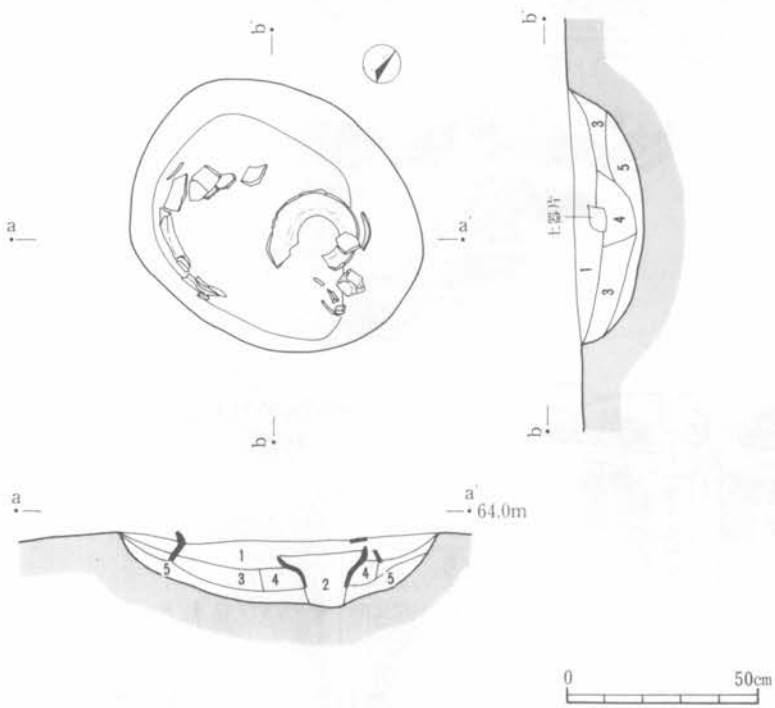
004号住居跡（遺構 第27～29図 遺物 第30・31図39～62）

Z19-10付近に位置し、003号住居跡の南約10m東10mにある。壁が検出できなかったため平面形は確認できないが、柱穴等の位置関係から径5mほどの円形ではないかと思われる。床面は一部に硬化面が検出できるものの全体に根等による攪乱が著しいため軟質な部分が多い。炉は柱穴の中心よりやや南西に寄った位置に構築された土器埋設炉である。深鉢の上半分を炉の壁に使用している。覆土は上層より1. 焼土粒・ローム粒を少し含む暗褐色土。2. 焼土粒が多く炭化粒を少量含む暗褐色土。3. 焼土ブロックを含む赤褐色土。4. 焼土ブロック5. 褐色土である。柱穴はP1～P5の5本柱である。炉はやや南西に寄っているが、ほぼ五角形をしている。深さがP1は48cm、P2は56cm、P3は23cm、P4は47cm、P5は45cmである。覆土は、褐色土ブロックを多く含みローム粒・炭化粒を若干含む暗褐色土。2. ロームブロック(小)・ローム粒を多く含む褐色土。3. ローム粒を多く含み焼土粒を若干含む暗褐色土である。なお断面観察においても土が同色系のため壁の立ち上がりはみとめられなかった。

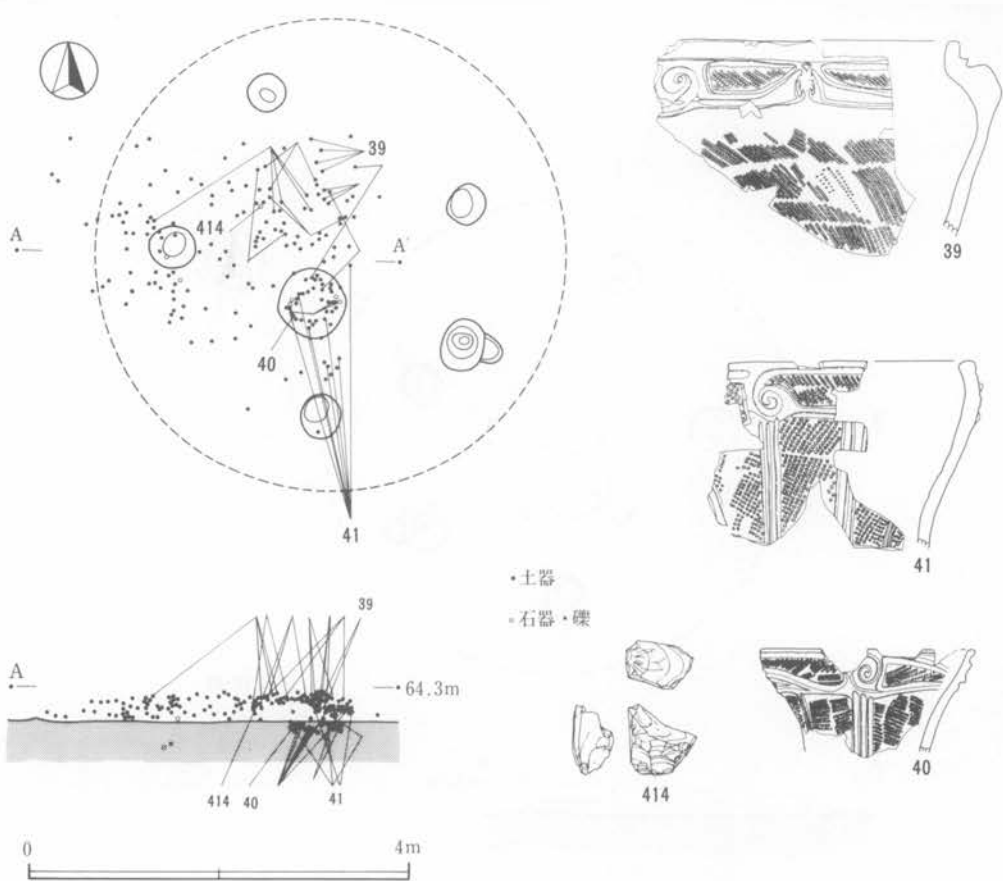
出土遺物は炉から西側の部分で土器破片を主体として比較的多数検出されている。39は口縁部が内弯する浅鉢形土器の破片でRL縄文を施したのち口縁部に沈線で区画している。一区画ごとに渦巻状の突起と文様を配している。内外面とも磨かれている。40はやや小形の深鉢の上半分の個体である。炉に使用していたため非常にもろくなっている。口縁部はLR縄文横位に、また胴部は縦位に施している。その後に口縁部は沈線で三角形と渦巻文で区画されている。胴部は頸部にいたる直線の沈線で区画されている。41は大形の深鉢の破片で口縁部から頸部にかけてRL縄文を横位に、胴部にかけて縦位に施している。その後に口縁部は粘土紐を貼り付け内側を沈線で区画し渦巻文を配してある。頸部から胴部に3本の垂下する沈線によって区画されている。内面は磨かれている。42は浅鉢破片でRL縄文で縦位に施したのち、土器内面および口縁部外面は磨かれている。胴部の張り出し部分を2本の沈線で区画している。43は浅鉢破片で口唇部から胴部まで無節の縄文を施したのち、比較的太めの沈線で区画している。44は浅鉢破片で櫛状工具による条線が施されている。45は浅鉢破片でLR縄文を施してある。46は浅鉢破片でLR縄文を施したのち、粘土紐を貼り付け口縁に平行に沈線で区画している。47は口縁部破片で粘土を貼り付けて渦巻文を配している。48は口縁部破片でRL縄文を施した後口縁に平行な沈線を配してある。49は粘土紐を張り付けて渦巻文で区画されている。50は胴部破片上半分はRL縄文を横位に、下半分は縦位に施している。その後に粘土紐を貼り付けてその内側に沈線で区画して仕上げてある。51・59・60はLR縄文を施している。52・54・55・61はRL縄文を施している。56・57は竹ひご状の工具で連続刺突文が施されている。58はLRL縄文を施している。



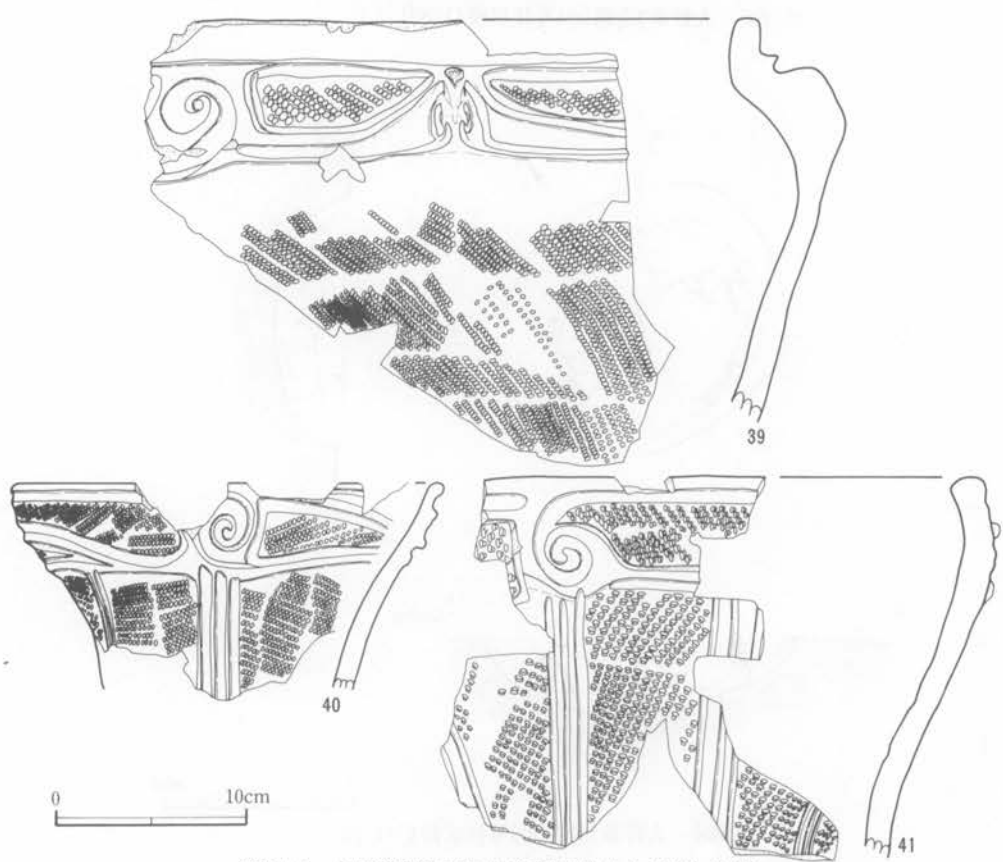
第27图 大野第3遺跡004号住居跡(1/80)



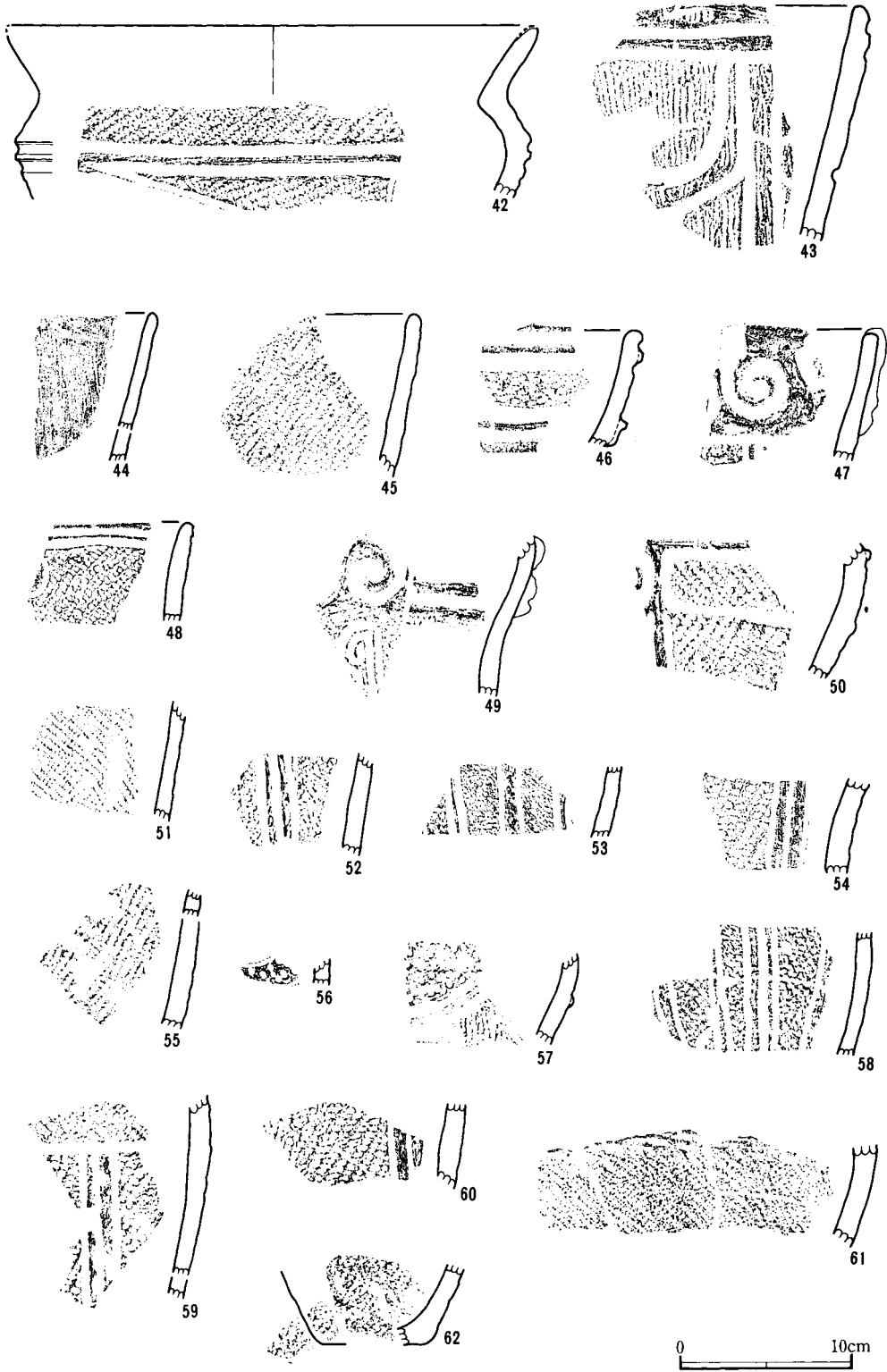
第28图 大野第3遺跡004号住居跡炉(1/20)



第29図 大野第3遺跡004号住居跡遺物出土状況(1/80)



第30図 大野第3遺跡004号住居跡出土土器(1) (1/4)



第31图 大野第3遺跡004号住居跡出土土器(2)(1/4)

62はキャリパー形深鉢の底部破片である。焼けてもろくなっている。他に414のチャート製の石核が出土している。

(2) 土坑

005号土坑 (遺構 第32図 遺物 第36図63~75)

Z19-09の西2mに位置する。径約1.4mの円形プランである。床面にピットを1個もつ。検出面からの深さは床面で25cm、一番深いピット部分で約40cmある。覆土は1. ローム粒を多く含む黒色土。2. ローム粒が多くロームブロックを若干含む黒色土。3. ローム粒非常に多く含む堆積が疎な明褐色土。4. ロームブロックを多く含む褐色土である。

出土遺物は覆土中からの土器片である。63~66までは口縁部破片,67~74までは胴部破片,67は底部破片である。63はR L R縄文を施したのち沈線で区画している。66は粘土紐を貼り付けて区画している。74は櫛状工具による条線を施してある。

006号土坑 (第32図)

Z19-19に位置する。径約1.2mのやや不正な円形プランである。床面にピットを2個もつ。検出面からの深さは床面で20cm、一番深いピット部分で約30cmある。覆土は1. ローム粒・炭化粒を若干含む暗褐色土。2. ロームブロック(小)を若干含む暗褐色土。3. ロームブロックを若干、ローム粒を多く含む褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土。5. ロームブロックを含み堆積が疎な褐色土である。

007号土坑 (第32図)

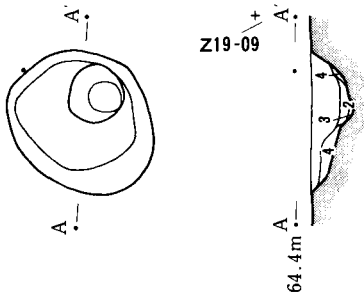
AA19-10から西1mに位置する。長軸1.4m、短軸1.2mの円形に近い楕円形のプランである。床面に大きなピットを1個もつ。検出面からの深さは床面で15cm、一番深いピット部分で約50cmある。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土。2. ローム粒・炭化粒を多く含む褐色土。3. ローム粒・ロームブロックを含む褐色土。4. ローム粒を少量、ロームブロックを若干含む黒色土。5. ロームブロックを多く含む黄褐色土。6. ローム粒を若干含む褐色土。7. ローム粒を多く含む明褐色土である。

008号土坑 (遺構 第32図 遺物 第36図77~80)

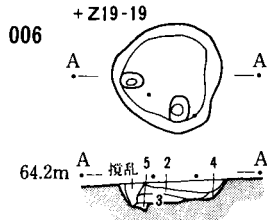
AA19-20付近に位置する。長軸1.8m、短軸1.6mの円形に近い楕円形のプランである。検出面からの深さは約40cmで床面は比較的フラットで壁もやや急に立ち上がる。覆土は1. ローム粒が多く、炭化粒を若干含む褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含む褐色土。3. ローム粒が多く、炭化粒を若干含む黒色土。4. ローム粒を少量含む褐色土。5. ソフトロームブロックを少量含む暗褐色土。6. ローム粒を少量含む褐色土である。

出土遺物は覆土中・床面から少量の土器片が検出されている。76は口縁部破片,77~80は胴部破片である。76は浅鉢で破片部分が無文である。77はR L縄文を横位,78・80は縦位に施したの

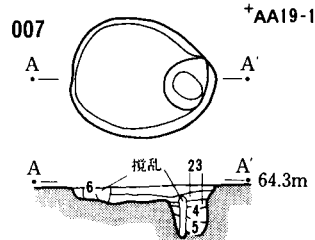
005



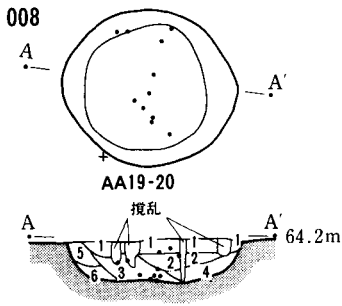
006



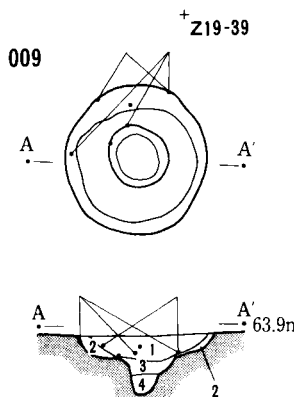
007



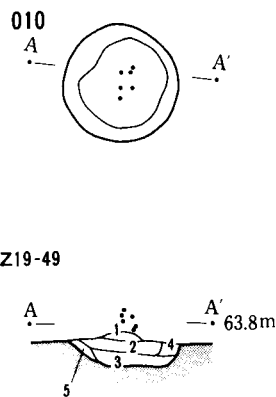
008



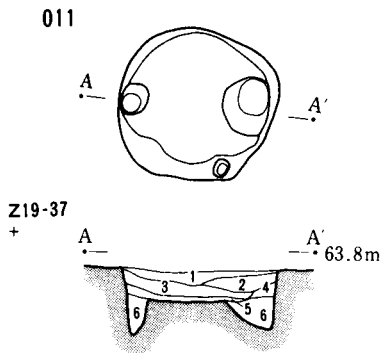
009



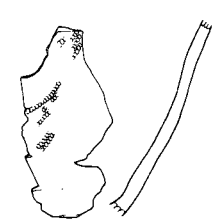
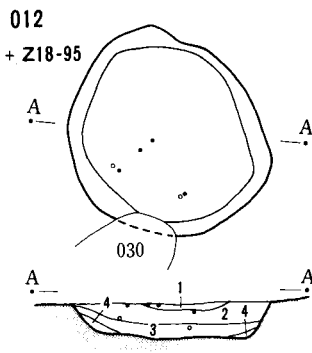
010



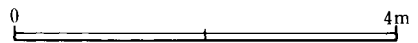
011



012



• 土器
 ○ 石器・礫



第32図 大野第3遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

ち沈線による区画がなされている。79は沈線による区画がなされている部分の破片である。

009号土坑（遺構 第32図 遺物 第36図81～82）

Z19-39の1m南に位置する。ほぼ径1.5mの円形プランである。中央部分に大きなピットを1個もつ。検出面からの深さは約25cm、一番深いピット部分で約60cmある。床面から壁にかけてはややだらだと立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む褐色土。2. ロームブロック・ローム粒を多く含むやや堆積が疎な黄褐色土。3. ローム粒少量で炭化粒を若干含む褐色土。4. ロームブロックを若干含むやや堆積が疎な暗褐色土である。

出土遺物は覆土下層から若干の土器片が検出されている。81は胴部破片でRL縄文を施してある。82は口縁部付近の破片でRL縄文を施したのち、頸部には粘土貼り付けによる区画、また胴部にかけては垂下する3条の沈線により区画されている。

010号土坑（遺構 第32図 遺物 第36・37図83～89）

Z19-49の1m北に位置する。ほぼ径1.2mの円形プランである。検出面からの深さは約30cmである。覆土は1. ローム粒を若干含む褐色土。2. ローム粒が多く炭化粒を若干含む褐色土。3. ローム粒を若干含む堆積が疎な暗褐色土。4. ロームブロックを含む明褐色土。5. ロームブロックを多く含む褐色土である。

出土遺物は覆土上層に集中して検出されている。85～88は同一個体と思われる土器片である。RL縄文を施したのちに口縁直下に平行の沈線文を配している。89は胴部から底部にかけての破片である。RL縄文を施したのちに籠状の工具で削られている。83・84は同一個体と思われる破片である。縄文を施したのちに沈線で区画している。

011号土坑（遺構 第32図 遺物 第37図90～93）

Z19-47の東1m、北1mに位置する。ほぼ径1.6mの円形プランである。東西にピットを1個ずつもつ。検出面からの深さは床面で30cm、一番深いピット部分で65cmある。床面はほぼフラットで壁は急に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒と炭化粒を若干含む黒褐色土。2. ソフトローム粒を多量に含む黄褐色土。3. ハードロームブロックを含む黒褐色土。4. 褐色土。5. ハードロームブロックを多量に含む黄褐色土である。

出土遺物は覆土中から少量検出されている。90・92は深鉢の胴部破片でRL縄文を施している。92はそののち縦方向の沈線文を配している。91は浅鉢様の土器破片であるが、口縁直下に刺突文が見られる。93は横方向の不連続な沈線が見られる。

012号土坑（遺構 第32図 遺物 第37図94～98）

Z18-95付近に位置する。030号土坑に切られる。ほぼ径2.0mの円形プランを呈する。検出面からの深さは約40cm、床面はフラットで壁際で急に立ち上がる。覆土は1. 黒色土、2. ソフトロームを若干含む暗褐色土、3. 黒褐色土、4. ソフトローム等がブロック状になっている

暗褐色土である。出土遺物は覆土中から少量検出されている。94は口縁部破片でR L縄文を施したのち粘土紐を張り付けて区画している。95も同様に口縁部破片で粘土紐を張り付けて区画し丁寧に仕上げている。96・97はR L縄文を施した破片である。98はR L縄文を施したのちに粘土を張り付けた突帯と沈線で区画されている。

013号土坑 (遺構 第33図 遺物 第37図99~103)

Z 18-48に位置する。長軸2.2m、短軸1.8mのやや変形の楕円形プランを呈する。床面にピットを1個持つ。検出面からの深さは床面で約30cm、一番深いピット部分で約70cmある。床面はほぼフラットで壁が比較的急に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒・炭化粒を若干含む褐色土。2. ソフトロームがブロック化している黄褐色土。3. ハードロームブロックを含む暗褐色土。4. 遺物及びローム粒を含む黒褐色土である。

出土遺物は覆土下層から床面にかけて少量検出されている。99~103は深鉢の胴部破片である。R L縄文を施している。

014号土坑 (遺構 第33図 遺物 第37・38図104~121)

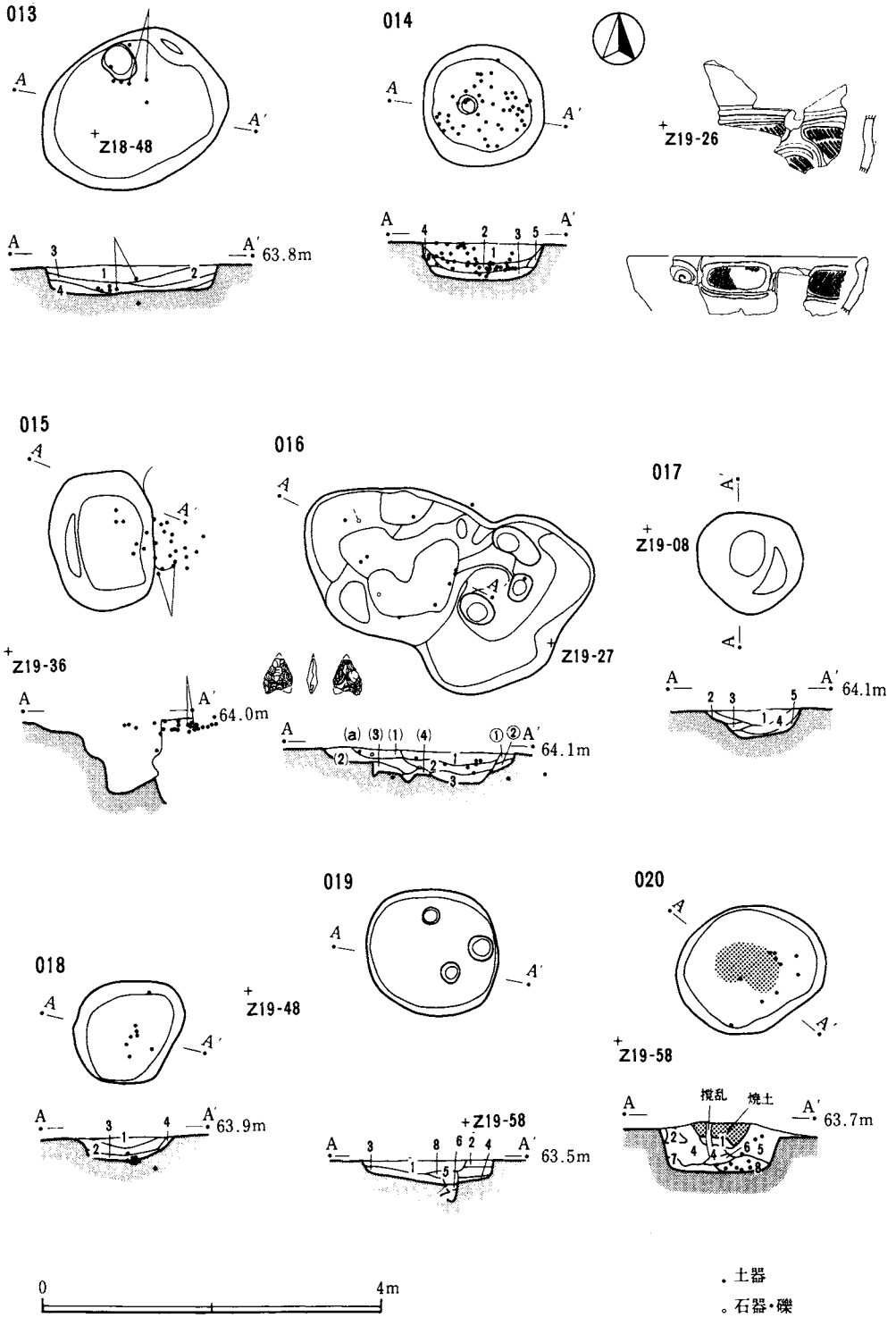
Z 19-26から西へ2 mに位置する。ほぼ径1.4mの円形プランを呈する。中程にピットを1個持つ。検出面からの深さは床面で40cm、一番深いピット部分で約65cmある。床面はフラットで壁際はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含み炭化粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒・炭化粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒を少量含み堆積が疎な暗褐色土。4. ソフトロームブロックを若干ふくむ褐色土である。

出土遺物は覆土下層を中心に比較的多く検出されている。104はR L縄文を施したのち粘土紐による突帯と沈線による区画がされている。105・106・107は口縁部破片でL R縄文を施したのちに沈線で四角く区画しその間に渦巻文を配してある。108~115はL R縄文を施したのちに細い粘土紐による突帯と沈線による区画がされている。なかには渦巻文を配しているものもある。116はL R L縄文が施されている。118・119はR L縄文が施されている。117・121はR L縄文を施したのちにスリ消されて地文がほとんどみられない。

015号土坑 (遺構 第33図 遺物 第39図122~127)

Z 19-36から北1 m、東1 mに位置する。032号土坑を切っている。長軸1.6m、短軸1.2mの長方形に近い楕円形のプランを呈する。陥穴状遺構になると思われる。検出面からの深さは約80cmある。床面はやや西側から東側へ浅くなる傾向が見られる。壁際は急に立ち上がるが途中で階段状になっている。出土遺物は覆土上層を中心に少量検出されている。126はL R L縄文を施してある。123と125はR L縄文を施している。その後124は沈線を配している。124と126はL R縄文を施したのちに沈線を配している。

016号土坑 (遺構 第33図 遺物 第39図128~133)



第33図 大野第3遺跡縄文時代土坑(2)(1/80)

Z19-27に位置する。3基の土坑が切り合っているため016号そのもののプランは不明である。床面も小ピットがあつたりで凹凸が激しい。検出面からの深さは約30cmある。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒・ブロックを多く含む黒褐色土。3. ロームブロックを多く含む褐色土である。(a)土坑の覆土は(1)ローム粒を若干含む黒色土。(2)ロームブロックを多く含む暗褐色土。(3)ロームブロックを非常に多く含む褐色土。(4)ソフトロームブロックを含む褐色土である。(b)土坑の覆土は①ローム粒を若干含む堆積がやや疎な黒褐色土。②ローム粒を多く含む褐色土である。

出土遺物は3基の土坑を含めて覆土中より少量検出されている。128が口縁部破片、133は底部破片で他は胴部破片である。132は楕状工具による条線を施されている。他はRL縄文を施したのちに130・133には垂下する沈線を施されている。その他に415の石鏃が1点出土している。先端部と脚部が欠損している黒曜石製の石鏃である。

017号土坑 (第33図)

Z19-08から南1m、東1mに位置する。約径1.2mの円形プランを呈する。検出面からの深さは約30cmある。覆土は1. ソフトロームブロックを含み堆積がやや疎な暗褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土。5. ローム粒・ブロックを多く含む堆積が疎な明褐色土である。

018号土坑 (遺構 第33図 遺物 第39図134~136)

Z19-48から西1mに位置する。長軸1.4m、短軸1.2mのやや不正な楕円形のプランを呈する。検出面からの深さは約25cmある。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒が多く炭化粒を若干含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含む褐色土。4. ローム粒が多くロームブロックを多く含む黄褐色土である。

出土遺物は覆土下層を中心に少量検出されている。134はRLR縄文を施してある。135は縄文を地文に粘土紐を貼り付けて区画している。136は無節縄文を施してある。

019号土坑 (第33図)

Z19-58から北1mに位置する。長軸1.5m、短軸1.4mの円形に近い楕円形のプランを呈する。ピットを3個持つ。検出面からの深さは床面で約25cm、一番深いピット部分で約45cmある。床は壁へ向かって徐々に立ち上がり壁際で急に立ち上がる。覆土は1. ロームブロックを若干含むローム粒を少量含む褐色土。2. ローム粒を少量含む堆積がやや密な褐色土。3. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土。4. ローム粒と炭化粒を若干含む褐色土。5. ローム粒を少し含む褐色土。5. ローム粒を少し含む褐色土。6. ローム粒が少量と炭化粒を若干含む暗褐色土。7. ローム粒を多く含む堆積が疎な褐色土。8. ソフトローム粒を若干含む暗褐色土である。

020号土坑 (遺構 第33図 遺物 第39図137~142)

Z 19-58から東1mに位置する。長軸1.8m、短軸1.5mの楕円形のプランを呈する。覆土上部の中央部分に焼土の分布がみられる。検出面からの深さは約55cmある。床面はフラットで壁は急に立ち上がる。覆土は埋め戻しの認められる人為的な堆積である。1. 焼土粒・ローム粒を少量含む褐色土。2. 黒褐色土。3. 黄褐色土。4. ローム粒を多く含む黄褐色土。5. ローム粒を多く含む黄褐色土。6. ローム粒を多く含む暗褐色土。7. ローム粒・炭化粒を含む暗褐色土。8. ローム粒・炭化粒を若干含む暗褐色土である。出土遺物は覆土下層から破片が少量検出されている。137はR L縄文を地文に沈線文を施している。138はR L R縄文を施してある。139・140はR L縄文を施してある。142は櫛状の工具で条線を施している。

021号土坑 (第34図)

A A18-98から東1mに位置する。長軸1.8m、短軸0.9mの楕円形のプランを呈する。検出面からの深さは約45cmある。床面は途中から中段がある。深い部分にはピットを1個持つ。形態的には陥穴状遺構になると思われる。

022号土坑 (第34図)

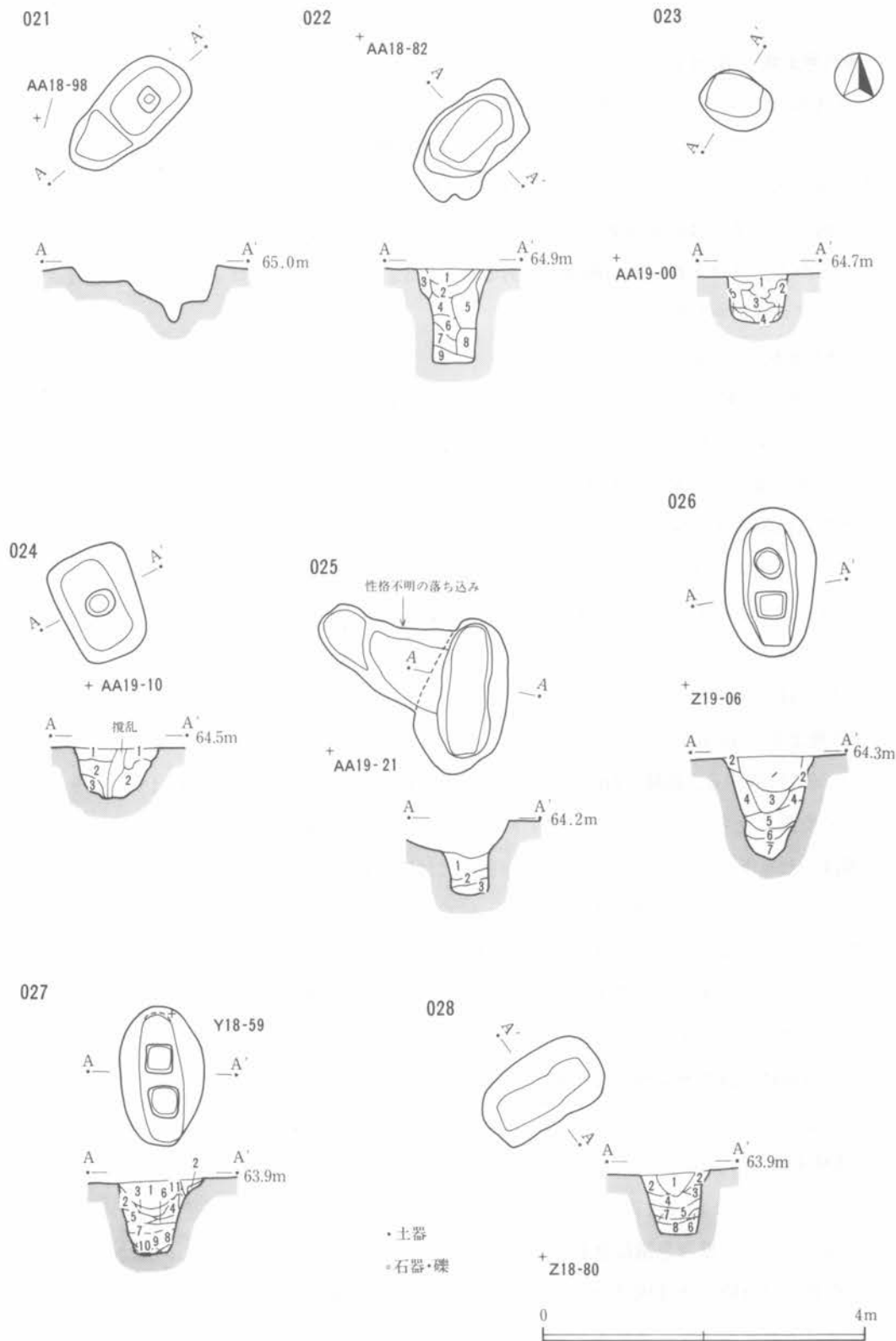
A A18-82から東1m、南1mに位置する。長辺1.5m、短辺1.0mの長方形に近いプランを呈する。床面はフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。検出面からの深さは1.1mある。覆土は1. ローム粒を多量に含む暗褐色土。2. ローム粒を含む黒色土。3. 壁が崩落した黄褐色土。4. 暗褐色土。5. ロームブロックを多量に含む褐色土。6. ローム粒を含む黒色土。7. ローム粒・ロームブロックを多量に含みしまりはあまり良くない暗褐色土。8. ロームブロックを多量に含みしまりはあまり良くない黄褐色土。9. ハードロームブロックを含む黒色土である。

023号土坑 (第34図)

A A19-00から東1m、北2mに位置する。長軸0.9m、短軸0.7mの楕円形のプランを呈する。床面はフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは60cmある。覆土は1. ソフトロームを含みしまりの良好な黒色土。2. ソフトローム粒・ハードロームブロックを多量に含む褐色土。3. ローム粒を含む黒褐色土。4. しまりの良好な黒色土。5. ロームブロックを多量に含み柔らかい黄褐色土である。

024号土坑 (第34図)

A A19-10にほぼ位置する。長辺1.4m、短辺1.0mの隅丸の長方形を呈する。床面は壁際まで緩やかに上がり、壁から検出面までも比較的緩やかに立ち上がっている。床面の中程に小ピットを1個持つ。検出面からの深さは床面で約60cmある。一番深いピット部分では約1mである。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ロー



第34図 大野第3遺跡縄文時代土坑(3) (1/80)

ムブロックを含む黒色土。3. ロームブロックを多量に含む暗褐色土である。

025号土坑 (第34図)

A A19-21から東1 mに位置する。長軸2.0m、短軸1.0mの楕円形のプランを呈する。床面はフラットで壁際は垂直に立ち上がり中程から外側へ開く。西側には確認時に検出された性格不明の落ち込みが検出されている。この遺構の埋まる段階で崩落した落ち込み部分かもしれない。検出面からの深さは約90cmある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土はあるが1. ソフトロームの崩落土である黄褐色土。2. ロームブロックを含む黒色土。3. ロームブロックを含む褐色土である。

026号土坑 (第34図)

Z19-06から東1 m、北1 mに位置する。長軸1.8m、短軸1.1mの楕円形のプランを呈する。床面は壁際までやや立ち上がり壁から上端にむかって急激に立ち上がる。床面にピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で約1.2mある。一番深いピット部分では約1.5mある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. 褐色土ブロックを若干含む堆積が密な黒色土。2. ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。3. 堆積がやや密な黒色土。4. ロームブロック (小) を少し含む堆積がやや密な褐色土。5. ハードロームブロック (大) を若干含む暗褐色土。6. ハードロームブロック (大) を多く含む暗褐色土。7. ロームブロック土で堆積が疎な黄色土である。

027号土坑 (第34図)

Y18-59に位置する。長軸1.7m、短軸1.1mの楕円形のプランを呈する。床面はフラットで壁際からやや急に立ち上がる。床面にピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で約95cmある。一番深いピット部分では約1.1cmある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む黒色土。2. ロームブロックを多く含む褐色土。3. 堆積がやや疎な暗褐色土。4. ロームブロックを若干含む褐色土。5. ロームブロック (小) を少し含む褐色土。6. ローム粒を若干含む堆積はやや疎でサクサクした暗褐色土。7. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。8. ローム粒 (大豆大) を少し含む堆積がやや疎な黒色土。9. ローム粒を含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。10. ローム粒多く含む堆積が疎でサクサクとした褐色土である。

028号土坑 (第34図)

Z18-80から北1 mに位置する。長辺1.2m、短辺0.9mの隅丸の長方形に近いプランを呈する。床面はフラットで壁は急激に立ち上がって開口部でやや広がる。検出面からの深さは約80cmある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む堆積がやや疎

な暗褐色土。4. ローム粒(大豆大)を少し含む暗褐色土。5. 堆積がやや疎な暗褐色土。6. 堆積が疎でサクサクな褐色土。7. ローム粒を若干含む褐色土。8. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な黄褐色土である。

029号土坑(第35図)

Z18-61から西1mに位置する。長辺1.7m、短辺1.0mの全体に丸みの強い楕円形に近い長方形を呈する。床面はフラットで壁は急激に立ち上がる。床面に2個のピットを持つ。検出面からの深さは90cmある。一番深いピット部分では約1.0mある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ハードロームブロックを含みやや攪乱ぎみな黄褐色土。2. 黒褐色土。3. ソフトロームを含む暗褐色土。4. 黒褐色土。5. ソフトロームを若干含む黒色土。6. 黒色土。7. ソフトロームを多量に含む褐色土。8. ソフトロームを多量に含む褐色土。9. 黒褐色土。10. 壁の崩落土(III層)の黄褐色土。11. 黒褐色土。12. 黒色土である。

030号土坑(第35図)

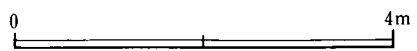
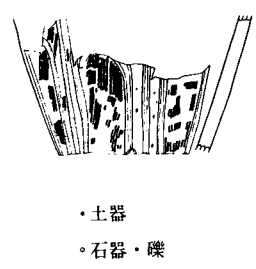
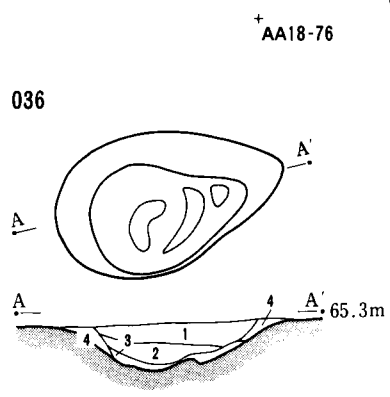
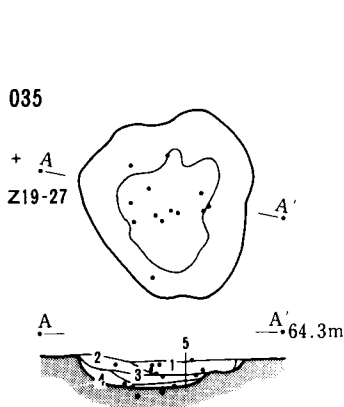
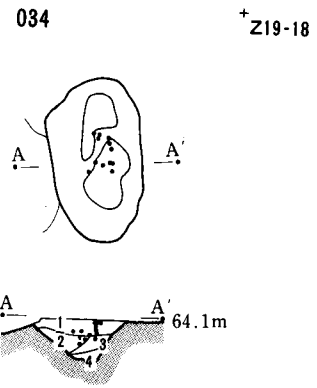
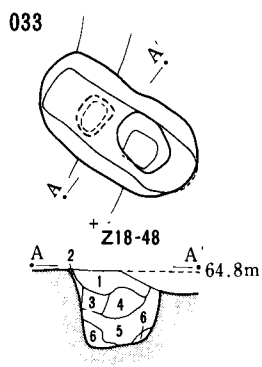
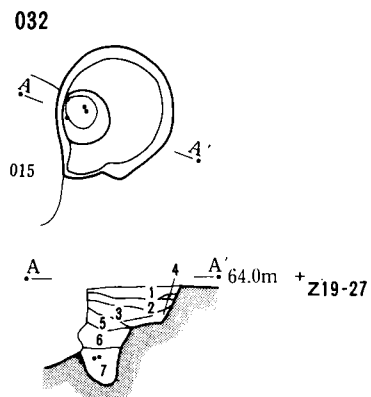
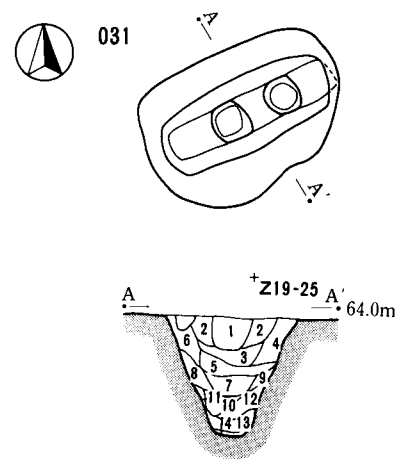
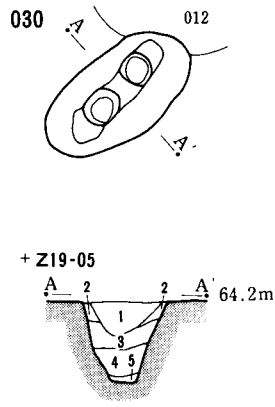
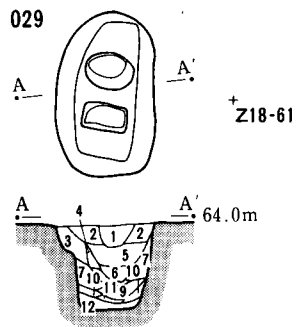
Z19-05から北1mに位置する。長軸1.8m、短軸0.9mの楕円形のプランを呈する。床面はフラットで壁は開き気味に立ち上がる。床面に2個のピットを持つ。検出面からの深さは80cmある。一番深いピット部分では約1.0mある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. 堆積がやや密な黒色土。2. ソフトロームブロックを含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む堆積がやや密な暗褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土。5. ロームブロックを多く含む堆積が疎でサクサクな褐色土である。

031号土坑(第35図)

Z19-25から北1mに位置する。長軸2.2m、短軸1.5mのやや不正な楕円形のプランを呈する。床面はややすり鉢状で壁は開き気味に立ち上がる。床面に2個のピットを持つ。検出面からの深さは約1.2mある。一番深いピット部分では約1.4mある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを若干含む暗褐色土。4. ローム粒(大豆大)を多く含む褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや密な暗褐色土。6. ソフトロームブロックを少し含むローム粒を若干含む褐色土。7. ローム粒を若干含む黒褐色土。8. ソフトロームブロックを多く含む褐色土。9. ローム粒を含み堆積がやや疎な暗褐色土。10. ローム粒を多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。11. ロームブロック・ローム粒を若干含む褐色土。12. ローム粒(大豆大)を多く含むロームブロック(小)を若干含む褐色土。13. ロームブロック・ローム粒を多く含む堆積が疎でサクサクな褐色土。14. ローム粒を若干含む暗褐色土である。

032号土坑(遺構 第35図 遺物 第39図143~157)

Z19-27から北1m、西2mに位置する。015号土坑によって切られている。約径1.3mの円形



第35図 大野第3遺跡縄文時代土坑(4) (1/80)

プランを呈する。床面はフラットで壁は急に立ち上がる。大きなピットを1個持つ。検出面からの深さは約40cmある。一番深いピット部分では約1.0mある。覆土は1. 炭化粒・焼土粒を少し含む黒色土。2. ローム粒・炭化粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土。5. ローム粒を若干含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含む黒褐色土。7. 堆積が疎な黒褐色土。8. ローム粒が非常に多く含む褐色土である。出土遺物はピット中から若干検出されている。胴部の破片のみである。143・151・152・155はR L縄文を地文に沈線で区画されている。破片上部に連続刺突文が見られる。144はR L縄文を地文に垂下する2本の沈線を施している。145・154はR L縄文が施されている。146は縄文を地文に沈線を施している。147・153は楕状の工具による条線を施している。148は縄文を施している。149はL R縄文を地文に配しているが施文が乱れている。150は縄文を施している。156・157は縄文を地文にして細かな沈線を配してある。

033号土坑 (第35図)

Z 18-48のやや北に位置する。長辺1.9m、短辺1.0mの楕円に近い長方形のプランを呈する。床面はやや緩やかに傾斜している。壁はやや緩く立ち上がり中程から急に立ち上がる。大きなピットは2個あったと思われるが、掘り方が不明で1個しか検出できなかった。検出面からの深さは約80cmある。一番深いピット部分は約 1.3mある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ロームブロックを若干含む安褐色土。2. 大きなロームブロックを含み壁が崩壊した黄褐色土。3. ロームブロックを含む褐色土。4. ロームブロックを含む黒褐色土。5. ロームブロックを多量に含む黒褐色土。6. ロームブロックを多量に含み壁が崩壊した淡褐色土である。

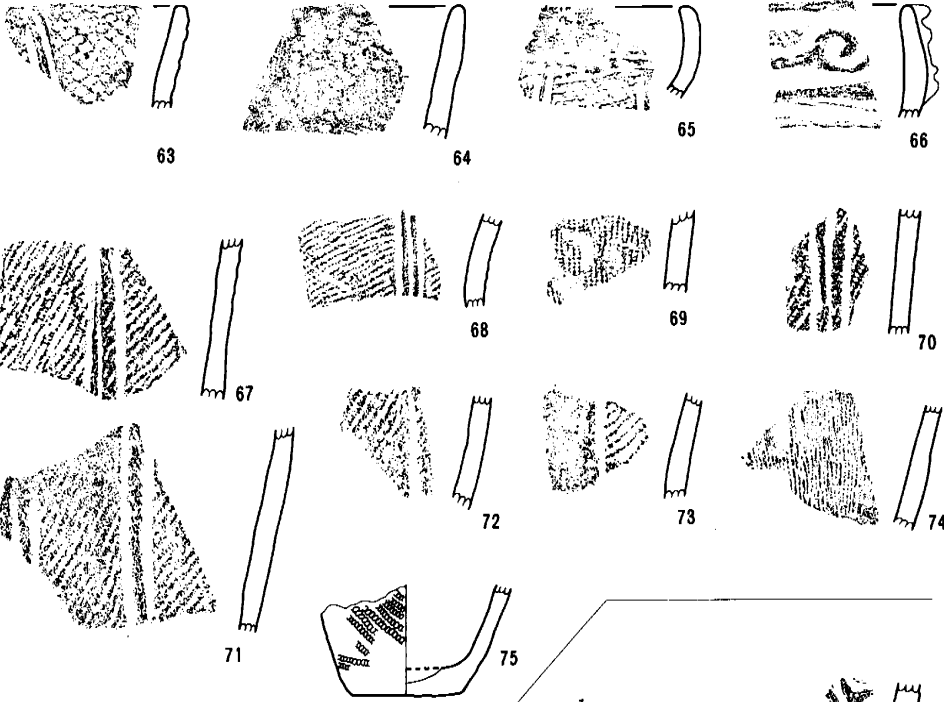
034号土坑 (遺構 第35図 遺物 第40図158~161)

Z 19-18の南1m、西1mに位置する。長軸1.7m、短軸0.8mのほぼ楕円形のプランを呈する。断面は逆三角形を呈し壁は斜めに立ち上がる。検出面からの深さは約50cmある。埋まる過程で土器を廃棄した土坑である。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ロームブロックを多く含む黒褐色土。3. ローム粒が多くロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土である。出土遺物は覆土中から土器片が検出されている。158と159は浅鉢土器で同一個体と思われる。R L縄文を地文に口縁部下に平行する2本の沈線を配し直下から胴部かけては沈線の曲線による区画と垂下する沈線を配している。161は口縁部に縄文がみられる。

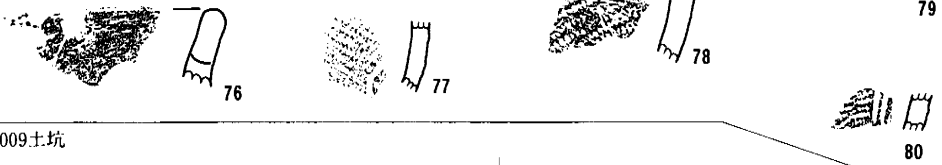
035号土坑 (遺構 第35図 遺物 第40図162~173)

Z 19-27の東1mに位置する。径1.8m規模のやや不規則なプランを呈している。断面はやや皿状で壁の立ち上がり部分で急に上がる。検出面からの深さは約35cmある。覆土は1. ローム

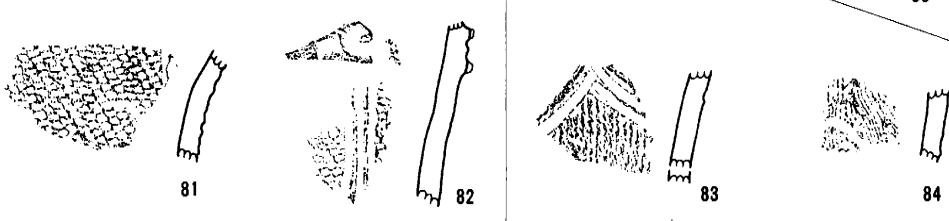
005土坑



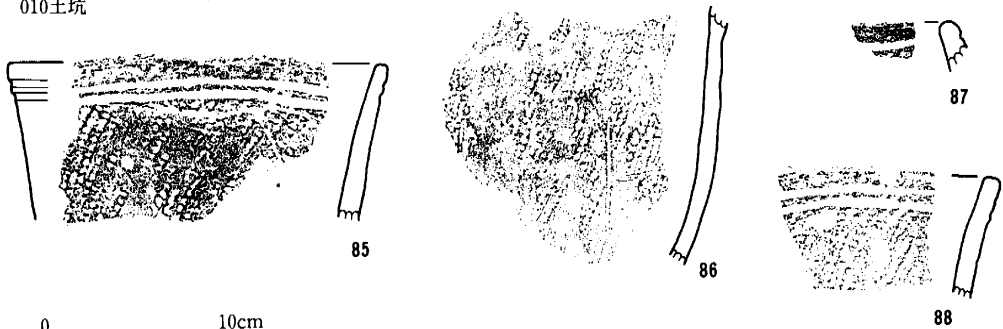
008土坑



009土坑



010土坑



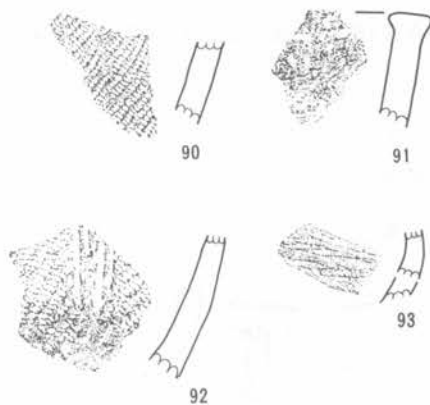
第36图 大野第3遺跡遺構内出土土器(1)(1/4)

010号土坑



89

011号土坑



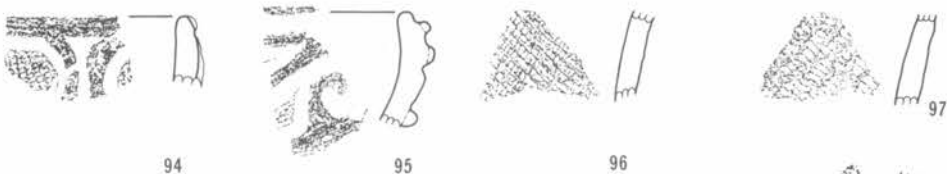
90

91

92

93

012号土坑



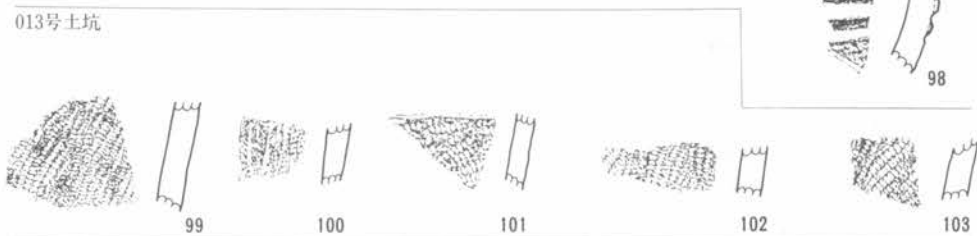
94

95

96

97

013号土坑



99

100

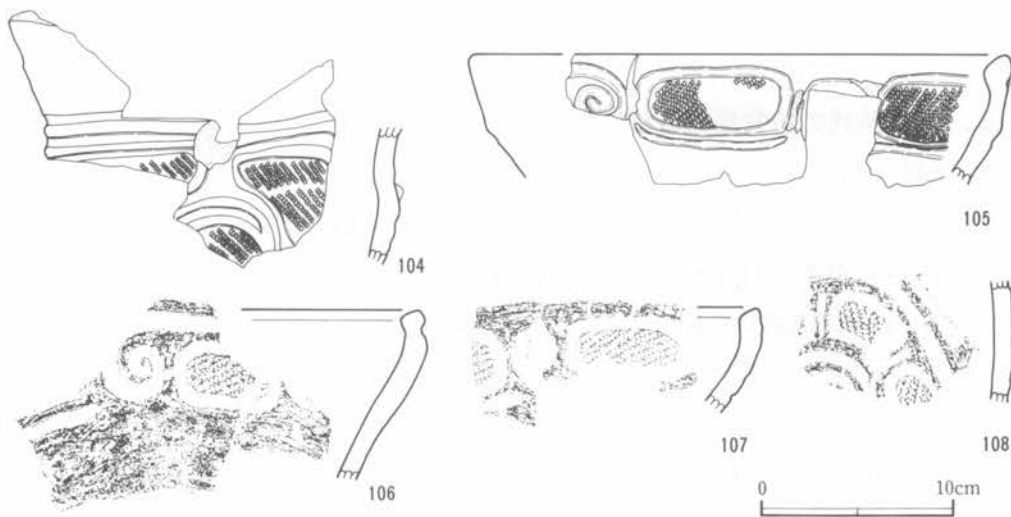
101

102

103

98

014号土坑



104

105

106

107

108

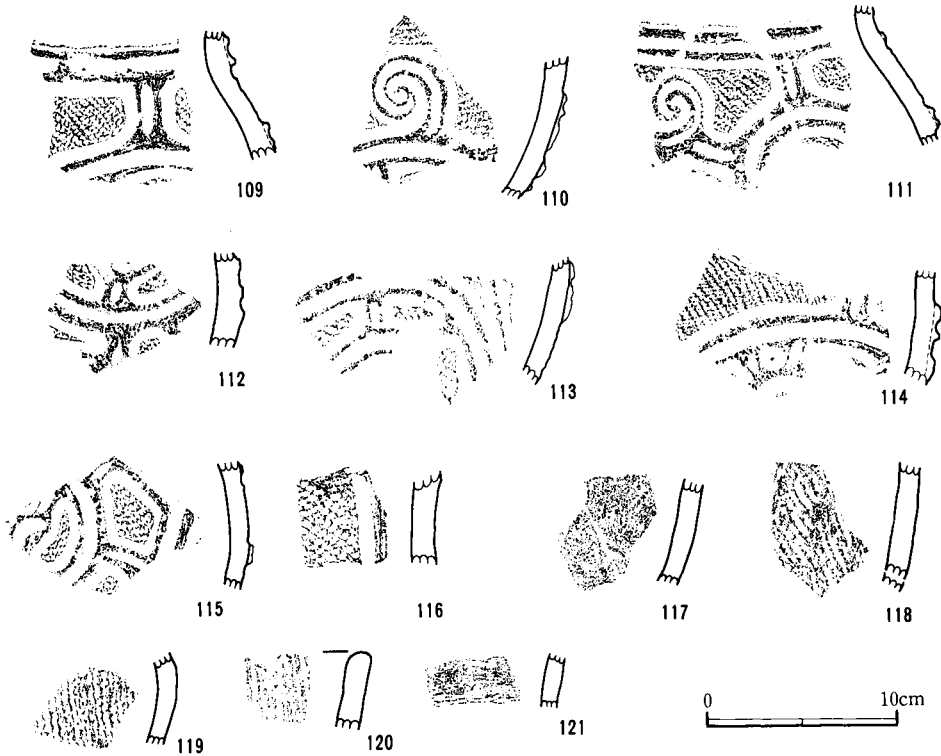


第37图 大野第3遺跡遺構内出土土器(2)(1/4)

粒を少し含む黒褐色土。2. ロームブロックを少し含みローム粒を若干含む褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含みローム粒を若干含む褐色土。5. ロームブロックを多く含む黄褐色土である。

036号土坑 (遺構 第35図 遺物 第40図174)

A A18-76の南1 mに位置する。長軸2 m、短軸1.5 mでやや片側が尖った形をしている楕円形のプランを呈している。床面はやや凸凹で壁も緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは約50 cmある。覆土は1. ローム粒を若干含む黒褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを多く含む黒色土。3. ロームブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含む暗褐色土である。出土遺物は174の土器片のみである。R L縄文を施している。



第38図 大野第3遺跡遺構内出土土器(3)(1/4)

3. 縄文時代の包含層の遺物について

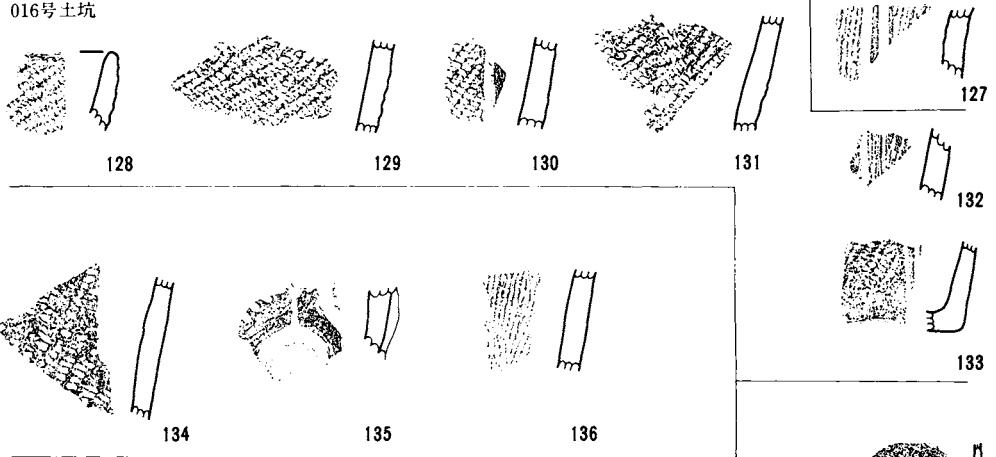
(1) 土器 (第40~48図)

包含層から出土した土器は412 (前期) を除いて遺構内から出土している縄文時代中期の土器片と同様なものが多い。175~178は大形破片である。179~246は口縁部破片。247~394は胴部破片。395~410は底部破片である。175は大形の浅鉢の破片でR L縄文を地文にして内外面とも磨かれている。胴部に2本ずつの平行する沈線を配している。176は小形の深鉢でR L縄文を施している。177は大形の壺形土器の口縁部で内外面ともきれいに磨いて仕上げている。178は大形の浅鉢土器の破片で内外面とも磨いて仕上げたのち、口縁直下に平行する沈線を施し沈線より下の胴部に楕状工具による縦方向の条線を配して仕上げている。179の様に縄文を地文にして

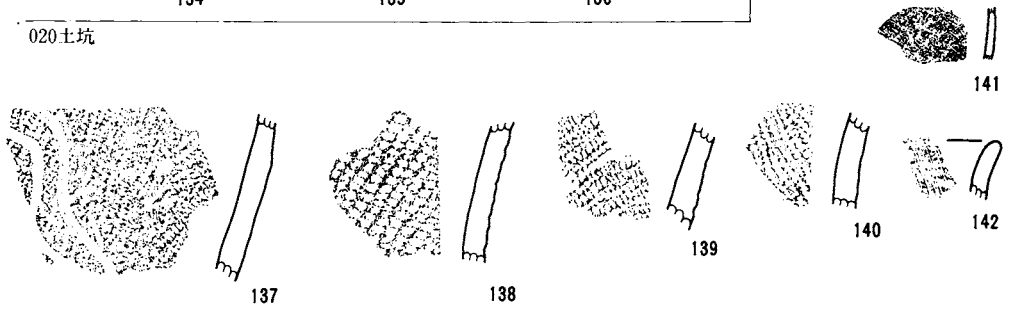


015号土坑

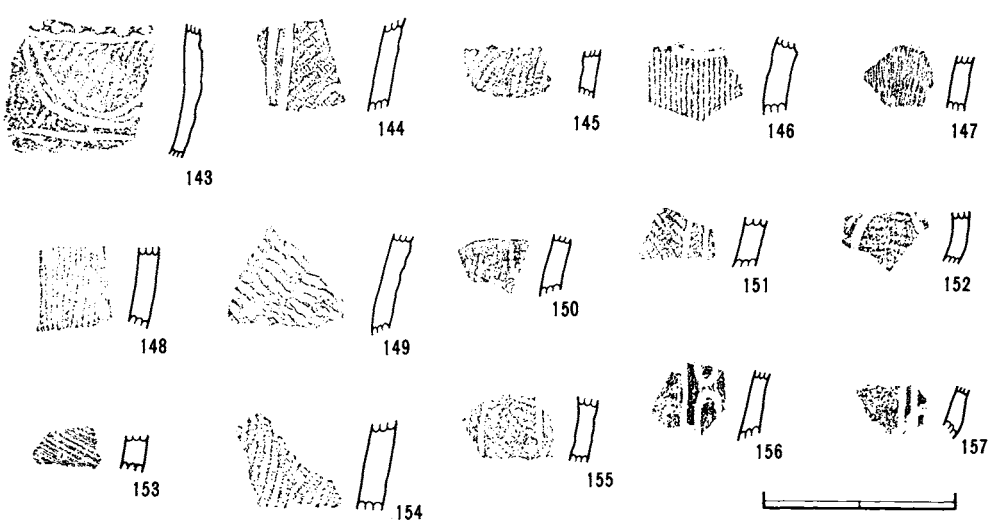
016号土坑



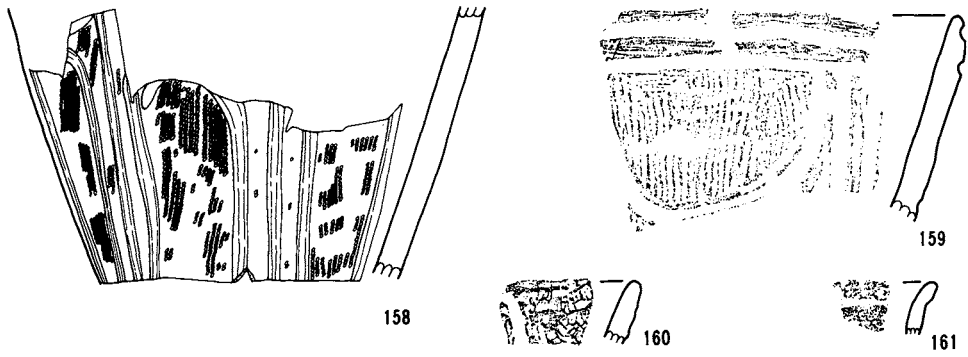
020土坑



032土坑

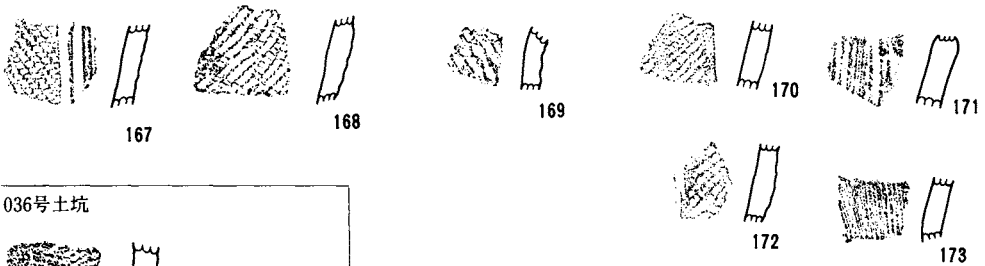
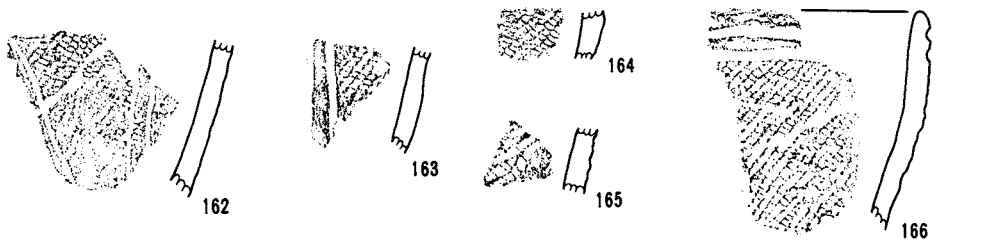


第39图 大野第3遺跡遺構内出土土器(4)(1/4)

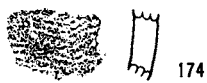


034号土坑

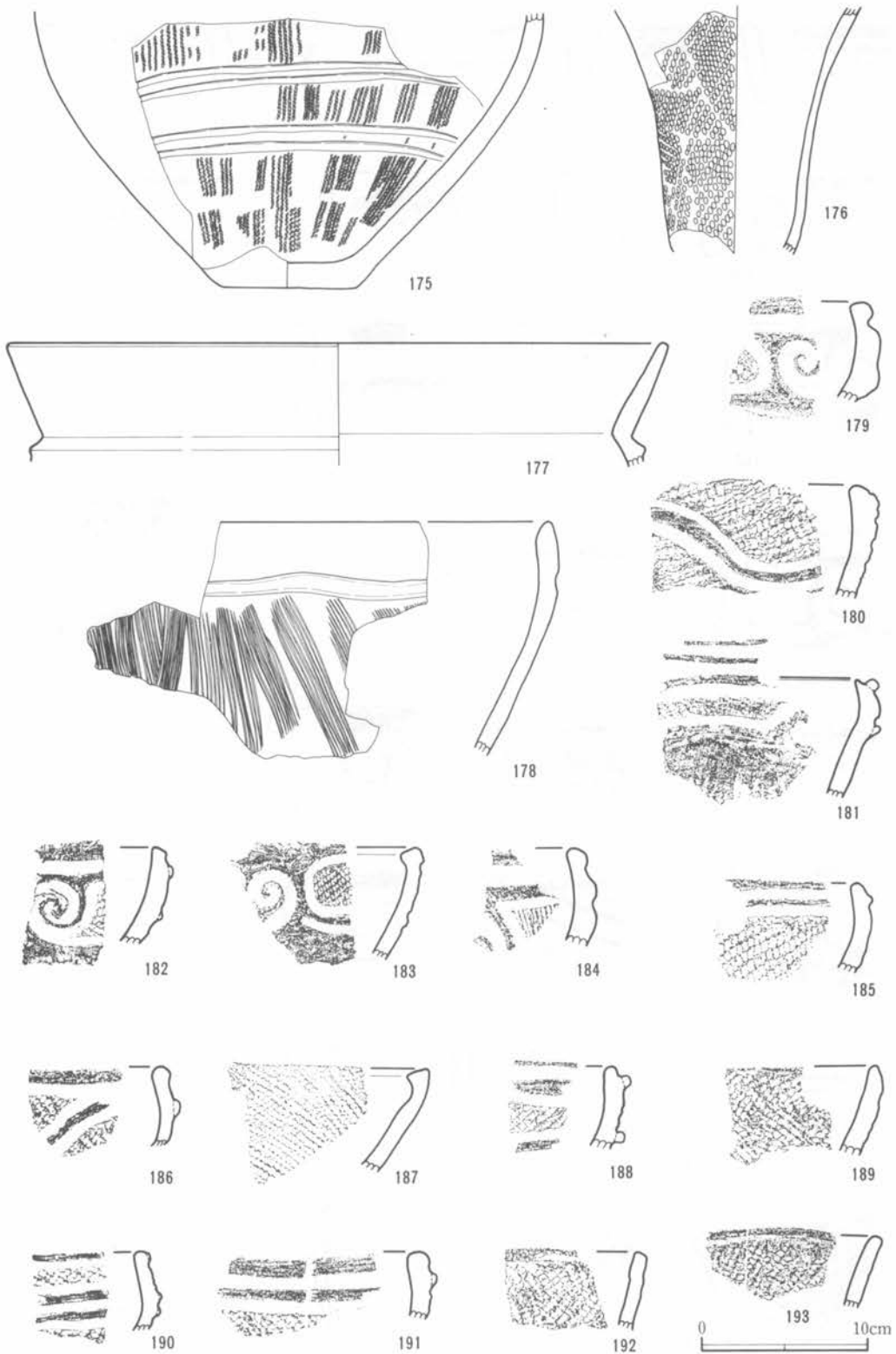
035号土坑



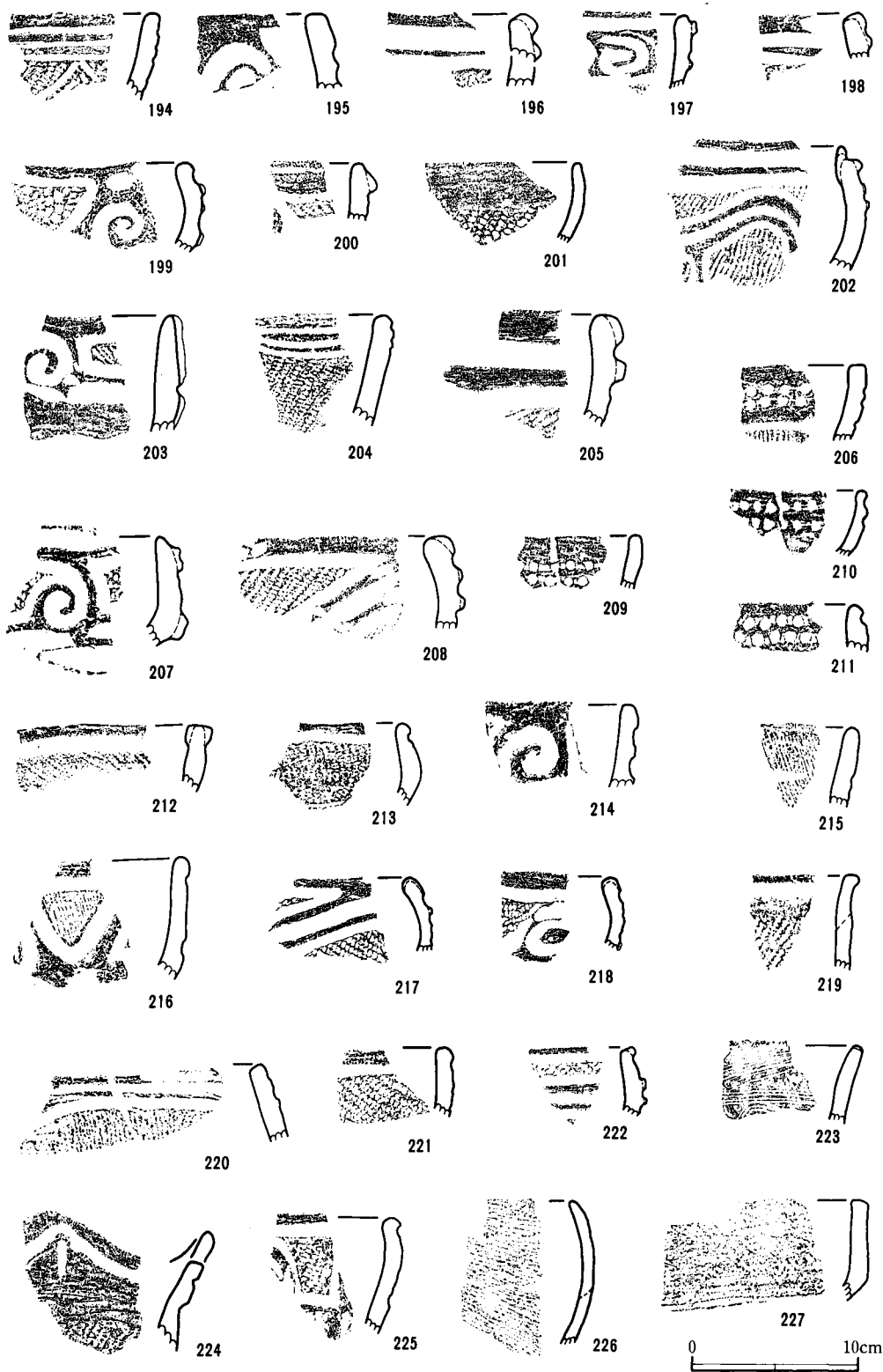
036号土坑



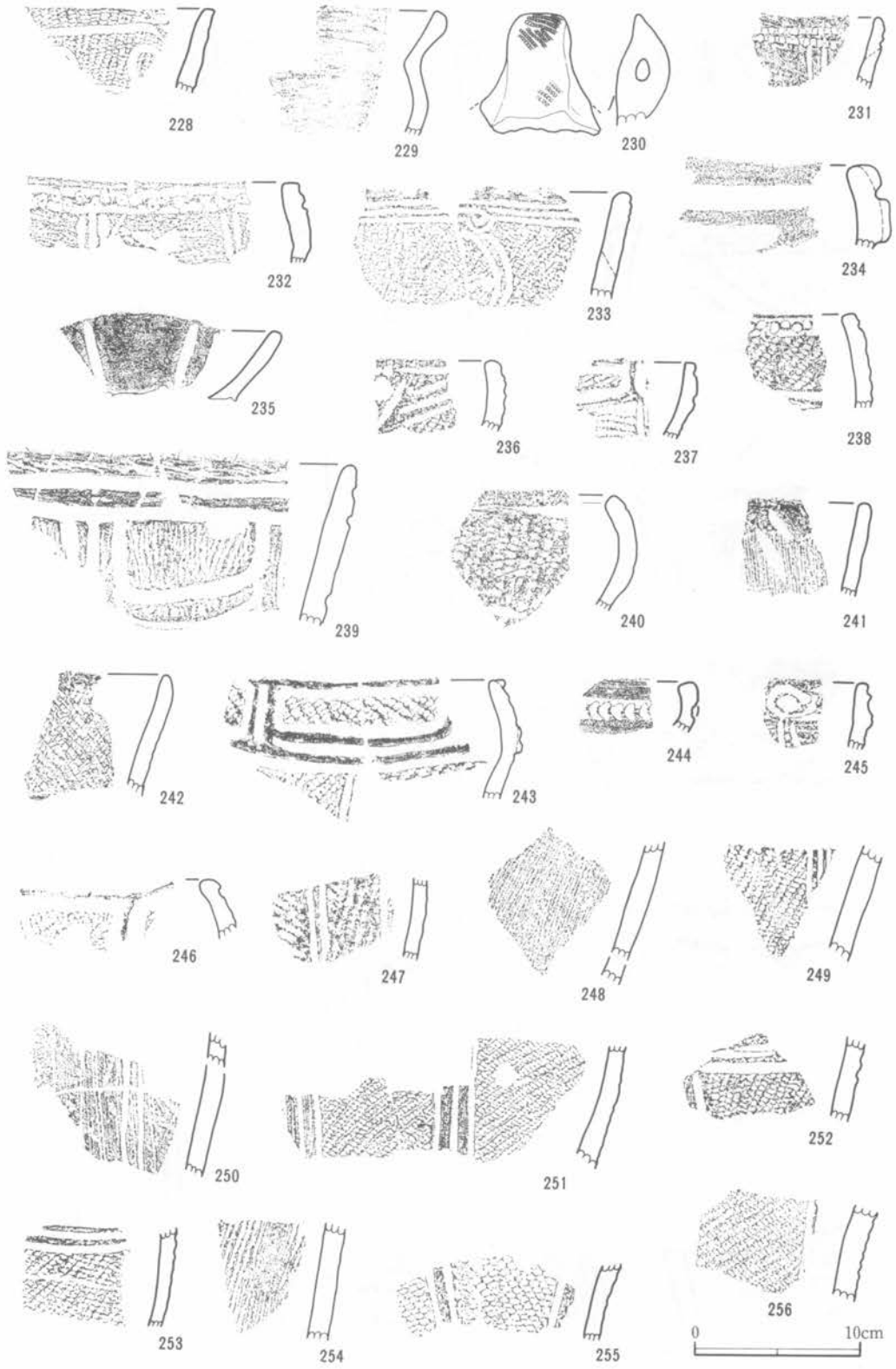
第40图 大野第3遺跡遺構内出土土器(5)(1/4)



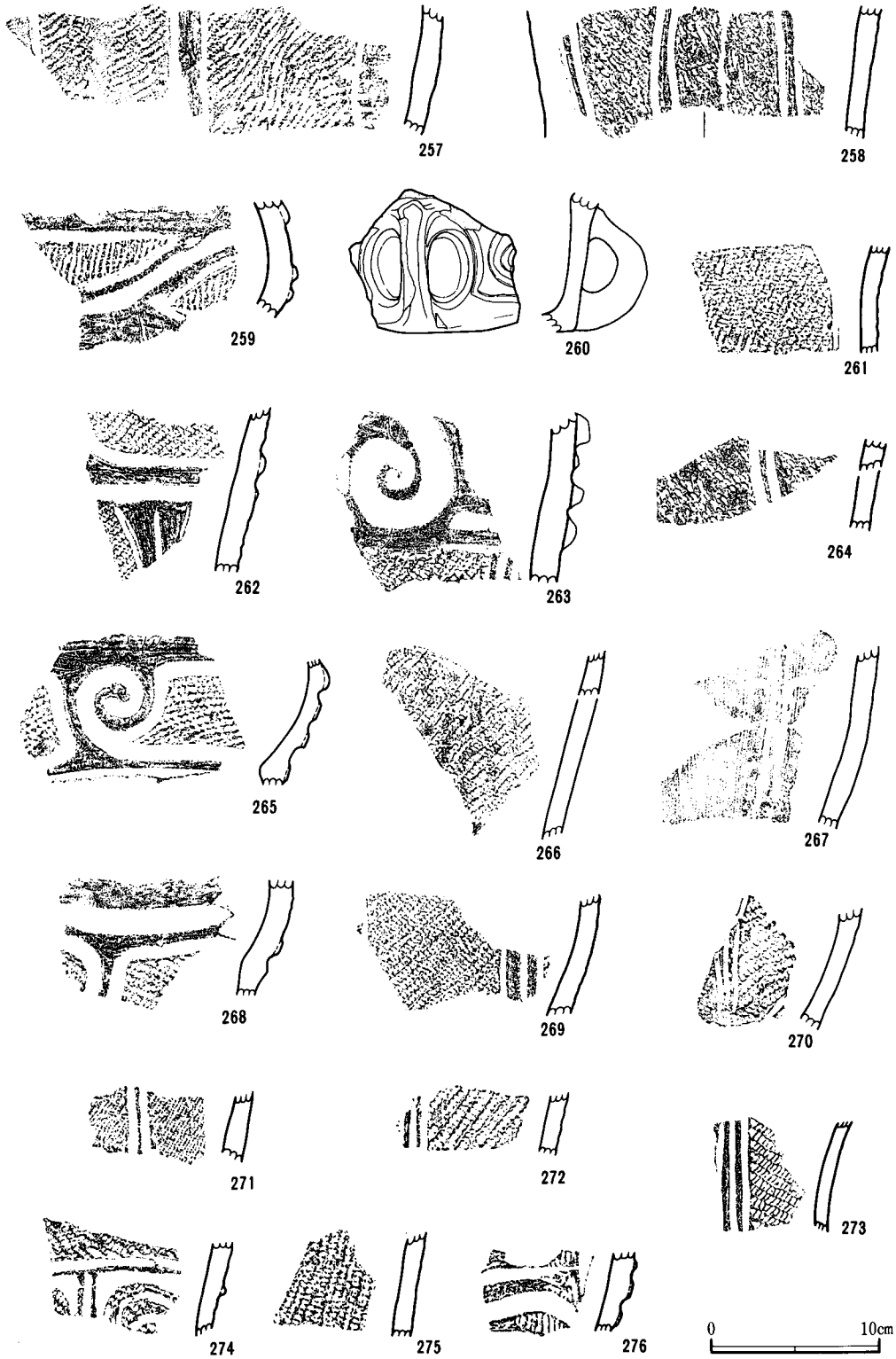
第41図 大野第3遺跡包含層出土土器(1)(1/4)



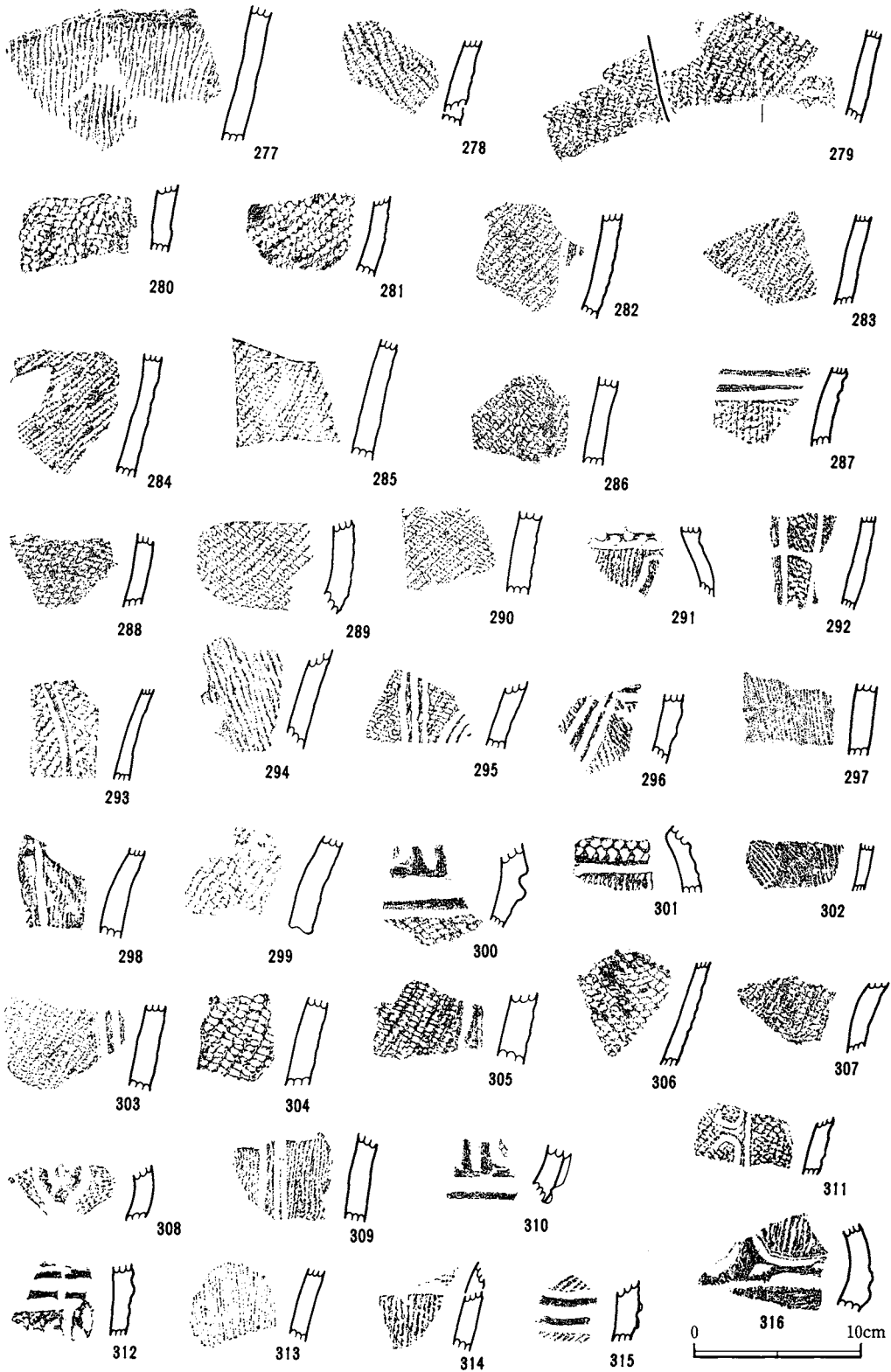
第42図 大野第3遺跡包含層出土土器(2)(1/4)



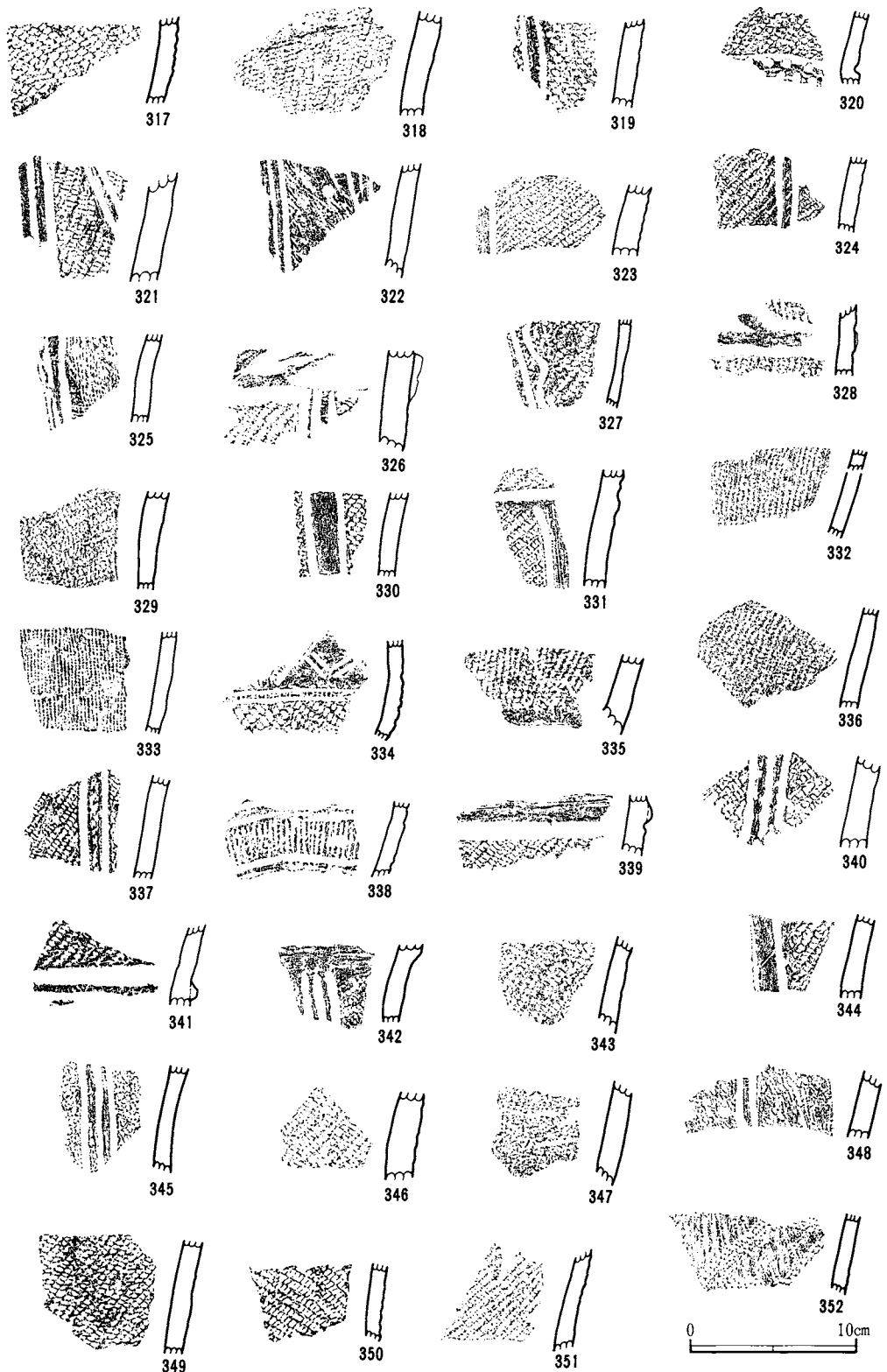
第43図 大野第3遺跡包含層出土土器(3)(1/4)



第44图 大野第3遺跡包含層出土土器(4)(1/4)



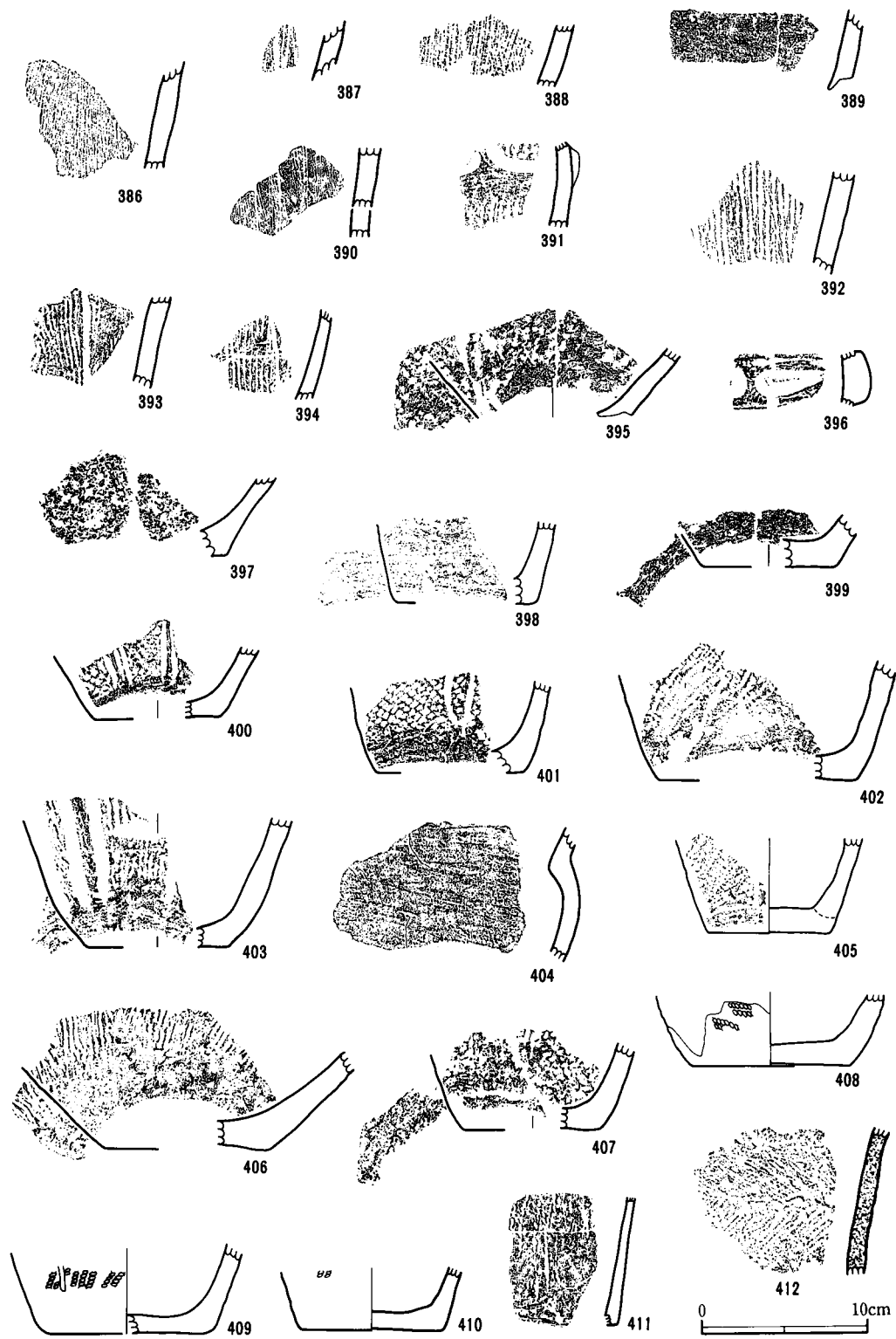
第45图 大野第3遺跡包含層出土土器(5)(1/4)



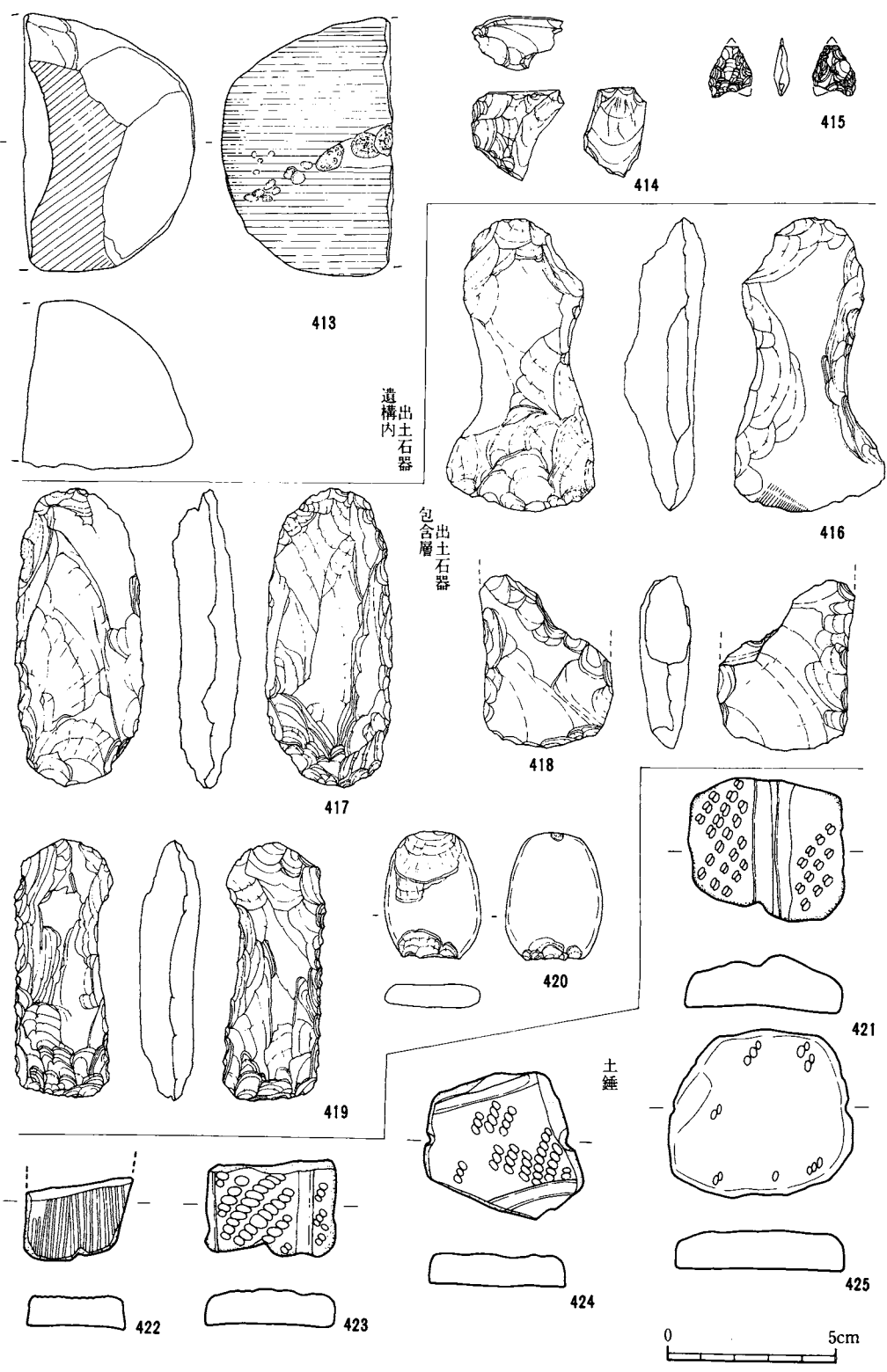
第46図 大野第3遺跡包含層出土土器(6)(1/4)



第47図 大野第3遺跡包含層出土土器(7)(1/4)



第48図 大野第3遺跡包含層出土土器(8)(1/4)



第49図 大野第3遺跡遺構及び包含層出土遺物(1/2)

沈線で区画したり文様を配したものが多い。206などにみられる連続の刺突文や226のような条線を配している土器片も若干ある。412は唯一前期の黒浜期の土器片で器面に単節の斜縄文を施している。また胎土に繊維を混入している。

(2) 石器 (第49図413～420)

石器は数量も少ないので遺構分も含めて以下で説明する。413～415は遺構出土の石器である。413は003号住居跡の炉内出土の磨石である。表裏とも磨かれている。裏側に打痕と思われるくぼみが見られる。炉に近い位置から出たにもかかわらず焼けた跡が見られないため住居廃絶時以降に流入したものと考えられる。414は004号住居跡の覆土から出土したチャート製の石核である。他に同じ石材の石器はみられない。415は016号土坑の覆土から出土した黒曜石製の石鏃である。先端部と片脚が欠損している。416は打製石斧である。大形の剥片礫を使用している。裏面には自然面を残している。刃部に一部使用痕と思われる磨き痕がみられる。形態は両側片を挟った分銅形の石斧である。417～419も打製石斧である。417は使用時に刃部が細かく潰れたのではないと思われる。418は上半分が欠損している。419は両面とも細かな剥離で仕上げている。420は平らな石を使用した楔形石器である。

(3) 土器片錘 (第49図421～425)

421～425は包含層中の土器片の中から見つかった土器片錘である。いずれも縄文時代中期の土器片を使用して作られている。425は周辺部を磨いて仕上げているが、他は挟りが観察されるにすぎない。

4. 奈良時代の遺構・遺物について

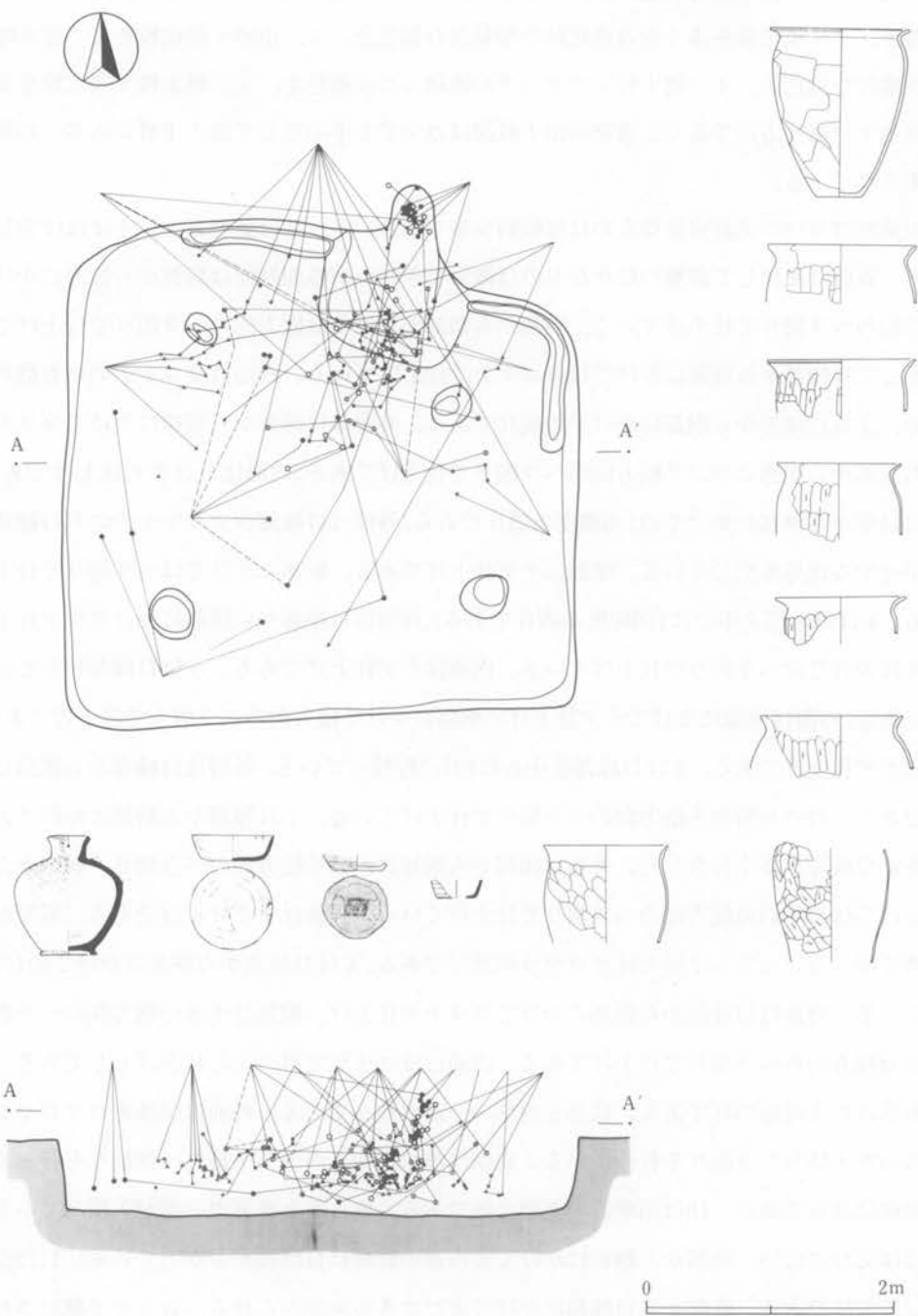
(1) 住居跡

001号住居跡 (遺構 第50～52図 遺物 第53・54図1～20)

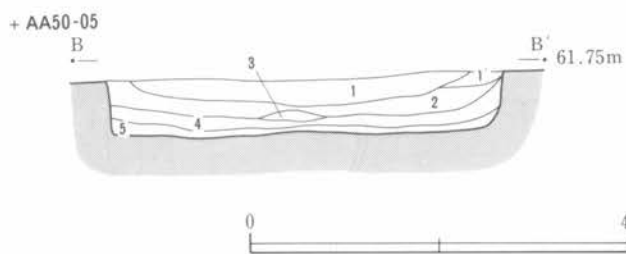
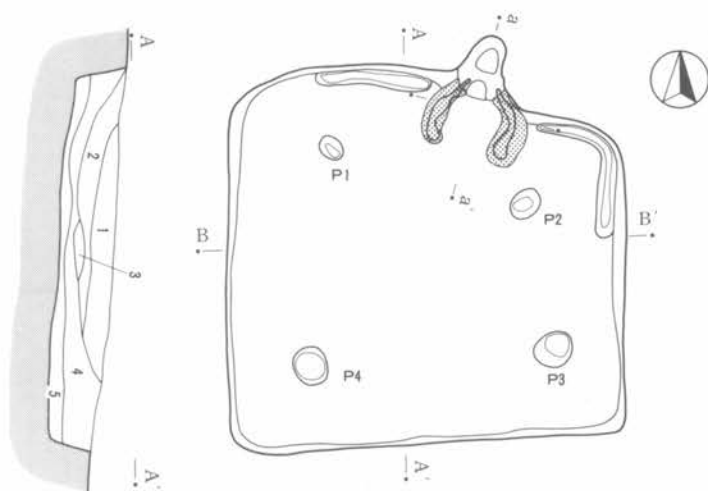
A A 20-05付近に位置する。平面形はやや東壁が短いが4 m×4 mの正方形に近いプランを呈している。検出面からの深さは約55cmでやや南側が傾斜して下がっている。床面はカマド周辺では硬質化が認められる部分もあるが全体にはやや軟質である。周溝もカマドを中心とした部分に一部検出されただけである。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む炭化粒を少し含む黒色土。2. ロームブロックを多く含む炭化粒・焼土粒を若干含む暗褐色土。3. 焼土粒・ブロック・炭化粒を多く含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを非常に多く含む砂を少し含む堆積がやや疎である明褐色土。5. ハードロームブロックを非常に多く含む堆積がやや密な黄褐色土である。柱穴はP 1～P 4の4本柱である。P 1は50cm、P 2は13cm、P 3は18cm、P 4は20cmである。カマドはやや東よりの北壁に位置する。主軸はやや北東向きである。カマドの袖部の残りは良好である。火床部はかなり熱を受けて変色している。袖部分はI. 山砂粘土層。II. ロームブロックに山砂が混った褐色土である。カマドの覆土は①山砂を多く含んだ褐色土。(住

居跡の覆土)。②焼土粒・焼土ブロックを多く含む褐色土（住居跡の覆土）。1. 袖と同じ材質で赤く焼けていない天井部崩落土。1'. 赤く焼けている天井崩落土。1". 硬く変質している天井崩落土。2. 焼土粒を多く含む炭化粒を少量含む褐色土。3. 山砂・炭化粒を多く含む焼土粒を少量含む黒色土。4. 焼土粒・ブロックが堆積した赤褐色土。5. 焼土粒・炭化粒を少量含む褐色土（掘り方）である。遺物の出土状況はカマドを中心として覆土下層から多くの破片が検出されている。

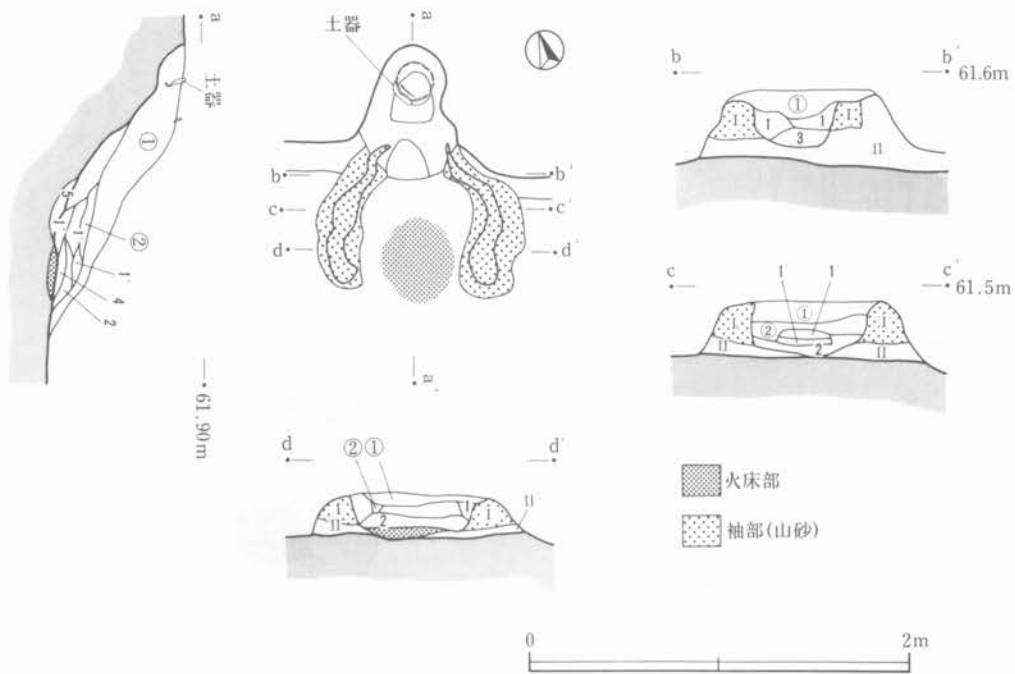
出土遺物は多いが実測可能なものは比較的少量である。1～8は甕である。1はほぼ完形品である。表面は風化して調整の細かなものは観察できないが器面外面は胴部から底部にかけては横方向のヘラ削りで仕上げている。胴部から頸部にかけては縦方向のヘラ削りで仕上げている。そして口縁部から頸部にかけてはヨコナデで仕上げている。内面はヨコナデのち磨かれている。2は口縁部から胴部にかけての破片である。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデのち頸部から胴部にかけて縦方向のヘラ削りで仕上げている。内面はヨコナデ仕上げである。3は口縁部から胴部にかけての1/5程度の破片である。外面は口縁部がヨコナデのち口縁部直下に平行する沈線を配している。頸部はナデ仕上げである。胴部にかけてはヘラ削りで仕上げている。4は口縁部を中心に1/9程度の破片である。外面は口縁部から頸部にかけてナデ仕上げで胴部にかけてはヘラ削りで仕上げている。内面はナデ仕上げである。5は口縁部を中心した破片である。外面は頸部にかけてナデ仕上げで胴部にかけて縦方向のヘラ削りで仕上げている。内面はナデ仕上げである。6は口縁部を中心に約1/3程残っている。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデのち胴部を縦方向のヘラ削りで仕上げている。7は頸部から胴部にかけての破片で細かな破片が多く接合した。外面は頸部から胴部にかけて縦方向のヘラ削り、胴部から底部にかけてはやや斜め縦方向のヘラ削りで仕上げている。内面はナデ仕上げである。器厚が非常に薄く硬くしまっていて胎土はザラザラの感じである。8は口縁部から胴部にかけて約1/3残存している。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ仕上げ、胴部は上半分横方向のヘラ削りで下半分縦方向のヘラ削りで仕上げている。内面はヨコナデで目つぶし仕上げもしてある。9は赤彩された土師器の坏である。底部と胴部の一部が残っている。外面は胴部をロクロでヨコナデのち手持ちヘラ削りを行っている。底部は静止糸切りのち手持ちヘラ削りを行っている。焼成は良好である。10は須恵器の壺形土器である。取っ手と底部の一部が欠損しているだけでほぼ完形に近い。頸部から胴部にかけてと内面の底部に自然袖がかかっている。11は完形の須恵器の坏である。底部から口縁部にかけて火だすきの跡がみられる。ロクロで整形されている。12は須恵器の小形坏の破片である。内外面ともにロクロを使用したヨコナデである。13は土師器の坏の底部破片で底部に木葉根が見られる。16・17・19は須恵器の坏の破片である。20は土師器の坏の破片である。15・18・20は須恵器の大甕の破片である。



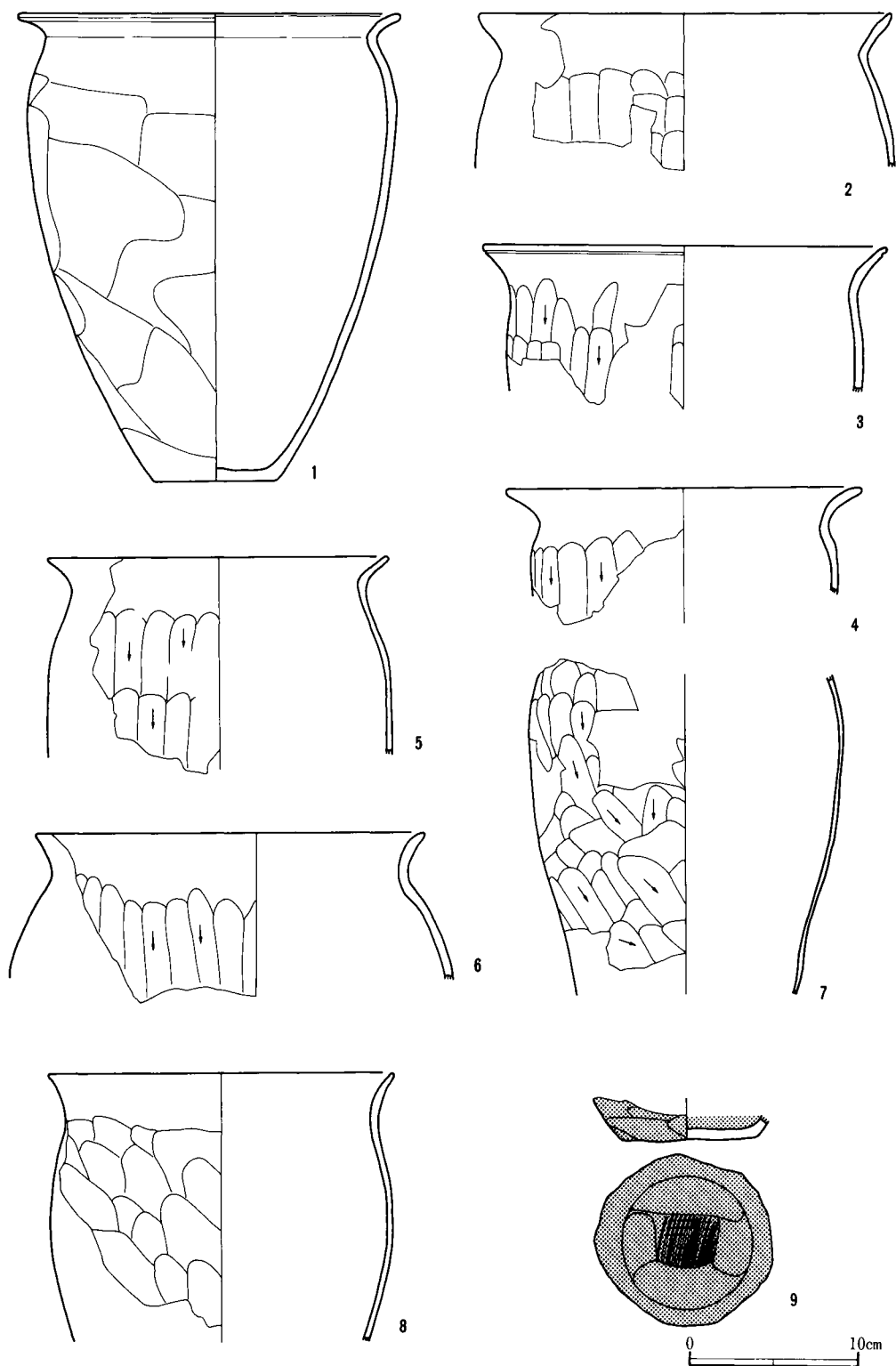
第50图 大野第3遺跡001号住居跡遺物出土状況(1/60)



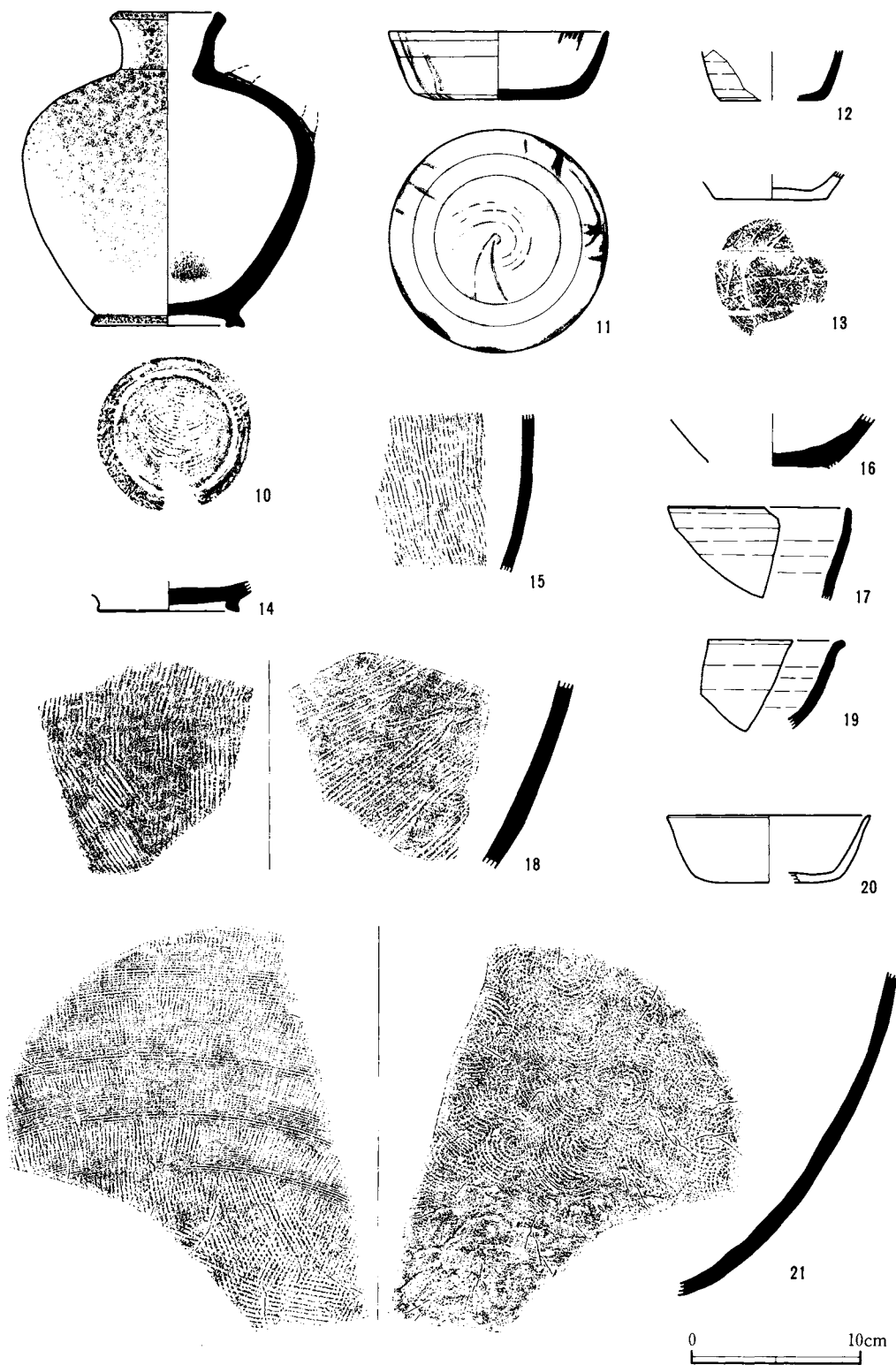
第51図 大野第3遺跡001号住居跡(1/80)



第52図 大野第3遺跡001号住居跡カマド(1/40)



第53图 大野第3遺跡001号住居跡出土土器(1)(1/4)



第54図 大野第3遺跡001号住居跡出土土器(2)(1/4)

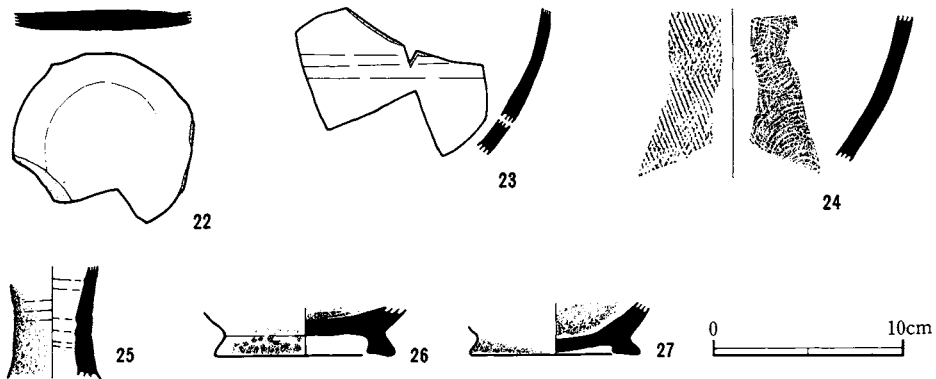
5. 奈良時代の包含層の遺物について

(1) 土器 (第55図21~25)

001号住居跡を検出した場所を中心に多少の遺物が出土した。いずれも細かな破片で実測可能なものは少なかった。22は須恵器の坏の底部破片である。23は須恵器の壺の胴部破片である。24は須恵器の大甕の破片である。25は須恵器の長頸壺の頸部破片である。26・27は須恵器の壺の底部破片である。25~27は001号住居跡出土の10の壺と同様に自然釉のかかっているものの破片である。

6. 小結

縄文時代中期の住居跡が4軒検出されているが、遺物を検討していくと同時期を形成しているとは考えられず、むしろ多数の陥穴状遺構の存在から狩猟場としての機能のほうが優勢である。住居跡もこれらの狩猟場にかかわった人間のキャンプサイト的な要素が強いと思われる。奈良時代の住居跡は1軒だけでほかに八世紀前半の遺物がわずかに出土しているだけなので全容については不明である。



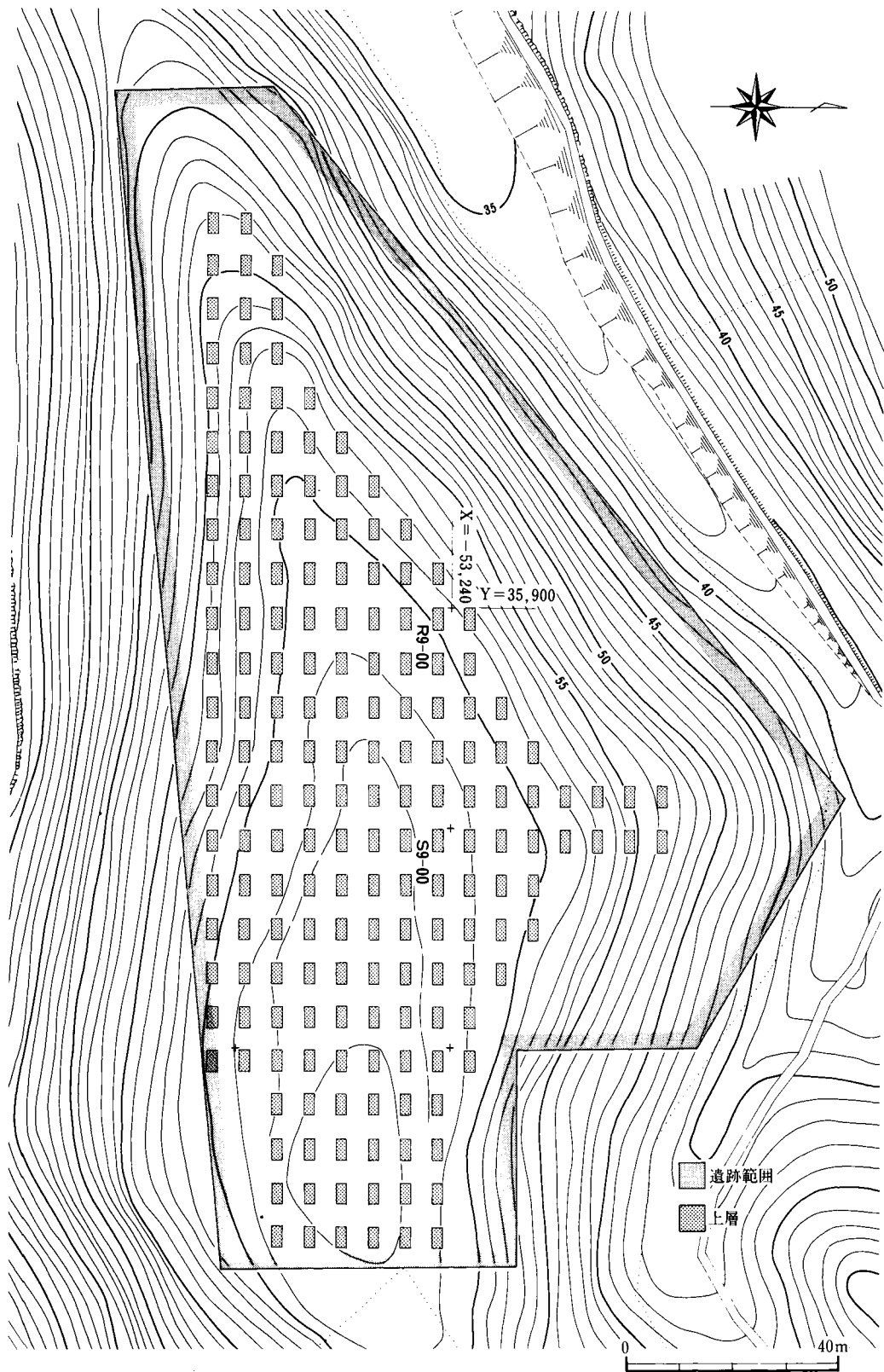
第55図 大野第3遺跡包含層出土土器(1/4)

第 3 章

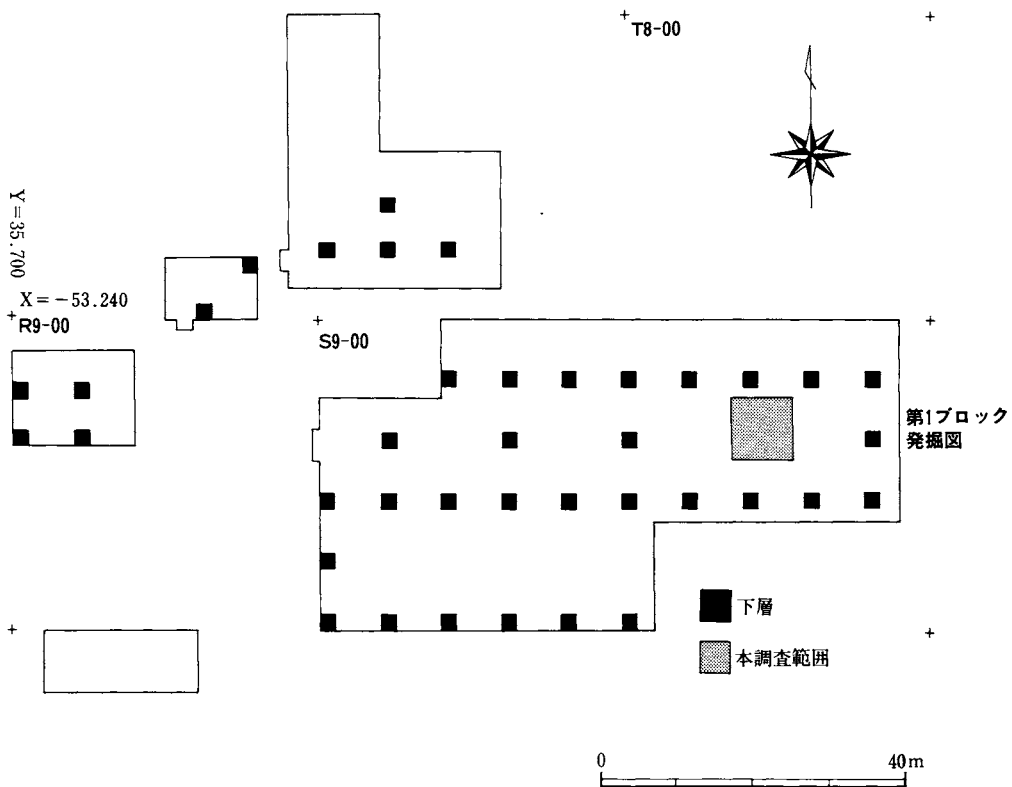
大 野 第 4 遺 跡

遺跡コード 201-067

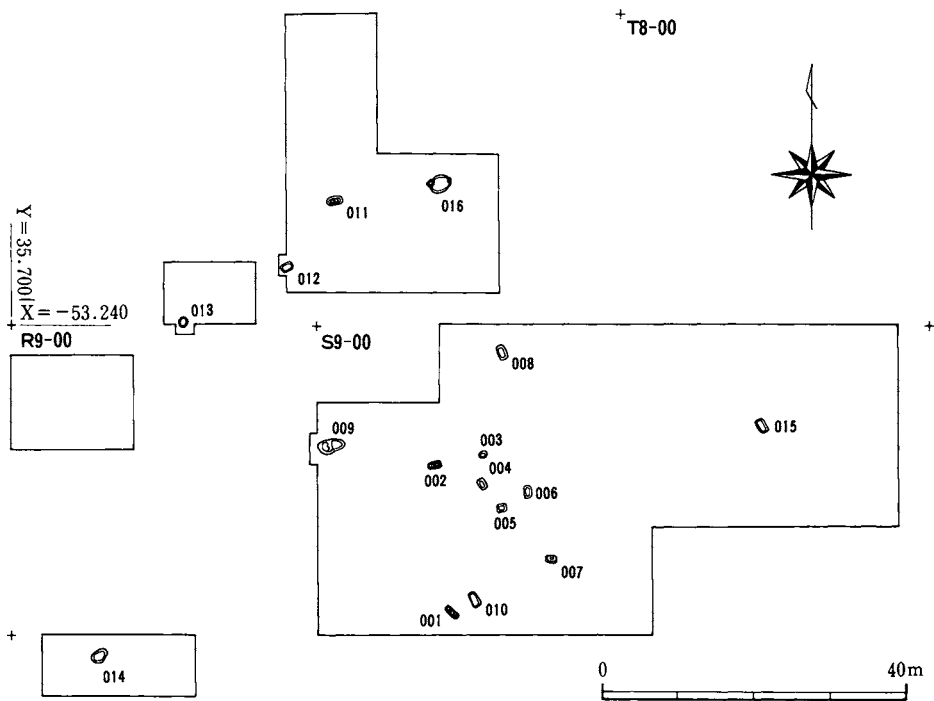
調査担当者 高橋博文



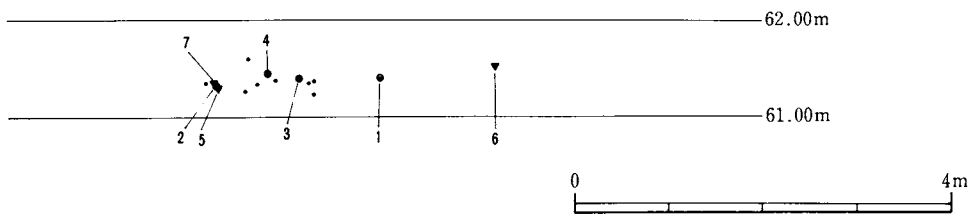
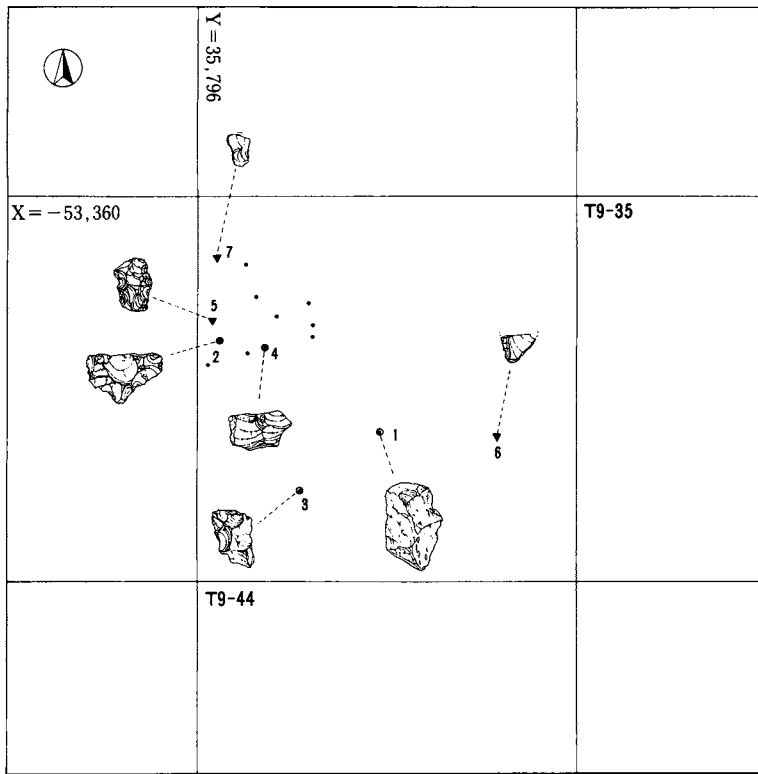
第56図 大野第4遺跡確認調査グリッド配置図(1/1,200)



第57図 大野第4遺跡下層確認調査グリッド配置図・本調査範囲図(1/1,000)



第58図 大野第4遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/1,000)



第59図 大野第4遺跡第1ブロック遺物出土状況(1/80)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分

当遺跡では土層が記録されていないが、大野第2遺跡と谷を隔てて接しているため、おおむね同じ土層と思われる。遺物はソフトローム中から出土したと記載されているが遺物の内容からIV層のソフト化した部分からの出土と考えられる。

2. 概要

大野第4遺跡では下層の確認調査をおこなった際に1箇所遺物が検出された。本調査の結果、15点の遺物の広がりがみられた。

3. 第1ブロック(第59・60図)

(1) 分布状況

T9-34グリットを中心として15点検出された。分布状況は北西から南東方向へ長さ4m幅1mで細長く北側にやや集中する形で広がっている。石材は黒曜石3種と頁岩で構成される。いずれもIV層上部に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は15点である。器種組成は台形石器3点、石核4点、碎片8点である。石材構成は黒曜石3種類(①は混合物の少ない物、②は混合物の多い物、③はその中間)と頁岩で構成されている。

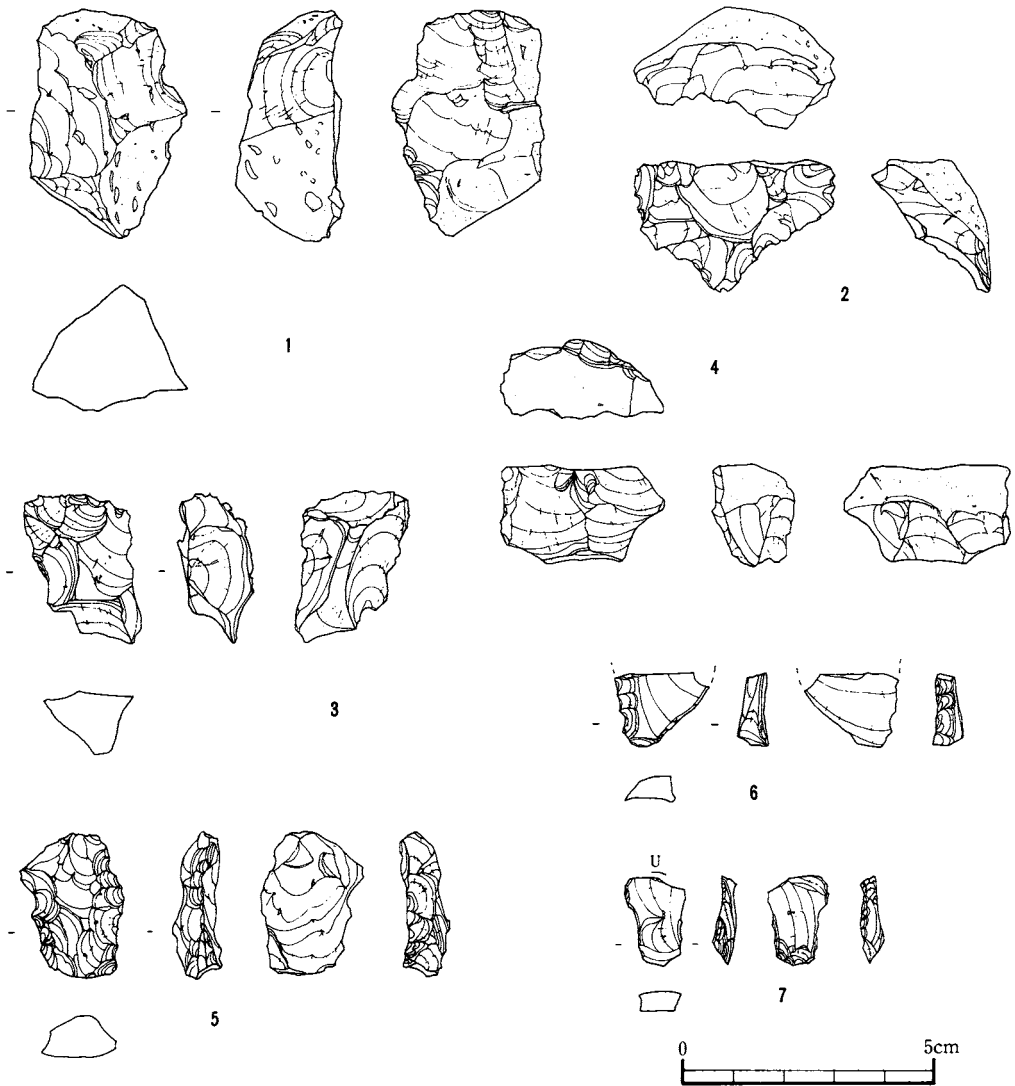
(3) 出土遺物

台形石器(第60図5～7)5は黒曜石②製のもので剥片の両側辺を主剥離面から背面に向かって剥離調整して加工している。あるいは剥片をそのまま使用しているので削器ではないかとも思われるが、ここでは台形石器の変種として扱った。6は黒曜石③製のもので刃部が欠損している。左側側辺部を主剥離面から背面に向かって剥離調整して加工している。7は黒曜石①製のもので折り取り後右側は背面から主剥離面へ、左側は主剥離面から背面へ細かな剥離調整が行われている。また基部にも調整がされている。先端の刃部には刃こぼれ状の小剥離がみられる。

石核(第60図1～4)1は黒曜石②製のもので剥離面を打面転移して比較的小さな剥片を剥離していると思われる。2は頁岩①製のもので1同様に剥離面を打面転移して小剥片を剥離している。背部に礫面を残している。3は黒曜石①製のもので石核のなかでは一番頻りに打面転移を繰り返して小剥片を剥離している。4は黒曜石①製のもので風化面が打面となって表は上から、裏は下から剥離されている。

4. 小結

大野第4遺跡では、点数的には1ブロック15点と少ないがブロックの内容は台形石器3点、石核4点、碎片8点と製品の比率が高いところが注目される。とりわけ接合しない碎片の存在や剥片(石器製品を除く)が皆無なのに石核が多い点などかなり特徴が際だっている。石核も剥離面から比較的小さな剥片を剥離していたと思われる。時期的には台形石器の存在からIV層上部に位置する時期のものとする。



第60図 大野第4遺跡第1ブロック出土石器(2/3)

第2節 縄文時代

1. 概要

大野第4遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が検出され4,200㎡の本調査が行われた。その結果縄文時代中期を中心とした時期の土坑16基が検出された。遺構内からの遺物の出土は皆無であった。包含層より若干の縄文時代の土器片が出土した。

2. 縄文時代の遺構・遺物について（第58図）

(1) 土坑

001号土坑（第61図）

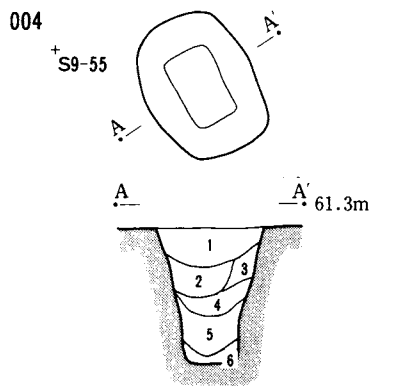
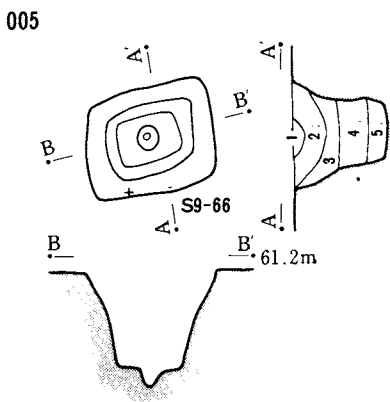
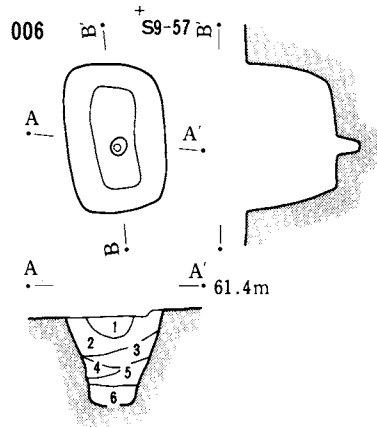
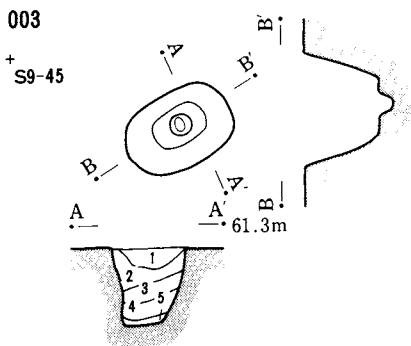
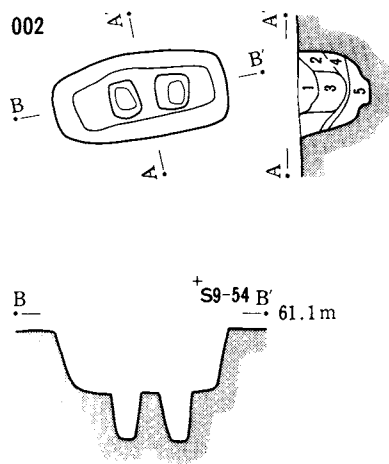
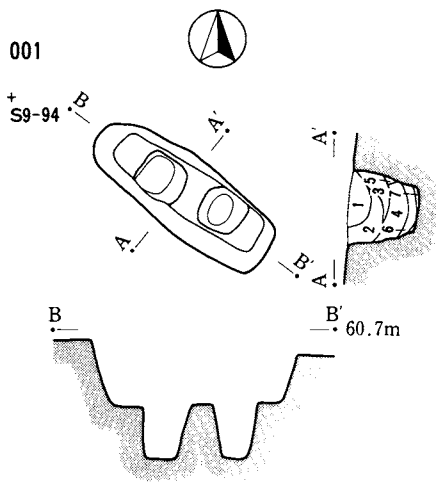
S9-94の東1m、南1mに位置する。長辺2.15m、短辺0.8mの長方形のプランを呈する。ピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で約0.7m、一番深いピット部分で約1.25mある。床面はフラットで壁際で急激に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ロームブロック（小）を若干含むローム粒を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックをやや多く含む褐色土。4. ロームブロック（大）を少し含む暗褐色土。5. ロームブロック層。6. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な黒色土。7. ロームブロックを少し含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。

002号土坑（第61図）

S9-54の北2mに位置する。長辺1.8m、短辺0.85mのほぼ長方形のプランを呈する。ピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で約0.6m、一番深いピット部分で約1.1mある。床面は比較的フラットで壁際でやや緩く立ち上がり壁は広がり気味に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロック（小）を若干含む黒褐色土。4. ローム粒（大）とロームブロックを多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し、ロームブロックを若干含む黒褐色土である。

003号土坑（第61図）

S9-45の東2mに位置する。長軸1.2m、短軸0.75mの長方形に近い楕円形のプランを呈する。中央部分にピットを1個持つ。検出面からの深さは床面で約0.8m、一番深いピット部分で約0.95mある。床面はフラットで壁際からやや開き気味に立ち上がる。やや小振りな陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含むソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒を少し、褐色土ブロックを少し含む黒色土。4. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含む堆積がやや疎でサクサクな暗褐色土である。



第61図 大野第4遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

004号土坑（第61図）

S9-55の東1mに位置する。長辺1.5m、短辺1.2mのやや丸みを帯びた長方形のプランを呈する。検出面からの深さは約1.4mある。床面はフラットで壁際から急激に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒をやや多く含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックを少し含みローム粒を若干含む暗褐色土。3. ソフトロームを非常に多く含む褐色土。5. ロームブロックを少し含み堆積がやや疎な黒褐色土。6. 堆積がやや疎でサクサクした暗褐色土である。

005号土坑（第61図）

S9-66に位置する。長辺1.4m、短辺1.1mのやや歪んだ形の長方形のプランを呈する。中央部分に1個ピットを持つ。検出面からの深さは約1m、一番深いピット部分で約1.2mある。床面はやや壁に向かってなだらかに傾斜して壁はやや外側に開き気味に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒（小）をやや多く含む黒色土。2. ローム粒を少し含み褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒をやや多く含み堆積がやや疎な黒褐色土。4. ソフトロームブロック（小）を若干含みローム粒を少し含む黒褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土である。

006号土坑（第61図）

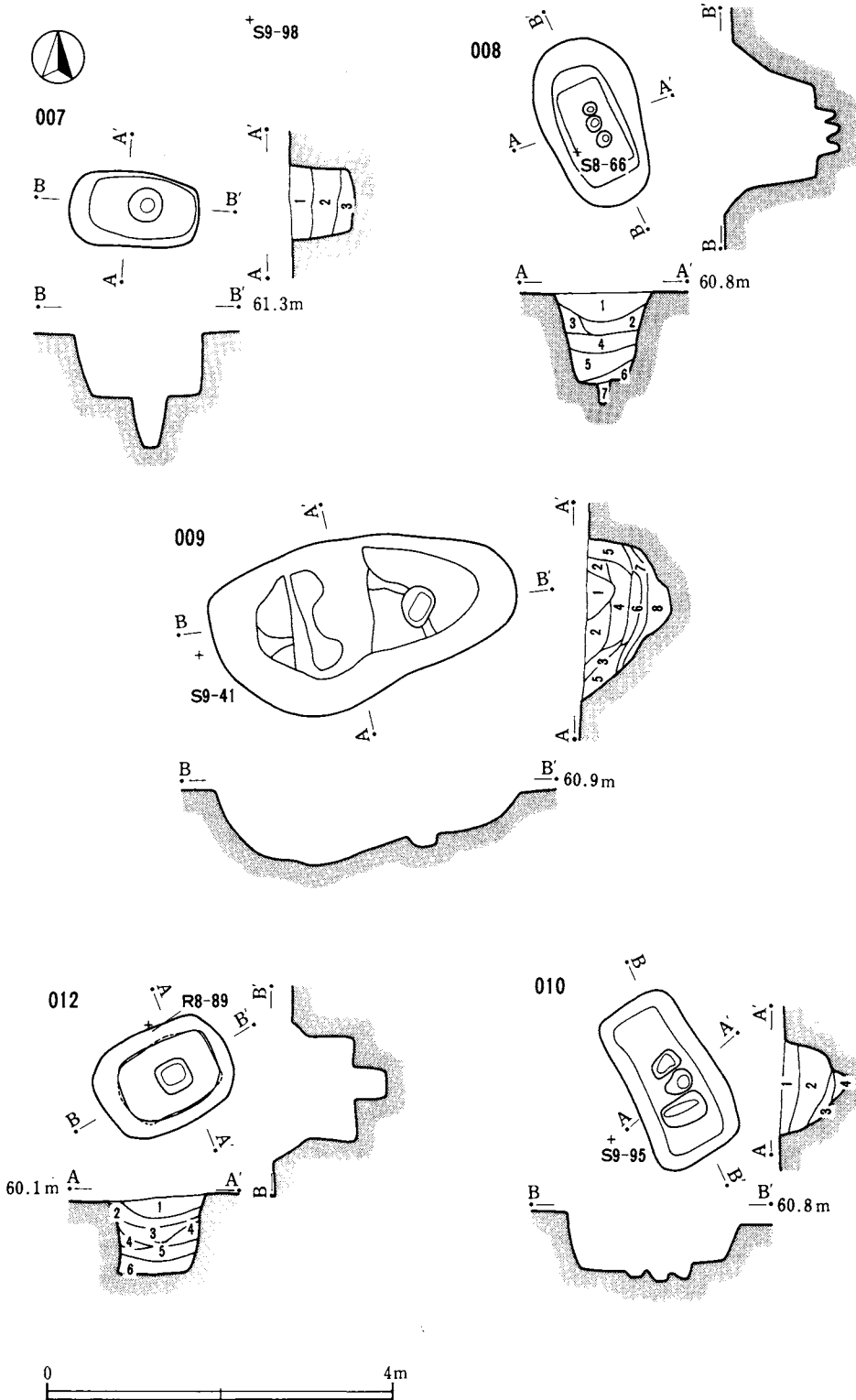
S9-57の南1mに位置する。長辺1.5m、短辺1mのやや歪んだ形の長方形のプランを呈する。やや南よりの部分に1個ピットを持つ。検出面からの深さは約1m、一番深いピット部分で約1.2mある。床面はほぼフラットで壁は床から開口部に向かってやや開き気味に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを若干含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む黒色土。4. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。5. 堆積が疎な暗褐色土。6. 堆積が疎でサクサクな黒褐色土である。

007号土坑（第62図）

S9-98の南1m、西1mに位置する。長辺1.5m、短辺0.9mのやや歪んだ形の長方形のプランを呈する。床面中央部分に1個ピットを持つ。検出面からの深さは約0.8m、一番深いピット部分で約1.3mある。床面はフラットで壁はやや開き気味の傾向はあるが急激に立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ロームブロックを少し含み褐色土ブロックを若干含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む褐色土である。

008号土坑（第62図）

S8-66に位置する。長軸2.0m、短軸1.0mの楕円形に近いプランを呈する。床面のプランは



第62図 大野第4遺跡縄文時代土坑(2) (1/80)

長方形のプランである。床面中央部分に長軸に沿って3個のピットを持つ。検出面からの深さは約1.1m、一番深いピット部分で約1.4mある。床面はフラットで壁はやや開き気味に立ち上がり途中から開口部に向かってさらに外側に開く。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒をやや多く含む暗茶褐色土。2. ソフトロームブロックを若干含む暗茶褐色土。3. ローム粒を少し含む褐色土。4. ロームブロックをやや多く含むローム粒を少し含む暗褐色土。5. ロームブロック（大）を多く含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含む堆積はやや疎でサクサクな黒褐色土である。

009号土坑（第62図）

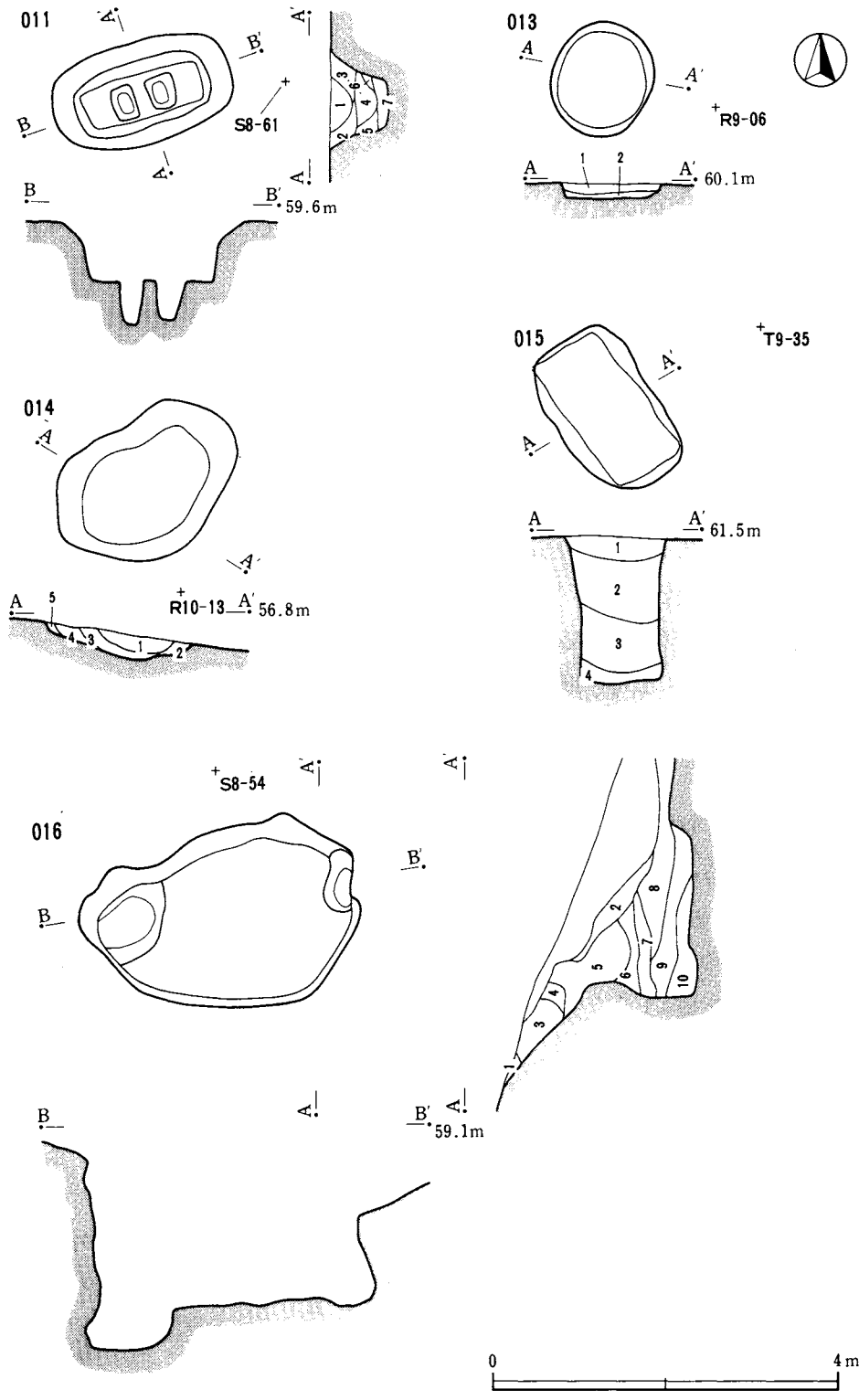
S9-41の西1mに位置する。長軸2.6m、短軸1.8mのやや不正な楕円形のプランを呈する。検出面からの深さは約1.0mである。床面は西側部分に近い所が深くその近辺は比較的急に立ち上がるが、東側に向かっては床が徐々に上がっている。壁の立ち上がり部分も緩やかな立ち上がりである。遺物等の検出もなくまた形態的にみても似たものがみられないため性格不明の土坑である。覆土の堆積状態は自然堆積を示している。覆土は1. ローム粒を若干含む褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ローム粒・ロームブロックを少し含む黒褐色土。4. ロームブロック・褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。5. ロームブロックを非常に多く含む明褐色土。6. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。7. ソフトロームブロック・ローム粒を非常に多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。8. ロームブロックを非常に多く含む堆積が疎な明褐色土である。

010号土坑（第62図）

S9-95から東1mに位置する。長辺2m、短辺0.9mの長方形のプランを呈する。床面の中程に長軸に沿って大きさがまちまちな3個のピットを持つ。検出面からの深さは約0.6m、一番深いピット部分で0.8mある。床面はやや南側のほうが深い全体にはフラットで壁は急激に立ち上がる。やや浅いが形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを若干含む褐色土。3. ロームブロックを多く含む明褐色土である。

011号土坑（第63図）

S8-61から西1mに位置する。長軸2.1m、短軸1.1mの楕円形に近い長方形のプランを呈する。床面中程に2個の四角いピットを持つ。検出面からの深さは約0.7m、一番深いピット部分で1.1mある。床面はフラットで壁は急に立ち上がるが、途中から開口部に向かって外側に広がる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ロームブロックを少し含む黒褐色土。3. ソフトロームをやや多く含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土。5. ロームブロックを少しローム粒を多く含む暗褐色土。6. ローム



第63図 大野第4遺跡縄文時代土坑(3) (1/80)

粒を含む暗褐色土。7. ローム粒を少しロームブロックを若干含む黒褐色土である。

012号土坑（第62図）

R8-89に位置する。長辺1.6m、短辺1.0mの長方形のプランを呈する。床面中央に方形のピットを1個持つ。検出面からの深さは約1.0m、一番深いピット部分の深さは約1.3mある。床面はフラットで壁は急に立ち上がるが、途中から開口部に向かって外側にやや広がりを見せる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックをやや多く含むローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を少し含む褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。5. ロームブロックを多く含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含む堆積はやや疎な黒褐色土である。

013号土坑（第63図）

R9-06に位置する。径約1.1mのプランを呈する。検出面からの深さは約0.2mである。床面は比較的フラットで壁はやや急に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロック・ローム粒を少し含む堆積はやや疎な暗褐色土。2. ローム粒を少量含む褐色土である。

014号土坑（第63図）

R10-13の北1mに位置する。長軸2.3m、短軸1.5mの歪んだ楕円形のプランを呈する。検出面からの深さは約0.25mある。床面はだらだらと立ち上がり壁の境もあまり明確ではない。遺物等もなく性格が不明の土坑である。覆土は1. ローム粒（大）を多く含む黒色土。2. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含むロームブロックを多く含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。5. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土である。

015号土坑（第63図）

T9-35の西2mに位置する。長辺1.9m、短辺1.2mの長方形のプランを呈する。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がり開口部で若干広がりを見せる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。覆土は1. ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土。2. ロームブロックを多く含む褐色土ブロックを少し含むやや堆積が疎な暗褐色土。3. ロームブロック（大）を多く含む暗褐色土。4. 粘性が強く堆積はやや疎な灰褐色土である。

016号土坑（第63図）

S8-54の南1mに位置する。長軸3.2m、短軸2.2mの椰子のみ形のプランを呈する。床面は南側ほど深く東側に向かって階段状に上がる。検出面からの深さは約2.2mある。断面観察等から粘土採掘坑ではないかと推測されている。覆土は1. ローム粒を多く焼土粒を若干含む黒褐色土。2. ローム粒を含む黒褐色土。3. ロームブロックを若干含む暗褐色土。4. ローム粒・ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。5. ロームブロックを非常に多く含む堆積はや

や疎な黄褐色土。6. ロームブロック（大）を多く含み堆積がやや疎でサクサクな暗黄褐色土。7. ロームブロック（大）を非常に多く含み堆積がやや疎な黄褐色土。8. 粘性が非常に強くロームブロックを少し含む黄褐色土。9. ソフトロームブロックを少し含み粘性があり堆積がやや疎な暗茶褐色土。10. 白色粘土粒を少し含み粘性が非常に強く堆積がやや疎な黄褐色土。11. ローム粒を少し含み堆積がやや密な黒褐色土。12. チョコレート色の粘土層の地山である。

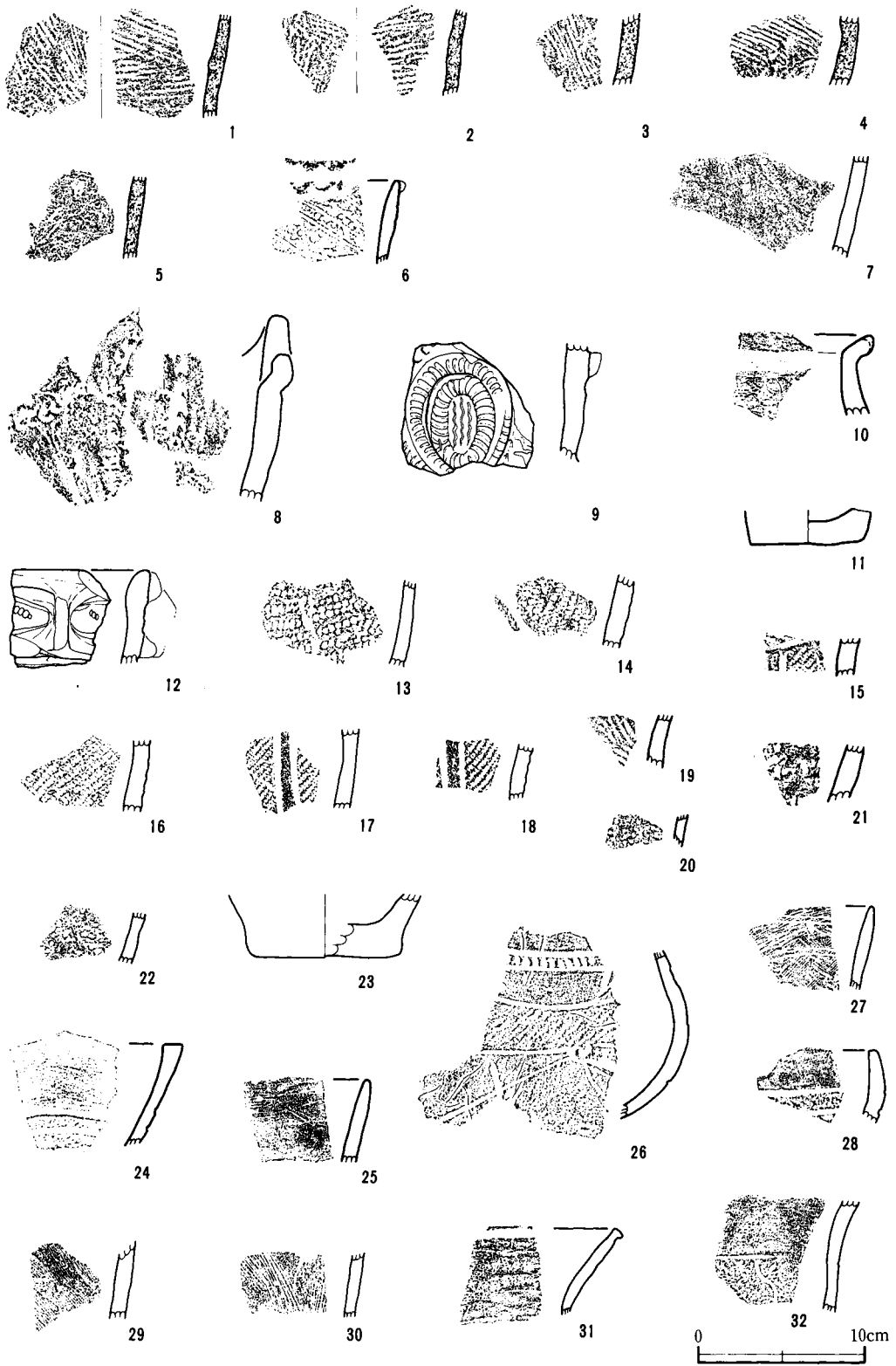
3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器（第64図・第65図）

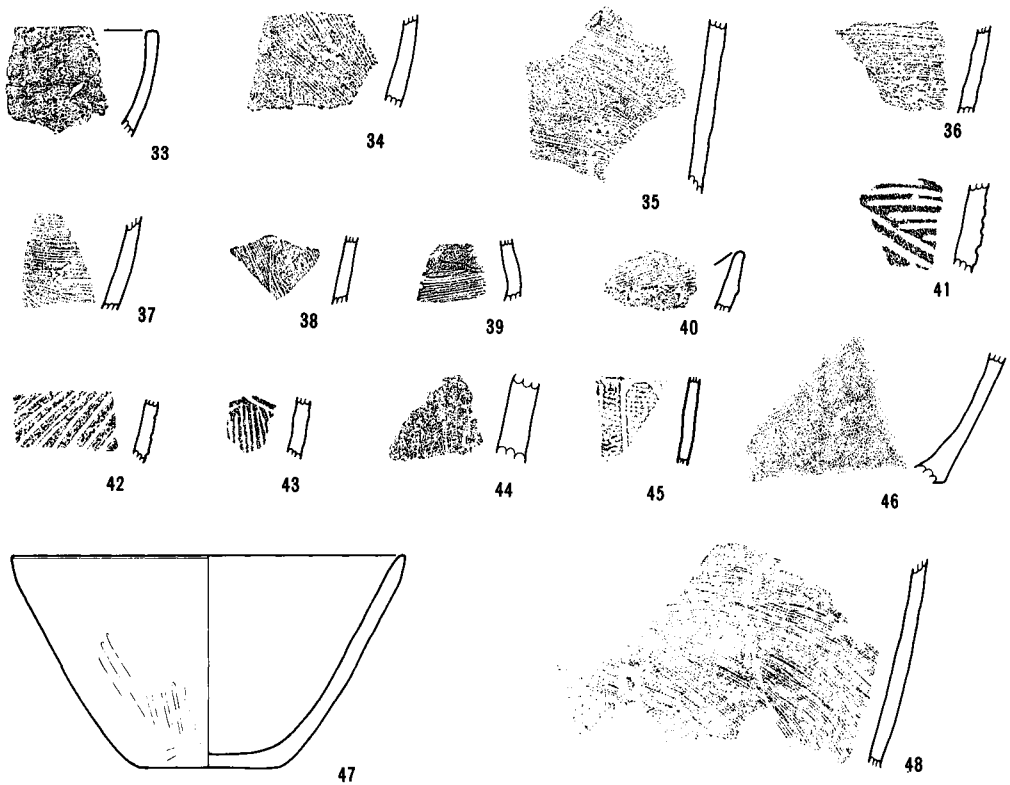
この遺跡では遺構に伴う遺物は全く検出されなかった。包含層から少量の土器片が検出されたのみであった。奈良時代の土師器片が数点みられたが、いずれも細かな破片で図示できるようなものはなかった。そのほとんどは縄文時代の土器片で早期～後期の時期のものである。1～5は早期後半の条痕文系の土器片である。いずれも胴部破片で胎土中に植物繊維を含み、内外面に条痕が認められる。6は前期後半の土器片である。口縁部は工具の刺突による波状の模様で区画されその直下から胴部にかけては斜めに沈線を引っ張り、間に刺突文を配している。7～10は中期の阿玉台式の土器片である。いずれも胎土に雲母片を含む。7は胴部破片で無文である。8は波状口縁で口唇部にも半裁竹管による連続刺突文が見られる。9は粘土を貼り付けた隆帯の破片で区画された隆帯とその内側に三日月状の連続刺突文を施し、さらにその内側に波状の沈線を配している。10は大きく外反する無文の口縁部破片である。11は底部破片で胎土に多量の雲母片を含む。12～23は中期後半の加曾利E式の土器片である。12は口縁部破片で縄文を地文に配しての粘土紐の張り付けによる隆帯の区画が見られる。13～22は胴部破片でいずれも縄文を地文に沈線文を配している。23は底部破片で内外面とも磨かれている。24～48は後期の土器片である。堀之内式～加曾利B式に至る時期のものが含まれている。26は加曾利B式の大形の胴部破片で磨消し縄文を地文に細かな沈線を直線的に配している。41・42は斜めの沈線を地文にした堀之内式の胴部破片である。内外面とも磨かれている破片が多い。

4. 小結

この遺跡では遺構は陥穴状遺構が主体となり、遺跡の性格も狩猟場以外には考えられない状況である。時期的には縄文時代早期～後期かけての土器片が存在することからこれらの時期に利用された可能性が強い。



第64図 大野第4遺跡包含層出土土器(1)(1/4)



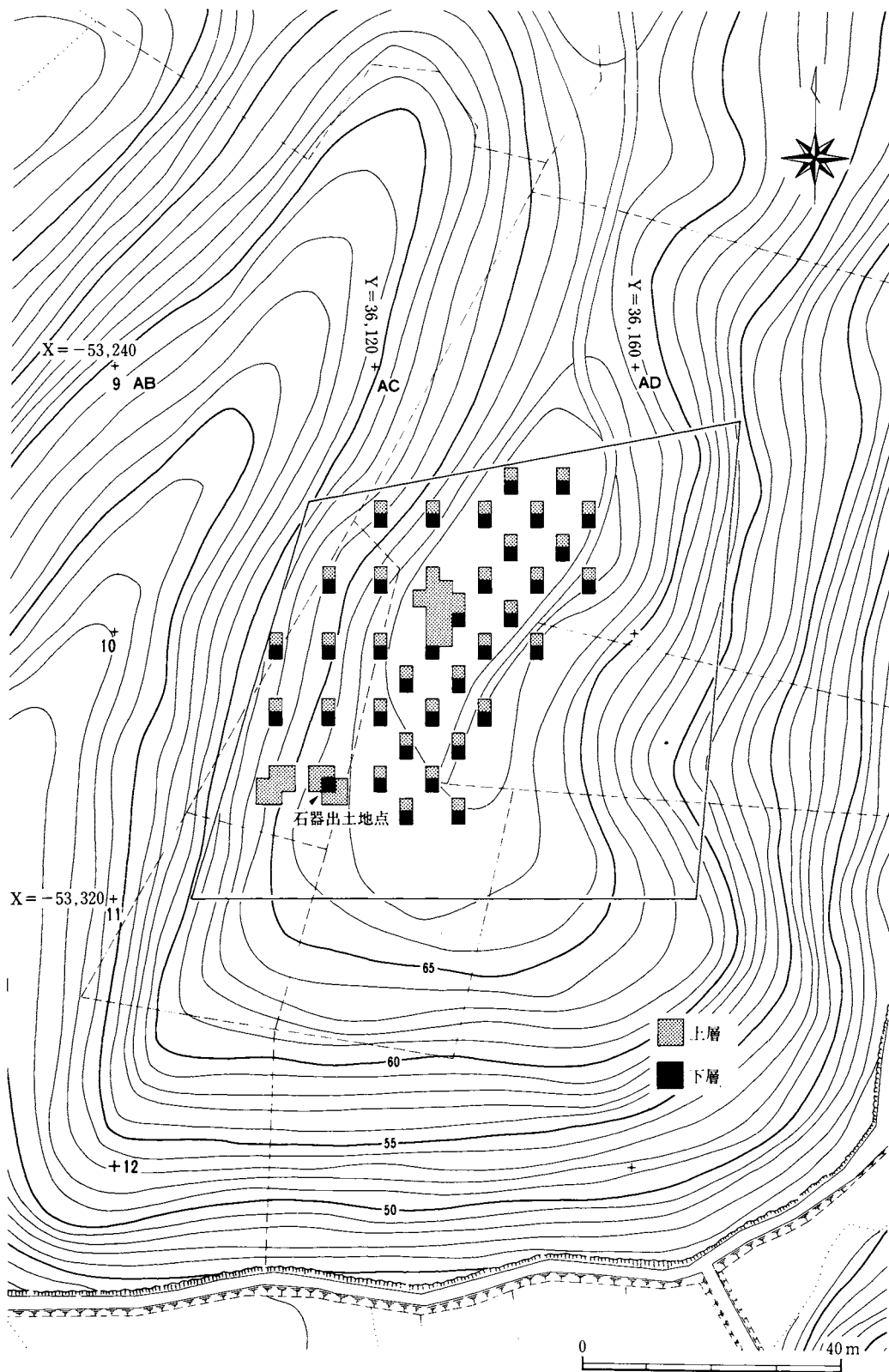
第65図 大野第4遺跡包含層出土土器(2)(1/4)

第 4 章

大 野 第 5 遺 跡

遺跡コード 201-068

調査担当者 横山 仁



第66図 大野第5遺跡確認調査グリッド配置図(1/1000)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分（第67図）

I層 黒色土 ……一部は腐植化している。いわゆる表土層である。

II層 暗褐色土……ローム粒を少し含む。遺物包含層である。II b層は区分け不可能である。

III層 黄褐色土……ソフトローム層、下部で若干のハードロームブロックを含む。

IV～VI層以下は記録されていないため不明であるが、おそらく大野第2遺跡等と同様に下層にいたると思われる。

2. 概要（第66図）

大野第5遺跡では上層の確認調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。その際に1箇所遺物が検出された。拡張して調査したが、遺物は1点のみで広がりは認められなかった。

3. 遺物出土地点（第67図）

(1) 分布状況

A B10-58グリットから1点検出された。検出された際に周りを拡張して調査したが、他の遺物は検出できなかった。水平分布はII層中から検出されているが、III層の遺物である。石材はやや灰色がかった安山岩である。台地の南西斜面に向かう箇所検出されている。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は1点である。器種組成は削器1点である。石材構成は安山岩のみである。

(3) 出土遺物

削器（第68図1）比較的粒の細かい安山岩製の縦長剥片を使用している。調整は左側刃から先端部にかけておこなわれており細かな剥離を巡らしている。

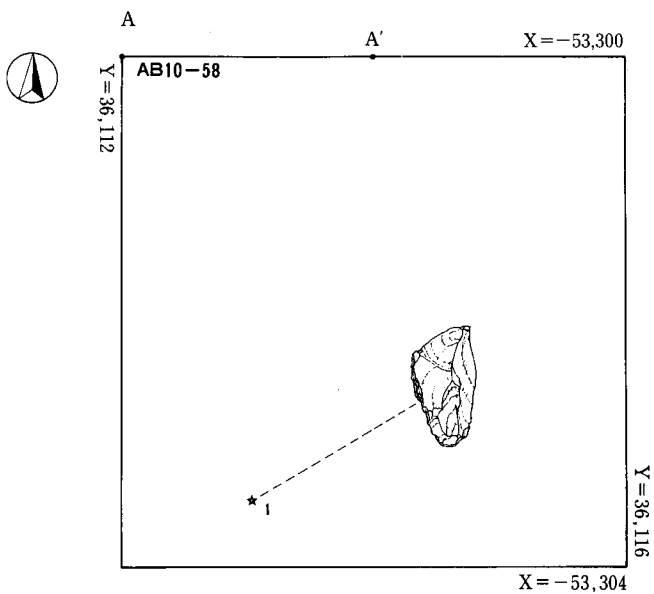
4. 小結

大野第5遺跡では、確認調査および拡張して調査したにもかかわらず、出土した遺物が1点のみの単独出土である。石器が単独出土ででてくる例は珍しくはなくこういった場合遺物が何らかの理由でこの場に遺棄されたと考えられる。

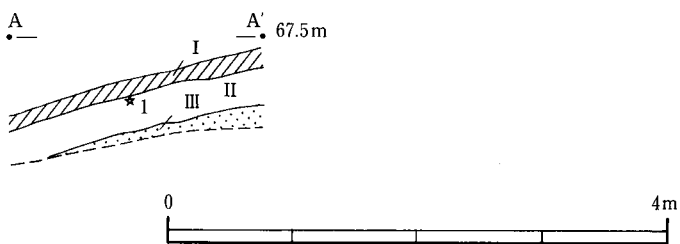
第2節 縄文時代

1. 概要

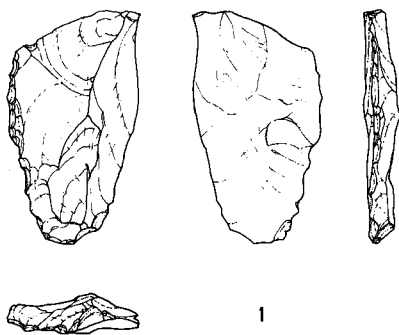
大野第5遺跡では上層の確認調査をおこなった際に数箇所遺構状の落ち込みが検出され、それを拡張して確認を実施したが、風倒木痕等であり人為的な遺構はまったく検出できなかった。



★ 削器



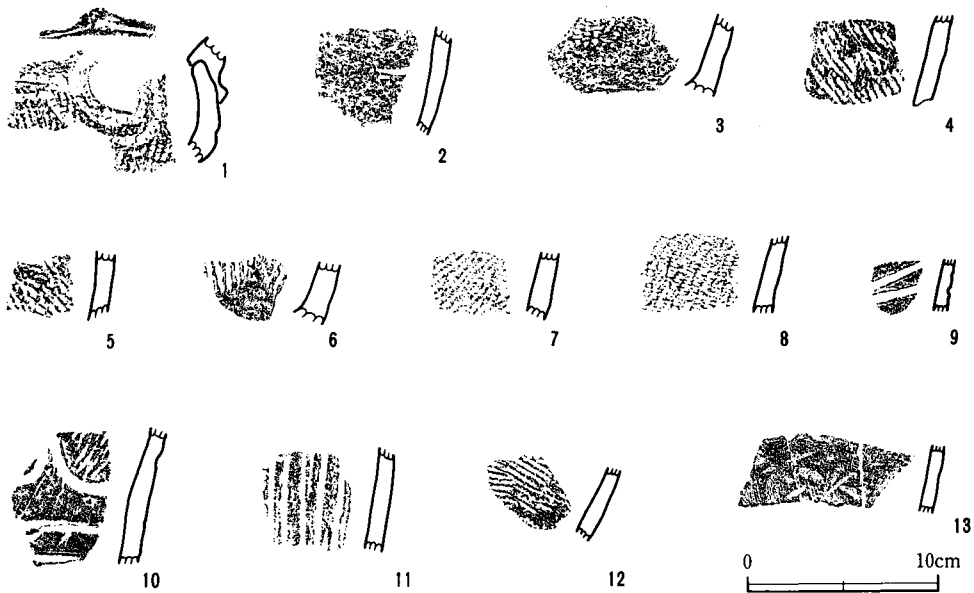
第67図 大野第5遺跡遺物出土地点(1/60)



遺物情報
 旧グリッド 第1ブロック
 新グリッド AB10-58
 遺物番号 0003
 器種 削器
 層位 III層上部
 長×幅×厚(cm) 4.5×2.5×0.7
 重(g) 8.2



第68図 大野第5遺跡出土遺物(2/3)



第69図 大野第5遺跡確認調査グリット出土遺物(1/4)

た。遺物はI～II層中から若干の土器片等が検出されたのみであった。

2. 縄文時代等の包含層の遺物について

(1) 土器 (第69図1～12)

確認調査時に縄文時代中期～後期の土器片を中心に少量検出されている。1は中期の阿玉台式土器の深鉢の口縁部の破片である。地文に縄文を施したのち把手に沿って角押文を施している。2～8は加曾利E式の土器の破片である。いずれも単節縄文を地文にしている。9～12は堀之内～加曾利B式に至る後期の土器片である。磨消し縄文を地文に沈線を配したものや沈線を地文としたものが見られる。いずれも小破片のみである。

3. 奈良時代の遺物について

(1) 土師器 (第69図13)

13は奈良時代前半の土師器である。甕の胴部破片であろう。縦方向のヘラ削りの痕跡が窺われる。他は細かな破片が数点のみである。

4. 小結

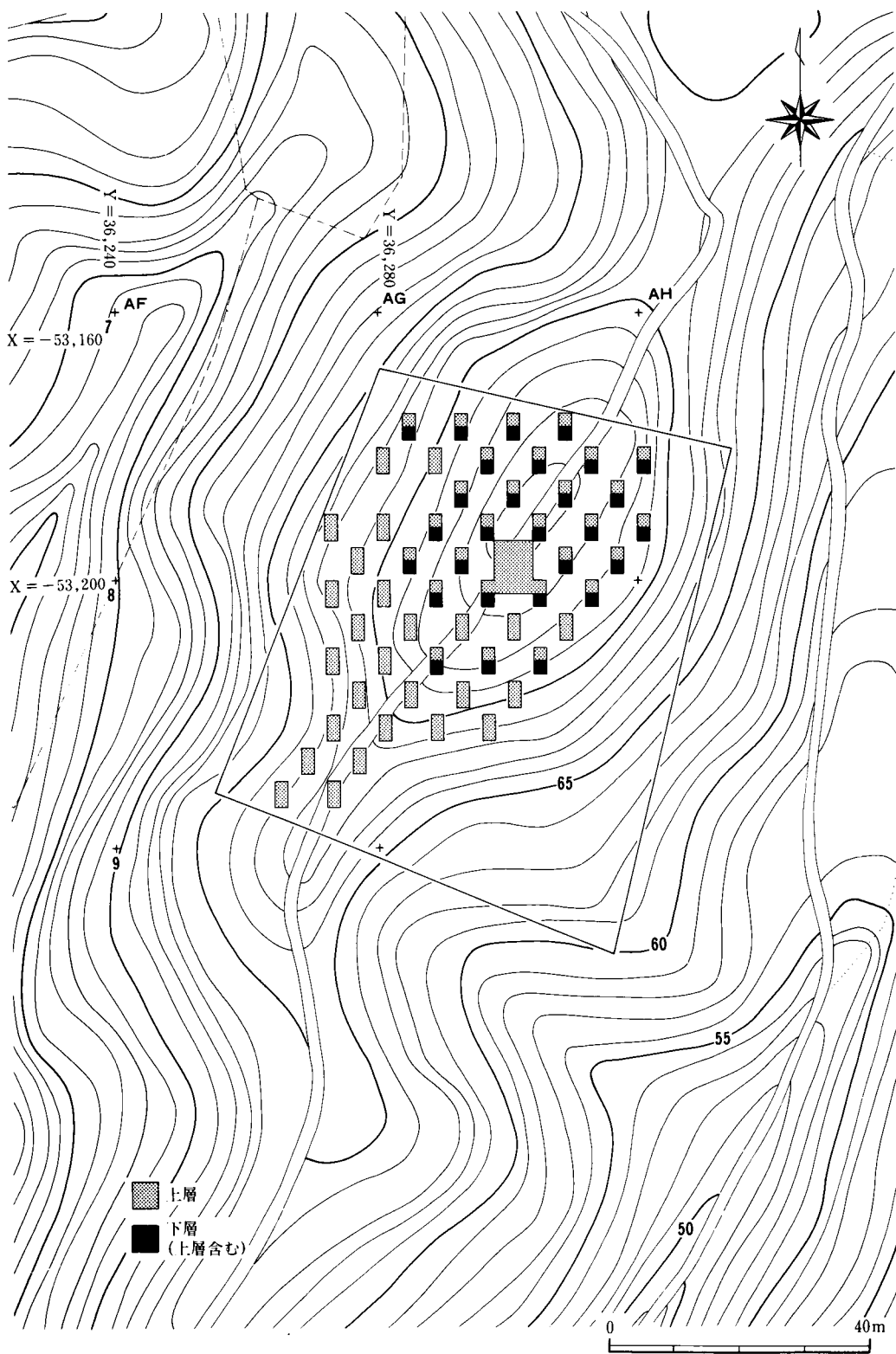
確認調査のみでしかも遺物の点数も少量であり小規模な活動の場としか捉えようがない。

第 5 章

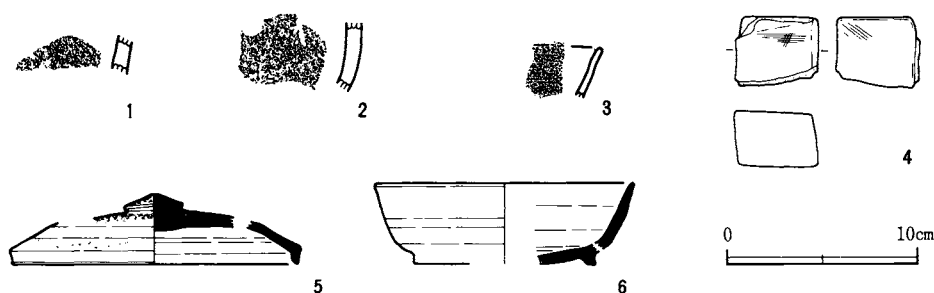
大 野 第 6 遺 跡

遺跡コード 201-069

調査担当者 森本和男



第70図 大野第6遺跡確認調査グリッド配置図(1/1,000)



第71図 大野第6遺跡確認調査グリット出土遺物(1/4)

第1節 縄文時代・奈良時代

1. 概要 (第70図)

大野第6遺跡では上層の確認調査の結果、遺構はまったく検出されず、遺物はI～II層中から若干の土器片等が検出されたのみであった。

2. 縄文時代等の包含層の遺物について

(1) 土器 (第71図1・2)

確認調査時に縄文時代中期阿玉台式の土器片が少量検出されている。1・2ともに胎土に多量の雲母片を含む。地文はみられない。

3. 奈良時代の遺物について

(1) 土師器 (第71図3)

3は奈良時代中葉の土師器である。坏の口縁部破片であろう。横方向のナデで仕上げてある。

(2) 須恵器 (第71図5・6)

奈良時代中葉の須恵器である。蓋の紐部分と口縁部の破片である。紐の部分には自然釉がみられる。6は坏の底部と口縁部の破片である。内外面ともロクロ使用によるナデ仕上げが施されている。

(3) その他 (第71図4)

砥石である。須恵器の破片が出土した近くから出土しているのでこの時代の遺物と判断して良いと思われる。凝灰岩製で比較的良く使用されている。

4. 小結

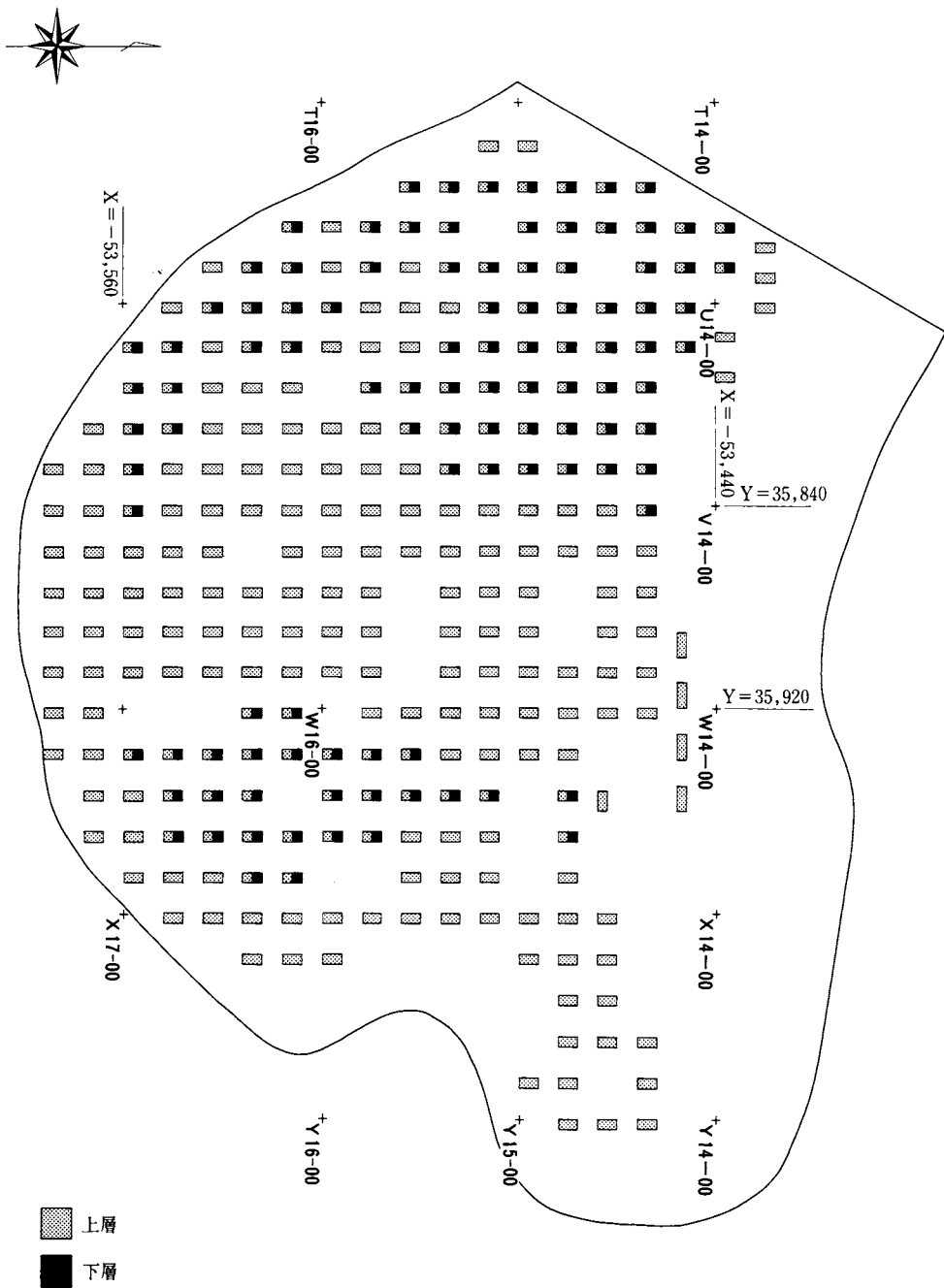
確認調査のみでしかも遺物の点数も少量であり小規模な活動の場としか捉えようがない。

第 6 章

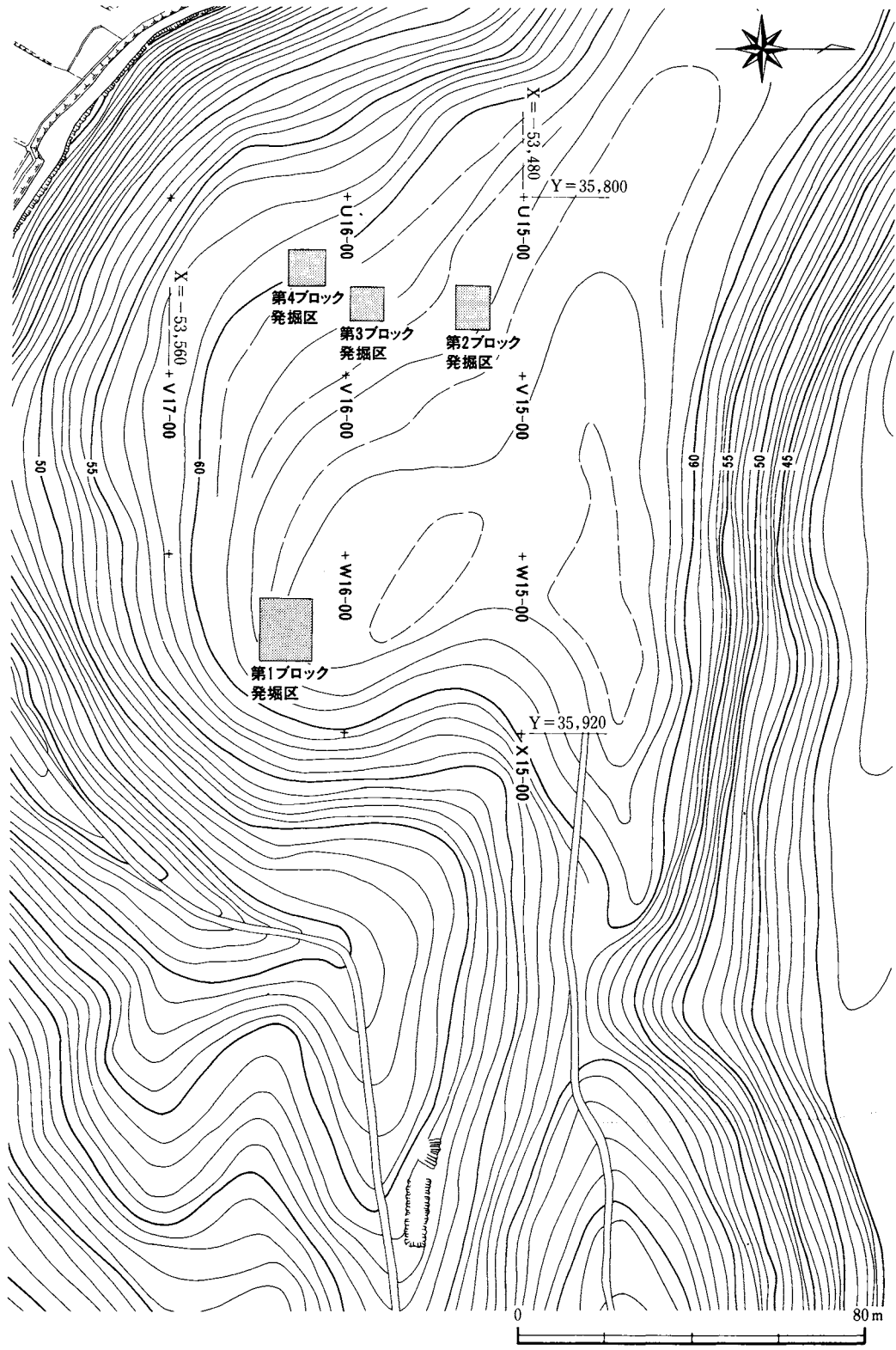
大 野 第 7 遺 跡

遺跡コード 201-070

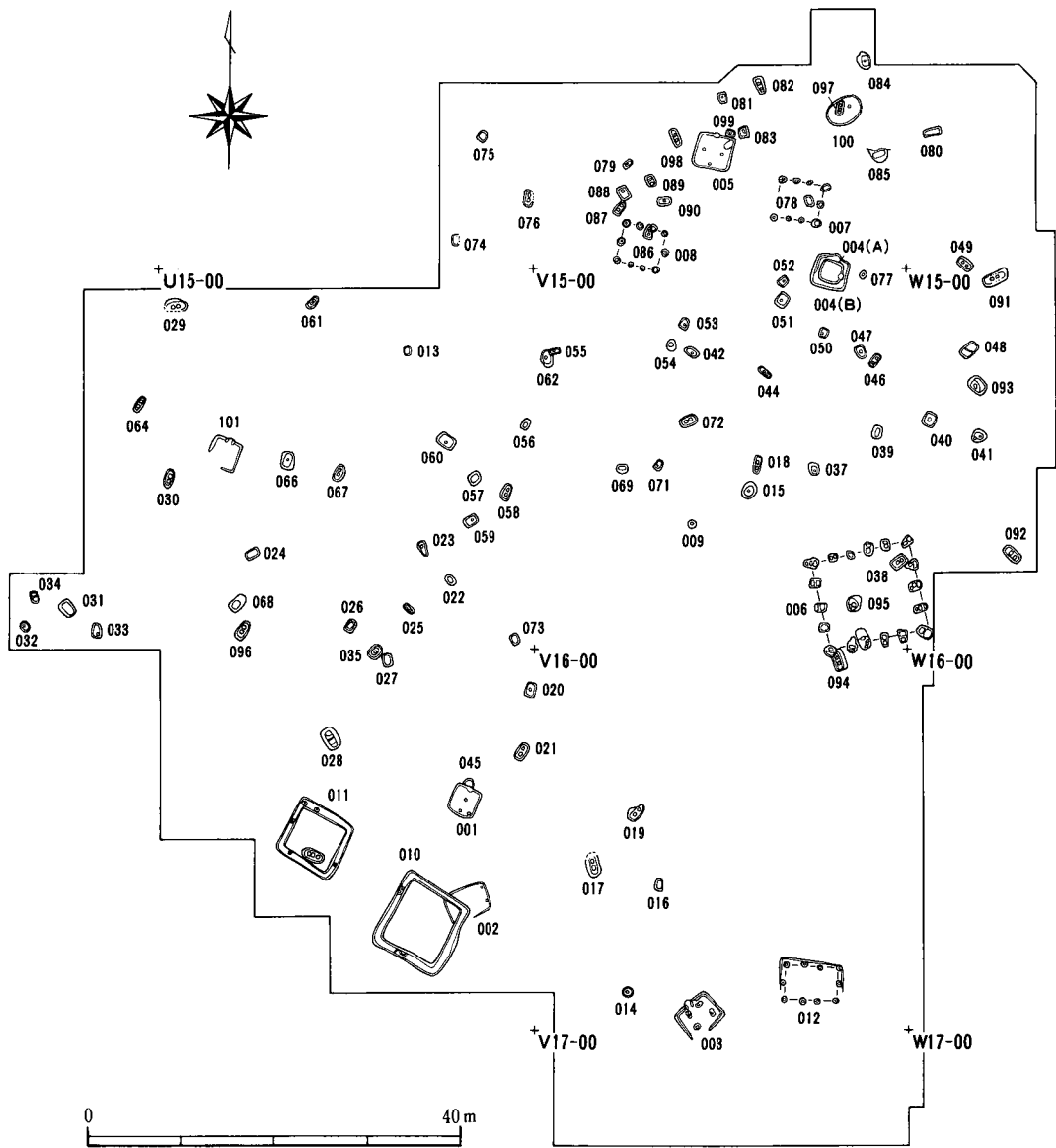
調査担当者 高橋博文



第72図 大野第7遺跡確認調査グリッド配置図(1/1,500)



第73図 大野第7遺跡下層本調査範囲(1/1,500)



第74図 大野第7遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/800)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分 (第75図)

- I層 黒色土 ……一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II b層 黄褐色土 ……新期テフラの堆積層である。
- II c層 暗褐色土 ……当遺跡の縄文時代早期から前期にかけての遺物の包含層である。
- III層 黄褐色土 ……ソフトローム層、下部で若干のハードロームブロックを含みややクラック化した状態が観察されるが、一部IV層を含むためと思われる。
- IV～VI層 黄褐色土 ……第1黒色帯および始良テフラが含まれるが、第1黒色帯は明確に分離しえない。始良テフラ層はブロック状に連続して観察できる。
- VII層 暗褐色土 ……第2黒色帯に相当するが上下に分離は不可能であった。

2. 概要 (第72～73図)

大野第7遺跡では上層の確認調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。その際に4箇所遺物を検出した。本調査を実施しその結果III層相当のブロックは3箇所(礫群含む)、VII層相当のブロックは1箇所検出された。

3. 第1ブロック (第75～77図)

(1) 分布状況

W16-34グリットを中心に22点検出された。分布状況は3～4mの範囲にまとまって分布している。特に南西側に強く集中する傾向が窺われる。石材は6種類の珪質頁岩、2種類のチャート、黒曜石で構成される。若干の遺物がIV～VI層から検出されてはいるもののおおむねVII層上部に相当する時期のものと思われる。

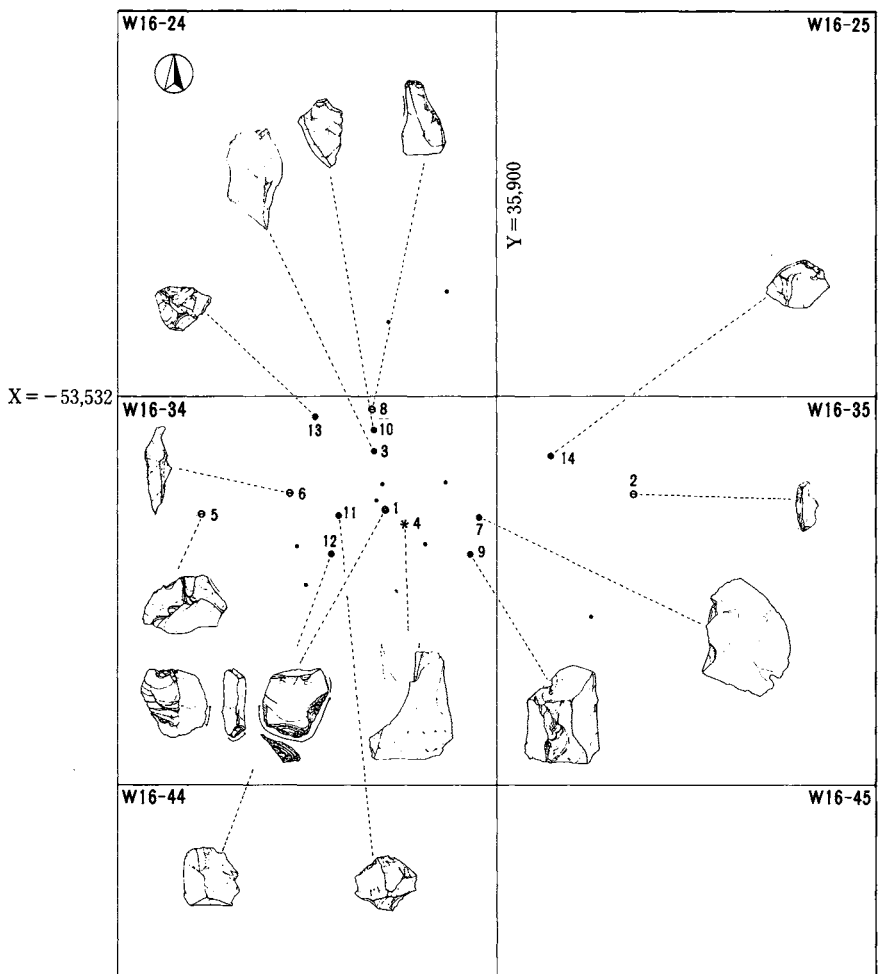
(2) 石器組成

検出された石器の総数は22点である。器種組成は搔器1点、彫器1点、U・フレイク4点、剥片8点、碎片8点である。石材構成は①混合物の少い物、②多い物、③その中間の物)珪質頁岩①4点、珪質頁岩②2点、珪質頁岩③2点、珪質頁岩④2点、珪質頁岩⑤1点、珪質頁岩⑥1点、チャート①7点、チャート②1点、黒曜石①2点である。尚、珪質頁岩①と珪質頁岩②は非常に近い石材である。②のほうがやや珪質化が進んでいる程度の違いである。

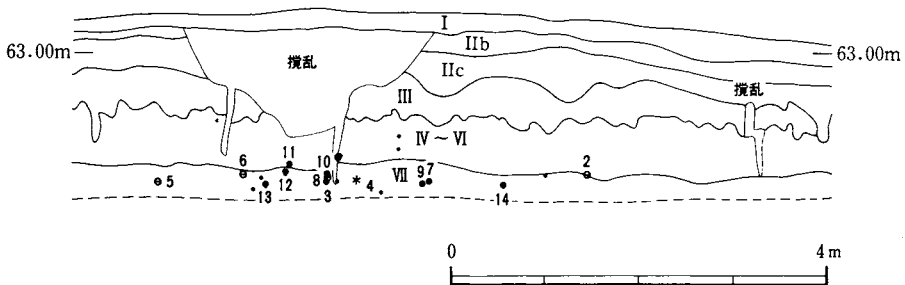
(3) 出土遺物

搔器 (第76図1) 珪質頁岩③製で背部に一部風化面を持つ剥片を使用している。調整は左側辺から右側辺にかけて比較的大きめの剥離で背部から主剥離面方向に施されている。

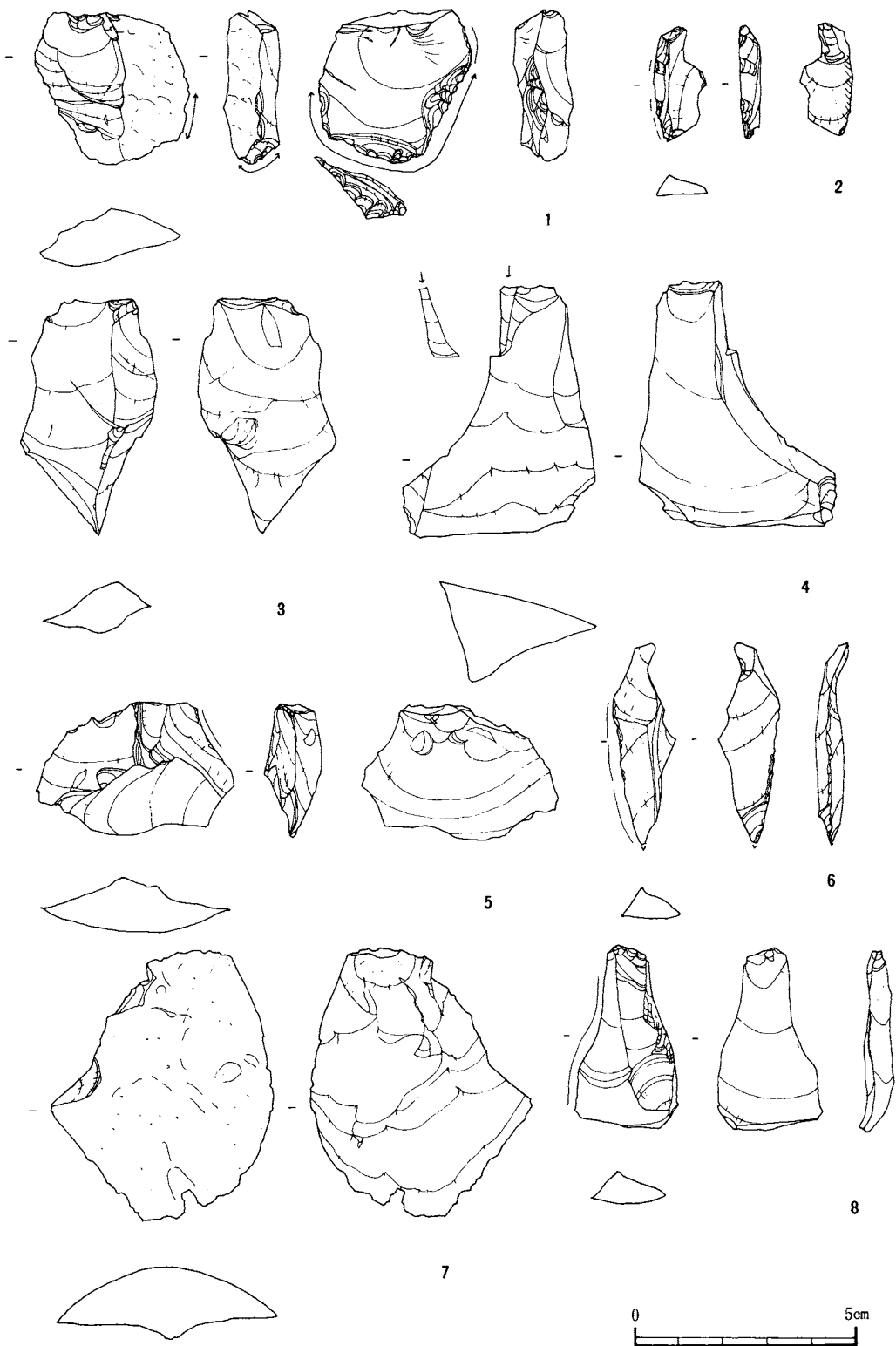
彫器 (第76図4) 珪質頁岩②製で摂理面で割れた剥片を使用している。左頭部に槌状剥離が



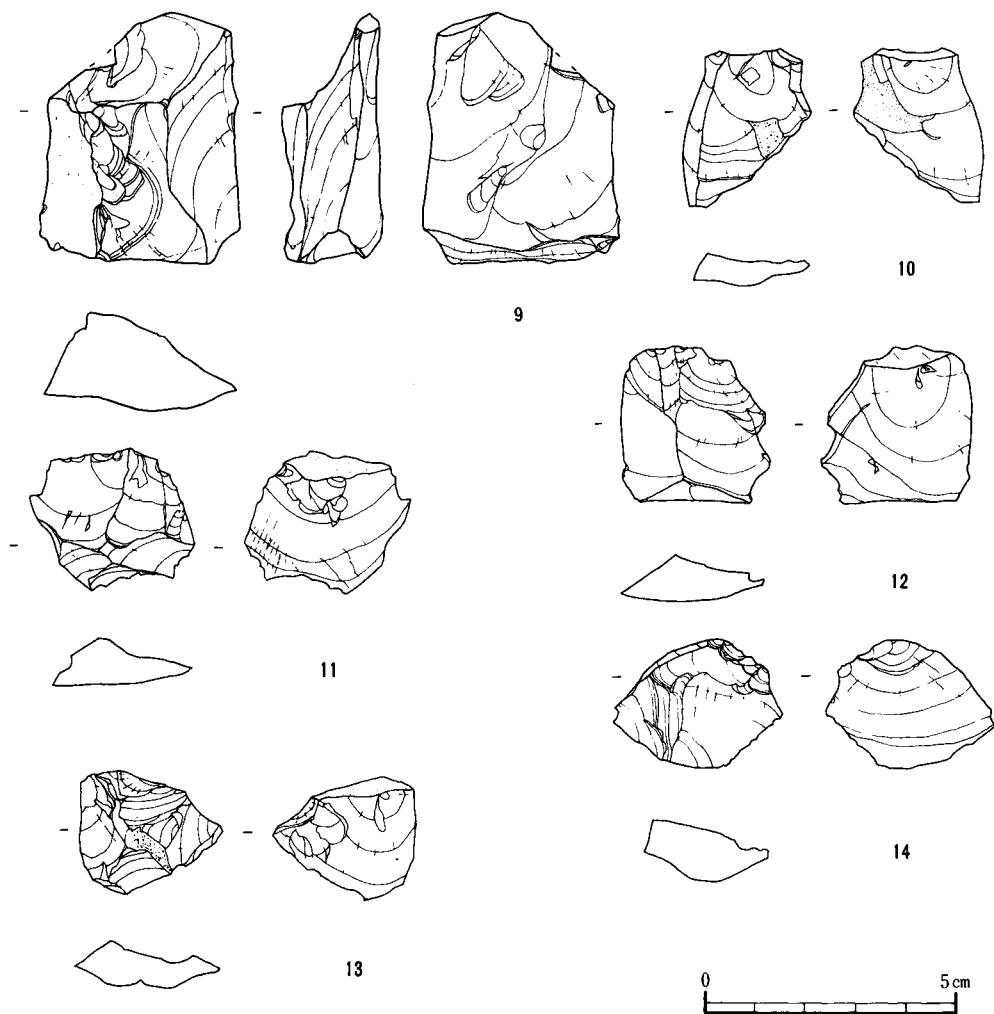
- スクレイバー
- Uフレイク
- 剥片
- * グレイバー
- 碎片



第75図 大野第7遺跡第1ブロック遺物出土状況(1/80)



第76図 大野第7遺跡第1ブロック出土遺物(1)(2/3)



第77図 大野第7遺跡第1ブロック出土石器(2)(2/3)

施されている。

U・フレイク（第76図2・5・6・8）2は黒曜石製の小剥片で左側辺部に微細な連続した剥離痕がみられる。5は珪質頁岩③製の横長剥片で右側辺上半部に微細な連続した剥離痕がみられる。6は珪質頁岩④製の縦長剥片で左側辺部に連続した剥離痕がみられる。特に上半部はやや大きめの剥離が背面側に、下半部にかけては微細な剥離が主剥離面側にみられる。8は珪質頁岩④製の縦長剥片で左側辺部に微細な連続した剥離がみられる。

剥片（第76図3・7 第77図9～14）3は珪質頁岩①製の縦長剥片で先端部の形状から上下に打撃面を持つ石核から作出されたと思われる。使用痕等は観察できないが利器として使用可能な刃器状の剥片である。7は珪質頁岩②のやや幅広な縦長剥片である。背部は礫面に覆われて

いる。9は珪質頁岩①製の剥片で背部に一部礫面を持つ。剥片そのものをコアとして再利用した剥離面がみられ剥片再生石核とも呼べるものであろう。10は珪質頁岩①製の剥片で鋭い縁辺部を持つことから3と同様に刃器状の剥片といえる。11～13はチャート①製の剥片である。いずれも打面が礫面であるのが特徴で形状も正方形に近い形を呈している。14は珪質頁岩⑥(茶色)製の剥片である。打面側が厚く先端部は非常に薄くなった横長の剥片で刃器として使用可能な剥片である。

4. 第2ブロック (78・79図)

(1) 分布状況

U15-26グリットを中心に礫・礫片を主体として44点検出された。そのうち石器類は6点である。全体の分布状況は東西4m、南北2m程の範囲にやや細長く広がっている。礫・礫片類は9個体分に識別できるが、細かな礫片も含めて東西に別れて分布している。石器類のほうは全体に細長く散漫に分布している。垂直分布等から判断して礫群と同時期のものとして考えてよさそうである。石材は砂岩、頁岩、緑泥片岩、粘板岩の4種類で構成される。IV層に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器類の総数は6点である。器種組成は石核1点、剥片5点である。石材構成は砂岩①3点、頁岩①1点、緑泥片岩①1点、粘板岩①1点である。

(3) 出土遺物

石核(第79図15)粘板岩①製の大形の剥片を使用して小形の剥片剥離をおこなっている。技法的には側辺部を打面にして表裏に剥片剥離をおこなっている。

剥片(第79図16～20)16～18は砂岩①製の剥片である。比較的粒が荒い砂岩で大きさ形態もまちまちである。19は頁岩①製の小剥片で背部に礫面を持つ。20は緑泥片岩①製の横長の小剥片である。

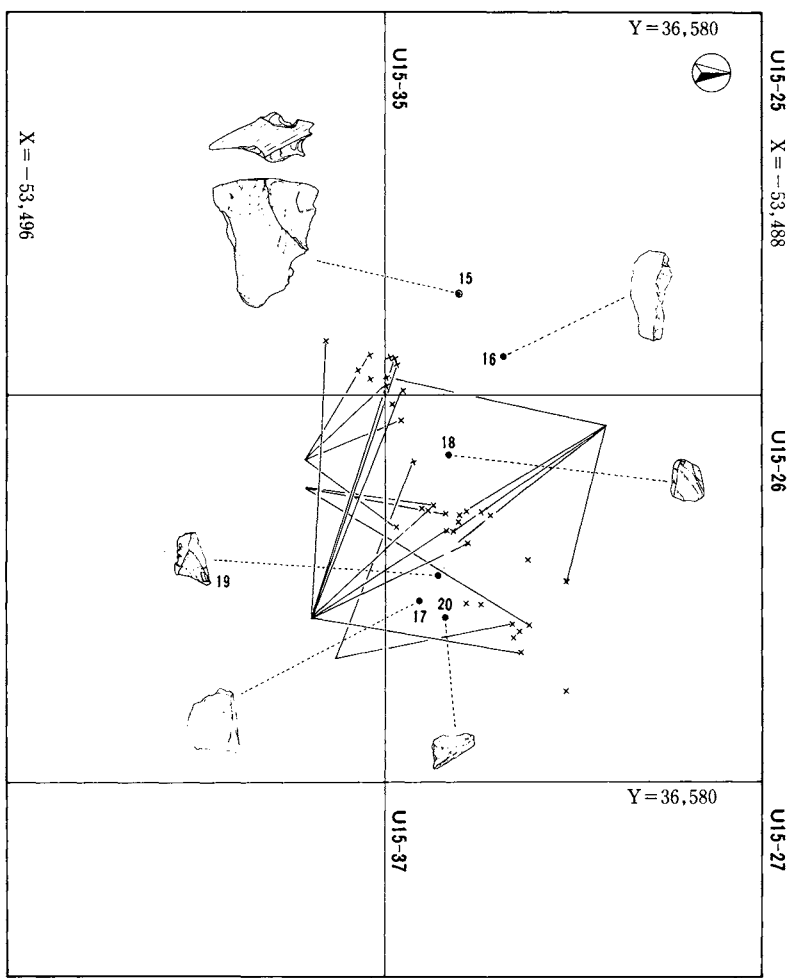
(4) 礫群について

礫群の礫・礫片の総数は38点である。9個体分の資料があり、うち2個体が完全で残り3個体が1/3遺存で他は破片である。これらの礫・礫片は程度の差はあるものの全て被熱もしくは、タール状の黒いススが付着している。細長く広がった分布状況とか共伴した石器類が全て被熱していないこと、焼土を伴わないことなどからこの場所で使用された礫ではなくこの場所へ投棄されたものということが考えられる。

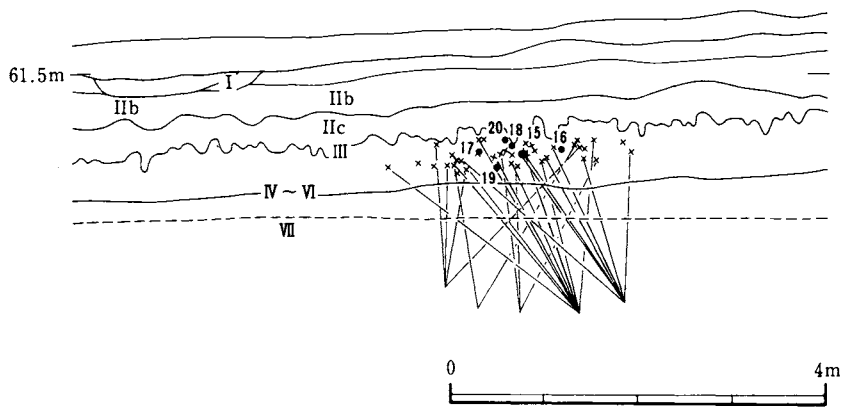
5. 第3ブロック

(1) 分布状況(第80・81図)

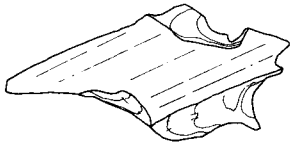
U15-85グリットからU15-86グリットにかけて6点検出された。そのうち1点は被熱した礫



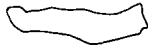
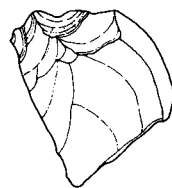
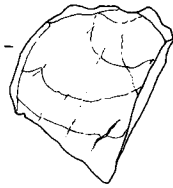
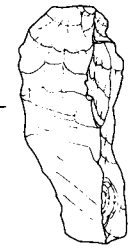
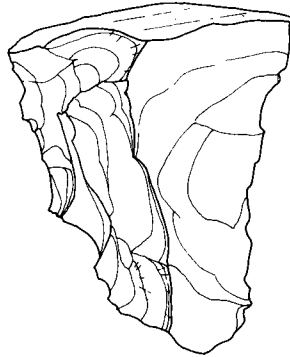
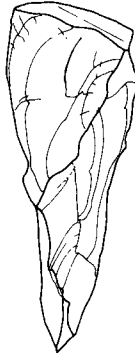
- 石核
- 剥片
- × 焼け礫



第78図 大野第7遺跡第2ブロック遺物出土土状況(1/80)



15



17



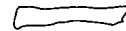
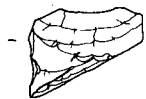
16



18



19



20



第79図 大野第7遺跡第2ブロック出土石器(2/3)

である。分布状況は径2m程のなかに散漫に分布している。石材は2種類の砂岩と粘板岩で構成される。III層中程の時期に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は5点である。他に礫(被熱していて約2/3残存)が1点出土している。器種構成は石核1点、U・フレイク1点、剥片3点である。石材構成は砂岩②2点、粘板岩②2点、砂岩①1点である。

(3) 出土遺物

石核 (第81図24) 砂岩②製の比較的大形の偏平な円礫を使用して周辺部を打面にして剥片の作出をおこなっている。一見するとチョッピングツールのような形をしたコアである。

U・フレイク (第81図21) 粘板岩②製の剥片の左側辺部分に使用痕と思われる連続的な小剥離が見られる。背部に一部摂理面の剥離がみられる。

剥片 (第81図22・23・25) 22は粘板岩②製の剥片である。背面は礫面に覆われている。21・22ともに風化が著しい。23は砂岩③製の剥片である。非常に厚みのある剥片で背部の剥離面の方向が多方面に観察されることから打面調整の剥片である可能性がある。25は砂岩②製の小剥片である。24と同じ石材であるが、直接接合しない。小形でしかも不規則な割れかたをしている。

6. 第4ブロック (82~84図)

(1) 分布状況

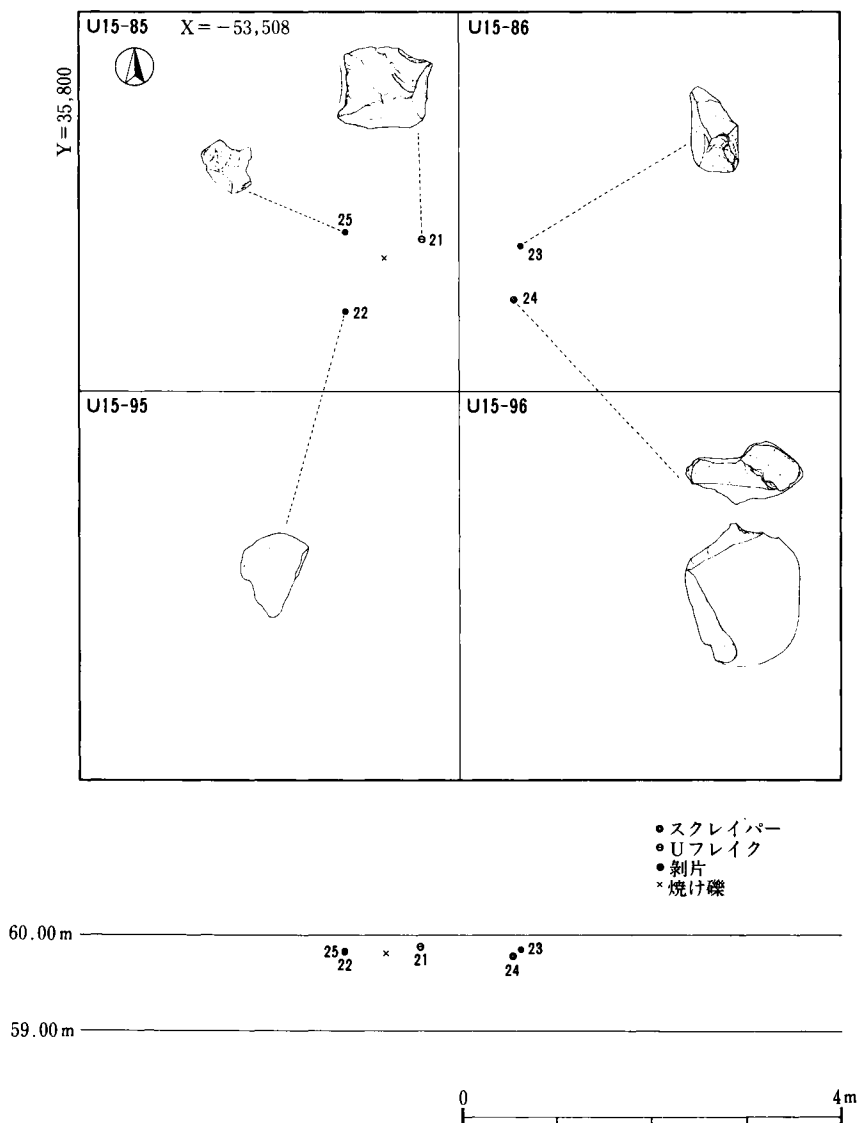
U16-24グリットを中心に9点検出された。分布状況は2~3mの範囲にまとまって分布している。比較的中央に強く集中する傾向がうかがわれる。石材は2種類の砂岩と安山岩、泥岩で構成される。第3ブロックと同様III層中程に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は9点である。器種組成は剥片8点、碎片1点である。石材構成は砂岩④4点、砂岩⑤3点、安山岩①1点、泥岩①1点である。

(3) 出土遺物

剥片 (第83図26~29・第84図30~34) 26は砂岩④製の剥片である。上方向の数回の剥片剥離ののち、左方向からの剥離をおこなっている。そののち剥片として剥離されている。一部礫面を残す背面構成になっている。30・33も同様な石材である。30は剥片として剥離されたのち、小規模な剥片剥離をおこなっている。33は比較的薄く背部が礫面に覆われた剥片である。27~29は砂岩⑤製の剥片である。これらの剥片の特徴は上方向からの剥離のみで打面転移の跡がみられないことと礫面を一部残していることである。31は泥岩①製の小楕円礫を使って両極打法で作出された剥片である。32は安山岩①製の剥片で背面に逆方向の剥離と礫面を残している。

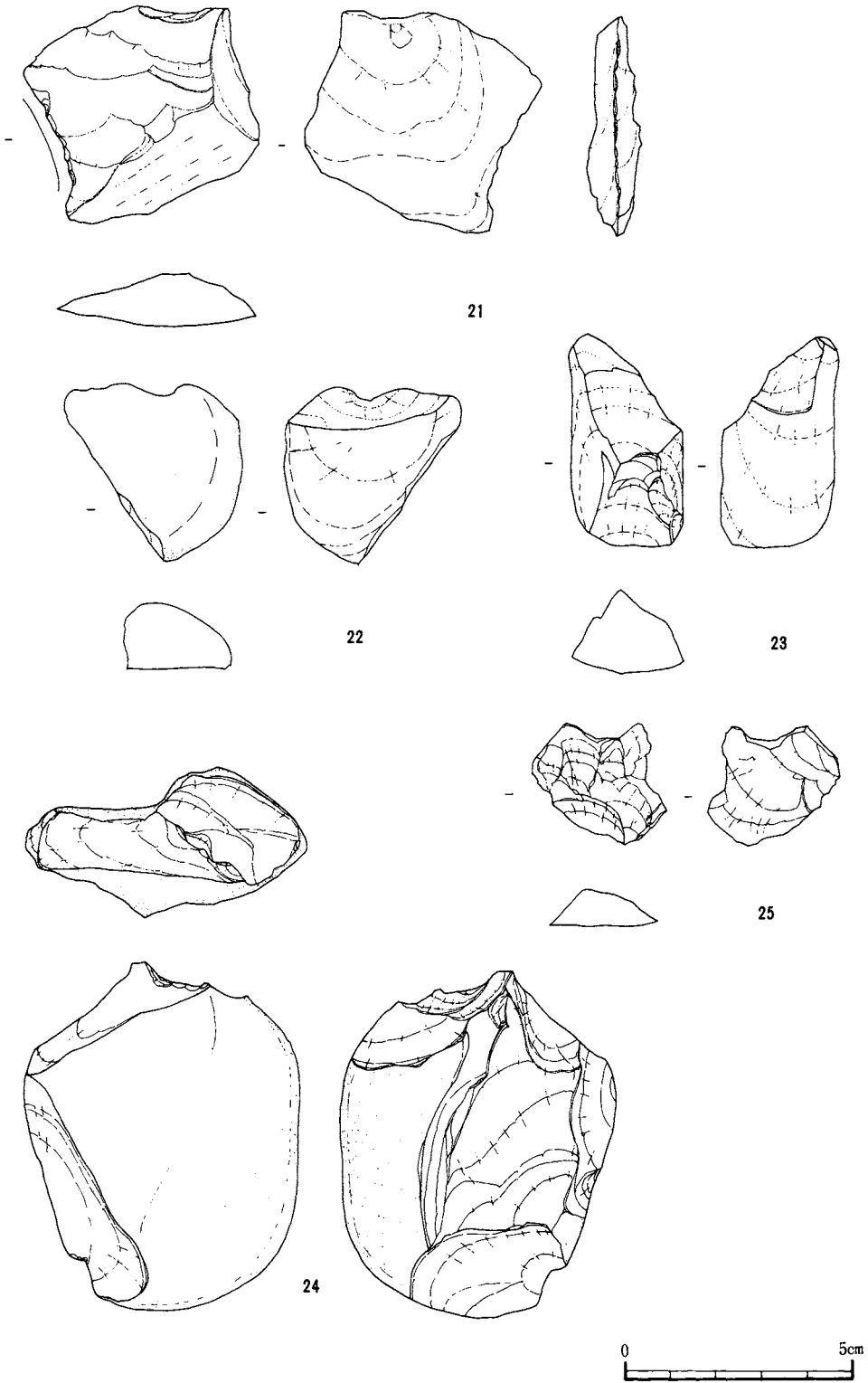


第80図 大野第7遺跡第3ブロック遺物出土状況(1/80)

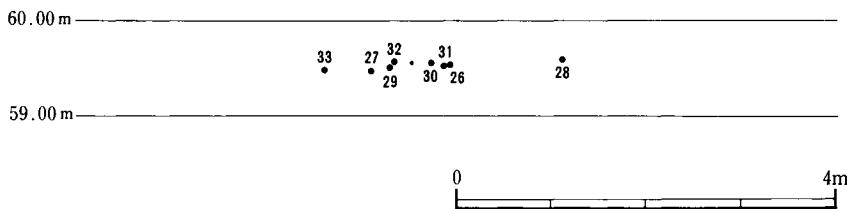
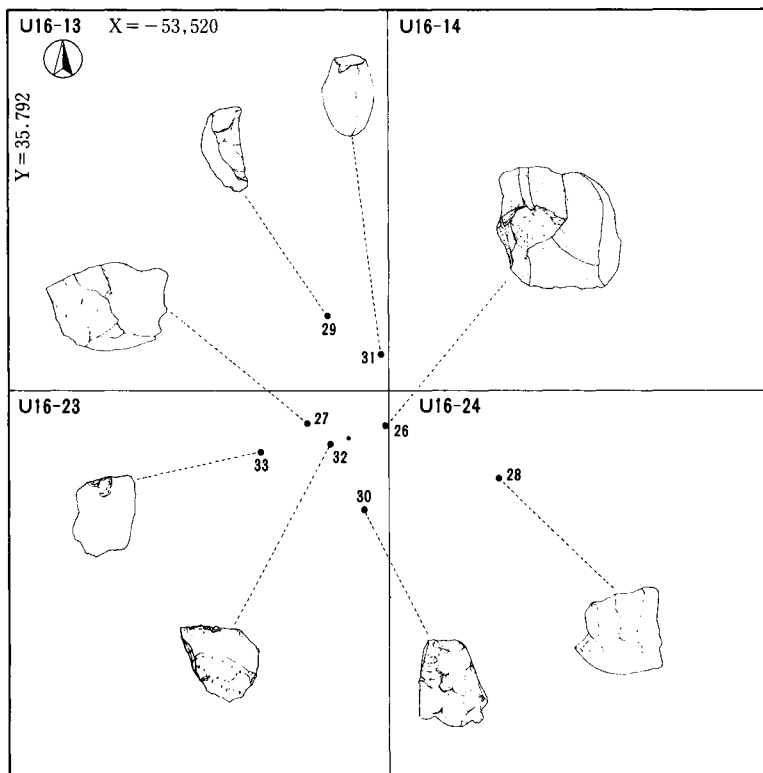
34はグリット一括遺物で取り上げられたもので位置的には第4ブロックの近くでしかも安山岩①製の石材と同じであるところからこのブロックに帰属するものと考えられる。背面は礫面に覆われている。剥離面には両極打法による打痕がみられる。

7. 小結

時期的にみて第3ブロック・第4ブロックはIII層中程に位置する。母岩の共有はみられないものの剥片の大形なものや形態の類似性などの共通点も見いだせる。同時平行的に存在したか多少の時期がずれたかは不明である。第2ブロックはIV層上程に位置する。大形剥片を転用し

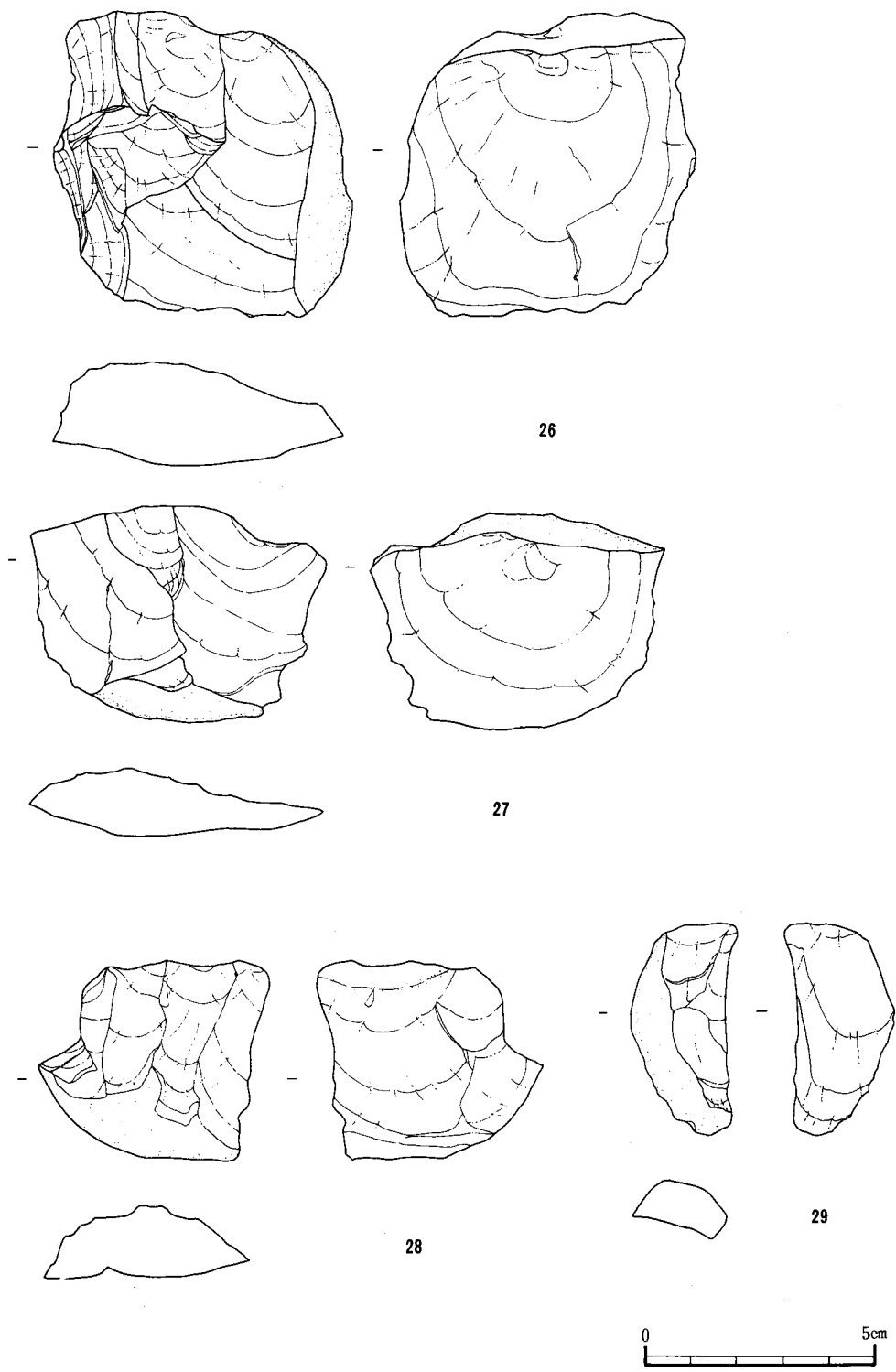


第81図 大野第7遺跡第3ブロック出土石器(2/3)

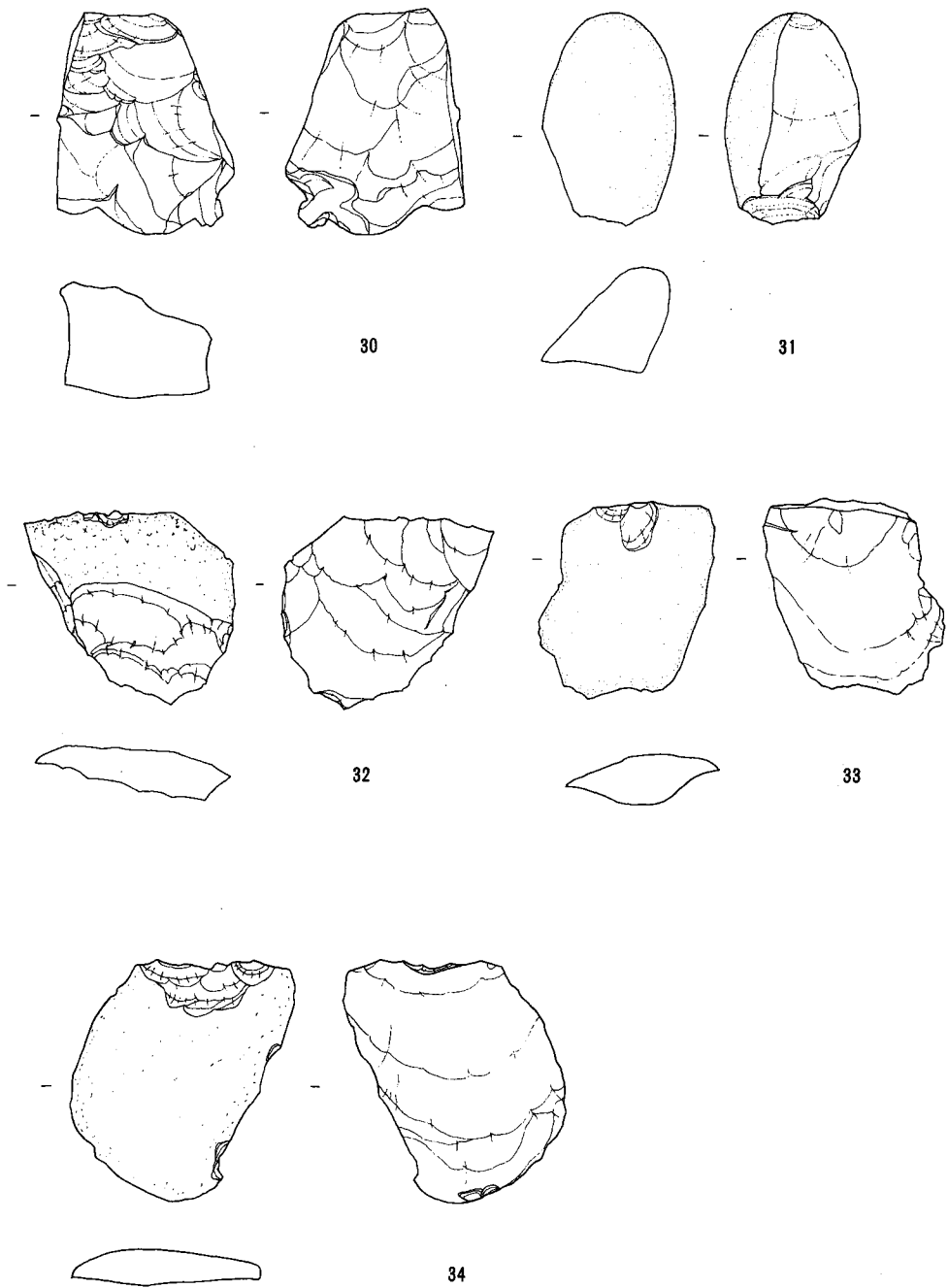


第82図 大野第7遺跡第4ブロック遺物出土状況(1/80)

た不規則な小剥片剥離と小剥片がみられる。石材も第3・4ブロック同様砂岩系の比較的粒の荒いものが多いのが特徴である。またこのブロックには廃棄されたとと思われる礫・礫片が伴っている。第1ブロックはVII層上程に位置する。石材は珪質頁岩やチャートの比較的ガラス質の高い物が選択されている。石核が存在しないことや剥片剥離に伴う碎片が少ないこと、刃器に使用可能な剥片の多さあるいは大形剥片の石核への転用などが技術的な特徴としてあげられる。ここの遺跡のブロックはいずれも小規模なものが多く短期間の使用の場が考えられる。



第83図 大野第7遺跡第4ブロック出土石器(1)(2/3)



第84図 大野第7遺跡第4ブロック出土石器(2)(2/3)

第2節 縄文時代・弥生時代・奈良時代・平安時代

1. 概要 (74図)

大野第7遺跡では上層の確認調査をおこない、そのうち7,636㎡の本調査を実施した。その結果縄文時代中期の住居跡2軒、縄文時代土坑82基、弥生時代の住居跡1軒、奈良時代住居跡5軒、掘立柱建物跡4棟、方形周溝状遺構2基、平安時代住居跡1軒が検出された。他にV16～17グリットの012号掘立柱建物跡を中心とした地域に奈良時代の須恵器・土師器片が廃棄されたような状態で検出された。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

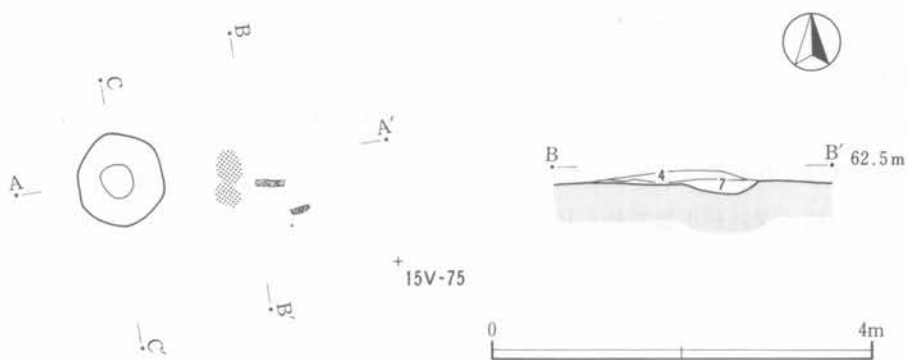
(1) 住居跡

009号埋壺炉 (遺構 第85図・86図 遺物 第96図1～7)

V15-75付近に位置する。住居跡の炉と考えられ周囲に柱穴があるかどうか確認したが検出できなかった。住居跡そのものの掘り込みが浅く、柱穴もしっかりしていたタイプでなかった可能性がある。住居跡の覆土は炉の4・7層部分に若干認められる。4. 焼土粒・炭化粒を多く含む焼土ブロックの主体の暗褐色土。7. ローム粒を多く含み、焼土粒を若干含む黄褐色土となる。炉本体は土器埋設炉である。規模はほぼ径80cmで深さは40cmである。炉の覆土は1. ローム粒・炭化粒を多く含み、焼土粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒・焼土粒を若干含む暗褐色土。3. 炭化粒を若干含みローム粒を少し含む黒褐色土。5. ローム粒を少し含む焼土粒を若干含む褐色土。6. 熱を受け硬化したロームブロックが主体の焼土ブロック。8. ローム粒を少し含む褐色土。9. ロームが硬化した褐色土である。出土遺物は炉の本体部分から土器が2個体分検出されている。2・7以外の破片は同一個体である。中期の加曾利E IIの時期の土器片である。1は口縁部～胴部破片で波状口縁を持ちLRL複節縄文を地文にして口縁部直下に平行の沈線を配し、胴部下へ沈線で超楕円状の区画を配している。3～6も同個体の破片になると思われる。2・7は同様な時期の土器片である。2は口縁部の破片でRL縄文を地文に配し、口唇部はすりけし直下に平行した沈線を施している。7は胴部下の破片で沈線による区画によってすりけしによって無文帯を作り出している。

100号住居跡 (遺構 第87図 遺物 第97図17～19)

V14-69から西へ1mに位置する。平面形はほぼ長軸4m、短軸3.2mの楕円形を呈し検出面から床面の深さが約10cmである。壁は比較的緩やかに立ち上がる。床面は全体に軟質である。炉は検出されなかった。覆土は上層より1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ロームブロックを多く含む黒褐色土。3. 2よりさらに多くのロームブロックを含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土となる。柱穴はP1の1本である。土層は1. ローム粒子を少し含む黒褐色



第85図 大野第7遺跡009号埋甕炉 (1/80)



第86図 大野第7遺跡009号埋甕炉 (1/40)

土。2. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。3. ローム粒・ロームブロックを多く含む暗褐色土となる。柱穴が1本で炉のないことから小竪穴かテント的な構造のものが考えられる。出土遺物はピットの周りを中心に3個体分出土した。17は浅鉢形土器で内外面ともに磨いたのち、口縁部と胴部の間を沈線で区画し胴部に縦方向に櫛状工具による条線を施している。18は深鉢形土器の底部でRL縄文を地文に配し、縦方向に2本の細沈線によって区画している。20は波状の口縁を持つ深鉢形土器でRLR縄文を地文に配し、口縁部から頸部にかけて沈線でS字や隅丸方形に区画している。胴部から下も同様な区画を施している。

(2) 土坑

013号土坑（遺構 第88図） U15-27から西へ1m、南へ1mに位置する。長辺1.2m、短辺0.7mの長方形に近いプランを呈する。検出面からの深さは約0.9mある。床面はフラットで壁はほとんど垂直に立ち上がる。覆土は1. ロームブロック（小）を含む暗褐色土。2. ロームブロック（大）を多く含む黒褐色土。3. ローム粒を少し、ロームブロック（小）を含む黒褐色土。4. ロームブロックをやや多く含む黒褐色土である。これらの覆土は全体にやや疎である。遺物の検出はない。

014号土坑（遺構 第88図）

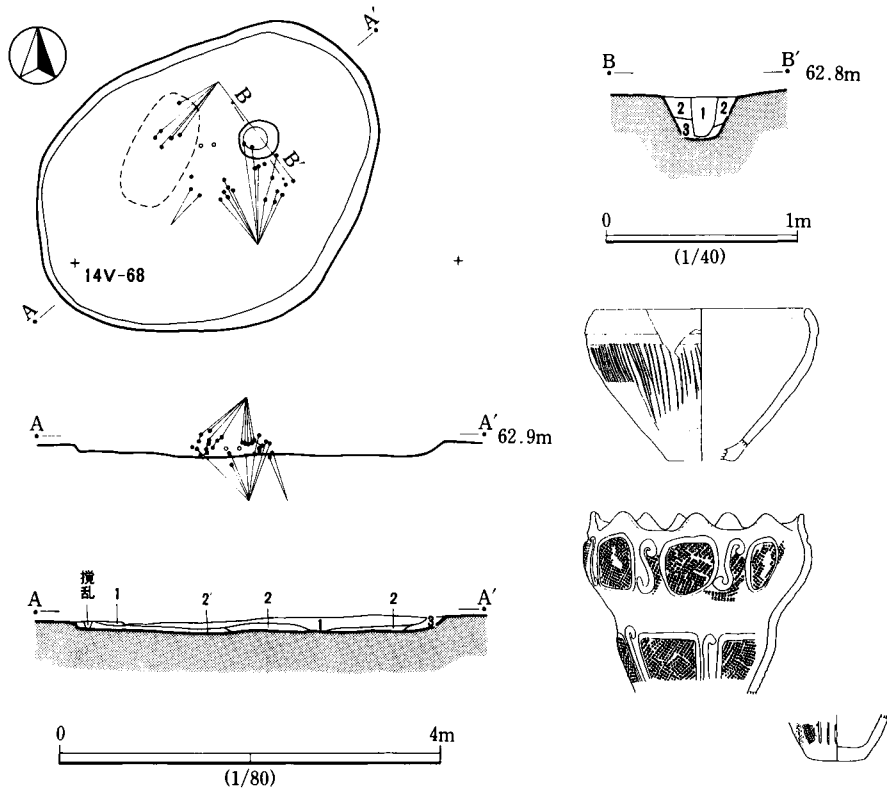
V16-92から東へ2mに位置する。径約0.7mの円形のプランを呈する。遺構中程に径0.3mのピットが1個ある。検出面からの深さは0.4mでピット最深部まで約0.6mある。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを少し含み、堆積がやや疎な褐色土である。調査中の所見では陥穴とは考えられないとのことである。遺物の検出はない。

015号土坑（遺構 第88図）

V15-66付近に位置する。長軸1.9m、短軸1.6mの楕円形のプランを呈する。遺構床面ほぼ中央に径約0.3mのピットが1個ある。検出面からの深さは約1.15mでピット最深部までの深さは約1.3mある。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含む褐色土。3. ローム粒（大）を多く含む暗褐色土。4. ローム粒・ロームブロックを多く含む黒褐色土。5. ソフトロームブロックを多く含む褐色土。6. 堆積がやや密で硬い暗褐色土。7. ローム粒を若干含み堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的に陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

016号土坑（遺構 第88図 遺物 第96図8）

V16-63から東へ1m、南へ1mに位置する。長辺約1.25m、短辺約0.9mの長方形を呈する。検出面からの深さは約1mある。覆土は1. 堆積がやや密で硬い暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. 堆積がやや疎でローム粒を少し含む褐色土。4. ロームブロック（小）



第87図 大野第7遺跡100号住居跡

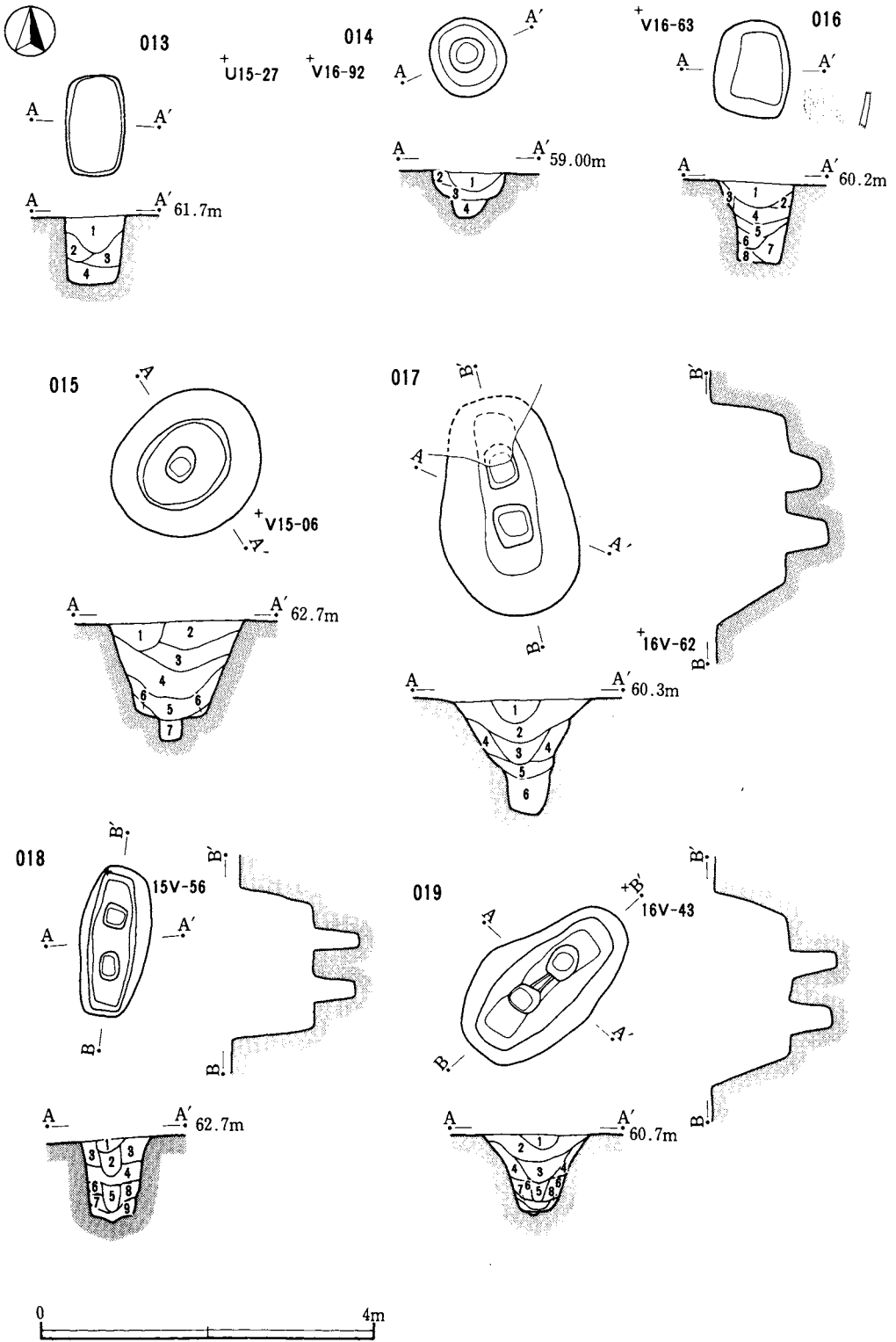
・ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. 褐色土ブロック・ローム粒を少し含む暗褐色土。7. ロームブロック（小）を少し含む暗黄褐色土。8. 堆積がやや疎な暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。

遺物は覆土一括で縄文時代早期の撚糸文系の土器片が1点検出されたのみである。遺構のどの位置から出土したのかわからないため遺構との直接的な関係は不明である。

017号土坑（遺構 第88図）

V16-52から西へ2 m、南へ2 mに位置する。北側部分は攪乱のため詳細は不明であるが、プランはおよそ長軸約2.6m、短軸約1.65mの楕円形になると思われる。また床面には一辺約0.5 mの正方形のピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.9mでピット最深部までの深さは約1.3mある。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む黒色土。2. ローム粒を少し含む褐色土。3. 堆積が密でやや硬い褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む暗黄褐色土。5. 堆積がやや疎な褐色土。6. ロームブロック（大）を非常に多く含む黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

018号土坑（遺構 第88図）



第88図 大野第7遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

V15-66から北へ3mに位置する。プランは長軸約1.75m、短軸0.85mの長方形に近い楕円形を呈する。床面には017号と同様に2個のピットが検出された。検出面からの深さは約0.9mでピット最深部までの深さは約1.5mある。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ソフトロームブロック・褐色土ブロックを若干含む黒褐色土。3. 堆積がやや密でソフトロームを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。5. 堆積がやや疎な暗褐色土。6. ローム粒を若干含む暗褐色土。7. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。8. ローム粒を非常に多く含む暗黄褐色土。9. ローム粒(大)を少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。土層断面からは複数回使用された可能性が考えられる。遺物の検出はない。

019号土坑 (遺構 第88図)

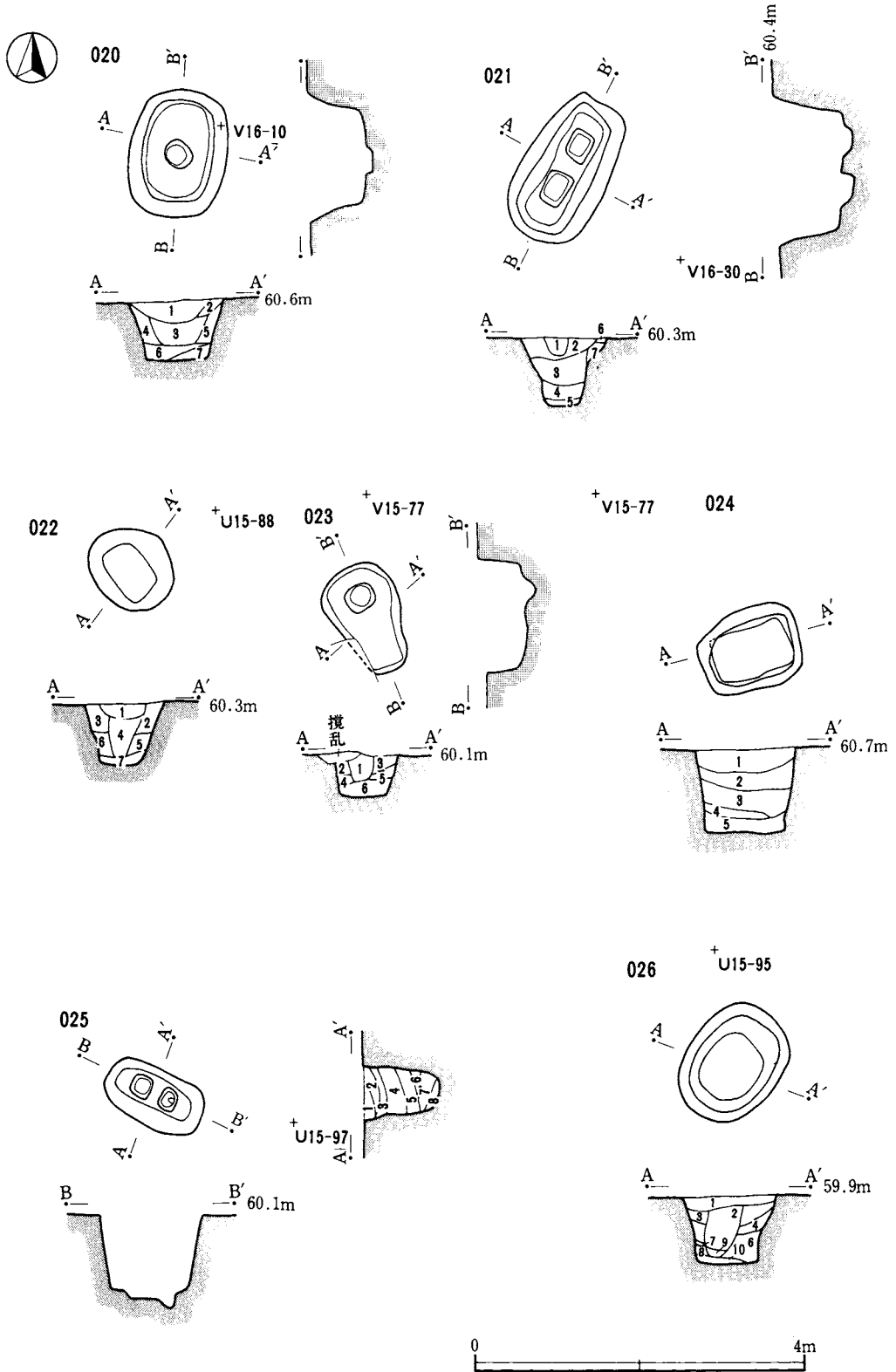
V16-43付近に位置する。プランは長軸約2.3m、短軸約1.3mの楕円形を呈する。床面には017と同様に2個のピットが検出された。またピットとピットの間細い溝も検出された。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1.5mある。覆土は1. ロームブロック(小)を少し含む黒色土。2. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ソフトロームブロックをわずかに含む褐色土。5. ローム粒を少し含む堆積が疎な暗褐色土。6. ロームブロックを多く含む暗褐色土。7. ローム粒を多く含む黒色土。8. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。形態的に陥穴状遺構になると思われる。土層断面からは二度にわたって利用されたと考えられる。遺物の検出はない。

020号土坑 (遺構 第89図)

V16-10に位置する。プランは長軸約1.55m、短軸約1.15mの長方形に近い楕円形を呈する。床面の中程から径30cm、深さ8cmの円形プランのピットが1個検出された。検出面からの深さは約0.7mある。覆土は1. ロームブロック(小)・ローム粒を含む暗褐色土。2. 堆積が疎な褐色土。3. 褐色ブロックを多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを少し含む褐色土。5. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な褐色土。6. ソフトロームブロックを多く含む堆積がやや密な暗褐色土。7. ソフトロームブロックを含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

021号土坑 (遺構 第89図)

V16-30から西へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.85m、短軸1.05mの長方形に近い楕円形を呈する。床面にはほぼ一辺が0.3mの正方形のピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは0.95mある。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒・ロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを多く含む暗



第89図 大野第7遺跡縄文時代土坑(2) (1/80)

褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. 褐色ブロックを少し含む黒色土。6. 堆積は疎でサクサクな褐色土。7. ロームブロックを少し含む堆積がやや疎な黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

022号土坑（遺構 第89図）

U15-88から西へ1m、南へ1mに位置する。プランは径約0.95mの円形になる。深さは約0.7mある。床面はフラットで壁は少し広がり気味に急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを多く含み、ローム粒を若干含む暗黄褐色土。4. ロームブロック（小）・ローム粒を若干含む黒色土。5. 堆積がやや疎な茶褐色土。6. ローム粒を少し含む暗褐色土。7. ロームブロック（小）・ローム粒を若干含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。土層断面からは二度の使用が考えられる。遺物の検出はない。

023号土坑（遺構 第89図）

V15-77から南へ1mに位置する。プランは長軸1.35m、短軸0.9mの瓢箪に近い楕円形を呈する。床面は南側にやや緩やかに上がる。また北側の床面に径約0.3mの円形のピットを1個検出した。検出面からの深さは約0.5mでピットの最深部までの深さは約0.6mである。覆土は1. ロームブロック（小）を含む黒色土。2. ロームブロック（大）を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックを多く含む暗黄褐色土。5. ソフトロームブロックを少し含む暗黄褐色土。6. ロームブロックを若干含む暗褐色土である。調査時の所見からは陥穴状遺構とは考えられない。遺物の検出はない。

024号土坑（遺構 第89図）

U15-72から東へ2m、南へ2mに位置する。プランは長辺約1.2m、短辺約1mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで壁は一部オーバハングするぐらい急激に立ち上がる。検出面からの深さは約1mである。覆土は1. ロームブロック・ローム粒を少し含む赤褐色土。ロームブロックを多く含む赤褐色土。3. ロームブロック・ローム粒を多く含み堆積は疎な赤褐色土。4. ローム粒を少し含み堆積が疎な黒褐色土。5. ロームブロックを含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

025号土坑（遺構 第89図）

U15-27からほぼ西へ1mに位置する。プランは長軸約1.25m、短軸0.7mの長方形に近い楕円形を呈する。床面には一辺0.25mの方形のピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1mである。覆土は1. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。2. ロームブロックを若干含む黒色土。3. ローム粒を含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む茶褐色土。5. ロームブロックを少し含む茶褐色土。6. 堆積がやや疎な暗褐色土。7. ロ

ームブロックを多く含む暗褐色土。8. ロームブロック（小）を若干含む堆積がやや密な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

026号土坑（遺構 第89図）

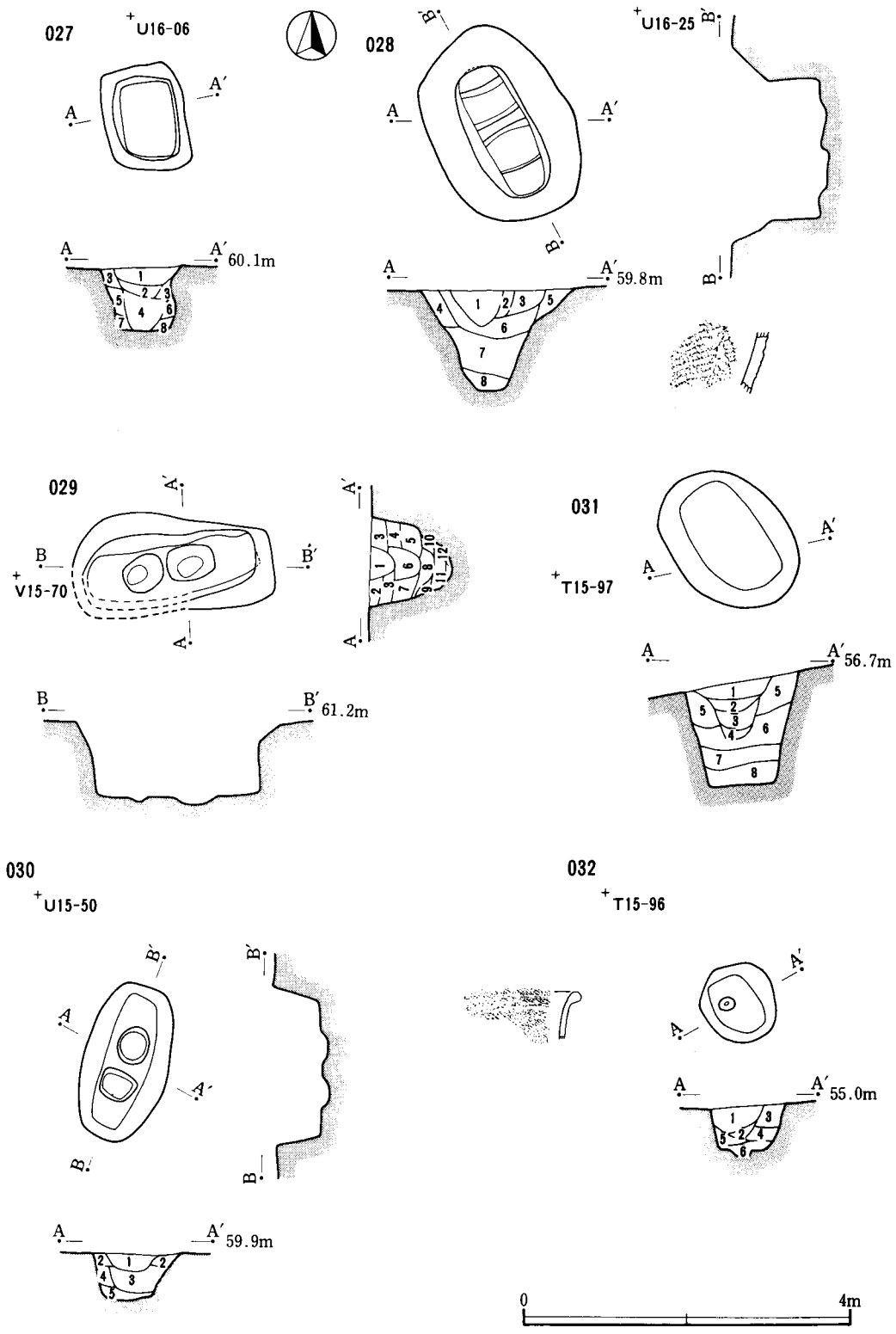
U15-95から南へ1 mに位置する。プランは長軸1.45m、短軸1.15mの楕円形を呈する。床面はやや壁際に向かってだらだらと上がる。壁は急激に立ち上がるが開口部に近い部分でやや外側に広がりを見せる。検出面からの深さは約0.8mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを多く含む堆積がやや疎な黒褐色土。3. 褐色土ブロック・ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ソフトロームの崩落した明褐色土。5. 堆積がやや疎な暗褐色土。6. ローム粒（大）を多く含むロームブロックを若干含む暗褐色土。7. ローム粒を若干含む黒褐色土。8. ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。9. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土。10. ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

027号土坑（遺構 第90図）

U16-06から南へ1 mに位置する。プランは長辺約1.3m、短辺0.95mの長方形を呈する。床面はほぼフラットである。壁は開口部に向かってやや広がり気味ではあるが急激に立ち上がる。検出面からの深さは約0.8mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. 焼土粒・ブロック（小）を多く含む黒褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を少し、ロームブロックを若干含む黒褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ローム粒を少し含む暗褐色土。7. ロームブロックを少し含む暗褐色土。8. ロームブロック・ローム粒を含む暗黄褐色土である。特に所見はないが形態的には陥穴状遺構になると思われる。ただ焼土とみられる層が堆積していることから2次利用された可能性もある。遺物の検出はない。

028号土坑（遺構 第90図 遺物 第96図9）

U16-25から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸2.4m、短軸1.7mの楕円形を呈する。床面は溝状に2条平行に切つてある。検出面からの深さは約1.1mで溝の最深部で約1.2mである。調査時の所見ではこれらの溝は他の土坑のピットと同じ機能は考えにくいとのことである。床面より開口部にかけて埋まるまでの崩落が著しいためかなり外側にひろがった形をしている。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含む褐色土。5. ソフトロームを多く含む褐色土。6. ロームブロック（小）を多く含む黒褐色土。7. ロームブロックを多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。8. ロームブロック（大）を多く含む堆積が疎でサクサクな褐色土。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物は覆土一括で縄文時代前期の黒浜期の土器片が1点検出された。ただこれもどの位置の覆土中なのか不明であるため遺



第90図 大野第7遺跡縄文時代土坑(3)(1/80)

構がこの時期のものかどうかは不明である。

029号土坑（遺構 第90図）

U15-11から西へ1 mに位置する。遺構の南側を一部削られていたがプランはおおよそ長軸約2.45m、短軸約1.3mの長方形に近い楕円形を呈すると思われる。床面は全体に壁際にむかって緩やかに立ち上がる。また床面中央には径0.4mのピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.9mでピット最深部までの深さは約1 mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. 褐色ブロックを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ソフトロームブロック・ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. 褐色土ブロック・ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。7. ローム粒を少し含む褐色土。8. ローム粒を少し含む暗褐色土。9. ロームブロックを多く含む堆積が疎な暗褐色土。10. ローム粒（大）を多く含む暗褐色土。11. ローム粒（小）を少し含む黒褐色土。12. 堆積がやや疎でサクサクな黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

030号土坑（遺構 第90図）

U15-50から南へ2 m、東へ1 mに位置する。プランは長軸1.9m、短軸1.05mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中央部付近に径約0.5mの円形のピットとほぼ同規模の方形のピットを2個検出した。検出面からの深さは約0.55mでピットの最深部までの深さは約0.65mである。覆土は1. ソフトローム粒を若干含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを若干含む暗褐色土。5. 堆積が密で硬い暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

031号土坑（遺構 第90図）

T15-97から東へ2 mに位置する。プランは長軸1.9m、短軸1.4mの楕円形を呈する。床面はやや中央部が低く壁際にやや上がり気味である。検出面からの深さは約1.3mである。覆土は1. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを若干含む堆積が疎な暗褐色土。5. ローム粒（大）を多く含む黒褐色土。6. ロームブロック・ローム粒を多く含む褐色土。7. ロームブロックを多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。8. ロームブロックを多く含む堆積が疎でサクサクな褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。また土層断面から二度の使用が考えられる。遺物の検出はない。

032号土坑（遺構 第90図 遺物 第96図 10）

T15-97から西へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは径約0.9mの円形を呈する。床面はフラットで中程に小ピットが1個検出された。検出面からの深さは約0.5mでピット最深部までの

深さは約0.6mである。覆土は1. ローム粒(大)を多く含む暗褐色土。2. ロームブロック(小)を少し含む暗黄褐色土。3. ローム粒を若干含む暗黄褐色土。4. ローム粒を少し含む褐色土。5. 堆積がやや疎な褐色土。6. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な暗褐色土である。調査時の所見では陥穴状遺構とは考えられないとのことである。貯蔵穴等の機能を考えることもできる。遺物は覆土一括で縄文時代早期の井草式の土器片を1点検出した。口縁部から胴部にかけての破片で口唇部と胴部に撚糸文が全面施されている。遺構のどの覆土から出土したのか不明のため遺構の時期決定の決め手とはならない。

033号土坑 (遺構 第91図)

T15-98から東へ2 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺約1.6m、短辺約1.05mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで壁はやや緩やかに立ち上がる。また床面の南側で不整形のピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.4mである。覆土は1. ソフトロームブロックを含む褐色土。2. ロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ローム粒を非常に多く含む黄褐色土である。覆土は全体に堆積状態が密である。調査時の所見では陥穴状遺構とは考えられないとのことである。032号土坑同様ほかの機能を考えたほうがよさそうである。遺物の検出はない。

034号土坑 (遺構 第91図)

T15-87から西へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは径約1.2mの円形を呈する。床面は細かな階段状の凹凸がみられる。検出面からの深さは約0.5mである。覆土は1. ローム粒を多くロームブロック(小)を少し含む茶褐色土。2. ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。3. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土である。調査時の所見からは陥穴状遺構とは考えられない。遺物の検出はない。

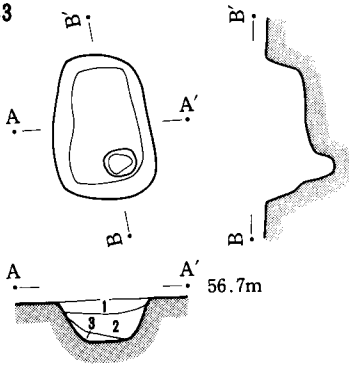
035号土坑 (遺構 第91図)

U16-06から西へ1 mに位置する。プランは長軸約1.6m、短軸約1.3mの楕円形を呈する。床面はフラットで中程に径約0.2mのピットを1個検出している。検出面からの深さは1.2mでピットの最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ロームブロック(小)を多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを若干、ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ロームブロック(小)を若干、ローム粒を多く含む炭化粒を若干含む黒褐色土。5. ロームブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。6. ソフトローム粒を若干、ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。7. ロームブロック(大)を多く含む褐色土。3. ローム粒を若干含む堆積が疎でサクサクな褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

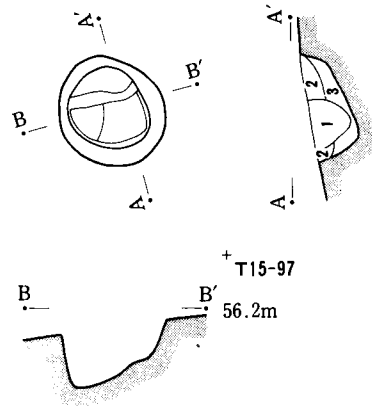
037号土坑 (遺構 第91図)

+ T15-98

033

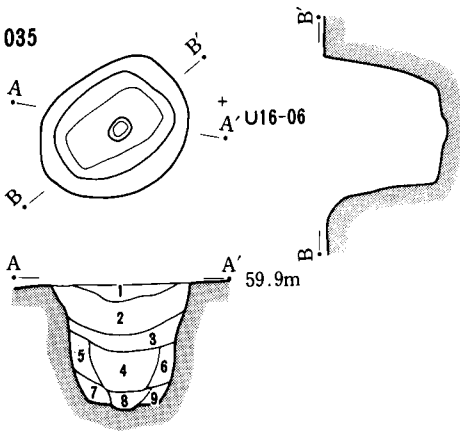


034

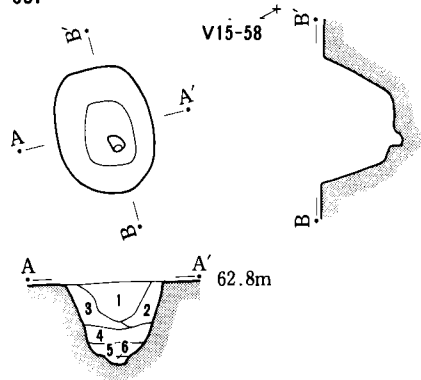


+ T15-97

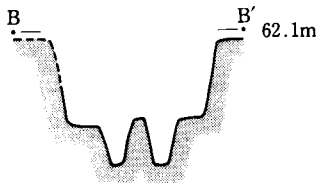
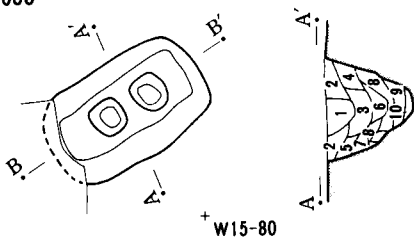
035



037



038



第91図 大野第7遺跡縄文時代土坑(4) (1/80)

V15-58から西へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸約1.3m、短軸約1 mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はフラットで中央に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.7mで小ピットの最深部までの深さは約0.8mである。覆土は1. ローム粒が多く焼土粒を若干含む黒色土。2. 褐色土ブロック・ロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒(大)を少し含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む堆積はやや疎な暗褐色土。5. 堆積がやや疎な暗褐色土。6. ローム粒・ロームブロック(小)を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

038号土坑(遺構 第91図)

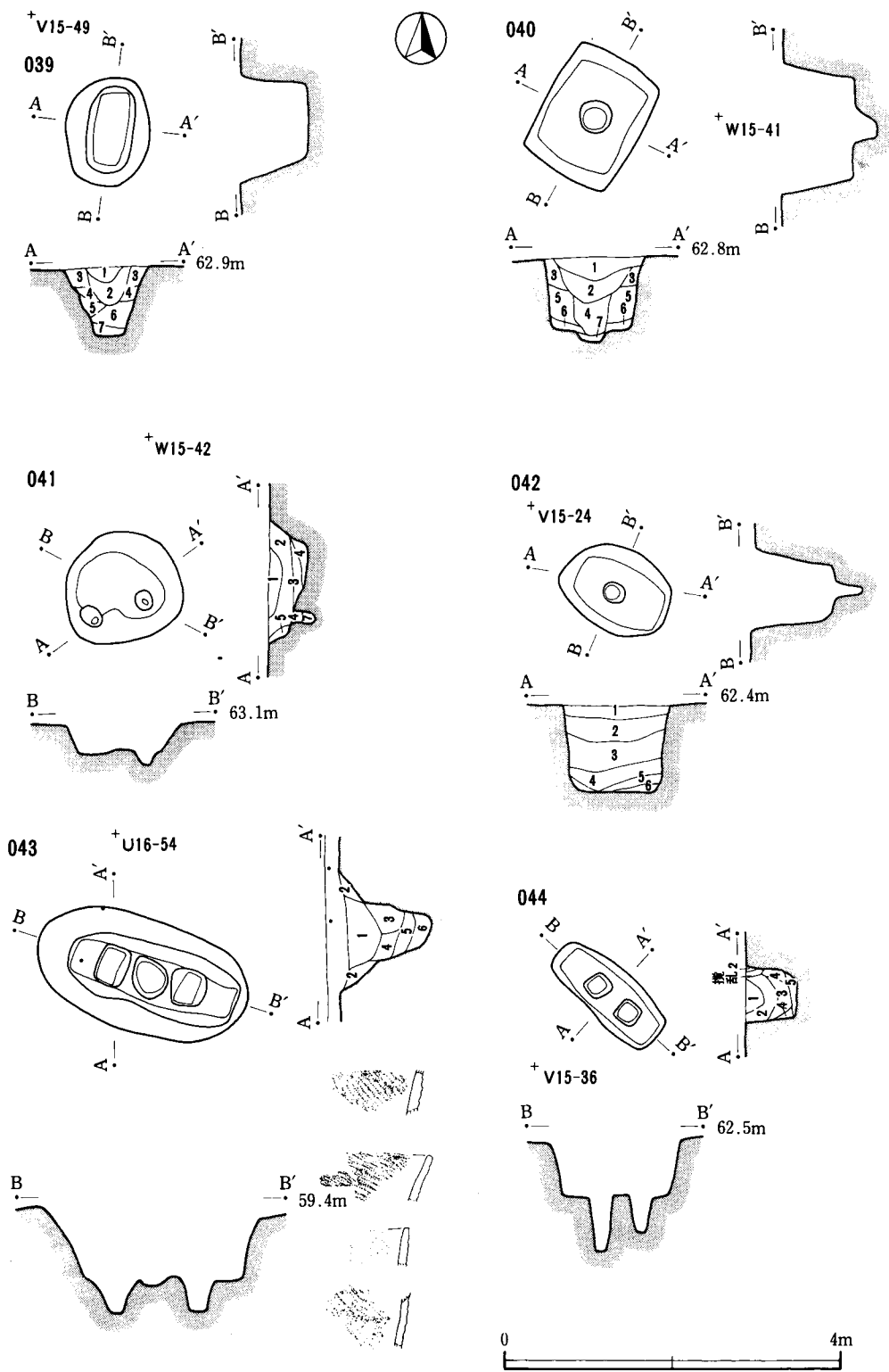
W15-70から南へ3 m、西へ1 mに位置する。南西側壁の上面の一部が攪乱を受けている。プランは長辺約1.75m、短辺約1.1mの楕円形に近い長方形を呈する。床面はフラットで中央に径約0.3mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. 褐色土ブロック(小)を多く含む堆積がやや密な黒褐色土。3. ローム粒(大豆大)を多く含む黒褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土。5. ローム粒・褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含む黒褐色土。7. ローム粒を少し含む暗褐色土。8. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な褐色土。9. ロームブロックを多く含む暗褐色土。10. 堆積がやや密で硬い暗褐色土。11. ハードローム崩落土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

039号土坑(遺構 第92図)

V15-49から東へ1 m、南へ1 mに位置する。床面の形はやや方形に近いが上面プランは長軸約1.3m、短軸約1 mの楕円形を呈する。床面はフラットである。検出面からの深さは約0.8mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ローム粒をわずかに含む黒褐色土。3. ロームブロックを多く含む暗褐色土。4. 堆積がやや疎な暗褐色土。5. ソフトロームブロックを少し・ローム粒を若干含む暗褐色土。6. ロームブロック(小)をわずかに含む黒褐色土。7. ロームブロック(大)を多く含む堆積が疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

040号土坑(遺構 第92図)

W15-41から西へ1 mに位置する。プランは長辺約1.55m、短辺約1.15mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで中央に径約0.3mの円形のピットを1個検出した。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1 mである。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ソフトロームを多く含む褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積はやや疎な暗褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。6. ロームブロック(大)を多く含む褐色土。7. ロームブロックを少し含む褐色土である。形態的には陥穴状遺



第92図 大野第7遺跡縄文時代土坑(5) (1/80)

構になると思われる。遺物の検出はない。

041号土坑（遺構 第92図）

W15-42から南へ2 mに位置する。プランは径約1.3mの円形を呈する。床面はやや北側へ傾斜している。また床面南側で小ピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.4mでピットの最深部までの深さは約0.5mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を少し・ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。3. ローム粒をやや多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ロームブロック（大）を多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む褐色土。6. 堆積がやや疎な暗褐色土。7. ローム粒（大豆大）を多く含む黒褐色土である。陥穴状遺構とは考えられない。遺物の検出はない。

042号土坑（遺構 第92図）

V15-24から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸約1.35m、短軸約1 mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はフラットでほぼ中央に径0.2mの円形のピットを1個検出している。検出面からの深さは約1 mでピットの最深部までの深さは約1.25mである。覆土は1. ローム粒を少し・炭化粒をわずかに含む褐色土。2. ローム粒・褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロック（大）を多く含むローム粒を少し含む堆積がやや疎な黒褐色土。5. ロームブロック（小）・ローム粒を多く含む堆積がやや疎でサクサクな褐色土。6. ローム粒を少し含む堆積がサクサクな暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

043号土坑（遺構 第92図 遺物 第96図 11～14）

U16-54から南へ1 mに位置する。011号方形周溝状遺構の内側に検出されている。プランは長軸約2.55m、短軸約1.35mの長楕円形を呈する。床面には幅いっぱいの方形のピットが2個並んで検出された。なおピットとピットの中の円形のピットは浅いのでこれらのピットとは同じものとは考えられない。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1.2mである。覆土は1. ローム粒・ロームブロック（小）を少し含む褐色土。2. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。3. ソフトローム・ハードロームブロックを多く含む黄褐色土。4. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ロームブロックを多く含む褐色土。6. ローム粒を少しとロームブロックを若干含む暗褐色土。7. 堆積がやや疎な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。時期は出土遺物から前期より以前になるのではないかと考えられる。

遺物は覆土1で検出されたもので遺構が完全に埋まったのちに堆積した土層で直接遺構とかわりがあるものではないが、遺構の時期決定にはなると思われる。遺物は全て前期の繊維土器の口縁部から胴部にかけての破片である。地文に複節のRLRの縄文を配している。

044号土坑（遺構 第92図）

V15-36から東へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長辺約1.55m、短辺0.6mのややふくらみを持つ長方形を呈する。床面はフラットで一辺0.25mの方形のピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.6mでピットの最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. 褐色土ロームブロックを少し・ローム粒を若干含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ロームブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土。5. ロームブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

045号土坑（遺構 第93図）

V16-48から北へ2 m、東へ1 mに位置する。001号住居跡に南側の壁を切られている。プランはほぼ径1.25mの円形を呈する。床面フラットである。検出面からの深さは約0.7mである。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土。3. ローム粒がやや多くソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒（大豆大）を少し含む堆積がやや密な暗褐色土。5. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土である。陥穴状遺構ではないが縄文時代の土坑と考えられる。遺物は時期不明の土器片が覆土3から1点出土した。

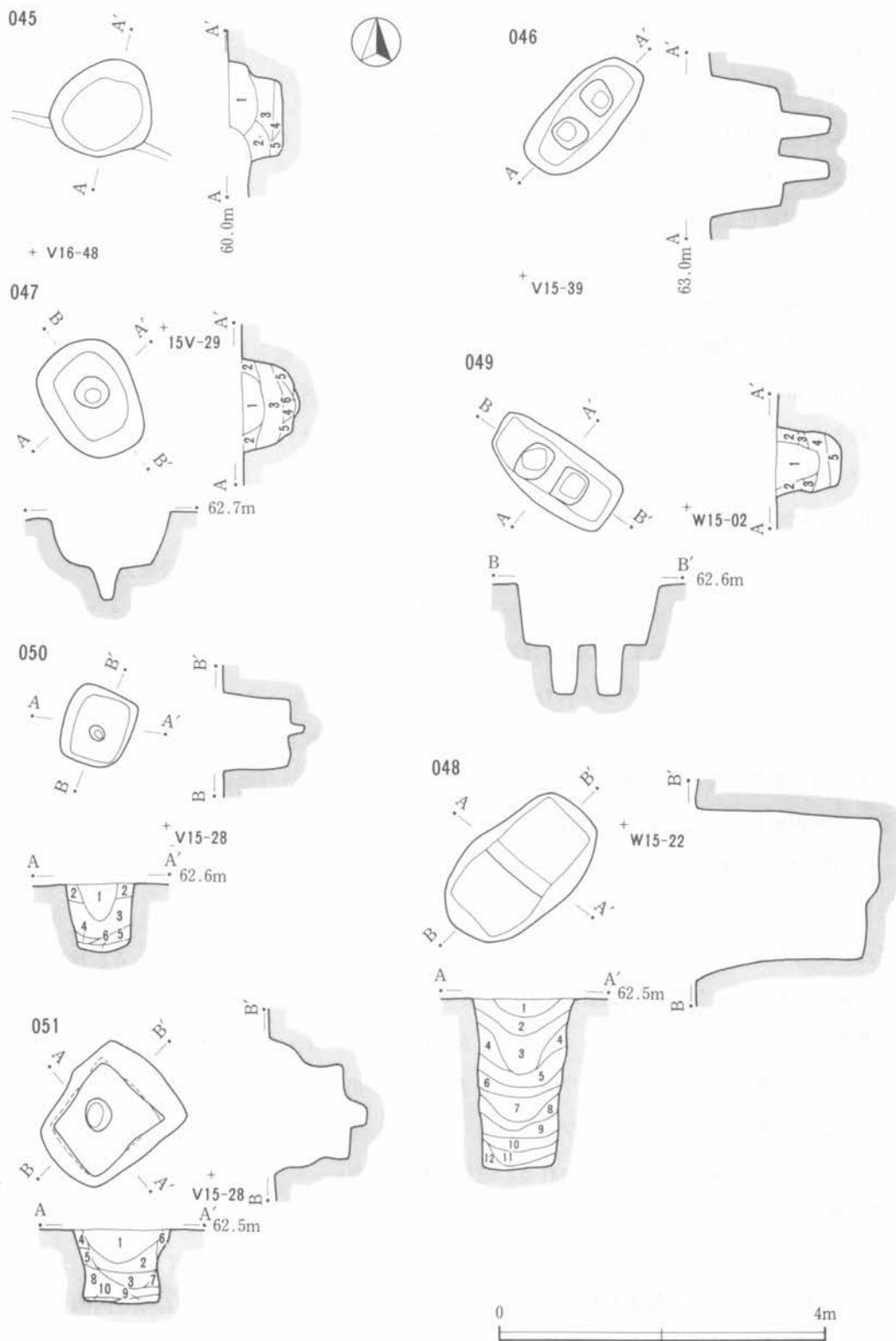
046号土坑（遺構 第93図）

V15-39から北へ2 m、東へ1 mに位置する。047号土坑と隣合う。プランは長軸約1.7m、短軸約0.85mの長方形に近い楕円形を呈する。床面には径約0.4mの円形のピットが2個検出されている。検出面からの深さは約0.85mでピット最深部までの深さは約1.45mである。覆土は調査時に土層断面を実測していないので不明である。ただし形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

047号土坑（遺構 第93図）

V15-29から西へ1 m、南へ1 mに位置する。046号土坑と隣合う。プランは長軸約1.45m、短軸約1.1mである。床面はやや中程が低くなる。また床面中央部から径0.35mほどのピットが1個検出されている。検出面からの深さは約0.6mでピット最深部までの深さは約1 mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む壁の崩落土である褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含むローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒（大豆大）を少し含む堆積がやや密な黒褐色土。5. ローム粒を若干含む暗褐色土。6. ロームブロックを若干含む褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。土層断面から判断すると複数回使用された可能性がある。遺物の検出はない。

048号土坑（遺構 第93図）



第93図 大野第7遺跡縄文時代土坑(6) (1/80)

W15-22から西へ1 mに位置する。長軸約2.1m、短軸約1.25mの長方形に近い楕円形を呈する。床面は中程に0.15m程の段がある。検出面からの深さは約2 mある。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土。2. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。3. ローム粒（大豆大）を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な黒褐色土。5. ローム粒（大豆大）をやや多く含む黒褐色土。6. ローム粒・ロームブロックを少し含む黒褐色土。7. ローム粒を少し含む灰褐色土ブロックを多く含む黒色土。8. ロームブロックを多く含む堆積がやや疎でサクサクな黒褐色土。9. ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。10. ローム粒を若干・灰褐色土ブロックを多く含む粘性を帯びている暗褐色土。11. ローム粒を若干含む堆積がやや密で硬く粘性を帯びている暗褐色土。12. 堆積が疎でサクサク、粘性は強い灰褐色土である。陥穴状遺構として考えているが他のものと比較して大きくて深い。また床面にピットもみられない。遺物の検出はない。

049号土坑（遺構 第93図）

W15-02から西へ1 mに位置する。プランはほぼ長辺1.75m、短辺0.85mの長方形を呈する。床面はフラットで一辺0.4mの方形のピットを2個検出している。検出面から床面までの深さは約0.7mでピットの最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒をやや多く含むソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。5. ローム粒（大豆大）を少し含む堆積がやや疎でサクサクな黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。土層断面から二度にわたって使用されたと考えられる。遺物の検出はない。

050号土坑（遺構 第93図）

V15-28から西へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長辺約0.95m、短辺約0.85mの正方形に近い長方形を呈する。床面はフラットで中央部分に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1 mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロック・褐色土ブロックを含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。6. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

051号土坑（遺構 第93図）

V15-17から北へ1 m、西へ1 mに位置する。プランは長辺約1.7m、短辺は1 mから1.3mありどちらかという長方形より台形を呈している。壁の立ち上がりは床面からやや内側にオーバーハングして開口部に向かって外反する形になっている。床面はフラットで中央に径0.3mの円形ピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までは約1.2m

である。覆土は1. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。2. ローム粒を微量・褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含む暗褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。6. ロームブロック（小）を多く含む褐色土。7. 堆積がやや疎な暗褐色土。8. ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土。9. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。10. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

052号土坑（遺構 第94図）

V15-07から南へ1 m、西へ1 mに位置する。プランは長辺約1.15m、短辺約0.85mの長方形を呈する。床面はフラットで床面の中程に径0.25mの円形ピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.5mでピットの最深部までの深さは約0.8mである。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。2. ローム粒を多く含む褐色土。3. ロームブロックをわずかに含む黒褐色土。4. ロームブロック（小）を少しとソフトロームを含み堆積がやや疎な暗褐色土。5. ロームブロックを多く含むソフトロームを含む褐色土。6. 堆積が疎でサクサクな黒色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

053号土坑（遺構 第94図）

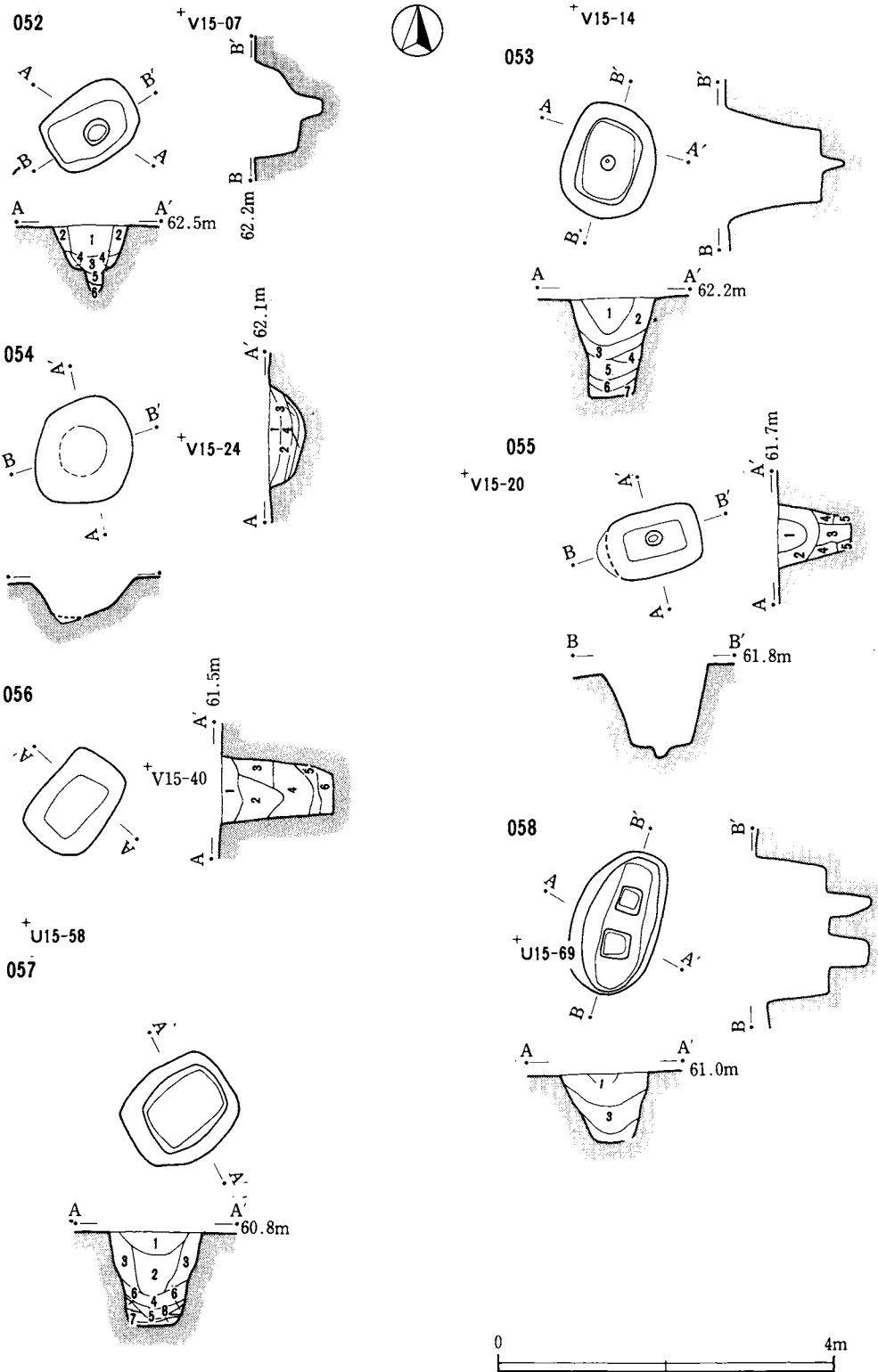
V15-14から南へ2 mに位置する。プランは長軸約1.35m、短軸約1.1mの楕円形を呈する。床面はフラットで床面の中程に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは約1.1mでピットの最深部までの深さは約1.4mである。覆土は1. ローム粒を多く含む黒色土。2. 褐色土ロームを多く含むローム粒をわずかに含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒をやや多く含むロームブロックを少し含む暗褐色土。5. ロームを非常に多く含む褐色土。6. ローム粒を少し含む黒色土。7. ローム粒・ロームブロックを少し含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。なお5層下部から炭化材が出土したがこの遺構の上部構造に関係ある部材かもしれない。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

054号土坑（遺構 第94図）

V15-24から西へ1 mに位置する。プランは長軸約1.35m、短軸約1.1mの円に近い楕円形を呈する。床面はやや皿状になる。検出面からの深さは約0.45mである。調査の段階で壁及び床面の西半分を掘りすぎた。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒を多くソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。4. ロームブロックを多く含む黒色土である。陥穴状遺構とは考えられないので別の機能を考えなければならぬ。遺物の検出はない。

055号土坑（遺構 第94図）

V15-20から東へ2 m、南へ1 mに位置する。062号土坑と直交する形で切り合う。新旧関係



第94図 大野第7遺跡縄文時代土坑(7) (1/80)

はこちらの遺構のほうが新しい。プランは長辺約1.15m、短辺約0.75mの長方形を呈する。床面はフラットで中央に径0.2mの円形のピットを1個検出している。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. 褐色土ブロックを多く含むロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを若干含む黒褐色土。4. ソフトロームブロック（大）を多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒・ロームブロック（小）を若干含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

056号土坑（遺構 第94図）

V15-40付近に位置する。プランは長辺約1.25m、短辺約0.85mの長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約1.3mである。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含むローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ロームブロック（小）を少し含むローム粒を多く含む堆積がやや疎な黒褐色土。5. ロームブロック（大）を非常に多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。6. ローム粒（小）・ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

057号土坑（遺構 第94図）

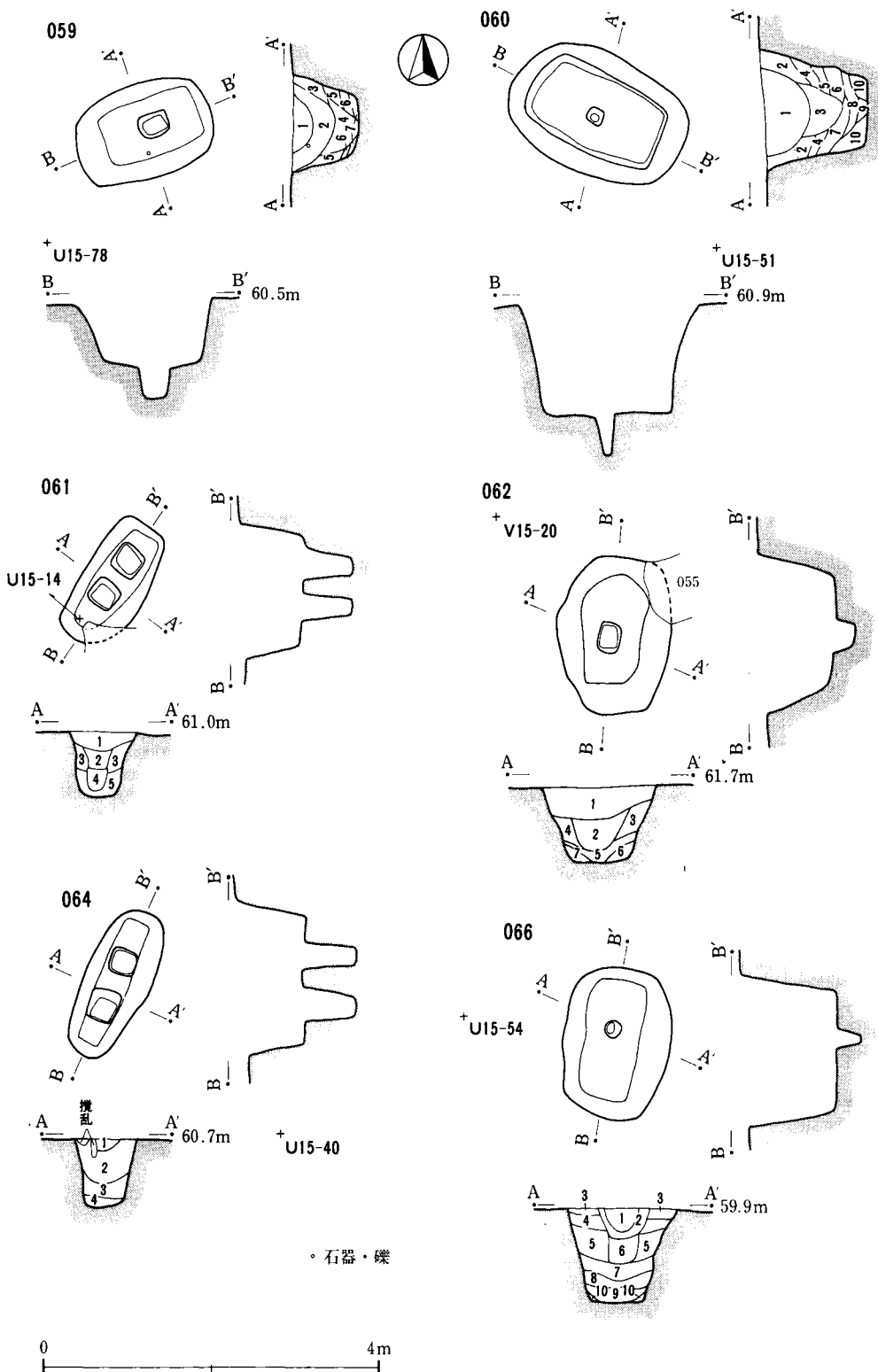
U15-58から南へ2m、東へ2mに位置する。プランは長辺約1.3m、短辺約1.15mの方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約1.1mである。覆土は1. ローム粒を含む黒色土。2. ローム粒を少し含む堆積がやや密な黒褐色土。3. ソフトロームブロック（小）を少し・ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。5. ローム粒をやや多く含む堆積が疎な黒褐色土。6. ロームブロック（大）を多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。7. ローム粒を多く含む暗褐色土。8. ロームブロックを少し含む堆積がやや密な暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

058号土坑（遺構 第94図）

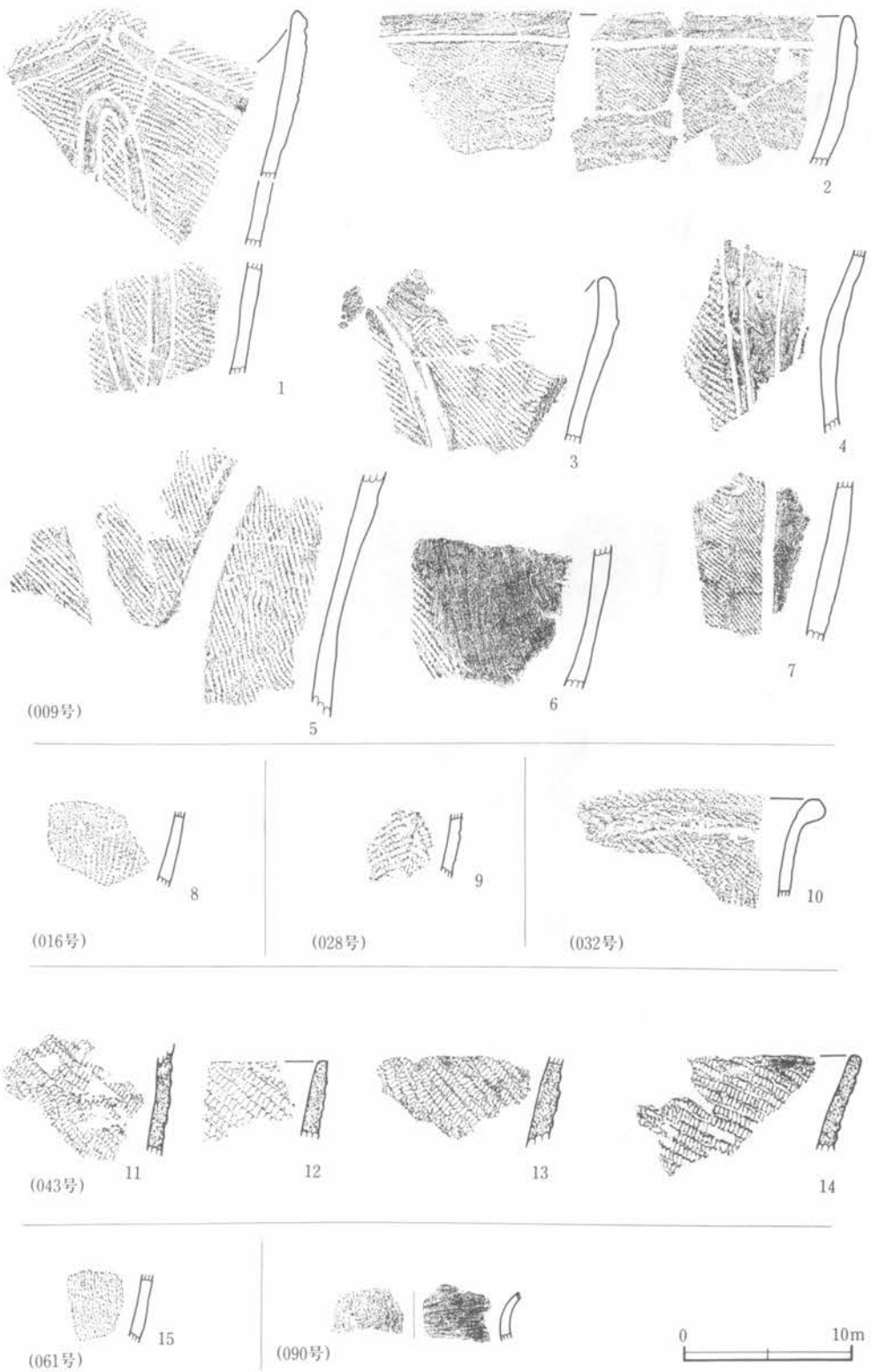
U15-69から東へ1mに位置する。プランは長軸約1.7m、短軸約1.05mの楕円形を呈する。床面はやや中程に低く傾斜している。また床面には一辺約0.3mのピットが2個並んで検出された。検出面からの深さは約0.85mでピットの最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. 堆積がやや密な黒色土。2. ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

059号土坑（遺構 第95図）

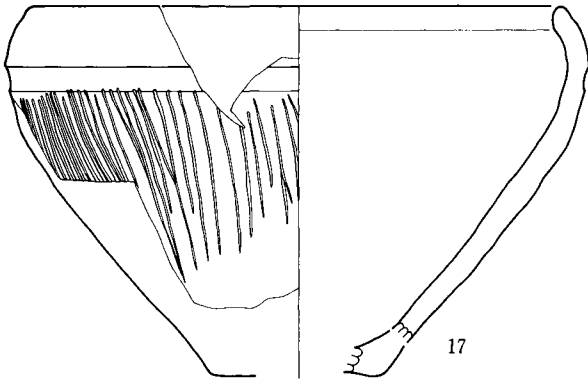
U15-78から東へ1m、北へ1mに位置する。プランは長辺約1.7m、短辺約1.15mの長方形を呈する。床面はやや中程に低く傾斜している。また床面には一辺約0.3mのピットが1個検出



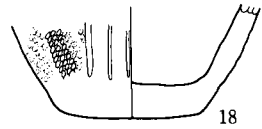
第95図 大野第7遺跡縄文時代土坑(8) (1/80)



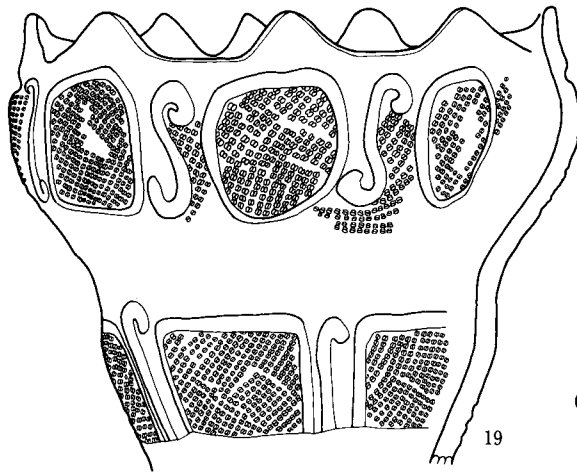
第96图 大野第7遺跡 遺構内出土土器(1) (1/4)



17



18



19

0 10m

第97図 大野第7遺跡 遺構内出土土器(2)(1/4)

されている。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1.25mである。覆土は1. ローム粒を多く含む褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土ブロックを少しふくむ黒褐色土。3. ロームブロック（小）を若干含む褐色土ブロックを若干含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む黒褐色土。6. ロームブロック（小）を若干含む堆積がやや疎な黒褐色土。7. 堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

060号土坑（遺構 第95図）

U15-57から東へ3m、北へ1mに位置する。プランは長軸約2.15m、短軸1.45mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中央部分に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは約1.3mでピットの最深部までの深さは約1.45mである。覆土は1. ロームブロック（小）を少しとローム粒を多く含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒を若干含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。5. ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。6. ロームブロックを多く含む堆積がやや疎な褐色土。7. ロームブロック（大）を少し含む暗褐色土。8. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや疎な黒褐色土。9. ローム粒を少し含む暗褐色土。10. ロームブロックを非常に多く含む堆積がやや疎な暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

061号土坑（遺構 第95図 遺物 第96図 15）

U15-14に位置する。プランは確認調査時に南側の壁の一部を消失しているが長辺約1.6m、短辺0.8mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで一辺0.35mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.7mでピットの最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. 褐色土ブロック・ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ソフトロームブロック（大）を多く含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む黒色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土である。この土層断面からは二度以上の使用が考えられる。

遺物は覆土一括の遺物で縄文時代早期井草式の土器の胴部破片数点が出土した。土層下部の一括土器片ということでこの形態の陥穴状遺構の年代がこの時期に限定される可能性がある。

062号土坑（遺構 第95図）

V15-20から東へ1m、南へ1mに位置する。055号土坑と直交して切り合う。新旧関係は055号土坑より古い。プランは長辺約1.85m、短辺約1.35mのやや楕円がかった長方形を呈する。床面はフラットで中程に一辺約0.3mの方形のピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.75mでピットの最深部までの深さは約1.05mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。5. ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。6. ローム

ブロック（小）を多く含む堆積がやや疎な褐色土。7. 褐色土ブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

064号土坑（遺構 第95図）

V15-40から西へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸約1.85m、短軸約0.8mの長楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中程に並列した一辺約0.35mの2個のピットを検出している。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1.35mである。覆土は1. 褐色土ブロック・ロームブロックを少し含む黒色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

066号土坑（遺構 第95図）

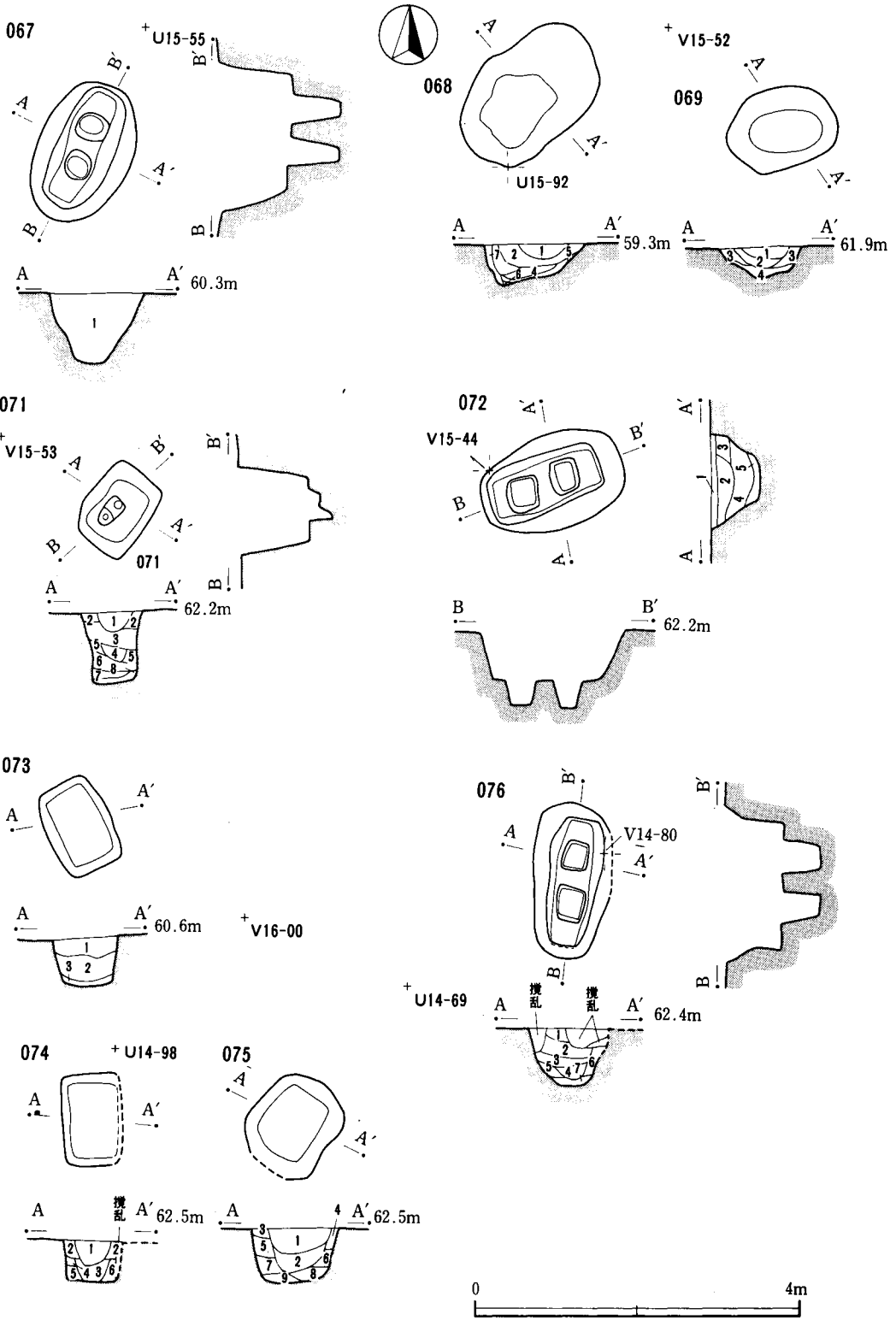
U15-54から西へ2mに位置する。プランは長辺1.8m、短辺1.25mの楕円ががった長方形を呈する。床面はフラットで中程に径約0.2mのピットを1個検出している。検出面からの深さは約1.5mでピットの最深部までの深さは約1.8mである。覆土は1. ローム粒を少し含む焼土粒をわずかに含む黒色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。5. ローム粒をわずかに含む黒褐色土。6. ローム粒を少し含む褐色土。7. ローム粒をやや多く含む褐色土。8. ロームブロックを若干含む暗褐色土。9. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。10. ロームブロック（大）を多く含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

067号土坑（遺構 第98図）

U15-55から西へ1m、南へ1mに位置する。プランは長軸約1.85m、短軸1.15mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中程に並列した径約0.4mのピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.85mでピットの最深部までの深さは約1.45mである。覆土は1. 褐色土ロームを多く含むローム粒が若干含む黒色土である。この土坑はこの土層が1層である。一度に埋め戻されたことが考えられる。使用後間もなく短期間の間に埋め戻されたとした考えられない。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

068号土坑（遺構 第98図）

U15-92に位置する。プランは長軸約1.95m、短軸約1.35mの楕円形を呈する。床面・壁とも小さな凹凸があり一定ではない。床面は北東側へややなだらかに立ち上がる。検出面からの深さは約0.45mである。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む堆積はやや疎な暗褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。3. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む黒褐色土。5. 堆積がやや密で硬い暗褐色土。6. ロームブロックを少し含む暗褐色土。7. ソフトロームブロックを多く含む堆積が密な暗褐色土である。覆土の堆積状態



第98図 大野第7遺跡縄文時代土坑(9) (1/80)

・遺構の形態等から陥穴状遺構とは考えられない。

069号土坑（遺構 第98図）

U15-92から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸約1.35m、短軸約1 mの楕円形を呈する。床面はやや細かな凹凸がある。検出面からの深さは約0.4mである。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒・ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。3. ロームブロック（小）・ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積がやや密な暗黄褐色土である。覆土の堆積状態・遺構の形態等から陥穴状遺構とは考えられない。

071号土坑（遺構 第98図）

U15-92から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.05m、短辺0.8mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで中程に二段に掘り込んだ小ピットを検出している。検出面からの深さは約0.9mでピット最深部までの深さは約1.1mである。覆土は1. ローム粒をやや多く含む黒色土。2. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含むソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む黒褐色土。5. 堆積がやや疎な黒褐色土。6. 堆積が密でやや硬い暗褐色土。7. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや密で硬い暗褐色土。8. ロームブロックを若干含む堆積がやや密な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

072号土坑（遺構 第98図）

V15-44に位置する。プランは長軸約1.8m、短軸約1.15mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はほぼフラットで一辺約0.4mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.6mでピット最深部までの深さは約1 mである。覆土は1. ロームブロック（小）を若干含む暗褐色土。2. ソフトロームブロック堆積の黄褐色土。3. ロームブロック・ローム粒を多く含む黄褐色土。4. ローム粒・炭化粒をわずかに含む黒褐色土。5. 褐色土ブロックを少し含む堆積がやや密な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

073号土坑（遺構 第98図）

V16-00から西へ2 m、北へ1 mに位置する。プランは長辺約1.1m、短辺約0.8mの長方形を呈する。床面はほぼフラットである。また検出面からの深さは約0.6mである。覆土は1. ソフトロームブロック（小）をやや多く含む焼土粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む堆積がやや密な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

074号土坑（遺構 第98図）

U14-98から南へ1 mに位置する。東側の側壁は確認調査時に消失してしまっているがプラン

は長辺約1.15m、短辺約0.75mの長方形を呈するものと考えられる。床面はほぼフラットである。また検出面からの深さは約0.5mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒を若干含む堆積がやや密な暗褐色土。3. ローム粒を少しとロームブロック(小)を若干含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを含む黒褐色土。5. ローム粒・ロームブロック(小)を若干含む堆積が密で硬い黒褐色土。6. 堆積が密で硬い暗褐色土である。073号土坑と同様なタイプで機能的にも陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

075号土坑(遺構 第98図)

U14-69から西へ1m、南へ2mに位置する。南側は調査時に掘りすぎてしまったがプランはほぼ長辺1.25m、短辺1mの隅丸方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約0.65mである。覆土は1. ローム粒を含む黒色土。2. 堆積がやや密で硬い黒色土。3. ソフトロームを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ロームブロック(小)を少し・ローム粒を多く含む暗褐色土。7. ロームブロックを多く含む暗褐色土。8. ローム粒を少し含む黒褐色土。9. 堆積が密で硬い黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

076号土坑(遺構 第98図)

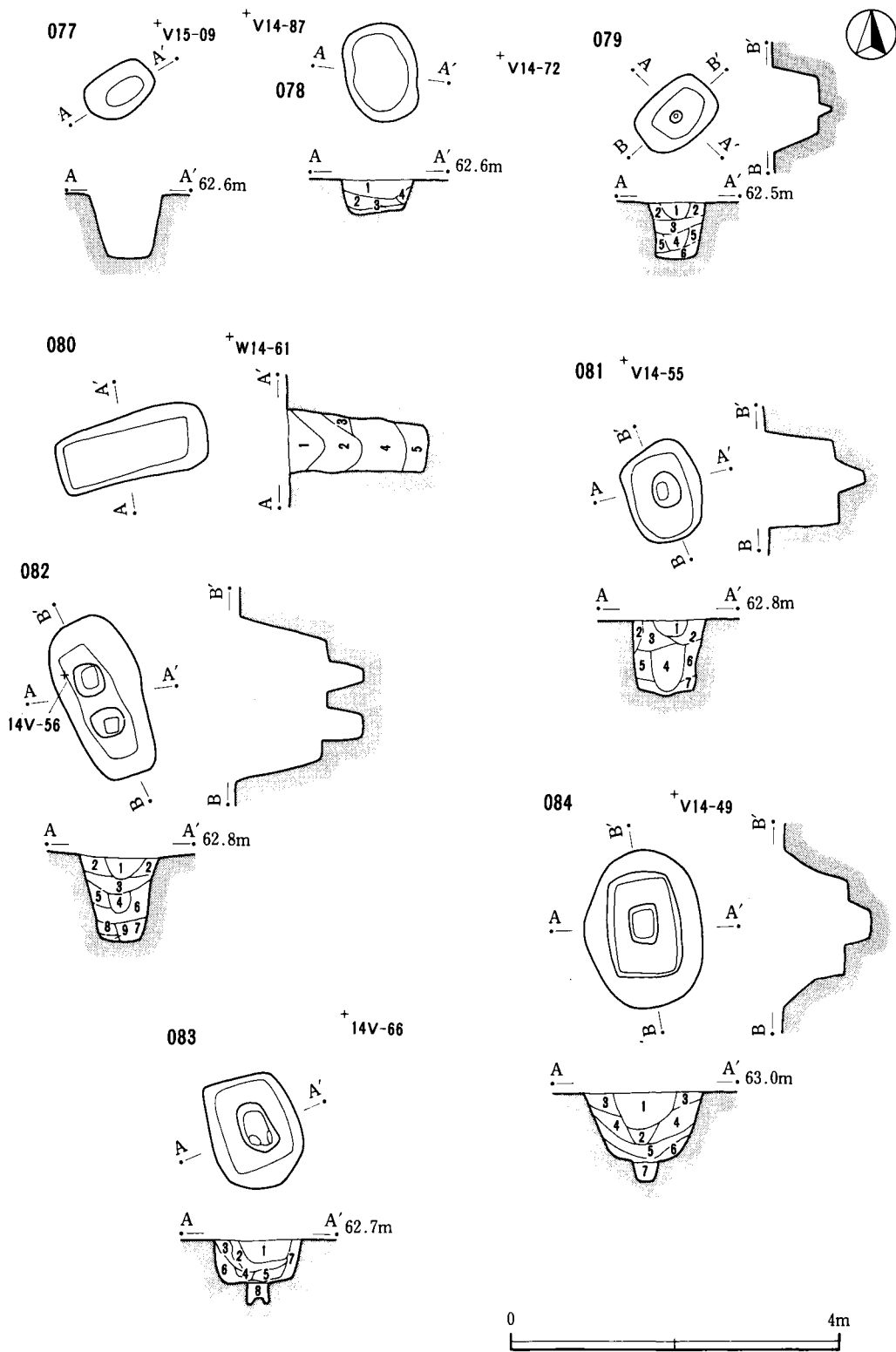
V14-80に位置する。確認調査及び攪乱によって東側の壁が一部消失しているがプランは長軸約1.9m、短軸約0.95mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで一辺約0.35mの方形のピットが2個検出している。検出面からの深さは約0.7mでピットの最深部までの深さは約1.15mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む堆積がやや密な黒褐色土。3. 褐色土ブロック・ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を若干含む黒褐色土。5. ソフトロームブロック・ローム粒をやや多く含む暗褐色土。6. ローム粒(大)を多く含む暗褐色土。7. 堆積がやや密で硬い暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

077号土坑(遺構 第99図)

V15-09の付近に位置する。プランは長軸約0.85m、短軸約0.6mの楕円形を呈する。床面はフラットである。検出面からの深さは約0.8mである。土層断面は不明であるが規模が陥穴状遺構と断定するには小さいので、他の機能を考えるべきであろう。遺物の検出はない。

078号土坑(遺構 第99図)

V14-87から東へ2m、南へ1mに位置する。プランは長軸約1.2m、短軸約0.9mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はやや西側へ低く下がるがほぼフラットである。検出面からの深さは約0.4mである。覆土はローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロック(小)を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む黒褐色土である。形態・規模等から陥穴状遺構



第99図 大野第7遺跡縄文時代土坑(10)(1/80)

ではないと思われる。077号土坑同様他の機能を考えるべきであろう。遺物の検出はない。

079号土坑（遺構 第99図）

V14-72から東へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸約1 m、短軸0.7mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はほぼフラットでほぼ中央に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.7mで小ピット最深部までの深さは約0.85mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を少し・ロームブロックを若干含む褐色土。3. ローム粒・ロームブロックを若干含む黒褐色土。4. ローム粒を少し含む黒褐色土。5. ローム粒を若干含む暗褐色土。6. 堆積がやや密な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

080号土坑（遺構 第99図）

W14-61から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.85m、短辺0.75mの長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約1.7mである。覆土は1. ロームブロック（小）・ローム粒を多く含む堆積が疎でサクサクな褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。3. ロームブロック（小）を若干含む堆積が疎な暗褐色土。4. ロームブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。陥穴状遺構とするにはやや深すぎるようであるが、形態上から判断して問題なく陥穴状遺構としてよいと思われる。遺物の検出はない。

081号土坑（遺構 第99図）

V14-55から南へ1 m付近に位置する。プランは長辺約1.15m、短辺約0.9mの隅丸長方形を呈する。床面はほぼフラットで中程に径0.4mのピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1.2mである。覆土は1. ローム粒を若干含む黒褐色土。2. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む黒褐色土。5. ローム粒・ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。6. ローム粒を少し含む黒褐色土。7. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや疎な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

082号土坑（遺構 第99図）

V14-56に位置する。プランは長軸約2 m、短軸約0.9mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はほぼフラットで径約0.4mのピットが2個並んで検出された。検出面からの深さは約1 mでピットの最深部までの深さは約1.4mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ロームブロック（小）を多く含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を少し含む黒褐色土。5. ローム粒を若干含む暗褐色土。6. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。7. ローム粒を若干含む堆積が疎な暗褐色土。8. ロームブロック

を非常に多く含む暗褐色土。9. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

083号土坑（遺構 第99図）

V14-66から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺約1.35m、短辺約1.05mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで中央に大きなピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.5mでピット最深部までの深さは約0.75mである。覆土は1. 細かいローム粒を少し含む暗褐色土。2. 細かいローム粒をわずかに含む黒褐色土。3. 明褐色土。4. 暗褐色土。5. 褐色土。6. 黄褐色土。7. 暗黄褐色土。8. 明褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

084号土坑（遺構 第99図）

V14-47から南へ1 mに位置する。プランは長軸約1.9m、短軸約1.4mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中央部分に一辺0.4mの方形のピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1.05mである。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや密な暗褐色土。2. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。5. 褐色土ブロックを少しとロームブロックを少し含む暗褐色土。6. ローム粒を少し含む暗褐色土。7. 堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

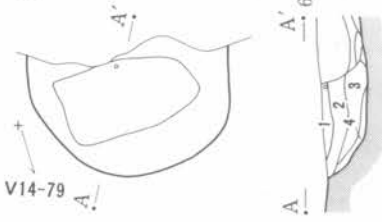
085号土坑（遺構 第100図）

V14-79から西へ1 mに位置する。北側は風倒木痕に切られているため壁の立ち上がりを確認できなかったが、プランはおおよそ長軸2.1m、短軸1.8mの楕円形を呈する。床面はやや西側から東側へと傾斜している。検出面からの深さは約0.6mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ロームブロック・ローム粒を非常に多く含む褐色土である。陥穴状遺構以外の機能を考えた方がよさそうな土坑である。遺物の検出はない。

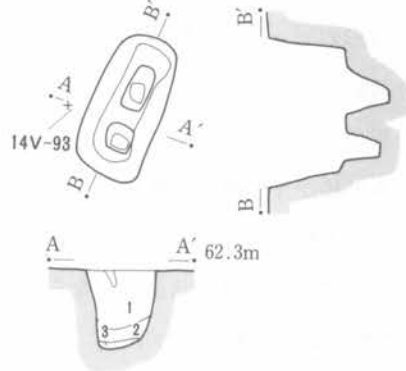
086号土坑（遺構 第100図）

ほぼV14-93に位置する。北東の壁の一部を008号掘立柱建物によって壊されているがプランはおおよそ長辺1.55m、短辺0.75mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで一辺0.3m以上の方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部の深さは約1.2 mである。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含むローム粒を少し含む黒褐色土。2. 均一のローム層の黄褐色土。3. 堆積は疎でサクサクな暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。土層断面より考えると一度貼り床をおこない二度以上利用していると考えられる。遺物の検出はない。

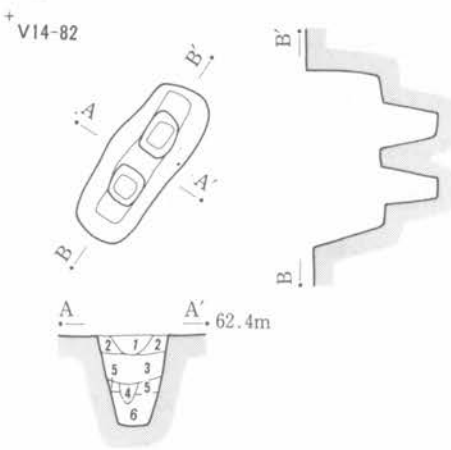
085



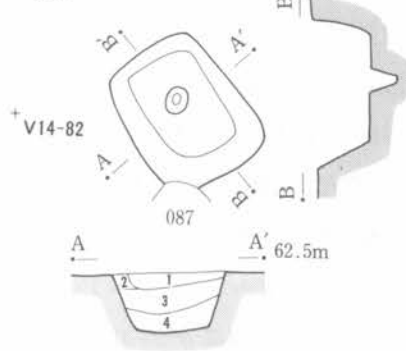
086



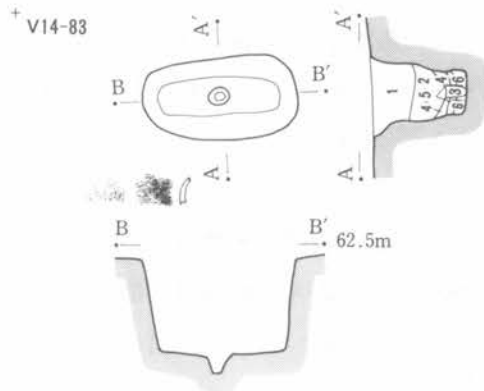
087



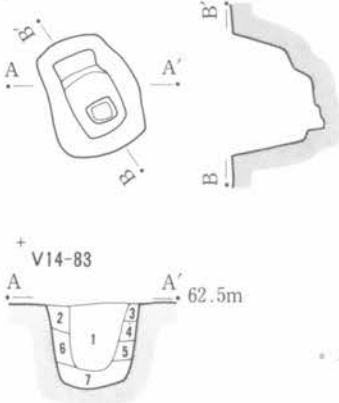
088



090



089



• 石器・礫



第100図 大野第7遺跡縄文時代土坑(11) (1/80)

087号土坑（遺構 第100図）

V14-82から東へ1 m、南へ2 mに位置する。088号土坑の壁を一部切るようにして接している。プランは長辺約1.85m、短辺0.75mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで一辺約0.35 mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.75mでピットの最深部までの深さは約1.35mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ローム粒を若干含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含むロームブロックを若干含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な黒褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ロームブロックを少し・ローム粒をやや多く含む暗褐色土である。新旧関係は088号土坑より087号土坑のほうが新しい。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

088号土坑（遺構 第100図）

V14-82から東へ2 mに位置する。087号土坑と南側の壁の一部を切られるような形で接している。プランは長辺1.55m、短辺1.2mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで中程に径約0.2 mのピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.6mでピットの最深部までの深さは約0.95mである。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. 堆積がやや疎な褐色土。3. ローム粒・褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

089号土坑（遺構 第100図）

V14-83から東へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長辺約1.3m、短辺約1 mの長方形を呈する。床面は北側部分で約0.2mの段がある。また床面の低い部分には約0.25mの小ピットが1個検出されている。調査時に二度以上使用されたという所見があったがむしろ古い南側の土坑を一部利用して北側に幾分拡張したのではないかと思われる。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1 mである。覆土は1. ローム粒をやや多く含む黒褐色土。2. ソフトロームを少し含む黒褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む褐色土。5. ロームブロックを少し含む暗褐色土。6. ローム粒を少し含む黒褐色土。7. ローム粒を多く含むロームブロック（小）を少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

090号土坑（遺構 第100図 遺物 第96図 16）

V14-83から東へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長辺約1.6m、短辺0.85mの長方形を呈する。床面はほぼフラットである。また中程には径0.2mのピットが1個検出されている。検出面からの深さは約1 mでピットの最深部までの深さは約1.2mである。覆土は1. ローム粒を若干含む褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。2. ローム粒をやや多く含む黒色土。3. ローム粒を多く含む（二度目のピット部分）黒褐色土。4. ローム堆積（二度目の床部分）の黄褐

色土。5. ローム粒をやや多く含む堆積が疎な黒褐色土。6. ローム粒・ロームブロック（小）を多く含む堆積は疎でサクサクな暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。土層断面により二度以上の使用が考えられる。

遺物は前期の無文土器の破片が覆土1中より1点検出された。表面は風化が著しく裏面は条痕がみられる。

091号土坑（遺構 第101図）

W15-02から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺約2.8m、短辺約1.3mの楕円がかった長方形を呈する。床面はほぼフラットで径約0.4mの円形と方形のピットを合わせて2個検出している。検出面からの深さは約1.2mでピット最深部までの深さは約1.55mである。

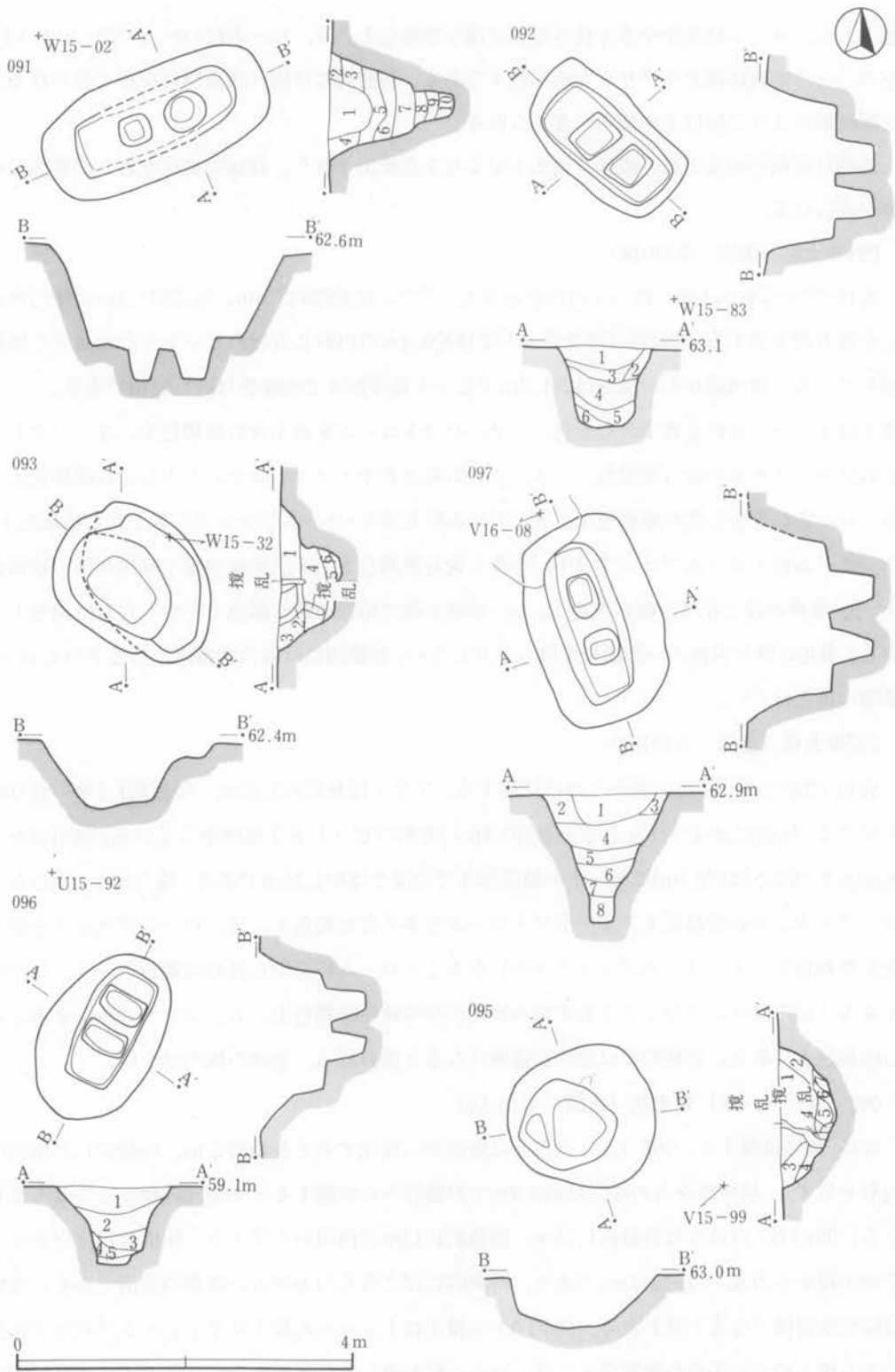
覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ソフトロームを若干含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土。4. ローム粒を若干・ソフトロームを少し含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ローム粒を多く・ロームブロックを若干含む暗褐色土。7. ローム粒・ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。8. 堆積が疎で粘性が強い暗褐色土。9. 堆積が疎で粘性が強い黒色土。10. 堆積が疎で粘性が強く黒色土を少し含む暗褐色土である。南北の壁と床面の一部はややはっきりしない。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

092号土坑（遺構 第101図）

W15-02から西へ1 m、北へ2 mに位置する。プランは長辺約2.05m、短辺約1.1mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで一辺約0.4mの方形のピットを2個検出している。検出面から床面までの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1.35mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ソフトロームを多く含む褐色土。3. ロームブロックを少し含む黒褐色土。4. ロームブロック（小）を多く・ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含むロームブロックを若干含む堆積がやや疎な暗褐色土。6. ソフトロームを多く含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

093（A）・（B）号土坑（遺構 第101図）

W15-32に位置する。093（A）のほうは断面から復元すると長軸約2 m、短軸約1.25mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.3mで形態等から判断すると小竪穴の様なものと考えられる。093（B）のほうは長軸約1.55m、短軸約1.15mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで検出面からの深さは約0.75mである。時期的にはこちらの方が古い時期の遺構である。性格は陥穴状遺構になると思われる。093（A）の覆土は1. ローム粒とソフトロームブロックを少し含む焼土粒を若干含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。2'. 硬化している（ブロック状のものが連続している）黒褐色土である。093（B）の覆土は3. ソフトロームブロッ



第101図 大野第7遺跡 縄文時代土坑(12) (1/80)

ク（小）を多く含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む焼土粒をわずかに含む黒褐色土。5. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。6. 堆積がやや疎な褐色土である。こちらは形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

094号土坑（遺構 第101図）

V16-08から東へ1 m、南へ1 mに位置する。006号掘立柱建物跡のピットに北側の壁の一部を切られているがプランはおおよそ長辺2.35m、短辺1.55mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで一辺約0.4mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約1 mでピットの最深部までの深さは約1.55mである。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ソフトロームを多く含む褐色土。3. ソフトロームを少し含む暗褐色土。4. ロームブロック（小）をやや多く含む暗褐色土。5. ソフトローム及びロームブロック（小）を多く含む暗褐色土。6. ロームブロックを多く含む褐色土。7. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土。8. ロームブロック及びローム層で堆積はやや疎な明黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

095号土坑（遺構 第101図）

V15-99から西へ2 m、北へ1 mに位置する。プランはほぼ径1.7mの円形を呈する。床面はやや中央部が低く壁際に向かってだらだらと立ち上がっていく。壁は東側は比較的緩やかに立ち上がり、西側では急激に立ち上がる。検出面からの深さは約0.65mである。覆土は1. 褐色土ブロックを含みロームブロックを若干含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを非常に多く含む褐色土。4. ロームブロック（小）を多く含む暗褐色土。5. ローム粒（大）をやや多く含む堆積は密で硬い黒色土。6. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。7. ロームを多く含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構とは考えられない。遺物の検出はない。

096号土坑（遺構 第101図）

U15-92から南へ2 mに位置する。プランは長軸約2.1m、短軸1.35mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで長辺約0.4m、短辺約0.25mの長方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピット最深部までの深さは約1.3mである。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。3. ロームブロック（小）を若干含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ソフトロームブロックをやや多く含む褐色土。5. ロームブロックを少し・ローム粒を若干含む褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

097号土坑（遺構 第102図）

V14-68から北へ1 m、東へ1 mに位置する。プランは長辺約1.6m、短辺0.8mの長方形を呈

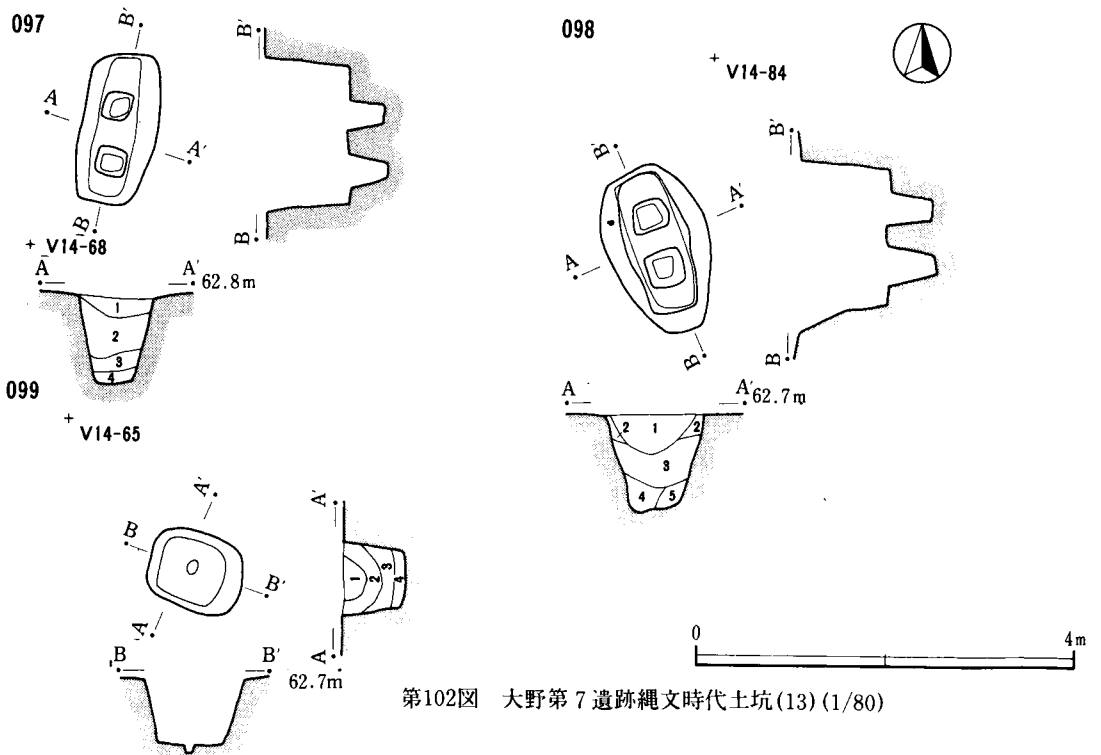
する。床面はほぼフラットで並列した一辺約0.3mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピット最深部までの深さは約1.25mである。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ソフトロームブロックを多く含む堆積がやや疎な黒褐色土。3. ロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ロームを非常に多く含む褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

098号土坑（遺構 第102図）

ほぼV14-64から南へ2mに位置する。プランは長軸1.75m、短軸1.1mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで並列した一辺約0.3mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.95mでピットの最深部までの深さは約1.45mである。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含むローム粒を若干含む黒褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒・ロームブロック（小）を少し含む堆積が疎な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

099号土坑（遺構 第102図）

ほぼV14-65から南へ1m、東へ1mに位置する。プランは長辺約1m、短辺約0.8mの長方形を呈する。床面はフラットで中央部に小ピットを1個検出している。床面からの深さは約0.55mでピットの最深部までの深さは約0.6mである。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ソフトロームブロック・褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒を少し・褐色土ブ



第102図 大野第7遺跡縄文時代土坑(13) (1/80)

ロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

3. 縄文時代等の包含層の遺物について

(1) 土器 (第104図20～49)

本調査時に縄文時代早・前期の土器片を中心に検出されている。20～22は早期前半の土器片である。21・22は口縁部の破片,23は底部の破片でいずれも器面に捺糸文が施されている。夏島式の土器片と思われる。24～35は前期の土器片でこの遺跡では一番多く検出された。24～32までは胎土に繊維が入り器面には縦方向の縄文が施されている。黒浜式の土器片であろう。34・34は平行沈線の間半裁竹管による刺突文が施されている。諸磯a式の土器片であろう。この時期のものは非常に少なかった。36～48までは中期の土器片である。36～43までは阿玉台式の土器片である。この時期の土器片も前期の土器片の次に多く検出された。44～48は加曽利E式の土器片である。器面に縄文や沈線を施したものが多い。住居跡とほぼ同じ時期のものが多い。49～50は後期の土器片で単節の縄文を施している。また口縁部は磨かれている。この遺跡での個体数は非常にすくない。

(2) 石器 (第105・106図1～47～9)

1は粒の細かい砂岩製の台石である。平な石の表裏にやや窪むくらいの打痕が見られる。また縁辺部にも打痕が見られるので敲き石としても使われた可能性もある。2はやや粒の荒い安山岩質砂岩製の小礫を利用して周辺部を両側から比較的大きな剥離で加工し短冊形に仕上げた打製石斧である。両面とも礫面を残している。3は細粒砂岩製の磨石片である。表裏とも磨かれている。4は粘板岩製の打製石斧である。礫面を一部残しているところから大きな礫からはぎ取られたものを素材として周辺部を細かく細工して分銅形に仕上げている。7～9は石鏃である。7はチャート製の凹基の石鏃である。両面とも細かく丁寧な加工で仕上げられている。8は黒曜石製の凹基の石鏃で先端と片脚が欠損している。基部の調整の仕方が荒い。9はチャート製の有茎の石鏃である。両面とも丁寧な加工で仕上げられている。011号(方形周溝状遺構)の覆土中から検出されているが混入品だと思われる。脚部が欠損している。

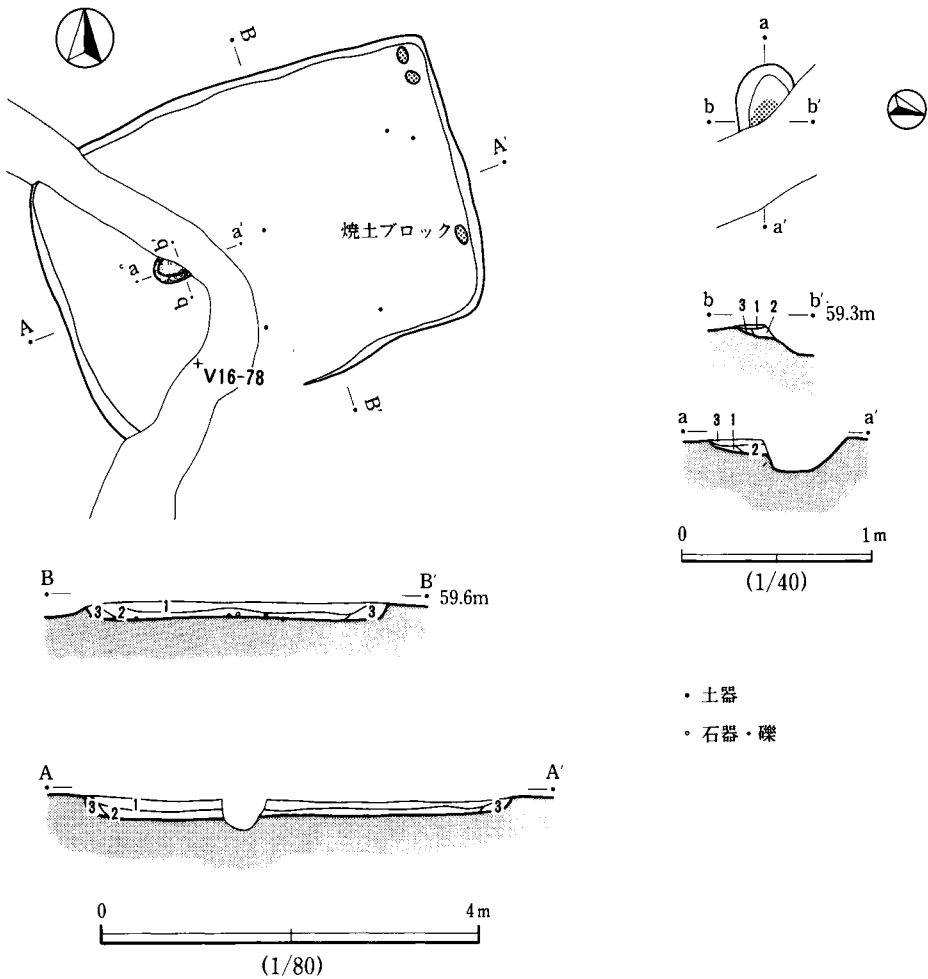
4. 弥生時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

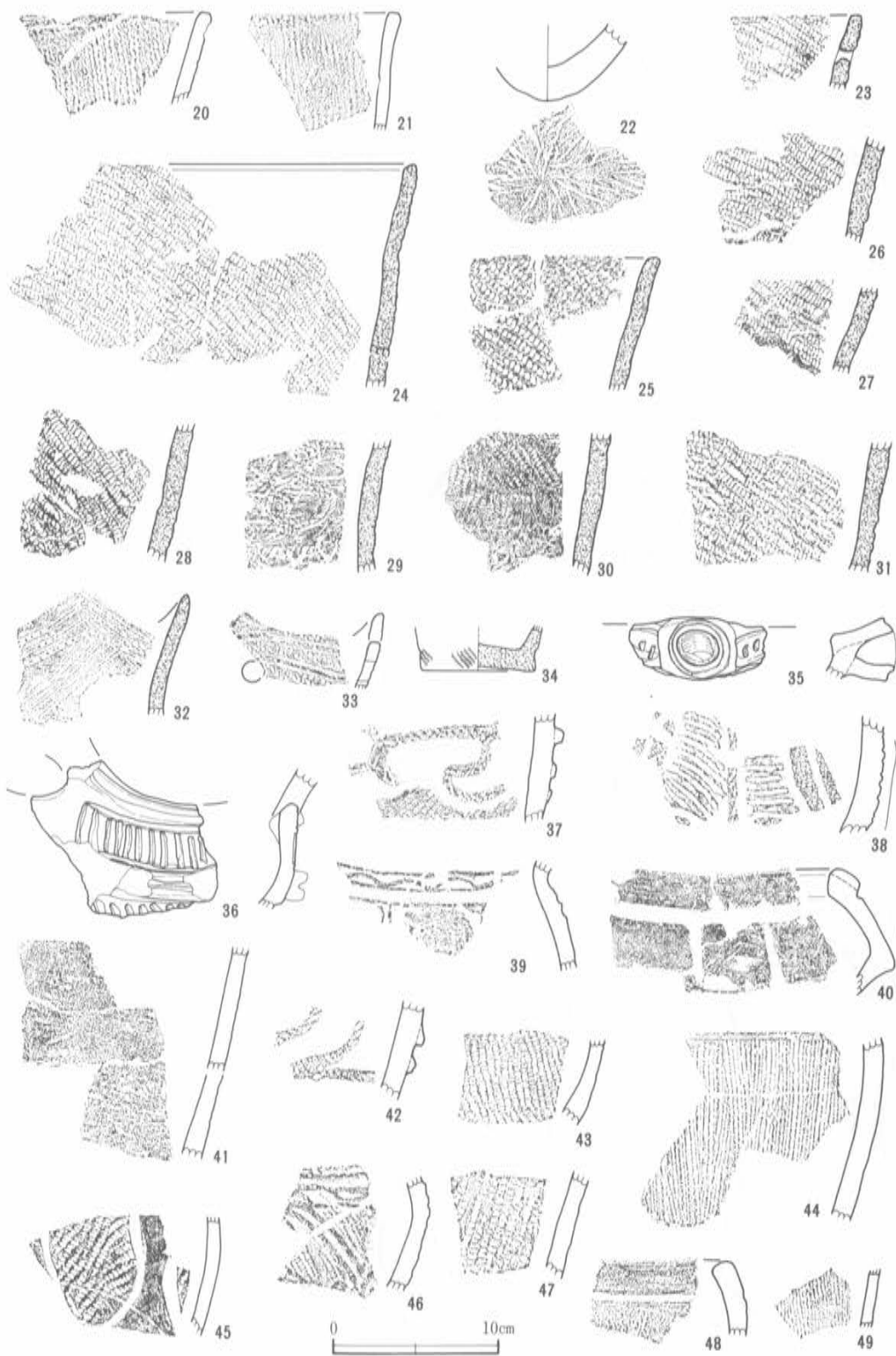
002号住居跡 (第103図)

V16-78に位置する。プランは長辺約4.5m、短辺約3mの隅丸長方形を呈する。010号方形周溝状遺構に切られている。炉は住居跡の中央よりやや西よりに認められる。半分以上010号で壊されていて詳細は不明であるが地床炉であろう。検出面から床面までの深さは約0.2mで比較的浅い。床面は全体に軟弱で特に硬化している場所は確認できなかった。また柱穴も検出されな

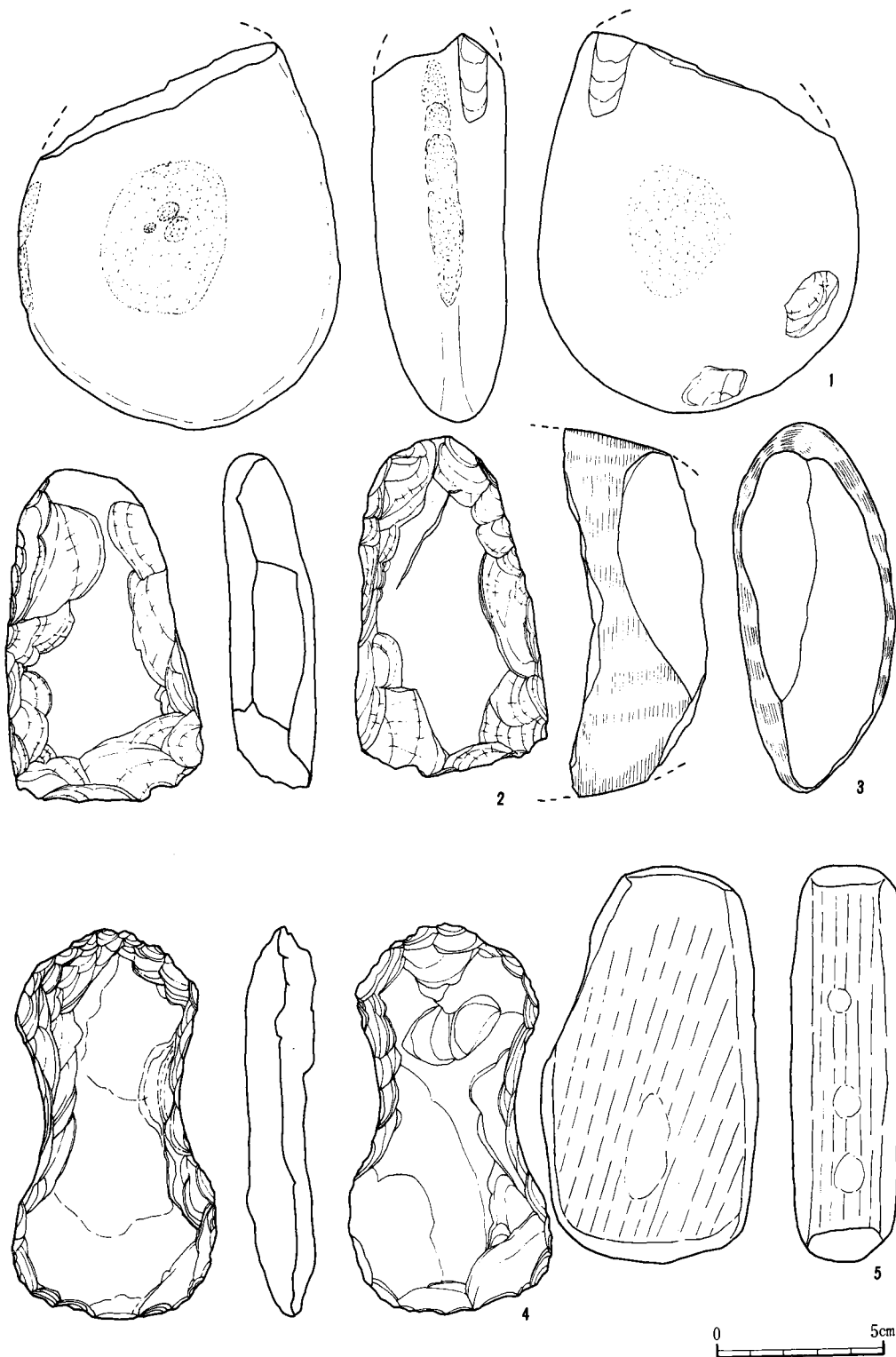
かった。遺物は6点の弥生時代の土器片が床直上で検出されたが細かな物ばかりで図示できるようなものはなかった。また東壁際に3箇所焼土ブロックが確認された。住居跡の覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ロームブロックを多く含む褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む堆積がやや疎な明褐色土である。炉の覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. 焼土ブロック・粒を多く含む暗褐色土。3. 焼土粒を少し含む焼けてサクサクしている暗褐色土である。細かな時期は特定できなかった。



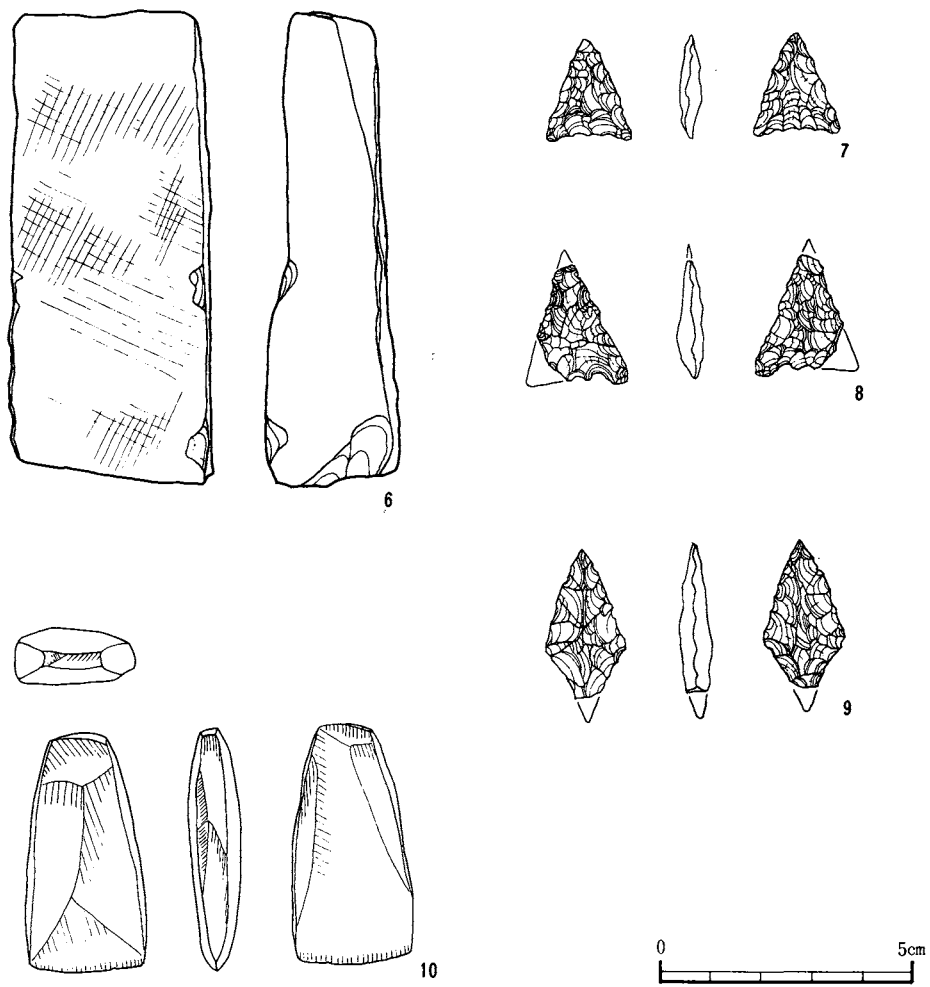
第103図 大野第7遺跡002号住居跡



第104図 大野第7遺跡包含層出土土器(1/4)



第105図 大野第7遺跡出土石器(1/2)



第106図 大野第7遺跡出土石器(2/3)

5. 奈良時代・平安時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

001号住居跡（遺構 第107図遺物 第111図1～3）

U16-48に位置する。プランは縦方向が約3.15m、横方向が約2.9mで南西コーナーが狭くなるやや不整形な方形を呈する。カマドはやや東向きの北側壁に構築されている。検出面からの深さは約0.15mで比較的浅い。床面は全体に軟弱で硬く踏み固められた所は認められなかった。床面からはP1～P3までのピットが3個検出された。住居跡の中央部のP1は床面から0.45mの深さがあり主柱穴になると思われる。他の2個のピットは浅く柱穴にはならないと思われる。

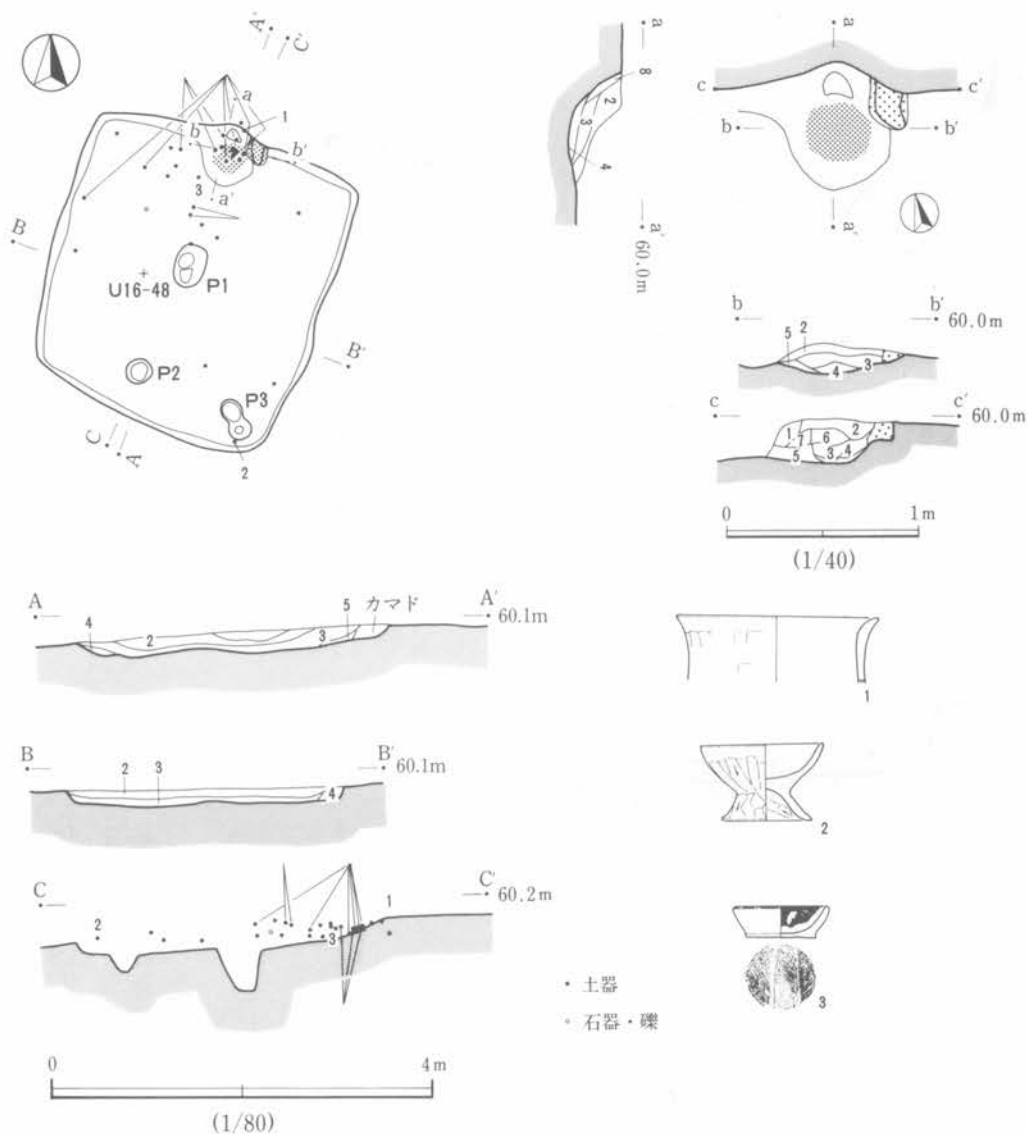
遺物はカマドを中心に覆土の下層から比較的少量検出された。1は甑の口縁から胴部にかけての破片でカマドの煙道部付近から検出された。カマド内に同一の個体と思われる破片が散在していた。2は高坏の完形品である。ヘラ調整を比較的荒くおこなって仕上げをしていない。南東コーナーの壁際覆土下層から検出された。3は手ずくねの坏で底面に木葉痕がある。また内側には灯明皿として使用したと思われるススが付着している。

住居跡の覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを含み堆積がやや疎な褐色土。5. 焼土粒山砂を含む褐色土である。カマドの残存は良くなかった。カマド施設は右側の袖の一部を確認できたのみであった。火床部はあまり焼けた状態では検出されなかった。カマド覆土は1. 山砂袖崩落土の灰褐色土。2. 焼土粒を少し含む暗褐色土。3. 焼けた山砂ブロック・焼土ブロックを多く含む暗褐色土。4. 山砂を多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. 焼土粒を多く含む山砂を若干含む暗褐色土。7. 焼土粒を少し含む暗褐色土である。

床面直上の遺物が少ないため正確な時期の設定は困難であるが、おおよそ8世紀の前半にかかる住居跡と思われる。

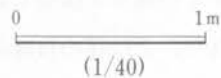
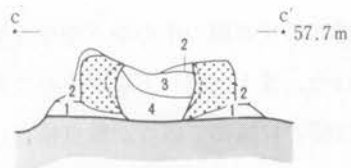
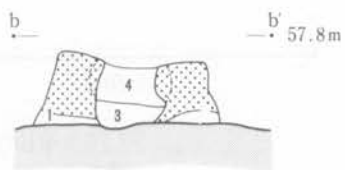
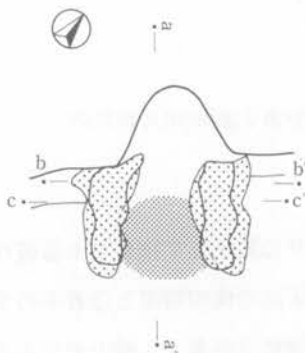
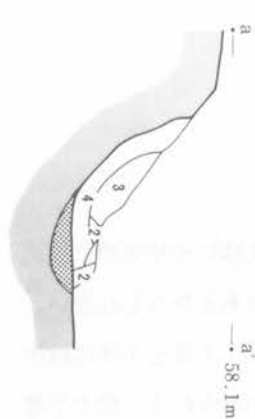
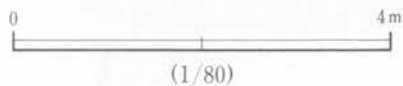
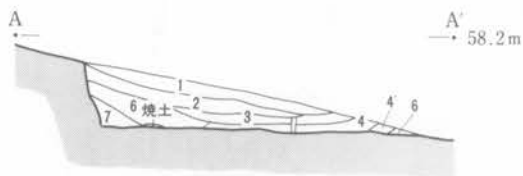
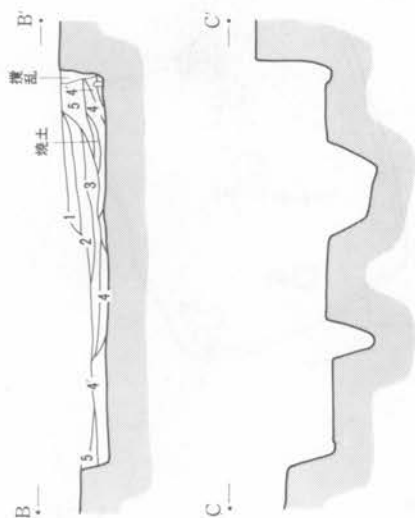
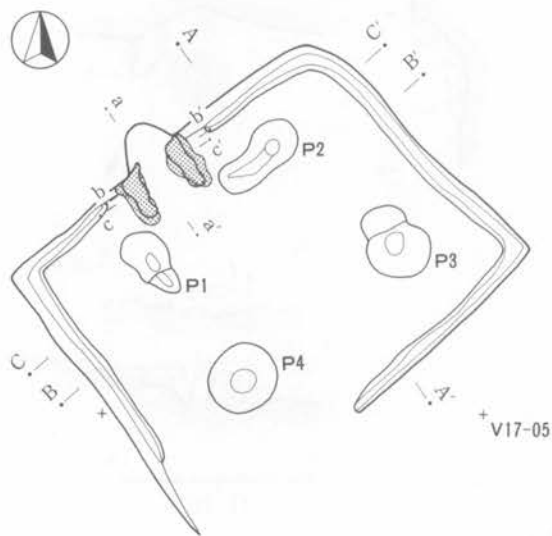
003号住居跡（遺構 第109・108図遺物 第111図4～9）

V17-05に位置する。プランは縦方向が約3.5m、横方向が約4.25mのやや横長の長方形を呈する。台地南斜面に位置するため南側の床と壁の一部が削られ消失している。壁周溝も同様な位置にめぐっている。本来は一周するものと思われる。カマドはやや西向きの北側壁に構築されている。検出面からの深さは北側で約0.6mあるが南側斜面部では周溝しか検出できない。床面は一部硬くしまった箇所（カマドの周り）も認められたが全体的には軟質な部分が多かった。床面からはP1～P4までのピット4個が検出された。いずれも0.5m前後の深さがあり4本とも主柱穴になるものとする。掘りの形から建て替えをおこなった可能性もある。

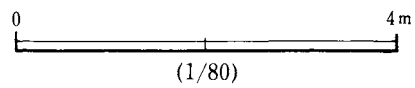
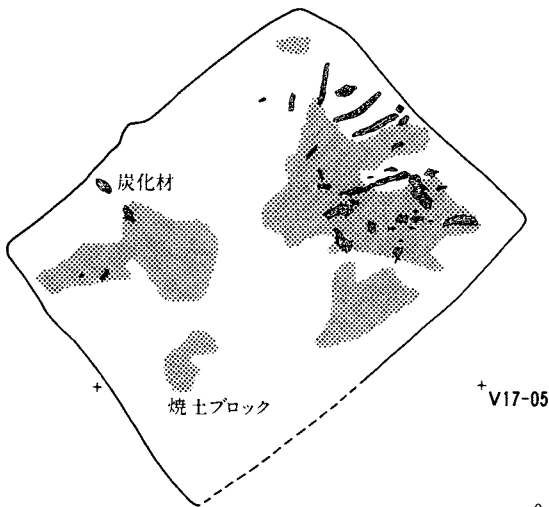
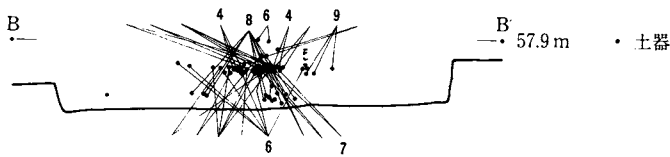
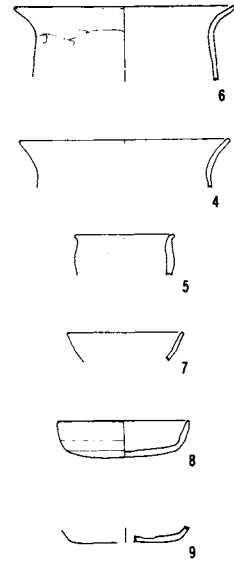
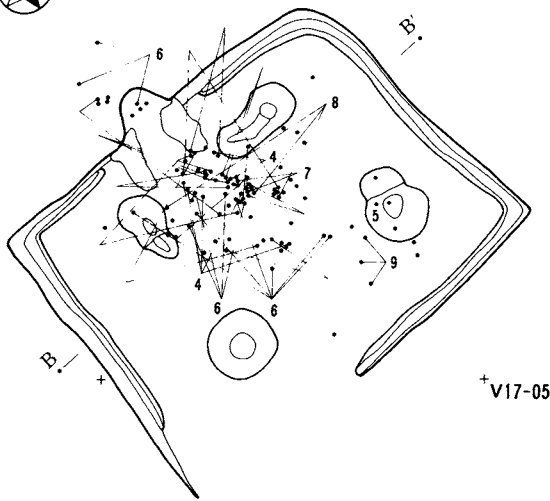


第107図 大野第7遺跡001号住居跡

遺物は住居跡の中心からややカマドよりに集中して細かな土器破片を主体にやや多めに検出された。覆土上層～下層が中心であり住居跡の使用期間とは若干のずれがあるかもしれない。4は甕の口縁部で破片が数点接合した。調整は表裏とも横ナデである。覆土上層を主体に検出された。6は甕の口縁部～胴部にかけての破片である。胴部はヘラ削りがみられる。覆土下層を中心に多くの破片が接合した。5は甕の小形のもので胴部はヘラ削りがみられる。覆土上層から検出された。7は坏の口縁部破片で覆土上層で検出された。調整は横ナデである。8は坏のほぼ完形品で表裏とも横ナデでしあげてある。接合した破片は覆土下層を中心に検出されてい



第108図 大野第7遺跡003号住居跡



第109図 大野第7遺跡003号住居跡

る。9は8と同様な坏の破片である。底部のみの検出である。覆土上層で検出された。

この住居跡からは焼土ブロックと炭化材が床直上から検出されている。焼土ブロックの分布範囲は住居跡の東側と西側に偏り炭化材は東側壁際に残っていた。この状況から住居跡は廃棄直後に焼失（直接伴う遺物がないため）したと思われる。遺物はそれ以後、廃棄されたものと考えるのが妥当のようである。

住居跡の覆土は1. ローム粒を少し・炭化粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土。3. 褐色土ブロック・炭化粒・焼土粒を少し含む黒褐色土。4. 焼土粒・炭化粒を多く含む褐色土。4'. 焼土粒を少し・ローム粒を多く含む褐色土。5. ローム粒・ロームブロック（小）を多く含む明褐色土。6. ローム粒・ロームブロック（小）を多く含む焼土粒を若干含む褐色土。7. ロームブロックを多く含む堆積がやや疎で柔らかい明褐色土である。カマドの残存はやや良好であった。天井部は全体に崩れて元の状態では検出されなかったが天井を構築していた山砂粘土及び内壁の焼土塊はまとまって認められた。袖部分もかなりの厚さで残存していた。カマド内からの遺物の検出はなかった。カマドの覆土は1. ローム・山砂粘土混じり（袖の基部）の灰褐色土。2. ローム粒・山砂を少し含む褐色土。3. 山砂・粘土塊（天井・壁崩落土）の灰褐色土。4. 焼土粒・山砂ブロックを多く含む褐色土である。

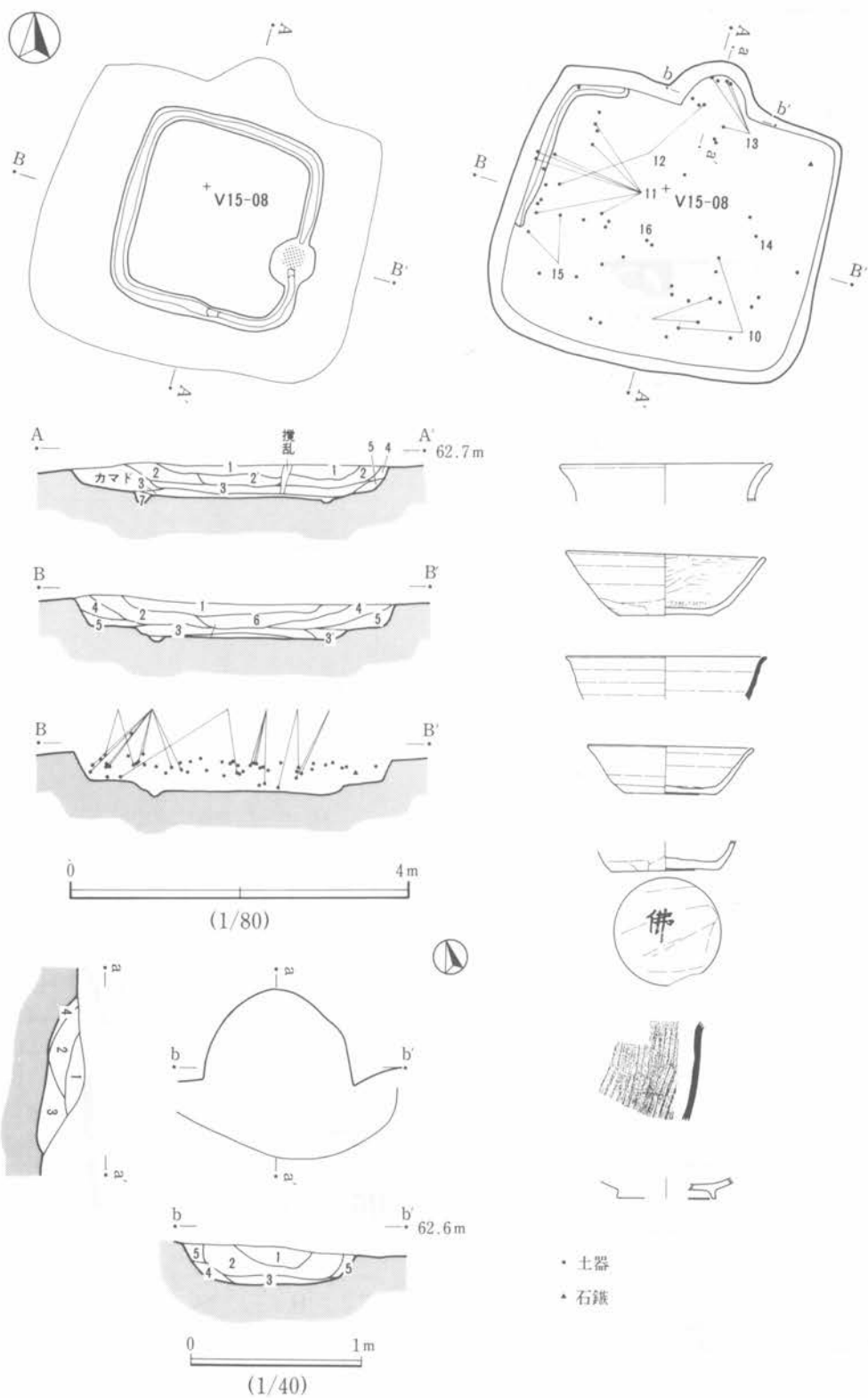
直接的に伴う遺物がほとんどないため正確な時期の設定は困難であるがおそらく001号よりは若干新しい時期（8世紀前半）になると思われる。

004（A）（B）号住居跡（遺構 第110図遺物 第111図10～16）

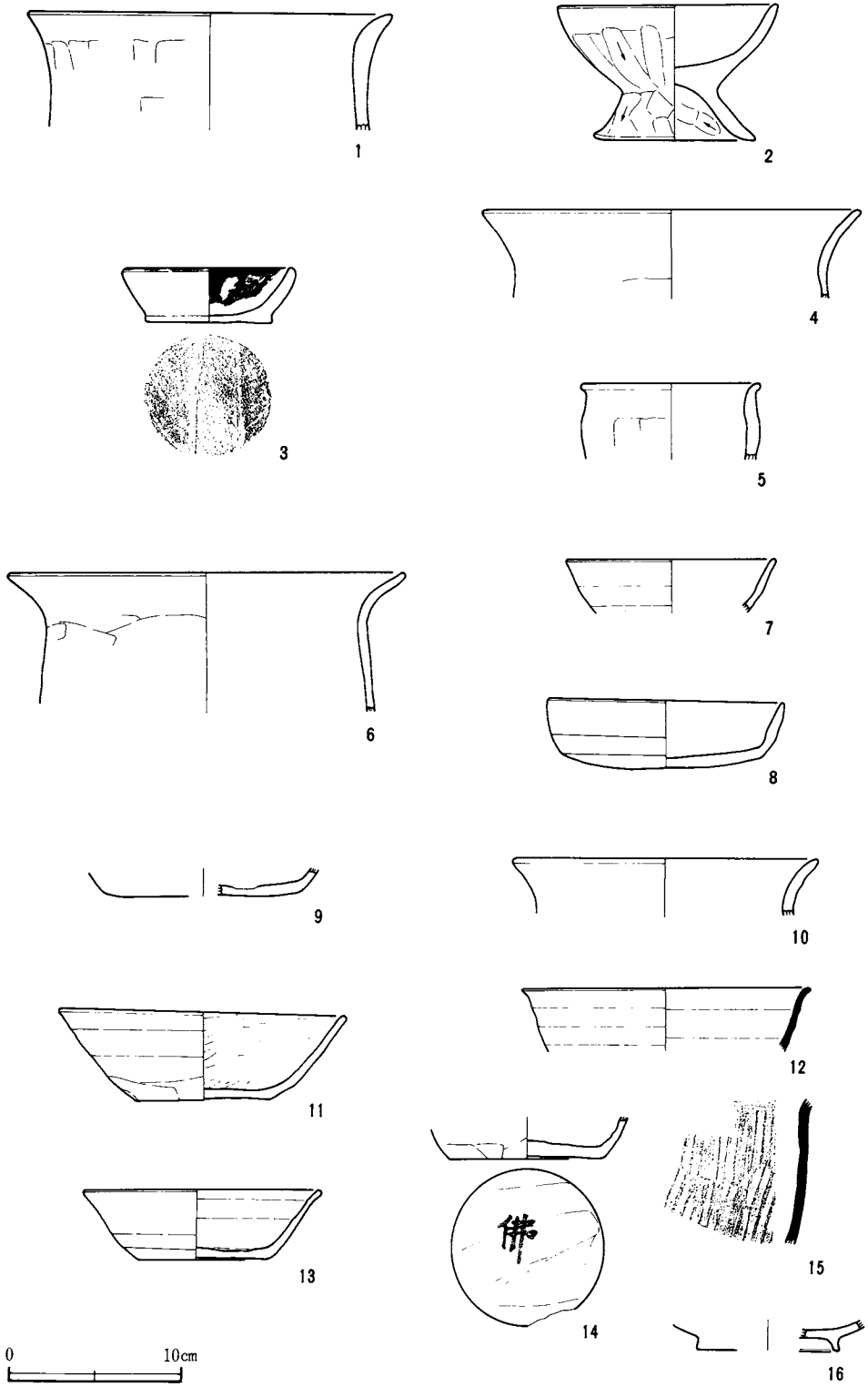
V15-08に位置する。（B）の貼り床面下より（A）は検出された。プランは一辺2.25m前後のほぼ正方形を呈する。カマドの痕跡である火床部が東壁やや南寄り検出された。床面は硬い部分も一部みられるが全体的には軟質である。柱穴はみられなかった。壁周溝は住居を一周する。

（B）は（A）を拡張するような形で作られている。プランは縦軸約3.3m、横軸約3.8mの長方形を呈する。カマドは北壁中央で検出されたが残存状況は非常に悪く構築物そのものの存在はまったく認められなかった。検出面から床面までの深さは約0.35mである。床面は全体に軟弱である。また壁周溝は北西コーナーを中心とした壁際に見られたのみである。柱穴は（A）と同様にまったく認められなかった。

遺物は（A）に帰属するものはまったく検出されていない。（B）は住居跡全体の床直上から覆土下層にかけて50点弱の遺物が検出された。破片が多く図示できたのは土師器坏3点、甕破片1点、須恵器坏片1点、大甕片1点である。10と13は床面の直上から覆土下層、それ以外は覆土下層を主体にした遺物である。10は甕の口縁部破片で実測した遺物の他に同個体の数点の破片が認められる。横ナデ調整がみられる。11は外面はロクロ使用で糸切りののちへらで調整



第110図 大野第7遺跡004(A)(B)号住居跡



第111図 大野第7遺跡遺構内出土遺物(1)(1/4)

をおこなっている。内面はヘラ磨きされている。また内面の大部分にカーボンの付着が認められる。内黒土器と呼ばれるものである。12は須恵器の坏で内外とも自然釉が認められる。実測した個体の他に破片が数点検出されている。13は坏で外面がロクロ使用の横ナデ、底部ヘラ調整で内面は横ナデで仕上げている。14は坏で外面はロクロ使用の横ナデ後ヘラ調整、底部はヘラ調整、内面は横ナデで仕上げている。またこの坏の底外面には『佛』という墨書がみられる。15は須恵器の大甕の胴部破片である。外面に叩き目が見られる。16は坏の底部破片で脚を付けている。ロクロ使用ナデで仕上げている。また図示はしていないが住居跡の北東コーナー付近の覆土下層より鉄鏃と思われる鉄器を1点検出している。ただ著しく破損が激しく実測は不能であった。遺物のほとんどは住居跡が廃絶したのちに廃棄された可能性が高い。

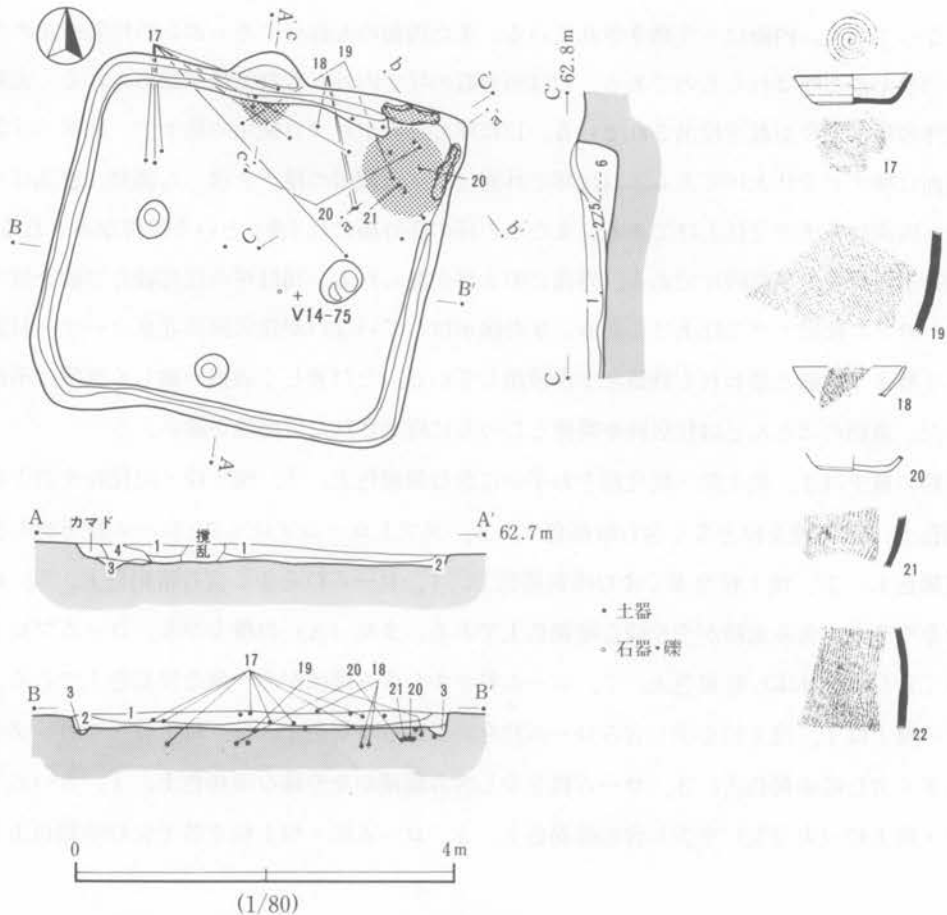
住居跡の覆土は1. 焼土粒・炭化粒をわずかに含む黒褐色土。2. 焼土粒・炭化粒を若干含む暗褐色土。2'. 焼土粒を多く含む暗褐色土。3. ソフトロームブロック・ローム粒を少し含む暗黄褐色土。3'. 焼土粒を多く含む暗黄褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒をやや多く含む堆積がやや疎な暗褐色土である。また(A)の覆土が6. ロームブロックを多く含む(貼り床)暗褐色土。7. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な黒褐色土である。カマドの覆土は1. 焼土粒を少し含むローム粒を若干含む暗褐色土。2. 焼土粒・ブロックを非常に多く含む暗赤褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ロームブロック・焼土粒(大豆大)を少し含む暗褐色土。5. ローム粒・焼土粒を若干含む暗褐色土である。

(A)・(B)の遺物の出土状況・遺構の構築状況からどちらも8世紀の後半に属するものと考えられる。また、作り替えの可能性が高い。

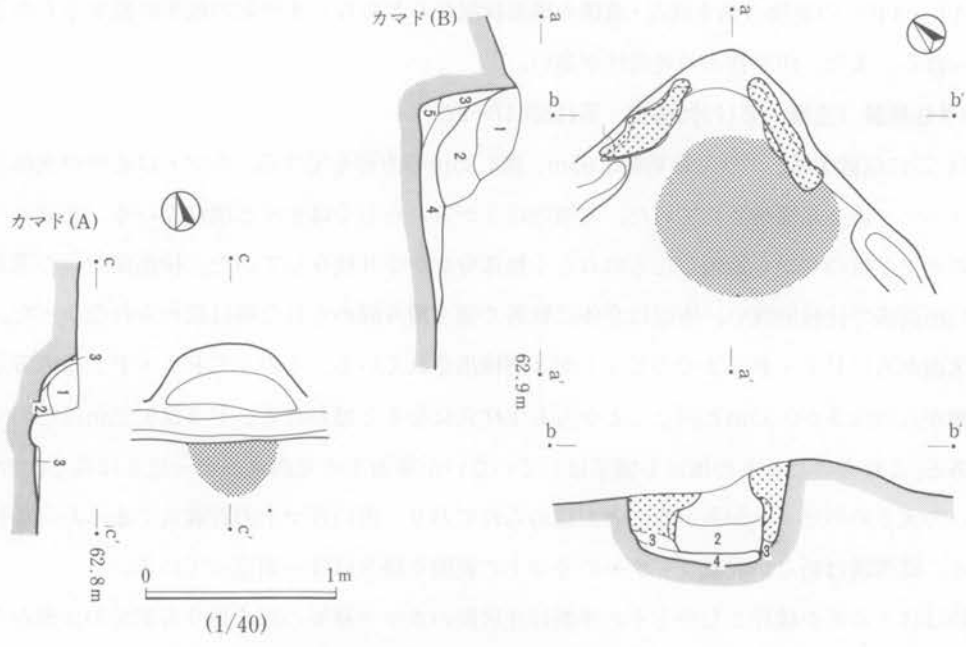
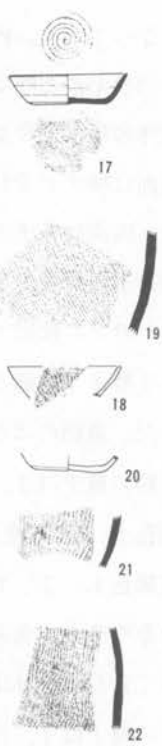
005号住居跡(遺構 第112図遺物 第113図17~22)

V14-75に位置する。プランは約縦3.65m、横3.95mの方形を呈する。カマドは北壁中央部と北東コーナーに2基構築されていた。北側のほうが古いらしくほとんど壊れている。北東コーナーのカマドはのちから使用したもので袖部分はかなり残存していた。検出面からの深さは0.12m前後で比較的浅い。床面は全体に軟弱で硬く踏み固められた所は認められなかった。また床面からはP1~P3までのピットが3個検出されている。そのうちP1・P2は両方とも床面からの深さが0.35mと同じことから主柱穴になると思われる。P3は0.25mほどの深さである。これらのピットの他にも図示はしていないが床面下の北西コーナー近くに深さ0.3mくらいの大きめのピットがあったことが認められており、古いカマドの貯蔵穴であった可能性がある。壁周溝は新しい北東コーナーのカマドの範囲を除きほぼ一周巡っている。

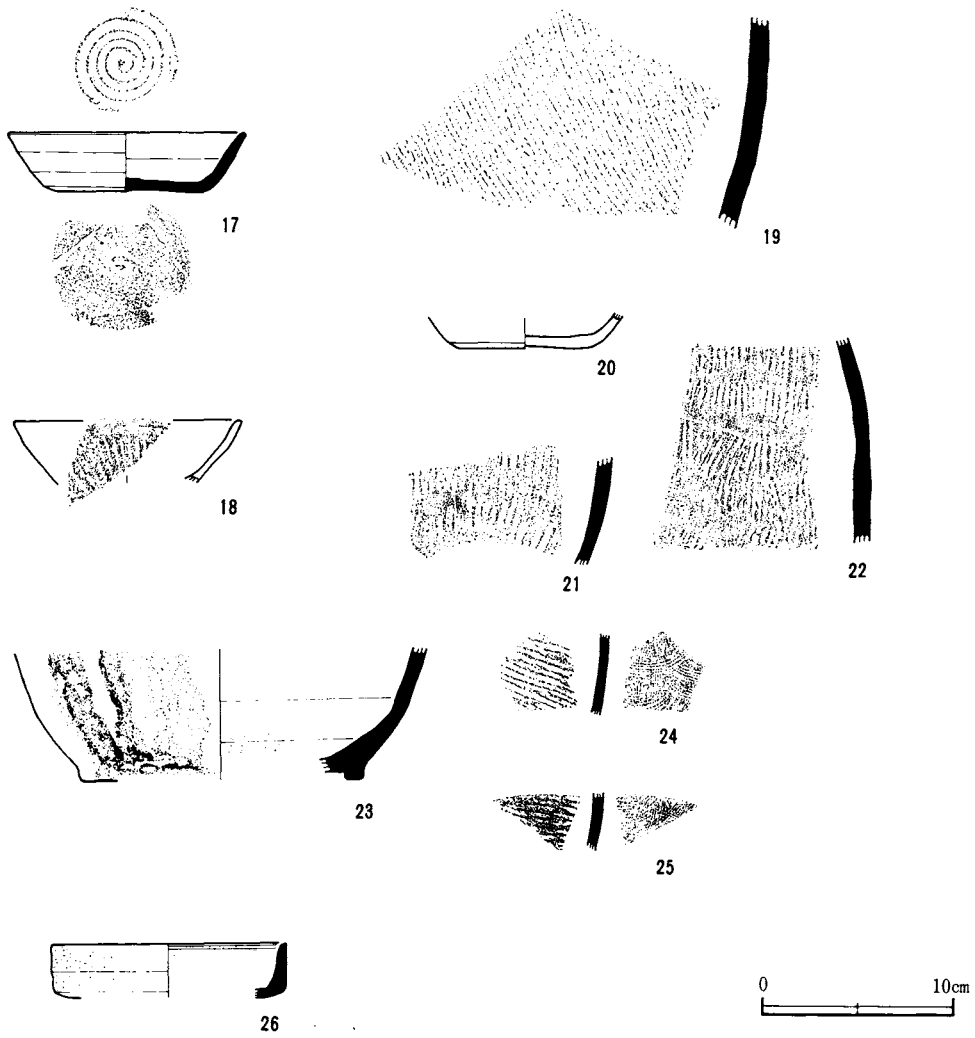
遺物はほとんどが破片でしかもその半数は住居跡のカマド移築の際の掘り方部分の土層から出土している。17の須恵器の坏以外は新しい北東コーナーのカマドの掘り方部分から出土してい



・土器
 ・石器・礫



第112図 大野第7遺跡005号住居跡



第113図 大野第7遺跡遺構内出土遺物(2)(1/4)

るものが多い。総数は20点余りで非常に少ない。17は外面はロクロによる横ナデののちへら切り調整をおこなっている。内面は横ナデ調整。19・21・22は須恵器大甕の破片で外面は叩き目がみられる。18は内外面とも黒色処理を施した坯の破片で、外面にはへらで縦方向に櫛目状の沈線が施されている。20は坯の底部破片でロクロによる横ナデののちへら切り調整で仕上げている。

住居跡の覆土は1. 褐色土ブロックを含みソフトロームブロックを若干含む黒褐色土。2. ロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームをやや多く含む暗褐色土。4. 山砂・焼土粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒・山砂を少し含む暗褐色土である。カマドの覆土は1. 山砂ブロック・焼土粒を若干含む暗褐色土。2. 山砂ブロック・焼土ブロックを少し含む天井の崩落したものと考えられる暗赤褐色土。3. 焼土ブロック(小)を若干含むロームブロック(小)を少し含む暗褐色土。4. 焼土粒を少し・山砂ローム粒を若干含む暗黄褐色土。5. ローム粒を多く・ロームブロックを少し含む熱を受け硬化している褐色土。5. ロームブロック(小)を少し含む暗褐色土である。なお古いカマドは火床面が若干検出できたのみである。

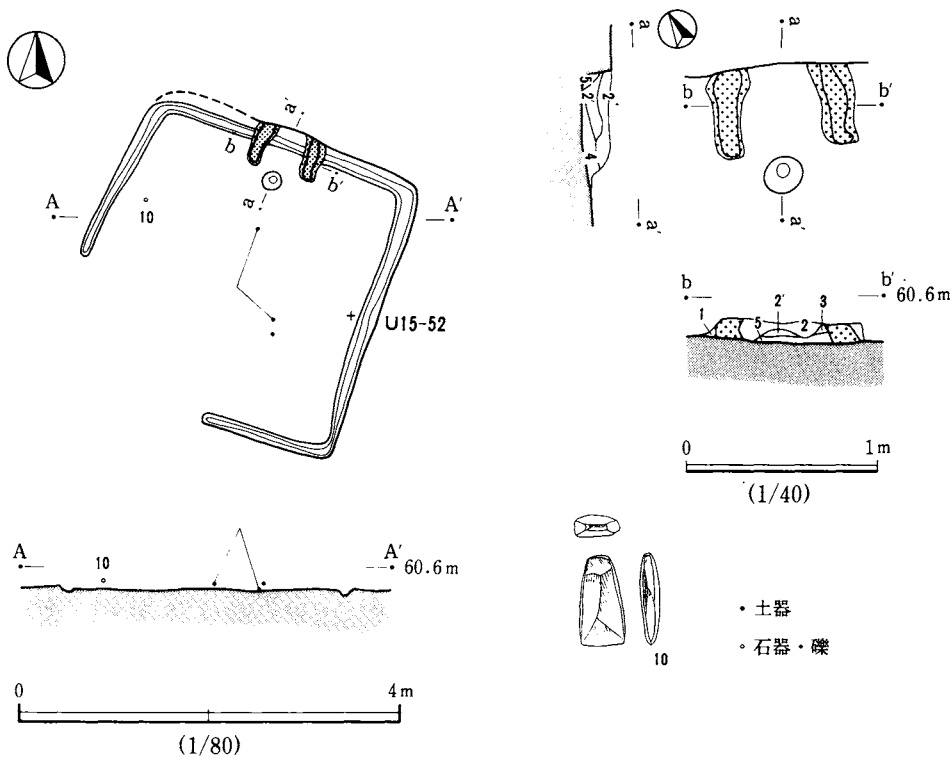
この住居跡は遺物の出土状況と遺構の構築状況から004とほぼ同時期に居住していた可能性がある。

101号住居跡(遺構 第114図遺物 第106図10)

U15-52に位置する。プランは約一辺3.15mの方形を呈する。南西隅は確認調査によって消失している。カマドは北壁ほぼ中央部で検出されている。カマドの壁外への張り出しはまったく認められなかった。袖は基部付近が確認できる程度に残っていた。また天井部はほとんど残っておらず崩落して内壁と思われるものが若干認められるのみであった。火床部はあまり熱を受けた様子がなく変質硬化した様子もあまり認められなかった。検出面からの深さは北側の比較的残りの良い部分でも0.1m程度であり南側では0.05mにも満たない。床面は軟質で根の影響もあると思われるが全体に小さな凹凸が多く認められる。柱穴はまったく認められなかった。周溝は壁が確認出来た範囲では一周している。

遺物の出土は4点と非常に少ない。しかも図示できるものは西壁付近から出土した10の小形の磨製石斧だけである。蛇紋岩製で表裏側面ともによく磨いてある。他は甕の破片で全部同一の個体である。

住居跡の覆土は記録がないので不明である。カマドの覆土は1. 山砂粘土を少し含む(住居の埋土)暗褐色土。2. 山砂粘土層(天井部)崩落土である灰褐色土。2'. 赤く変色し硬化した(内壁)灰褐色土。3. 焼土粒を多く含む暗褐色土。4. 山砂粘土を若干含む暗褐色土。5. ロームブロック(焼けて硬化している。)を少し含む暗褐色土である。この住居跡は、遺物等の資料が少ないため不明だが、おそらく8世紀の後半に位置するものと思われる。



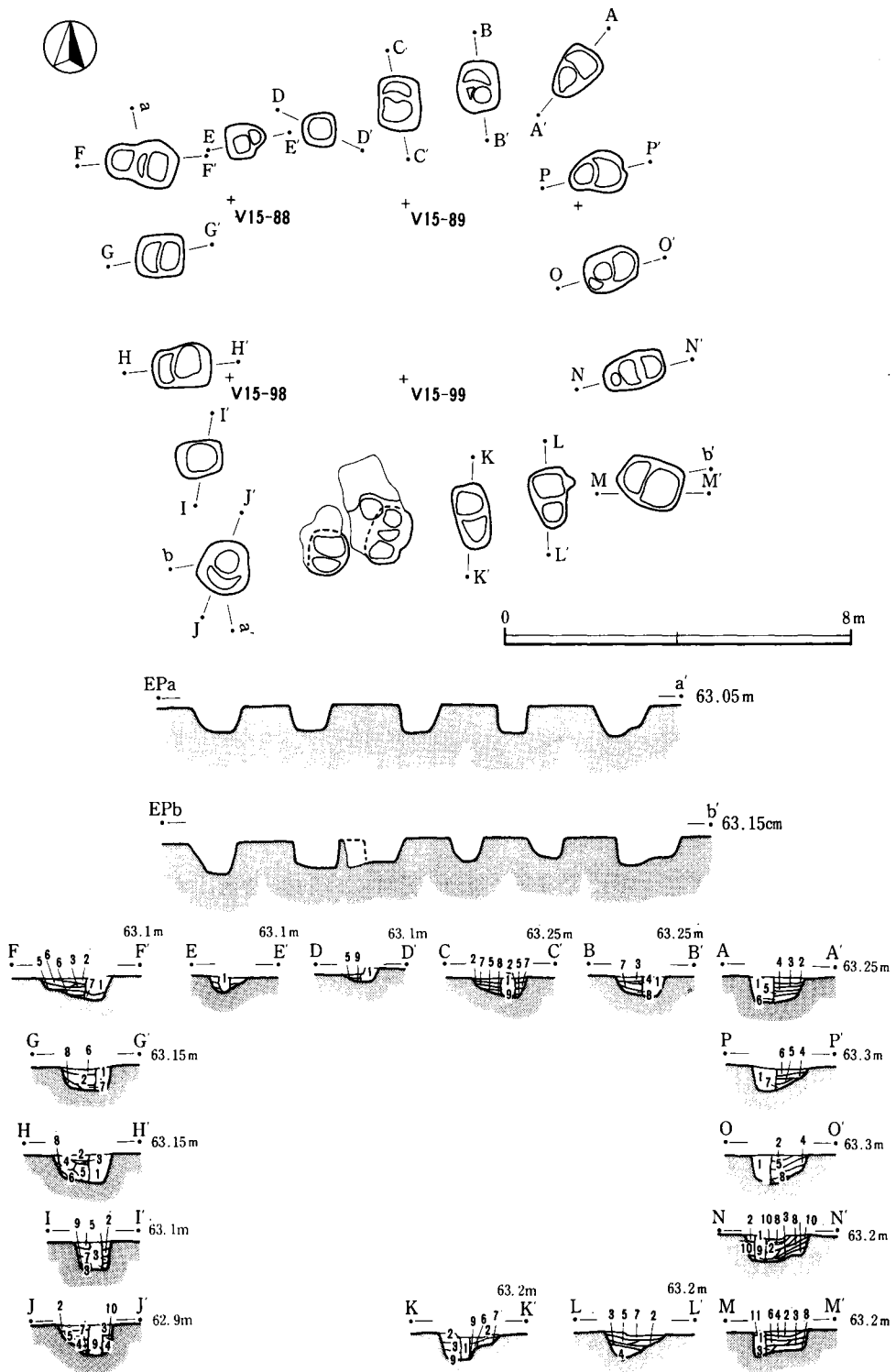
第114図 大野第7遺跡101号住居跡

(2) 掘立柱建物跡

006号掘立柱建物跡 (遺構 第115図)

V15-88~99を中心にして位置する。建物の規模は4間×5間でやや西に傾いた北を向く。桁行10.4m、梁行9.6m前後を測る。掘り方は0.6m~1mのどちらかというど方形に近い形をしている。検出面からの深さは約0.3~0.6mである。遺物の検出はなかった。覆土は1. ローム粒を多く含む堆積が疎(柱痕になると思われる。)な暗褐色土。2. ロームブロックを多く含む堆積が疎な暗褐色土。3. ロームブロック(小)を少し含む黒褐色土。4. ロームブロックを非常に多く含む堆積が疎な黒褐色土。5. ローム粒・ロームブロック(小)を少し含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。6. ロームブロック・ローム粒を非常に多く含む堆積が疎でサクサクな暗黄褐色土。7. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。8. ロームブロック堆積の黄褐色土。9. 堆積が疎な暗褐色土。10. ローム粒(大豆大)をやや多く含む暗褐色土。11. ソフトロームを多く含む暗黄褐色土である。

この掘立柱建物跡は他の3棟とは規模や主軸の方向が異なる。遺物等の検出もないため時期もおおよそ8世紀のこれらの住居跡に伴うものである可能性があるというくらいしかいえない。004号住居跡の墨書土器『佛』は村落内寺院の可能性を考えてもよいかもしれない。

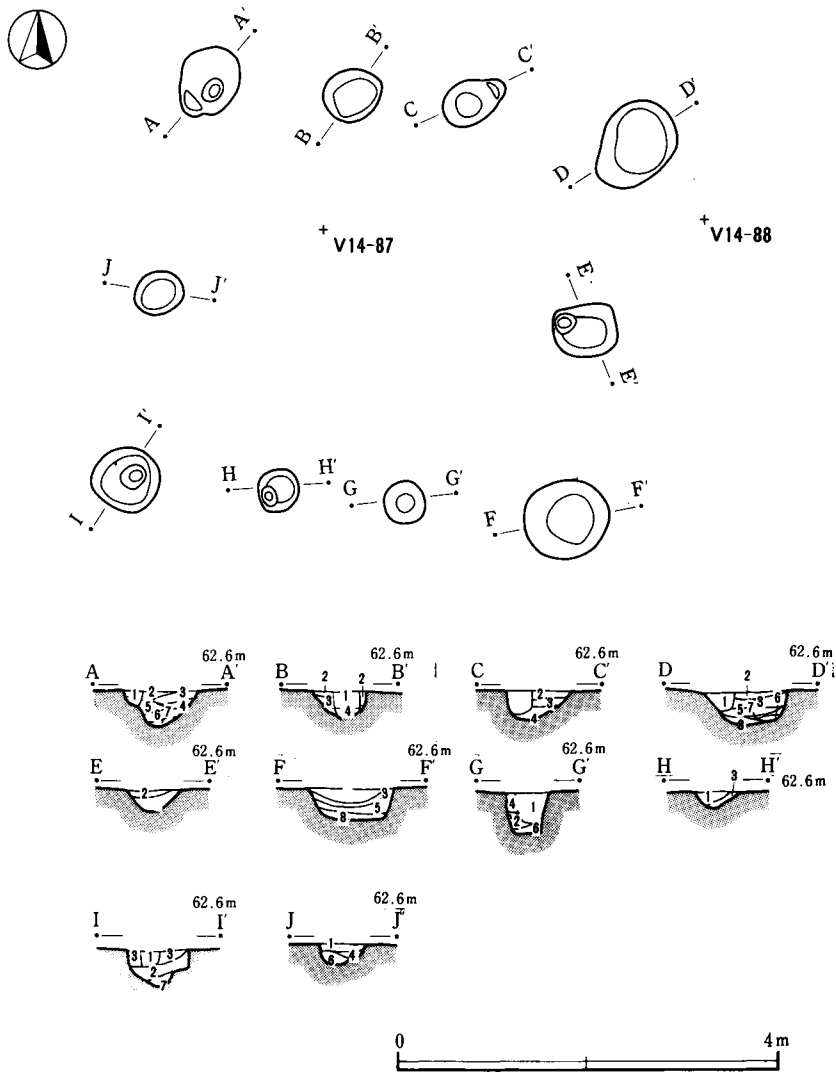


第115図 大野第7遺跡006号掘立柱建物跡(1/160)

007号掘立柱建物跡（遺構 第116図）

V14-87を中心にして位置する。建物の規模は2間×3間でやや東に傾いた北を向く。桁行4.6m、梁行4.2m前後を測る。掘り方は四隅は0.75m～0.85mの円形、その他は0.35～0.6の円形になる。検出面からの深さは0.2～0.4mで比較的まちまちである。遺物は検出されなかった。覆土は1. ローム粒をわずかに含み堆積はやや疎な暗褐色土。2. ローム粒・ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ロームブロック（小）を多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含み堆積がやや密な暗褐色土。6. ソフトロームブロックを少し含み堆積がやや疎な暗褐色土。7. ロームブロックをやや多く含む暗褐色土。8. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土である。

004号住居跡と隣接してしかも主軸の方向も同じことなどから、関連施設である可能性が非常に強い。

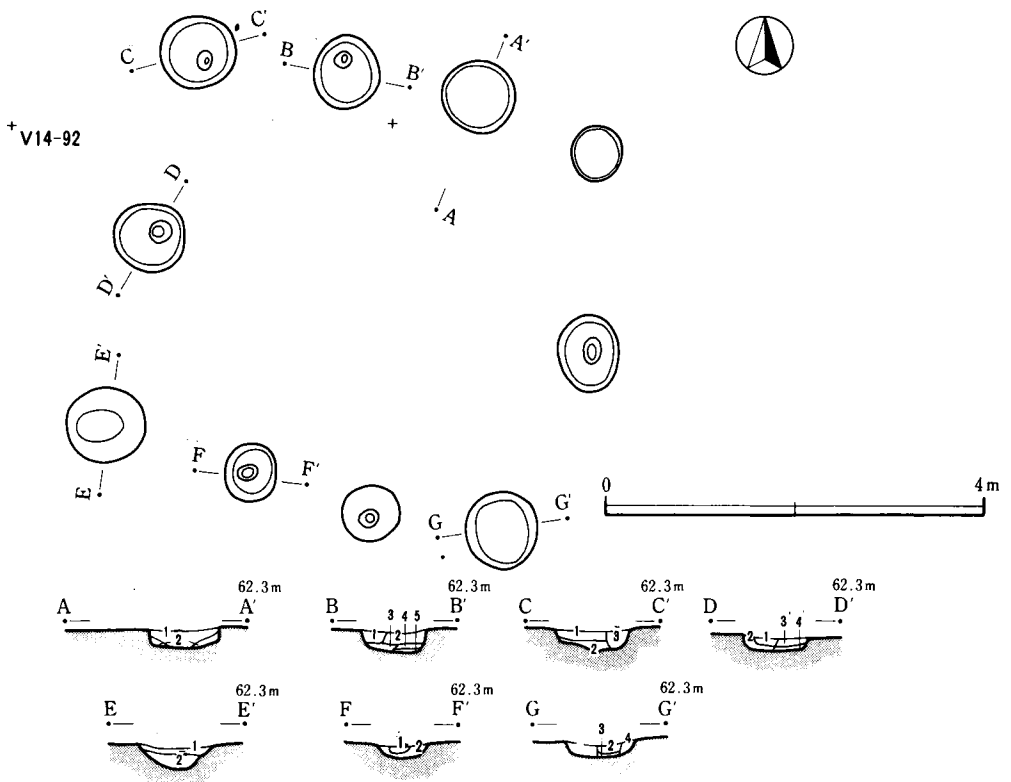


第116図 大野第7遺跡007号掘立柱建物跡(1/80)

008号掘立柱建物跡 (遺構 第117図)

V14-93を中心にして位置する。建物の規模は2間×3間でやや東に傾いた北を向く。桁行4.5m、梁行4.1m前後ではほぼ007号と同じ規模である。掘り方は0.6~0.8mの円形になる。検出面からの深さは0.12~0.2m前後で非常に浅い。遺物の検出はない。掘り方の覆土は007号の様に斉一性は認められない。Aの覆土は1. 堆積がやや疎な黒色土。2. ローム粒を多く含む堆積が疎な黒褐色土。Bの覆土は1. 堆積がやや疎な暗褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. 堆積が密で硬いロームブロック・ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む黒色土。5. ローム粒を少し含む黒色土。Cの覆土は1. ソフトロームを多く含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を若干含む堆積は疎でサクサクな暗褐色土。Dの覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒・ブロックを若干含む堆積が密で硬い暗褐色土。3. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土。Eの覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。2. ロームブロック(小)を少し含む暗褐色土。Fの覆土は1. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗黄褐色土。Gの覆土は1. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒を若干含む堆積が疎な黒褐色土。3. ローム粒・ブロック(小)を少し含む黒褐色土。4. ロームブロック(小)を多く含む黒褐色土である。

007号と同じ向きでほとんど同じ規模であるところから、同時期にしかも同じような用途で使用されたことが考えられる。位置的には005号住居跡との関連が強そうである。



012号掘立柱建物跡（遺構 第118図）

V16-97を中心にして位置する。建物の規模は2間×3間でほぼ北を向く。桁行5.7m、梁行3.6m前後である。掘り方は0.55m～0.65mの円形である。検出面からの深さは斜面部に掘り込んでいるため北側で0.6～0.9m、南側で0.5m前後である。またこの建物跡は斜面部を整形するため北側部分を中心にやや掘り込まれている。その部分の覆土は1. 粘土を多く含む灰褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ロームブロック・ローム粒を多く含む褐色土。4. ローム粒を少し・ロームブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。掘り方の覆土は1. ローム粒を若干・山砂を少し含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。1'. 堆積が密な暗茶褐色土。2. ソフトローム・山砂・焼土粒を少し含む褐色土。3. ロームブロックを多く含む堆積は密で硬い褐色土。4. 山砂粘土を少し含む堆積はやや疎な暗褐色土。5. 粘土粒を多く含む堆積がやや疎な灰褐色土。6. 堆積は密で硬い暗褐色土。7. 粘土層・暗褐色土を少し含む灰青色土。8. 粘土粒を少し含む堆積がやや疎でサクサクな暗褐色土。9. ロームブロック（小）を多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。10. 粘土を非常に多く含む灰褐色土。11. 堆積が密で硬い暗褐色土。12. 粘土ブロック（小）・粘土粒を多く含む堆積は疎な暗褐色土。13. 山砂が多く、粘土を少し含む褐色土。14. 堆積が密で硬い暗褐色土である。またこれらの掘り方の底部は硬く変質した部分が観察されている。

遺物はこの掘り方内では須恵器の大甕の破片が検出されているくらいである。またこの建物跡が検出された地域である南側のやや斜面地域で大量の土師器・須恵器片が出土している。時期的には8世紀後半のものが多く投棄された状態であることからこの建物跡は8世紀の後半くらいに位置するものではないかと思われる。

(3) 方形周溝状遺構

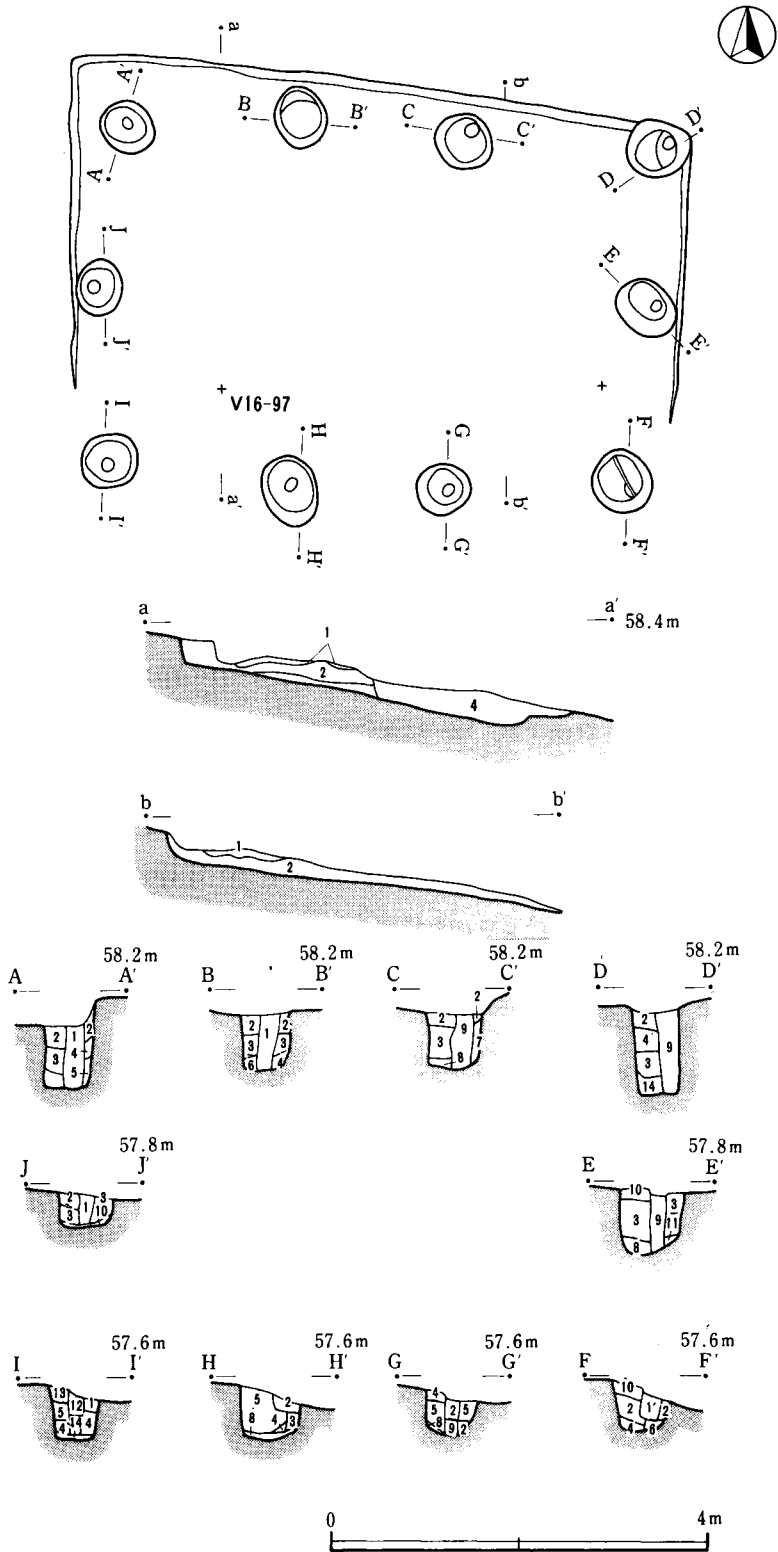
010号方形周溝状遺構（遺構 第119図上遺物 第113図24・25）

V16-77を中心にして位置する。規模は一辺8.4m前後の方形を呈する。方向は001号住居跡や101号住居跡と同じ北東を向く。周溝の断面はU字形を呈し、浅いところで0.4m、深いところでは0.6mある。周溝の北側部分の覆土上部に一樣に踏み固められ硬化した部分が検出されたが何のためのものかは不明であった。また主体部と思われる施設は認められなかった。周溝の覆土は1. ソフトローム（大）を少し含む黒色土。2. ローム粒を少し含む褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含む黄褐色土である。

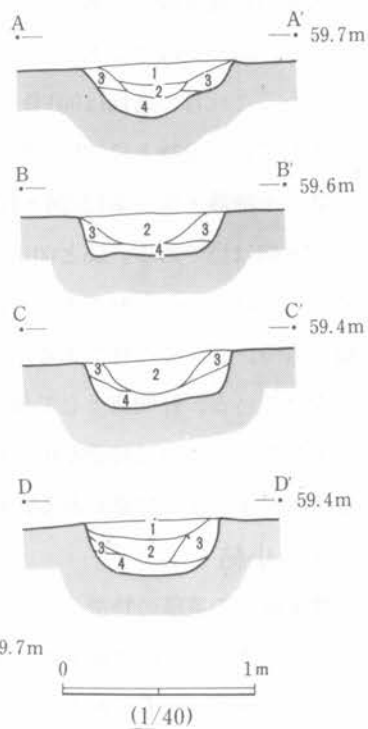
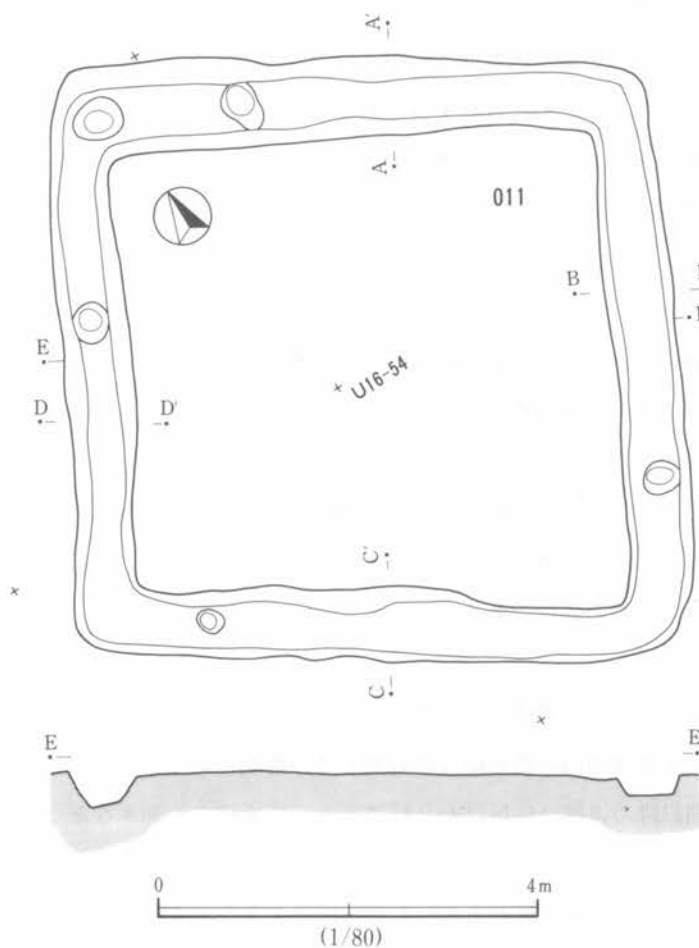
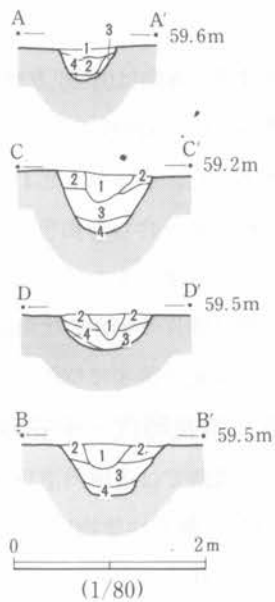
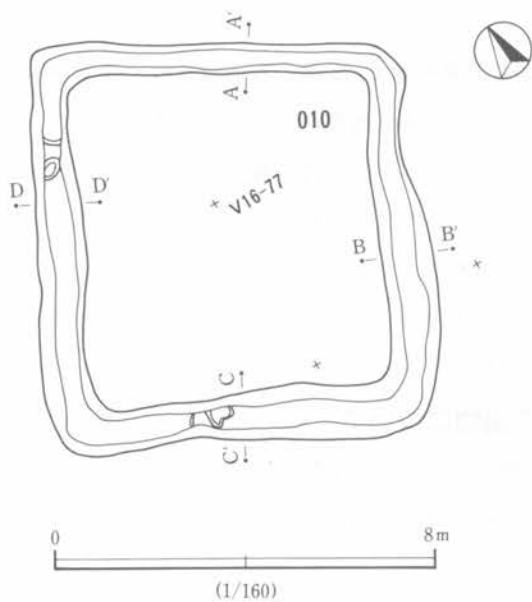
遺物は須恵器等の破片が数点出土している。それらと住居跡等の遺構の関連から捉えるならば8世紀の後半に位置づけてもよいと思われる。

011号方形周溝状遺構（遺構 第119図下）

U16-54を中心にして位置する。010号方形周溝状遺構と隣合う。規模は一辺6.3m前後の方形



第118図 大野第7遺跡012号掘立柱建物跡(1/80)



第119図 大野第7遺跡010・011号方形周溝状遺構

を呈する。方向は010号方形周溝状遺構と同じ北東を向く。周溝の断面は比較的浅く全体に逆台形を呈し0.3m前後である。周溝内部は細かな凹凸が多く底部があまりはっきり区画できない部分があった。主体部と思われる施設は認められなかった。周溝の覆土は1. ローム粒を少し・焼土粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒(大)を多く含む黒褐色土。3. ロームブロック(小)を多く含む褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土である。

遺物は礫片や細かな土師器片や須恵器片が覆土中から少量出土している。010号方形周溝と同様の8世紀の後半に位置づけてもよいと思われる。

6. 奈良時代・平安時代の包含層の遺物について

この遺跡では遺構内遺物の他にV16区南側斜面を中心に多量の須恵器・土師器片を検出した。特に012号掘立柱建物跡の付近では密集して検出された。出土状況からみて廃棄された状況であると思われる。

(1) 須恵器 (第120図・121図)

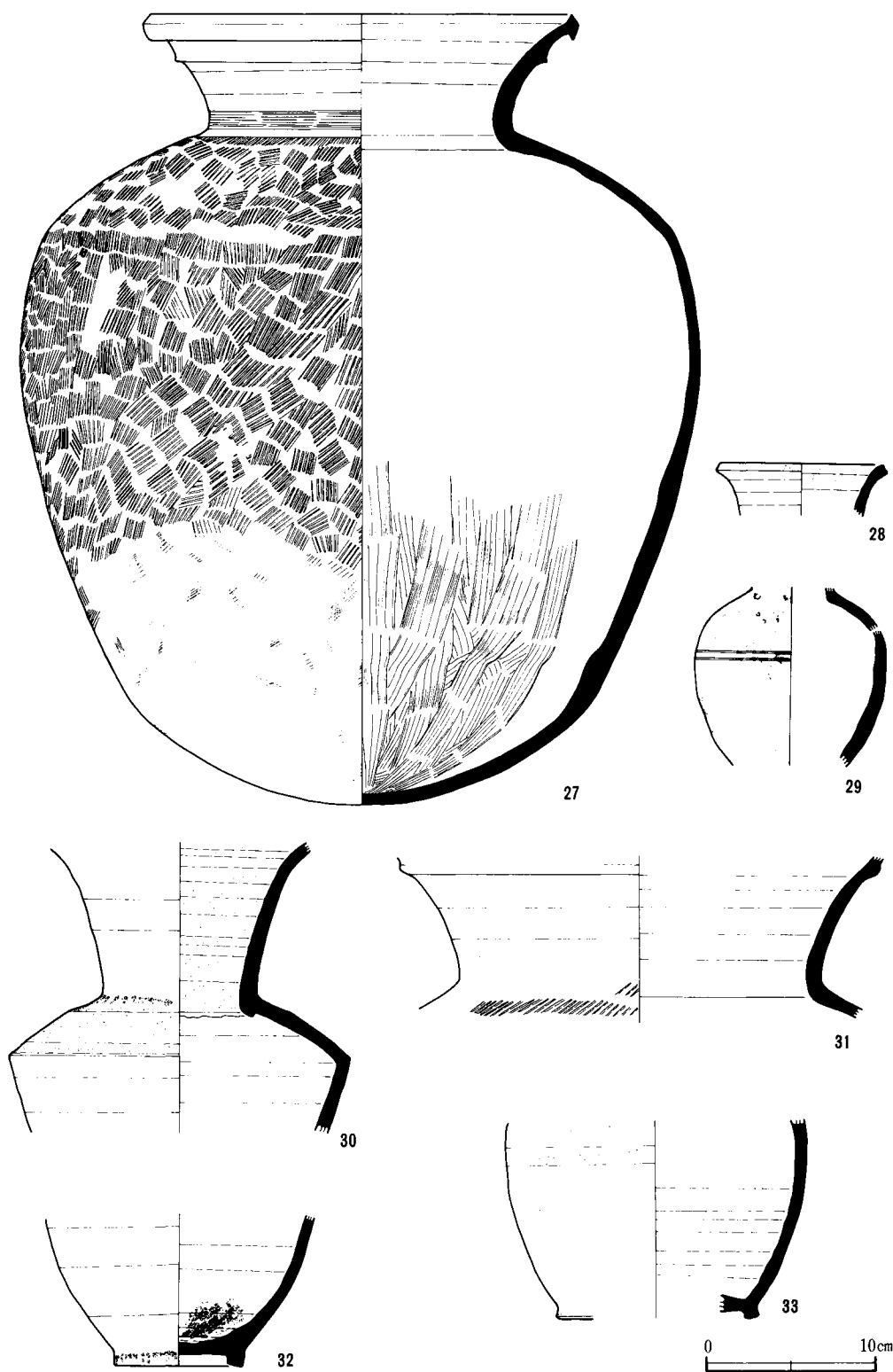
27は丸底の大甕である。やや淡い灰色の色調で内外面とも叩き目で仕上げている。31は同様の大甕の口縁部破片である。28・29・30・32・33は壺形土器である。29と32は自然釉がかかっている。34～38は坏である。35は脚をもつ。39～51は大甕の破片で須恵器破片の大半はこれであった。これらの遺物は001号住居跡等から出土している遺物よりは新しく004号住居跡等から出土している遺物とほぼ同時期くらいのものが多い。

(2) 土師器・他 (第122図・123図)

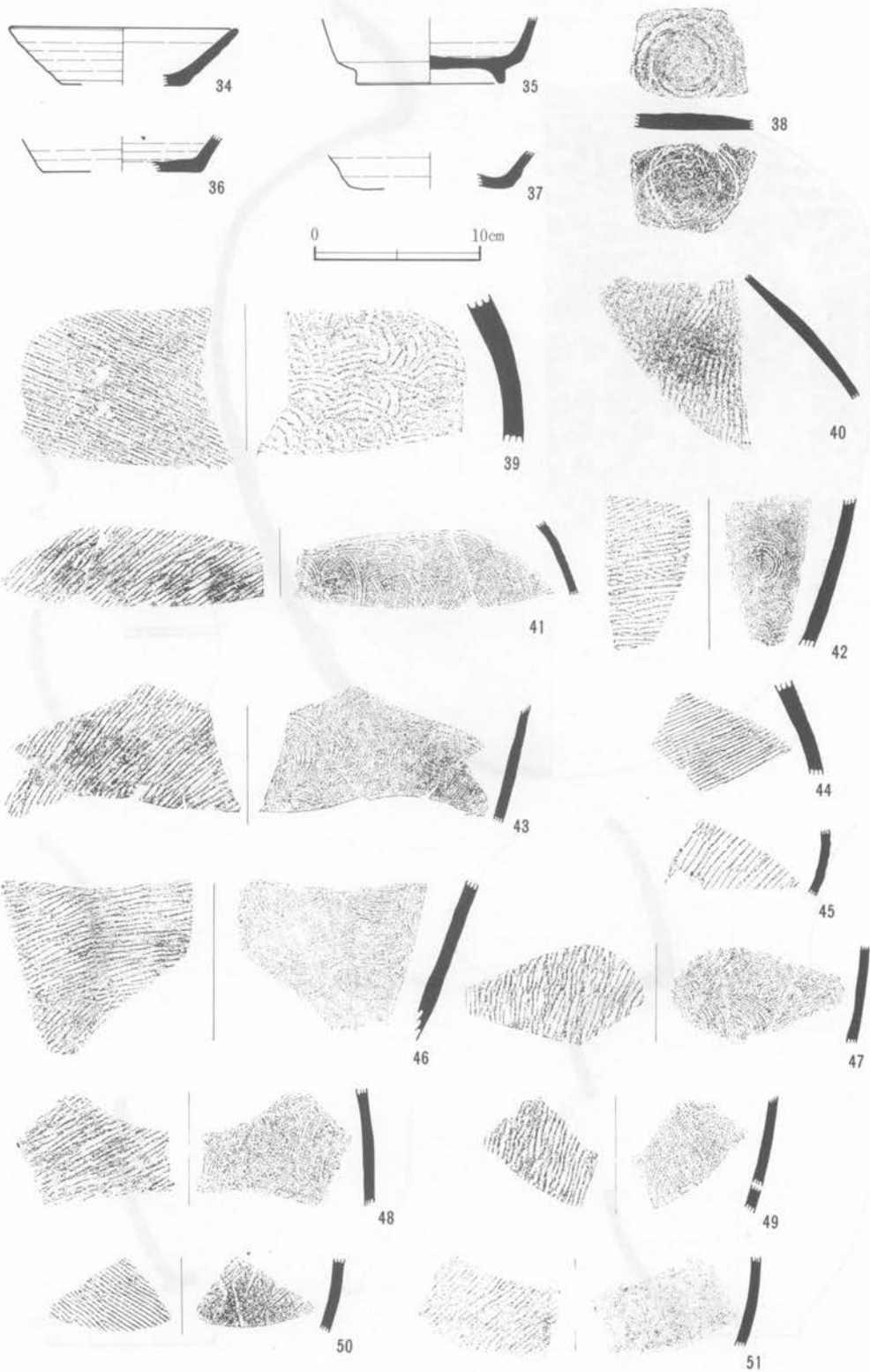
52～66は甕である。55と60は口縁部しかないので断定はできないが甕である可能性が高い。52と53はほとんど完形である。内面はナデ、外面をヘラ削りで仕上げている。56は底部に木葉痕をもつ。67～82は坏である。外面をヘラ削りで仕上げているのが特徴である。74・78は内面が煤けている。灯明皿として使用した物であろう。83・84の高坏の脚の破片は001号住居跡から出土しているものに特徴が似ている。これらの遺物はどちらかというとも8世紀の前半に位置するものが多いように思われる。85はフイゴの破片である。

7. 小結

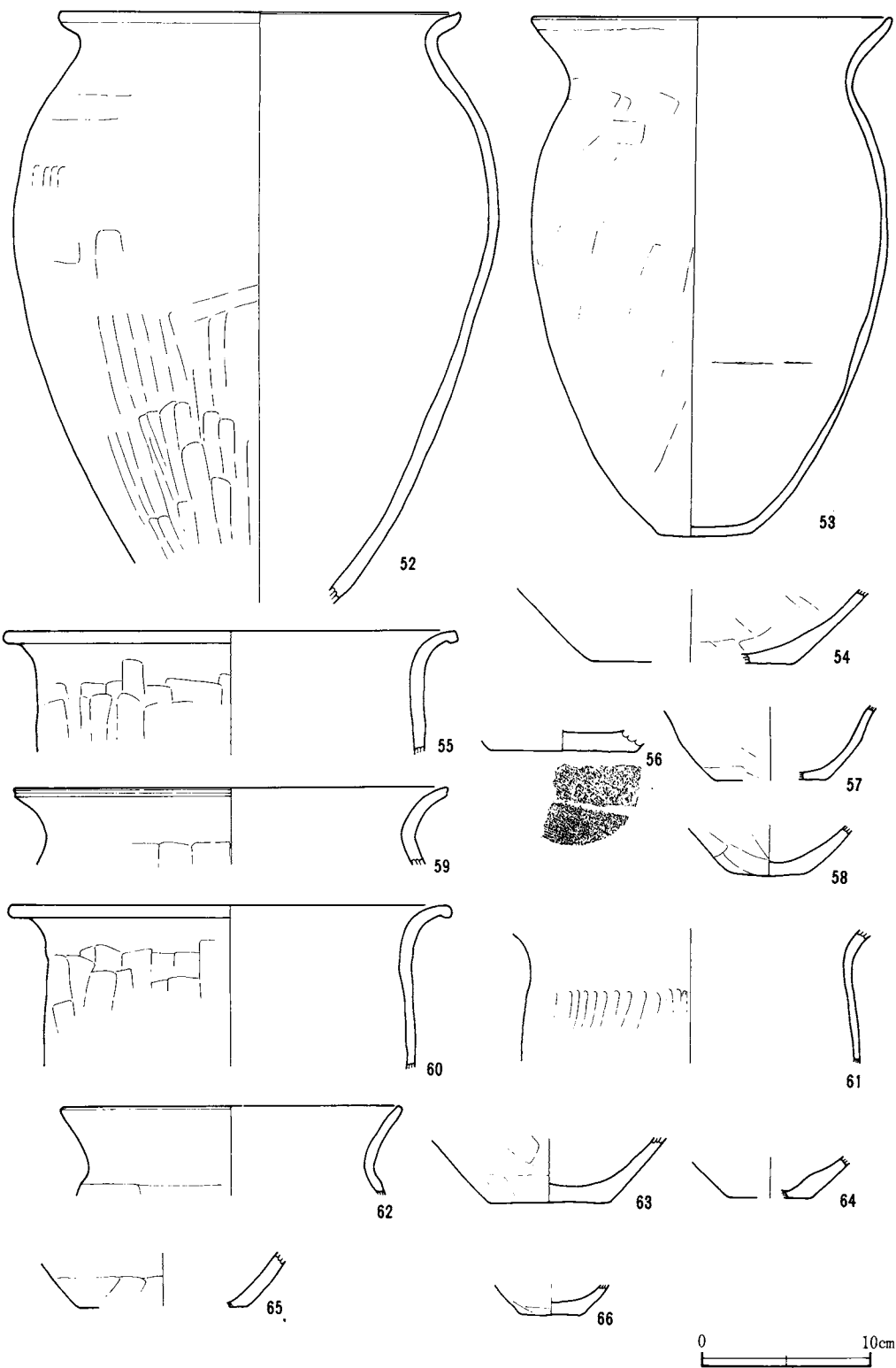
縄文時代の遺構の特徴としては68基の陥穴状遺構が検出されており、時期的にも早期から前期に限定される可能性がある。土気工業団地内の他の陥穴の時期もこの時期にあるいは利用されたものが多いかもしれない。中期以降の遺構は住居跡が2軒である。遺構構造が簡単なところから狩猟場のキャンプサイト的な場所であった可能性が考えられる。奈良時代から平安時代の初頭にかけては2～3軒の小集落であった可能性がある。ただ規模の大きな掘立柱建物跡の存在と住居跡のなかから出土した墨書土器『佛』の存在から集落内寺院があった可能性があり、興味ぶかい。



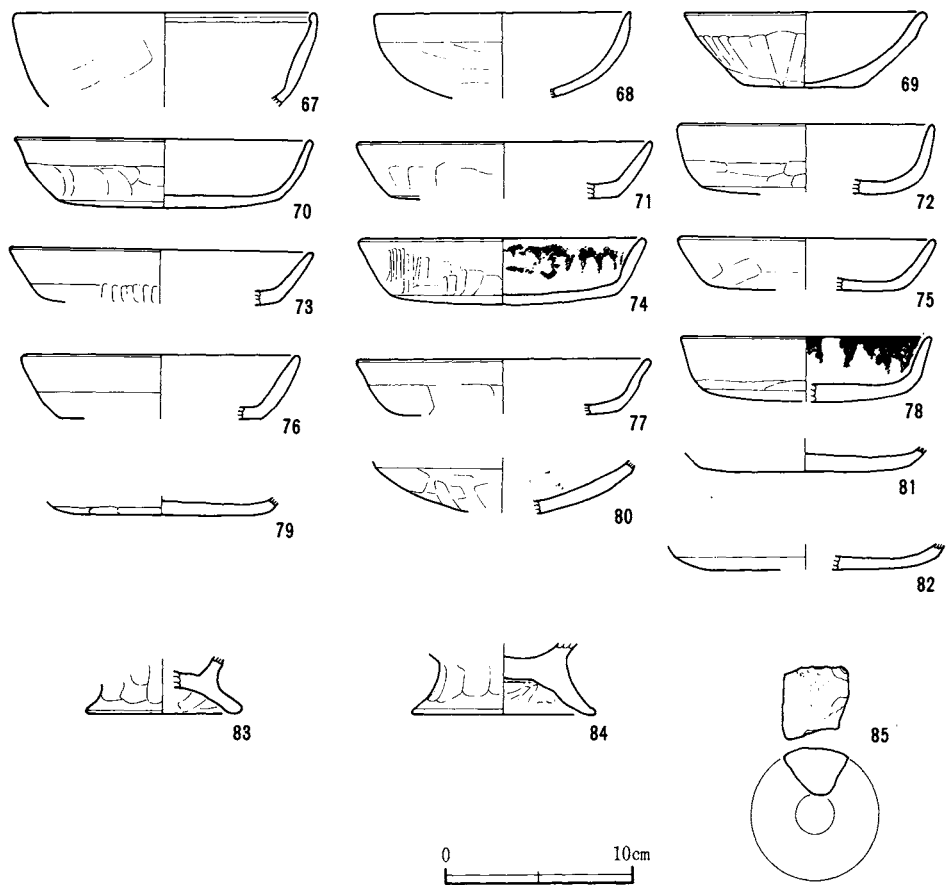
第120図 大野第7遺跡V16区包含層出土遺物(1)(1/4)



第121図 大野第7遺跡V16区包含層出土遺物(2)(1/4)



第122図 大野第7遺跡V16区包含層出土遺物(3)(1/4)



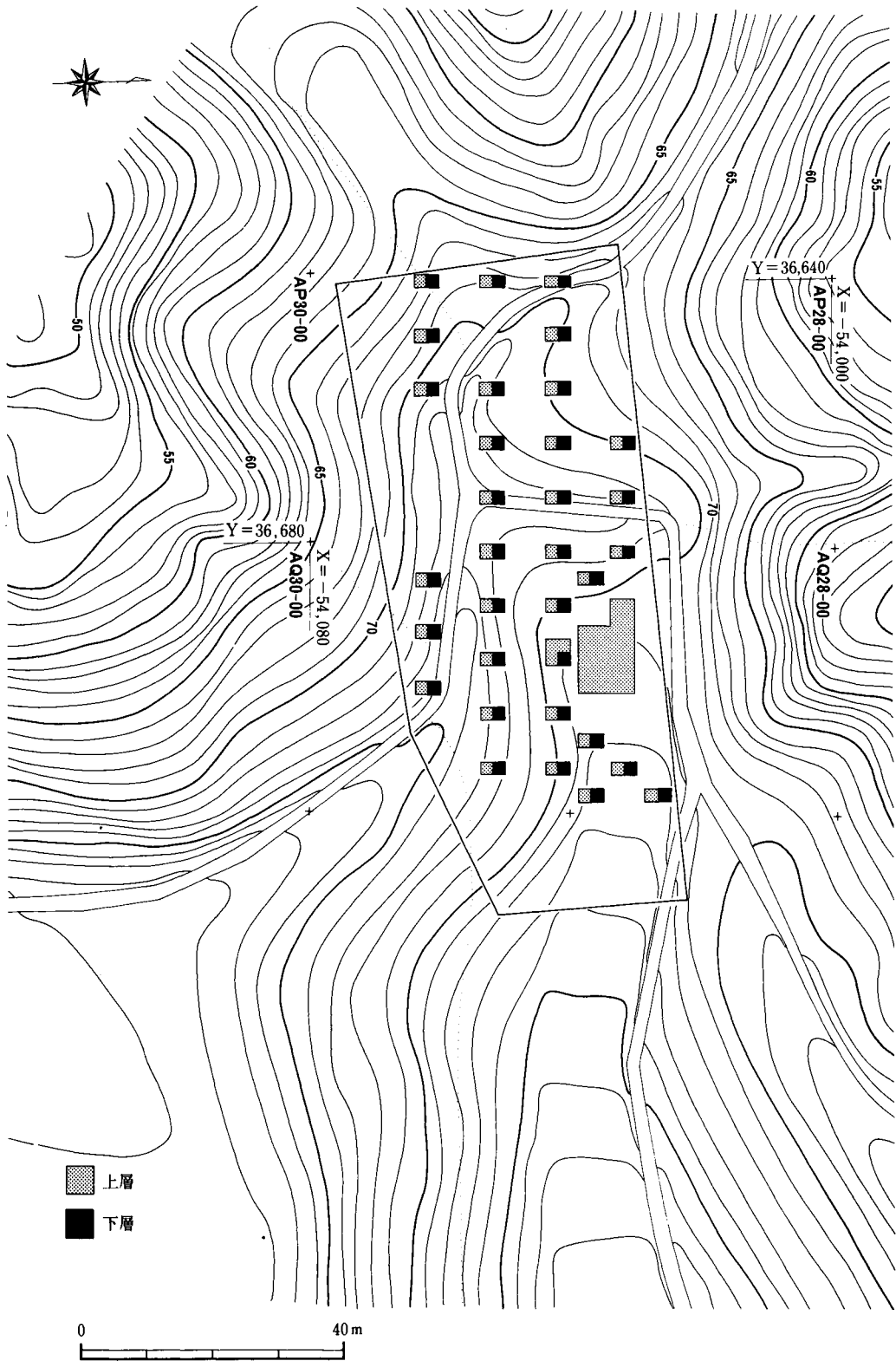
第123図 大野第7遺跡V16区包含層出土遺物(4)(1/4)

第 7 章

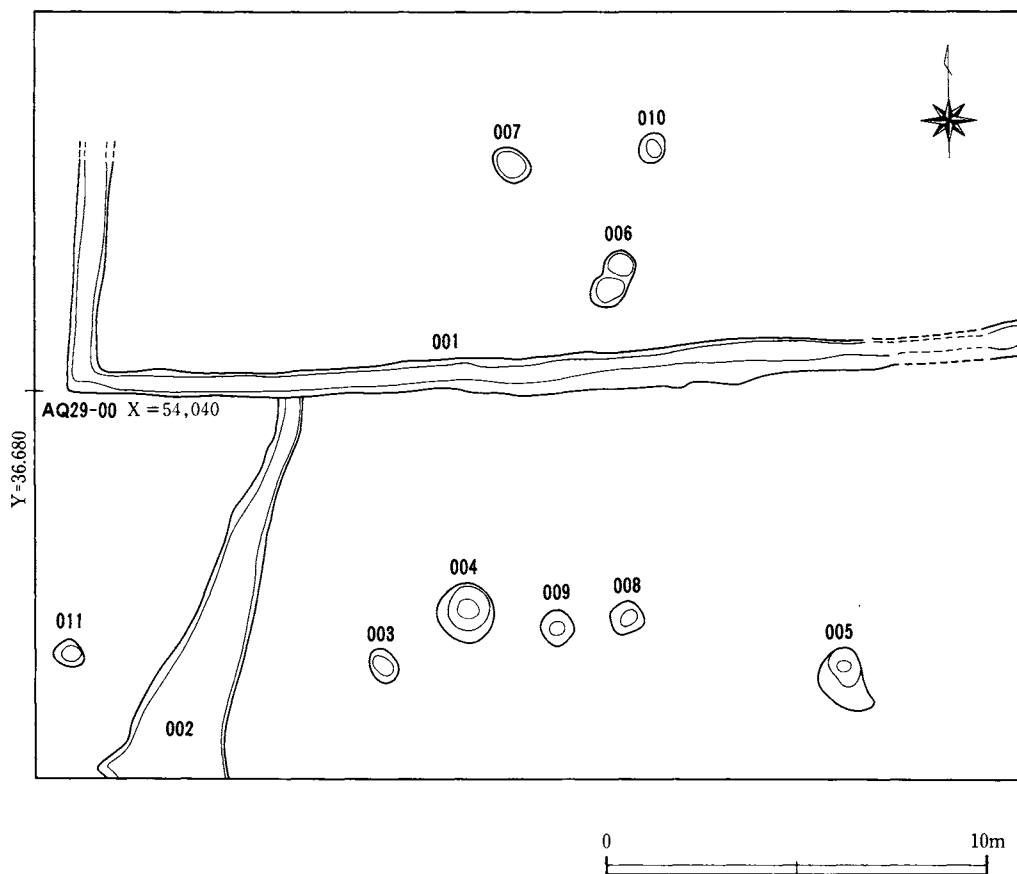
大 野 第 8 遺 跡

遺跡コード 201-071

調査担当者 森本和男



第124図 大野第8遺跡確認調査グリッド配置図(1/1,000)



第125図 大野第8遺跡本調査範囲及び遺構配置図(1/200)

第1節 縄文時代以降 (第124・125図)

1. 概要

大野第8遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が検出され、500㎡の本調査を実施した。その結果縄文時代中期を中心の遺物包含層と、当該時期に形成されたと思われる焼土遺構9基と時期不明の溝が2条検出された。なお旧石器時代の遺構・遺物は、確認調査の結果まったく検出されなかった。

2. 縄文時代の遺構について

(1) 焼土遺構

003号焼土遺構 (遺構 第126図)

AQ29-22から北へ1m、東へ1mに位置する。平面は長軸0.9m、短軸0.7mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.25mである。床面から壁にかけてはややボール状に立ち上がる。覆土は1. 焼土・炭化粒を多く含む黒褐色土。2. 細かい焼土・炭化粒を含む褐色土。3. 焼

土・炭化粒を多く含む黒褐色土。4. 焼土・炭化粒含む暗褐色土。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。焚火遺構とでも性格づけできるが時期は遺物等の検出がないため不明である。おそらく縄文時代の遺構であろう。

004号焼土遺構（遺構 第126図）

A Q29-13から南へほぼ1.5mに位置する。平面は径1.5mの円形を呈する。検出面からの深さは約0.4mである。床面から壁にかけてはややボール状に立ち上がる。覆土は1. 炭化粒をわずかに含む黒褐色土。2. 焼土・炭化粒を含みややしまりのある黒褐色土。3. 焼土・炭化粒を少し含む暗褐色土。4. 焼土粒を少し含む暗褐色土。5. 焼土・炭化粒を含む暗褐色土。6. 炭化粒を多く含む黒褐色土である。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。

005号焼土遺構（遺構 第126図）

A Q29-25から東へほぼ1mに位置する。平面は最大が1.75mで南に向かって舌状に広がった不定形な形を呈する。検出面からの深さは北側の深い部分で約0.3mである。床面から壁にかけてはボール状に立ち上がる。特に北側ではその傾向が著しい。覆土は1. 焼土・炭化粒を若干含む黒褐色土。2. 炭化粒を少し含む明褐色土。3. 焼土・炭化粒を少し含む暗褐色土。4. 炭化粒を多く含む暗褐色土。5. 炭化粒を多く含む黒褐色土である。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。

006号焼土遺構（遺構 第126図）

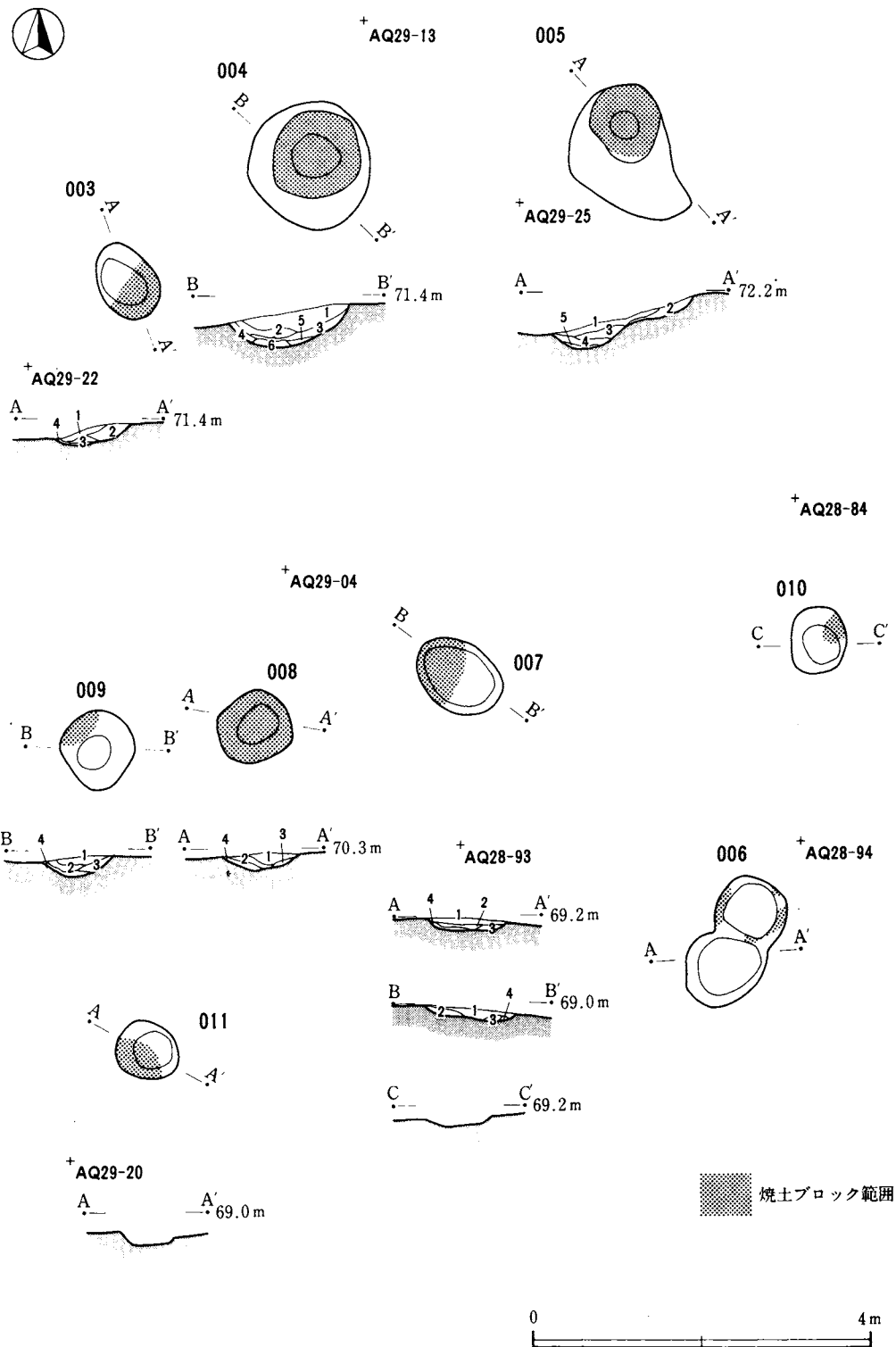
A Q28-94から西へ1m、南へ1mに位置する。平面は径約0.8mの円が2個接合した形を呈する。北側に若干の焼土ブロックが認められる。検出面からの深さは約0.15mで、床面から壁にかけては皿状に立ち上がる。覆土は1. 焼土・炭化粒を含みややしまりがある暗褐色土。2. 焼土・炭化粒を含む黒褐色土。3. 焼土・炭化粒を含む暗褐色土。4. 焼土・炭化粒を含む暗褐色土である。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。

007号焼土遺構（遺構 第126図）

A Q28-93から北へ2mに位置する。平面は長軸約1.1m、短軸0.8mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.1mで、床面は壁に向かってだらだらと立ち上がる。覆土は1. 焼土・炭化粒を少し含みややしまりがある暗褐色土。2. 炭化粒を多く含み焼土粒を少し含む黒褐色土。3. 炭化粒を多く含み焼土粒を少し含む黒褐色土。4. 炭化粒を多く含む黒褐色土である。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。

008号焼土遺構（遺構 第126図）

A Q29-04から南へ1.5mに位置する。平面はほぼ径0.85mの円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mで、床面から壁にかけてはボール状に立ち上がる。覆土は1. 炭化粒をわずかに含み粘性がある褐色土。2. 焼土・炭化粒をわずかに含む暗褐色土。3. 炭化粒を多く含む黒褐



第126図 大野第8遺跡縄文時代土坑(1/80)

色土。4. 炭化粒を多く含む黒褐色土である。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。

009号焼土遺構（遺構 第126図）

A Q29-04から南へ1.5m、西へ1.5mに位置する。008号と隣接する。平面は径0.85mの円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mで、床面から壁にかけてはボール状に立ち上がる。覆土は1. 炭化粒を含み、焼土粒をわずかに含む暗褐色土。2. 炭化粒・焼土粒を含む黒褐色土。3. 焼土・炭化粒を少し含む褐色土。4. 炭化粒を多く含み、焼土粒を含む黒褐色土である。遺構の状態からこの場所で焚かれたものであろう。

010号焼土遺構（遺構 第126図）

A Q28-84から南へ1.5mに位置する。006、007号と隣接する。平面は長軸0.8m、短軸0.65mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mで、床面から壁にかけてややだらだと立ち上がる。覆土は不明であるが一部焼土分布範囲がみられるところから他と同様な焼土遺構と考えられる。

011号焼土遺構（遺構 第127図）

A Q29-20から北へ1.5m、東へ0.5mに位置する。002号溝に隣接する。平面は径0.7mの円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mで床面から壁にかけてややだらだと立ち上がる。覆土は不明であるが一部焼土分布範囲がみられるところから他と同様な焼土遺構と考えられる。

3. 時期不明の遺構について

(1) 溝状遺構

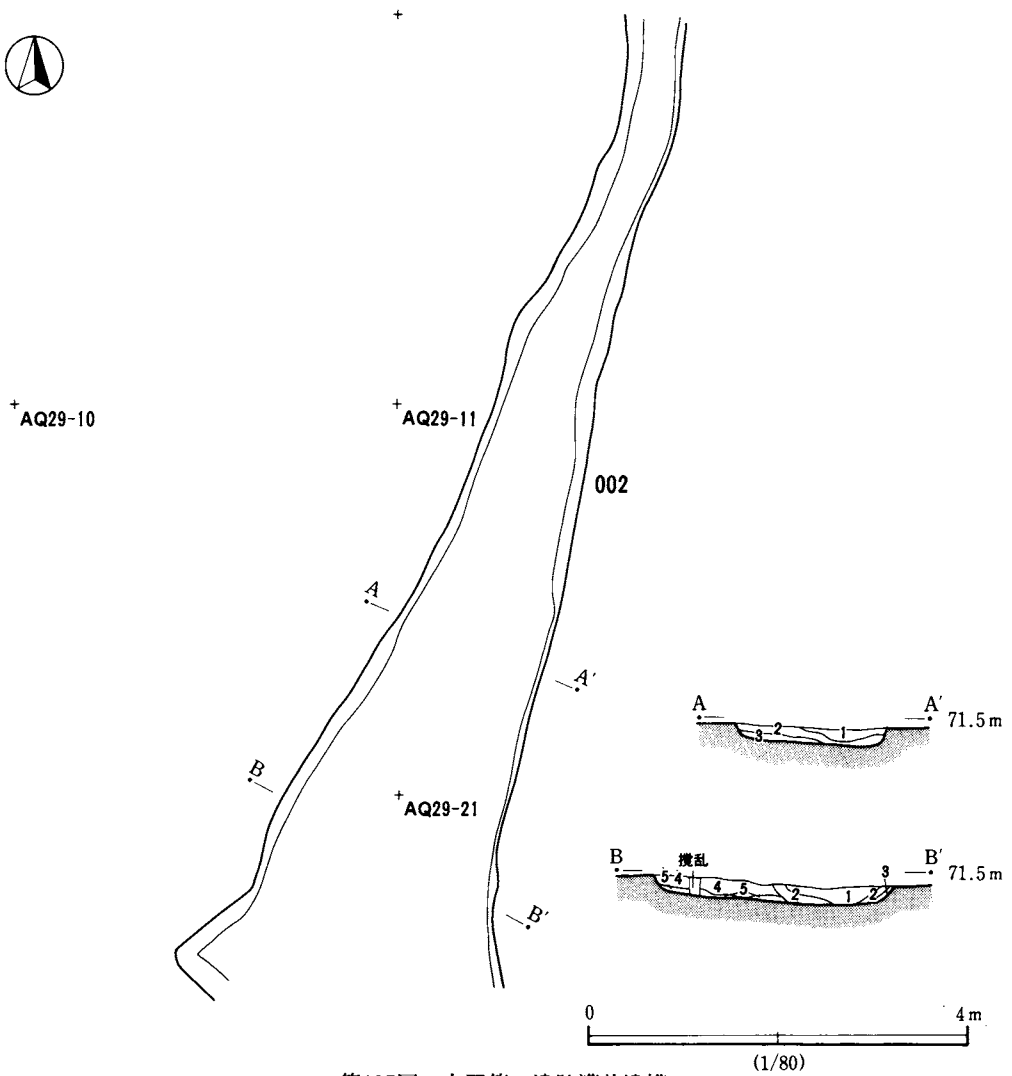
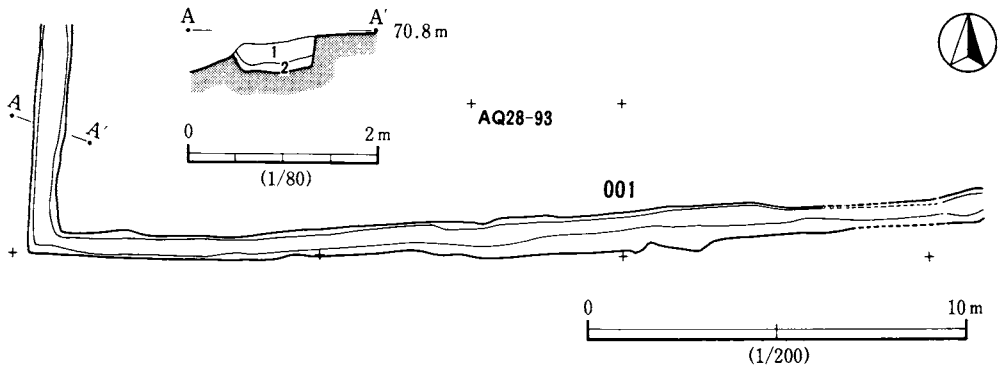
001号溝状遺構（遺構 第127図）

本調査区の中程を東西に走り西側で北へ折れ曲がる。幅約0.8mで深さは深い所で約0.3mである。覆土は1. 砂質でしまりのない黒褐色土。2. やや粘性のあるチョコレート色に近い暗褐色土である。この溝状遺構は形態的には一定しており何らかの区画のための溝であった可能性が高い。しかし遺物等の検出も皆無のため時期・性格等の検証は不可能である。

002号溝状遺構（遺構 第127図）

本調査区の西際を南北に走り001号溝状遺構に切られて終わっている。南側は広がりながらさらに調査区外に延びている。検出面からの深さは深い所で0.2mくらいである。覆土は1. 砂質でややしまりのある黒褐色土。2. 粘質の強い暗褐色土。3. 粘質でしまりのある茶褐色土。4. しまりのある茶褐色土。5. 粘性でしまりのある暗褐色土である。この溝状遺構は南側の斜面部から谷に傾斜してきており自然流路であった可能性もある。しかし遺物等の検出も皆無のため時期・性格等の検証は不可能である。また001号との新旧関係も不明である。

4. 縄文時代の包含層の遺物について



第127図 大野第8遺跡溝状遺構

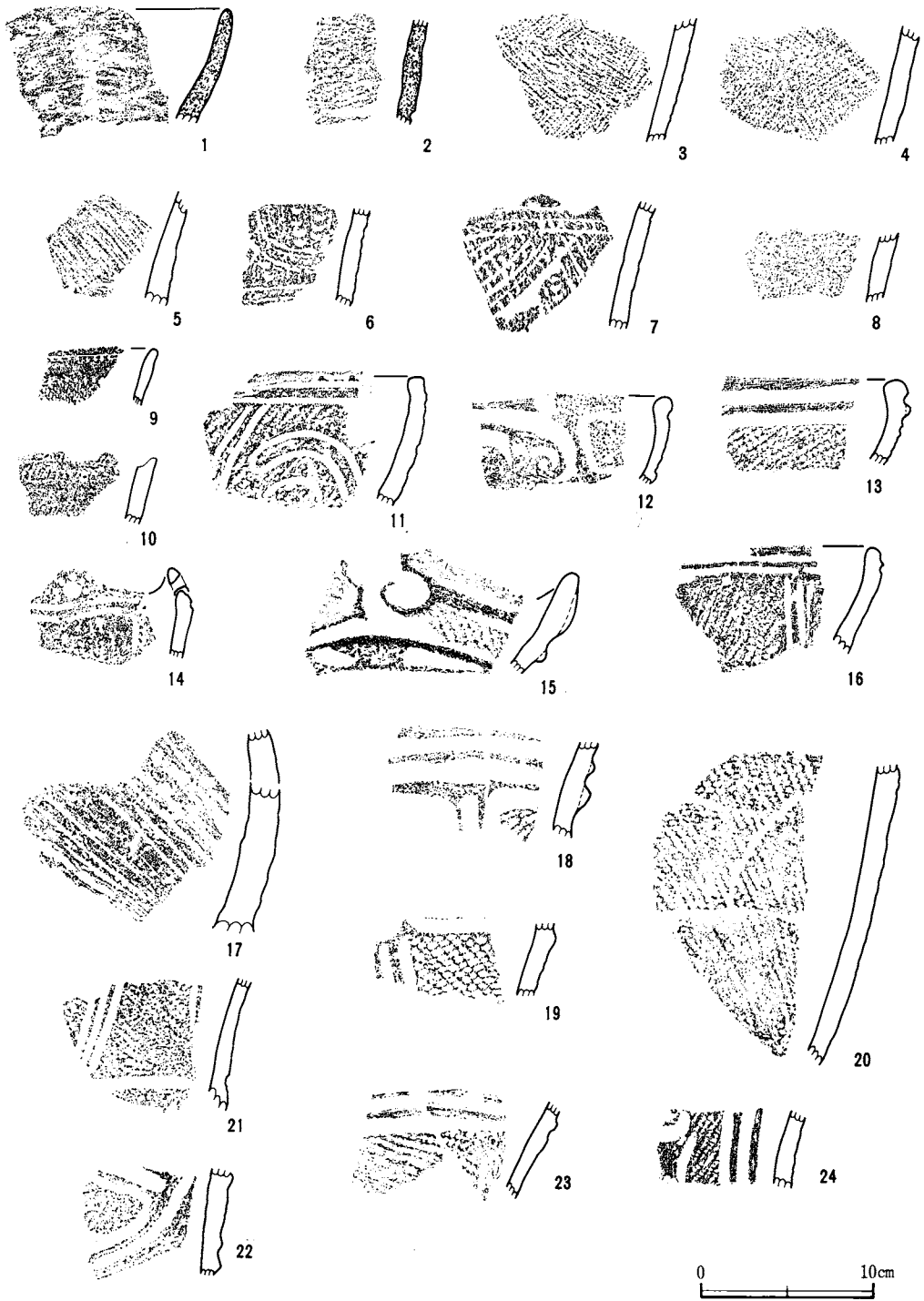
この遺跡では縄文時代中期を中心とした遺物包含層の調査をおこない比較的多くの土器片と石器類及び礫を検出している。土器片はほとんど縄文時代中期に属するものが多く若干早・前期のものもみられる。いずれの土器片も表面がぼろぼろな状態であった。石器類も製品の比率が高く剥片・碎片などはほとんどみられなかった。この場所は谷頭にあり遺物はいずれも台地斜面部からの堆積と考えられる。

(1) 土器 (第128図 1～24)

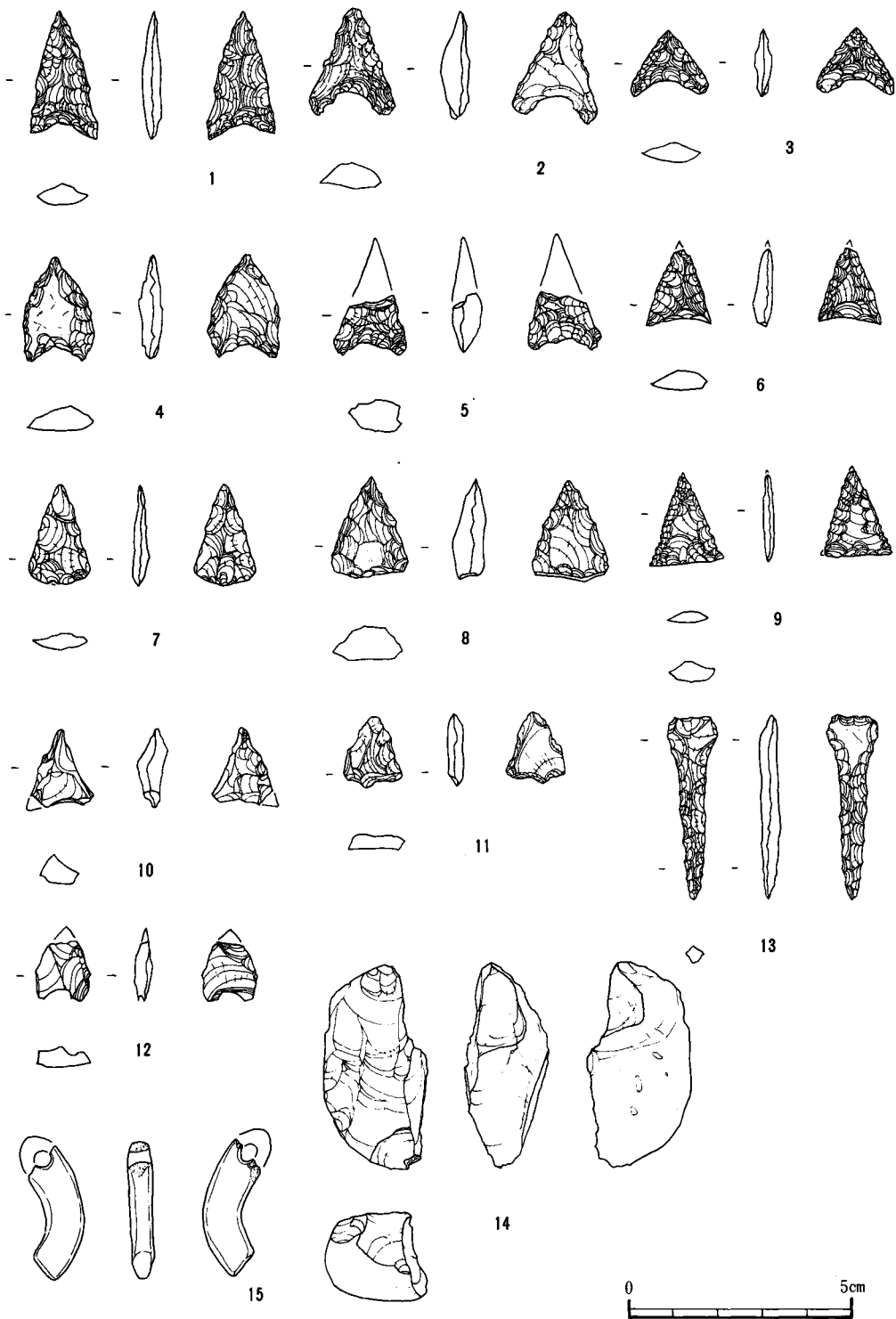
1・2は早期後半の条痕文系の土器片である。この他にこの時期の破片は数点みられたのみである。胎土に繊維を含み器面には条痕が施されている。3～5は前期前半の土器群である。これらの土器も他には数点小破片がみられるのみであった。いずれも単節の縄文を地文に配している。胎土には若干の繊維が含まれている様であるが、器面がぼろぼろのため識別が困難であった。6・7は前期後半の諸磯系の土器片である。他に破片は認められなかった。半裁竹管による三日月状の施文や条線で区画されている。8～10は中期前半の阿玉台式土器の破片である。他には若干の小破片が認められた。いずれの土器片にもピット状の押し型文がみられた。11～24は中期の加曽利E式の土器の破片である。この包含層の土器片はほとんどがこの時期のものであった。ほとんどは縄文を地文にして渦巻文他の沈線で施文区画がなされている。

(2) 石器 (第129・130図 1～14・16～23)

1～12は石鏃である。1は黒曜石製の石鏃で比較的細身で両面とも丁寧な調整で仕上げられている。凹基鏃の完形品である。2は黒色の珪質頁岩製の石鏃で剥片の主剝離面を残して片側だけ丁寧な調整で仕上げられている。先端部・基部ともやや丸みのある形態をしている。凹基鏃の完形品である。3は1よりやや透明度の強い黒曜石製の石鏃で両面とも丁寧な調整で仕上げられている。形態は長さが短く幅広である。凹基鏃の完形品である。4は縞がある灰色のチャート製の石鏃で背面に礫面を一部、主剝離面側に剝離面の一部を残してはいるものの比較的細かな調整で仕上げられている。形態はやや胴部から基部にかけて膨らんで丸みのある形である。凹基鏃の完形品である。5はやや透明度のある黒曜石製の石鏃でやや厚みがあるが両面とも丁寧な調整で仕上げられている。先端部から胴部にかけて欠損している。凹基鏃である。6はやや灰色がかった黒曜石製の石鏃で全体に薄く丁寧な調整で仕上げられている。ただ基部の調整の仕方を観察すると若干折れた面がみられるので1の様な石鏃の折れたものを再利用した可能性がある。凹基鏃の完形品である。7は灰色のチャート製の石鏃で両面とも丁寧な調整で仕上げられている。基部はやや丸みを帯びている。平基鏃の完形品である。8は青灰色のチャート製の石鏃で分厚く一部礫面も主剝離面も観察される。やや幅より長さの長い三角形をしている。平基鏃の完形品である。9は透明度の強い黒曜石製の石鏃で一部主剝離面を残すものの全体に丁寧な調整で仕上げられている。先端部がほんの少し欠損している。平基鏃である。こ



第128図 大野第8遺跡縄文時代包含層出土土器(1/4)



第129図 大野第8遺跡縄文時代包含層出土遺物(2/3)

の1点は表採品である。10は縞がある灰色のチャート製の石鏃で全体に大きめの調整でやや荒く仕上げられている。片脚が一部欠損している。やや凹基気味である。11は緑色の珪質頁岩製の石鏃で主剥離面はほぼ残されている様な形で、背面も比較的大きめの調整で仕上げられている。平基鏃の完形品である。12は黒味の強い黒曜石製の石鏃でほとんど周辺加工のみで形態が整えられている。先端部は欠損している。凹基鏃である。

13は黒色の珪質頁岩製の石錐である。一部基部に礫面がみられるが非常に丁寧な調整が先端部から基部にわたってなされている。

14・20は石核である。14は灰色のチャート製の石核である。両極打面が観察される。他に同じ石材の製品は見られない。20は頁岩製の石核である。最初に剥離した面を打面にして多方面に剥離している。同じ石材の製品はみられない。

16～19は打製石斧である。16は花崗岩製の打製石斧で刃部が残存している。周辺部は比較的大きめの剥離で側片部はやや敲つぶした様な形で仕上げている。形態は分銅形であろう。17は安山岩製の打製石斧である。礫から剥した板状の剥片を利用して主剥離面から礫面に向かう周辺剥離のみで形態を整えている。やや赤みを帯びている。焼けているかもしれない。18は玄武岩製の打製石斧である。16と同様に刃部だけ残存している。調整そのものも同じようである。形態はおそらく分銅形になると思われる。19は砂岩小礫を分割したものを素材にして叩いて仕上げている。表面の一部に焼土が付着している。焼土遺構との関わりがあるかもしれない。21は細粒安山岩製の磨石片である。裏表ともに磨痕が観察できる。22・23は敲石である。22は比較粒の荒い砂岩製の敲石で礫を打ち欠いた物を素材にしている。約半分の側辺部を中心にした部分に打痕が見られる。23は砂岩製の小石を素材にした敲石で平な部分に多く角に一部打痕が観察される。

(3) 石製品 (第129図15)

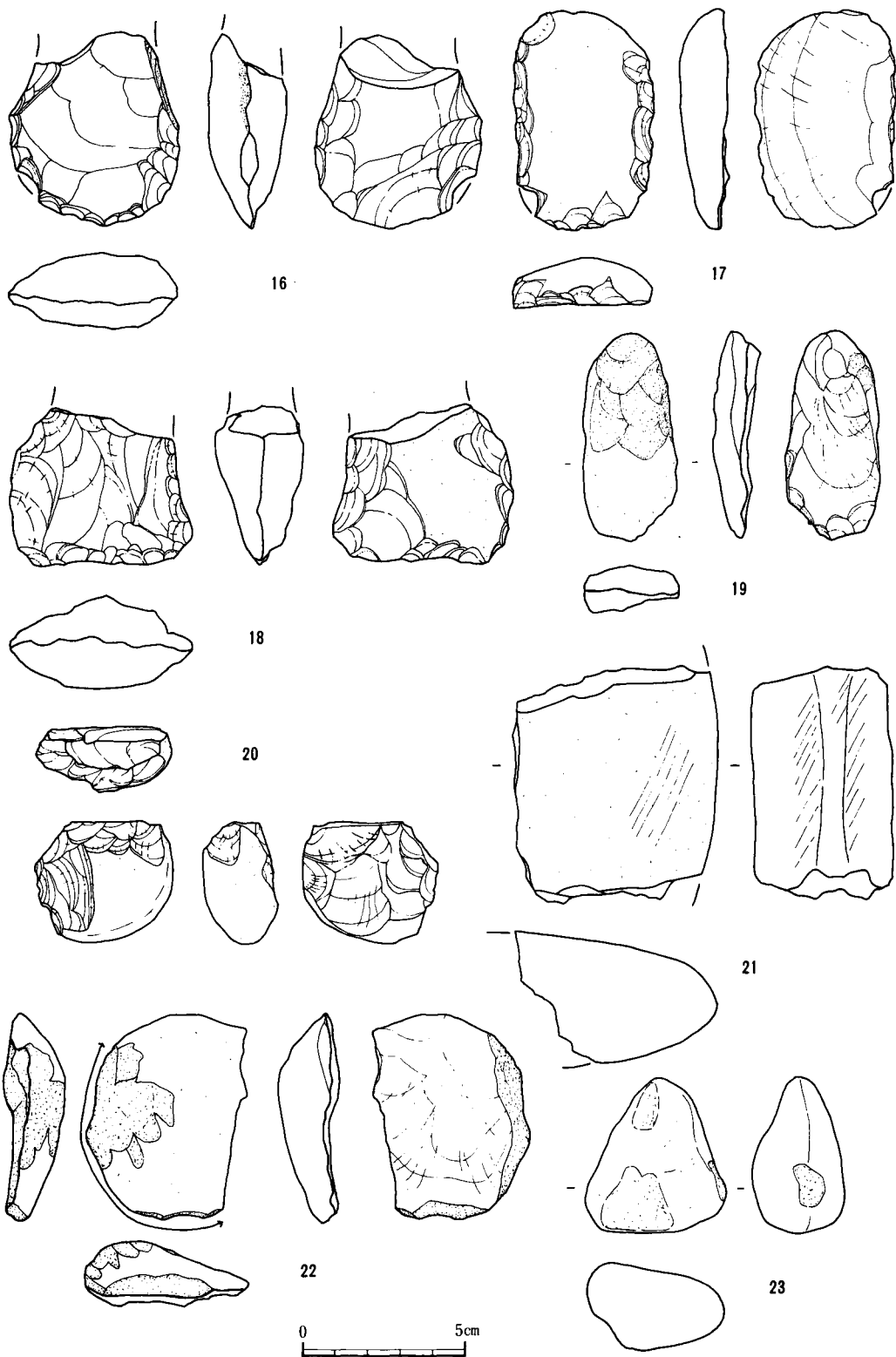
15は包含層中から出土した勾玉形石製品である。蛇紋岩製で穿孔部分が欠損している。尾部分は自然面が一部残っている。

(4) その他

図示はしていないがかなりの量の礫・礫片が出土している。焼けているものもかなりあり焼土遺構との関わりが考えられる。

5. 小結

立地が谷頭から斜面部に向かう場所であり、他の遺跡とは明らかに異なる。遺跡の内容も焼土遺構が9基のみであり、包含層からの検出ではあるが石鏃が多く出土していることから考えると、狩猟場に向かう一時的なキャンプサイトの様な性格が浮かんでくる。焼土遺構の構造そのものは縄文時代早期後半によくみられるタイプの炉穴とは形態が違う。ある意味では台地上



第130図 大野第8遺跡縄文時代包含層出土石器(1/2)

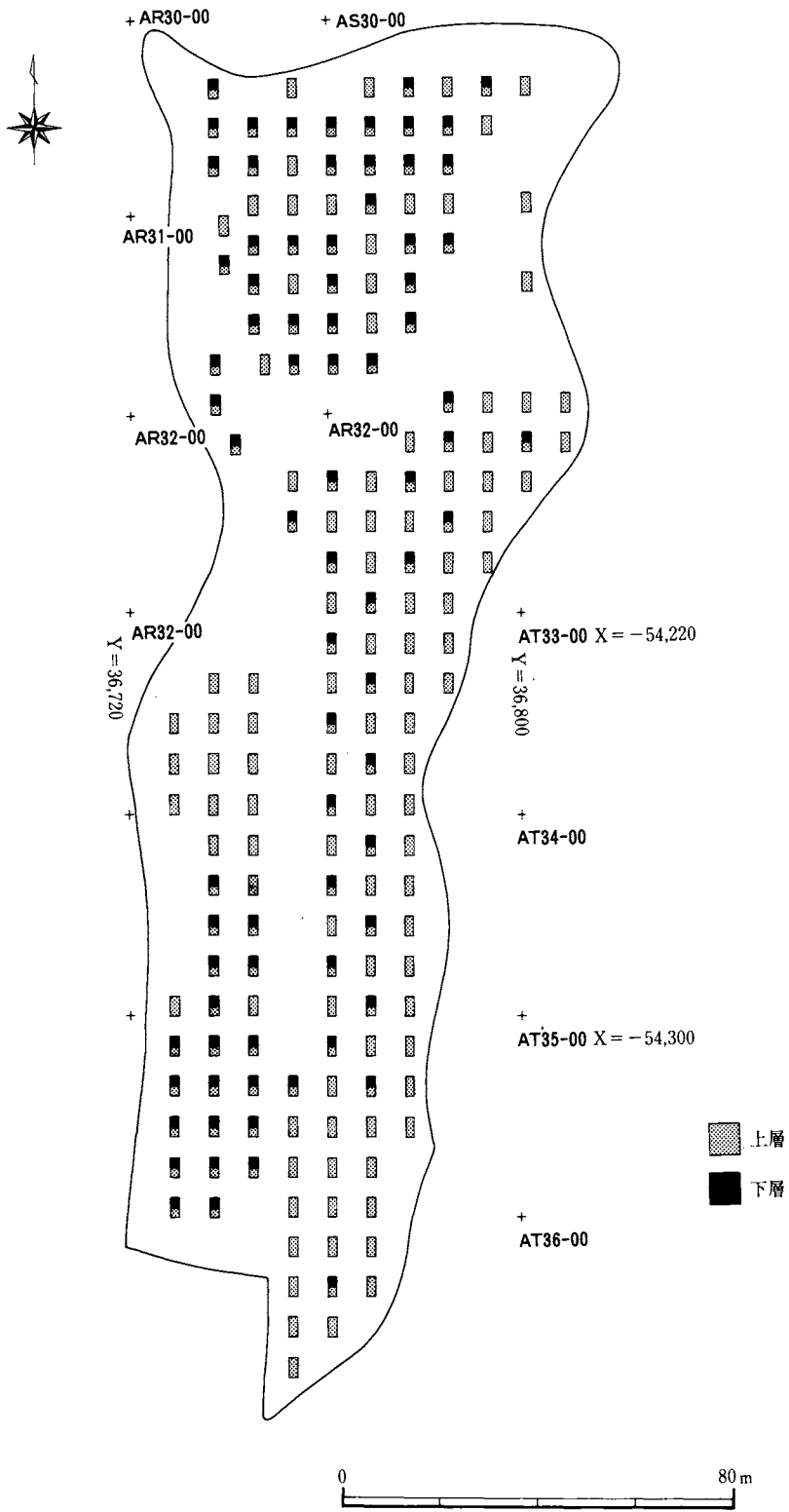
の陥穴状遺構とセットで考えたほうがよさそうであるが、積極的な証拠はないため類例の増加をまたなければならない。

第 8 章

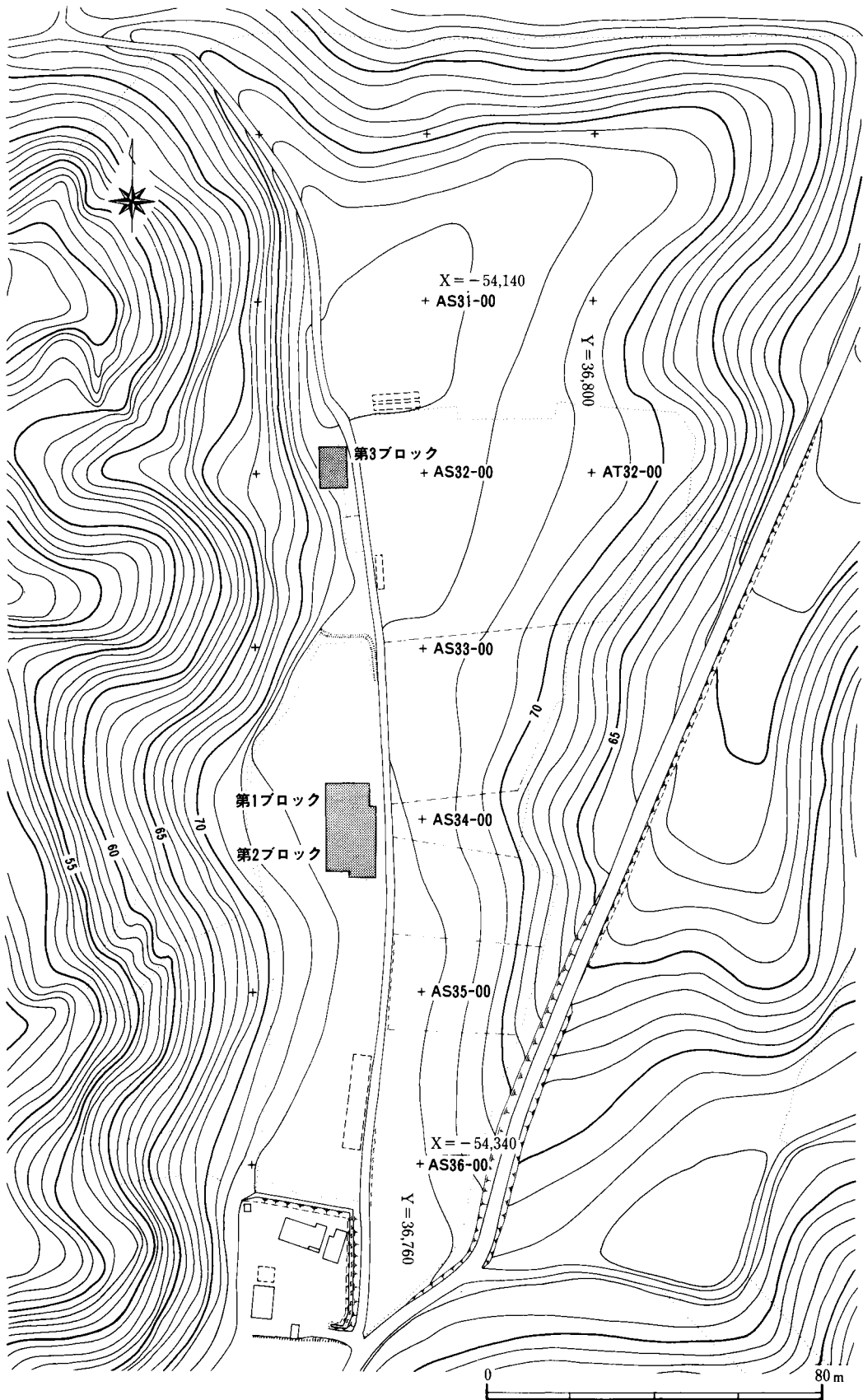
大 野 遺 跡

遺跡コード 201-073

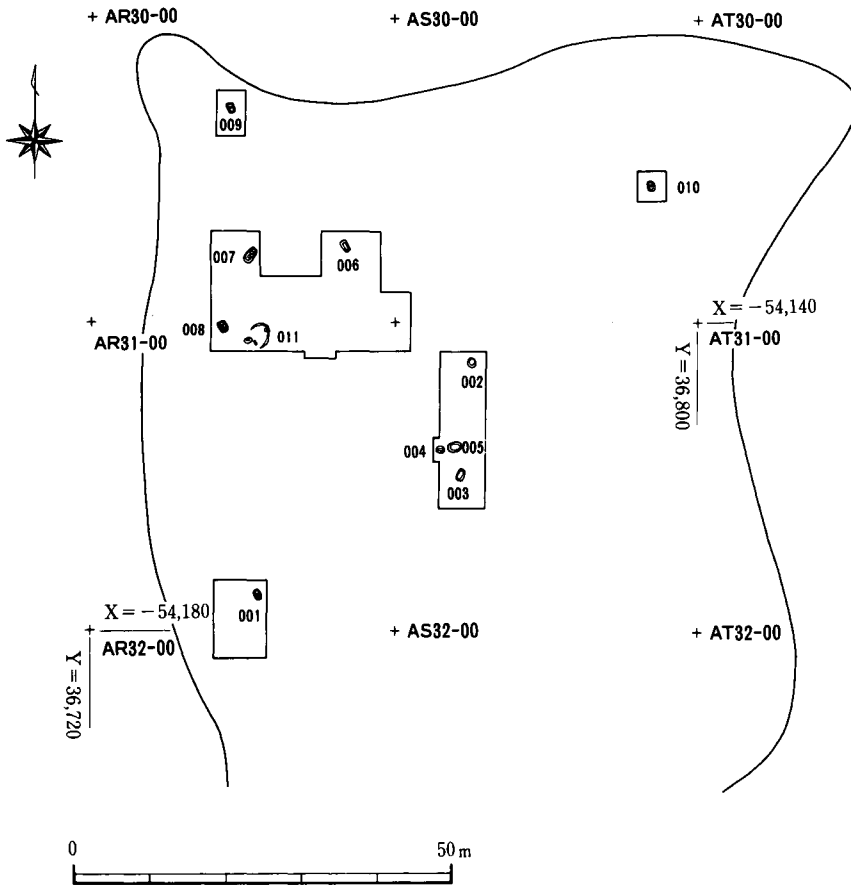
調査担当者 高橋博文・森本和男



第131図 大野遺跡確認調査グリッド配置図(1/1500)



第132図 大野遺跡下層本調査範囲 (1/1500)



第133図 大野遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1) (1/1,000)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分 (第136図)

- I層 黒色土 ……耕作土で一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II b層 黄褐色土……新期テフラの堆積層である。
- II c層 暗褐色土……縄文時代の遺物の包含層である。
- III層 黄褐色土……立川ロームのソフトローム部分に相当する。
- IV～VI層 褐色土 ……ソフトロームと第2黒色帯の中間の層でIV～VI層の三層に分かれるが本遺跡ではV層の第1黒色帯が明確に認められなかった。本層中で始良パミスを含む層が連続して認められた。
- VII層 暗茶褐色土……第2黒色帯に相当するが上下に分離は不可能であった。

2. 概要 (第131・132図)

大野遺跡では上層の確認調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。その際に3箇所で遺物を検出した。本調査を実施しその結果Ⅲ層下部相当のブロックは2箇所(近接し同一石材が見られる)、Ⅶ層相当のブロックは1箇所(単独出土)検出された。

3. 第1ブロック

(1) 分布状況

A R33-95・96グリットを中心に23点検出された。分布状況は2.5～4mの範囲に比較的まとまって分布している。約4m南には第2ブロックがある。石材は砂岩①製と頁岩①製の2種類で構成される。この発掘区の辺りはソフトロームが比較的厚くⅢ・Ⅳ層の分層が可能であり遺物はⅢ層下部を中心に検出されている。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は23点である。器種組成は石核1点、剥片2点、碎片20点である。石材構成は砂岩①製20点、頁岩①製3点である。偏った組成を示している。

(3) 出土遺物

石核(第137図1)砂岩①製で当初石斧と認定したが細部の調整が認められない点から石核と判断した。大きな礫の分割した剥片の表裏を剥離面として使用している。剥片剥離作業に伴う碎片が多くみられるが作出された剥片はまったくみられなかった。

剥片(第134図2・3)2・3とも砂岩①製の剥片でどちらかと言うと横長の不整形な剥片である。目的的な剥片ではなく剥片剥離の工程の中で生み出された副産物の可能性が高い。

4. 第2ブロック

(1) 分布状況

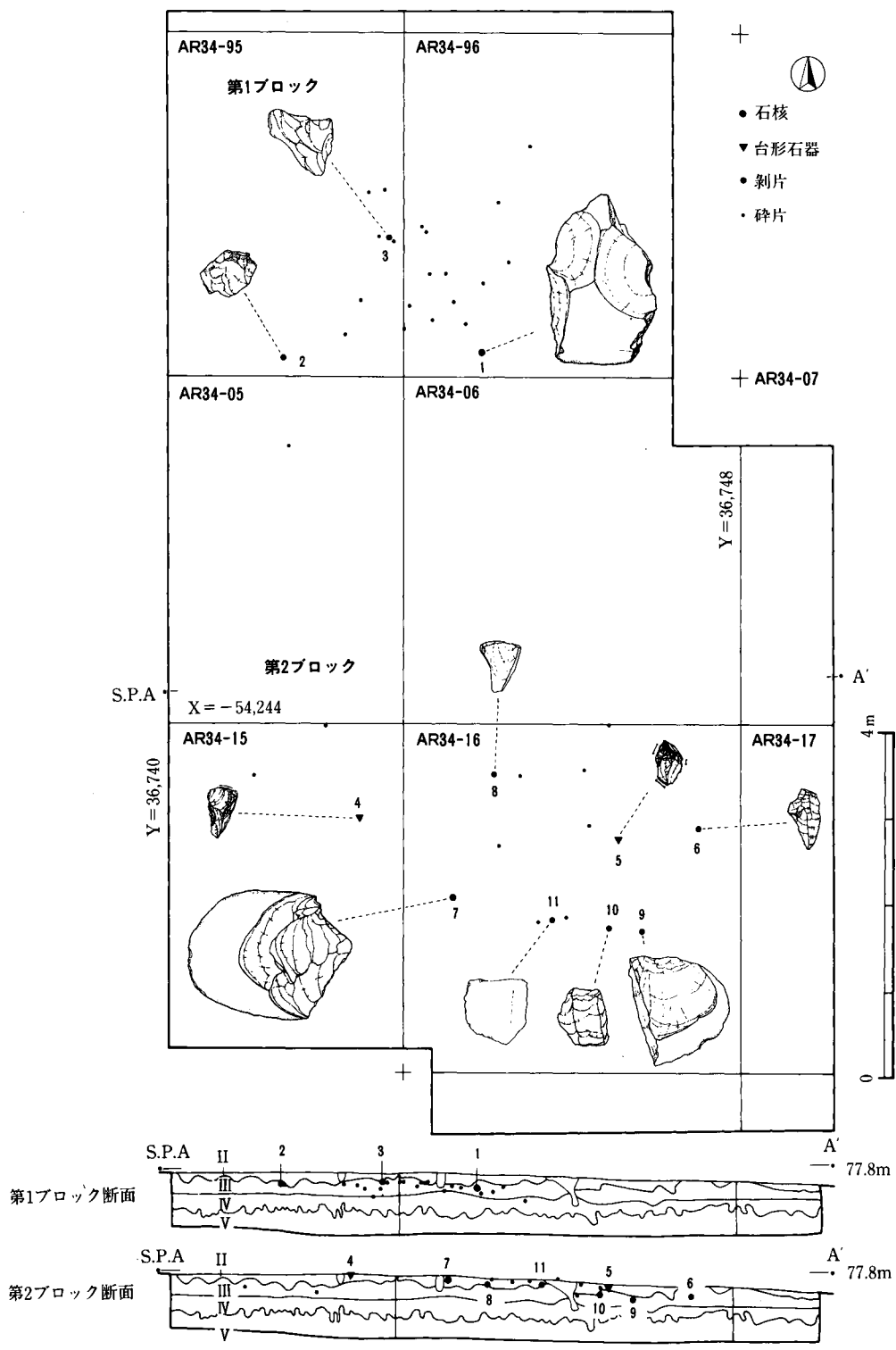
A R34-16グリットを中心に17点検出された。全体の分布状況は東西5m、南北2.5m程の範囲に細長く散漫に広がっている。第1ブロックから約南へ4mに位置する。石材は砂岩①・②製頁岩①・②製、黒曜石①製、安山岩①製の6種類で構成される。第1ブロック同様にⅢ層下部に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器類の総数は17点である。器種組成は台形石器2点、石核1点、剥片5点、碎片9点である。石材構成は砂岩①製6点、砂岩①製5点、黒曜石①製2点、頁岩①製1点、頁岩②製2点、安山岩①製1点である。

(3) 出土遺物

台形石器(第136図4・5)4・5いずれも黒曜石①製の台形石器である。いずれも小剥片を横位に使用して基部を中心に細かな調整を施している。5は幾分切り出し形に近い形状をして



第134図 大野遺跡第1・2ブロック遺物出土状況 (1/80)

いるが技法的に共通部分が多いため台形石器とした。

石核（第137図7）砂岩①製の大型の礫を分割した剥片を使用して背部に右方向からの3回以上の剥片剥離の跡がみられる。石材は同じだが技法的には第1ブロックの石核とはかなり異なる剥片剥離をおこなっている。また左側縁部には両極打法に伴う刃こぼれがみられる。

剥片（第137・138・139図6・8～11）6は砂岩①製の縦長剥片である。背部にも同方向の剥離面が複数条みられる。8～10は砂岩①製の剥片である。特に10は礫面を残す大型の剥片である。剥片の形態はいずれも寸詰まりの不整な方形を呈している。11は砂岩②製の剥片で背部は礫面で覆われている。

5. 第3ブロック

(1) 分布状況

A R31-49グリットから1点検出されたため、周辺を拡張したが他の遺物は検出されなかった。黒曜石製の使用痕のある剥片でVII層の時期に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は1点である。器種構成はU・フレイク1点である。石材は黒曜石である。

(3) 出土遺物

U・フレイク（第138図13）黒曜石製の剥片の右側辺部分に使用痕と思われる連続的な小剥離が見られる。背部の先端部は風化面に覆われている。石材の特徴は安山岩質夾雑物が多く混ざるので東大野第2遺跡のVII層の石材に酷似することから関連性がうかがえる。

6. その他の旧石器時代の遺物について

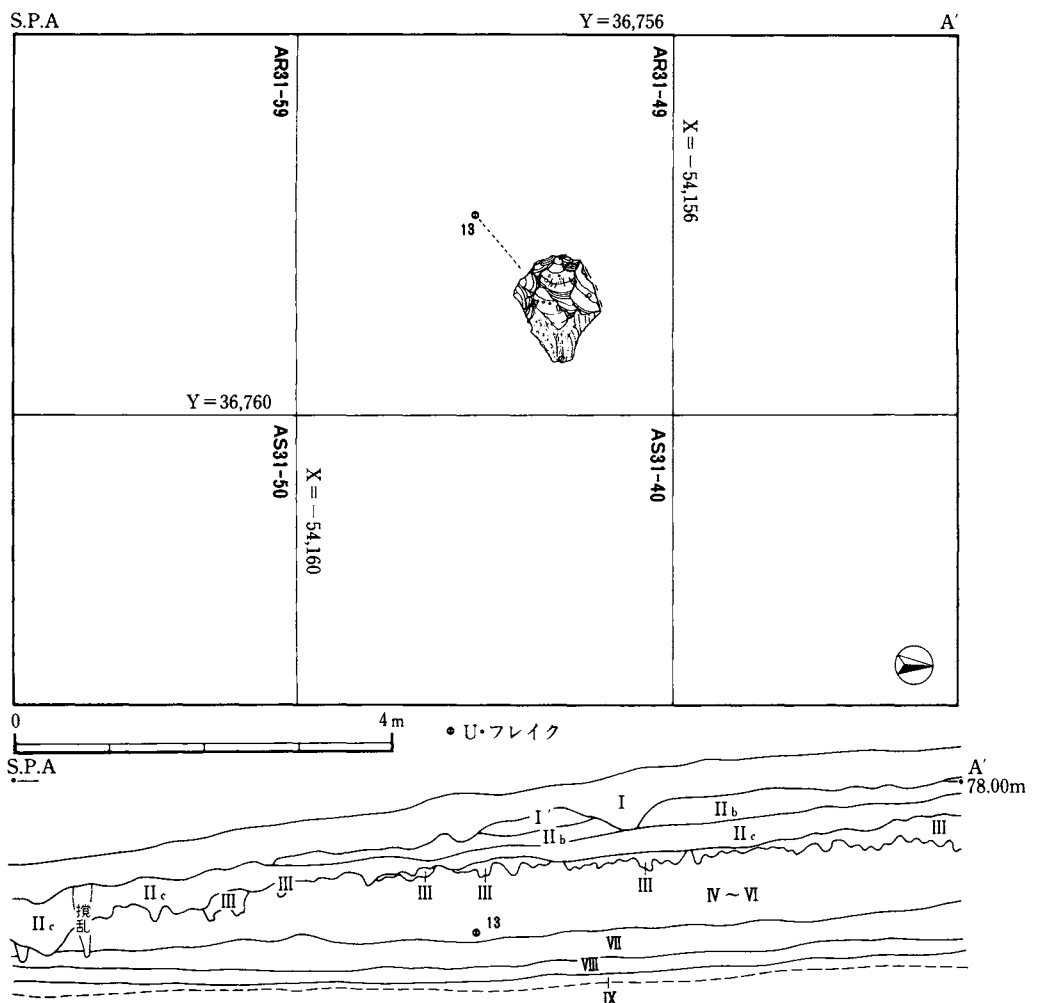
上記の遺物の他にグリット一括や遺構内から出土した石器が数点出土している。

台形石器（第138図15・17）15は黒味の強い黒曜石製の台形石器で右側辺は細かな調整で左側辺は折断技法で仕上げている。遺構内の遺物として検出されている。17は風化の著しい黒曜石製の台形石器で大野第4遺跡の第1ブロック内で出土している石材に酷似していることから関連性がうかがえる。15・17とも先端部に若干の刃こぼれがみられる。

切り出し形石器（第138図18・19）18は黒曜石製の切り出し形石器で特に基部の調整は細かく仕上げている。先端部と刃部には欠損がみられる。19は安山岩製の切り出し形石器、もしくは小形のナイフ形石器である。基部調整は細かく仕上げている。刃部は欠損している。

R・フレイク（第139図20）20は黒味の強い黒曜石製のR・フレイクで背部はほぼ風化面に覆われている。側辺部分はかなりの部分に連続的な小剥離がみられる。また先端部分は折れている。

U・フレイク（第138図12）12は黒味が強くやや夾雑物が見られる黒曜石で基部と先端部に使



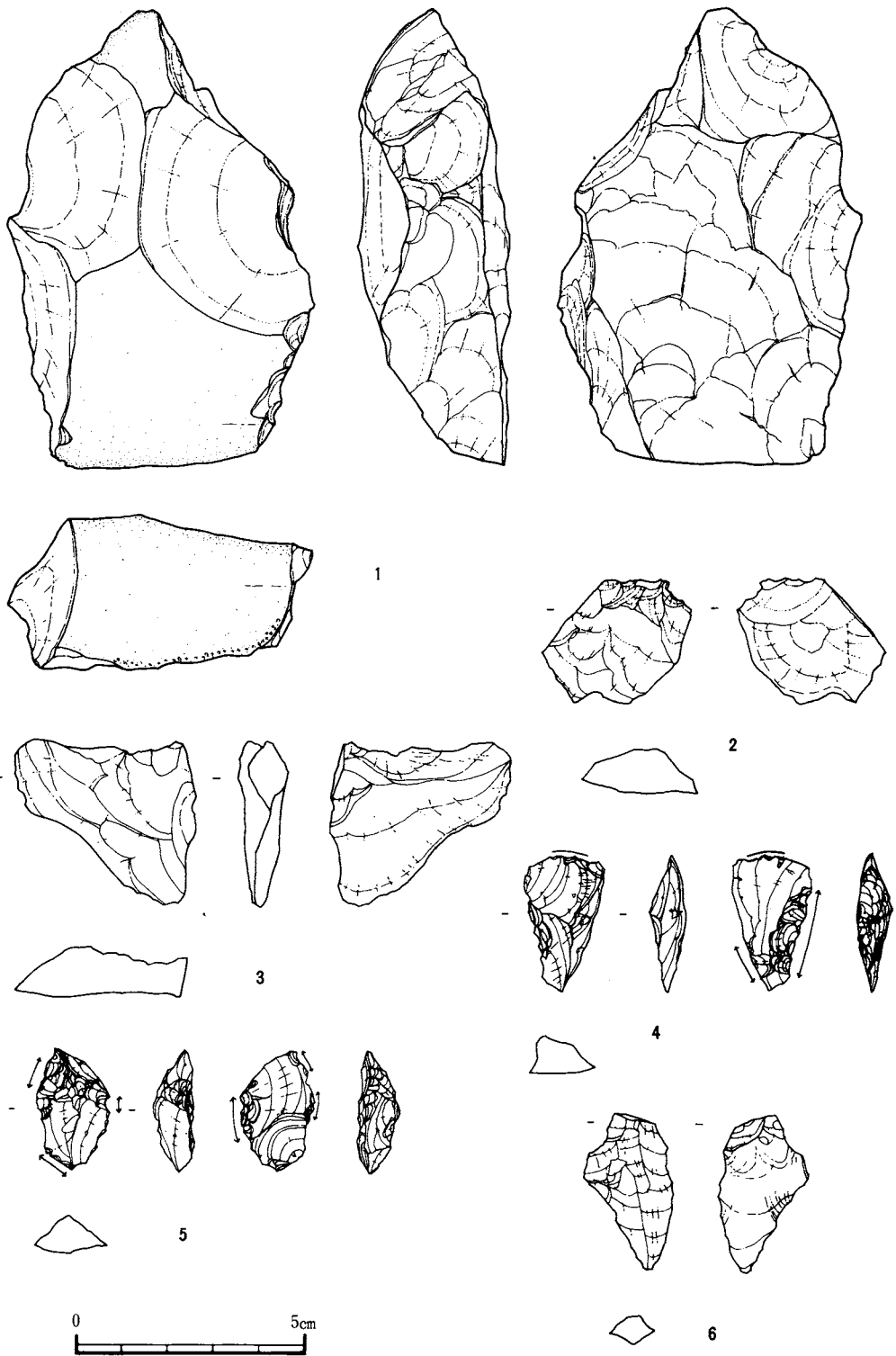
第135図 大野遺跡第3ブロック(単独出土)遺物出土状況(1/80)

用痕と思われる小剝離が見られる。

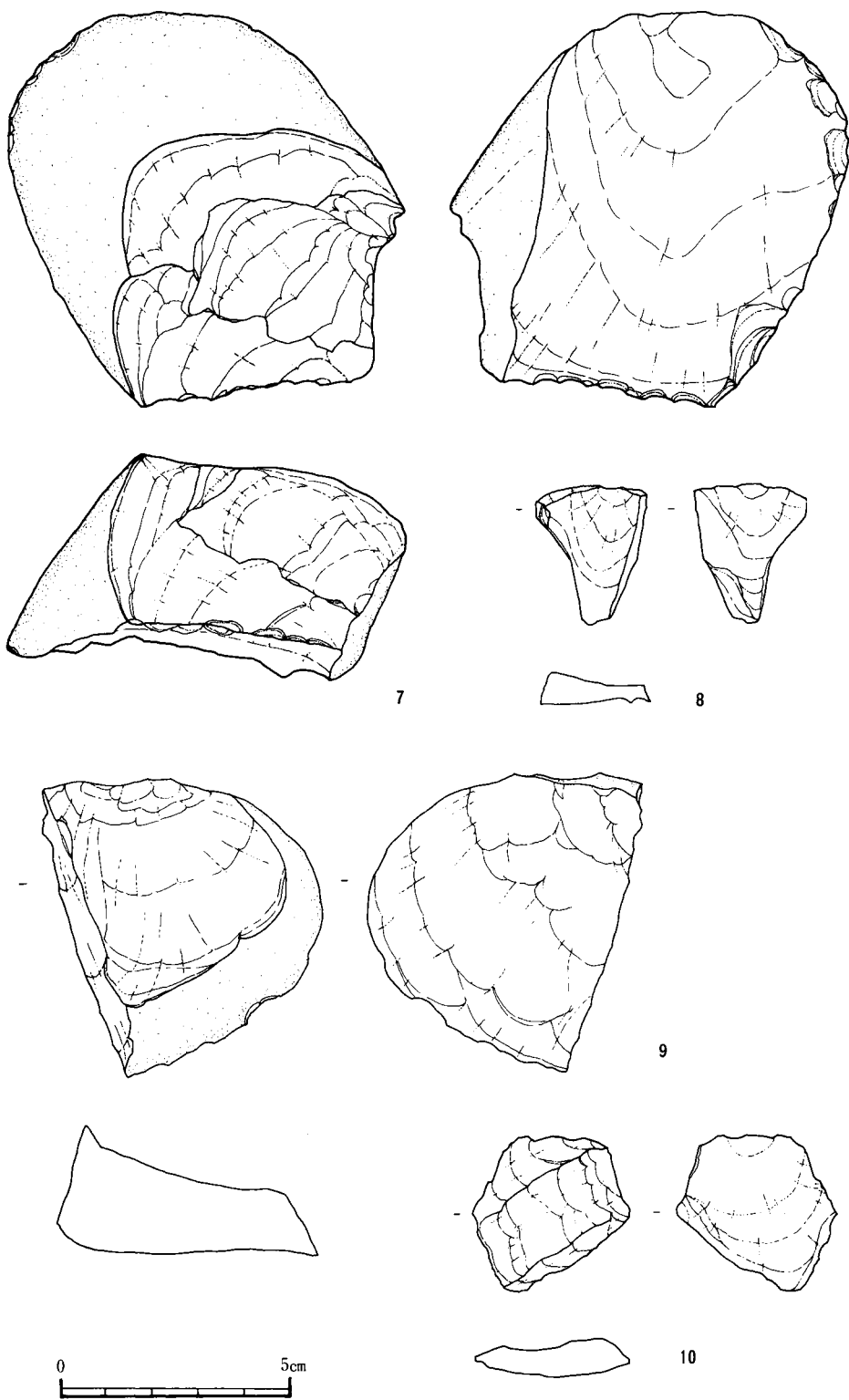
剥片(第138図14・16) 14は頁岩製の剥片である。やや厚みのある剥片である。16は泥岩製の縦長剥片で背部は2/3以上礫面に覆われている。

7. 小結

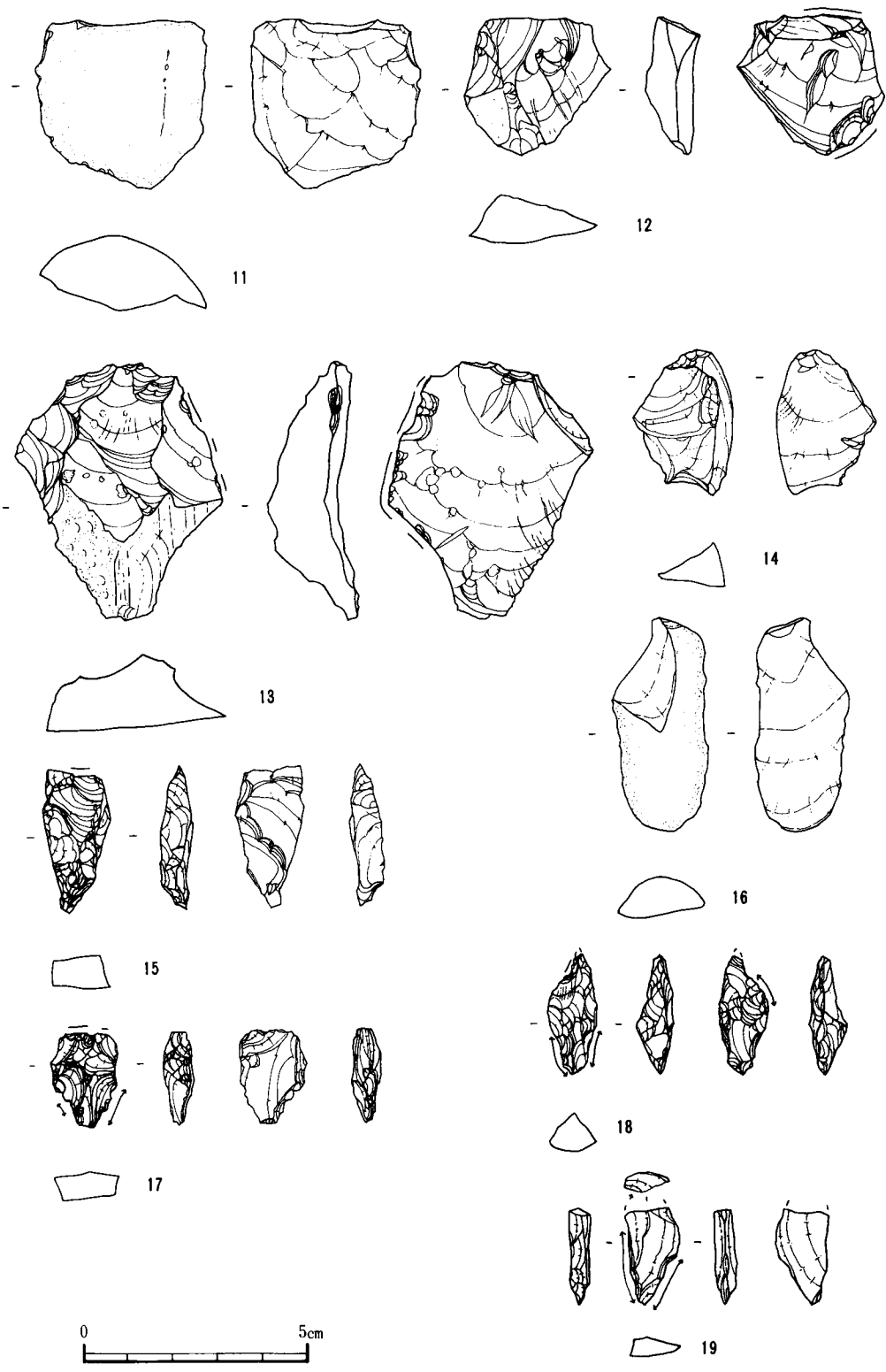
第1ブロックと第2ブロックは時期的にIII層下位あたりに位置する。4mの間隔をあけて位置しており共通の母岩がみられる。ただ相互の接合関係はみられない。またその内容も非常に対称的である。第1ブロックでは石核と碎片の組み合わせ、第2ブロックでは石器(台形石器)と剥片が多数を占めており、しかも石材の種類も増加するというあり方は非常に興味深い。接合しない同一の石材の存在はある短い時間差(つまり回帰的な使用)がそこに介在するのかもしれない。あるいは石材の種類の多さからして複数回短期間で使用されたような場所であった可能性も考えられる。第3ブロックの単独出土のVII層の遺物は東大野第2遺跡との関連性から考えればこの遺跡付近への生産活動(狩猟採集)に伴うものかと考えられる。



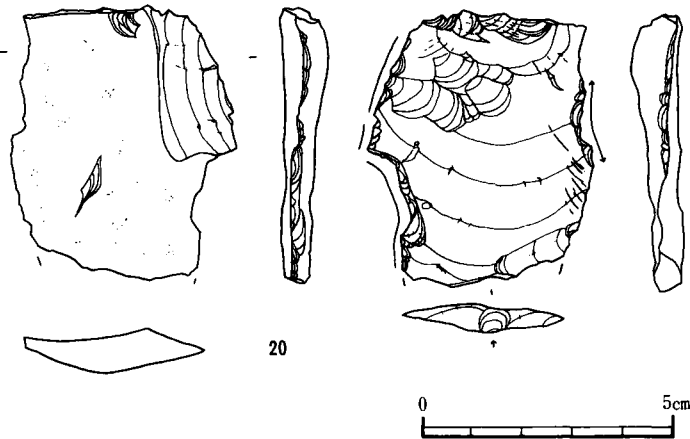
第136図 大野遺跡第1・2ブロック出土石器(2/3)



第137図 大野遺跡第2ブロック出土石器(2/3)



第138図 大野遺跡第2・3ブロック及びグリット出土石器(2/3)



第139図 大野遺跡グリット出土石器(2/3)

第2節 縄文時代

1. 概要(第133・134図)

大野遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が検出され2,600㎡の本調査を実施した。その結果縄文時代の住居跡1軒、縄文時代土坑50基が検出された。また遺物としては縄文時代前期を中心に早期後半～中期の時期の土器片が、若干の石器を伴って検出されている。

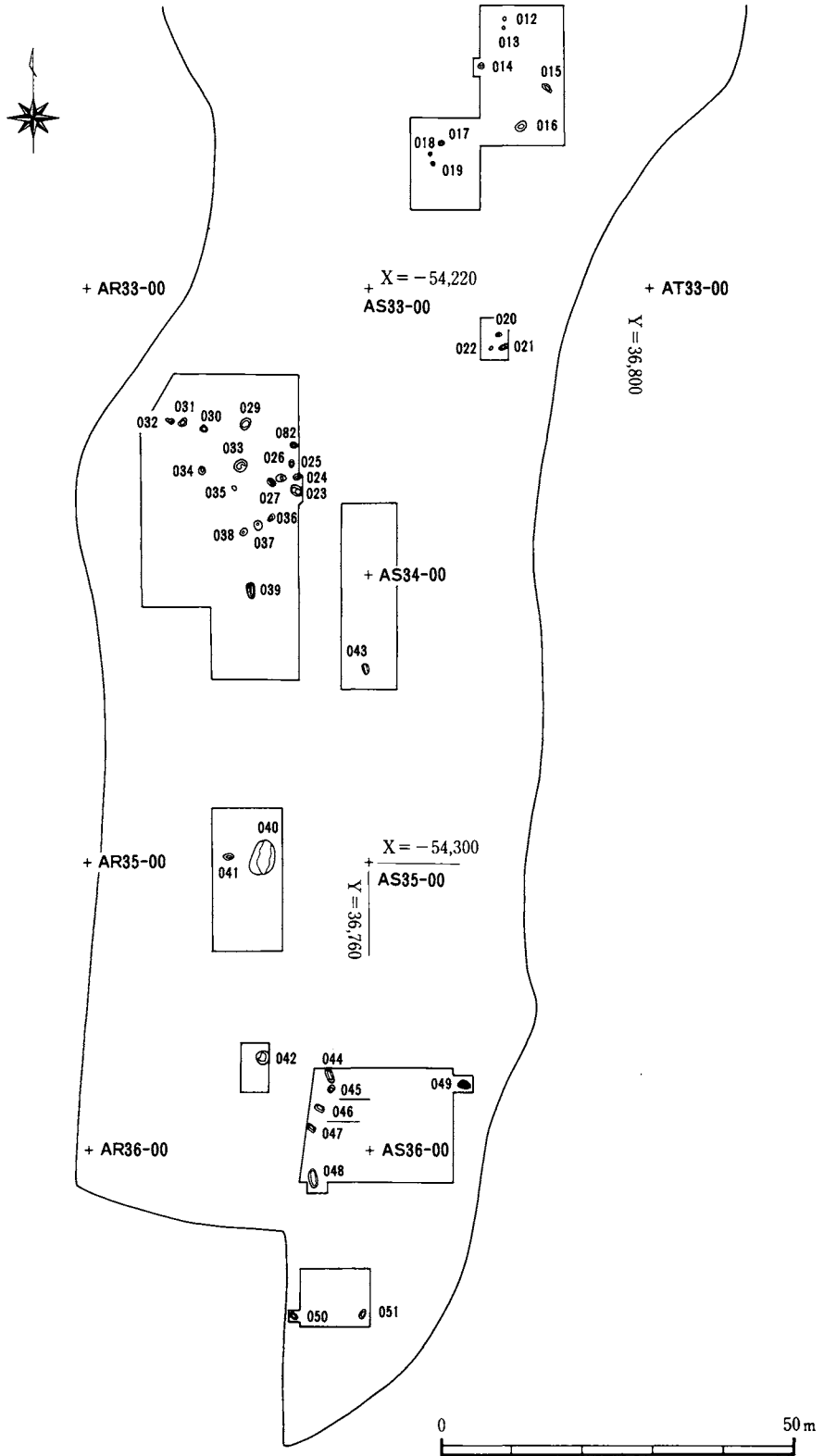
2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

011号住居跡(遺構 第141図)

A R31-05から東2 mに位置する。検出面から床面までの掘り込みはほとんどなく北～東側にかけて確認できる程度である。規模は約3 mの円形に近く床面はそれほどしっかり固められた形跡はみられない。柱穴はP1・P2の2本で約30cmの深さがあり掘り込みもしっかりしている。遺物等の検出はなく時期は特定できない。遺構の構造上通常の住居とは考えられず、短期間の使用を目的としたテントのような形をしたものではなかったかと思われる。その他のピットはこの遺構に伴うものと考えられるが用途は不明である。

(2) 土坑



第140図 大野遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(2) (1/1,000)

001号土坑 (遺構 第141図)

A R31-95から東へ1mに位置する。プランは長軸1.35m、短辺1.05mの長方形に近い楕円形を呈する。検出面からの深さは約1.7mある。床面はフラットで壁はほとんど垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒・ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。3. ロームブロック(小)を少し含む暗褐色土。4. ロームブロックとローム粒の混ざり堆積が疎でサクサクな黄褐色土。5. ロームブロックを少し含み粒が荒く堆積が疎でサクサクな黒褐色土。6. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

002号土坑 (遺構 第141図 遺物 第151図46)

A S31-13から西へ2m、南へ1mに位置する。プランは径約1.2mの円形を呈する。検出面からの深さは0.2mである。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ソフトロームロームを多く含みローム粒を少し含む褐色土である。覆土上層から縄文時代中期の加曾利E式の胴部破片が検出されていて埋襲であった可能性もある。

003号土坑 (遺構 第141図)

A S31-52付近に位置する。プランは長辺1.5m、短軸0.7mの長方形を呈する。検出面からの深さは約0.85mである。床面はフラットで壁はほとんど垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含みロームブロックを少し含む黒褐色土。2. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。5. ロームブロックを少し含み堆積はやや疎な黒褐色土である。形態的に陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

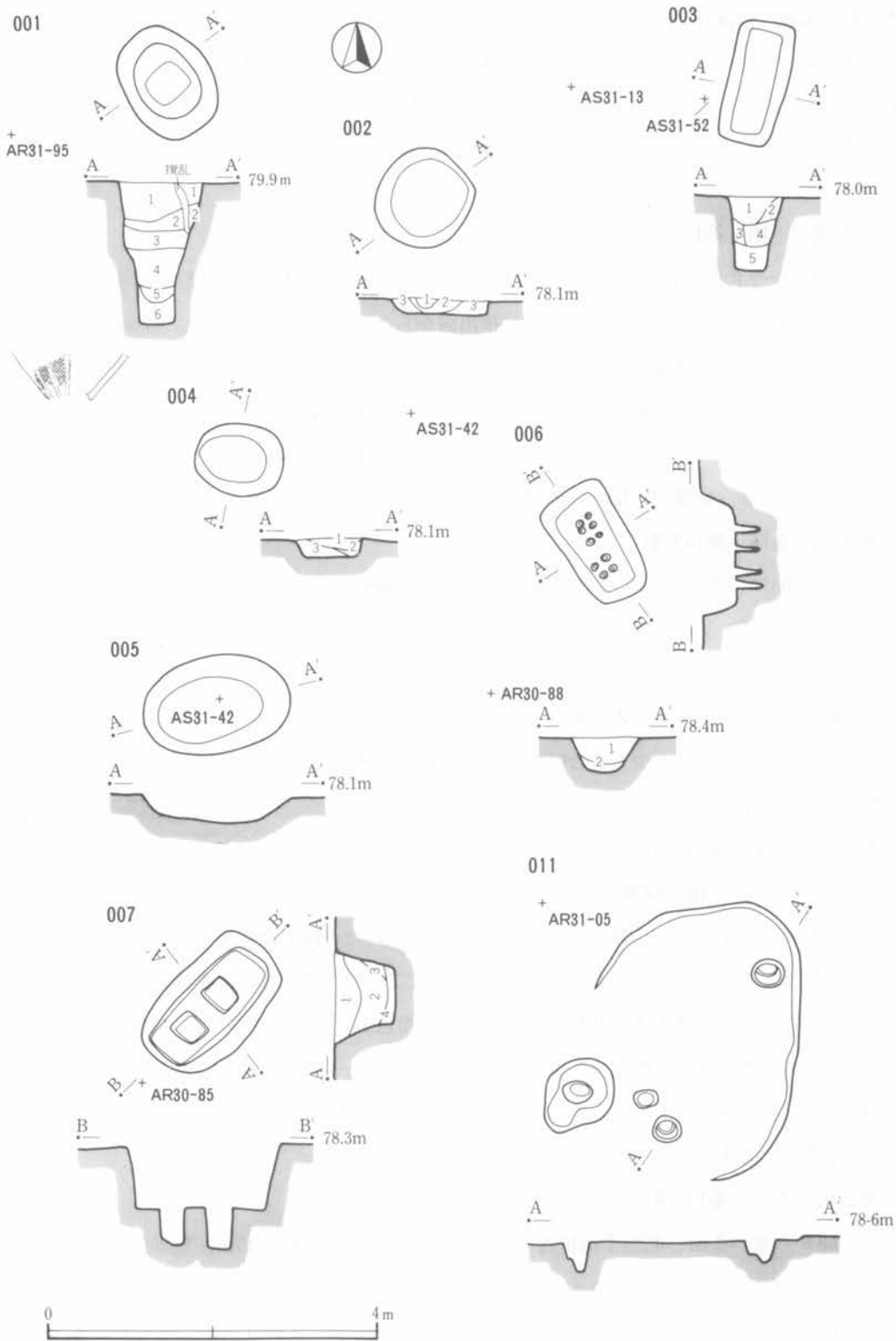
004号土坑 (遺構 第141図)

A S31-42から西へ2mに位置する。プランは長軸約1.05m、短軸約0.85mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。床面はフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ロームブロックを多く含み堆積はやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われず貯蔵穴等別の用途が考えられる。遺物の検出はない。

005号土坑 (遺構 第141図)

A S31-42に位置する。プランは長軸約1.8m、短軸約1.15mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.25mである。床面はやや東側から西側にかけて浅くなり壁は斜めに緩やかに立ち上がる。形態的には陥穴状遺構になると思われず貯蔵穴等別の用途が考えられる。遺物の検出はない。

006号土坑 (遺構 第141図)



第141図 大野遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

A R30-88から北へ2 m、東へ1 mに位置する。プランは長辺約1.45m、短辺0.85mの長方形を呈する。床面には直径5cm~10cmの小さな円形を呈する比較的深いピットが10個検出された。棒状の物を刺した跡ではないかと考えられる。検出面からの深さは約0.4mでピット最深部までの深さは約0.7mある。覆土は1. ローム粒を含みソフトローム粒ブロックを若干含む暗褐色土。2. 堆積がやや密で硬い黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

007号土坑（遺構 第141図）

A R30-80のやや北に位置する。プランは長辺約1.8m、短辺約1.1mの長方形を呈する。床面には0.3mの方形のピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.75mでピットの最深部までの深さは約1.2mある。床面はフラットで壁はやや外反しながら急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒をやや多く含む褐色土ブロック（小）を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを多く含む褐色土。4. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

008号土坑（遺構 第142図）

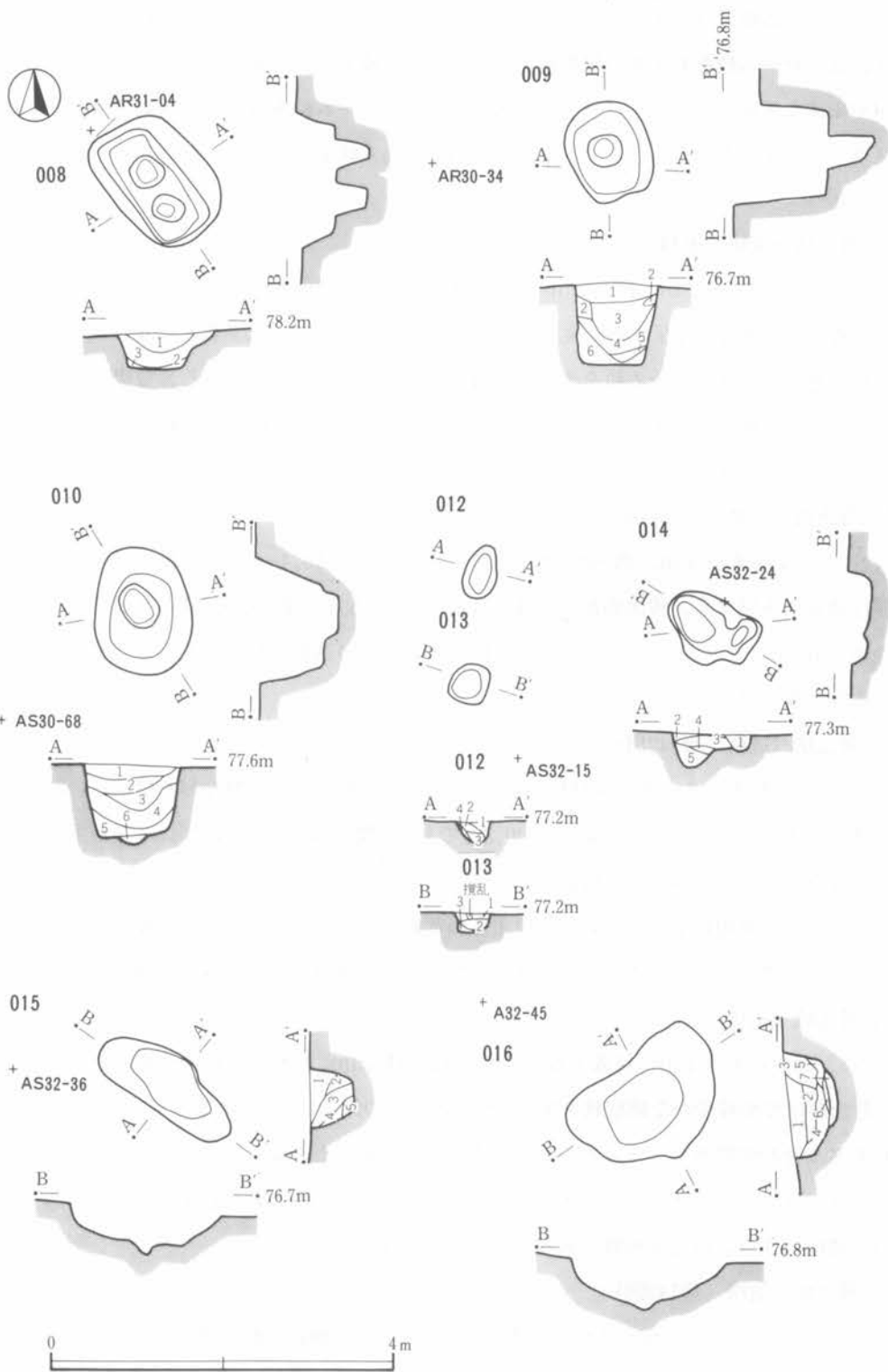
ほぼA R31-04に位置する。プランは長辺約1.6m、短軸約1.15mのやや丸みのある長方形を呈する。床面には径0.35mの円形プランのピットが2個検出された。検出面からの深さは約0.4mでピットの最深部までの深さは約0.8mある。床面はフラットで壁は大きく外反しながら立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

009号土坑（遺構 第142図）

A R30-34から東へ2 mに位置する。プランは長軸1.1m、短軸0.95mの長方形に近い楕円形を呈する。床面には径0.4mの円形のピットが1個検出された。検出面からの深さは約0.9mでピットの最深部までの深さは約1.35mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含むローム粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を少し含む黒褐色土。5. ローム粒を若干含む暗褐色土。6. ローム粒をやや多く含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

010号土坑（遺構 第142図）

A S30-68から東へ1 m、北へ1 m付近に位置する。プランは長軸1.45m、短軸0.9mの楕円形を呈する。床面には0.4~0.5mのピットが1個検出された。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1mある。床面はフラットで壁は少し広がり気味に立ち上がる。覆



第142図 大野遺跡縄文時代土坑(2) (1/80)

土は1. ローム粒・ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む黒褐色土。4. ローム粒を少し・褐色土ブロックを少し含み堆積がやや疎な黒褐色土。5. ソフトロームブロック・ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ロームブロックを多く含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。遺物の検出はない。

012号土坑（遺構 第142図）

A S 32-15から北へ2 m、西へ0.5mに位置する。プランは0.4～0.6mの楕円形に近い形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む褐色土。4. ローム粒主体の黄褐色土である。規模形態的な状況から判断すると柱穴的な機能を持つ遺構かもしれない。遺物の検出はない。

013号土坑（遺構 第142図）

A S 32-15から北へ1 m、西へ0.5mに位置する。プランは0.4～0.5mの楕円形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。覆土は012号と共通である。遺構の性格は012号とセットで考えれば011号と似たテント状の遺構の存在を考慮することが可能である。遺物の検出はない。

014号土坑（遺構 第142図）

A S 32-24に位置する。プランは1.05m～0.7mの楕円形に近い不整形な形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. ロームブロックが主体の黄褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒を含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを主体の黄褐色土。5. ローム粒主体の黄褐色土である。尚覆土は全体にソフトローム粒が主体を占める。形態も不整形で遺構の性格の特定も困難である。遺物の検出はない。

015号土坑（遺構 第142図）

A S 32-36から東へ1 mに位置する。プランは長軸1.75m、短軸0.65mの楕円に近い形を呈する。断面形はやや緩やかな鍋底状を呈す。検出面からの深さは約0.5mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. ローム粒をやや多く含む褐色土。4. ローム粒主体の黄褐色土。5. ロームブロック主体の黄褐色土である。形態もやや不整で遺構の性格の特定も困難である。遺物の検出はない。

016号土坑（遺構 第142図）

A S 32-45から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸約1.8m、短軸1.2mの楕円に近い不整形な形を呈する。断面は三日月形を呈する。検出面からの深さは約0.6mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒がやや少ない暗褐色土。3. ローム粒を多く含む

黒褐色土。4. ローム粒をやや多く含む黒褐色土。5. ローム粒が主体の黄褐色土。6. ローム粒を多く含む黒褐色土。7. ロームブロック主体の黄褐色土である。形態もやや不整で遺構の性格の特定も困難である。遺物の検出はない。

017号土坑 (遺構 第143図)

A S 32-52から東へ2.5mに位置する。プランは0.6~0.8mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. ローム粒主体の黄褐色土。4. ロームブロック土。5. ローム粒を多く含む褐色土。6. ローム粒主体の黄褐色土である。規模形態的な状況から判断すると柱穴的な機能を持つ遺構かもしれない。遺物の検出はない。

018号土坑 (遺構 第143図)

A S 32-52から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは0.4~0.5mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒主体の黄褐色土である。規模形態的な状況から判断すると柱穴的な機能を持つ遺構かもしれない。遺物の検出はない。

019号土坑 (遺構 第143図)

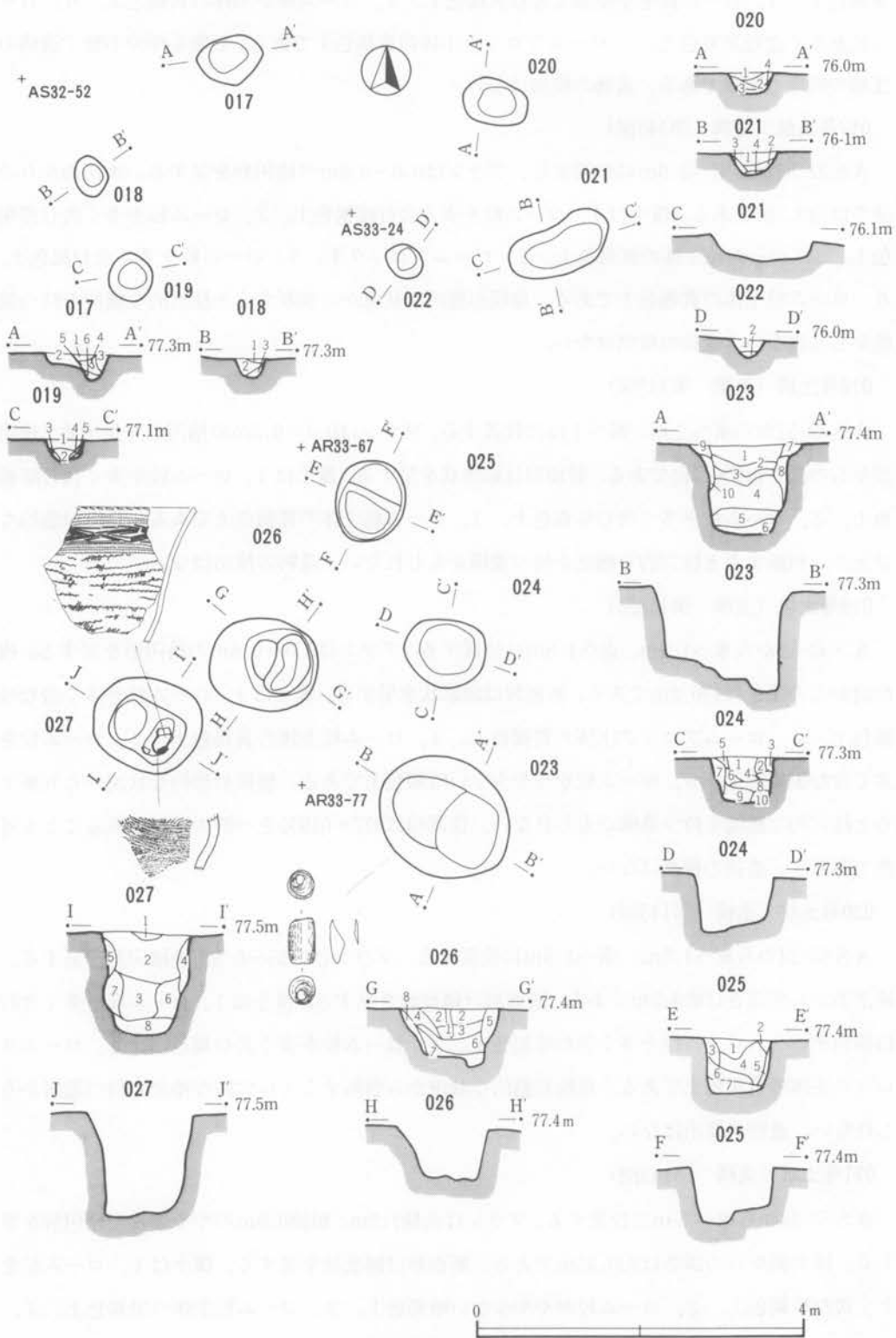
A S 32-52から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは0.5~0.6mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ロームブロック主体の黄褐色土。3. ローム粒主体の黄褐色土。4. ローム粒を多く含む黒褐色土。5. ローム粒がやや少ない暗褐色土である。規模形態的な状況から判断すると柱穴的な機能を持つ遺構かもしれない。位置的に017~019号を一群の遺構とみることも可能であろう。遺物の検出はない。

020号土坑 (遺構 第143図)

A S 33-24から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは0.55~0.8mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む褐色土。4. ロームブロック主体の黄褐色土である。規模形態的な状況から判断すると柱穴的な機能を持つ遺構かもしれない。遺物の検出はない。

021号土坑 (遺構 第143図)

A S 33-24から東へ3mに位置する。プランは長軸1.3m、短軸0.6mのやや歪んだ楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.35mである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒がやや少ない暗褐色土。3. ローム粒主体の黒褐色土。4. ロームブロック主体の黄褐色土である。形態上から陥穴状遺構とは考えられない。遺物の検出



第143図 大野遺跡縄文時代土坑(3) (1/80)

はない。

022号土坑（遺構 第143図）

A S 33-24から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは0.4～0.5mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.25mである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土である。規模形態的な状況から判断すると柱穴的な機能を持つ遺構かもしれない。位置的に020号と一群の遺構とみることも可能であろう。遺物の検出はない。

023号土坑（遺構 第143図 遺物 第152図8）

A R 33-77から東へ1mに位置する。プランは長軸約1.7m、短軸約1.35mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約1.1mである。床面の東側がピット状に低くなっている。覆土は1. ソフトローム粒を水玉状に含みスコリヤを僅かに含む暗褐色土。2. ソフトロームをより多く含む炭化物を僅かに含む暗褐色土。3. 炭化物を多く含む暗褐色土。4. 均質の層で良く締まっている暗褐色土。5. 褐色土とソフトロームから構成される茶褐色土。6. 僅かなロームブロックが混入し底面近くに炭化物が多く見られる暗褐色土。7～8. 褐色土とソフトロームが混ざりあった明褐色土。9～10. ソフトロームが主体で褐色土を僅かに含む黄褐色土である。形態上あるいは覆土に炭化物が含まれる点から陥穴状遺構とは考えられない。むしろ貯蔵穴等別の用途を持った遺構と考える。遺物は覆土下層より滑石製の管玉が1点検出されている。時期は土器片等を伴わないがおおよそ縄文時代前期のものと思われる。

024号土坑（遺構 第143図）

A R 33-77から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸約0.95m、短軸約0.9mでほぼ円形を呈する。床面はフラットである。検出面からの深さは0.5mである。覆土は1. ソフトロームを僅かに含む暗褐色土。2・5. ソフトローム粒を含む褐色土。3・7. ソフトローム主体の明褐色土。4. ソフトローム主体の黄褐色土。6. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。8. ソフトローム粒を含む茶褐色土。9. 暗褐色土・ソフトロームを粒を含む褐色土。10. ソフトローム主体の黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとは思われない。むしろ貯蔵穴等別の用途を持った遺構と考えられる。遺物の検出はない。

025号土坑（遺構 第143図）

A R 33-77から東へ0.5m、北へ3mに位置する。プランは長軸約1m、短軸約0.85mのほぼ円形を呈する。床面はやや南側が下がり壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは約0.6mである。覆土は1・2. ローム粒を含む暗褐色土。3. ソフトローム粒をブロック状に含む暗褐色土。4. やや黒味の強い暗褐色土。5. ソフトロームを縞状に含む褐色土。6. ソフトロームを含む褐色土。7. ソフトロームを含む褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると

は思われぬ。むしろ貯蔵穴等別の用途を持った遺構と考えられる。覆土中層より縄文時代前期の土器の破片が検出された。

026号土坑（遺構 第143図）

A R33-77から北へ1.5mに位置する。プランは長軸約1.3m、短軸約1.1mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで東側にやや低い部分がある。検出面からの深さは約0.7mである。覆土は1. やや攪乱気味の暗褐色土。2. ローム粒・スコリア粒を含む暗褐色土。3. ロームブロック・ソフトロームを多く含む褐色土。4. ソフトローム粒を多く含む褐色土。5. ソフトローム粒を多く含む明褐色土。6. ソフトローム粒を含む褐色土。7. ソフトローム粒を含む褐色土。8. ロームブロックを多く含む黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になるとは思われぬ。むしろ貯蔵穴等別の用途を持った遺構と考えられる。覆土中層より縄文時代前期の土器の破片が検出された。

027号土坑（遺構 第143図 遺物149・150図9・30）

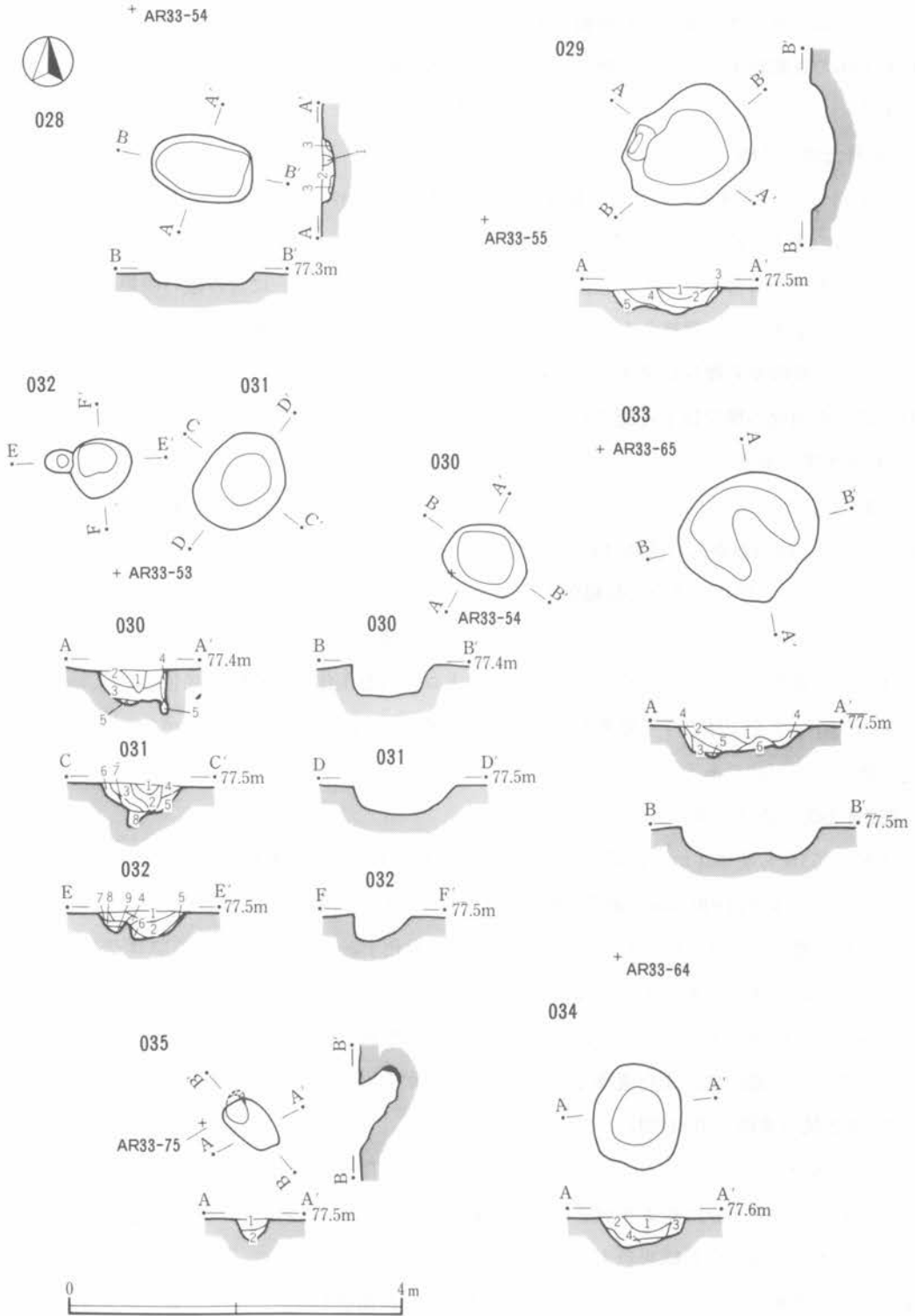
A R33-77から北へ1mに位置する。プランは長軸約1.3m、短軸約1.1mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットだが西側に鍋底状の落ち込みがある。検出面からの深さは約1.25mである。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含む褐色土。2. ソフトローム・ハードローム・炭化粒を含む暗褐色土。3. やや黒味が強くソフトローム・ハードローム・炭化粒を含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む褐色土。5. ソフトロームを多く含む褐色土。6・7. ロームをブロック状に含む茶褐色土。8. 良く締まり粘性も強い暗褐色土である。覆土の中程から縄文時代前期終末の土器片が数点出土している。形態的には陥穴状遺構になると思われる。2次的に貯蔵穴等の別の用途で使用した可能性が考えられる。覆土中層から縄文時代前期終末の大形の土器破片が数点出土した。9は口縁部から胴部にかけての鉢形土器の破片で口唇部に刺突文、直下に半裁竹管による押し引き文と沈線文で区画され胴部には横位の結節文が施されている。30は櫛状工具による条線文が施された土器片である。

028号土坑（遺構 第144図）

A R33-54から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長辺約1.25m、短辺約0.8mの不整な長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約0.15mである。覆土は1. やや攪乱気味な褐色土。2. ソフトローム含み締まりのある褐色土。3. ソフトロームを主体とする黄褐色土である。形態的に、また遺物等の検出がない点からも用途の推定は不可能である。

029号土坑（遺構 第144図）

A R33-55からほぼ東へ2mに位置する。プランは長軸約1.55m、短軸1.2mの楕円形に近い不整形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。また床面西壁際で小ピットを1個検出している。



第144図 大野遺跡縄文時代土坑(4) (1/80)

検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. 非常に硬い褐色土。2. ローム粒を含む褐色土。3. ロームブロックを多く含む明褐色土。4. ローム粒をわずかに含む黒褐色土。5. ローム粒が主体の黄褐色土である。形態的に、また遺物等の検出がない点からも用途の推定は不可能である。

030号土坑（遺構 第144図）

A R33-54に位置する。プランは長軸約1m、短軸約0.85mの円形に近い不整形を呈する。検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. ローム粒が混入した暗褐色土。2. ハードロームブロックを僅かに含みローム粒を含む褐色土。3. ローム粒を均一に含み硬い明褐色土。4. ローム粒を主体とする黄褐色土。5. ソフトロームを主体とする黄褐色土である。遺物は土器の小破片と壁際から礫片が出土している。遺構とこれらの遺物がどのように関わるかは不明で形態的にも用途の推定は不可能である。

031号土坑（遺構 第144図）

A R33-53から東へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸約1.2m、短軸約0.95mの長円形を呈する。検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. ソフトロームを多く含む明褐色土。2. ハードロームブロックを含む褐色土。3. ソフトロームをブロック状に含む暗褐色土。4. ソフトロームを含む暗褐色土。5. ソフトロームを主体とする黄褐色土。6. ソフトロームを主体とする黄褐色土。7. やや暗い色調のソフトロームを主体とする暗黄褐色土。8. ハードロームブロックを主体とする暗褐色土である。形態的に、また遺物等の検出がない点からも用途の推定は不可能である。

032号土坑（遺構 第144図）

A R33-53から北へ1mに位置する。プランは長軸約1.05m、短軸0.7mの不整形を呈する。検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む暗褐色土。4. ソフトロームブロック層。5. ソフトローム主体の黄褐色土。6. 褐色土とソフトローム混じりの明褐色土。7. ソフトロームが混入した暗褐色土。8. ソフトロームを多く含む明褐色土。9. ソフトローム主体の明褐色土である。形態的に、また遺物等の検出がない点からも用途の推定は不可能である。

033号土坑（遺構 第144図）

A R33-65から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは径1.4~1.5mのやや不整な円形を呈する。床面は中央部分に高まりが見られる。検出面からの深さは約0.4mである。覆土は1. ソフトローム粒を多く含む暗褐色土。2. やや暗い色調の暗褐色土。3. ハードロームブロックを多く含む茶褐色土。4. ソフトロームを主体とする黄褐色土。5. ソフトロームを主体とする黄褐色土。6. ハードロームブロック主体の層である。中層から土器片が検出されているも

のの遺構の性格等を推定することは不可能である。

034号土坑（遺構 第144図）

A R33-64から南へ1.5mに位置する。プランは長軸約1.2m、短軸約1.05mのほぼ楕円形を呈する。床面はやや北側に低く傾斜している。検出面からの深さは約0.4mである。覆土は1. ボソボソしている黒褐色土。2. 下部にソフトロームを多く含む褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ソフトロームを主体とする層である。形態的に、また遺物等の検出がない点からも用途の推定は不可能である。

035号土坑（遺構 第144図）

A R33-75からやや東に位置する。プランは長軸約0.7m、短軸約0.4mの楕円形に近い不整形である。床面はピット状に落ち込んでいる。検出面からの深さは約0.45mである。覆土は1. ソフトロームを含みボソボソの暗褐色土。2. より締まりのある暗褐色土である。底部に灰色粘土の溜まりがみられるところから粘土溜であった可能性がある。その他の遺物の検出はない。

036号土坑（遺構 第145図）

A R33-86から西へ2mに位置する。プランは長軸約1m、短軸約0.95mの楕円に近い不整形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。検出面からの深さは約0.2mである。覆土は1. ソフトローム混入の褐色土。2. ハードロームブロック混入暗褐色土。3. ソフトローム主体の層である。中層から土器片が検出されているものの遺構の性格等を推定することは不可能である。

037号土坑（遺構 第145図）

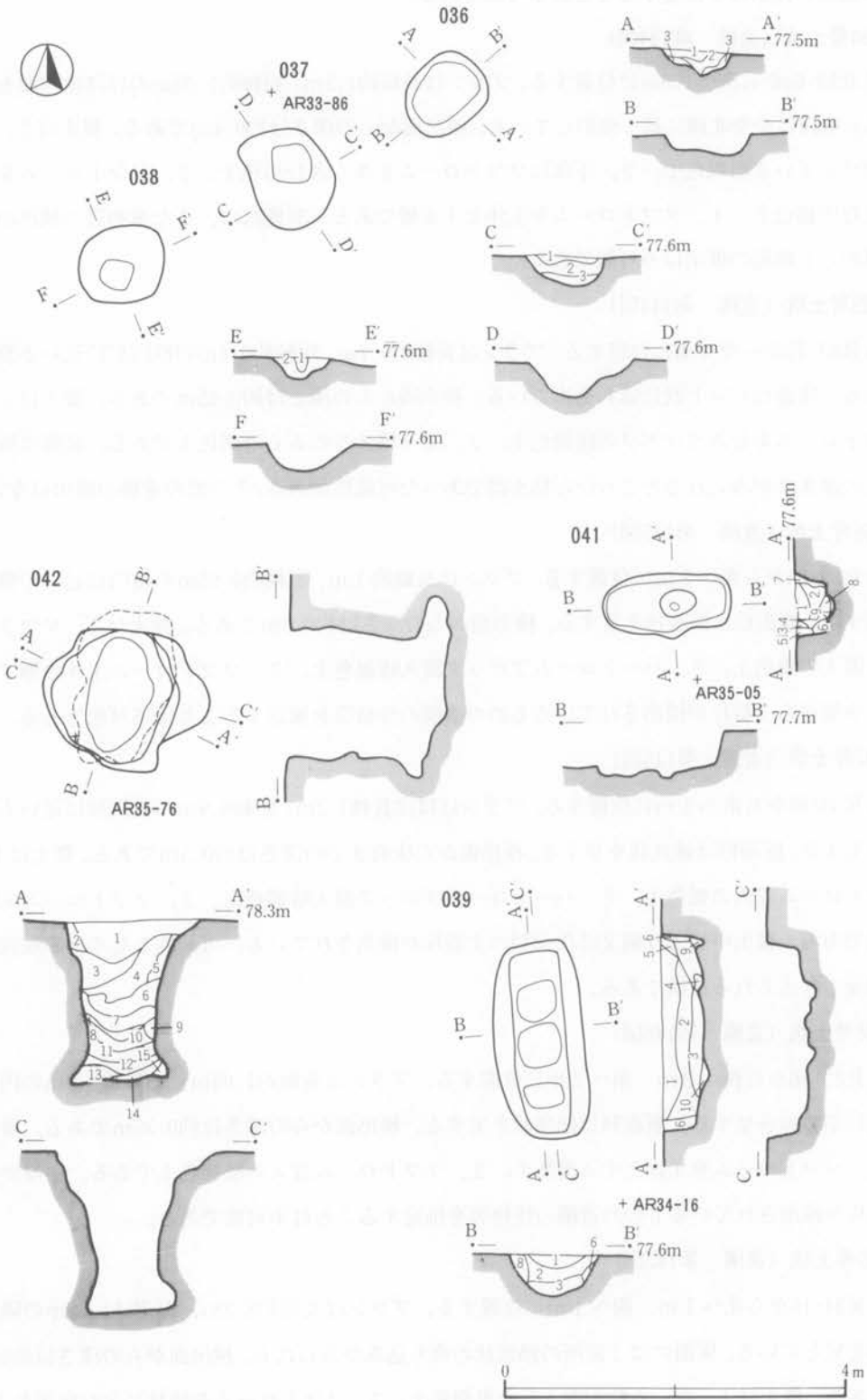
A R33-86から南へ1mに位置する。プランはほぼ長軸1.2m、短軸0.9mの長円形に近い不整形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。検出面から床面までの深さは約0.5mである。覆土は1. ソフトローム混入の褐色土。2. ハードロームブロック混入暗褐色土。3. ソフトローム主体の層である。覆土中層より縄文時代前期の土器片が検出されている。可能性としては貯蔵穴等の用途も考えられる遺構である。

038号土坑（遺構 第145図）

A R33-86から西へ2m 南へ2mに位置する。プランは長軸約1.05m、短軸約0.9mの円形に近い不整形を呈する。断面形は鍋底状を呈する。検出面からの深さは約0.35mである。覆土は1. ソフトロームを主体とする攪乱土。2. ソフトローム混入の暗褐色土である。中層から土器片が検出されているものの遺構の性格等を推定することは不可能である。

039号土坑（遺構 第145図）

A R34-16から北へ1m、西へ1mに位置する。プランは長辺約2.2m、短辺は1.05mの隅丸方形を呈している。床面には3箇所の鍋底状の落ち込みがみられる。検出面からの深さは約0.4mである。覆土は1. ローム粒が混入した黒褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。



第145図 大野遺跡縄文時代土坑(5)(1/80)

3. 小ハードロームブロックが混入した茶褐色土。4. ソフトロームを主体としたフカフカな層。5. ソフトロームを縞状に混入した褐色土。6. ソフトロームを多く含む褐色土。7. 暗褐色土。8. ソフトロームを水玉状に含む茶褐色土。9. 小ロームブロックを混入し良く締まっている褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。なお覆土上層より土器片が検出しているが時期は不明である。

040号土坑 (遺構 第146図)

A R 35-06に位置する。プランは長軸約5 m、短辺約3.4mの楕円に近い不整形を呈する。床面は中程がやや高まっていて壁際にかけて低く傾斜している。検出面からの深さは約2.25mである。覆土は細かく分層(146図参照)しているが概ね自然堆積による崩落土である。細かな時期は不明だが形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

041号土坑 (遺構 第145図)

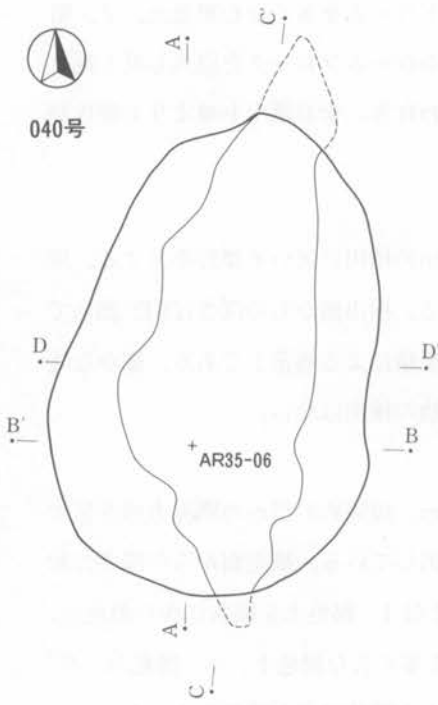
A R 35-05から北へ1 mに位置する。プランは長辺約1.5m、短辺約0.75mの隅丸方形を呈する。床面はほぼフラットで床面の中程に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは約0.35mでピットの最深部までの深さは約0.45mである。覆土は1. 褐色土を縞状に含む黒色土。2. ソフトロームが混入した暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む褐色土。4. 攪乱土。5. ソフトロームを主体として構成される層。6. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。7. ハードロームを含みソフトロームを主体として構成される層。8. 炭化粒を微量に混入した暗褐色土。9. ソフトロームを主体として構成される層である。かなり上層部分が消失しているが形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

042号土坑 (遺構 第145図)

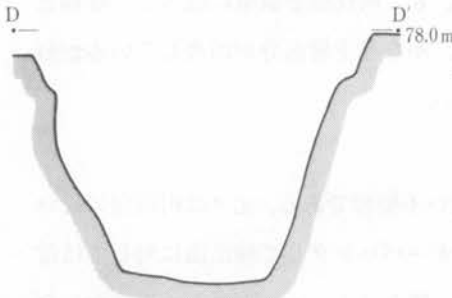
A R 35-76に位置する。プランは1.4~1.5mの円形に近い不整形である。元々は円筒形に近いプランでの掘り込みと推定される。床面は壁に向かってオーバハングして検出面に対してほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは約1.85mである。覆土は1. ハードロームを僅かに含む黒褐色土。2. ソフトロームと褐色土が混ざる茶褐色土。3. ソフトロームが均一に混ざる暗褐色土。4. ソフトロームの混入の少ない暗褐色土。5. ソフトローム主体の黄褐色土。6. ソフトローム主体で褐色土とハードロームブロックが含まれる茶褐色土。7. ロームを粒状に含む黒褐色土。8. 小ハードロームブロックを含む黒褐色土。9. ソフトロームが混ざり締まりのない茶褐色土。10. ハードロームブロックとソフトロームが多く混ざる暗褐色土。11. ハードロームとソフトロームが主体の層。12. ハードロームブロックを多く含む暗褐色土。13. 締まりがなくサクサクとした暗褐色土。14. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。15. ソフトロームを主体とする層である。時期は不明だが形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。



040号

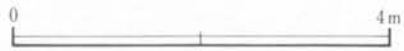
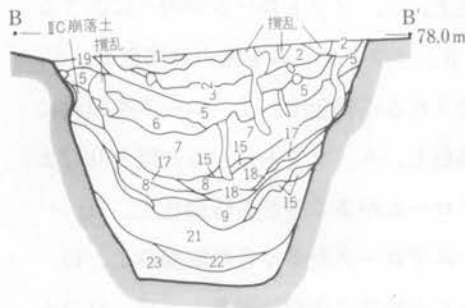


- 18 茶褐色土…ハードロームブロックを含む
- 19 褐色土…ソフトローム均一
- 20 茶褐色土…ソフトローム均一
- 21 褐色土…ハードローム主体
- 22 * ……黒褐色土粒含む
- 23 * ……ハードローム主体



土層説明

- 1 暗褐色土
- 2 明褐色土…IIc崩落土
- 3 暗褐色土…ソフトローム混入
- 4 黒褐色土…耕作土
- 5 明褐色土…ハードロームブロック多く含む
- 6 茶褐色土…ハードロームブロック少し含む
- 7 * ……ハードロームを含む
- 8 黄褐色土…ハードロームブロック多く含む
- 9 暗褐色土…小ハードロームブロックを少し含む
- 10 茶褐色土…ソフトロームを多く含む
- 11 褐色土…ソフトロームをミニ状に含む
- 12 黄褐色土…暗褐色土をシミ状に含む
- 13 * ……ソフトローム主体
- 14 * ……ハードローム主体
- 15 茶褐色土…ソフトローム・ハードロームを含む
- 16 * ……ソフトローム主体
- 17 暗褐色土…ハードロームブロックを含む



第146図 大野遺跡縄文時代土坑(6)(1/80)

043号土坑（遺構 第147図）

A S34-30から南へ1 mに位置する。プランは長辺約1.35m、短辺約0.7mのほぼ長方形を呈する。床面は中程から壁際に向かって緩やかに傾斜して壁はオーバハング気味に立ち上がる。検出面からの深さは約0.6mである。覆土は1. 攪乱土。2. ソフトローム混入の暗褐色土。3. やや明るい色調の褐色土。4. ソフトローム、小ハードロームブロック混入の茶褐色土。5. ソフトロームを多く含む明褐色土。6. ソフトローム主体の黄褐色土。7. ソフトローム、小ハードロームブロックを多量に混入した明褐色土である。形態的にやや不安が残るが一応は陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

044号土坑（遺構 第147図）

A R35-89から北へ2 m、西へ1.5mに位置する。プランは長軸約2 m、短軸約0.85mの長円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットで壁はややグラグラと立ち上がる。検出面からの深さは約0.2mである。覆土は1. ソフトローム粒を多く含む茶褐色土。2. 小ハードロームブロックを含む暗褐色土。3. ソフトローム主体の明褐色土。4. ソフトロームをブロック状に含む黄褐色土である。形態的に陥穴状遺構になるとは思われず、別の用途を持った遺構と考える。遺物の検出はない。

045号土坑（遺構 第147図）

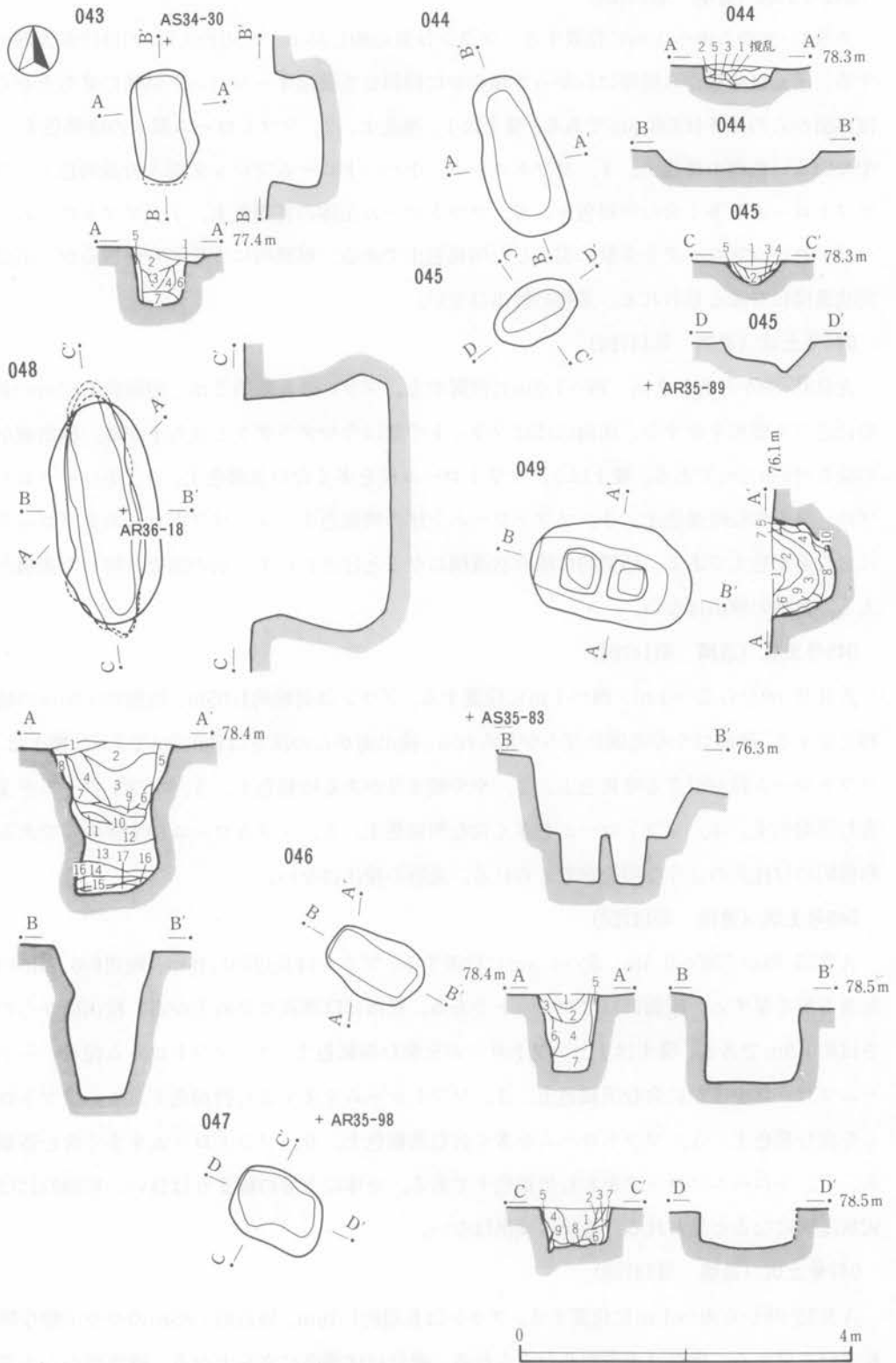
A R35-89から北へ1 m、西へ1 mに位置する。プランは長軸約1.05m、短軸約0.65mの楕円形を呈する。床面はやや北側に窪みが見られる。検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. ソフトローム粒が混ざる暗褐色土。2. やや締めりがある暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ソフトロームを多く含む明褐色土。5. ソフトローム粒主体の層である。形態的には柱穴のような用途が考えられる。遺物の検出はない。

046号土坑（遺構 第147図）

A R35-98から東へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺約1.18m、短辺約0.75mの隅丸長方形を呈する。床面はほぼフラットである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは約0.9mである。覆土は1. ソフトロームを含む黒褐色土。2. ソフトローム粒とハードロームブロックを僅かに含む黒褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ソフトロームを含む褐色土。5. ソフトロームを多く含む茶褐色土。6. ソフトロームを多く含む茶褐色土。7. 小ロームブロックを含む黒褐色土である。全体に土層の締めりは良い。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

047号土坑（遺構 第147図）

A R35-98から南へ1 mに位置する。プランは長辺約1.16m、短辺約0.85mのやや不整な隅丸長方形を呈する。床面はやや凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さ



第147図 大野遺跡縄文時代土坑(7) (1/80)

は約0.3mである。覆土は1. ソフトロームが混入した黒褐色土。2. ソフトロームを多く含む茶褐色土。3. ソフトロームを主体とする層。4. ソフトロームを多く含む茶褐色土。6. ソフトロームを縞状に含む明褐色土。7. ソフトローム主体の黄褐色土。8. ソフトローム主体の黄褐色土。9. 層に締まりがなくボソボソとしている褐色土である。陥穴状遺構にするには形態的にやや問題が残る遺構である。遺物の検出はない。

048号土坑（遺構 第147図）

A R36-18に位置する。プランは長軸約2.6m、短軸1.22mの楕円形を呈する。下底部では約長軸3.05mに広がる。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約1.75mである。覆土は1. ソフトローム混入の黒褐色土。2. 小ロームブロック混入の暗褐色土。3. やや明るい色調の暗褐色土。4. ソフトローム混入の茶褐色土。5. ソフトローム混入の褐色土。6. ソフトローム主体の明褐色土。7. ソフトロームを多く含む褐色土。8. ソフトローム混入の褐色土。9. ソフトロームを縞状に含む黄褐色土。10. 褐色土+ソフトロームの褐色土。11. ハードロームブロックを多く含む明褐色土。12. ハードローム崩落土。13. ソフトローム主体の茶褐色土。14. 明るいソフトローム粒からなる黄褐色土。15. ハードロームを多く含む層。16. 明るい色調のソフトロームから構成される層。17. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

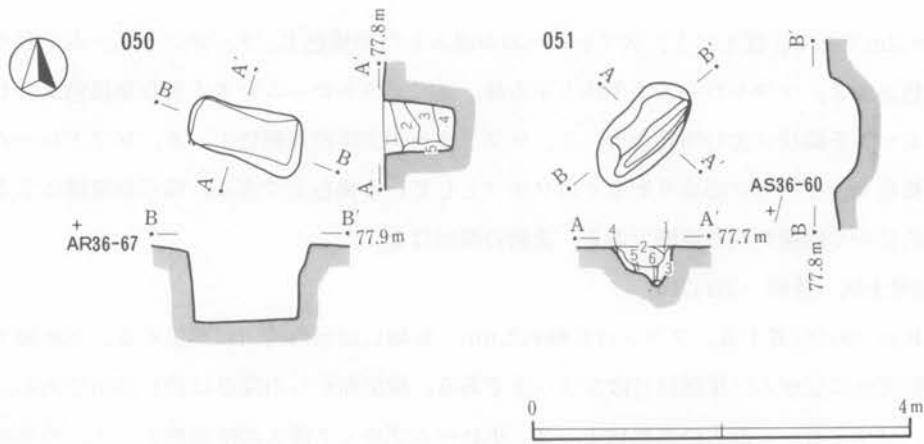
049号土坑（遺構 第147図）

A S35-83から北へ2m、東へ1mに位置する。プランは長軸約1.96m、短軸1.14mの楕円形に近い形を呈している。床面はほぼフラットで一辺0.45mの方形のピットを2個検出している。検出面からの深さは約0.8mでピットの最深部までの深さは約1.35mである。覆土は1. 黒色土。2. ソフトロームを少し含む暗褐色土。3. やや明るい色調の暗褐色土。4. 明るい色調の暗褐色土。5. 暗褐色土+ソフトロームの茶褐色土。6. 暗褐色土+ソフトロームの茶褐色土。7. ソフトロームを多く含む暗褐色土。8. ソフトロームを主体とする層。9. ソフトロームを主体とする層である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

050号土坑（遺構 第148図）

A R36-67から東へ2m、北へ1mに位置する。プランは長辺約1.25m、短辺約0.54mの長方形に近い形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは約0.8mである。覆土は1. ソフトローム混入の暗褐色土。2. 小ハードロームブロック混入の暗褐色土。3. 小ハードロームブロックを水玉状に含む暗褐色土。4. 小ハードロームブロック混入の黒褐色土。5. ソフトロームを多く含む茶褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

051号土坑（遺構 第148図）



第148図 大野遺跡縄文時代土坑(8)(1/80)

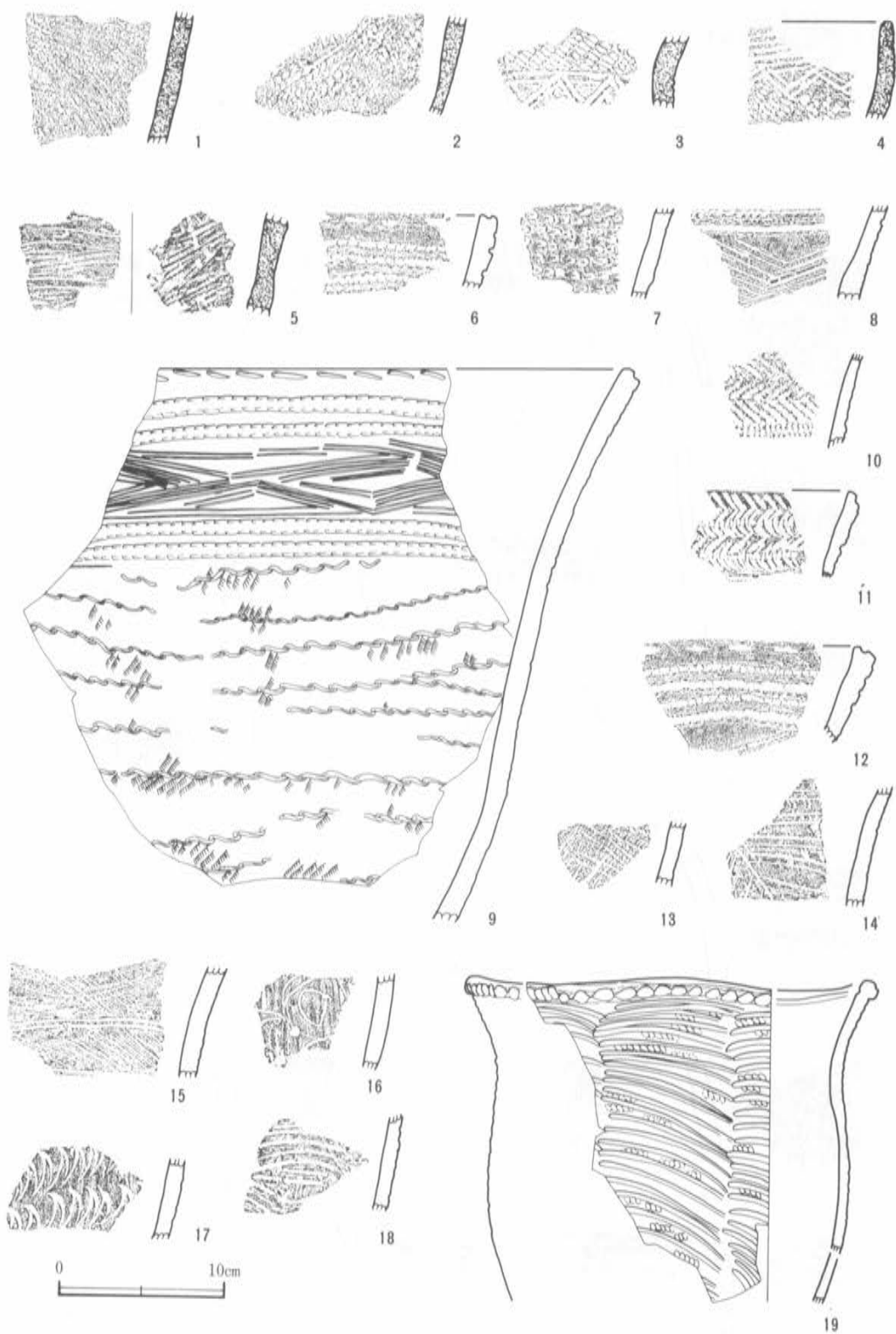
A S 36-60から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸約1.28m、短軸約0.65mの楕円形に近い形を呈する。床面は片側に溝状に0.1m程下がっている。検出面からの深さは約0.3mである。覆土は1. ソフトロームを多く含む茶褐色土。2. ソフトロームを含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ソフトロームを多く含む明褐色土。5. 小ハードロームを少し含む暗褐色土。6. ソフトローム主体の黄褐色土である。遺物等の検出もないため用途の特定はできない。

3. 縄文時代の遺構及び包含層の遺物について

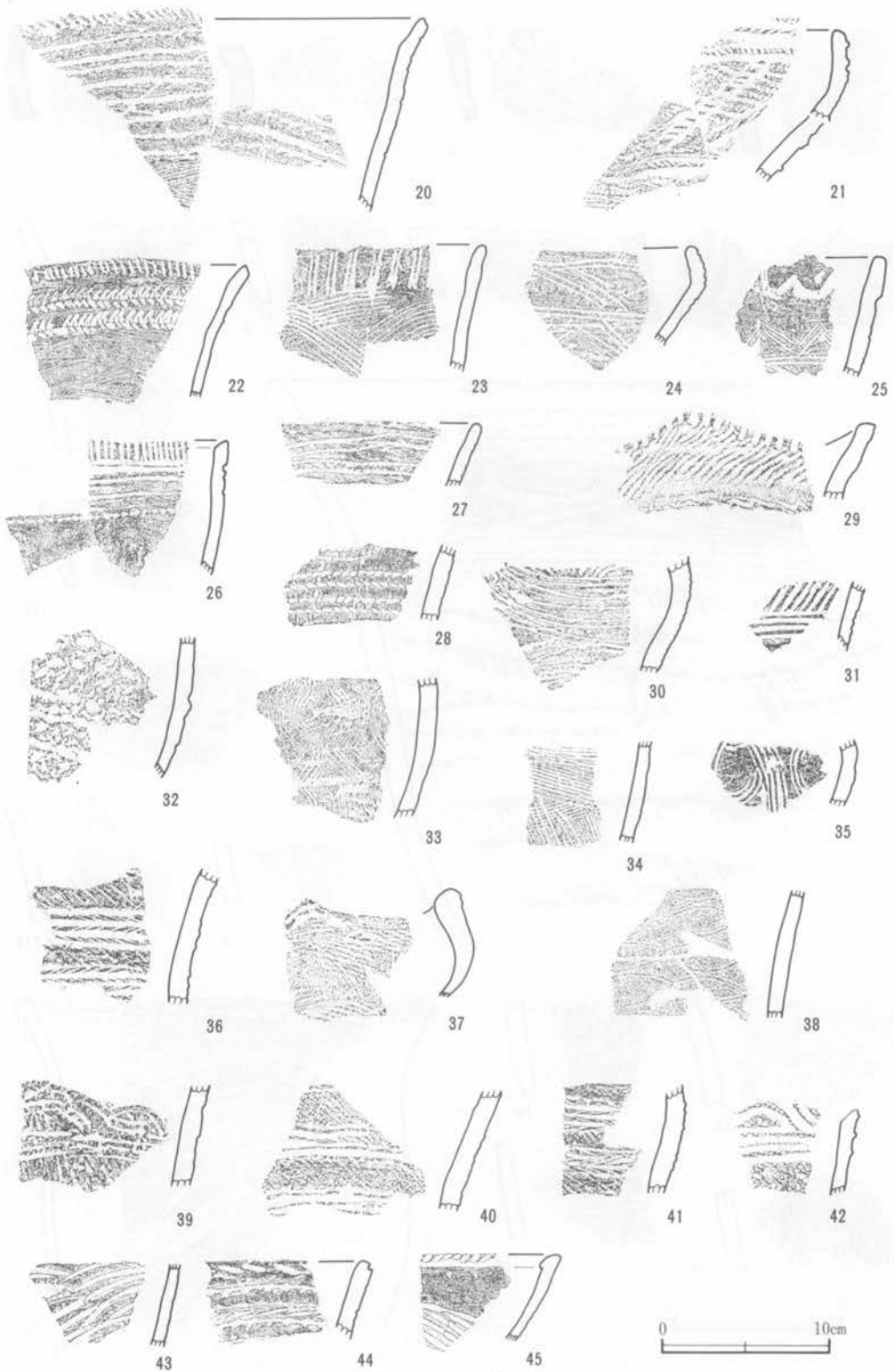
(1) 土器 (第149図1~56)

本調査時に包含層から縄文時代早~中期の土器片を中心に検出されている。特に前期の土器片が量的に多くみられる。また遺構からも若干の遺物が検出されているので合わせて説明をおこなう。1・5は早期後半の土器片である。胎土に繊維を含み地文に条痕文を配している。2~4は縄文時代前期前半の繊維土器で胎土に繊維を含み縄文と平行沈線を配している。6~45は縄文時代前期後半の土器群である。9は027号土坑から検出された大形の土器片である。口唇部に刺突文、直下に半裁竹管による押し引き文と沈線文で区画され胴部には横位の結節文が施されている。19は口縁部に指頭圧痕、胴部には縄文を施したのち棒状工具による沈線文を配している。他の土器片は楕状工具による刺突文・連続刺突文・太沈線文・細沈線文など施された土器片が検出されている。46~56は中期の土器群である。加曽利E式に比定される土器片のみであった。地文に単節縄文を配し口縁部に隆起線文を楕円・円形状に巡らしている。胴部は縄文を地文にし縦方向に太沈線で区画しているものが多い。この時期の土器片はあまり多くは検出されていない。

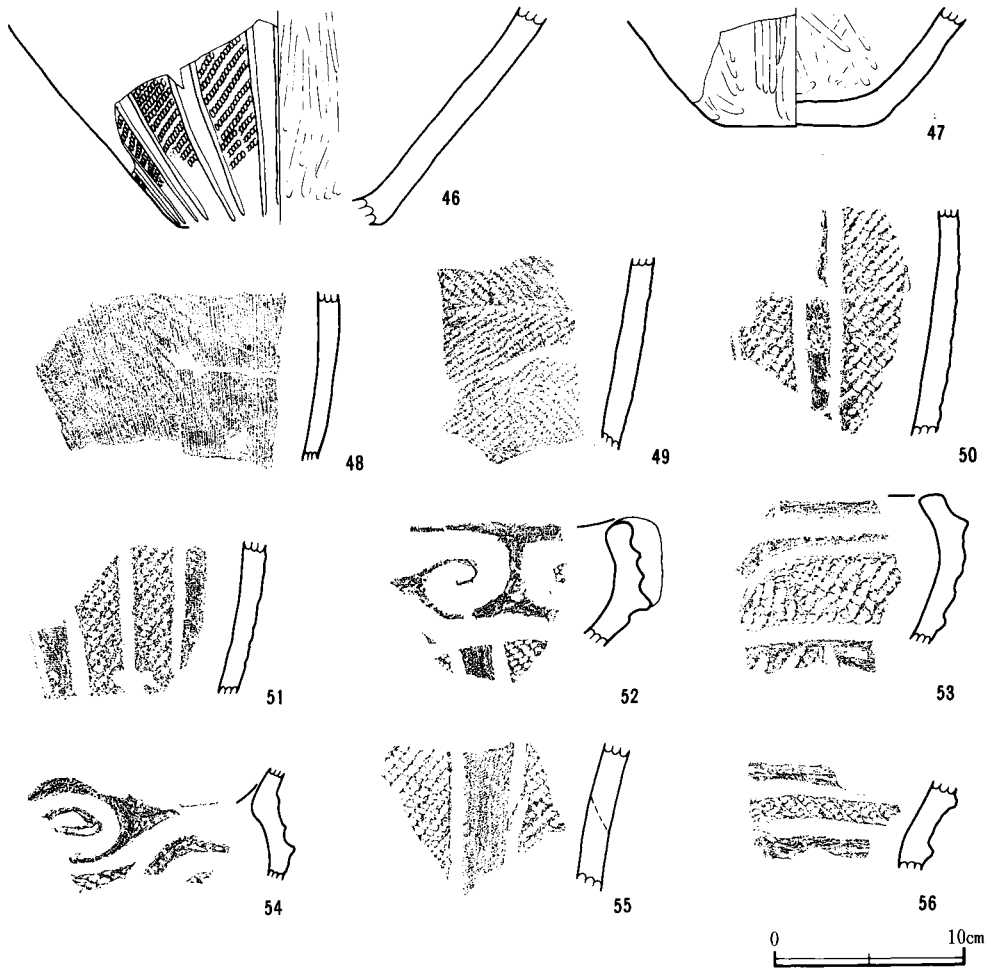
(2) 石器・石製品 (第152~154図1~26)



第149図 大野遺跡包含層出土土器(1)(1/4)



第150図 大野遺跡包含層出土土器(2)(1/4)



第151図 大野遺跡包含層出土土器(3)(1/4)

1は粒の細かい砂岩製の尖頭器である。先端部及び基部が欠損している。主剝離面を一部残すものの全体に丁寧な仕上げである。2～5は石鏃である。2はチャート製の平基鏃で両面とも細かな調整が施されている。3は安山岩製の平基鏃で片側辺は折取った後に細かな調整で仕上げている。4は珪質頁岩製の凹基鏃で片脚が欠損している。主剝離面を一部残すものの周辺部を中心に丁寧な調整がみられる。5は安山岩製の凹基鏃で半分以上欠損している。6～7はピエスエスキューである。6は珪質頁岩製で一部礫面は残す。7はチャート製で背部には小さな剝離面を残す。どちらも比較的厚みのある剝片を使用している。8は023号土坑から検出された管玉状石製品である。滑石製で両方向から穿孔されていてやや片側が薄く削れている。

以下は礫をそのままあるいは分割した状態で使用した石器で多機能に使用されたものが多い。9は安山岩製の磨石と叩き石に使用されたものである。10は安山岩製の凹石と磨石に使用されたものである。11は砂岩製の凹石から叩き石に転用したものである。12は砂岩製の叩き石であ



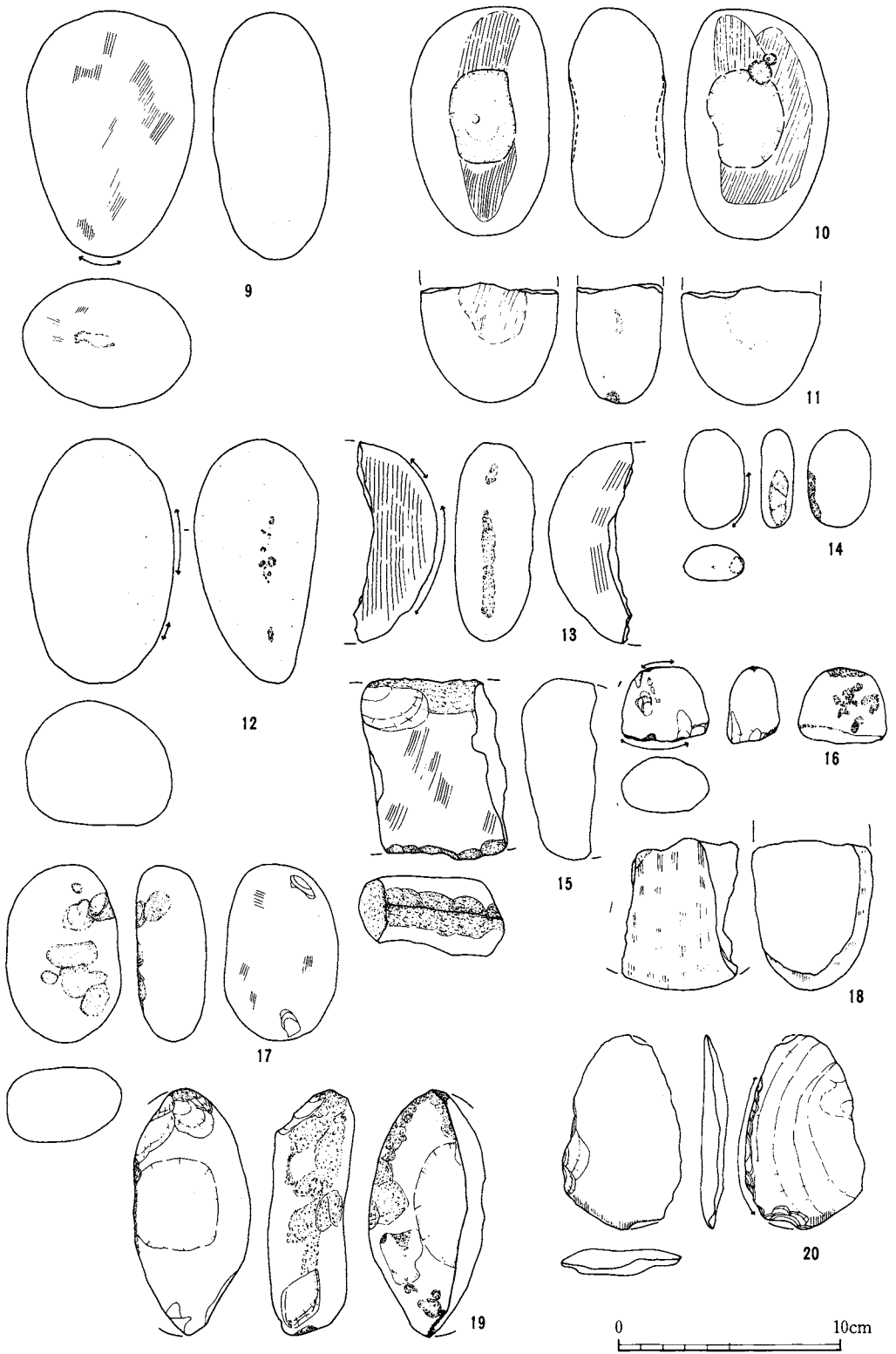
第152図 大野遺跡遺構・包含層出土遺物(1)(2/3)

る。13は砂岩製の磨石から叩き石に転用したものである。14は安山岩製の叩き石である。15は安山岩製の磨石を叩き石に転用したものである。16は安山岩製の叩き石である。やや赤化している。17は安山岩製の叩き石である。一部磨かれている部分も観察される。やや赤化している。18は安山岩製の磨石片でかなり磨かれている。やや赤化している部分がみられる。19は砂岩製

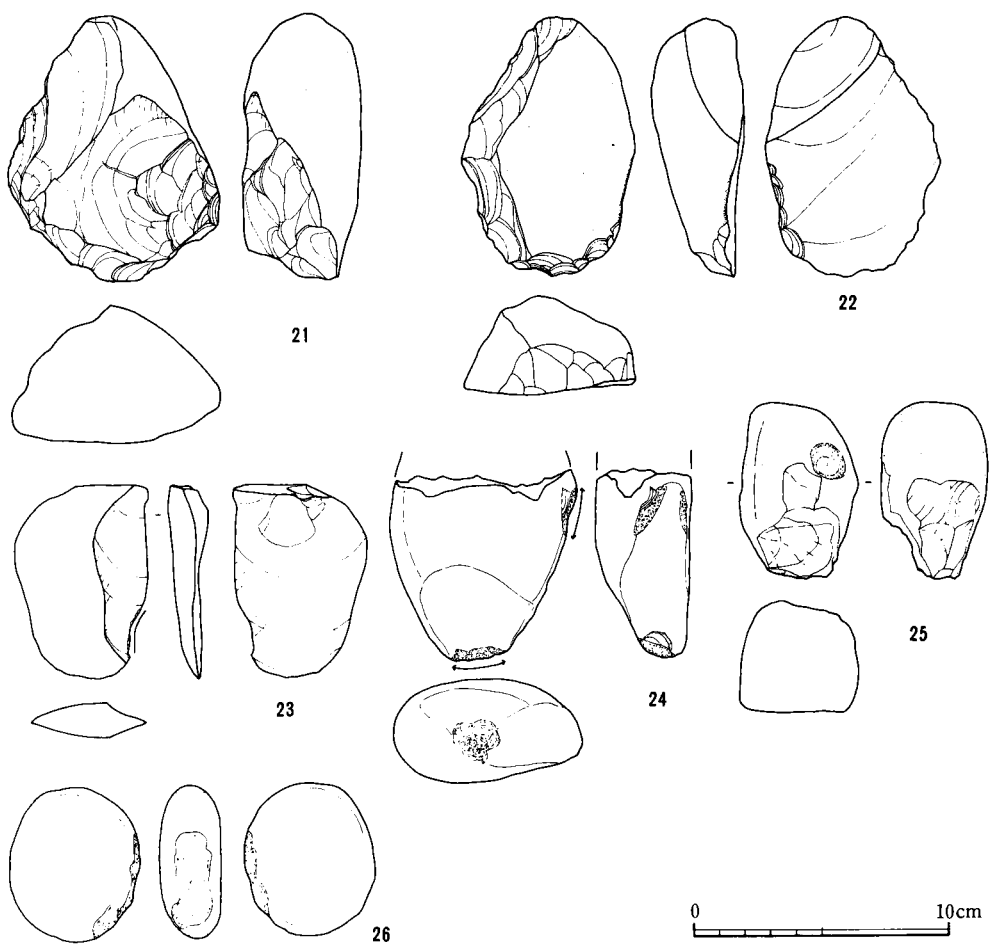
の凹石転用の叩き石である。20は玄武岩製の石斧である。背部はほぼ礫面で刃部と片側辺部に加工がみられる。また刃部には使用痕と思われる摩滅痕が観察される。21は砂岩製の礫器である。分厚く大きく片側から剝離されている。22は安山岩製の半裁された礫の周辺1/3程に大きな剝離で調整した石斧である。23は細粒砂岩製の大きく礫面を残した大形の剥片で側辺部に使用痕が見られる。24は砂岩製の叩き石片である。25は安山岩製の叩き石で細かな剝離痕より比較的大きめな剝離痕が観察される。26は安山岩製の円礫を使用した叩き石である。

4. 小結

縄文時代の遺構の特徴としては50基の土坑のうち16基しか陥穴状遺構（形態的に認められるもの）がなく、他は1軒の住居跡（小屋程度のものと考えられる構造の簡単なもの）とおそらくそれに類似するピット群と簡単な貯蔵穴のような用途の土坑群が占めている。土器群から考えると前期後半のものが主体を占めているところから、時期的にはこの時期の狩猟採集のためのキャンプサイト的な場所であった可能性が強い。陥穴状遺構の形態は多様なため早期～中期の各時代に利用されていた可能性がある。台地の続きの大野南遺跡でも一部この傾向がみられる。



第153図 大野遺跡遺構・包含層出土遺物(2)(1/3)



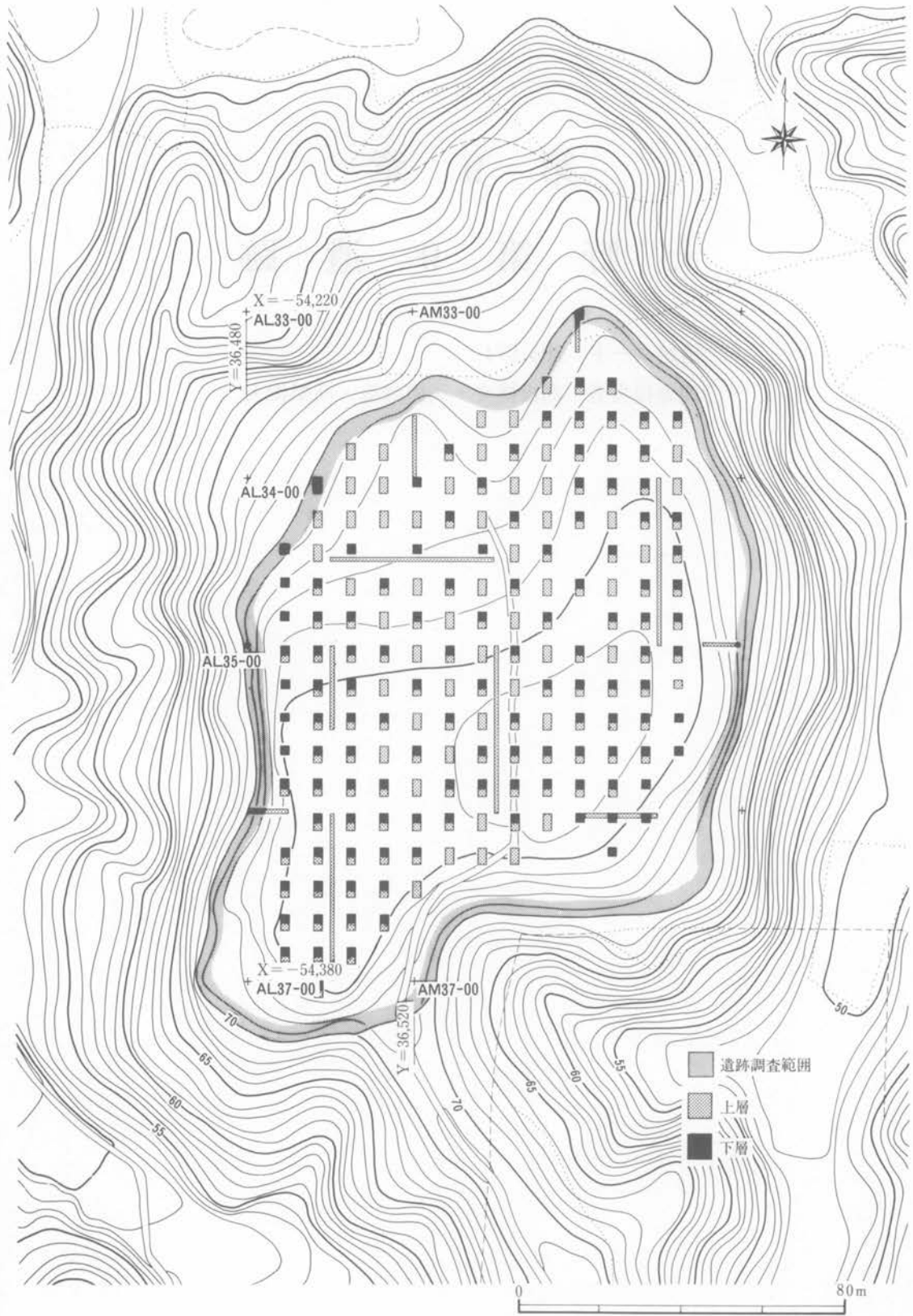
第154図 大野遺跡遺構・包含層出土遺物(3)(1/3)

第 9 章

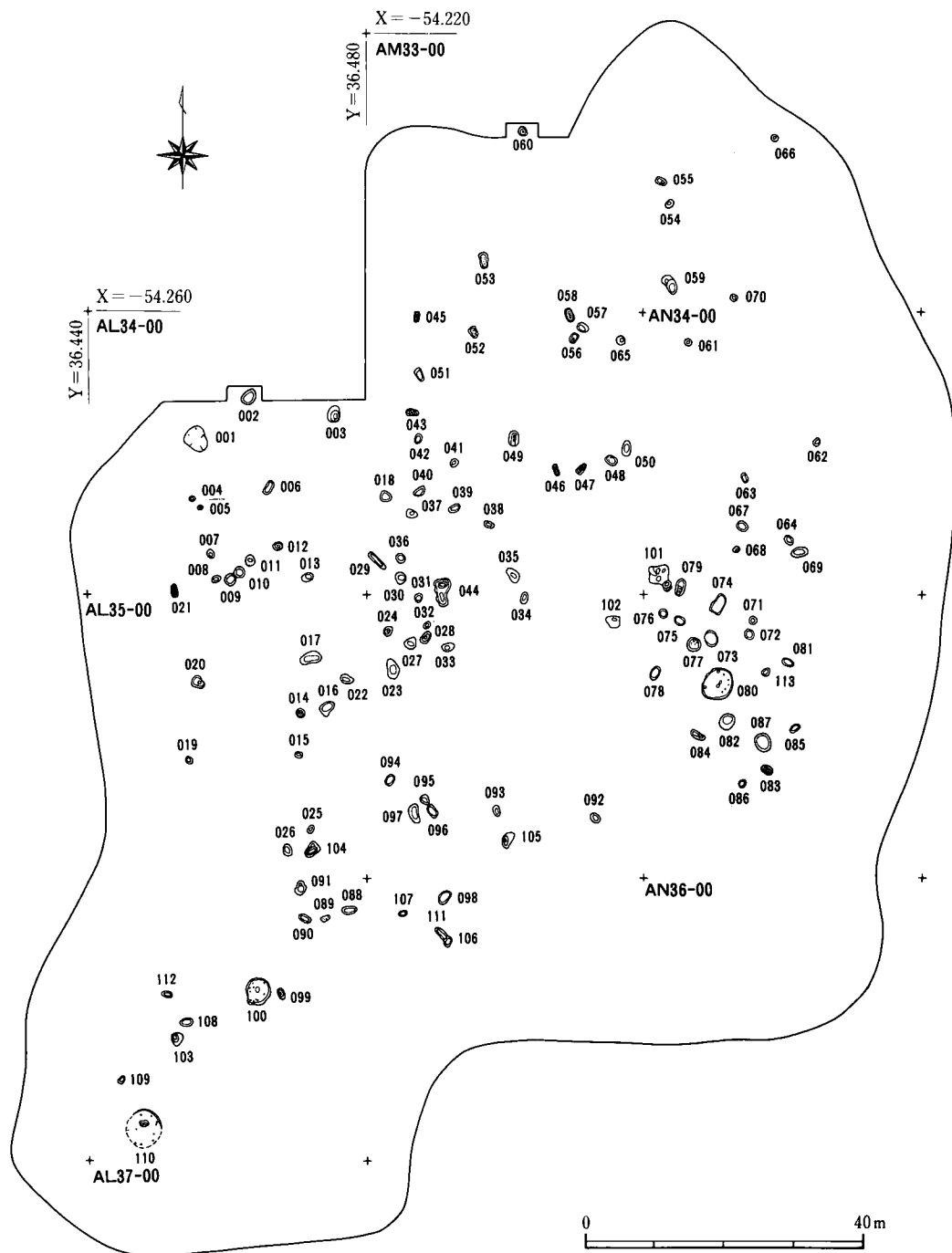
大野第 9 遺跡

遺跡コード 201-074

調査担当者 高橋博文・岡田誠造・高梨俊夫



第155図 大野第9遺跡確認調査グリッド配置図 (1/1,500)



第156図 大野第9遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/1000)

第1節 縄文時代

1. 概要 (第156図)

大野第9遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が検出され11,000㎡の本調査を実施した。その結果縄文時代中期の住居跡3軒、縄文時代土坑110基が検出された。なお下層については確認調査をおこなったが遺物はまったく検出されなかった。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

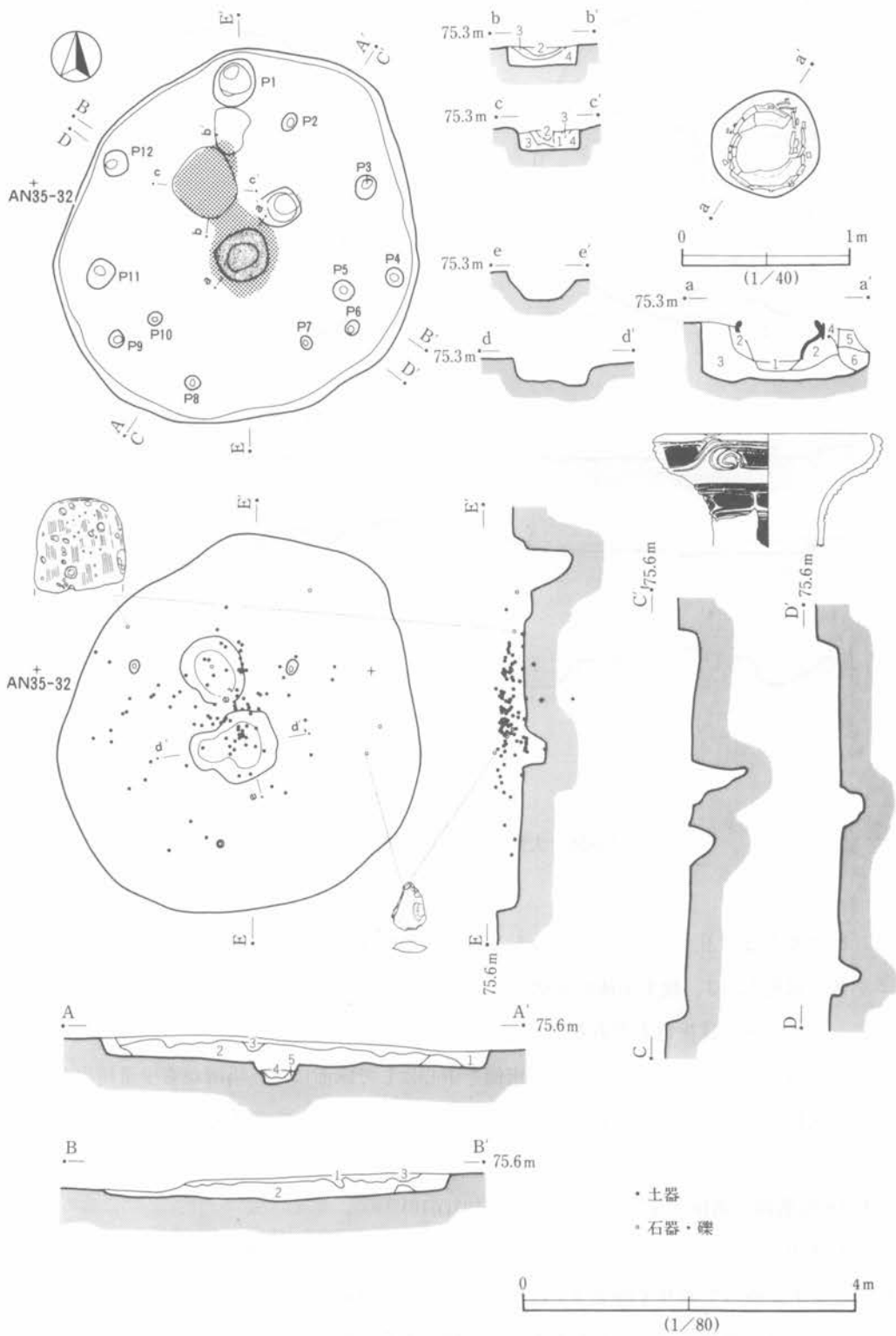
(1) 住居跡

080号住居跡 (遺構 第157図 遺物 第176・181図 1・7・8)

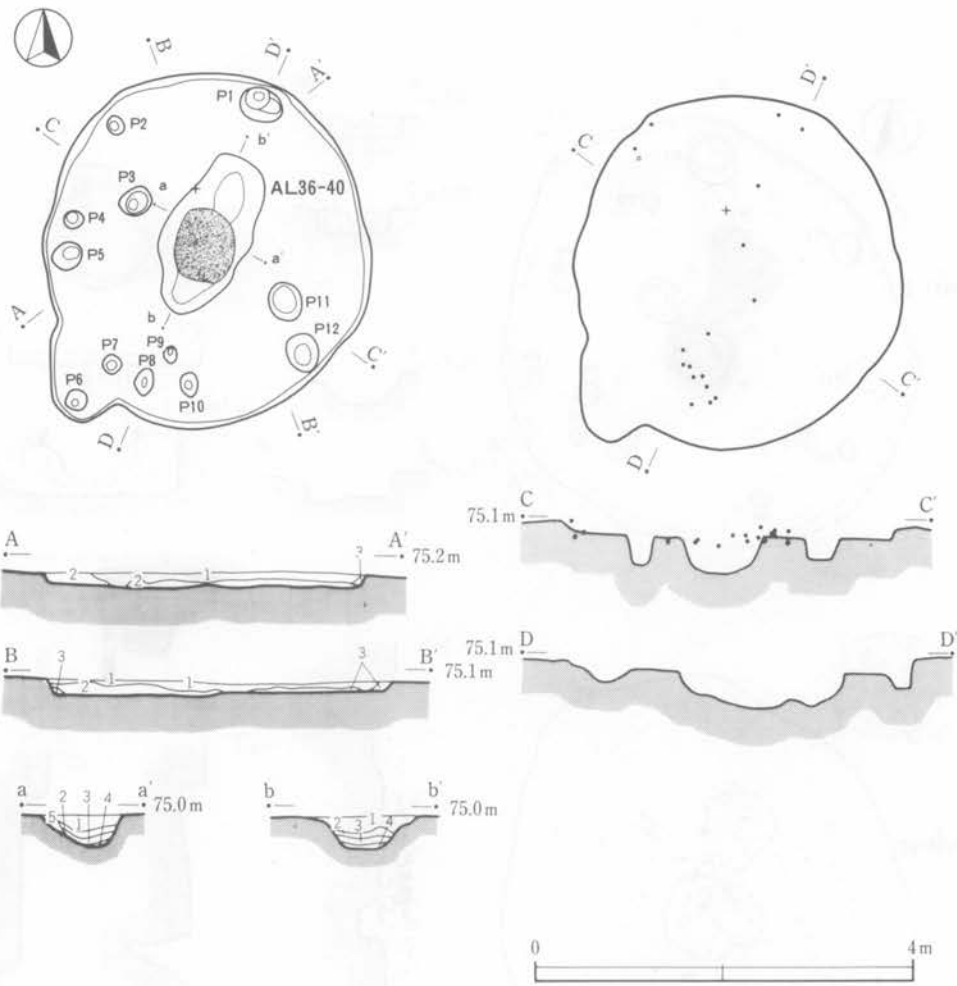
A N35-32を中心にして位置する。平面形はやや南北方向に広がっているがほぼ円形に近く、径は約4mである。確認面から床面までの深さは約30cmである。床面のほぼ中央部分に埋燔炉がありその北側にも炉と覚しき焼土の堆積したピットがみられる。その他壁際に沿って柱穴がみられる。いずれも15cm～25cmで掘り込みは比較的浅い。床面は炉を中心とする部分で比較的硬く締まっているが周辺部分との差はあまりなく、意識的に踏み固められた形跡は認められない。住居跡の覆土は1. 砂質で締まりが無い暗褐色土。2. 所々にローム粒・焼土粒を含む黒褐色土。3. ローム主体の明褐色土。4. ローム小ブロック・焼土粒を含む黒褐色土。5. 焼土堆積の層である。炉の覆土は1. 焼土を僅かに含み締まりが弱い暗褐色土。2. 焼土堆積土。3. 熱を受けてパサパサになった淡黄褐色土。4. ハードロームが主体の褐色土である。

出土遺物は炉の本体部分から1個体分検出された。中期の加曾利E式の深鉢形土器の口縁部を中心にした土器片である。口縁部にはRL縄文を地文に施したのち粘土紐と太沈線で区画している。胴部にかけてはナデられて無文である。胴部は縦方向のRL縄文を地文に施したのちに太沈線で区画している。他に同様な時期の土器片多数と若干の石器が覆土上層から下層にかけて検出されている。8は石鏃未製品と思われる。他に同様の石材はみられない。7は軽石である。大幅な加工はみられない。遺物等の特徴からこの住居跡の時期は縄文時代中期中葉に位置すると考えられる。

100号住居跡 (遺構 第158図) A L36-40を中心にして位置する。平面形はほぼ長軸4m、短軸3.5mの楕円形を呈し南西部分に一部張り出し部分が認められる。確認面から床面までの深さが約15cmである。壁は比較的急激に立ち上がる。床面は特に硬い面は観察されなかった。炉は地床炉で住居跡の途中で検出されている。他に柱穴ピットが検出されていていずれも20cm～30cmの深さである。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土。3. ローム主体の明褐色土であ



第157图 大野第9遺跡080号住居跡



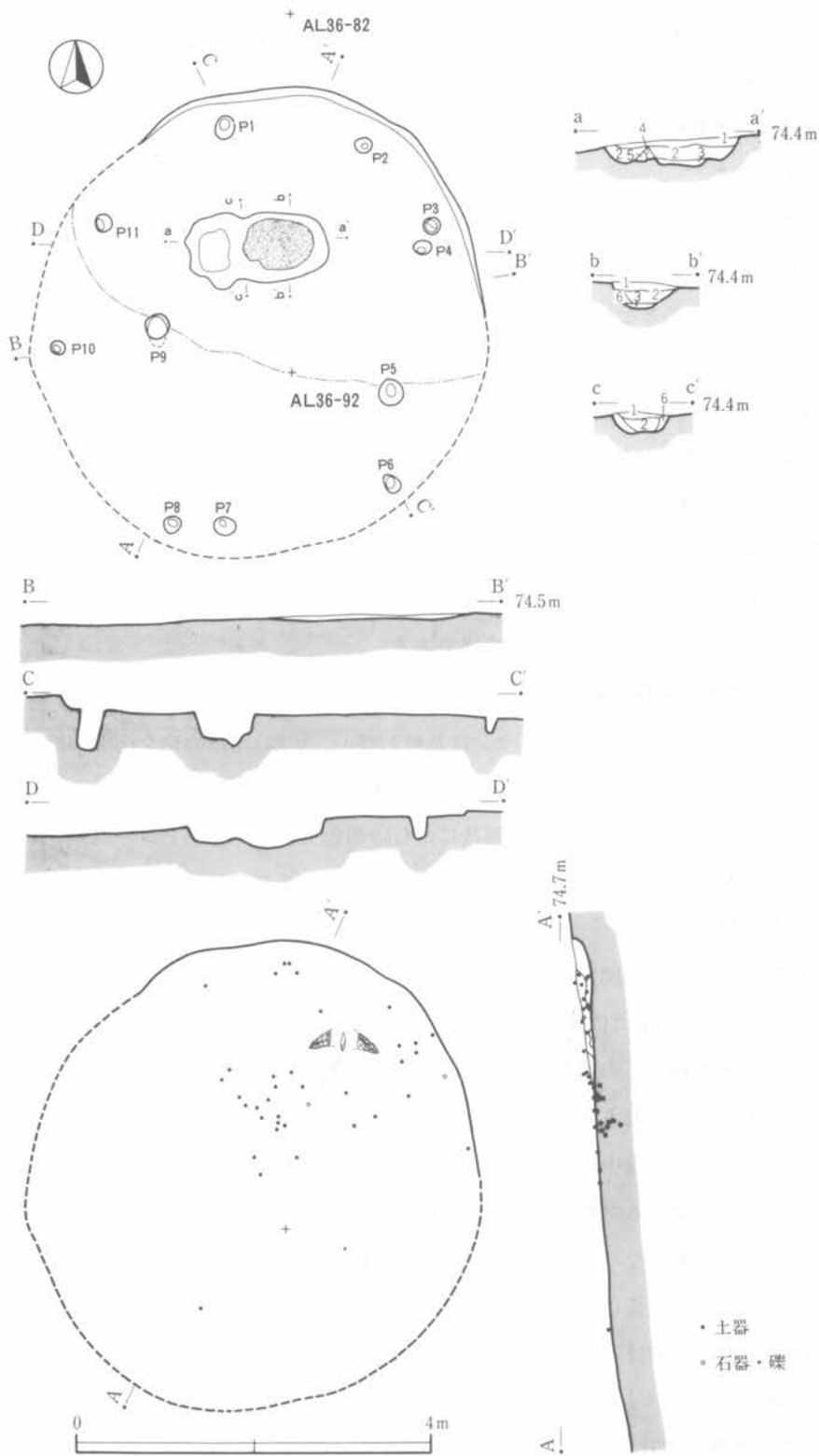
第158図 大野第9遺跡100号住居跡(1/80)

る。炉の覆土は、1. ローム粒・焼土粒をやや含む暗褐色土。2. 焼土粒・サクサクしたロームを含む褐色土。3. 焼土主体の赤褐色土。4. ごろごろしたロームブロック主体の黄褐色土。5. ローム主体の黄褐色土である。

出土遺物は縄文時代中期の土器片が南側を中心にして床面に近い場所から少量検出されているが、いずれも小破片のため図示できなかった。080号住居跡と前後する時期の住居跡と考えられる。

110号住居跡 (遺構 第159図 遺物 第181図10)

A L36-92を中心にして位置する。住居跡の南側の斜面部分は半分以上は既に削られていたが柱穴ピットが残っており平面プランは推定することが可能である。推定するとほぼ5.2mの円形プランになり当遺跡ではもっとも大きい住居跡である。検出面からの深さは最大でも5cm程し



第159図 大野第9遺跡110号住居跡(1/80)

かない。炉はやや北側に位置する。覆土は1. ロームを多く含む黄褐色土。2. ロームを多く含む茶褐色土。3. 焼土を多く含む赤褐色土である。炉は地床炉で覆土は、1. ローム粒・焼土粒をやや含む褐色土。2. 焼土とサクサクとしたローム小ブロックを主体とする赤褐色土。3. 熱を受けた黒褐色土。4・5. ごろごろとしたハードロームブロック層。6. ローム粒主体の暗褐色土である。

出土遺物は炉を中心にして床の残存している北側部分の床面から縄文時代中期の土器片が少量検出されている。また炉付近の床面から石鏃の破片が1点検出されている。土器片はいずれも小破片のため図示できなかった。他の住居跡と大差ない時期の住居跡と考えられる。

(2) 土坑

001号土坑 (遺構 第160図)

A L34-44のやや南に位置する。プランは長軸3.8m、短軸3.2mのやや西南側が膨らんだ不整な楕円形を呈する。検出面からの深さは約30cmである。床面は遺構の中程にだらだらと窪む形態である。床面にピット等の付属施設は見られず硬化面も観察できない。覆土は、1. 焼土ブロック・炭化粒を含む茶褐色土。2. ソフトローム主体のサクサクとした黄褐色土である。遺物等も見られず、時期性格とも不明な遺構である。

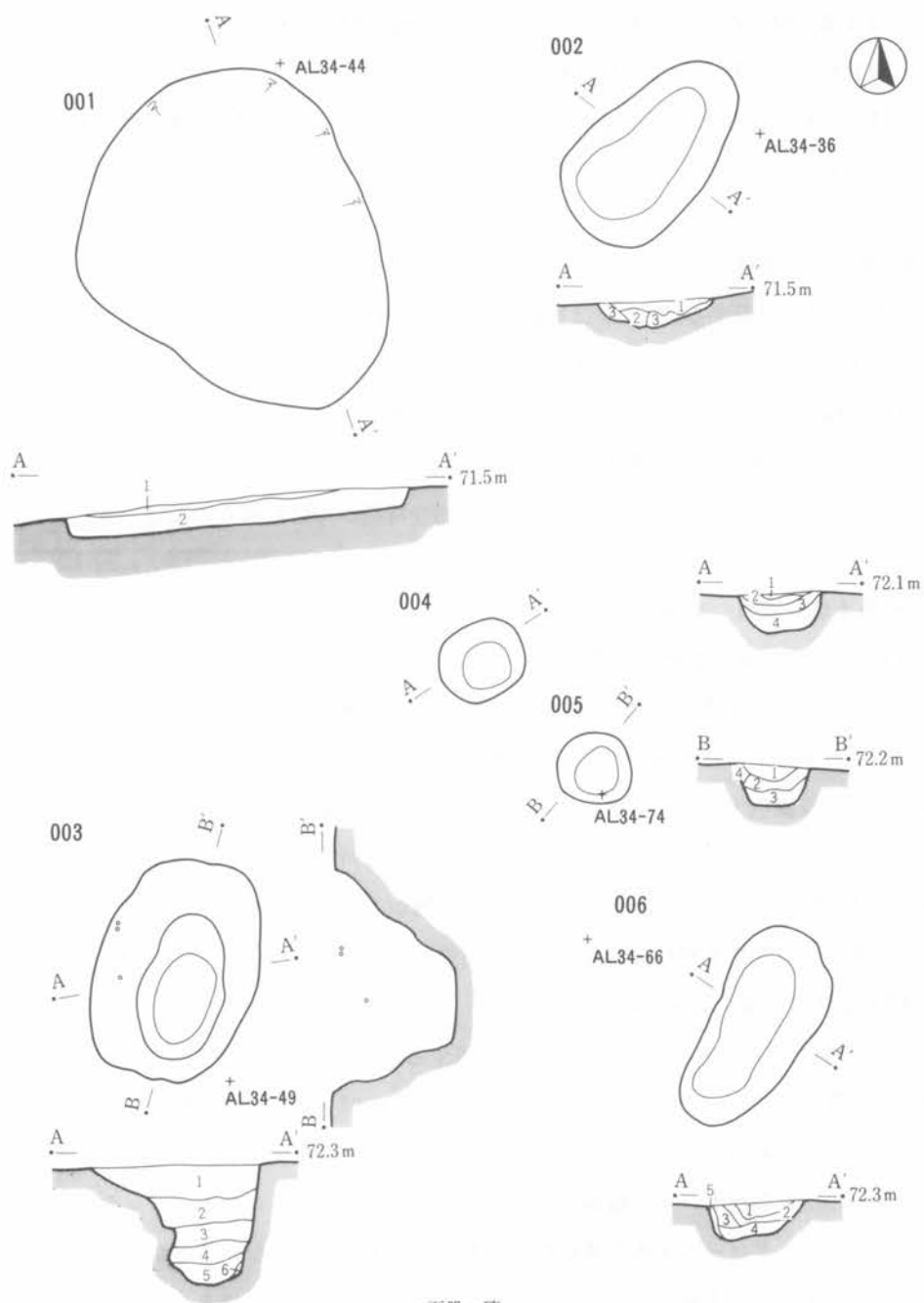
002号土坑 (遺構 第160図)

A L34-36のやや西に位置する。プランは長軸2.25m、短軸1.3mのやや南側の膨らんだ楕円形を呈する。検出面からの深さは約24cmである。床面はやや壁際に向かってだらだらと立ち上がる。覆土は、1. ソフトローム粒を縞状に含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を縞状に含み締めが良い暗褐色土。3. ソフトローム主体の黄褐色土である。遺物等も見られず、時期性格とも不明な遺構である。

003号土坑 (遺構 第160図)

A L34-49から北へ1mに位置する。プランは長軸2.32m、短軸1.7mのやや長方形に近い楕円形を呈する。検出面からの深さは約1.23mである。床面はほぼフラットで壁は長軸方向ではやや斜めに立ち上がり短軸方向では片側は急激に立ち上がる。片側は中程までややオーバーハング気味に立ち上がるが途中から緩やかに外反する。覆土は、1. 明褐色土を水玉状に含む暗褐色土。2. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。3. 締めが良いロームの混入が少ない暗褐色土。4. 大きなハードロームブロックを縞状に含む暗褐色土。5. ハードロームブロックの混入が少ない暗褐色土。6. ソフトローム粒が主体の黄褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的な特徴からは縄文時代の陥穴状遺構と考えても良さそうである。

004号土坑 (遺構 第160図)



第160図 大野第9遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

A L34-74から北へ1 m、西へ1 mに位置する。プランは長軸0.95m、短軸0.8mのほぼ楕円形を呈する。検出面からの深さは約40cmである。断面形はややU字気味に立ち上がる。覆土は、1. 炭化粒・焼土粒を少量含む暗褐色土。2. ソフトロームを含む褐色土。3. ソフトロームが主体で暗褐色土粒を水玉状に含む暗褐色土。4. ソフトロームが主体の暗褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的な特徴からは貯蔵穴の用途が考えられる土坑である。

005号土坑（遺構 第160図）

A L34-74に位置する。プランは径0.78mのほぼ円形を呈する。検出面からの深さは約44cmである。床面はほぼフラットで壁はやや広がり気味に立ち上がる。覆土は、1. ソフトロームが混入した暗褐色土。2. ソフトロームが主体の明褐色土。3. ソフトロームとハードロームブロックが混ざりあった明褐色土。4. ソフトロームを多く含む明褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的な特徴からは貯蔵穴の用途が考えられる土坑である。

006号土坑（遺構 第160図）

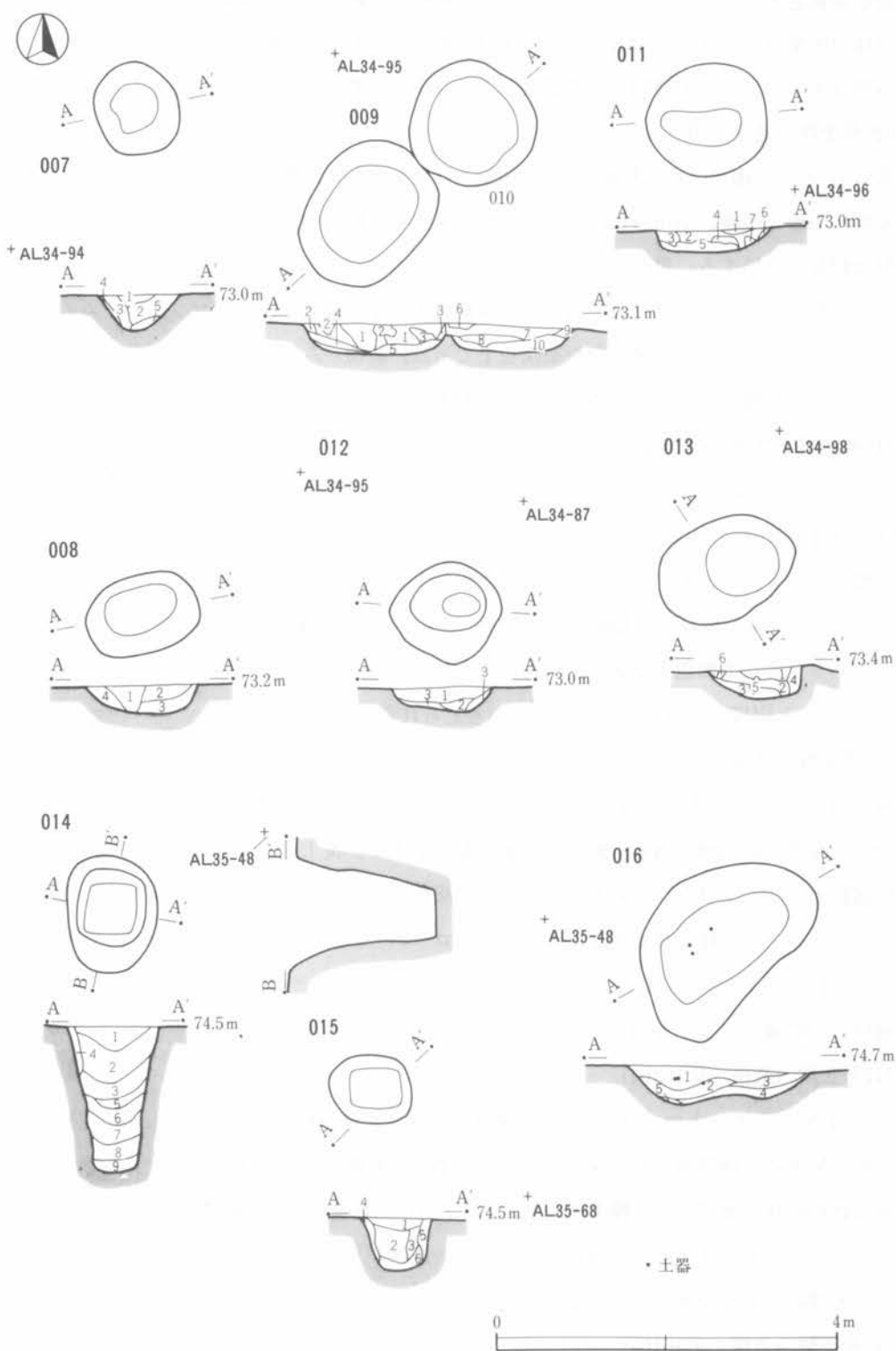
A L34-66から東へ2 mに位置する。プランは長軸2.28m、短軸1 mの楕円形に近い形を呈する。検出面からの深さは約36cmである。床面はやや西側の壁際が深くなっていて壁も東側はやや緩やかに立ち上がり西側では急激に立ち上がる。覆土は、1. ソフトローム粒・小炭化物片が混入した暗褐色土。2. ソフトローム粒を多く含む茶褐色土。3. ソフトローム主体の茶褐色土。4. ソフトローム主体でスコリヤを僅かに含む明褐色土。5. ソフトローム粒を多く含み締まりが無くぼそぼそした褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にも甚だ不整形な形をしており用途は不明である。

007号土坑（遺構 第161図）

A L34-94から北へ1.5m、東へ1.5mに位置する。プランはほぼ径1 mの円形を呈する。検出面からの深さは約44cmである。断面形は逆台形に近い形をしている。覆土は、1. ソフトロームが混入した暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む明褐色土。3. 褐色ハードロームブロックが混入した茶褐色土。4. 暗褐色土・ソフトローム・ハードロームブロックが混ざり合う褐色土。5. ハードローム主体の黄褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にも床面があまりしっかりしておらず若干疑問は残るが貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

008号土坑（遺構 第161図）

A L34-95から南へ2 m、西へ2 mに位置する。プランは長軸1.36m、短軸0.9mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約32cmである。床面は中央から周辺部に向かって緩やかに上がり



第161図 大野第9遺跡縄文時代土坑(2)(1/80)

壁は丸みを保ちやや急に立ち上がる。覆土は、1. 暗褐色土のハードロームブロックを水玉状に含む茶褐色土。2. ハードロームブロック（褐色）を縞状に含む茶褐色土。3. ソフトローム主体の明褐色土。4. ソフトローム主体の茶褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的には貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

009号土坑（遺構 第161図）

A L34-95から南へ2 mに位置する。010号とは切り合う。新旧関係では若干新しい。プランは長軸1.73m、短軸1.38mの楕円形に近い形を呈する。検出面からの深さは約36cmである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は、1. ソフトロームを含む暗褐色土。2. 締まりが弱くパサパサした茶褐色土。3. ソフトロームを含む黄褐色土。4. 褐色土を含むソフトロームの茶褐色土。5. ソフトローム粒を多く含む茶褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的には貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

010号土坑（遺構 第161図）

A L34-95から南1 m、東へ1 mに位置する。011号とは切り合う。新旧関係では若干古い。プランは径約1.5mの円形を呈する。検出面からの深さは約32cmである。断面形は鍋底状を呈する。覆土は、6. ソフトロームを多く含む茶褐色土。7. ソフトロームを縞状に含む褐色土。8. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。9. ソフトロームを縞状に含む茶褐色土。10. ソフトロームを多く含む茶褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的には009号と同様に貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

011号土坑（遺構 第161図）

A L34-96から北へ1 m、西へ1 mに位置する。プランはほぼ径1.4mの円形を呈する。検出面からの深さは約25cmである。断面形は鍋底形を呈する。覆土は、1. ソフトロームが混入した暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ソフトロームを斑に含む褐色土。4. ソフトローム主体の黄褐色土。5. ソフトロームとハードロームが混ざり合う黄褐色土。6. ソフトローム主体の明褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的には貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

012号土坑（遺構 第161図）

A L34-87から南へ1 m、西へ1 mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸1.15mの楕円形に近い形を呈する。検出面からの深さは約30cmである。断面形は一部深い部分が見られるが壁の傾斜は比較的緩やかである。覆土は、1. ソフトローム粒を斑に含む暗褐色土。2. 茶褐色土。3. ソフトロームを主体とする黄褐色土である。遺物が見られない事から正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており用途も不明である。

013号土坑（遺構 第161図）

A L 34-98から南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.68m、短軸1.12mの楕円形に近い形を呈する。検出面からの深さは約33cmである。床面はほぼフラットで壁は片側が緩やかで片側がほとんど垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームが混入した黒褐色土。2. ソフトローム・ハードロームを縞状に含む茶褐色土。3. ソフトロームローム粒主体の黄褐色土。4. ソフトローム・ハードロームを斑状に含む茶褐色土。5. 攪乱土層である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており用途も不明である。

014号土坑（遺構 第161図）

A L 35-48から西へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは上面で長軸1.32m、短軸1.05mの楕円形に近い形、底面で一辺約58cmの正方形を呈する。検出面からの深さは1.67mである。覆土は1. ソフトローム混入の黒褐色土。2. 粘性の強い黒褐色土。3. ソフトロームが混入した暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む明褐色土。5. ソフトロームが混入した褐色土。6. ソフトロームを多く含む茶褐色土。7. ハードロームブロック・ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。8. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。9. ソフトロームが主体の明褐色土である。遺物はみられないが、縄文時代に属する遺構と考えられる。形態的には陥穴状遺構になると思われる。

015号土坑（遺構 第161図）

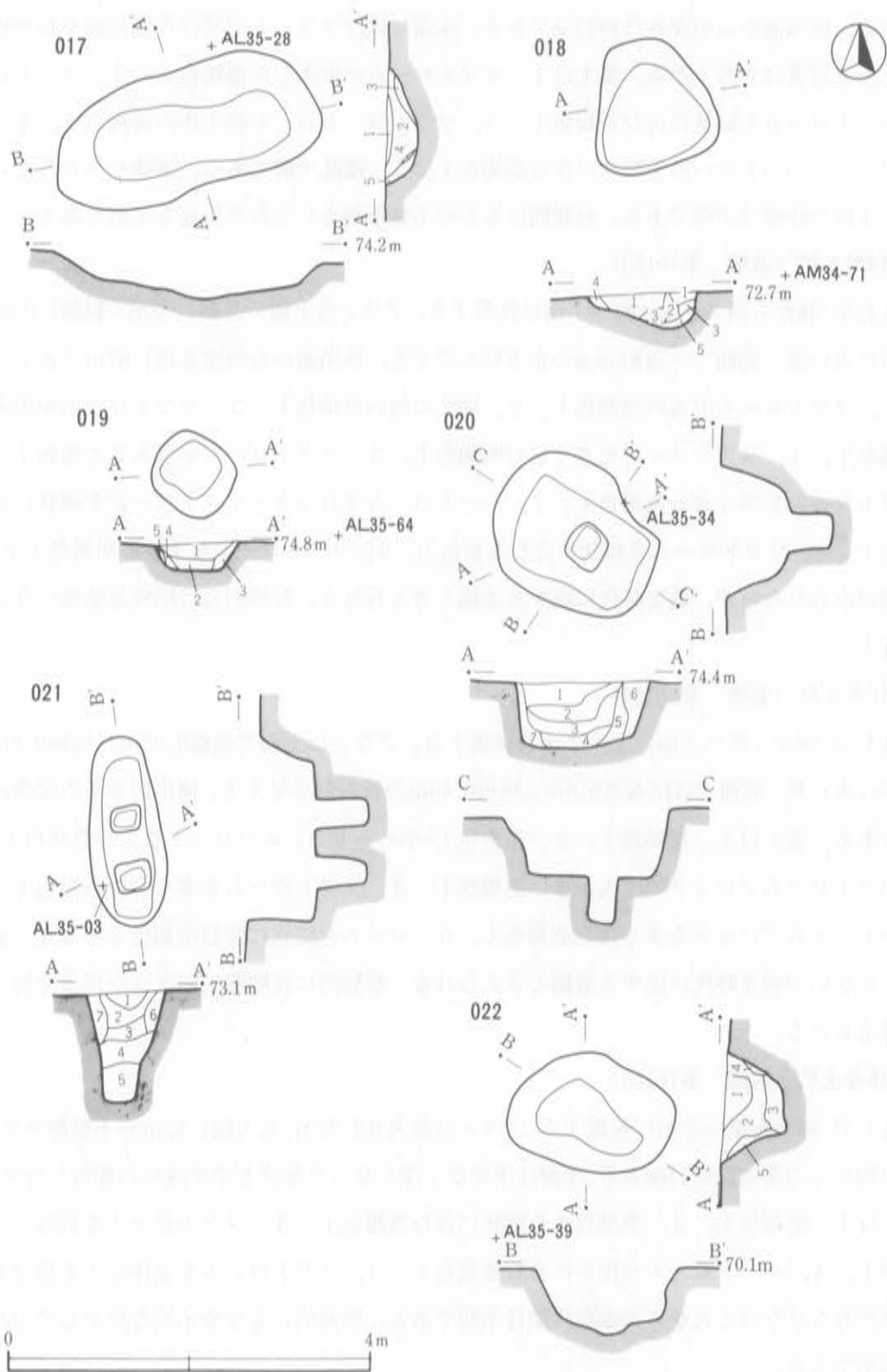
A L 35-68から西へ2 m、北へ1 mに位置する。プランは上面で長軸0.98m、短軸0.8mの楕円形に近い形、底面でほぼ長辺0.6m、短辺0.46mの長方形を呈する。検出面からの深さは約60 cmである。覆土は1. 黒褐色土。2. 茶褐色土・小ハードロームブロックを含む黒褐色土。3. 小ハードロームブロックの混入が多い黒褐色土。4. ソフトロームを多く含む茶褐色土。5. ソフトロームブロックを多く含む茶褐色土。6. ロームを縞状に含む暗褐色土である。遺物はみられないが縄文時代に属する遺構と考えられる。形態的には貯蔵穴のような用途を持つ土坑と考えられる。

016号土坑（遺構 第161図）

A L 35-48から東へ2 mに位置する。プランは最大長2.32m、最大幅1.52mの不整形を呈する。検出面からの深さは約41cmある。床面は平でなく深くなった部分とやや浅めの部分に分かれる。覆土は1. 暗褐色土。2. 茶褐色土を縞状に含む茶褐色土。3. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。4. ハードロームを僅かに含む茶褐色土。5. ソフトロームを主体にする層である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており用途も不明である。

017号土坑（遺構 第162図）

A L 35-28から南へ1 mに位置する。プランは最大長3 m、最大幅1.38mの繭形に近い不整形



第162図 大野第9遺跡縄文時代土坑(3)(1/80)

を呈する。検出面からの深さは最大36cmで床面から壁に向かってだらだらと立ち上がっている。覆土は1. 黒褐色土。2. ソフトロームを混入する黒褐色土。3. ソフトロームを混入する暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に混入する茶褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており用途も不明である。

018号土坑（遺構 第162図）

AM34-71から北へ2m、西へ1mに位置する。プランは最大長1.44m、最大幅1.42mのお結び形に近い形を呈する。検出面からの深さは最大38cmある。床面は右側に深く傾斜している。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. 攪乱土。3. 堆積がやや密でソフトロームを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。5. ソフトローム主体の黄褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており、用途も不明である。

019号土坑（遺構 第162図）

AL35-64から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺90cm、短辺81cmの隅丸方形を呈する。床面はフラットで壁は斜めに立ち上がる。検出面からの深さは約62cmある。覆土は1. ソフトロームブロック・炭化物を含む褐色土。2. 黒色土を水玉状に含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む茶褐色土。4. ソフトロームを多く含む茶褐色土。5. ソフトロームが主体の黄褐色土である。遺物等がみられないので詳細な時期は不明であるが、形態的には縄文時代の貯蔵穴的な用途を持った土坑と考えられる。

020号土坑（遺構 第162図）

AL35-34に位置する。プランは上面は最大長1.9m、最大幅1.55mのやや不整な形をしているが底面は長辺1.42m、短辺0.92mの隅丸長方形を呈する。床面の中程から一辺が40cm程の方形のピットが1個検出された。検出面から床面までの深さは約70cmでピットまでの深さは1.23mある。覆土は1. 小ハードロームブロックを少し含む茶褐色土。2. 小ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む褐色土。5. ソフトロームを多く含む茶褐色土。6. ソフトローム・ハードロームを多く含む茶褐色土。7. ソフトロームを多く含む茶褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

021号土坑（遺構 第162図）

AL35-03に位置する。プランは長軸2.06m、短軸1.84mの長楕円形に近い形を呈する。床面には一辺が25cm～30cmの方形のピットが2個検出された。検出面から床面までの深さは74cmでピットまでの深さは1.3mある。覆土は1. 小ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ソフトロームが主体で暗褐色土粒を含む茶褐色土。4.

ソフトロームを主体で締まり粘性が弱い明褐色土。5. ソフトロームを主体でハードロームが混入する明褐色土。6. ソフトロームと褐色土混じりの茶褐色土。7. ソフトロームと褐色土混じりの茶褐色土である。遺物は見られなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

022号土坑（遺構 第162図）

A L35-39から東へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは最大長1.89m、最大幅1.29mの楕円形に近い不整形を呈する。検出面からの深さは70cmある。床面は全体にフラットだが壁に向かってやや上がり気味である。覆土は1. 茶褐色粘土粒を含みソフトロームを縞状に含む黒褐色土。2. ソフトローム粒を縞状に含む黒褐色土。3. ソフトロームとハードロームが混ざり合う黄褐色土。4. ソフトロームが主体の黄褐色土。5. 褐色土とソフトロームが混ざり合う茶褐色土である。遺物は見られないが、形態的には縄文時代の貯蔵穴の様な用途を持った土坑と考えられる。

023号土坑（遺構 第163図）

AM35-31から北へ1 mに位置する。プランは最大長2.73m、最大幅1.76mの楕円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットで壁も比較的緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは57 cmある。覆土は1. ソフトロームを含む茶褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ソフトロームと暗褐色土が混ざりあった層。4. ソフトロームを水玉状に含む黒褐色土。5. ソフトロームと暗褐色土が混ざりあった層。6. ソフトロームを主体とする黄褐色土。7. ソフトロームを主体とする黄褐色土である。覆土上層から縄文時代中期の土器片が1点検出されているので縄文時代に属すると考えられるが、形態的にはやや不整形で用途は不明の土坑である。

024号土坑（遺構 第163図）

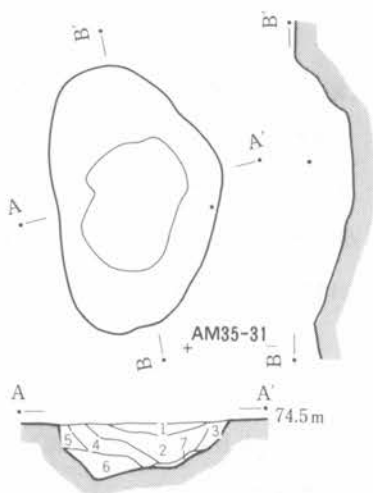
AM35-11から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは最大長1.67m、最大幅1.28mの楕円形に近い不整形を呈する。断面はほぼ逆V字形を呈している。検出面からの深さは58cmある。覆土は1. ソフトロームが混入した暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. 小ハードロームを含む暗褐色土。4. ソフトローム・ハードロームブロックが混ざり合う黄褐色土。5. ソフトロームを多く含む黄褐色土。6. ソフトローム・ハードロームブロックが混ざり合う黄褐色土。7. ザクザクした暗褐色土である。遺物が見られない事から正確な時期は不明である。形態的にもやや不整形な形をしており用途も不明である。

025号土坑（遺構 第163図）

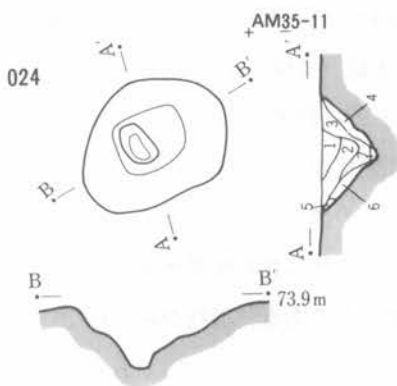
A L35-88から南へ1 mに位置する。プランは長軸1.16m、短軸0.65mの楕円形を呈する。検出面からの深さは72cmある。覆土は1. ソフトロームを少し含む暗褐色土。2. ソフトローム



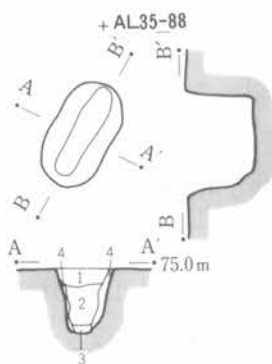
023



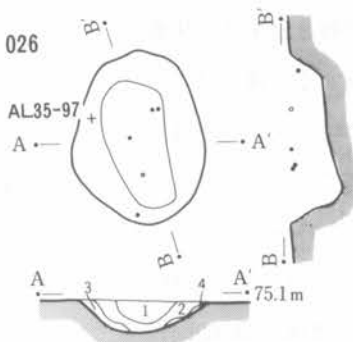
024



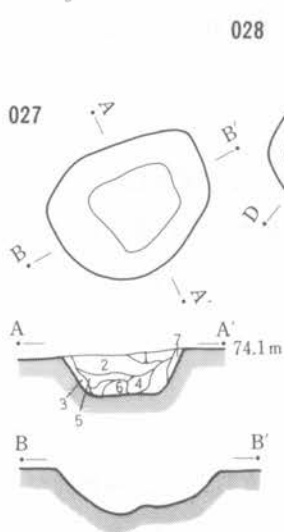
025



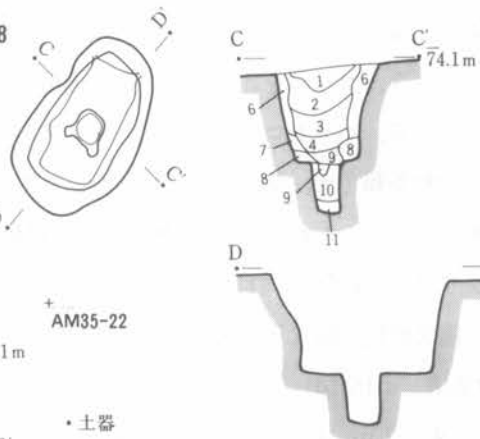
026



027



028



• 土器
• 石器・礫



第163図 大野第9遺跡縄文時代土坑(4) (1/80)

を縞状に含む暗褐色土。3. やや暗色が強い暗褐色土。4. ソフトローム主体の壁崩落土層である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

026号土坑（遺構 第163図）

AL35-97に位置する。プランは最大長1.78m、最大幅1.38mの楕円形に近い不整形を呈する。床面は北側壁際で最も深く南側へ向かってだらだらと立ち上がる。壁は比較的急に立ち上がる。検出面からの深さは約54cmある。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。2. ソフトロームを水玉状に含む暗褐色土。3. ソフトロームが主体の黄褐色土。4. ソフトロームが主体の黄褐色土である。遺物がみられない事から正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており、用途も不明である。

027号土坑（遺構 第163図）

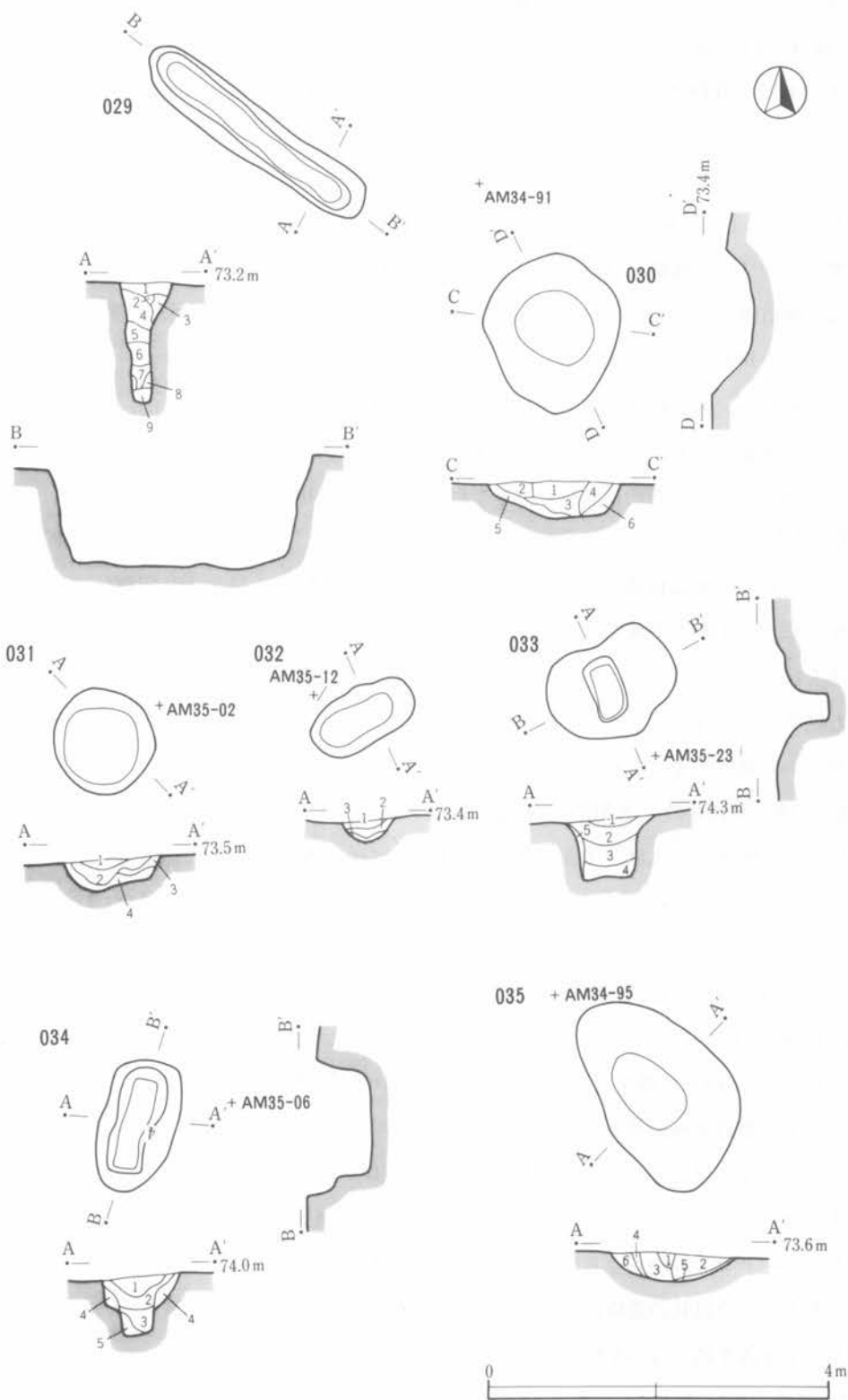
AM35-22から西へ2m、北へ1mに位置する。プランは最大長1.72m、最大幅1.37mの楕円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットである。断面形は逆台形を呈する。検出面からの深さは43cmある。覆土は1. ソフトロームをブロック状に含む黒褐色土。2. ソフトロームを均一に少し含み炭化粒を僅かに含む暗褐色土。3. ソフトロームを僅かに含む暗褐色土。4. やや暗い色調でハードロームブロックを僅かに含む暗褐色土。5. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。6. ハードロームブロック主体の暗褐色土。7. ソフトローム主体の黄褐色土である。遺物はみられないが、形態的には縄文時代の貯蔵穴の様な用途を持った土坑と考えられる。

028号土坑（遺構 第163図）

AM35-22から北へ1mに位置する。プランはほぼ長軸1.94m、短軸1.17mの楕円形を呈する。床面はフラットで中程に一辺30cmの方形のピットを持つ。検出面からの深さは98cmでピットの深さは1.48mある。覆土は1. ハードロームブロックを水玉状に含む暗褐色土。2. やや締まりの強い暗褐色土。3. ロームを霜降り状に含む暗褐色土。4. ハードロームブロックを水玉状に含む暗褐色土。5. ハードロームブロック・ソフトロームを多く含む暗褐色土。6. ソフトロームを多く含む茶褐色土。7. ソフトロームを主体にした黄褐色土。8. 小ハードロームを多く含む茶褐色土。9. ソフトローム主体でやや暗褐色土を含む褐色土。10. ソフトロームからなる層でサクサクな黄褐色土。11. ハードローム主体の褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

029号土坑（遺構 第164図）

AM34-90から東へ1m、北へ1mに位置する。プランはほぼ長軸3.08m、短軸0.57mの長楕円形を呈する。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に近く立ち上がる。検出面からの深さは1.34mである。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。2. 攪乱土。3. ソフトローム主体の黄褐色土。4. ソフトロームを多く含む褐色土。5. ソフトロームが主体で炭化粒を僅か



第164図 大野第9遺跡縄文時代土坑(5)(1/80)

に含む暗褐色土。6. ソフトローム主体の黄褐色土。7. ソフトローム主体でハードロームブロックを含む暗褐色土。8. ソフトローム主体でボソボソな暗褐色土。9. ハードロームが主体の暗褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

030号土坑 (遺構 第164図)

AM34-90から南へ1m、東へ1mに位置する。プランは最大長1.71m、最大幅1.55mの楕円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットで壁は右側が急激に立ち上がり左側がだらだらと立ち上がる。検出面からの深さは42cmある。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。2. ソフトロームを斑状に含む黒褐色土。3. ソフトロームを縞状に含むハードロームブロックを多く含む黒褐色土。4. 締まりがありソフトロームを縞状に含む黒褐色土。5. ソフトロームを多く含む黒褐色土。6. ソフトローム主体の黄褐色土である。遺物がみられない事から正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており、用途も不明である。

031号土坑 (遺構 第164図)

AM35-02から西へ0.5mに位置する。プランはほぼ径1.18mの円形を呈する。床面はやや中央部が低く壁際にやや上がり気味である。検出面からの深さは35cmある。覆土は1. ソフトローム・褐色土を縞状に含む褐色土。2. ソフトロームを水玉状に含む褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ソフトローム主体の黄褐色土である。遺物はみられないが、形態的には縄文時代の貯蔵穴のような用途を持った土坑と考えられる。

032号土坑 (遺構 第164図) AM35-12付近に位置する。プランは長軸1.28m、短軸0.66mの楕円形を呈する。断面形は丸底で床面と壁の境は明瞭でない。検出面からの深さは22cmで浅い。覆土は1. ソフトローム粒を僅かに含む暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ソフトロームとハードロームからなる黄褐色土である。遺物もみられず形態的にも掘り込みが浅くやや疑問が残るが、貯蔵穴のような用途を持った土坑である可能性が考えられる。

033号土坑 (遺構 第164図)

AM35-23から北へ1mに位置する。プランは最大長1.54m、最大幅1.09mの不整形を呈する。床面には長辺70cm、短辺30cmの長方形のピットがあるがむしろこのほうが本体である可能性が強い。検出面からの深さは約67cmある。覆土は1. ソフトロームを含む暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ハードロームブロック・ソフトロームを含む褐色土。4. ソフトローム・ハードロームからなる層で締まりが弱い黄褐色土。5. ソフトロームを多く含む黄褐色土である。この皿状の遺構はピット部分の崩壊である可能性もありピットそのものも小さくどのような用途を持つものか特定はできない。

034号土坑 (遺構 第164図)

AM35-06から西へ1 mに位置する。プランは長軸1.54m、短軸0.87mの楕円形に近い不整形を呈する。元々は長方形に掘ったと思われる。床面はほぼフラットで壁は崩壊してやや階段状になる部分がある。検出面からの深さは78cmある。覆土は1. ローム粒を多くロームブロック(小)を少し含む茶褐色土。2. ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。3. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土。4. ロームブロック主体の黄褐色土。5. ローム小ブロック混じりの黒褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

035号土坑 (遺構 第164図)

AM34-95から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは最大長2.28m、最大幅1.49mの不整形を呈する。断面形はやや浅目のボール状を呈する。検出面からの深さは34cmある。覆土は1. ハードロームブロックを含み締まりが弱い黒褐色土。2. ソフトローム縞状に含む褐色土。3. 良く締まった黒褐色土。4. ソフトロームを僅かに含む黒褐色土。5. ソフトロームを多く含む明褐色土。6. 良く締まった黒褐色土である。遺物がみられない事から正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており、用途も不明である。

036号土坑 (遺構 第165図)

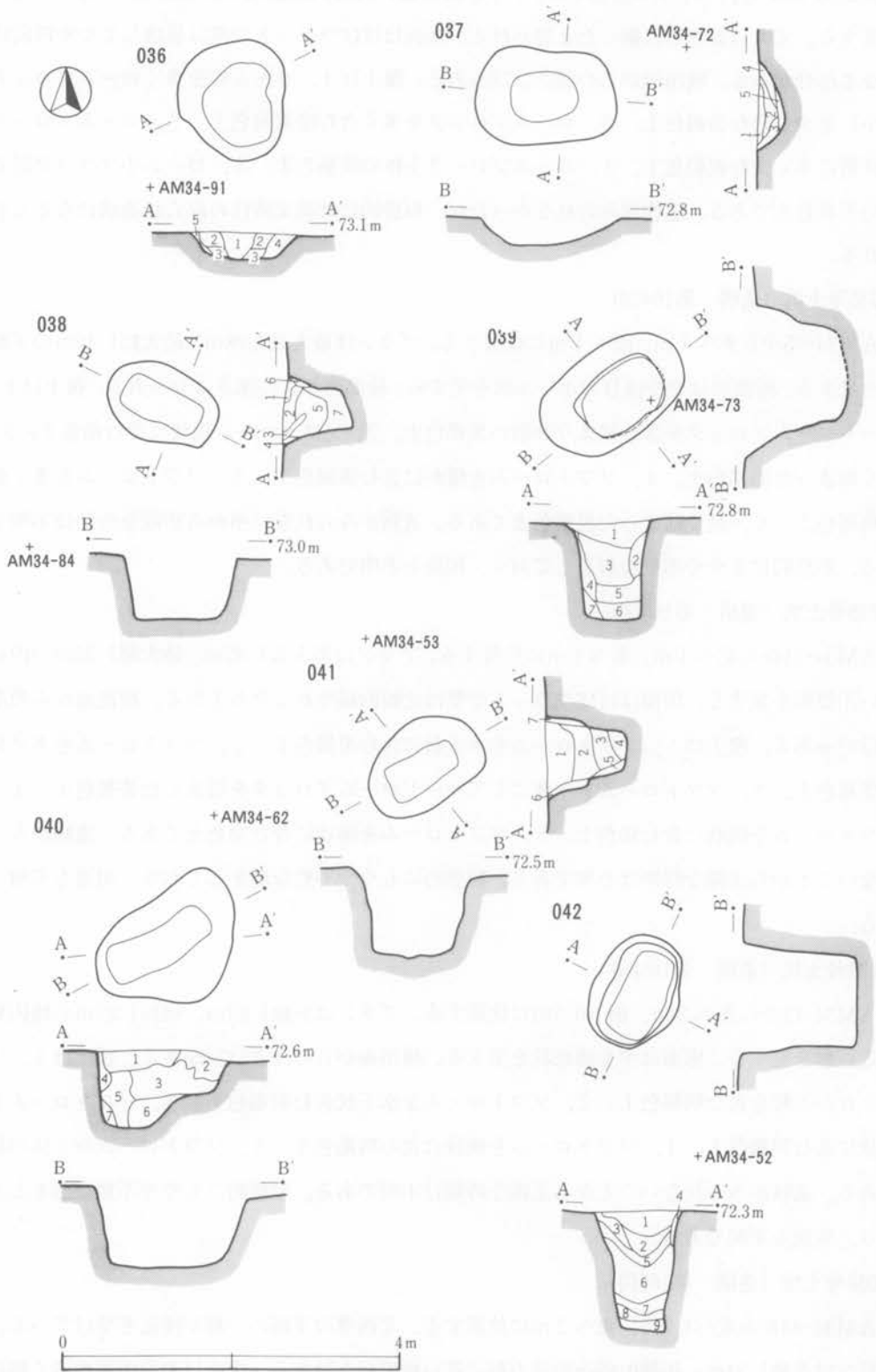
AM34-91から北へ1 m、東へ1 mに位置する。プランは最大長1.45m、最大幅1.36mの円に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットで壁は比較的緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは32cmある。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含む黒褐色土。2. ソフトロームを多く含む黒褐色土。3. ソフトロームを主体にしてハードロームブロックを混入した茶褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む褐色土。5. ソフトロームを縞状に含む褐色土である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており、用途も不明である。

037号土坑 (遺構 第165図)

AM34-72から西へ2 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.69m、短軸1.22mの楕円形に近い形を呈する。床面はやや鍋底状を呈する。検出面からの深さは34cmある。覆土は1. ソフトローム粒を含む明褐色土。2. ソフトロームを水玉状含む明褐色土。3. ソフトロームを縞状に含む明褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む明褐色土。5. ソフトロームが主体の層である。遺物がみられないことから正確な時期は不明である。形態的にもやや不整な形をしており、用途も不明である。

038号土坑 (遺構 第165図)

AM34-84から北へ1.5m、東へ2 mに位置する。北西壁の下面の一部が攪乱を受けている。プランは長軸1.34m、短軸0.89mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はやや南側が深く傾斜



第165図 大野第9遺跡縄文時代土坑(6) (1/80)

している。検出面からの深さは74cmある。覆土は1. 攪乱土。2. ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。3. 攪乱土。4. ソフトローム主体の黄褐色土。5. ソフトロームを含む黒褐色土。6. ソフトローム主体の黄褐色土。7. ソフトロームを多く含む茶褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

039号土坑（遺構 第165図）

AM34-73に位置する。プランは長軸1.81m、短軸1.06mの楕円形を呈する。床面はやや中程が深くなる。検出面からの深さは1.2mある。覆土は1. ハードローム粒を含む暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ハードロームブロックを水玉状に含む暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。5. ソフトローム・ハードロームブロックを多く含む暗褐色土。6. ハードロームを主体とする褐色土。7. ハードロームブロックを多く含む暗褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

040号土坑（遺構 第165図）

AM34-62から南へ1mに位置する。プランは最大長1.84m、最大幅1.3mの不整形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは96cmある。覆土は1. ハードロームブロックを少し含む黒褐色土。2. 灰白色粒ローム粒子を含む黒褐色土。3. 小ハードロームブロックを水玉状に含む黒褐色土。4. ソフトロームを主体とする黄褐色土。5. ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。6. ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。7. ソフトロームを縞状に含み締まりが無くサラサラとしている黒褐色土である。土層が人為的で南側壁がテラス状になるなど他にない特徴がみられる。積極的な証拠はないものの墓塚のような性格の遺構ではないかとも考えられる。遺物の検出はない。

041号土坑（遺構 第165図）

AM34-53から南へ1.5m、東へ0.5mに位置する。プランは長軸1.46m、短軸0.98mの楕円形に近いやや不整形を呈する。床面はほぼフラットで中央部分に若干窪んだ部分が認められる。検出面からの深さは0.97mある。覆土は1. 小ハードローム粒を含む黒褐色土。2. ソフトローム粒・ハードローム粒を含む黒褐色土。3. ソフトローム粒・ハードローム粒を含み締まりが弱くサラサラしている暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。5. ソフトロームを多く含む黒褐色土。6. ソフトロームを主体として黒褐色土を含む明褐色土。7. ソフトロームを主体として黒褐色土を含む明褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

042号土坑（遺構 第165図）

AM34-52から西へ1m、北へ2mに位置する。プランは長軸1.34m、短軸1.05mの長方形に近い楕円形を呈する。床面はフラットである。検出面からの深さは1.42mある。覆土は1. 褐

色土。2. 暗褐色土。3. 暗褐色土をやや含む明褐色土。4. ローム粒を多く含む明褐色土。5. ローム粒やや含む暗褐色土。6. 暗褐色土。7. ロームブロックを含む暗褐色土。8. 暗褐色土。9. やや灰色がかかった粘性の強い暗褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

043号土坑 (遺構 第166図)

AM34-42から北へ1.5m、西へ1mに位置する。プランは長軸1.98m、短軸0.9mの長楕円形を呈する。床面はフラットで36cm程度の方形のピットが2個並んで検出された。検出面からの深さは約84cmでピットの最深部までの深さは1.27mである。覆土は1. ソフトローム粒を含みスコリアが混入する黒褐色土。2. ソフトロームを縞状に混入する黒褐色土。3. ソフトロームを水玉状に含む黒褐色土。4. ソフトロームを多く含む明褐色土。5. ハードロームブロックを水玉状に含む暗褐色土。6. 締まりが弱い暗褐色土。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

044号土坑 (遺構 第166図)

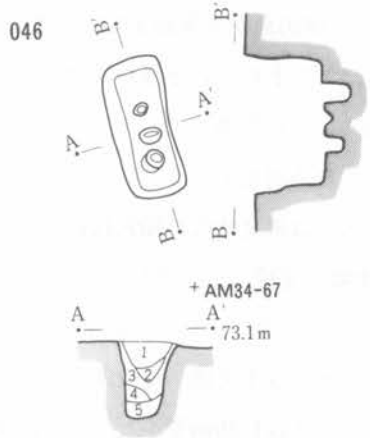
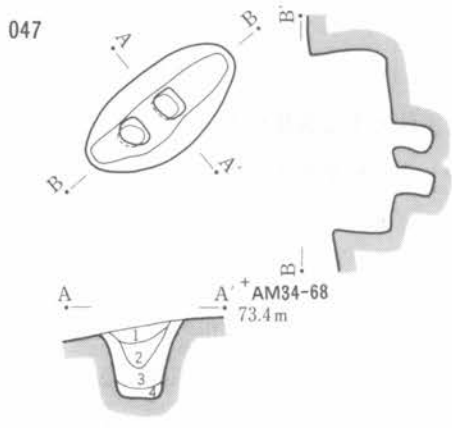
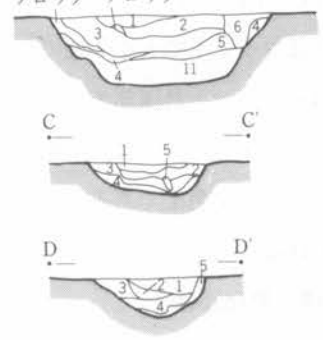
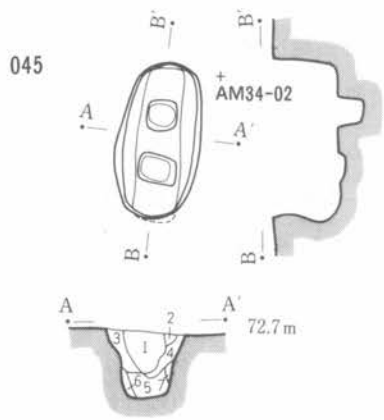
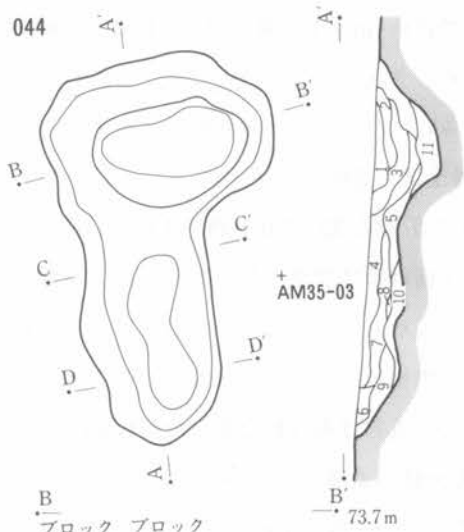
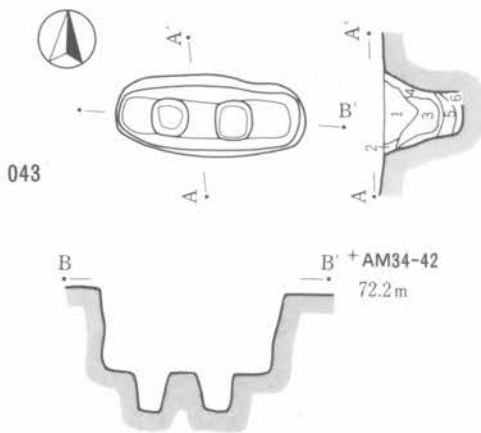
AM35-03から西へ1mを中心にして位置する。プランは最大長4m、最大幅2.44mの鍵形に近い不整形を呈する。床面は浅い部分と深い部分に分かれている。検出面からの深さは浅い部分で40cm、深い部分では0.68mである。覆土は1. ロームブロックを多く含む明褐色土。2. ローム細粒を含む明褐色土。3. ロームを所々に含む暗褐色土。4. 明褐色土。5. 暗褐色土をやや含む明褐色土。6. ロームを多く含む褐色土。7. 暗褐色土。8. 黒色土。9. 暗褐色土。10. 明褐色土。11. 暗褐色土をやや含む明褐色土である。北側の楕円形部分と南側の楕円形部分に分かれる可能性がある。遺物はみられないし形態的にみても用途は特定できる遺構ではない。

045号土坑 (遺構 第166図)

AM34-02から西へ0.5mに位置する。プランは長軸1.62m、短軸0.88mの楕円形を呈する。床面フラットで30cm～40cm規模の方形のピットを2個検出している。北側のピットは深く南側のピットは浅い。検出面からの深さは0.72mでピットの最深部分までは0.97mある。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む暗褐色土。3. 暗褐色土とソフトロームが混ざり合う茶暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む灰褐色土。5. ハードロームブロック・ソフトロームを縞状に含む灰褐色土。6. ソフトロームを縞状に含む灰褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

046号土坑 (遺構 第166図)

AM34-67から北へ1.5m、西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.44m、短辺0.66mの長方形を呈する。床面はほぼフラットで10cm～30cm規模の円形ピットを3個検出している。中央のも



第166図 大野第9遺跡縄文時代土坑(7)(1/80)

のは非常に浅く他の2個は20cm～30cmの深さである。検出面からの深さは0.79mでピットの最深部までは1.1mある。覆土は1. 砂質の暗褐色土。2. ローム細粒を含む暗褐色土。3. ロームをブロック状に含む褐色土。4. 褐色土。5. ロームブロック細粒を含む暗褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

047号土坑 (遺構 第166図)

AM34-67から北へ2m、西へ1mに位置する。プランは長軸1.84m、短軸0.88mの楕円形である。床面はほぼフラットである。また床面中央部から25cm規模のピットが2個検出されている。検出面からの深さは約0.74mでピット最深部までの深さは1.28mである。覆土は1. 黒色土。2. 黒褐色土。3. ロームブロックを所々に含む暗褐色土。4. ローム細粒を含む暗褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

048号土坑 (遺構 第167図)

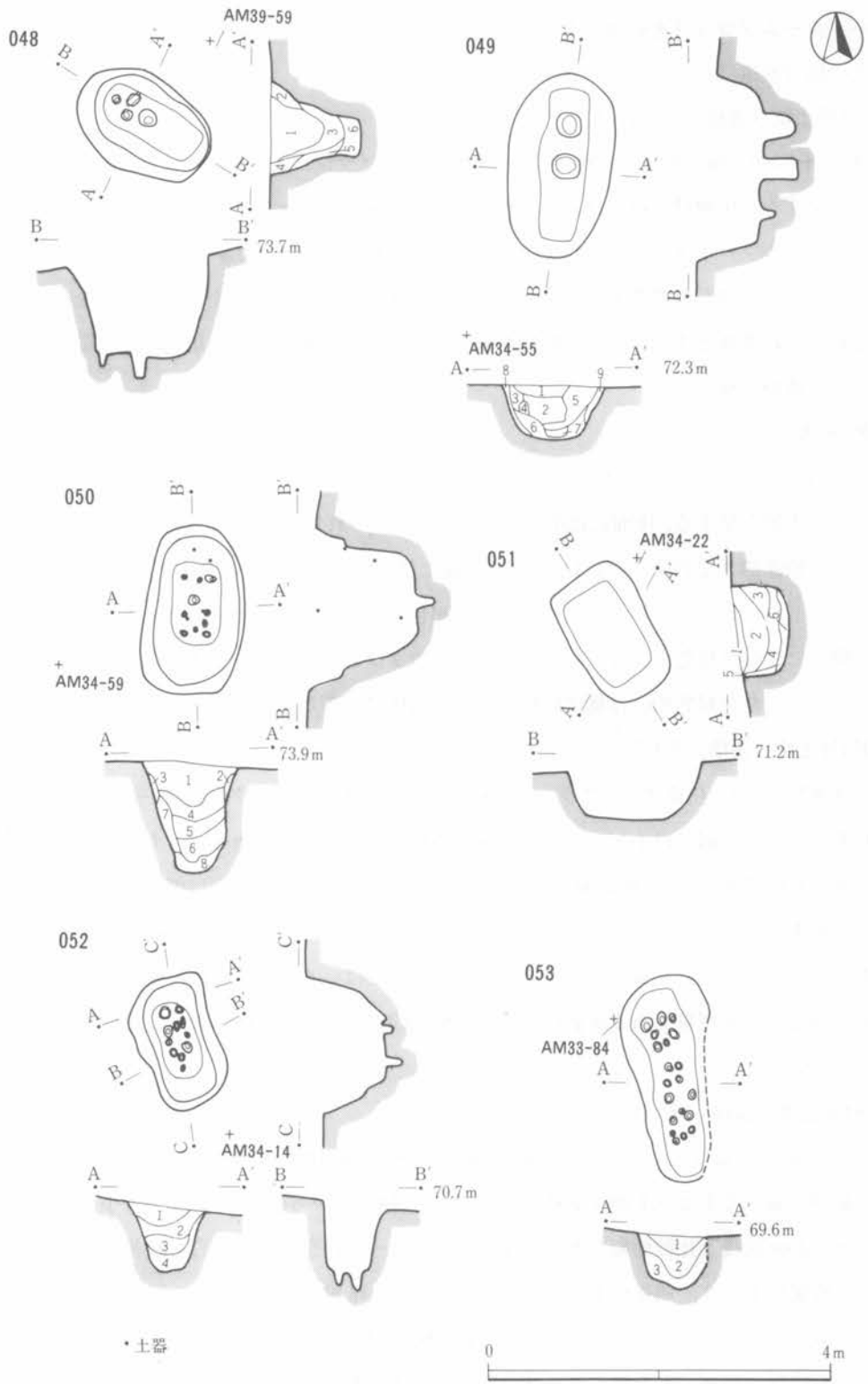
AM34-59から西へ1m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.66m、短軸1.15mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで大小4個のピットが西側部分を中心に検出されている。検出面からの深さは1.04mでピット最深部までの深さは1.35mある。覆土は1. 暗褐色土。2. 褐色土。3. ロームブロックを点々と含む暗褐色土。4. ロームを多く含む明褐色土。5. ローム・ブロックを多く含む褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

049号土坑 (遺構 第167図)

AM34-55から北へ1m、東へ1mに位置する。プランは長軸2.17m、短軸1.18mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで北側に径26cm程度の円形ピット2個と南側に3個の小ピットが検出された。検出面から床面までの深さは0.66mでピットの最深部までの深さは1.17mである。覆土は1. ソフトロームを僅かに含む黒褐色土。2. やや暗色化した黒褐色土。3. ソフトロームを均一に含む黒褐色土。4. ソフトロームを主体とする黄褐色土。5. ソフトロームを均一に多く含む茶褐色土。6. ソフトローム粒を少し含む黒褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

050号土坑 (遺構 第167図)

AM34-59から東へ1mに位置する。プランは長軸1.91m、短軸1.12mの長方形に近い楕円形を呈する。床面は中央部へやや深くなる傾向が見られる。小ピットが10個検出されている。検出面からの深さは1.29mで小ピットの最深部までの深さは1.46mある。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含みハードロームブロック・焼土粒を含む茶褐色土。2. ソフトロームを主体とする黄褐色土。3. ソフトロームを主体とする黄褐色土。4. ソフトロームを水玉状に含む暗褐色土。5. ソフトロームを均一に含む暗褐色土。6. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。



第167図 大野第9遺跡縄文時代土坑(8)(1/80)

色土。7. 小ハードロームブロック・ソフトロームを多く含む暗褐色土。8. ソフトローム・ハードロームブロックを縞状に含む暗褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

051号土坑（遺構 第167図）

AM34-22から南へ0.5m、西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.55m、短辺0.97mの隅丸長方形を呈する。床面はほぼフラットで検出面からの深さは61cmである。覆土は1. 黒褐色土。2. ローム小ブロックを含む黒色土。3. ローム細粒を含む黒色土。4. 所々にロームを含む暗褐色土。5. 砂質の褐色土。6. 粘質の強い明褐色土である。浅くピットを持たないタイプのため陥穴状遺構とするにはやや疑問が残る。あるいは墓壙のような用途を考えてもよさそうである。遺物の検出はない。

052号土坑（遺構 第167図）

AM34-14から北へ1m、西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.5m、短辺0.83mのやや丸みの強い長方形を呈する。床面には小ピットが11個検出されている。検出面からの深さは0.9mでピットの最深部までの深さは1.1mである。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含む茶褐色土。2. ハードローム・ブロックを僅かに含む黒褐色土。3. ハードロームブロック・ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。4. パサパサした層でソフトロームを含む灰褐色土である。遺物はみられなかったが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

053号土坑（遺構 第167図）

ほぼAM33-84に位置する。プランは長軸2.38m、短軸0.75mのやや北側が膨らんだ不整な楕円形を呈する。床面には小ピットが21個検出されている。いずれのピットも小さく逆茂木を細かく刺した跡であろうか。検出面からの深さは0.6mで小ピットの規模は概ね20cm～30cm前後である。覆土は1. 黒色土。2. ローム細粒を含む黒色土。3. ローム細粒を多く含む暗褐色土である。この小ピットを多く持つタイプはこの遺跡ではいくつかみられ時期的にあるいは狩猟対象に限定される現象である可能性がある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

054号土坑（遺構 第168図）

AN33-61に位置する。プランは長軸1.28m、短軸0.99m楕円形を呈する。床面はほぼフラットで北側に偏って小ピットが4個検出されている。検出面からの深さは0.5mで小ピットの規模は10cm～30cm前後と比較的幅がある。覆土は1. ローム粒を斑点状に含む暗褐色土。2. 粘質の強い暗褐色土。3. 明褐色土。4. 明褐色土。5. 暗褐色土。6. ローム細粒を多く含む褐色土。7. ロームブロックをやや含む褐色土。8. 暗褐色土である。053号程ではないが逆茂木を刺した程度の小ピットを持つタイプの陥穴状遺構と考えられる。遺物の検出はない。

055号土坑（遺構 第168図）

A N33-51から西へ1 m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.82m、短軸0.98mのやや長方形に近い楕円形を呈する。床面はフラットで東側に径35cmの円形ピットを1個検出している。検出面からの深さは1.02mある。覆土は1. ローム細粒を含む褐色土。2. ロームブロックを斑点状に含む暗褐色土。3. ゴロゴロしたロームブロックを含む暗褐色土。4. ローム細粒を含む褐色土。5. 明褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

056号土坑（遺構 第168図）

AM34-18から西へ2 mに位置する。プランは最大長1.53m、最大幅1.02mのやや卵形に近い不整形を呈する。床面はやや南側に傾斜しており壁の立ち上がりはやや緩やかである。検出面からの深さは46cmある。覆土は1. ローム細粒を含む暗褐色土。2. 褐色土。3. ロームブロックを点々と含む褐色土。4. 暗褐色土を縞状に含む明褐色土である。遺物もなく形態的にも不整なため用途不明の土坑である。

057号土坑（遺構 第168図）

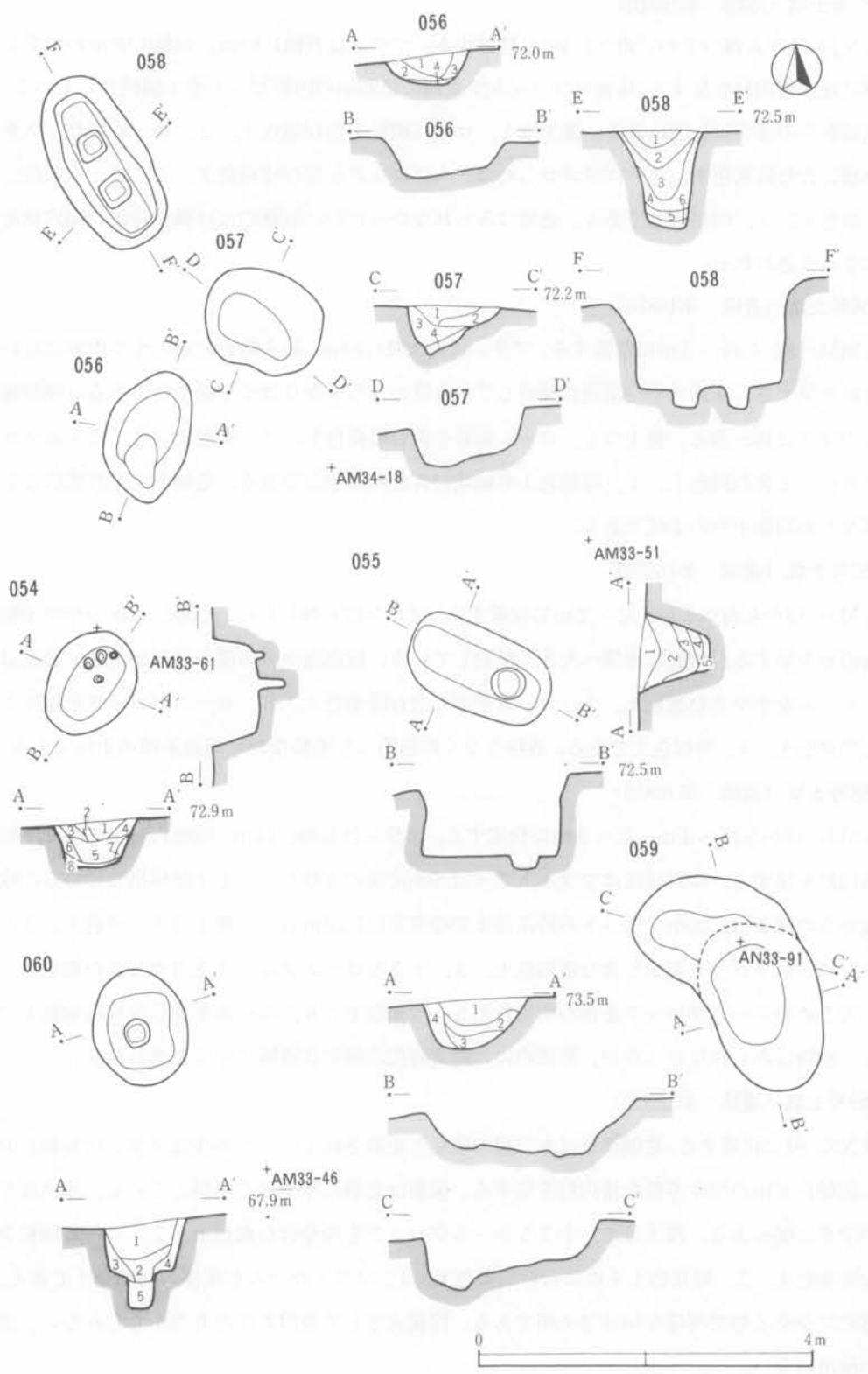
AM34-18から西へ1 m、北へ2 mに位置する。プランは長軸1.45m、短軸1.17mのやや不整な楕円形を呈する。床面は南側へ大きく傾斜している。検出面からの深さは58cmある。覆土は1. ロームをやや含む黒色土。2. ロームを多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを点々と含む明褐色土。4. 明褐色土である。遺物もなく形態的にも不整なため用途不明の土坑である。

058号土坑（遺構 第168図）

AM34-18から西へ3 m、北へ3 mに位置する。プランは長軸2.16m、短軸1.11mのやや不整な楕円形を呈する。床面はほぼフラットで一辺30cm前後の方形ピットを2個検出している。検出面からの深さは1.26mでピットの最深部までの深さは1.54mある。覆土は1. 黒色土。2. 小さなロームブロックを少し含む暗褐色土。3. 小さなロームブロックを点々と含む褐色土。4. 大きめのロームブロックを含む明褐色土。5. 暗褐色土。6. ロームを少し含む暗褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

059号土坑（遺構 第168図）

A N33-91に位置する。北側部分は木の根の攪乱と記載されているため復元プランは長軸2.04 m、短軸1.33mのやや不整な楕円形を呈する。床面は北側にやや低く傾斜している。検出面からの深さは66cmある。覆土は1. 小さなロームブロックをやや含む褐色土。2. ローム細粒を含む暗褐色土。3. 暗褐色土を斑に含む明褐色土。4. ソフトロームが主体の明褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。貯蔵穴として使用されたものかもしれない。遺物の検出はない。



第168図 大野第9遺跡縄文時代土坑(9) (1/80)

060号土坑（遺構 第168図）

AM33-46から西へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.35m、短軸1.11mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中央部分に径32cmの円形ピットを1個検出している。検出面からの深さは0.59mでピットの最深部までの深さは0.98mある。覆土は1. 黒色土。2. 暗褐色土。3. ロームを斑に含む暗褐色土。4. ロームを斑に含む暗褐色土。5. ロームが主体の暗褐色土である。遺物はみられなかったが、形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

061号土坑（遺構 第169図）

AN34-12から西へ位置する。プランは長軸1.22m、短軸1.04mのやや不整な楕円形を呈する。床面は北側に寄った部分で斜めに傾斜して断面はV字形を呈する。検出面からの深さは48cmある。覆土は1. やや木の根の攪乱を受けている暗褐色土。2. ロームを多く含む褐色土。3. 暗褐色土。4. ロームが主体の明褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。遺物の検出はない。

062号土坑（遺構 第169図）

AN34-56から東へ1m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.16m、短辺0.88mの隅丸長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは0.54mある。覆土は1. 黒色土。2. ローム主体の明褐色土。3. 小さいロームブロックを含む暗褐色土。4. ゴロゴロしたロームブロックを含む褐色土である。比較的定型的に掘られており貯蔵穴のような用途の土坑と思われる。遺物の検出はない。

063号土坑（遺構 第169図）

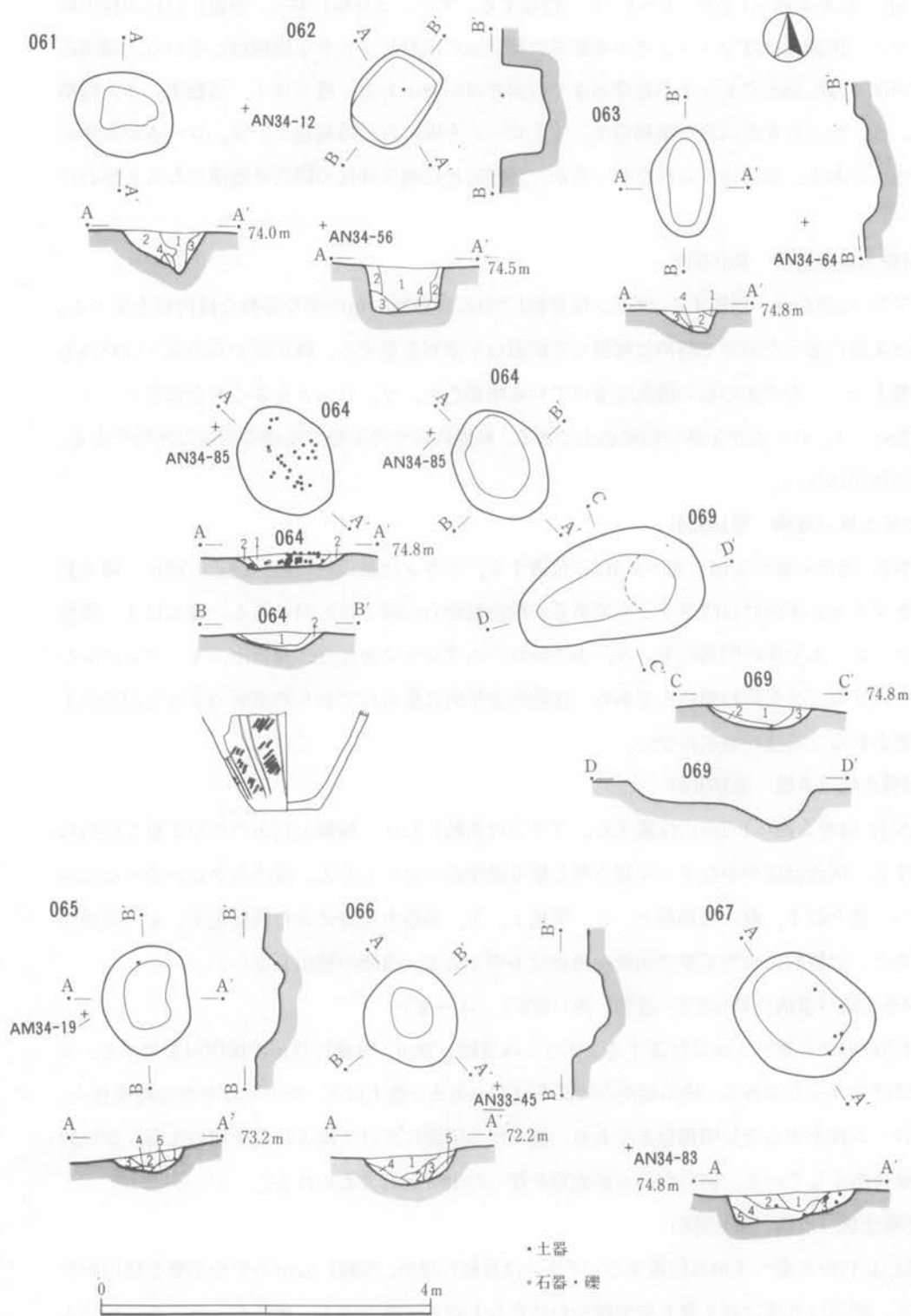
AN34-64から西へ1.5mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸0.74mのやや不整な楕円形を呈する。床面は緩やかなボール状を呈し壁も緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは26cmで浅い。覆土は1. 脆い明褐色土。2. 黒色土。3. 黒色土を斑に含む明褐色土。4. 暗褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。遺物の検出もない。

064号土坑（遺構 第169図 遺物 第176図2、4～8）

AN34-85から東へ1mに位置する。プランは長軸1.38m、短軸1.12mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは20cmある。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む明褐色土である。覆土から床面にかけて縄文時代中期の土器片が比較的多量に出土している。何らかの上部施設を伴った土坑とも考えられる。

065号土坑（遺構 第169図）

AM34-19から東へ1mに位置する。プランは長軸1.28m、短軸1.02mのやや不整な楕円形を呈する。断面は丸底に近く壁もやや緩やかに立ち上がる。覆土は1. 褐色土。2. 斑にローム



第169図 大野第9遺跡縄文時代土坑(10) (1/80)

を含む黒色土。3. 褐色土。4. ロームが主体の明褐色土。5. 暗褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。遺物の検出もない。

066号土坑（遺構 第169図）

A N33-45から西へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは径1.18mのほぼ円形を呈する。床面中心に向かってボール状に緩やかに傾斜している。検出面からの深さは34cmある。覆土は1. 茶褐色土を斑に含む黒色土。2. 黒色土を斑に含む明褐色土。3. 砂質で脆い褐色土。4. 褐色土。5. ローム小ブロックを含む暗褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。遺物の検出もない。

067号土坑（遺構 第169図）

A N34-83から東へ2 m、北へ1 mに位置する。プランは最大長1.6m、最大幅1.39mの楕円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットで壁は東側はやや緩やかに立ち上がり、西側は急激に立ち上がる。検出面からの深さは33cmある。覆土は1. ロームを少し含む褐色土。2. 暗褐色土。3. ローム小ブロックを少し含む褐色土。4. ローム及び炭化物を含む黒褐色土。5. ローム主体の明褐色土である。覆土中から縄文時代中期の少量の土器破片が出土しているが形態的にやや不整で明確な用途は不明である。

068号土坑（遺構 第170図）

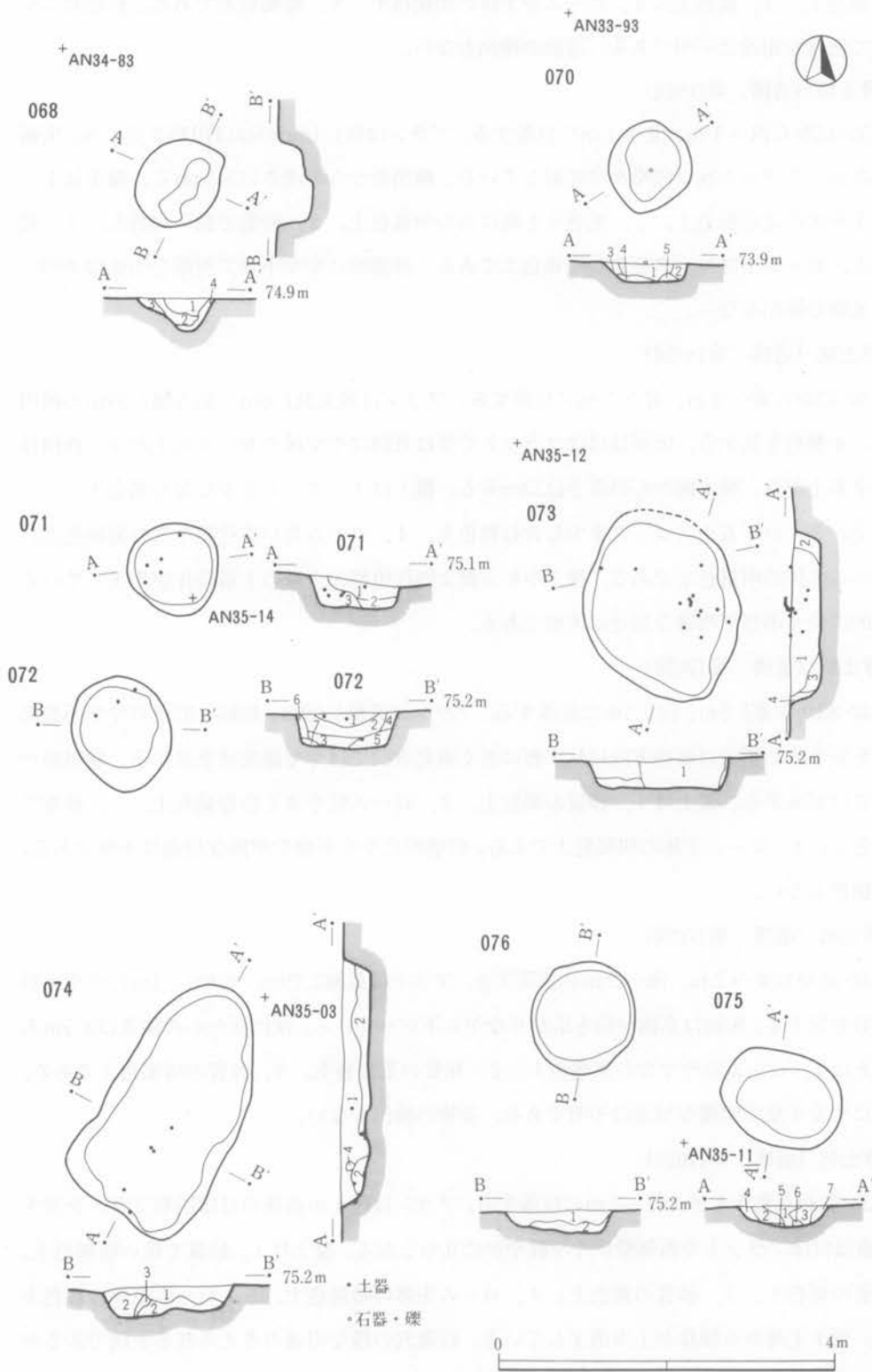
A N34-83から東1.5m、南1.5mに位置する。プランは長軸1.09m、短軸0.93mのやや不整の楕円形を呈する。断面は東西方向にV字形に近く南北方向ではやや鍋底状を呈する。検出面からの深さは36cmある。覆土は1. 砂質の褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土。3. 砂質で脆い褐色土。4. ローム主体の明褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。遺物の検出もない。

069号土坑（遺構 第170図）

A N34-85から東へ2 m、南へ2 mに位置する。プランは長軸2.29m、短軸1.24mのやや不整な楕円形を呈する。床面は東側が最も広がりながら下がっている。検出面からの深さは0.5mある。覆土は1. ローム粒やや含む黒褐色土。2. 粘質の茶褐色土。3. 砂質の暗褐色土である。形態的にやや不整で明確な用途は不明である。遺物の検出もない。

070号土坑（遺構 第170図）

A N33-93から東へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは径1 m前後のほぼ円形プランを呈する。床面はほぼフラットで西側壁がやや緩やかに立ち上がる。覆土は1. 砂質で脆い暗褐色土。2. 砂質の褐色土。3. 砂質の褐色土。4. ローム主体の暗褐色土。5. ローム主体の褐色土である。覆土上層から礫片が1点出土している。貯蔵穴の様な用途の考えられる土坑であるが詳細な時期の特定が可能な遺物はみられなかった。



第170図 大野第9遺跡縄文時代土坑(11)(1/80)

071号土坑 (遺構 第170図)

A N35-14に位置する。プランは径1.1mの円形を呈する。床面はほぼフラットで壁は急激に立ち上がる。検出面からの深さは31cmある。覆土は1. ローム小ブロックを含む暗褐色土。2. ローム小ブロックを含む締めりのある暗褐色土。3. ロームブロック及びローム粒を多く含む暗褐色土である。覆土中より縄文時代中期の土器破片が少量出土している。貯蔵穴のような用途の考えられる土坑であろう。

072号土坑 (遺構 第170図)

A N35-14から南へ1.5m、西へ1mに位置する。プランは長軸1.35m、短軸1.18mの円に近い楕円形を呈する。床面はほぼフラットで壁は急激に立ち上がる。検出面からの深さは41cmある。覆土は1. 暗褐色土。2. ローム粒を含む暗褐色土。3. ローム小ブロックを点々と含む暗褐色土。4. 明褐色土。5. 脆い褐色土。6. 明褐色土。7. 脆い褐色土である。覆土中より縄文時代中期の土器破片が少量出土している。071号土坑と同様に貯蔵穴のような用途の考えられる土坑であろう。

073号土坑 (遺構 第170図)

A N35-12から南へ1.5m、東へ1.5mに位置する。プランは長軸2.35m、短軸1.8mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。また検出面からの深さは35cmある。覆土は1. ローム粒を含む黒褐色土。2. ローム小ブロックを含む黒褐色土。3. 脆い明褐色土。4. ローム小ブロックを含む黒褐色土である。覆土より縄文時代中期の土器破片が少量出土している。比較的大きめな方である。貯蔵穴のような用途が考えられる土坑であろう。

074号土坑 (遺構 第170図)

A N35-03から西へ1mに位置する。プランは最大長2.88m、最大幅1.67mの不整形を呈する。床面はやや緩やかな凹凸がみられる。検出面からの深さは32cmある。覆土は1. ローム小ブロックを含む暗褐色土。2. 砂質の暗褐色土。3. 攪乱土。4. 攪乱土である。覆土より縄文時代中期の土器破片が少量出土している。やや不整形な形態であるため用途を特定するのは困難である。

075号土坑 (遺構 第170図)

A N35-11から東へ1mに位置する。プランは長軸1.44m、短軸1.09mのやや不整な楕円形を呈する。断面は鍋底状を呈する。検出面からの深さは24cmある。覆土は1. ローム小ブロックをやや含む暗褐色土。2. ローム粒をやや含む黒褐色土。3. ローム粒をやや含む黒褐色土。4. ロームを多く含む褐色土。5. ローム主体の明褐色土。6. ローム主体の明褐色土。7. ロームを多く含む褐色土である。遺物はみられないが縄文時代の貯蔵穴のような用途が考えられる土坑であろう。

076号土坑（遺構 第170図）

A N35-11から北へ1 m、西へ1 mに位置する。プランはほぼ径1.28mの円形を呈する。床面は南へやや浅くなる傾向が見られる。検出面からの深さは26cmある。覆土は1. 所々ロームを含む暗褐色土。2. ローム主体の明褐色土である。遺物はみられないが縄文時代の貯蔵穴のような用途が考えられる土坑であろう。

077号土坑（遺構 第171図 遺物 第176図3）

A N35-22から北へ1 mに位置する。プランは長軸2.07m、短軸1.91mのやや楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中程に深めの小ピットと南東側を除く周囲に5個のやや浅目の小ピットが並ぶ。検出面からの深さは32cmでピットの最深部までの深さは78cmある。覆土は1. ローム小ブロックを点々と含む暗褐色土。2. ロームを多く含む褐色土。3. 軟質な暗褐色土。4. 軟質な黒色土。5. ローム主体の暗褐色土。6. ロームブロックが混入した暗褐色土。7. ハードロームを多く含む褐色土である。東よりの壁近くの床面より縄文時代中期の土器が1点出土している。波状口縁で口縁部から胴部にかけて単節縄文を地文に配し胴部下には細沈線を施している。加曾利E II期に相当する時期の土器である。住居跡とは考えられないが何らかの上屋構造があったと思われる遺構である。

078号土坑（遺構 第171図）

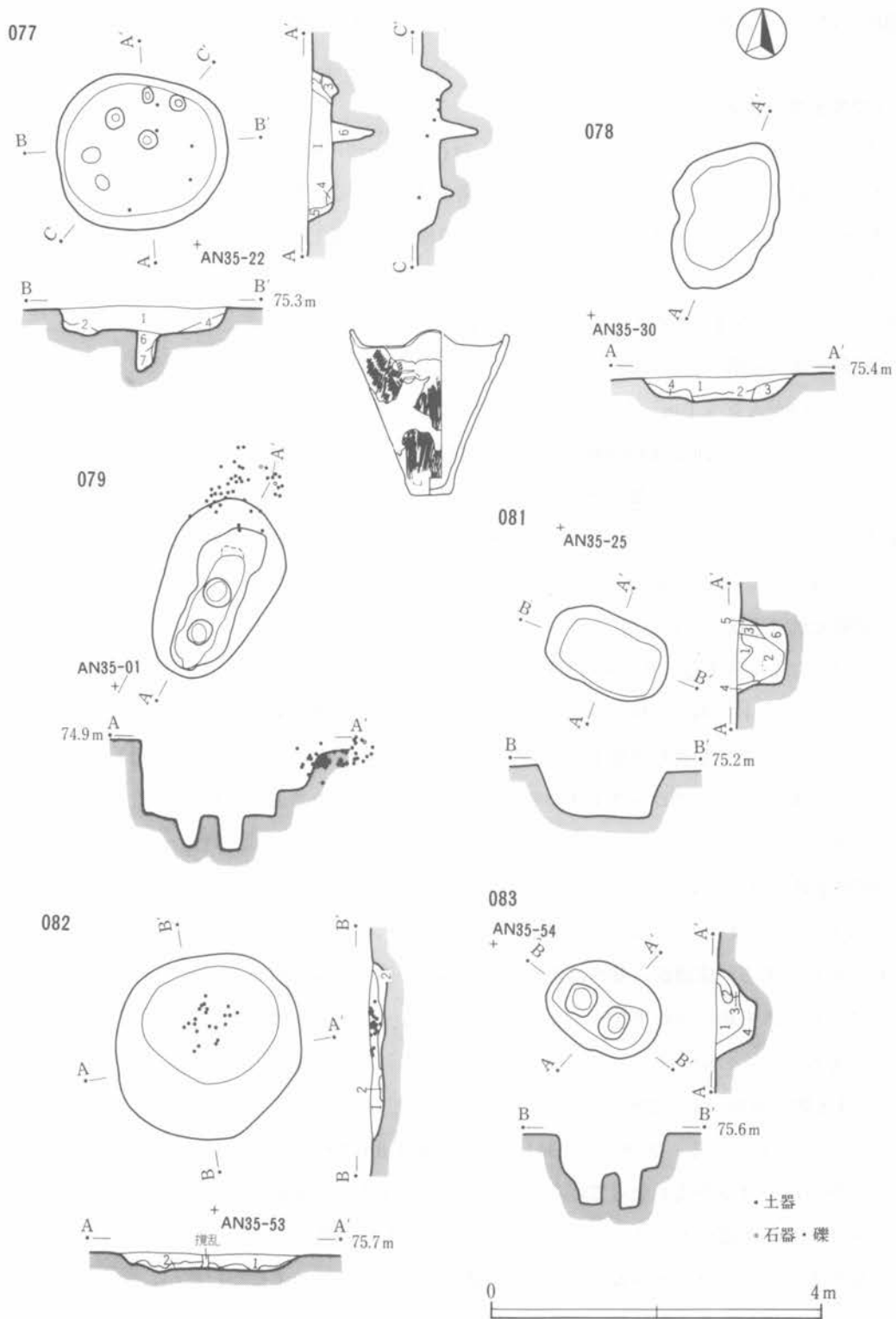
A N35-30から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.94m、短軸1.31mの楕円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは31cmある。覆土は1. ローム小ブロックをやや含む黒褐色土。2. ロームを含む暗褐色土。3. 砂質の明褐色土。4. 砂質の明褐色土である。遺物はみられないしやや形態が不整であるが縄文時代の貯蔵穴のような用途が考えられる土坑であろう。

079号土坑（遺構 第171図）

A N35-01から東へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長軸2.22m、短軸1.37mの楕円形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットで中軸に沿って径30cm前後の小ピットを2個検出している。検出面からの深さは89cmで小ピット最深部までの深さは1.33mである。覆土は調査時の記録が無いため不明だが形態的に見て縄文時代の陥穴状遺構になるものと思われる。調査時に遺物が遺構の北側上部から多量に出土しているがいずれも縄文時代の中期の小破片である。位置的にみてこの遺構と直接関係あるものではない可能性が強い。

081号土坑（遺構 第171図）

A N35-25から南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.52m、短辺0.93mの隅丸長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは60cmある。覆土は1. 砂質で脆い暗褐色土。2. ローム小ブロックを含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む茶褐色土。4. ローム粒



第171図 大野第9遺跡縄文時代土坑(12)(1/80)

を多く含む茶褐色土。5. ローム粒を含む暗褐色土。6. 黒褐色土を含む茶褐色土である。形態的にはピットの無い陥穴状遺構か墓塚のような用途を持つ遺構と考えられる。遺物の検出はない。

082号土坑（遺構 第171図）

A N35-53から北へ1 mに位置する。プランは径2.22mの円形を呈する。床面はやや凹凸が見られ壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは19cmある。覆土は1. 砂質でロームを含む暗褐色土。2. ローム主体の明褐色土である。遺構中程の覆土下より縄文時代中期の土器破片が多く出土している。いずれも図示できるものではない。貯蔵穴のような用途の考えられる遺構ではあるがやや浅くやや大きいかとも思われる。

083号土坑（遺構 第171図）

A N35-64から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.42m、短軸1 mのやや不整な楕円形を呈する。床面には40cm前後の規模の方形のピットが2個並んで検出されている。検出面からの深さは88cmある。覆土は1. 黒色土。2. ロームを含む黒色土。3. 黒色土を含む明褐色土。4. 黒色土・ローム小ブロックを斑に含む茶褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

084号土坑（遺構 第172図）

A N35-52に位置する。プランは長軸2.22m、短軸0.68mのやや不整な長楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは1.23mある。覆土は1. 茶褐色土を斑に含みローム小ブロックを少し含む黒色土。2. 黒色土を斑に含みロームブロックを多く含む茶褐色土。3. ローム粒・ロームブロック主体の明褐色土。4. 暗褐色土である。形態的にはピットを持たない陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

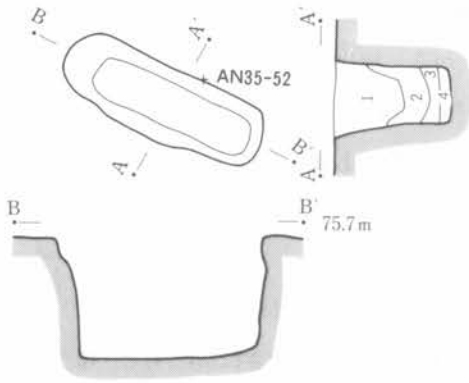
085号土坑（遺構 第172図）

A N35-55から東へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長軸1.55m、短軸0.8mのやや不整な楕円形を呈する。床面から壁へは緩やかに傾斜している。検出面からの深さは26cmある。覆土は1. ロームを斑に含む黒色土。2. 暗褐色土。3. ローム主体の明褐色土である。やや不整な形態から特定の用途を持っていた遺構とは考えられない。遺物の検出もない。

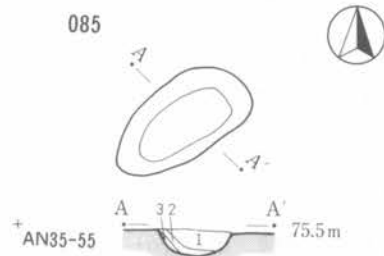
086号土坑（遺構 第172図）

A N35-73に位置する。プランは長軸1.06m、短軸0.8mの楕円形を呈する。床面は中央部分が深く周辺部分はやや浅くなっている。検出面からの深さは32cmある。覆土は1. ソフトロームを主体とした明褐色土。2. ハードロームを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む黄褐色土である。やや不整な形態から特定の用途を持っていた遺構とは考えられない。遺物の検出もない。

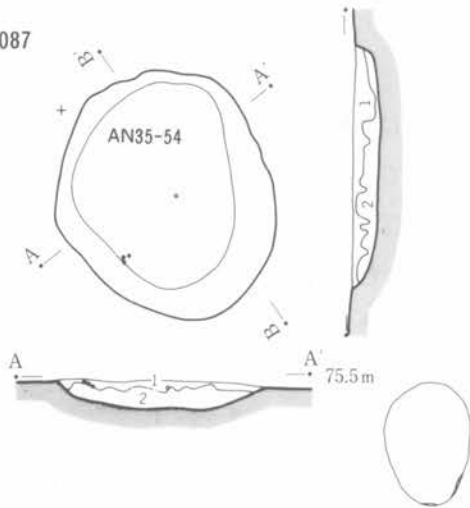
084



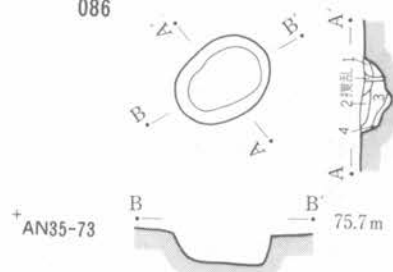
085



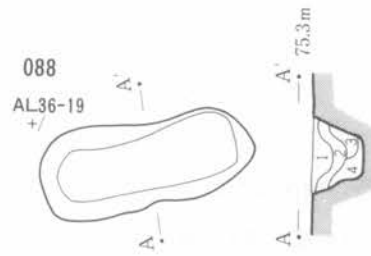
087



086

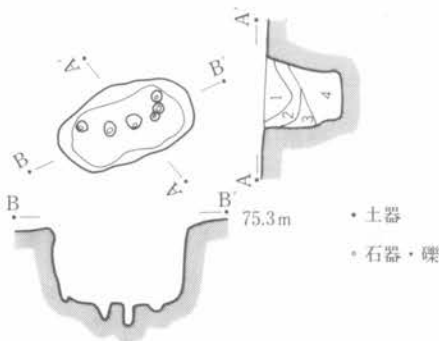


088



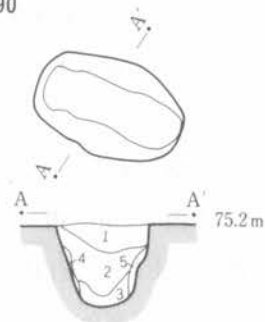
089

+ AL36-18



+ AL36-18

090



第172図 大野第9遺跡縄文時代土坑(13)(1/80)

087号土坑 (遺構 第172図)

A N35-54から東へ1 mに位置する。プランは長軸2.61m、短軸2.26mのやや不整な楕円形を呈する。床面はほぼフラットで壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは26cmある。覆土は1. 砂質でロームを含む黒褐色土。2. ローム主体の明褐色土である。082号土坑と良く似た形態をしており同様な用途を持っていたと考えられる。覆土上層より縄文時代中期の土器破片が3点出土している。

088号土坑 (遺構 第172図)

A L36-19から東へ1 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸2.24m、短軸0.78mのやや不整な長楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは57cmある。覆土は1. 砂質の黒褐色土。2. 砂質でロームをやや含む暗褐色土。3. 粘質でロームをやや含む褐色土。4. 粘質でロームを多く含む明褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われるがやや浅く他の用途を持った土坑である可能性もある。遺物の検出はない。

089号土坑 (遺構 第172図)

A L36-18から東へ2 m、南へ2 mに位置する。プランは長軸1.44m、短軸0.79mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで小ピットが6個検出されている。検出面からの深さは78cmでピットの最深部までの深さは1.04mである。覆土は1. 砂質で締まりがない黒色土。2. ローム小ブロックを含む黒色土。3. ローム小ブロックをやや含む暗褐色土。4. ローム粒をやや含む黒褐色土である。形態的には底部に細かなピットを多く持つタイプの陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

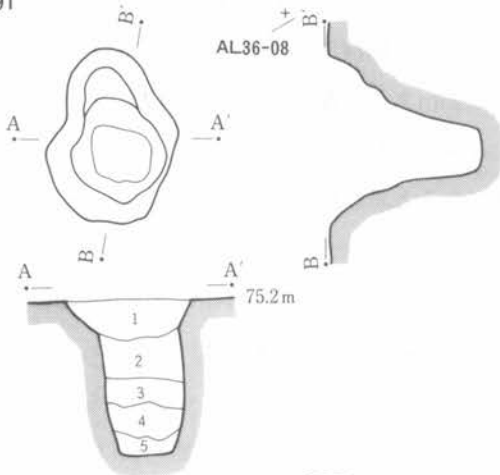
090号土坑 (遺構 第172図)

A L36-18から西へ1 m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸1.01mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは0.85mある。覆土は1. 砂質の褐色土。2. 斑にロームを含む黒褐色土。3. ロームを多く含む明褐色土。4. ロームが主体の黄褐色土。5. ロームが主体の黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

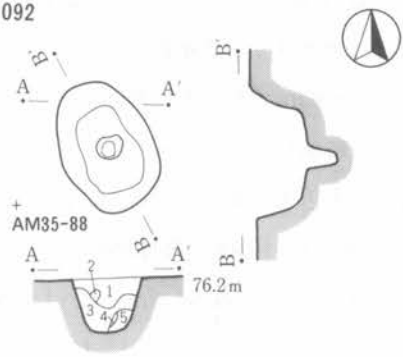
091号土坑 (遺構 第173図)

A L36-08から西へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは最大長1.84m、最大幅1.22mの楕円形に近い不整形を呈する。断面形から推測すると本来は径1.1m前後の円形に近い。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは1.62mある。覆土は1. ロームを斑に含む黒褐色土。2. ローム・黒褐色土を斑に含む褐色土。3. ロームが主体の明褐色土。4. グロゴロとした明褐色土。5. 粘質の強い暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

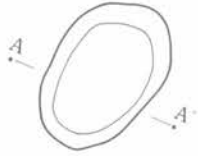
091



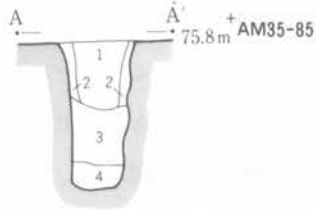
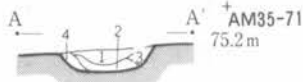
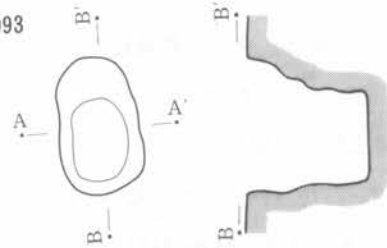
092



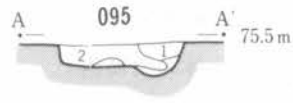
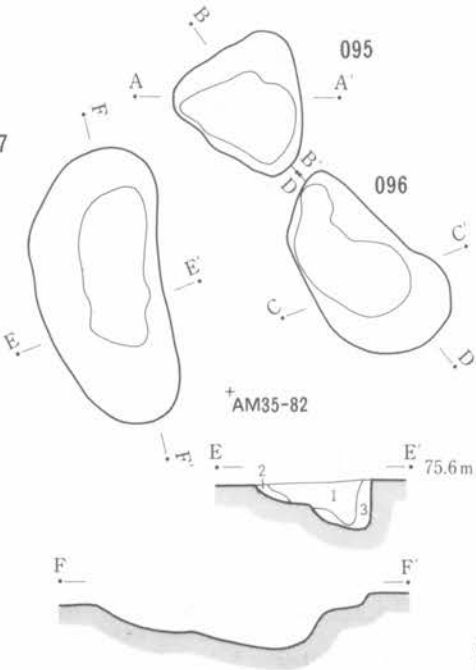
094



093



097



第173図 大野第9遺跡縄文時代土坑(14)(1/80)

092号土坑（遺構 第173図）

AM35-88から東へ1 mに位置する。プランは長軸1.39m、短軸0.96mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで中程に径22cmの円形のピットを1個検出している。検出面から床面までの深さは0.60mでピットの最深部までの深さは0.93mある。覆土は1. やや粘性強くややロームを含む暗褐色土。2. 攪乱土。3. 暗褐色土を斑に含む明褐色土。4. 攪乱土。5. 砂質で軟質の暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

093号土坑（遺構 第173図）

AM35-85から西へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.44m、短軸0.83mのやや不整な楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは1.53mある。覆土は1. 粘性がやや強くソフトロームをやや含む黒褐色土。2. 砂質でソフトロームを含む褐色土。3. ローム小ブロックを含む茶褐色土。4. 粘性の強い灰褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

094号土坑（遺構 第173図）

AM35-71から西へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長軸1.69m、短軸1.09mのやや不整な楕円形を呈する。床面はほぼフラットで壁はやや緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは23cmある。覆土は1. 砂質の黒褐色土。2. ローム主体で黒褐色土が斑に含まれる明褐色土。3. ロームを含む褐色土。4. ロームをやや含む暗褐色土である。形態的にやや不整であるが貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。遺物の検出はない。

095号土坑（遺構 第173図）

AM35-82から北へ3 mに位置する。プランは最大長1.44mのややお結び形にちかい不整形を呈する。床面はやや東側が窪むもの他はほぼフラットである。検出面からの深さは34cmある。覆土は1. ローム主体の明褐色土。2. ロームをやや含む暗褐色土。3. ゴロゴロしたロームブロックを含む明褐色土。4. ロームをやや含む褐色土である。形態的に不整で特定の用途は考えられない土坑である。遺物の検出はない。

096号土坑（遺構 第173図）

AM35-82から北へ1 mに位置する。プランは最大長2.08m、最大幅1.22mの楕円に近い不整形を呈する。床面は北側へやや低く傾斜している。検出面からの深さは34cmある。覆土は1. ロームを斑に含む黒褐色土。2. ロームを斑に含む暗褐色土である。形態的に不整で特定の用途は考えられない土坑である。遺物の検出はない。

097号土坑（遺構 第173図）

AM35-82から西へ1 mに位置する。プランは最大長2.88m、最大幅1.33mの楕円形に近い不整形を呈する。床面は南東側に深く傾斜しておりあまりフラットとは言えない。検出面からの

深さは0.51mある。覆土は1. ロームを点々と含む黒褐色土。2. ローム主体の明褐色土。3. 黒褐色土をやや含む明褐色土である。形態的に不整で特定の用途は考えられない土坑である。遺物の検出はない。

098号土坑（遺構 第174図）

AM36-13から西へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸2.06m、短軸1.28mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで壁はやや西側が緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは25cmある。覆土は1. ロームを斑に含む明褐色土。2. 砂質でややロームを含む褐色土。3. ロームを多く含む褐色土。4. ローム主体の明褐色土である。形態的には貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。遺物の検出はない。

099号土坑（遺構 第174図）

AL36-47から西へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.4m、短軸0.87mの楕円形を呈する。床面はフラットで中央部に小ピットを1個検出している。検出面からの深さは46cmでピットの最深部までの深さは0.74mある。覆土は1. 砂質でややロームを含む暗褐色土。2. ロームをやや含む褐色土。3. ローム主体の明褐色土。4. ロームを斑に含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

101号土坑（遺構 第174図）

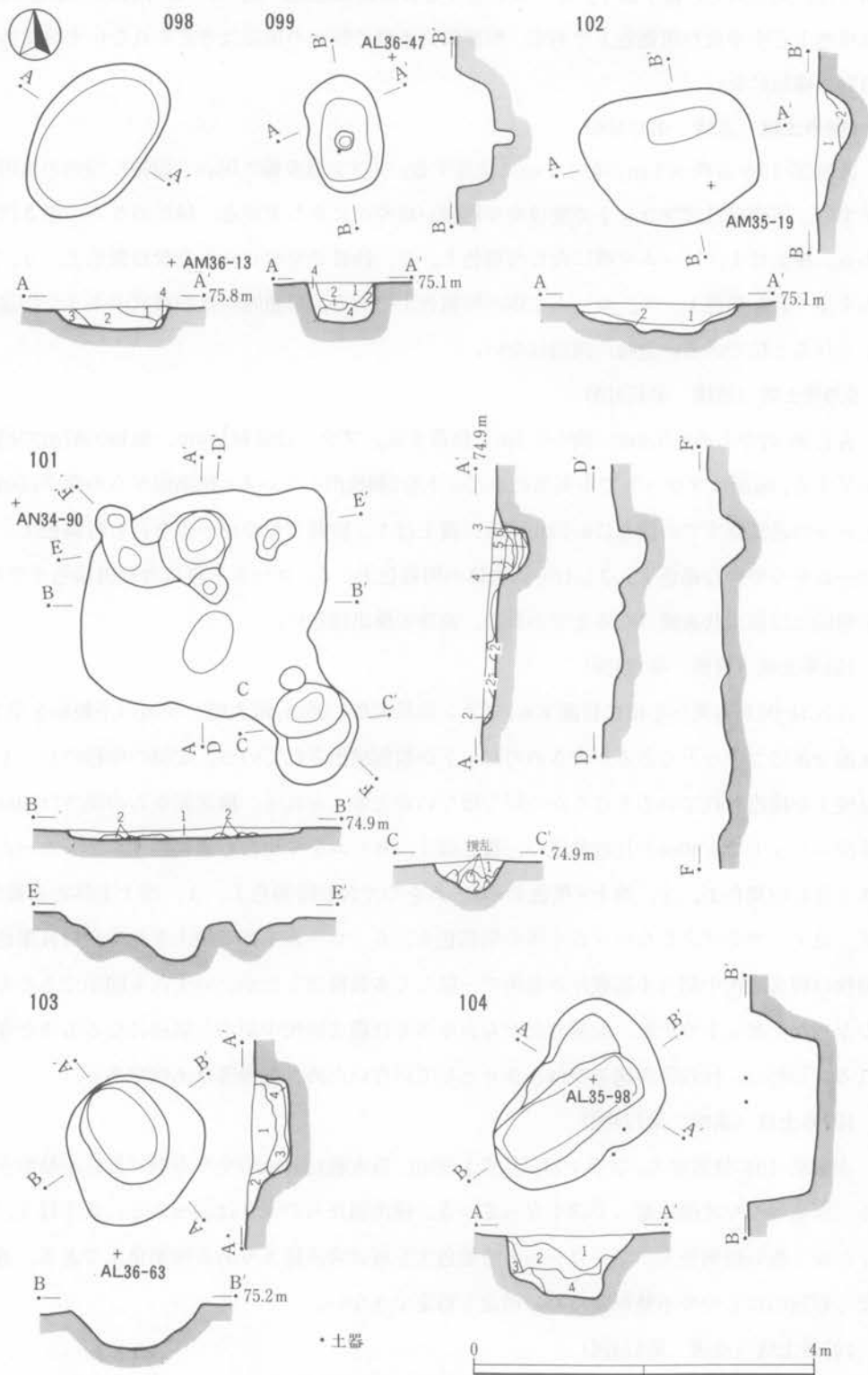
AN34-90から東へ1mに位置する。プランは最大長4.06m、最大幅3.36mの不整形を呈する。床面全体はフラットであるが大きめのピットが数個検出されている。北側の中程のピットからは焼土が検出されているところから炉ではないかと考えられる。検出面からの深さは10cmで一番深いピットでも40cmと比較的浅い。覆土は1. ロームをやや含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む明褐色土。3. 焼土・黒色土・ロームをやや含む暗褐色土。4. 焼土主体の赤褐色土。5. 焼土・ザクザクしたローム主体の明褐色土。6. ローム主体で焼土をやや含む黄褐色土。遺物は縄文時代中期の土器破片が北側で一括して多数検出したが、いずれも図示できるものはなかった。ピットや炉跡の配置状況からおそらくは縄文時代中期の住居跡になるものと考えられる。ただし、柱穴等の構造がはっきりとしていないため、規模等は不明である。

102号土坑（遺構 第174図）

AM35-19に位置する。プランは最大長1.96m、最大幅1.54mのやや方形に近い不整形を呈する。床面はやや北側に偏って深くなっている。検出面からの深さは39cmある。覆土は1. 締まりがなく脆い暗褐色土。2. ローム・暗褐色土を斑に含み締まりある明褐色土である。遺物もなく形態的にもやや不整形のための用途を特定できない。

103号土坑（遺構 第174図）

AL36-63から北へ1mに位置する。プランは径1.63m前後のやや円形に近い不整形を呈する。



第174図 大野第9遺跡縄文時代土坑(15)(1/80)

床面は北側は楕円形の掘り込みがしっかりしていて北側壁は急激に立ち上がり、その他の壁では比較的緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは44cmある。覆土は1. ロームをやや含む褐色土。2. ロームを斑に含む暗褐色土。3. ローム主体の明褐色土。4. ローム主体で暗褐色土を含む明褐色土である。覆土中から縄文時代中期の土器破片が2点出土している。形態的には陥穴状になるかと思われるのだが、他のものと比較して浅いことがやや疑問である。

104号土坑（遺構 第174図）

A L35-98に位置する。プランは最大長2.22m、最大幅1.61mの不整形だが元々は長辺1.35m以上、短辺0.73m以上のほぼ方形のプランを呈すると思われる。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは0.82mある。覆土は1. 粘質の黒褐色土。2. ロームを斑に含む褐色土。3.

ロームをやや含む暗褐色土。4. ロームをやや含む暗褐色土。5. ローム主体の明褐色土である。覆土から縄文時代中期の土器片が少量検出されている。形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

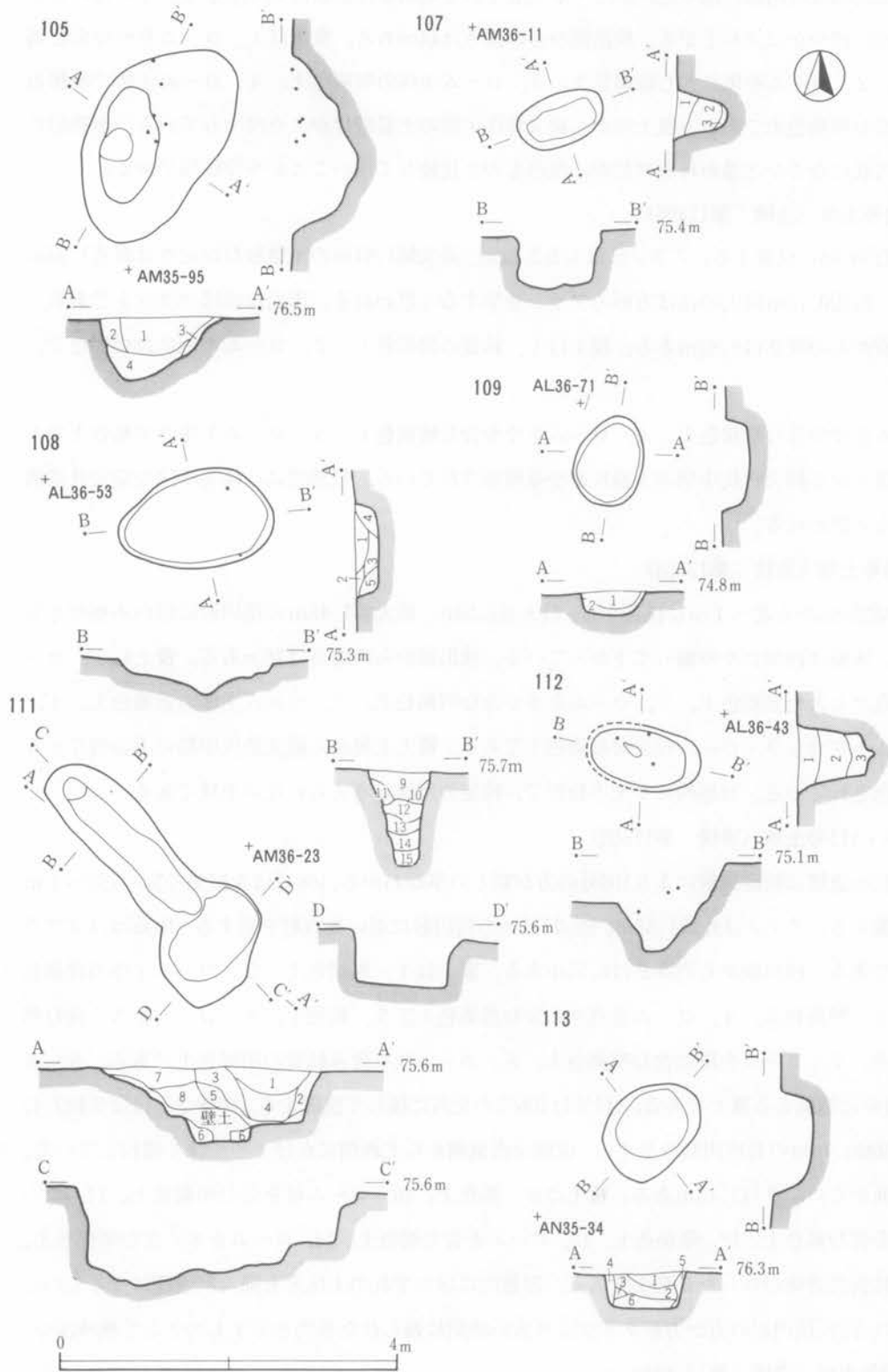
105号土坑（遺構 第175図）

AM35-95から北へ1mに位置する。最大長2.54m、最大幅1.48mの楕円形に近い不整形を呈する。床面は西側にやや偏って下がっている。検出面からの深さは78cmある。覆土は1. ロームを点々と含む黒褐色土。2. ロームを多く含む明褐色土。3. ローム主体の黄褐色土。4. ローム小ブロック・ローム粒を含む褐色土である。覆土上層から縄文時代中期の土器破片が6点検出されている。形態的にやや不整形で、特定の用途が考えられない土坑である。

106・111号土坑（遺構 第175図）

上記の遺構は断面観察により106号の方が新しい事がわかる。106号はAM36-23から南へ1mに位置する。プランは長辺1.37m、短辺1.1mの楕円形に近い長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは0.56mある。覆土は1. 黒褐色土。2. ローム主体の黄褐色土。3. 明褐色土。4. ロームを点々と含む黒褐色土。5. 褐色土。6. ロームを多く含む明褐色土。7. ロームを斑に含む明褐色土。8. ローム粒を含み軟質の明褐色土である。6～8は111号に関係ある覆土である。111号は106号の北西に接して位置する。プランはほぼ長軸2.42m、短軸0.76mの長楕円形を呈する。床面は南東側から北西側にかけてやや深く傾斜している。検出面からの深さは1.15mある。覆土は9. 褐色土。10. ローム粒を含む明褐色土。11. ローム粒を含む褐色土。12. 暗褐色土。13. ロームを含む褐色土。14. ロームを多く含む明褐色土。15. 粘質で青味がかかった褐色土である。形態的にはいずれの土坑とも陥穴状遺構になるものと思われる。長楕円形の方が方形タイプより古い時期に掘られた事例を示すものとして興味深い。

107号土坑（遺構 第175図）



第175図 大野第9遺跡縄文時代土坑(16)(1/80)

AM36-11から南へ1 m、東へ1 mに位置する。プランは長軸1.08m、短軸0.58mの楕円形を呈する。床面はやや凹凸がある。検出面からの深さは0.85mある。覆土は1. 黒褐色土を縞状に含みロームをやや含む茶褐色土。2. ローム小ブロックを点々と含む黒褐色土。3. ローム粒を含む暗褐色土である。規模がやや小さく若干の疑問も残るが縄文時代の陥穴状遺構と考えるとよさそうである。遺物の検出はない。

108号土坑（遺構 第175図）

AL36-53から東へ2 mに位置する。プランは長軸1.87m、短軸1.07mのやや椰子の実形に近い楕円形を呈する。床面はやや中央部が窪んだ形をしている。検出面からの深さは38cmある。覆土は1. 粘質でロームを点々と含む暗褐色土。2. ロームを多く含む褐色土。3. ロームを斑に含む暗褐色土。4. ローム主体の明褐色土。5. ロームを点々と含む褐色土である。遺物もなく形態もやや不整形のため特定の用途が考えられない土坑である。

109号土坑（遺構 第175図）

AL36-71から南へ0.5mに位置する。プラン長軸1.05m、短軸1.01mのやや南側の膨らんだ楕円形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは26cmある。覆土は1. 黒色土をやや含む茶褐色土。2. ロームを多く含み黒色土をやや含む茶褐色土である。遺物は見られないが形態的には貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

112号土坑（遺構 第175図）

AL36-43から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.36m、短軸0.74mの楕円形を呈する。壁は東西方向では比較的緩やかに立ち上がり南北方向では急激に立ち上がる。床面にはやや不整形な小ピットが1個検出されている。覆土は1. 茶褐色土。2. ロームブロック・黒色土を含む茶褐色土。3. ロームブロックを多く含む明褐色土である。遺物はみられないが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

113号土坑（遺構 第175図）

AN35-34から東へ1.5m、北へ1 mに位置する。プランは長軸1.27m、短軸0.94mの楕円形に近い形を呈する。床面はほぼフラットで壁は比較的急に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを僅かに含む暗褐色土。2. 小ハードロームブロックを水玉状に含む暗褐色土。3. ソフトロームを均一に含む暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む褐色土。5. ソフトロームを多く含む明褐色土である。遺物はみられないが、形態的には貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1)土器（第177～178図9～61）

本調査時に調査区全域から縄文時代早期の土器片が少量と中期の土器片が多量に検出されて

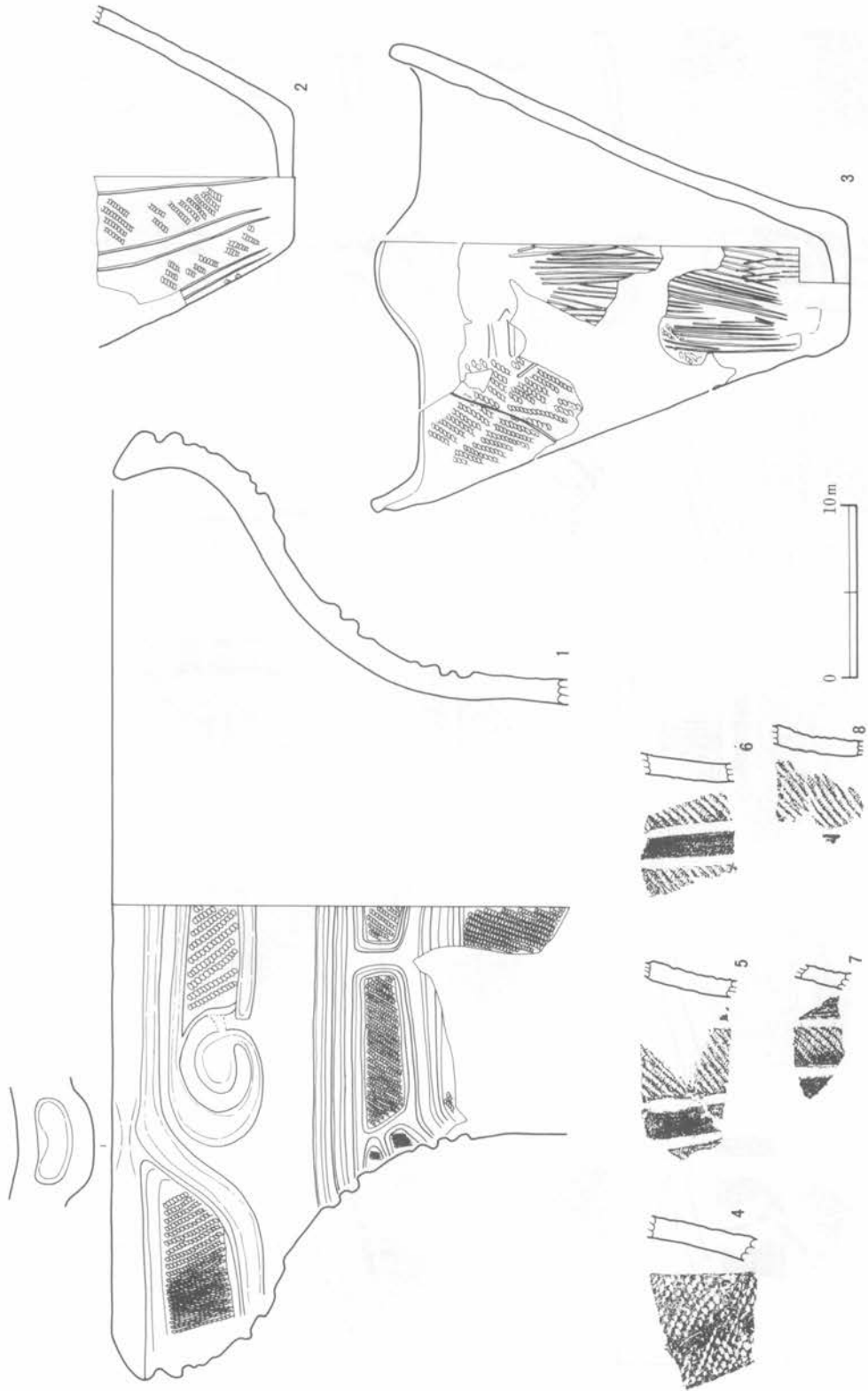
いる。9～11は早期後半の土器片である。胎土に繊維を含み土器表裏面に条痕文が施してある。鶴ヶ島台系の土器片である。図示したもの以外はほとんどみられなかった。12～13は中期の阿玉台式の土器片である。胎土に雲母片を含み縄文を施した波形の粘土紐を張り付けたり角押し文を施すのが特徴である。14～61までは中期の加曾利E式の土器片である。住居跡出土のものも含めてこの時期の土器片が大半を占める。単節縄文を地文に配して太めの沈線で区画したものが多く、18のように押形文を施したものや34のように櫛目状の沈線を施したものもみられる。

(2)石器 (第179～181図1～16)

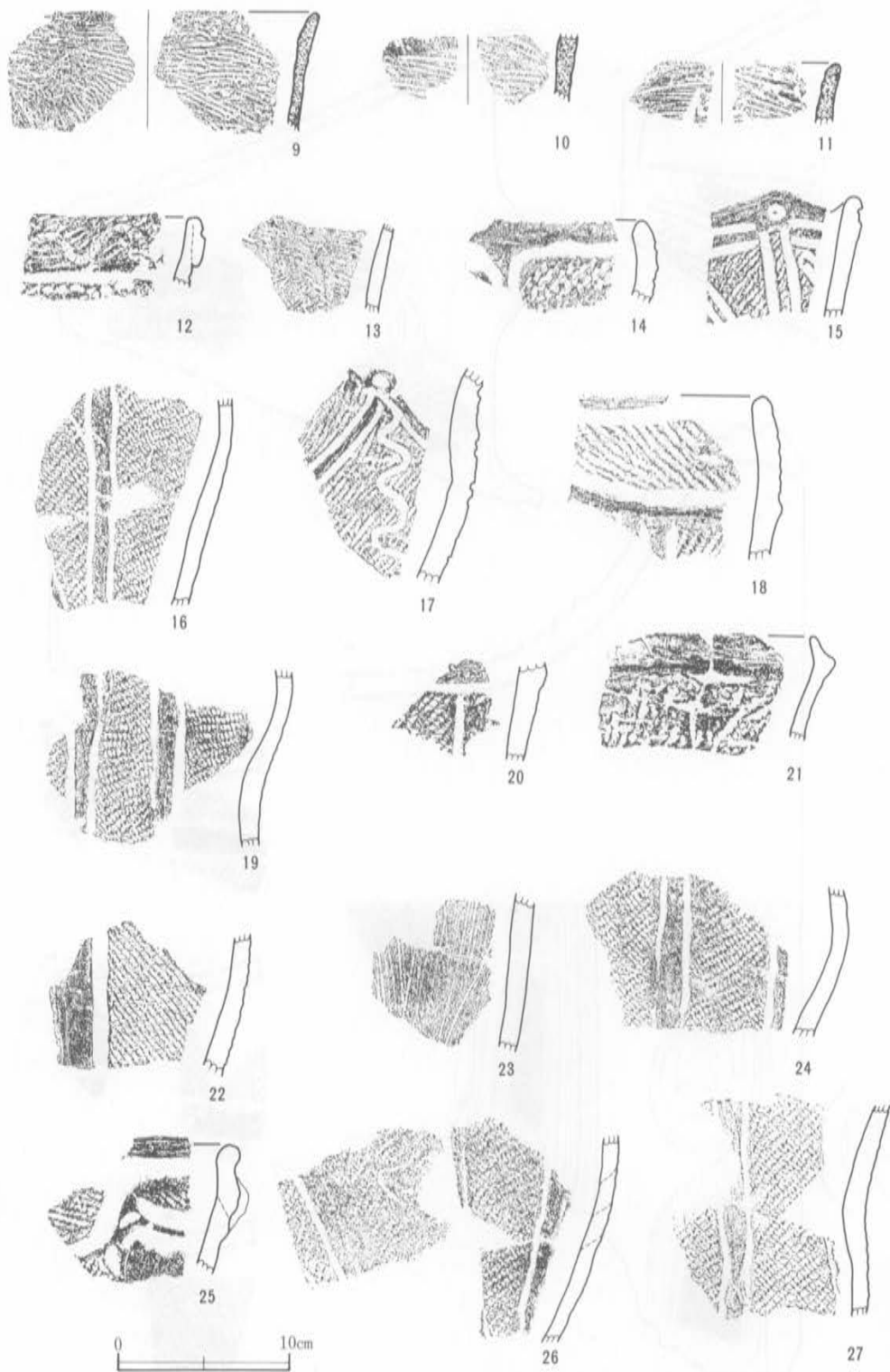
1は粒の細かい砂岩製の叩き石である。偏平な小礫の右側辺を中心に打痕がみられほとんど潰れた様になっている。2はやや粒の荒い安山岩製の磨石である。偏平な小礫を利用して周辺部は打痕で潰れており表裏両面とも磨かれている。3は粒の細かい砂岩製の叩き石である。ほぼ全面に打痕がみられるのが特徴である。4は花崗岩製の打製石斧である。片面は半分程礫面を残しているが細かな加工が全体に及ぶ。刃部には使用時のものと思われる磨痕がみられる。短冊形をしている。5は070号土坑の覆土から出土した磨石転用の叩き石である。やや粒の荒い安山岩製の偏平な小礫で表裏面とも磨かれたのち側辺部の一部を打面に転用している。6は粒の細かな花崗岩製の叩き石である。小石の側辺の一部に打痕がみられる。7は080号住居跡の覆土から出土した軽石製石製品である。8は080号住居跡から出土した石鏃未製品である。チャート製であるが他に同様の石材の破片はみられない。9は珪質頁岩製の石鏃で周辺加工のみの調整で形を整えている。10は110号住居跡から出土した石鏃の脚部破片である。珪質頁岩製で両面とも細かな調整が施されている。

4. 小結

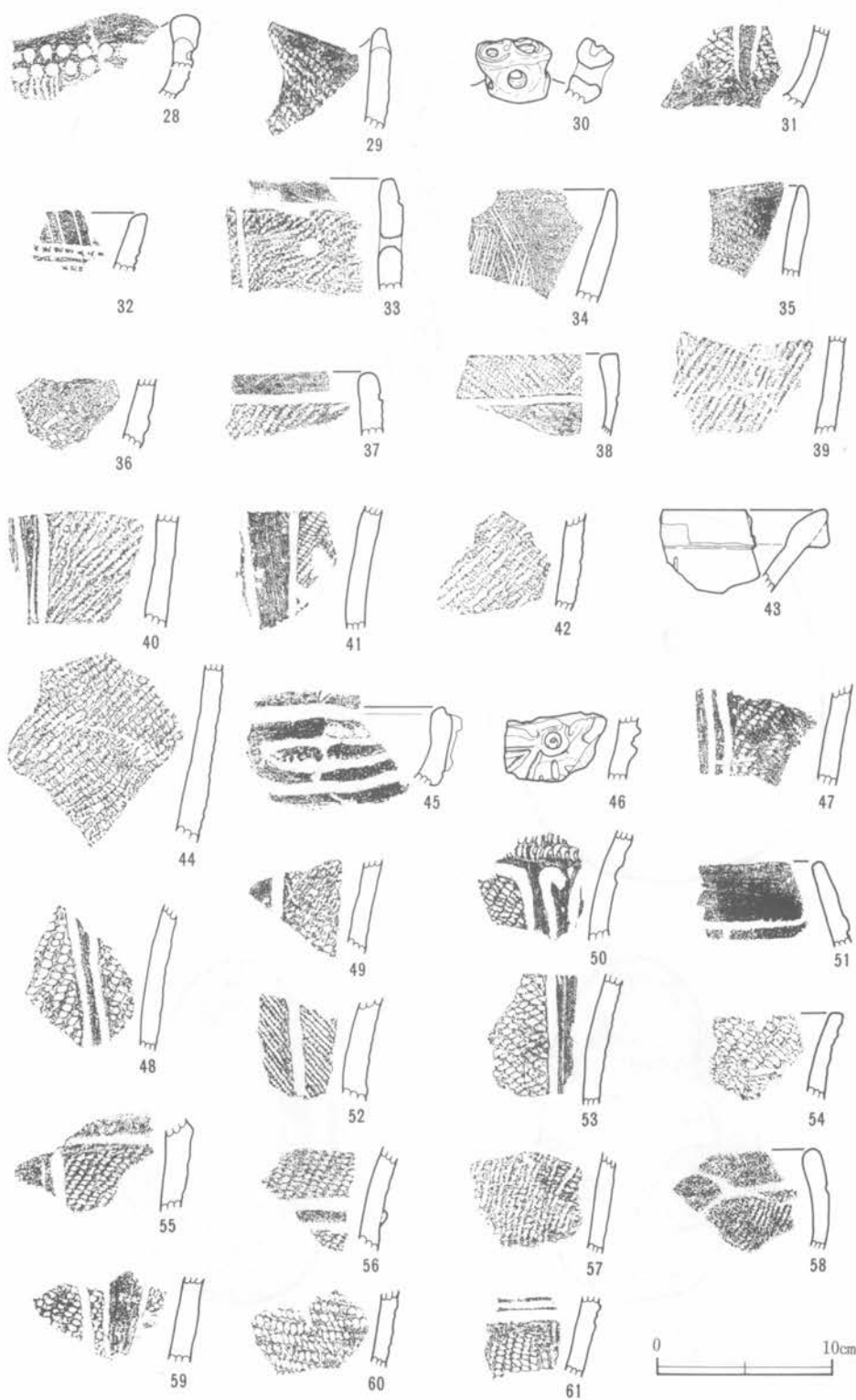
縄文時代の住居跡4軒と39基(形態的に認められるもの)の陥穴状遺構とが検出されている。住居跡は中期に限定される。他には貯蔵穴のような用途をもった土坑が多数検出されている。これらの遺構はほぼ同時期に形成されていたと思われる。陥穴状遺構は早期から前期あたりのものと中期のものに分けられる可能性がある。遺跡全体の性格としては縄文時代早期～前期にかけては狩猟場として機能し、中期の一時期にはこの場所は生活の場として機能していたことが考えられる。



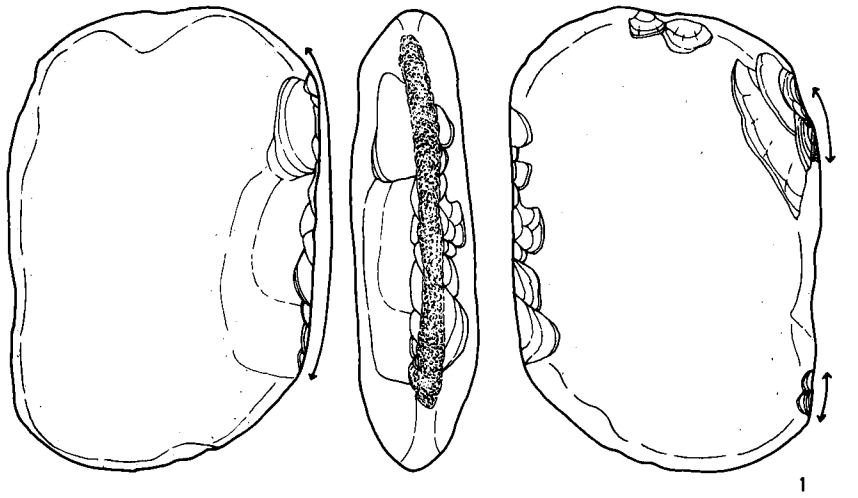
第176図 大野第9遺跡遺構内出土土器(1/4)



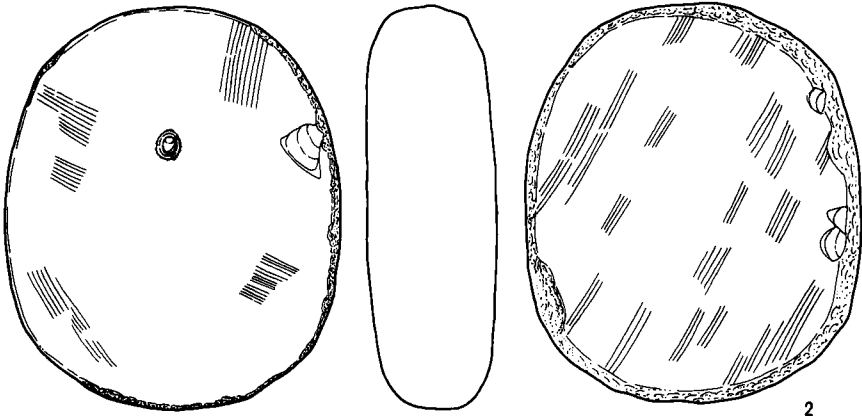
第177图 大野第9遺跡包含層出土土器(1)(1/4)



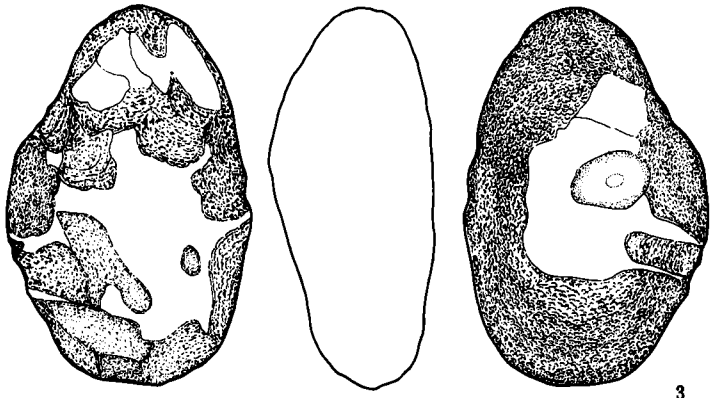
第178図 大野第9遺跡包含層出土土器(2)(1/4)



1



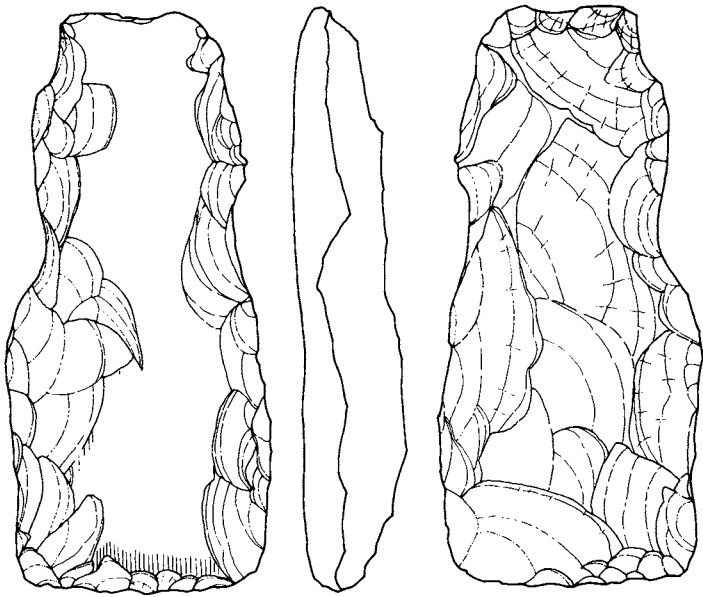
2



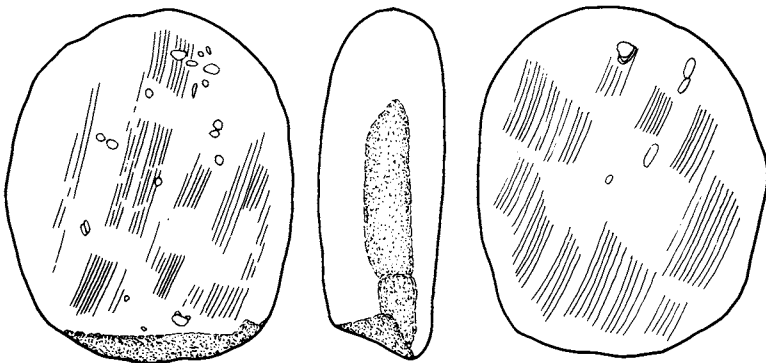
3



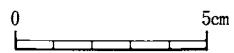
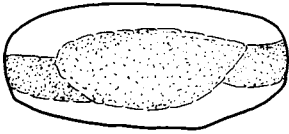
第179図 大野第9遺跡出土石器(1)(1/2)



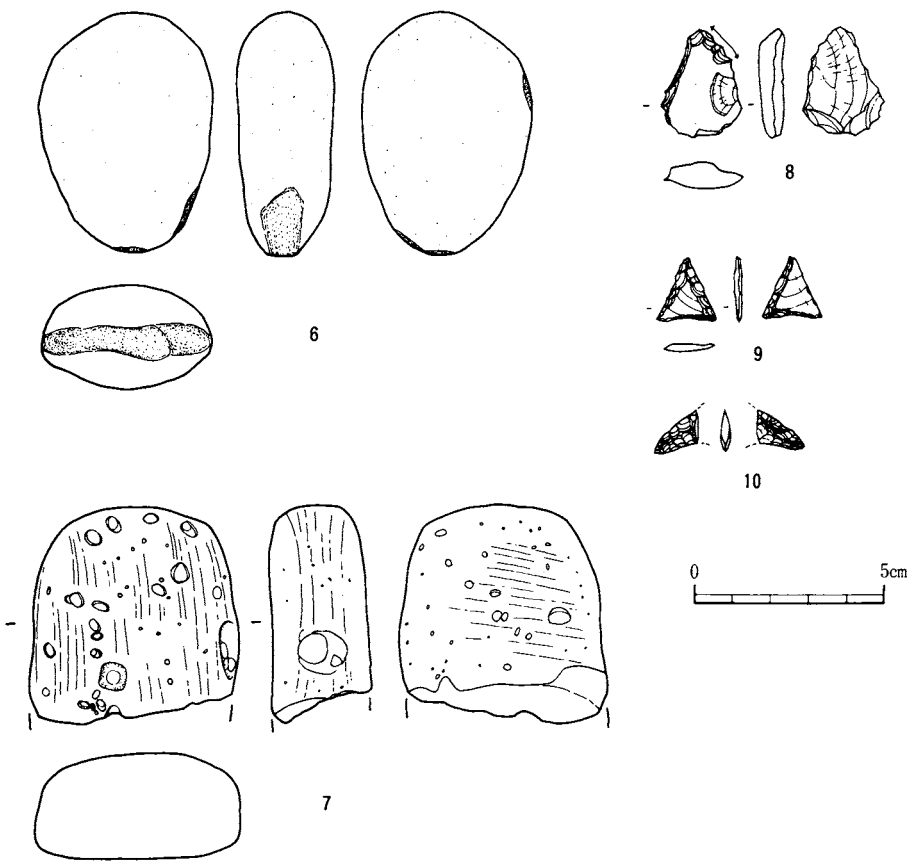
4



5



第180図 大野第9遺跡出土石器(2)(1/2)

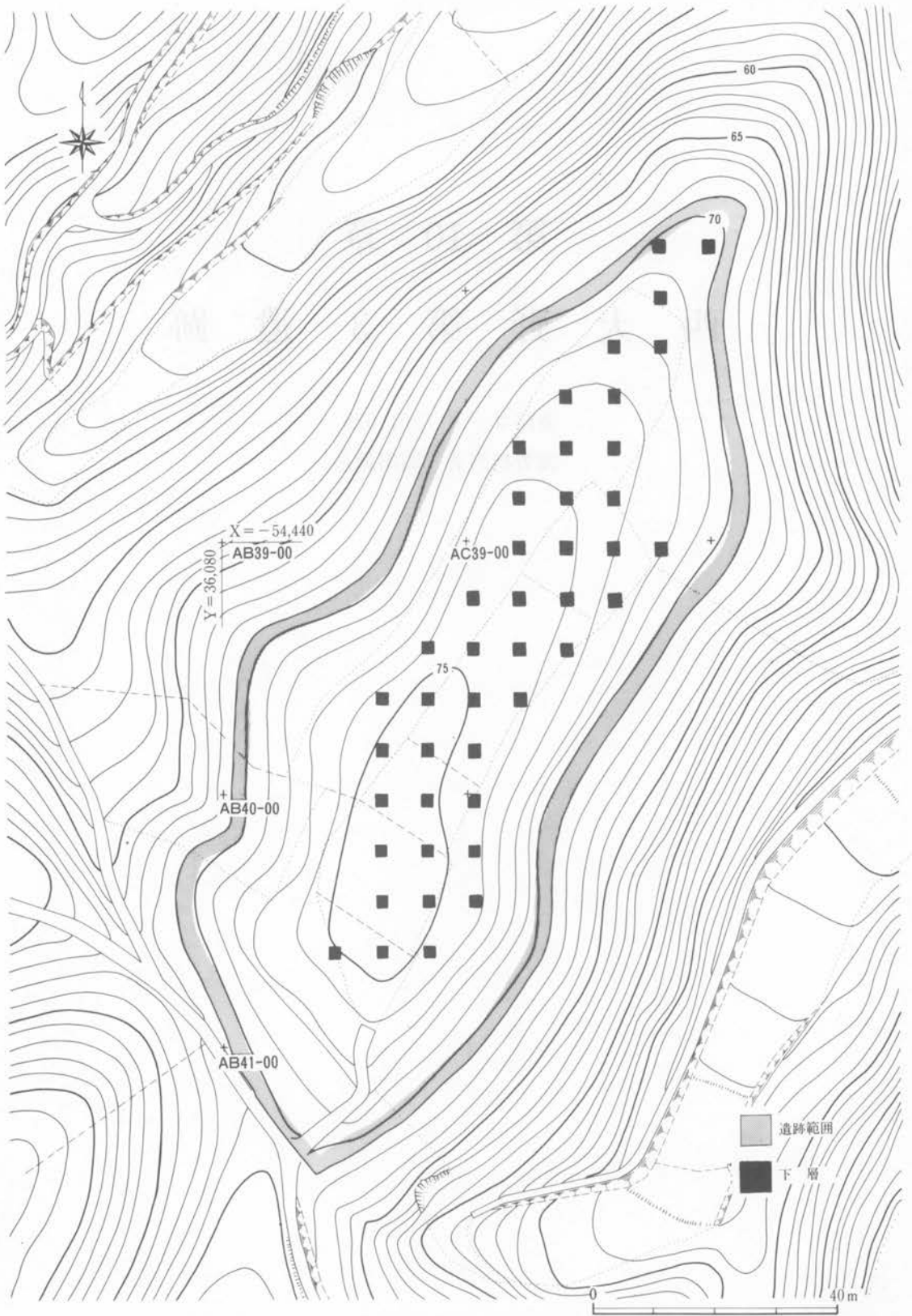


第181図 大野第9遺跡出土石器(3)(1/2)

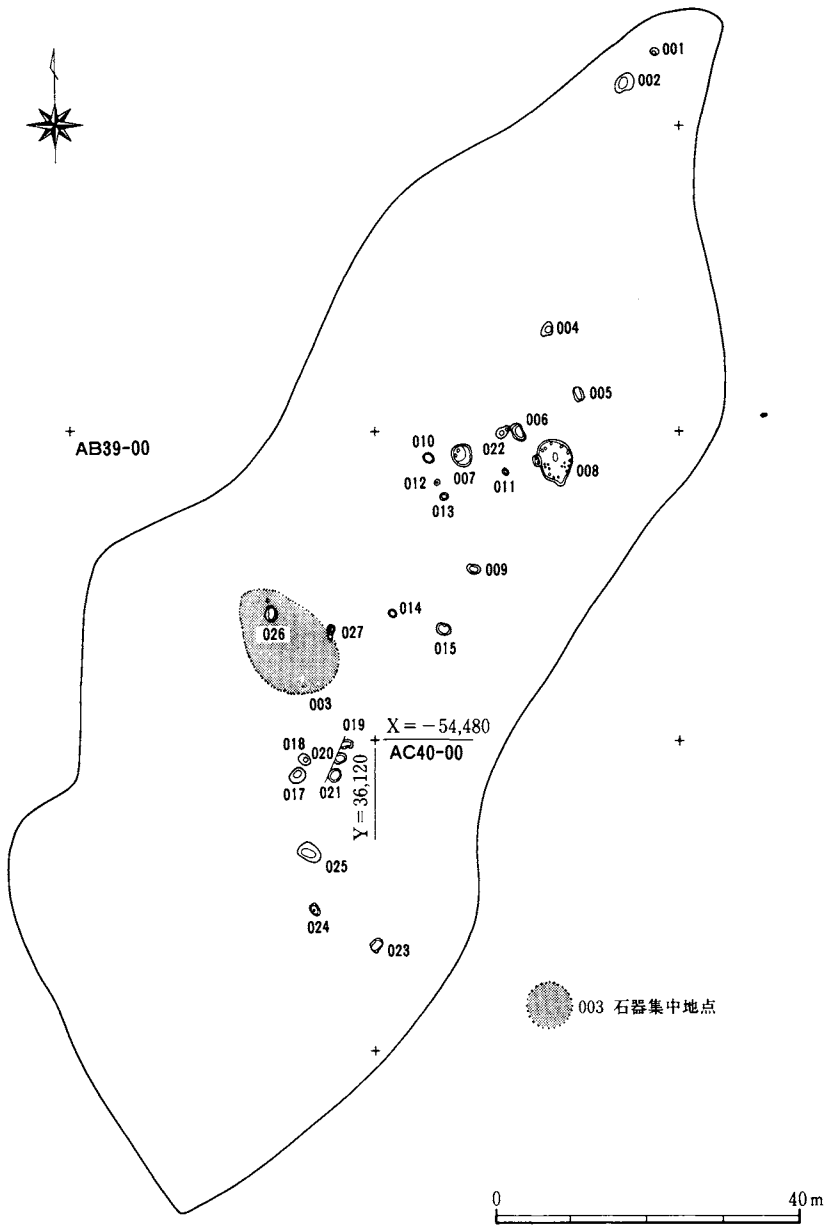
第 10 章
西 大 野 第 3 遺 跡

遺跡コード 201-075

調査担当者 岡田誠造



第182図 西大野第3遺跡確認調査グリッド配置図(1/1000)



第183図 西大野第3遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/1000)

第1節 縄文時代

1. 概要 (第182・183図)

試掘調査の結果、遺跡であることが確認され、上層の本調査4500㎡を調査したところ、中期を中心とした遺物包含層、住居跡1軒、縄文時代土坑25基が検出された。なお旧石器時代の調

査では遺構・遺物は検出されなかった。

2. 縄文時代の遺構について

(1)住居跡

008号住居跡（遺構 第184図 遺物 第189図2～7）

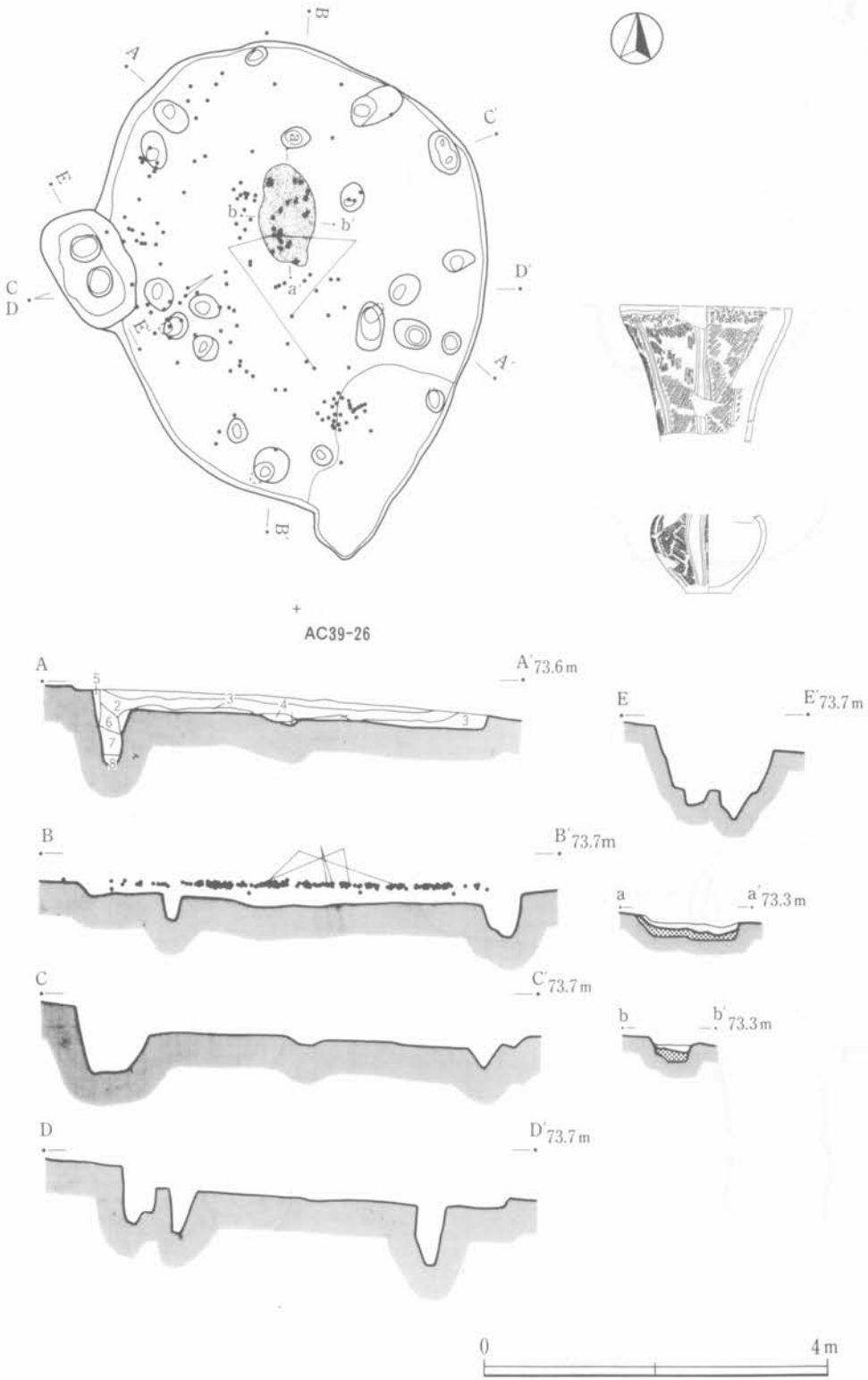
A C39-16に位置する。プランは東西4.6m、南北5.3mのやや楕円形を呈する。検出面からの深さは20cmである。壁の南側にやや拡張している部分がみられる。西側のやや拡張された部分は住居跡とは関係ない陥穴と思われる土坑と考えられる。検出時に住居跡の貼り床が認められたため住居跡より古い時期であることは確認されている。床面には壁際に沿って柱穴等のピットが並ぶ。中央よりやや北側に炉がみられる。覆土は1. 褐色土・ソフトロームをやや含み粗で軟質の暗褐色土。2. 褐色土・ソフトローム粒を含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む褐色土。4. 焼土。5. ソフトロームブロック主体の黄褐色土。6. ソフトローム粒を多く含み粗で軟質な褐色土。7. 粗で軟質な褐色土。8. ゴロゴロしたロームブロックを多く含む明褐色土である。炉の覆土は1. 焼土ブロックを多量に含む暗褐色土と炉床の焼けた層から構成される。遺物は炉の周りと南西部分に偏って土器破片が集中して検出された。2は浅鉢形土器の胴部～底部にかけて残った個体でLR縄文を地文に縦方向の沈線を配して文様帯を区画している。3は深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて残った個体で口縁部に棒状工具による円形のやや不規則な刺突文と沈線が一部にみられる。また胴部にかけてはRL縄文を地文にして縦方向の二本の沈線で文様帯を区画している。4～7はこの住居跡から検出された土器破片の主なものである。5が条線が施されている以外は縄文を地文に沈線で区画されたものである。遺物の時期から判断するとこの住居跡は縄文時代中期中葉以降に属すると考えられる。また貼り床下から検出された陥穴はそれ以前に使用されていたものと考えられるが、この遺跡では同じタイプのがみられない。

(2)土坑

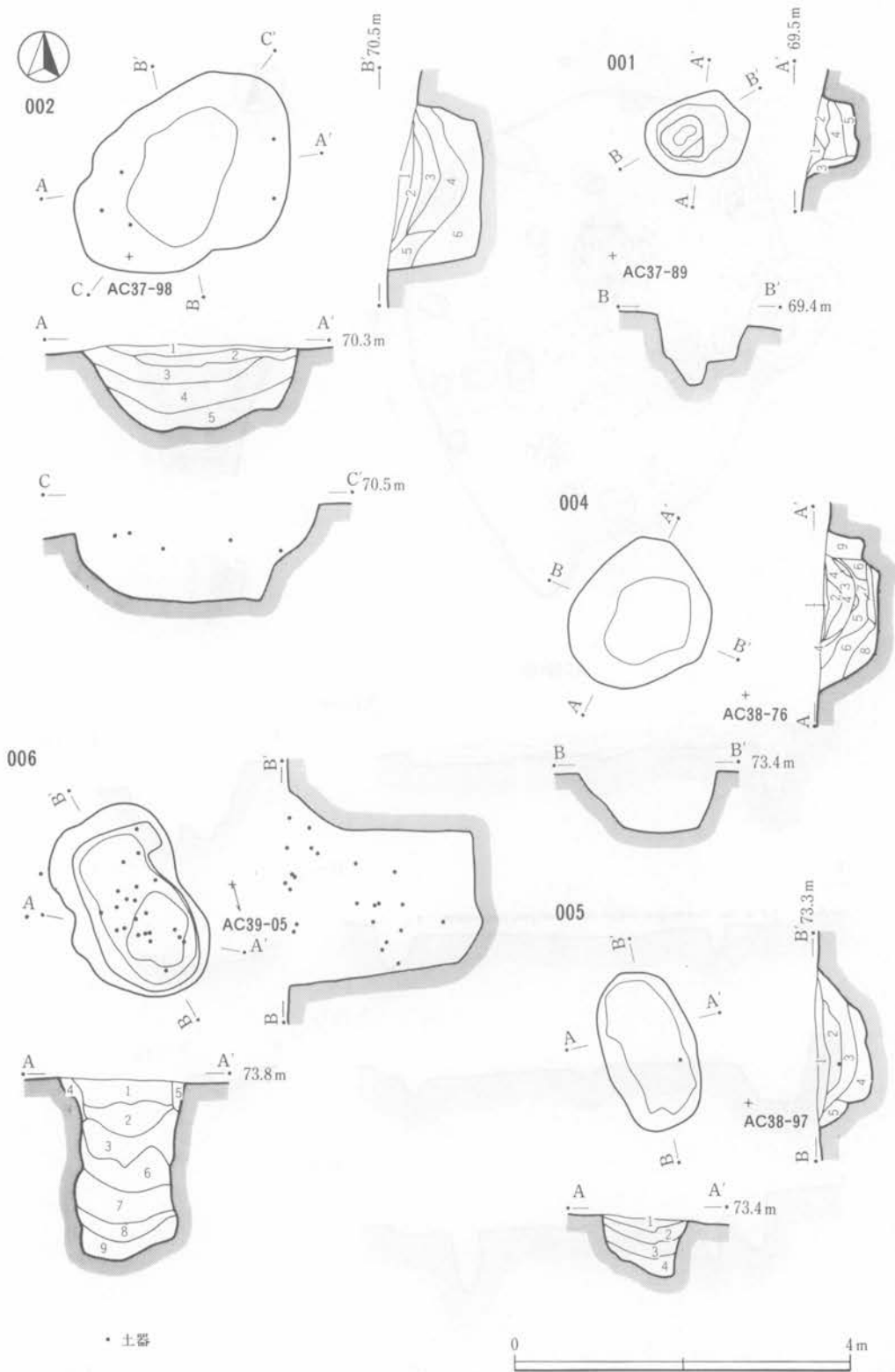
001号土坑（遺構 第185図）

A C37-89から北へ1m、東へ1mに位置する。プランは長軸1.27m、短軸0.96mのほぼ楕円形を呈する。検出面から床面までは0.55mあり床面には0.5m前後の深さ26cmのピットで西側で検出されている。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。2. ソフトロームを縞状に多く含む暗褐色土。3. ソフトロームを主体とする明褐色土。4. やや暗い色調でハードロームブロックを僅かに含む暗褐色土。5. 暗褐色土・ソフトローム・ハードロームブロック混じりの茶褐色土である。形態的に陥穴とは考えられず遺物等もみられないことから、特定の用途や詳細な時期の決定が困難な遺構である。

002号土坑（遺構 第185図）



第184图 西大野第3遺跡008号住居跡(1/80)



第185図 西大野第3遺跡縄文時代土坑(1)(1/80)

ほぼA C 37-98に位置する。プランは長軸2.98m、短軸2.14mの楕円形に近い形をしている。検出面から床面までは1.1mありやや南西側へ緩やかに傾斜している。覆土は1. ソフトローンを縞状に少し混入する黒褐色土。2. ソフトローンを縞状に多く含む茶褐色土。3. ソフトローンを縞状に含み炭化粒を少量混入する暗褐色土。4. ソフトローンを主体とする明褐色土。5. ハードローンブロックを主体としてソフトローンを混入する明褐色土。6. ソフトローンを主体とする黄褐色土である。時期的には縄文時代中期の土器片が数点遺構覆土内から検出されたためこの時期前後に使用された可能性が強い。用途は貯蔵穴や墓壇等が考えられる。

004号土坑（遺構 第185図）

A C 38-76から西へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.83m、短軸1.62mの楕円形に近い不整形を呈する。検出面からの深さは0.7mある。床面は比較的フラットで壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトローンを縞状に含む暗褐色土。2. ソフトローンを多く含む暗褐色土。3. ソフトローンを縞状に含む暗灰褐色土。4. ソフトローンからなる明褐色土。5. ソフトローンを縞状に含む暗褐色土。6. ソフトローンからなる明褐色土。7. ソフトローンを主体にハードローンブロックを含む明褐色土。8. ハードローンブロックを多く含む明褐色土。9. ソフトローンを混入する暗褐色土である。貯蔵穴のような機能が考えられる。しかし遺物等の検出がないため、詳細な時期や機能は不明である。

005号土坑（遺構 第185図）

A C 38-97から西へ1mに位置する。プランは長軸1.91m、短軸1.09mの楕円形を呈する。床面は東側に深く傾斜してフラットではない。検出面からの深さは最大68cmある。覆土は1. ソフトローンが混入した暗褐色土。2. ソフトローン粒を混入して炭化物を少し含む暗褐色土。3. ハードローンブロックを少し含む暗灰褐色土。4. ハードローンブロックを多く含む暗灰褐色土。5. ソフトローンを多く含む茶褐色土である。用途は貯蔵穴や墓壇等が考えられるが、詳細な時期や用途は不明である。

006号土坑（遺構 第185図）

A C 38-05から西へ1mに位置する。プランは長軸2.31m、短軸1.45mの楕円形に近い不整形を呈する。検出面からの深さは2.32mで床面は全体にフラットだが南側に皿状の窪みが見られる。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトローンを主体として黒褐色土を水玉状に含む明褐色土。2. ソフトローンを水玉状に含み締まりがなくボソボソとした暗褐色土。3. ソフトローンを水玉状に含み締まりがなくボソボソとしてやや暗色化した暗褐色土。4. ソフトローンからなる明褐色土。5. ソフトローンからなる明褐色土。6. 小ハードローンブロックを水玉状に含む灰褐色土。7. ソフトローン、小ハードローンブロックを多く含む茶褐色土である。覆土中から土器片が多量に出土している。いずれも縄文時代中期の土器片であることから使用

時期はそれ以前と限定できる。形態的には陥穴状遺構と考えられる。

007号土坑（遺構 第186図 遺物 第189図1）

A C 39-13に位置する。プランは長軸2.89m、短軸2.55mの楕円形に近い形を呈する。検出面からの深さは56cmで床面には50～60cm規模の円形のピットが2個検出されている。その北側のピットから土器が倒れた形で出土している。床面はややピットに向かって低く傾斜している。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含む黒褐色土。2. 炭化物を多く含む茶褐色土。3. 炭化物を含み一部に焼土粒を水玉状に含む茶褐色土。4. ソフトロームを多く含む明褐色土。5. ソフトロームを水玉状に含むやや明るい色調の茶褐色土である。遺物は縄文時代中期の加曽利E式の深鉢形土器が出土している以外に覆土中から多数の土器片が出土している。深鉢形土器は波状口縁で口唇部に刺突列点文を施している。R L縄文を地文にして口縁部は弧状の連続文で区画して胴部から底部にかけては二本の沈線文で横方向に区画している。

覆土中に炭化物が多くみられ一部焼土の堆積もみられることから焚火をした可能性が窺われる。土器も全体に二次焼成を受けているためボロボロである。形態的に埋甕をした小竪穴と呼ばれる土坑で時期は縄文時代中期のものである。

009号土坑（遺構 第186図 遺物 第190図8）

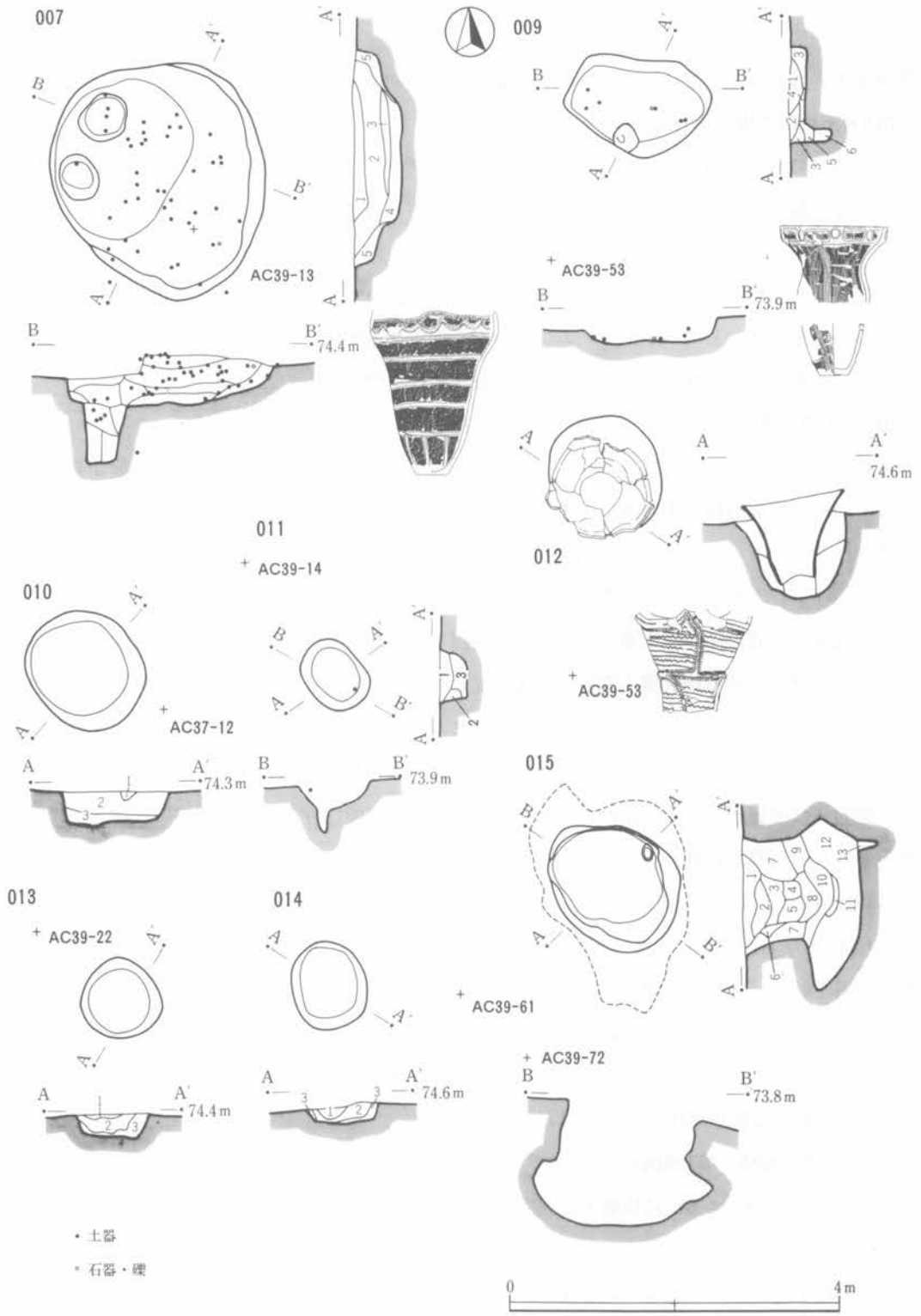
A C 39-53から北へ2 m、東へ2 mに位置する。プランは東西1.78m、南北1.2mのやや楕円形に近い不整形を呈する。南壁際に径20cm、深さ0.51mの小ピットが1個検出されている。検出面から床面までの深さは20cmである。覆土は1. ソフトローム粒を水玉状に含む焼土粒を僅かに含む茶褐色土。2. やや明るく小ハードロームブロック（5 mm）を水玉状に含む茶褐色土。3. 小ハードロームブロック（5 mm）を水玉状に含む茶褐色土。4. ソフトロームを均一に含む茶褐色土。5. ソフトロームを多く含む暗褐色土。6. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土である。

遺物は縄文時代中期の加曽利E式の深鉢形土器が、倒れて潰れた形で検出されている。口縁部は縄文を地文にして、粘土紐による凸帯とその内側に沈線による区画で文様帯を形成している。また胴部から底部にかけては縄文を地文にして縦方向の3本の沈線を配している。

形態的にはやや不整形ではあるが007号と同様な機能が考えられる土坑で、時期は縄文時代中期のものであろう。

010号土坑（遺構 第186図）

A C 39-12から西へ1 mに位置する。プランは長軸1.48m、短軸1.28mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは35cmで南壁際がやや窪む他はほぼフラットである。覆土は1. ハードロームブロックを主体とする層で黄褐色土。2. 褐色土とソフトローム粒混じりの茶褐色土。ソフトロームと小ハードロームを混入する明褐色土である。形態的には貯蔵穴的な



第186図 西大野第3遺跡縄文時代土坑(2)(1/80)

用途が考えられるような土坑で時期的には縄文時代中期頃のものと思われる。

011号土坑（遺構 第186図）

A C 39-14から南へ1.5m、東へ1 mに位置する。プランは長軸0.89m、短軸0.69mの楕円形を呈する。検出面からの深さは23cmで床面のやや南寄りの部分から径15cm、深さ30cmの小ピットが1個検出されている。床面は壁際にかけてややだらだと立ち上がる。覆土は1. 褐色土とソフトローム粒混じりの茶褐色土。2. ソフトロームを水玉状に混入した暗褐色土。3. ソフトロームを主体としてハードロームブロックを混入する明褐色土である。形態的には貯蔵穴的な用途が考えられる様な土坑で時期的には縄文時代中期頃のものと思われる。

012号土坑（遺構 第186図 遺物 第190図9）

A C 39-22から北へ1 mに位置する。プランは径0.72mのほぼ円形を呈する。検出面からの深さは0.54mで断面形はU字形を呈する。覆土には阿玉台式の土器が埋設されている。覆土は1. 暗褐色土とソフトロームの均一に混ざった茶褐色土。2. ソフトローム粒を含む褐色土。3. ソフトローム粒と焼土粒を含む茶褐色土である。

遺物は阿玉台式の深鉢形土器の口縁部から胴部下半にかけての個体である。口縁部は波状口縁でジグザグと直線の細沈線を交互に地文に配している。また口縁部直下には角押文がみられる。また胴部にかけては同様な地文を配した後に太い粘土紐による区画がみられる。反対面は口縁部から胴部にかけて粘土紐による区画と角押文がみられる。

形態的には埋甕炉になると思われるが住居跡であった可能性もある。時期的には縄文時代中期前半のものと考えられる。

013号土坑（遺構 第186図）

A C 39-22から南へ1 m、東へ1 mに位置する。プランは0.92mのほぼ円形を呈する。検出面からの深さは28cmでやや北側が窪むがほぼフラットである。覆土は1. ソフトロームを僅かに含む暗褐色土。2. ソフトロームを水玉状に含む暗褐色土。3. ソフトロームとハードロームブロックを縞状に含む茶褐色土である。形態的には貯蔵穴的な用途が考えられるような土坑で時期的には縄文時代中期頃のものと思われる。

014号土坑（遺構 第186図）

A C 39-61から西へ1.5mに位置する。プランは長軸1.04m、短軸0.91mのほぼ楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは22cmでほぼフラットである。覆土は1. ソフトロームを僅かに含む黒色土。2. ソフトロームを僅かに含む黒褐色土。3. ソフトロームを縞状に含む茶褐色土である。形態的には貯蔵穴的な用途が考えられるような土坑で時期的には縄文時代中期頃のものと思われる。

015号土坑（遺構 第186図）

A C39-72から北へ2 m、東へ1 mに位置する。プランは開口部では長軸1.73m、短軸1.37mのはほぼ楕円形を呈するが底部付近で崩落して大幅にオーバーハングしている。本来は円筒状の掘り形をしていたと想像される。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む明褐色土。2. 小ハードロームブロック（10mm程度）を水玉状に含む暗褐色土。3. 小ハードロームブロックとソフトロームを縞状に含む褐色土。4. 小ハードロームブロックを僅かに含みソフトロームを含む暗褐色土。5. 小ハードロームブロックを水玉状に含む黒褐色土。6. ソフトロームを主体とする明褐色土。7. ハードロームブロックを主体とする黄褐色土。8. ソフトローム主体の茶褐色土。9. ソフトロームを主体としてハードロームブロックを混入した明褐色土。10. ソフトローム主体の茶褐色土。11. やや明るい茶褐色土。12. 灰褐色砂質土主体の灰褐色土。13. ハードロームブロックを主体とする明褐色土である。遺物等の検出がないため詳細な時期は不明であるが形態的には縄文時代の陥穴状遺構になるとと思われる。

017号土坑（遺構 第187図）

A B40-17から東へ1.5mに位置する。プランは長軸2.1m、短軸1.75mの方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.6mで床面はややフラットで南側の壁がやや緩やかに立ち上がる。覆土は1. 黒褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む黒褐色土。3. ソフトロームが主体の明褐色土。4. ソフトロームを主体でハードロームが混入する茶褐色土である。形態的には貯蔵穴的な用途が考えられるような土坑で時期的には縄文時代中期頃のものと思われる。

018号土坑（遺構 第187図）

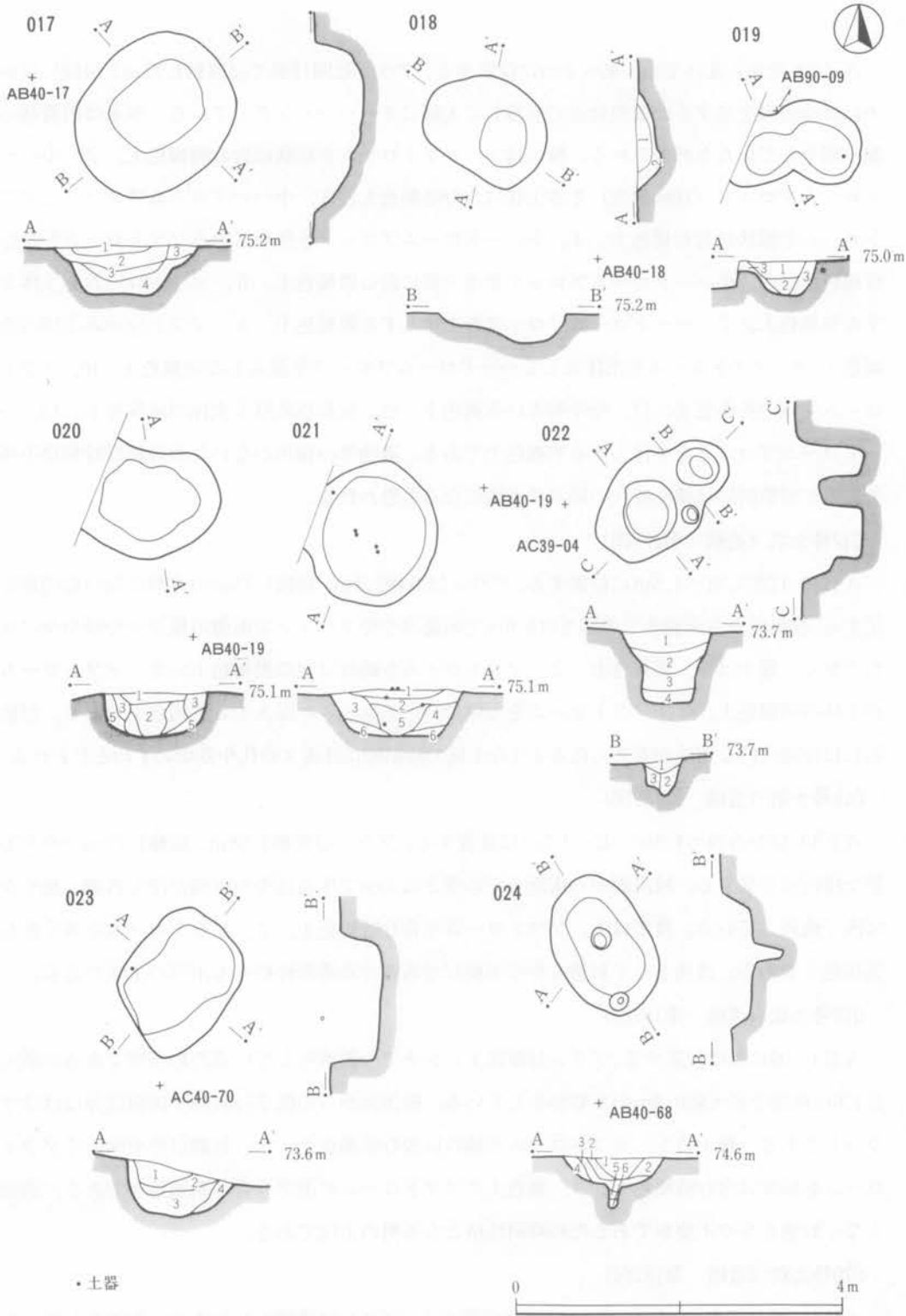
A B40-18から西へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸1.17mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは30cmで床面はやや東側が深く西側へ緩やかに浅く傾斜している。覆土は1. ソフトロームを含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む茶褐色土である。遺物もなく形態もやや不整形であるため時期性格とも不明の土坑である。

019号土坑（遺構 第187図）

A B40-09にほぼ位置する。プランは確認トレンチで一部消失しているため不明であるが最大長1.6m前後で最大幅0.9mの不整形をしている。検出面からの深さは41cmで床面部分はほぼフラットである。覆土は1. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。2. 色調がやや明るくソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. 褐色土とソフトロームの混ざり合う茶褐色土である。遺物もなく形態もやや不整形であるため時期性格とも不明の土坑である。

020号土坑（遺構 第187図）

A B40-19から北へ1.5m、西へ0.5mに位置する。プランは確認トレンチで一部消失しているため不明であるが長軸1.7m前後で短軸1.3mの楕円形に近い不整形をしている。検出面から床面までの深さは0.51mで壁際がやや浅く傾斜しているが全体にフラットである。覆土は1. ソ



第187図 西大野第3遺跡縄文時代土坑(3)(1/80)

フトロームを少し混入した暗褐色土。2. 暗褐色土とソフトローム粒を混入した黒褐色土。3. ロームを多く含む明褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。5. ソフトロームと小ハードロームブロック(5mm程度)を含む明褐色土である。遺物がないため明確な時期は不明だが貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

021号土坑(遺構 第187図)

A B40-19から西へ1mに位置する。プランは確認トレンチで一部消失しているため不明であるが長軸1.76m、短軸1.6m前後の円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mである。床面はフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含み炭化粒を僅かに含む暗褐色土。2. 小ハードロームブロック(10mm前後)を水玉状に含む暗褐色土。3. 小ハードロームブロックを水玉状に含み炭化粒を少し混入した暗褐色土。4. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。5. 暗褐色土とソフトロームが混ざり合い粘性の強い褐色土である。覆土上層から加曾利Eの土器片が数点検出されているため時期的にはこの前後に使用されたと考えられる。貯蔵穴のような用途の考えられる土坑である。

022号土坑(遺構 第187図)

A C39-04から東へ1mに位置する。プランは長軸1.85m、短軸1.16mでやや瓢箪形に近い不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは28cmある。床面に2個の大きなピットを持つタイプの陥穴状遺構になると思われるがおそらく上半分が消失したと考えられる。覆土は1. 暗褐色土を含む茶褐色土。2. 炭化粒と焼土を僅かに含む暗褐色土。3. ロームブロック粒を僅かに含む明褐色土。4. ロームブロックを縞状に含む明褐色土である。形態的な特徴から縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

023号土坑(遺構 第187図)

A C40-70から北へ1mに位置する。プランは長辺1.6m前後、短辺1.3mのやや不整な長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを水玉状に混入する暗褐色土。2. 褐色土とソフトロームが混ざり合う茶褐色土。3. ソフトロームとハードロームブロックが混ざり合う明褐色土。4. ソフトロームからなる明褐色土である。明確な時期と性格の判断は困難であるが、縄文時代の墓か貯蔵穴のような用途が考えられる土坑である。

024号土坑(遺構 第187図)

A B40-68から北へ2mに位置する。プランは長軸1.72m、短軸1.15mの楕円形を呈する。床面はフラットで中程に径20cmの小ピットが検出されている。検出面から床面までの深さは40cmでピット最深部までの深さは0.78mある。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含む黒褐色土。2. ソフトロームを水玉状に多く含む黒褐色土。3. ソフトロームを水玉状に多く含む暗褐色

土。4. ソフトロームを主体にする茶褐色土。5. ソフトロームを主体にする明褐色土。6. ソフトロームを多く含む茶褐色土である。形態的には陥穴状遺構と考えられるがやや浅く疑問が残る。遺物はない。

025号土坑（遺構 第188図）

A B40-48のやや北に位置する。プランは長軸3.12m、短軸2.11mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.94mある。床面はやや凹凸があり西側が一番深く東側へだらだらと傾斜している。覆土中から細かな土器片が多く検出されている。覆土は1. ハードロームブロック（10mm前後）を僅かに含みソフトロームを均一に含む暗褐色土。2. ソフトロームを縞状に含む暗褐色土。3. ハードロームブロック（20mm前後）を層状に含む暗褐色土。4. ソフトロームを主体にした茶褐色土。5. 黒褐色土とソフトロームを水玉状に含み炭化粒を僅かに含む暗褐色土。6. ソフトロームを主体としてハードロームブロックを含む明褐色土。7. ソフトロームを僅かに混入する暗褐色土。8. ソフトロームを縞状に含む褐色土。9. ハードロームブロックを主体としてソフトロームが混ざる明褐色土である。本来貯蔵穴のような用途を持っていた遺構と考えられる。二次的に遺物等の投棄が行われた可能性が考えられる。

026号土坑（遺構 第188図）

A B39-67から西へ1.5mに位置する。プランは長軸2.12m、短軸1.3mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はほぼフラットで壁際がやや高まっている。覆土は1. ソフトロームを僅かに含む暗褐色土。2. ソフトロームとハードロームブロック（10mm程度）を僅かに含む暗褐色土。3. ハードロームブロック（10mm程度）を含む暗褐色土。4. ハードロームを主体にしてソフトローム粒を含む黄褐色土。5. ハードロームからなる明褐色土である。少量の土器片がみられるが、墓か貯蔵穴のような用途が考えられる遺構である。

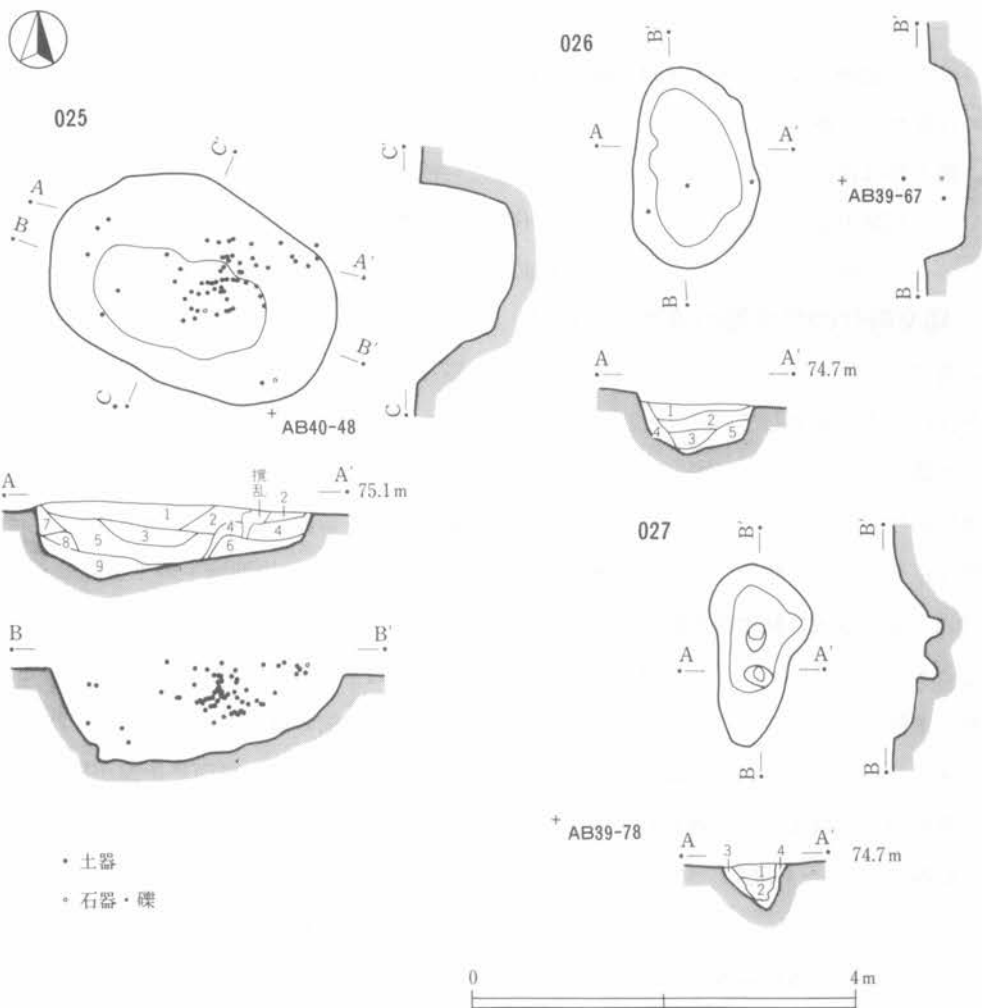
027土坑（遺構 第188図）

A B39-78から東へ2m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.85m、短軸1.08mの楕円に近い不整形を呈する。検出面から床面までの深さは36cmある。床面は中央部分が窪み小ピットも2個検出されている。覆土は1. ソフトロームを水玉状に含む黒褐色土。2. ソフトロームがやや多く含まれる黒褐色土。3. ハードロームブロックを多く含む明褐色土。4. ハードロームブロックを多く含む明褐色土である。遺物もなく形態的にも不整形のため、時期性格とも不明な土坑である。

(3) 包含層

003号縄文時代遺物集中出土地点（第192図）

本調査区の中程に位置し、026号と027号に接している。東西12m、南北12m程の円形に広が



第188図 西大野第3遺跡縄文時代土坑(4) (1/80)

りをみせる。遺物のなかでも大半は黒曜石の碎片で、全体の性格としては石鏃の未製品や欠損品等の存在から石鏃の工房跡の可能性が高い。細かく見ると南西側には炭化粒が多く分布している。焼土等は伴わないが、何らかの施設があった可能性がある。南東側の黒曜石の碎片の集中部分には石鏃未製品や欠損品も多く見られ不要品の廃棄箇所のようにも思われる。北西部分にもそのような箇所がみられる。また北～北東にかけては土器片が偏って分布している。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

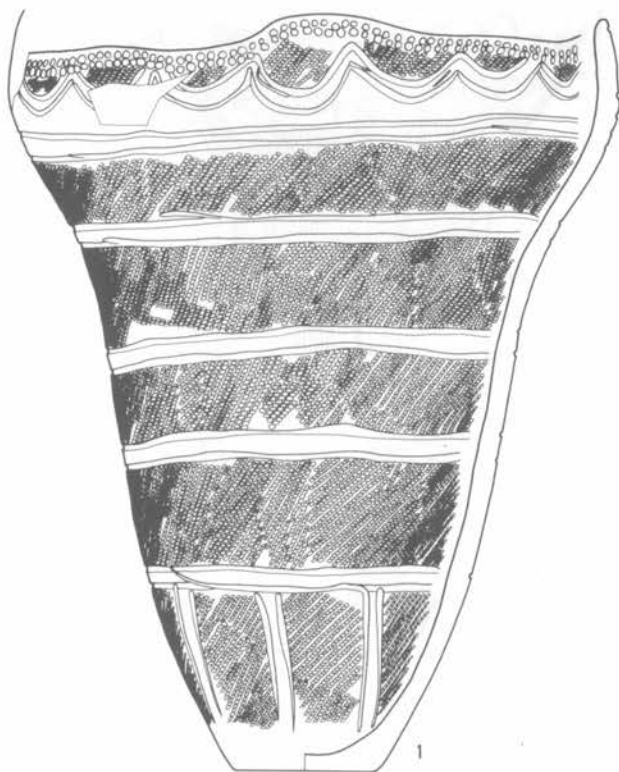
この遺跡では縄文時代早期後半から後期までの土器片が出土している。特に中期の土器片と石器が比較的多く出土している。

(1) 土器 (第191図10～25)

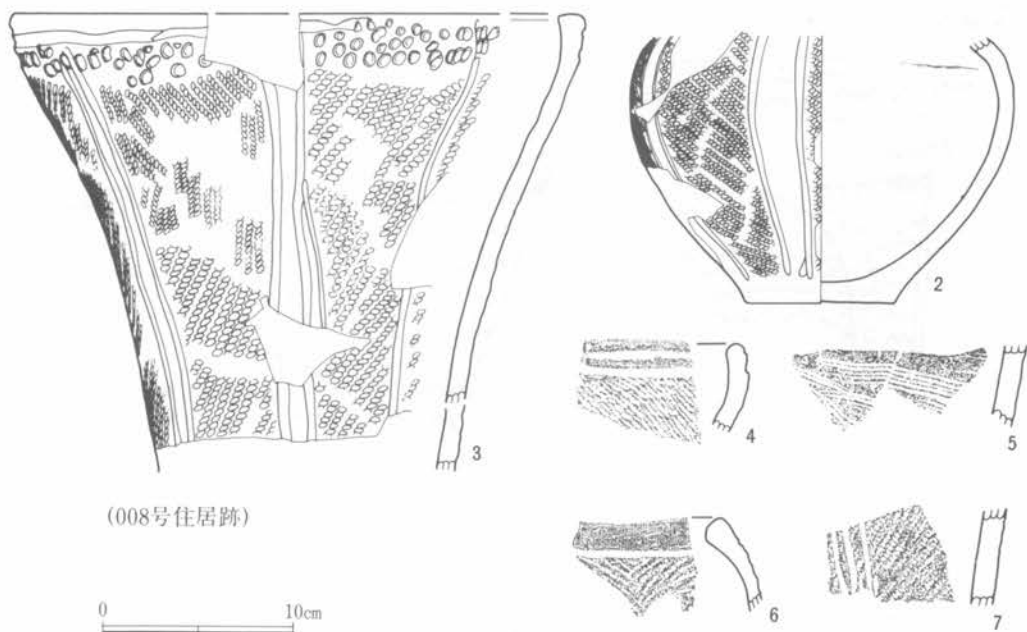
10は早期後半の条痕文系の土器片である。胎土に繊維を含み器面には条痕が施されている。この個体以外にはこの時期の土器片はまったくみられない。11～12は中期前半の土器群である。阿玉台式土器で器面に粘土紐の貼り付け文や沈線を施している。012号土坑以外ではこの時期の遺物もあまりみられない。13～20は縄文時代中期加曾利E式の土器群である。遺構を含めてこの時期の遺物はこの遺跡で一番多く出土している。いずれも単節の縄文を地文に配して沈線や条線で区画している。21～25は縄文時代後期の土器群である。いずれも器面に条線が施されている。遺構中からはまったくみられず包含層からのみ出土している。

(2) 石器 (第193～195図1～25)

1～4は石斧である。1は包含層出土の安山岩質砂岩製の磨製石斧で比較的厚身の礫を使用して刃部を調整打撃後稜に丸みを持たす程度に仕上げている。また一部に敲石で使用したと思われる敲打痕がみられる。2は包含層出土の輝緑安山岩製の打製石斧で楕円礫の片側と先端部を大きな剝離で調整している。また先端部は細かな打痕の様なものが観察される。3は003号出土の輝緑凝灰岩製の打石斧で礫の上下面を細かく調整することによって仕上げている。4は包含層出土の安山岩製の打製石斧で半裁礫を使用して両側面に調整を施すことにより仕上げている。5～7は敲打器である。5は包含層出土の頁岩製の敲打器で礫の上下を中心に細かな打痕がみられる。6は包含層出土の石英脈岩製の敲打器で礫の片側には大きな打痕上下には細かな打痕が観察される。7は包含層出土の砂岩製の敲打器である。凹石の転用されたもので側面の一部から上面にかけて細かな打痕が多くみられる。8は表採された頁岩製の敲打器で先端部に細かな打痕が多くみられる。9は包含層出土の珪質頁岩製の石錐である。特に刃部にかけては細かな調整で丁寧な仕上げられている。10は003号出土の黒曜石製のR・フレイクで側面に細かな調整がみられる。石鏃未製品であるかも知れない。11～25は石鏃及び石鏃未製品である。11は025号出土の黒曜石製の石鏃で両面にわたって比較的大きめの剝離調整がおこなわれている。凹基鏃で片脚が欠損している。12は009号出土の珪質頁岩製の石鏃でやや大きめの荒い剝離で背



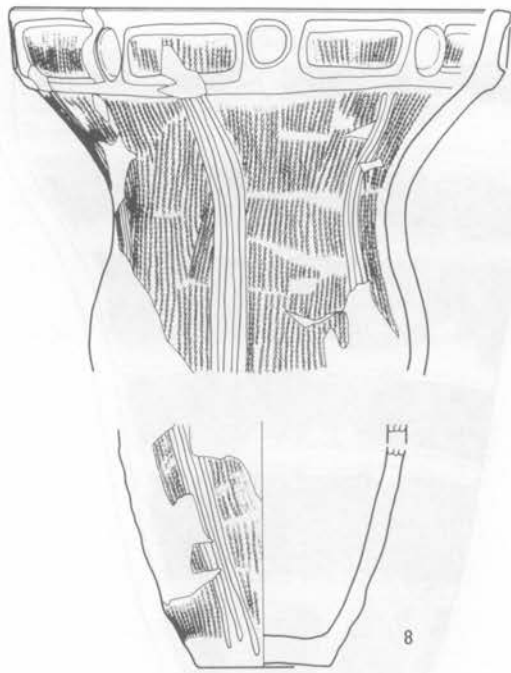
(007号土坑)



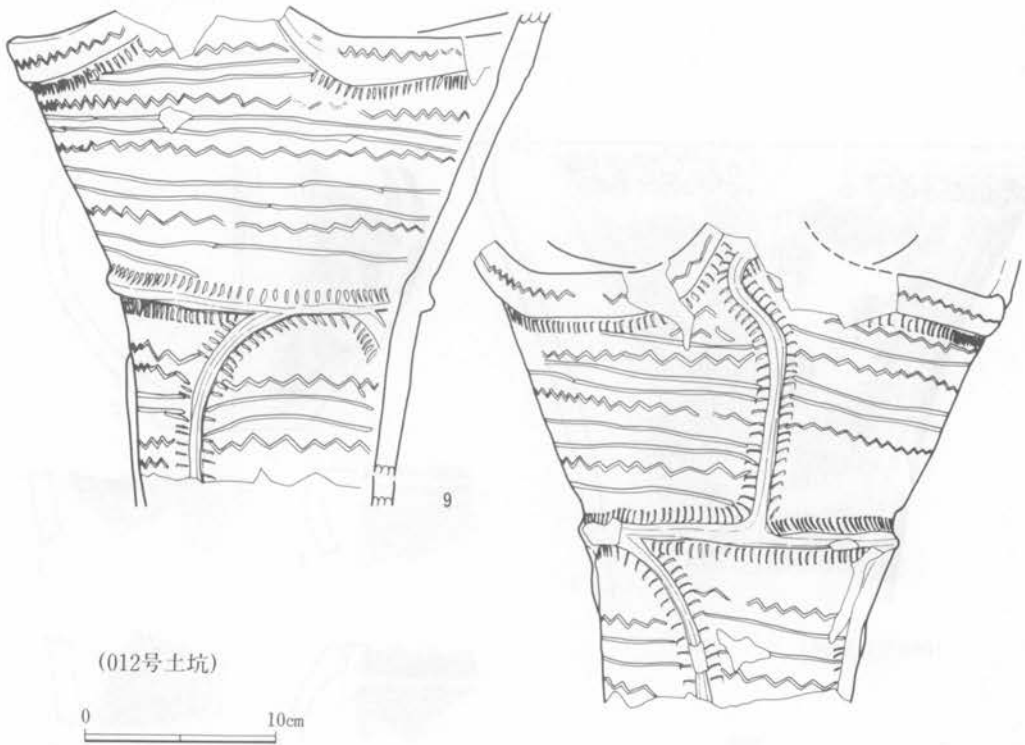
(008号住居跡)

0 10cm

第189図 西大野第3遺跡遺構内出土土器(1) (1/4)

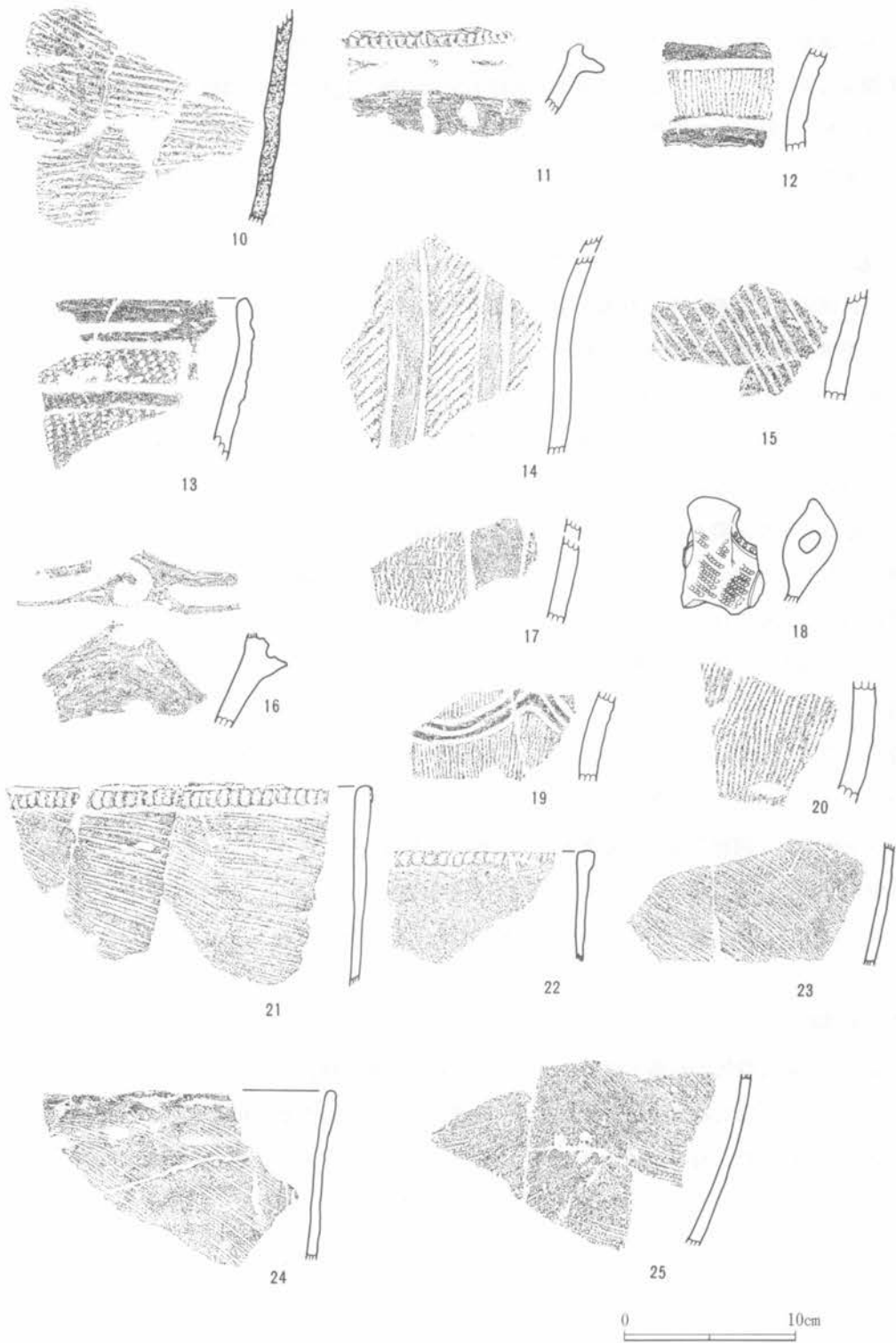


(009号土坑)



(012号土坑)

第190図 西大野第3遺跡遺構内出土土器(2)(1/4)



第191図 西大野第3遺跡包含層出土土器(1/4)

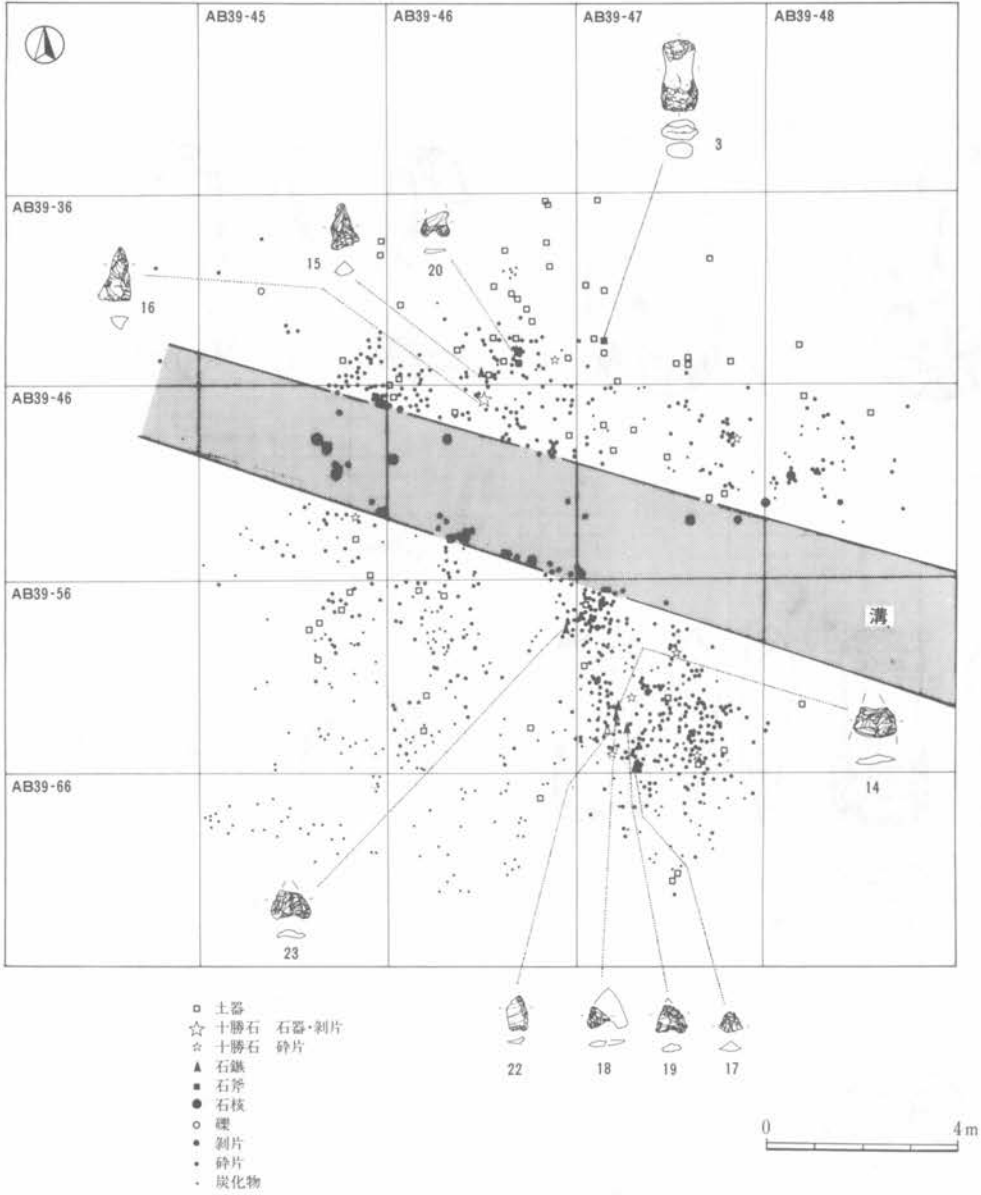
面のみを調整してある。主剝離面側は若干の調整のみで形態が整えられている。やや凹基気味で先端部も丸みがある。13は026号出土の黒曜石製の石鏃で比較的荒い調整で両面を仕上げている。凹基鏃で片脚と他の脚部の一部を欠損している。14は003号出土の黒曜石製の石鏃未製品で両面に調整はみられるものの完全に仕上げられていない。あるいは途中で放棄したものであろう。15は003号出土の黒曜石製の石鏃未製品で基部と片側は細かな調整を施しているが素材が分厚く仕上げることができなかつたのであろう。16は003号出土の黒曜石製の石鏃未製品で先端部から一部側面まで調整がみられるが全体の素材を変形させるほどには至っていない。17は003号出土の黒曜石製の石鏃で両面とも細かな調整がみられるものである。先端部のみ残存している。18は003号出土の黒曜石製の石鏃で片面を丁寧に調整しているのがうかがわれる。片脚のみ残存している。19は003号出土の黒曜石製の石鏃で片面をやや荒い剝離で仕上げている。主剝離面はあまり調整されていない。先端部が欠損している。20は003号出土の黒曜石製の石鏃未製品で基部を中心に細かな調整がなされている。先端部は折れているがやや素材が薄いので製作途中で放棄されたものと考えられる。21は包含層出土の黒曜石製の石鏃でやや厚めの素材でありながら比較的荒い調整で仕上げられている。やや凹基気味である。22は003号出土の黒曜石製の石鏃未製品で一部周辺に細かに調整されている。この黒曜石は赤い斑紋のみられるタイプのもので十勝石と呼ばれるものに酷似している。同様の石材の碎片が南東側に一定範囲の広がりをもせて分布している。23は003号出土の黒曜石製の石鏃で背面は全面に主剝離面には周辺に細かな調整がみられる。やや凹基気味で先端部が欠損している。24は包含層出土の黒曜石製の石鏃で背面のみ全面細かな調整で仕上げている。主剝離面は基部の抉りのみおこなっている。凹基鏃で片脚が欠損している。25は023号出土の黒曜石製の石鏃である。両面とも細かな調整で仕上げられている。この石材も22と同様に十勝石に酷似した石材が使用されている。凹基鏃で先端部が欠損している。

4. 小結

当遺跡では縄文時代の石鏃工房跡と思われる遺物包含層が検出され、土坑なども他の遺跡で見られるタイプの陥穴状遺構があまりなく、貯蔵穴や墓といった別の用途が想定される形態のものが多くみられた。明らかに他の遺跡との性格の違いを有するものであり、非常に興味が深い。

Y=36,104

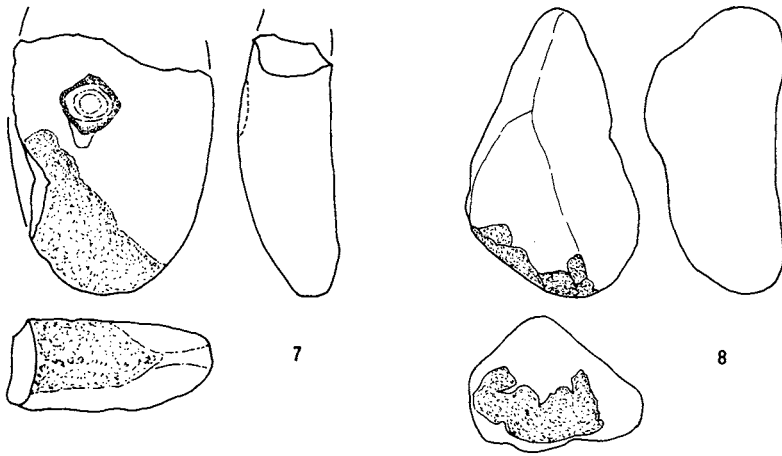
X = - 54,456



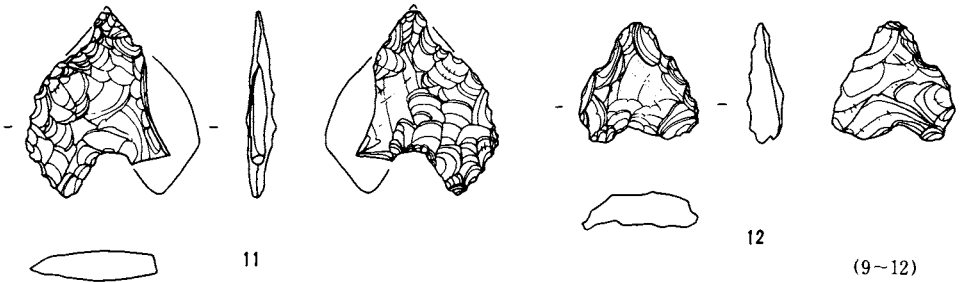
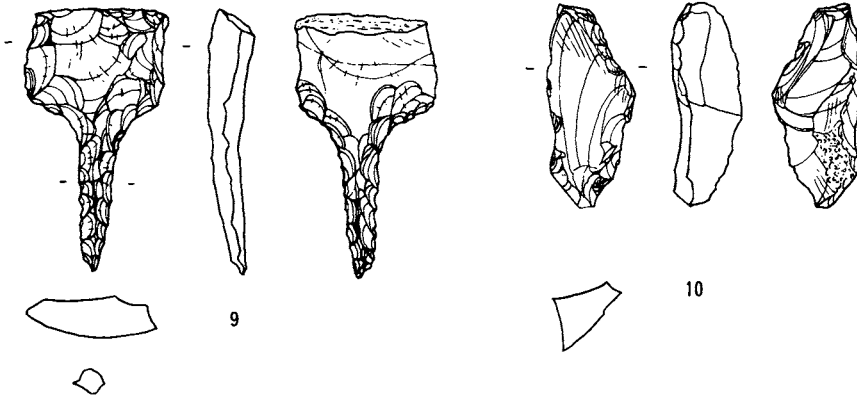
第192図 西大野第3遺跡003号遺物出土状況(1/160)



第193図 西大野第3遺跡出土石器(1)(1/3)

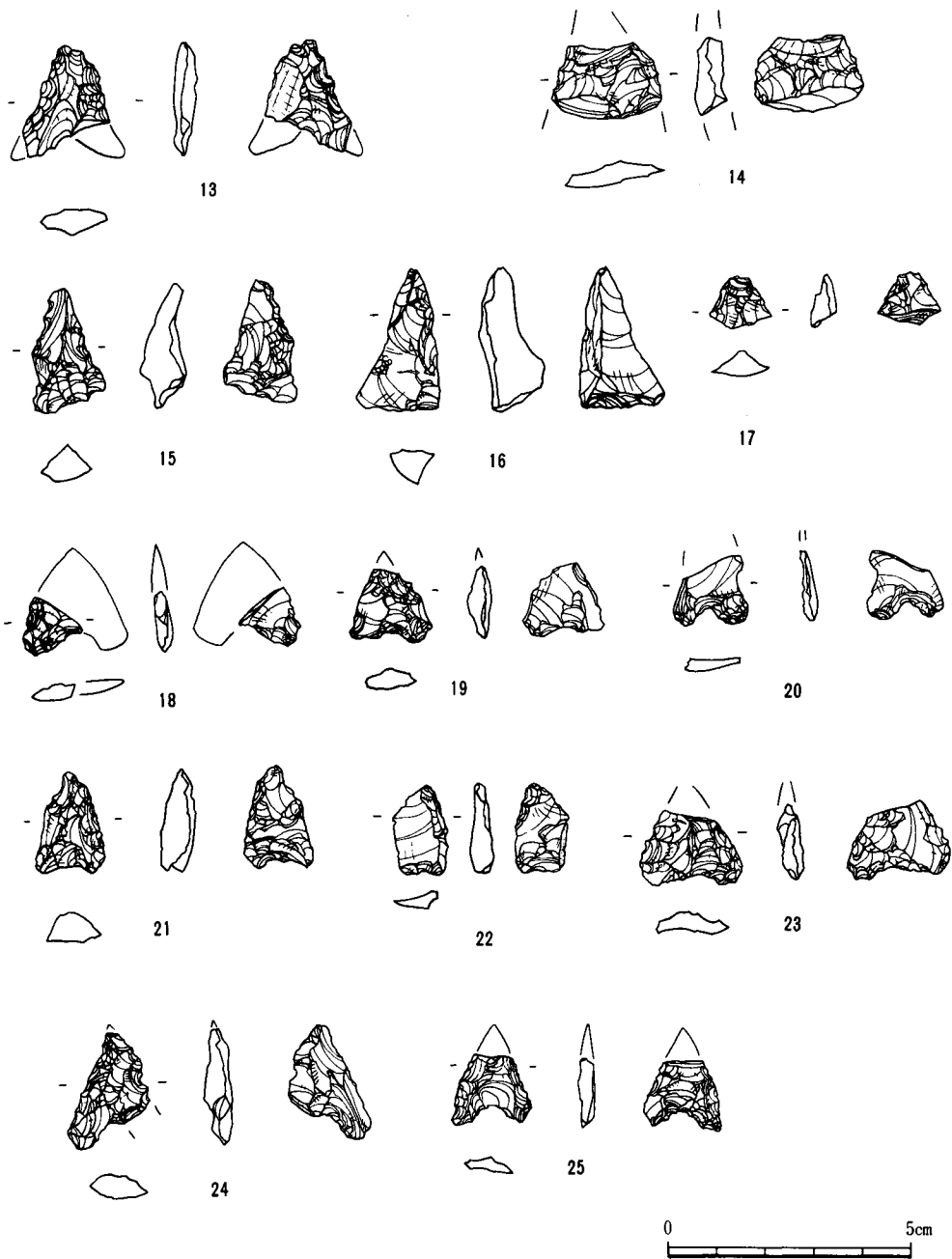


0 10cm
(1/3) (7-8)



0 5cm
(9-12)

第194图 西大野第3遺跡出土石器(2) (2/3)



第195図 西大野第3遺跡出土石器(3)(2/3)

千葉県文化財センター調査報告 第253集

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第1分冊

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月31日 発行

発 行 千葉県土地開発公社

編 集 財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809番地2

印 刷 凸版印刷株式会社

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第 2 分 冊

1 9 9 4

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第 2 分 冊

1 9 9 4

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

本文目次

第2分冊

第11章 大野第1遺跡	317
第1節 縄文時代	322
1 概要	322
2 縄文時代の遺構・遺物について	322
3 縄文時代の包含層の遺物について	408
4 奈良時代の遺構・遺物について	418
5 その他	419
6 小結	419
第12章 西大野第1遺跡	425
第1節 旧石器時代	432
1 層序区分	432
2 概要	432
3 第1ブロック (A地区)	432
4 第2ブロック (A地区)	438
5 第3ブロック (A地区)	440
6 第4ブロック (B地区)	442
7 第5ブロック (B地区)	446
8 第6ブロック (C地区)	446
9 第7ブロック (C地区)	447
10 第8ブロック (C地区)	456
11 第9ブロック (C地区)	456
12 第10ブロック (C地区)	460
13 第11ブロック (C地区)	460
14 第12ブロック (D地区)	461
15 その他の旧石器時代の遺構・遺物について	461
16 小結	461
第2節 縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代	464
1 概要	464

2	縄文時代の遺構・遺物について	464
3	縄文時代の包含層の遺物について	493
4	古墳時代の遺構・遺物について	498
5	奈良・平安時代の遺構・遺物について	498
6	奈良・平安時代の包含層の遺物について	521
7	小結	522
第13章 東大野第1遺跡		529
1	第1節 縄文時代	531
1	概要	531
2	縄文時代の遺構・遺物について	532
3	縄文時代の包含層の遺物について	537
4	小結	537
第14章 東大野第2遺跡		539
1	第1節 旧石器時代	543
1	層序区分	543
2	概要	543
3	第1ブロック (第1群)	544
4	第2ブロック (第1群)	546
5	第3ブロック (第1群)	550
6	第4ブロック (第1群)	553
7	第5ブロック (第1群)	556
8	第6ブロック (第1群)	556
9	第7ブロック (第1群)	561
10	第8ブロック (第2群)	561
11	第9ブロック (第2群)	563
12	第10ブロック (第2群)	563
13	第11ブロック (第3群)	567
14	第12ブロック (第3群)	572
15	第13ブロック (第3群)	572
16	第14ブロック (第4群)	575
17	第15ブロック (第4群)	577
18	第16ブロック (第4群)	577

19	第17ブロック (第4群)	581
20	第18ブロック (第5群)	582
21	第19ブロック (第5群)	582
22	第20ブロック (第5群)	582
23	第21ブロック (第5群)	588
24	第22ブロック (第6群)	588
25	第23ブロック (第6群)	591
26	第24ブロック (第6群)	591
27	第25ブロック (第6群)	591
28	第26ブロック (第6群)	593
29	第27ブロック (第7群)	593
30	第28ブロック (第7群)	595
31	第29ブロック (第7群)	595
32	第1焼土ブロック	596
33	第1炭化物集中地点	599
34	第2焼土ブロック及び炭化物集中地点	599
35	小結	599
第2節 縄文時代		602
1	概要	602
2	縄文時代の遺構・遺物について	602
3	縄文時代の包含層の遺物について	610
4	小結	613
第15章 大野南遺跡		615
第1節 旧石器時代		617
1	層序区分	617
2	概要	620
3	第1ブロック	621
4	第2ブロック	627
5	第3ブロック	627
6	その他の旧石器時代の遺物について	628
7	小結	628
第2節 縄文時代		630

1	概要	630
2	縄文時代の遺構・遺物について	630
3	縄文時代の包含層の遺物について	643
4	小結	643
第16章	南大野第1遺跡	647
第1節	縄文時代	648
1	概要	648
2	縄文時代の遺構・遺物について	648
3	縄文時代の包含層の遺物について	652
4	小結	652
第17章	東大野第3遺跡	653
第1節	旧石器時代	656
1	層序区分	656
2	概要	657
3	第1ブロック	657
4	第2ブロック	662
5	第3ブロック	663
6	小結	663
第2節	縄文時代	664
1	概要	664
2	縄文時代の遺構・遺物について	664
3	縄文時代の包含層の遺物について	673
4	小結	678
第18章	南大野第4遺跡	679
第1節	縄文時代	681
1	概要	681
2	縄文時代の遺構・遺物について	681
3	縄文時代の包含層の遺物について	688
4	小結	692
第19章	東大野第4遺跡	697
第1節	縄文時代・平安時代	699
1	概要	699

2	平安時代の遺構・遺物について	699
3	縄文時代・平安時代の包含層の遺物について	702
4	小結	702
第20章	南大野第5遺跡	703
第1節	縄文時代・平安時代	705
1	概要	705
2	平安時代以降の遺構・遺物について	705
3	縄文時代・平安時代の包含層の遺物について	708
4	小結	709
第21章	まとめ	711
1	旧石器時代のブロック群について	712
2	縄文時代早期の集落と包含層について	712
3	縄文時代早期から中期の陥穴群について	713
4	弥生時代について	713
5	古墳時代について	713
6	奈良時代から平安時代の集落について	713
7	最後に	713

挿図目次

第2分冊

第11章 大野第1遺跡

第196図	上層本調査範囲	318
第197図	確認調査グリット配置図	319
第198図	上層本調査範囲及び遺構配置図－西側	320
第199図	上層本調査範囲及び遺構配置図－東側	321
第200図	001号住居跡	323
第201図	030号住居跡	323
第202図	105号住居跡	325
第203図	106号住居跡	325
第204図	197(A)(B)号住居跡	326
第205図	241号住居跡	328
第206図	244号住居跡	328
第207図	縄文時代土坑(1)	329
第208図	縄文時代土坑(2)	332
第209図	縄文時代土坑(3)	335
第210図	縄文時代土坑(4)	338
第211図	縄文時代土坑(5)	341
第212図	縄文時代土坑(6)	344
第213図	縄文時代土坑(7)	346
第214図	縄文時代土坑(8)	349
第215図	縄文時代土坑(9)	352
第216図	縄文時代土坑(10)	354
第217図	縄文時代土坑(11)	357
第218図	縄文時代土坑(12)	360
第219図	縄文時代土坑(13)	362
第220図	縄文時代土坑(14)	365
第221図	縄文時代土坑(15)	368
第222図	縄文時代土坑(16)	370
第223図	縄文時代土坑(17)	373
第224図	縄文時代土坑(18)	376
第225図	縄文時代土坑(19)	379
第226図	縄文時代土坑(20)	381
第227図	縄文時代土坑(21)	384
第228図	縄文時代土坑(22)	387
第229図	縄文時代土坑(23)	390

第230図	縄文時代土坑(24)	393
第231図	縄文時代土坑(25)	396
第232図	縄文時代土坑(26)	399
第233図	縄文時代土坑(27)	402
第234図	縄文時代土坑(28)	405
第235図	縄文時代土坑(29)	407
第236図	遺構内出土土器(1)	410
第237図	遺構内出土土器(2)	411
第238図	遺構内出土土器(3)	412
第239図	包含層出土土器	413
第240図	遺構及び包含層出土土器(1)	414
第241図	遺構及び包含層出土土器(2)	415
第242図	遺構及び包含層出土土器(3)	416
第243図	遺構及び包含層出土土器(4)	417
第244図	104号住居跡	420
第245図	100号掘立柱建物跡	421
第246図	101号掘立柱建物跡	421
第247図	出土土器	422
第248図	出土石製品・土製品	423

第12章 西大野第1遺跡

第249図	上層確認調査グリット配置図	426
第250図	上層本調査範囲(西地区)及び遺構配置図	427
第251図	上層本調査範囲(東地区)及び遺構配置図	428
第252図	上層本調査範囲(北地区)及び遺構配置図	429
第253図	下層確認調査配置図	430
第254図	下層本調査配置図	431
第255図	IV－V層遺物出土状況及び接合図	433
第256図	A地区第1ブロック遺物出土状況	434
第257図	A地区第1ブロック出土土器(1)	435
第258図	A地区第1ブロック出土土器(2)	436
第259図	A地区第1ブロック出土土器(3)	437
第260図	A地区第2・3ブロック遺物出土状況	439
第261図	A地区第2ブロック出土土器	440
第262図	A地区第3ブロック出土土器	441

第263図	B地区第4・5ブロック遺物出土状況	443	第298図	001号方墳・001主体部及び石室	500
第264図	B地区第4ブロック出土石器(1)	444	第299図	001号方墳・002・003主体部	501
第265図	B地区第4ブロック出土石器(2)	445	第300図	002号住居跡(1)	502
第266図	B地区第5ブロック出土石器(1)	448	第301図	002号住居跡(2)	503
第267図	B地区第5ブロック出土石器(2)	449	第302図	003号住居跡	505
第268図	B地区第5ブロック出土石器(3)	450	第303図	004号住居跡	506
第269図	B地区第5ブロック出土石器(4)	451	第304図	005号住居跡	507
第270図	C地区第6ブロック遺物出土状況及び 接合図	452	第305図	006号住居跡	509
第271図	C地区第6・7ブロック遺物出土状況	453	第306図	007号住居跡	510
第272図	C地区第6ブロック出土石器	454	第307図	012号・023号住居跡	511
第273図	C地区第7ブロック出土石器	455	第308図	037号住居跡	513
第274図	C地区第8～11ブロック遺物出土状況 図	457	第309図	065号住居跡	514
第275図	C地区第8ブロック出土石器	458	第310図	073号・069号住居跡	516
第276図	C地区第9ブロック出土石器	459	第311図	土坑	518
第277図	C地区第10・11ブロック出土石器	460	第312図	007号溝状遺構	520
第278図	D地区出土石器	461	第313図	出土土器(1)	523
第279図	D地区遺物出土状況	462	第314図	出土土器(2)	524
第280図	確認調査時検出炭化材及び礫出土状況	463	第315図	出土土器(3)	525
第281図	031号住居跡	464	第316図	出土土器(4)	526
第282図	045号住居跡	465	第317図	出土土器(5)	527
第283図	071号住居跡	466	第318図	出土遺物	528
第284図	縄文時代土坑(1)	467	第13章 東大野第1遺跡		
第285図	縄文時代土坑(2)	470	第319図	確認調査グリット配置図	530
第286図	縄文時代土坑(3)	473	第320図	上層本調査範囲及び遺構配置図	531
第287図	縄文時代土坑(4)	477	第321図	縄文時代土坑(1)	533
第288図	縄文時代土坑(5)	481	第322図	縄文時代土坑(2)	535
第289図	縄文時代土坑(6)	483	第323図	包含層出土遺物	537
第290図	縄文時代土坑(7)	487	第14章 東大野第2遺跡		
第291図	縄文時代土坑(8)	491	第324図	下層本調査範囲	540
第292図	縄文時代土坑(9)	492	第325図	確認調査グリット配置図	541
第293図	出土土器(1)	494	第326図	上層本調査範囲及び遺構配置図	542
第294図	出土土器(2)	495	第327図	ブロック分布図	543
第295図	出土土器(3)	496	第328図	第1群、第1・2ブロック遺物出土状況	544
第296図	出土石器	497	第329図	第1群、第1ブロック出土石器	545
第297図	001号方墳	499	第330図	第1群、第2ブロック出土石器(1)	547

第331図	第1群、第2ブロック出土石器(2)	548	第368図	第7群、第27～29ブロック遺物出土状況	594
第332図	第1群、第2ブロック出土石器(3)	549	第369図	第7群、第27・28ブロック出土石器	596
第333図	第1群、第3ブロック出土石器(1)	550	第370図	第7群、第28・29ブロック出土石器	597
第334図	第1群、第3ブロック遺物出土状況	551	第371図	第7群、第29ブロック出土石器	598
第335図	第1群、第3ブロック出土石器(2)	552	第372図	第1焼土ブロック	600
第336図	第1群、第4・6ブロック遺物出土状況	554	第373図	第1炭化物集中地点	600
第337図	第1群、第5・7ブロック遺物出土状況	555	第374図	第2焼土ブロック及び炭化物集中地点	601
第338図	第1群、第4ブロック出土石器	557	第375図	縄文時代土坑(1)	603
第339図	第1群、第4・5ブロック出土石器	558	第376図	縄文時代土坑(2)	606
第340図	第1群、第5ブロック出土石器	559	第377図	縄文時代土坑(3)	609
第341図	第1群、第5～7ブロック出土石器	560	第378図	出土土器	611
第342図	第2群、第8～10ブロック遺物出土状況	562	第379図	包含層出土石器	612
第343図	第2群、第8～10ブロック出土石器(1)	564			
第344図	第2群、第8～10ブロック出土石器(2)	565	第15章 大野南遺跡		
第345図	第2群、第8～10ブロック出土石器(3)	566	第380図	下層本調査範囲	616
第346図	第2群、第8ブロック出土石器	567	第381図	上層確認調査グリット配置図	617
第347図	第3群、第11・12ブロック遺物出土状況	568	第382図	下層確認調査グリット配置図	618
第348図	第3群、第11ブロック出土石器	569	第383図	上層本調査範囲及び遺構配置図	619
第349図	第3群、第12ブロック出土石器(1)	570	第384図	第1ブロック遺物出土状況	620
第350図	第3群、第12ブロック出土石器(2)	571	第385図	第1ブロック出土石器(1)	622
第351図	第3群、第13ブロック遺物出土状況	573	第386図	第1ブロック出土石器(2)	623
第352図	第3群、第13ブロック出土石器(1)	574	第387図	第1ブロック出土石器(3)	624
第353図	第3群、第13ブロック出土石器(2)	575	第388図	第1ブロック出土石器(4)	625
第354図	第4群、第14～17ブロック遺物出土状況	576	第389図	第1ブロック出土石器(5)	626
第355図	第4群、第14ブロック出土石器	578	第390図	第2・3ブロック遺物出土状況	628
第356図	第4群、第14・15ブロック出土石器	579	第391図	第2・3ブロック出土石器	629
第357図	第4群、第15～17ブロック出土石器	580	第392図	016号住居跡遺物出土状況	630
第358図	第4群、第17ブロック出土石器	581	第393図	019・020号住居跡	631
第359図	第5群、第18～21ブロック遺物出土状況	583	第394図	縄文時代土坑(1)	633
第360図	第5群、第18ブロック出土石器	584	第395図	縄文時代土坑(2)	636
第361図	第5群、第19・20ブロック出土石器	585	第396図	縄文時代土坑(3)	638
第362図	第5群、第20・21ブロック出土石器	586	第397図	縄文時代土坑(4)	641
第363図	第5群、第20ブロック出土石器	587	第398図	出土土器	644
第364図	第6群、第22～26ブロック遺物出土状況	589	第399図	出土石器	645
第365図	第6群、第22・23ブロック出土石器	590			
第366図	第6群、第24～26ブロック出土石器	592	第16章 南大野第1遺跡		
第367図	第6群、第26ブロック出土石器	593	第400図	位置図及び遺構配置図	648

第401図	上層確認調査グリット配置図	649	第434図	包含層出土石器(3)	691
第402図	下層確認調査グリット配置図	649	第435図	包含層遺物出土状況(1)	693
第403図	縄文時代土坑	650	第436図	包含層遺物出土状況(2)	694
第404図	包含層出土石器	651	第437図	包含層遺物出土状況(3)	695

第17章 東大野第3遺跡

第405図	上層及び下層本調査範囲図	654
第406図	確認調査グリット及び本調査範囲図	655
第407図	上層本調査範囲及び遺構配置図	656
第408図	第1ブロック遺物出土状況	657
第409図	第1ブロック出土石器	658
第410図	第2ブロック遺物出土状況	659
第411図	第3ブロック出土状況	660
第412図	第1・2ブロック出土石器	661
第413図	第2・3ブロック出土石器	662
第414図	002・003号住居跡	665
第415図	010・011号住居跡	666
第416図	縄文時代土坑	668
第417図	包含層遺物出土状況(1)	670
第418図	包含層遺物出土状況(2)	671
第419図	包含層遺物出土状況(3)	672
第420図	包含層出土石器	673
第421図	包含層出土石器(1)	674
第422図	包含層出土石器(2)	675
第423図	包含層出土石器(3)	676
第424図	包含層出土遺物	677

第18章 南大野第4遺跡

第425図	遺跡範囲	680
第426図	確認調査グリット配置図	681
第427図	本調査範囲及び遺構配置図	682
第428図	001・010号住居跡	683
第429図	縄文時代土坑	685
第430図	包含層出土石器(1)	687
第431図	包含層出土石器(2)	688
第432図	包含層出土石器(1)	689
第433図	包含層出土石器(2)	690

第19章 東大野第4遺跡

第438図	位置図及び遺構配置図	698
第439図	確認調査グリット配置図	699
第440図	炭窯跡	701
第441図	包含層出土石器	702
第442図	包含層出土石器	702

第20章 南大野第5遺跡

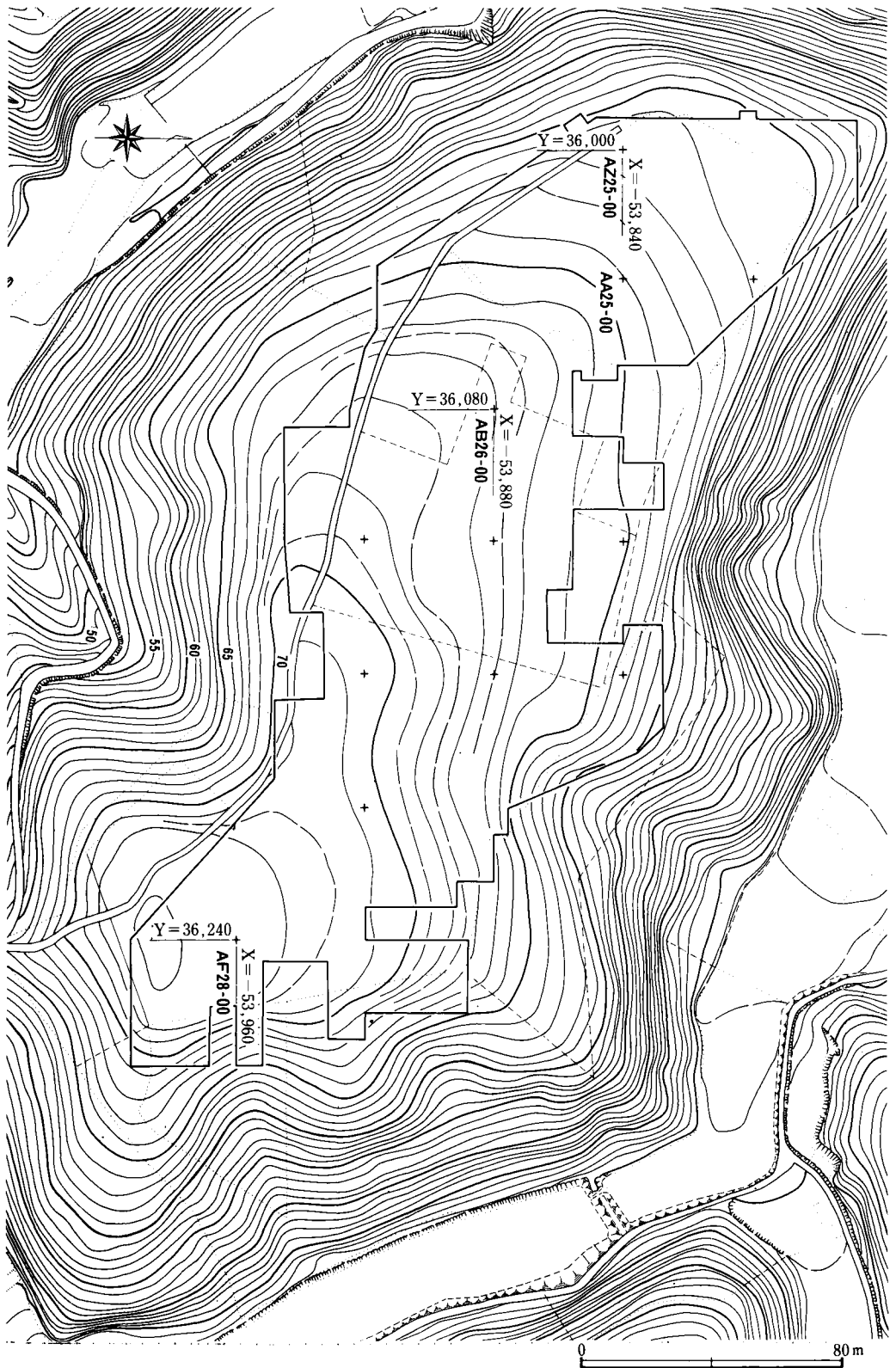
第443図	位置図及び遺構配置図	704
第444図	確認調査グリット配置図	705
第445図	平安時代以降の遺構	707
第446図	包含層出土石器	708
第447図	包含層出土石器	708

第 11 章

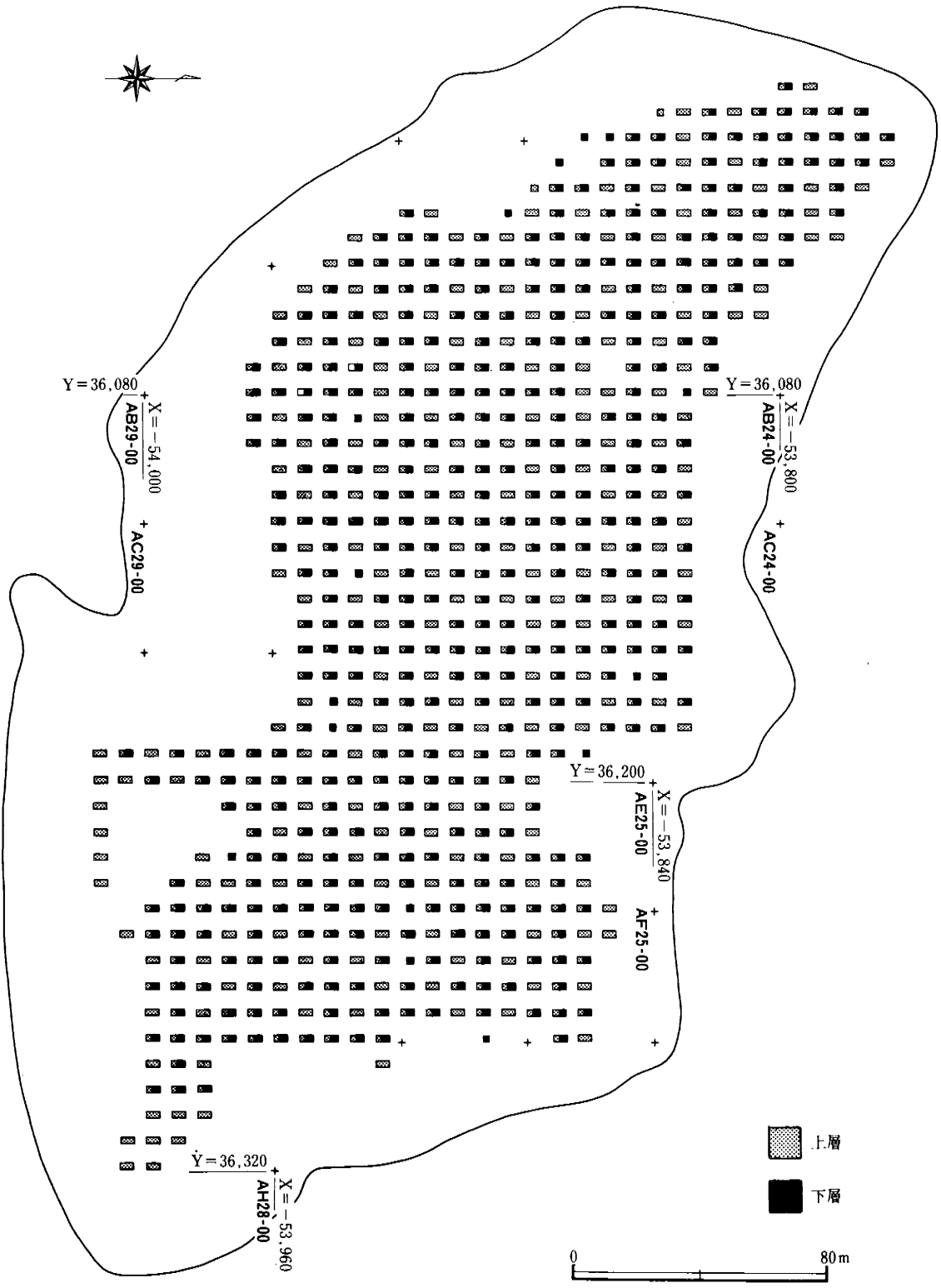
大 野 第 1 遺 跡

遺跡コード 201-076

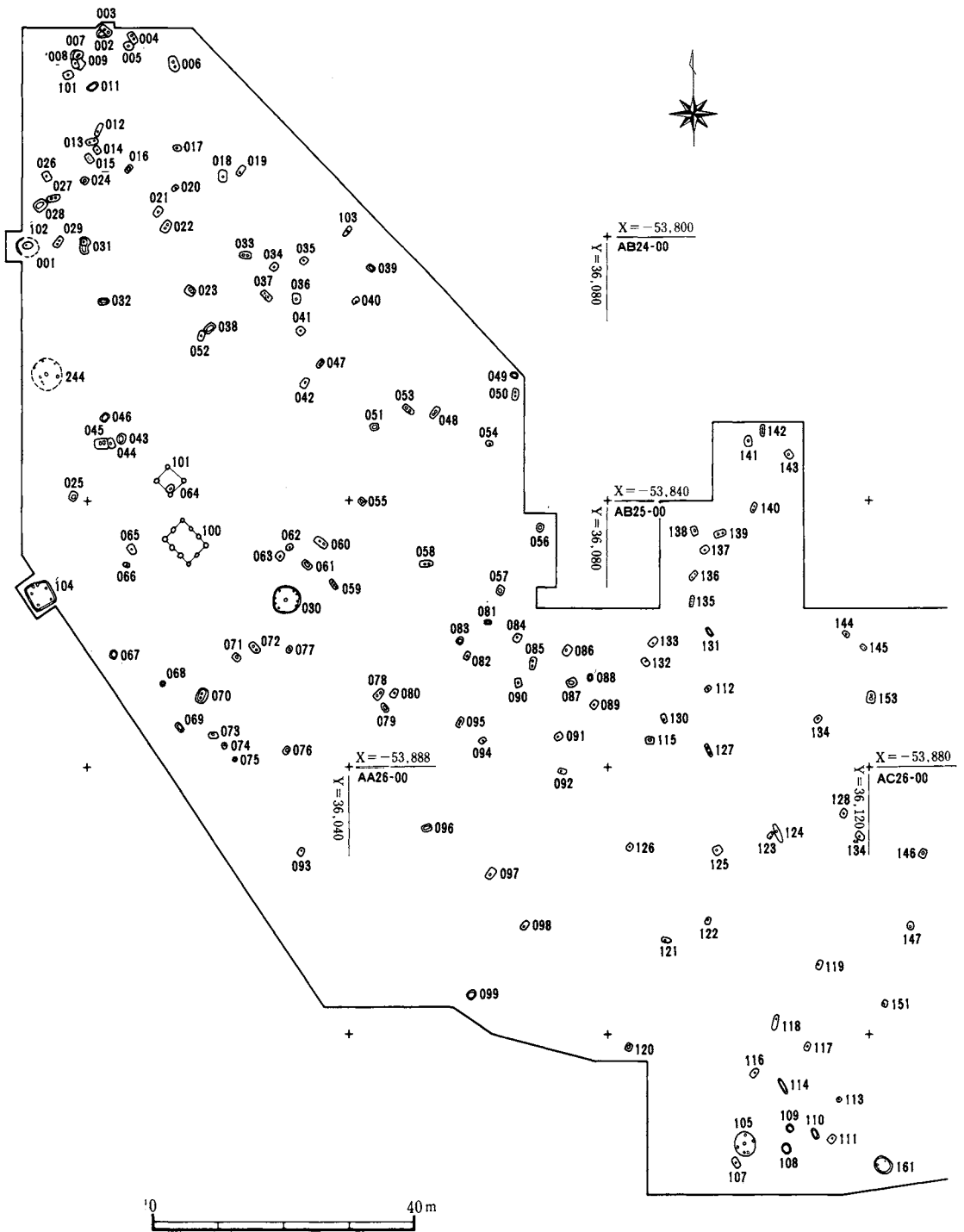
調査担当者 高橋博文



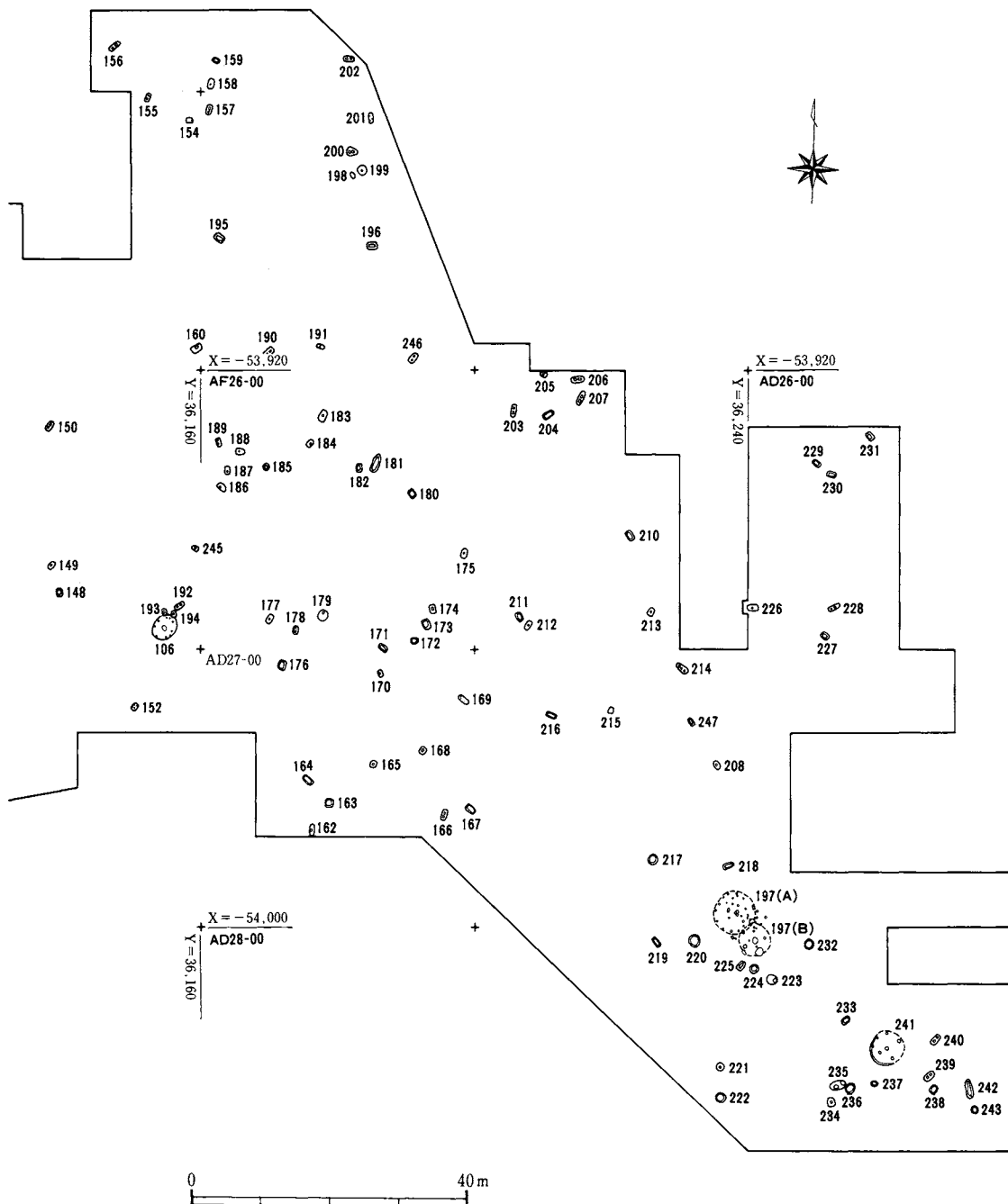
第196図 大野第1遺跡上層本調査範囲(1/2,000)



第197図 大野第1遺跡確認調査グリッド配置図(1/2,000)



第198図 大野第1遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図—西側(1/1,000)



第199図 大野第1遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図—東側(1/1,000)

第1節 縄文時代

1. 概要 (第196~199図)

大野第1遺跡では上層の確認調査の結果、縄文時代を中心とする時期の遺構が確認され、24,000㎡の上層本調査を実施した。その結果、縄文時代中期の住居跡9軒、縄文時代土坑236基、奈良時代の住居跡1軒、掘立柱建物跡2棟が検出された。引き続いて下層の確認調査もおこなわれたが、遺物はみられなかった。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

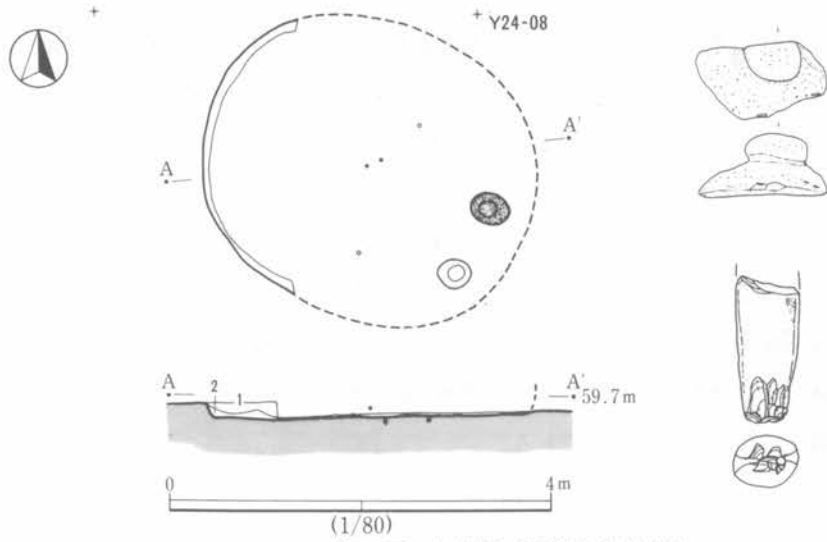
001号住居跡 (遺構 第200図 遺物 第241図20・第248図1)

Y24-08から西へ1m、南へ1.5mに位置する。プランはおおよそ長軸3.60m、短軸3.12mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは16cmあるが東側はほとんど消失していた。ピットは南東壁付近に15cmの深さのものが1個検出されている。炉と考えられる焼土が東壁寄りに認められたが他の施設のようなものは検出されなかった。床面は中央部分が幾らか硬化していたが全体にはやや軟弱である。覆土は1. 褐色土を含み堆積が粗い暗褐色土。2. 黒褐色土と暗褐色土を含みやや軟質な褐色土である。遺物は縄文時代中期の土器破片が2点出土している。他に20の棒状の打製石斧と1の用途不明の文鏡形の軽石製石製品がある。炉の柱穴等から判断すると非常に短期間に使用された簡単な構造の住居跡と考えられる。

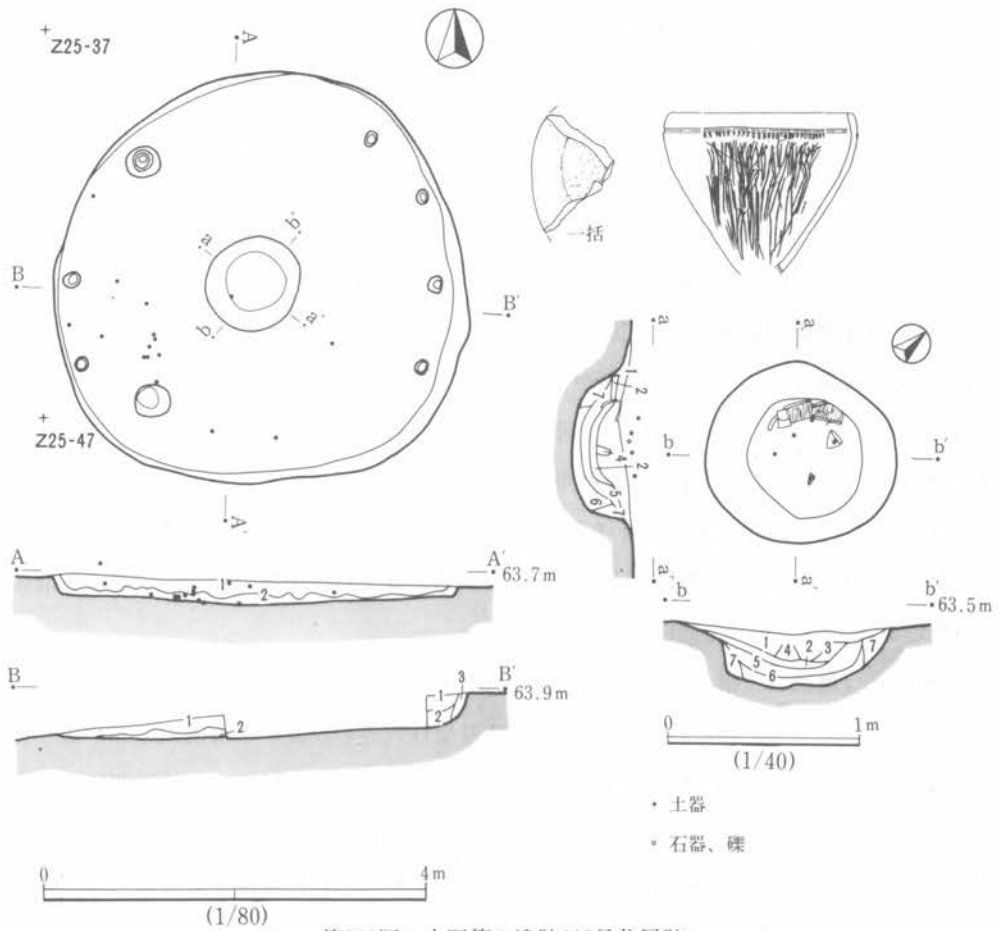
030号住居跡 (遺構 第236図1)

Z25-37から東へ2m、南へ2mに位置する。プランは長軸4.32m、短軸4.28mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは24cmある。ピットは柱穴らしいものが東西壁際に4個づつ検出されている。西側の南北の2個はやや規模が大きく深さも30cm前後ある。後のピットは深さ10cm前後のものばかりである。炉は中央部分から検出されていて埋壘炉風に土器を一部囲ってある。その周辺部はやや硬化した面が観察される。覆土は1. 褐色土ブロック・ローム粒をやや含み堆積がやや粗い暗褐色土。2. ロームブロックをやや含み堆積は密な黒褐色土。3. ロームブロック・ローム粒を多く含む褐色土である。炉の部分の覆土は1. 焼土粒をわずかに含む暗褐色土。2. 焼土粒を多く含む全体に赤い色を呈する暗褐色土。3. 焼土粒・ブロックを少し含む暗褐色土。4. 焼土粒・ブロックを多く含む暗褐色土。5. 焼土粒を少し含む暗褐色土。6. 熱を受けたハードローム部分である黄褐色土。7. 堆積が粗で軟質な暗褐色土である。炉の部分以外の遺物はほとんどなかった。炉の部分は1の浅鉢形土器である。他に36の石皿片が検出されている。比較的長期にわたって使用された縄文時代中期の住居跡である。

105号住居跡 (遺構 第202図 遺物 第236図4・241図25)



第200図 大野第1遺跡001号住居跡



第201図 大野第1遺跡030号住居跡

AB27-45に位置する。プランは径3.50mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは5cmしかない。柱穴は4本柱と考えられる。東側の1本は攪乱のため消失したと思われる。また北側のずれと南側の柱穴が2本あることから住居跡の立替が考えられる。埋甕炉が床面の中央部分から検出されている。また炉の周辺部のみ硬化した痕跡がみられる。覆土は1. ローム粒と黒色土を少し含む堆積がやや粗で軟質な暗褐色土。2. ローム粒を多く含む堆積がやや密な暗褐色土である。炉の部分の覆土は1. 焼土粒・ローム粒・炭化粒をわずかに含む暗褐色土。2. 焼土ブロックを含む暗褐色土。3. ソフトロームブロック主体で暗褐色土を少し含む黄褐色土。4. 焼土粒を多く含む暗褐色土。5. 熱を受けサクサクしている明褐色土である。主な遺物は4の加曾利Eの深鉢の口縁部から胴部にかけての個体と25の磨石斧片がある。比較的長期にわたって使用された縄文時代中期の住居跡である。

106号住居跡（遺構 第203図 遺物 第236図7）

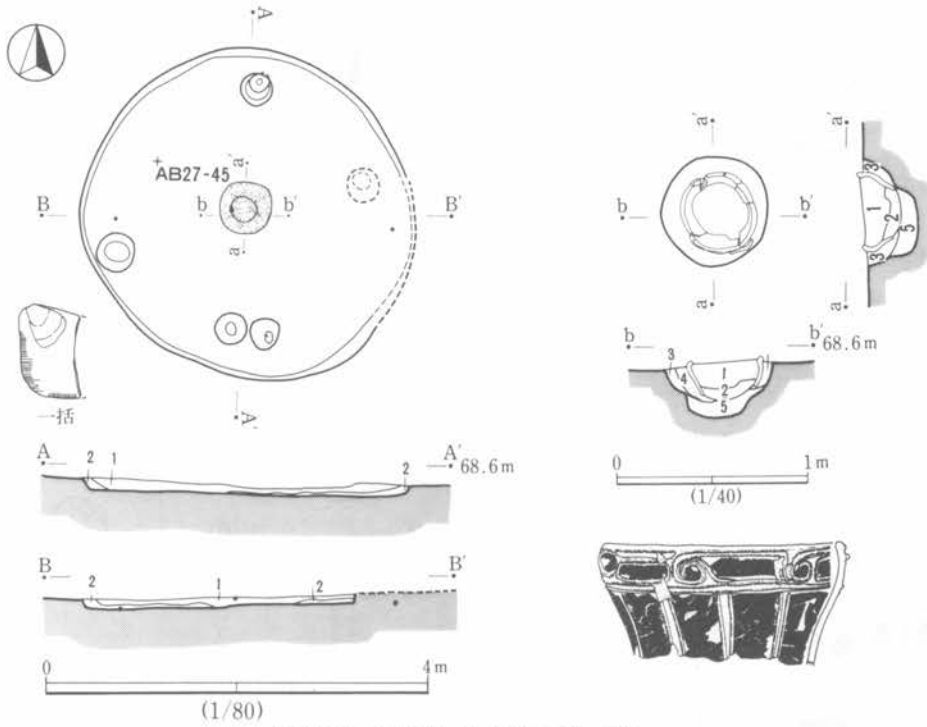
AC26-79に位置する。プランは長軸3.80m、短軸3.43mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは19cmある。ピットは主柱穴と考えられるものはなく小さく浅い壁柱穴が9個認められた。床面の中央部分からは地床炉が検出されている。この炉の周辺部のみ硬化した部分が認められた。覆土は1. ロームをわずかに含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを含む褐色土。4. 黒褐色土である。炉の部分の覆土は1. ロームブロック・焼土粒を少し含む暗褐色土。2. 熱を受けた赤褐色ハードローム層である。遺物は床面中央部とやや北壁よりで比較的大きな破片が多数出土している。7は縄文時代中期の加曾利E式の深鉢形土器の口縁部から胴部にかけての個体である。縄文時代中期の住居跡である。

197（A）号住居跡（遺構 第203図 遺物 第237図14～18）

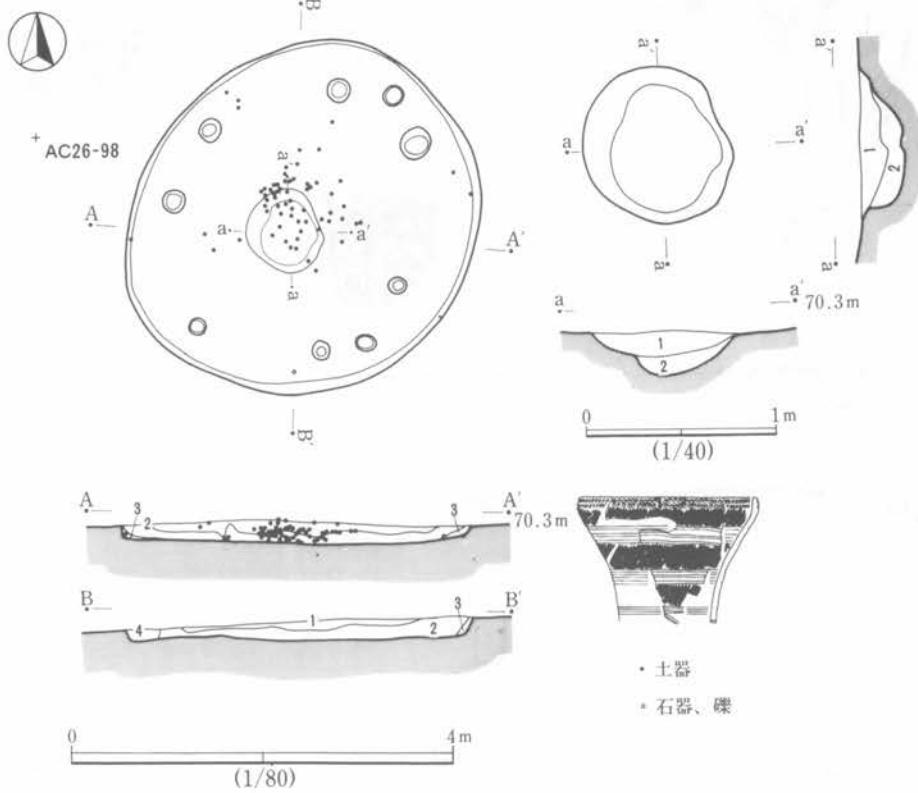
AE27-99に位置する。プランは壁面が全く残っておらず不明である。壁柱穴が巡っているため推定するとおおよそ径6mの円形の住居跡になると思われる。床面もやや削られており一部に硬化面を残すにすぎない。住居跡の範囲と思われるほぼ中程に炉と思われる焼土分布範囲と埋甕が残っている。14～18は住居跡から検出した土器片である。14は大形の深鉢形土器である。他に磨製石斧と打製石斧片と石鏃2点が出土している。縄文時代中期の住居跡である。前後関係は不明である。

197（B）号住居跡（遺構 第204図 遺物237図19～26）

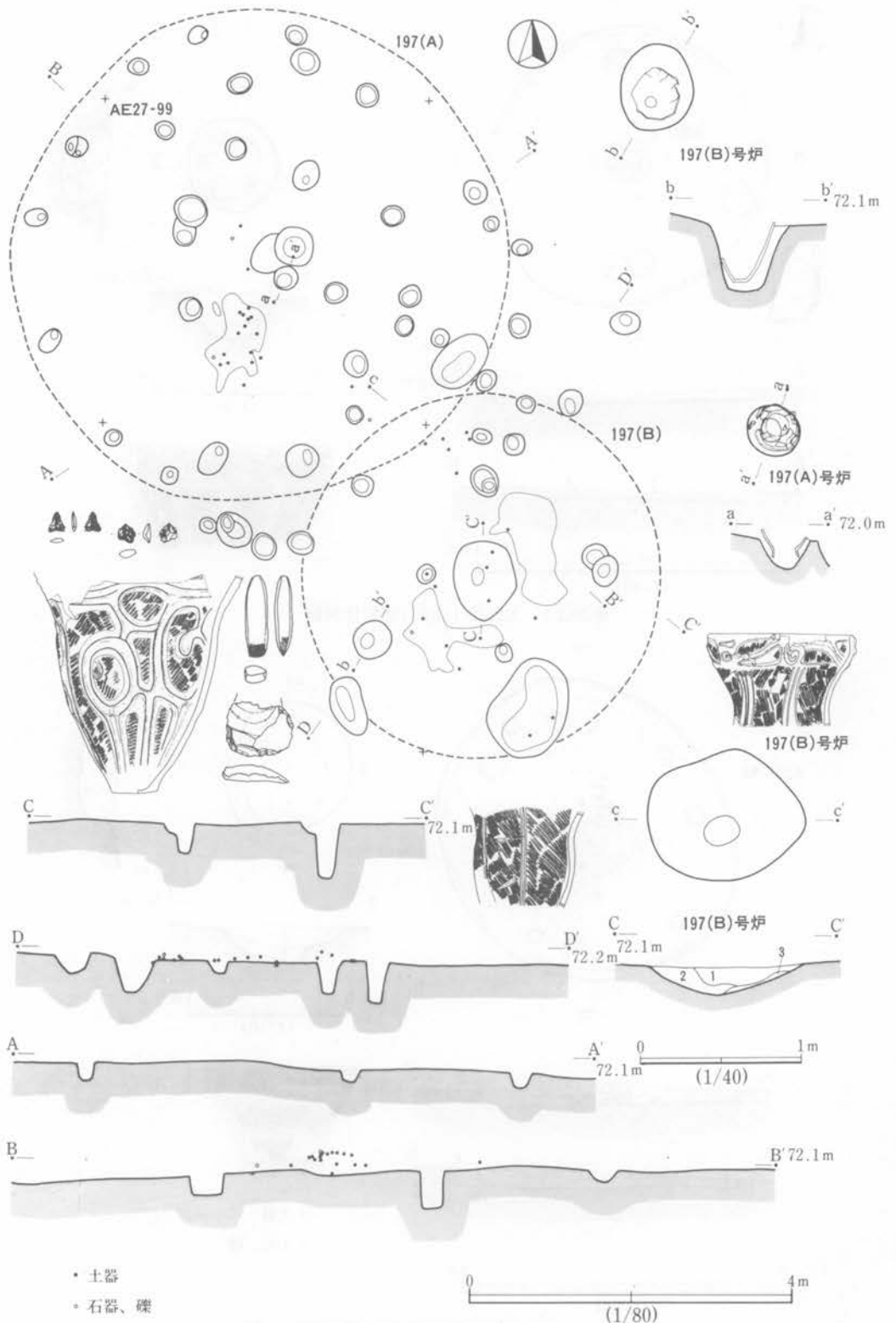
AF28-00に位置する。197（A）の南東側にあり壁柱穴等の位置から遺構の一部が切り合い関係にあると思われるが、同様に壁面を残しておらず不明である。壁柱穴の位置関係から推定するとおおよそ3.4mの円形の住居跡になると思われる。床面もやや削られており一部に硬化面を残すにすぎない。住居跡の範囲と思われるほぼ中程に炉と思われる焼土分布範囲と埋甕が残っている。19・26とも縄文中期の加曾利E式の深鉢の個体である。縄文時代中期の住居跡であ



第202図 大野第1遺跡105号住居跡



第203図 大野第1遺跡106号住居跡



る。

241号住居跡（遺構 第206図 遺物 第238図29～31・241図6・242図31）

A F28-45に位置する。プランは東壁がないため不明だがおおよそ長軸5m、短軸4.6mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは最大12cmある。柱穴は主柱穴と思われるものが炉の南側に2個と北側に4個の壁柱穴らしきものが並ぶ。炉は住居跡のほぼ中央に位置する。土器片で囲った埋甕炉である。床面は硬化した面は検出されていない。覆土は1. ローム粒を少し含みロームブロックを若干含む暗褐色土。2. ローム粒と焼土粒を少し含み堆積がやや疎な暗黄褐色土。3. ソフトローム粒・ロームブロックを若干含む暗褐色土である。炉の部分の覆土は1. 焼土とローム粒が多い暗黄褐色土。2. 灰褐色の砂と焼土を多く含む黒褐色土。3. 焼土粒を多く含みサクサクしている赤褐色土。4. 焼土粒を多く含みサクサクしている赤褐色土。5. ローム粒を含み砂質でしまりがある黒褐色土である。縄文時代中期加曾利E式の深鉢形土器の口縁部と石鏃・磨石が各1点ずつ出土している。縄文時代中期の住居跡である。

244号住居跡（遺構 第206図 遺物 第238図28・第243図40）

Y24-58に位置する。プランは壁が消失しているため不明だが壁柱穴等の位置から推定するとおおよそ径4.7mの円形を呈する。柱穴はやや不揃いで規模、深さともまちまちである。炉は住居跡のほぼ中央に位置し土器片で囲った埋甕炉である。住居跡の覆土は全くない。炉の部分の覆土は1. ローム粒・焼土粒を若干含む暗褐色土。2. 焼土粒を若干含む黒色土。3. 焼土ブロックと灰を少し含む赤褐色土。4. ローム粒を若干含む黒色土。5. ローム粒を少し含む灰褐色土。6. 灰を多く含む灰褐色土。7. 熱を受けサクサクで変色している褐色土。8. 焼土粒・焼土ブロックを多く含む赤色土。9. ローム粒を多く含む黄褐色土である。28は縄文時代中期の土器片で40は凹石の破片である。縄文時代中期の住居跡である。

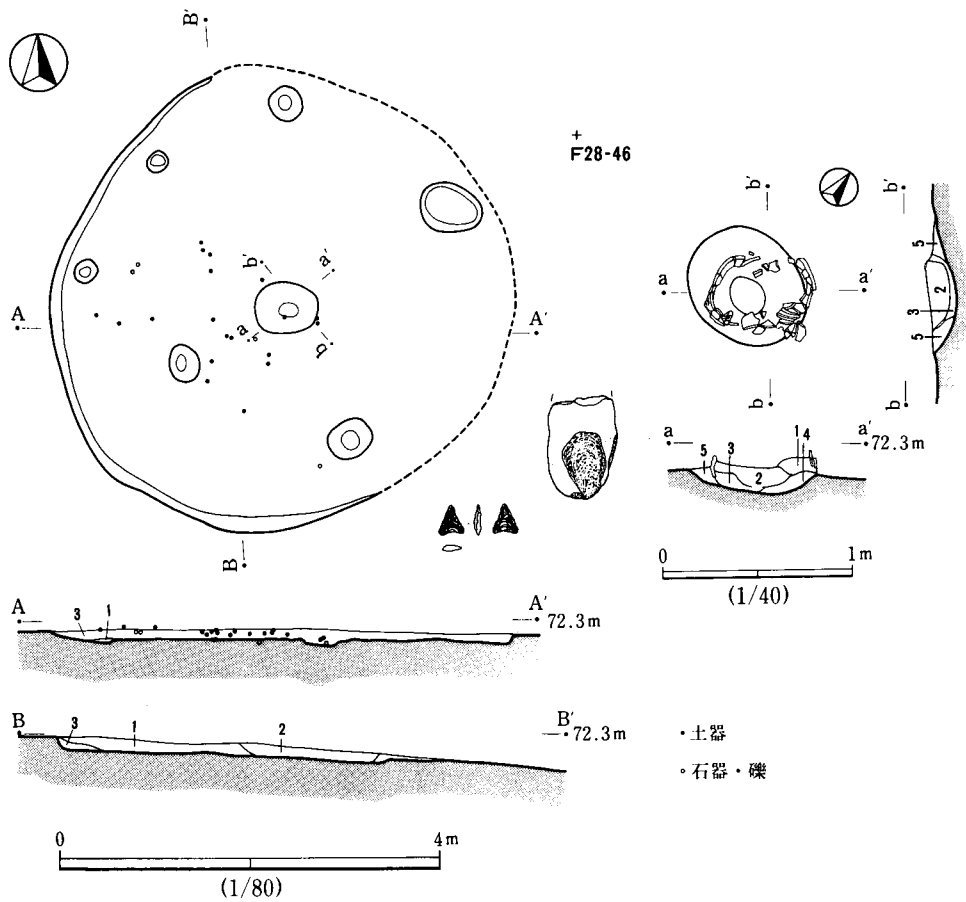
(2) 土坑

002号土坑（遺構 第207図）

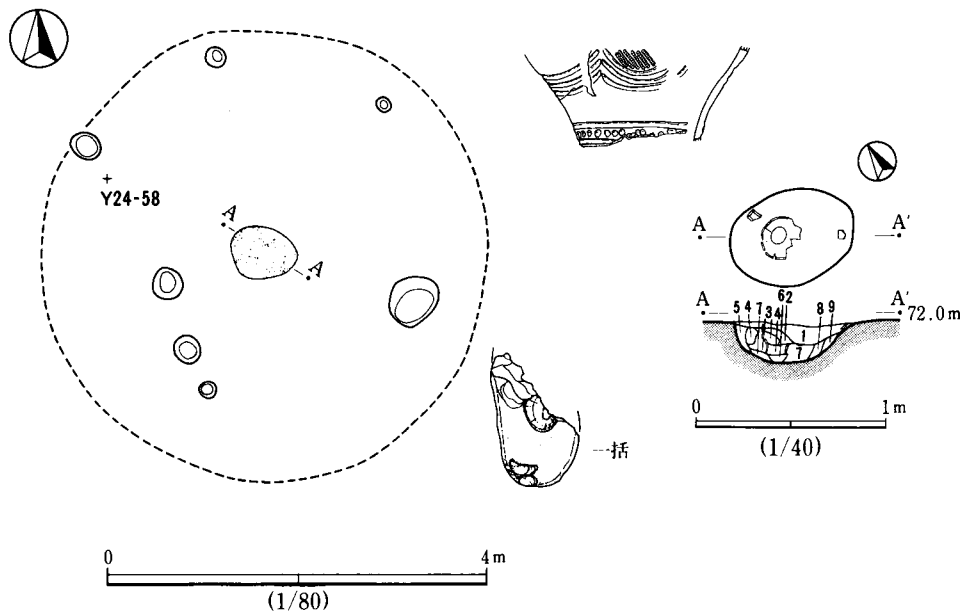
Z23-21から西へ2m、南へ1mに位置し003号によって切られる。本址が古い。元々楕円形に近いプランであったと想像される。検出面から床面までの深さは0.5mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームブロックをやや多く含む暗褐色土。2. 堆積がやや疎な褐色土。3. ソフトロームを多く含む黄褐色土。4. ロームブロックを少し含み堆積がやや疎な褐色土である。遺物も認められず、性格も不明な土坑である。

003号土坑（遺構 第207図）

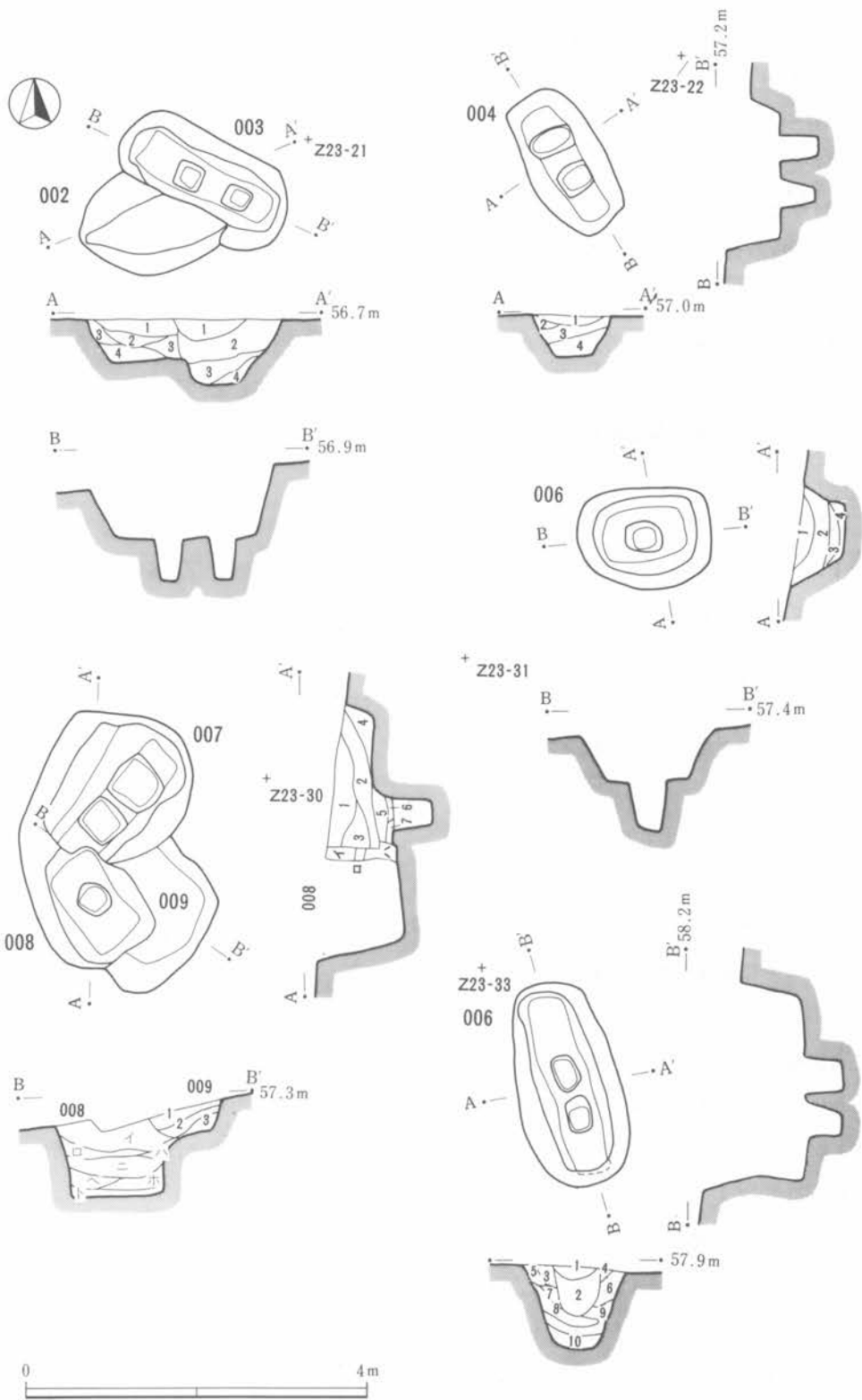
Z23-21から西へ1.5m、南へ0.5mに位置し002号を切っている。新旧関係はこちらが新しい。プランは長軸2.12m、短軸1.04mのやや方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.75mある。床面はほぼフラットで中程に一辺33cmの方形のピットを2個検出している。



第205図 大野第1遺跡241号住居跡



第206図 大野第1遺跡244号住居跡



第207図 大野第1遺跡縄文時代土坑(1)(1/80)

ピットの深さはいずれも0.54mある。覆土は1. ローム粒を少し含む茶褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含む黒色土を少し含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物は認められないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

004号土坑 (遺構 第207図)

Z23-22から西へ1.5m、南へ1mに位置する。005号と近接する。プランは長辺1.78m、短辺0.94mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.5mある。床面はほぼフラットで2か所に方形のピットがある。ピットの深さはいずれも40cm前後ある。覆土は1. 暗褐色土。2. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。3. ローム粒と暗褐色土を含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

005号土坑 (遺構 第207図)

Y23-31から北へ1.5m、東へ2mに位置する。004号と近接する。プランは長軸1.56m、短軸1.18mのやや方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はフラットで中央に一辺40cm前後の方形のピットを持つ。ピットの深さは0.5mある。覆土は1. 褐色土をやや含む粗い暗褐色土。2. 褐色土を多く含む暗褐色土。3. 褐色土をやや含む暗褐色土。4. ローム粒・黒色土粒を含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

006号土坑 (遺構 第207図)

Z23-33から南へ1m、東へ1mに位置する。プランは長軸2.40m、短軸1.22mのやや方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは最大0.94mある。床面はほぼフラットで中央より一辺40cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々40cm前後ある。覆土は1. 黒色土。2. 褐色土を斑に含む黒色土。3. 暗褐色土を含む黒褐色土。4. 暗褐色土を多く含む黒褐色土。5. 暗褐色土を多く含む黒褐色土。6. 暗褐色土を多く含む黒褐色土。7. 暗褐色土。8. 褐色土を斑に含む暗褐色土。9. ローム粒をやや含む暗褐色土。10. ローム粒を多く含むサクサクしている暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

007号土坑 (遺構 第207図)

Y23-39から東へ2mに位置する。008号及び009号と切り合う。007号が最も旧く009号が最も新しい。プランはおおよそ長軸1.90m、短軸0.90mのやや不整な方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.75mある。床面には大きなピットが2個並ぶ。ピットの深さは各々50cm前後ある。覆土は1. ソフトロームブロックを若干含む暗茶褐色土。2. ロームブロックを少し含

みローム粒を若干含む黒褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロック（小）をやや多く含む堆積が粗い褐色土。5. ソフトローム主体の層でロームブロックを多く含む黄褐色土。6. 褐色土を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

008号土坑（遺構 第207図）

Y23-39から東へ2m、南へ1.5mに位置する。プランおおよそは長辺1.42m、短辺1mの方形に近い形を呈する。検出面から床面までの深さは1.04mある。床面は中程に径35cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁は遺構が切り合っているせいか途中までは急激に立ち上がるが開口部に近い部分はやや外反気味に緩く立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを多く含むローム粒を若干含む暗褐色土。2. ソフトロームブロック（小）を若干含む暗褐色土。3. ソフトローム・ハードロームブロックを非常に多く含む明褐色土。4. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. 褐色土・黒色土ブロック・ロームブロックを含み堆積が疎でサクサクした褐色土。6. 堆積がやや密な暗褐色土。7. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

009号土坑（遺構 第207図）

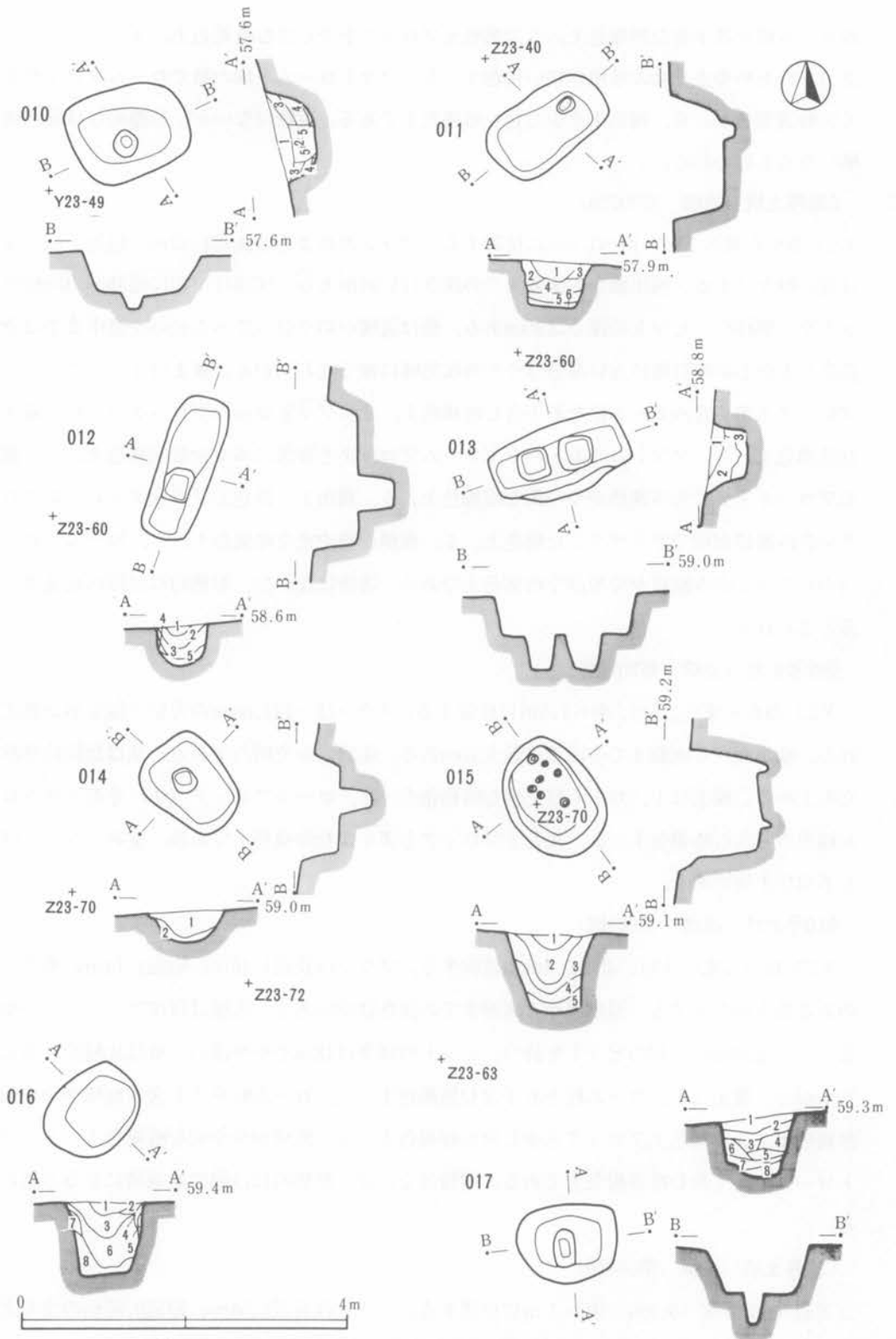
Y23-39から東へ2.5m、南へ1.5mに位置する。プランは一辺1.60mの方形の様な形が想定される。検出面から床面までの深さは最大32cmある。床面はやや凹凸がある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ロームブロック（小）を若干含むローム粒を少し含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土である。遺物もなく、性格も不明な土坑である。

010号土坑（遺構 第208図）

Y23-49から東へ1m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.46m、短辺1.14mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はほぼフラットでやや南よりに一辺30cmの方形のピットを持つ。ピットの深さは18cmでやや浅い。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む堆積がやや密な黒褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. 堆積がやや密な暗褐色土。5. ソフトロームを多く含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

011号土坑（遺構 第208図）

Z23-40から東へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.56m、短辺0.87mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで北壁



第208図 大野第1遺跡縄文時代土坑(2)(1/80)

付近に径20cm前後の円形ピットを持つ。ピットの深さは15cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 堆積がやや密な黒褐色土。2. ローム粒と褐色土ブロックが若干含まれる暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒をわずかに含む堆積が密な暗褐色土。6. ローム小ブロックを非常に多く含む堆積が疎でサクサクな明黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

012号土坑 (遺構 第208図)

Z23-60から東へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.80m、短辺0.66mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.5mある。床面はやや壁に向かって緩やかに上り傾斜し壁は比較的急激に立ち上がる。中程には一辺45cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは0.5mある。覆土は1. ローム粒をやや含む黒褐色土。2. 褐色土を多く含む暗褐色土。3. 褐色土を多く含む密な暗褐色土。4. 褐色土。5. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

013号土坑 (遺構 第208図)

Z23-60から東へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.74m、短辺0.90mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はほぼフラットで一辺40cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは40cmある。覆土は1. 暗褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。2. 黒色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積が密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

014号土坑 (遺構 第208図)

Z23-70から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.24m、短辺0.96mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はほぼフラットで中程に径30cmの円形ピット1個持つ。ピットの深さは20cmある。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。2. ローム小ブロックを若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

015号土坑 (遺構 第208図)

Z23-70に位置する。プランは長軸1.48m、短軸1.12mの方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.96mある。床面はほぼフラットだが7個の逆茂木を立てたと思われる小ピットを検出している。いずれも深さは10cm前後である。覆土は1. 黒色土。2. 暗褐色土。3. ローム粒をやや含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む暗褐色土。5. ローム粒とロームブロックを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

016号土坑 (遺構 第208図)

Z23-72から東へ2m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.20m、短軸0.96mの方形に近

い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.87mある。床面はほぼフラットである。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む黒色土をやや含む褐色土。2. ローム粒をやや含む暗褐色土。3. ローム粒及び褐色土を多く含む黒褐色土。4. 褐色土を多く含む暗褐色土。5. 褐色土。6. ローム粒をやや含む暗褐色土。7. ロームブロック主体の明褐色土。8. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

017号土坑 (遺構 第208図)

Z23-63から東へ1.5m、南へ2.5mに位置する。プランは長軸1.23m、短軸0.94mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はやや北側が高くなっている。南壁に寄った位置にピットを持つ。ピットの深さは38cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土を斑に含む黒褐色土。2. ローム粒をやや含む黒褐色土。3. 褐色土とローム粒をやや含む黒褐色土。4. 褐色土を斑に含む暗褐色土。5. ローム粒をやや含む黒褐色土。6. ローム粒を多く含む暗褐色土。7. ローム粒を多く含む堆積が密な暗褐色土。8. ローム粒が主体の褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

018号土坑 (遺構 第209図)

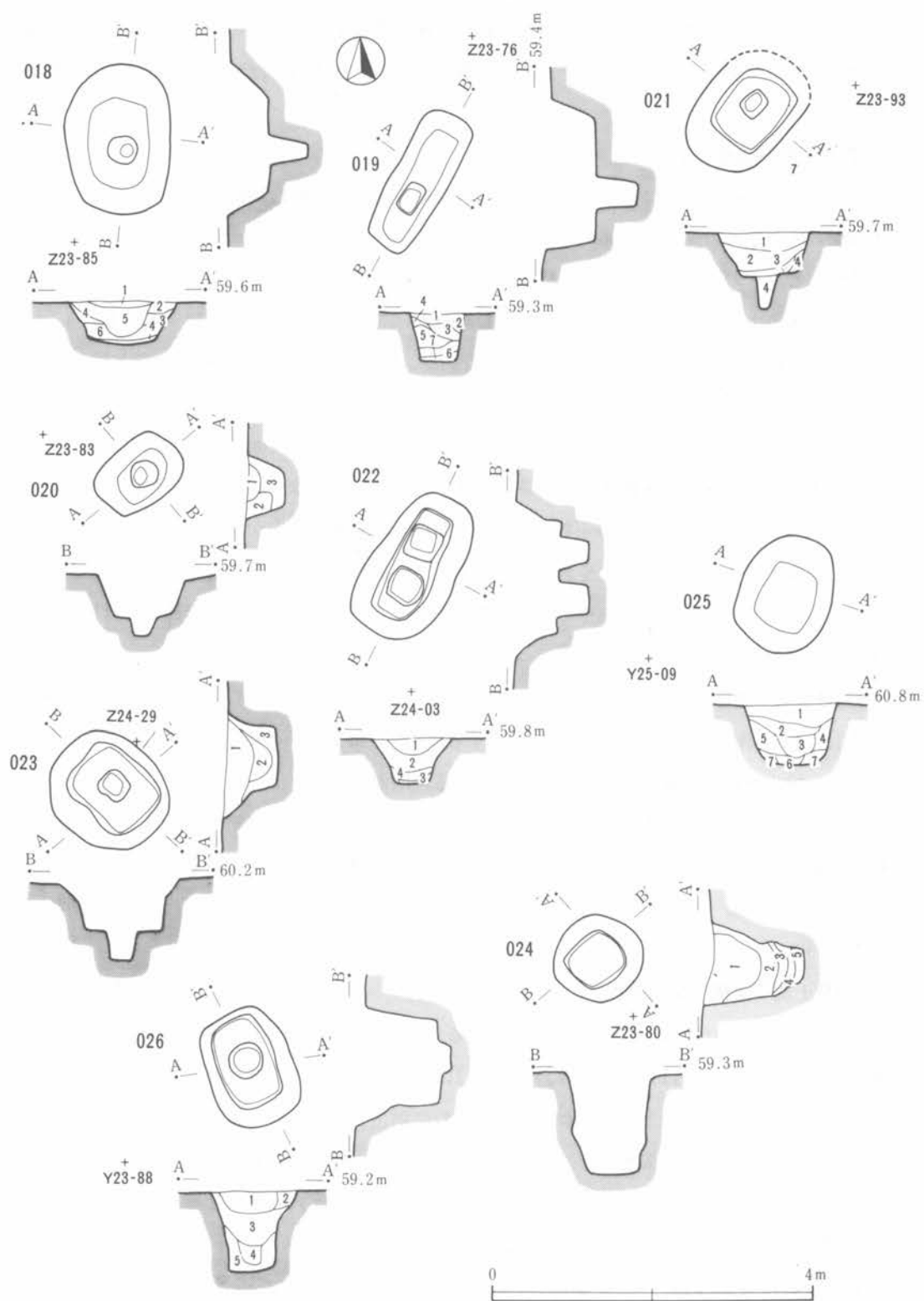
Z23-85から東へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.93m、短軸1.32mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.55mある。床面はほぼフラットで中程に径36cmの円形のピットを持つ。ピットの深さは47cmある。壁は比較的斜めに傾斜して立ち上がる。覆土は1. 黒色土。2. 黒褐色土。3. ローム粒をやや含む黒褐色土。4. 暗褐色土。5. 褐色土を斑に含むローム粒をやや含む黒褐色土。6. ローム粒をやや含む黒褐色土。7. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物は少ないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

019号土坑 (遺構 第209図)

Z23-76から南へ2m、西へ1mに位置する。プランは長辺1.89m、短辺0.68mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで南よりに方形のピットを持つ。ピットの深さは0.55mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 黒色土。2. ロームを多く含む暗褐色土。3. 黒褐色土。4. ロームブロック主体の明褐色土。5. ローム粒をやや含む黒褐色土。6. ローム粒を多く含む暗褐色土。7. ロームブロックを多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

020号土坑 (遺構 第209図)

Z23-83から東へ1m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.10m、短辺0.80mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは47cmある。床面はほぼフラットで中程に径35cmの円形のピットを持つ。ピットの深さは0.5mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土と



第209図 大野第1遺跡縄文時代土坑(3)(1/80)

ローム粒をやや含む黒褐色土。2. ローム粒が主体で黒色土を含む明褐色土。3. 褐色土を斑に含みローム粒をやや含む黒色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

021号土坑（遺構 第209図）

Z23-93から西へ1.5mに位置する。プランは長軸1.68m、短軸1.12mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで中程に一辺34cmの方形のピットを持つ。ピットの深さは40cmある。壁はやや斜めに傾斜して立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒褐色土。2. 大粒のローム粒を含む褐色土。3. 褐色土をやや含む黒褐色土。4. 大粒のローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

022号土坑（遺構 第209図）

Z24-03から北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.91m、短辺1.06mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面には一辺40cmの方形のピットが2個並ぶ。ピットの深さは各々40cmある。壁は床面近くは急激で途中からやや外反しながら立ち上がる。覆土は1. 褐色土をやや含む暗褐色土。2. 褐色土を多く含む暗褐色土。3. 粗く柔らかい暗褐色土。4. 褐色土をやや含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

023号土坑（遺構 第209図）

Z24-24から南へ0.5m、西へ0.5mに位置する。プランは長軸1.49m、短軸1.31mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.61mある。床面はフラットで中程に一辺34cm前後の方形のピットを持つ。ピットの深さは40cmある。壁は南側がやや崩れて斜めに立ち上がる他は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. 堆積がやや疎な黒色土。3. ローム粒・ロームブロックを黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

024号土坑（遺構 第209図）

Z23-80から北へ0.5m、西へ0.5mに位置する。プランはほぼ径1.10mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.26mある。床面はほぼフラットである。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土粒とソフトローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土。3. 褐色土を斑に含む暗褐色土。4. ゴロゴロしたローム粒を含む褐色土。5. ゴロゴロしたローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

025号土坑（遺構 第209図）

Y25-09から北へ1m、東へ1.5mに位置する。プランは長軸1.50m、短軸1.14mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.75mある。床面はほぼフラットである。壁は比較的急

激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。2. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。3. ローム粒を含む黒色土。4. 堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒を多く含む暗褐色土。6. ローム粒を含む堆積が疎な黒褐色土。7. ソフトロームブロック・ロームブロックが少し含む堆積が疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

026号土坑（遺構 第209図）

Y23-88から東へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.44m、短辺1.09mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1mある。床面はほぼフラットである。中程には径44cmの円形のピットがある。ピットの深さは10cmでやや浅い。壁は比較的急激に立ち上がるがやや開口部付近で外に広がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックを若干含む褐色土。3. ロームブロックを少し含む堆積がやや密な暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

027号土坑（遺構 第210図）

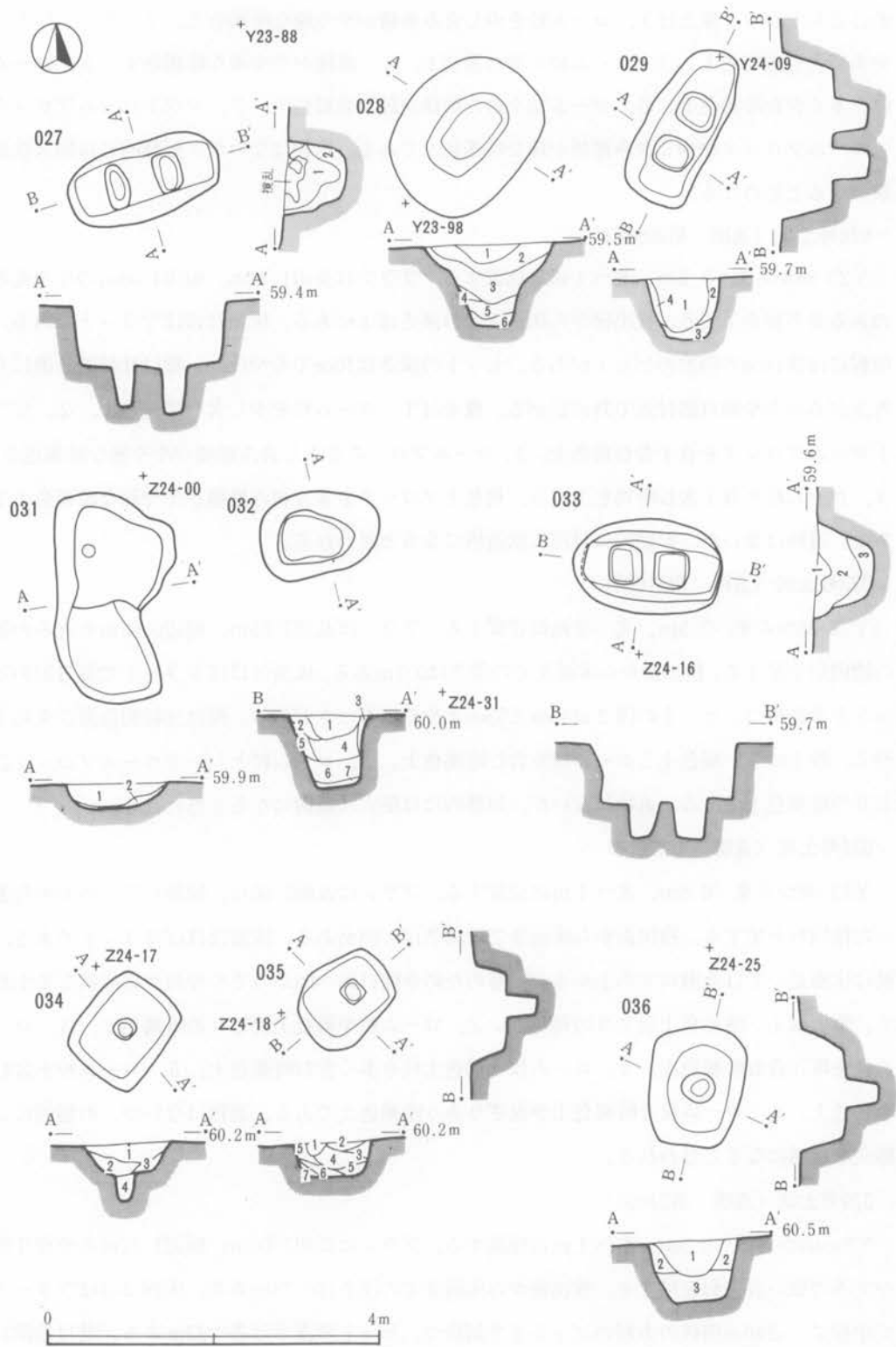
Y23-88から東へ2.5m、北へ2mに位置する。プランは長辺1.86m、短辺0.92mの丸みの強い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.7mある。床面はほぼフラットで長方形のピットを2個持つ。ピットの深さは45cmと55cmとややばらつきがある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土とローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒とハードロームブロック混じりの暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

028号土坑（遺構 第210図）

Y23-98から東へ0.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸2.00m、短軸1.57mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.98mある。床面はほぼフラットである。壁は床面近くでは急激に立ち上がるが崩落のためか開口部へ向かってやや斜めに傾斜して上がる。覆土は1. 暗褐色土混じりの褐色土。2. ローム粒や褐色土混じりの暗褐色土。3. ローム粒を斑に含む暗褐色土。4. ローム粒と褐色土粒を多く含む暗褐色土。5. ローム粒を含む暗褐色土。6. ローム粒と暗褐色土が混ざりあう暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

029号土坑（遺構 第210図）

Y24-09から西へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長辺2.00m、短辺1.57mのやや片側が丸みの強い長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.73mある。床面はほぼフラットで中程に一辺40cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々23cmある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土とローム粒を斑に含む暗褐色土。2. 褐色土とローム粒を多く



第210図 大野第1遺跡縄文時代土坑(4)(1/80)

含み小粒で軟質な褐色土。3. ローム粒を含む暗褐色土。4. ローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

031号土坑（遺構 第210図）

Y24-00から西へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長方形に近い不整形で最大2.52mあり検出面から床面までの深さは28cmある。床面は北側にかなり凹凸がみられる。壁は東側ではやや緩やかに立ち上がるが西側では比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土を含む黒褐色土。2. 暗褐色土とローム粒を多く含む黒褐色土である。遺物もなく、形態も不整のため性格は不明である。

032号土坑（遺構 第210図）

Y24-31から西へ1.5m、北へ2mに位置する。プランは長軸1.48m、短軸0.99mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.85mある。床面はほぼフラットである。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや含み小粒で軟質な暗褐色土。2. 褐色土を多く含みローム粒をやや含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土。4. 褐色土を斑に含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含む褐色土。6. ローム粒をやや含む暗褐色土。7. ロームブロック主体の暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

033号土坑（遺構 第210図）

Z24-16から北へ1mに位置する。プランは長軸1.78m、短軸1.14mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.68mある。床面はほぼフラットで中程に一辺40cm前後の方形のピットを2個持つ。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 黒色土。2. 褐色土ブロックをやや多く含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含み堆積が密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

034号土坑（遺構 第210図）

Z24-17から南へ1mに位置する。プランは長辺1.26m、短辺1.04mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは35cmある。床面はほぼフラットでほぼ中央に径25cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒とソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒を含む暗褐色土。4. ローム粒を含み堆積がやや疎でサクサクな暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

035号土坑（遺構 第210図）

Z24-18から東へ0.5mに位置する。プランは長辺1.22m、短辺0.94mのやや崩れた長方形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmある。床面はほぼフラットでほぼ中央に一辺25cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは38cmある。壁は南側でやや緩やかな他はほぼ垂直に

立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を若干含む黒色土。2. ソフトローム粒を少し含む黒褐色土。3. ソフトローム粒を含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む堆積がやや密な暗褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。6. 堆積がやや疎な黒色土。7. ロームブロックをやや多く含む黒色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

036号土坑（遺構 第210図）

Z 24-28から南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.42m、短辺1.12mのやや台形状に広がった長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで中央に径40cm前後の円形のピットがある。ピットの深さは40cmある。壁は全体にやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒・ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積がやや密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

037号土坑（遺構 第211図）

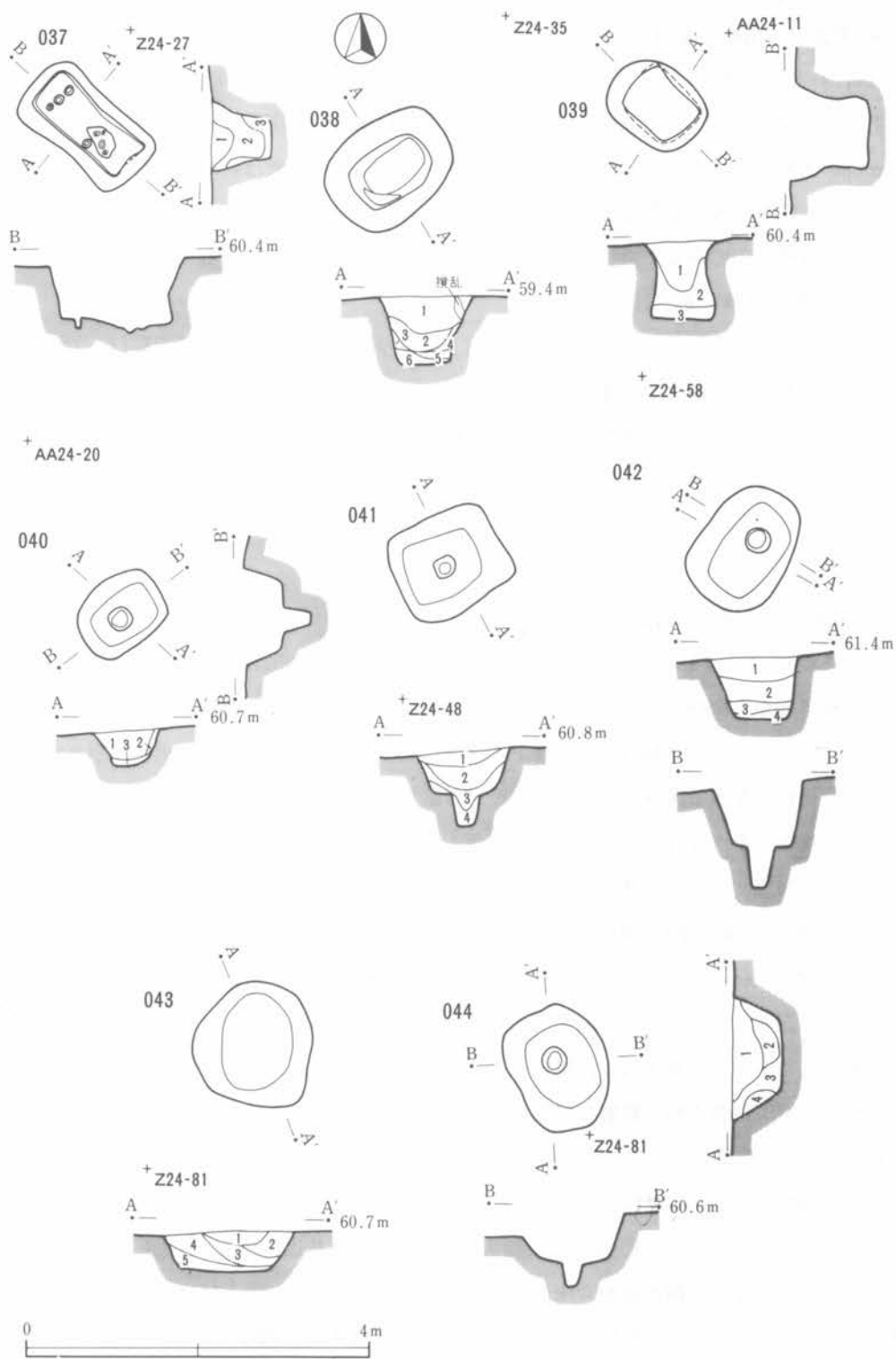
Z 24-27から西へ0.5m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.60m、短辺0.80mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.7mある。床面には7個の小ピットがある。いずれも深さ10cm程で浅い。逆茂木を立てていた痕跡であろう。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. 褐色土ローム粒を若干含む暗褐色土。3. 褐色土を多く含む堆積がやや密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

038号土坑（遺構 第211図）

Z 24-35から西へ1.5m、南へ2 mに位置する。プランは長軸1.55m、短辺1.18mのやや方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.8mある。床面はほぼフラットである。壁はやや開口部に向かって開き気味に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや多く含む黒色土。2. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な黒色土。3. ハードロームブロックを若干含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックをやや含む堆積がやや密な暗褐色土。5. 堆積が疎な褐色土。6. ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。7. ロームブロックを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

039号土坑（遺構 第211図）

AA 24-11から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.16m、短辺0.92mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.9mある。床面はほぼフラットで壁は床面近くがオーバーハングして中程でやや内傾して開口部へやや開き気味に立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土をやや含む黒褐色土。2. 暗褐色土・ロームブロックを含む黒褐色土。3. ロー



第211図 大野第1遺跡縄文時代土坑(5)(1/80)

ム粒を多く含む軟質な褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

040号土坑（遺構 第211図）

A A24-20から東へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺1.07m、短辺0.82mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは41cmある。床面はほぼフラットで中程に一辺26cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや含む黒色土。2. ソフトロームブロックを含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

041号土坑（遺構 第211図）

Z24-48から東へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.30m、短辺1.14mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はほぼフラット中程に一辺24cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは34cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 疎で軟質な黒褐色土。2. 暗褐色土とローム粒をやや含む黒褐色土。3. 褐色土とローム粒を含む暗褐色土。4. ロームブロックを含む褐色土。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

042号土坑（遺構 第211図）

Z24-58から東へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸0.97mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは73cmある。床面はほぼフラットでやや北側に寄った部分に径27cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは48cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土を多く含むローム粒をやや含む暗褐色土。2. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。3. 褐色土を多く含むやや軟質な暗褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

043号土坑（遺構 第211図）

Z24-81から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは径1.50m前後のやや不整な円形に近い形をしている。検出面から床面までの深さは47cmある。床面はほぼフラットである。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土を含む暗褐色土。2. ソフトローム主体の明褐色土。3. 褐色土を斑に含む粗く軟質な暗褐色土。4. 褐色土とローム粒を含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

044号土坑（遺構 第211図）

Z24-81から西へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.46m、短辺1.12mのやや丸みの強い方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面はほぼフラットで中程に径30cmの円形のピットを1個持つ。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 黒褐色土・ソフトローム粒を斑に含む暗褐色土。2. ソフトローム粒をやや含む黒褐色土。3. 褐色土とソフトロ

ーム粒を多く含む暗褐色土。4. ソフトローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

045号土坑 (遺構 第212図)

Z24-81から西へ2m、北へ0.5mに位置する。044号に隣接し045号の方がやや新しい。プランは長軸2.04m、短軸1.54mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.95mある。床面に大きな方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々45cmありやや深い。壁はやや崩落したためか斜めに立ち上がる。覆土は1. 黒褐色土。2. 褐色土を斑に含む暗褐色土。3. 褐色土を多く含む軟質な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

046号土坑 (遺構 第212図)

Z24-71から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは調査時に掘りすぎたためやや変形しているが長辺1.32m、短辺1.08mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットである。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土とローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒を含みやや軟質な暗褐色土。3. 暗褐色土とローム粒を含む褐色土。4. ローム粒を含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

047号土坑 (遺構 第212図)

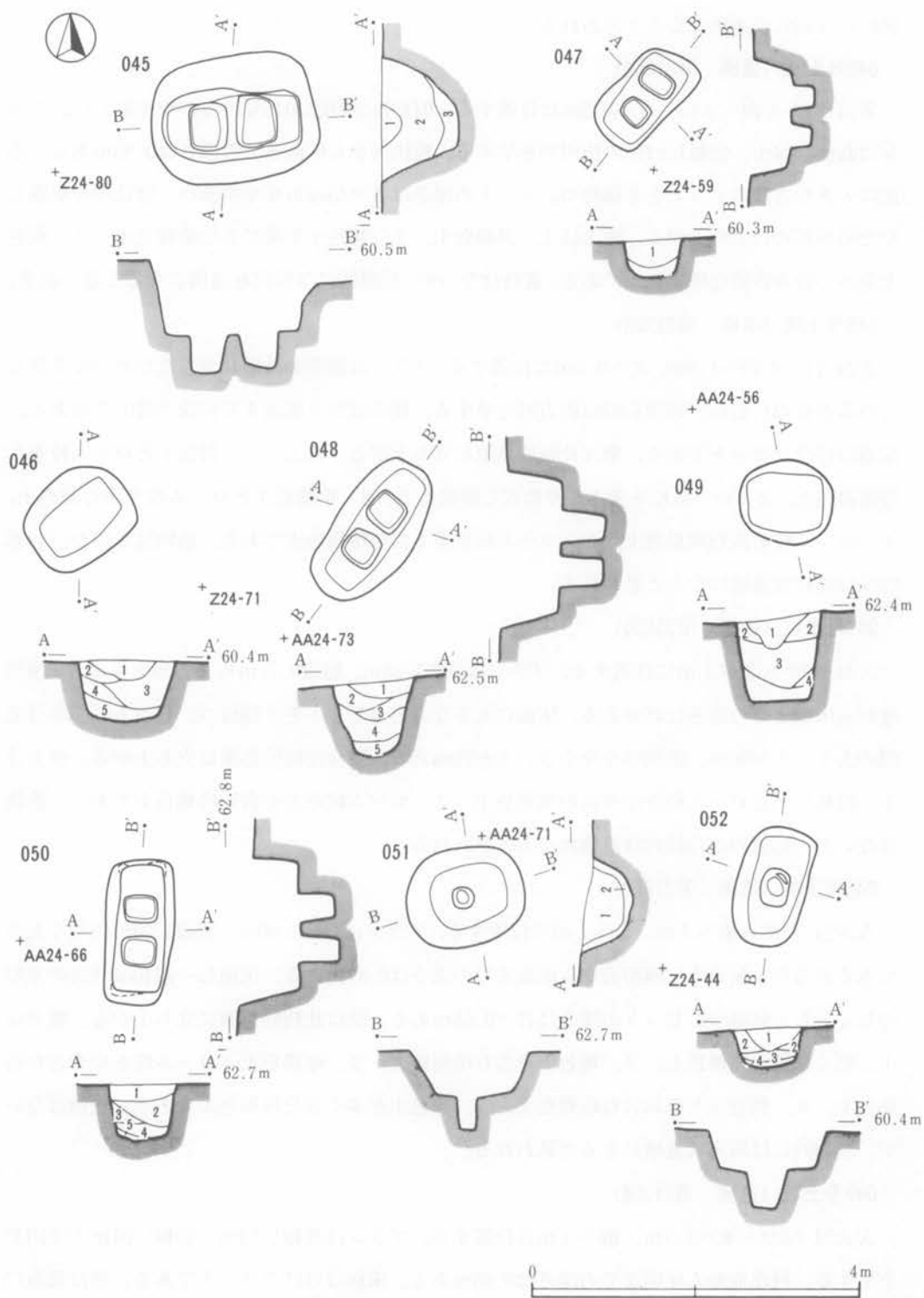
Z24-59から北へ1mに位置する。プランは長辺1.38m、短辺0.72mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面に大きな方形のピットを2個持つ。ピットの深さは北側の大きい方が30cm、南側のやや小さい方が25cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土とローム粒をやや含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

048号土坑 (遺構 第212図)

AA24-73から東へ1m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.90m、短辺1.00mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.87mある。床面に一辺40cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.55mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 粗く軟質な黒褐色土。2. 褐色土を含む暗褐色土。3. 暗褐色土とローム粒をやや含む暗褐色土。4. 褐色土を斑に含む暗褐色土。5. 褐色土を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

049号土坑 (遺構 第212図)

AA24-56から東へ1.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.14m、短軸1.01mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.98mある。床面はほぼフラットである。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土を含む黒褐色土。2. 褐色土とローム粒を斑に含む軟質な暗



第212図 大野第1遺跡縄文時代土坑(6)(1/80)

褐色土。3. ローム粒をやや含む暗褐色土。4. ゴロゴロしたロームブロック主体の明褐色土。
5. ローム粒を含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

050号土坑（遺構 第212図）

A A24-66から東へ1.5mに位置する。プランは長辺1.74m、短辺0.82mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.7mある。床面に一辺40cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.5mある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや含み粗で軟質な黒色土。2. 褐色土をやや含み密で硬質な黒色土。3. 暗褐色土を斑に含む黒褐色土。4. 暗褐色土とローム粒を斑に含む黒褐色土。5. ローム粒をやや含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

051号土坑（遺構 第212図）

A A24-71から南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.46m、短軸1.16mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.57mある。床面はほぼフラットで中央に径18cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土をやや含む黒褐色土。2. 褐色土を多く含みソフトローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

052号土坑（遺構 第212図）

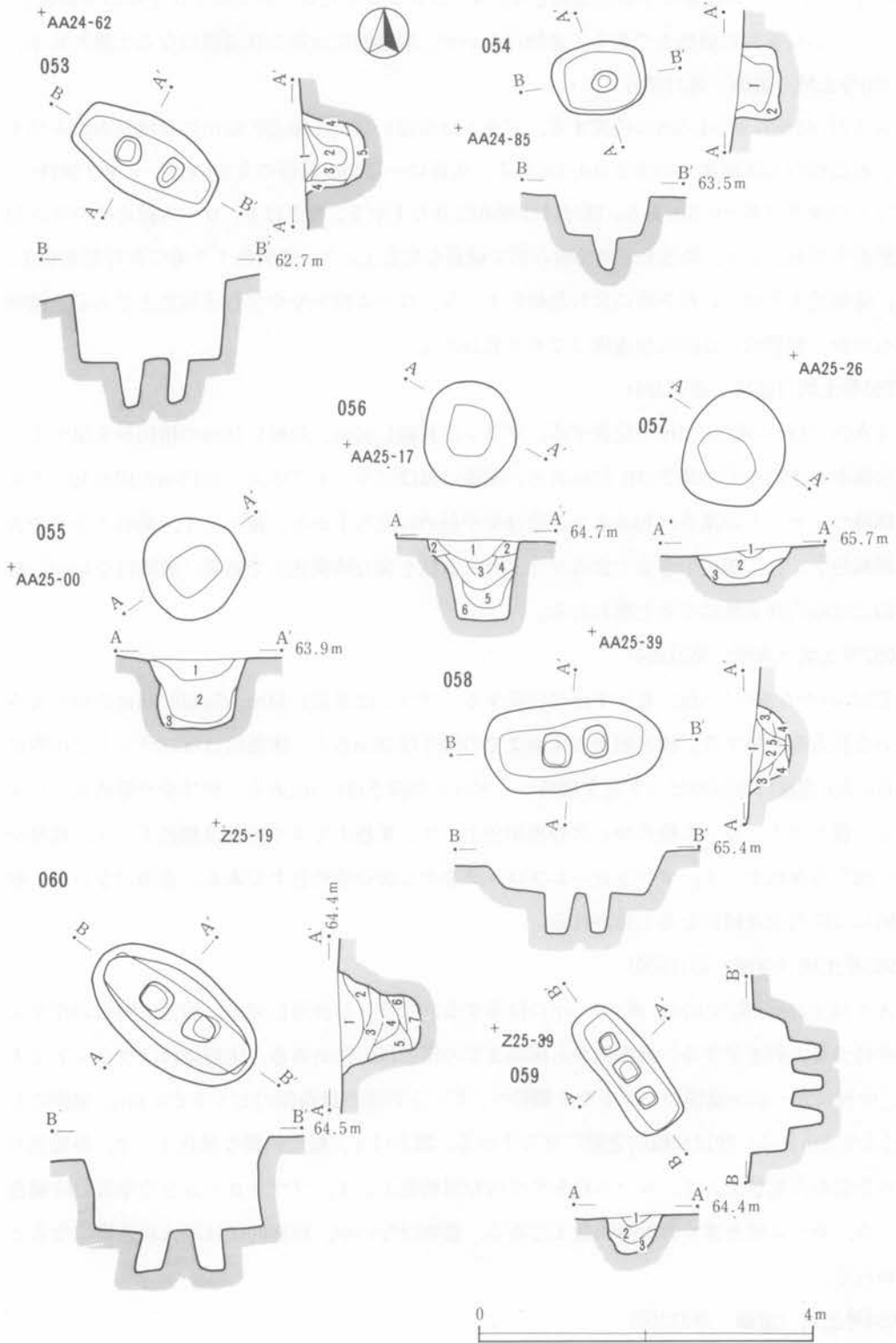
Z 24-44から東へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.44m、短辺0.86mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はほぼフラットで中程に一辺0.5m前後の方形のピットを1個持つ。ピットの深さは0.5mある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. 褐色土を多く含む暗褐色土。3. 堆積がやや疎な黒褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

053号土坑（遺構 第213図）

A A24-62から東へ1m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.82m、短辺0.98mのやや丸みを持つ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.75mある。床面はほぼフラットである。中程に20～40cm規模のピットを2個持つ。ピットの深さは西側のピットが0.6m、東側のピットが0.5mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 粗で軟質な黒色土。2. 茶褐色ロームを含む黒褐色土。3. ローム粒をやや含む黒褐色土。4. ソフトロームをやや含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

054号土坑（遺構 第213図）

A A24-85から東へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.12m、短辺0.89mのやや丸



第213図 大野第1遺跡縄文時代土坑(7)(1/80)

みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットでほぼ中央に径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はほぼ垂直に立ちあがる。覆土は1. 粗で軟質の黒褐色土。2. 褐色土とソフトロームを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

055号土坑（遺構 第213図）

A A 25-00から東へ2 mに位置する。プランは径1.18mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.82mある。床面はほぼフラットである。壁は開口部付近でやや外反する。覆土は1. 焼土ブロックをやや含む黒褐色土。2. ソフトロームブロックを斑に含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

056号土坑（遺構 第213図）

A A 25-17から東へ1.5mに位置する。プランは長軸1.24m、短軸1.10mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.94mある。床面はほぼフラットである。壁は開口部付近でやや外反する。覆土は1. ローム粒をやや含む暗褐色土。2. ロームブロックを多く含む暗褐色土。3. 焼土ブロックを多く含む黒褐色土。4. ローム粒を若干含む黒褐色土。5. ロームブロックをやや含む黒褐色土。6. ロームブロックとローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

057号土坑（遺構 第213図）

A A 25-36から西へ0.5m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.37m、短軸1.22mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは38cmある。床面はほぼフラットである。壁は全体にやや緩やかに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ロームブロック・ローム粒を非常に多く含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態は056号等と似ているので陥穴状遺構と考えてもよさそうであるが余りに浅いので疑問が残る。

058号土坑（遺構 第213図）

A A 25-23から南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.14m、短軸1.00mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmある。床面に30cm～40cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは東側のものが0.5m、西側のものが0.55mある。壁は比較的緩やかに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を若干含む褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. 褐色土ブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

059号土坑（遺構 第213図）

Z 25-39から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.69m、短辺0.68mの長方形を

呈する。検出面から床面までの深さは44cmある。床面はほぼフラットで中程に一辺25cm前後の方形ピットを3個持つ。ピットの深さは南の2個は40cm、北側のものは35cmある。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. 粗で軟質な黒褐色土。2. ソフトローム粒をやや含む暗褐色土。3. ソフトローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

060号土坑（遺構 第213図）

Z25-19から西へ0.5m、南へ2.5mに位置する。プランは長軸2.20m、短軸1.24mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.97mある。床面はほぼフラットで中程に一辺34cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.5mある。壁は床面近くで急激に立ち上がり開口部付近でやや外反する。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む黒色土。4. ローム粒を少し含む黒色土。5. 褐色土ブロックを少しロームブロックを若干含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含むロームブロックを若干含む堆積がやや疎な暗褐色土。7. ローム粒を若干含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

061号土坑（遺構 第214図）

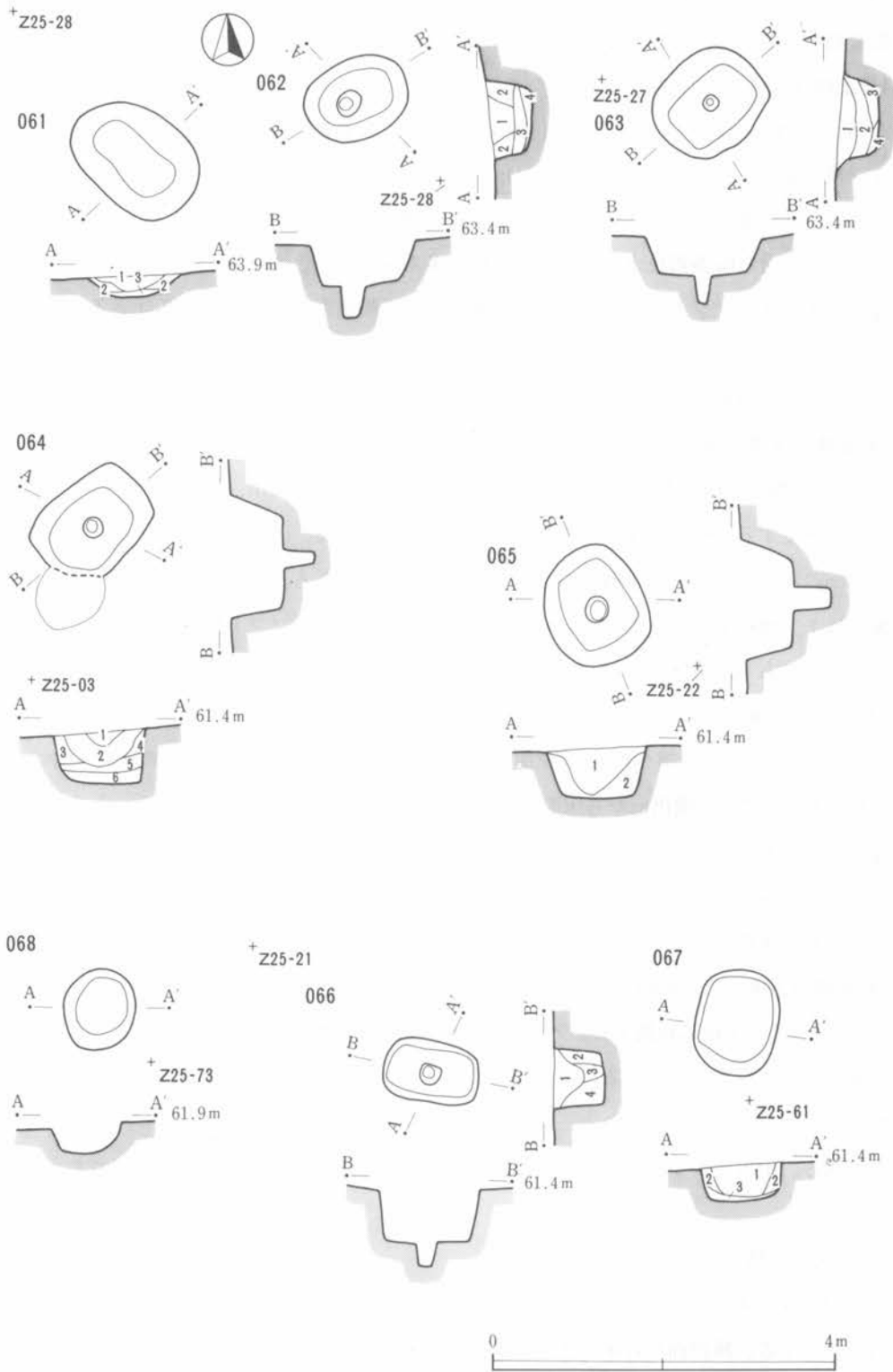
Z25-28から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.60m、短軸1.10mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは24cmある。床面はやや凹凸がみられ壁も緩やかに立ち上がる。覆土は1. 褐色土と黒褐色土をやや含む暗褐色土。2. 褐色土を多く含む暗褐色土。3. ソフトロームが主体で暗褐色土をやや含む褐色土である。遺物も少なく性格も不明な土坑である。

062号土坑（遺構 第214図）

Z25-28から西へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.22m、短軸0.92mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットでやや南に寄った部分に径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは36cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ロームブロックをわずかに含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

063号土坑（遺構 第214図）

Z25-27から東へ1.5mに位置する。プランは長軸1.34m、短軸1.14mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは45cmある。床面はほぼフラットで中央部分に径18cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ロームブロックとローム粒を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを



第214図 大野第1遺跡縄文時代土坑(8)(1/80)

やや多く含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含みローム粒を若干含む堆積がやや疎な暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

064号土坑（遺構 第214図）

Z 25-03から東へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.42m、短辺1.04mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.61mある。床面はほぼフラットで中央部分に径22cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは35cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗茶褐色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. ロームブロックを多く含む褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。5. ロームブロックを若干含む黒褐色土。6. ロームブロックを少し含む堆積がやや疎な黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

065号土坑（遺構 第214図）

Z 25-22から西へ1 m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.35m、短軸1.18のやや方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面はほぼフラットで中央部分に径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土とソフトロームをやや含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含むやや軟質な褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

066号土坑（遺構 第214図）

Z 25-21から東へ2 m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.14m、短辺0.69mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.6mある。床面はほぼフラットで中央部分に径22cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. やや締まりがない暗褐色土。2. 褐色土をやや含む暗褐色土。3. 褐色土とローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

067号土坑（遺構 第214図）

Z 25-61から北へ1 mに位置する。プランは長軸1.21m、短軸0.96mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは43cmある。床面はほぼフラットで壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒を含む褐色土である。土器片が1点出土している。ピットを持たないタイプの陥穴状遺構と考えられる。

068号土坑（遺構 第214図）

Z 25-73から西へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸0.92m、短軸0.84mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは30cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックを含み

堆積がやや疎な暗褐色土。3. ロームブロックをやや多く含む暗褐色土である。遺物もなく性格も不明な土坑である。

069号土坑（遺構 第215図）

Z25-83から東へ2m、南へ2mに位置する。プランは長辺1.44m、短辺0.89mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はやや壁に向かって緩やかに上がっている。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 粗で軟質の暗褐色土。2. ソフトロームをやや含みやや軟質な暗褐色土。3. ソフトローム粒を多く含む褐色土である。ピットを持たないタイプの陥穴状遺構と考えられる。

070号土坑（遺構 第215図）

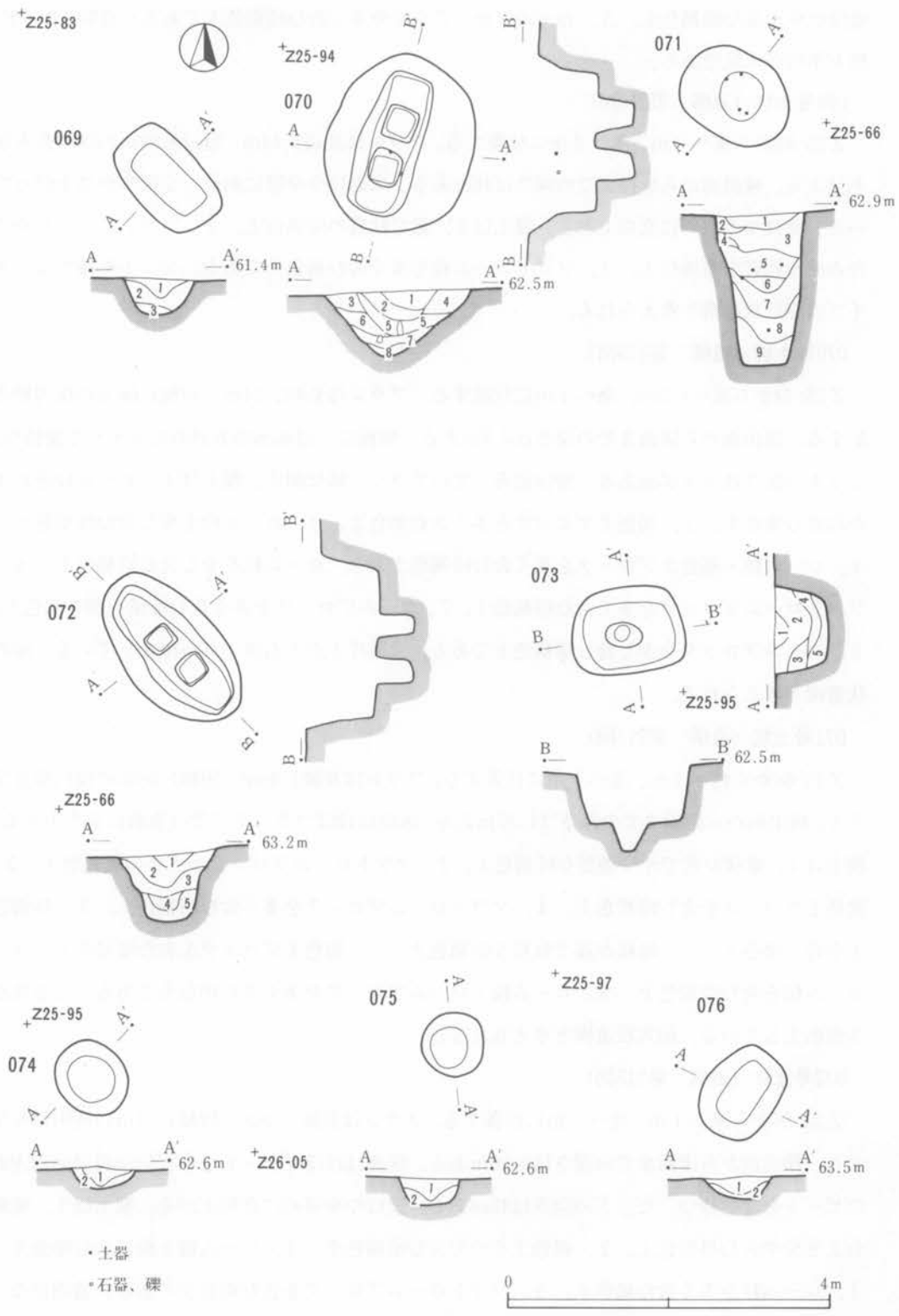
Z25-74から東へ1.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸2.24m、短軸1.86mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.8mある。床面に一辺46cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々46cmある。壁は崩落していてラップ状に開く。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。2. 褐色土ブロックを多く含む黒色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ローム粒・褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。7. ロームブロックを多く含む堆積が疎な褐色土。8. ロームブロックを少し含む暗褐色土である。土器片1点と石鏃1点が出土している。陥穴状遺構と考えられる。

071号土坑（遺構 第215図）

Z25-66から西へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.46m、短軸1.08mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.87mある。床面はほぼフラットで壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 堆積が密でやや硬質な暗褐色土。2. ソフトロームブロックが主体の黄褐色土。3. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む明褐色土。5. 暗褐色土を含む褐色土。6. 堆積が疎で軟質な暗褐色土。7. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。8. ローム粒を含む暗褐色土。9. ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土である。土器片が5点出土している。陥穴状遺構と考えられる。

072号土坑（遺構 第215図）

Z25-66から東へ1m、北へ2mに位置する。プランは長軸2.38m、短軸1.21mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.82mある。床面はほぼフラットで中程に一辺34cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは45cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土をやや含む黒褐色土。2. 褐色土をやや含む暗褐色土。3. ローム粒を斑に含む褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土。5. ソフトロームブロックを含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。



第215図 大野第1遺跡縄文時代土坑(9)(1/80)

073号土坑（遺構 第215図）

Z 25-95から北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.42m、短辺1.08mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.65mある。床面はほぼフラットで中程に30～40cmの楕円形のピットを1個持つ。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む疎で軟質な暗褐色土。2. ローム粒をやや含む黒褐色土。3. 褐色土を多く含む暗褐色土。4. 褐色土をやや含む暗褐色土。5. 褐色土ロームを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

074号土坑（遺構 第215図）

Z 25-95から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸0.97m、短軸0.83mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは28cmある。床面はやや鍋底状で壁も緩やかに立ち上がる。覆土は1. 炭化粒と焼土粒をやや含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を含む褐色土である。この場で焚かれたものではないにしろ若干の焼土がみられるということから廃棄や貯蔵に関わる土坑かもしれない。遺物はない。

075号土坑（遺構 第215図）

Z 26-06から西へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは径0.78mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは32cmある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを多く含む疎で軟質な褐色土。2. ソフトローム主体の明褐色土である。075号と同様な機能を持った土坑かもしれない。

076号土坑（遺構 第215図）

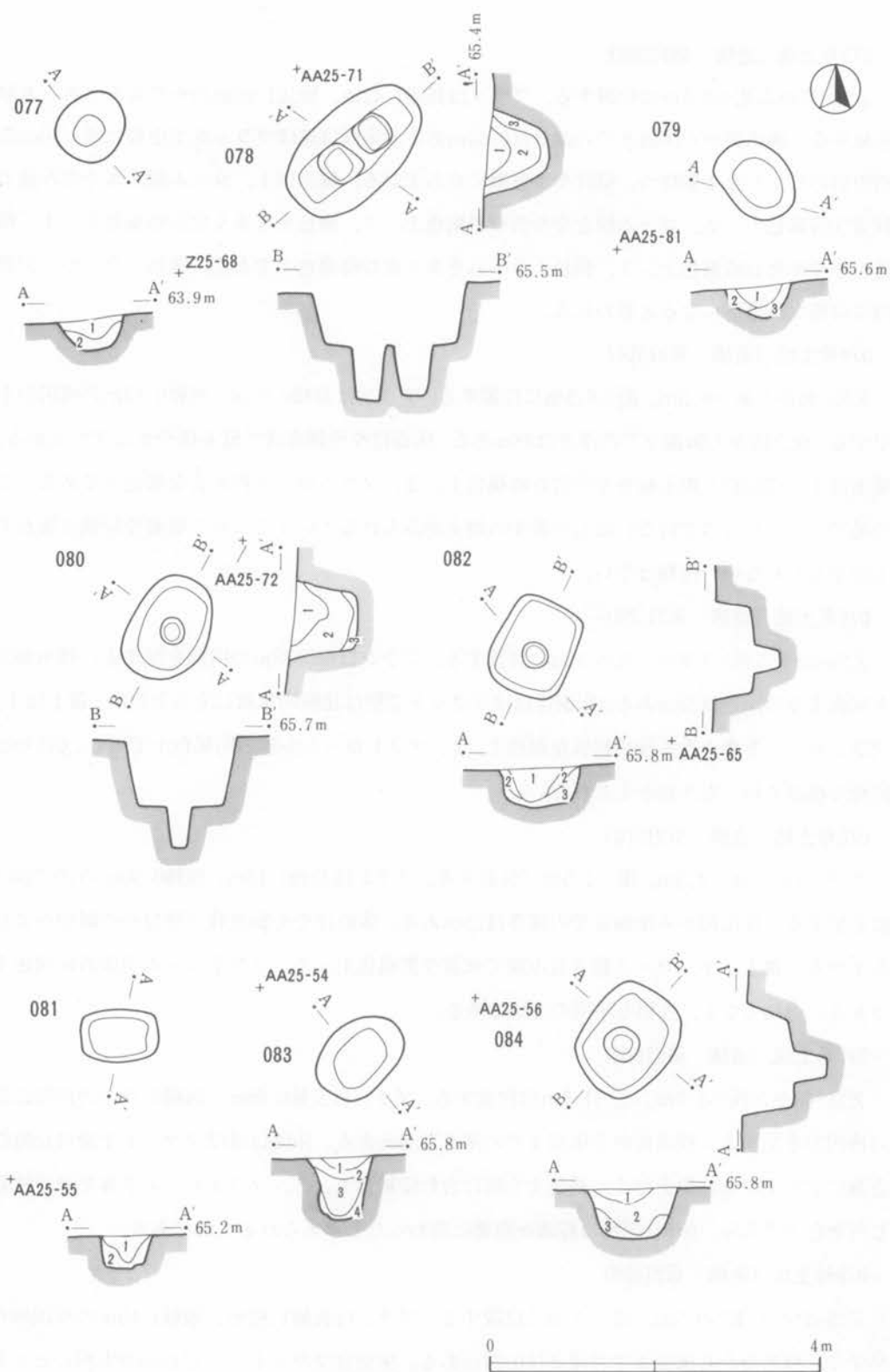
Z 25-97から東へ2.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.18m、短軸0.90mのほぼ楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは26cmある。床面はやや鍋底状で壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含み疎で軟質な黒褐色土。2. ソフトローム主体の暗褐色土である。遺物もなく、性格も不明の土坑である。

077号土坑（遺構 第216図）

Z 25-68から西へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸0.90m、短軸0.78mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは38cmある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土を斑に含む暗褐色土。2. ソフトローム主体で疎で軟質な明褐色土である。075号同様に貯蔵か廃棄に関わったと考えられる土坑である。

078号土坑（遺構 第216図）

Z 25-71から東へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.89m、短軸1.10mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はフラットで一辺45cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは北側のものが0.6m、南側のものが0.65mある。壁はやや斜めに立



第216図 大野第1遺跡縄文時代土坑(10)(1/80)

ち上がる。覆土は1. 暗褐色土を斑に含む黒褐色土。2. 褐色土とローム粒をやや含む暗褐色土。3. ソフトロームとロームブロックを含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

079号土坑（遺構 第216図）

AA25-81から東へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.04m、短軸0.79mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmある。床面はやや鍋底状で壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ロームをやや含む暗褐色土。2. ロームブロックを含む暗褐色土。3. 粗で軟質な褐色土である。遺物はないが、貯蔵か廃棄に関わったと考えられる土坑である。

080号土坑（遺構 第216図）

AA25-72から西へ1m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸0.96mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.81mある。床面はほぼフラットで中央に径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは0.5mある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を含み粗で軟質の暗褐色土。2. ソフトローム粒を含む暗褐色土。3. ソフトローム粒・褐色土を含む明褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

081号土坑（遺構 第216図）

AA25-45から西へ1.5m、南へ2.5mに位置する。プランは長辺0.94m、短辺0.64mの丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmある。床面はやや凹凸がみられる。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を含む褐色土である。遺物はないが、貯蔵か廃棄に関わったと考えられる土坑である。

082号土坑（遺構 第216図）

AA25-65から西へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.18m、短辺0.96mのやや隅丸の方形を呈する。検出面から床面までの深さは47cmある。床面はほぼフラットで中程に径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは44cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックとローム粒をやや含む暗褐色土。3. ロームブロックを多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

083号土坑（遺構 第216図）

AA25-54から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.12m、短軸0.82mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 密で硬質な黒色土。2. ソフトローム粒を多く含む黒褐色土。3. ロームブロックを少し含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む軟質な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

084号土坑（遺構 第216図）

A A25-56から東へ2 m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.35m、短辺1.10mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは58cmである。床面はほぼフラットで中程に径40cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 茶褐色土とローム粒を含む黒褐色土。2. ローム粒を含み粗で軟質の黒色土。3. ローム粒を含み密で硬質の黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

085号土坑（遺構 第217図）

A A25-67に位置する。プランは長軸1.86m、短軸1.09mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.68mある。床面はほぼフラットで中程に一辺40cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは北側のものが0.5m、南側のものが45cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 粗で軟質な黒色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. 褐色土ブロックと暗褐色土を含む黒色土。4. 粗で軟質な黒色土。5. ロームブロック主体の暗黄褐色土。6. 褐色土ブロックとローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

086号土坑（遺構 第217図）

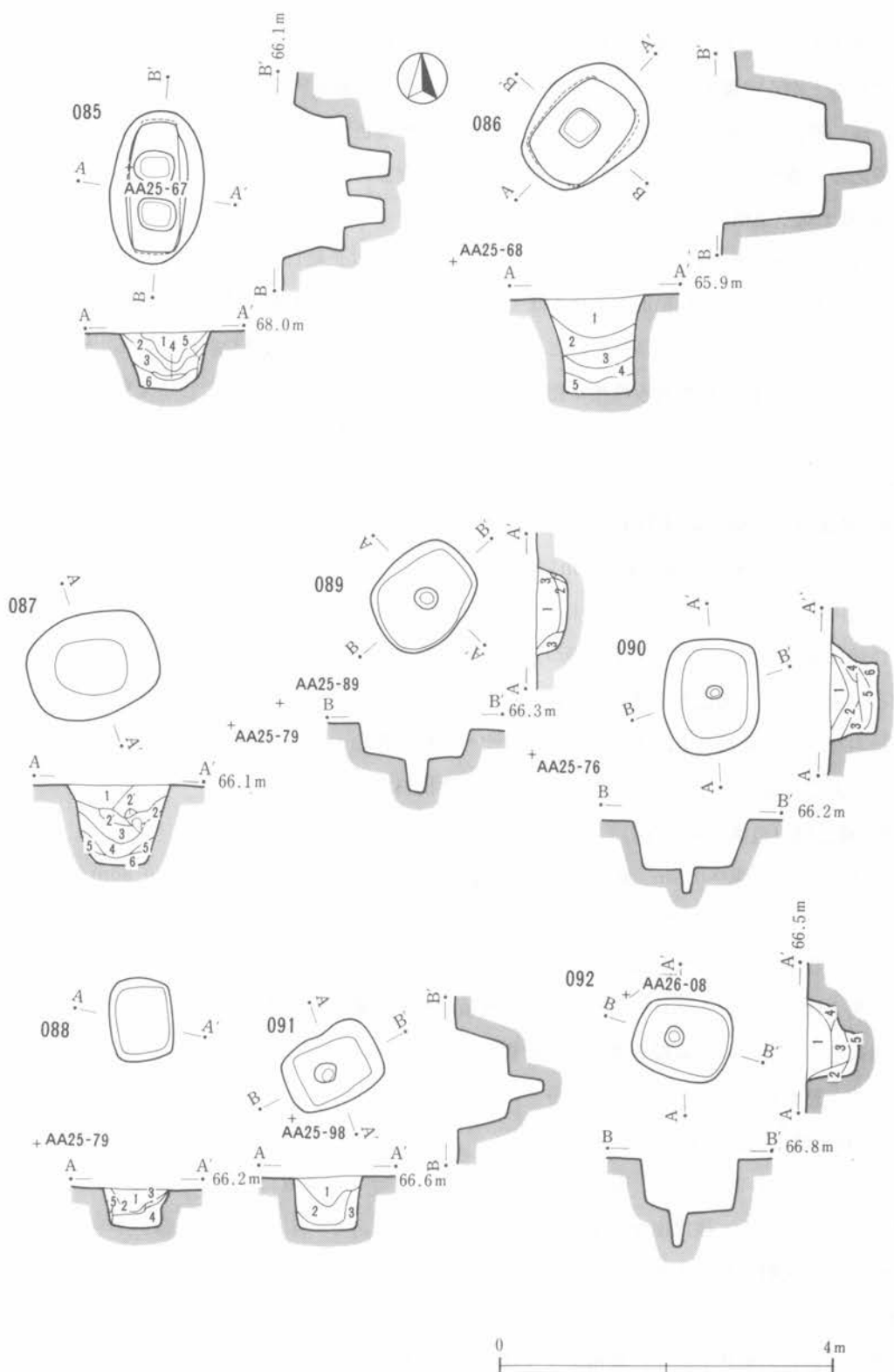
A A25-68から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.65m、短軸1.28mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.13mある。床面はほぼフラットで中央に一辺42cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは0.6mある。壁は急激に立ち上がるが開口部でやや外反する。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ロームブロックとソフトロームを多く含む堆積が疎な暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

087号土坑（遺構 第217図）

A A25-79から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸1.22mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.96mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含み焼土粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を少し含む黒色土。3. ローム粒を少しロームブロックを少し含む黒色土。4. 堆積がやや疎な暗褐色土。5. ソフトロームをやや多く含む堆積が疎な暗褐色土。6. ローム粒を少し含む堆積がやや密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

088号土坑（遺構 第217図）

A A25-79から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺0.98m、短辺0.75mのやや丸



第217図 大野第1遺跡縄文時代土坑(11)(1/80)

みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは47cmある。床面はほぼフラットで壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 密で硬質の暗褐色土。2. 暗褐色土ブロックをやや含む褐色土。3. 疎で軟質の黒褐色土。4. ローム粒をやや含む黒褐色土。5. ソフトローム主体の暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

089号土坑 (遺構 第217図)

A A25-89から東へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸1.08mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは37cmある。床面はほぼフラットで中央部分に径26cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは39cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや含む堆積が密な暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

090号土坑 (遺構 第217図)

A A25-76から東へ2 m、北へ1 mに位置する。プランは長軸1.36m、短軸1.12mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで中央部分に径16cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは10cmある。壁は開口部に向かって外反する。覆土は1. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを含む黒褐色土。3. ローム粒を含む暗褐色土。4. ローム粒をやや含む黒褐色土。5. ロームブロックを含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

091号土坑 (遺構 第217図)

A A25-98から東へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.19m、短辺0.86mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はほぼフラットでやや南よりに径28cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ロームブロックをやや含む堆積が密な黒褐色土。2. ロームブロックをやや含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

092号土坑 (遺構 第217図)

A A26-08から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.18m、短辺0.96mのやや不整な方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.62mある。床面はやや凹凸があり中央部分に径22cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは35cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土をやや含む暗褐色土。2. ローム粒をやや含む暗褐色土。3. ロームブロックをやや含む黒褐色土。4. 堆積がやや疎で軟質な暗褐色土。5. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

093号土坑 (遺構 第218図)

ほぼZ 26-38に位置する。プランは長辺1.24m、短辺0.96mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.8mある。床面はほぼフラットで北側よりに径22cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームブロックをやや含む褐色土。2. 堆積が密な暗褐色土。3. ローム粒をやや含む褐色土。4. 褐色土ブロックをやや含む暗褐色土。5. ロームブロックを所々に含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

094号土坑 (遺構 第218図)

A A 25-95から東へ0.5mに位置する。プランは長辺1.16m、短辺0.86mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは74cmある。床面はほぼフラットでほぼ中程に一辺30cm前後の方形のピットを1個持つ。ピットの深さは27cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや含む暗褐色土。2. ローム粒をやや含む暗褐色土。3. ローム粒をやや含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含むロームブロックを点々と含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

095号土坑 (遺構 第218図)

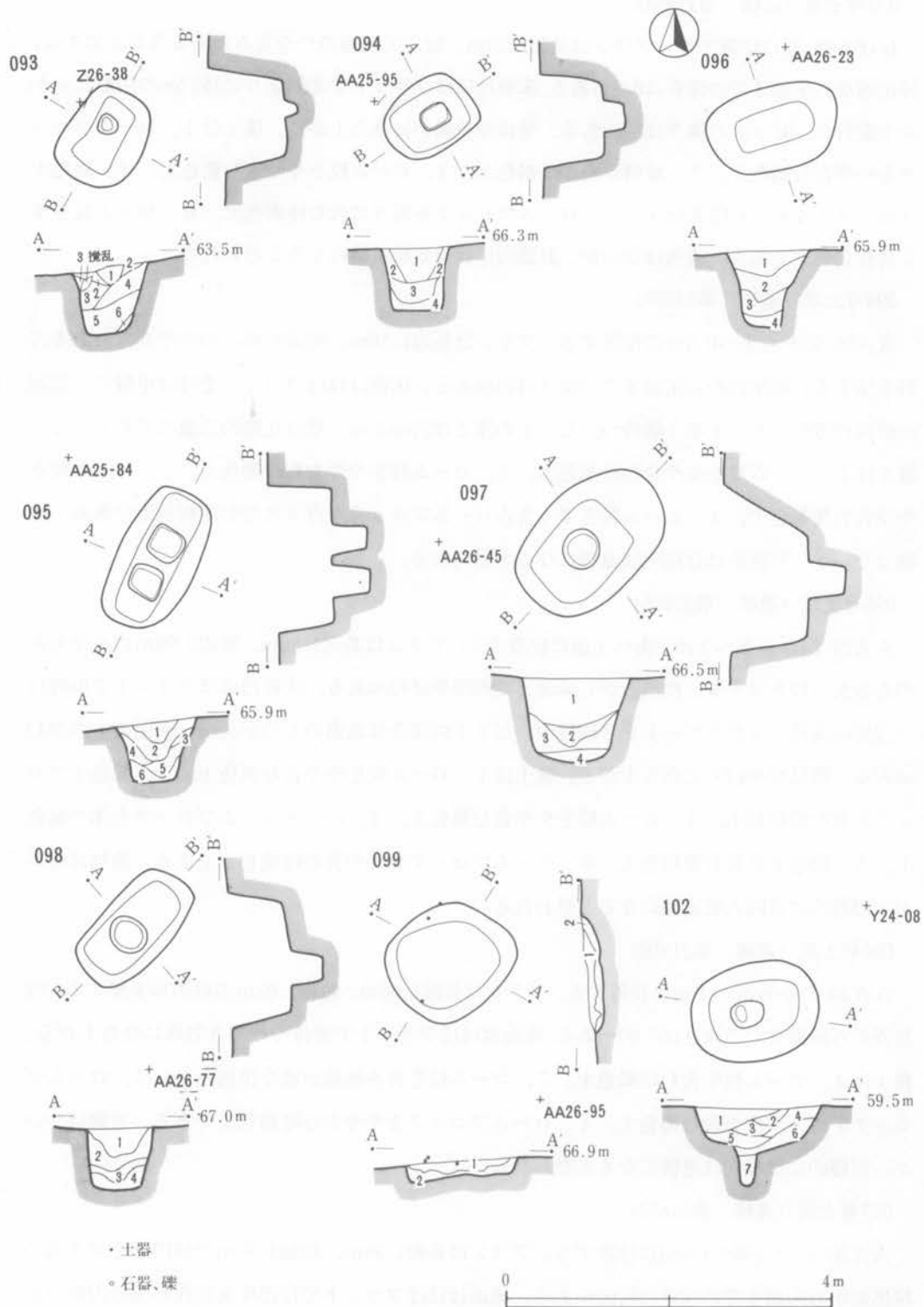
A A 25-84から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.76m、短辺0.98mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは72cmある。床面はほぼフラットで中程に一辺35cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは北側のものが40cm、南側のものが43cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや含む黒色土。2. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。3. ローム粒をやや含む褐色土。4. ハードロームブロック主体の褐色土。5. 褐色土を含む黒褐色土。6. ロームブロックをやや含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

096号土坑 (遺構 第218図)

A A 26-23から南へ1mに位置する。プランは長軸1.60m、短軸1.02mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.92mある。床面はほぼフラットで壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒を含み堆積が密な黒褐色土。3. ロームブロック・ローム粒を含む褐色土。4. ロームブロックをやや含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

097号土坑 (遺構 第218図)

A A 26-45から東へ1.5mに位置する。プランは長軸1.98m、短軸1.30mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.02mある。床面はほぼフラットでほぼ中央に径45cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは42cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム



第218図 大野第1遺跡縄文時代土坑(12)(1/80)

粒をやや含む暗褐色土。2. ロームブロックをやや含む暗褐色土。3. ロームブロックを多く含む褐色土。4. ロームブロックとローム粒を少し含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

098号土坑（遺構 第218図）

A A26-77から北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.61m、短辺0.84mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットでやや南よりに径40cm前後の円形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む堆積がやや密な暗褐色土。3. ローム粒を含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

099号土坑（遺構 第218図）

A A26-95から西へ1m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.60m、短軸1.36mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは18cmある。床面はやや凹凸がみられる。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 堆積がやや密な茶褐色土。2. 堆積が密な褐色土である。遺物も少なく、性格も不明な土坑である。

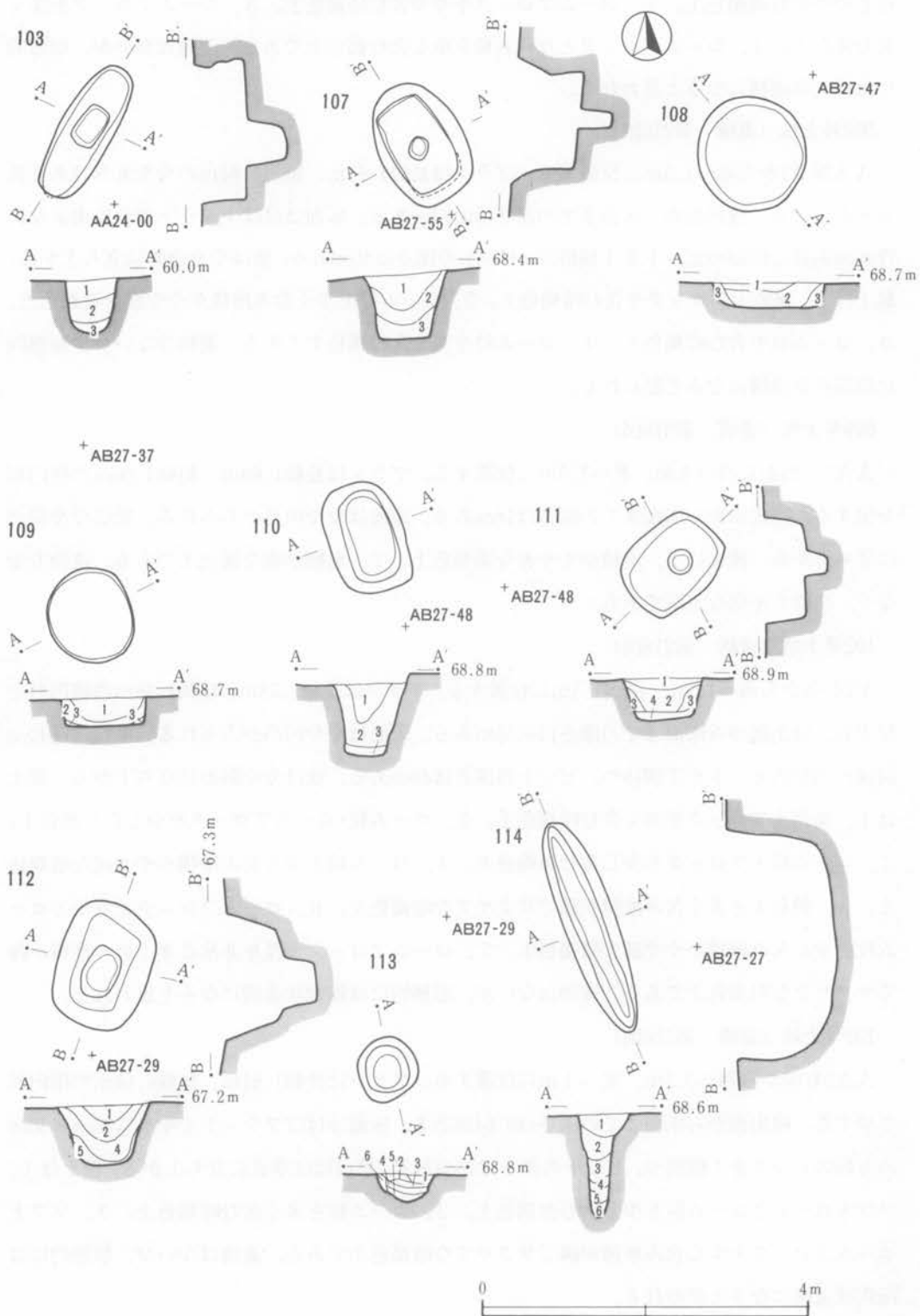
102号土坑（遺構 第218図）

Y24-08から西へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸1.18mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はやや凹凸がみられる。中程に径40cm前後の円形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを少し含む黒色土。3. ローム粒・ブロックを少し含む黒褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. 褐色土を多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。6. ロームブロックを若干とローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。7. ロームブロック・粒を非常に多く含む堆積が疎でサクサクな明褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

103号土坑（遺構 第218図）

A A24-00から西へ0.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.81m、短軸0.68mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はほぼフラットで中央に30cm×50cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは48cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームとローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

107号土坑（遺構 第219図）



第219図 大野第1遺跡縄文時代土坑(13)(1/80)

A B27-55から西へ0.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸0.98mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.78mある。床面はほぼフラットで中央部分に径25cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは38cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を多く含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

108号土坑（遺構 第219図）

A B27-47から西へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.41m、短軸1.31mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは31cmある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 黒色土を少し含む暗褐色土。2. 黒色土と褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームを多く含む褐色土である。遺物はないが、貯蔵穴か廃棄の用途が考えられる土坑である。

109号土坑（遺構 第219図）

A B27-37から南へ2mに位置する。プランは長軸1.16m、短軸1.02mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは34cmある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを含み堆積がやや疎な暗褐色土。2. 褐色土ブロックを含み堆積がやや疎な暗褐色土。3. 暗褐色土をやや含む褐色土である。遺物はないが、貯蔵穴か廃棄の用途が考えられる土坑である。

110号土坑（遺構 第219図）

A B27-48から西へ0.5m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.35m、短辺0.96mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。2. ローム粒を多く含むソフトロームブロックを多く含む黒色土。3. ソフトロームを多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

111号土坑（遺構 第219図）

A B27-48から東へ2mに位置する。プランは長辺1.26m、短辺0.98mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは49cmある。床面はほぼフラットで中程に径30cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは28cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。2. 茶褐色土を斑に含む黒褐色土。3. ソフトロームを多く含む褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

112号土坑（遺構 第219図）

A B26-29から北へ1 mに位置する。プランは長辺1.52m、短辺1.11mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで60cm×40cmの楕円形のピットを1個持つ。ピットの深さは0.5mある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒・焼土粒を含む暗褐色土。3. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

113号土坑 (遺構 第219図)

A B27-29から西へ0.5m、南へ2 mに位置する。プランは径0.76mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは34cmある。床面はボール状で壁もその延長上にある。覆土は1. 焼土粒をわずかに含む堆積が粗で軟質な暗褐色土。2. 焼土粒をわずかに含む堆積が粗で軟質な黒褐色土。3. 焼土粒を少し含む褐色土。4. 焼土粒主体の黄褐色土。5. 焼土ブロック・焼土粒を多く含む暗褐色土。6. 熱を受けたローム粒が主体の褐色土である。覆土の状況から単独出土の炉跡であろう。周りにはピット等の施設はみられない。

114号土坑 (遺構 第219図)

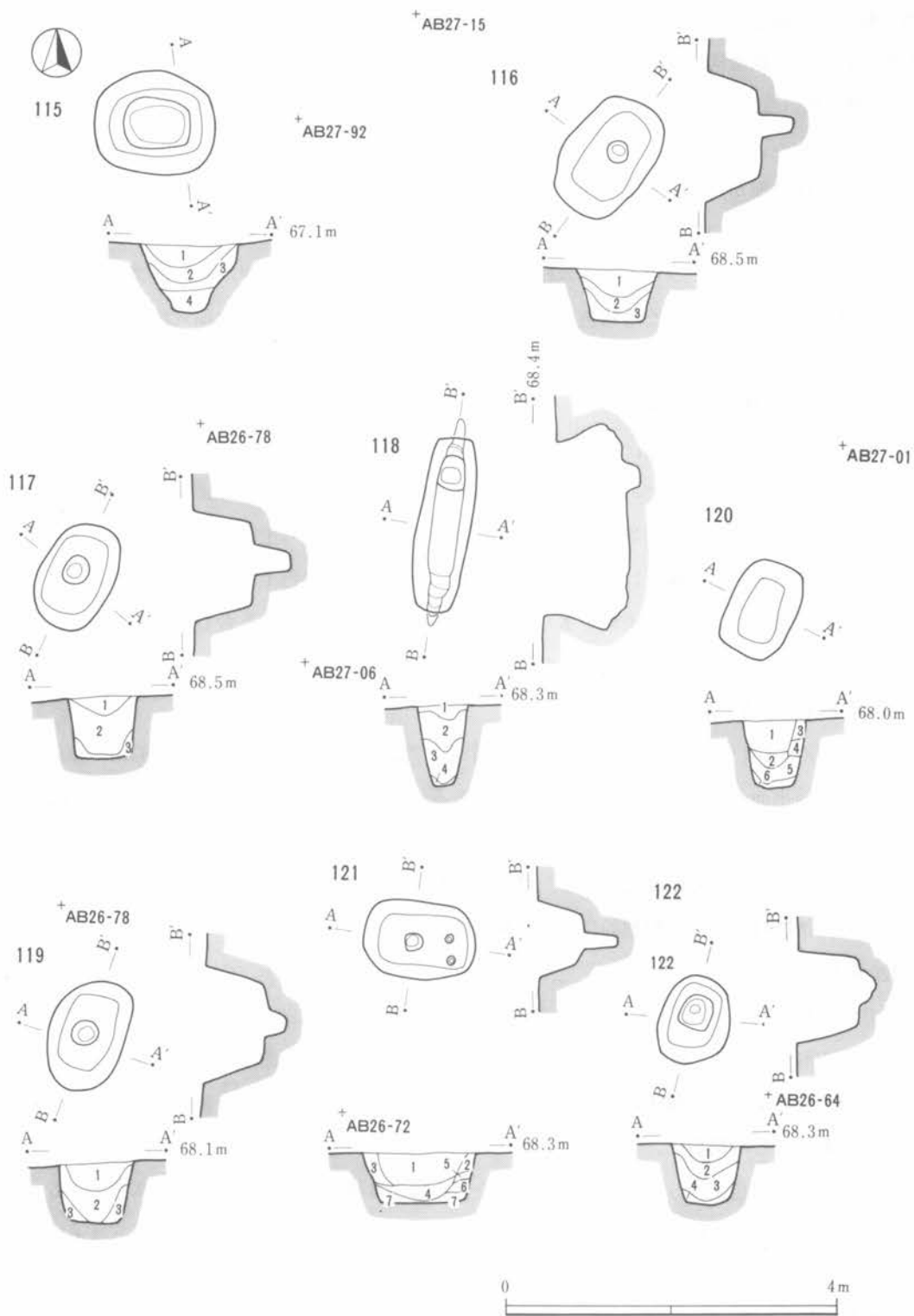
A B27-27から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸2.70m、短軸0.64mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.22mある。床面は細長く壁際がやや上がり気味である。壁は長軸方向がややオーバーハング気味に立ち上がる。覆土は1. 褐色土を斑に含む暗褐色土。2. 暗褐色土を少し含む黒褐色土。3. 黒色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ロームブロック主体の黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

115号土坑 (遺構 第220図)

A B25-92から西へ2 mに位置する。プランは長軸1.48m、短軸1.27mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは45cmある。床面はほとんど1個のピットで覆われている。ピットの深さは30cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトローム粒と褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含むハードロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ハードロームブロックを多く含む暗褐色土である。遺物は少ないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

116号土坑 (遺構 第220図)

A B27-15から東へ2.5m、南へ2 mに位置する。プランは長辺1.56m、短辺1.06mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はほぼフラットでほぼ中程に径26cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ソフトロームを少し含む



第220図 大野第1遺跡縄文時代土坑(14)(1/80)

粗で軟質な暗褐色土。3. ソフトローム粒を多く含む軟質な明褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

117号土坑（遺構 第220図）

A B27-08から西へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸0.89mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.76mある。床面はほぼフラットで中央に径34cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは44cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 堆積が密な暗褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む堆積が疎でやや軟質な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

118号土坑（遺構 第220図）

A B26-97から西へ2 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺2.12m、短辺0.62mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.94mある。床面は細長く北側部分に一辺30cmの方形ピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁は全体に急激に立ち上がる。特に主軸方向はオーバーハングしている。覆土は1. 褐色土粒をわずかに含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。3. 褐色土粒を多く含む暗褐色土。4. ローム粒を含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

119号土坑（遺構 第220図）

A B26-78から東へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.40m、短軸0.92mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで中央に径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは36cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。2. 堆積が密な黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

120号土坑（遺構 第220図）

A B27-01から東へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺1.20m、短辺0.78mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.8mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや多く含む焼土粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む黒色土。4. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。5. ロームブロックを多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。6. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

121号土坑（遺構 第220図）

A B26-72から東へ1 m、北へ2 mに位置する。プランは長軸1.37m、短軸0.89mの楕円形を

呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで中央部分に径22cmの円形のピットと東側に小ピットを2個持つ。中程のピットは42cm、他の小ピットは30cm前後ある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや多く含む黒色土。2. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ソフトローム粒を少し含む黒色土。5. 褐色土を少し含む暗褐色土。6. ローム粒・褐色土を少し含む暗褐色土。7. 褐色土ブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

122号土坑（遺構 第220図）

A B26-64から西へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.04m、短軸0.86mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで径40cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を若干含む暗褐色土。2. ソフトローム粒・焼土粒を含む暗褐色土。3. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

123号土坑（遺構 第221図）

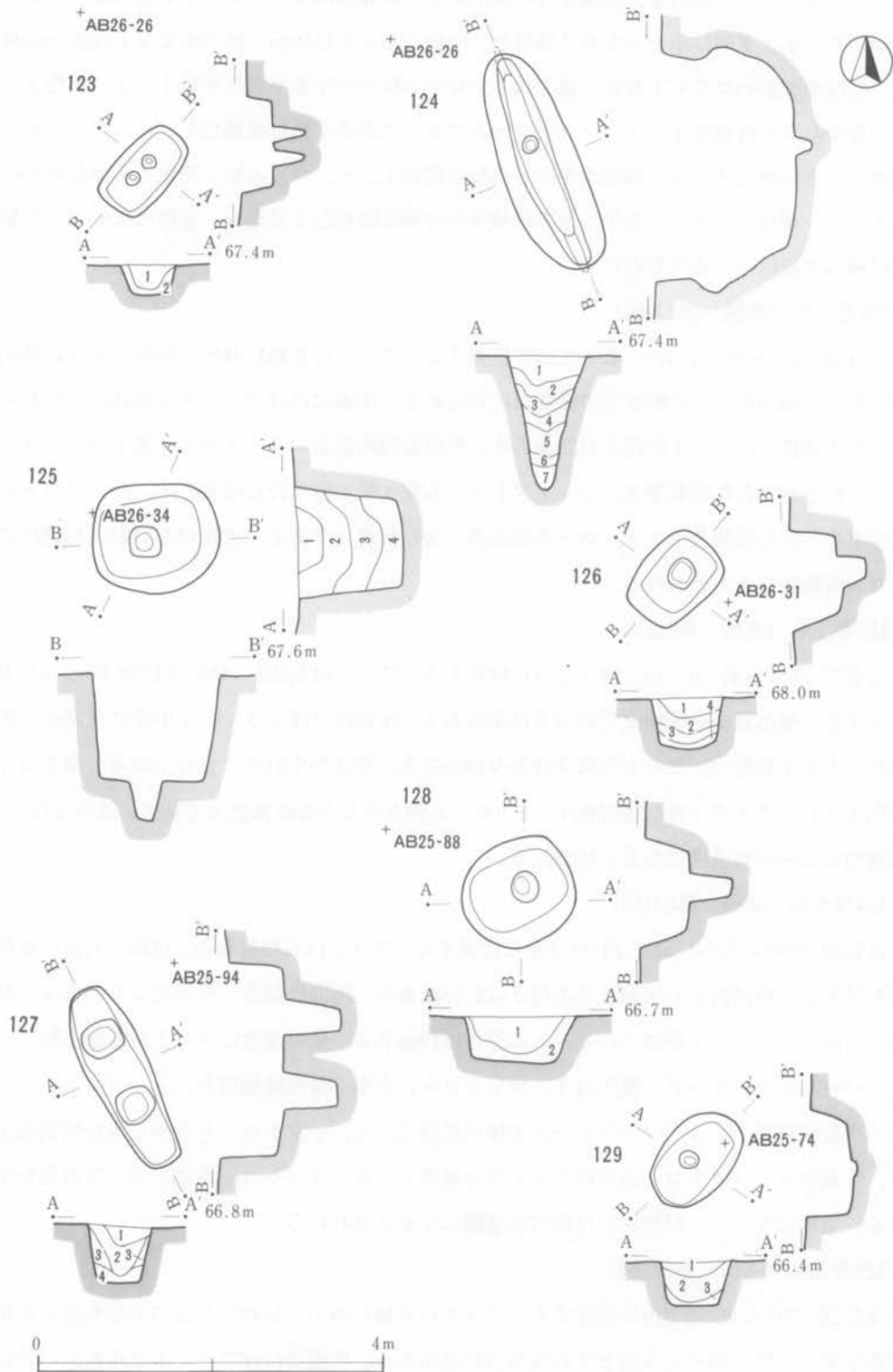
A B26-26から東へ0.5m、南へ2mに位置する。プランは長辺1.14m、短辺0.66mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは36cmある。床面はほぼフラットで中程に径16cmの円形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々18cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを若干含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

124号土坑（遺構 第221図）

A B26-26から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.48m、短軸0.91mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.13mある。床面は細長くやや北よりの部分に径18cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは18cmある。壁は急激に立ち上がるが主軸方向はオーバーハングしている。覆土は1. ソフトロームを多く含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む暗褐色土。3. ソフトローム主体の褐色土。4. ソフトロームを少し含む暗褐色土。5. 暗褐色土とソフトロームを粒を少し含む褐色土。6. ソフトローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

125号土坑（遺構 第221図）

A B26-34から東へ0.5mに位置する。プランは長軸1.48m、短軸1.24mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.25mある。床面はほぼフラットで中程に一辺34cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは48cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は



第221図 大野第1遺跡縄文時代土坑(15)(1/80)

1. 褐色土・ローム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ロームブロックを含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

126号土坑（遺構 第221図）

A B 26-31から西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.13m、短辺0.82mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.6mある。床面はほぼフラットでやや北側に径34cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは65cmある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒・焼土粒を含む黒褐色土。2. ローム粒を含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

127号土坑（遺構 第221図）

A B 25-94から西へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.22m、短軸0.74mのやや角張った長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは64cmある。床面はほぼフラットで中程に径44cmの円形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.69mある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土をわずかに含む黒色土。2. ソフトロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。3. ソフトロームを多く含む暗褐色土。4. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

128号土坑（遺構 第221図）

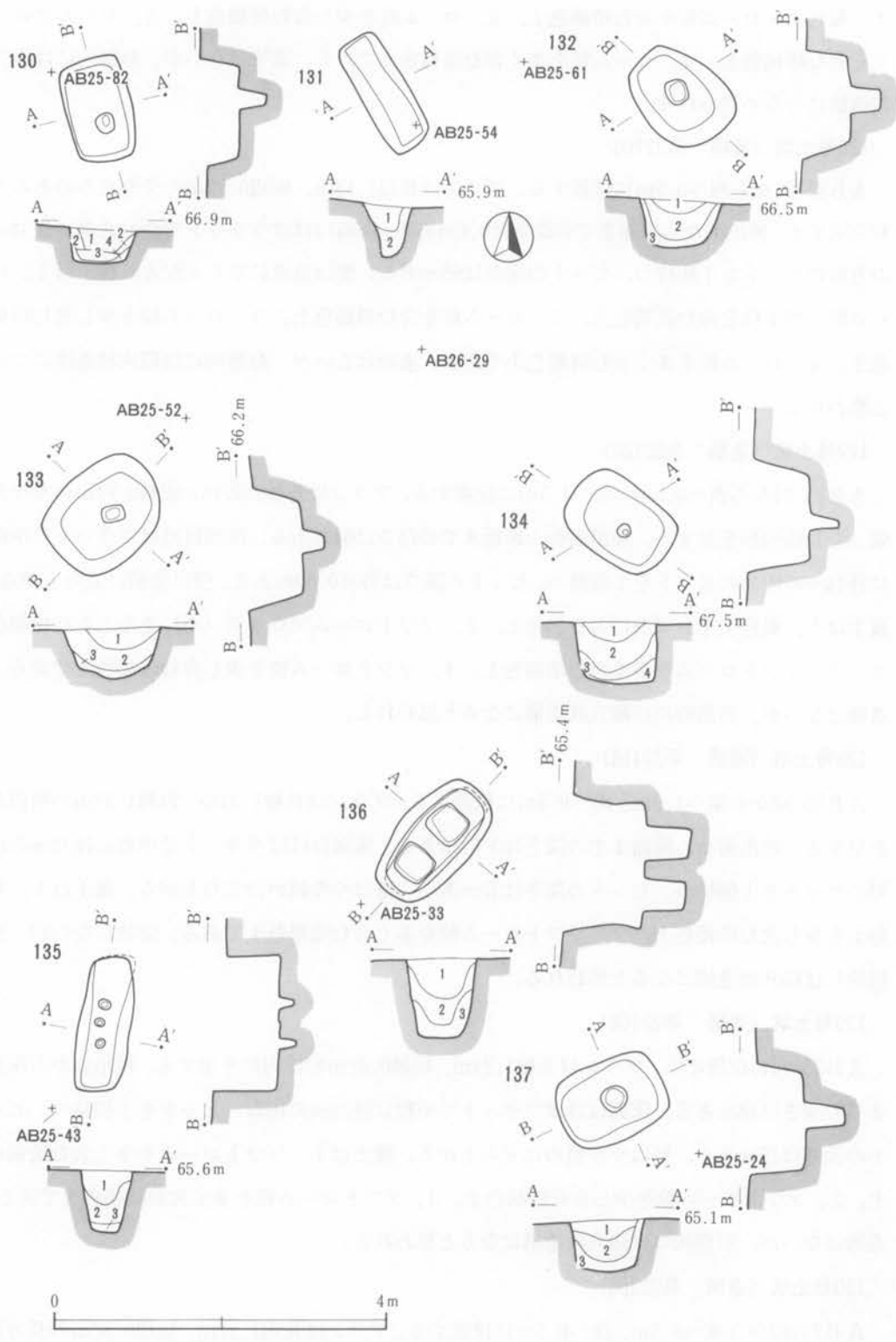
A B 25-88から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.34m、短軸1.22mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットで中程に径32cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは37cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土を少し含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

129号土坑（遺構 第221図）

A B 25-74に位置する。プランは長軸1.24m、短軸0.82mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はほぼフラットで中程に径22cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは15cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを多く含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。3. ソフトローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

130号土坑（遺構 第222図）

A B 25-82から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.27m、短辺0.82mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは42cmある。床面はほぼフラットでやや南側に径24cmの



第222図 大野第1遺跡縄文時代土坑(16)(1/80)

円形のピットを1個持つ。ピットの深さは32cmある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 堆積が疎で軟質な暗褐色土。2. ソフトロームブロックを含む暗褐色土。3. 堆積がやや雑で軟質な黒褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

131号土坑（遺構 第222図）

A B 25-54に位置する。プランは長辺1.51m、短辺0.59mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.62mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックとローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

132号土坑（遺構 第222図）

A B 25-61から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.30m、短軸1.00mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面はほぼフラットで中央に径28cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは36cmある。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

133号土坑（遺構 第222図）

A B 25-52から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.46m、短軸1.15mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.59mある。床面はほぼフラットで中央に径28cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは0.6mある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや多く含む黒褐色土。2. ローム粒とロームブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

134号土坑（遺構 第222図）

A B 26-29から東へ2.5m、南へ2 mに位置する。プランは長軸1.34m、短軸0.93mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは72cmある。床面はほぼフラットで中程に径16cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは48cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

135号土坑（遺構 第222図）

A B 25-43から東へ0.5m、北へ1 mに位置する。プランは長辺1.62m、短辺0.64mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットで中程に径12cmの小ピットを3個持つ。ピットの深さは各々径20cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。一部はオー

バーハングしている。覆土は1. ソフトロームを少し含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む褐色土。3. ソフトロームを少し含む堆積が疎で軟質な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

136号土坑（遺構 第222図）

A B25-33から東へ1 m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.64m、短軸0.92mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.94mある。床面はほぼフラットで一辺38cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.52mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. 褐色土ブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

137号土坑（遺構 第222図）

A B25-24から西へ1 m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.30m、短辺0.94mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.62mある。床面はほぼフラットで中央部分に径32cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは46cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ロームブロックをわずかに含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む黒色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

138号土坑（遺構 第222図）

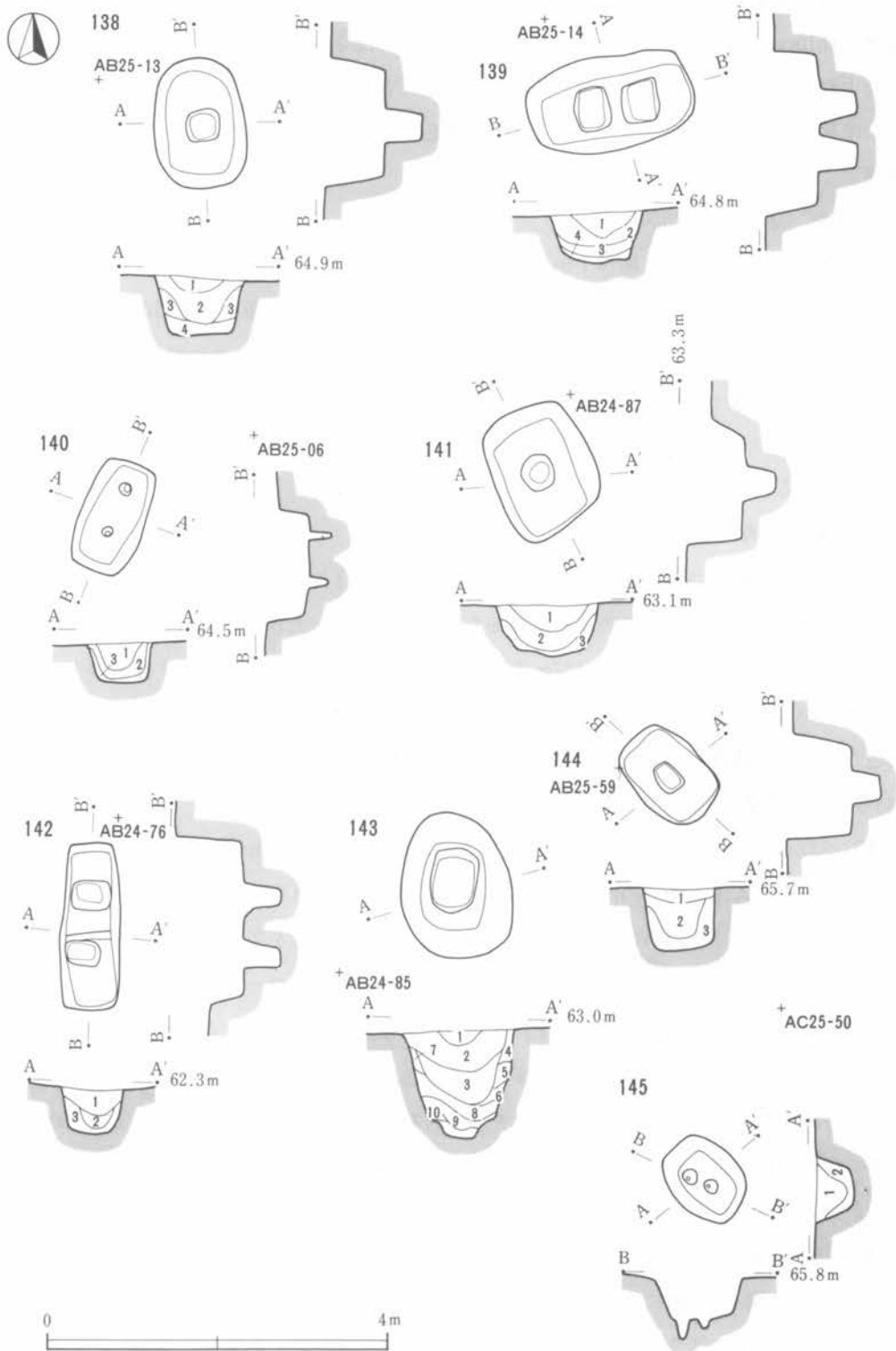
A B25-13から東へ1 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸1.06mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.65mある。床面はほぼフラットで中央部分に一辺38cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは47cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を多く含む褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む褐色土。4. ハードローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

139号土坑（遺構 第222図）

A B25-14から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.96m、短軸1.12mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面はほぼフラットで中程に一辺42cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々45cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土をわずかに含む堆積が疎で軟質な黒色土。2. ソフトローム粒をわずかに含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。4. ソフトローム粒をわずかに含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

140号土坑（遺構 第222図）

A B25-16から西へ1.5m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.32m、短辺0.78mのやや丸



第223図 大野第1遺跡縄文時代土坑(17)(1/80)

みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは44cmある。床面はほぼフラットで北側と南側に径10cmの円形の小ピットを2個持つ。ピットの深さは各々25cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒をわずかに含む黒褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。3. ソフトローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

141号土坑（遺構 第223図）

A B24-87から西へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.50m、短辺1.18mのやや不整な長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面はやや凹凸がみられ中程には径30cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは36cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒をやや含む黒色土。2. ソフトロームを少し含む黒褐色土。3. ソフトローム粒を少し含む堆積が密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

142号土坑（遺構 第223図）

A B24-86から西へ0.5m、北へ3mに位置する。プランは長辺1.94m、短辺0.72mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面は段と大きさのまちまちの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々37cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。2. ローム粒をわずかに含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

143号土坑（遺構 第223図）

A B24-85から東へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.70m、短軸1.32mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.05mある。床面には大きなピットがある。ピットの深さは15cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を少しと褐色土ブロックを多く含む黒色土。3. ローム粒・ロームブロックを少し含む黒色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含むロームブロックを若干含む暗褐色土。6. ロームブロックを非常に多く含む黒色土を少し含む暗黄褐色土。7. ローム粒を若干含む暗褐色土。8. ロームブロックを多く含む暗褐色土。9. ロームブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土。10. ロームブロックを非常に多く含む暗黄褐色土。11. ロームを多く含む粘性が強い暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

144号土坑（遺構 第223図）

A B25-59から東へ0.5mに位置する。プランは長辺1.20m、短辺0.87mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで中央部分に25cm×33cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは33cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ロー

ム粒を含む暗褐色土。2. ローム粒をやや含む暗褐色土。3. ローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

145号土坑（遺構 第223図）

A C 25-50から西へ1 mに位置する。プランは長軸1.04m、0.82mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは44cmある。床面はほぼフラットで小ピットを2個持つ。ピットは各々5 cm程度で浅い。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含み粘性で密な暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

146号土坑（遺構 第224図）

A C 26-32から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.36m、短辺1.02mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.65mある。床面には方形のピットがありピットの底部が2段に分かれている。一番深い部分は39cmある。壁は開口部がやや外反する。覆土は1. ローム粒・焼土粒をやや多く含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

147号土坑（遺構 第224図）

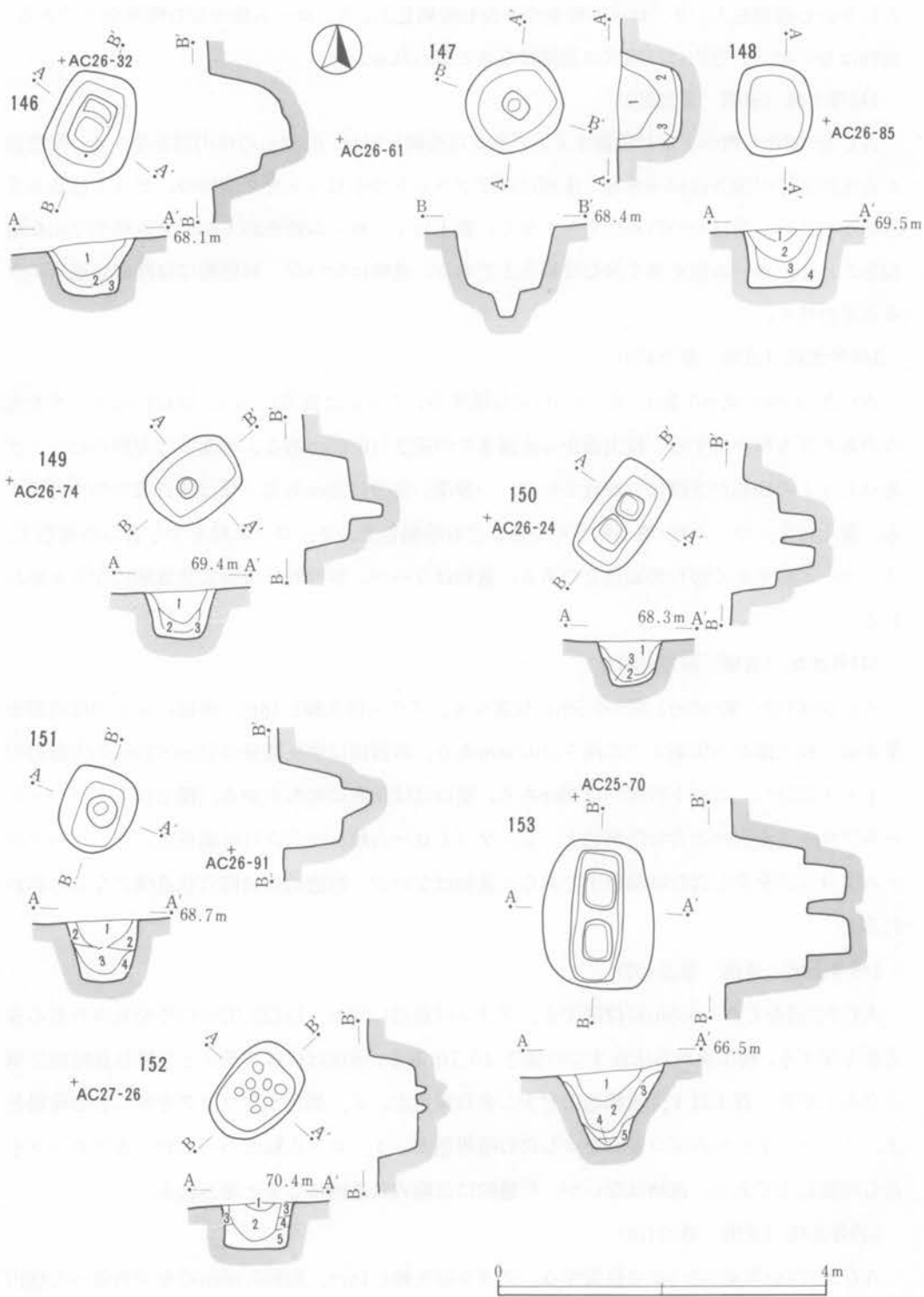
A C 26-61から東へ2m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.18m、短軸1.10mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面には中央部分に32cm×25cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを点々と含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。3. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

148号土坑（遺構 第224図）

A C 26-85から西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.12m、短辺0.92mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.7mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土を少し含む褐色土。2. 褐色土ブロックを斑に含む暗褐色土。3. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒とハードロームブロックを含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

149号土坑（遺構 第224図）

A C 26-74から東へ2.5mに位置する。プランは長軸1.18m、短軸0.86mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットでやや南側に径24 cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは38cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土



第224図 大野第1遺跡縄文時代土坑(18)(1/80)

は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。3. ローム粒をわずかに含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

150号土坑（遺構 第224図）

A C26-24から東へ1.5mに位置する。プランは長辺1.34m、短辺0.78mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットで一辺30cmと38cmの方形のピットを持つ。ピットの深さは各々0.5mある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを斑に含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

151号土坑（遺構 第224図）

A C26-91から西へ1.5mに位置する。プランは長辺1.01m、短辺0.88mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは75cmある。床面はほぼフラットで中程に径38cmの円形のピットを1個持つ。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 焼土粒を少し含む黒色土。2. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む黒褐色土。5. ソフトローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

152号土坑（遺構 第224図）

A C27-26から東へ2mに位置する。プランは長軸1.24m、短軸0.89mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.55mある。床面には細かな小ピットが8個検出されている。5cm～10cmの深さのもので構成される。逆茂木を立てた跡と考えられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒と炭化粒を少し含む黒色土。3. ローム粒を若干と褐色土を少し含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土。5. ローム粒を少し含む黒褐色土。6. ローム粒を若干含む堆積がやや密で硬い黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

153号土坑（遺構 第224図）

A C25-70から南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.75m、短辺1.37mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.92mある。床面はほぼフラットで40cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.55mある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. 暗褐色土ブロックを多く含む黒色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒をやや多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を若干含む堆積が疎でサクサクな黒色土。5. ローム粒を少しと黒色土を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

154号土坑（遺構 第225図）

A D25-10から西へ1.5mに位置する。プランは長辺1.11m、短辺0.82mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.71mある。床面はほぼフラットで径18cmの円形のピットを3個持つ。ピットの深さは25cm～30cmとややまちまちである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. 褐色土ブロックとローム粒を若干含む黒色土。3. 褐色土ブロックを若干とローム粒をやや多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

155号土坑（遺構 第225図）

A D25-02から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.25m、短辺0.68mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは42cmある。床面はほぼフラットで中程に一辺30cmの方形のピットを2個持つ。ピット深さは北側のものが32cm、南側のものが35cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 堆積が密でやや硬い黒色土。2. 褐色土ブロックを少し含む堆積がやや密な黒色土。3. ローム粒を少しロームブロックを若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

156号土坑（遺構 第225図）

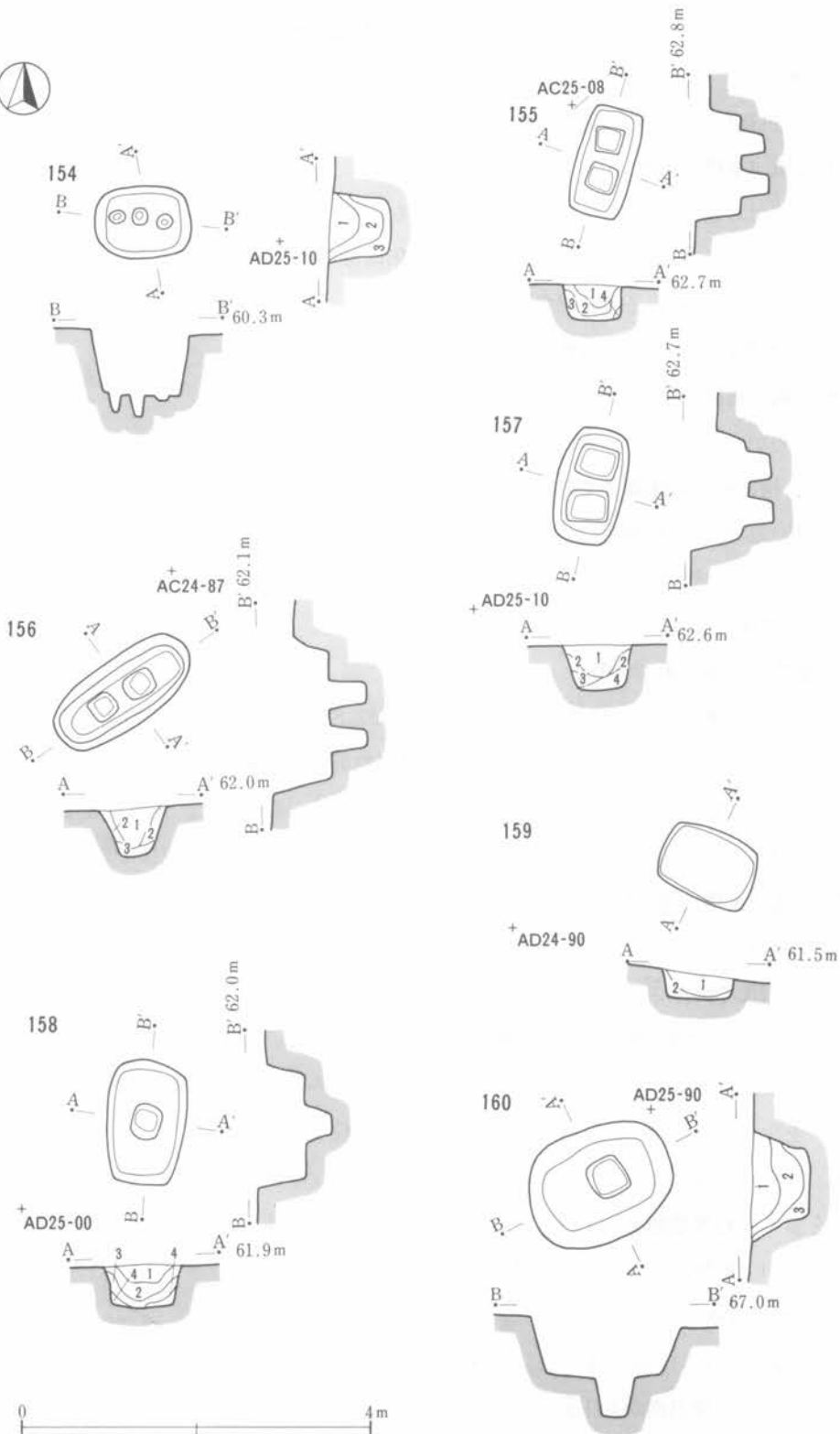
A C24-87から西へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.79m、短軸0.78mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はほぼフラットで中程に一辺30cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは北側のものが47cm、南側のものが45cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒・褐色土粒をわずかに含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

157号土坑（遺構 第225図）

A D25-10から東へ1m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.32m、短辺0.82mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.51mある。床面はやや中程が下がり気味である。45cm×35cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々24cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 堆積はやや疎な黒色土。2. ソフトローム粒を若干含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になるとと思われる。

158号土坑（遺構 第225図）

A D25-00から東へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.40m、短辺0.89mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは48cmある。床面はややフラットで中程に径42cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。



第225図 大野第1遺跡縄文時代土坑(19)(1/80)

覆土は1. ソフトロームをわずかに含む堆積が疎で軟質な黒褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む黒褐色土。3. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

159号土坑（遺構 第225図）

A D24-90から東へ2.0m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.10m、短辺0.82mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは28cmある。床面はフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

160号土坑（遺構 第225図）

A D25-90から西へ0.5m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.71m、短軸1.28mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はフラットで一辺42cmの方形のピットを1個持つ。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 堆積が密である黒褐色土。2. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

161号土坑（遺構 第226図）

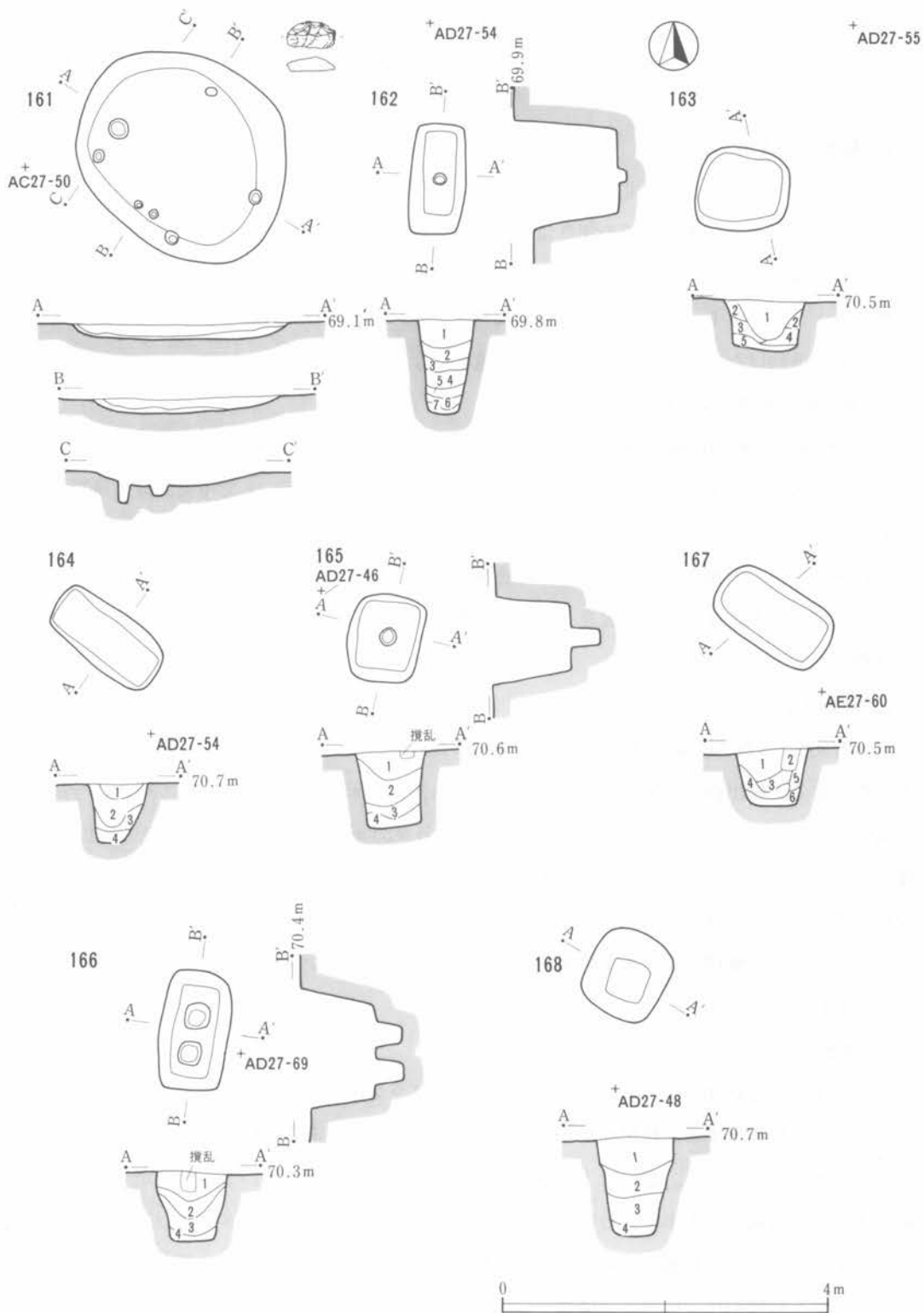
A C27-50から東へ2 mに位置する。プランは長軸2.82m、短軸2.34mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは16cmある。床面は全体に軟弱でやや鍋底状を呈する。柱穴らしい小ピットが壁際に沿ってみられる。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は1. 堆積が密で硬質の暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む褐色土である。簡単な構造の上屋が想像できる遺構である。

162号土坑（遺構 第226図）

A D27-64から南へ2 mに位置する。プランは長辺1.35m、短辺0.68mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.16mある。床面はほぼフラットで径16cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ロームブロックを多くローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。3. ソフトロームを少し含む堆積が疎な暗褐色土。4. ローム粒を若干含むソフトロームを少し含む暗褐色土。5. ロームブロックを非常に多く含む堆積が疎な暗褐色土。6. ローム粒を若干含む焼土粒を多く含む黒褐色土。7. ローム粒を若干含む堆積が疎でサクサクな黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

163号土坑（遺構 第226図）

A D27-55から西へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.12m、短辺1.05mの方形に近い形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はほぼフラットで壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ロームブロックをやや含む黒褐色土。2. ローム粒をわずかに含



第226図 大野第1遺跡縄文時代土坑(20)(1/80)

む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ロームブロックを・ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

164号土坑（遺構 第226図）

A D27-54から西へ0.5m、北へ1 mに位置する。プランは長辺1.50m、短辺0.72mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒をわずかに含む暗褐色土。2. ソフトローム粒を少し含む褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ハードローム粒を含み堆積が疎な褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

165号土坑（遺構 第226図）

A D27-46から東へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.08m、短辺0.89mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.94mある。床面はほぼフラットで中央部分に径22cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは33cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

166号土坑（遺構 第226図）

A D27-69から西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.46m、短辺0.86mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.88mある。床面はほぼフラットで中程に一辺30cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々35cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒少し含む暗褐色土。2. ロームブロックを若干含みローム粒を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含み堆積がやや疎な暗褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含み堆積がやや密な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

167号土坑（遺構 第226図）

A E27-60から西へ0.5m、北へ1 mに位置する。プランは長辺1.52m、短辺0.84mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.69mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。2. 堆積がやや疎な暗褐色土。3. 暗褐色土を多く含む褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む褐色土。5. ロームを非常に多く含む褐色土。6. ローム粒を少し含み堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

168号土坑（遺構 第227図）

A D27-48から北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.08m、短辺0.97mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.17mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む堆積がやや密で硬い暗褐色土。2. ローム粒をわずかに含む暗褐色土。3. 堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を多く含む堆積が疎でサクサクな暗茶褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

169号土坑 (遺構 第227図)

A E27-20から西へ2m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.56m、短辺0.77mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.7mある。床面には細かな9個の小ピットを持つ。ピットの深さは13cm～17cmある。覆土は1. ローム粒を多く含む黒色土。2. ローム粒をわずかに含む堆積がやや疎な暗褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

170号土坑 (遺構 第227図)

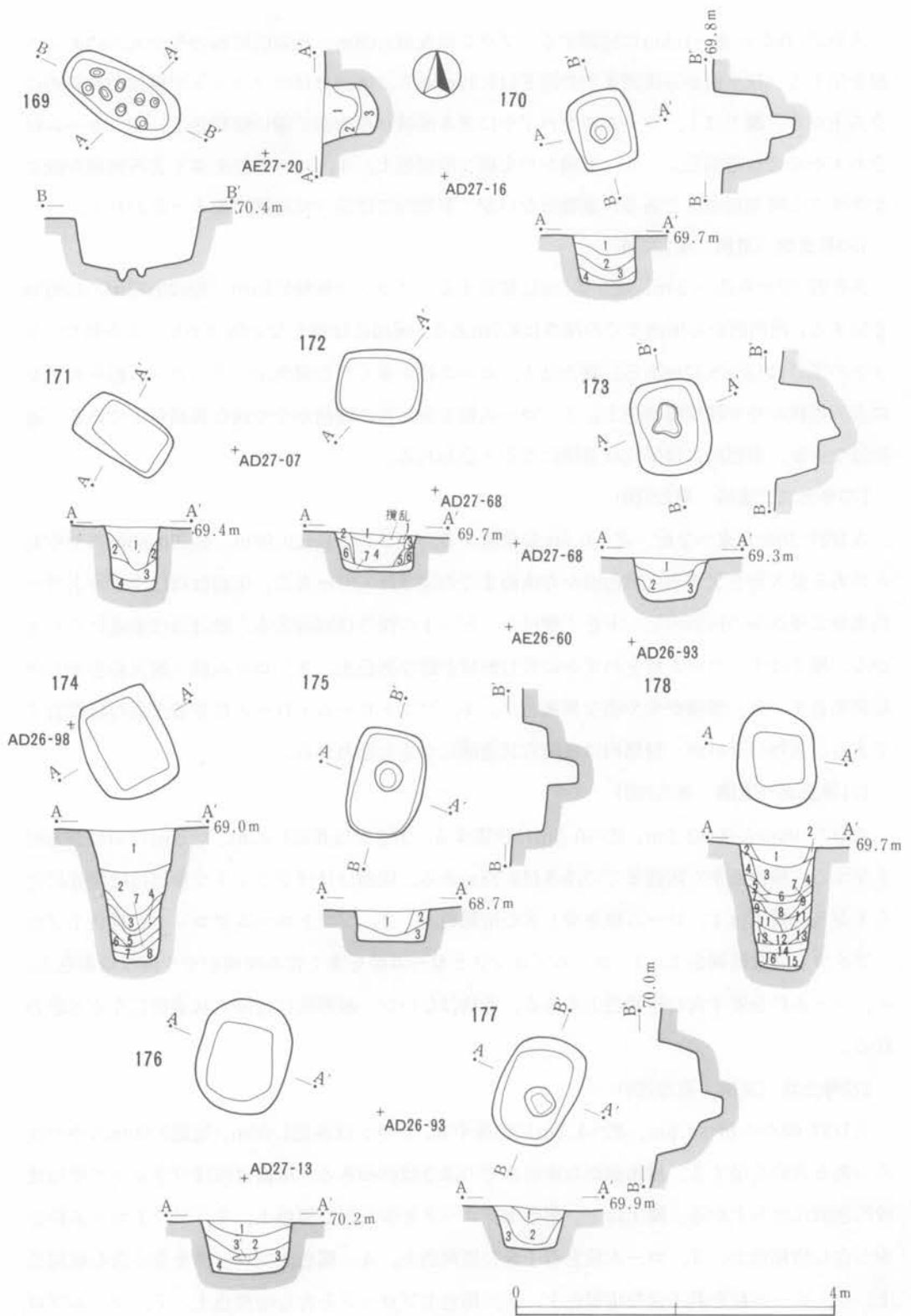
A D27-16から東へ2m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺0.98m、短辺0.80mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.61mある。床面はほぼフラットで中央部分に径28cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは32cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む堆積が疎な黒色土。2. ローム粒・焼土粒を少し含む黒褐色土。3. 堆積がやや密な黒褐色土。4. ソフトローム・ローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

171号土坑 (遺構 第227図)

A D27-06から東へ2.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.22m、短辺0.72mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.78mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームブロックと褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロックとローム粒を多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

172号土坑 (遺構 第227図)

A D27-08から西へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.08m、短辺0.90mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む黒褐色土。4. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。5. ローム粒を若干含む暗褐色土。6. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。7. ロームブロックとローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思



第227図 大野第1遺跡縄文時代土坑(21)(1/80)

われる。

173号土坑（遺構 第277図）

A D26-89から東へ2 m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.18m、短軸0.96mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットで中程にやや不整形なピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 褐色土とローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. 褐色土とローム粒を多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

174号土坑（遺構 第277図）

A D26-98から東へ0.5mに位置する。プランは長辺1.32m、短辺1.09mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.62mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含みローム粒を若干含む黒褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ロームブロックを多く含み堆積が疎でサクサクな暗褐色土。5. ロームブロックを少し含む暗褐色土。6. ロームブロックを若干とローム粒を少し含み堆積が疎な暗褐色土。7. ローム粒を若干含み堆積が疎な暗褐色土。8. ローム粒を少し含み堆積が非常に疎でサクサクな暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

175号土坑（遺構 第277図）

A D26-60から西へ1.5m、南へ2 mに位置する。プランは長軸1.33m、短軸0.94mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは37cmある。床面はほぼフラットでやや北側に径37cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. ローム粒を少しとソフトロームブロックを若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

176号土坑（遺構 第277図）

A D27-13から北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.39m、短軸1.13mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.66mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. ローム粒と焼土粒を多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを少し含む暗褐色土。5. 焼土粒をブロック状に含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

177号土坑（遺構 第277図）

A D26-92から東へ2 mに位置する。プランは長軸1.38m、短軸0.98mの楕円形を呈する。検

出面から床面までの深さは0.5mある。床面はほぼフラットでやや南側に径32cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは38cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒をやや多く焼土粒を若干含む暗褐色土。3. ロームブロックを少しとローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

178号土坑（遺構 第278図）

AD26-94から西へ2m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.22m、短軸0.96mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.54mある。床面はフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒と褐色土ブロックを含み堆積が密な暗褐色土。2. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積が密な暗褐色土。4. ローム粒を多く含む暗褐色土。5. ローム粒を多く含む暗褐色土。6. ローム粒を少し含む暗褐色土。7. ロームブロックを少し含む暗褐色土。8. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。9. ロームブロックをやや多く含む暗褐色土。10. ローム粒を多く含む暗褐色土。11. ロームブロックを多く含む暗褐色土。12. ローム粒を多く含む暗褐色土。13. ローム粒を多く含む暗褐色土。14. ロームブロックの堆積層で貼り床面の黄褐色土。15. ロームブロックを少し含む暗褐色土。16. ロームブロックとローム粒を多く含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

179号土坑（遺構 第278図）

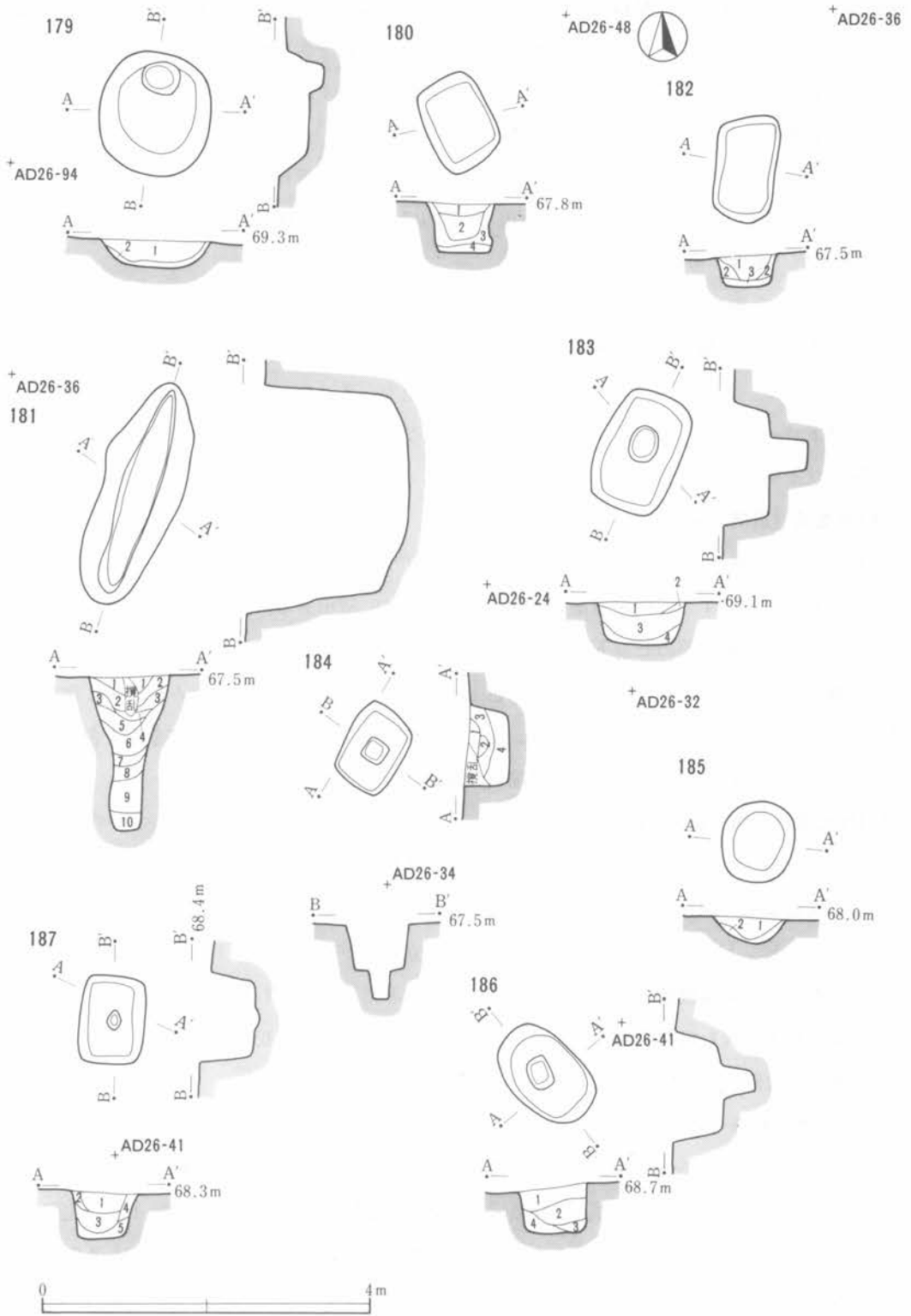
AD26-94から東へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸1.36mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは32cmある。床面はフラットで北壁際に径40cmのピットを1個持つ。ピットの深さは18cmある。壁は斜めに緩やかに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む明褐色土である。遺物はないが、やや小竪穴状の土坑である。

180号土坑（遺構 第228図）

AD26-48から西へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.12m、短辺0.82mのやや歪んだ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.6mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒をやや含む黒色土。3. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な黒色土。4. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

181号土坑（遺構 第228図）

AD26-36から1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.81m、短軸0.92mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.96mある。床面はやや中央部分で下がり壁周辺部分に



第228図 大野第1遺跡縄文時代土坑(22)(1/80)

向かってやや立ち上がる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒を含む暗黄褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。6. ロームブロックを非常に多く含む黄褐色土。7. ローム粒をやや多く含む暗黄褐色土。8. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。9. ロームブロックを非常に多く含む堆積がやや疎な黄褐色土。10. ロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

182号土坑（遺構 第228図）

AD26-36から西へ1m、南へ2mに位置する。プランは長辺1.34m、短辺0.74mのやや不整な長方形を呈する。検出面から床面までの深さは38cmある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを若干含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

183号土坑（遺構 第228図）

AD26-14から東へ2m、南へ2.5mに位置する。プランは長辺1.49m、短辺1.02mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットで中程に45cm×35cmの楕円形のピットを1個持つ。ピットの深さは50cmある。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ロームブロックとローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む褐色土。4. ローム粒少しとロームブロックを若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

184号土坑（遺構 第228図）

AD26-24から南へ2.5mに位置する。プランは長辺1.00m、短辺0.76mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はほぼフラットで中程に一辺26cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは35cmある。やや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒とロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ロームブロックを非常に多く含む褐色土。3. ロームブロックを非常に多く含む暗褐色土。4. ロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

185号土坑（遺構 第228図）

AD26-32から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸0.98m、短軸0.88mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは32cmで断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. 炭化粒を若干含む黒褐色土。2. ソフトロームを少し含む黒褐色土である。遺物もなく性格も不明な土坑である。

186号土坑（遺構 第228図）

A D26-41から東へ1 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸0.86mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットでやや西よりに28cm×38cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは40cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を若干と褐色土を少し含む黒褐色土。3. 堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

187号土坑（遺構 第228図）

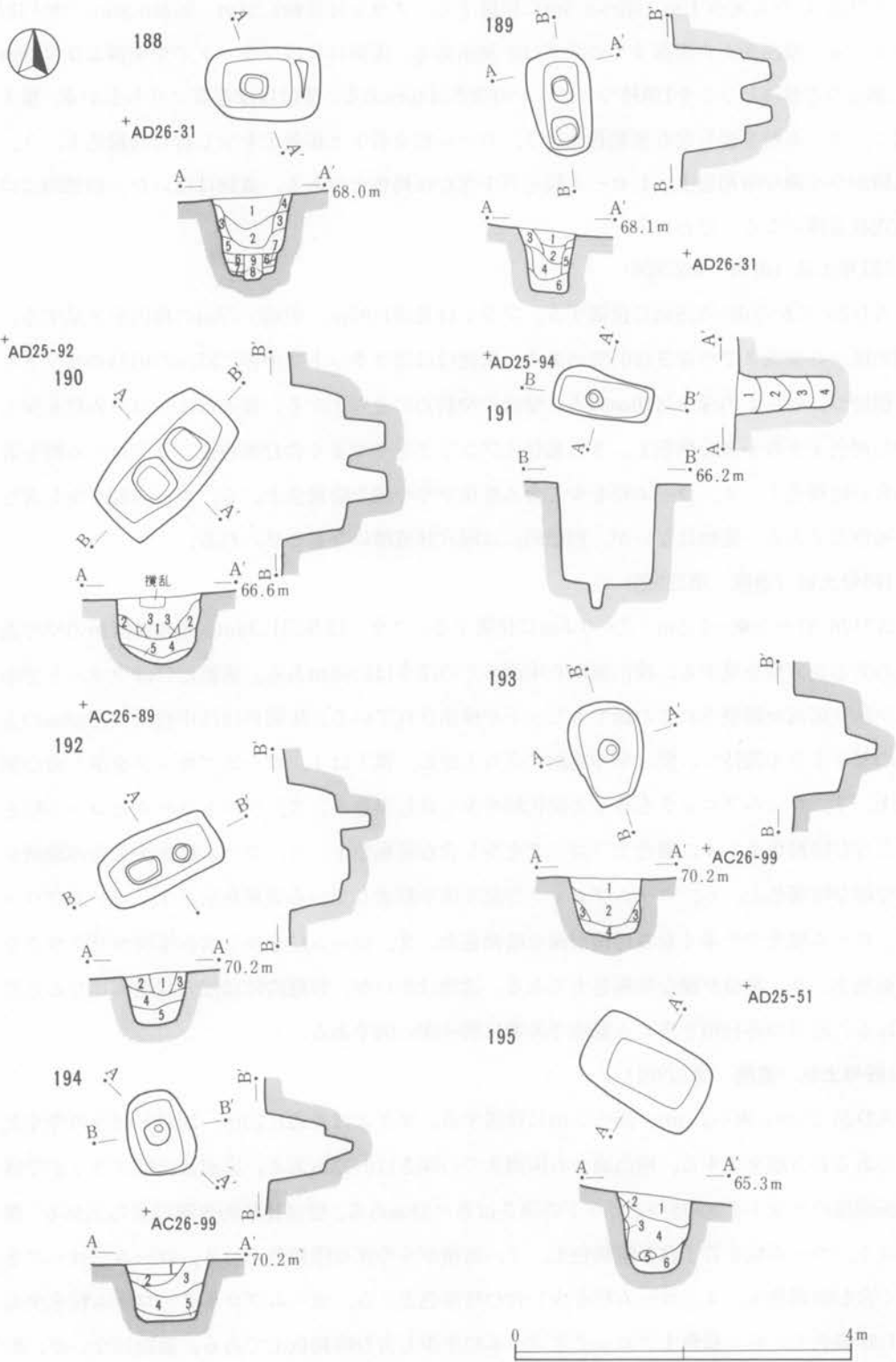
A D26-31から南へ2.5mに位置する。プランは長辺1.07m、短辺0.79mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.55mある。床面はほぼフラットで中程に25cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは10cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土を若干含む黒色土。2. 褐色土ブロックをやや多く含む黒色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

188号土坑（遺構 第229図）

A D26-31から東へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.36m、短軸0.87mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.98mある。床面はほぼフラットであるが貼り床面が観察されこの面でもピットが検出されている。床面のほぼ中程に一辺28cmの方形のピットを1個持つ。壁はやや急激に立ち上がる。覆土は1. ロームブロックを少し含む黒色土。2. ロームブロックを若干と炭化粒を少し含む黒色土。3. ソフトロームとローム粒を少し含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。6. ロームブロックで貼り床を形成している茶褐色土。7. ロームブロックとローム粒をやや多く含む堆積が疎な暗褐色土。8. ローム粒を少し含む堆積がサクサクな暗褐色土。9. 堆積が疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。陥穴の再利用を考える意味で非常に興味深い例である。

189号土坑（遺構 第229図）

A D26-20から東へ2.5m、南へ2 mに位置する。プランは長辺1.26m、短辺0.68mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.73mある。床面はほぼフラットで径32cm前後のピットを2個持つ。ピットの深さは各々33cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. 堆積がやや密な暗褐色土。3. ロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ロームブロック・ローム粒を少し含む暗褐色土。6. 褐色土ブロックとローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。



第229図 大野第1遺跡縄文時代土坑(23)(1/80)

190号土坑（遺構 第229図）

A D25-92から東へ2 m、南へ1.5 mに位置する。プランは長辺1.82 m、短辺1.01 mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.77 mある。床面はやや凹凸があり中程に一辺44 cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.52 mある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. 焼土粒を多く含む暗褐色土。4. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

191号土坑（遺構 第229図）

A D25-94から東へ1.5 m、南へ0.5 mに位置する。プランは長辺1.18 m、短辺0.51 mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.14 mある。床面はほぼフラットで中程に径20 cmの円形ピットを1個持つ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ロームブロックを少しとローム粒を若干含む暗褐色土。3. ロームブロックと褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

192号土坑（遺構 第229図）

A C26-89から東へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺1.47 m、短辺0.74 mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.61 mある。床面はほぼフラットで40 cm×25 cmの方形と径22 cmの円形のピットを2個持つ。深さは方形のピットが10 cm、円形のピットは40 cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 堆積がやや密な黒褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ローム粒・ロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

193号土坑（遺構 第229図）

A C26-99から西へ1 m、北へ1 mに位置する。106号住居跡と南側で接する。切り合い関係から住居跡よりふるい。プランは長軸1.17 m、短軸0.88 mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.66 mある。床面はほぼフラットで中程に径28 cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは38 cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みロームブロックを若干含む黒褐色土である。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. 黒色土とロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

194号土坑（遺構 第229図）

A C26-99から北へ1 mに位置する。プランは長辺0.94 m、短辺0.75 mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.68 mある。床面はほぼフラットで中程に径28 cmの円

形のピットを1個持つ。ピットの深さは32cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土ブロックを若干含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む黒褐色土。3. ローム粒と焼土粒を少し含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックをやや多く含む暗褐色土。5. ロームブロック・ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

195号土坑 (遺構 第229図)

A D25-51から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.57m、短辺0.92mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.89mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒色土。2. ローム粒が多い黄褐色土。3. しまりのある黒色土。4. しまりのある黄褐色土。5. やや粗い暗黄褐色土。6. ローム粒が多い黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

196号土坑 (遺構 第230図)

A D25-56から東へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは長軸1.68m、短軸1.27mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.16mある。床面はほぼフラットで中程に径22cmの円形ピットを1個持つ。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. 焼土粒を少し含む黒褐色土。3. 焼土粒を多く含む赤褐色土。4. ロームブロック崩落土。5. ローム粒を多く含む硬くしまった黒褐色土。6. ローム粒を少し含む黒褐色土。7. 暗褐色土層。8. やや軟質で粘性が少しある黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。二次的に炉として使用した可能性が考えられる。

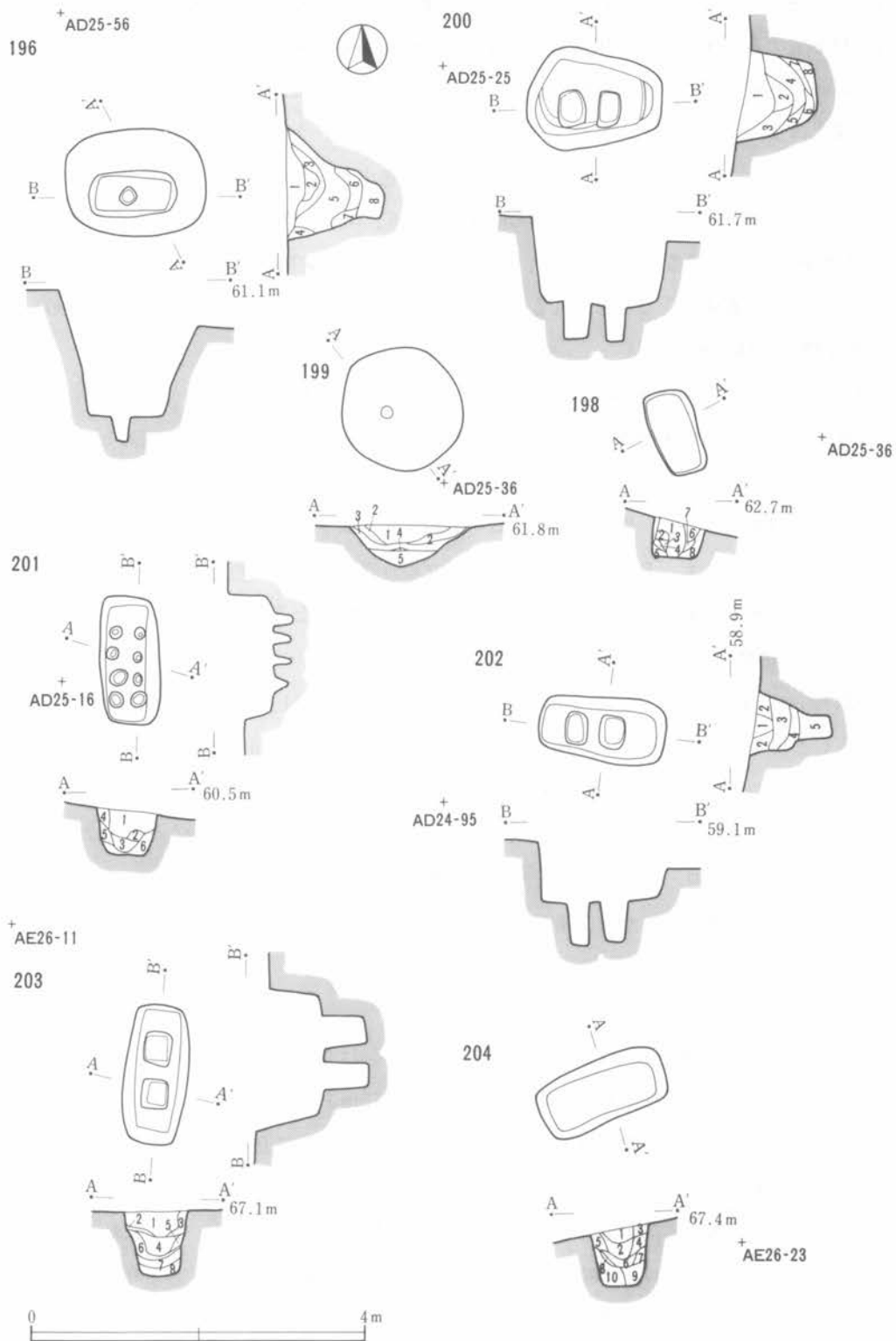
198号土坑 (遺構 第230図)

A D25-35から東へ2 mに位置する。プランは長辺1.04m、短辺0.53mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは45cmある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土。3. 黒色土。4. ロームブロックを含む黄褐色土。5. 黒褐色土。6. ローム粒を含む黒褐色土。7. ローム粒を少し含む黒色土。8. 黒褐色土層である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

199号土坑 (遺構 第230図)

A D25-36から西へ0.5m、北へ1 mに位置する。プランは径約1.5mの円形である。検出面から床面までの深さは0.5mある。断面は逆円錐形を呈する。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む黄褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む黄褐色土である。遺物はなく性格も不明な土坑である。

200号土坑 (遺構 第230図)



第230図 大野第1遺跡縄文時代土坑(24)(1/80)

A D25-25から東へ2 mに位置する。プランは長軸1.64m、短軸1.24mのやや不整形な楕円形に近い形を呈する。検出面から床面までの深さは0.89mある。床面はほぼフラットで南寄りに30cm×44cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々44cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを多く含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。3. ローム粒を若干含む黒褐色土。4. 褐色土ロームを多く含む暗褐色土。5. ロームブロックを少しとローム粒を若干含む暗褐色土。6. ロームブロックを若干含む黒褐色土。7. 堆積が疎でサクサクな暗褐色土。8. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。形態から作り替えられて使用された可能性が強い。

201号土坑（遺構 第230図）

A D25-16から東へ1 mに位置する。プランは長辺1.49m、短軸0.72mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面には8個の大小の円形ピットが並ぶ。ピットの深さは10cm前後のものが多い。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗黄褐色土。2. 黒色土。3. ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土。4. ローム粒を含む暗黄褐色土。5. ローム粒・ロームブロックを含む黄褐色土。6. ローム粒を含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

202号土坑（遺構 第230図）

A D24-95から東へ2 m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.54m、短辺0.78mの丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面には28cm×38cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは38cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 堆積は疎な暗褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ロームブロックを少しとローム粒を若干含む暗褐色土。4. ロームブロックをやや含み堆積がやや疎な暗褐色土。5. ロームブロックを多く含み堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

203号土坑（遺構 第230図）

A E26-11から東へ2 m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.67m、短辺0.77mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さ0.75mある。床面には一辺34cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは0.52mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含みしまりがない黒色土。2. しまりがある黒褐色土。3. ローム粒を多く含む黄褐色土。4. しまりがある黒褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含み柔らかい黄褐色土。7. ローム粒を少し含みしまりが強い黒褐色土。8. しまりが強い黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

204号土坑（遺構 第230図）

A E26-12から東へ2 m、短辺0.71mに位置する。プランは長辺1.57m、短辺0.71mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.69mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒・焼土粒を含みしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を含みしまりがある黒褐色土。3. 攪乱。4. ローム粒を少し含みしまりがある黄褐色土。5. ローム粒を多く含みしまりがある黄褐色土。6. ローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。7. ローム粒を含む黒褐色土。8. ローム粒を含む暗黄褐色土。9. ロームブロックを多く含みやや粗い暗黄褐色土。10. ローム粒を多く含みやや粗い黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

205号土坑（遺構 第231図）

A E26-02から東へ2 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.03m、短軸0.64mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.66mある。床面はほぼフラットで中程に径31cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは30cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 砂質でしまりのない黒色土。2. 砂質でやや粗くローム粒を含む黄褐色土。3. 砂質でやや粗くローム粒を含む黒褐色土。4. やや攪乱気味の黄褐色土。5. しまりのある黒褐色土。6. ローム粒を含む黒褐色土。7. ローム粒を含む黒褐色土。8. ローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

206号土坑（遺構 第231図）

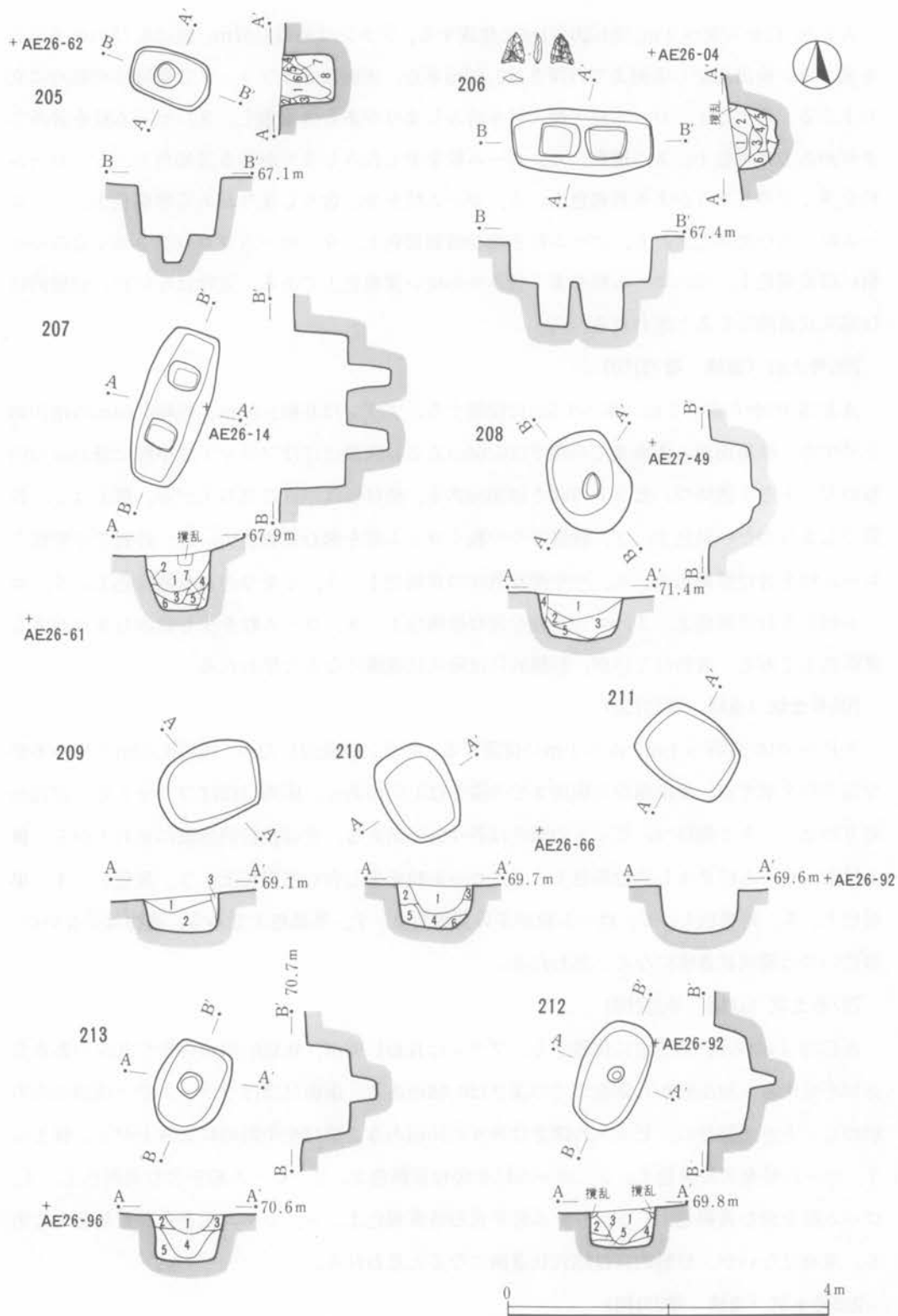
A E26-04から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.73m、短辺0.82mのやや不整な長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はほぼフラットで一辺42cmの方形ピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.55mある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. 黒色土。4. 黒褐色土。5. 黄褐色土。6. ローム粒が多い黄褐色土。7. 黒褐色土である。遺物は少ないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

207号土坑（遺構 第231図）

A E26-14から西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.96m、短辺0.84mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.66mある。床面はほぼフラットで一辺34cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.55mある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒色土。2. ローム粒を含む黄褐色土。3. ローム粒を含む黒褐色土。4. ローム粒を含む黄褐色土。5. ローム粒を含む暗黄褐色土。6. ローム粒を含む黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

208号土坑（遺構 第231図）

A E27-49から西へ1 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.27m、短軸0.98mの楕円形



第231図 大野第1遺跡縄文時代土坑(25)(1/80)

を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はやや凹凸があり中程に径24cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは14cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. 褐色土とローム粒を含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒を多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

209号土坑（遺構 第231図）

A E 26-61から東へ2m、南へ2mに位置する。プランは長軸1.34m、短軸0.86mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは44cmある。床面はほぼフラットで壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒を含む黒褐色土である。遺物はなく、やや浅いが形態的には陥穴状遺構になると思われる。

210号土坑（遺構 第231図）

A E 26-66から西へ1.5m、短辺0.5mに位置する。プランは長辺1.18m、短辺0.92mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.52mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む焼土粒を含む黒色土。2. ローム粒を多く含むしまりがある黄褐色土。3. ローム粒を多く含む黄褐色土。4. ローム粒を少し含む黒色土。5. ローム粒を少し含む黒褐色土。6. ローム粒を含みやや粗い暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

211号土坑（遺構 第231図）

A E 26-92から西へ2m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.22m、短辺0.94mのやや丸みのある方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はやや中程が低く下がり壁際にかけてグラグラと上がり壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は不明である。210号と同様な陥穴状遺構になると思われる。

212号土坑（遺構 第231図）

A E 26-92から西へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.36m、短軸0.82mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はほぼフラットで中央部分に径20cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは31cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒・ロームブロックを含む黒色土。2. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。3. ローム粒を少し含む黒色土。4. ローム粒を含む暗黄褐色土。5. ローム粒を多く含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

213号土坑（遺構 第231図）

A E 26-96から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.12m、短軸0.88mのやや角

張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで中央部分に径31cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは35cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒を含む黒褐色土。3. ローム粒を含む黄褐色土。4. ローム粒を少し含む黒色土。5. ローム粒・ロームブロックを含む黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

214号土坑 (遺構 第232図)

A E27-18から西へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.76m、短軸0.79mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はやや凹凸があり16cm~24cmの径の円形ピットを3個持つ。ピットの深さは北側のものが40cm、真ん中のものが33cm、南側のものが30cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒色土。2. ローム粒を含むやや疎な黄褐色土。3. ローム粒を含む黒褐色土。4. ローム粒を含む暗黄褐色土。5. ローム粒を多く含む黄褐色土。6. 非常にしまりのある黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

215号土坑 (遺構 第232図)

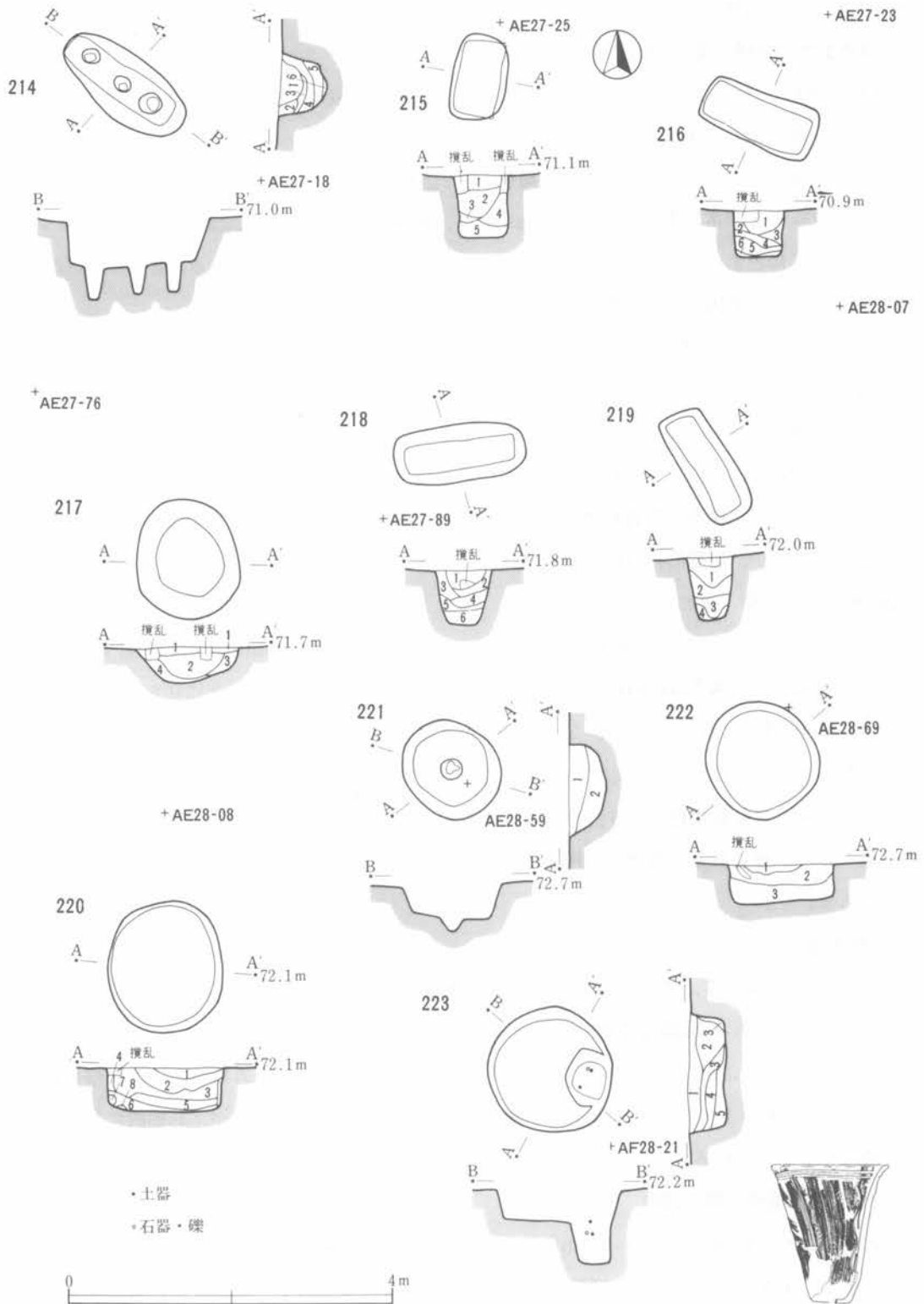
A E27-25から南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.06m、短辺0.68mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.78mある。床面はほぼフラットで壁は垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む黄褐色土。4. ローム粒を少し含む黒色土。5. ローム粒を少し含む黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

216号土坑 (遺構 第232図)

A E27-23から西へ1m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.48m、短辺0.64mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで壁は垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含みしまりがあある黒褐色土。2. ローム粒を含みしまりがあある黄褐色土。3. ローム粒を含みしまりがあある黄褐色土。4. ローム粒を含みしまりがあある黒褐色土。5. ローム粒を含みしまりがあある黄褐色土。6. やや粘性のある暗茶褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

217号土坑 (遺構 第232図)

A E27-77から西へ2m、南へ2mに位置する。プランは長軸1.45m、短軸1.26mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは44cmある。断面形は鍋底状を呈する。覆土は1. ローム粒・焼土粒を多量に含みしまりがあある黄褐色土。2. ローム粒を少し含む黒色土。3. ローム粒を多く含む黄褐色土。4. ローム粒を多く含む黄褐色土である。焼土が堆積している土坑であるが性格は明確ではない。あるいは220号土坑のように住居跡との関連がある土坑



第232図 大野第1遺跡縄文時代土坑(26)(1/80)

かもしれない。遺物はない。

218号土坑（遺構 第232図）

A E 27-89から東へ1 m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.64m、短軸0.68mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを非常に多く含む暗黄褐色土。4. 堆積が疎な暗褐色土。5. ロームブロックを少し含む暗褐色土。6. 黒色土とロームブロックの混成層の黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

219号土坑（遺構 第232図）

A E 28-16から東へ2.5m、北へ2 mに位置する。プランは長辺1.48m、短辺0.60mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含み砂質の黒褐色土。2. ローム粒を多く含み砂質の暗黄褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を含みやや柔らかい暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

220号土坑（遺構 第232図）

A E 28-08から南へ2 mに位置する。プランは長軸1.62m、短軸1.40mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒褐色土。2. ローム粒とロームブロックを多く含む黄褐色土。3. ローム粒とロームブロックを少し含む黒褐色土。4. 砂質の黄褐色土。5. ローム粒とロームブロックを多く含む黄褐色土。6. ローム粒を少し含む黒色土。7. ロームブロック層。8. ロームブロック層である。遺物から縄文時代中期の住居跡に関連した施設である可能性が高い土坑である。

221号土坑（遺構 第232図）

A E 28-59に位置する。プランは長軸1.28m、短軸1.10mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは47cmある。床面はやや凹凸がみられ中央部分に径28cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは14cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

222号土坑（遺構 第232図）

A E 28-69から西へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.41m、短軸1.38mのほぼ円形を呈する。床面はほぼフラットで壁は垂直に立ち上がる。覆土は1. 焼土粒を非常に多く含む赤褐色土。2. ロームブロックを多く含み堆積がやや疎な暗褐色土。3. ロームブロックを

非常に多く含み堆積がやや密な褐色土である。焼土が堆積している土坑であるが性格は明確ではない。あるいは220号土坑のように住居跡との関連がある土坑かもしれない。形態的に220号に非常に似ている。遺物は少ない。

223号土坑（遺構 第232図 遺物 第238図27）

A F28-21から西へ0.5m、北へ1mに位置する。プランはほぼ径1.50mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは43cmある。床面はほぼフラットでしまりが良い。東壁際に径0.58mの円形ピットを持つ。ピットの深さは0.5mある。壁は比較的急激に立ち上がる。床面中央付近に縄文土器が置かれた状態で出土している。覆土は1. ローム粒とロームブロックを含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒とロームブロックを含む黒褐色土。4. ローム粒とロームブロックを少し含む黒褐色土。5. ローム粒を少し含む黒色土である。縄文時代中期の小竪穴と呼ばれるタイプの土坑で220号土坑等とも関連があるかもしれない。

224号土坑（遺構 第233図）

A F28-10から東へ0.5m、南へ2mに位置する。プランは長軸1.18m、短軸1.05mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは24cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む黄褐色土。3. ローム粒を含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む黄褐色土である。貯蔵穴のような用途が考えられる土坑で住居跡や220号土坑等と関連があるかもしれない。

225号土坑（遺構 第233図）

A F28-10から西へ1m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸0.92mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.61mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒とロームブロックを含む黄褐色土。3. ローム粒を含む黒褐色土。4. しまりが普通の黒色土。5. ローム粒を含む黒褐色土。6. やや粘性のある黒褐色土。7. ローム粒を多く含みやや粗い黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

226号土坑（遺構 第233図）

A F26-80から東へ0.5m、南へ2mに位置する。プランは長辺1.55m、短辺0.98mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.95mある。床面はやや緩やかに傾斜しており中央部分に径22cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは10cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒と焼土粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒とロームブロックを含む黒色土。3. ローム粒を多く含む黒色土。4. ローム粒を少し含む黒色土。5. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。6. 柔らかくやや粘性のある黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

+AF28-10

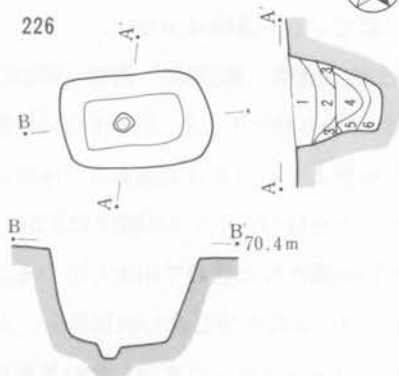
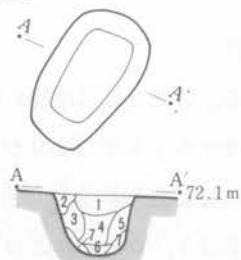
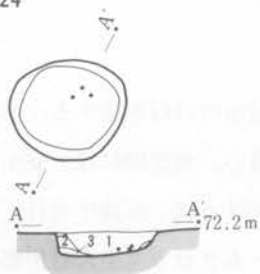
+AF26-80

+AF28-10

224

225

226



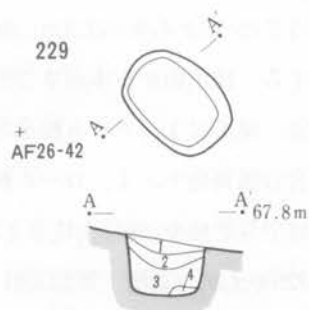
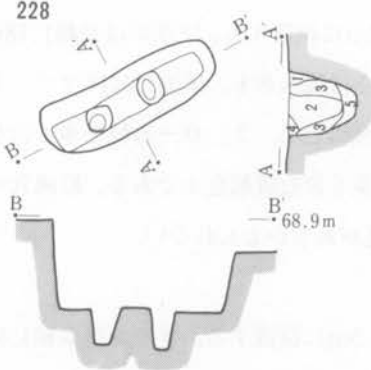
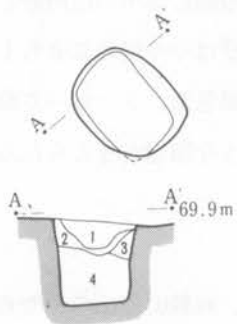
+AF26-73

+AF26-83

227

228

229



+AF26-43

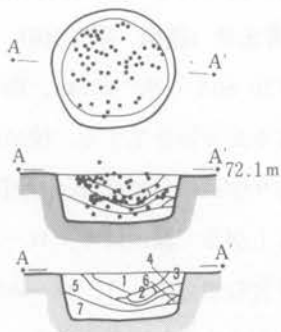
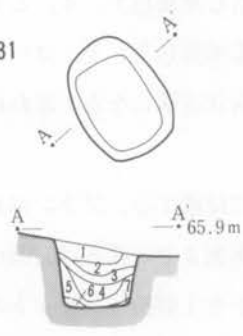
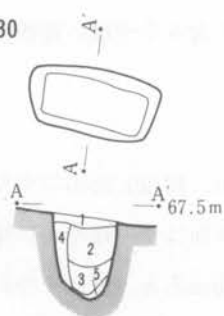
+AF26-24

+AF28-02

230

231

232



・土器
 ・石器・礫



第233図 大野第1遺跡縄文時代土坑(27)(1/80)

227号土坑（遺構 第233図）

A F26-93から西へ1 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺1.07m、短辺0.92mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含む黄褐色土。3. ローム粒を含む黄褐色土。4. ローム粒とロームブロックを含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

228号土坑（遺構 第233図）

A F26-83から南へ2 mに位置する。プランは長軸1.97m、短軸0.62mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットで径30cmの円形ピットを2個持つ。ピットの深さは西側のものが30cm、東側のものが40cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒褐色土。2. 黒色土。3. 黒褐色土。4. ローム粒を多く含む黒褐色土。5. ローム粒・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

229号土坑（遺構 第233図）

A F26-42から東へ1.5mに位置する。プランは長軸1.19m、短軸0.85mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.57mある。床面はやや凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土。2. 焼土粒とローム粒を多く含む暗赤褐色土。3. ローム粒を少し含む黒色土。4. ロームブロックを含みやや粗い黒褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

230号土坑（遺構 第233図）

A F26-43から南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.32m、短辺0.66mのやや不整な長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。床面はほぼフラットで壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含む黒褐色土。4. ローム粒を多く含む黄褐色土。5. 少し粘性がある暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

231号土坑（遺構 第233図）

A F26-24から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.28m、短軸0.94mのやや方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はほぼフラットで比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒と焼土粒を少し含む黒褐色土。2. ローム粒と焼土粒を少し含む黒色土。3. 焼土粒を多く含む赤褐色土。4. ローム粒を含む黒褐色土。5. ローム粒を含む暗黄褐色土。6. 少し粘性がありやや柔らかい暗黄褐色土。7. ロームブロック主体の黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

232号土坑（遺構 第233図）

A F 28-02から東へ0.5m、南へ2 mに位置する。プランはほぼ径1.14mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.5mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含む暗黄褐色土。2. 焼土ブロック。3. 焼土粒を含み砂質の暗赤褐色土。4. 炭化粒主体の黒色土。5. ローム粒を含みしまりのある黒褐色土。6. ロームブロック主体の黄褐色土。7. ローム粒を少し含みしまりがある暗黄褐色土である。貯蔵穴のような用途が考えられる土坑で住居跡や220号土坑等と関連のあるかもしれない。

233号土坑（遺構 第234図）

A F 28-33から東へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.27m、短軸0.79mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.75mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干と褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。2. ロームブロックを少し含む褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

234号土坑（遺構 第234図）

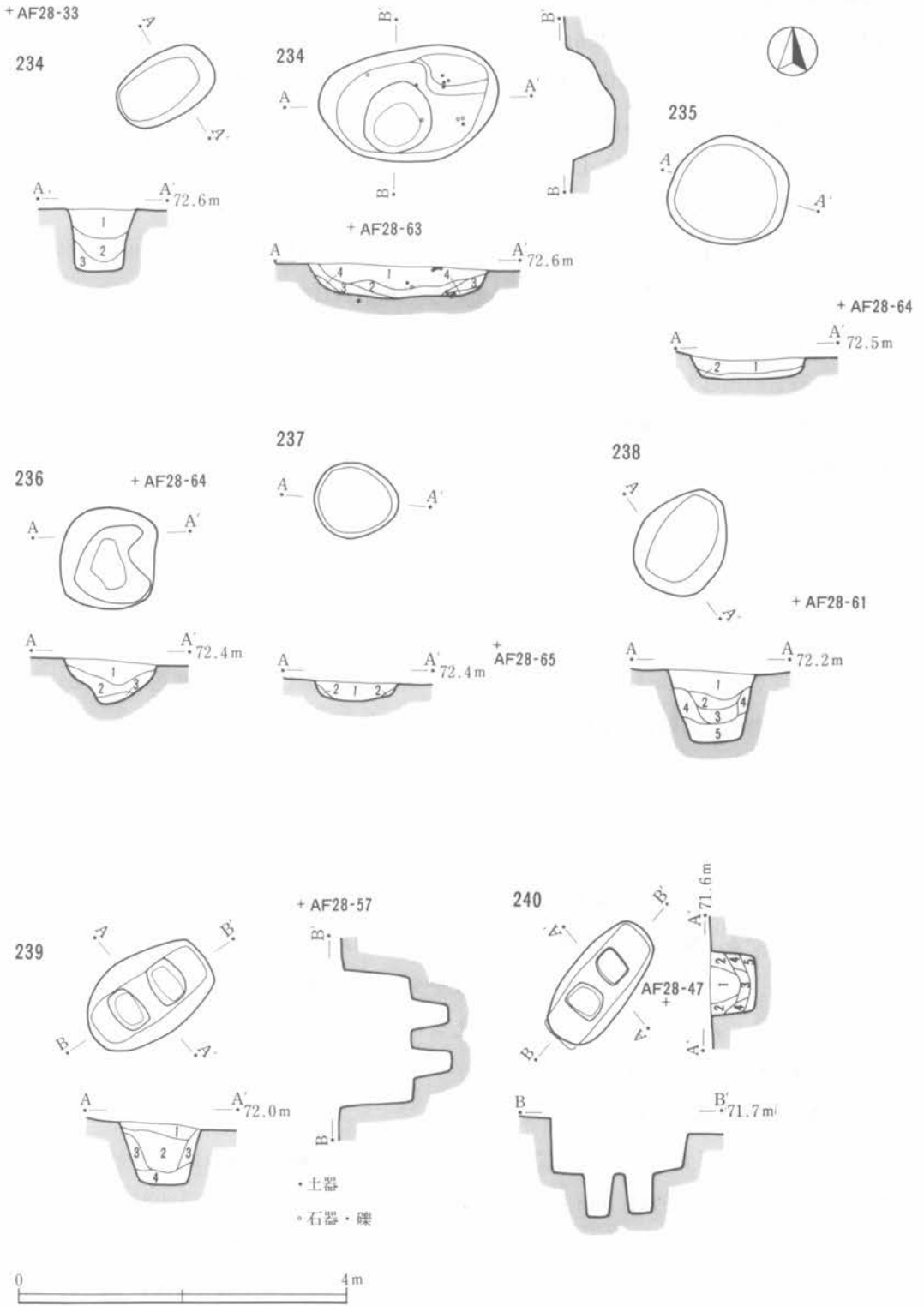
A F 28-53から東へ0.5m、南へ2.5mに位置する。プランは長軸2.24m、短軸1.38mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは38cmある。床面には段やピットがみられる。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. 黒色土ブロックを多く含む暗茶褐色土。2. ロームブロックや黒色土ブロックを若干含む暗茶褐色土。3. ロームブロックとローム粒を多く含む堆積がやや疎な褐色土。4. ロームブロックを非常に多く含む堆積が密な褐色土である。遺物が少し出土しているが土坑の性格は不明である。

235号土坑（遺構 第234図）

A F 28-64から西へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.42m、短軸1.32mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは22cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームブロックをやや多く含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土である。貯蔵穴のような用途が考えられる土坑で住居跡や220号土坑等と関連があるかもしれない。

236号土坑（遺構 第234図）

A F 28-64から南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.24m、短軸1.14mのやや楕円形に近い形を呈する。検出面から床面までの深さは0.5mある。床面は中心から壁際に向かって斜めに上り傾斜している。壁も斜めに傾斜して立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。2. ローム粒をやや多く焼土粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む褐色土である。遺物は少ない。土坑の性格は不明である。



第234図 大野第1遺跡縄文時代土坑(28) (1/80)

237号土坑（遺構 第234図）

A F28-54から東へ2 m、南へ2.5mに位置する。プランは長軸1.04m、短軸0.93mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは22cmある。床面はほぼフラットで壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含む褐色土である。貯蔵穴のような用途が考えられる土坑で住居跡や220号土坑等と関連があるかもしれない。

238号土坑（遺構 第234図）

A F28-67から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.36m、短軸1.10mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.85mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みやや疎な黒褐色土。2. ローム粒を少し含み疎な黒色土。3. 砂質の黒色土。4. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。5. ローム粒を少し含みしまりある暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

239号土坑（遺構 第234図）

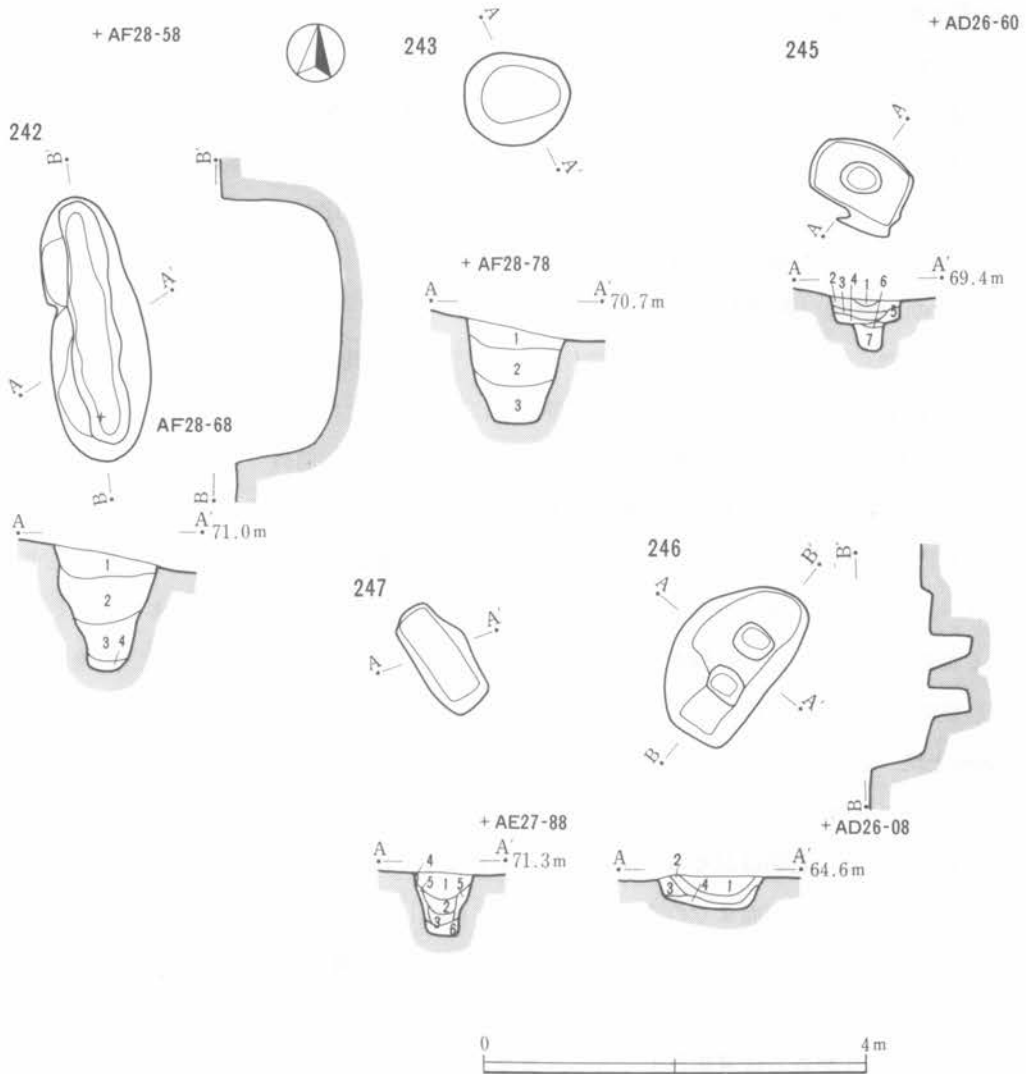
A F28-57から西へ2 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.66m、短軸1.05mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.73mある。床面はほぼフラットで52cm×36cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々47cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ローム粒を斑に含みしまりがある黒褐色土。3. ローム粒を多く含みしまりがある暗黄褐色土。4. ローム粒を少し含む暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

240号土坑（遺構 第234図）

A F28-47から西へ1 mに位置する。プランは長辺1.66m、短辺0.79mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面はほぼフラットで一辺34cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは北側のものが0.51m、南側のものが0.54mある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを少しと褐色土を少し含む暗褐色土。4. ローム粒とロームブロックを少し含む褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物は少ないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

242号土坑（遺構 第234図）

A F28-68から北へ1 mに位置する。プランは長軸2.77m、短軸1.00mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.16mある。床面は細長く壁際に向かってやや上り傾斜気味である。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを含む黄褐色土。3. ローム粒・ロームブロックを多く含む黄褐色土。4. 柔らかくやや粗い黒色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。



第235図 大野第1遺跡縄文時代土坑(29)(1/80)

243号土坑（遺構 第235図）

A F28-68から東へ0.5m、南へ2.5mに位置する。プランは長軸1.09m、短軸1.00mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.96mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒・ロームブロックを多く含む砂質の暗黄褐色土。2. ローム粒とローム小ブロックを多く含む黄褐色土。3. 2層に比べてやや明るい黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

245号土坑（遺構 第235図）

A D26-70から西へ0.5m、北へ2.5mに位置する。プランは長辺1.07m、短辺0.72mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは下層確認中に検出されたため削られてしまっているが24cmある。床面はほぼフラットで中程に径34cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは27cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 砂質でしまりのある黒色土。2. ローム粒がブロック状に含まれる暗黄褐色土。3. ローム粒を少し含む砂質でしまりがややある黒褐色土。4. ローム粒を含みしまりがある暗黄褐色土。5. 4と同じ。6. ローム粒を多く含むしまりがある黄褐色土。7. ローム粒を多く含むしまりが非常に強い暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

246号土坑（遺構 第235図）

A D25-98から西へ1m、南へ2.5mに位置する。プランは長辺1.82m、短辺1.10mのやや半月状の形を呈する。北側はおそらく崩落による変形と考えられるので元々長方形をしていたと思われる。検出面から床面までの深さは36cmある。床面は一辺35cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々23cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりがある黒色土。2. しまりのある黒褐色土。3. ローム粒を少し含むしまりがある暗黄褐色土。4. ローム粒を多く含むしまりがある暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

247号土坑（遺構 第235図）

A D27-38から西へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.23m、短辺0.58mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒と褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土。3. ロームブロックを若干含む暗褐色土。4. ロームブロックを含む暗褐色土。5. ローム粒を含む暗黄褐色土。6. ローム粒を多く含む暗黄褐色土。遺物は少ないが、形態的には陥穴状遺構になると思われる。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

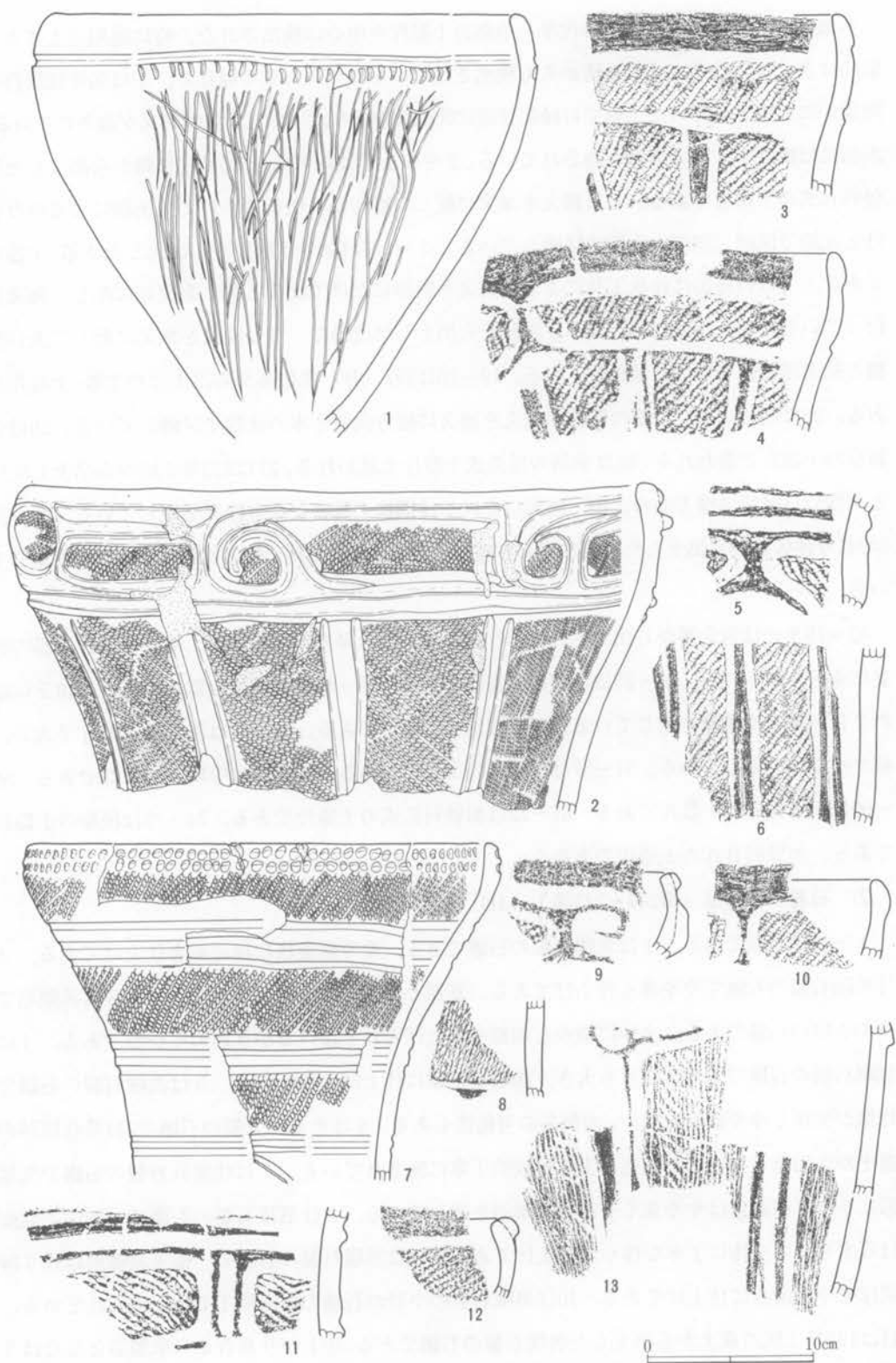
(1) 土器（第236～239図1～75）

本調査時に包含層から縄文時代早～中期の土器片を中心に検出された。特に前期の土器片が量的に多くみられる。また遺構からも検出されているので合わせて触れる。1は30号住居跡の埋設炉に使用されていた土器で口縁部付近に沈線文があり直下に竹管の刺突文が施されている。胴部には櫛状の工具で条線が施されている。2～6まではいずれも105号住居跡から出土した加曾利E式の土器片である。LR縄文を地文に配し口縁部から胴部にかけて粘土紐による貼り付けと沈線で区画し胴部を沈線で区画している。7～13は106号住居跡から出土した土器・土器片である。7は口唇部に棒状工具による刺突文と胴部にかけて沈線と縄文を交互に配して施文を行っている。14～18は197号(A)住居跡から出土した土器で、17は縄文を地文に配して太い沈線と粘土紐の張り付けで区画している。19～26は197(B)住居跡から出土した土器・土器片である。26は同じような土器の胴部で縄文を地文に縦方向の2本の沈線で区画している。20は曾利型の土器片と思われる。25は前期の黒浜式土器片と思われる。27は223号土坑から出土している土器で口縁部に横方向の沈線、胴部にかけては櫛状工具による条線文を施している。29～31は241号住居跡から出土した土器片でRL縄文を地文に配して粘土紐と沈線による区画を施している。

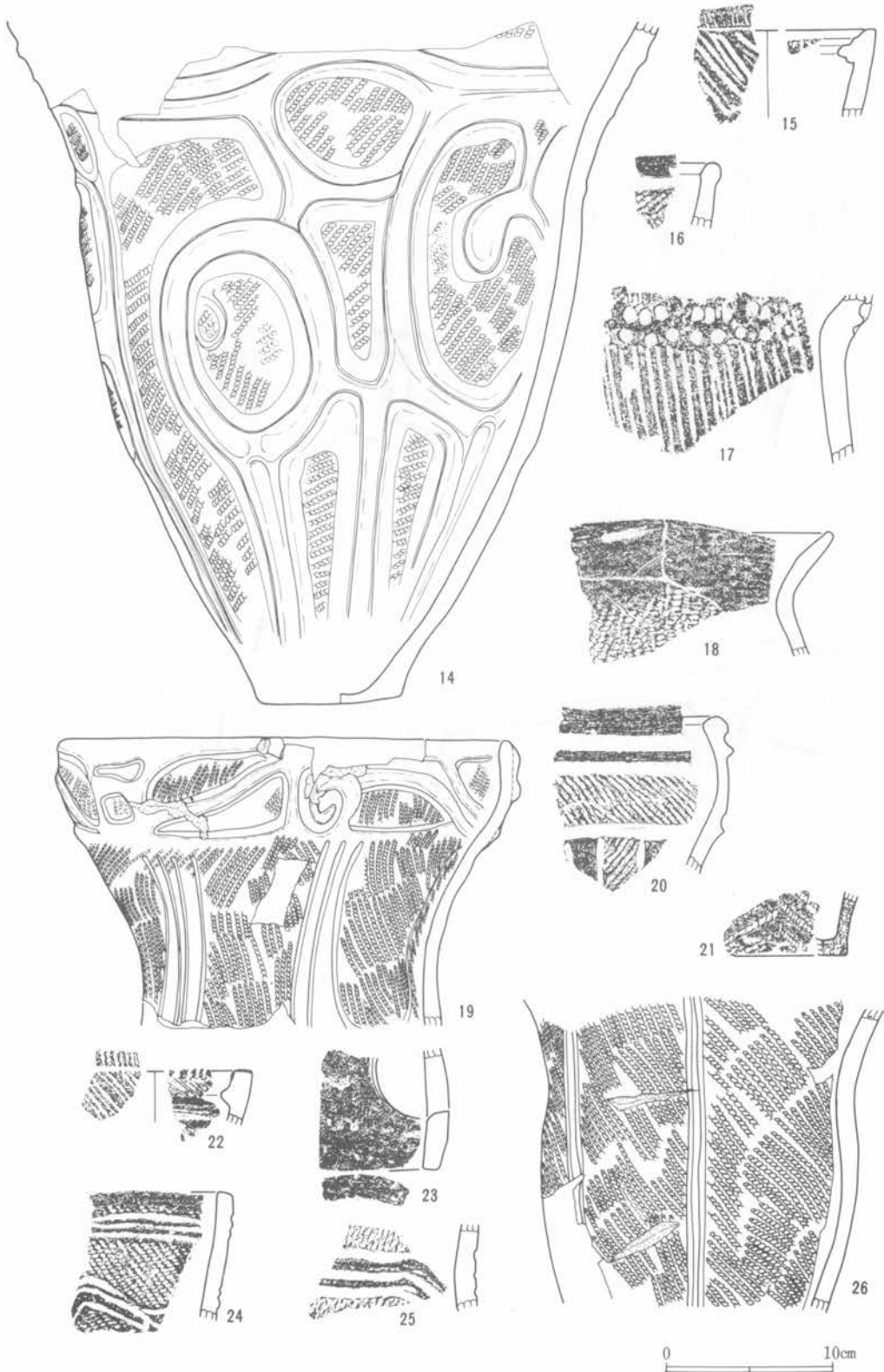
32～75までは包含層から出土した土器片である。32は早期後半の繊維土器である。土器の表裏に条痕がみられる。33～57は前期の土器群である。33～44は黒浜式土器片である。胎土に繊維を含み縄文や条線を配している。45は関山式土器片である。46～50は浮島式土器片である。細かな条線を施している。51～57は諸磯系の土器片である。58～73は中期の土器群である。59～60は阿玉台式の土器片である。61～73は加曾利E式の土器片である。74～75は後期の土器片である。加曾利B式の土器片であろう。

(2) 石器・石製品 (第240～243図1～41)

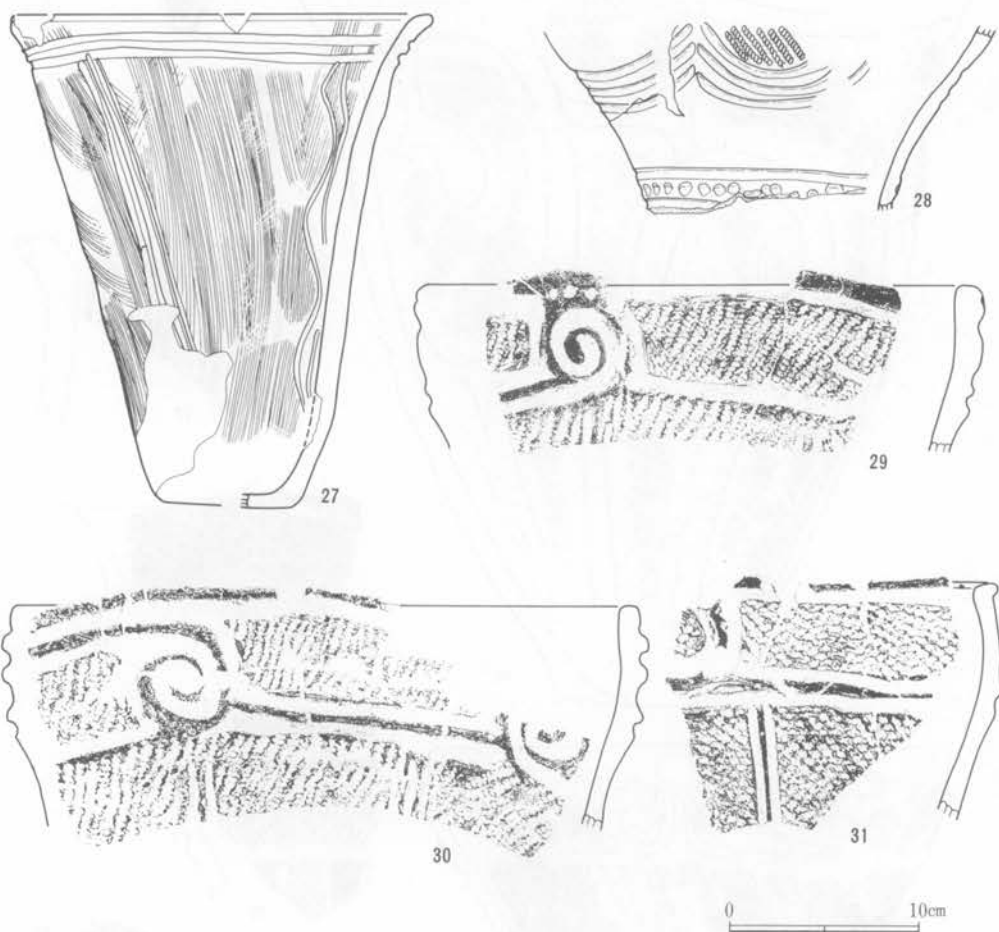
1～14は石鏃である。1は黒曜石製の石鏃である。やや鋸歯状に縁辺部を仕上げている。2は黒曜石製の石鏃でやや薄く仕上げている。基部と先端部が一部欠損している。3は黒曜石でやや小形の石鏃である。全体に細かな調整で仕上げられてはいるがきわめて小形である。4は黒曜石製の石鏃で基部の抉りも大きく縁辺も丁寧に仕上げられている。5は黒曜石製の石鏃で片側が欠損しやや調整も荒い。未製品の可能性もある。6はチャート製の石鏃で241号住居跡の覆土から出土している。周辺加工は比較的丁寧に施されている。7は珪質頁岩製の石鏃で先端部にかけての調整はやや荒く一部主剝離面を残している。8は黒曜石製の石鏃で一部主剝離面は残すものの全体に丁寧な作りで仕上げている。9は黒曜石製の石鏃で一部主剝離面は残り縁辺はやや鋸歯状に仕上げている。10は黒曜石製の小形の石鏃で周辺加工で仕上げられている。11は197号土坑の覆土から出土した黒曜石製の石鏃である。仕上がり具合から未製品としたほうがよいかもしれない。12も197号土坑から出土した石鏃である。小形で細かな調整で仕上げられ



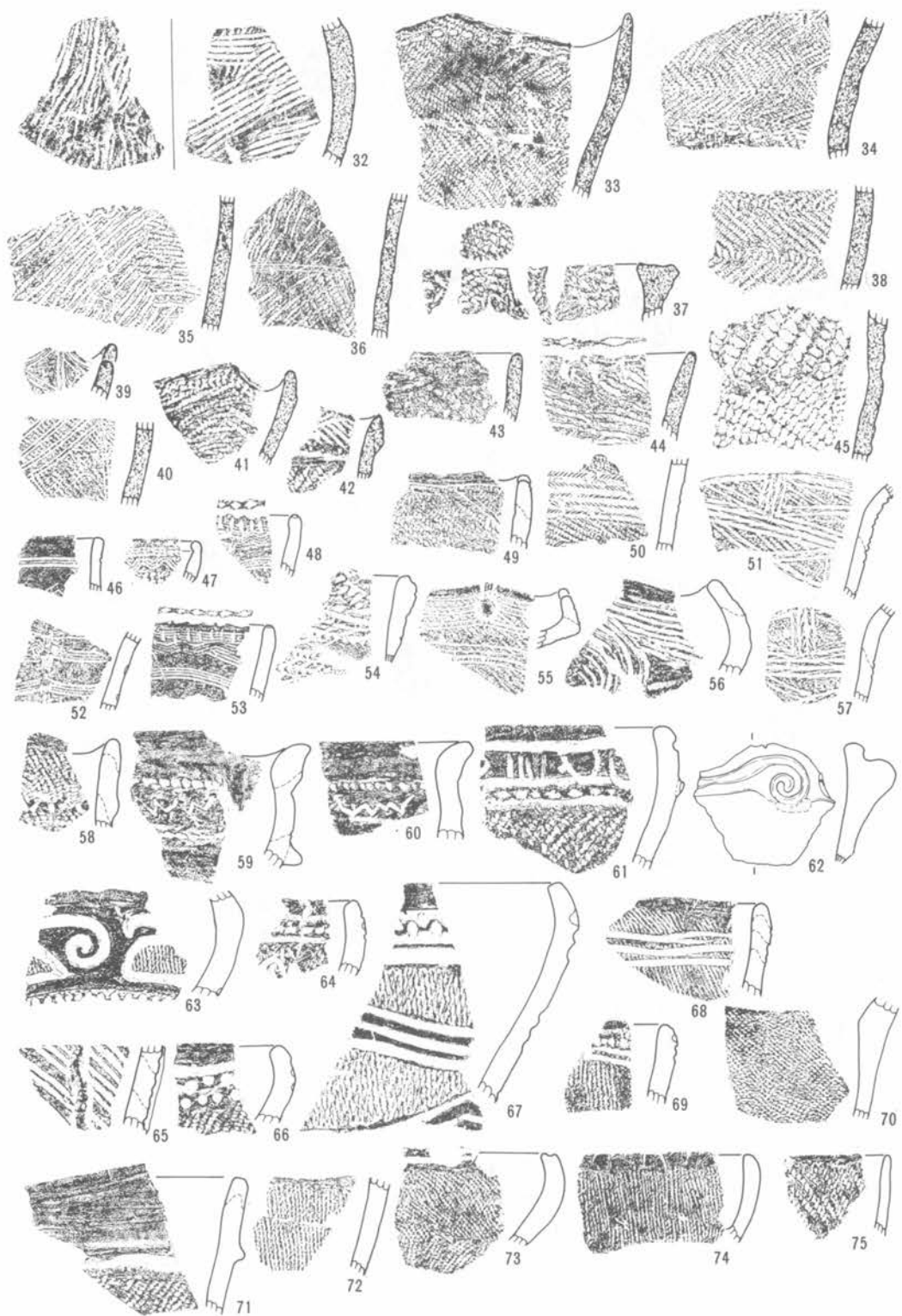
第236図 大野第1遺跡遺構内出土土器(1)(1/4)



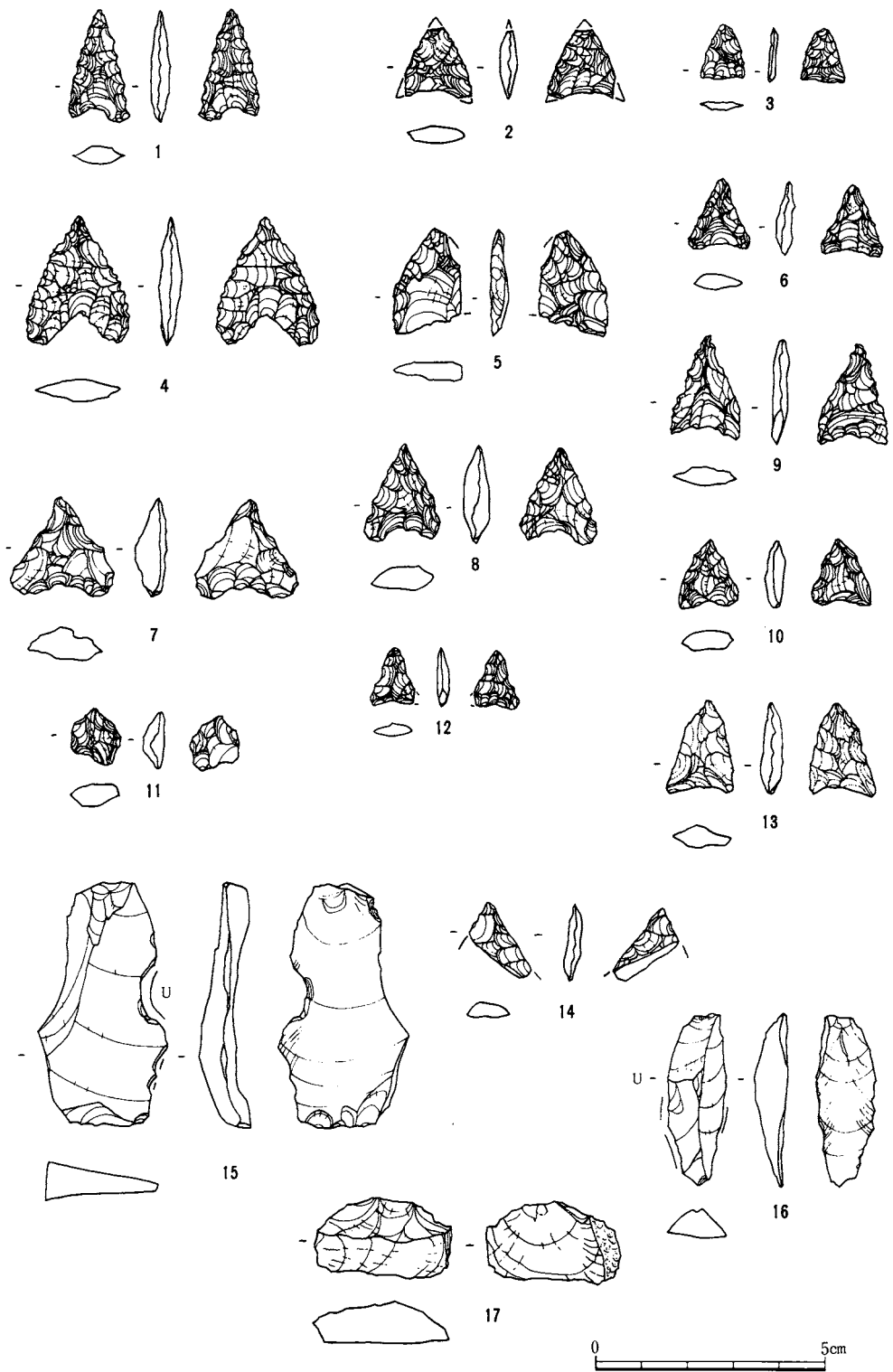
第237図 大野第1遺跡遺構内出土土器(2)(1/4)



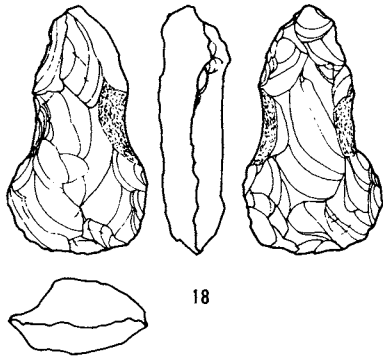
第238図 大野第1遺跡遺構内出土土器(3)(1/4)



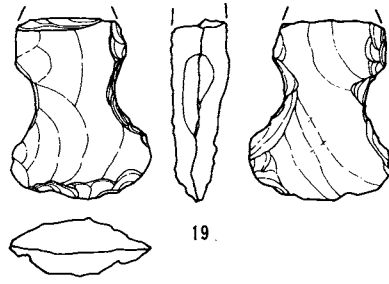
第239図 大野第1遺跡包含層出土土器(1/4)



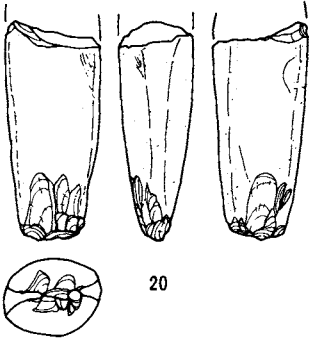
第240図 大野第1遺跡遺構及び包含層出土石器(1)(2/3)



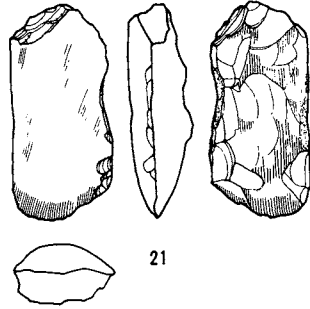
18



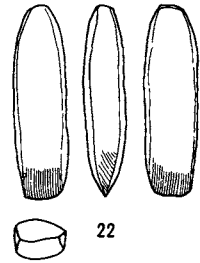
19



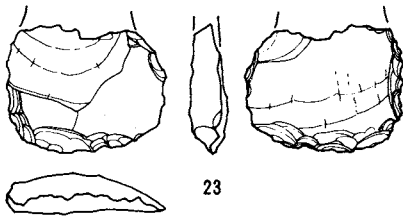
20



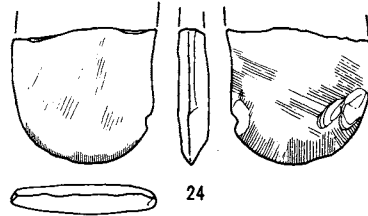
21



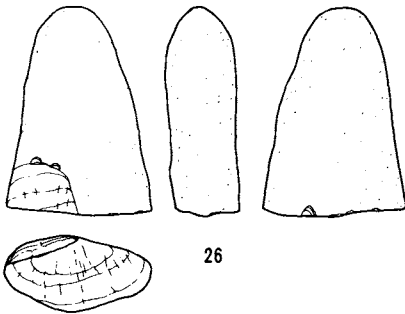
22



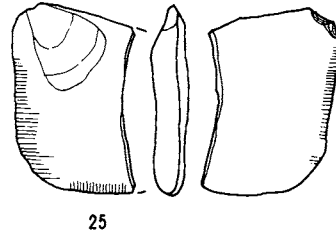
23



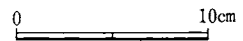
24



26



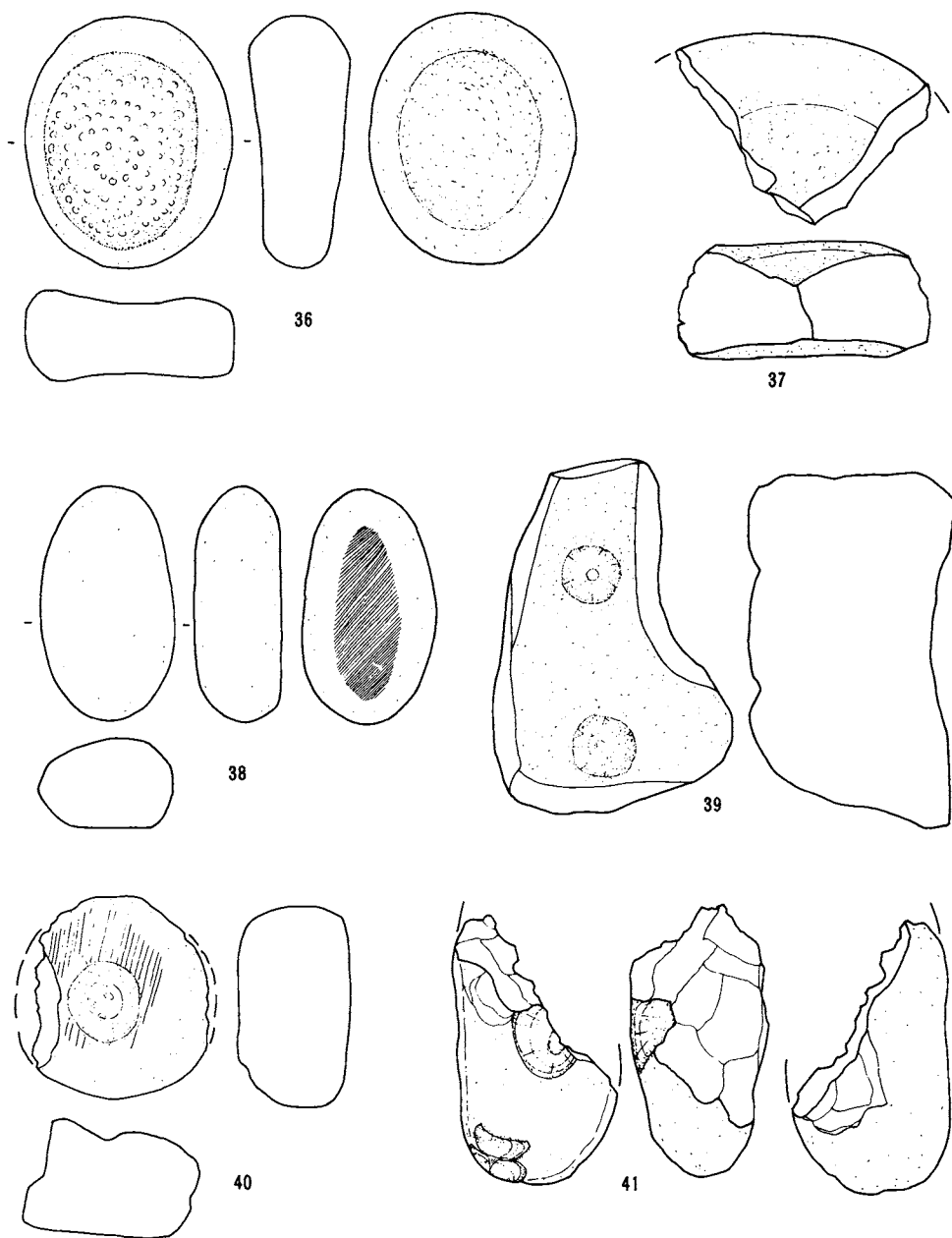
25



第241図 大野第1遺跡遺構及び包含層出土石器(2)(1/4)



第242図 大野第1遺跡遺構及び包含層出土石器(3)(1/4)



第243図 大野第1遺跡遺構及び包含層出土石器(4)(1/4)

ている。13は安山岩製の石鏃である。206号土坑の覆土中から出土しておりやや粗雑な調整で仕上げられている。14は珪質頁岩製の石鏃片で片側の脚部は欠損している。15～16は使用痕のある剥片である。15は珪質頁岩製の使用痕のある剥片で両極打法のバルブが観察できる。16はチャート製の剥片である。両側辺に細かな刃こぼれが見られる。17は161号土坑の覆土から出土した安山岩製の剥片である。18～23は石斧である。18は粘板岩製の打製石斧で胴部の中程は叩いて調整をしている。19は玄武岩製の打石斧で頭部をやや欠いている。礫を半裁したものを素材として使用している。20は001号住居跡から出土した粘板岩製の打製石斧で頭部は欠損している。21は閃緑岩製の磨製石斧で礫を半裁したものを素材にして両面とも磨いて仕上げている。22は197号（A）出土の頁岩製の磨製石斧で刃部は両面ともに良く磨かれている。23は197号（A）出土の砂岩製の打製石斧の半欠品である。礫を半裁したものを素材としている。24は頁岩製の磨製石斧の半欠品である。両面とも良く磨かれている。26は礫の先端を折り取っている砂岩製のスタンプ状石器である。折れ面の周辺に細かな打痕のようなものが見られる。25は石斧の様でもある大形の磨製剥片である。一部は折れていたとしても通常の石斧のような形態ではない。27～33は叩き石である。27は砂岩製の叩き石で割れた面の縁に細かな打痕がみられる。28は砂岩製の叩き石で礫の上下に打痕がみられる。29は砂岩製の叩き石で小礫の上下に打痕がみられる。30は安山岩製の叩き石で楕円礫の周辺部に打痕が集中的にみられる。31は砂岩製の叩き石で片側の側辺部から中心部にかけて打痕がみられる。32は砂岩製の叩き石で正面と側辺部の一部に集中して打痕がみられる。33は花崗岩製の叩き石で正面と側辺部に打痕がみられる。また一部に磨きがみられる。34～35は凹石である。34は花崗岩製の凹石で両面とも磨かれ中央部分が打痕で潰れている。磨石からの転用と思われる。35は凝灰岩製の円礫の表面を打痕で潰してある。36～37は石皿である。36は安山岩製の石皿で打痕による凹凸が著しい。37は30号住居跡の炉内から出土した砂岩製の石皿片である。38は花崗岩製の磨石で片面が良く磨かれている。39～41は蜂の巣状に窪んだ穴を持つ石器である。40は磨石を転用している。39は砂岩、40は玄武岩、41は安山岩である。

4. 奈良時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

104号住居跡（遺構 第244図 遺物247図1～15）

Y25-38に位置する。主軸方向は北西を向く。プランは一辺3.7m～3.8mのほぼ正方形を呈する。検出面から床面までの深さは32cmある。床面は樹木の下で検出されたため攪乱が著しく一部で硬化面もみられたが全体にはやや軟弱であった。柱穴は四隅にみられる。P1は43cm、P2は24cm、P3は15cm、P4は110cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームブロックを多く含む焼土粒を含む褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを多く含む暗褐色土。3.

ロームブロックを多く含む褐色土である。カマドは北壁中央部に位置する。残存状況が悪い上に根による攪乱も著しい。袖部分の残りも非常に悪い。カマドの覆土は1. 焼土粒を若干含む暗黄褐色土。2. 焼土を非常に多く含む赤褐色土。3. ローム粒を多く含む堆積が疎な暗褐色土。4. 焼土ブロックをやや多く含む暗褐色土。5. 焼土粒をやや多く含む暗黄褐色土。6. 焼土粒を少し含む黒褐色土。4'. 焼土ブロックが極めて少ない暗褐色土。4". 熱を受けて白く変色している暗褐色土である。

遺物は須恵器の大甕、杯のほか土師器の杯が多く出土している。4は墨書土器で表面に文字のようなものが書かれている。2～5と6～7はロクロ土師器の杯である。7・8は橙明皿として使用している。奈良時代の後半に位置する時期の土器群であると思われる。

(2) 掘立柱建物跡

100号掘立柱建物跡 (遺構 第245図)

Z25-13～24を中心にして位置する。建物の規模は2間×3間で北西を向く。桁行5.3m、梁行4.2m前後を測る。掘り方は0.6m～0.8mの円形を呈する。検出面からの深さは10cm～30cmある。覆土は1. 堆積が疎で軟質な褐色土(柱痕)。2. ロームブロックを多く含む堆積が密で硬い褐色土。3. ロームブロック・褐色土を含み密で硬質な褐色土4. 密で硬質な褐色土。1'. 堆積が1より粗く脆い褐色土である。

101号掘立柱建物跡 (遺構 第246図)

Z24-93を中心にして位置する。建物の規模は1間×1間で北西を向く。桁行3.3m、梁行2.8m前後を測る。掘り方は0.6m～0.8mの円形を呈する。検出面からの深さは10cm～20cmある。覆土は1. 堆積が疎で軟質な褐色土(柱痕)。2. 堆積が密で硬い暗褐色土。3. ロームブロックを含み堆積が密で硬質な褐色土。4. 硬質ロームブロックが主体の明褐色土である。100号と同じ方向を向くことから同時期に立てられた可能性が高い。

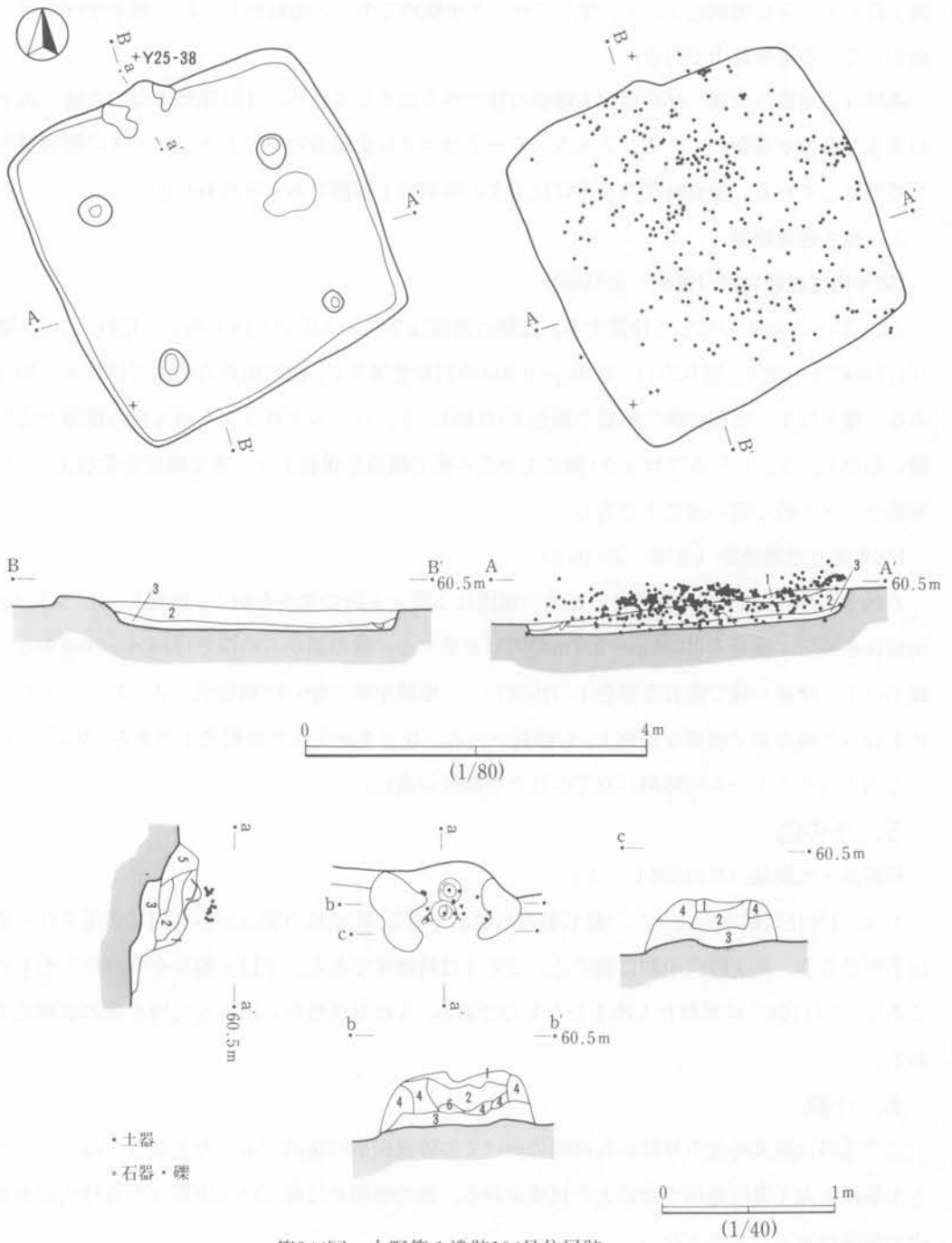
5. その他

石製品・土製品 (第248図1～4)

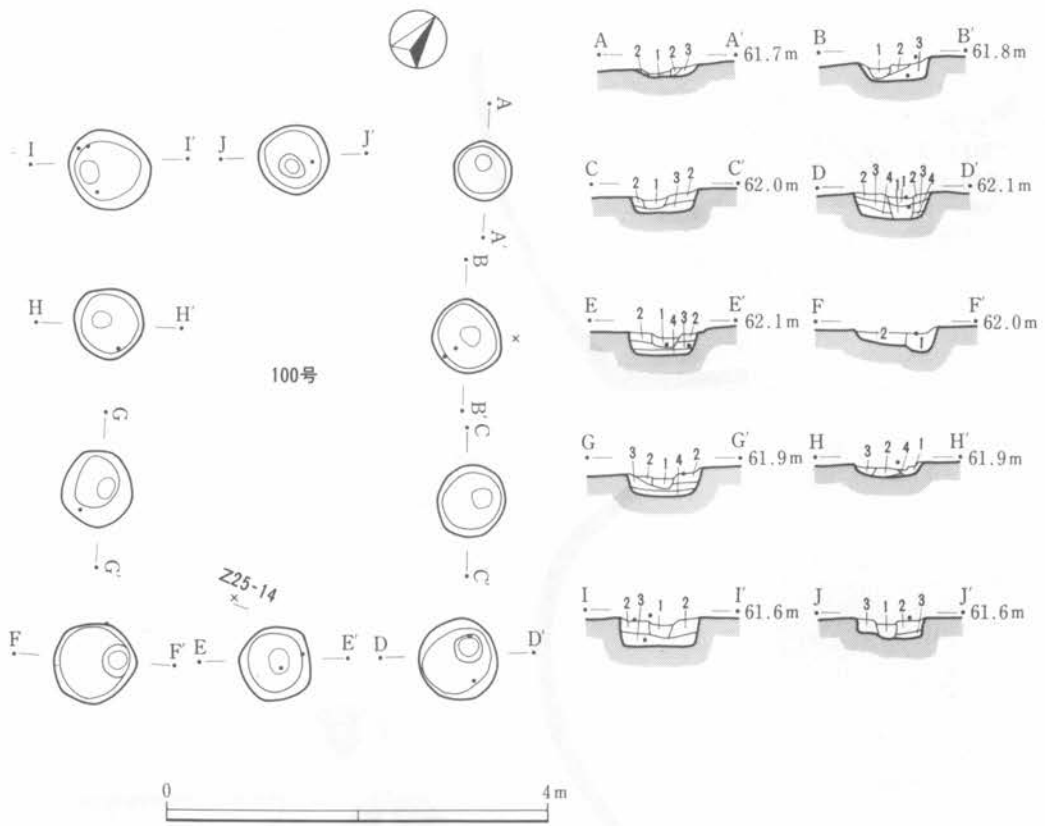
1は001号住居跡から出土した軽石製の石製品である。乳頭状の突起があり何に使用されたかは不明である。縄文時代中期に属する。2と4は紡錘車である。2は土器片を再利用したものである。4は104号住居跡から出土したものである。3は包含層から出土した滑石製の垂飾品である。

6. 小結

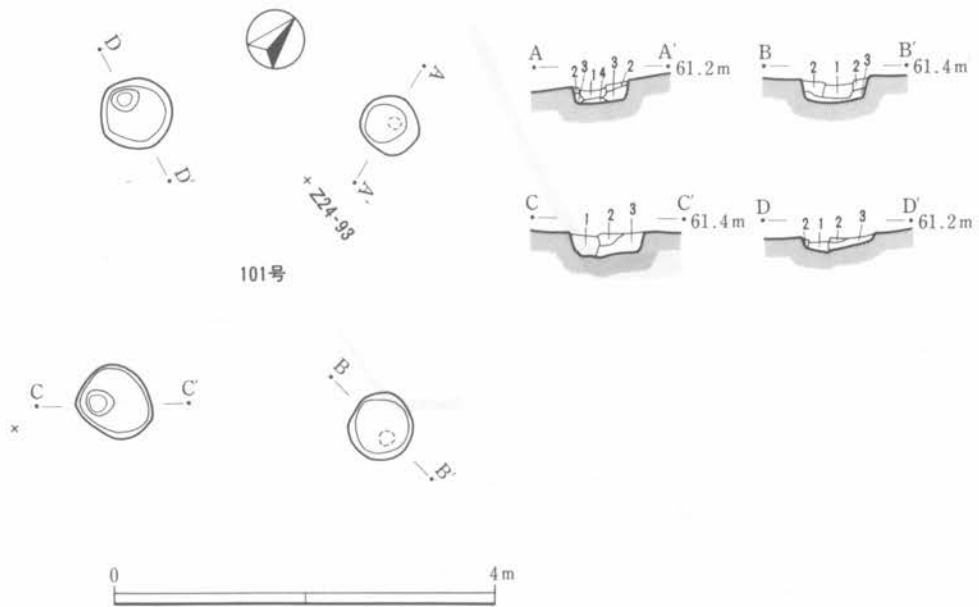
この遺跡は縄文時代の早期から前期にかけての狩猟採集の場所であった可能性が高い。しかも土気緑の森工業団地内では最大の規模を誇る。他の時期では縄文時代中期と奈良時代に小規模の集落があったにすぎない。



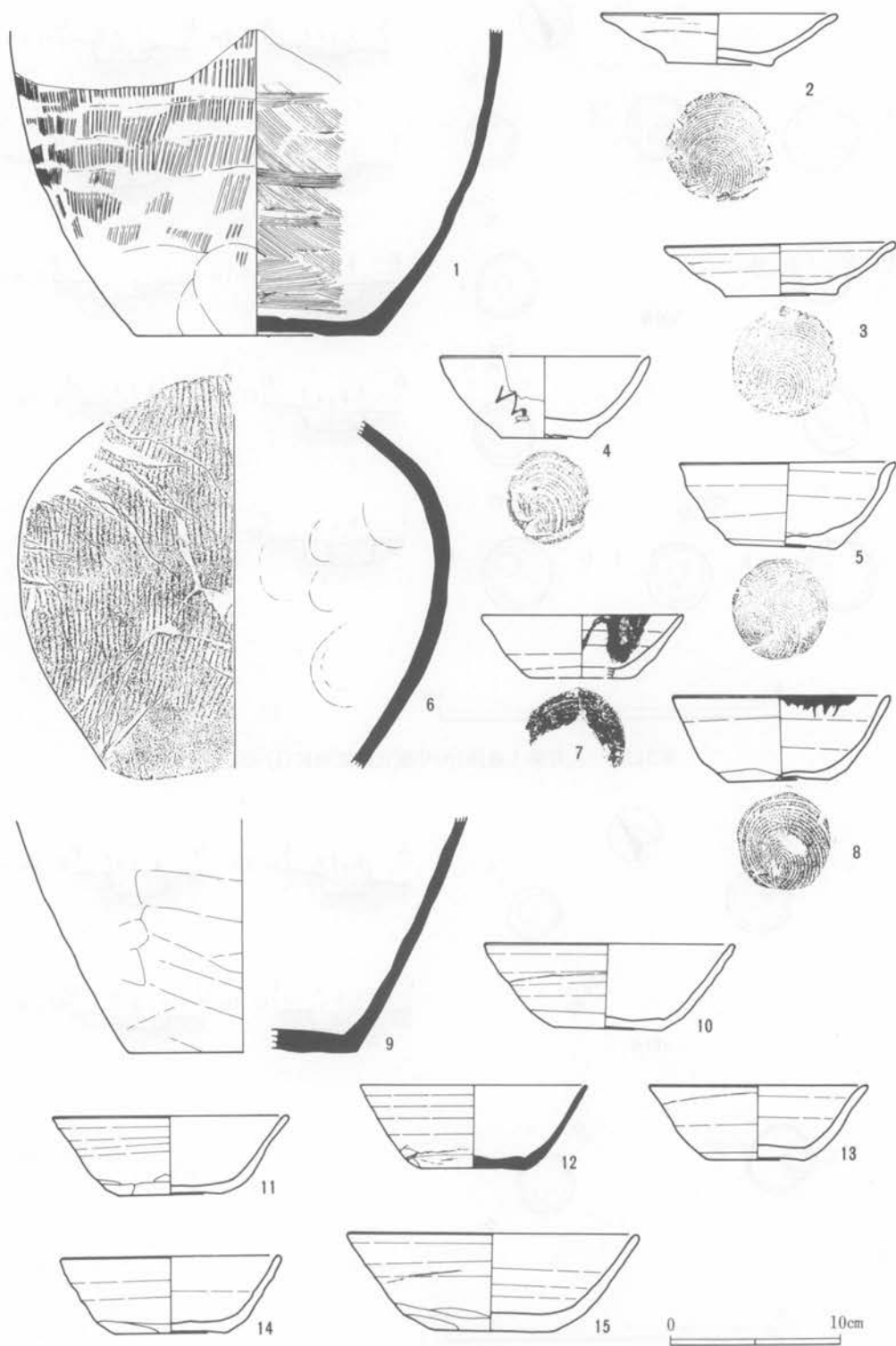
第244図 大野第1遺跡104号住居跡



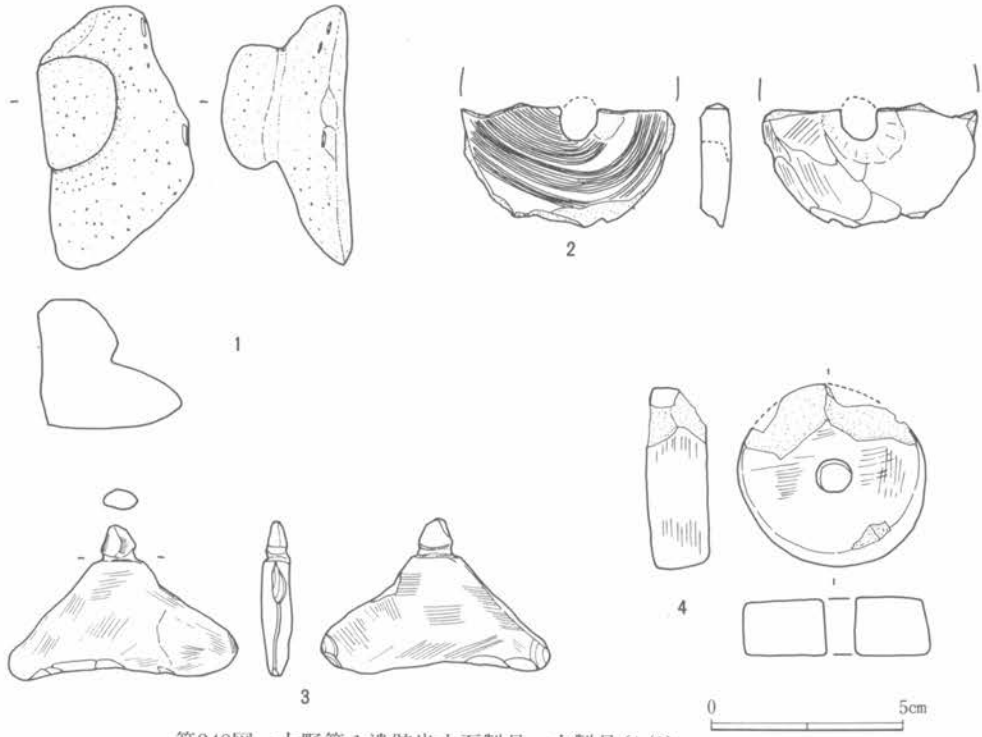
第245图 大野第1遺跡100号掘立柱建物跡(1/80)



第246图 大野第1遺跡101号掘立柱建物跡(1/80)



第247図 大野第1遺跡出土土器(1/4)



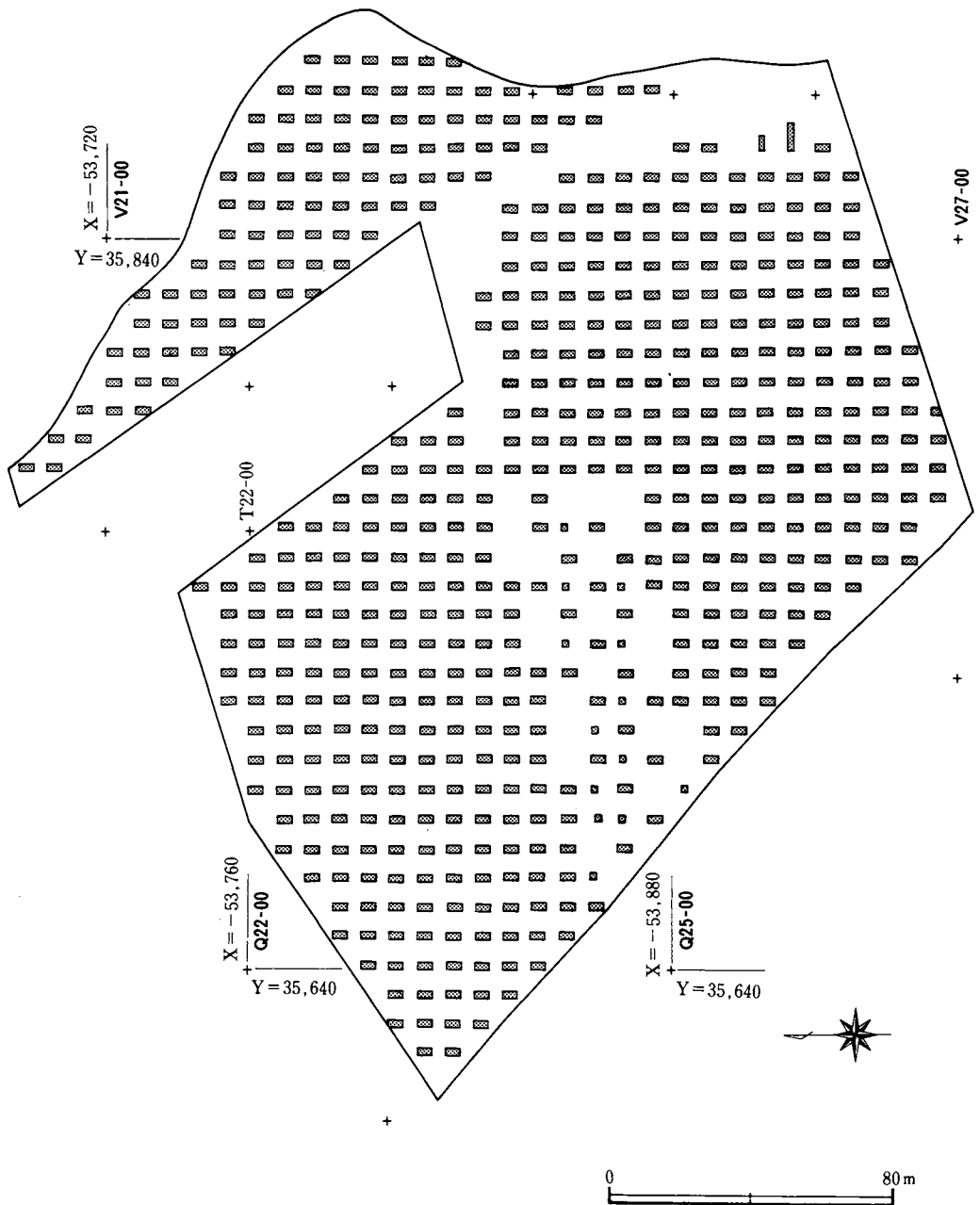
第248図 大野第1遺跡出土石製品・土製品(1/2)

第 12 章

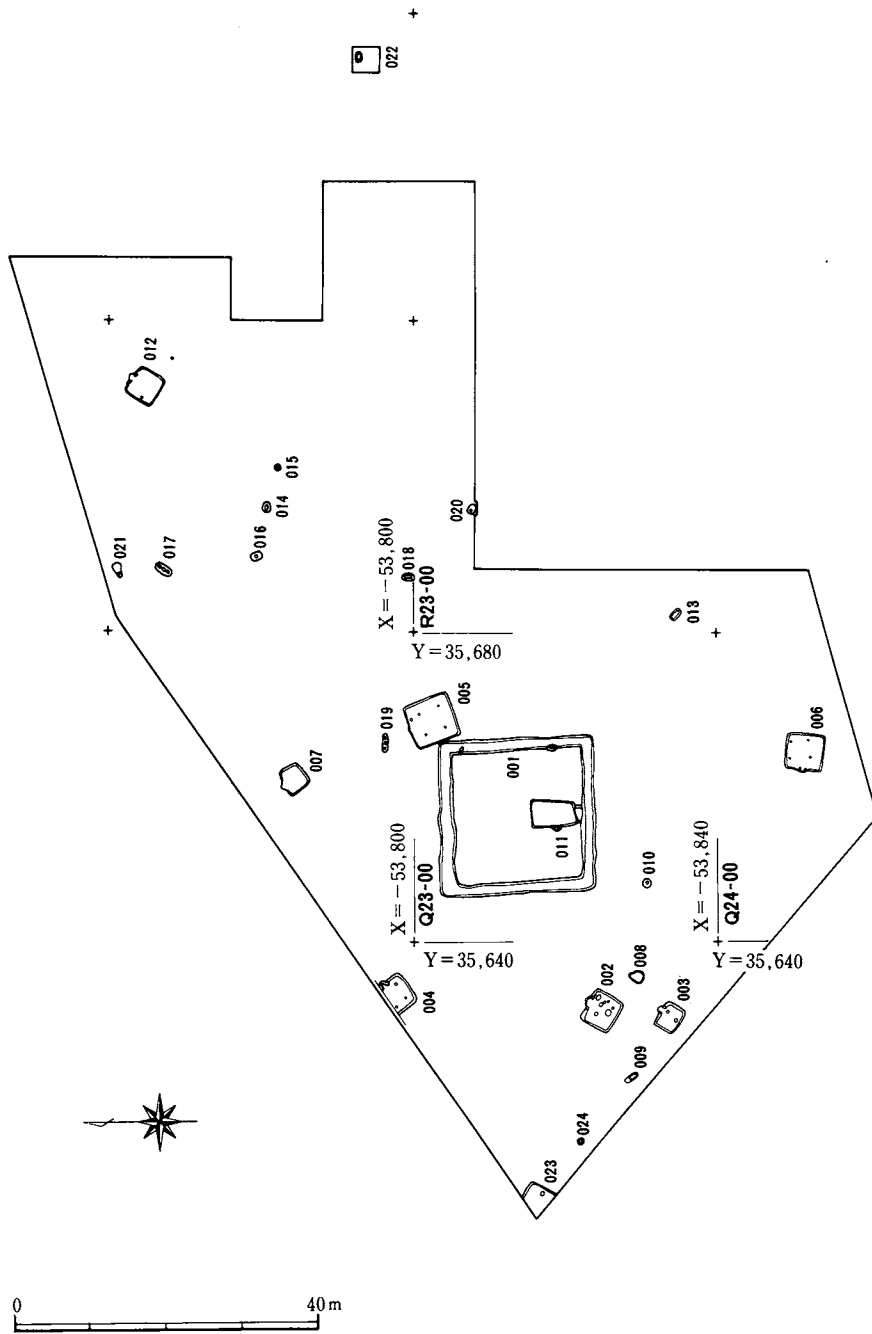
西 大 野 第 1 遺 跡

遺跡コード 201-079

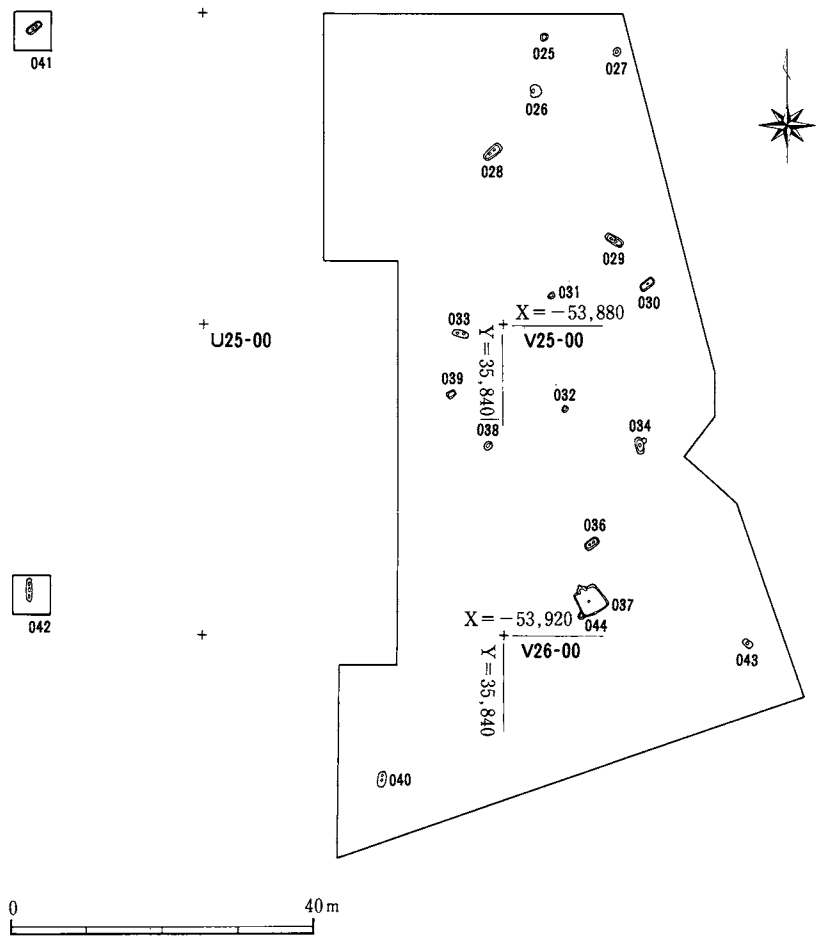
調査担当者 西口 徹・高柳圭一



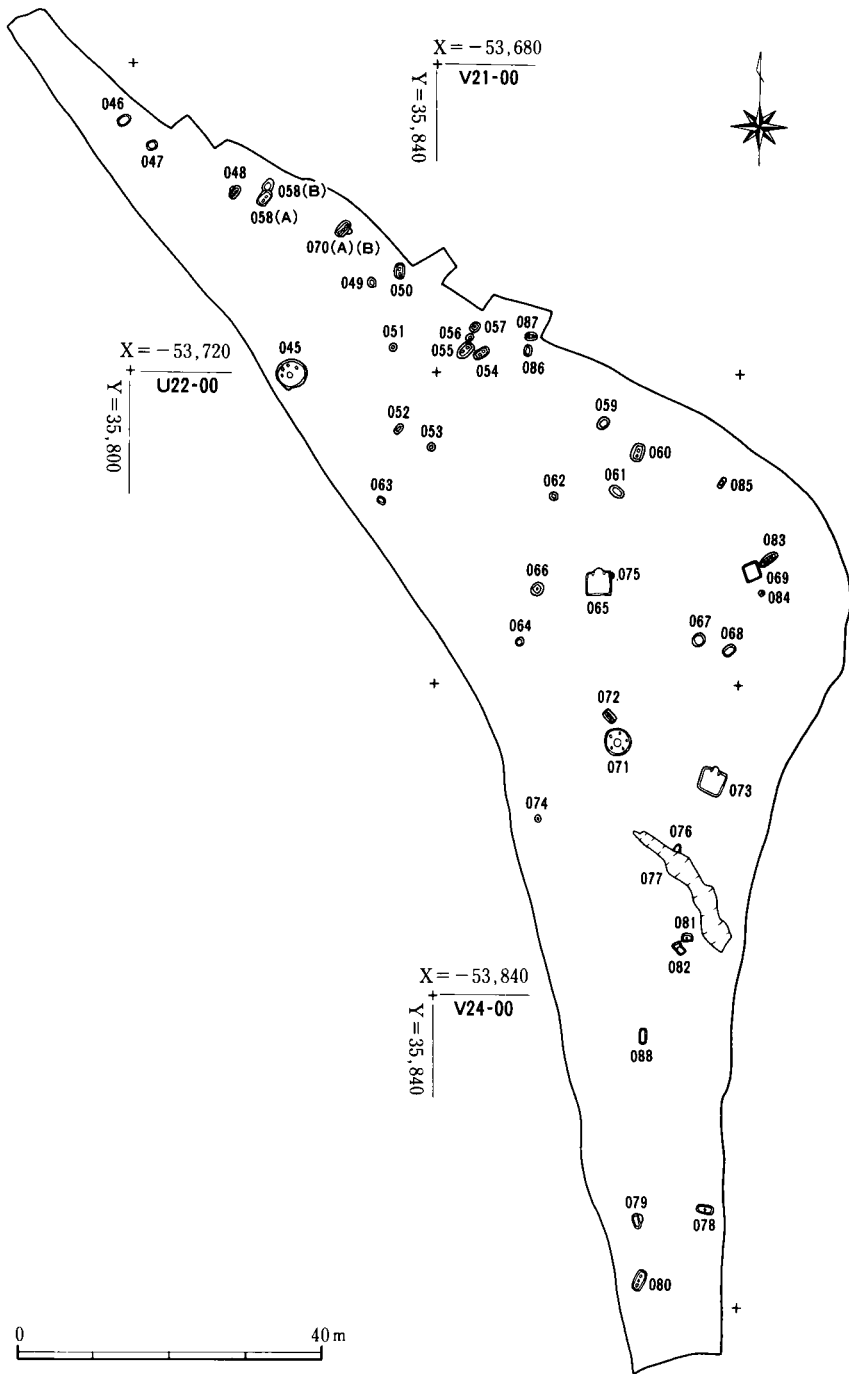
第249図 西大野第1遺跡上層確認調査グリッド配置図(1/2,000)



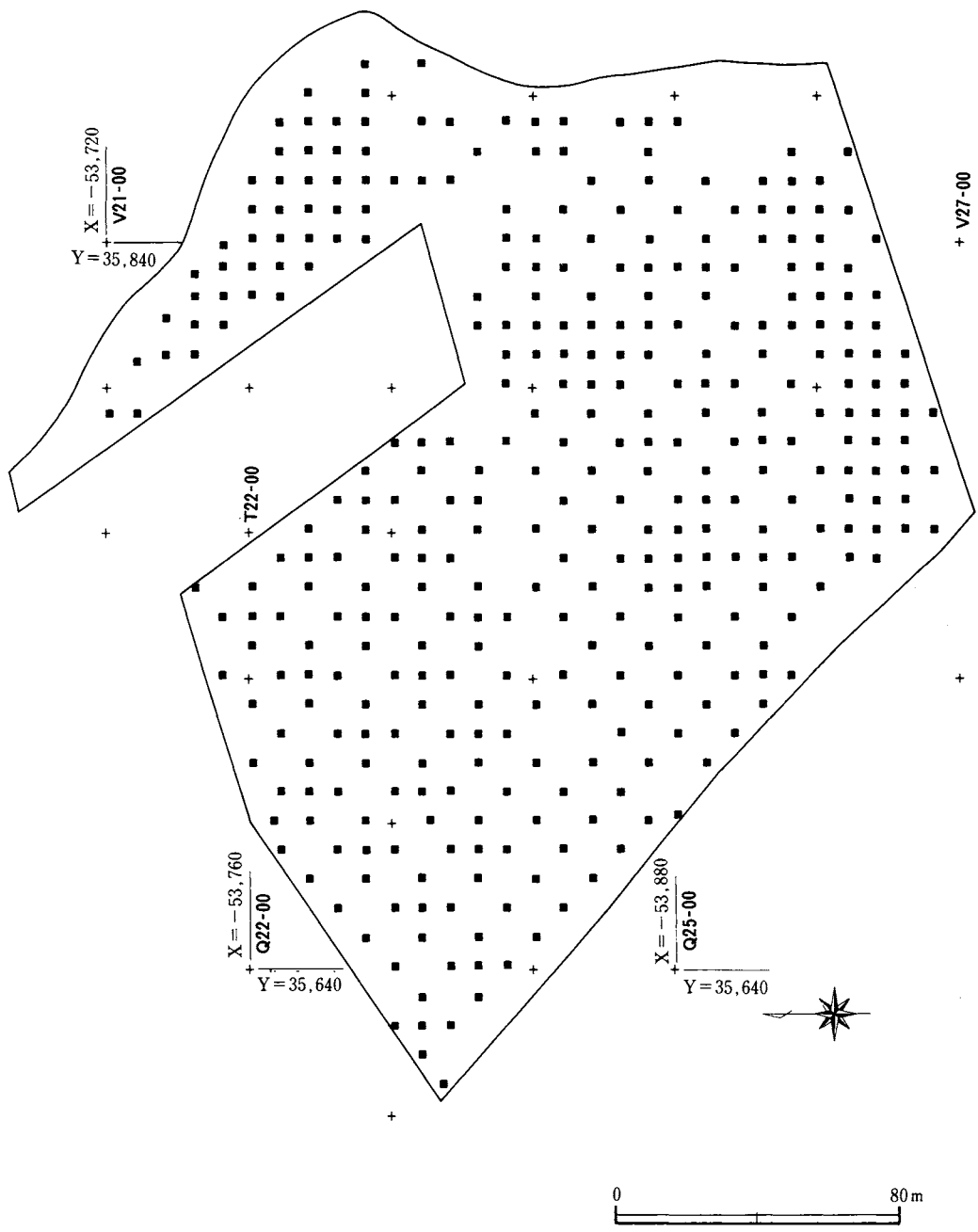
第250図 西大野第1遺跡上層本調査範囲(西地区)及び遺構配置図



第251図 西大野第1遺跡上層本調査範囲(東地区)及び遺構配置図(1/1,000)



第252図 西大野第1遺跡上層本調査範囲(北地区)及び遺構配置図(1/1,000)



第253図 西大野第1遺跡下層確認調査配置図(1/2,000)



第254図 西大野第1遺跡下層本調査配置図(1/2,000)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分 (第256図)

- I層 黒色土 ……耕作土で一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II b層 黄褐色土……新期テフラの堆積層である。
- II c層 暗褐色土……縄文時代の遺物の包含層である。
- III層 黄褐色土……立川ロームのソフトローム部分に相当する。
- IV層 暗褐色土……III層よりやや暗くややハード部分が見られる。
- V層 褐色土 ……第1黒色帯に相当し乾くと黒く細かいブロック状になる。
- VI層 褐色土 ……始良パミスを含む層が連続して認められた。
- VII層 暗褐色土……第2黒色帯の上部に相当する。
- VIII層 暗褐色土……VII層よりやや黒みを増す。
- IX層 暗褐色土……VIII層よりやや締まりがない。遺物包含層である。
- X層 青褐色土……立川ローム最下部に相当すると思われる。

2. 概要 (第253図)

西大野第1遺跡では上層の確認調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。その際に10か所で遺物を検出した。本調査を実施しその結果III層下部相当のブロックは5か所(近接し同一石材がみられる)、VII層相当のブロックは7か所(単独出土も含む)検出された。他に礫や炭化材の集中地点もみられた。

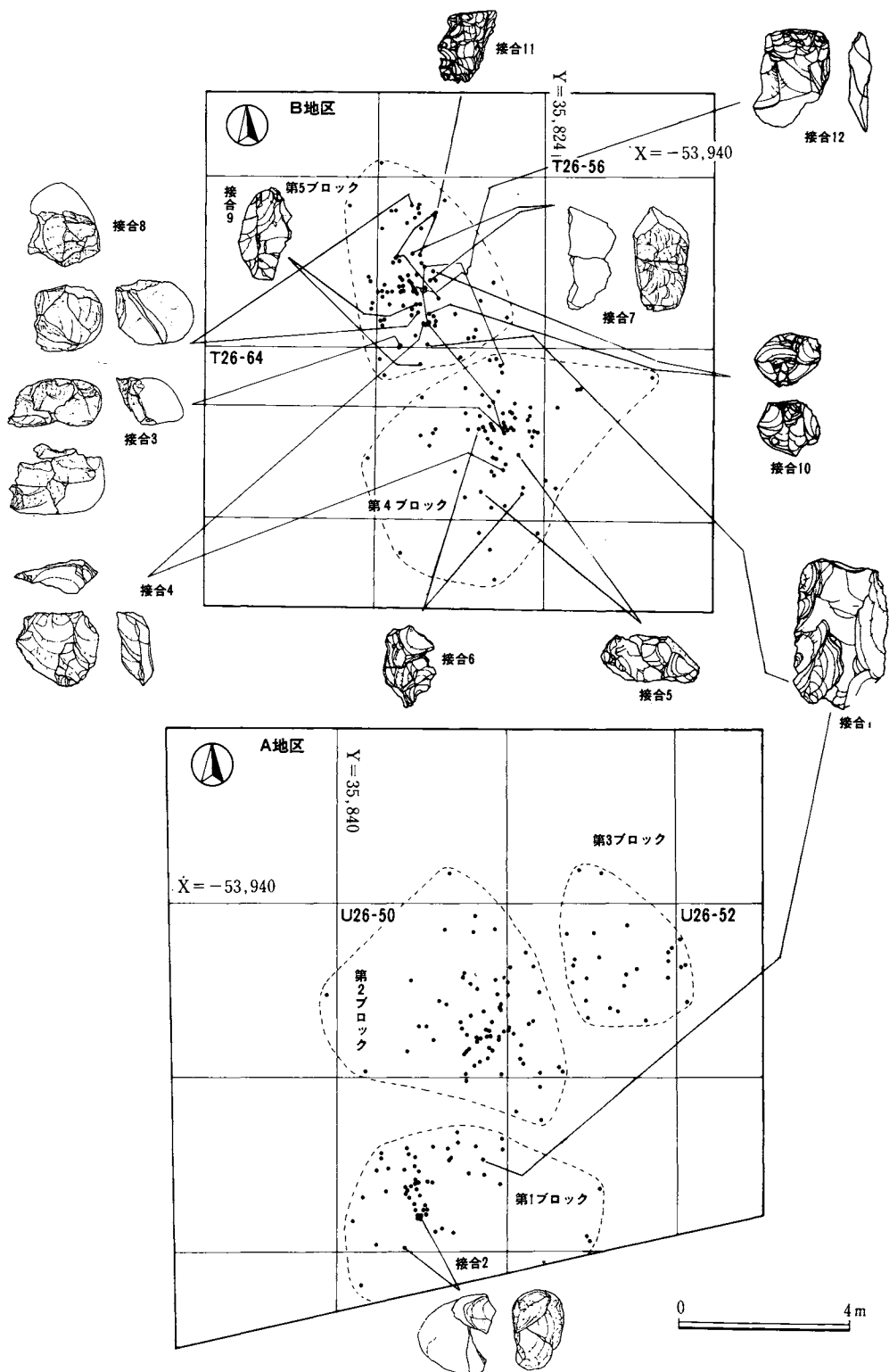
3. 第1ブロック (A地区)(第253・254図)

(1) 分布状況

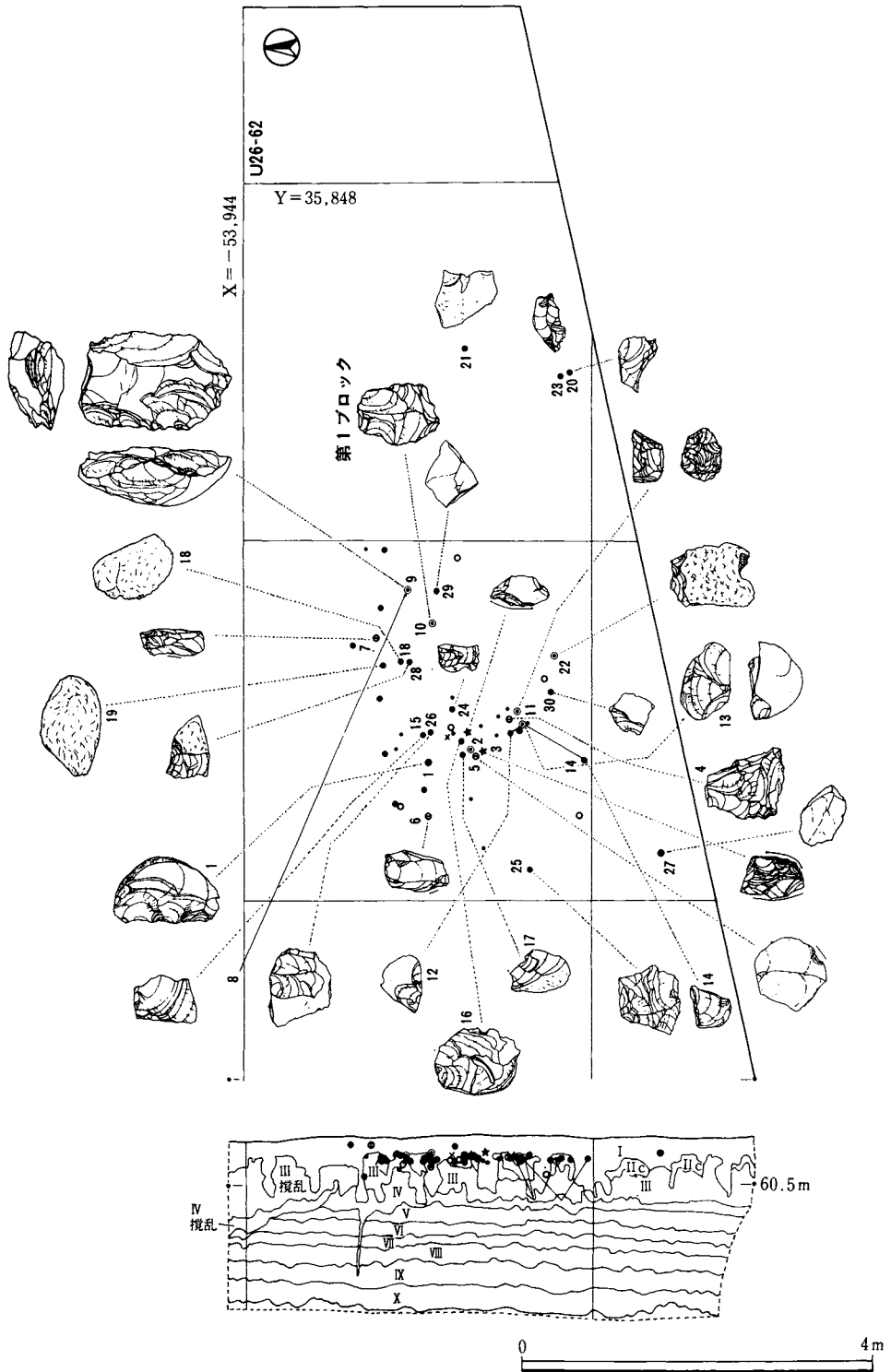
A地区のU26-61グリットを中心に54点検出された。分布状況は3～5mの範囲に比較的まとまって分布している。約2m北には第2ブロックがある。石材は2種類の珪質頁岩、5種類のチャート、3種類の安山岩、瑪瑙、泥岩、頁岩の14種類で構成される。この発掘区の辺りはソフトロームが比較的厚くIII・IV層の分層が可能であり遺物はIII層下部を中心に検出されている。

(2) 石器組成

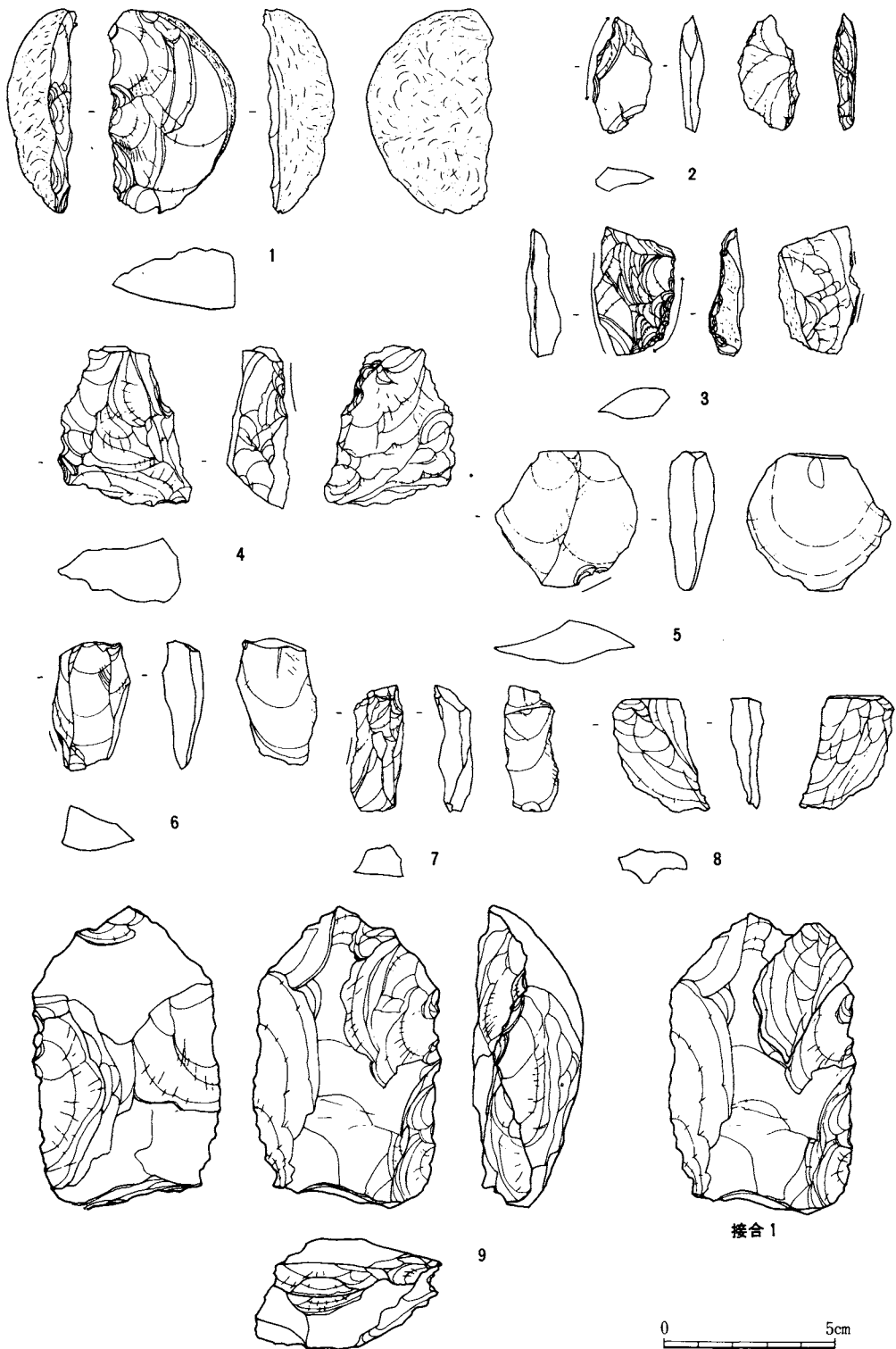
検出された石器の総数は52点である。器種組成はナイフ形石器2点、スクレイパー1点、U・フレイク4点、石核5点、剥片22点、碎片12点である。他に礫5点、礫1点が含まれる。石材構成は珪質頁岩①製18点、珪質頁岩③製5点、チャート①製13点、チャート③製1点、チャート④製2点、チャート⑥製1点、チャート⑦製1点、安山岩①製1点、安山岩②製3点、安山岩③製1点、瑪瑙①製3点、泥岩①製2点、頁岩②製1点である。珪質頁岩①製とチャート①製で約6割を占める。



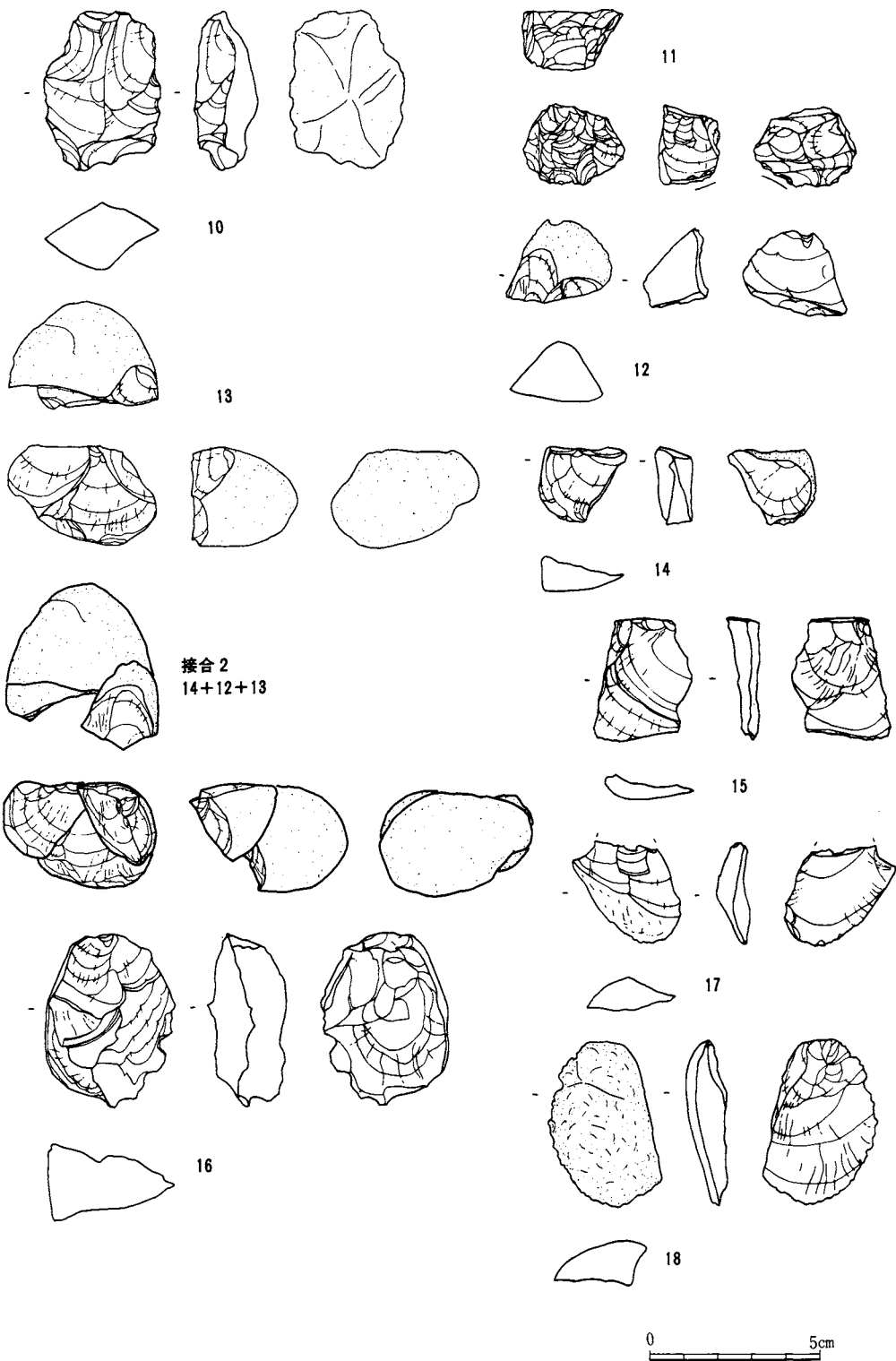
第255図 西大野第1遺跡IV-V層遺物出土状況及び接合図(1/160)



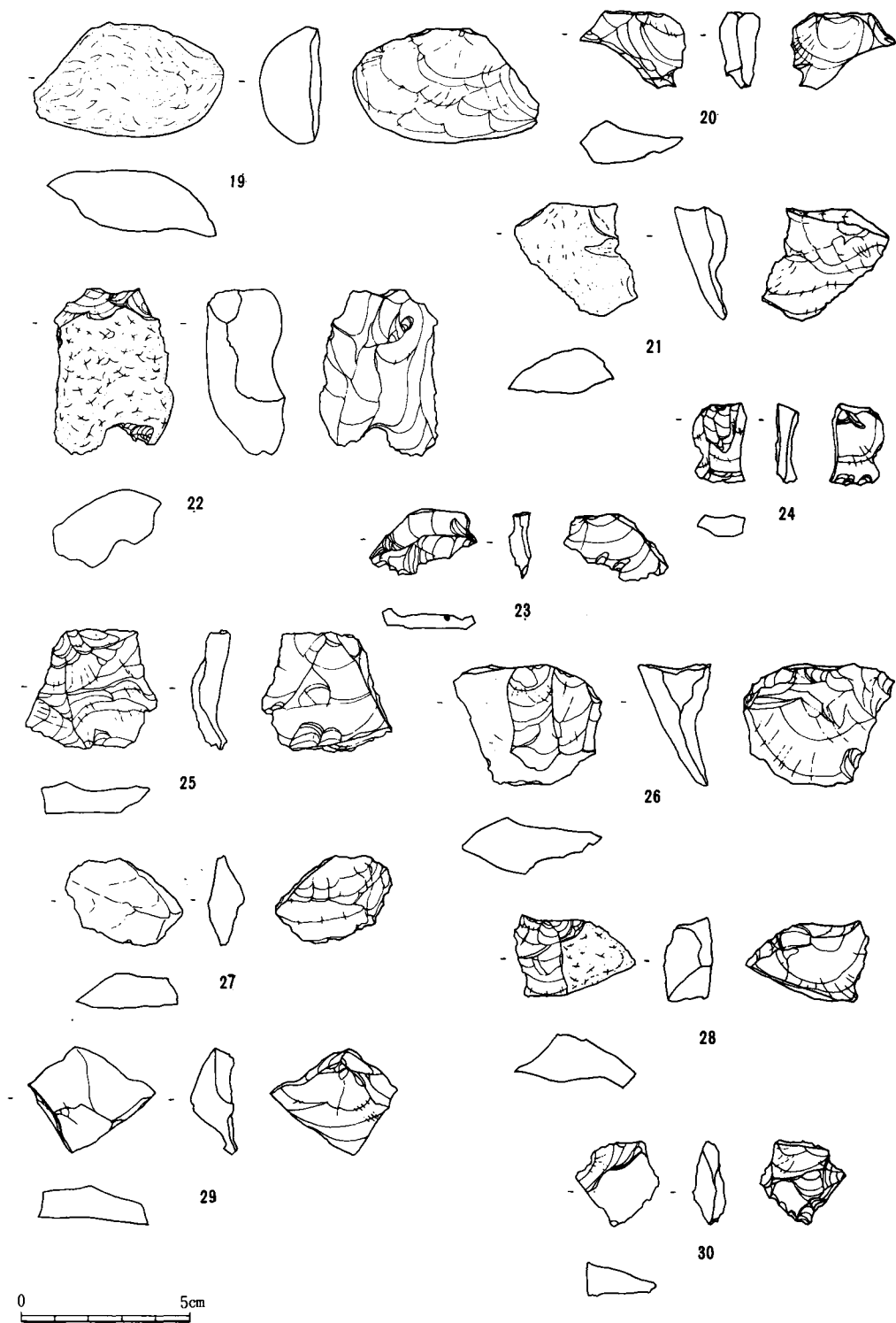
第256図 西大野第1遺跡A地区第1ブロック遺物出土状況(1/80)



第257図 西大野第1遺跡A地区第1ブロック出土石器(1)(1/2)



第258図 西大野第1遺跡A地区第1ブロック出土石器(2)(1/2)



第259図 西大野第1遺跡A地区第1ブロック出土石器(3) (1/2)

(3) 出土遺物

ナイフ形石器 (第257図 2・3) 2は珪質頁岩①製のナイフ形石器で刃部と反対側の側辺に調整がみられる。背部に礫面を一部残す剥片である。3は珪質頁岩③製のナイフ形石器で剥片を横位に使用しその両側辺を調整してある。

スクレイパー (第257図 1) 1は安山岩②製のスクレイパーで背面が礫面で覆われた剥片を使って背面側から比較的大きめの剥離を施している。剥片再生の石核である可能性も考えられる。

石核 (第257～259図 9～11・13・22) 9は珪質頁岩①製の石核で石斧状の形態をした礫で、周辺から比較的大きめの剥片を剥いだ形跡がうかがわれる。8と接合資料1を構成する。8は第5ブロックにある剥片であるところからこのブロックへの移動が証明される。10は珪質頁岩①製の石核で9と同様に背部に礫面を残し周辺からの剥離に伴う剥離面を残している。11はチャート①製の石核で小さな剥離面を多く持つ。剥片剥離作業に伴う碎片が周りから多く検出されている。13は安山岩①製の石核で12と14と接合資料2を構成する。小礫を使用して剥片剥離をした様子が伺われる資料である。22は瑪瑙①製の石核で背面に礫面を残す大形剥片の主剥離面側に周辺から剥離をしている。

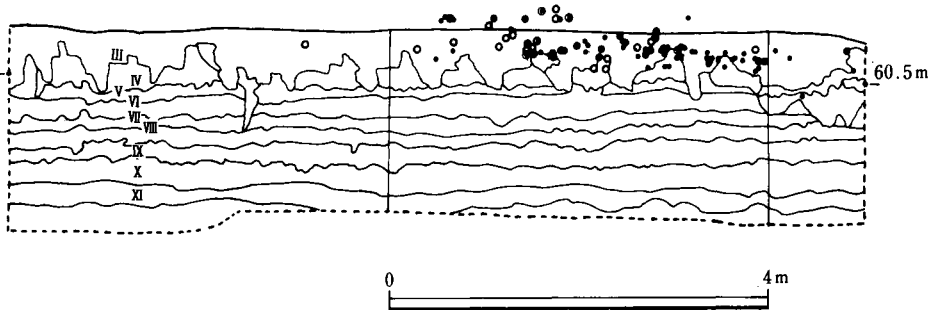
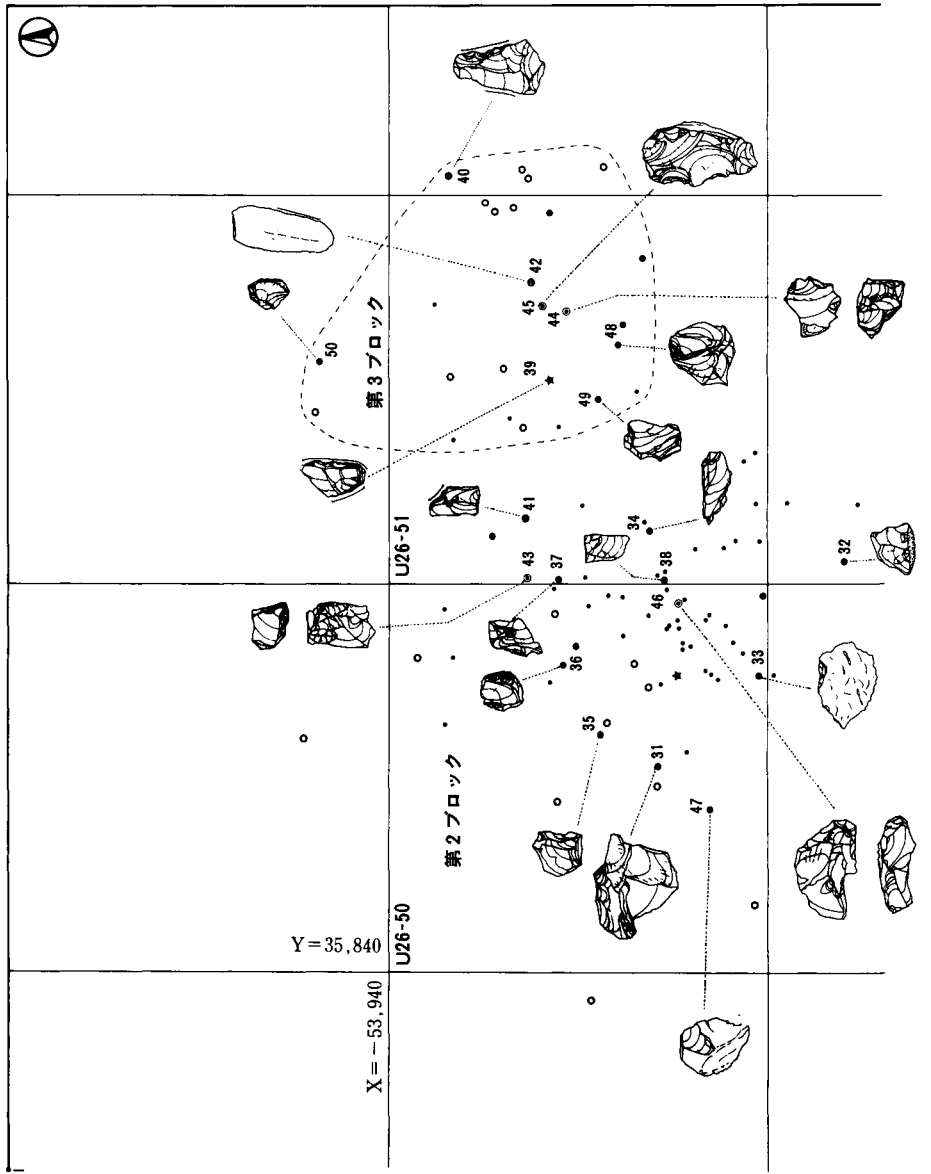
U・フレイク (第257図 4～7) 4は珪質頁岩③製のやや分厚い剥片で側辺の一部にやや大きめの刃こぼれが見られる。5は泥岩①製で縁辺部に刃こぼれが見られる。6は珪質頁岩①製で縁辺に細かな刃こぼれが見られる。7は珪質頁岩①製の剥片で側辺に細かな刃こぼれが見られる。

剥片 (第258・259図 12・14・15～21・23～30) 12と14は安山岩①製の剥片で一部礫面を残す。15は頁岩②製の剥片である。16は珪質頁岩①製の剥片である。17はチャート④製の剥片である。18・19は安山岩②製の剥片である。背面は礫面で覆われている。20は珪質頁岩①製の剥片である。21は安山岩③製の剥片で背面は礫面で覆われている。23は珪質頁岩③製の剥片である。24は珪質頁岩③製の小剥片である。25はチャート⑥製の剥片である。26はチャート④製の剥片である。27は珪質頁岩①製の剥片である。背部は礫面で覆われている。28は瑪瑙①の剥片である。一部礫面がある。29は珪質頁岩①製の剥片である。背部が礫面に覆われる。30はチャート⑦製の剥片である。一部礫面に覆われる。単独でこのブロックに持ち込まれた剥片素材が多い。

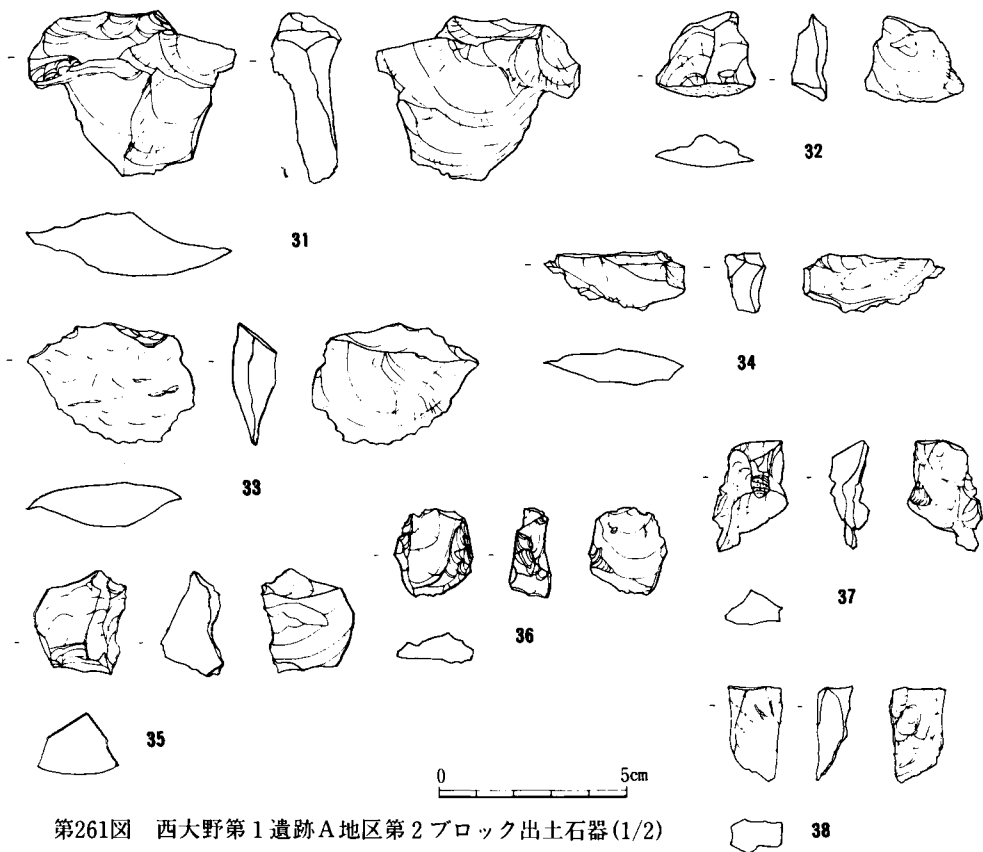
4. 第2ブロック (A地区) (第260・261図)

(1) 分布状況

U26-50グリットを中心に68点検出された。全体の分布状況は東西6m、南北5m程の範囲に広がっている。第1ブロックから約北へ2mに位置する。石材は珪質頁岩①製、珪質頁岩③製、瑪瑙①製の3種類で構成される。第1ブロック同様にⅢ層下部に相当する時期のものと思われる。



第260図 西大野第1遺跡A地区第2・3ブロック遺物出土状況(1/80)



第261図 西大野第1遺跡A地区第2ブロック出土石器(1/2)

(2) 石器組成

検出された石器類の総数は68点である。器種組成はR・フレイク1点、石核2点、剥片12点、碎片57点、礫片6点である。石材構成は珪質頁岩①製49点、珪質頁岩③製12点、瑪瑙1点である。

(3) 出土遺物

R・フレイク(第262図41) 珪質頁岩③製の剥片の肩の部分に調整を施してある。

石核(第262図43・46) 43は珪質頁岩③製の石核でやや小形の剥片を剥離したと思われる。46は珪質頁岩①製の大型の剥片を任意の方向から剥離してある。

剥片(第261図31~38) そのほとんどは珪質頁岩①製の縦長剥片である。やや小形の剥片が多い。

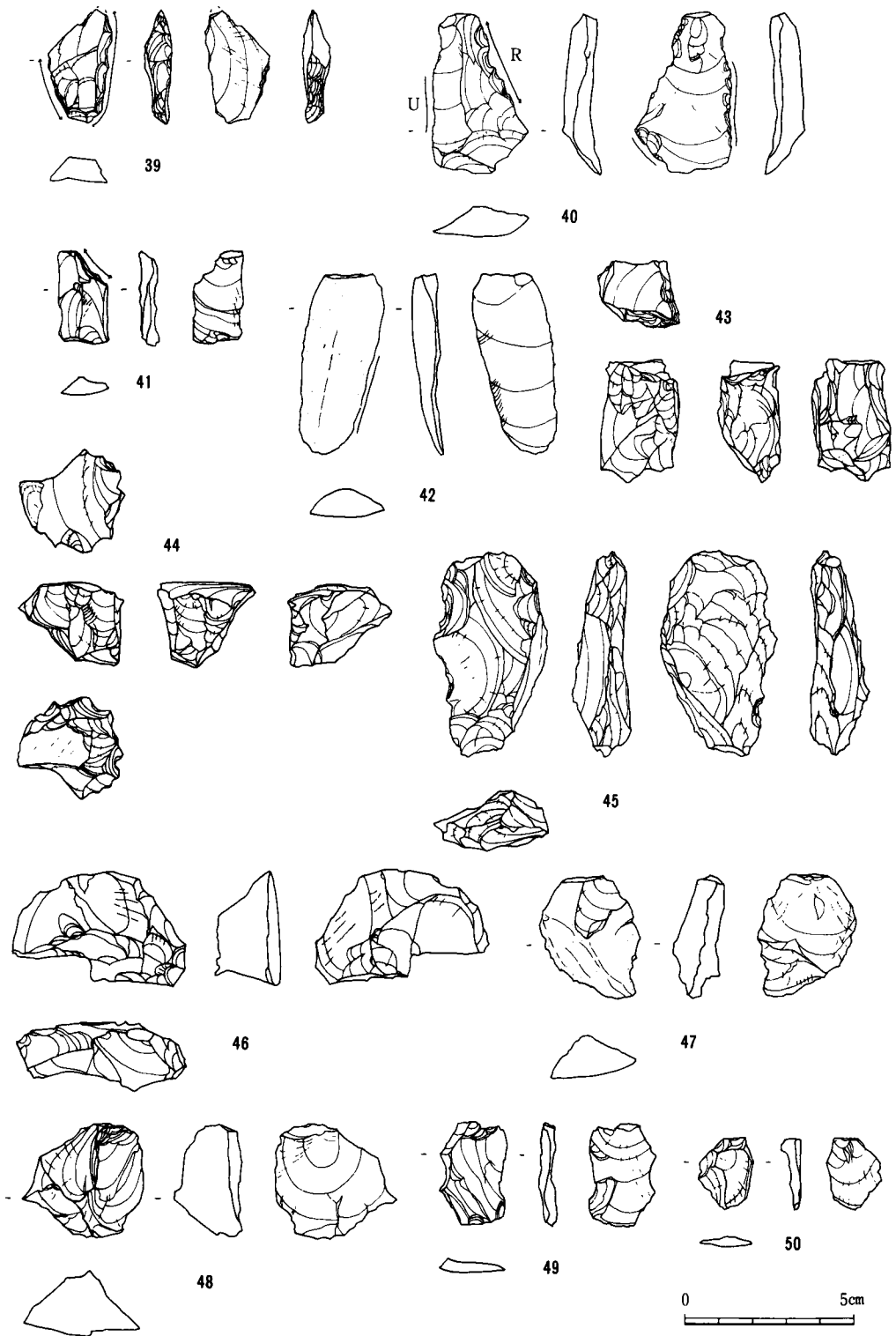
5. 第3ブロック (A地区)(第260・262図)

(1) 分布状況

U26-51グリットをから29点検出された。全体の分布状況は東西3m、南北4mの範囲にやや緩やかに分布している。石材は珪質頁岩①製~珪質頁岩③製、頁岩①製の4種類である。第1ブロック同様にIII層下部に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は15点である。他に礫が14点ある。器種構成はナイフ形石器1点、R



第262図 西大野第1遺跡A地区第3ブロック出土石器(1/2)

・フレイク1点、U・フレイク1点、石核2点、剥片5点、碎片5点である。石材は珪質頁岩①製9点、珪質頁岩②製1点、珪質頁岩③製4点、頁岩①製1点である。

(3) 出土遺物

ナイフ形石器(第262図39)珪質頁岩①製のナイフ形石器で小剥片を横位に使用して両側辺を調整して仕上げている。

R・フレイク(第262図40)珪質頁岩①製で両側辺ともに刃こぼれが著しい。

U・フレイク(第262図42)頁岩①製の剥片の右側辺部分に使用痕と思われる連続的な小剥離が見られる。背部は礫面で覆われている。

石核(第262図44・45)いずれも珪質頁岩②製である。45は特に大形剥片を使用して小形の剥片を剥いでいるところに特徴がみられる。

剥片(第262図47～50)49は珪質頁岩②製で他は珪質頁岩①製の剥片である。

6. 第4ブロック(B地区)(第263～265図)

(1) 分布状況

T26-65を中心に74点出土している。全体の分布状況は5～7mの範囲にやや緩やかに分布している。石材は珪質頁岩①製、珪質頁岩②製、珪質頁岩④製、安山岩①製、安山岩③製、チャート②製、チャート⑤製、泥岩①製の8種類で構成される。第1ブロック同様にIII層下部に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は62点である。他に礫が12点ある。器種構成はナイフ形石器1点、U・フレイク1点、石核4点、剥片13点、碎片43点である。石材は珪質頁岩①製50点、珪質頁岩②製1点、珪質頁岩④製2点、安山岩①製3点、安山岩③製1点、チャート②製5点、チャート⑤製1点である。

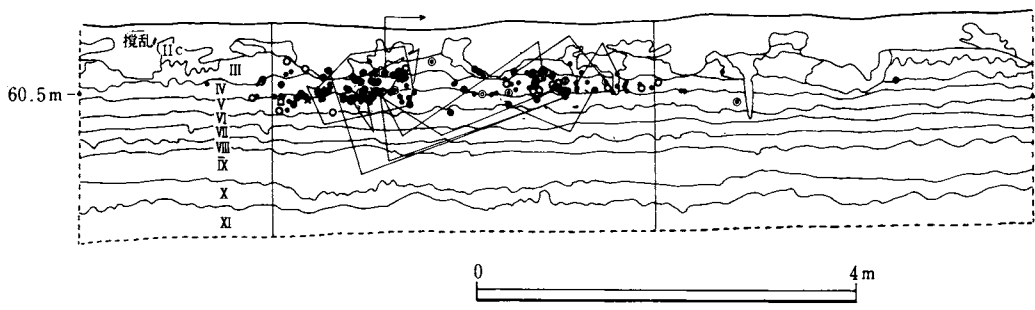
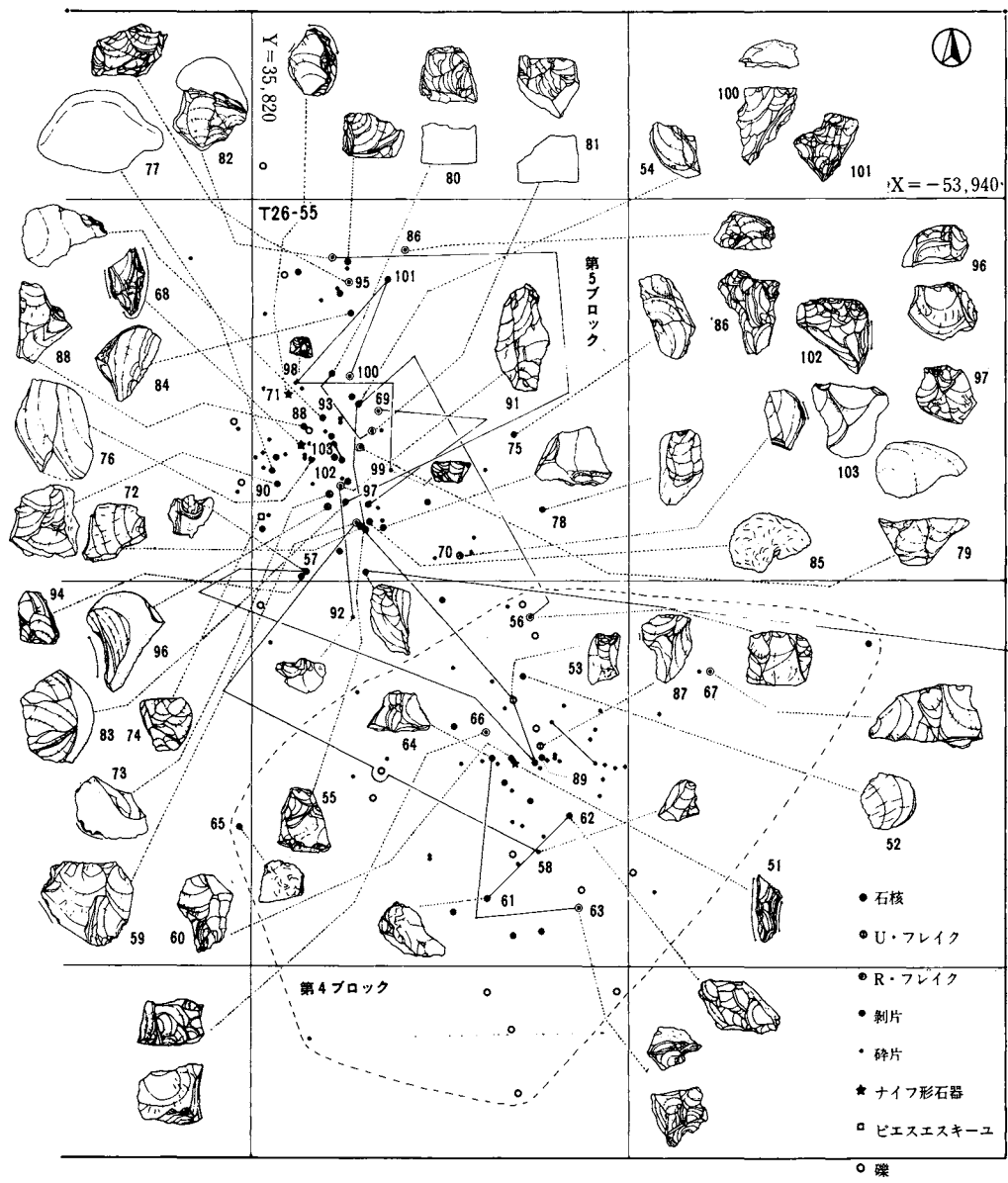
(3) 出土遺物

ナイフ形石器(第264図51)安山岩①製のナイフ形石器で剥片の両側辺を丁寧な調整で仕上げである。

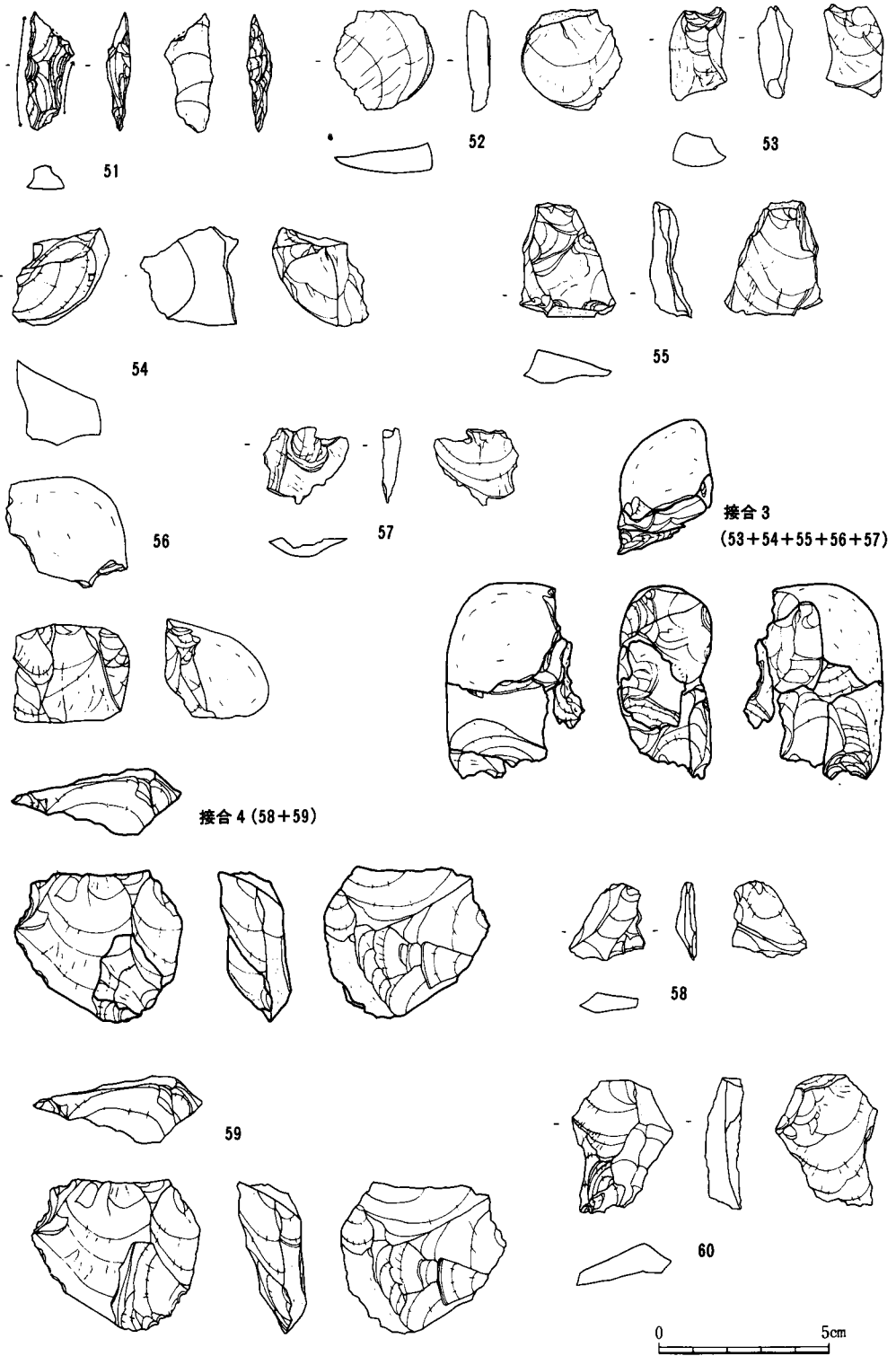
U・フレイク(第264・268図53・89)53はチャート②製で頭部に使用痕がみられる。89は珪質頁岩①製の剥片で縁辺に一部刃こぼれがみられる。

石核(第264・265図56・63・66・67)56はチャート②製の石核で小礫の残核となったものである。63は珪質頁岩④製の石核で小剥片を多方向から剥離した跡がみられる。66は珪質頁岩②製の石核である。67は珪質頁岩①製の石核である。

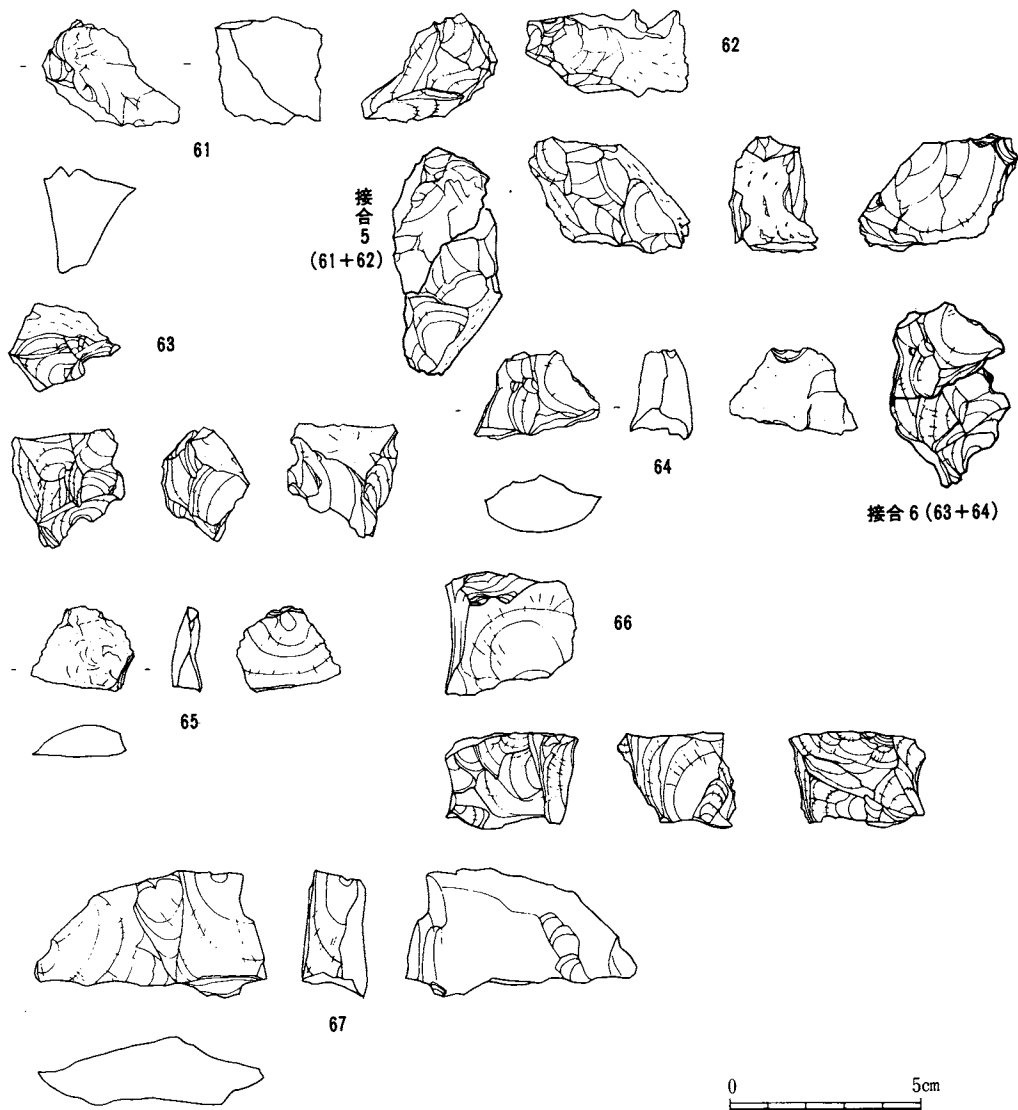
剥片(第264・265図52・54・55・57～59・61・62・64・65)石材はほぼ珪質頁岩である。比較的不整でやや小形のものが多。



第263図 西大野第1遺跡B地区第4・5ブロック遺物出土状況(1/80)



第264図 西大野第1遺跡B地区第4ブロック出土石器(1)(1/2)



第265図 西大野第1遺跡B地区第4ブロック出土石器(2)(1/2)

7. 第5ブロック (B地区) (第263～269図)

(1) 分布状況

T26-55を中心に95点出土している。全体の分布状況は4～5mの範囲にやや集中して分布している。石材は珪質頁岩①製、珪質頁岩②製、珪質頁岩④製、安山岩①製、安山岩③製、チャート②製、チャート③製、チャート⑤製、泥岩①製、頁岩①製の10種類で構成される。第1ブロック同様にIII層下部に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は89点である。他に礫が6点ある。器種構成はナイフ形石器2点、R・フレイク3点、ピエスエスキーユ1点、石核7点、剥片36点、碎片40点である。石材は珪質頁岩①製48点、珪質頁岩②製2点、珪質頁岩④製1点、安山岩①製6点、安山岩③製9点、チャート②製3点、チャート③製2点、チャート⑤製1点、泥岩①製3点、頁岩①製4点である。

(3) 出土遺物

ナイフ形石器 (第266図68・71) 68は珪質頁岩①製のナイフ形石器で両側辺の調整と基部調整を施している。71は頁岩①製のナイフ形石器で剥片の片側辺を丁寧な調整で仕上げている。

U・フレイク (第266図69・73) 69は安山岩③製で側辺部に使用痕が見られる。73は珪質頁岩④製の剥片の縁辺に刃こぼれがみられる。

ピエスエスキーユ (第266図73) 73は安山岩③製である。先端部側に調整が見られる。

石核 (第267図79・81・82・86・91・96・100) 79は泥岩①製の石核で小礫を半截した面を打面にして小さい剥片を剥離している。81はチャート①製の石核で80の剥片と接合資料を構成する。82は安山岩③製の石核である。83と接合資料を構成する。小礫を使用し打面を転移しながら小剥片の剥離をしたことが窺われる。86は珪質頁岩①製の石核である。任意の方向から不規則な剥片を剥いでいたことがうかがわれる。91は珪質頁岩①製の大型剥片を再利用した石核で92の碎片と接合資料を構成する。96は珪質頁岩①製の石核で97の剥片と接合資料を構成する。100は珪質頁岩①製の石核で98・99・101と接合資料を構成する。

剥片 (第266・269図75～78・83～85・103・104他) このブロックで見られる剥片はあまり整った形のもがなくどちらかという調整的な剥片が多い。また碎片の集中的な分布も認められる。

8. 第6ブロック (C地区)

(1) 分布状況

T26-32を中心に37点出土している。全体の分布状況は3～4mの範囲にやや集中して分布している。石材は珪質頁岩、珪質凝灰岩、2種類のチャート、瑪瑙、閃緑岩、2種類の粘板岩、黒曜石の9種類で構成される。IX～X層に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は34点である。他に礫が3点ある。器種構成は石斧1点、ピエスエスキュー1点、U・フレイク3点、剥片7点、碎片21点である。石材は珪質頁岩⑥製5点、珪質凝灰岩3点、チャート⑨製13点、チャート⑩製5点、瑪瑙②製1点、閃緑岩①製1点、粘板岩①製3点、粘板岩②製1点、黒曜石③製1点、頁岩⑧製1点である。

(3) 出土遺物

石斧（第272図104）粘板岩①製の石斧で両面とも細かな調整で仕上げている。105、106と接合資料を構成する。本来はもう少し長めの石斧であったと考えられる。再生して使用する意図がうかがえる。

U・フレイク（第272図108・110・116）108はチャート⑩製の細身の剥片の両側面に細かな刃こぼれがみられる。110は珪質凝灰岩①製の剥片の頭部付近に使用痕と思われる剥離がみられる。116は黒曜石③製の切断された剥片で縁辺に刃こぼれがみられる。

ピエスエスキュー（第272図115）115はチャート⑨製で頭部と先端部に打痕が見られる。

剥片（第272図105・106・107・109・111～114）105、106は104の石斧を再生するときにてた破片類で磨かれた部分が一部みられる。刃部磨製であった可能性がある。107は粘板岩②製の大型剥片で他には同じ石材はみられない。109は珪質頁岩⑥製の剥片である。111はチャート⑩製の剥片である。112はチャート⑩製の剥片である。113は閃緑岩①製の剥片である。礫面を多く残す。114はチャート⑨製の剥片である。このブロックではチャート⑨製の破片の割合が多い。

9. 第7ブロック（C地区）

(1) 分布状況

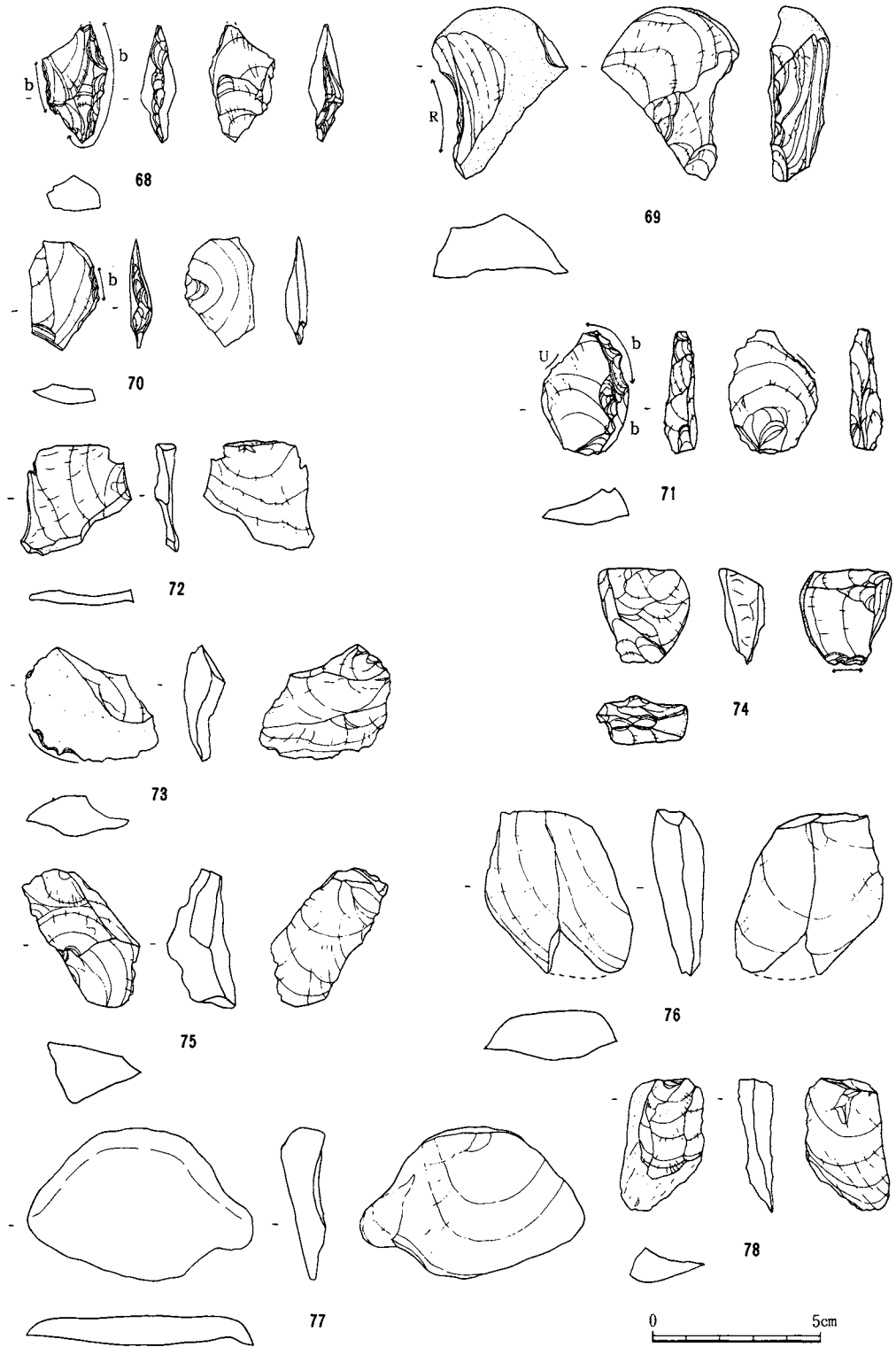
T26-30～31を中心に41点出土している。全体の分布状況は3～4mの範囲にやや集中して分布している。石材は珪質頁岩、珪質凝灰岩、2種類のチャート、瑪瑙、玄武岩、砂岩、2種類の頁岩の9種類で構成される。IX～X層に相当する。

(2) 石器組成

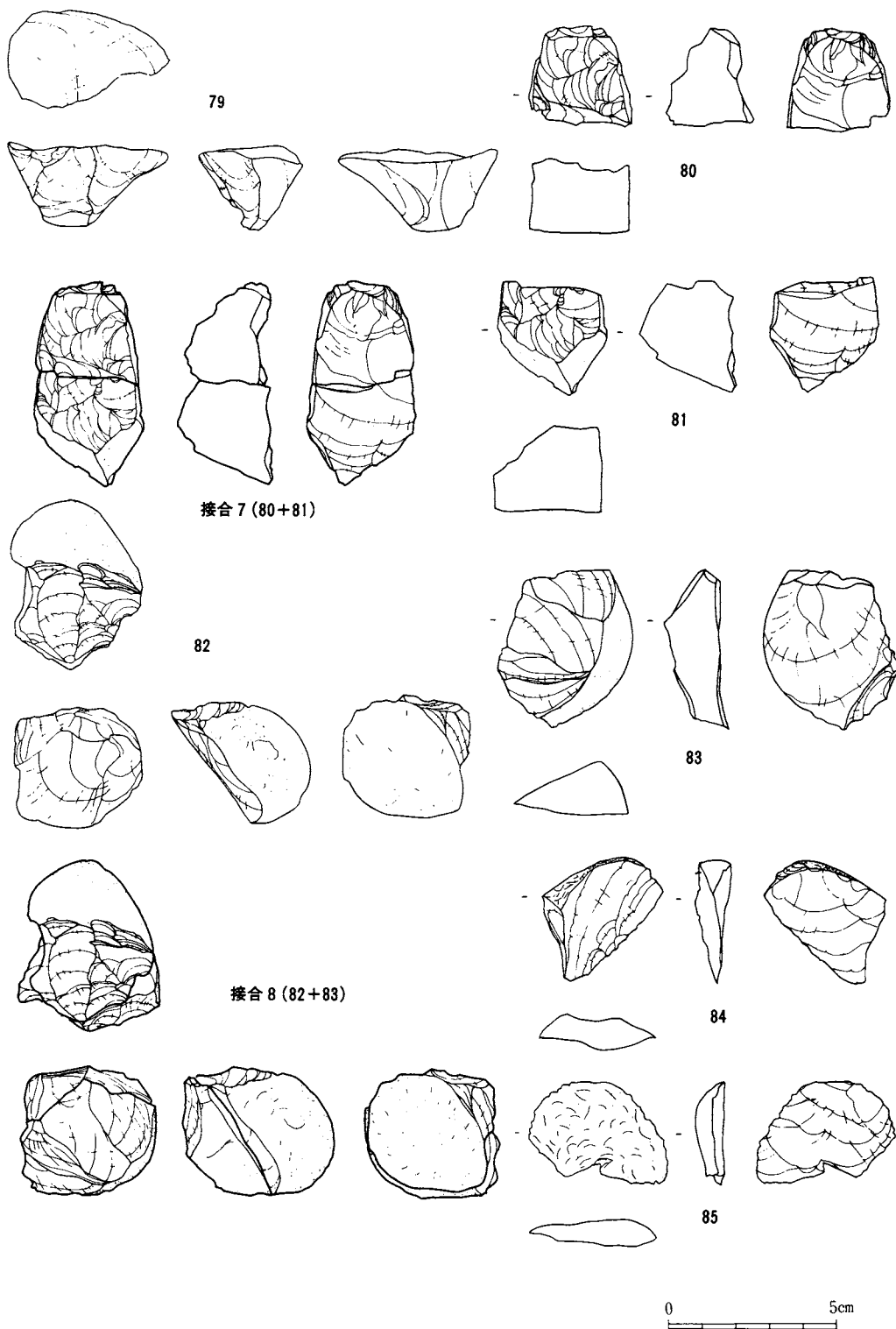
検出された石器の総数は35点である。他に礫が6点ある。器種構成は石斧1点、ピエスエスキュー4点、R・フレイク2点、U・フレイク2点、石核2点、剥片4点、碎片21点である。石材は珪質頁岩⑥製2点、珪質凝灰岩1点、チャート⑨製4点、チャート⑩製1点、瑪瑙②製6点、頁岩⑧製8点、頁岩⑨製1点、砂岩④製2点、玄武岩①製1点、安山岩④製9点である。

(3) 出土遺物

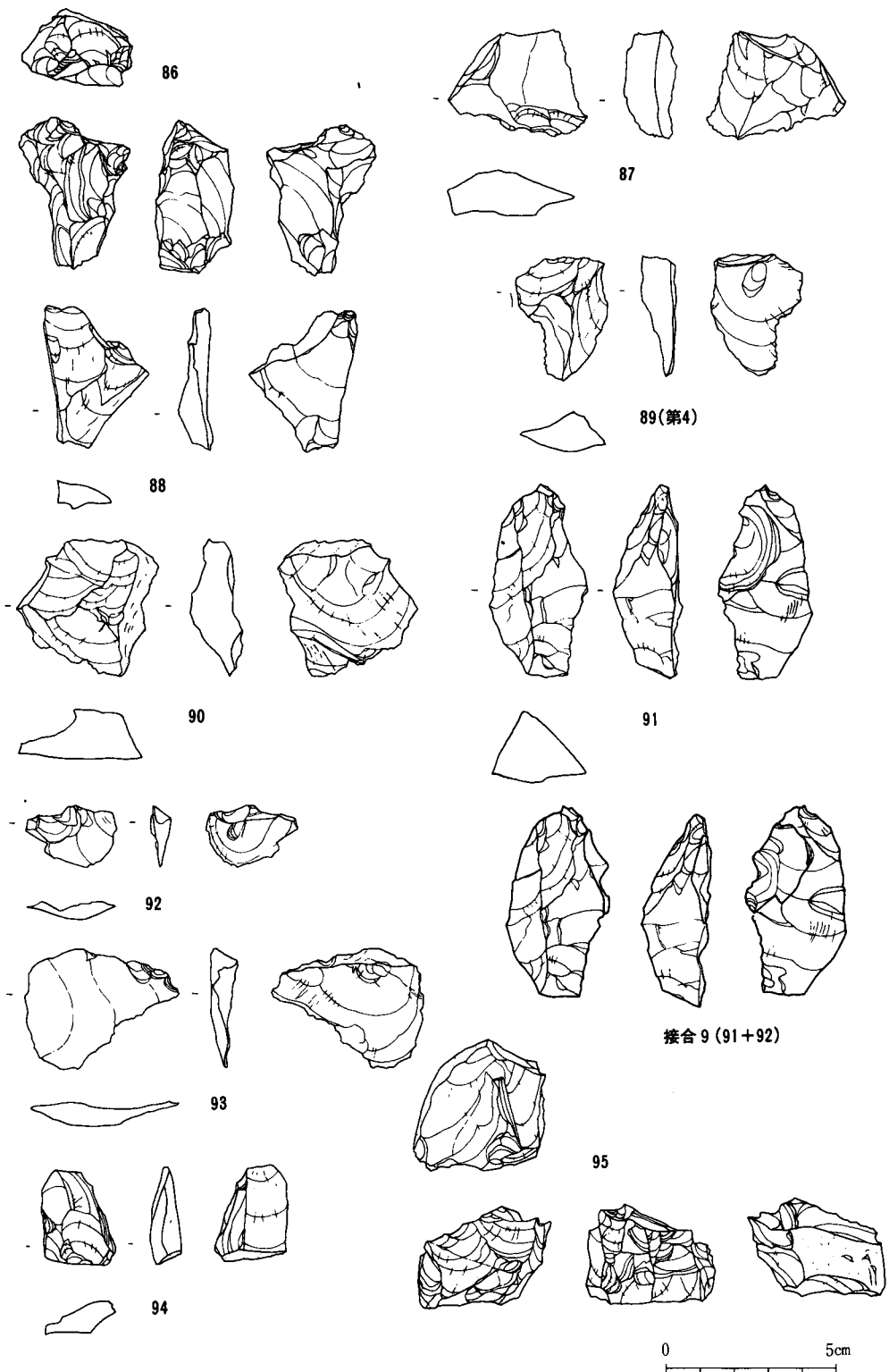
石斧（第273図117）玄武岩①製の石斧で頭部をやや欠損している。また片面側はかなり意図的に磨かれている。いずれにしろかなり小形の石斧でどのような用途を持った石器なのか興味深い。



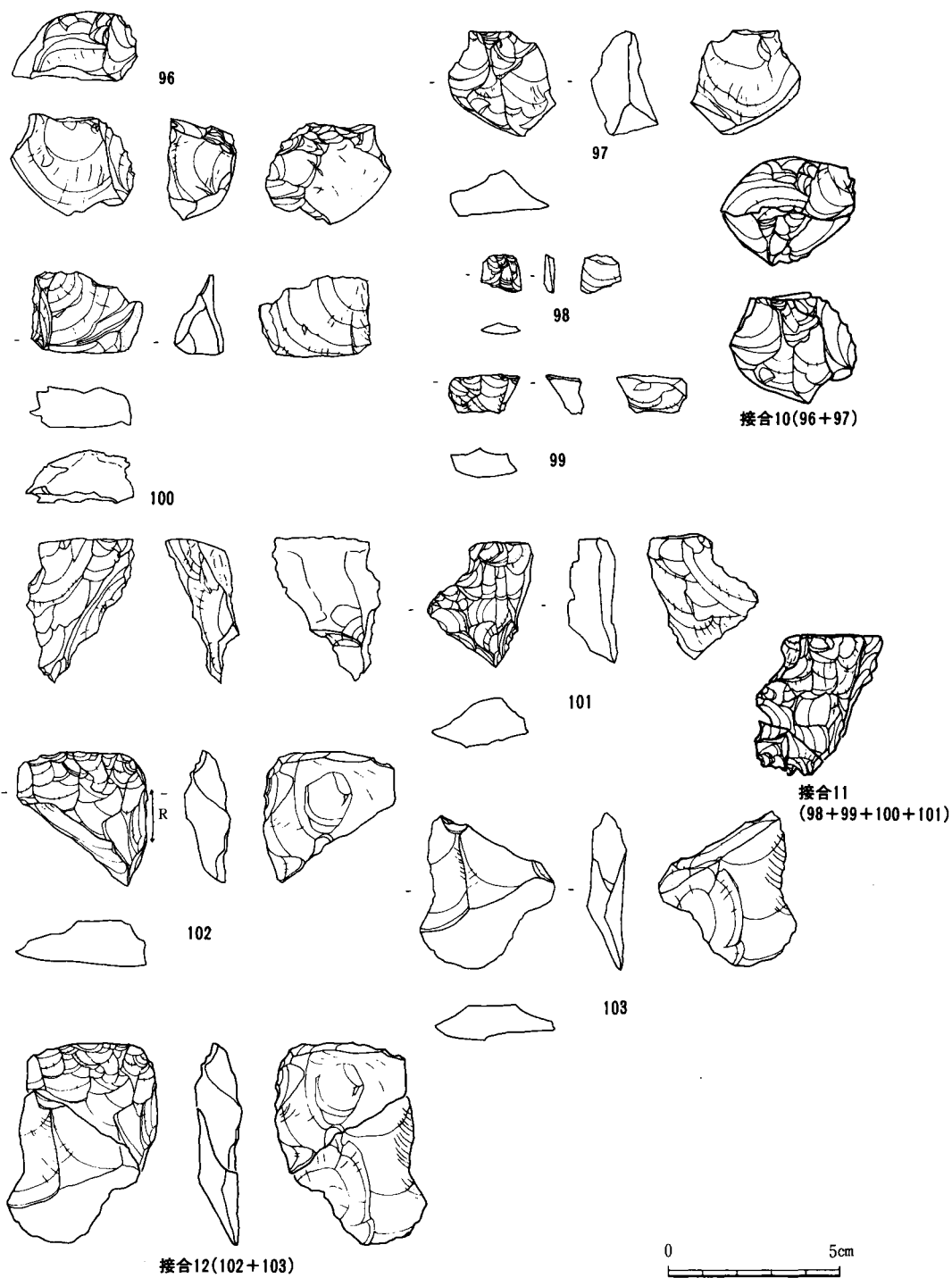
第266図 西大野第1遺跡B地区第5ブロック出土石器(1)(1/2)



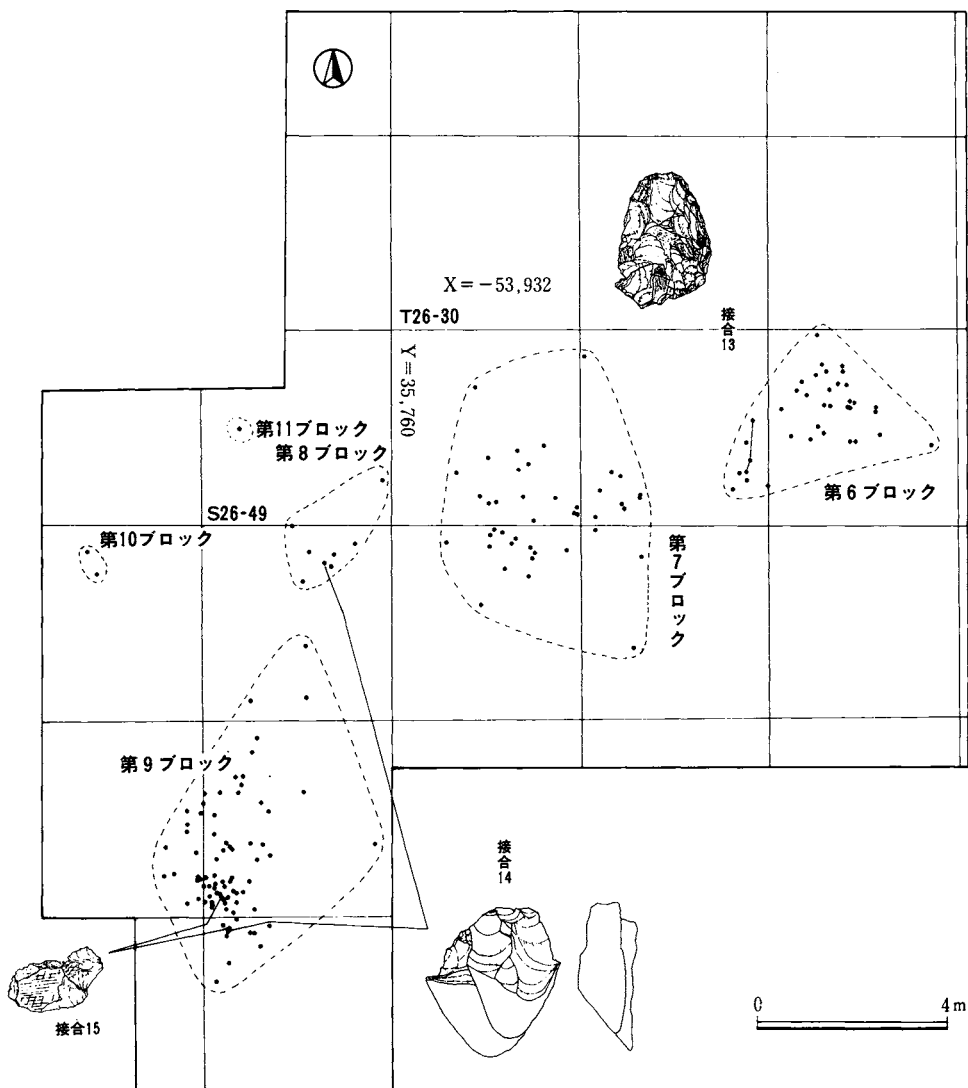
第267図 西大野第1遺跡B地区第5ブロック出土石器(2)(1/2)



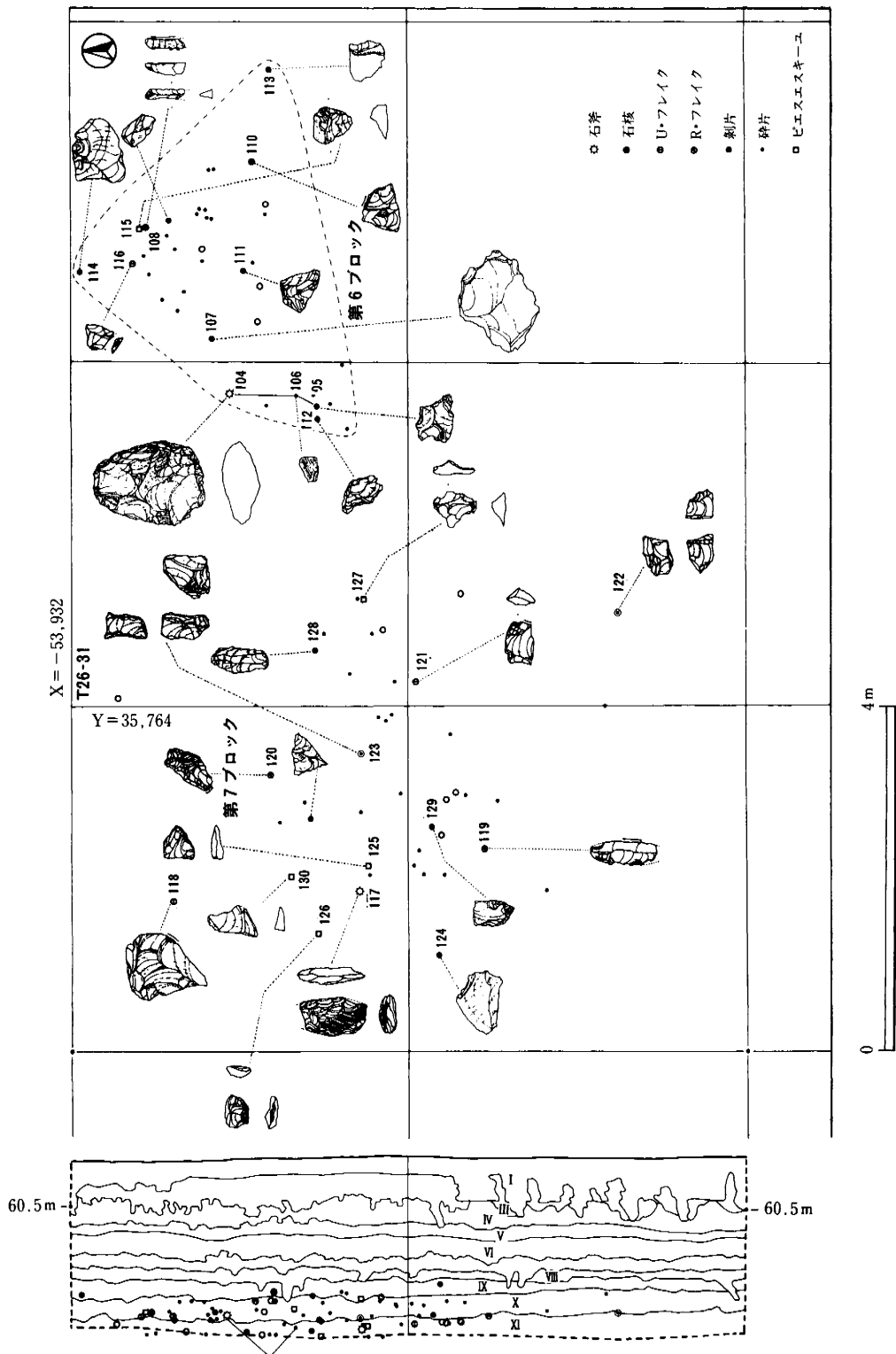
第268図 西大野第1遺跡第5ブロック出土石器(3)(1/2)



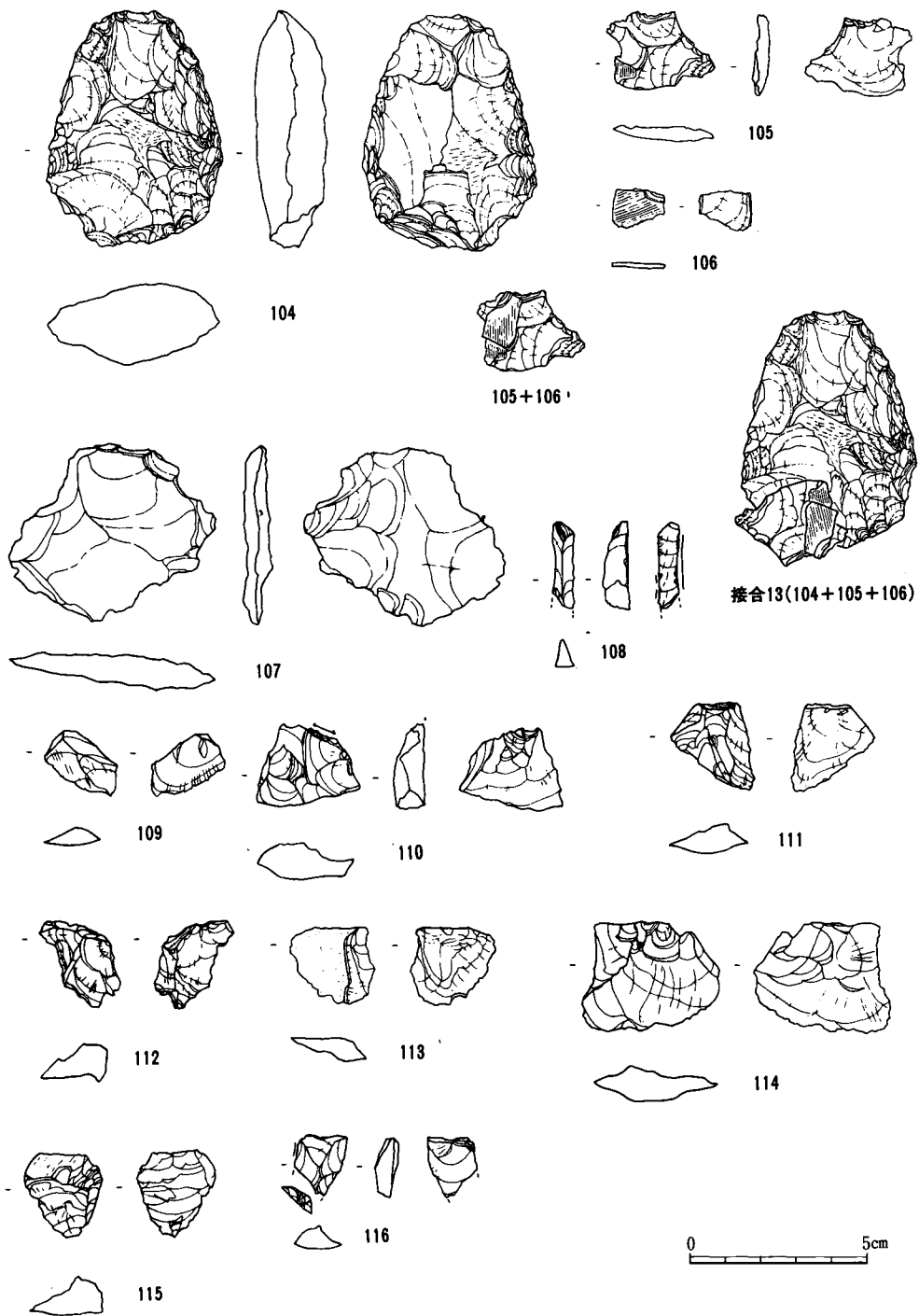
第269図 西大野第1遺跡B地区第5ブロック出土石器(4)(1/2)



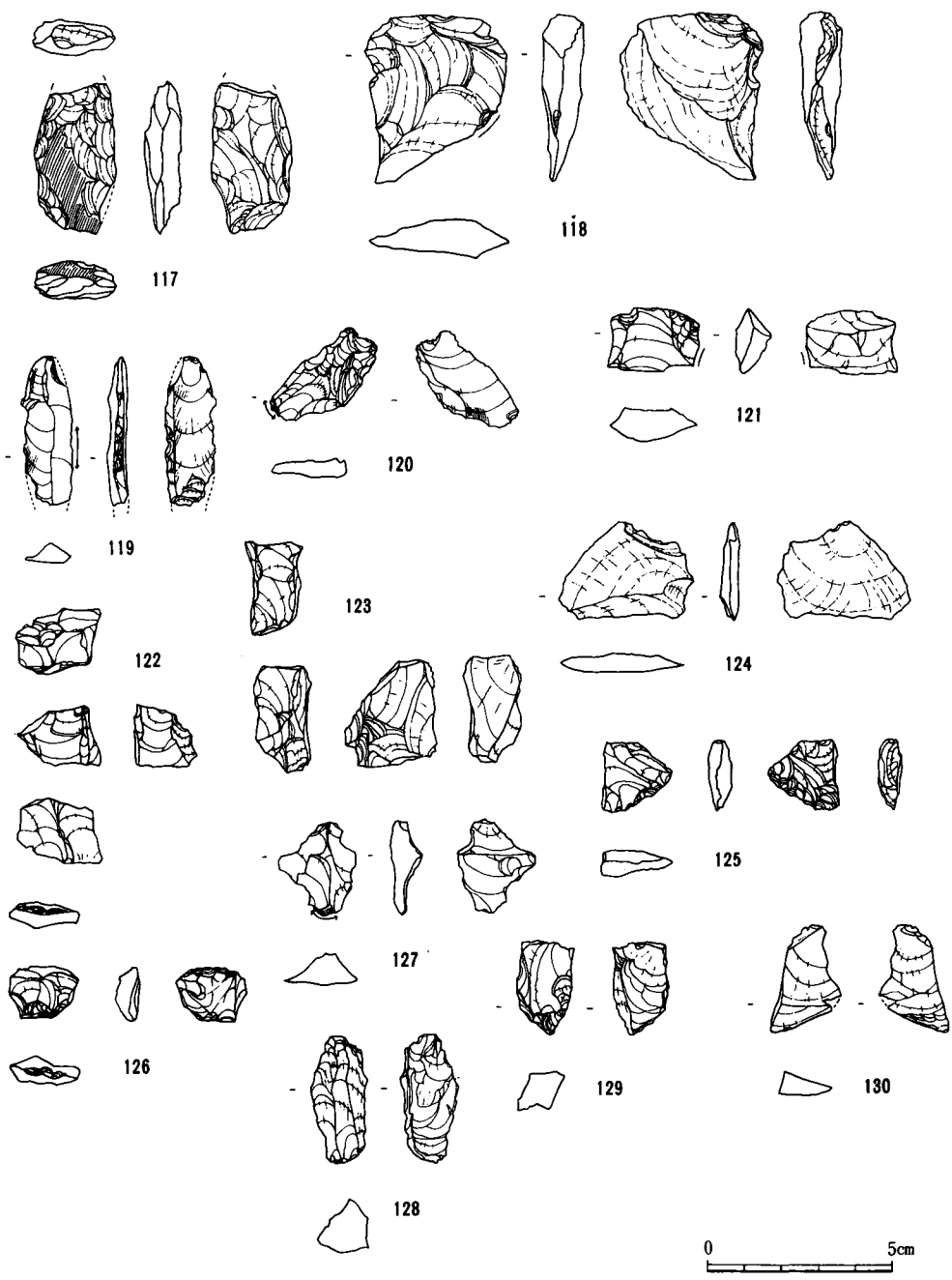
第270図 西大野第1遺跡C地区第6ブロック遺物出土状況及び接合図(1/160)



第271図 西大野第1遺跡C地区第6・7ブロック遺物出土状況(1/80)



第272図 西大野第1遺跡C地区第6ブロック出土石器(1/2)



第273図 西大野第1遺跡C地区第7ブロック出土石器(1/2)

R・フレイク（第273図119・120）珪質頁岩⑥製の縦長剥片の両側辺にやや大きめの規則的な調整を施している。120は珪質凝灰岩①製の剥片の先端部に調整を施している。

U・フレイク（第273図118・121）118は頁岩⑨製の剥片の側辺に細かな刃こぼれがみられる。121は瑪瑙②製の剥片の側辺部に刃こぼれがみられる。

ピエスエスキュー（第273図125～127・130）125は頁岩⑧製で先端部には意図的な調整も見られる。126はチャート⑨製である。127は瑪瑙②製である。130は安山岩④製である。やや大きな剥片を使用している。

石核（第273図122・123）122は瑪瑙②製の石核である。小さな剥片を周辺から剥ぎ取った様子が窺われる。123は砂岩④製の石核で多方向からの剥離痕が認められる。

剥片（第273図127～129）127はチャート⑨製の剥片である。128は珪質頁岩⑥の剥片である。129はチャート⑩製の剥片である。碎片は石材がばらついている。

10. 第8ブロック（C地区）

(1) 分布状況

S26-49を中心に8点出土している。全体の分布状況は2～3mの範囲にやや散漫に分布している。石材は珪質凝灰岩、砂岩、安山岩の3種類で構成される。IX～X層に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は6点である。他に礫が2点ある。器種構成は剥片6点、碎片2点である。石材は珪質凝灰岩1点、砂岩①製4点、安山岩④製1点である。

(3) 出土遺物

剥片（第275図131～133・135）131は珪質凝灰岩①製の剥片である。132は砂岩①製の剥片で背面が磨かれている形跡がうかがえる。おそらく磨製石斧の再生が行われた場所であろう。133は砂岩①製の剥片である。135は砂岩①製の大形剥片である。134と接合資料を構成する。

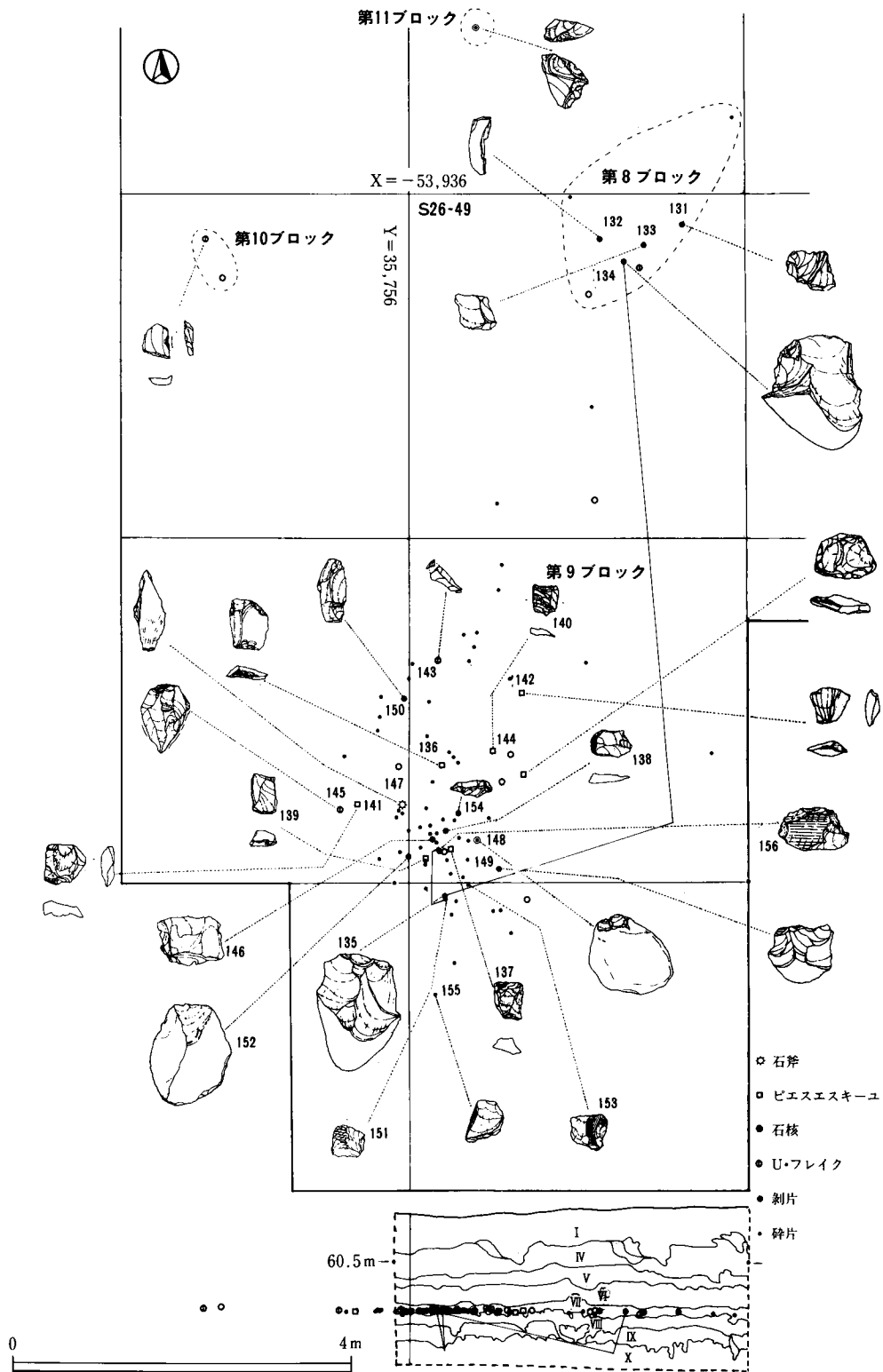
11. 第9ブロック（C地区）

(1) 分布状況

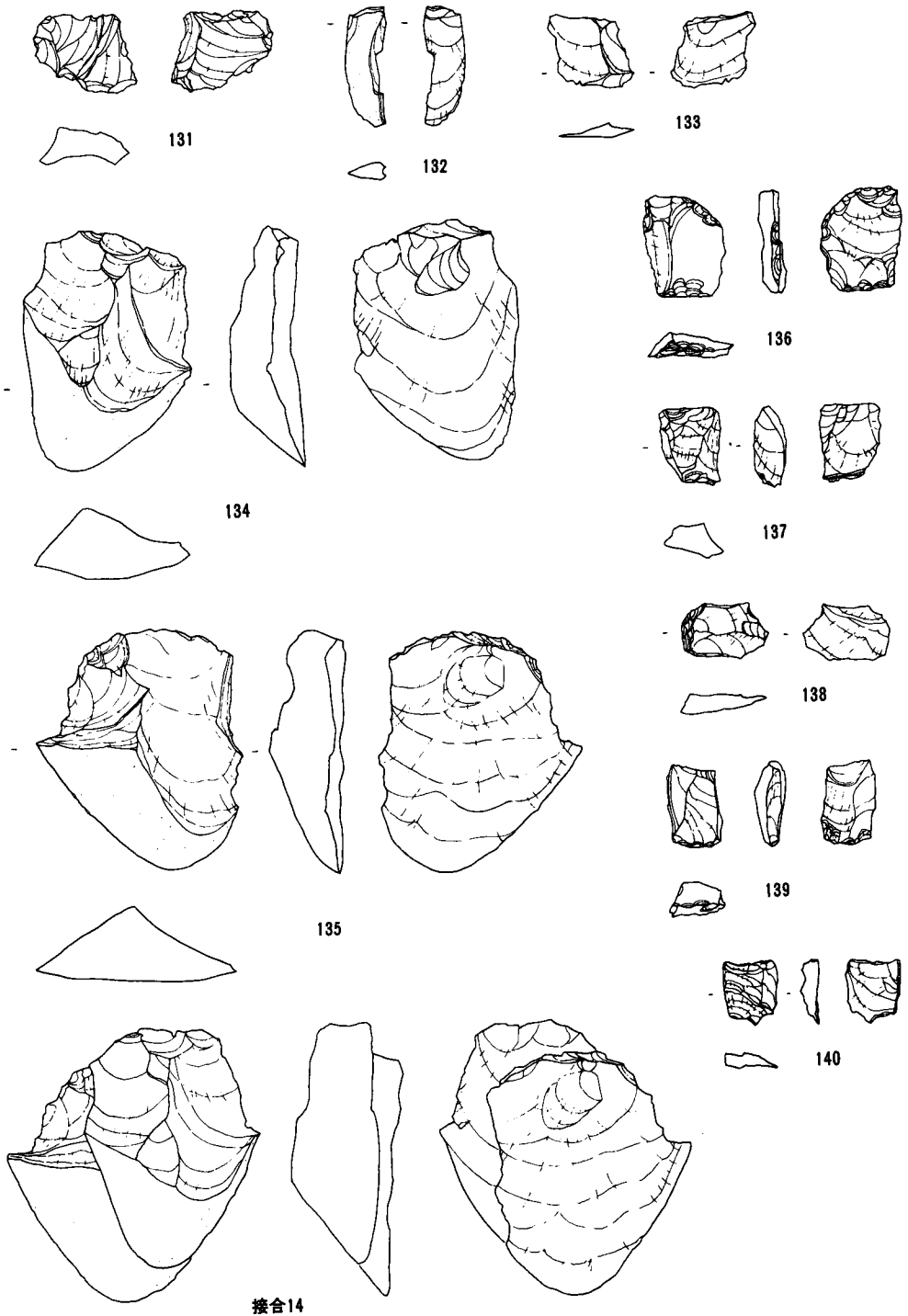
S26-69付近を中心に80点出土している。全体の分布状況は5～8mの範囲にやや集中して分布している。石材は閃緑岩、安山岩、3種類の砂岩、瑪瑙、粘板岩、3種類の頁岩の10種類で構成される。IX～X層に相当する。

(2) 石器組成

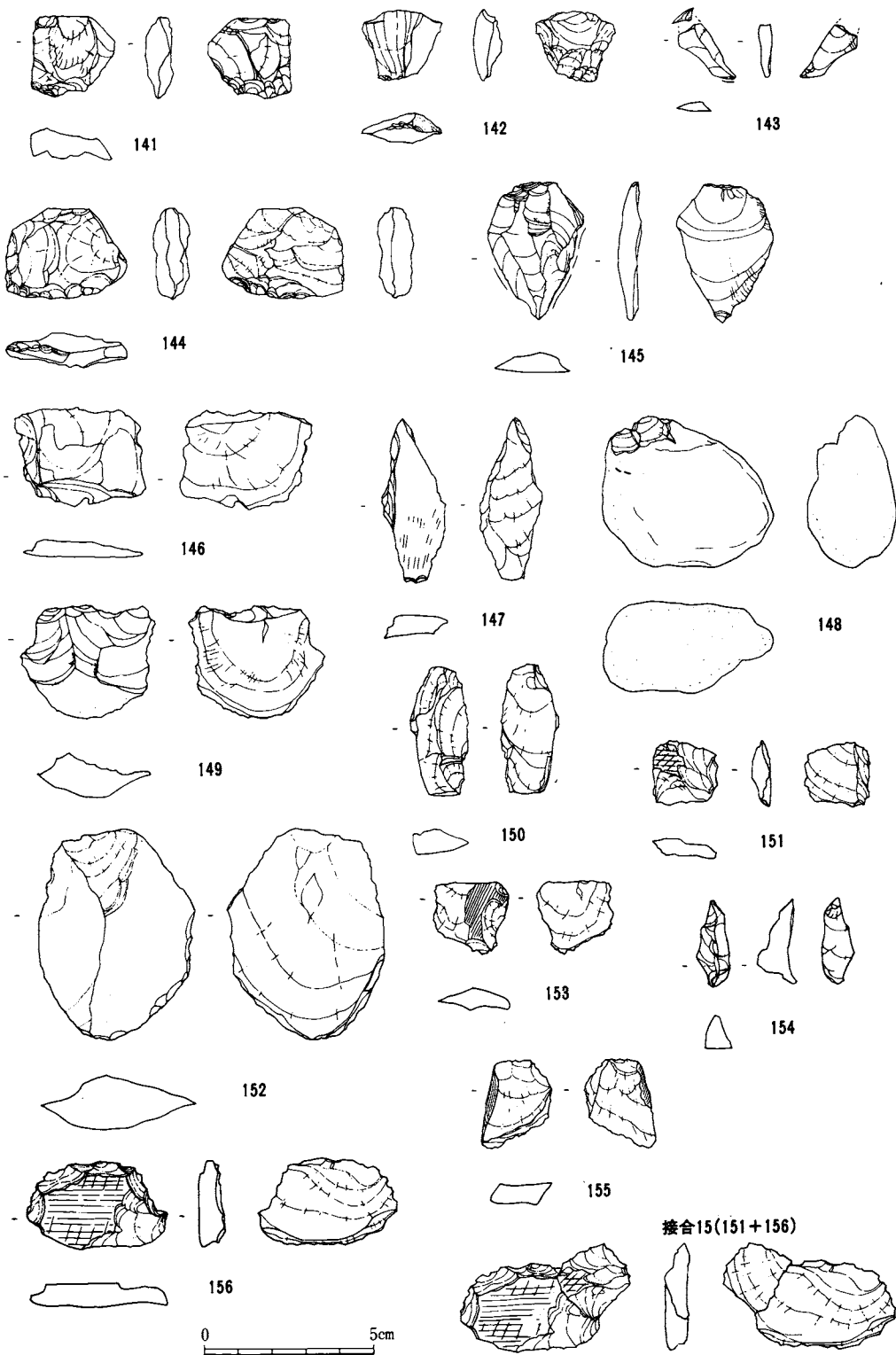
検出された石器の総数は74点である。他に礫が6点ある。器種構成は石斧1点、ピエスエスキュー7点、U・フレイク2点、石核1点、剥片6点、碎片58点である。石材は閃緑岩①製31点、安山岩④製9点、砂岩①製24点、砂岩②製1点、砂岩③製1点、瑪瑙②製1点、粘板岩①製4点、頁岩⑥製1点、頁岩⑦製1点、頁岩⑩製1点である。



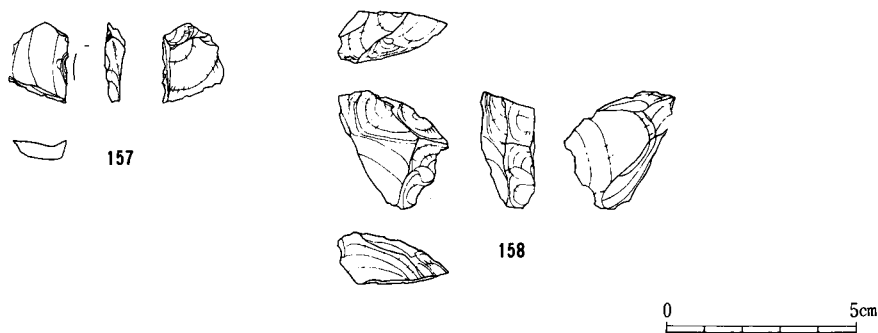
第274図 西大野第1遺跡C地区第8～11ブロック遺物出土状況図(1/80)



第275図 西大野第1遺跡C地区第8ブロック出土石器(1/2)



第276図 西大野第1遺跡C地区第9ブロック出土石器(1/2)



第277図 西大野第1遺跡C地区第10・11ブロック出土石器(1/2)

(3) 出土遺物

石斧（第276図147）頁岩⑥製の石斧片である。一部に磨痕がみられる。

U・フレイク（第276図143・145）143は瑪瑙②製の小剥片の側辺に細かな刃こぼれがみられる。145は頁岩⑦製の剥片の両側辺のかなりの部分に刃こぼれがみられる。

ピエスエスキュー（第275・276図136・137・139～142・144）136・137・139は砂岩①製である。140～142は安山岩④製である。141は閃緑岩①製である。他と比べてやや大きい。

石核（第276図148）チャート⑧製の礫の一部を叩いたものである。

剥片（第276図146・149～156）146は粘板岩①製の剥片である。149は砂岩③製の剥片である。150は砂岩①製の剥片である。151は閃緑岩①製の小剥片である。156と接合資料を構成する。152砂岩②製の大型剥片である。153・155は閃緑岩①製の剥片である。154は頁岩⑩の剥片である。閃緑岩①の剥片はいずれも磨痕がみられる。磨石斧の再生をこの場所で行った可能性がある。

12. 第10ブロック（C地区）

(1) 分布状況

S26-48付近に2点出土している。石材は珪質頁岩で構成される。IX～X層に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は1点である。他に礫が1点ある。器種構成はU・フレイク1点である。石材構成は珪質頁岩⑤製である。

(3) 出土遺物

U・フレイク（第277図157）剥片の側辺に細かな刃こぼれがみられる。

13. 第11ブロック（C地区）

(1) 分布状況

S 26-39付近に1点出土している。石材は珪質頁岩で構成される。IX～X層に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は1点である。器種構成は石核1点である。石材構成は珪質頁岩⑤製である。

(3) 出土遺物

U・フレイク (第277図158) 比較的小さな剥片を剥いだと思われる。

14. 第12ブロック (D地区)

(1) 分布状況

S 25-08付近に3点出土している。石材は珪質頁岩と黒曜石で構成される。VII層下部に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は3点である。器種構成はナイフ形石器、剥片1点、碎片1点である。石材構成は珪質頁岩⑤製と黒曜石②製である。

(3) 出土遺物

ナイフ形石器 (第278図159) 珪質頁岩⑤製の縦長の剥片をやや軽めの調整で仕上げている。刃部には細かな刃こぼれがみられる。

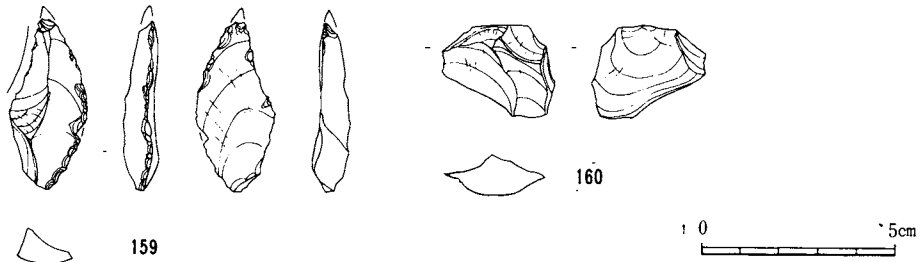
剥片 (第278図160) 珪質頁岩⑤製の剥片で上下両方向からの剥離痕が背部に見られる。なお黒曜石は碎片である。

15. その他の旧石器時代の遺構・遺物について

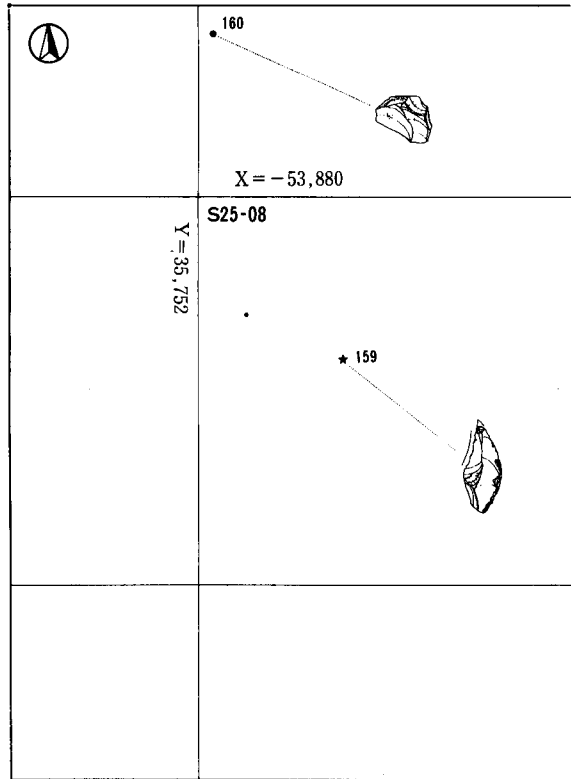
他に確認調査時に炭化粒の集中箇所や礫片が確認された場所があった。(第280図)

16. 小結

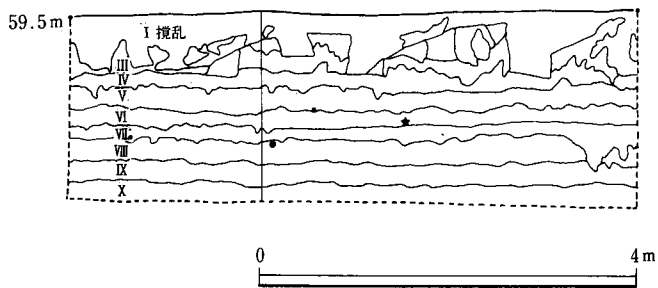
西大野第1遺跡では12ブロックが検出された。A地区、B地区での5ブロックはIII～IV層、D地区の1ブロックはVII層下部、C地区の6ブロックはIX～X層と文化層が3時期に分かれている。特にIX～X層のブロックのあり方は、石材からみても内容からみても東大野第2遺跡とはかなり違う印象を受ける。



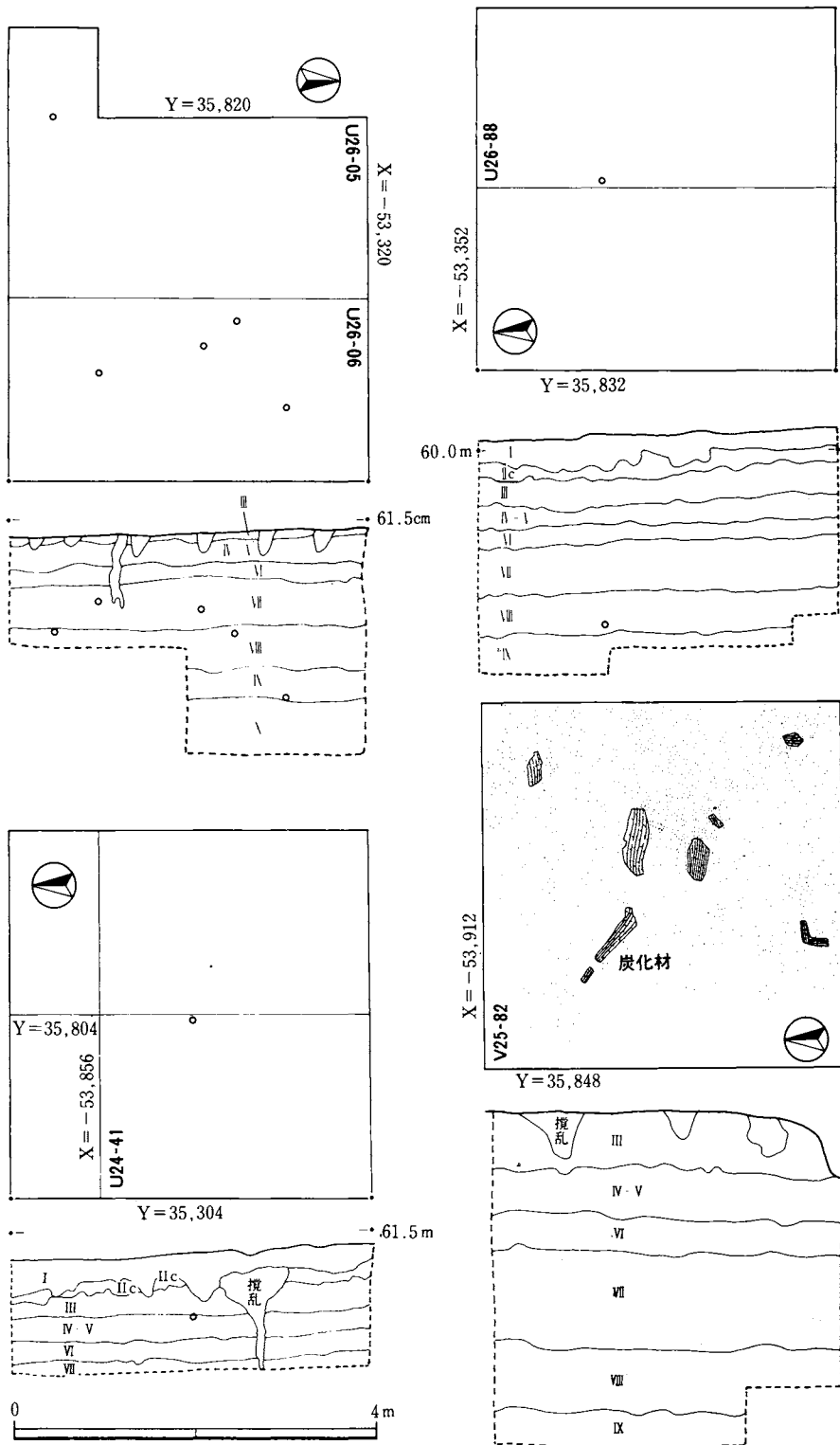
第278図 西大野第1遺跡D地区出土石器(1/2)



- ★ ナイフ形石器
- 剥片
- 碎片



第279図 西大野第1遺跡D地区遺物出土状況(1/80)



第280図 西大野第1遺跡確認調査時検出炭化材及び礫出土状況(1/80)

第2節 縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代

1. 概要

西大野第1遺跡は、昭和63年度、平成元年～2年度にわたって発掘調査を実施した。上層の確認調査の結果、遺構が検出され、16,200㎡の本調査を実施した。その結果、縄文時代の住居跡3軒、縄文時代土坑76基、古墳時代の方墳1基、奈良～平安時代の住居跡12軒が検出された。

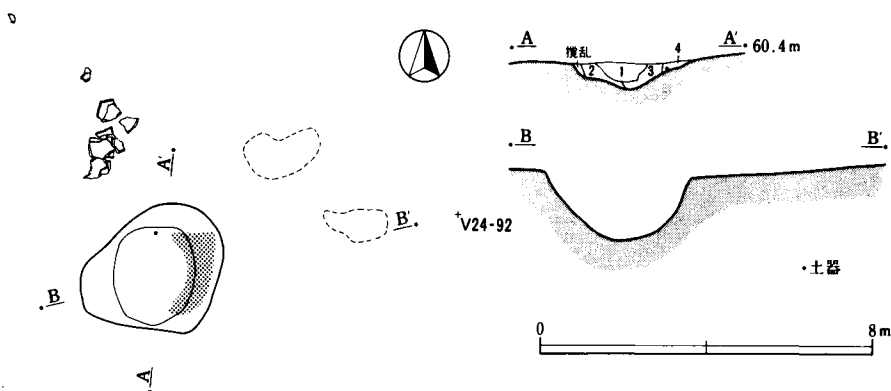
2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

031号住居跡（遺構 第281図）

V24-91から東へ2 mに位置する。住居跡のプランはほとんど残っておらず炉の部分と一部の硬化面を検出できたにすぎない。周辺部から柱穴等の施設も検出されていないので規模等は不明である。炉は一部土器片で囲った土器囲い炉である。炉の覆土は1. 焼土粒を少し含みしまりがある黒褐色土。2. 炭化粒や焼土粒を少し含みしまりがある明褐色土。3. 焼土を主体とする橙褐色土。4. ローム粒を含みしまりがある暗褐色土である。

遺物から他の住居跡とほぼ同時期に営まれたと考えられる。



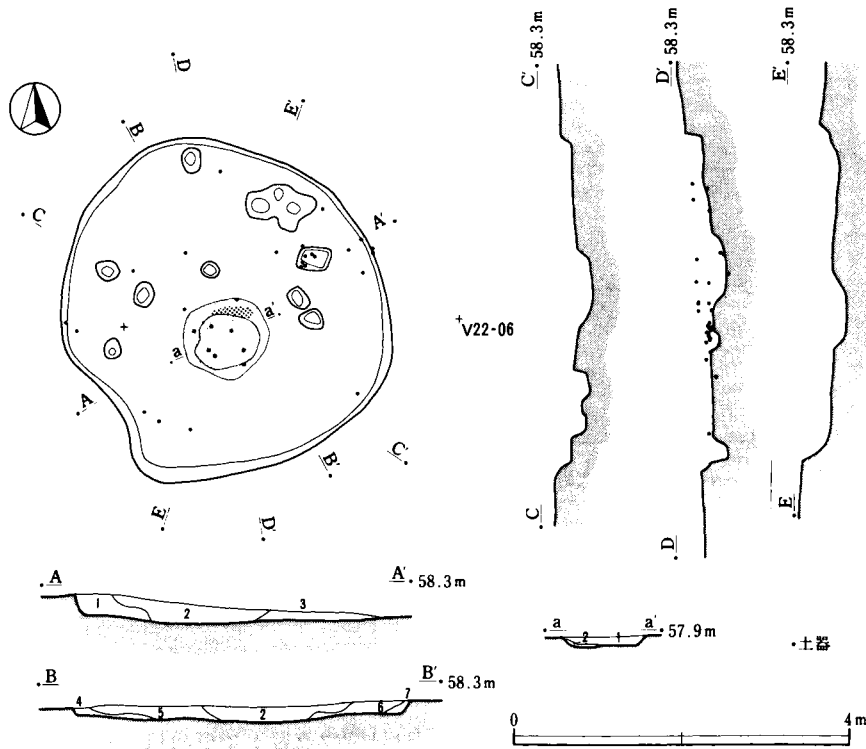
第281図 西大野第1遺跡031号住居跡(1/40)

045号住居跡（遺構 第282図）

U22-05から東へ1 mのところを中心に位置する。プランは径4 mの円形に近い形を呈し南西側に緩い張り出し部分を持つ。検出面から床面までの掘り込みは22cmある。床面はソフトロームで硬質面がほとんどみられないことや、炉跡の使用状況から短期間使用された住居跡である可能性が高い。柱穴は炉の南側を除いて周辺にある。炉は地床炉で底面は焼けた跡があまりみられない。住居跡の覆土は1. ソフトロームブロックを部分的に含みしまりが悪い暗褐色土。2. ソフトローム粒・焼土粒を少し含む黒褐色土。3. 比較的多くのソフトローム粒を含みし

まりが悪い暗褐色土。4. 多くのソフトローム粒を含みしまりが悪い暗褐色土。5. 比較的多くのソフトロームを含む暗褐色土。6. しまりが悪い暗褐色土。7. 多くのソフトロームを含みしまりが悪い明褐色土である。

遺物から他の住居跡とはほぼ同時期に営まれたと考えられる。

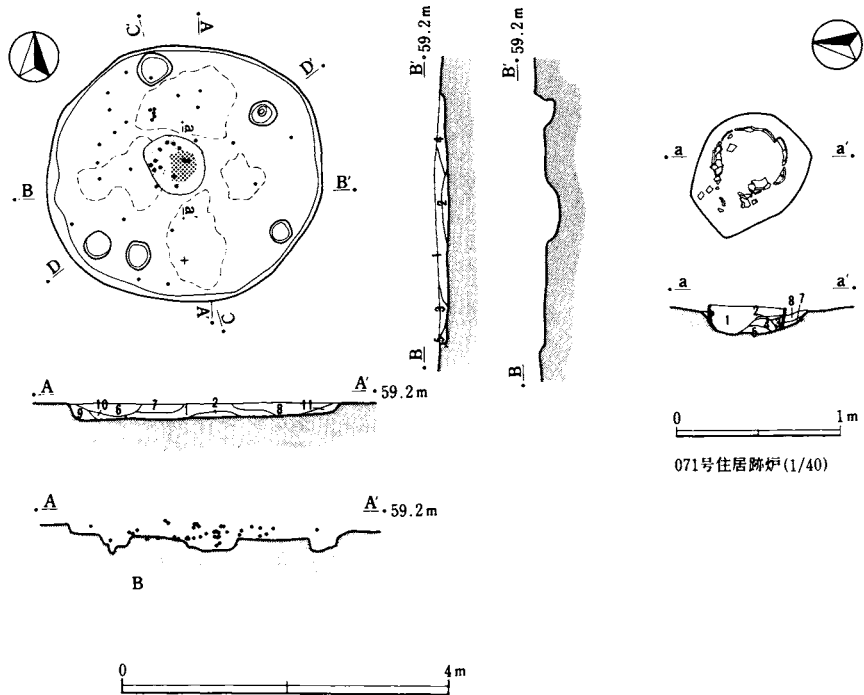


第282図 西大野第1遺跡045号住居跡(1/80)

071号住居跡-昭和63年度027号- (遺構 第283図)

V23-25から北へ1mに位置する。プランは長軸3.36m、短軸3.14mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは16cmある。床面は炉が中心にありその周辺部にかかなりの範囲で硬化面が観察された。柱穴は壁際に5個みられる。炉は土器片で囲った埋嚮炉である。住居跡の覆土は1. ソフトローム小ブロックを少し含みしまりがよい暗褐色土。2. ソフトローム粒・焼土粒を少量含む暗褐色土。3~8. ソフトロームを含む暗褐色土。9. 多くのソフトロームと少しの黒褐色土を含む明褐色土。10. 少しのソフトロームを含みしまりがよい暗褐色土。11. 多くのソフトロームを含みしまりがよい明褐色土である。

遺物は炉囲いの土器片が加曾利E II式の時期であることからこの前後に営まれた可能性が高い。



第283図 西大野第1遺跡071号住居跡(1/80)

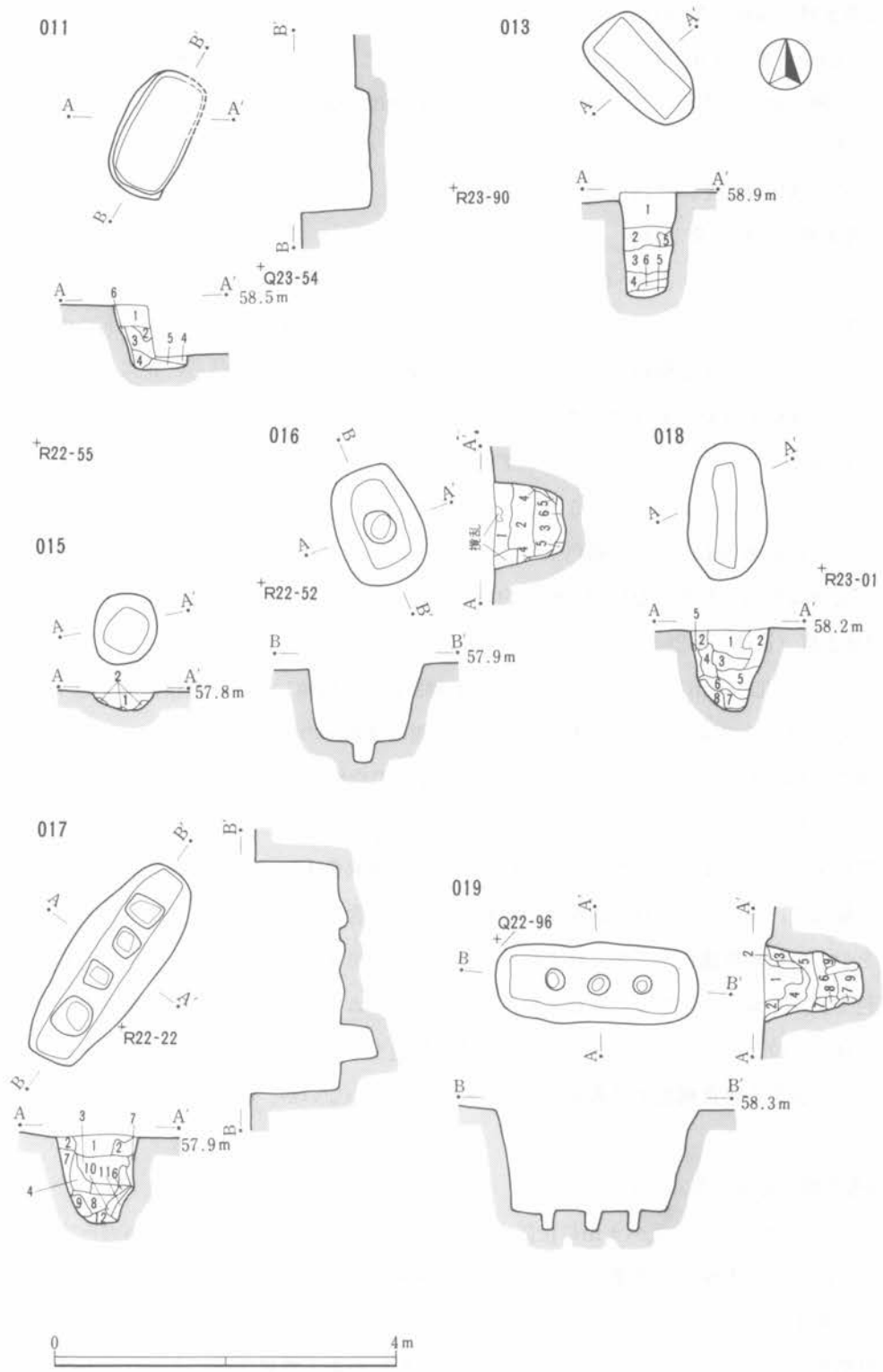
(2) 土坑

011号土坑 (遺構 第284図)

Q23-54から西へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.40m、短辺0.68mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を多く含みしまりがある暗褐色土。3. ローム粒を多く含みややしまりを欠く褐色土。4. やや暗い褐色土。5. ローム粒を少し含みしまりを欠く黒褐色土。6. ハードローム粒にソフトローム粒が混ざる黄褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

013号土坑 (遺構 第284図)

R23-90から東へ2m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.46m、短辺0.79mのやや丸みの強い長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.22mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ややしまりがありローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームに黒色土が混ざりしまりが少ない暗黄褐色土。3. ロームブロックを含みしまりを欠く黒褐色土。4. しまりがありロームブロックの混じりが少ない黒褐色土。5. ハードロームブロックと褐色土が混ざる黄褐色土。6. しまりがありローム粒が多い暗褐色土である。遺物は検出されていないが形態的に陥穴状遺構になると思われる。



第284図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(1)(1/80)

015号土坑（遺構 第284図）

R22-65から東へ1m、北へ2mに位置する。プランは長軸0.78m、短軸0.74mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは21cmある。断面は鍋底状を呈する。覆土は1. ややしまりを欠きローム粒を含む暗褐色土。2. しまりを欠きソフトロームに褐色土が混ざる暗黄褐色土である。遺物はなく、性格は不明である。

016号土坑（遺構 第284図）

R22-52から東へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.37m、短軸1.00mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.8mある。床面はほぼフラットで中程に径36cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは24cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりがありロームブロックを含む暗褐色土。2. しまりがありロームブロックを少し含む黒褐色土。3. しまりがありロームブロックを少し含む黒褐色土。4. しまりがありロームブロックを多く含む暗褐色土。5. ロームを主としてハードロームブロックを多く含む黒色土も少し含む黄褐色土。6. 暗褐色土にソフトロームが混ざりしまりがややない暗黄褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

017号土坑（遺構 第284図）

R22-22から北へ1mに位置する。プランは長軸2.62m、短軸1.04mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.06mある。床面は南側に径46cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは46cmある。その他の凹凸はピットにはならずやや浅い。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. しまりがありローム粒を少し含む黒褐色土。2. しまりがあり褐色土をやや多く含む暗褐色土。3. しまりをやや欠き粘土粒を少し含む黒褐色土。4. ロームブロックをやや多く含む褐色土。5. ソフトローム粒及び暗褐色土を多く含む褐色土。6. ソフトロームに暗褐色土を少し含む暗黄褐色土。7. 粘土粒をやや多く含む黒褐色土。8. 粘土粒をやや多く含む暗褐色土。9. ローム粒を少し含む黒褐色土。10. ロームブロックを多く含む黒褐色土。11. ソフトローム粒とハードロームブロックが主体で褐色土を少し含む黄褐色土。12. ロームを主体で褐色土が混ざる暗黄褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

018号土坑（遺構 第284図）

R23-01から西へ1m、北へ1mに位置する。プランは長軸1.56m、短軸0.90mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.12mある。床面はやや凹凸がみられ壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりがあり粘土粒を少し含む黒褐色土。2. しまりがなく粘土粒を少し含む黒褐色土。3. ロームブロックをやや多く含む粘性がある暗褐色土。4. ロームブロックを多く含む黒褐色土。5. ロームブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土。6. ローム粒を主

体として黒色土が混ざる黄褐色土。7. ローム粒がやや多く混ざる暗褐色土。8. ローム粒に暗褐色土が少し混ざりしまりが少ない暗黄褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

019号土坑（遺構 第284図）

Q22-96から東へ1 m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺2.37m、短軸0.90mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.16mある。床面はほぼフラットで径25 cmの円形ピットを3個持つ。ピットの深さは各々20cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりがあり粘土粒を少し含む暗褐色土。2. 黒色土及び粘土粒をやや多く含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ローム粒を多く含む褐色土。5. しまりを欠きローム粒を多く含む暗褐色土。6. しまりを欠きローム粒を多く含む暗褐色土。7. ロームを主体にして褐色土が多く混ざる暗黄褐色土。8. しまりをやや欠きボソボソしている黄褐色土。9. ハードロームが主体でソフトローム粒と褐色土を含む黄褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

020号土坑（遺構 第285図）

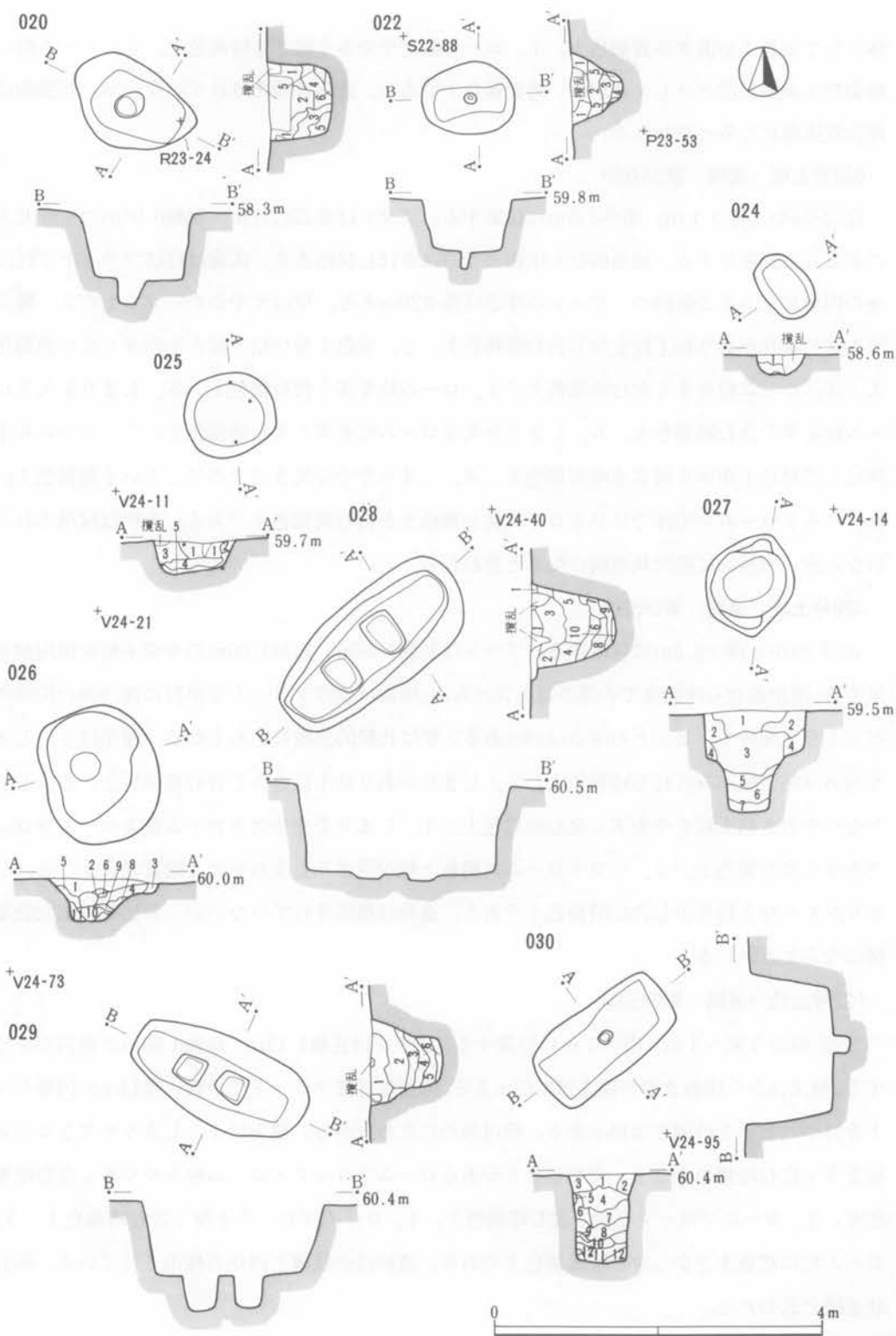
R23-24から西へ0.5mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸1.06mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.76mある。床面はほぼフラットで中程に径28cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは28cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. しまりがあり粘土粒がみられる暗褐色土。2. しまりがあり粘土粒を少し含む黒褐色土。3. しまりをやや欠き粘土粒をやや多く含む暗褐色土。4. しまりをやや欠きローム粒とロームブロックを多く含む褐色土。5. ソフトロームに褐色土粒が混ざりしまりを欠く暗黄褐色土。6. しまりがあり粘土粒を少し含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

022号土坑（遺構 第285図）

S22-88から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.12m、短軸0.89mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.62mある。床面はほぼフラットで中程に径14cmの円形ピットを持つ。ピットの深さは18cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりを欠きローム粒を多く含む暗褐色土。2. ややしまりがあるロームブロック・ローム粒をやや多く含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ロームブロックを少し含む暗褐色土。5. ローム粒に褐色土を少し含む暗黄褐色土である。遺物は少量覆土内から検出されている。陥穴状遺構と思われる。

024号土坑（遺構 第285図）

P23-54から西へ2 m、南へ2 mに位置する。プランは長辺0.88m、短辺0.59mのやや丸みの



第285図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(2)(1/80)

ある楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは24cmで床面はやや凹凸があり壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. 焼土粒や炭化粒を少し含みややしまりがある。2. ローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土である。遺物もなく、性格も不明の土坑である。

025号土坑（遺構 第285図）

V24-11から東へ1.5m、北へ1mに位置する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームブロックを少し含み焼土粒・炭化粒を少し含みややしまりを欠く暗褐色土。2. ロームブロックが多く含みしまりを欠く暗褐色土。3. ローム粒と褐色土が混ざる褐色土。4. ロームが少し混ざりしまりを欠く黒褐色土。5. ロームに褐色土が混ざる暗黄褐色土である。縄文時代中期の土器片が床面から出土している。貯蔵や廃棄等の用途が考えられる土坑である。

026号土坑（遺構 第285図）

V24-21から南へ2mに位置する。検出面から床面までの深さは0.55mあり断面形はやや緩やかなV字を呈する。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. 非常にしまりのある暗褐色土。3. しまりを欠く暗褐色土。4. しまりを欠きボソボソした感じがある暗褐色土。5. ロームブロックが主体で褐色土を含む黄褐色土。6. ロームを少し含みしまりを欠く黒褐色土。7. しまりがある黒褐色土。8. ロームに黒色土が混ざる暗黄褐色土。9. ロームを少し含みややしまりがある黒褐色土。10. ハードロームが主体の黄褐色土。11. ロームに黒色土が混ざる暗黄褐色土。遺物もなく、性格も不明の土坑である。

027号土坑（遺構 第285図）

V24-14から西へ1m、南へ1mに位置する。検出面から床面までの深さは1.19mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 焼土粒を少し含みローム粒が少し含む暗褐色土。2. ローム粒を多く含みしまりがある褐色土。3. 黒色土にやや多くのロームが混ざる暗褐色土。4. ソフトロームに褐色土少し混ざる黄褐色土。5. しまりを欠きボソボソの暗褐色土。6. ローム粒多く混じりややしまりがある褐色土。7. ロームがやや多くしまりを欠く暗褐色土。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になるとと思われる。

028号土坑（遺構 第285図）

V24-40から西へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.62m、短軸1.21mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.04mある。床面には2箇所の5cm程度の窪みがみられる。ピットになるほどの深さではない。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームを少し含みややしまりがある黒褐色土。2. ロームをやや多く含み炭化粒を少し含む暗褐色土。3. 暗褐色土とロームを多く含みややしまりがある褐色土。4. ローム粒を少し含みしまりを欠く暗褐色土。5. ロームブロックを多く含む褐色土。6. ロームブロックを多く含みしまりを欠

く暗褐色土。7. 褐色土にロームがやや多く混ざる褐色土。8. 褐色土にロームがやや多く混ざる褐色土。9. ロームを少し含み炭化粒を若干含む暗褐色土。10. ロームに暗褐色土が少し混ざる暗黄褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

029号土坑（遺構 第285図）

V24-73から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.22m、短軸1.07mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.88mある。床面はほぼフラットで一辺32cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々42cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームブロックと炭化粒をやや多く含みしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を多く含みしまりがある暗褐色土。3. ローム粒を多く含みしまりをやや欠く暗褐色土。4. ローム粒を多く含みしまりを欠く褐色土。5. ロームに少し褐色土を含む暗黄褐色土。6. ローム粒を少し含みしまりがない暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

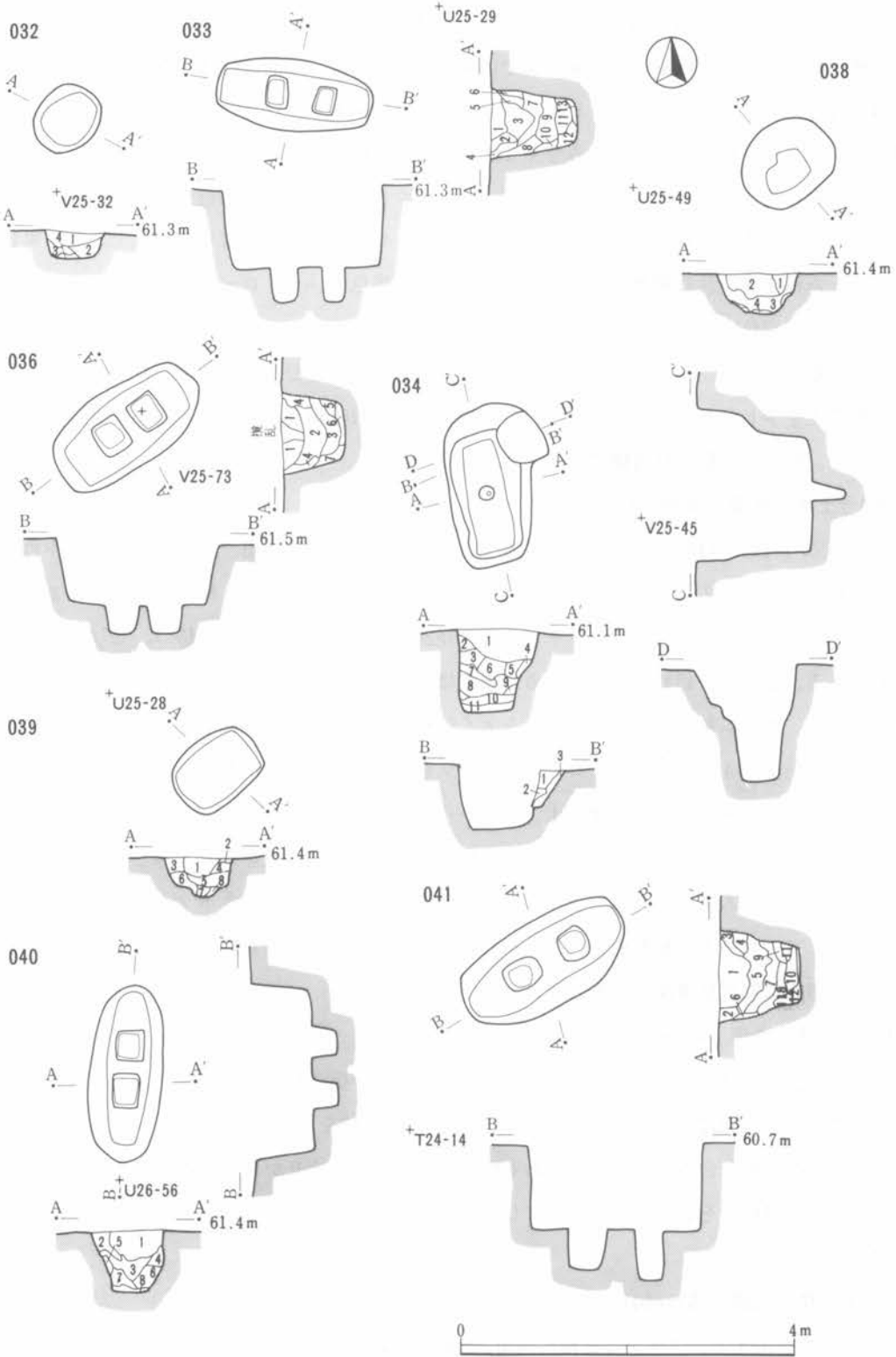
030号土坑（遺構 第285図）

V24-95から西へ0.5m、北へ1mに位置する。プランは長辺1.82m、短辺0.89mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.06mある。床面はほぼフラットで中心に径15cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含みしまりがある暗褐色土。2. ローム粒を多く含みしまりをやや欠く褐色土。3. 粘土粒を少し含みしまりを欠く暗褐色土。4. ロームブロックを多く含みしまりをやや欠く褐色土。5. ロームブロックを多く含みしまりがある暗褐色土。6. ローム粒を多く含みしまりをやや欠く黒褐色土。7. ローム粒を多く含みしまりを欠く黒褐色土。8. ロームに暗黄褐色土。9. ローム粒を多く含みしまりを欠く暗褐色土。10. ローム粒を多く含みしまりを欠く黒褐色土。11. ロームに褐色土を多く含みしまりを欠く暗黄褐色土。12. 暗褐色土にハードロームブロックを少し含みややしまりがある暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

032号土坑（遺構 第286図）

V25-32から北へ1mに位置する。プランは長軸0.86m、短軸0.73mのほぼ円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは31cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みややしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を多く含み炭化粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒の混じりをしまりを欠く暗褐色土。4. ロームに褐色土が混ざりしまりを欠く暗黄褐色土である。遺物はないが、形態的に貯蔵や廃棄等の用途が考えられる土坑である。

033号土坑（遺構 第286図）



第286図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(3)(1/80)

U25-09から西へ1.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.87m、短軸0.87mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1mある。床面はほぼフラットで一辺35cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々39cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒をやや多く含みややしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を多く含み炭化粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒を多く含みややしまりを欠く暗褐色土。4. 暗褐色土にローム粒をやや多く含みしまりを欠く暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. 褐色土にローム粒を多く含む褐色土。7. ローム粒が多い褐色土。8. ローム粒を多く含みややしまりを欠く暗褐色土。9. ローム粒・ロームブロックを多く含む暗褐色土。10. ローム粒を多く含む暗褐色土。11. ハードロームブロックに褐色土を少し含む暗黄褐色土。12. ソフトロームに褐色土を少し含む暗黄褐色土。13. 炭化物を多く含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になるとと思われる。

034号土坑（遺構 第286図）

V25-45から西へ2m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.84m、短軸1.01mのやや角張って不整な形を呈する。また北側に035号があり034号のほうが新しい。検出面から床面までの深さは1mある。床面はほぼフラットで中程に径20cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは43cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含みややしまりがある暗褐色土。2. ローム粒を少し含みしまりを欠く暗褐色土。3. ローム粒を少し含みややしまりがある暗褐色土。4. ローム粒・ロームブロックを多く含みしまりがある暗褐色土。5. ローム粒を少し含みしまりを欠く暗褐色土。6. ローム粒と褐色土を多く含みしまりを欠く褐色土。7. ローム粒を少し含みややしまりがある暗褐色土。8. ローム粒を多く含みしまりがある黒褐色土。9. ロームを多く含みしまりがある褐色土。10. しまりを欠きボソボソした感じのある褐色土。11. ロームと褐色土を含みややしまりがある褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になるとと思われる。

035号土坑（遺構 第286図）

034号土坑の北東壁で一部検出された。大部分は034号が掘られた時点で壊されておりプランは不明である。時期は034号より古い。覆土は1. ローム粒を多く含みしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を少し含みややしまりがある暗褐色土。3. しまりがある黒褐色土。4. ロームを主体にして褐色土を含みややボソボソした暗黄褐色土である。残存部分が少ないため性格は不明である。

036号土坑（遺構 第286図）

V25-73に位置する。プランは長軸1.96m、短軸0.98mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは76cmある。床面はほぼフラットで一辺36cmの方形のピットを2個持つ。

ピットの深さは各々34cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒と炭化粒を少し含みややしまりがある黒褐色土。2. ローム粒をやや多く含みしまりがややある暗褐色土。3. ローム粒をやや多く含む暗褐色土。4. ロームに褐色土がやや多く混ざりしまりをやや欠く暗黄褐色土。5. ややしまりがある暗黄褐色土。6. 暗褐色土にロームが多く混ざる暗褐色土。7. 炭化粒を多く含む黒褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

038号土坑（遺構 第286図）

U25-49から東へ2 m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.17m、短軸0.97mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.53mある。床面は凹凸があり壁は比較的斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みややしまりがある黒褐色土。2. ロームブロックを多く含み炭化粒を含みしまりを欠く暗褐色土。3. ロームを少し含みしまりを欠く暗褐色土。4. ハードローム主体の黄褐色土である。遺物もなく、性格も不明の土坑である。

039号土坑（遺構 第286図）

U25-28から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長辺1.09m、短辺0.78mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.54mある。床面はやや凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みしまりをやや欠く黒褐色土。2. ローム粒を多く含みしまりを欠く暗褐色土。3. ロームに褐色土が多く混ざりしまりを欠く褐色土。4. ローム粒を含みしまりを欠く暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含みしまりを欠く暗褐色土。7. ローム粒を多く含む暗褐色土。8. 褐色土に多くのロームが混ざりしまりを欠く褐色土である。遺物もなく、性格も不明の土坑である。

040号土坑（遺構 第286図）

U26-56から北へ1 mに位置する。プランは長軸2.09m、短軸0.88mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは69cmある。床面はほぼフラットで一辺40cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々30cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含みしまりがある黒褐色土。2. ローム粒を多く含みややしまりがある褐色土。3. ローム粒を少し含みややしまりがある暗褐色土。4. ローム粒をやや多く含みやしまりを欠く褐色土。5. ローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。6. ローム粒にやや褐色土を含む暗黄褐色土。7. ローム粒を多く含みやしまりを欠く暗褐色土。8. ローム粒を多く含みやしまりを欠く暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

041号土坑（遺構 第286図）

T24-14から東へ1.5m、北へ2 mに位置する。プランは長軸2.14m、短軸1.04mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.98mある。床面はほぼフラットで径40cm前後の円形のピ

ットを2個持つ。ピットの深さは西側のものが0.5m、東側のものが0.58mある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を多く含みしまりがある黒褐色土。2. ロームに褐色土を多く含みしまりがある褐色土。3. ローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。4. ローム粒とロームブロックを多く含みしまりを欠く暗褐色土。5. ロームブロックを含みしまりがある暗褐色土。6. 黄褐色ハードローム。7. ローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。8. ロームを多く含みしまりを欠く暗褐色土。9. しまりがある暗褐色土。10. ローム粒を多く含みしまりを欠く黒褐色土。11. ハードロームとソフトロームが混ざり合ったブロックの黄褐色土。12. 暗褐色土にロームを多く含みしまりを欠く暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

042号土坑（遺構 第287図）

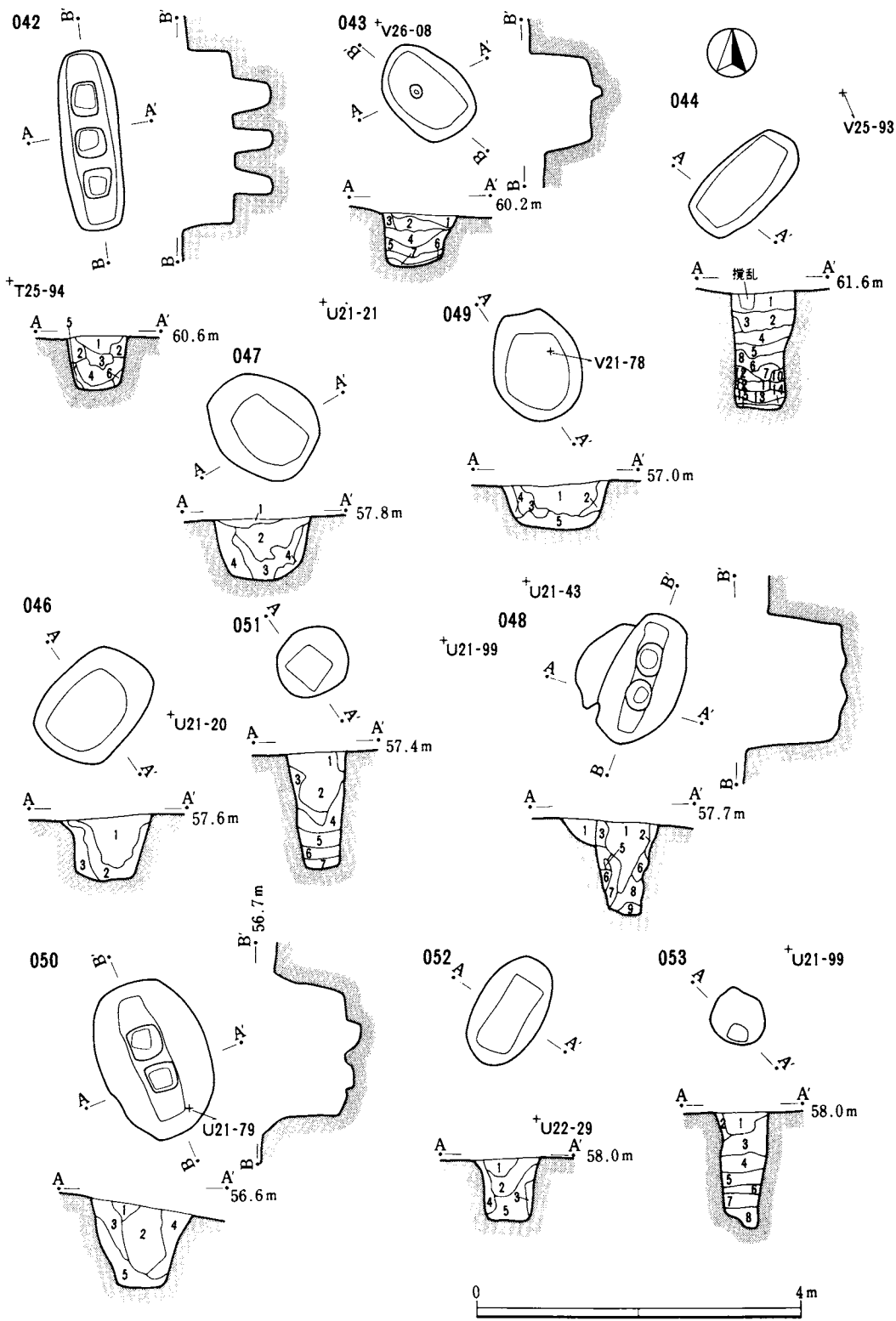
T25-94から東へ1m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺2.24m、短辺0.76mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.67mある。床面はほぼフラットで一辺40cm前後の方形のピットを3個持つ。ピットの深さは各々45cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みややしまりがある黒褐色土。2. ブロック状にロームを含みややしまりを欠く黒褐色土。3. ローム粒と暗褐色土を多く含みしまりを欠く褐色土。4. ローム粒を多く含みややしまりを欠く暗褐色土。5. ロームに褐色土を含みしまりを欠く暗黄褐色土。6. ローム粒を少し含みしまりを欠く暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

043号土坑（遺構 第287図）

V26-08から東へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.25m、短軸0.92mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.68mある。床面はやや凹凸がみられ中程に径15cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは15cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みしまりを欠く暗褐色土。2. ロームをやや多く含みしまりがややある暗褐色土。3. しまりを欠く暗褐色土。4. ロームを少し含みしまりがある黒褐色土。5. ロームを多く含みしまりを欠く暗褐色土。6. ロームブロックを少し含みしまりを欠く黒褐色土。7. ロームを多く含みしまりを欠く暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

044号土坑（遺構 第287図）

V25-93から西へ1m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.56m、短辺0.77mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.94mある。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1～5. ロームを多く含みややしまりのない暗褐色土。6. ローム粒を多く含みややしまりのない黒褐色土。7. ロームに褐色土を含む黄褐色土。8. 褐色土を



第287図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(4)(1/80)

含みしまりのない暗黄褐色土。9. ロームブロック・ローム粒を多く含みしまりを欠く暗褐色土。10. ローム粒を少し含みしまりを欠く黒褐色土。11. ロームに褐色土を多く含みしまりを欠く暗黄褐色土。12. ローム粒を少し含みしまりを欠く黒褐色土。13. ソフトロームに褐色土を少し含む黄褐色土。14. ローム粒を少し含む暗褐色土。15. ハードロームブロックに褐色土を少し含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

046号土坑（遺構 第287図）

U21-20から西へ1 mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸1.11mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.97mある。床面はほぼフラットで壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含みしまりがよい暗褐色土。2. ソフトローム粒を多く含みしまりがよい暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

047号土坑（遺構 第287図）

U21-21から西へ1 m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.39m、短軸1.17mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。床面はやや皿状を呈し壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを少し含みしまりは非常に暗褐色土。2. ソフトロームブロックを少し含みしまりがあある黒褐色土。3. 多くのソフトロームを含む明褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

048（A）（B）号土坑（遺構 第287図）

U21-43から東へ1.5m、南へ1 mに位置する。（A）のプランは長軸1.69m、短軸0.92mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.12mある。床面はほぼフラットで円形の窪み部分が2箇所検出されている。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを含みしまりがあある黒褐色土。2. 少しのソフトロームを含む暗褐色土。3. ソフトロームとハードロームを少し含む暗褐色土。4. 多くのソフトロームを含む暗褐色土。5. ソフトロームを含みしまりがあある暗褐色土。6. ソフトロームを含みしまりがあある暗褐色土。7. ソフトロームを多く含む暗褐色土。8. ソフトロームとハードローム粒を多く含む暗褐色土。9. 黒褐色土を含みしまりがあある暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。（B）は（A）の西側に位置し約半分検出されている。比較的浅いすり鉢状の土坑であるが（A）により壊されているため形状は不明である。覆土は1. ソフトロームを多く含みしまりがあある明褐色土である。性格は不明である。

049号土坑（遺構 第287図）

U21-78に位置する。プランは長軸1.32m、短軸1.11mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mある。床面はやや中程が窪み壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームブロックを含みしまりがある暗褐色土。2. 全体にソフトロームを含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含み褐色土を少し含みしまりがある褐色土。4. ソフトロームを多く含みしまりがある明褐色土。5. ソフトロームを多く含みハードロームブロックを少し含みしまりがある明褐色土である。性格は不明である。

050号土坑（遺構 第287図）

U21-79から西へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.91m、短軸1.34mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.01mある。床面はほぼフラットで2箇所ピット状の窪みがある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 黒色土を少し含みしまりを欠く暗褐色土。2. ハードロームブロックとソフトローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。3. ハードロームブロックとソフトローム粒を少し含む暗褐色土。4. ハードロームブロックを多くとソフトロームを少し含む暗褐色土。5. ソフトロームを多く含みしまりが無い明褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

051号土坑（遺構 第287図）

U21-99から西へ1.5mに位置する。プランは径0.91mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.42mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含み褐色土を若干含む黒褐色土。2. ソフトローム粒を含みしまりがある暗褐色土。3. ソフトロームブロックを多く含む暗褐色土。4. ソフトロームを含みしまりが無い暗褐色土。5. ソフトロームを含みしまりは非常に無い暗褐色土。6. ソフトロームを多く含みしまりが無い暗褐色土。7. ソフトロームとハードロームブロックを少し含みしまりが無い暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

052号土坑（遺構 第287図）

U22-29から西へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.39m、短軸0.85mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はやや凹凸がみられ壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 焼土粒・ソフトローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトローム粒を含みしまりがある黒褐色土。3. ソフトローム粒を多く含みハードロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームを多く含む暗褐色土。5. 全体にソフトロームを含みしまりがある黒褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

053号土坑（遺構 第287図）

V22-20から西へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは径0.68mのほぼ円形を呈する。検出

面から床面までの深さは1.42mで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりが非常にない黒褐色土。2. ソフトロームを多く含みしまりが非常にない明褐色土。3. ソフトロームを全体に含みしまりがなく黒褐色土。4. ソフトローム粒を含みしまりがなく黒褐色土。5. ソフトロームを少し含む黒褐色土。6. ソフトロームとハードローム粒を含みしまりがなく黒褐色土。7. ソフトローム粒とハードロームブロックを含みしまりがなく暗褐色土。8. ソフトロームを全体に多く含みしまりがなく黒褐色土である。規模が小さく陥穴状遺構と考えるにはやや疑問の残る土坑である。

054号土坑（遺構 第288図）

V21-91から東へ2m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.12m、短軸1.31mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.96mある。床面はほぼフラットで径40cmのやや不整円のピットを2個持つ。ピットの深さは各々32cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを全体に少し含む黒褐色土。2. ソフトローム粒を少し含みしまりがあがる黒褐色土。3. ソフトローム粒を多く含みしまりがあがる黒褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含みしまりがあがる暗褐色土。5. ハードロームブロックとソフトロームブロックを多く含みしまりがあがる暗褐色土。6. ハードロームブロックを含みしまりがなく明褐色土。7. ソフトロームブロックを少し含みしまりがあがる暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

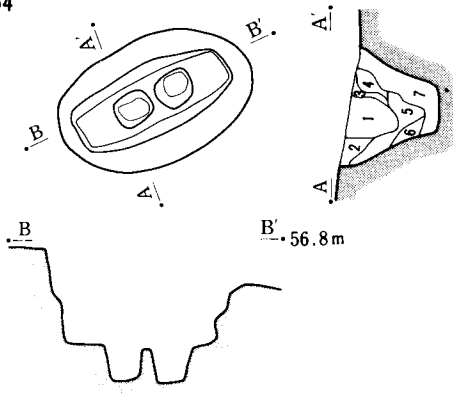
055号土坑（遺構 第288図）

V21-91から南へ1mに位置する。プランは長軸2.24m、短軸1.46mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.42mある。床面はほぼフラットで一辺40cm前後のピットを2個持つ。ピットの深さは東側が42cm、西側が40cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ハードロームとソフトロームを多く含む暗褐色土。2. ソフトロームを全体に少し含みしまりがあがる黒褐色土。3. ハードロームとソフトロームを少し含みしまりがあがる暗褐色土。4. ソフトロームブロックを少し含みしまりがあがる暗褐色土。5. ソフトロームブロックを少し含みしまりがあがる暗褐色土。6. ソフトロームブロックを少し含みしまりがあがる暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

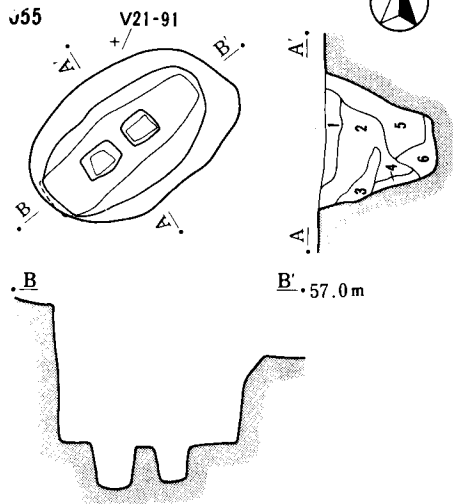
056号土坑（遺構 第288図）

V21-81から東へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは径1.13mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面は径42cmの円形ピットを持つ。ピットの深さは24cmある。覆土は1. ソフトローム粒を含みしまりのあがる黒褐色土。2. ソフトロームブロックを多く含みしまりがあがる黒褐色土。3. ハードロームブロックとソフトロームブロックを含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

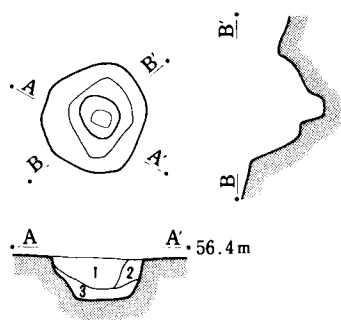
+V21-91
054



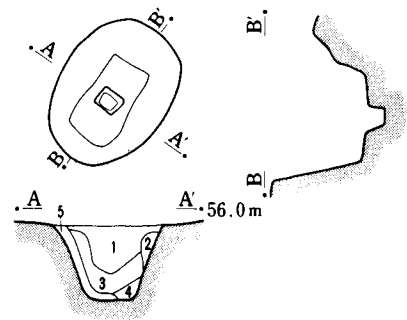
J55



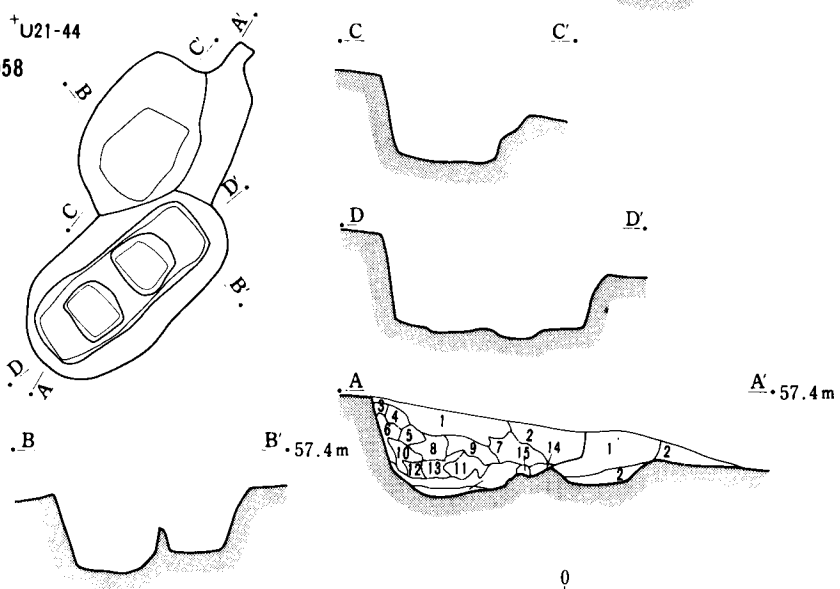
056



+V21-81
057



+U21-44
058



第288図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(5)(1/80)

057号土坑（遺構 第288図）

V21-81から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.57m、短軸1.18mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.93mある。床面はほぼフラットで中程に一辺22cmの方形のピットを1個持つ。ピットの深さは20cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ハードローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。3. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。4. ハードロームブロックを含む暗褐色土。5. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

058（A）（B）号土坑（遺構 第288図）

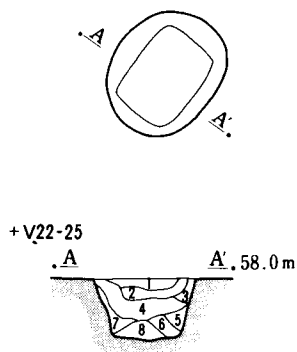
（A）はU21-44から東へ1m、南へ3mに位置する。プランは長軸2.39m、短軸1.32mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1mある。床面に一辺0.52mの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々8cmと浅い。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1～2. ソフトローム粒を多く含みしまりがある黒褐色土。3. 全体にソフトローム粒を少し含む暗褐色土。4. 全体にソフトローム粒を少し含む黒褐色土。5. 全体にソフトローム粒をやや多く含む暗褐色土。6～8. ソフトローム粒を含みしまりがある黒褐色土。9. ソフトロームを多く含みハードロームを含む暗褐色土。10. ソフトロームを多く含みしまりがある明褐色土。11. ソフトローム・ハードローム・黒色土を含みしまりがある暗褐色土。12. ソフトローム粒を少し含みしまりが非常にある黒褐色土。13. ソフトロームを多く含みしまりがある暗褐色土。14. ソフトロームとハードロームを少し含む暗褐色土。15. ソフトロームを多く含む明褐色土。16. ハードロームを多く含む暗褐色土。17. ソフトロームとハードロームを含む暗褐色土である。遺物は検出されていないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

（B）は北側に位置し（A）より古くプランも一部切られている。プランはおおよそ長辺1.80m、短辺1.15mの方形に近い形と思われる。検出面から床面までの深さは0.83mある。床面はほぼフラットで壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、ピットを持たないタイプの陥穴状遺構になると思われる。

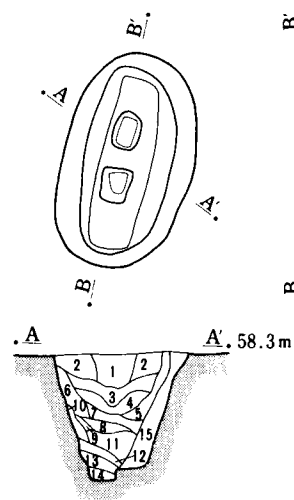
059号土坑（遺構 第289図）

V22-25から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.34m、短軸1.10mのほぼ楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.66mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを少し含みしまりが無い暗褐色土。2. ソフトロームを全体に多く含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含みしまりが無い明褐色土。4. ハードロームとソフトローム粒を少し含む暗褐色土。5. ソフトロームが主体の暗褐色土。6. ハードロ

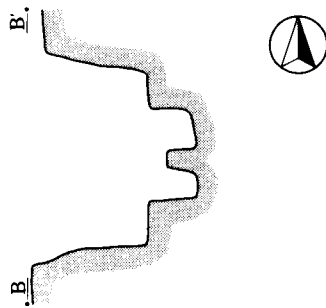
059



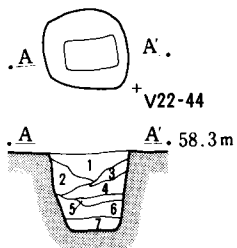
060



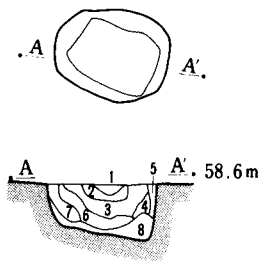
+V22-27



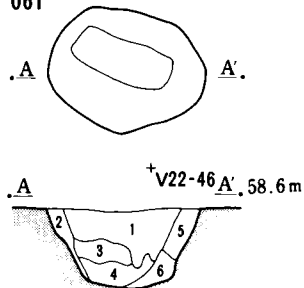
062



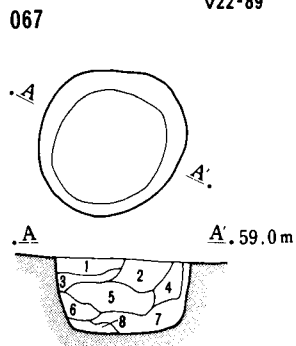
063



061

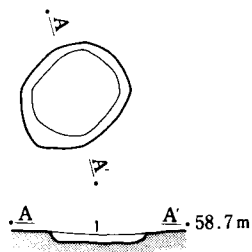


+V22-89

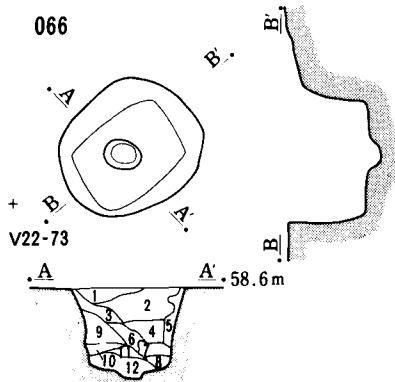


+V22-83

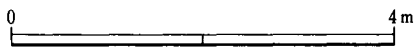
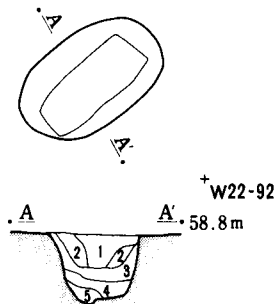
064



066



068



第289図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(6)(1/80)

ームを少し含む暗褐色土。7. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。8. ソフトローム粒を含みしまりがある暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

060号土坑（遺構 第289図）

V22-27から西へ1.5m、南へ2mに位置する。プランは長軸2.26m、短軸1.36mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.12mある。床面はほぼフラットで一辺38cm前後の方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々0.5mある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. 全体にソフトロームを少し含む暗褐色土。2. ハードロームとソフトロームを多く含みしまりがある黒褐色土。3. ソフトロームを多く含みしまりが無い暗褐色土。4. ソフトロームを多く含みしまりが無い明褐色土。5. ハードローム粒を少し含む暗褐色土。6. ハードローム粒を少し含む黒褐色土。7. ソフトロームを多く含む明褐色土。8. ソフトロームを比較的多く含む暗褐色土。9. ハードロームブロックを多く含みしまりがある暗褐色土。10. ソフトロームを含みしまりが無い暗褐色土。11. ソフトロームを多く含む暗褐色土。12. ハードロームとソフトロームを少し含む暗褐色土。13. ソフトローム・ハードロームブロックを多く含みしまりが無い明褐色土。14. ハードローム粒を少し含む暗褐色土。15. ソフトロームを含みしまりが無い暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

061号土坑（遺構 第289図）

V22-46から北へ1mに位置する。プランは長軸1.64m、短軸1.25mのやや不正な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.81mある。床面は幾分壁際へ上がり傾斜している。壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ハードローム粒を少し含みしまりが無い暗褐色土。2. ソフトロームを含みしまりが無い暗褐色土。3. ハードローム・ソフトローム粒を多く含む明褐色土。4. ソフトロームを多く含むハードロームブロックを少し含む暗褐色土。5. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。6. ソフトロームを全体に多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

062号土坑（遺構 第289図）

V22-44から西へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸0.88m、短軸0.80mのやや角張った円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.8mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ハードローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。2. ハードローム粒とソフトロームを少し含む黒褐色土。3. 全体にソフトロームを多く含む黒褐色土。4. ハードローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。5. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。6. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。7. ソフトロームを全体に含みしまりが無い黒褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

063号土坑（遺構 第289図）

U22-48から南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.21m、短軸0.94mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.62mある。床面はやや西壁側へ低く傾斜している。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ロームを少し含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームを少し含みしまりがある暗褐色土。3. ハードローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。4. ソフトロームを少し含む暗褐色土。5. ソフトロームを多く含みしまりがない明褐色土。6. ハードローム粒を含む暗褐色土。7. ソフトロームとハードローム粒を少し含みしまりがない暗褐色土。8. ソフトロームを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

064号土坑（遺構 第289図）

V22-83から西へ1m、南へ2mに位置する。プランは長軸1.22m、短軸0.96mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは8cmと浅い。床面はほぼフラットで壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ハードロームブロックを含みしまりがない暗褐色土である。遺物もなく、性格不明の土坑である。

066号土坑（遺構 第289図）

V22-73から東へ1m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.50m、短軸1.24mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは84cmある。床面はやや中程にやや低く傾斜している。中程に径32cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは13cmある。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを多く含みしまりがある暗褐色土。2. ソフトローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む明褐色土。4. ソフトロームを少し含む暗褐色土。5. ソフトローム粒を含みしまりが非常にある暗褐色土。6. ソフトローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。7. ソフトローム粒を含みしまりがない暗褐色土。8. ソフトローム粒を全体に含みしまりがある暗褐色土。9. ソフトロームを少し含みしまりがある暗褐色土。10. ソフトローム・ハードロームブロックを多く含みしまりがある暗褐色土。11. ソフトロームを主体にハードローム粒を若干含む暗褐色土。12. ソフトローム・ハードロームを含みしまりがある暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

067号土坑（遺構 第289図）

V22-89から西へ1m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸1.44mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1～6. ハードロームを少し含みしまりがある暗褐色土。7. ハードロームを少しとソフトロームを多く含む明褐色土。8. ハードロームを多く含みしまりがない暗褐色土である。本土坑の覆土は人為的堆積を示しており墓の可能性が高い。

068号土坑（遺構 第289図）

W22-90から西へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長軸1.59m、短軸0.96mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.67mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少量含みしまりがある暗褐色土。2. ソフトロームを全体に少量含む暗褐色土。3. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。4. ハードローム粒とソフトローム粒を少量含む暗褐色土。5. ハードローム粒とソフトローム粒を含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

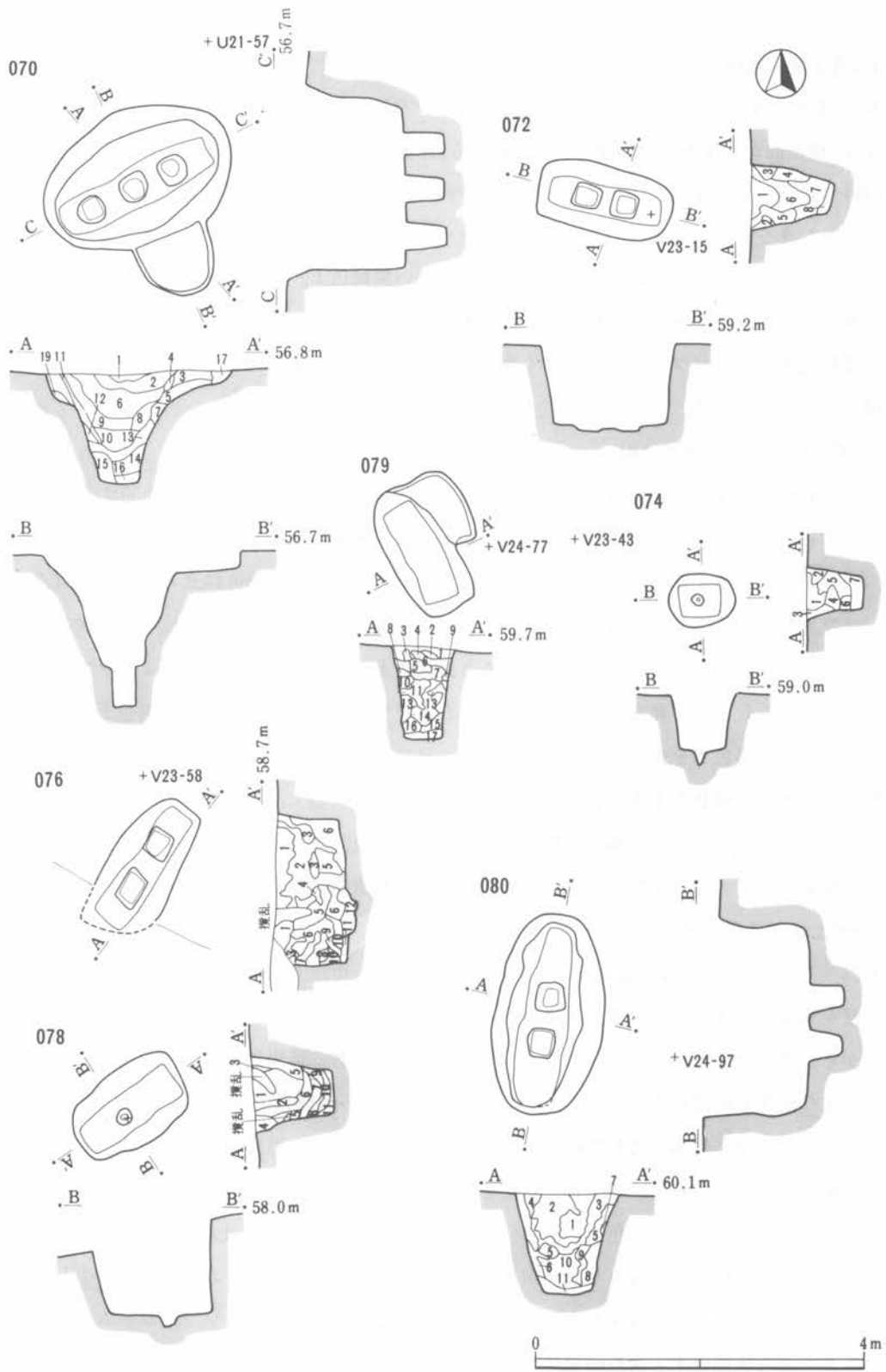
070 (A) (B) 土坑 (遺構 第290図)

(A) はU21-57から西へ1 m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.38m、短軸1.62mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.43mある。床面はほぼフラットで径32cmの円形ピットを3個持つ。ピットの深さは各々48cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ハードローム粒とソフトローム粒を少し含む暗褐色土。2. ハードローム・ソフトロームを多く含む黒褐色土。3. ソフトロームを多く含む黒褐色土。4. ソフトロームをやや多く含む黒褐色土。5. ソフトロームを少し含む黒褐色土。6. ハードロームとソフトロームを多く含む黒褐色土。7. ソフトローム粒を多く含みハードローム粒を少し含む明褐色土。8. ハードローム粒とソフトローム粒を少し含む暗褐色土。9~10. ハードローム粒とソフトローム粒を少し含みしまりがある黒褐色土。11. ハードローム粒とソフトローム粒を少し含む暗褐色土。12. ソフトロームを多く含み褐色土を少し含みしまりがない明褐色土。13~14. ソフトローム粒とハードロームを多く含む暗褐色土。15. ソフトローム・ハードロームを多く含み黒褐色土を少し含む明褐色土。16~18. 全体に少しソフトロームを含む暗褐色土。19. ソフトローム堆積層である。遺物はないが形態的に陥穴状遺構になると思われる。

(B) は(A)の南に位置し(A)よりも古い。プランは楕円形の様な形をしていたと思われるが壊されているため不明である。検出面から床面までの深さは24cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。性格不明の土坑である。

072号土坑 (遺構 第290図)

V23-15から西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.64m、短辺0.80mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.02mある。床面には5 cm前後のピット状の窪みが2箇所みられる。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームと炭化粒を少し含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームとハードロームを少し含む暗褐色土。3. ソフトロームを多く含む暗褐色土。4. ソフトロームを主体に含む暗褐色土。5. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。6. ハードロームとソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。7. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土。8. ハードロームブロックを少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。



第290図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(7)(1/80)

074号土坑（遺構 第290図）

V23-43から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸0.81m、短軸0.72mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで径16cmの円形ピットを1個持つ。ピットの深さは16cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを多く含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームを多く含み炭化粒を少し含みしまりがある黒褐色土。3. ソフトロームを少し含みしまりがない黒褐色土。4. ソフトローム粒を少し含む黒褐色土。5. ソフトローム粒を多く含む黒褐色土。6. ソフトロームを少し含みしまりがある黒褐色土。7. ソフトロームを多く含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

078号土坑（遺構 第290図）

V24-69から北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.44m、短辺0.92mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.12mある。床面はほぼフラットでやや南側に径22cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは15cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームをごく少し含みしまりがない暗褐色土。2. ソフトローム粒を少し含みしまりが非常にない暗褐色土。3. ソフトロームと黒褐色土を少し含む暗褐色土。4. ソフトロームを全体に含みしまりが非常にない暗褐色土。5. ソフトロームを少し含む暗褐色土。6. ソフトロームと黒褐色土を少し含む暗褐色土。7. ソフトロームを多く含みしまりが非常にない明褐色土。8. 黒褐色土を少し含みしまりが非常にない暗褐色土。9. ソフトロームを少し含む暗褐色土。10. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。11. ソフトロームを全体に含みしまりがなく暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

079号土坑（遺構 第290図）

V24-77から西へ1mに位置する。プランは長辺1.14m、短辺0.65mの長方形を呈するが北東側の壁が崩落して変形している。検出面から床面までの深さは1.10mある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。2. 黒褐色土を少し含みしまりがある暗褐色土。3. ソフトローム粒を多く含み黒褐色土を少し含む暗褐色土。4. ソフトロームを全体に多く含む明褐色土。5. ソフトローム粒と黒褐色土を多く含みしまりがある暗褐色土である。6. ソフトローム粒を含みしまりがある暗褐色土。7. ソフトローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。8. ソフトロームを全体に多く含みしまりがない明褐色土。9. ソフトローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。10. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。11. ソフトローム・ハードロームを多く含む暗褐色土。12. ソフトロームとハードローム多く含む黒褐色土も含む暗褐色土。13. ソフトロームを少し含む暗褐色土。14. ソフトロームを主体にした暗褐色土。15. ソフトロームを全体に多く含む明褐色土。16. ソフトロー

ムとハードローンを多く含みしまりが少ない明褐色土。17. ソフトローンを多く含みしまりが少ない黒褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になるとと思われる。

080号土坑（遺構 第290図）

V24-97から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸2.42m、短軸1.32mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.08mある。床面はほぼフラットで一辺34cmの方形のピットを2個持つ。ピットの深さは各々40cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローンを少し含みしまりがあある黒褐色土。2. ソフトローン粒と焼土粒を少し含みしまりがあある黒褐色土。3. ソフトローン粒を多く含み赤褐色土を若干含む黒褐色土。4. ソフトローンを多く含み黒褐色土を少し含む明褐色土。5. ソフトローンとハードローンの崩落土である明褐色土。6. ソフトローンとハードローンを多く含む暗褐色土。7. ソフトローンとハードローンを多く含む暗褐色土。8. 炭化粒を少しとソフトローンを多く含む暗褐色土。9. ソフトローンを多く含みハードローン粒を少し含む明褐色土。10. ソフトローンを多く含み暗褐色土を少し含む明褐色土。11. ソフトローンとハードローン粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になるとと思われる。

081号土坑（遺構 第291図）

V23-88から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.33m、短軸1.21mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.64mある。床面はほぼフラットで中程に径38cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは49cmある。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. 炭化粒・ソフトローン粒・ハードローンを少し含む暗褐色土。2. ソフトローン粒とハードローンを少し含む暗褐色土。3. ソフトローンを全体に含む暗褐色土。4. ソフトローン・ハードローンを多く含む暗褐色土。5. ソフトローン粒を少し含む暗褐色土。6. ソフトローンとハードローン粒を多く含みしまりがあある黒褐色土。7. ソフトローンを全体に含みしまりがあある明褐色土。8. ソフトローンを全体に含み若干の黒褐色土を含む明褐色土。9. ソフトローン・ハードローンを少し含みしまりがあある黒褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になるとと思われる。

082（A）（B）号土坑（遺構291図）

V23-98から東へ1m、北へ2mに位置する。プランは西側の（B）部分と東側の（A）部分に分かれる。調査時の所見では（A）のほうが（B）のほうより新しいとのことである。（A）の方はおおよそ長辺1.60m～1.80m、短辺1.02mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.02mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローンを少し含む暗褐色土。2. ソフトローンを多く含みハードローンを少し含む暗褐色土。3. ソフトローン・ハードローンを多く含む暗褐色土。4. ソフトローンを多く含む暗褐色土。5.

ソフトロームを多く含みしまりがある黒褐色土。6. ソフトロームを多く含む黒褐色土。7. ソフトロームを少し含む黒褐色土。8. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。9. ソフトロームと黒褐色土を全体に含む暗褐色土。10. ソフトローム・焼土・炭化粒を少し含む黒褐色土。11. ソフトロームを全体に含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

(B) のプランはおおよそ長軸1.24m、短軸0.70m～0.80mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.05mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は不明である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

083号土坑 (遺構 第291図)

W22-61に位置する。プランはやや崩落気味で崩れているがおおよそ長軸2.74m、短軸1.52mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.7mある。床面はほぼフラットで長軸沿いにやや不整なピットを3個持つ。ピットの深さは西側と真ん中のものが48cm、東側のものが40cmある。壁は斜めに立ち上がる。覆土は不明である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

084号土坑 (遺構 第291図)

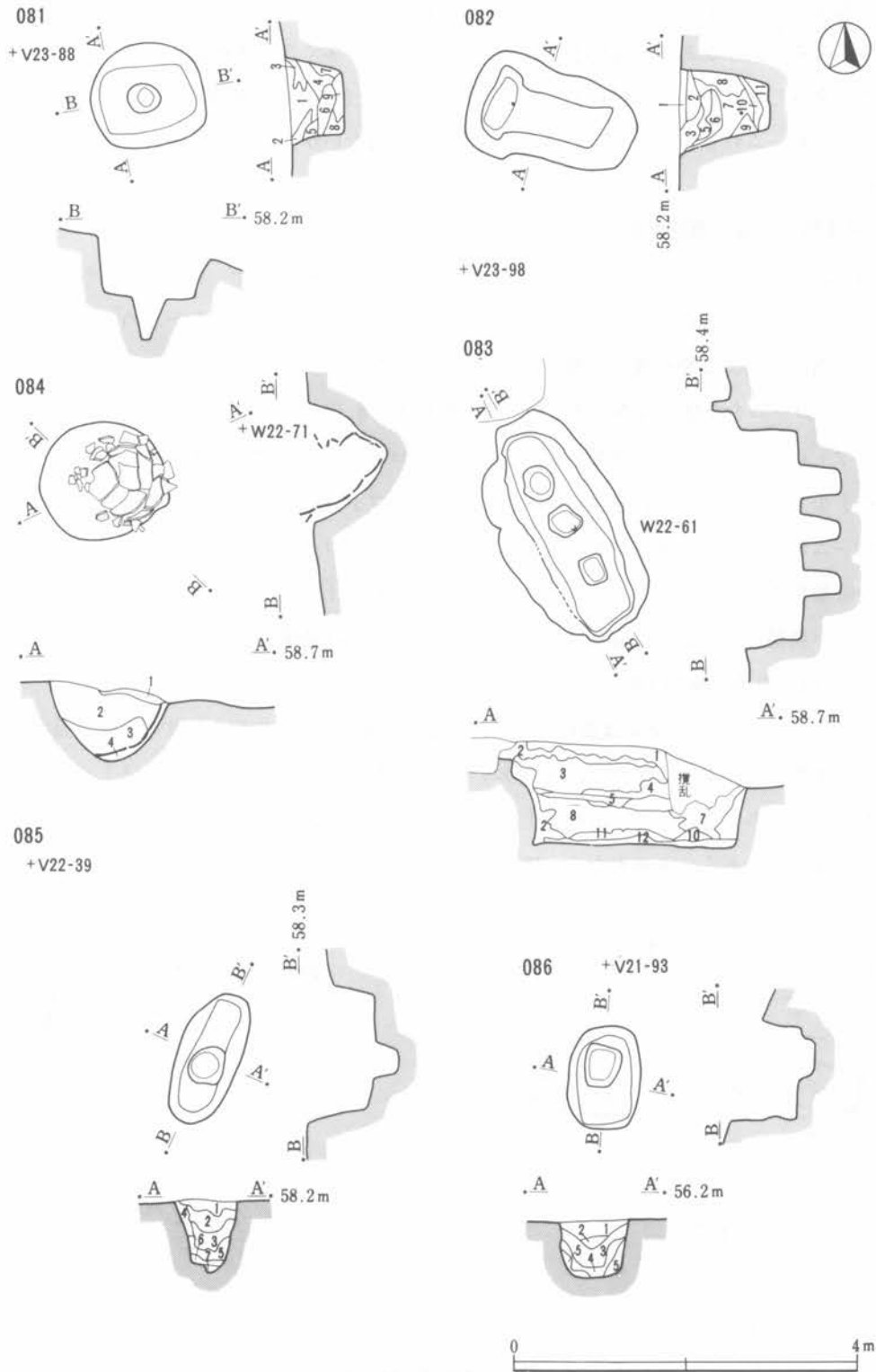
W22-71から西へ1.5m、南へ0.5mに位置する。大形の深鉢形土器を埋めた土坑である。プランは長軸1.48m、短軸1.32mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.87mある。断面はボール状を呈する。覆土は1. ソフトロームを多く含む暗褐色土。2. ソフトロームと黒褐色土を多く含む暗褐色土。3. ソフトロームを全体に含む暗褐色土。4. ソフトロームとハードロームを含む暗褐色土である。遺物は深鉢形土器が置かれた状態でほぼ45°に傾いて出土した。埋葬のための埋甕である可能性が高い。

085号土坑 (遺構 第291図)

V22-39から東へ2m、南へ2mに位置する。プランは長軸1.58m、短軸0.72mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.78mある。床面はほぼフラットで中程に径45cmの円形のピットを1個持つ。ピットの深さは28cmある。覆土は1. ソフトロームを少し含む暗褐色土。2. ソフトロームを少し含みしまりはある暗褐色土。3. ソフトローム・ハードロームを多く含む暗褐色土。4. ソフトローム・ハードロームを少し含む明褐色土。5. ソフトロームを少し含む明褐色土。6. ソフトローム・ハードロームを少し含む明褐色土。7. ソフトロームを全体に含みしまりがない明褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

086号土坑 (遺構 第291図)

V21-93から南へ1mに位置する。プランは長軸1.21m、短軸0.85mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは75cmある。床面はほぼフラットで0.5m程の不整形なピッ



第291図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(8)(1/80)

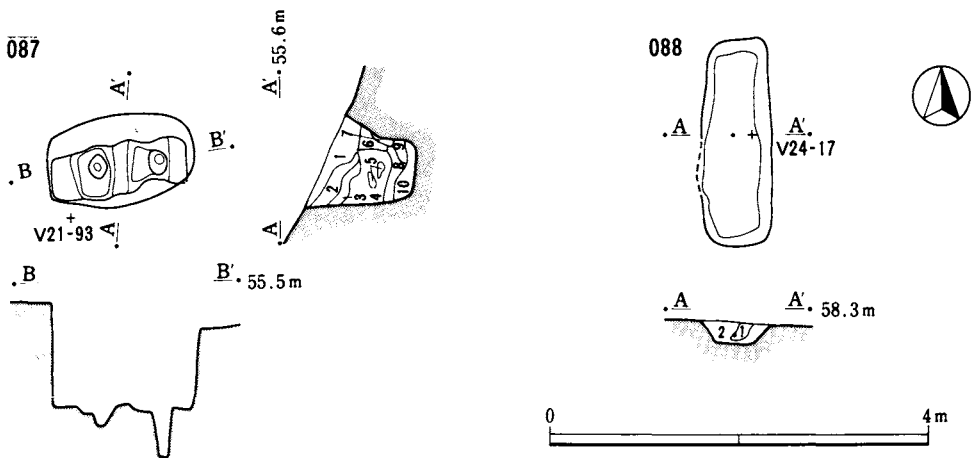
トを1個持つ。ピットの深さは22cmある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを多く含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームを多く含む黒褐色土。3. ソフトロームを多く含みしまりがある黒褐色土。4. ソフトロームを含み若干の暗褐色土も含む黒褐色土。5. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

087号土坑 (遺構 第292図)

V21-93から東へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.53m、短軸0.96mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.04mある。床面は2箇所ピットが認められるが東側は46cmで西側が15cmでやや浅い。覆土は1. ソフトロームを少し含みしまりがある黒褐色土。2. ソフトロームを全体に含みしまりがある黒褐色土。3. ソフトロームを少し含む黒褐色土。4. ソフトロームを少し含む黒褐色土。5. ソフトロームを多く含む黒褐色土。6. ハードローム粒を少しとソフトロームを含む明褐色土。7. ソフトロームを少し含む明褐色土。8. ソフトロームを多く含みしまりがない暗褐色土。9. ソフトロームを多く含みハードロームを少し含む暗褐色土。10. ソフトロームブロックを含む暗褐色土。11. ソフトロームを少し含みしまりがない黒褐色土である。遺物はないが、形態的に陥穴状遺構になると思われる。

088号土坑 (遺構 第292図)

V24-17に位置する。プランは長辺2.13m、短辺0.74mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは22cmある。床面はほぼフラットで壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを全体に含みしまりがない黄褐色土。2. ソフトローム・ハードロームを少し含みしまりがない暗褐色土である。遺物もなく、性格も不明な土坑である。



第292図 西大野第1遺跡縄文時代土坑(9)(1/80)

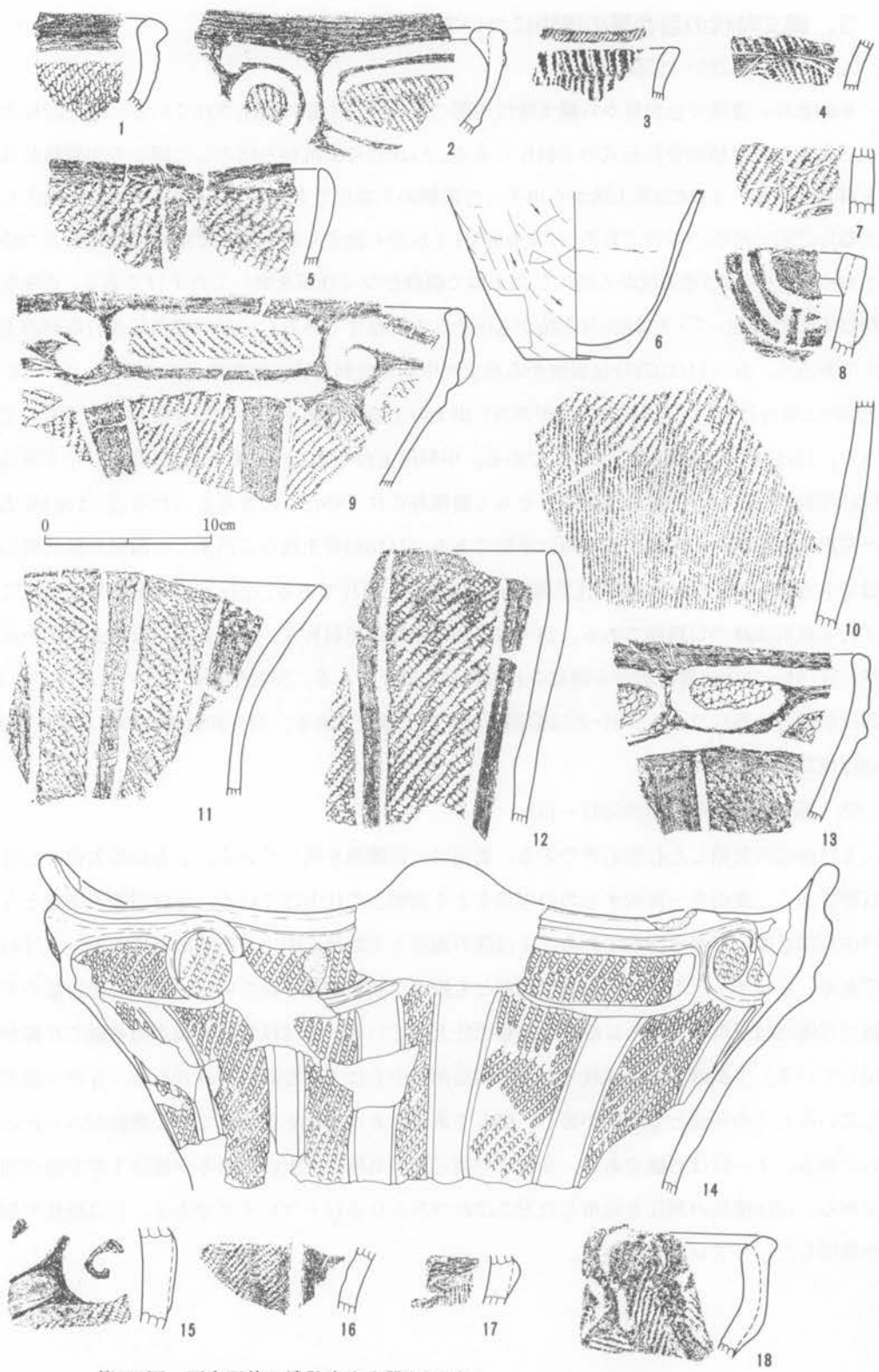
3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器 (第293～295図1～40)

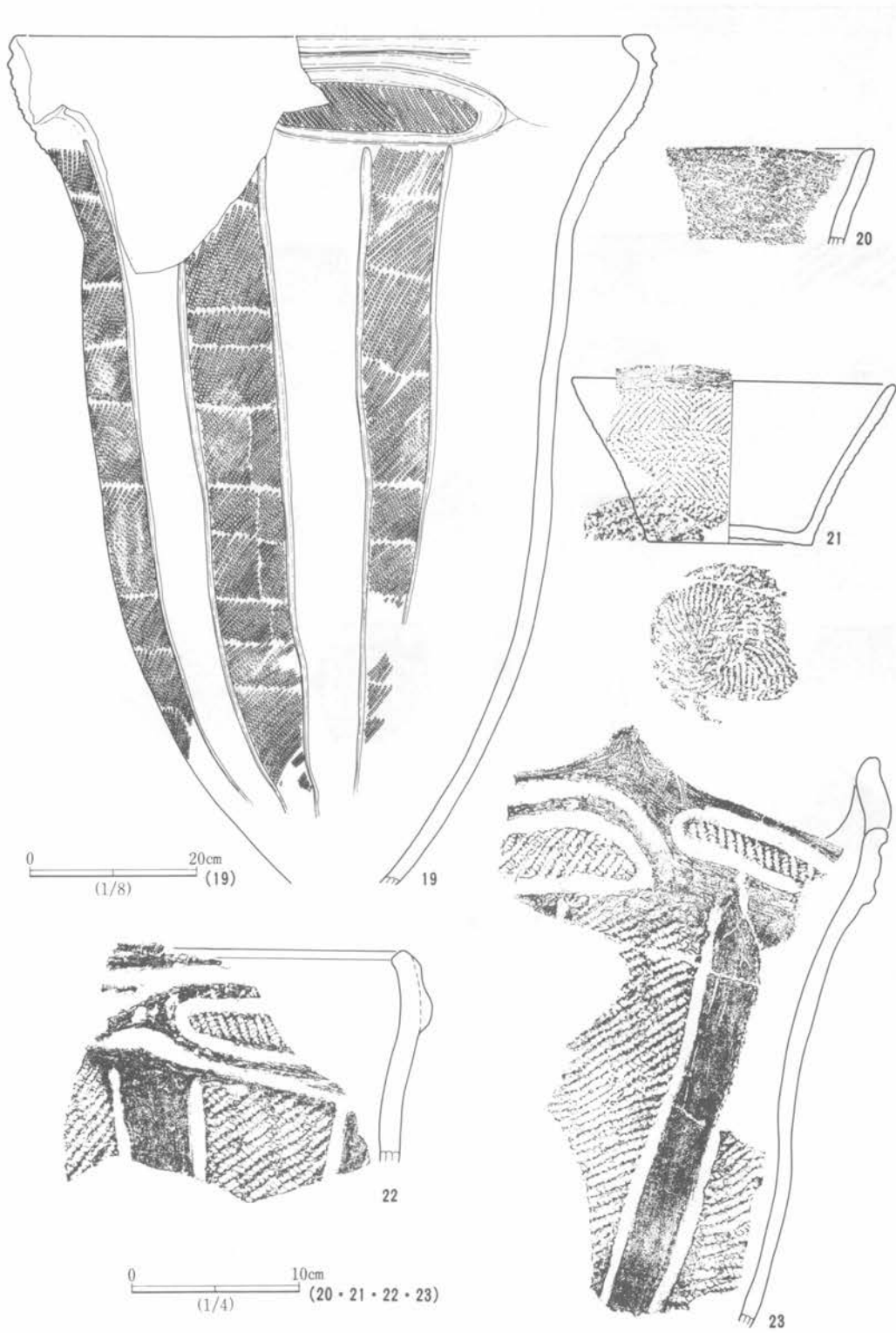
本調査時に遺構や包含層から縄文時代中期の土器片を中心に検出されている。1は022号土坑から出土した中期加曽利E式の土器片である。2は025号土坑から出土した同じく加曽利E式の土器片である。3は025号土坑から出土した前期の土器片である。4も025号土坑から出土した土器片で同じ時期のものであろう。5も025号土坑から出土した土器片で中期加曽利E式の時期であろう。6も025号土坑から出土した土器で模様がなく外面を磨いて仕上げている。正確な時期は不明である。7・8は026号土坑から出土した土器片である。中期加曽利E式の時期の土器片であろう。9～14は071号住居跡から出土の中期加曽利E式の時期の土器である。15～17・22・23の土器片は031号住居跡(埋設炉のみ)出土の土器片である。中期加曽利E式の土器片であろう。18は048号土坑出土の土器片である。中期阿玉台期のものであろう。19は084号土坑に横位に埋設されていた大形の深鉢でおそらく甕埋葬されていたものと考えられる。20は082号土坑から出土した無文の土器片で時期は不明である。21は083号土坑から出土した前期の黒浜期の土器であろう。24～27・30は045住居跡から出土した土器片である。24・26は後期加曽利B式でいずれも粗製深鉢の口縁部である。25・27・30は中期加曽利E式、II式あるいはIII式と思われる。28・29・31～40は包含層等から確認された縄文土器片である。28は早期井草式の土器片である。29は前期の土器片である。31・32は前期諸磯式の土器片である。34～39は中期の土器片である。40は後期の土器片である。

(2) 石器・石製品 (第296図1～13)

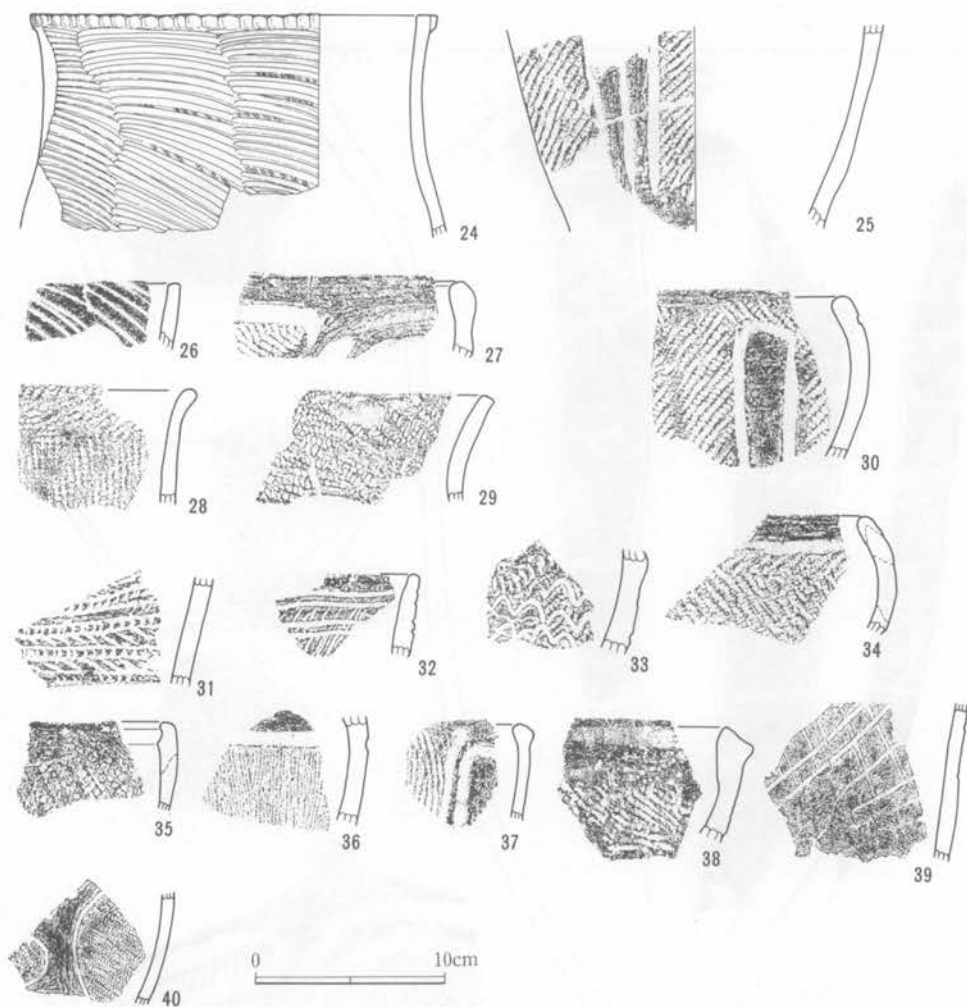
1は頭部の欠損した打製石斧である。裏面に一部礫面を残している。2も頭部欠損した打製石斧である。礫面を一部残すものの周辺をよく調整して仕上げている。3は円礫の周辺と片面の中央部を叩いてある凹石である。4は礫の頭部と先端部を叩いてある敲石である。5は石鏃である。2はチャート製の平基鏃で両面とも細かな調整が施されている。3は安山岩製の平基鏃で片側辺は折取ったのちに細かな調整で仕上げている。4は珪質頁岩製の凹基鏃で片脚が欠損している。主剥離面を一部残すものの周辺部を中心に丁寧な調整がみられる。5は一部欠損しているものの両面とも磨痕が著しい磨石である。6は小礫を使用して少し磨痕がみられる磨石である。7～11は石鏃である。9はやや周辺加工気味の仕上げであるが他は丁寧な両面加工である。12は横長の剥片を使用した刃こぼれのみられるU・フレイクである。13は縦長の剥片を使用したU・フレイクである。



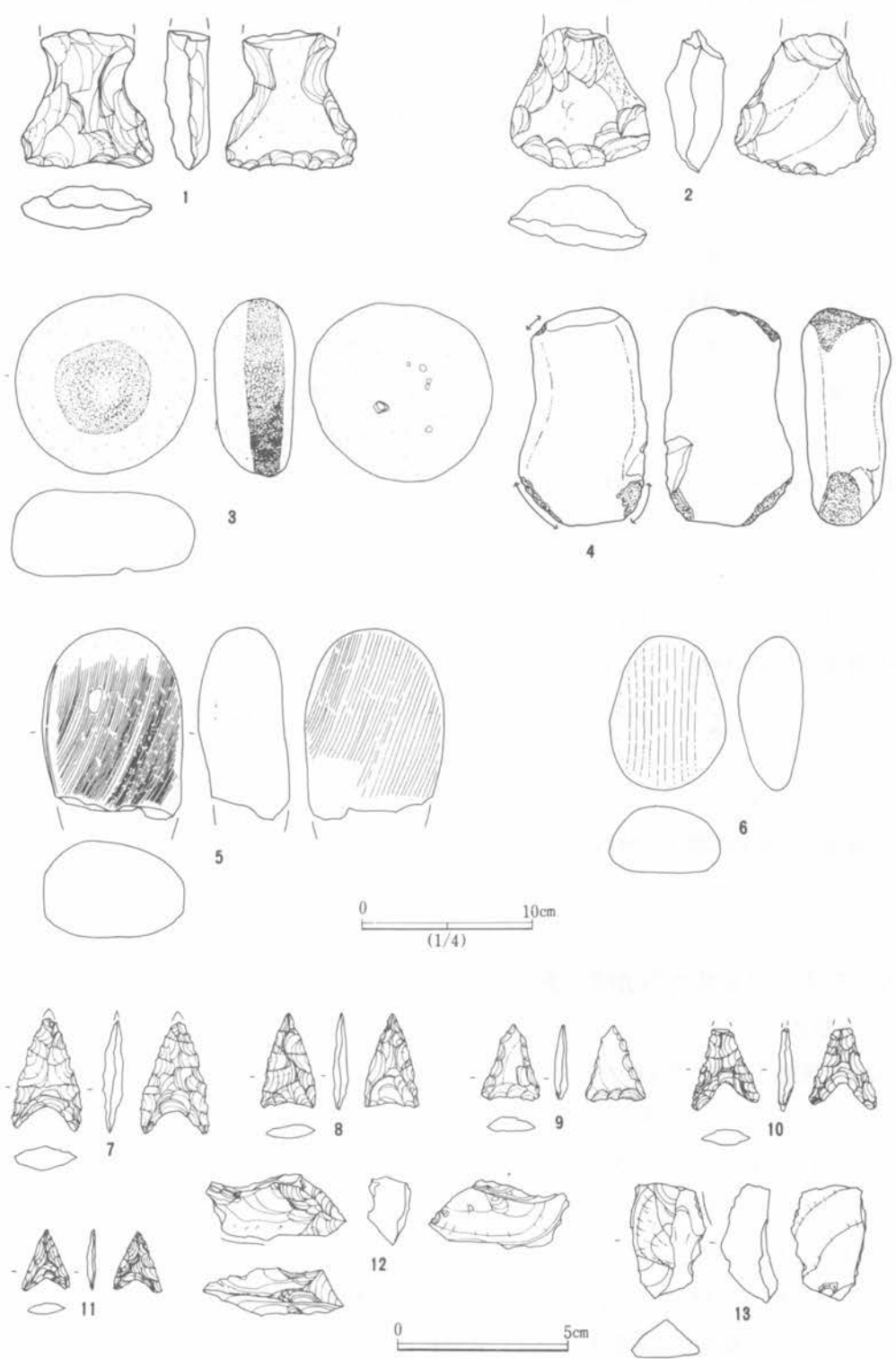
第293図 西大野第1遺跡出土土器(1)(1/4)



第294図 西大野第1遺跡出土土器(2)



第295図 西大野第1遺跡出土土器(3)(1/4)



第296図 西大野第1遺跡出土石器(1/2)

4. 古墳時代の遺構・遺物について

(1) 古墳

001号方墳（第297図）

Q23-22～23を中心にして位置する。周溝外縁の規模は南北20.4m、東西19.6mを測る。調査時には既に耕作地化しており墳丘はまったく検出できなかった。周溝は1.4～2m程度の幅があり深さは0.3～0.6mになる。なお周溝の覆土は畑の攪乱により良好に残っている場所はなかったがおおむね黒色土が5層程観察された。なお中程の堆積土中に焼土ブロックの堆積が認められた。おそらくは古墳築造時に関わるものではないかと思われる。なお主体部は南側に軟質砂岩の横穴式石室が1基と東側の周溝部分から土坑2基が確認された。

001号墳-001主体部（第298図）

001号墳の南側に位置する。南北5.80m、東西3.40mのやや不整長方形のプランの掘り方の中に南北4.70m、東西2.30mの規模で前後室の複室構造の石室が構築されている。裏込め部分は粘土砂混じりの土で固めていたと思われるが、攪乱が激しく土層の観察は不可能であった。石室本体の石も2段目の石が部分的に確認できる程度しか残っていない。また、副葬品もまったく見られなかった。なお古墳に関連して石室付近の周溝部分より鉄鏝が若干出土している。

001号墳-002号主体部（第299図上）

001号墳の東側周溝部分の南にある。周溝の内側にオーバーハングして掘り込まれている。主軸1.25m、幅0.5mである。覆土はローム混じりの黒色土の堆積が4層みられ明らかに人為堆積である。また副葬品等もまったくみられなかった。

001号墳-003号主体部（第299図下）

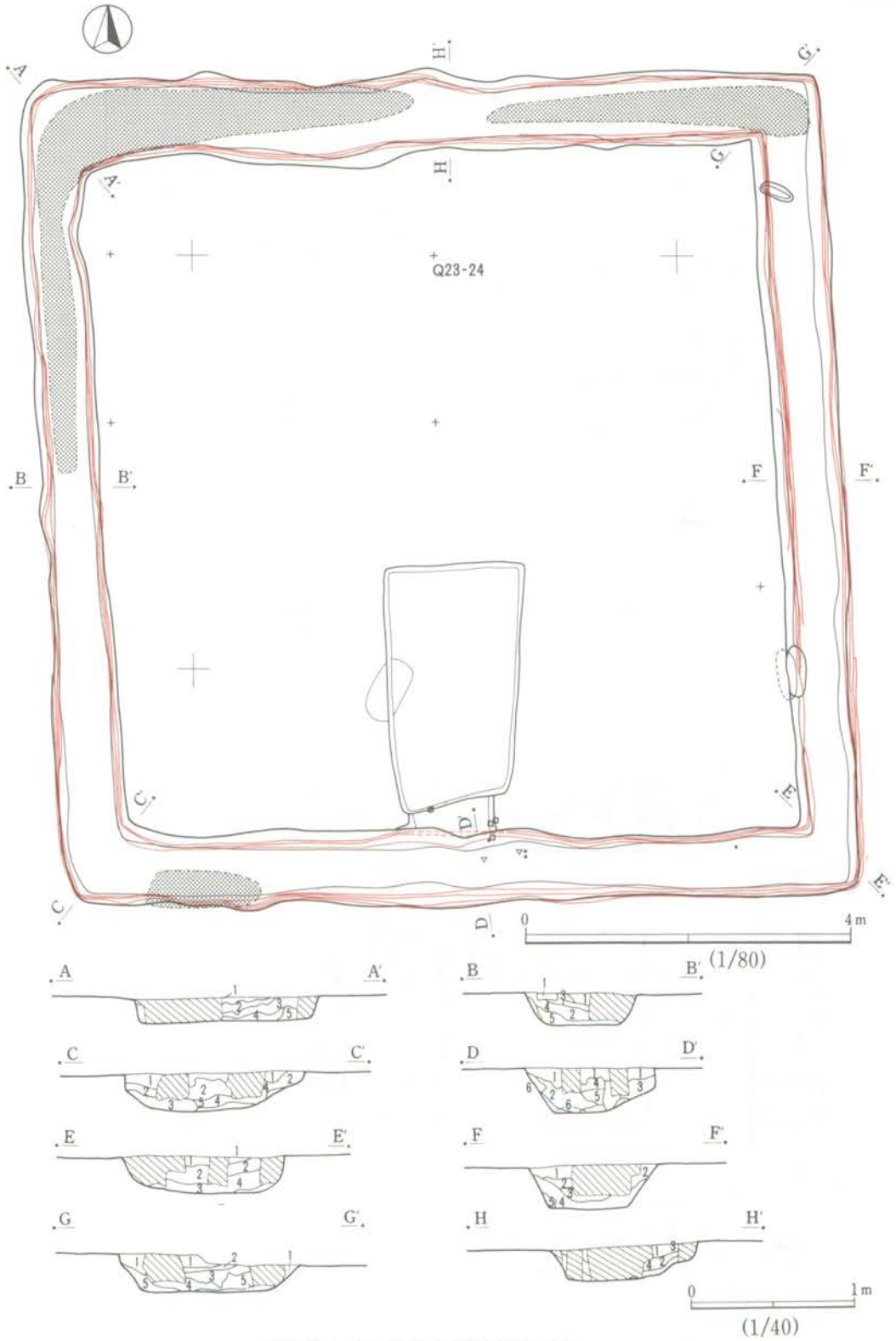
001号墳の東側周溝部分の北にある。周溝に直交するす様に掘り込まれており主体部とするには規模も小さくやや疑問が残る土坑である。遺物等の出土もまったくみられない。

5. 奈良・平安時代の遺構・遺物について

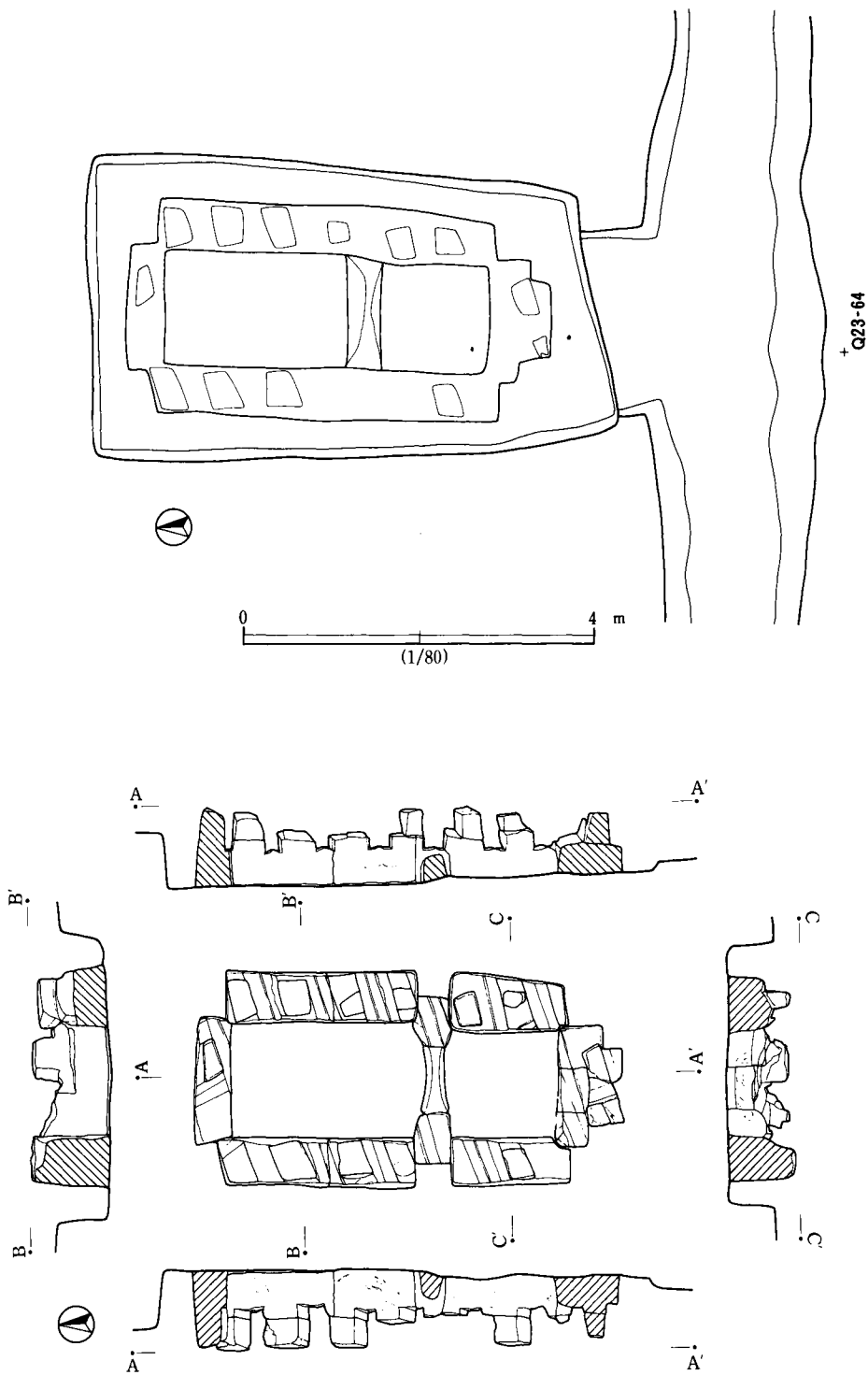
(1) 住居跡

002号住居跡（遺構 第300・301図）

P23-68から西へ0.5m、南へ0.5mに中心が位置する。プランは4.52m×4.11mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは36cmある。床面はフラットで全体にやや軟質である。壁周溝もカマド部分を除いて全域巡る。覆土は1. 覆土中で最も暗くしまりがあり粘土粒と焼土粒・炭化粒を少し含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを多く含む粘土粒を含みしまりがある暗褐色土。3. 粘土粒と炭化粒を多く含む暗褐色土。4. 暗褐色土にローム粒を含み炭化粒・粘土ブロックを少し含む褐色土である。柱穴は主柱穴がP1～P4の4本で他に4個のピットがある。カマドは北東壁の中程に位置する。主軸は北東向きである。カマドの袖部分は畑のトレンチャ

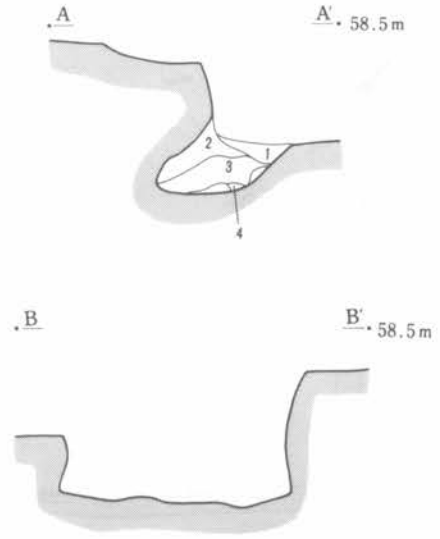
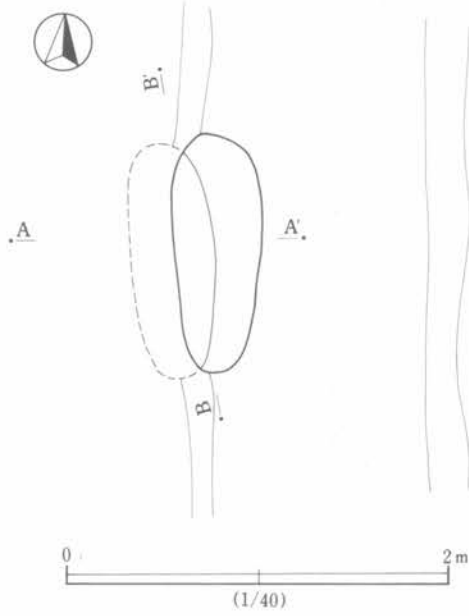


第297图 西大野第1遺跡001号方墳

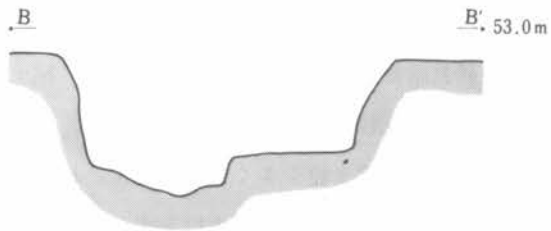
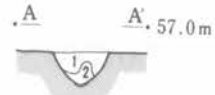
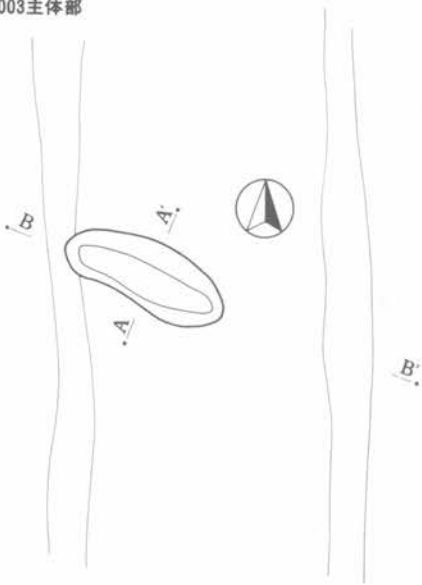


第298図 西大野第1遺跡001号方墳・001主体部及び石室

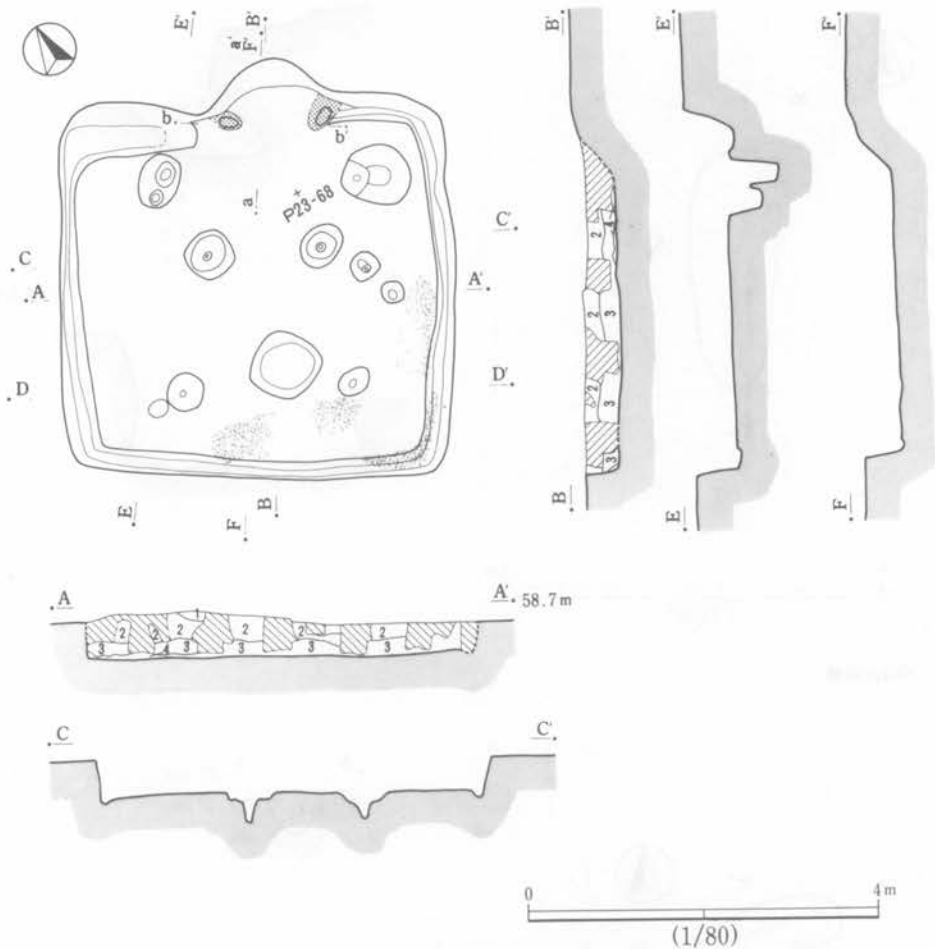
002主体部



003主体部

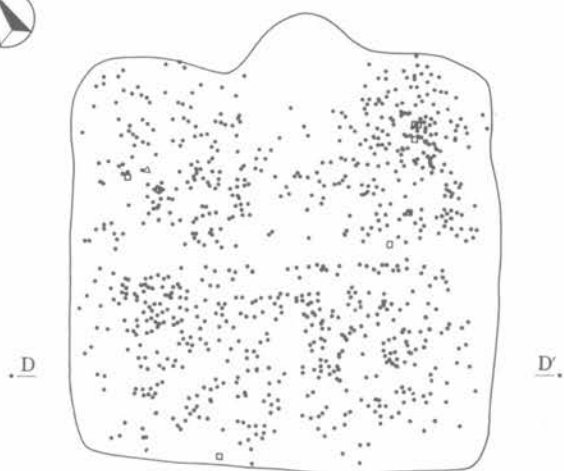


第299図 西大野第1遺跡001号方墳・002・003主体部



第300図 西大野第1遺跡002号住居跡(1)

一の攪乱により非常に悪く一部しか残存していない。カマドの覆土は1. 粘土粒を多く含む黒褐色土。2. 若干の炭化粒を含む暗褐色土。3. 粘土粒と荒砂を主体とする暗褐色土。4. 焼土粒を多く含む炭化粒を少し含む暗褐色土。5. 暗褐色土とやや多く荒砂を含む暗褐色土。6. 本来袖を形成していたと思われる褐色土。7. 焼土を主体とする暗褐色土。8. ブロック状を呈し焼土粒を少し含む暗褐色土。9. 荒砂に暗褐色土を多く含む褐色土。10. 粘土粒を多く含む黒褐色土。11. 荒砂に暗褐色土を多く含む炭化粒もやや多く含む暗褐色土。12. 炭化粒・焼土粒を多く含む暗褐色土。13. 荒砂を主体として焼土粒を多く含む褐色土。14. 粘土粒を多く含みしりがある黒褐色土。15. 荒砂を主体として黒色土と焼土粒を多く含む暗褐色土。16. 粘土粒・粘土ブロックを多く含む黒褐色土。17. しまりを欠く黄褐色土である。



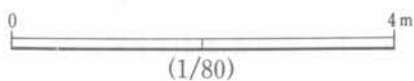
. D

D.



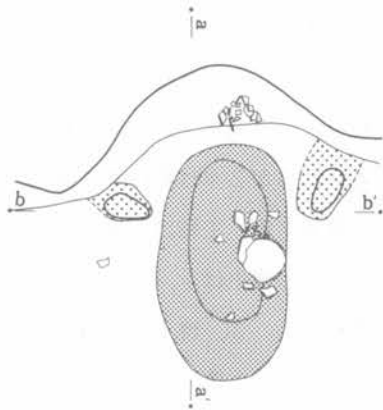
. D

D. 58.7 m



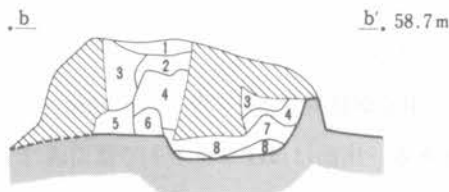
a

a



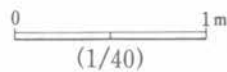
a

a



. b

b'. 58.7 m



第301図 西大野第1遺跡002号住居跡(2)

003号住居跡（遺構 第302図）

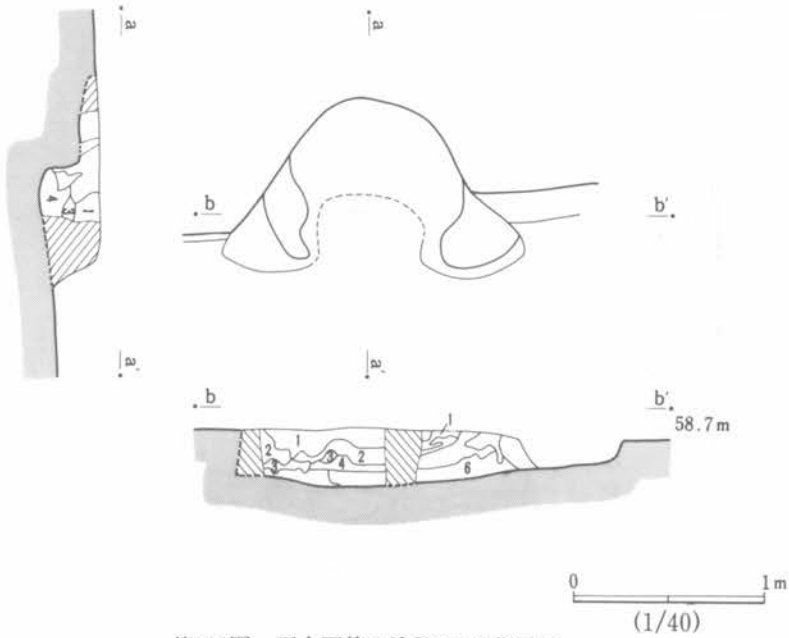
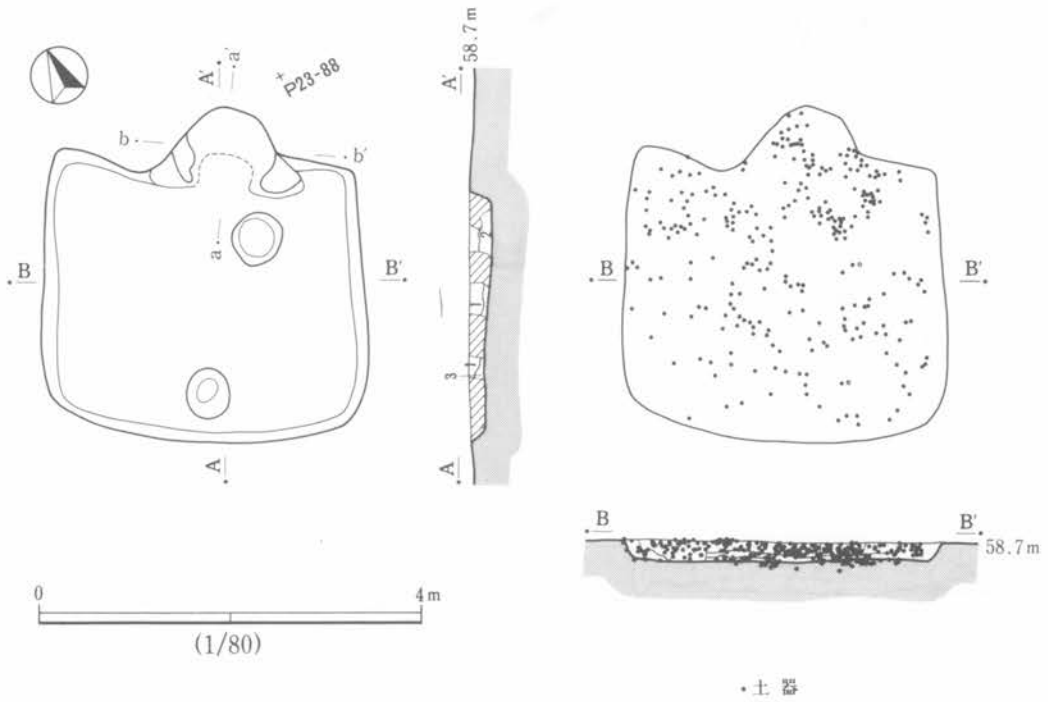
P23-78から西へ2m、南へ1.5mに中心が位置する。プランは2.90m×3.34mのやや崩れた方形を呈する。検出面から床面までの深さは20cmある。床面はカマド付近がやや窪むが他はほぼフラットで特に硬化面はみられない。覆土は1. ロームブロックを含む暗褐色土。2. やや黒味を帯びる暗褐色土。3. ソフトロームと暗褐色土が混ざる暗黄褐色土である。ピットはカマド付近とカマドの対面にみられるが柱穴は持たない。カマド付近のピットの深さは25cm、カマドの対面のものは35cmある。カマドは北東壁の中央に位置する。主軸は北東向きである。カマドそのものの残りはあまり良くなく袖の一部しか残っていない。カマドの覆土は1. 山砂と粘土粒を多く含みしまりがある暗褐色土。2. 焼土粒を少し含み山砂を多く含む暗黄褐色土。3. 焼土粒・焼土ブロックを多く含み暗褐色土を少し含む暗橙褐色土。4. しまりを欠き焼土ブロックを多く含む暗褐色土。5. 焼土ブロックを少し含みしまりを欠く暗褐色土。6. ソフトロームを含む暗褐色土である。

004号住居跡（遺構 第303図）

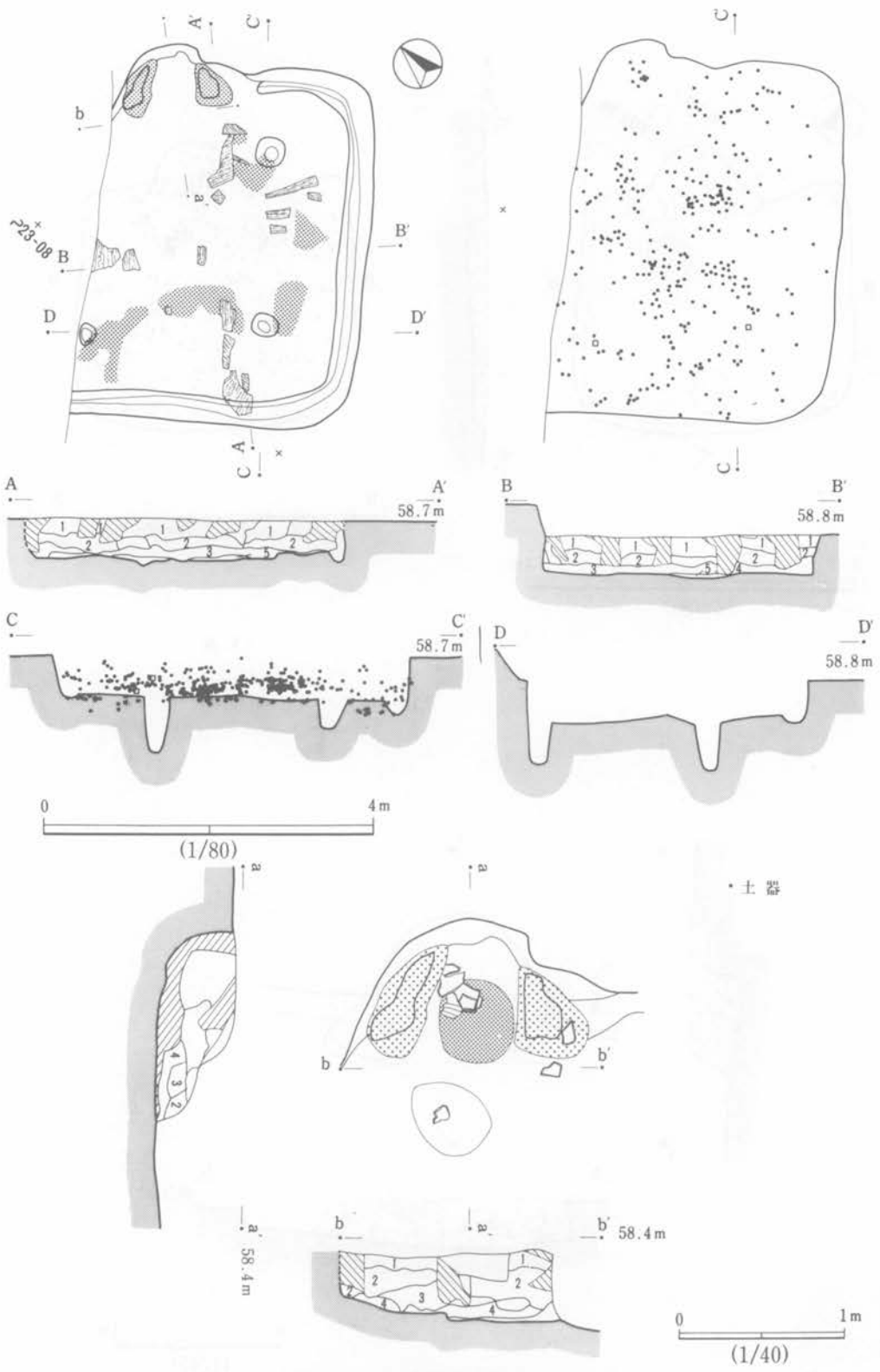
P23-08から東へ1m、北へ2.5mに中心が位置する。プランは4.36m程の方形を呈すると考えられるが一部が調査範囲外のため不明である。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はほぼフラットで壁周溝はほぼ全域巡ると考えられる。覆土中からは焼土ブロックと炭化材が多く検出され火災にあった住居とも考えられる。床面はカマド付近に少し硬化した面がみられる。覆土は1. 粘土粒を多く含み焼土粒も少し含みしまりがある暗褐色土。2. 多くの焼土粒・炭化粒を含み粘土粒も含む暗褐色土。3. 炭化材・焼土を多く含む火災消失時の床直の土である暗褐色土。4. 多くの粘土粒を含む暗褐色土。5. 暗褐色土とソフトロームを含む暗黄褐色土である。柱穴は4本柱と考えられるが2本は範囲外にある。他にカマドの対面に小ピットがある。カマドは北東壁の中央に位置する。主軸は北東を向く。カマドは約半分程袖が残り火床部もはっきりと検出された。カマドの覆土は1. やや暗く山砂を含まない暗褐色土。2. 炭化粒・焼土粒・山砂を多く含む暗褐色土。3. 焼土が主体の暗橙褐色土。4. 炭化粒・山砂を多く含みしまりを欠く暗褐色土。5. 山砂主体で炭化粒と焼土粒を多く含みしまりを欠く褐色土である。

005号住居跡（遺構 第304図）

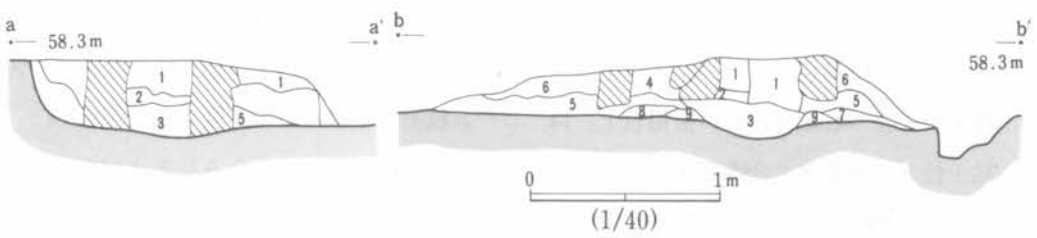
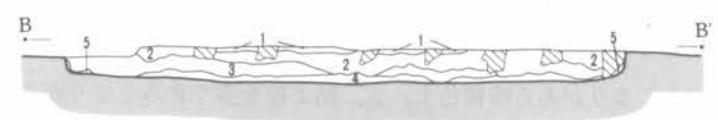
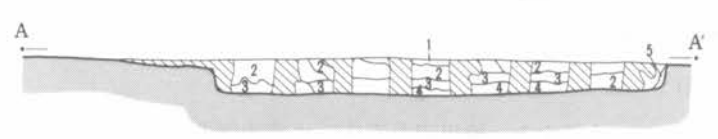
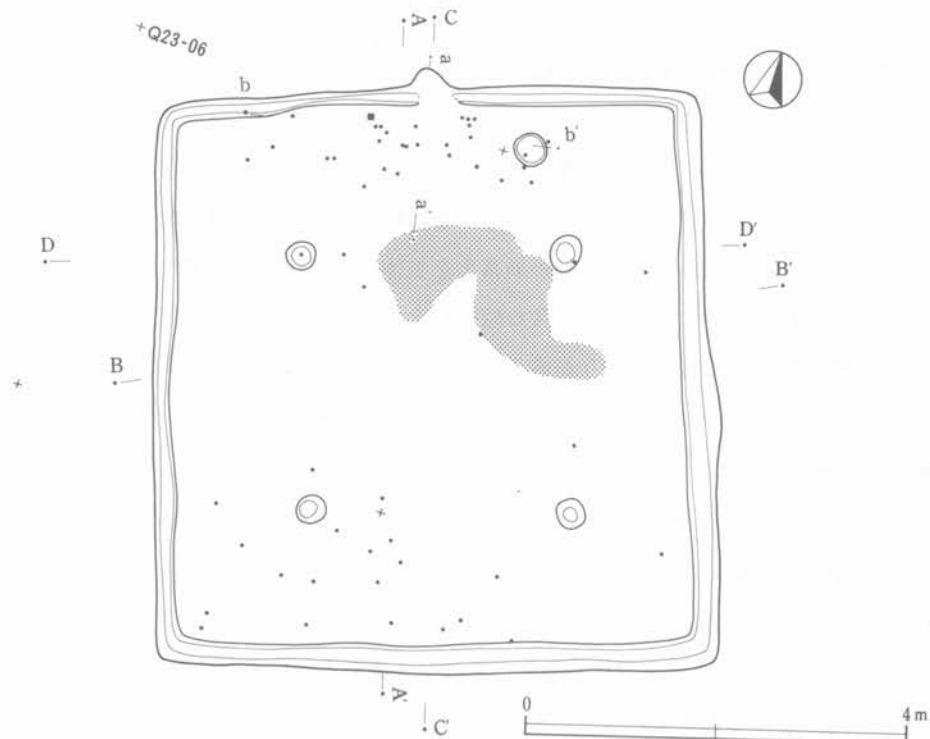
Q23-07から南へ2mに中心が位置する。プランは6.10m×5.76mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは35cmある。床面はほぼフラットで壁周溝は全域巡る。中央やや北より部分に焼土ブロックがみられる。床面は全体にやや軟弱である。覆土は1. 黒みを帯びて粘土粒を含む暗褐色土。2. 粘土粒・炭化粒を少し含みしまりがある暗褐色土。3. ロームブロック・炭化粒を含む暗褐色土。4. 多くの炭化材と焼土を含む暗褐色土。5. ソフトロームと暗褐色



第302図 西大野第1遺跡003号住居跡



第303図 西大野第1遺跡004号住居跡



第304図 西大野第1遺跡005号住居跡

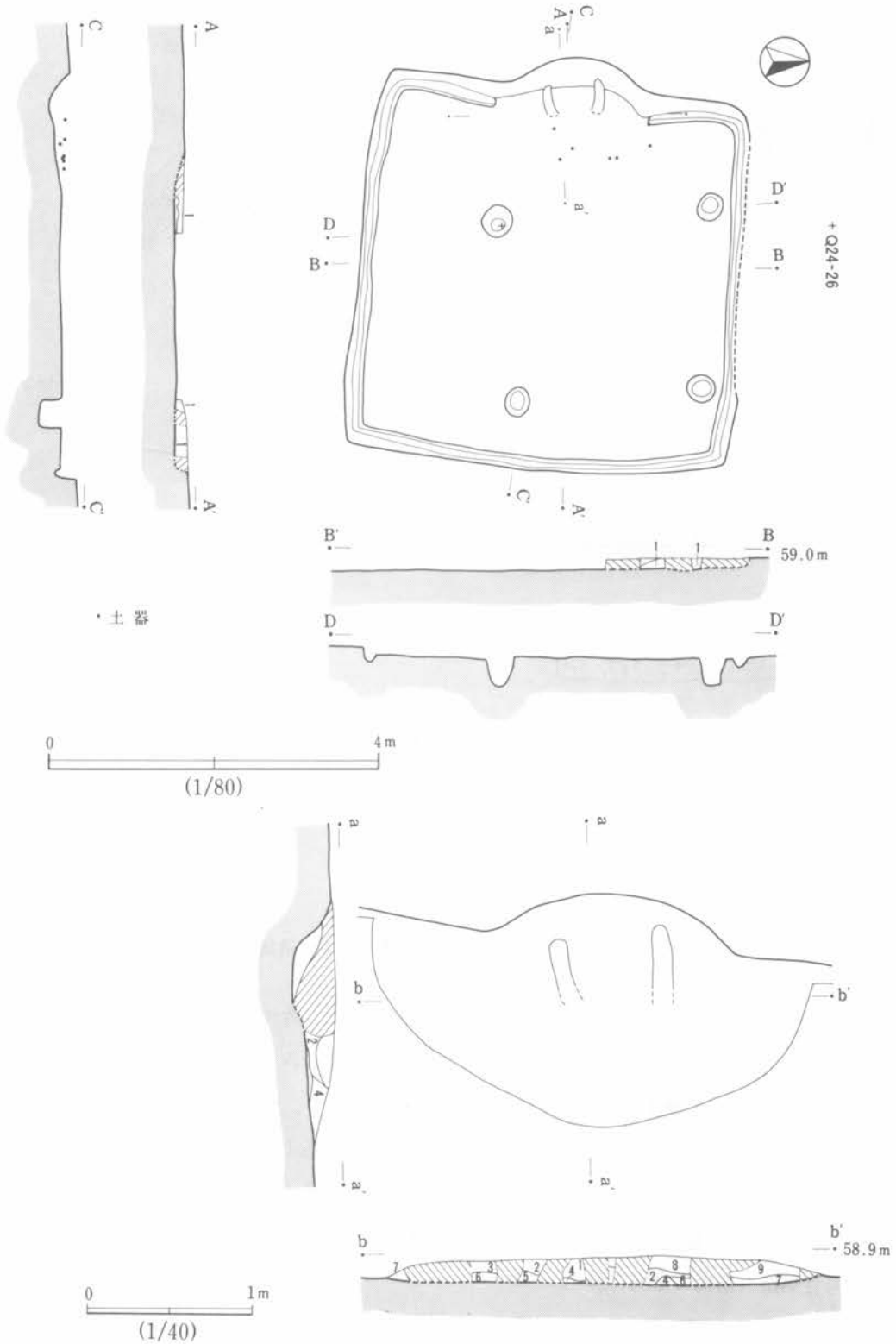
土が混ざりしまりを欠く暗黄褐色土である。柱穴は4本柱である。他にカマドの右に貯蔵穴と思われるピットがある。主軸はやや北西方向を向く。カマドは山砂状の痕跡はあったものの本体部分は全く検出できなかった。カマドの覆土は1. 山砂・焼土粒・炭化粒を含みしまりがある暗褐色土。2. 焼土粒・炭化粒を多く含みしまりがない暗褐色土。3. 焼土を多く含み炭化粒を少し含みしまりがない暗褐色土。4. 袖の崩落土を主体にして黒色土と焼土粒を多く含む暗灰褐色土。5. 焼土粒を多く含み炭化粒を含む暗褐色土。6. 粘土粒・炭化粒・山砂を多く含む褐色土。7. 焼土粒を少し含みしまりがある暗黄褐色土。8. 袖部分の崩落土で山砂を多く含む灰褐色土。9. 袖部分の崩落土で粘土粒の混じりが多い灰褐色土である。

006号住居跡（遺構 第305図）

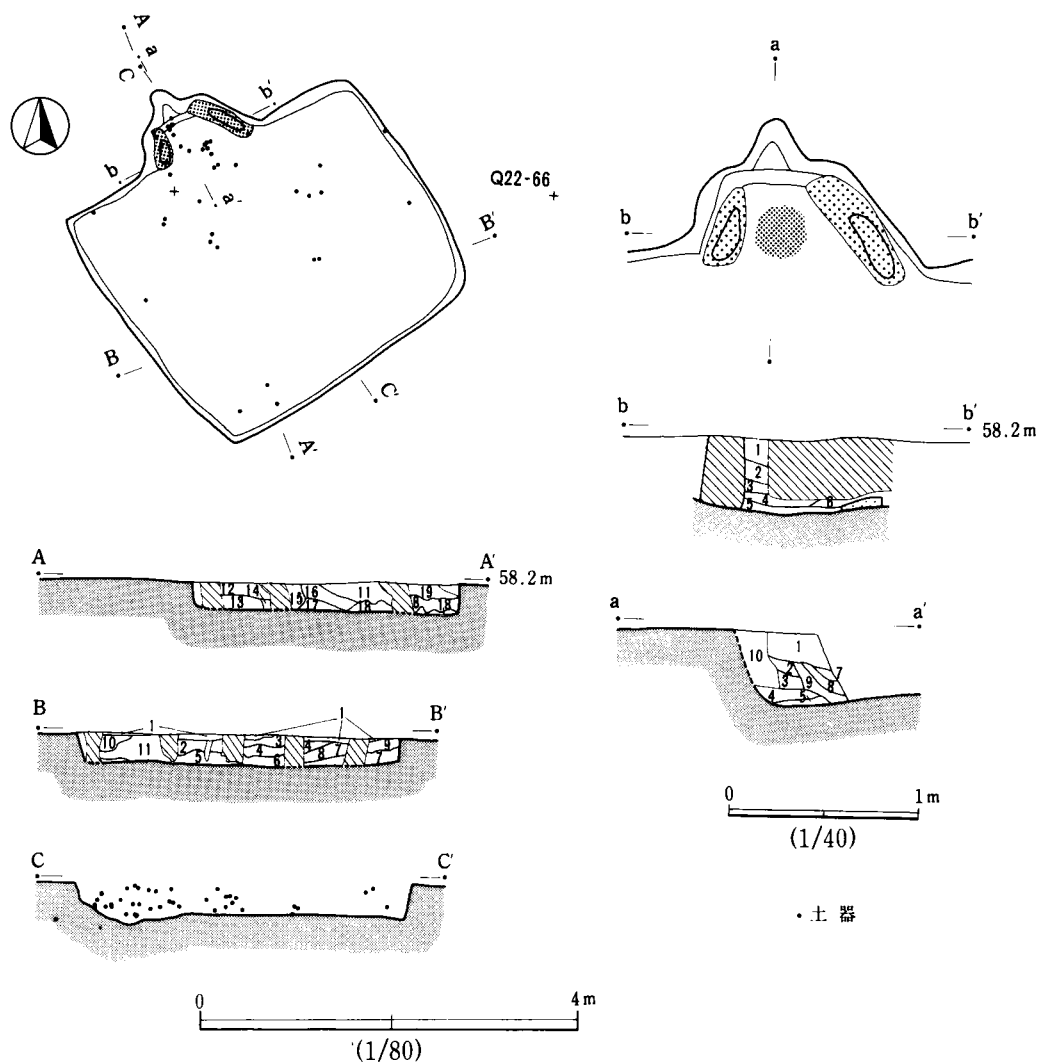
Q24-36から東へ1m、北へ0.5mに中心が位置する。検出面から床面までの深さは10cmある。床面はほぼフラットで壁周溝は全域巡る。床面は全体に軟弱である。覆土は1. 炭化粒と暗褐色土を含みしまりがない褐色土。2. 暗褐色土を含みしまりがない黄褐色土。3. しまりがありやや暗色な暗褐色土である。ピットは柱穴らしいものが4個あるが位置がやや不規則である。主軸は西を向く。カマドは一部袖があるものの火床面がみられず、どのような構造であったか不明である。カマドの覆土は1. 焼土粒を主体として山砂が混ざる暗橙褐色土。2. 白色粒と焼土粒を多く含みしまりがある暗褐色土。3. 焼土粒を含む褐色土。4. 山砂が多く袖崩落部分と考えられる褐色土。5. ソフトローム粒と暗褐色土が混ざり合う褐色土。6. 粘土粒を多く含む暗褐色土。7. 粘土粒を多く含む暗褐色土。8. 暗褐色土を含みしまりがある黒褐色土。9. 焼土を多く含みしまりがある暗褐色土である。

007号住居跡（遺構 第306図）

Q22-66から東へ1m、南へ0.5mに位置する。検出面から床面までの深さは30cmある。床面はほぼフラットで全体にやや軟弱である。覆土は1. 炭化粒と粘土粒を少し含みしまりがある暗褐色土。2. 粘土粒を多く含みしまりがある暗褐色土。3. 粘土粒を多く含みしまりがある暗褐色土。4. 粘土粒を多く含みローム粒を含む暗褐色土。5. 粘土粒を多く含み焼土粒を含む黒褐色土。6. 暗褐色土に粘土粒・ロームブロックを多く含む褐色土。7. 粘土粒・焼土粒を少し含む暗褐色土。8. ロームブロックを含みしまりがある黒褐色土。9. 粘土粒・粘土ブロックを多く含みしまりがない暗褐色土。10. 粘土粒を多く含む黒褐色土。11. 粘土粒を多く含みしまりがない暗褐色土。12. 粘土粒を多く含みしまりがない暗褐色土。13. 粘土粒を多く含み山砂を少し含みしまりがない黒褐色土。14. ローム粒を多く含み山砂が混ざる暗褐色土。15. 粘土粒と山砂を多く含みしまりがある暗褐色土。16. 粘土粒を少し含みしまりがない黒褐色土。17. 炭化粒と山砂が混ざる暗褐色土。18. ソフトローム粒を含みしまりがない暗褐色土。19. 粘土粒を多く含みしまりがない暗褐色土である。柱穴はない。カマドは北西壁中央に位置



第305図 西大野第1遺跡006号住居跡

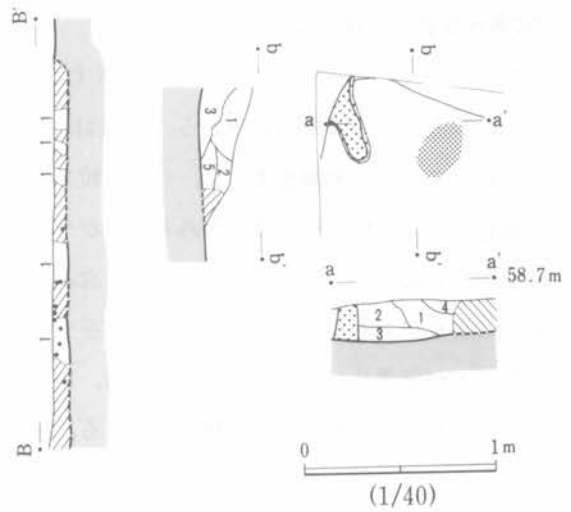
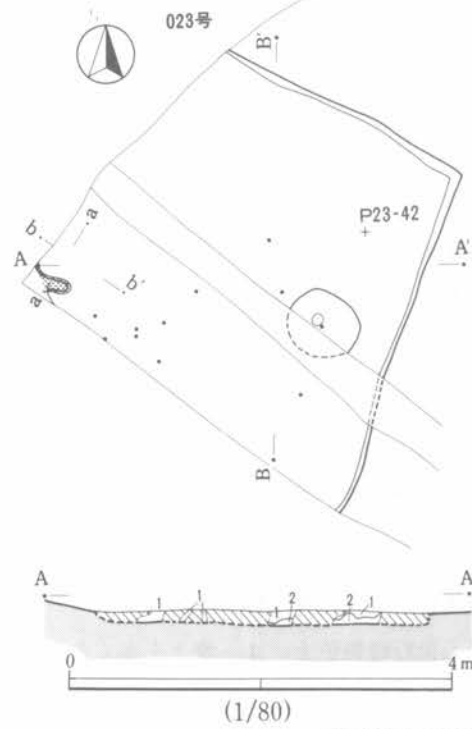
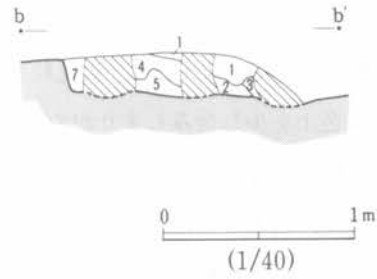
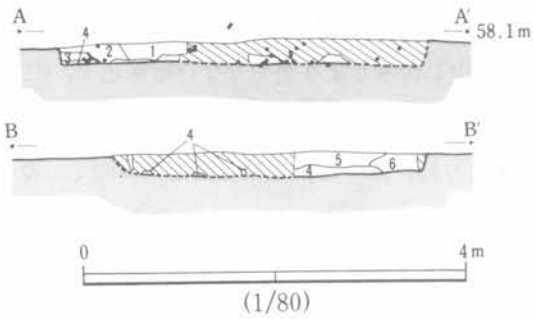
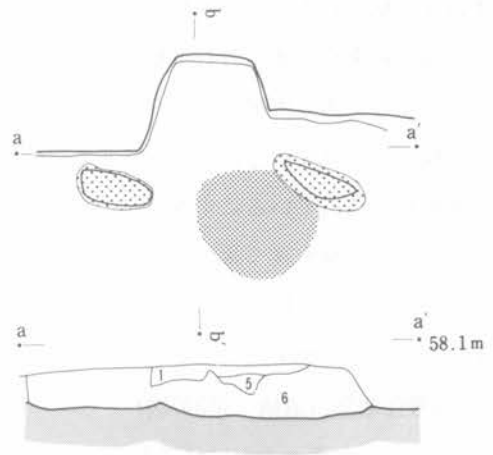
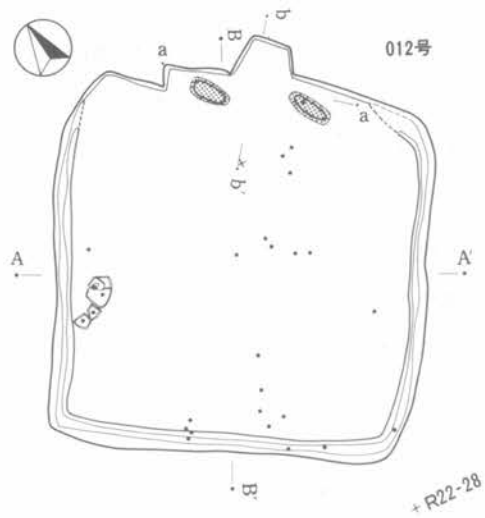


第306図 西大野第1遺跡007号住居跡

する。主軸は北西を向く。カマドは袖と火床部を検出できた。カマドの覆土は1. 山砂を多く含み粘土粒を含みしまりが無い暗褐色土。2. 焼土粒を多く含み山砂を少し含む暗橙褐色土。3. 山砂を主体にして焼土ブロックを少し含む暗灰褐色土。4. 焼土粒を多く含み炭化粒を少し含む暗灰褐色土。5. 焼土粒を少し含みしまりが無い暗褐色土。6. 山砂主体で袖の崩落部分である灰褐色土。7. 山砂のブロックでしまりが有る灰褐色土。8. 黒色土に山砂が少し混ざりしまりが無い黒褐色土。9. 粘土粒・焼土粒をやや多く含みしまりが無い暗褐色土である。

012号住居跡（遺構 第307図）

R22-18から西へ0.5m、南へ1mに位置する。プランはほぼ3.9mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは27cmある。床面は一部攪乱による凹凸がみられる。全体に軟弱である。覆



・土器

第307図 西大野第1遺跡012号・023号住居跡

土は1. 粘土粒を多く含みしまりが少ない暗褐色土。2. ロームブロックをやや含む暗褐色土。3. 粘土粒をやや多く含む暗褐色土。4. ややローム粒を含む褐色土。5. 粘土粒を少し含みややしまりがある黒褐色土。6. 粘土粒をやや多く含みしまりがある暗褐色土である。覆土全般に攪乱を受けている。カマドは北東壁中央に位置する。主軸は北東を向く。カマドは袖の一部が島状に残っているにすぎない。カマドの覆土は1. 焼土粒を多く含みしまりが少ない暗褐色土。2. 焼土粒を多く含み山砂や黒色土を少し含む橙褐色土。3. 山砂が主体で黒色土を含む褐色土。4. 焼土粒を多く含みしまりがある褐色土。5. 褐色土と黄褐色土が混ざる暗黄褐色土。6. 山砂と焼土粒が混ざる暗褐色土。7. しまりがある暗褐色土である。

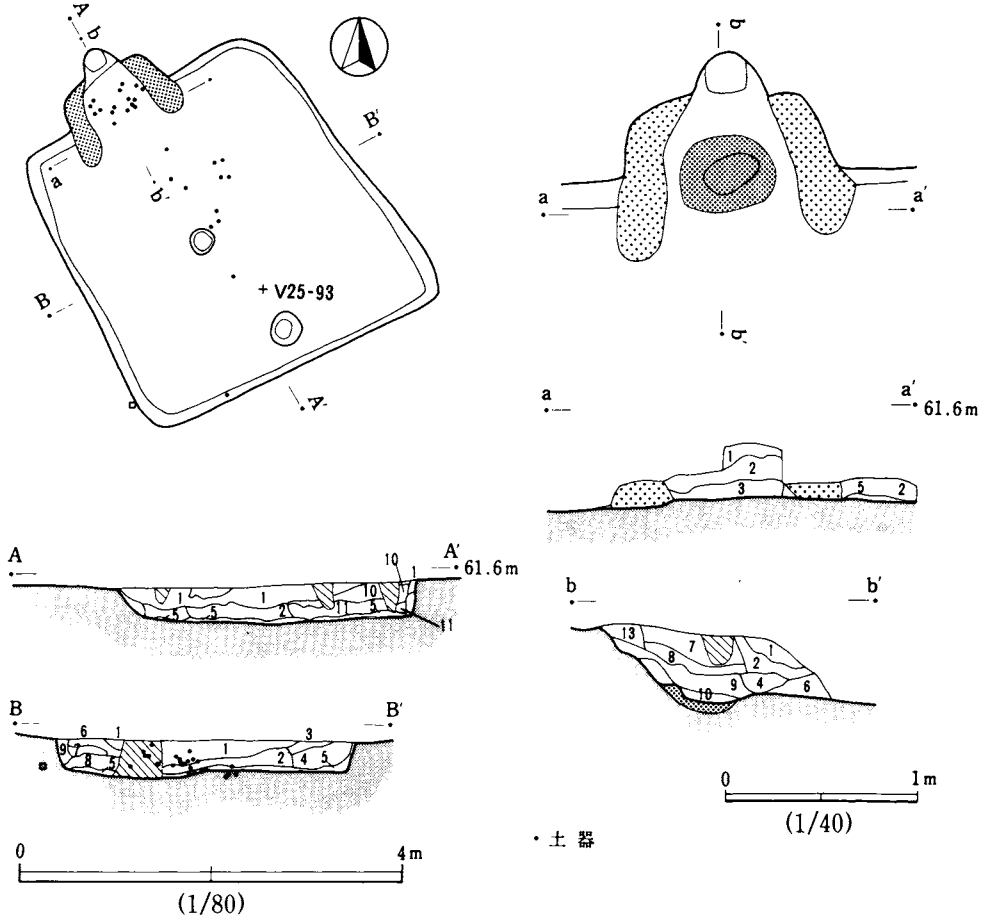
023号住居跡（遺構 第307図）

P23-42から西へ1mに位置する。プランは調査区外にかなりでているため不明であるがおおよそ3.5mの方形になると思われる。検出面から床面までの深さは16cmある。床面はほぼフラットで全体に軟弱である。覆土は1. 炭化粒と焼土粒を少し含みしまりがややない暗褐色土。2. ローム粒と褐色土を少し含みしまりがややある暗黄褐色土である。ピットはカマドと対面に1個みられる。柱穴はない。カマドは北西壁のやや南よりに位置する。主軸は西南西に向く。カマドの覆土は1. 焼土を主体として褐色土を含みしまりが少ない暗橙褐色土。2. 焼土を少し含みしまりがややある暗褐色土。3. 粘性がありしまりがある褐色土。4. 黒褐色土を含む暗褐色土。5. 焼土をやや多く含みしまりがややない暗褐色土である。

037号住居跡（遺構 第308図）

V25-93から西へ0.5m、北へ0.5mに位置する。プランは3.30m×3.10mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは35cmある。床面はほぼフラットで全体にやや軟弱である。覆土は1. ローム粒を多く含む黒褐色土。2. ローム粒を多く含みしまりがある暗褐色土。3. しまりがある褐色土。4. 粘土粒を多く含みしまりがややない暗褐色土。5. ローム粒を多く含みしまりがややある褐色土。6. ローム粒を多く含みしまりがややある暗褐色土。7. ローム粒を多く含みしまりがある褐色土。8. ローム粒を少し含みしまりがややある暗褐色土。9. ローム粒に褐色土が混ざりしまりが少ない暗褐色土。10. ローム粒を少し含む暗褐色土。11. ローム粒を多く含みしまりがややない暗褐色土である。柱穴は住居の中程にあるピットと思われる。他にカマドの対面にピットがみられる。カマドは北西壁中程に位置する。主軸は北西を向く。カマドは当遺跡内の他の住居跡に比べて非常に残りが良く袖のかなりの部分が残っている。カマドの覆土は1. 焼土粒を少し含みしまりがややない暗褐色土。2. 焼土粒と炭化粒を多く含みややしまりがある暗褐色土。3. 炭化粒・焼土粒を多く含む暗褐色土。4. 焼土を多く含みしまりがややある暗褐色土。5. ローム粒をやや多く含みしまりがややある褐色土。6. 炭化粒・焼土粒・ローム粒を少し含みしまりが少ない暗褐色土。7. 焼土粒と山砂を少し含みしまりが

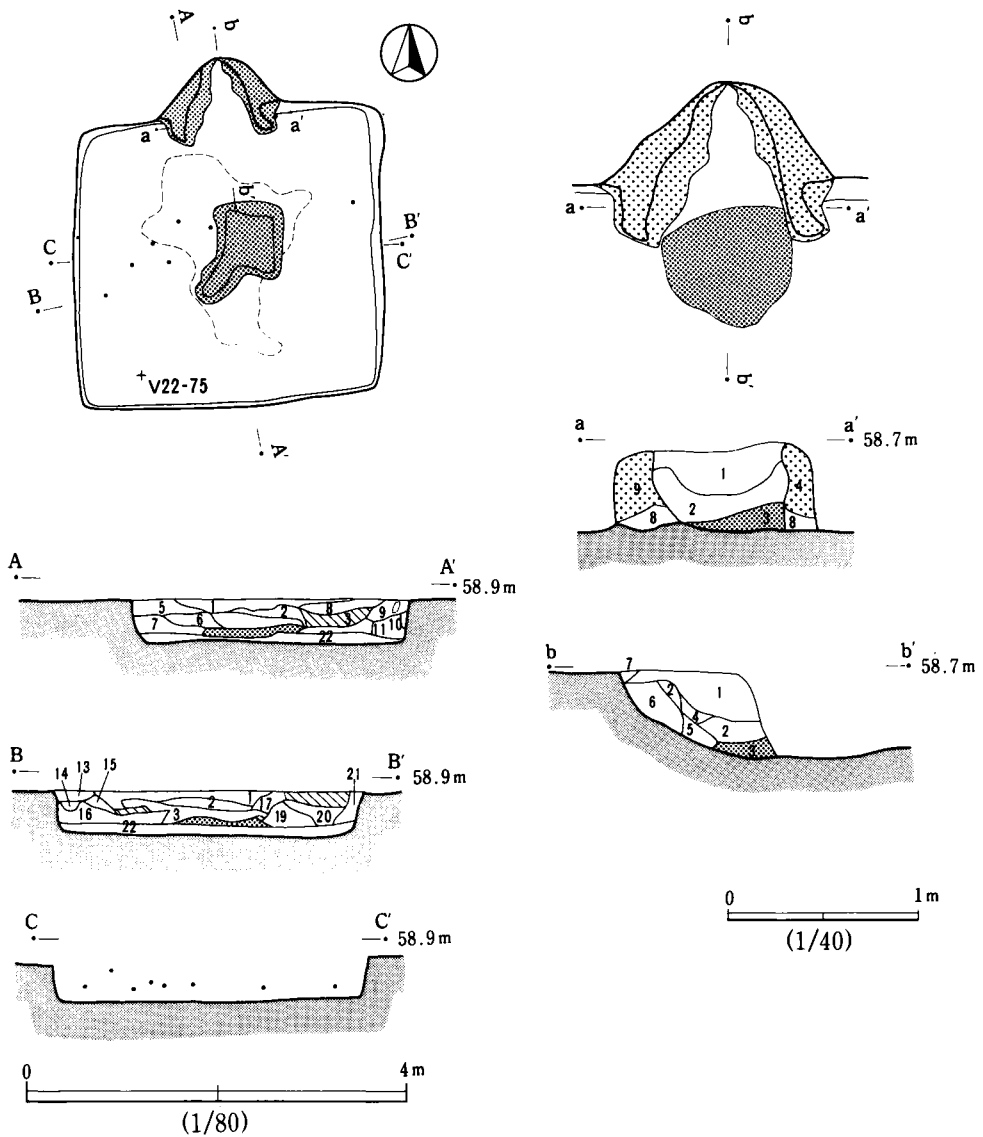
ややない暗灰褐色土。8. 山砂を多く含み炭化粒・焼土粒をやや多く含む暗褐色土。9. 焼土を主体に炭化粒とローム粒を含む暗橙褐色土。10. 焼土ブロック堆積の橙褐色土。11. 熱を受けたロームでブロックを呈する暗黄褐色土。12. 焼土と黒色土が混ざりしまりがある褐色土。13. 黒色土と焼土を多く含みしまりがない暗褐色土である。



第308図 西大野第1遺跡037号住居跡

065号住居跡-昭和63年度 021号- (遺構 第309図)

V22-75から東へ1m、北へ1.5mに中心が位置する。プランは3.00m×3.25mの方形を呈する。主軸はほぼ北を向く。検出面から床面までの深さは38cmある。床面はほぼフラットでカマドの南側を中心にしてかなりの範囲で硬化面がみられた。覆土は1. ソフトローム粒を少し含みしまりがない黒褐色土。2. 焼土粒を含みしまりがない暗褐色土。3. ソフトローム粒・焼土粒・黒褐色土を少し含む暗褐色土。4. 焼土を多く含み炭化粒を少し含む暗褐色土。5. 砂質土と焼土を少し含みしまりがない明褐色土。6. 砂質土・焼土・ソフトローム粒を少し含む



第309図 西大野第1遺跡065号住居跡

暗褐色土。7. 砂質土・焼土・ソフトローム粒を含みしまりがない暗褐色土。8. ソフトローム粒と黒色土を少し含む暗褐色土。9. ソフトロームをやや多く含む明褐色土。10. ソフトロームブロックを主体の明褐色土。11. 黒褐色土とソフトローム粒を含む暗褐色土。12. 黒色土を少しとソフトロームをやや多く含む暗褐色土。13. 黒褐色土を少し含みしまりがない暗褐色土。14. 焼土を含みしまりがない暗褐色土。15. 黒褐色土を含む明褐色土。16. ソフトロームを多く含む暗褐色土。17. 黒褐色土を多く含むソフトロームを少し含む暗褐色土。18. ソフトロームブロック主体の明褐色土。19. ソフトロームを多く含む明褐色土。20. ソフトロームと

黒褐色土をやや多く含みしまりが無い暗褐色土。21. ソフトロームを多く含みハードロームを少し含む明褐色土。22. ソフトローム粒を多く含みしまりが有る暗褐色土である。柱穴はない。カマドは北壁のほぼ中程に位置する。カマドの残りは袖を中心にして比較的良好である。カマドの覆土は1. 焼土粒・砂質粘土を含みしまりが有る暗褐色土。2. 焼土と砂質粘土を多く含み炭化粒を少し含みしまりが有る赤褐色土。3. 焼土粒・炭化粒・砂質粘土を含みしまりない暗褐色土。4. 砂質粘土を多く含み焼土を少し含みしまりが無い暗褐色土。5. 砂質粘土を多く含み焼土を含みしまりが無い暗褐色土。6. 砂質粘土を多く含み焼土ブロックを少し含みしまりが無い暗褐色土。7. 砂質粘土を多く含み焼土・黒褐色土を含みしまりが無い暗褐色土である。袖の部分のセクションは8. ソフトローム主体の黄褐色土。9. 灰褐色砂質粘土である。

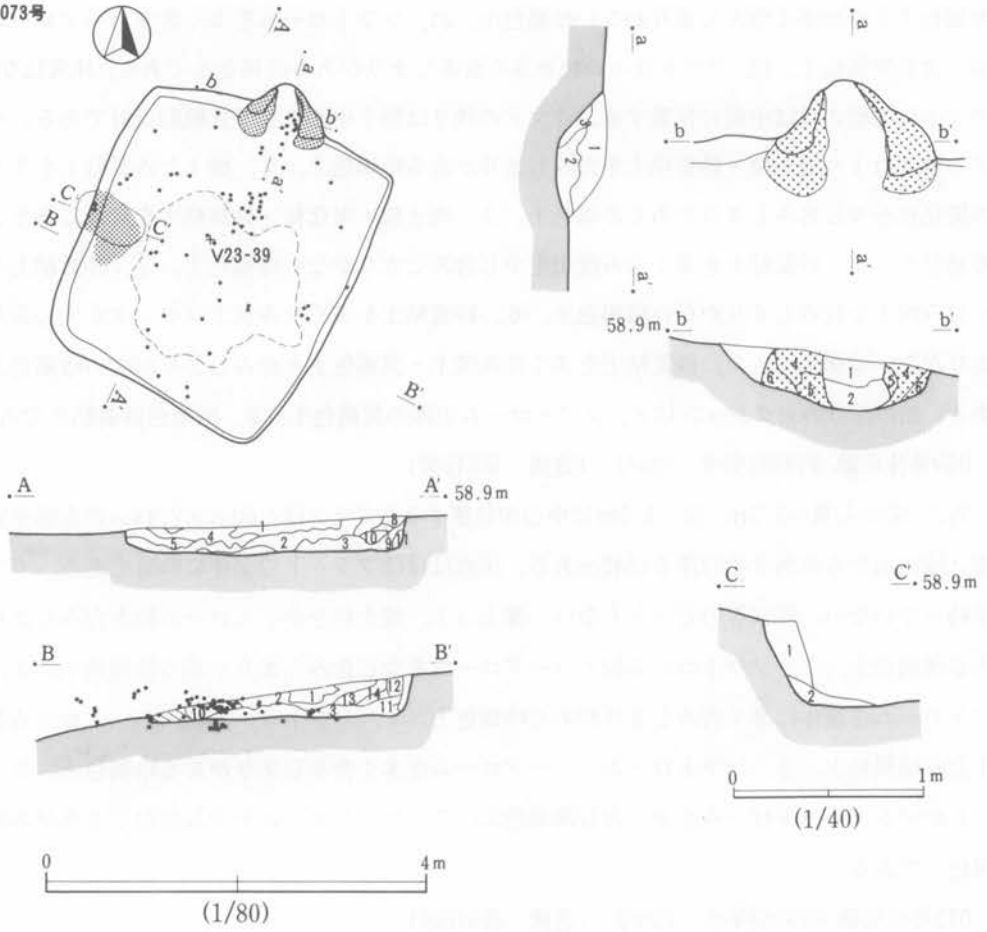
069号住居跡-昭和63年度 025号- (遺構 第310図)

W22-60から東へ1.5m、南へ1.5mに中心が位置する。プランは2.60m×2.48mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは42cmある。床面はほぼフラットで全体に軟質である。カマドを持っていない。柱穴等のピットもない。覆土は1. 焼土粒を少しとローム粒を含みしまりが有る黒褐色土。2. ソフトローム粒とハードロームを少し含みしまりが有る暗褐色土。3. ソフトロームを全体に多く含みしまりが有る暗褐色土。4. ソフトローム粒・ハードロームを多く含み暗褐色土。5. ソフトローム・ハードロームを多く含みしまりが有る暗褐色土。6. ソフトローム・ハードロームを多く含む黒褐色土。7. ソフトロームを少し含むしまりが有る黒褐色土である。

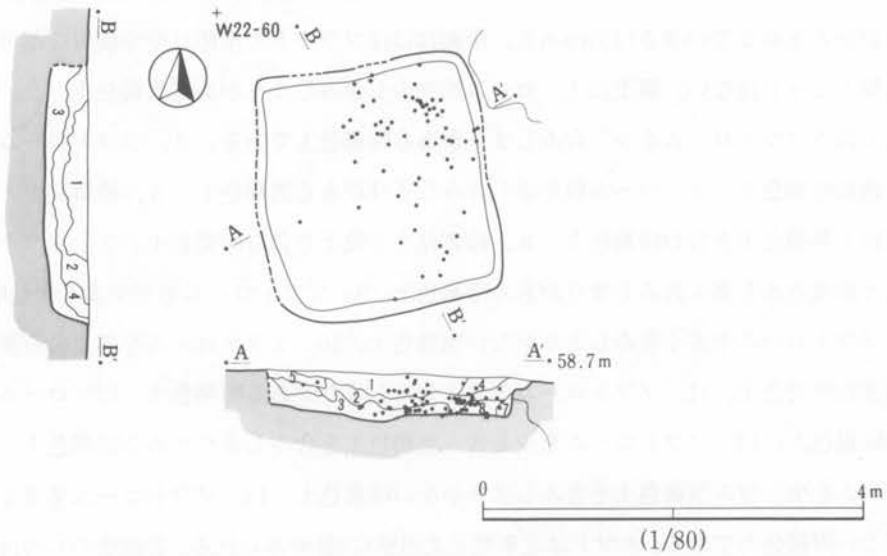
073号住居跡-昭和63年度 029号- (遺構 第310図)

V23-39に中心が位置する。プランは3.14m×2.82mの方形を呈する。主軸は北北東を向く。検出面から床面までの深さは30cmある。床面はほぼフラットで全体にやや硬質な部分が多い。柱穴等のピットはない。覆土は1. ローム粒を少し含みしまりが有る黒褐色土。2. 黒褐色土を多く含みソフトロームを少し含みしまりが有る暗褐色土である。3. ソフトロームと黒褐色土を含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含みしまりが有る黒褐色土。5. 砂質粘土とハードローム粒・黒褐色土を含む暗褐色土。6. 砂質粘土と焼土を含む暗褐色土。7. ソフトロームを少しと黒褐色土を多く含みしまりが有る暗褐色土。8. ソフトロームをやや多く含む暗褐色土。9. ソフトロームを多く含みしまりが無い明褐色土。10. ソフトロームを多く含み黒褐色土を少し含む明褐色土。11. ソフトロームを多く含みしまりが有る明褐色土。12. ローム粒を少し含む暗褐色土。13. ソフトロームを少し含み黒褐色土を含みしまりが有る暗褐色土。14. ソフトロームを少し含み黒褐色土を含みしまりが無い暗褐色土。15. ソフトロームを多く含みしまりが無い明褐色土である。カマドは北東壁と北西壁に2箇所みられる。北西壁のものは火床面が確認できたが本体はみられないので最初にこちらを使用していたと思われる。北東壁のカマド

073号



069号



第310図 西大野第1遺跡073号・069号住居跡

は比較的残りがよい。こちらの覆土は1. 焼土粒・炭化粒を少し含み砂質土を多く含む暗褐色土。2. 砂質土を少し含み焼土を多く含む赤褐色土。3. 砂質土と焼土粒を含む暗褐色土。4. 多くの砂質土を含みしまりがある灰褐色砂質土。5. 焼土・砂質土を含みしまりがある赤褐色土。6. 砂質土を含みしまりがある暗褐色土である。

(2) 土坑

008号土坑 (遺構 第311図)

P23-79から西へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.93m、短軸1.59mのやや不整な楕円形を呈する。検出面からの床面までの深さは12cmで床面はやや凹凸がみられ、しかも畑の耕作による攪乱を床面近くまで受けている。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は1. 焼土を多く含む暗褐色土を含む暗橙褐色土。2. 焼土ブロックと焼土粒が主体で脆い橙褐色土。3. 焼土粒を多く含み炭化粒を少し含む暗褐色土。4. 暗褐色土の混ざりが少なく橙色を帯びる暗橙褐色土。5. ロームが熱を受け硬くなっていて焼土を少し含む暗黄褐色土。6. 焼土粒を少し含みソフトローム粒を少し含む暗褐色土。7. ソフトロームと暗褐色土を少し含む暗黄褐色土である。遺物は伴わない。時期は確定できないが焼土堆積のみられる遺構である。

009号土坑 (遺構 第311図)

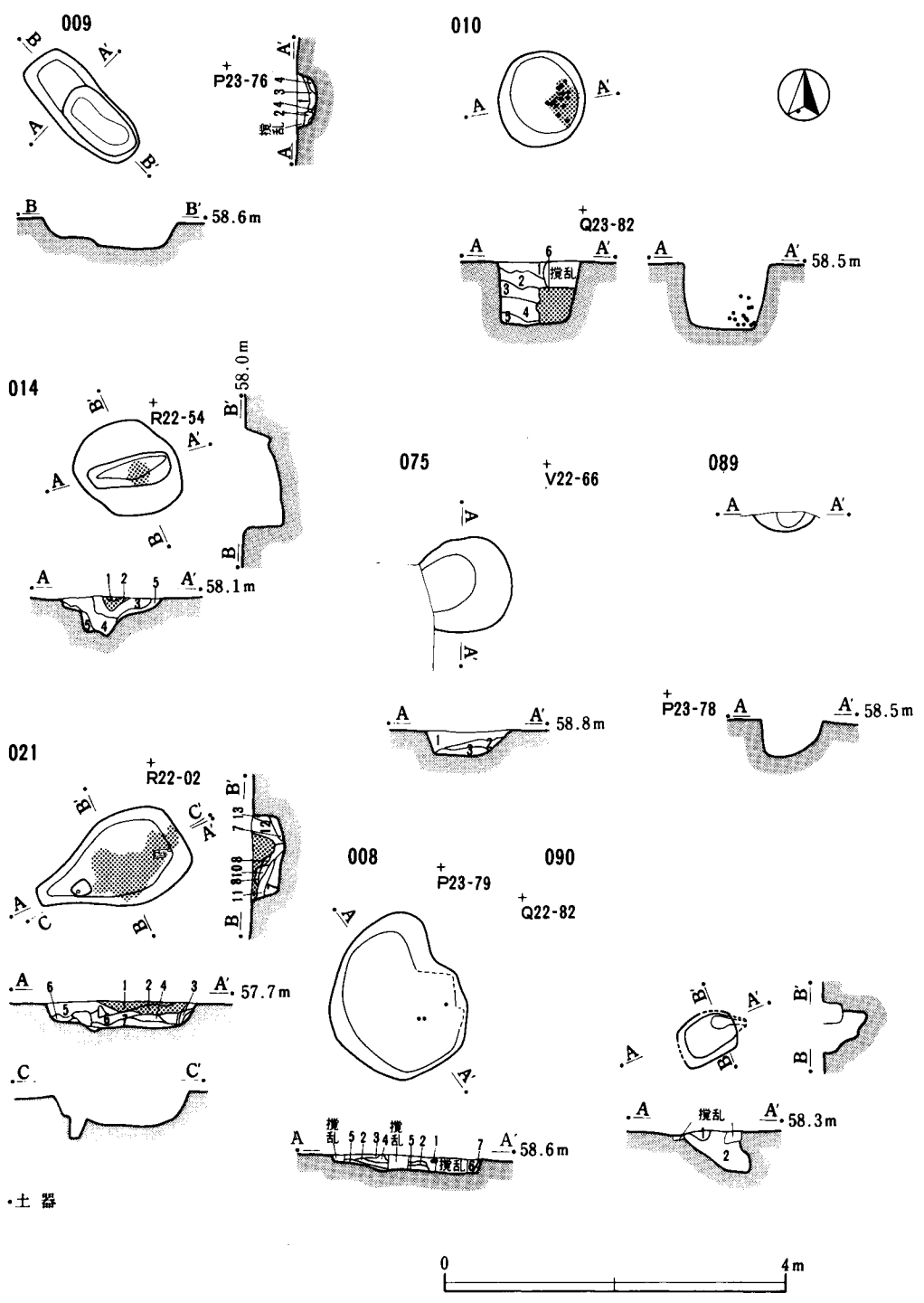
P23-76から西へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.57m、短辺0.63mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは20cmある。床面はやや南側がピット状に下がる。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム小ブロックを多く含み白色の粒子を多く含む暗褐色土。2. やや粘性がある暗褐色土。3. ロームに暗褐色土が混ざる暗黄褐色土。4. しまりを欠きやや明るい暗褐色土である。白い粒子が骨の痕跡とも考えられ、墓壙である可能性がある。時期は特定できない。

010号土坑 (遺構 第311図)

Q23-72から西へ0.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.10m、短軸1.00mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりを欠き粘土粒を多く含む黒褐色土。2. しまりを欠き粘土粒を含む暗褐色土。3. やや明るい暗褐色土。4. しまりがあり焼土粒を多く含む黒褐色土。5. 暗褐色土にロームが混ざる暗褐色土。6. 焼土を主体とする暗橙褐色土である。黒色処理された土師器が覆土中から出土している。焼けていないことから焼土堆積時よりのちから廃棄されたと考えられる。

014号土坑 (遺構 第311図)

R22-54から南へ1mに位置する。プランは長軸1.11m、短軸1.02mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はかなり凹凸がみられ中央付近はピット状に窪む。覆



土器

第311図 西大野第1遺跡土坑(1/80)

土は1. 焼土粒を主体としてしまりを欠く橙褐色土。2. 暗褐色土に焼土が多量に含まれる暗褐色土。3. しまりを欠き焼土及び粘土粒が少し含まれる暗褐色土。4. しまりを欠き焼土粒が少し含まれる褐色土。5. 褐色土とソフトロームが混ざる暗黄褐色土である。遺物がないので明確な時期は不明であるが、奈良・平安時代に属する焼土堆積土坑と考えられる。

021号土坑 (遺構 第311図)

R22-02から南へ1mに位置する。プランは長軸1.86m、短軸1.05mのイチジク型を呈する。検出面から床面までの深さは38cmある。床面は南よりにピットがあるがあとの部分は緩やかな鍋底状を呈する。壁も斜めに緩やかに立ち上がる。覆土は1～6. 焼土粒を多く含む炭化粒を含む暗褐色土。7. ローム粒を褐色土が混ざる褐色土。8. しまりを欠き焼土粒を少し含む黒褐色土。9. しまりを欠き焼土粒を少し含む暗褐色土。10. しまりがありローム粒を含む暗褐色土。11. 色調がやや暗い褐色土。12. 焼土粒と粘土粒を含む黒褐色土。13. ロームと褐色土が混ざる暗褐色土である。遺物がないので明確な時期は不明であるが、奈良・平安時代に属する焼土堆積土坑と考えられる。

075号土坑 (遺構 第311図)

V22-66から西へ1m、南へ1.5mに位置する。プランは065号住居跡の東側壁に一部切られているため全体の形態ははっきりしないがおおよそ径1.06mの円形を呈する。床面はややフラットで壁は斜めに立ち上がる。覆土は1. ソフトローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームを含む暗褐色土。3. ソフトロームを全体に少し含む暗褐色土。性格は不明な土坑である。遺物はない。住居跡よりやや古い時期と思われる。

089号土坑 (遺構 第311図)

P23-78から東へ1.5m、北へ2mに位置する。プランは下層確認時に検出したため既に半分以上削平されていて不明である。覆土はローム粒をやや多く含む褐色土である。比較的新しい時期(奈良・平安時代)の土坑と考えられる。

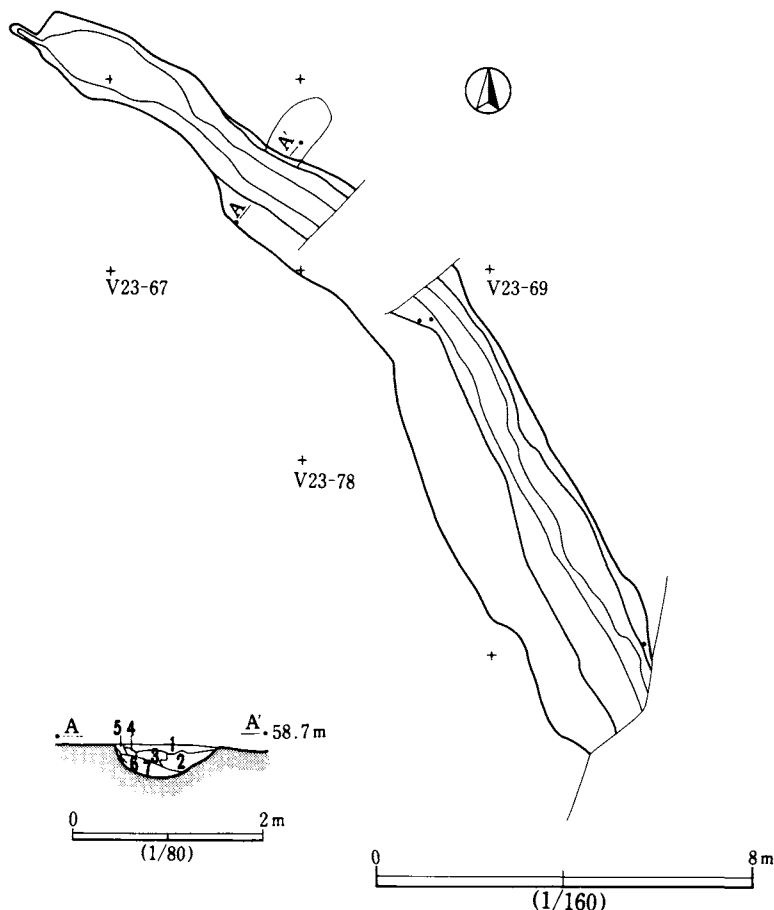
090号土坑 (遺構 第311図)

Q22-82から東へ2m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺0.58m、短辺0.52mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは45cmある。床面は東側へ舌状にオーバーハングしている。覆土は1. しまりがなく焼土粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む暗褐色土である。021号等と同様な焼土堆積遺構と考えられる。

(3) 溝

077号溝 (第312図)

V23-57～89付近に位置する。断面は逆台形を呈する。北側はかなり浅くなっており南東側の斜面部に向かってやや広がりながら深くなっている。覆土は1. ソフトローム粒を少し含みし



第312図 西大野第1遺跡007号 溝状遺構

まりがある暗褐色土。2. ソフトローム粒・黒褐色土をやや少し含みしまりが無い暗褐色土。
 3. ソフトロームを多く含み黒褐色土を少し含む明褐色土。4. ソフトロームを多く含み黒褐色土を少し含みしまりがある明褐色土。5. ハードロームブロック・黒褐色土を少し含みしまりがある暗褐色土。6. ハードロームブロック・黒褐色土を少し含みしまりが無い暗褐色土。
 7. ハードロームブロックを少しとソフトロームを多く含みしまりが無い明褐色土。8. ハードロームを少し含みとソフトロームを多く含む暗褐色土。9. ハードロームを多く含む明褐色土。10. ハードローム粒を少し含みしまりがある暗褐色土。11. ハードロームブロックを少し含む明褐色土。12. ハードローム粒・黒褐色土を多く含む暗褐色土。13. ハードローム・焼土を少し含む暗褐色土。14. ソフトロームと・黒褐色土を多く含みしまりが無い明褐色土。15. ソフトロームとハードロームを含みしまりが無い明褐色土。16. ハードロームを少しと黒褐色土を多く含む暗褐色土。17. ソフトローム・ハードローム・黒褐色土を多く含みしまりが無い明褐色土。18. ソフトロームを多く含みしまりが無い暗褐色土。19. ソフトローム・ハードロ

ーム粒を少し含みしまりが無い黒褐色土である。

また溝の脇にある土坑の覆土は①炭化粒・ソフトロームを含みしまりが有る黒褐色土。②ソフトロームを多く含む暗褐色土。③炭化粒と焼土を少しとソフトローム粒を多く含む黒褐色土。④ソフトロームを多く含む黒褐色土。⑤ソフトロームを含みしまりが有る黒褐色土。⑥ハードロームブロック。⑦ソフトロームと炭化粒を含みしまりが有る黒褐色土である。この土坑は溝よりやや新しい。

溝の時期は平安時代初頭の土師器片が覆土下層から出土していることから、この遺物の時期に近い時期に造られたと考えられるが、使用目的などははっきり解らない。

6. 奈良・平安時代の包含層の遺物について

(1) 土器 (第313～317図1～73)

1～10までは002号住居跡から出土した土器である。1は須恵器の甕の口縁部から胴部にかけての個体である。2～8は須恵器の杯である。9は須恵器の皿である。10は須恵器の台付杯である。11～12は003号住居跡から出土した土器である。ともに須恵器の甕であろう。13～42は004号住居跡から出土した土器である。13は須恵器の大甕で胴部のみ残存している。表は楡目状の叩き目、裏は螺旋状の叩き目で調整している。14は須恵器の甕で同様な調整を施している。15は須恵器の甕である。16は須恵器の甕の大きな破片である。17は須恵器の甕で表を楡目状の叩き目、裏を弧状の叩き目で調整している。18もほぼ同様な調整がみられる。19は須恵器の甕で表に横方向の楡目状の叩き目で調整している。20は須恵器の壺で口縁部はロクロ仕上げ、胴部は表を楡目状の叩き目、裏を弧状の叩き目で調整している。21は須恵器の壺の底部の破片である。22は須恵器の甕である。23は須恵器の甕の破片である。24～27は土師器の甕である。25は特に表裏ともへら調整が著しい。28は土師器の甕の口縁部の破片である。29～37・40は杯である。29は須恵器の杯である。30は須恵器の杯である。ロクロ使用のナデののち底部へら調整で仕上げている。31は須恵器の杯である。32は土師器の杯で墨書土器である。文字は意味不明である。33は須恵器の杯である。底部をへら調整で仕上げている。34は土師器の杯で内面を磨いてある。35は須恵器の杯である。36・37は須恵器の杯で底部が欠損している。38は土師器の皿で内側を良く磨いてある。39は土師器の皿である。40は須恵器の杯で底部はへら調整されている。41は土師器の皿でナデののちへら調整で仕上げられている。42は底部のみで器形の不明の土師器である。杯であろう。43～45・47～52は005号住居跡から出土した土器である。43は土師器の甕である。底部が欠損してない。胴部はへら調整で仕上げられている。44は土師器の甕である。やはり胴部をへら調整で仕上げている。45は土師器の甕である。内外面ともへら調整で仕上げられている。46は069号住居跡から出土したものであり、土師器の甕の胴部破片で外面はへら調整が施されている。47は手づくね土器である。48は土師器の台付鉢である。外面をへ

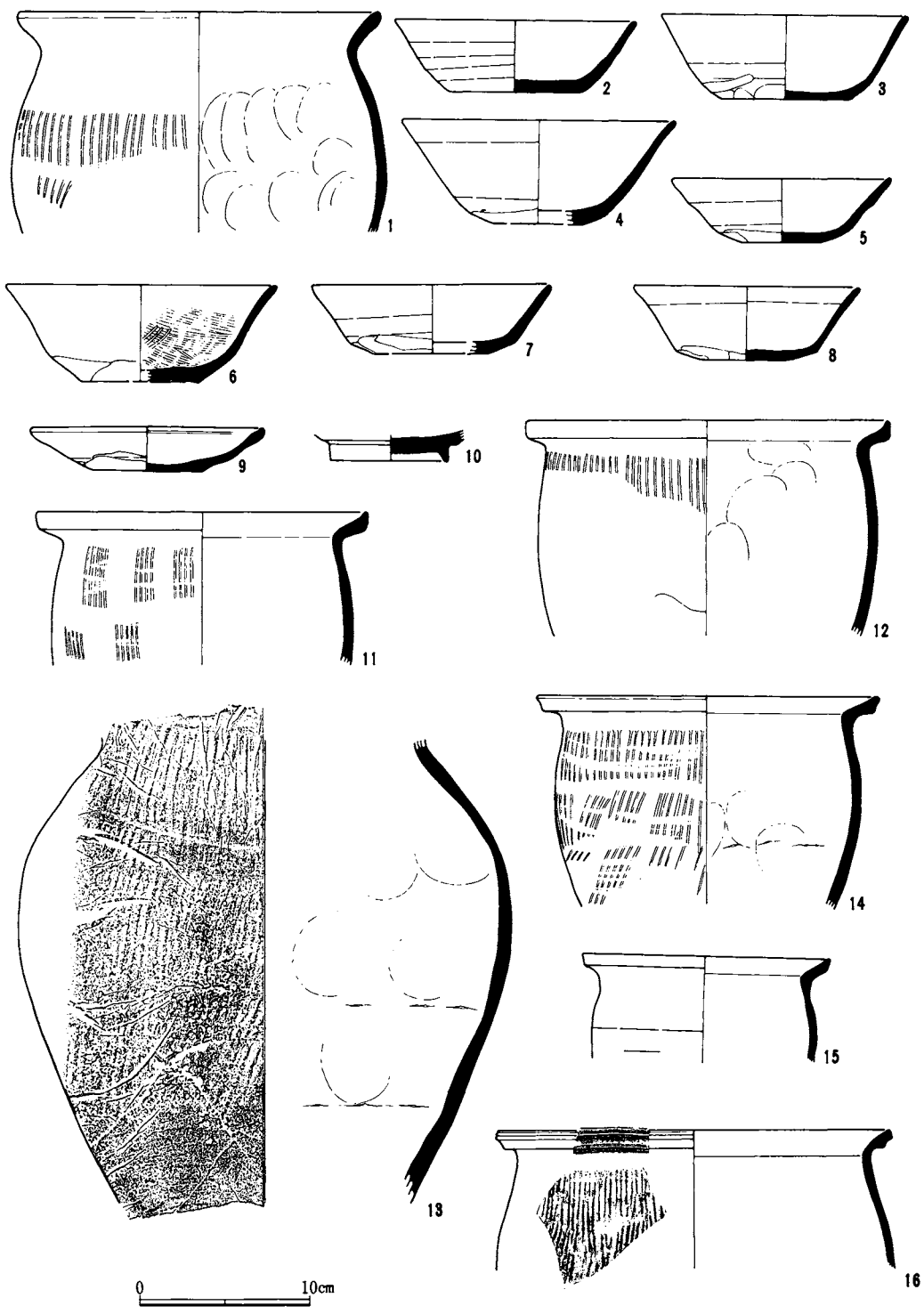
ラ調整で仕上げている。49は土師器の鉢で外面をヘラ調整で仕上げている。50は土師器の壺で口縁部のみ残存している。51は土師器の椀でナデののちヘラ調整で仕上げている。52は土師器の甔で口縁部のみ残存している。53・54は007号住居跡から出土した土器である。53は須恵器の杯である。54は須恵器の壺の底部破片である。55・57・58は010号土坑から出土した土器である。55は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片でヘラ調整がみられる。57は土師器の杯で灯明皿として使用されたため内側から口唇部にかけてすすけている。58も同様である。56・59～61は012号住居跡から出土した土器である。56は須恵器の甕で外面を楯目状の叩き目、内面を螺旋状の叩き目で仕上げている。59・60は須恵器の杯である。61は須恵器の甕の胴部～底部の破片で外面を楯目状の叩き目で仕上げている。62は016号土坑の覆土から出土した土器である。須恵器で内側はよく磨いている。63は065号住居跡から出土した土器である。土師器の甕で外面をヘラ調整で仕上げている。64～66・68・69は073号住居跡から出土した土器である。64・65・66は須恵器の甕の破片で外面を楯目状の叩き目で仕上げている。67は土師器の杯で底部をヘラ調整で仕上げている。68は須恵器の杯で底部をヘラ調整して仕上げている。69は土師器の杯で灯明皿に使用している。71は土師器の杯で底部ヘラ調整で仕上げている。67・70は037号住居跡の覆土中から出土している。70は須恵器の杯でロクロを使用している。72～73は包含層から一括で集められた資料中よりみつかったものである。72は土師器の破片に墨書が書かれている。「佛」と「大十」と書かれている。73は高杯の接合部分の破片である。

(2) 鉄器・石製品 (第318図1～20)

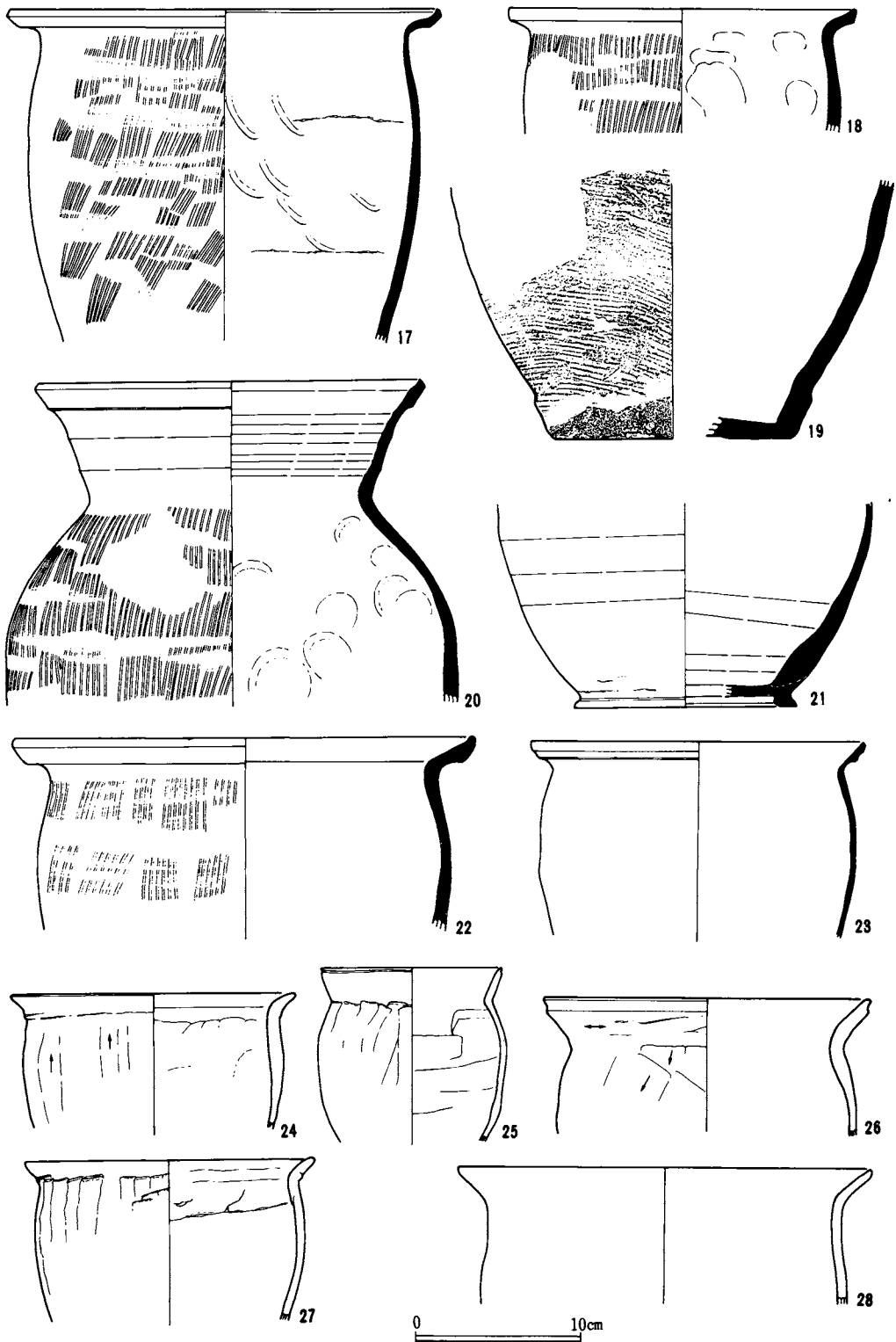
1～3は001号方墳の周溝から出土した鉄鏃である。4～8は002号住居跡から出土した釘である。9・10は001号方墳の周溝から出土した刀子である。11は004号住居跡から出土した釘である。柄の部分に鉄の輪のようなものが付着している。12は包含層から出土している不明の鉄塊である。平なのが特徴である。13～17は刀子である。14は004号住居跡出土の刀子である。15は037号住居跡出土の刀子片である。16は003号住居跡出土の刀子片である。17は包含層一括の刀子である。18は037号住居跡出土の断面が菱形の刀子である。19は002号住居跡出土の鉄製の紡錘車で穴に棒が刺さった状態で残存している。20は凝灰岩製の砥石である。

7. 小結

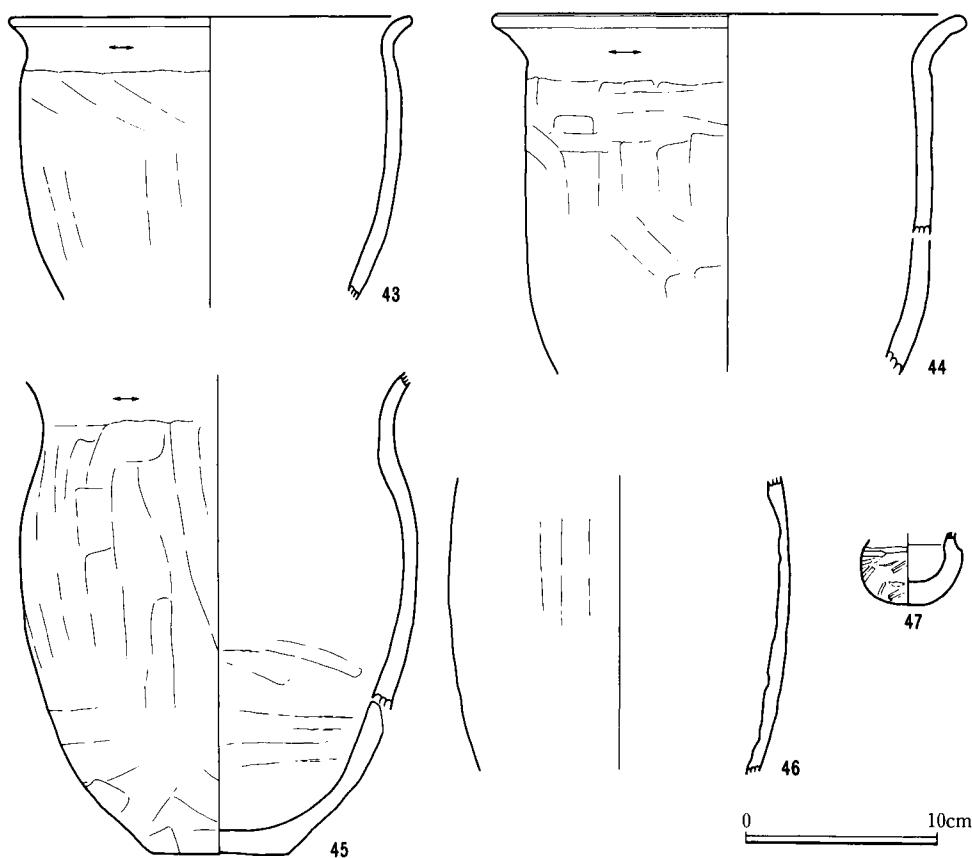
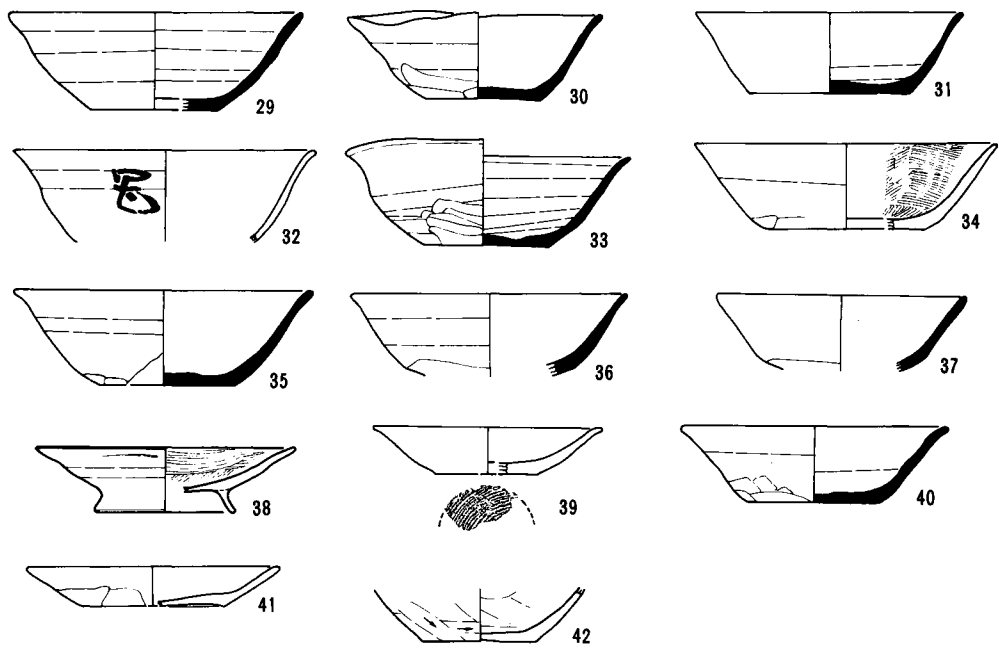
縄文時代から平安時代にかけても他の土気緑の森工業団地内の遺跡と比較して質的に多く問題も多い。方墳の存在や墨書の問題などは全体のまとめで詳しくふれるが、住居跡の多さや焼土遺構の存在など他の遺跡とは全く異った内容の遺跡である。地形的にも他の遺跡より低い位置にある平坦地であり、おそらく遺跡の主体は調査区域の外側まで広がっているようである。ここでは縄文時代中期に小集落が営まれた後、再び平安時代に生活の場として利用された遺跡なのであろう。



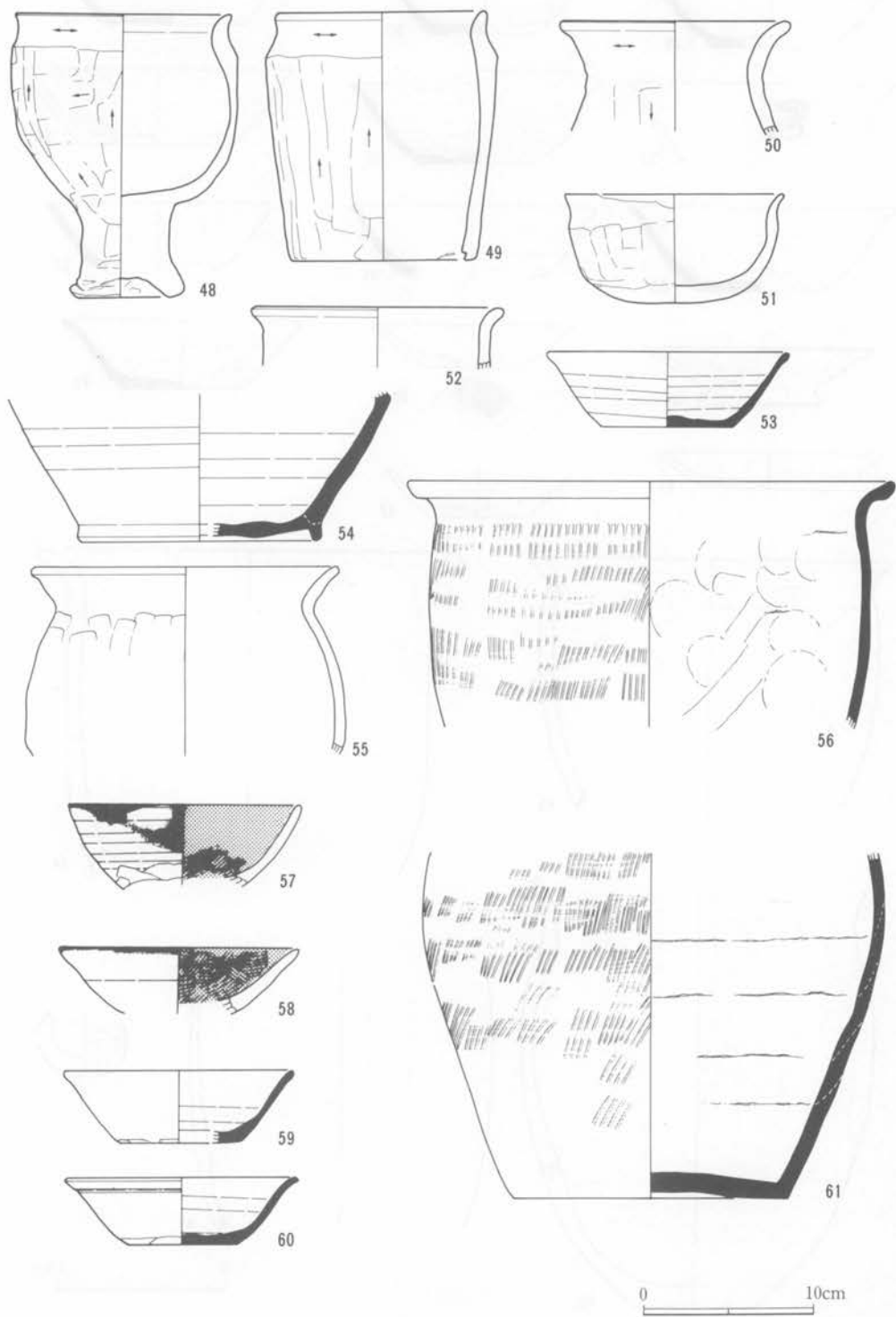
第313図 西大野第1遺跡出土土器(1)(1/4)



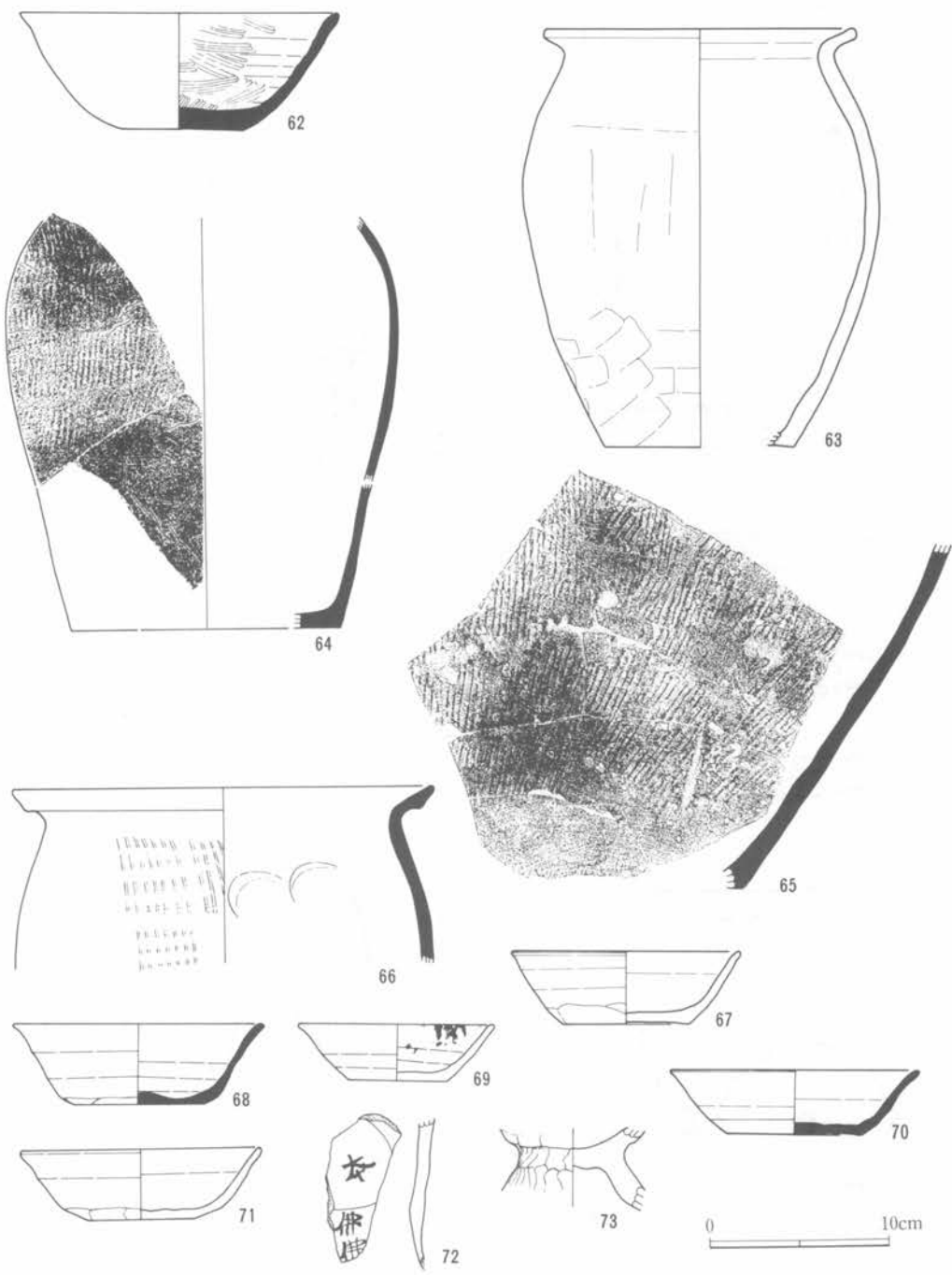
第314図 西大野第1遺跡出土土器(2)(1/4)



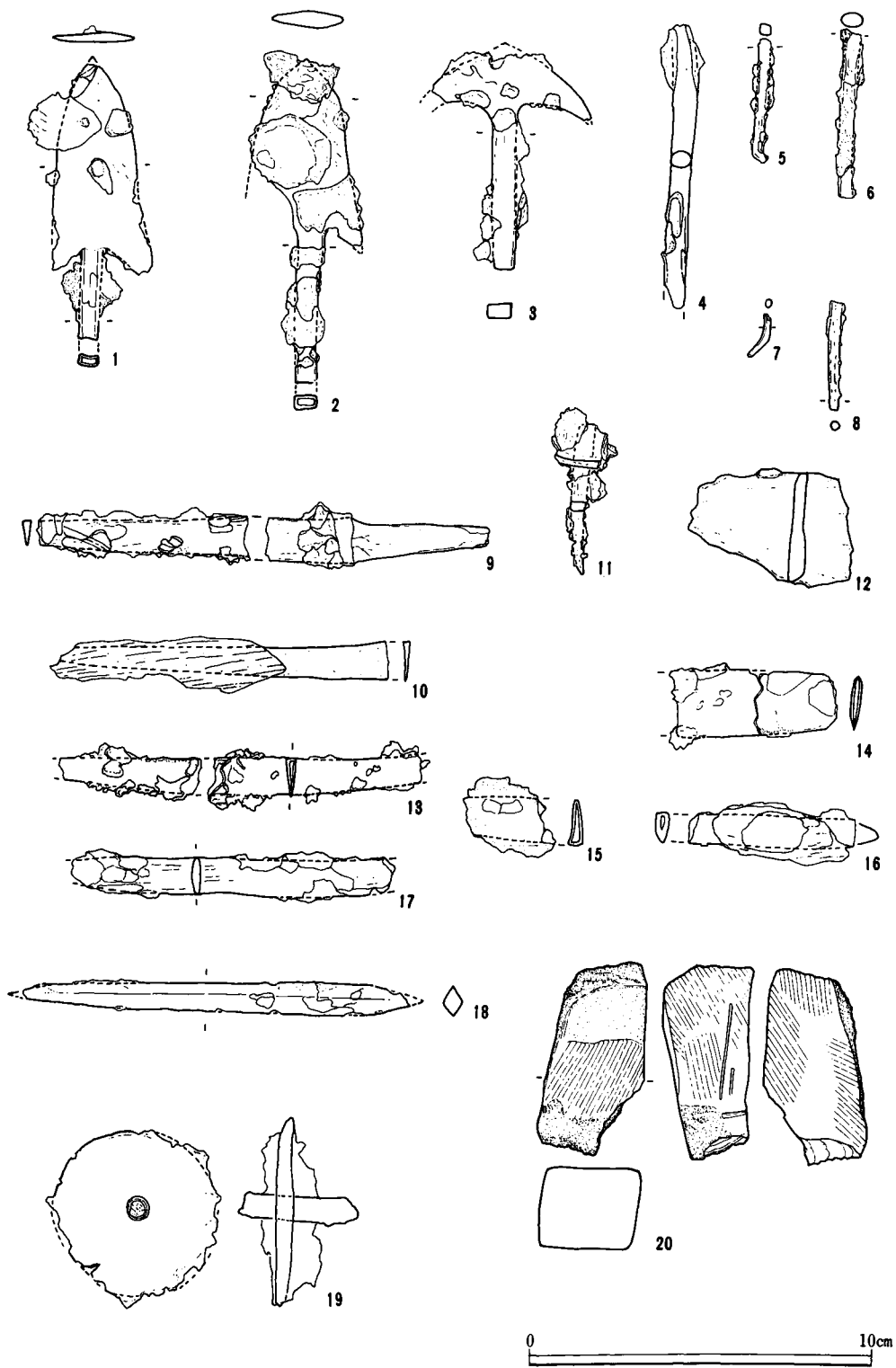
第315図 西大野第1遺跡出土土器(3)(1/4)



第316図 西大野第1遺跡出土土器(4)(1/4)



第317図 西大野第1遺跡出土土器(5)(1/4)



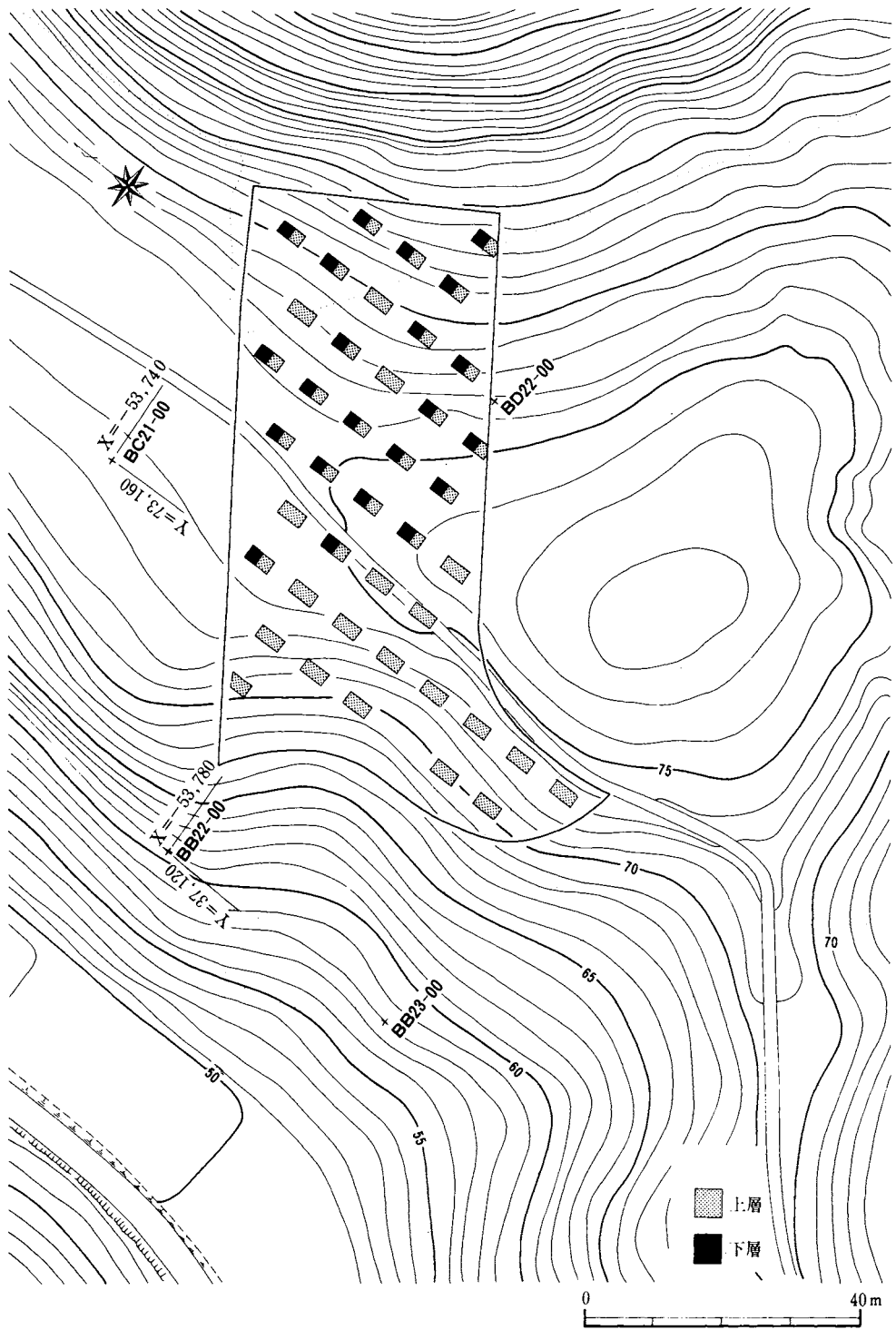
第318図 西大野第1遺跡出土遺物(1/2)

第 13 章

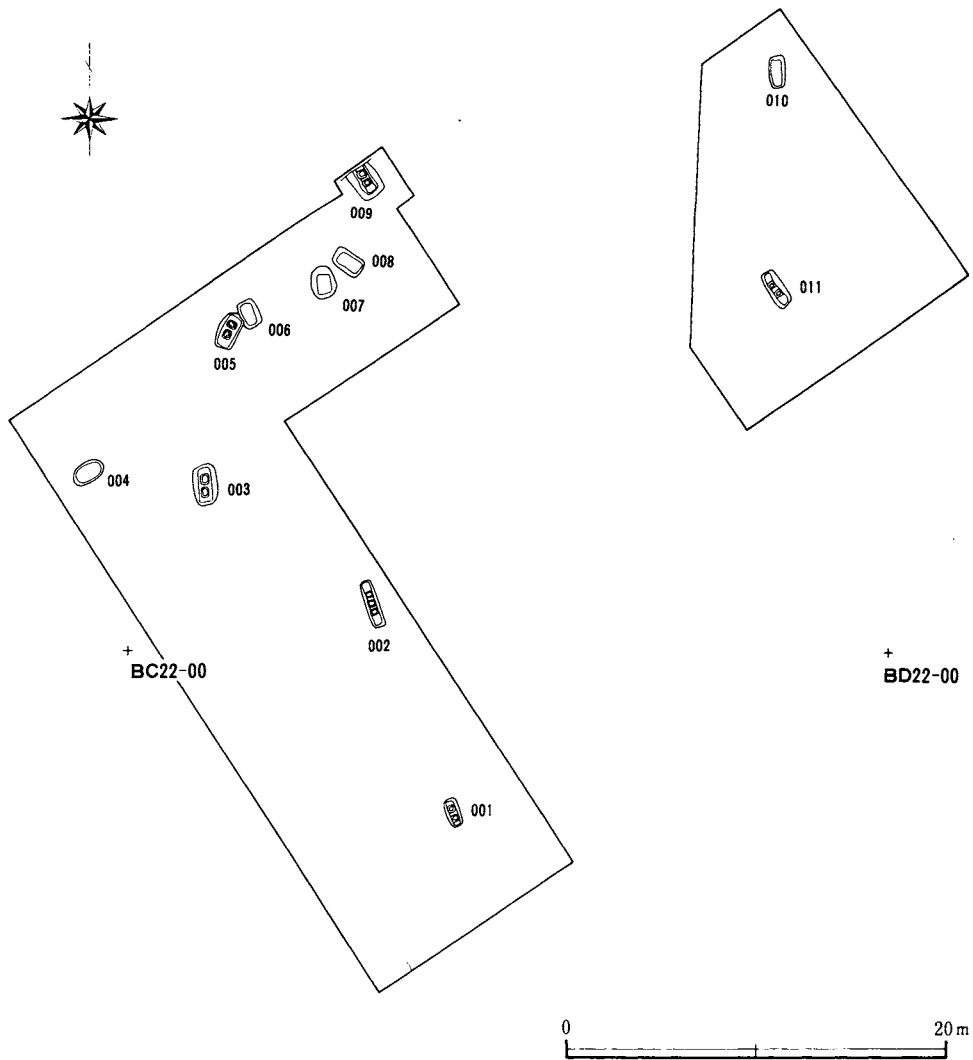
東 大 野 第 1 遺 跡

遺跡コード 201-082

調査担当者 高橋博文



第319図 東大野第1遺跡確認調査グリッド配置図 (1/1000)



第320図 東大野第1遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図 (1/400)

第1節 縄文時代

1. 概要

東大野第1遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が確認され700㎡の本調査を実施した。その結果、縄文時代の土坑11基が検出された。他に若干の遺物がI～II層中から検出された。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 土坑

001号土坑（遺構 第321図）

BC22-24の東1mに位置する。プランは長辺1.42m、短辺0.76mの隅丸方形を呈する。床面はフラットで30cmの方形ピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で0.5mでピットの最深部で0.95mある。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. ソフトロームを多く含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む暗褐色土。5. ロームブロックを多く含む堆積がやや密な暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

002号土坑（遺構 第321図）

BC21-93の南に位置する。プランは長辺2.42m、短辺0.66mの長方形を呈する。床面はフラットで40cm前後のピットを3個持つ。検出面からの深さは床面で40cmで、ピット最深部で48cmある。覆土は1. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ローム粒・褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒を多く含む暗褐色土。4. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや密な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。ただしピットが浅く逆茂木としての機能としては考えにくい。遺物の検出はない。

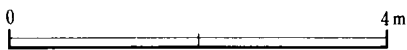
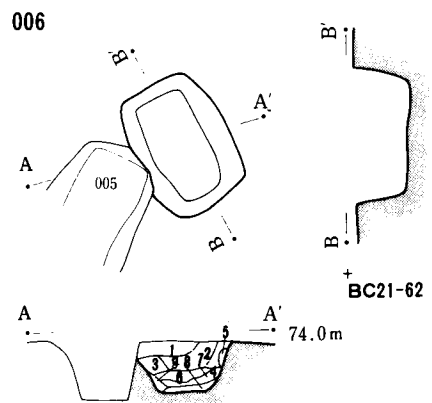
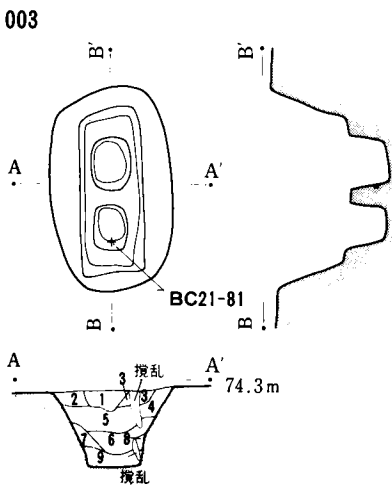
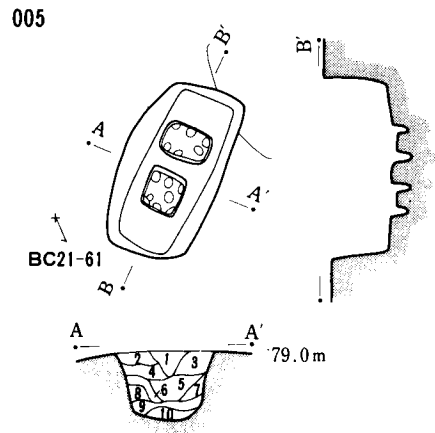
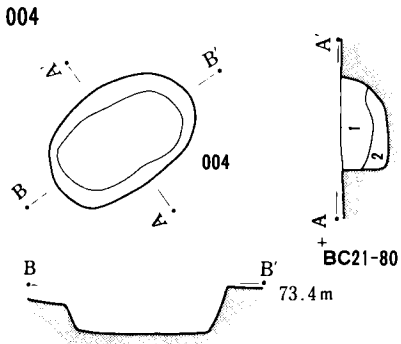
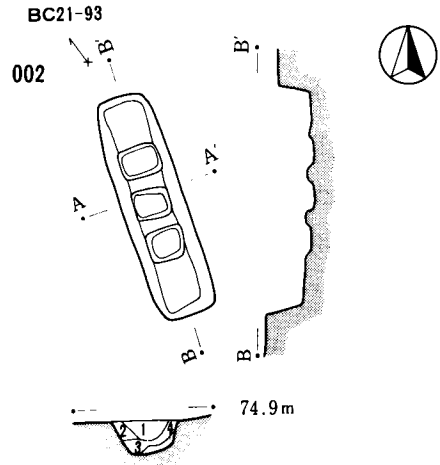
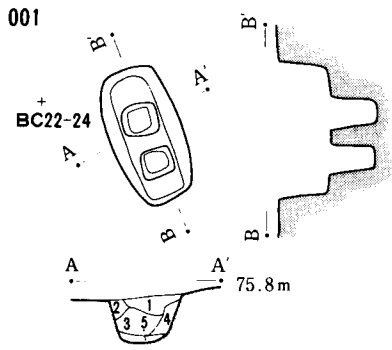
003号土坑（遺構 第321図）

BC21-81に位置する。プランは長辺2.08m、短辺1.26mの楕円形に近い長方形を呈する。床面はほぼフラットで0.5～0.6mの大きなピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で0.8mでピット最深部で1.23mある。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. ロームブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土。5. ローム粒を若干含むロームブロックを少し含む暗褐色土。6. 褐色土ブロックを多く含むローム粒を若干含む暗褐色土。7. ロームブロック（小）を若干含む堆積が疎な暗褐色土。8. ローム粒を少し含む褐色土。9. ロームブロックを少し含む堆積がやや密な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

004号土坑（遺構 第321図）

BC21-80付近に位置する。プランは長軸1.67m、短軸1.09mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約0.5mで床面は比較的フラットで壁もやや急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む非常に粘質が強い暗灰褐色土。2. ロームブロックを多く含む堆積は疎で粘質が強い暗灰褐色土である。形態的には陥穴状遺構ではなく、他の機能を想定したほうがよさそうである。遺物の検出はない。

005号土坑（遺構 第321図）



第321図 東大野第1遺跡縄文時代土坑(1)(1/80)

BC21-61から1m東に位置する。プランは長辺1.85m、短辺1.05mの長方形に近い形を呈する。床面はフラットで2箇所に近い落ち込みがありさらにその中に細かなピットが6個ずつ検出された。検出面からの深さは0.7mでピット最深部までの深さは0.83mある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ソフトロームを少し含む暗褐色土。4. ソフトローム・黒色土を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。6. ソフトロームブロックを少し含む黒褐色土。7. ロームブロックを多く含む黄褐色土。8. ソフトロームブロック・ローム粒を多く含む暗黄褐色土。9. ローム粒を多く含む堆積が密で硬い暗褐色土。10. ロームブロックを少し含む堆積が密で硬い暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

006号土坑 (遺構 第321図)

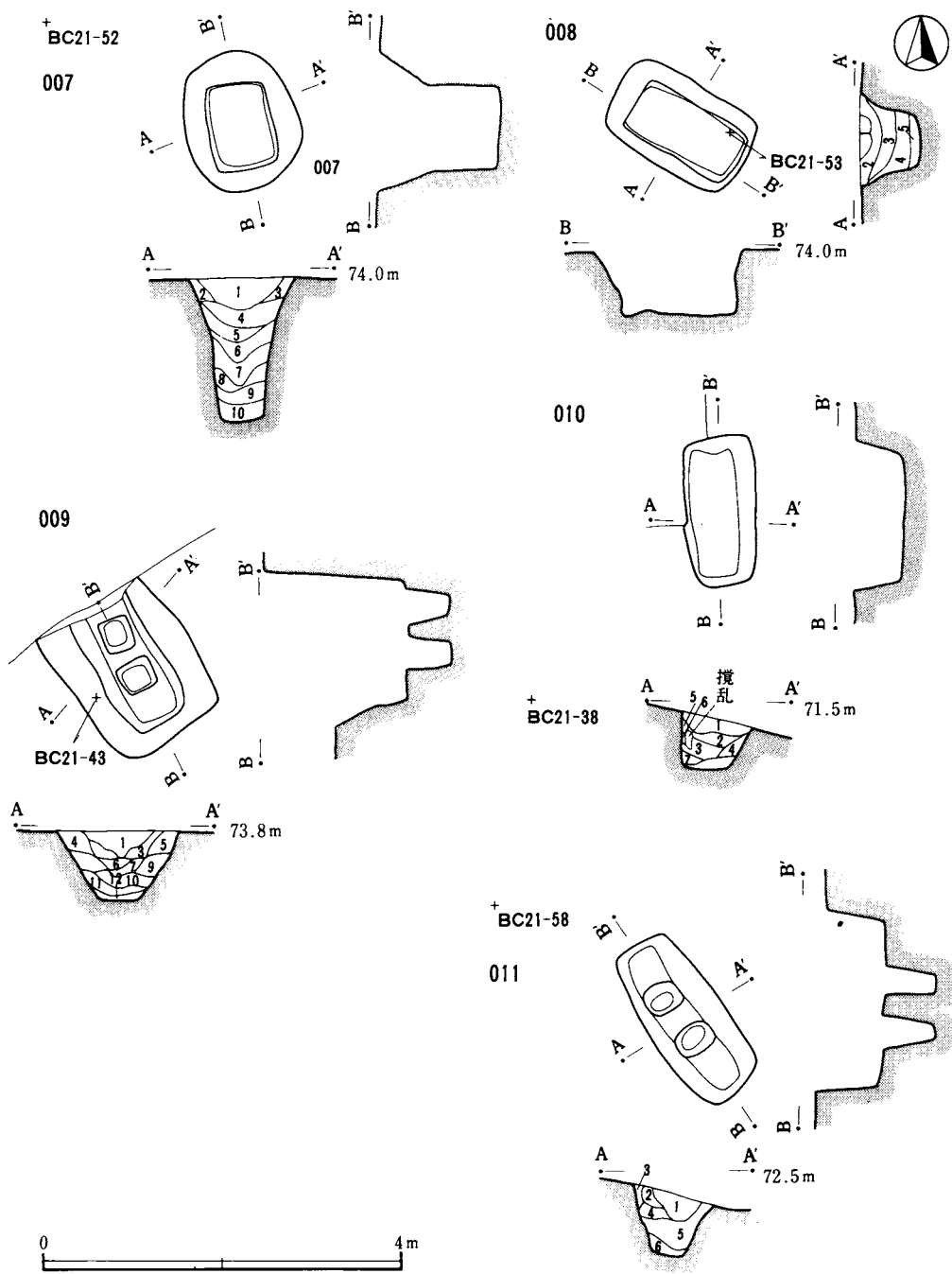
BC21-62から西へ1.5m、北へ1mに位置する。005号と隣接して新旧関係ではこちらの方が古い。プランは長辺1.38m、短辺1mの長方形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面からの深さは0.59mである。覆土は1. ローム粒を少し含む褐色土。2. ロームブロックを少し含む黒色土。3. 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。4. ロームを多く含む暗黄褐色土。5. ロームブロック・ローム粒を非常に多く含む黄褐色土。6. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。7. ローム粒・ソフトロームを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。8. ソフトロームブロックを非常に多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。9. ソフトローム・ロームブロックの層である暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

007号土坑 (遺構 第322図)

BC21-52から東へ2m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.52m、短軸1.25mの楕円形を呈する。床面はほぼフラットで壁はやや外反しながら急激に立ち上がる。検出面からの深さは1.35mである。1. ローム粒を若干・褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。2. ローム粒を若干含む暗褐色土。3. ソフトロームブロックを若干含む暗褐色土。4. ローム粒を若干含む褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。5. ロームブロック(小)を含む暗褐色土。6. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な黒色土。7. ソフトロームブロックを(小)を多く含む堆積がやや疎な黒褐色土。8. ソフトロームブロック(大)を多く含む暗褐色土。9. ソフトロームブロック(小)を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。10. ローム粒を少し含む堆積が疎な黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

008号土坑 (遺構 第322図)

BC21-53に位置する。008号と1m離れて隣接する。プランは長辺1.58m、短辺0.97mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは約0.75mある。床面はほぼフラットで壁際でやや外反



第322図 東大野第1遺跡縄文時代土坑(2) (1/80)

しながら急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックを含む暗褐色土。3. ロームブロックを少し含む暗褐色土。4. ローム粒・ブロックを含む堆積がやや密な褐色土。5. ロームブロックを多く含む堆積が密で硬い褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

009号土坑 (遺構 第322図)

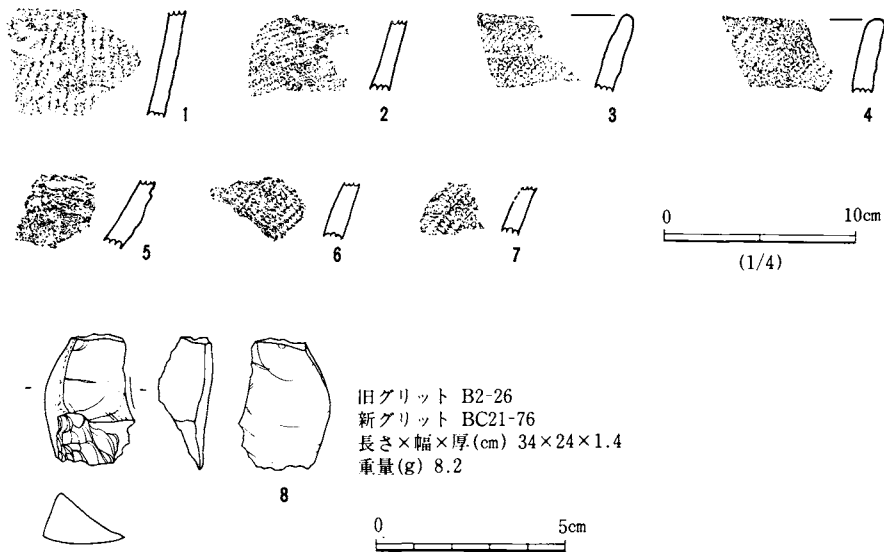
BC21-43に位置する。プランは全掘していないので不明であるが長辺1.6m以上、短辺1.43mの長方形を呈する。床面はややフラットで40cm前後のピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で約0.8m、ピット最深部で1.32mある。壁はやや外反しながら急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒・ブロックを少し含む堆積がやや疎な黒色土。2. 黒色土・ローム粒を少し含む黒褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。4. ローム粒をやや多く含む褐色土。5. ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。6. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な黒色土。7. 褐色土・黒色土を少し含む暗褐色土。8. ソフトロームブロックを若干含む堆積がやや疎な暗褐色土。9. ローム粒・ブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。10. 堆積がやや疎な暗褐色土。11. ローム粒・黒色土を少し含む黒褐色土。12. ローム粒を少し含む堆積が疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

010号土坑 (遺構 第322図)

BC21-38から東へ2m、北へ2mに位置する。プランは長辺1.6m、短辺0.8mの長方形に近い形を呈する。検出面からの深さは床面から0.55mある。床面はやや中央が窪んでいるが壁際に向かってはほぼフラットである。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. ローム粒を若干含む褐色土を少し含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。4. ソフトロームブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な暗黄褐色土。6. ロームブロックを多く含む堆積が疎な暗黄褐色土。7. ロームブロックを若干含む暗褐色土。8. ローム粒・褐色土ブロックを少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

011号土坑 (遺構 第322図)

BC21-58から南へ1m、東へ2mに位置する。プランは長辺1.95m、短辺0.87mの隅丸長方形を呈する。床面はほぼフラットで中程に35cm前後のピットが2個されている。検出面からの深さは約0.85mでピット最深部までの深さは1.3mある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含むローム粒を若干含む黒色土。2. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。3. ロームブロック(小)を少し含むローム粒を多く含む暗黄褐色土。4. ローム粒(大豆大)を少し含む堆積が疎な暗褐色土。5. ソフトロームブロックを多く含む堆積が疎な暗褐色土。6. 褐色土ブロックを若干含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になる



第323図 東大野第1遺跡包含層出土遺物 (1/2)

と思われる。遺物の検出はない。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1)土器(第323図1～7) 遺構の中からはまったく遺物は検出されなかったが調査区内の包含層から土器片が7点検出された。いずれも縄文時代中期の加曾利E式の土器片である。地文に単節の縦方向のRL縄文を施したものが多い。

(2)石器(第323図8)グリット一括遺物として1点検出されている。分厚い縦長の剥片で側辺部に使用痕と思われる小剥離が見られる。石材は緑灰色の珪質頁岩で背面の約1/3は礫面を残す。

4. 小結

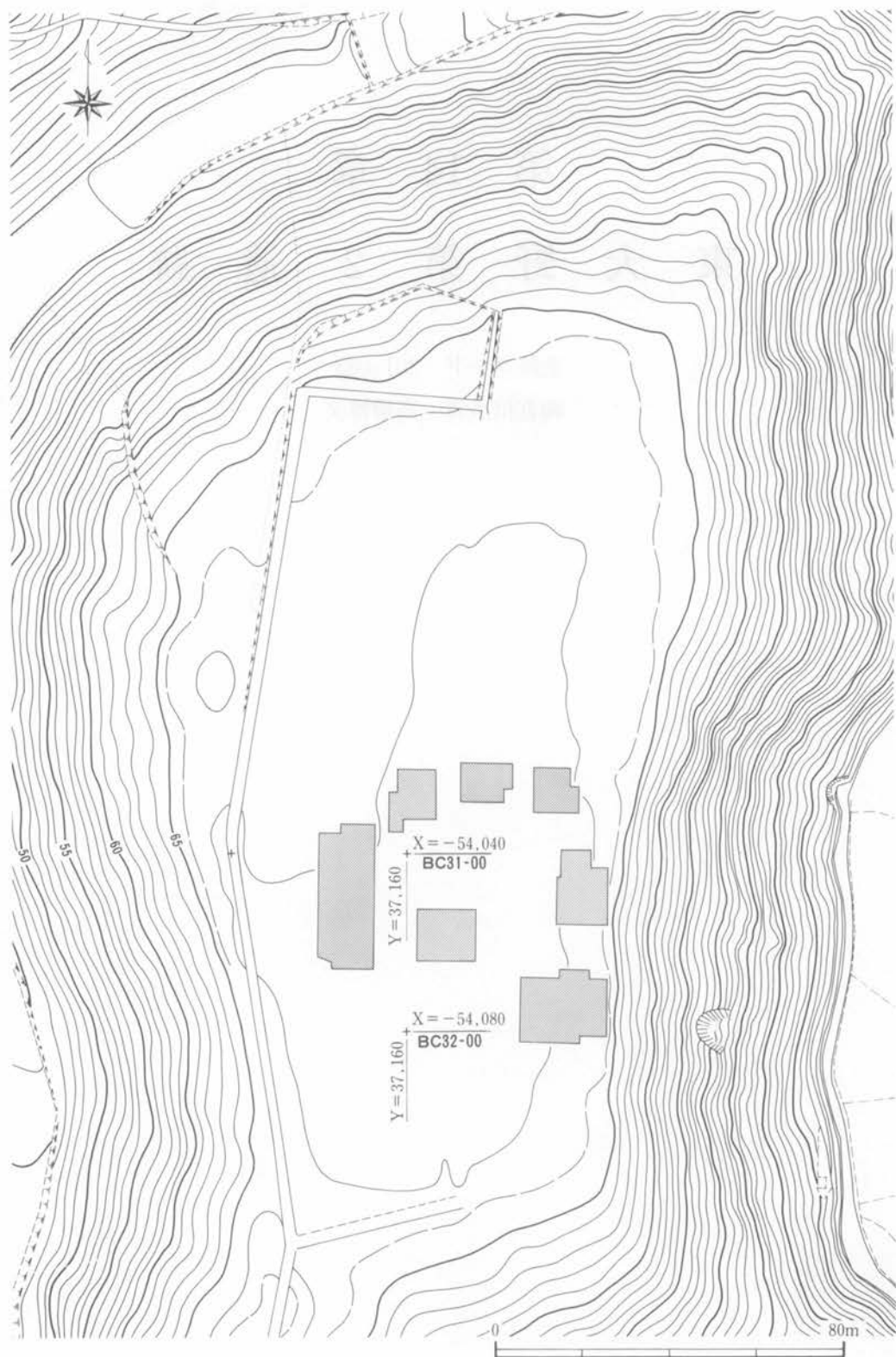
縄文時代の陥穴状遺構と思われる土坑が斜面に沿うように10基検出されており、狩猟場としての性格が強い遺跡である。従って、この遺跡の性格を示すように遺物は縄文時代中期の土器片が散見されているだけである。

第 14 章

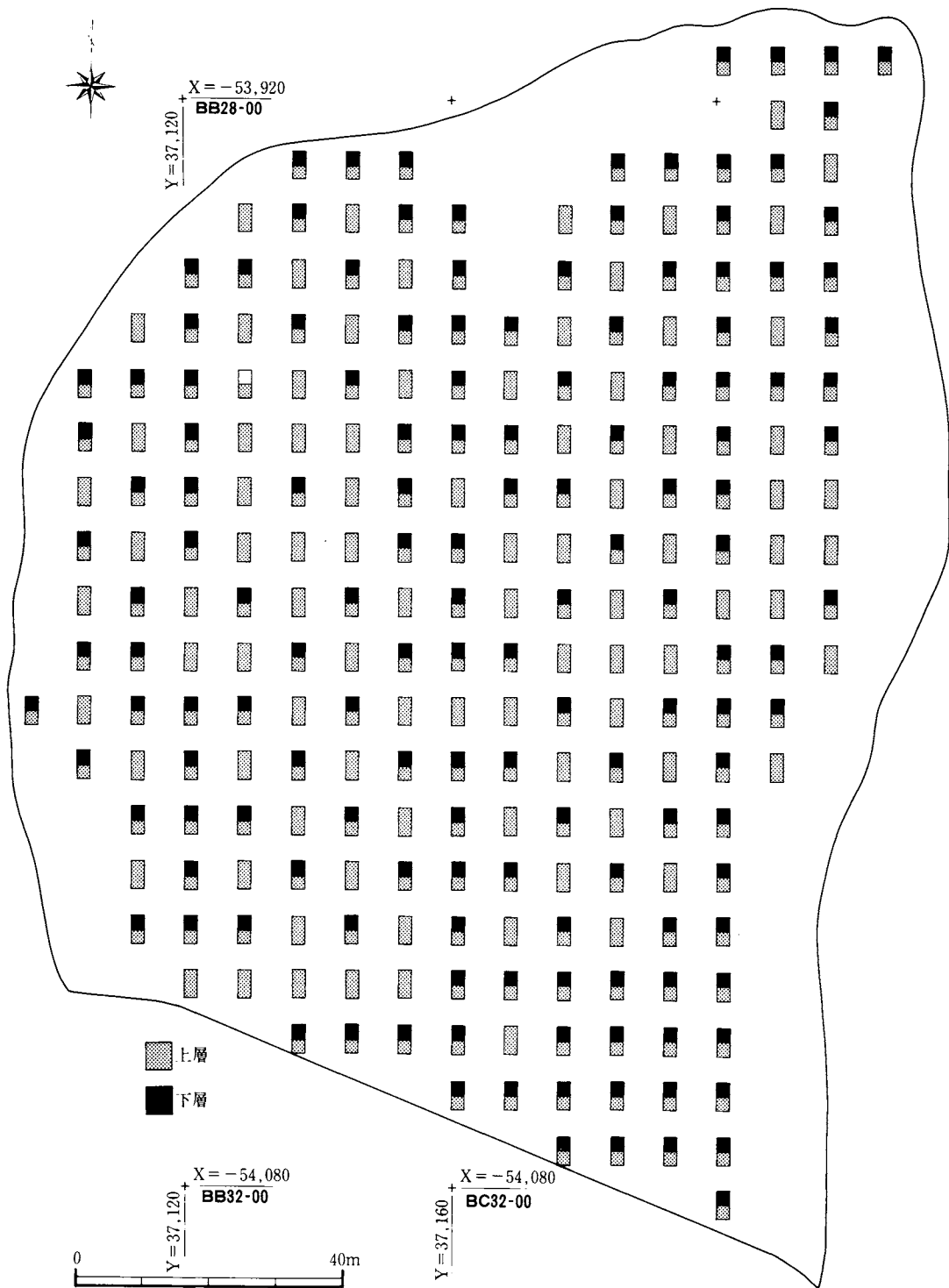
東 大 野 第 2 遺 跡

遺跡コード 201-083

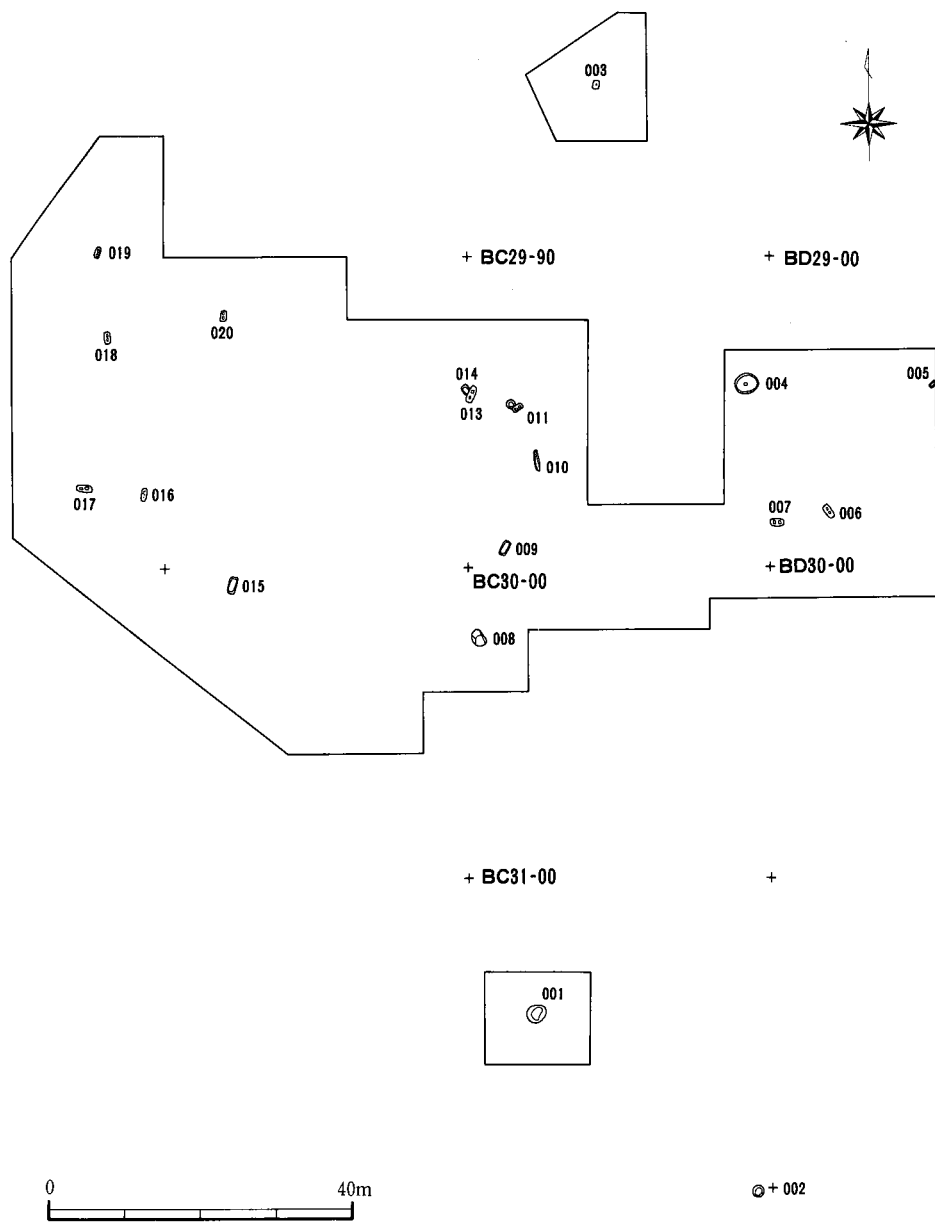
調査担当者 高橋博文



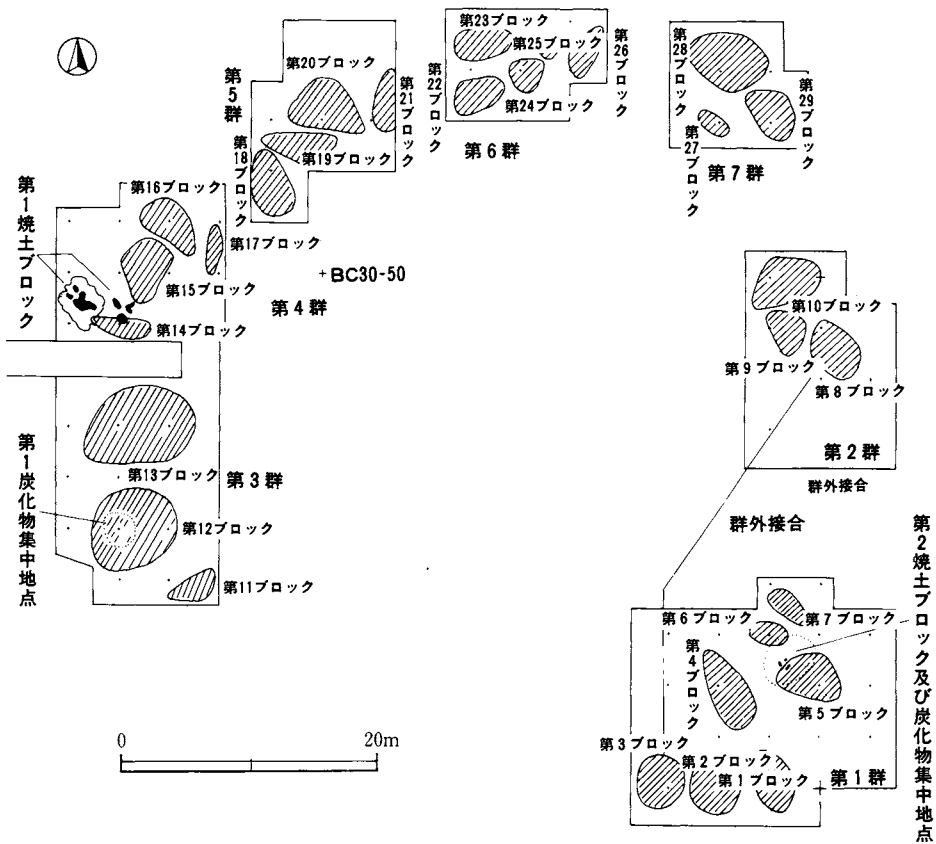
第324図 東大野第2遺跡下層本調査範囲(1/1500)



第325図 東大野第2遺跡確認調査グリット配置図(1/1000)



第326図 東大野第2遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/1000)



第327図 東大野第2遺跡ブロック分布図(1/600)

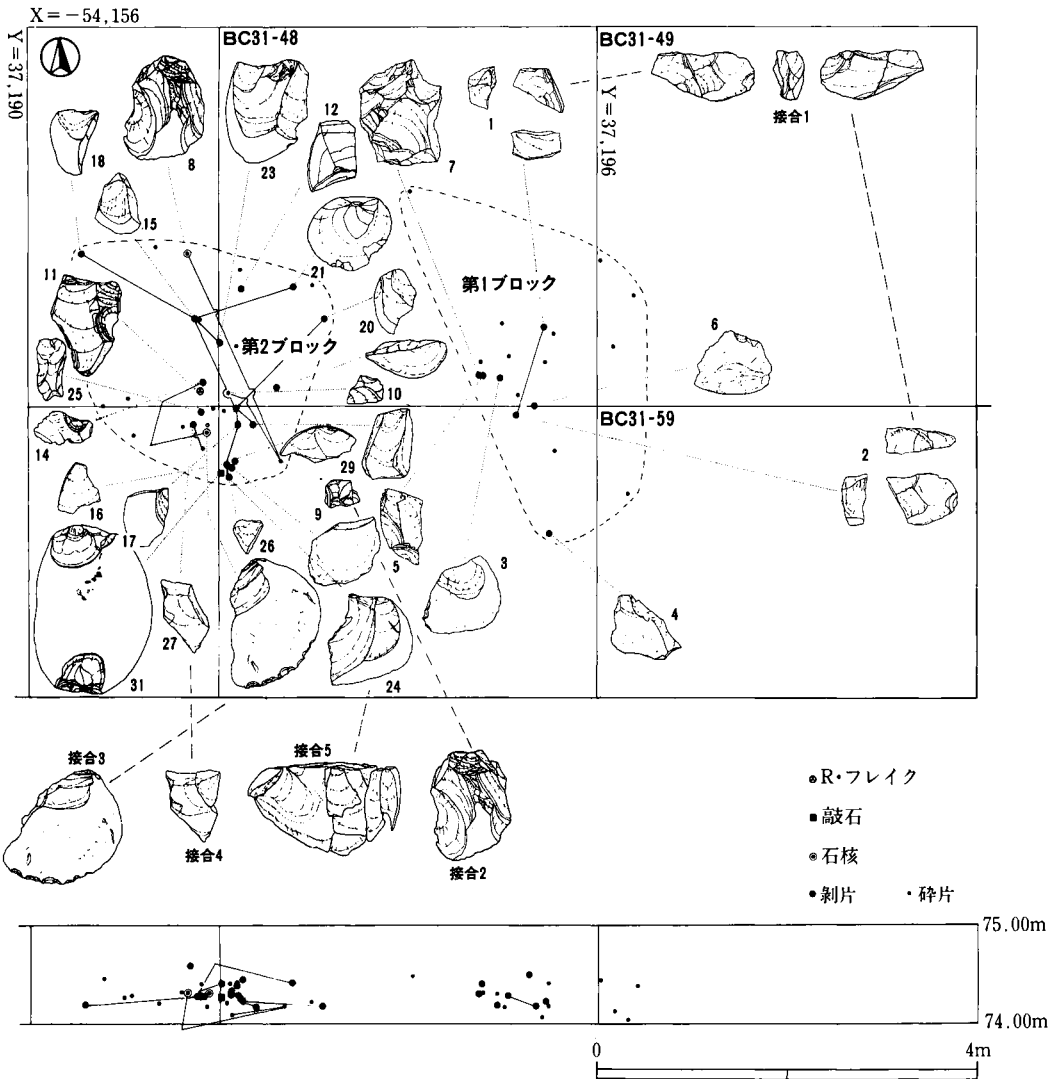
第1節 旧石器時代

1. 層序区分

I層からVI層までは大野遺跡の土層とほぼ同じである。VII層からIX層にかけては大野遺跡等と比較するとやや厚く堆積しておりIX層部分の第2黒色帯の下層部分も他の遺跡に比較して黒味が増している。石器の大部分はこの層から出土している。

2. 概要

東大野第2遺跡では上層の確認調査・本調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。そ



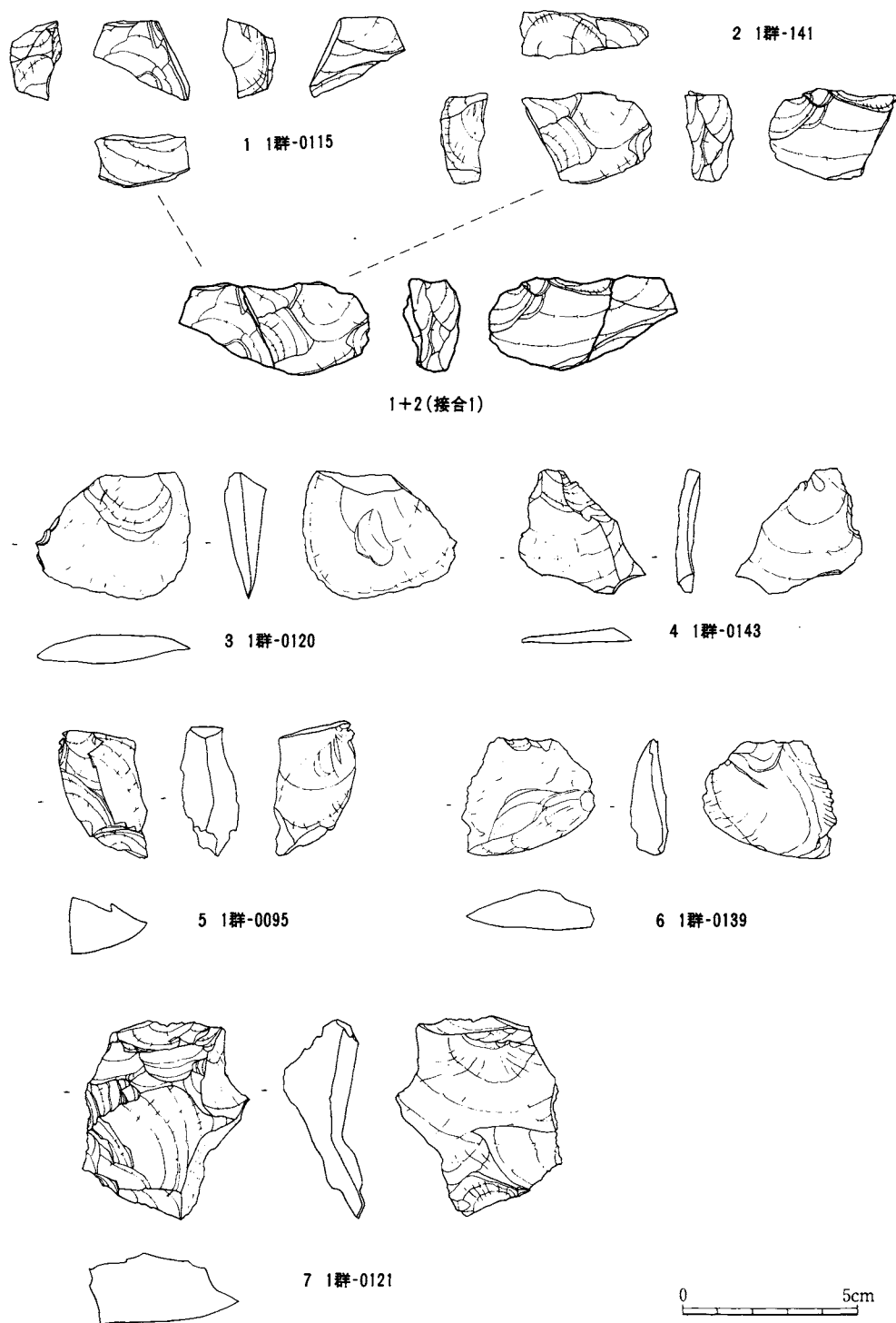
第328図 東大野第2遺跡第1群・第1・2ブロック遺物出土状況(1/80)

の際に大きく7群になる遺物を検出した。本調査を実施しその結果IX層相当のブロックは7群29か所で検出された。他に遺物と近接して2か所の焼土ブロックと炭化物集中地点が検出された。

3. 第1ブロック (第1群)

(1) 分布状況

BC31-59グリットのやや西側を中心にして18点検出された。分布状況は2～3.5mの範囲に比較的まとまって分布している。約2m西には第2ブロックがある。石材は安山岩のみで構成



第329図 東大野第2遺跡第1群・第1ブロック出土石器(1/2)

される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は18点である。器種組成は、剥片7点、碎片11点である。石材構成は安山岩①18点の単純な組成を示している。

(3) 出土遺物

剥片（第329図1～7）1・2の接合資料1はもともと同一の剥離の際生じたものと思われる。他の剥片もやや先端部の広がった台形に近いものが多くなおかつ礫面の観察されるものもみられる。7のように背面に多方面からの剥離が観察できる剥片もあり剥片剥離の一端を垣間みることができる。

4. 第2ブロック（第1群）

(1) 分布状況

BC31-58グリットを中心に35点検出された。分布状況は3～3.5mの範囲に比較的まとまっている。第1ブロックから約東へ2mに位置する。石材は泥岩・安山岩・黒曜石・頁岩の4種類で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器類の総数は35点である。器種組成は敲石1点、削器1点、R・フレイク1点、石核1点、剥片16点、碎片15点である。石材構成は泥岩①24点、安山岩①9点、黒曜石①1点、頁岩②1点である。

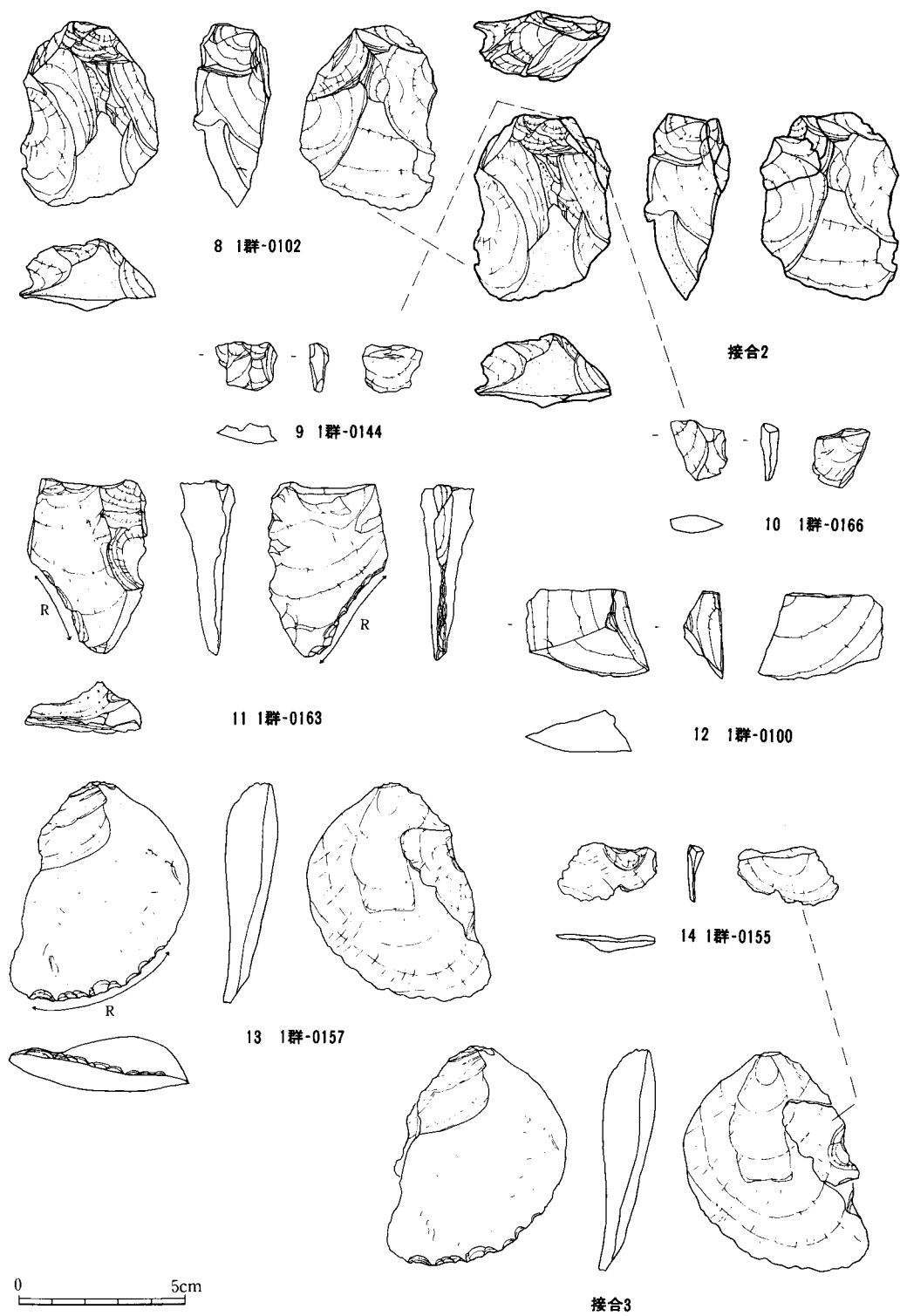
(3) 出土遺物

敲石（第322図31）頁岩製の敲石である。上下両端に大きく打痕が観察できる。あるいは原石であるのかもしれないが他にこの石材の剥片がないことから敲石と考える。

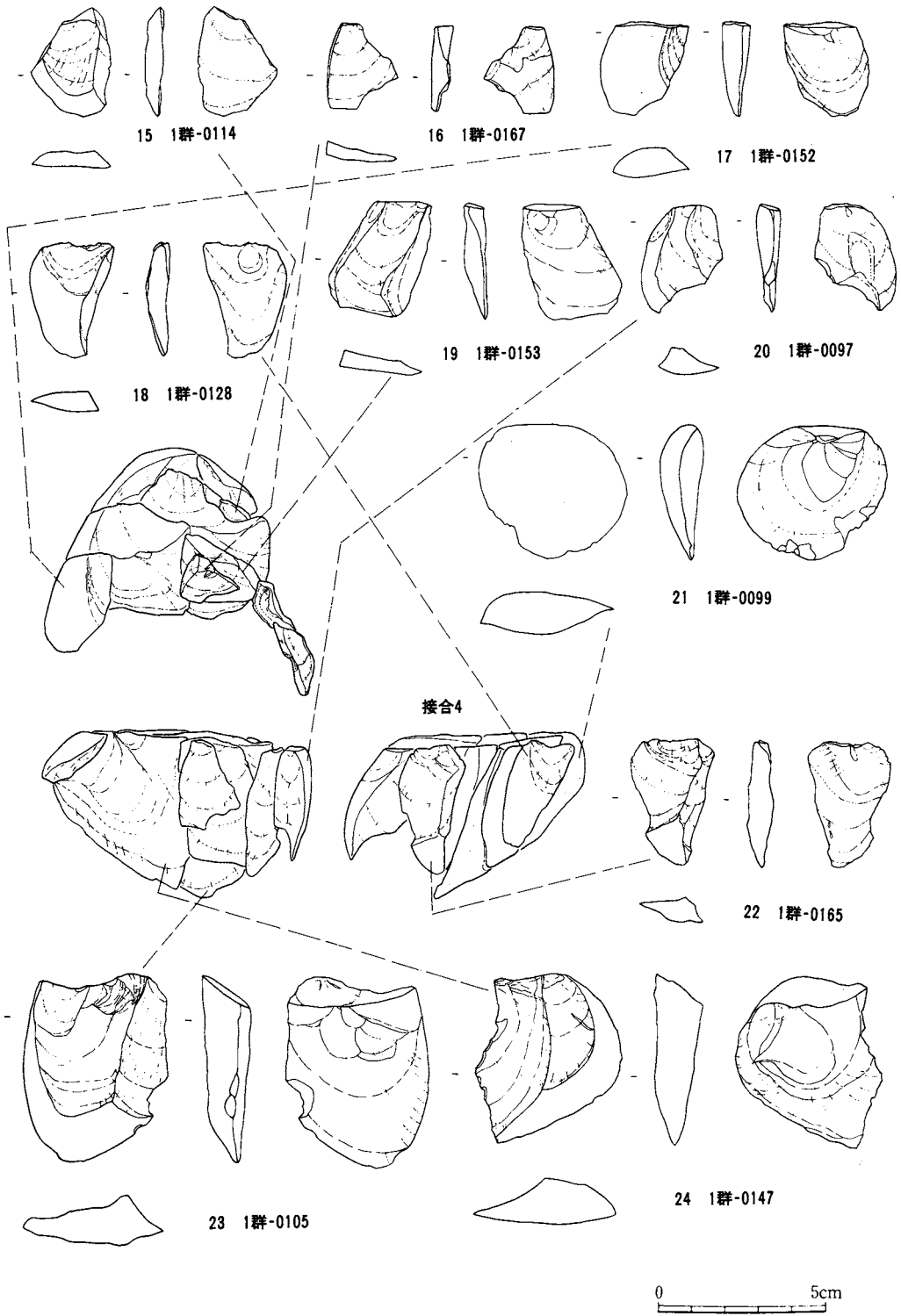
石核（第330図8）安山岩製の石核で大形剥片として剥離後に表裏とも多方面からの剥離が行われたものと思われる。接合資料10として接合した9・10の小剥片から考えても大きく整った剥片は作出できたとは思われない。背面に一部自然面を残している。

R・フレイク（第330図11・13）11は安山岩①製のR・フレイクで縦長剥片の片側側辺部分に連続的な小剥離痕が見られる。剥片そのものはやや分厚い。13は背部に礫面の残った比較的大きめの剥片の先端部から側辺部にかけて連続的な小剥離痕が見られる。いずれも主剥離面から背部にかけての加工痕である。14の小剥片とは接合資料3を構成している。石核として再利用していると考えられるが先後関係は定かではない。

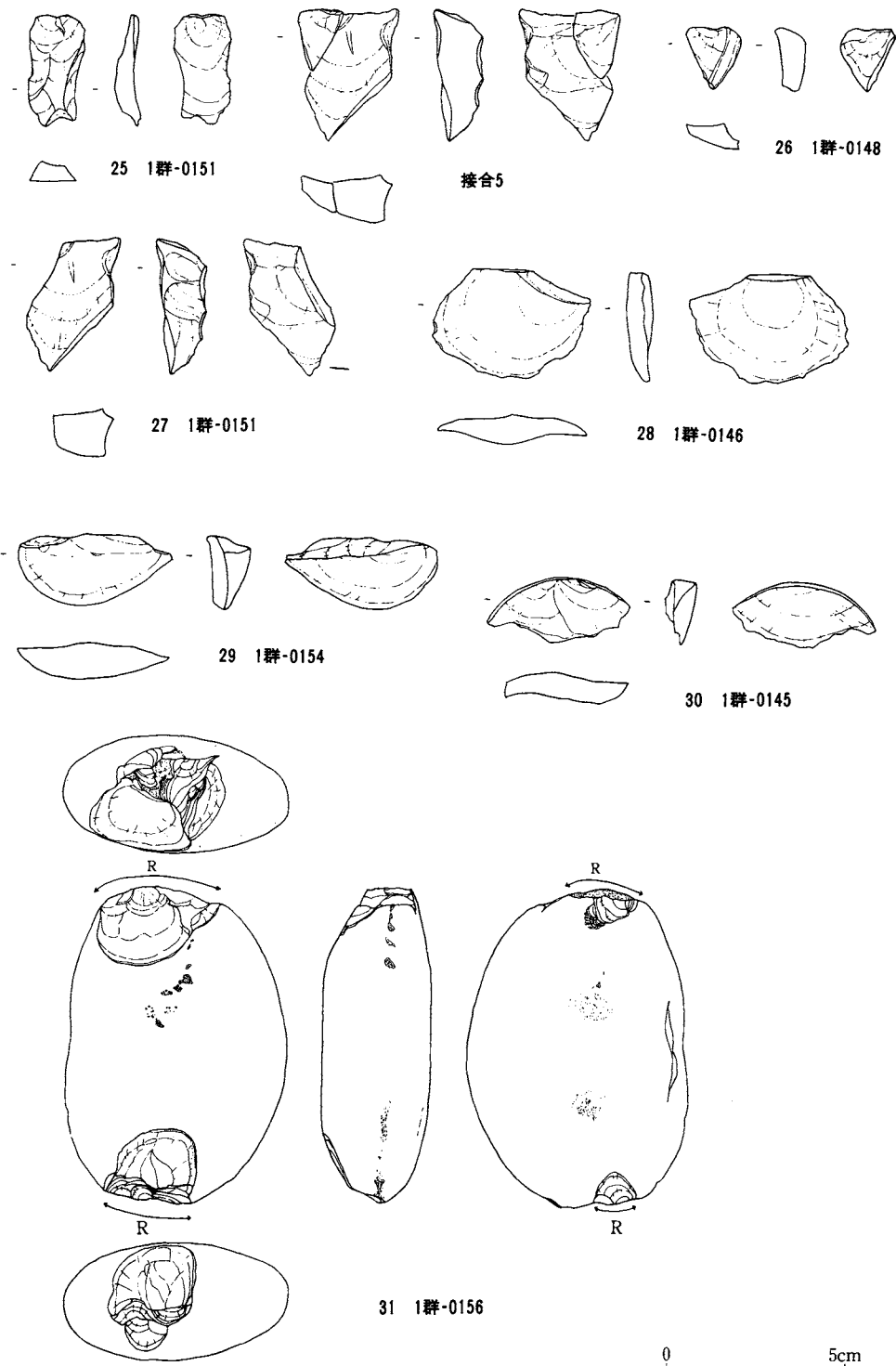
剥片（第330～332図12・15～30）12は安山岩①製の剥片で打面側が折れている剥片である。比較的分厚く打面が転移していることがうかがわれる。15から30は泥岩①製の剥片類で15～24までは接合資料4を構成する。比較的剥片作出の工程を復元できる資料である。まず比較的大



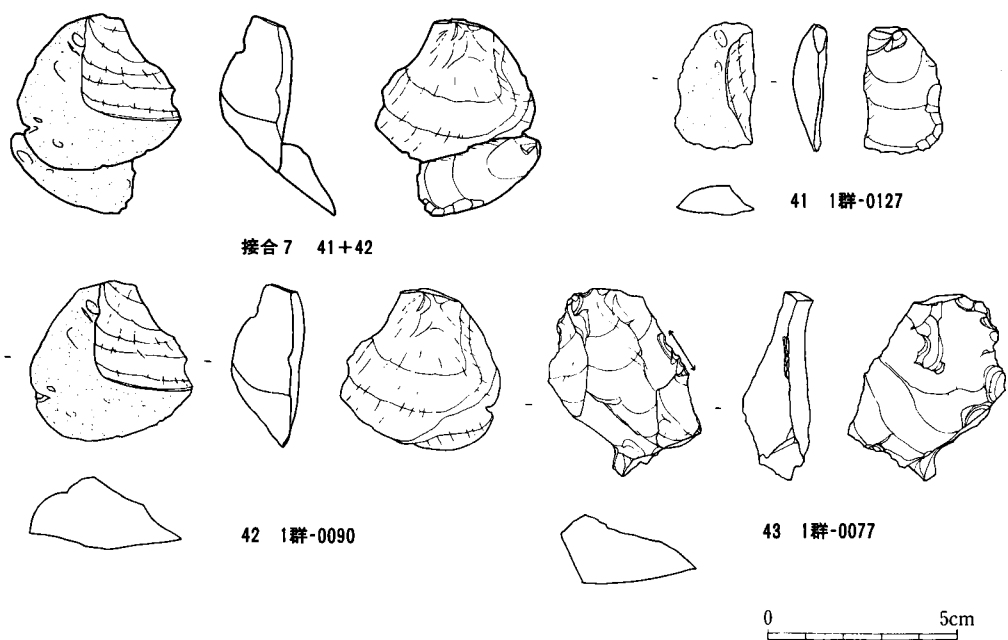
第330図 東大野第2遺跡第1群、第2ブロック出土石器(1)(1/2)



第331図 東大野第2遺跡第1群・第2ブロック出土石器(2)(1/2)



第332図 東大野第2遺跡第1群・第2ブロック出土石器(3)(1/2)



第333図 東大野第2遺跡第1群・第3ブロック出土石器(1)(1/2)

きめの楕円礫の一部を割り作業面を確保する。この作業面の片側より反対側に向かって左右に打点をずらしながら剥ぎとりを進めている。ここでの大部分の剥片の先端に近い部分や背部に残る礫面がそのことを証明している。ただし打面調整のための剥片とコアにあたる残核は別ブロックへ移動したと思われみられない。

5. 第3ブロック (第1群)

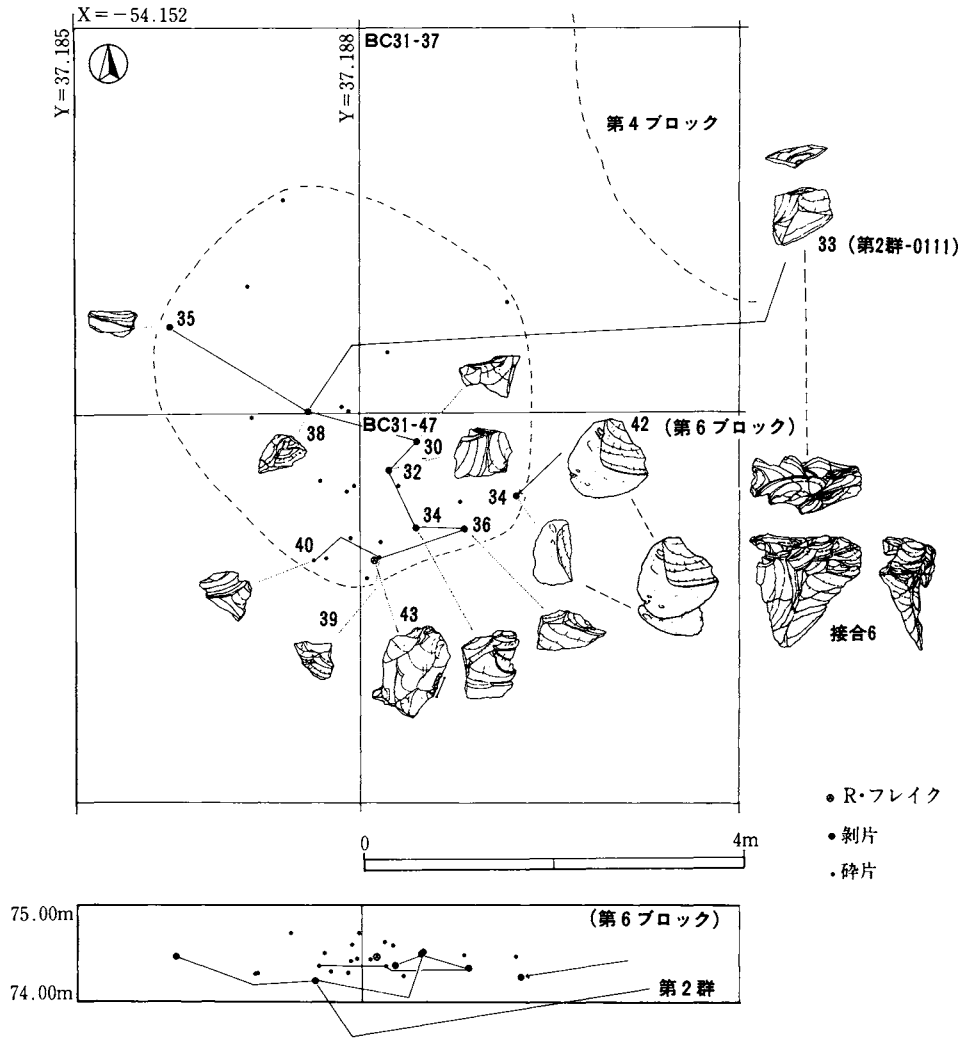
(1) 分布状況

B C 31-47グリットを中心にして23点検出された。分布状況は径ほぼ4mの範囲に比較的まとまって分布している。約2m南東には第2ブロックがある。石材は安山岩と黒曜石と珪質頁岩で構成される。

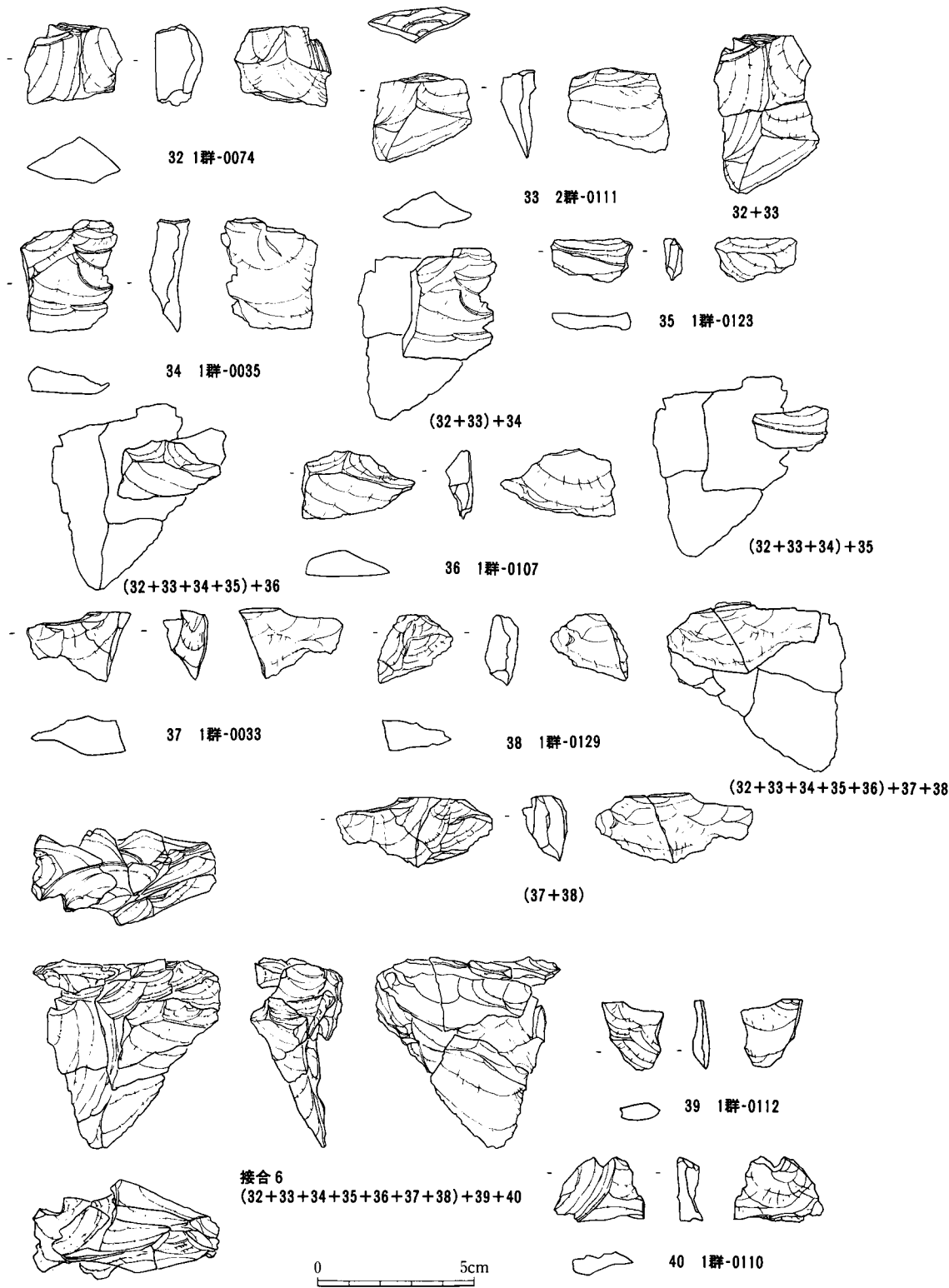
(2) 石器組成

検出された石器の総数は23点である。器種組成は、R・フレイク1点、剥片7点、碎片15点である。石材構成は安山岩①16点、黒曜石①6点、珪質頁岩①1点である。

(3) 出土遺物



第334図 東大野第2遺跡第1群・第3ブロック遺物出土状況(1/80)



第335図 東大野第2遺跡第1群・第3ブロック出土石器(2)(1/2)

R・フレイク（第333図43）珪質頁岩①製のR・フレイクで縦長剥片の先端部に近い側辺部に連続的な比較的細かな小剥離がみられる。

剥片（第333～335図32～42）安山岩①の剥片と小剥片・碎片等で構成される接合資料6と接合資料7で構成される。接合資料6は礫面は全く観察されないところから比較的剥片剥離が進んだ段階で剥がされたものと考えられる。また33は意識的に折られて第2群の8ブロックへ移動している。他の剥片等も寸詰まりのやや幅広のものが多くみられる。また打面は著しい移動が観察できる。接合資料7は41・42ともに背面を礫面が覆う。礫の外皮にあたる部分であるが既に直角方向への打面転移がみられる。42は第6ブロックの遺物であり密接な関係がうかがわれる。またこれらの接合資料からは第2ブロックでの珪質頁岩とは異なった剥片剥離工程が想定される。

6. 第4ブロック（第1群）

(1) 分布状況

BC31-38グリットを中心にして22点検出された。分布状況は5～6mの範囲にやや散漫に分布している。約4m南には第1ブロックがある。石材は安山岩と珪質頁岩と頁岩で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は22点である。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、石核3点、U・フレイク1点、刃器状剥片1点、剥片7点、碎片8点である。石材構成は安山岩①17点、珪質頁岩③3点、安山岩②1点、頁岩①1点である。

(3) 出土遺物

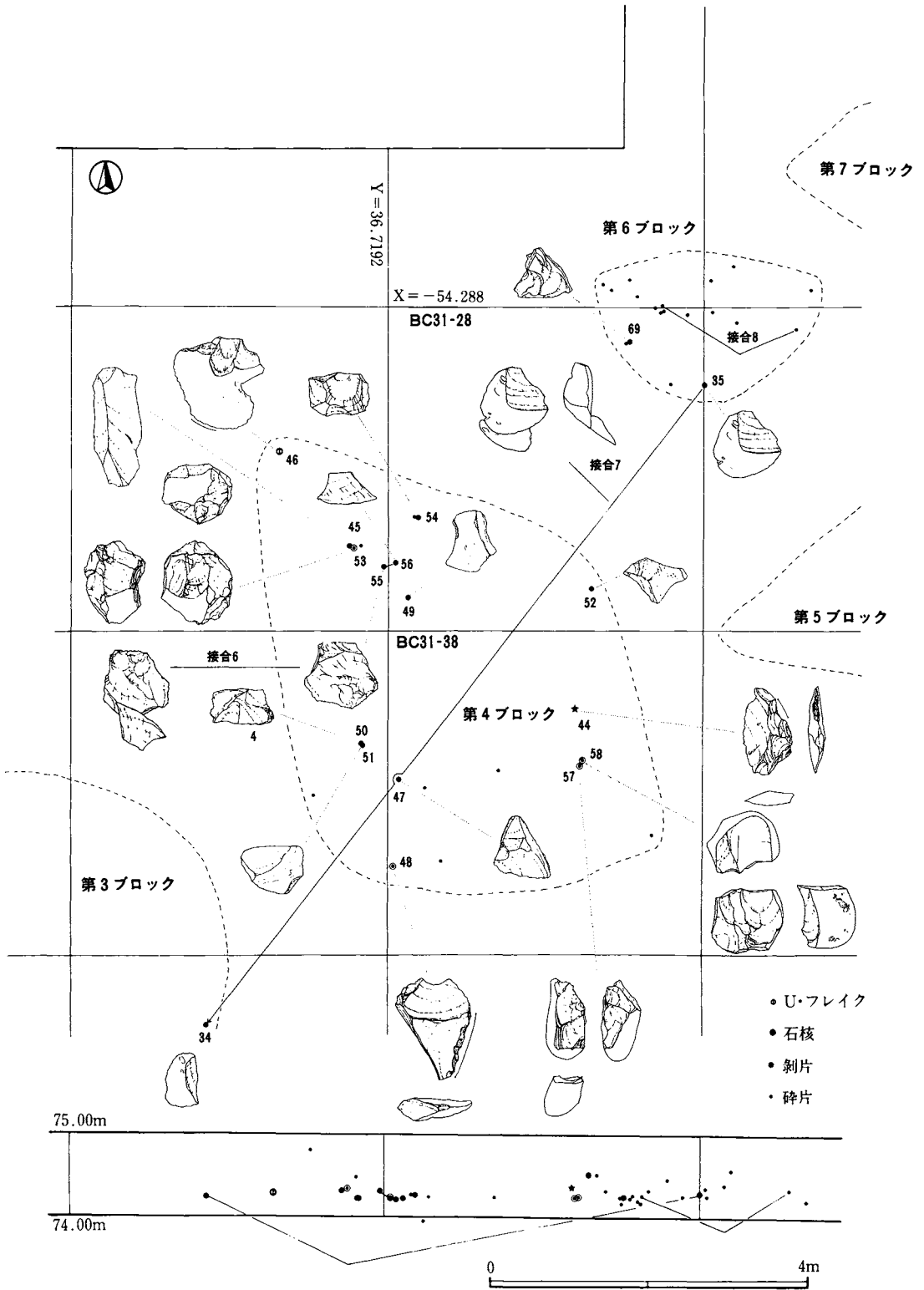
ナイフ形石器（第338図44）安山岩②製（やや①と比較して粒が細かい）のナイフ形石器である。横長剥片の打面側に一部大きな背潰し加工を施している。刃部側には使用痕と思われる微細な剥離が不連続にみられる。

削器（第338図48）比較的大きく薄目の剥片の縁辺部に連続的なやや大きめの剥離を施している。削器として使用したのちに石核として再利用した形跡が窺われる。

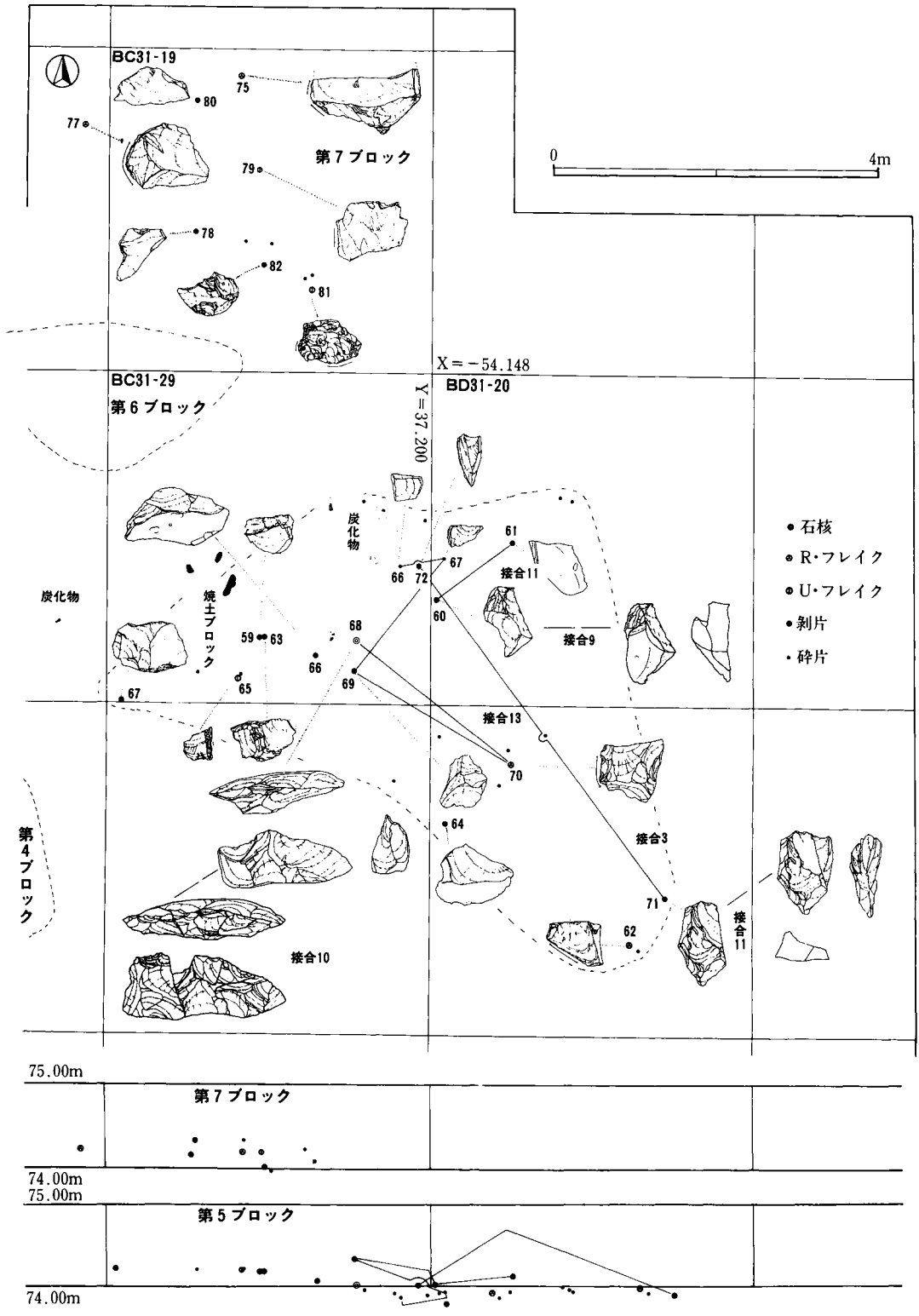
石核（第338～339図53・57・58）53は一部に礫面を残す石核で打面再生等を行わず任意の方向から小剥片を剥ぎとった様子がうかがわれる。57は珪質頁岩の円礫で最初の剥離面を打面にして同じ方向へ小剥片を剥ぎとった様子のうかがわれる石核である。58は頁岩の円礫で57と同様な方法で小剥片を剥ぎとっている。礫面に打痕が見られるところから敲石としても使用された可能性もうかがわれる。

U・フレイク（第338図46）比較的大きく薄目の剥片の先端部にやや不連続の浅目の小剥離痕が見られる。背部は打面側を除き礫面で覆われている。

刃器状剥片（第338図45）安山岩①製の刃器状剥片で他にこの様な縦長の剥片はみられないこ



第336図 東大野第2遺跡第1群・第4・6ブロック遺物出土状況(1/80)



第337図 東大野第2遺跡第1群・第5・7ブロック遺物出土状況 (1/80)

とから偶然作出された可能性が高い。背部は2条の同方向の剥離が見られる。やや途中で折れ曲がっている。使用痕のようなものはみられない。

剥片(第338~339図47・49~52・54~56)全て安山岩の剥片である。55と56は接合資料8である。いずれの剥片も短く幅広のものが多く。しかも背部は多方向の剥離痕が認められる。

7. 第5ブロック(第1群)

(1) 分布状況

BC31-30グリットを中心にして27点検出された。分布状況は5~6mのやや三角形の範囲にやや散漫に分布している。約2m西には第4ブロックがある。石材は安山岩と黒曜石と玄武岩で構成される。尚北側の遺物のない部分に第2焼土ブロックと炭化物集中地点がみられる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は27点である。器種組成は、Rフレイク2点、Uフレイク1点、剥片9点、碎片16点である。石材構成は安山岩①21点、黒曜石①5点、玄武岩①1点である。

(3) 出土石器

R・フレイク(第339・341図62・77)62は黒曜石①製の剥片で先端部を中心にした縁辺部に比較的細かな連続的な剥離が施されている。70は安山岩①製の剥片で縁辺に連続的な比較的大きめな調整を施している。接合資料10のうちの1点である。

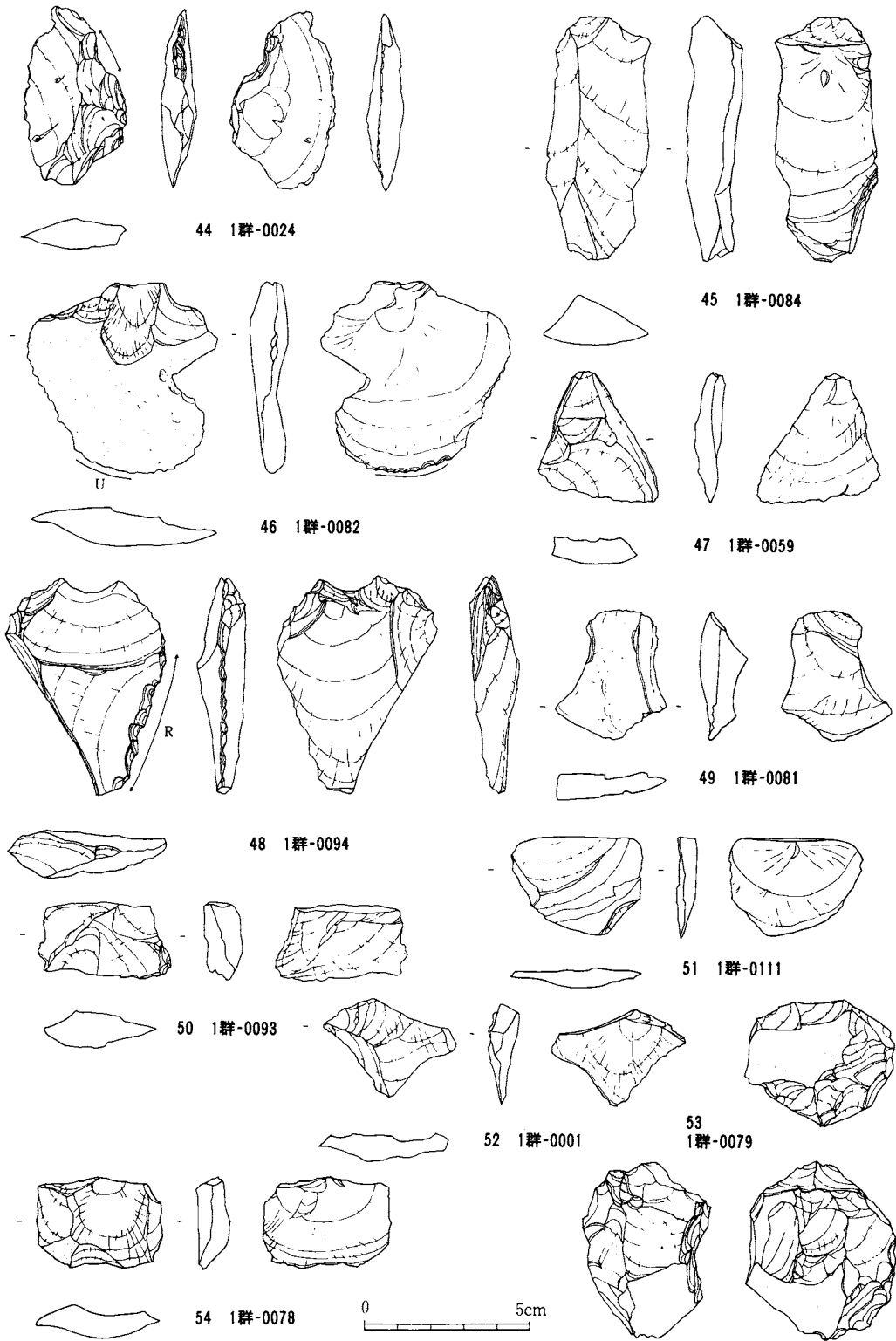
U・フレイク(第341図65)黒曜石①製の頭部切断の剥片で側縁部に不規則な微細剥離痕がみられる。

剥片(第339~341図60・61・63・64・66・67・69・71~74)60・61は安山岩①製の接合資料9の剥片で両者とも比較的縦長を呈する。背部は横方向の剥離面と礫面で構成される。63は黒曜石①製の剥片で一部折れている。64は安山岩①製の剥片で台形様を呈する。礫の外皮に近い部分の形のままの剥片であろう。66~70までは安山岩①製の接合資料10の剥片等である。棒状に横長に剥ぎとった剥片を石核の素材として比較的小さな剥片を作出している。71と72は安山岩①製の接合資料11で大きな剥片を分割したものであるがブロックの南北にかなり離れてみつかっており意識的に分離されたものと考えられる。73・74も安山岩①製の剥片である。73は横長の剥片で背部は礫面が占める。74は上下に打痕がみられるやや長方形に近い剥片である。

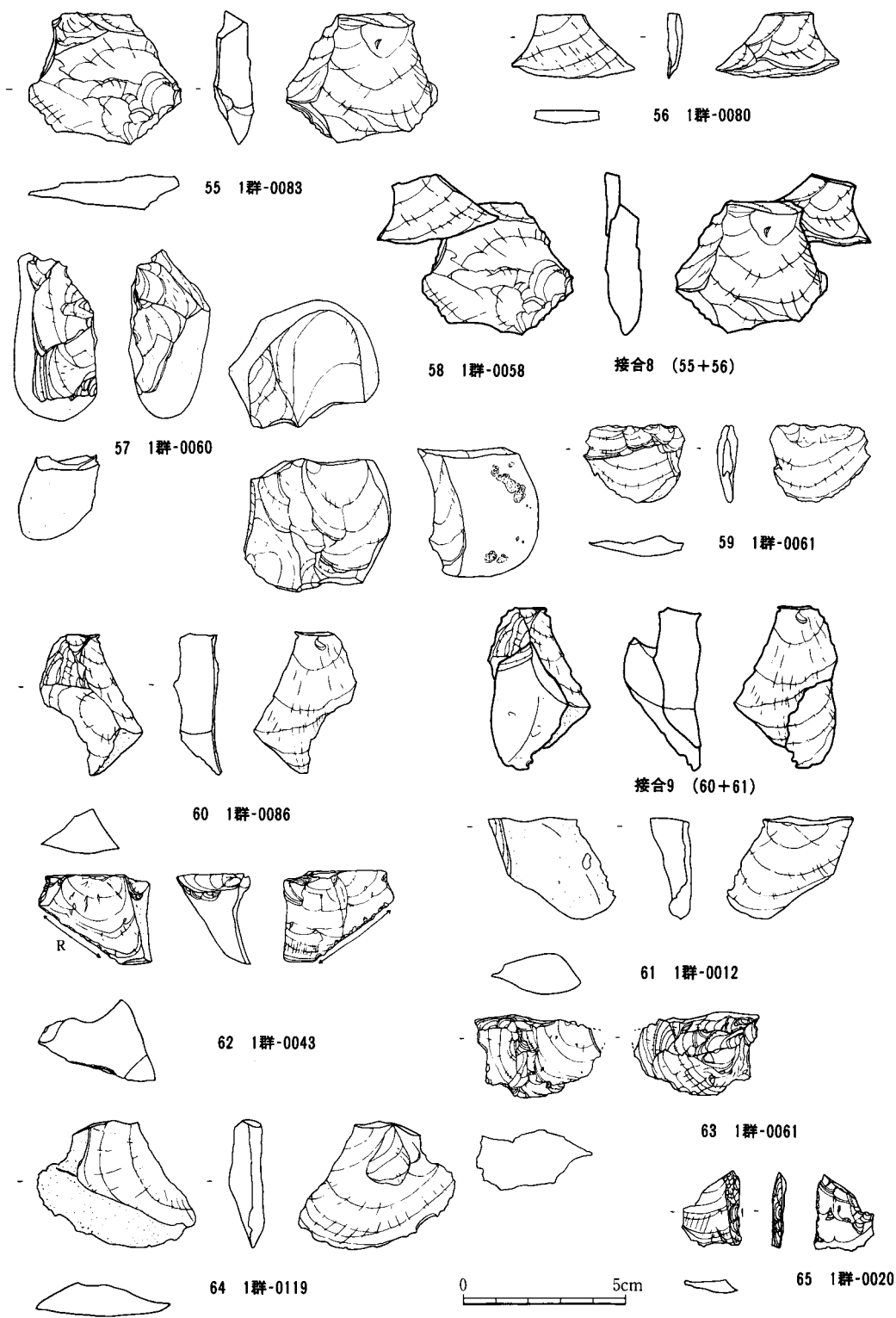
8. 第6ブロック(第1群)

(1) 分布状況

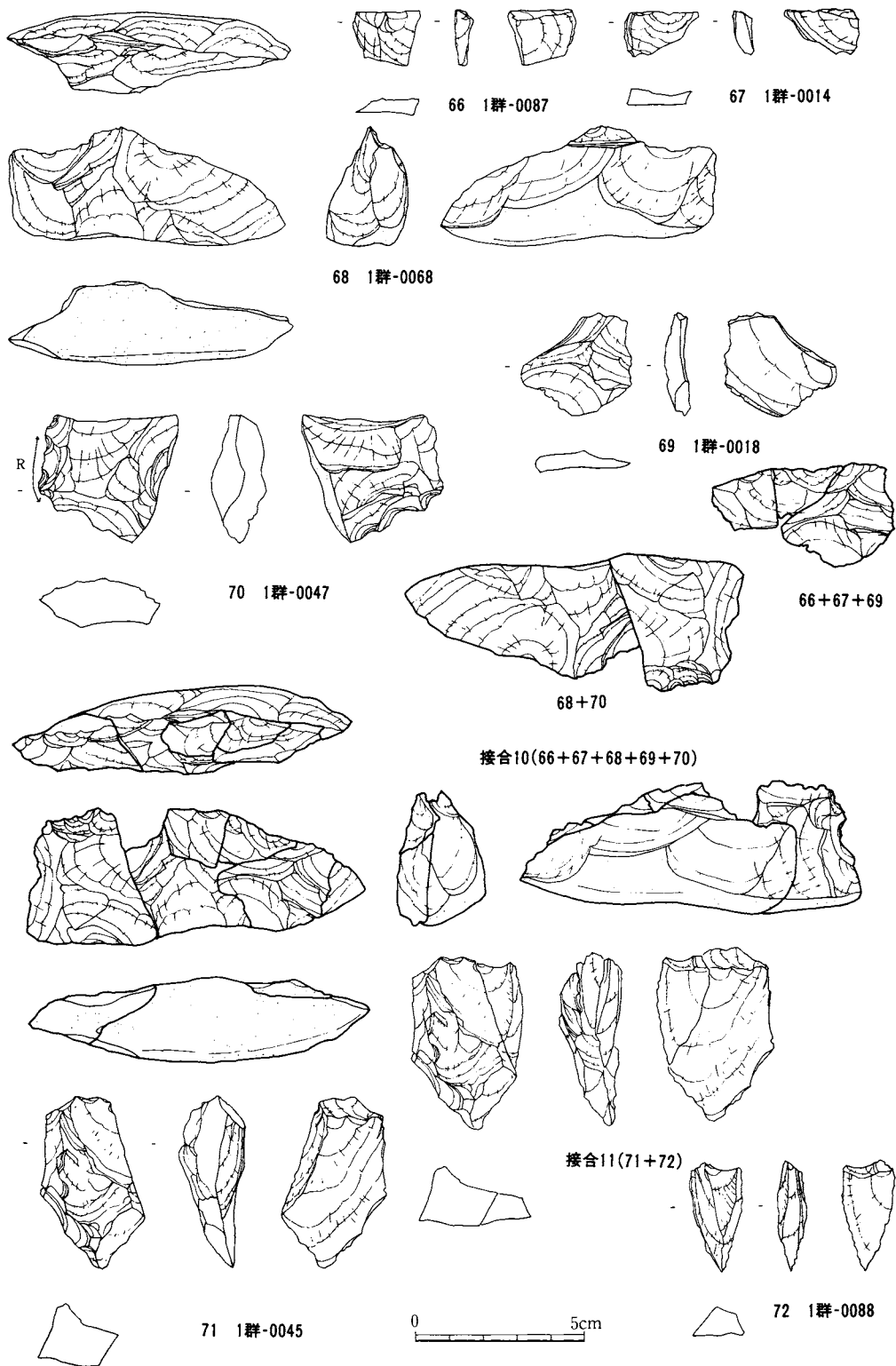
BC31-29グリットを中心にして19点検出された。分布状況は2~3mの楕円形の範囲にややまとまって分布している。約2m南西には第4ブロック、南東には第5ブロックがある。石材は安山岩①のみで構成される。



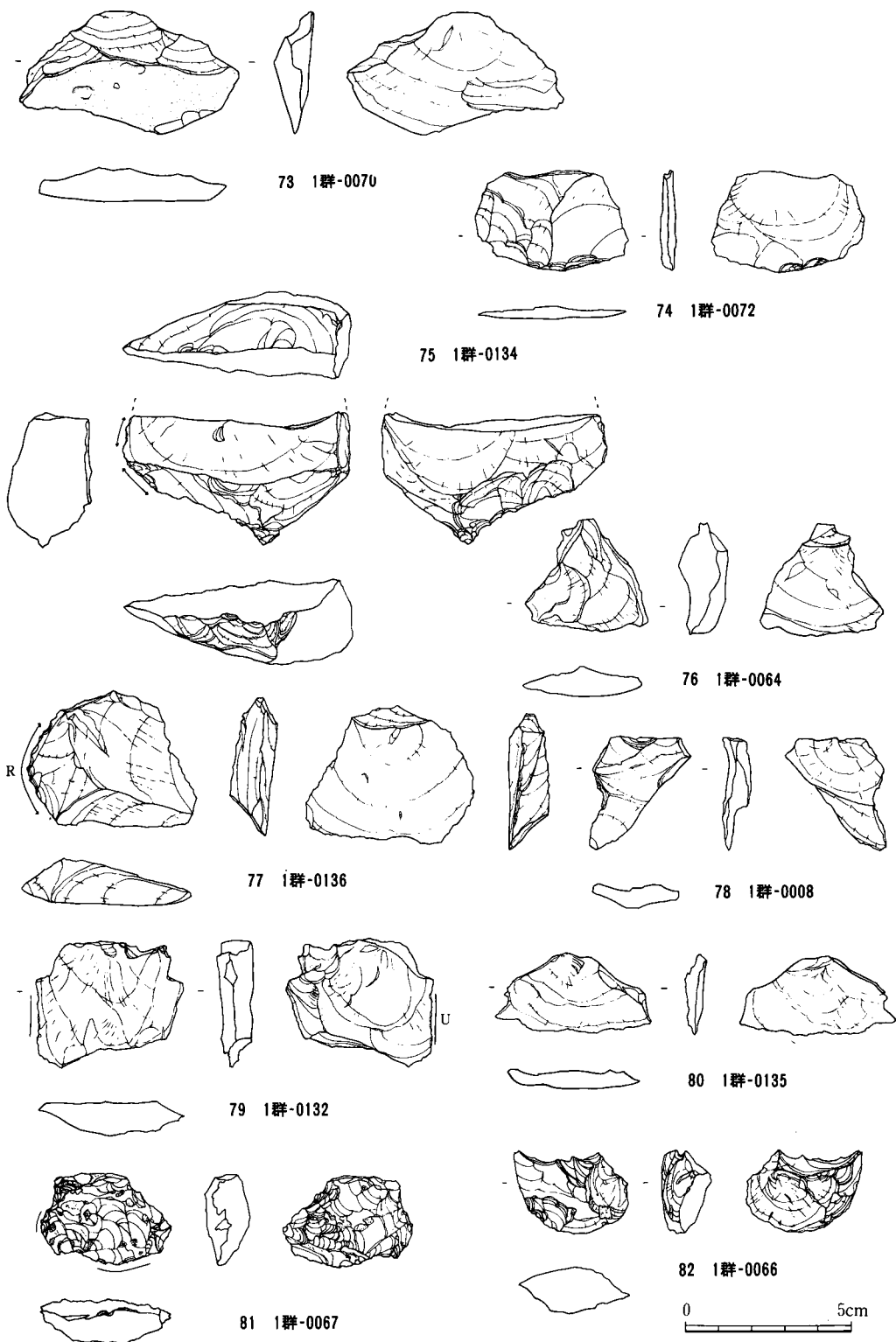
第338図 東大野第2遺跡第1群・第4ブロック出土石器(1/2)



第339図 東大野第2遺跡第1群・第4・5ブロック出土石器(1/2)



第340図 東大野第2遺跡第1群・第5ブロック出土石器(1/2)



第341図 東大野第2遺跡第1群・第5～7ブロック出土石器(1/2)

(2) 石器組成

検出された石器の総数は19点である。器種組成は、剥片2点、碎片17点である。

(3) 出土遺物

剥片（第335・341図42・76）42は第3ブロックの剥片と接合資料7を構成するものでブロック同士の密接なつながりを証明するものである。76は正三角形を呈する剥片で背部に横方向の剥離が認められる。その他は同石材の剥片剥離作業が1～2回程度行われた形跡が認められる。

9. 第7ブロック（第1群）

(1) 分布状況

BC31-19グリットを中心にして11点検出された。分布状況は2～3mの楕円形の範囲にやや散漫に分布している。約1m南西には第6ブロックがある。石材は安山岩、黒曜石、珪質頁岩、瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は11点である。器種組成は、Rフレイク2点、Uフレイク2点、剥片3点、碎片4点である。石材構成は安山岩①5点、黒曜石①4点、珪質頁岩①1点、瑪瑙①1点である。

(3) 出土遺物

R・フレイク（第341図75・77）75は瑪瑙①製の石核を再利用したもので先端部分の薄い縁辺部分に大きめの剥離で調整を施している。77は幅広でやや厚めの側縁部に比較的連続的な大きめの剥離を施している。やや搔器状の刃部を呈する。安山岩①製の剥片を使用している。

U・フレイク（第341図79・81）79は安山岩①製の長形状の剥片の側辺に沿って比較的微細で不連続な剥離痕が認められる。81は黒曜石①製のやや分厚く丸みのある剥片で側辺に沿って微細な剥離痕が認められる。

剥片（第341図78・80・82）78・80は安山岩①製の剥片である。いずれも礫面は見られない。82は黒曜石①製の剥片である。石質がやや悪いため剥離の途中で逆方向の剥離痕がみられる。

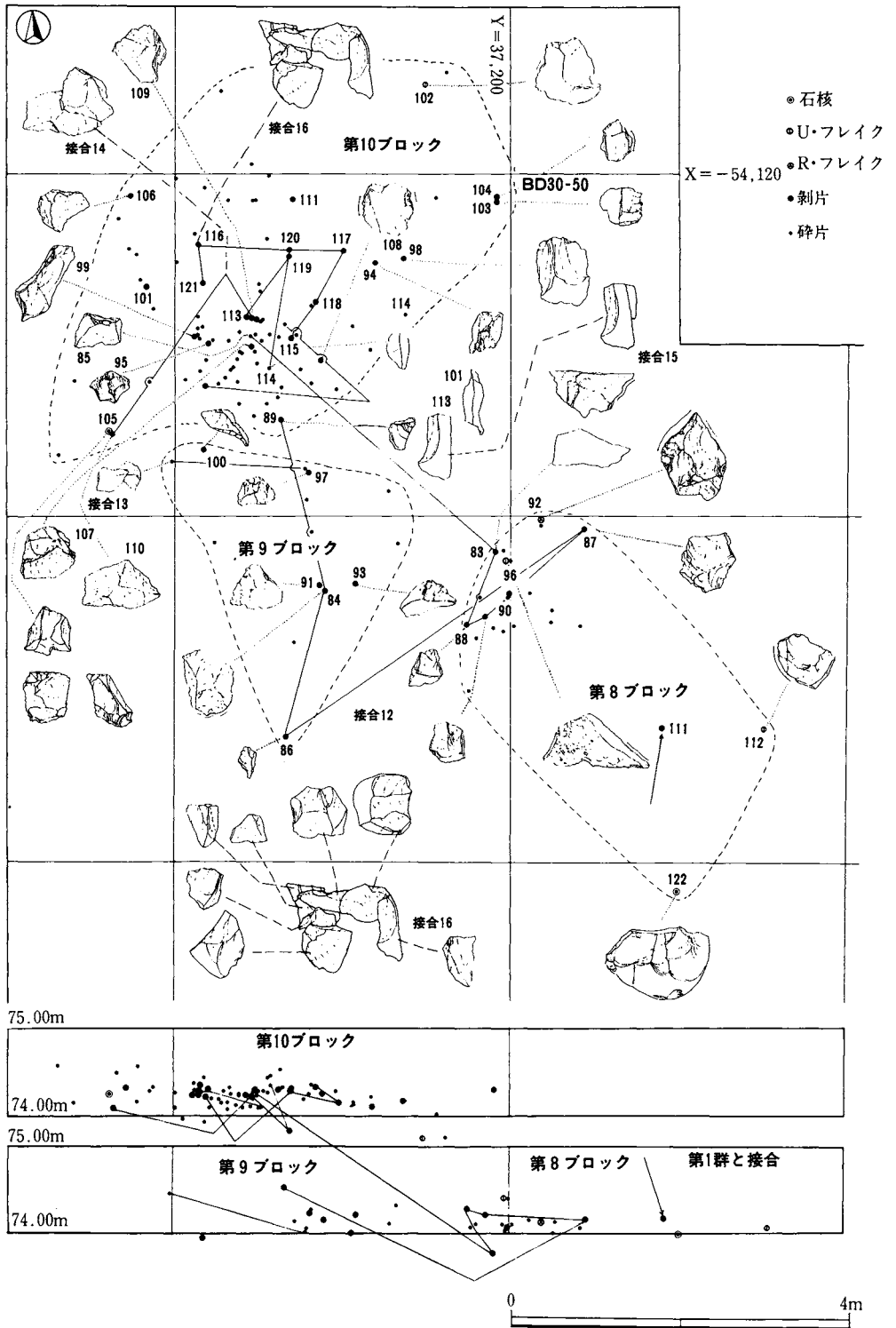
10. 第8ブロック（第2群）

(1) 分布状況

BD30-60グリットを中心にして24点検出された。分布状況は北側にやや密集した部分が認められるが、概ね3～4mの楕円形の範囲に緩やかに分布する。約2m西側に第9ブロックがある。石材は黒曜石、安山岩、珪質頁岩、頁岩で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は24点である。器種組成はR・フレイク1点、U・フレイク2点、石核1点、剥片6点、碎片14点である。石材構成は黒曜石①11点、安山岩①11点、珪質頁岩①1



第342図 東大野第2遺跡第2群・第8～10ブロック遺物出土状況(1/80)

点、頁岩①1点である。

(3) 出土遺物

R・フレイク（第343図92）黒曜石①製の比較的大きく厚みのある剥片で、石核素材として小さい剥片を作出した後に先端の縁辺部にやや連続的な小剥離を施している。また側辺の一部にかけては微細な使用痕と思われる刃こぼれが観察される。

U・フレイク（第343・344図96・112）96は黒曜石①製の片側にやや長くすぼまった長い側辺部分にやや不規則で不連続な刃こぼれが観察される。112は黒曜石①製の不整形な剥片で片側辺部に細かな刃こぼれが観察される。

石核（第346図122）頁岩①製の石核である。最初の剥離面を打面に転移して剥離作業をおこなっている。第4ブロックの57・58等と同タイプの石核であると考えられる。

剥片（第343図83・87・88・90）いずれも黒曜石の剥片で第9ブロックの84・86、第10ブロックの89と接合資料12を構成する。比較的小さく角張った剥片が多い。欠落している部分も大きさから推定しても大差ない大きさと形状をしている可能性があり、黒曜石の剥片の場合2～3cm程度の剥片を生産していたとも考えられる。

11. 第9ブロック（第2群）

(1) 分布状況

B C 30-69から東へ2mあたりを中心にして13点検出された。分布状況はほぼ2～3mの範囲にやや散漫に分布する。北側で第10ブロックと接する。石材は黒曜石と安山岩で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は13点である。器種組成は剥片6点と碎片7点の比較的単純な構成である。石材構成は黒曜石①6点、安山岩①7点である。

(3) 出土遺物

剥片（第343・344図84・86・91・93・97・100）84・86は黒曜石①の剥片で接合資料12の一部を構成する。84は縁辺の一部に刃こぼれがみられる。他もやや小剥片は多いもののすべて黒曜石①の剥片である。碎片は全て安山岩①で碎片同士の接合もみられる。

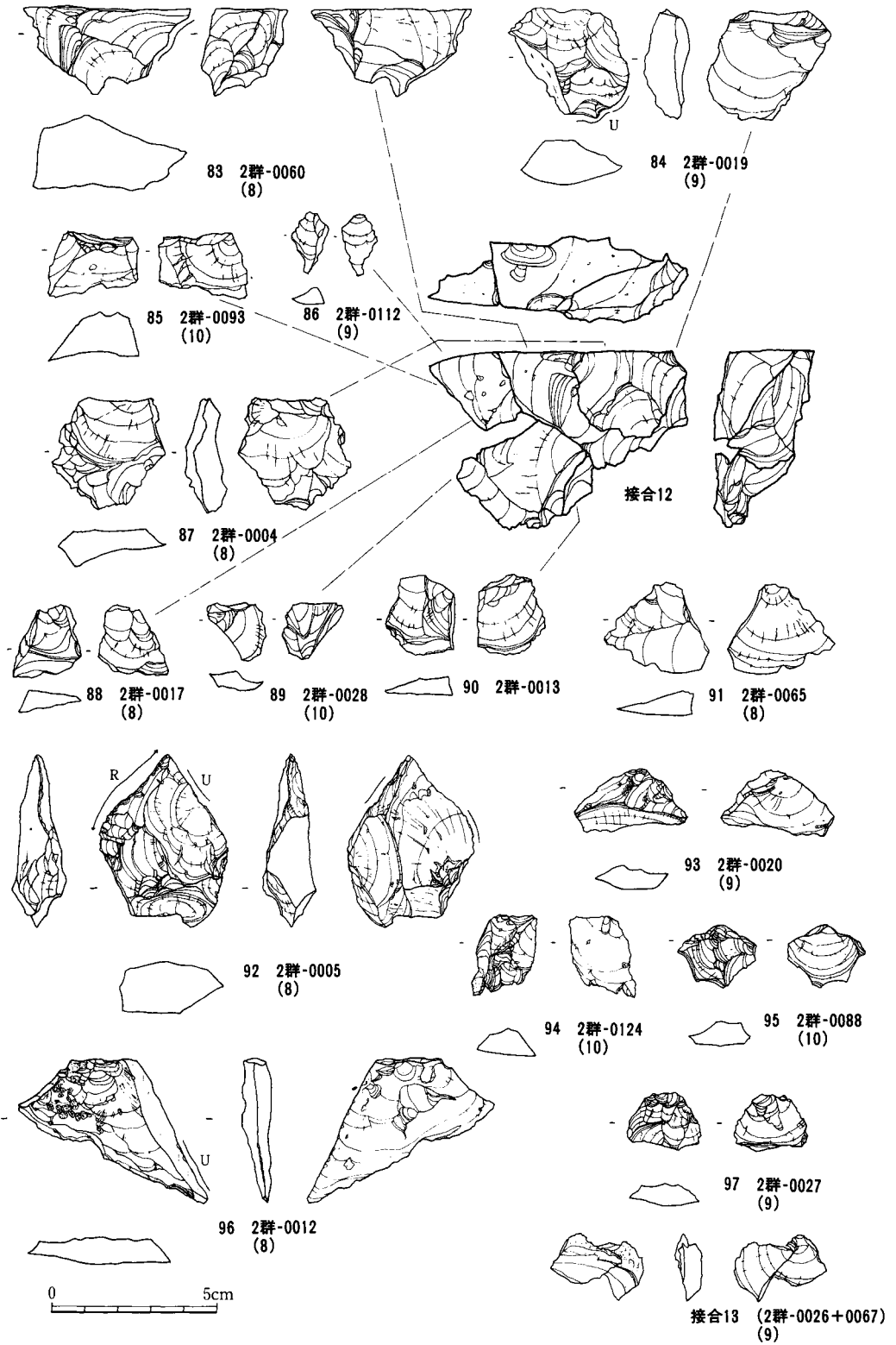
12. 第10ブロック（第2群）

(1) 分布状況

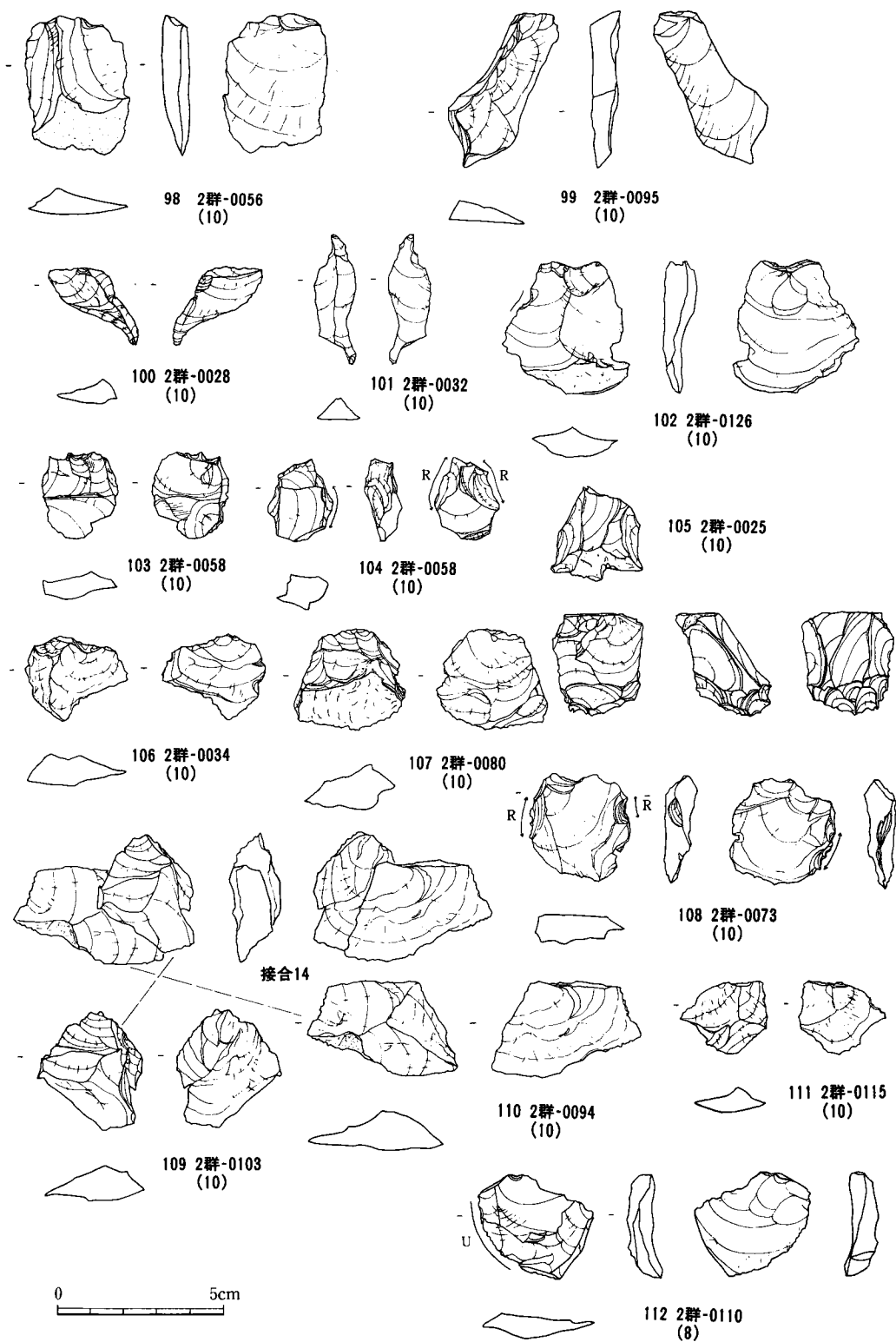
B C 30-59を中心にして79点検出された。分布状況はほぼ4～6mの楕円形の範囲に分布し特に南側に密集部分が認められる。石材は黒曜石と安山岩と瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

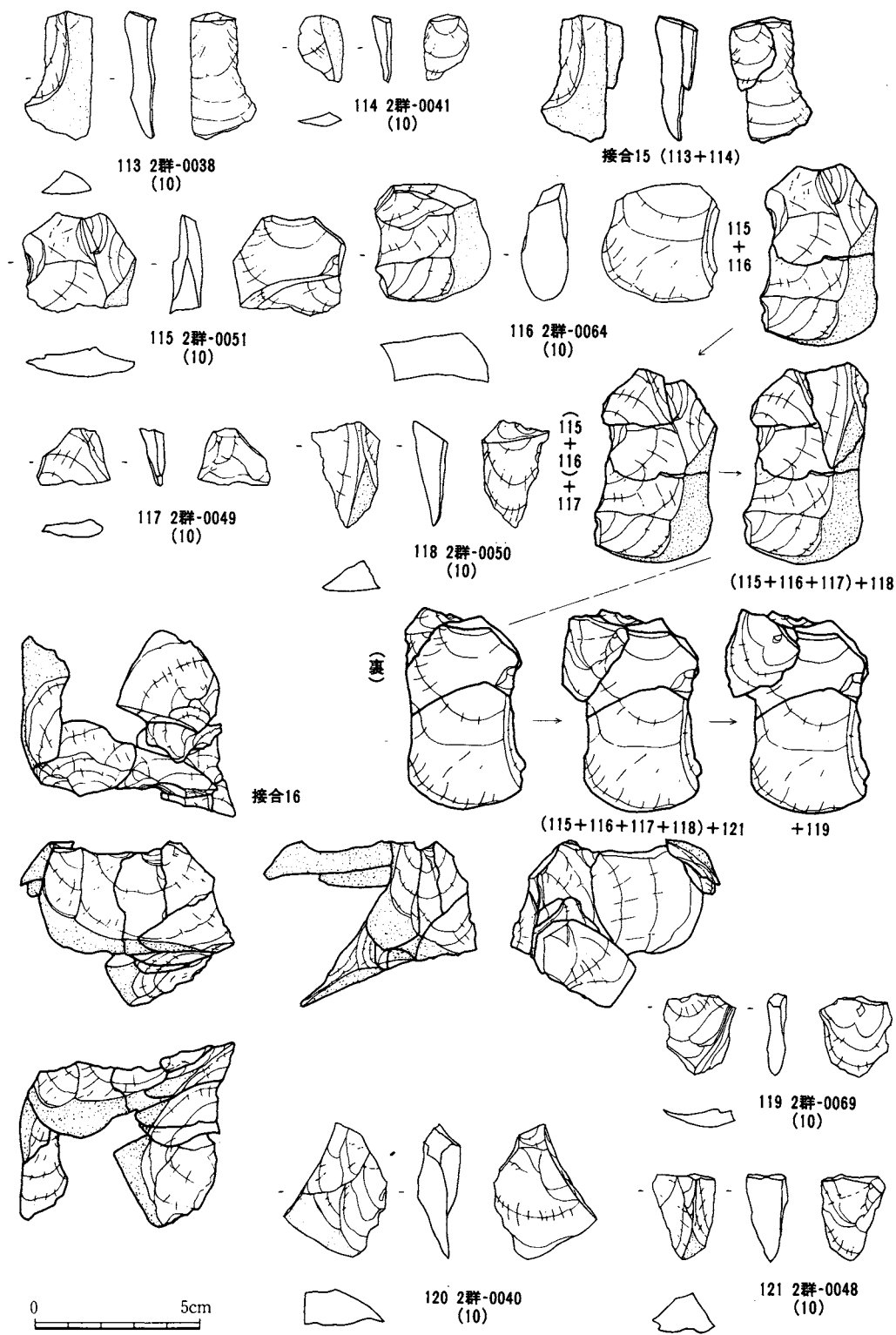
検出された石器の総数は79点である。器種組成は石核1点、R・フレイク1点、U・フレイク1点、剥片16点、碎片60点で碎片の数量と割合が高い。石材構成は黒曜石①28点、安山岩40点、



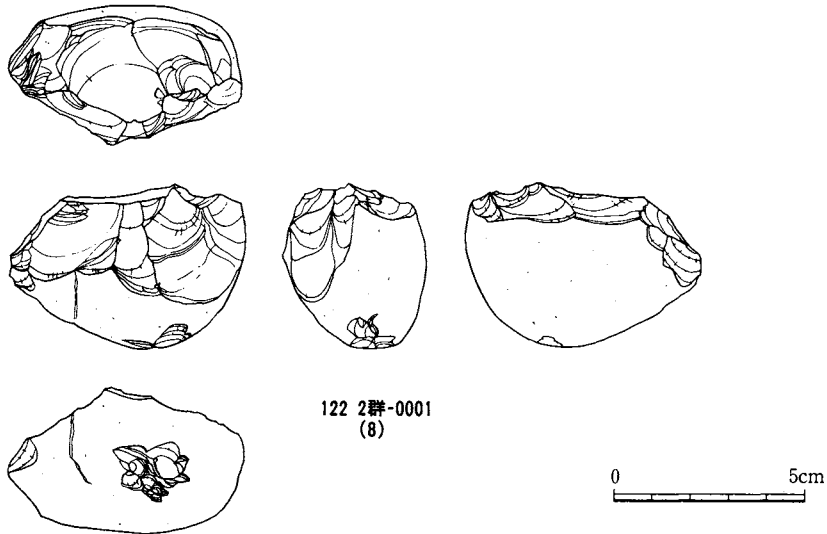
第343図 東大野第2遺跡第2群・第8~10ブロック出土石器(1)(1/2)



第344図 東大野第2遺跡第2群・第8～10ブロック出土石器(2)(1/2)



第345図 東大野第2遺跡第2群・第8~10ブロック出土石器(3)(1/2)



第346図 東大野第2遺跡第2群・第8ブロック出土石器(1/2)

瑪瑙11点である。

(3) 出土遺物

石核 (第344図105) 安山岩①製の石核で小さな剥片を多方向から剥ぎとっている。

R・フレイク (第344図104) 黒曜石①製の小剥片を使用してやや大きめの調整を施している。

U・フレイク (第344図102) 安山岩①製の剥片の縁辺に使用痕と思われる微細な剥離がみられる。

剥片 (第343・345図85・89・94・95・98~101・103・106・107・109~111・113~121) 黒曜石・安山岩とも2~3cmの小形の剥片が多い。接合資料18は内側のコアの部分は他のブロックへ移動しているが周辺部から小さな剥片を剥いでいる様子の方がえる資料である。

13. 第11ブロック (第3群)

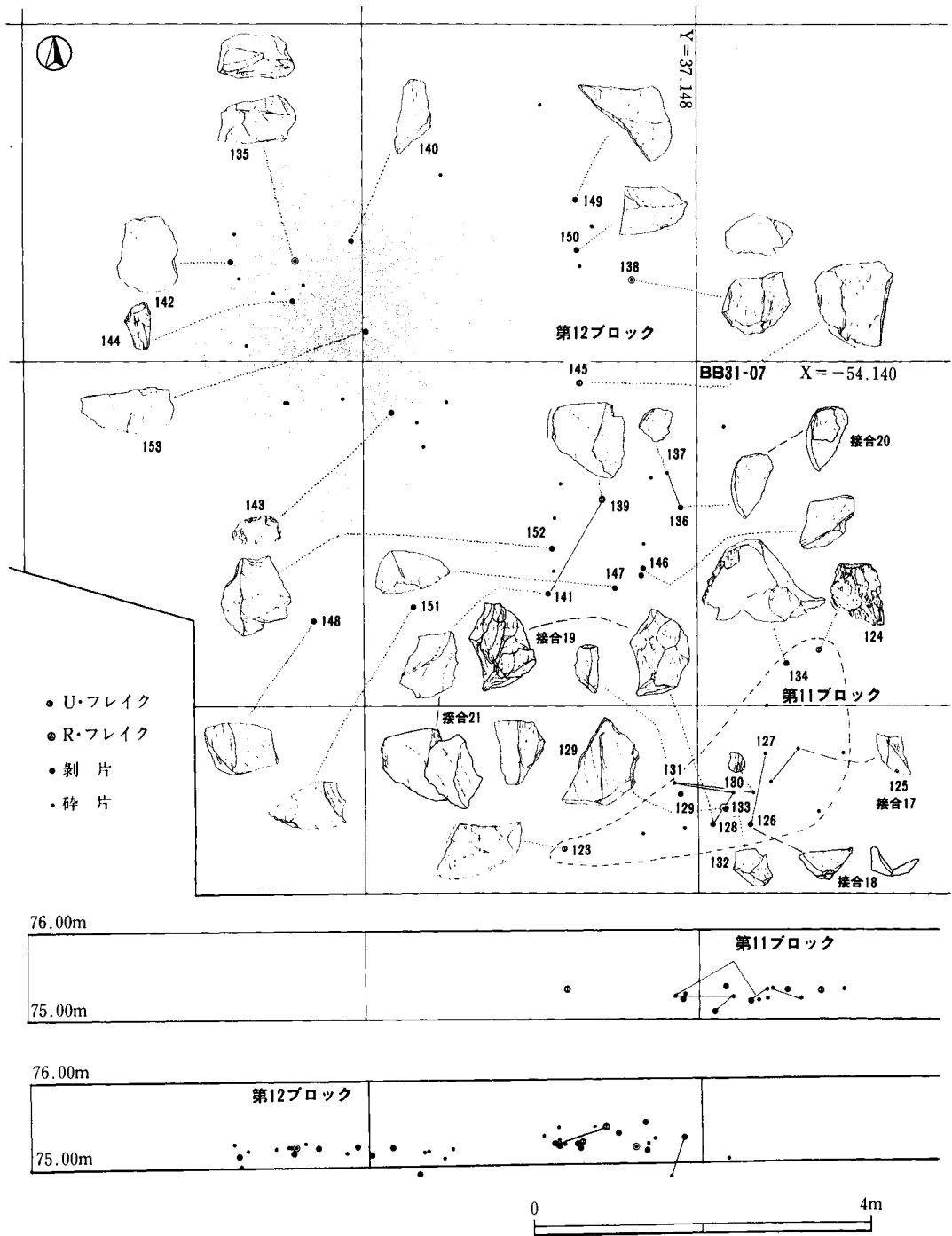
(1) 分布状況

B B31-17グリットのやや南に17点検出された。分布状況は2~4 mに細長くやや密に分布している。約2 m北西には第12ブロックがある。石材は安山岩、黒曜石、瑪瑙、瑪瑙②で構成される。

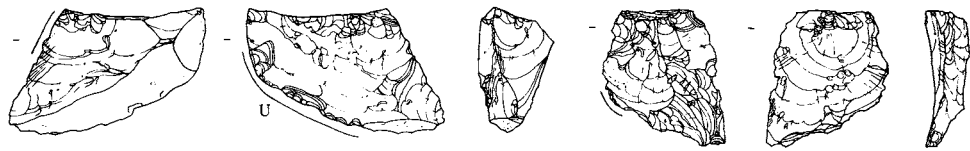
(2) 石器組成

検出された石器の総数は17点である。器種組成は、U・フレイク2点、剥片7点、碎片8点である。石材構成は安山岩10点、黒曜石①4点、瑪瑙①1点、瑪瑙②2点である。

(3) 出土遺物



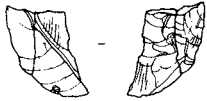
第347図 東大野第2遺跡第3群・第11・12ブロック遺物出土状況(1/80)



123 3群-0091
(11)



124 3群-0015
(11)

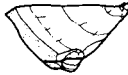


126 3群-0087
(11)

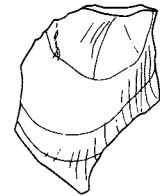
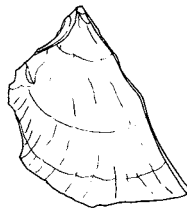
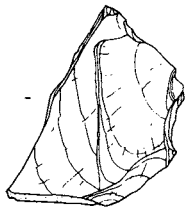
127 3群-0084
(11)



125 3群-0082+0062
接合17



接合18(126+127)

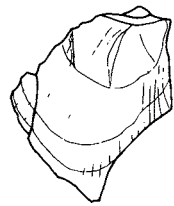


128 3群-0075
(11)



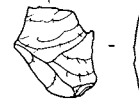
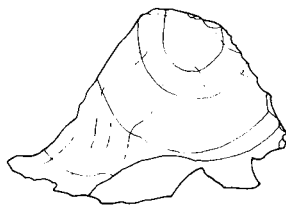
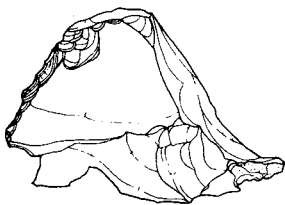
132 3群-0076
(11)

129 3群-0078
(11)

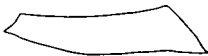


131 3群-0077
(11)

接合19



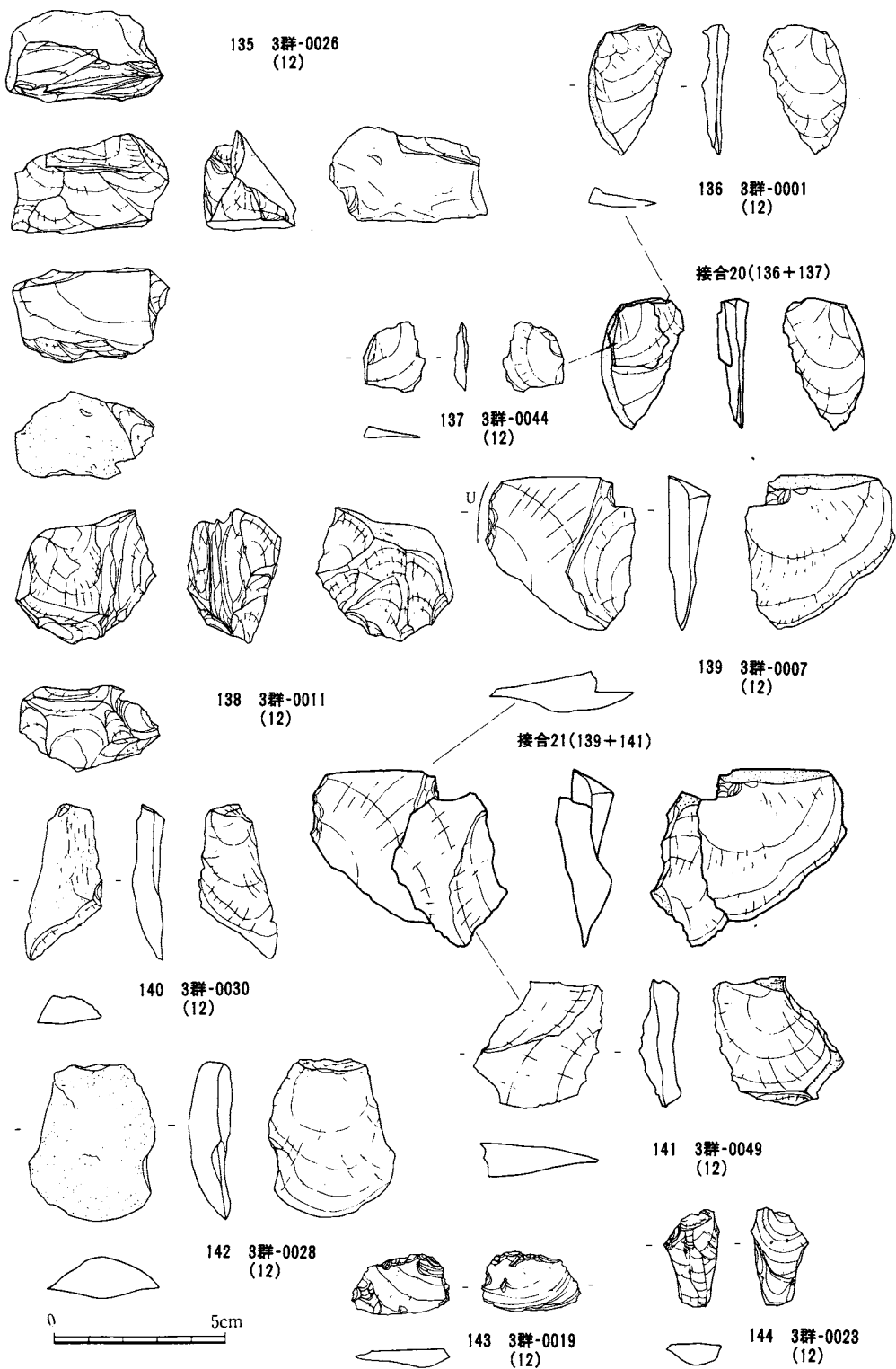
133 3群-0074



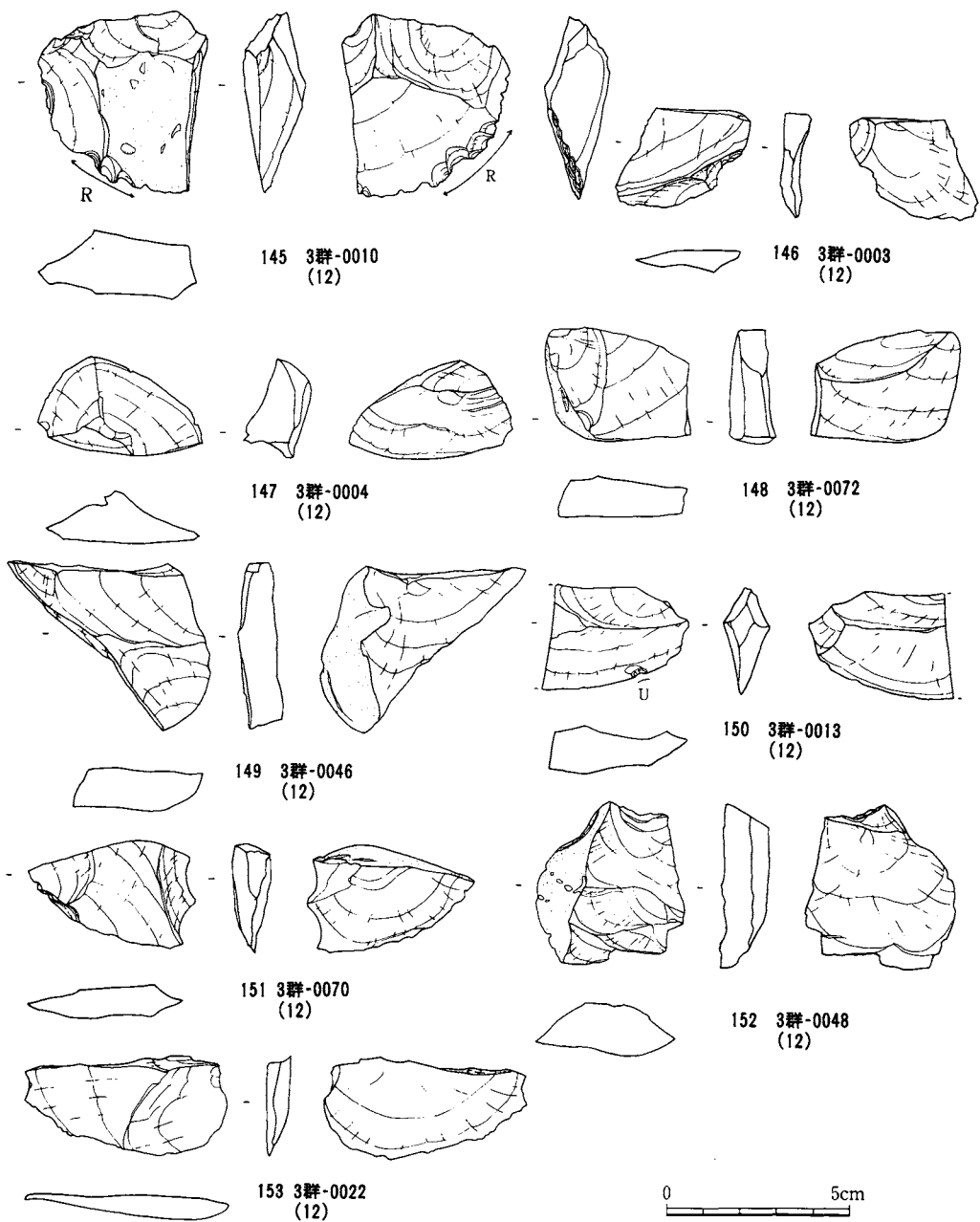
134 3群-0016
(11)



第348図 東大野第2遺跡第3群・第11ブロック出土石器(1/2)



第349図 東大野第2遺跡第3群・第12ブロック出土石器(1)(1/2)



第350図 東大野第2遺跡第3群・第12ブロック出土石器(2) (1/2)

U・フレイク（第348図123・124）両者ともに黒曜石の剥片の縁辺部に不規則な刃こぼれがみられる。特に123の方は著しい。

剥片（第348・349図125～134）125は黒曜石①製の小剥片である。126と127は安山岩①製の小剥片で接合資料18を構成する。130～134の接合資料15は大形剥片の背部に小剥片が接合する。比較的打面転移は行われていない。129と134は瑪瑙①製の剥片で大形である。

14. 第12ブロック（第3群）

(1) 分布状況

B B31-06グリットを中心に40点検出された。分布状況はほぼ径6mの範囲に密な部分と疎な部分がみられる。約2m南東には第11ブロックがある。石材は安山岩、黒曜石、玄武岩で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は40点である。器種組成は、R・フレイク1点、Uフレイク1点、石核2点、剥片16点、碎片21点である。石材構成は安山岩①37点、黒曜石①2点、玄武岩①1点である。

(3) 出土遺物

石核（第349図135・138）いずれも安山岩①製の石核で一部に礫面を残す。剥離面の状態から比較的小形の剥片を任意の方向から剥いだと思われる。

R・フレイク（第350図145）安山岩①製の剥片で石核の素材として使用されてのちに縁辺部にやや大きめの規則的な剥離で調整を施している。

U・フレイク（第348図139）やや薄目の安山岩①製の剥片の縁辺にやや不規則な刃こぼれがみられる。141と接合資料21を構成する。

剥片（第348～350図136・137・140～144・145～153）136と137は接合資料20を構成する。安山岩①製の剥片で礫面を一部残す。143と144以外は安山岩①製の剥片で他のブロックと比較して大形で背部に礫面の少ないものが多い。143と144は黒曜石①製の小形の剥片である。

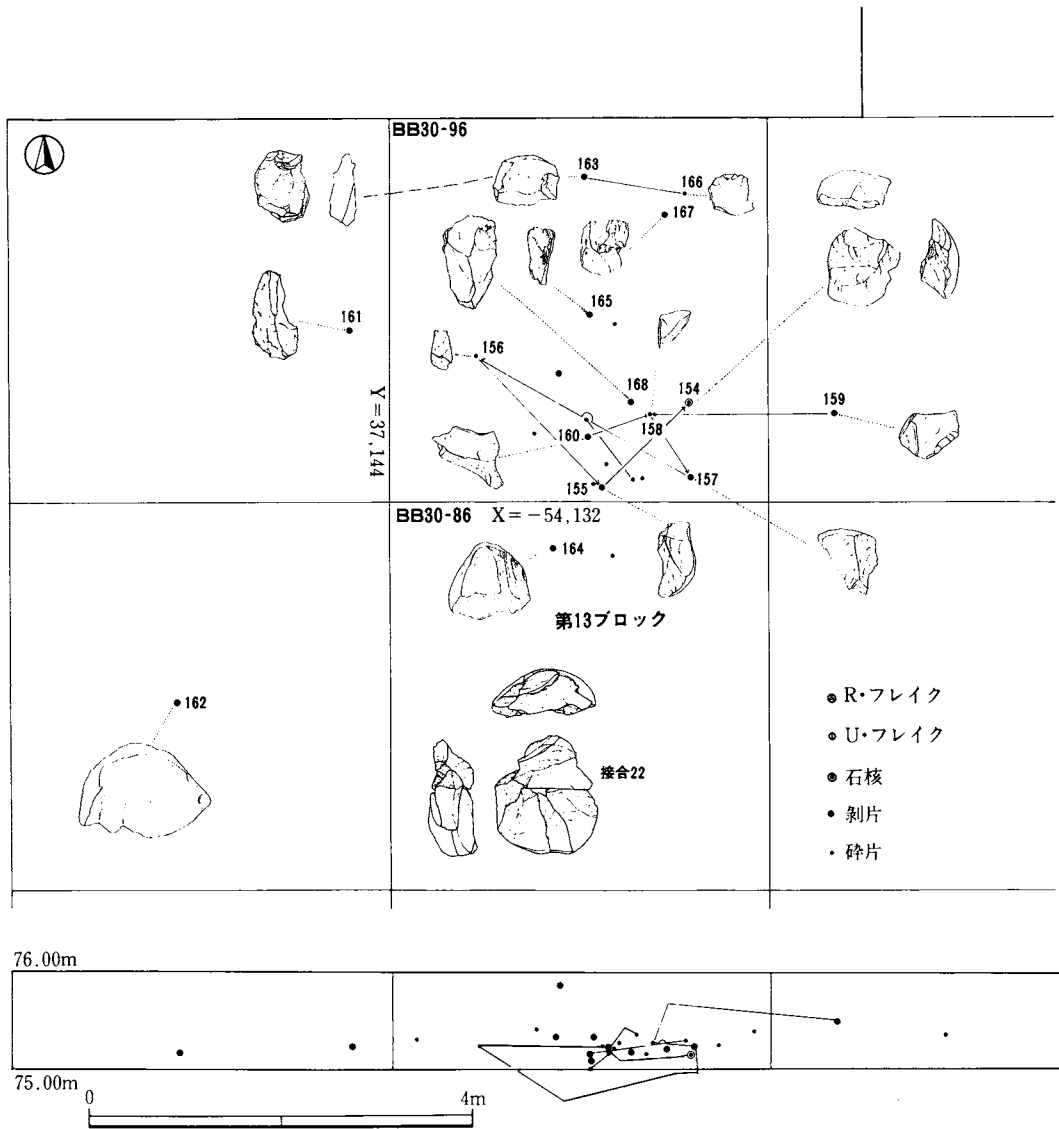
15. 第13ブロック（第3群）

(1) 分布状況

B B30-96グリットを中心に28点検出された。分布状況はほぼ径7mの範囲の比較的散漫に広がっているがやや中程に密な部分がみられる。約3m南には第12ブロックがある。石材は安山岩、黒曜石、2種類の瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は28点である。器種組成は、石核1点、剥片11点、碎片16点である。石材構成は安山岩①19点、珪質頁岩①1点、黒曜石①4点、瑪瑙①3点、瑪瑙②1点である。

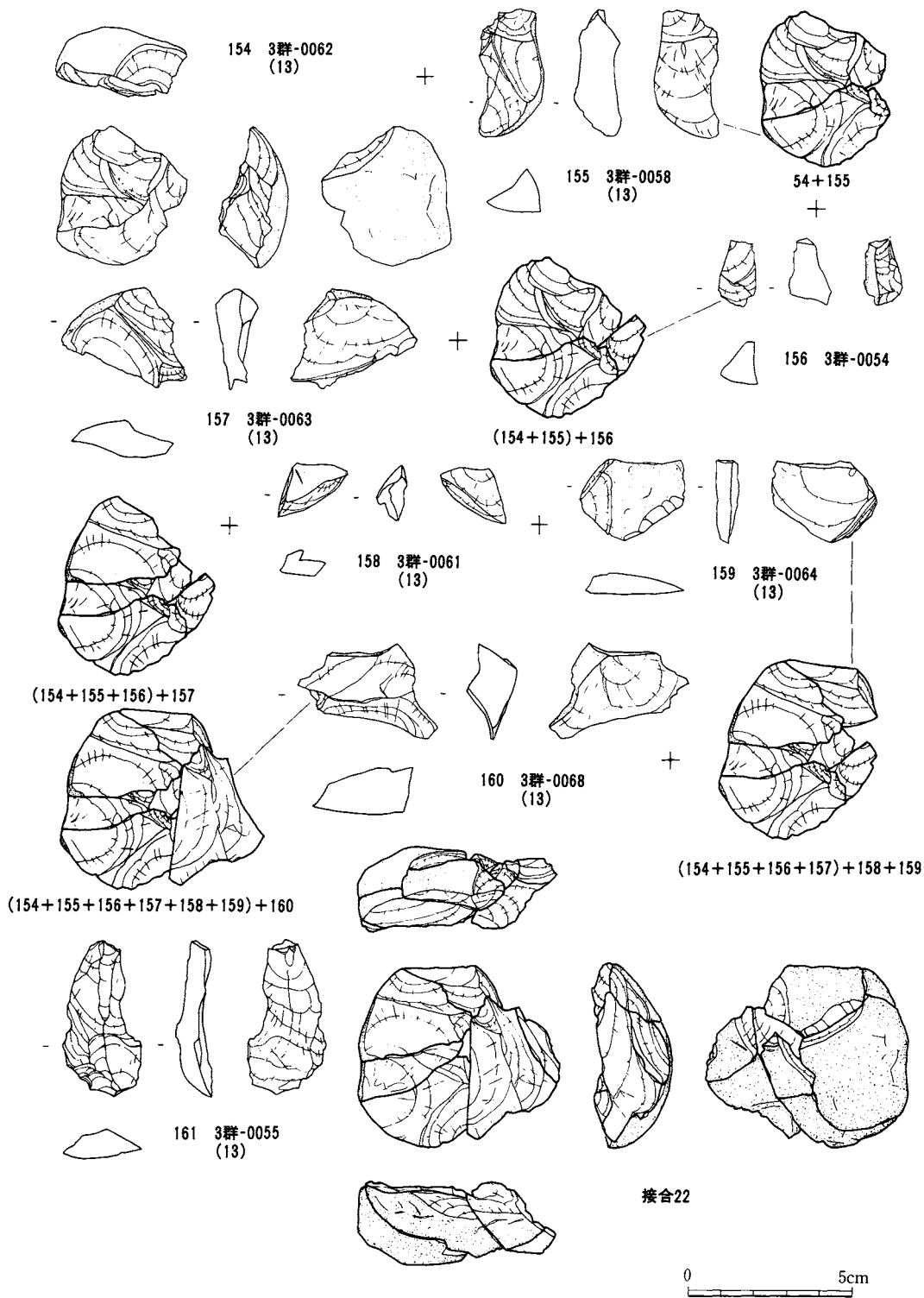


第351図 東大野第2遺跡第3群・第13ブロック遺物出土状況(1/80)

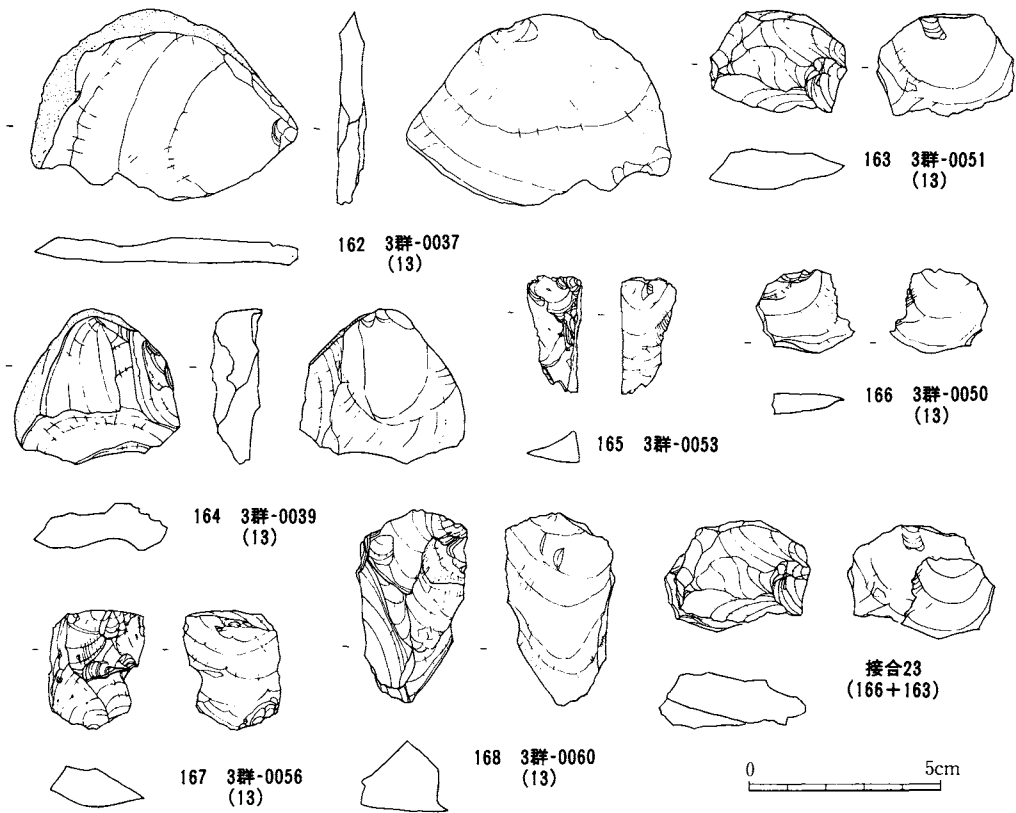
(3) 出土遺物

石核（第352図154）安山岩①製の石核で他の剥片等と接合資料22を構成する。背部に礫面を残す。

剥片（第352・353図155～168）155～160までは安山岩①製の剥片で154と共に接合資料22を構成する。比較的小さな剥片が多い。割合この段階では同じ方向からの剥離がみられる資料である。161は珪質頁岩製の縦長剥片である。使用痕等はみられない。162と163と166は瑪瑙①製の



第352図 東大野第2遺跡第3群・第13ブロック出土石器(1) (1/2)



第353図 東大野第2遺跡第3群・第13ブロック出土石器(2) (1/2)

剥片である。163と166は接合資料23を構成する。164は安山岩①製の剥片でやや分厚い。礫面を一部残している。165と167は黒曜石①製の剥片でいずれも小形の剥片である。接合資料22がブロックの主体を構成している。

16. 第14ブロック (第4群)

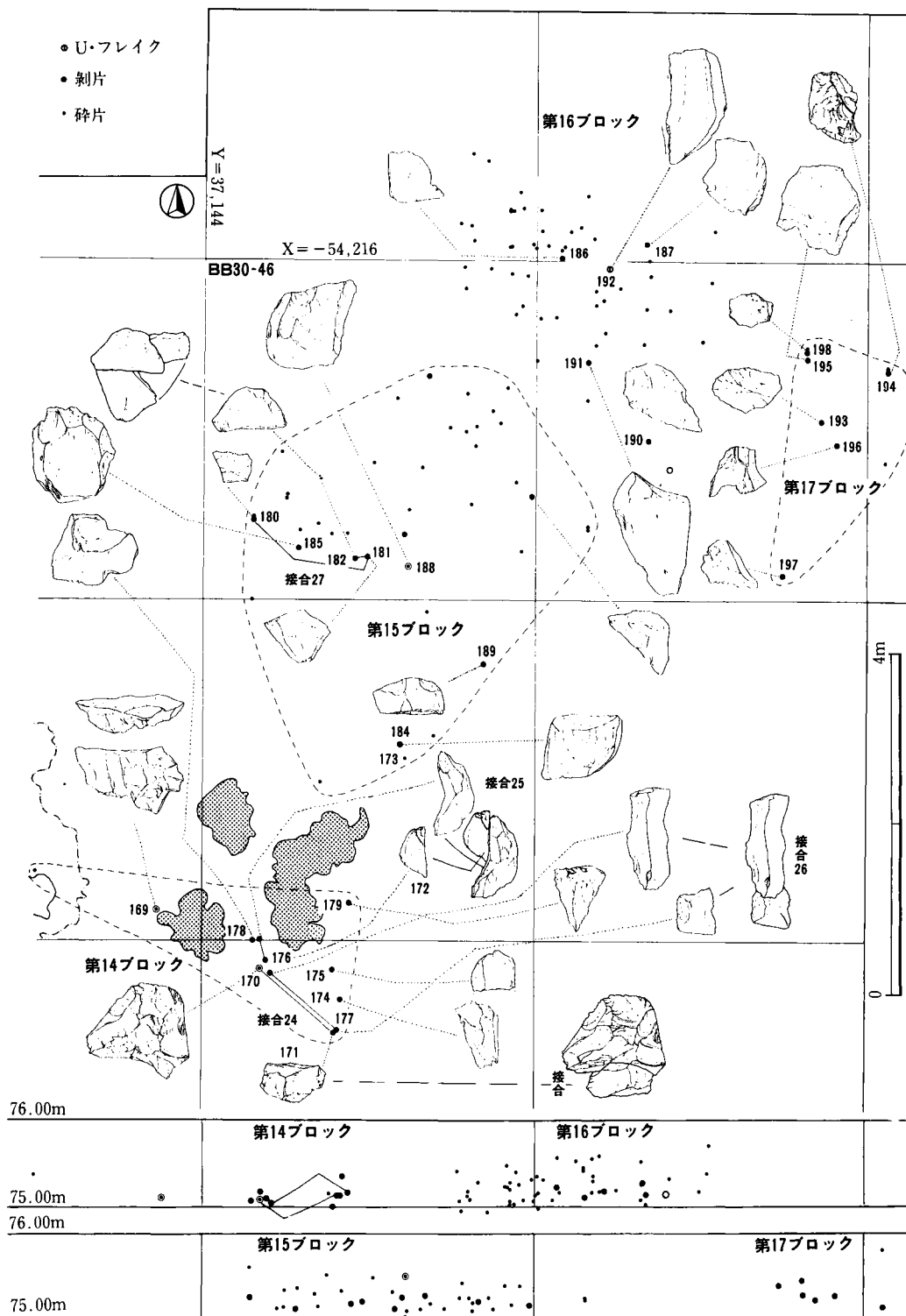
(1) 分布状況

B B30-66グリットを中心に12点検出された。分布状況は2～4mの範囲に比較的散漫に広がっている。約2m北には第15ブロックがある。石材は、珪質頁岩、黒曜石、瑪瑙で構成される。石器分布範囲にほぼ重なる様に焼土ブロックの分布範囲がみられる。炉というよりもっと大きな規模での使用が考えられる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は12点である。器種組成は、石核1点、剥片10点、碎片1点である。珪質頁岩③10点、瑪瑙①1点、黒曜石①1点である。

(3) 出土遺物



第354図 東大野第2遺跡第4群・第14～17ブロック遺物出土状況(1/80)

石核（第355図170）珪質頁岩①製の石核で171と接合資料24を構成する。礫面を残し剥離面には多方面からの剥離がみられる。

剥片（第355・356図169・171～179）174以外は珪質頁岩①製の剥片である。169はやや大きめで不正形な横長剥片である。171は小剥片で170と接合資料24を構成する。172と173は接合資料25を構成するが切断剥片ということではなく剥離されたときに割れた可能性が高い。174は瑪瑙①製の剥片で分厚く細長い剥片である。175は切断剥片である。背部は逆方向の剥離がみられる。176と177は接合資料26を構成する。いずれも背部に礫面を残す。176は刃器状の剥片に近い形態であるが、他の剥片の形態から推測すると偶然的産物の可能性が高い。178は分厚く礫面が多く残る剥片である。179は逆三角形の形をした薄い剥片である。

17. 第15ブロック（第4群）

(1) 分布状況

B B30-46グリットを中心に40点検出された。分布状況は4～5mのやや楕円形の範囲に広がっている。北東には第16ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石、3種類の瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は40点である。器種組成は、R・フレイク1点、剥片6点、碎片33点である。石材構成は安山岩①20点、黒曜石①5点、瑪瑙①8点、瑪瑙②5点、瑪瑙③2点である。

(3) 出土遺物

R・フレイク（第357図188）大形の剥片の縁辺部に規則的にやや浅めの小剥離を施している。安山岩①製の剥片である。

剥片（第356～357図180～187）180～182は安山岩①製の大形剥片を分割した剥片で接合資料27を構成する。183と184は安山岩①製の剥片で礫面を残す。185は大形剥片を石核素材にして小さな剥片を剥いている形跡がうかがわれるので石核とすべき資料であろう。186と187は安山岩①製の剥片で薄く一部に礫面を残すものである。

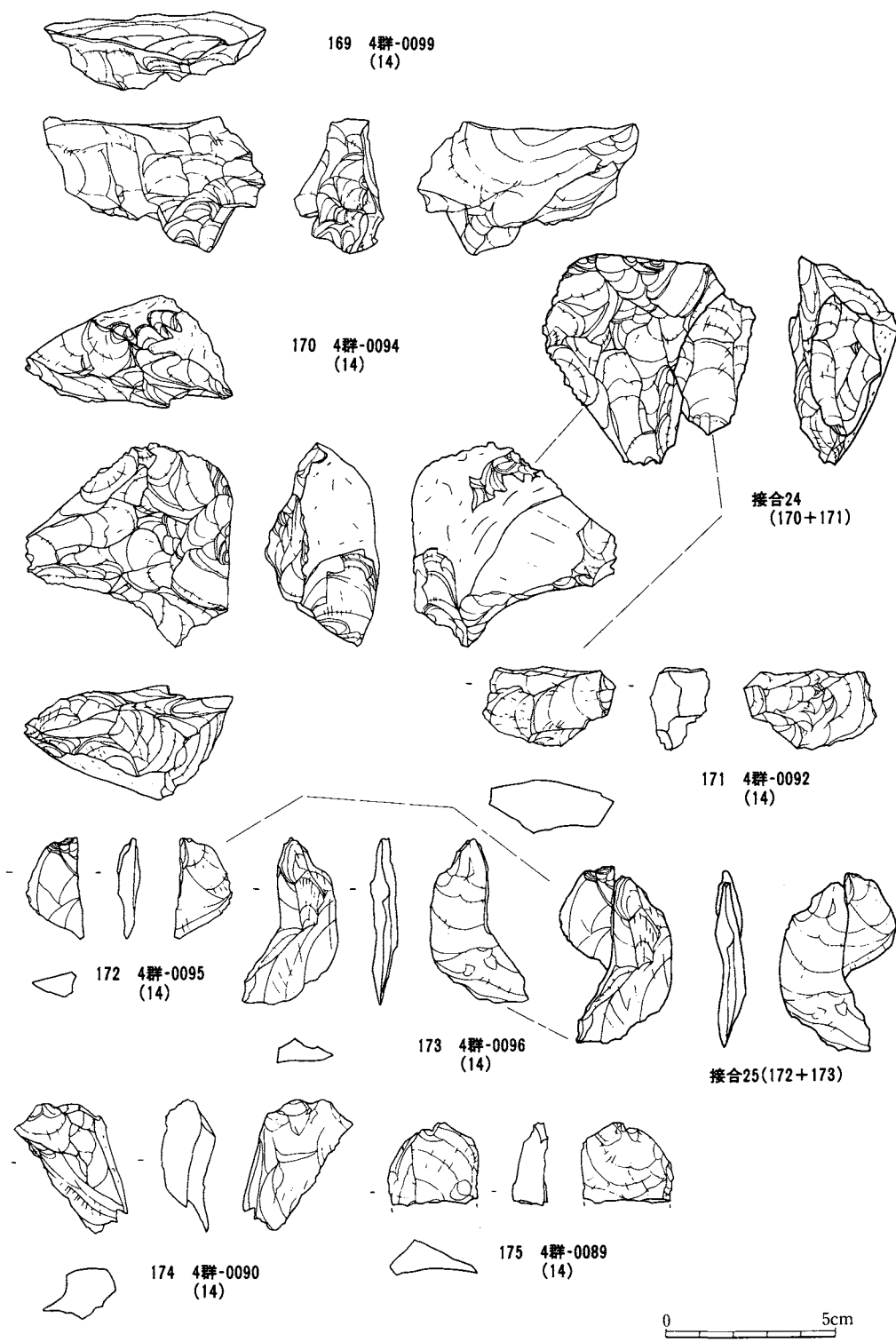
18. 第16ブロック（第4群）

(1) 分布状況

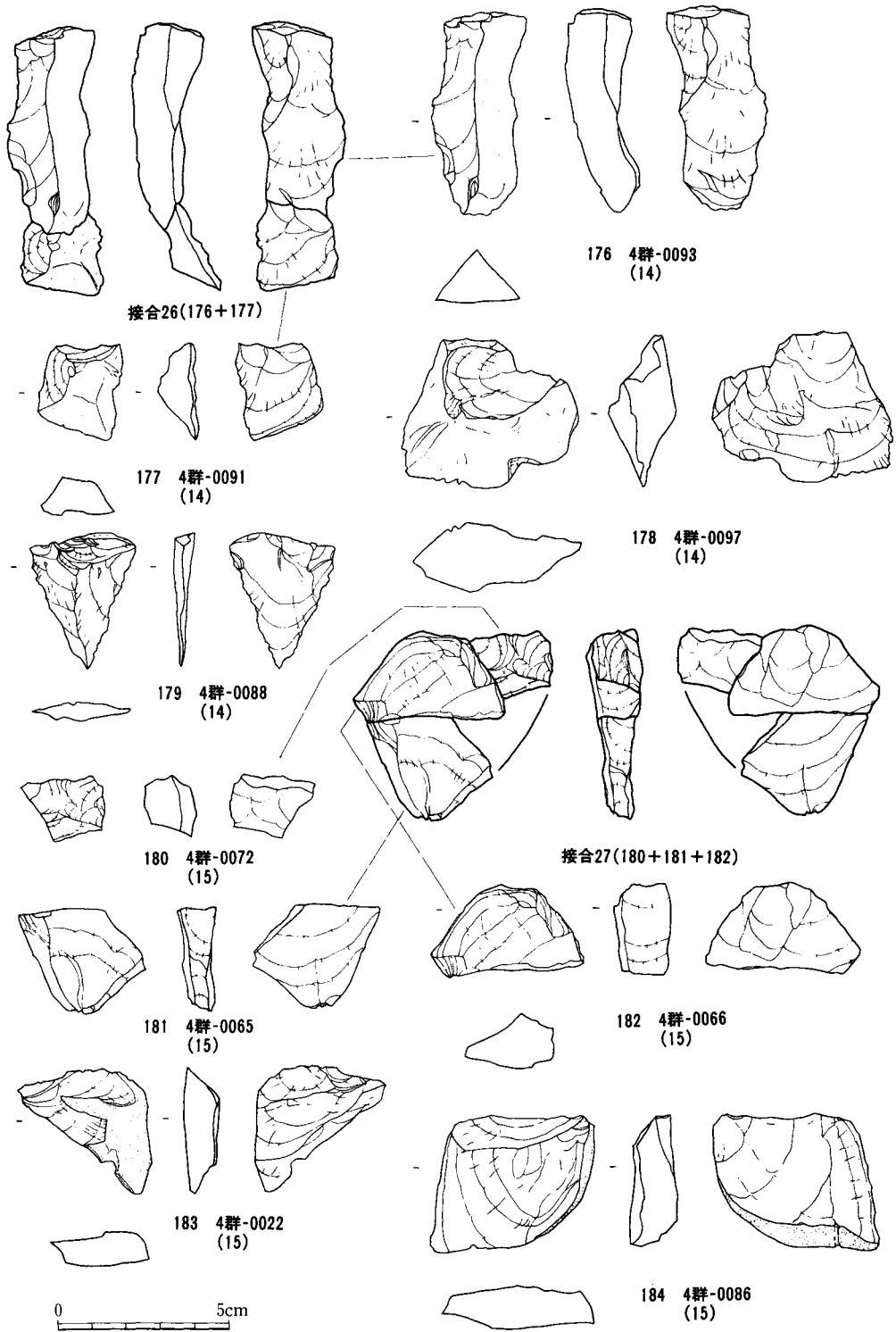
B B30-47グリットを中心に53点検出された。分布状況は3～5mのやや楕円形の範囲の中心に密な状態で広がっている。南西には第15ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石、2種類の瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

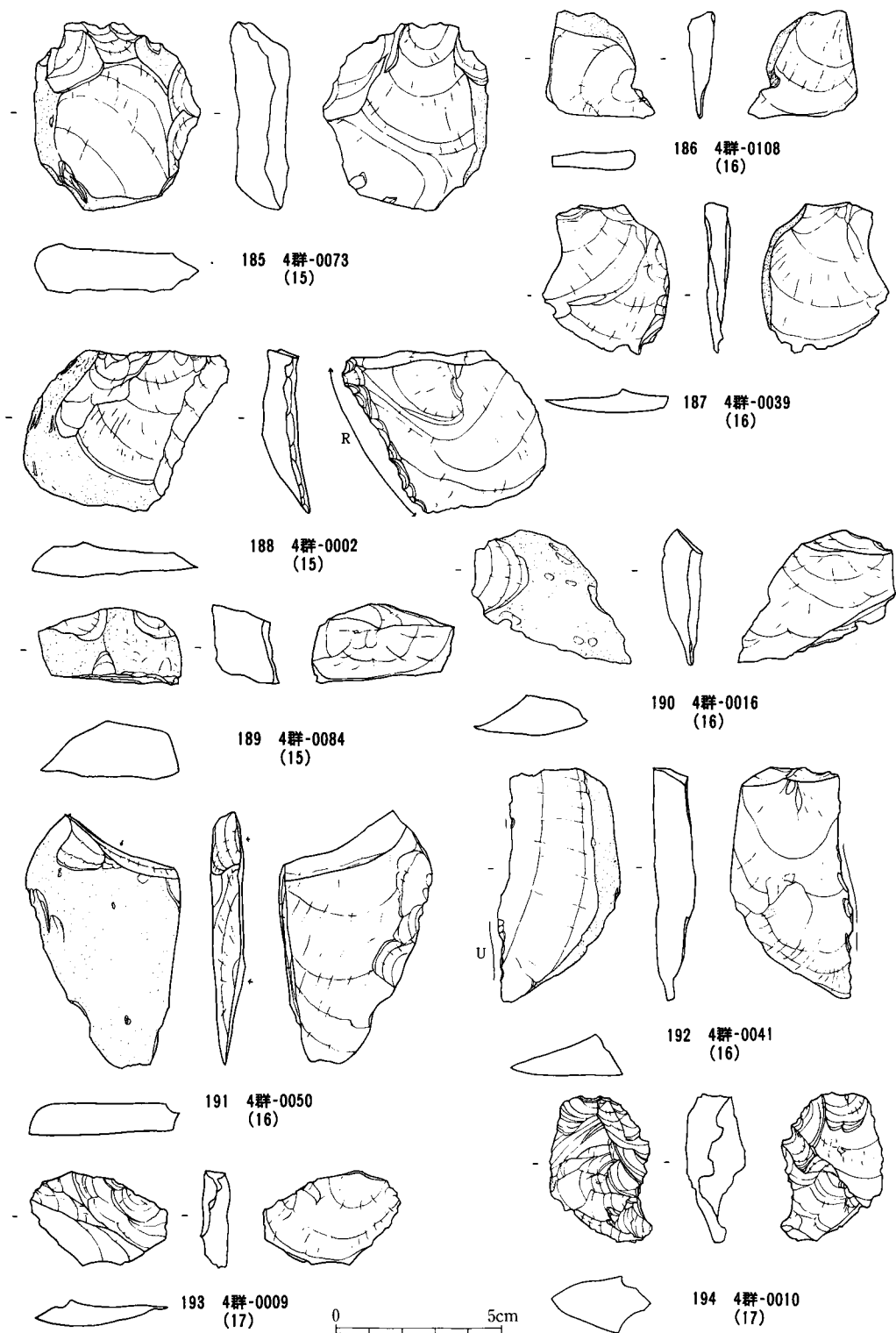
検出された石器の総数は53点である。器種組成は、U・フレイク1点、剥片2点、碎片50点である。碎片の割合が非常に高い。石材構成は安山岩①37点、黒曜石①13点、瑪瑙①2点、瑪



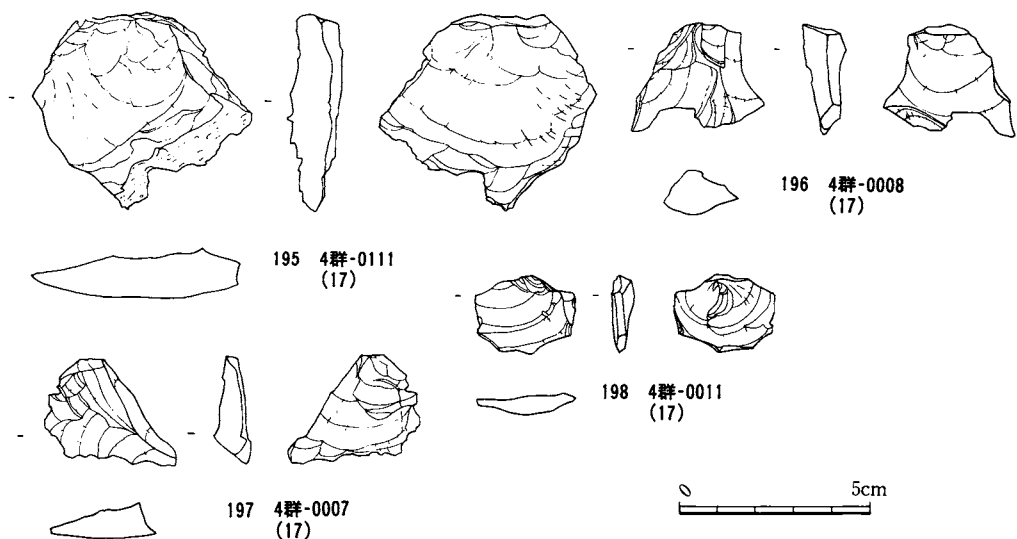
第355図 東大野第2遺跡第4群・第14ブロック出土石器(1/2)



第356図 東大野第2遺跡第4群・第14・15ブロック出土石器(1/2)



第357図 東大野第2遺跡第4群、第15～17ブロック出土石器(1/2)



第358図 東大野第2遺跡第4群・第17ブロック出土石器(1/2)

瑠①1点である。

(3) 出土遺物

U・フレイク (第357図192) 縦長の剥片の薄い縁辺部に不連続な刃こぼれと思われる小剥離痕が見られる。安山岩①製の剥片である。

剥片 (第357図190・191) 190はやや不正な剥片で背面はほぼ礫面で覆われる。191は大形の剥片で石核素材として転用しようとした形跡がうかがわれる。いずれも安山岩①製の剥片である。

19. 第17ブロック (第4群)

(1) 分布状況

BB30-48グリットの南2mを中心に6点検出された。分布状況は1.5～4mの楕円形の範囲に広がっている。西には第16ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石、2種類の瑠で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は8点である。器種組成は、剥片6点、碎片2点である。石材構成は黒曜石①5点、安山岩①1点、瑠①1点、瑠②2点である。

(3) 出土遺物

剥片（第357・358図193～198）193と194は黒曜石①製の剥片で比較的大きめの剥片である。196・197は瑪瑙②の剥片で196は礫面が一部みられる大形の剥片である。197瑪瑙①の剥片である。198は黒曜石①の剥片である。いずれも使用痕のようなものはみられない。

20. 第18ブロック（第5群）

(1) 分布状況

B B30-39グリットを中心に50点検出された。分布状況は3～6.5mの楕円形の範囲に広がっている。北東には第19ブロックがある。石材は、2種類の安山岩と黒曜石で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は50点である。器種組成は、剥片11点、碎片39点である。石材構成は安山岩①33点、安山岩②10点、黒曜石①7点である。

(3) 出土遺物

剥片（第360図199～208）203と204で接合資料28を構成する。切断剥片と考えられるものである。205は黒曜石①製の剥片である。細かな調整痕がみられる。その他の剥片は安山岩製で大きめのものが多い。

21. 第19ブロック（第5群）

(1) 分布状況

B B30-29グリットを中心に27点検出された。分布状況は3～7mの範囲に細長く広がっている。北東には第20ブロックがある。石材は、安山岩と瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は27点である。器種組成は、剥片1点、碎片26点である。石材構成は安山岩①26点、瑪瑙①1点である。

(3) 出土遺物

剥片（第361図209）安山岩①製の石核で特に打撃面を設けずに剥離が行われている。一部礫面が残っている。剥片等の製品は別ブロックへ移動していると考えられる。

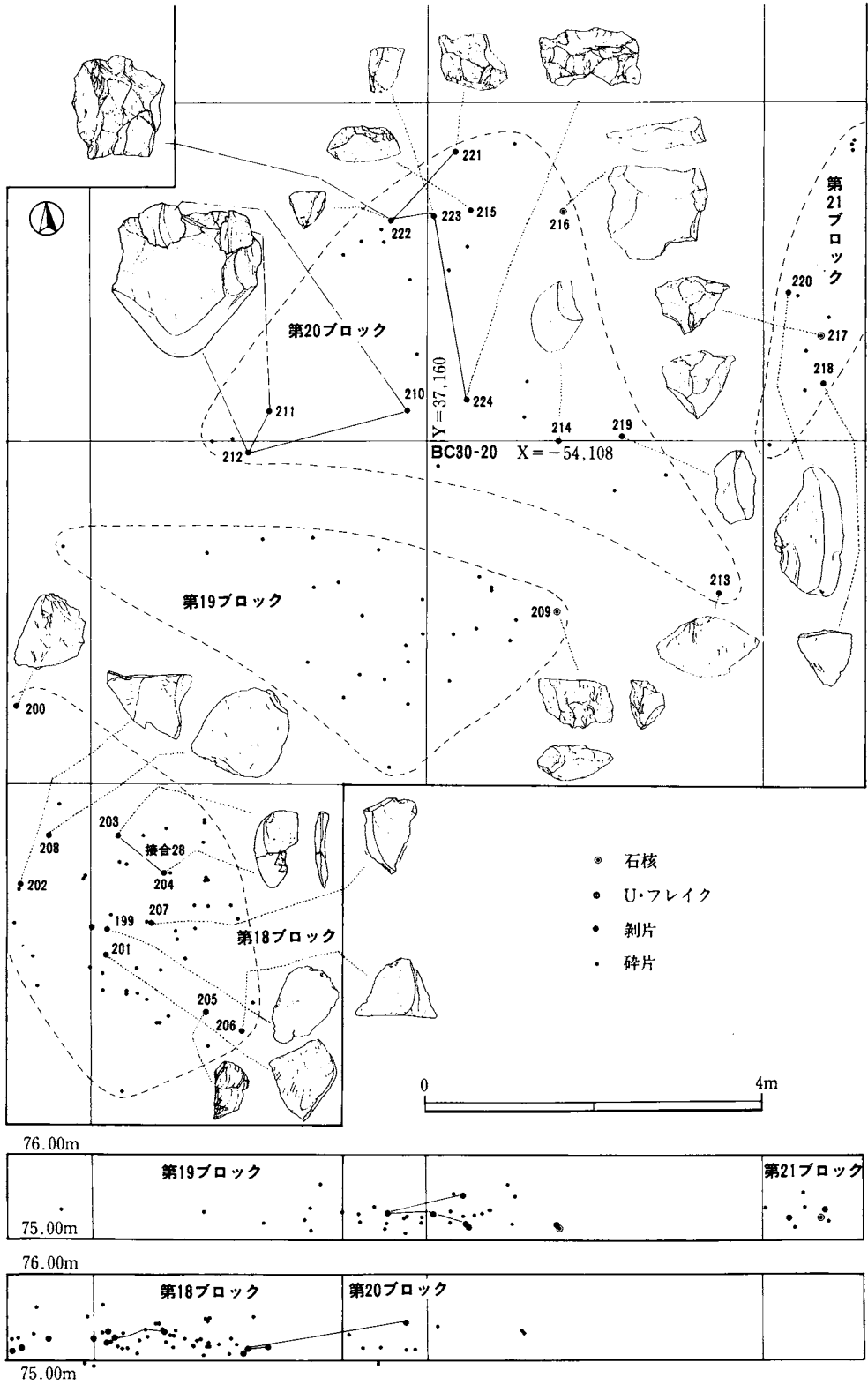
22. 第20ブロック（第5群）

(1) 分布状況

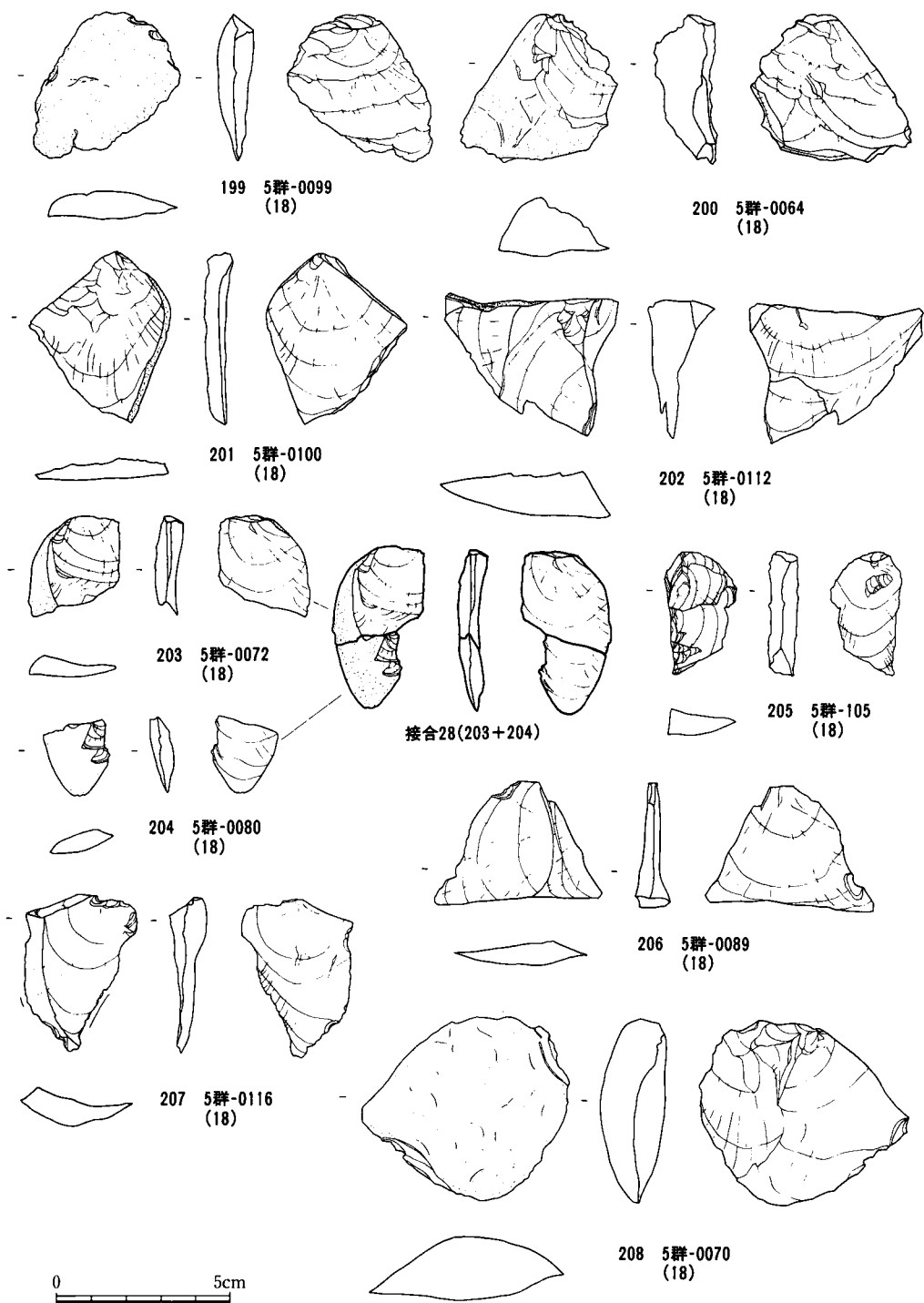
B C30-10グリットを中心に27点検出された。分布状況は5～7mの範囲に細長くやや散漫に広がっている。東には第21ブロックがある。石材は、安山岩と瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

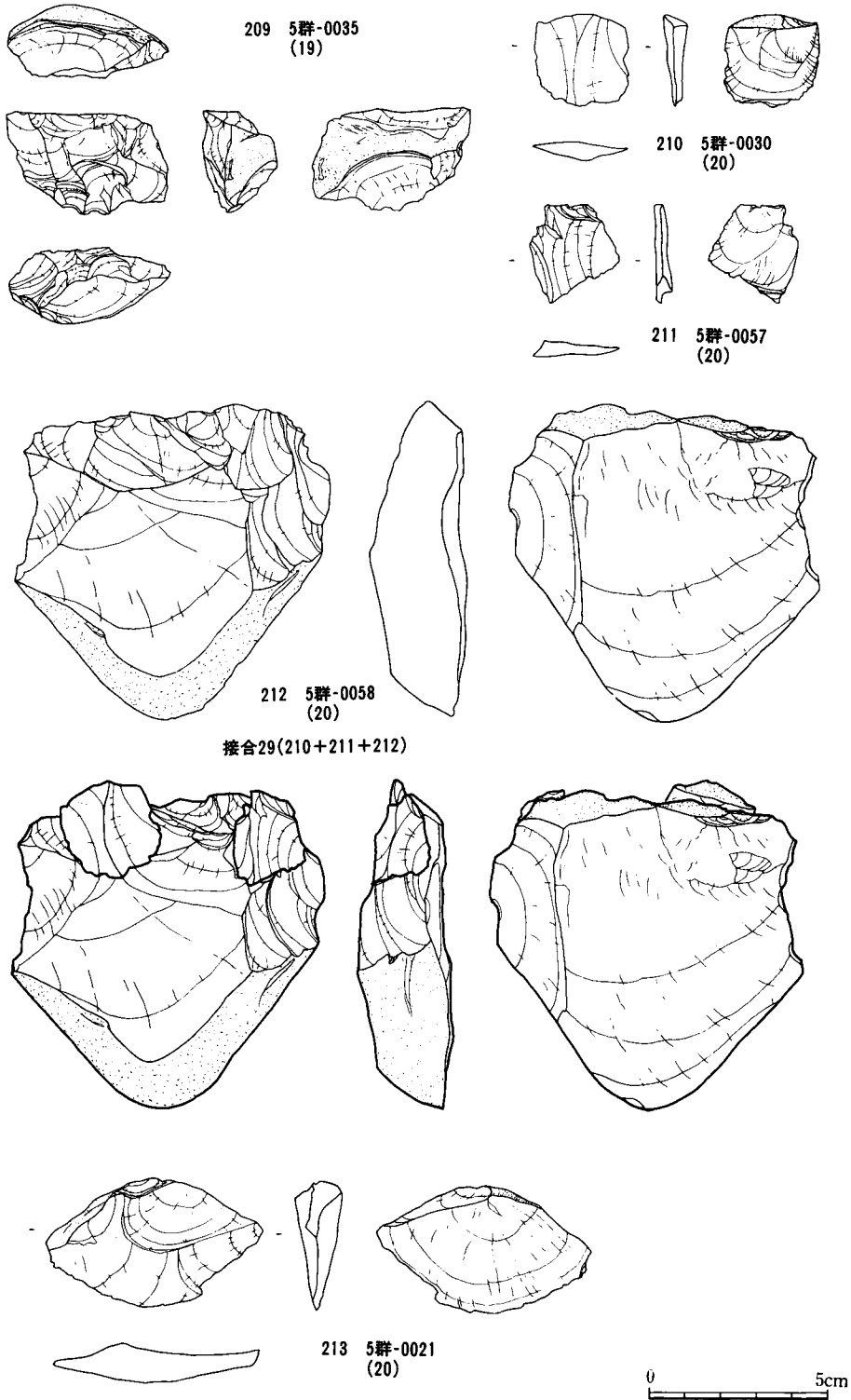
検出された石器の総数は27点である。器種組成は、石核2点、剥片4点、碎片21点である。石材構成は安山岩①15点、瑪瑙①10点である。



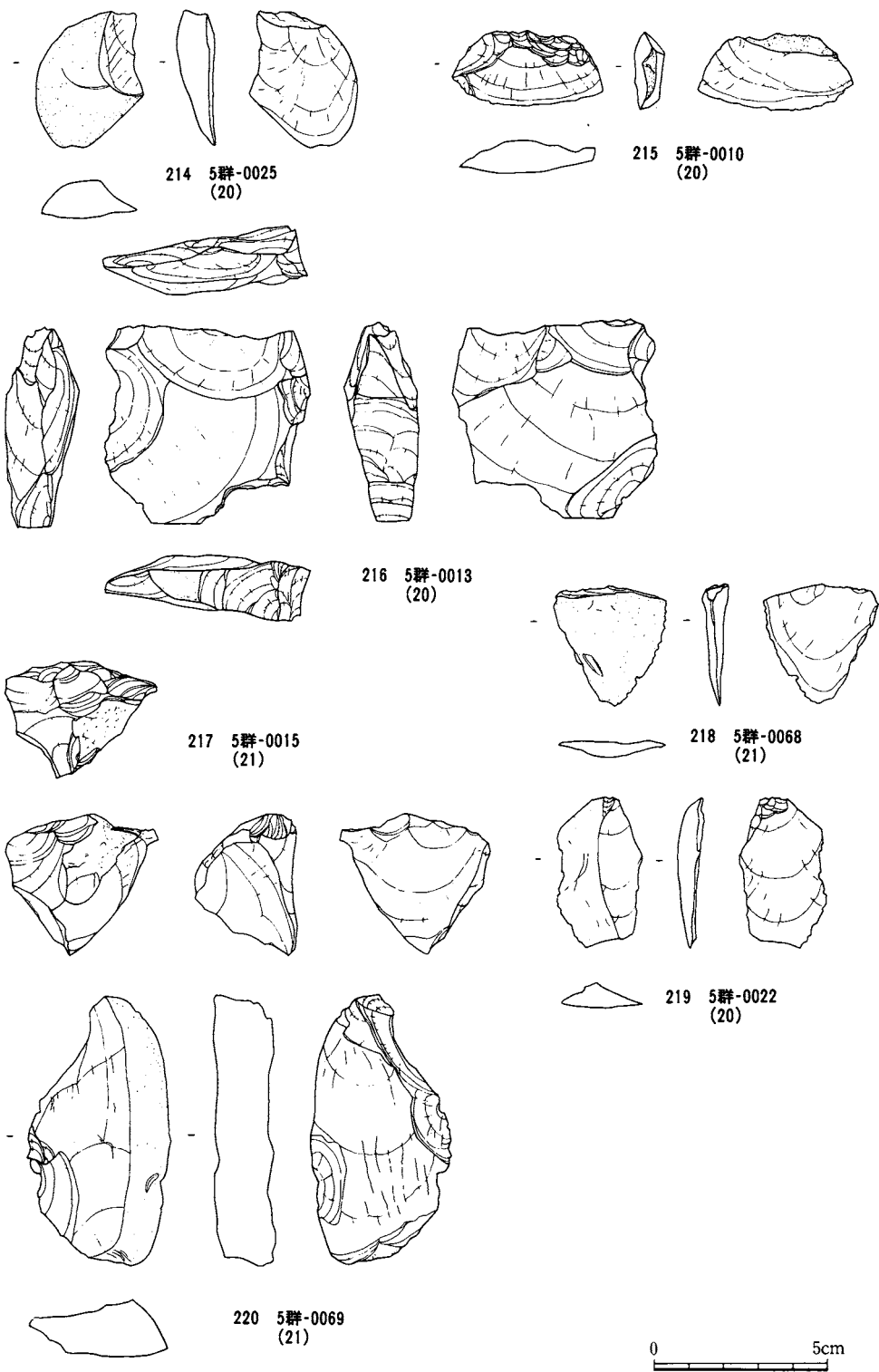
第359図 東大野第2遺跡第5群・第18～21ブロック遺物出土状況(1/80)



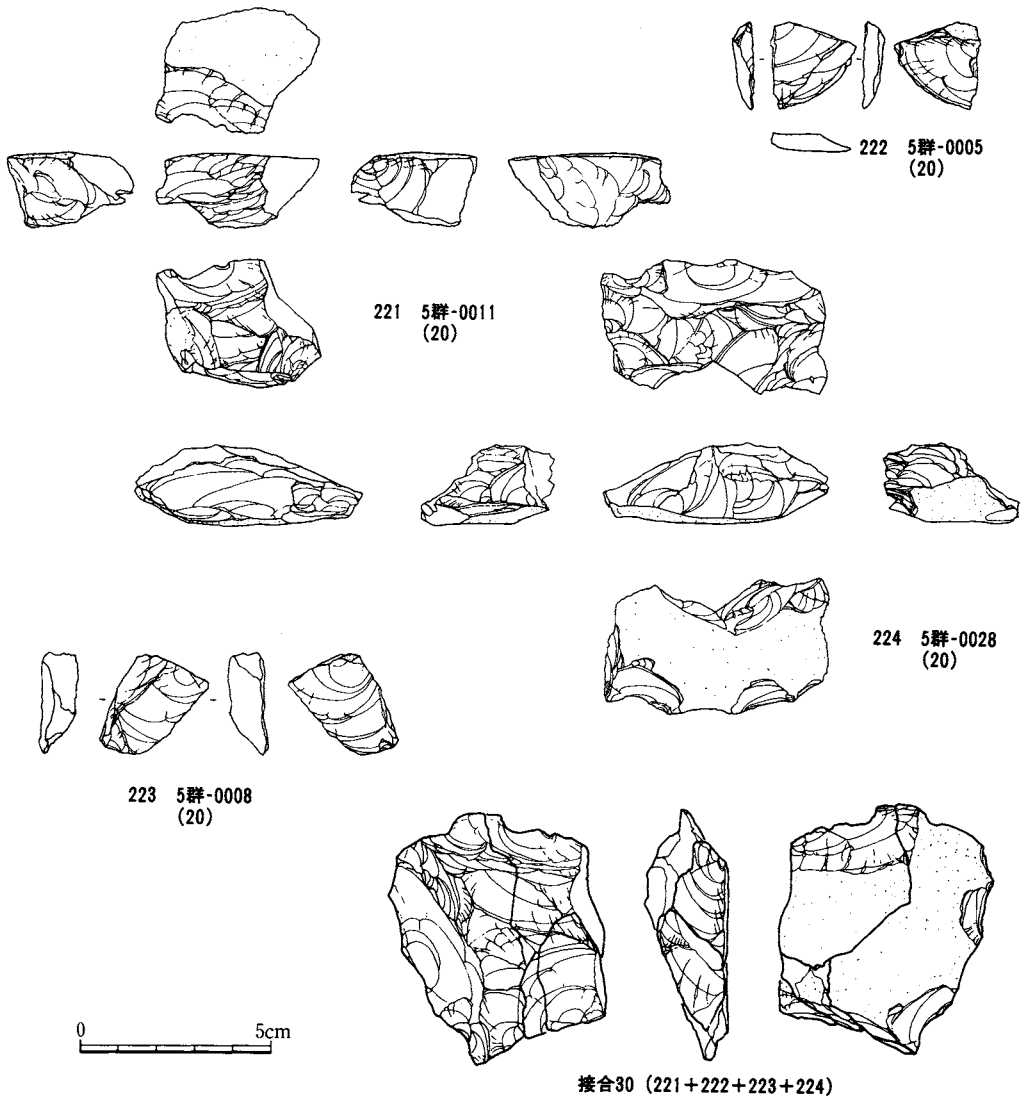
第360図 東大野第2遺跡第5群・第18ブロック出土石器(1/2)



第361図 東大野第2遺跡第5群・第19・20ブロック出土石器 (1/2)



第362図 東大野第2遺跡第5群・第20・21ブロック出土石器(1/2)



第363図 東大野第2遺跡第5群・第20ブロック出土石器(1/2)

(3) 出土遺物

石核（第362・363図216・224）216は安山岩①製の大型剥片を利用して上下から横長の不正な剥片を剥ぎ取っている。224は221～223と接合資料30を構成する。216と同様な剥離技術が伺われる。

剥片（第361～363図210～215・221～223）210から212は大型の剥片に小剥片が2枚接合している。接合資料29を構成する。212は主剥離面にも別の剥離面があり石核に転用した形跡がうかがわれる。221～223は224と接合資料30を構成する。213～215は比較的小さく横長の剥片であるため216の様な石核から作出された可能性が高い。

23. 第21ブロック（第5群）

(1) 分布状況

BC30-11グリットを中心に11点検出された。分布状況は2～4mの範囲に細長くやや散漫に広がっている。西には第20ブロックがある。石材は、安山岩と瑪瑙と黒曜石で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は11点である。器種組成は、石核1点、剥片1点、碎片9点である。石材構成は安山岩①9点、瑪瑙①1点、黒曜石①1点である。

(3) 出土遺物

石核（第362図217）瑪瑙①製の石核で打面を設けず、任意の方向で小さな剥片を剥いでいる。最終的に剥片として剥ぎとられている。

剥片（第362図218・220）安山岩①製の剥片である。

24. 第22ブロック（第6群）

(1) 分布状況

BC30-13グリットを中心に45点検出された。分布状況は3～4mの楕円形の範囲にやや密に広がっている。北には第23ブロックがある。石材は、安山岩と2種類の瑪瑙と黒曜石で構成される。

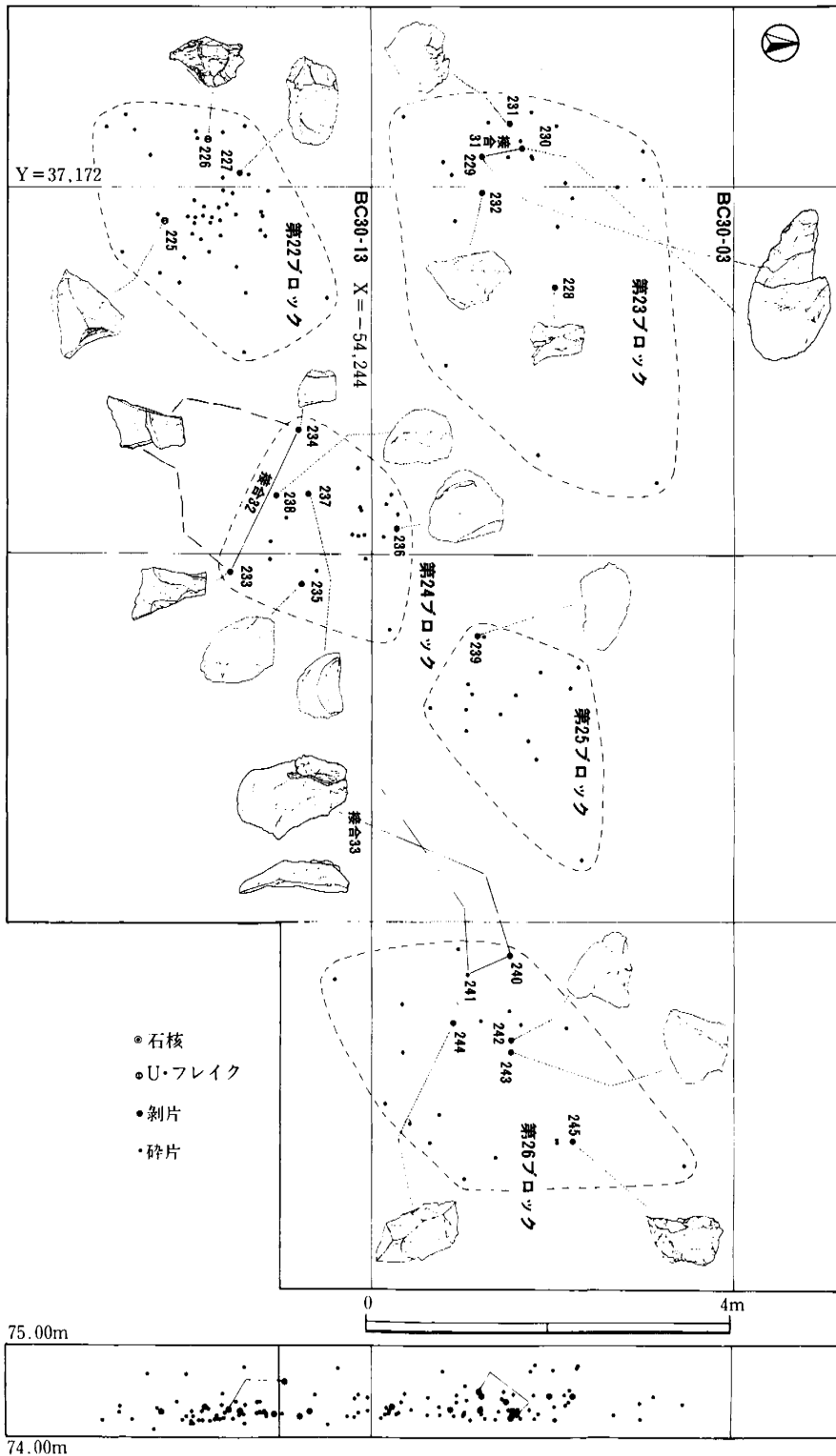
(2) 石器組成

検出された石器の総数は45点である。器種組成は、U・フレイク1点、剥片2点、碎片42点である。石材構成は安山岩①39点、瑪瑙①4点、瑪瑙②1点、黒曜石①1点である。非常に碎片の割合が高いブロックである。

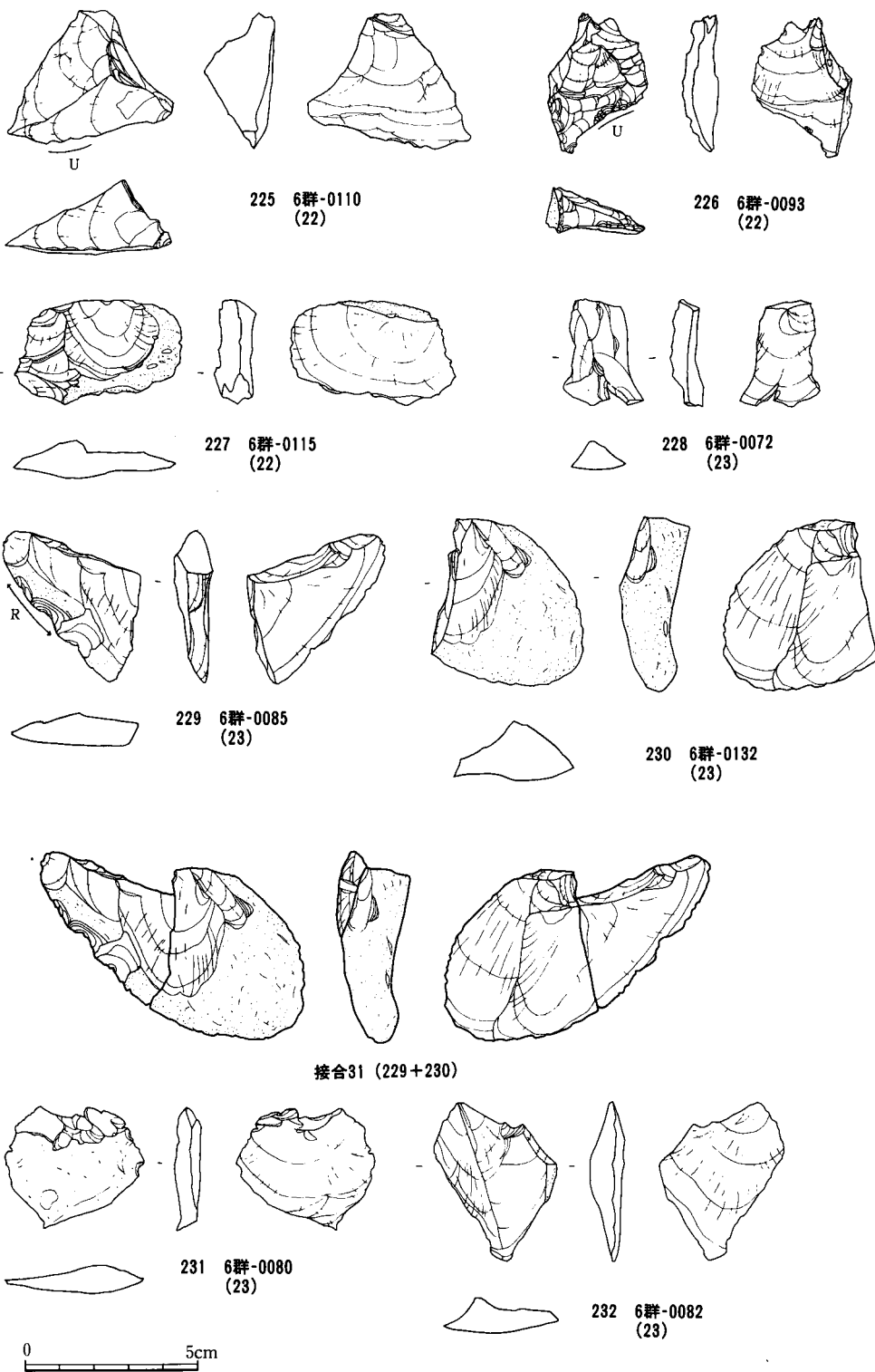
(3) 出土遺物

U・フレイク（第365図226）黒曜石①製の縁辺部に微細な刃こぼれがみられる。

剥片（第365図225・227）225はやや背の厚い瑪瑙①製の剥片である。227は安山岩①製の剥片で一部に礫面を残す。



第364図 東大野第2遺跡第6群・第22～26ブロック遺物出土状況(1/80)



第365図 東大野第2遺跡第6群・第22・23ブロック出土石器 (1/2)

25. 第23ブロック (第6群)

(1) 分布状況

BC30-03グリットから2m南を中心に27点検出された。分布状況は3～4mの楕円形の範囲にやや散漫に広がっている。南には第22ブロックがある。石材は、安山岩と瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は27点である。器種組成は、R・フレイク1点、剥片4点、碎片22点である。石材構成は安山岩①25点、瑪瑙①2点である。

(3) 出土遺物

R・フレイク(第365図229)230と接合資料31を構成する。縁辺部に比較的大きめの連続的な剥離がみられる。断面から折り取られたものではないようである。安山岩①製の剥片である。

剥片(第365図230～232)230は229と接合資料31を構成するもので背部をかなり礫面で覆われている。231は瑪瑙①製の剥片で背部をかなり礫面で覆われている。232は安山岩①製の剥片である。

26. 第24ブロック (第6群)

(1) 分布状況

BC30-14グリットを中心に22点検出された。分布状況は2～3mの楕円形の範囲に広がっている。北東には第25ブロックがある。石材は、安山岩のみで構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は22点である。器種組成は、剥片5点、碎片17点である。石材構成は安山岩①22点である。

(3) 出土遺物

剥片(第366図233～238)いずれも安山岩①の剥片である。233と234は接合資料32を構成する。他の剥片は礫面を多く持つものが多い。

27. 第25ブロック (第6群)

(1) 分布状況

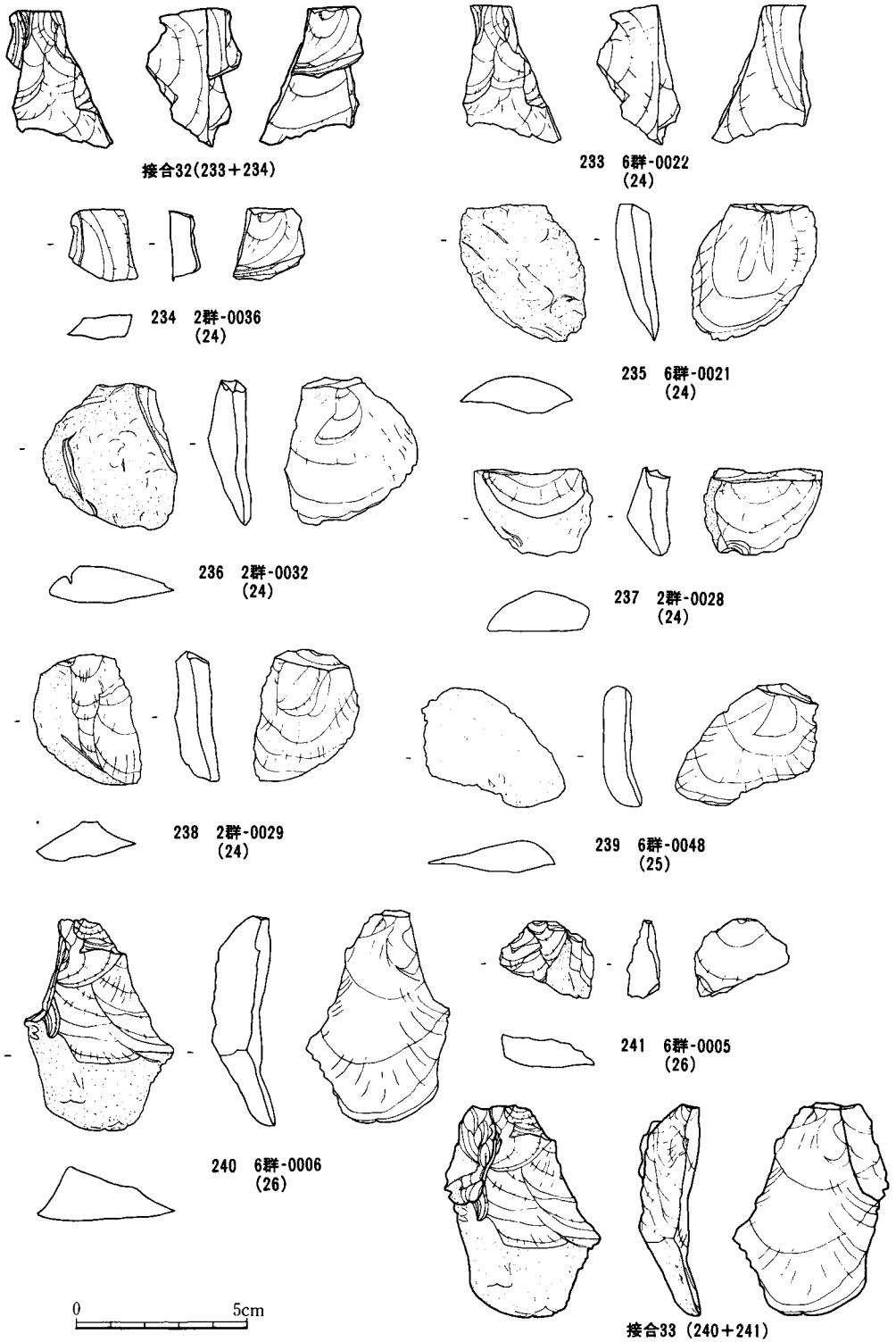
BC30-04グリットを中心に15点検出された。分布状況は2～3mの楕円形の範囲に広がっている。東には第26ブロックがある。石材は、安山岩のみで構成される。

(2) 石器組成

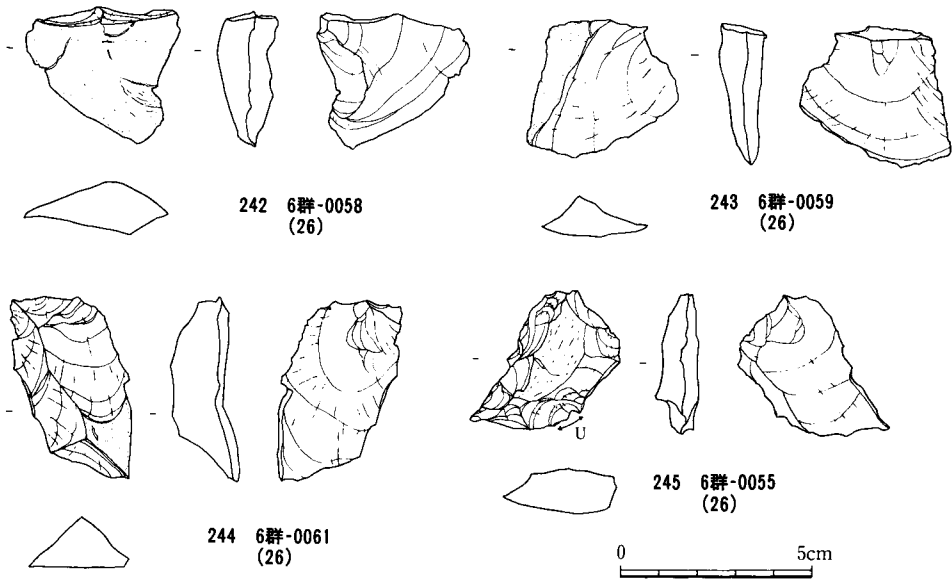
検出された石器の総数は15点である。器種組成は、剥片1点、碎片14点である。石材構成は安山岩①15点である。

(3) 出土遺物

剥片(第366図239)安山岩①製の剥片である。背面はほぼ全面礫面で覆われている。



第366図 東大野第2遺跡第6群・第24~26ブロック出土石器(1/2)



第367図 東大野第2遺跡第6群・第26ブロック出土石器(1/2)

28. 第26ブロック (第6群)

(1) 分布状況

BC35-05グリットを中心に24点検出された。分布状況は2～5mの楕円形の範囲に広がっている。西には第25ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石、瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は24点である。器種組成は、剥片5点、碎片19点である。石材構成は安山岩①21点、黒曜石①2点、瑪瑙①1点である。

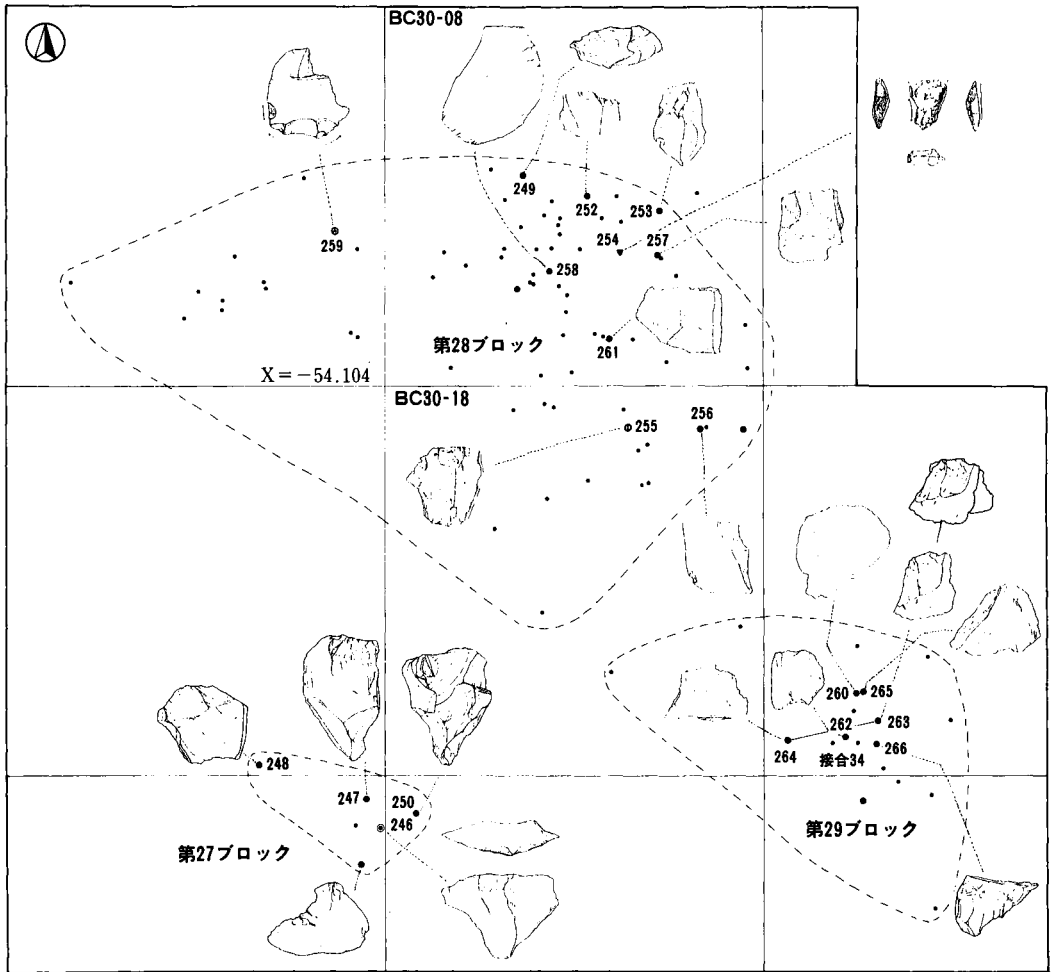
(3) 出土遺物

剥片(第366・367図240～245) 240と241は接合資料33を構成する。大きな剥片を再利用して剥片を作出している。安山岩①製である。242と243は安山岩①製の剥片である。244は黒曜石①製の剥片である。やや分厚い。245は瑪瑙①製の剥片である。縁辺部に若干の刃こぼれがみられる。

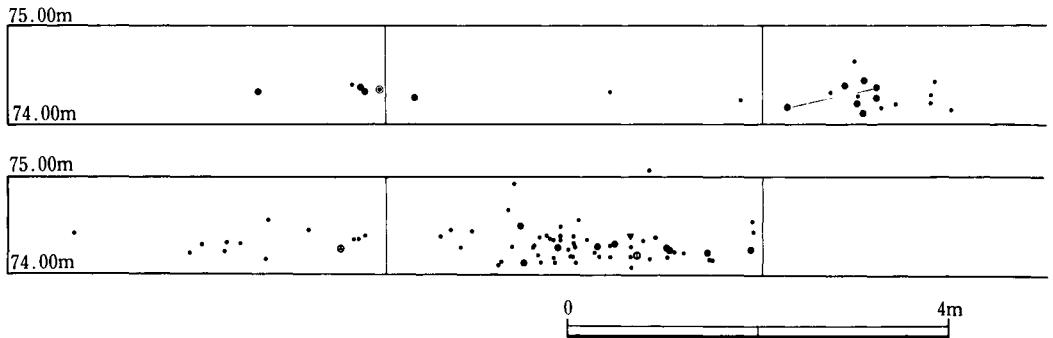
29. 第27ブロック (第7群)

(1) 分布状況

BC30-28グリットを中心に6点検出された。分布状況は1～2mの楕円形の範囲に広がっている。東には第29ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石、瑪瑙で構成される。



- ▽ 台形石器
- 剥片
- 石核
- ・ 碎片
- U・フレイク
- R・フレイク



第368図 東大野第2遺跡第7群・第27～29ブロック遺物出土状況(1/80)

(2) 石器組成

検出された石器の総数は6点である。器種組成は、石核1点、剥片4点、碎片1点である。石材構成は安山岩①4点、黒曜石①1点、瑪瑙①1点である。

(3) 出土遺物

石核（第369図246）瑪瑙①製の板状の剥片を石核に転用している。

剥片（第369図247・248）どちらも大形の安山岩①製の剥片である。247は背部に礫面を持つ。

30. 第28ブロック（第7群）

(1) 分布状況

BC30-08グリットを中心に76点検出された。分布状況は5～7mの楕円形の範囲に広がっている。南には第27、29ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石、瑪瑙で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は76点である。器種組成は、台形石器1点、R・フレイク1点、U・フレイク1点、剥片5点、碎片68点である。石材構成は安山岩①53点、黒曜石①18点、瑪瑙①5点である。

(3) 出土遺物

台形石器（第370図254）黒曜石①製の比較的小さな剥片の両側辺に細かな調整を施している。先端部にあたる部分は折れている。

R・フレイク（第370図259）安山岩①製の大型剥片の先端部の縁辺を中心に大きめの剥離で調整を施している。

U・フレイク（第370図255）黒曜石①製の大型剥片の片側辺に微細な刃こぼれが見られる。

剥片（第370図252・253・256～258）252と253は瑪瑙①の剥片である。253は背部に多方面からの剥離痕が見られる。256～258は安山岩①の剥片である。背部は礫面を多く持つものが多い。

31. 第29ブロック（第7群）

(1) 分布状況

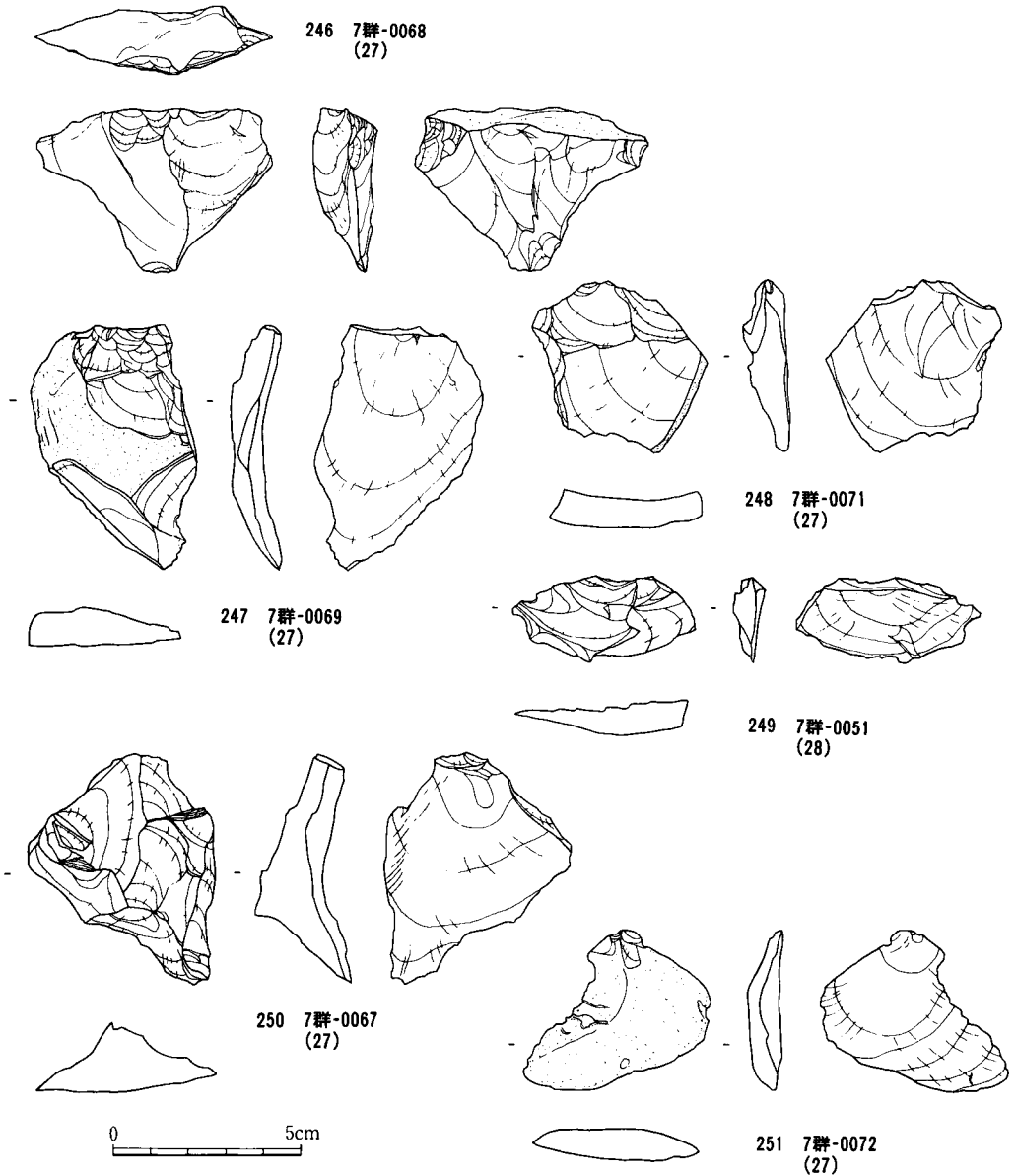
BC30-29グリット付近を中心に20点検出された。分布状況は4～5mの範囲に広がっている。西には第27ブロックがある。石材は、安山岩、黒曜石で構成される。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は20点である。器種組成は、剥片7点、碎片13点である。石材構成は安山岩①18点、黒曜石①2点である。

(3) 出土遺物

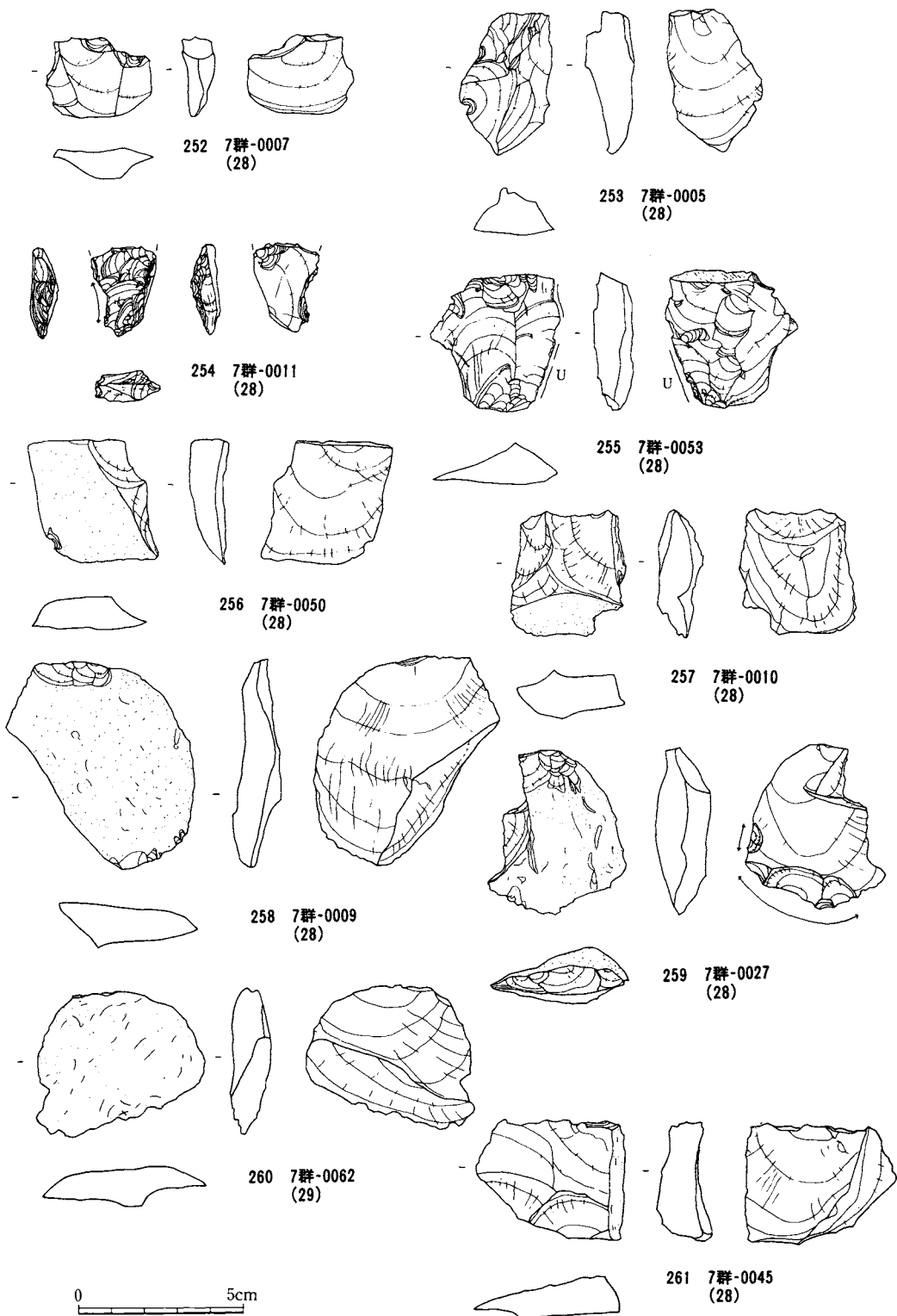
剥片（第370・371図260～266）262は黒曜石①の剥片である。263と264は接合資料34を構成する。安山岩①製の剥片である。他の安山岩の剥片類も大形のものが多い。



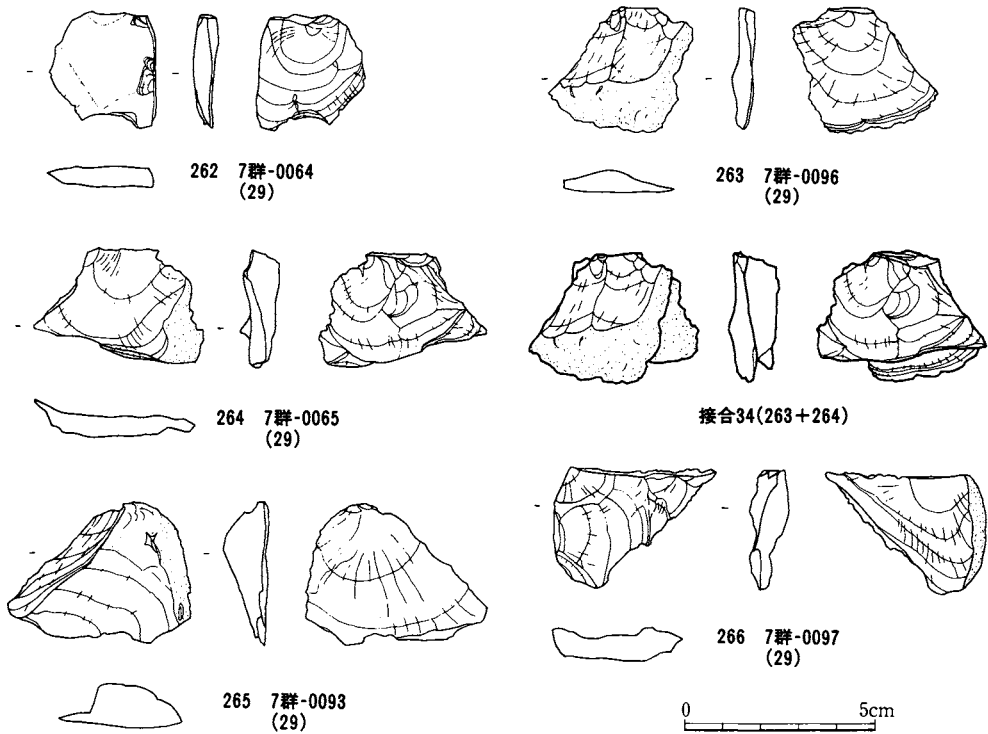
第369図 東大野第2遺跡第7群・第27・28ブロック出土石器(1/2)

32. 第1焼土ブロック (第372図)

第4群の第14ブロックとほぼ重なるように分布している。遺物の検出面から下にかけてロームが熱を受けたような状態で検出されていることから石器群とほぼ同時期に形成されたものと考えてよさそうである。複数回の使用も考えられる。



第370図 東大野第2遺跡第7群・第28・29ブロック出土石器(1/2)



第371図 東大野第2遺跡第7群・第29ブロック出土石器(1/2)

33. 第1炭化物集中地点（第373図）

第3群の第12ブロックと重なるように分布している。IX層に主体がありほぼ石器群と重なることから何らかの生活空間であった可能性も否定し得ない。

34. 第2焼土ブロック及び炭化物集中地点（第374図）

第1群の第5ブロックと第6ブロックの間の空間に位置し、ほぼ円形に炭化粒の濃密な部分と焼土の小規模なブロックが検出されている。住居跡等の遺構といえないまでもそれに近い空間的役割をはたしていた可能性も考えられる。

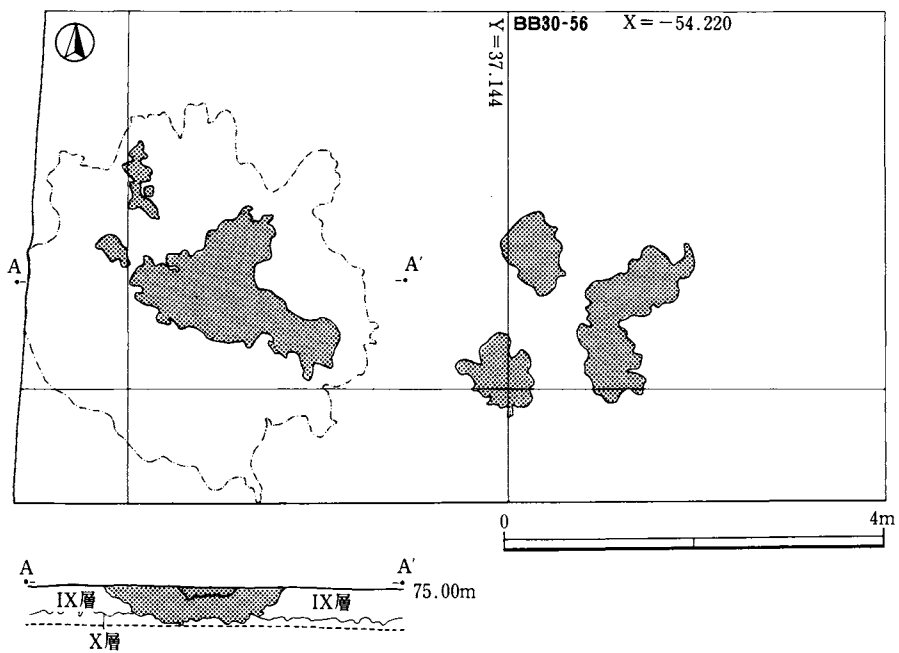
35. 小結

全体で7群29ブロックと土気緑の森工業団地内で最大の石器群が検出されており、しかもこれらの石器群がほぼ同時期に形成されたと思われる。ブロックの内容は石器からみると剥片と碎片が大半を占めるものが多い。また剥片のみのものや碎片のみのものもみられる。全体からみるとU・フレイクやR・フレイク等の石器や石核などは特定の場所に集まる傾向がみられる。これらのことから、剥片剥離作業と使用や廃棄の細かな行動についての分離ができる可能性がある。

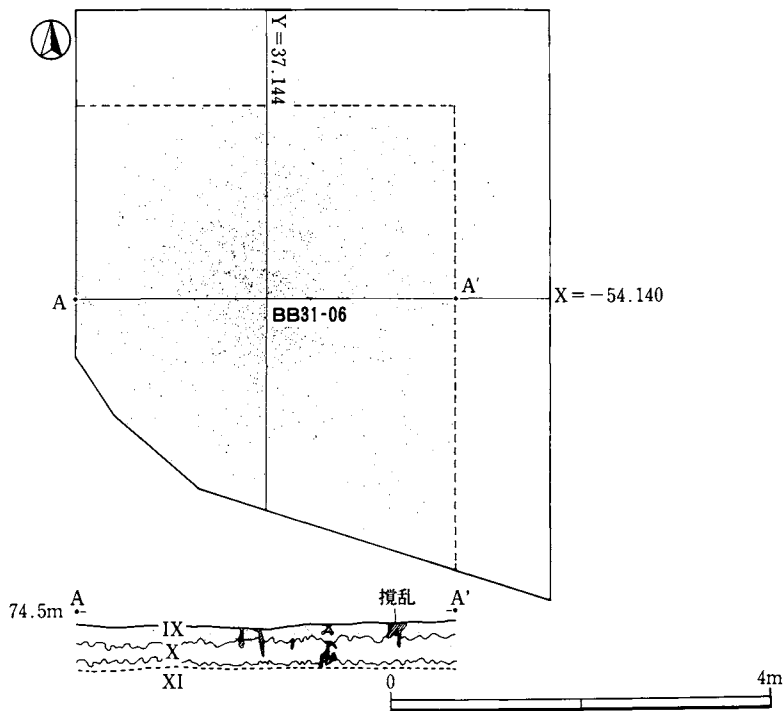
石材の分布状況は比較的粒の細かな安山岩と粒の粗い黒曜石（おそらく高原山産）・泥岩・珪質頁岩・瑪瑙・チャート等の石材がみられる。そのうち安山岩が全体の80%以上を占めている。安山岩は同母岩ではないと思われるが、同質の石材と考えられる。分布状態からは安山岩のブロックに他の石材が補完する形でみられる。これらの関係が違ったグループによる並列関係であるのか同じグループによる時期的な差なのかは解らない。

接合関係で群を越えて接合する資料も見られるが、そのほとんどは隣接するブロックやブロック内での接合例が多い。

剥片剥離技術の特徴は大きな石塊から大形の剥片素材（あまり形が一定ではない板状の剥片）を分割して石核に転用していることが考えられる。そしてこの石核素材を周辺部分から多方面より剥離している。このことから小さな剥片はやや台形に近い不整形な形態をしたものが多い。ただしこの特徴は安山岩の石材についてのみいえることで、他の石材では違った特徴がみられる。黒曜石は大形の剥片素材を石核にしているところまでは共通しているが、打面は前後へ移動していることがうかがわれる。黒曜石の小さな剥片は比較的縦長に近い剥片が多いのが特徴である。泥岩では小礫を石核素材として打面を形成したのちに前から後に向かって打点を移動している。比較的横長で礫面を一部残す剥片が多い。また焼土ブロックや炭化物集中地点等が石器のブロックと隣接しており住居跡や日常的な作業の場所として認識できる可能性は強い。



第372図 東大野第2遺跡第1焼土ブロック (1/80)



第373図 東大野第2遺跡第1炭化物集中地点 (1/80)

第2節 縄文時代

1. 概要

東大野第2遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が検出され5,750㎡の本調査を実施した。その結果縄文時代の住居跡1軒、縄文時代土坑19基が検出された。また遺物としては縄文時代前期～中期の時期の土器と若干の石器が出土している。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

004号住居跡（遺構 第375図）

BC29-49に位置する。プランは長軸2.78m、短軸2.47mのやや楕円に近い形を呈する。検出面から床面までの掘り込みは18cmある。床面は硬化した箇所は認められず中央やや西よりに焼土粒を多く含む炉とおぼしき施設が認められた。柱穴は壁の内外ともに検出できなかった。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少し含む暗褐色土。2. ローム粒を少し含む堆積はやや疎な黒色土。3. ロームブロックを少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を少し含むブロックを若干含む暗褐色土である。

遺物は、覆土下層を中心に縄文時代前期の土器片が多量の礫を伴って出土している。これらのことから、この遺構は縄文時代前期に非常に短期間に営まれた住居跡（キャンプ程度）と考えられる。

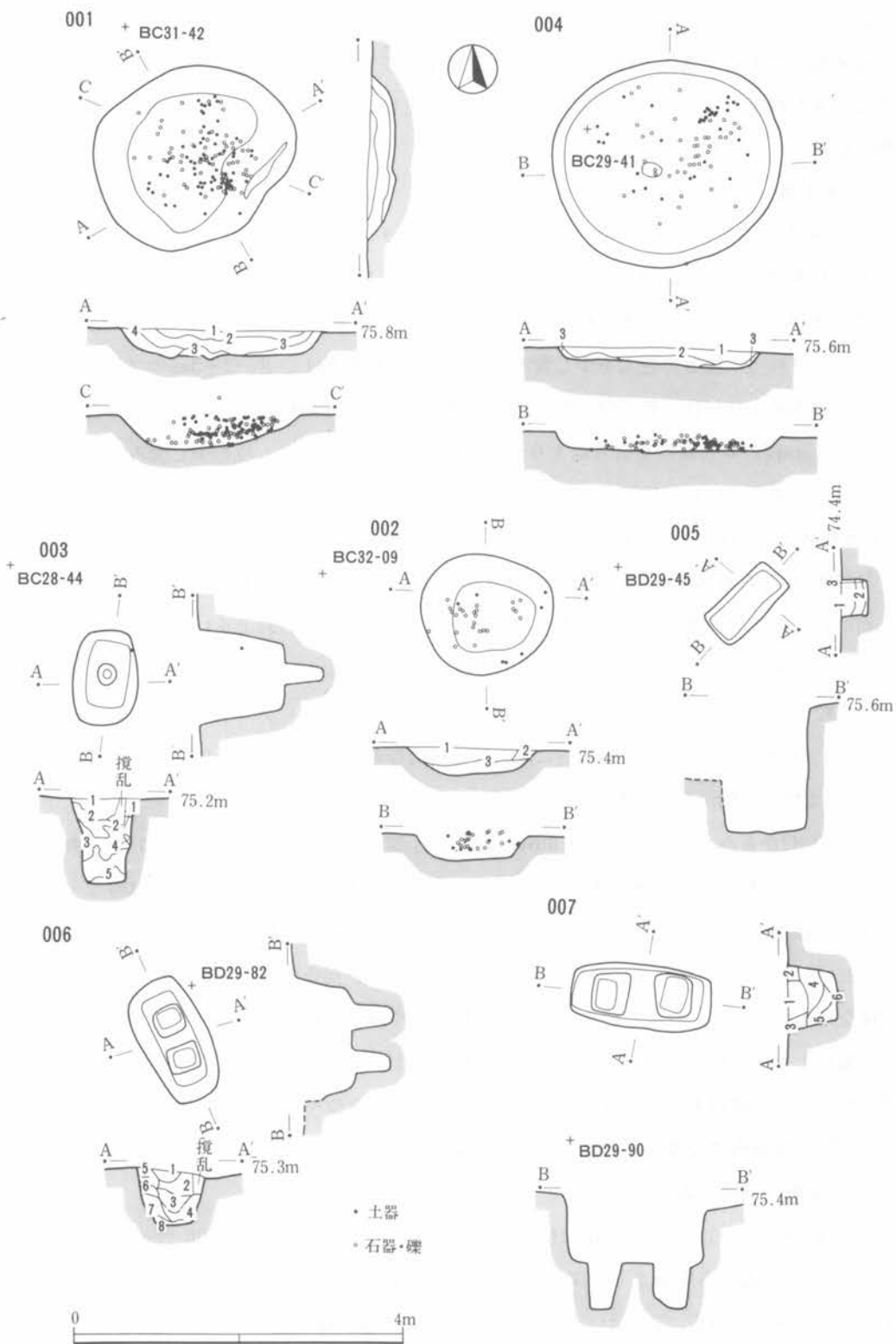
(2) 土坑

001号土坑（遺構 第375図）

BC31-42から東へ1m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸2.48m、短軸2.09mの楕円形を呈する。検出面からの床面までの深さは40cmでやや中央から壁際にかけてだだらと上がっている。壁は全体に緩やかに立ち上がる。004号住居跡と同様に縄文時代前期の土器片が礫を多量に伴って出土しているが、床面の硬化部分や炉跡はなかった。また柱穴等の施設もみられない。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む黒色土。2. ローム粒を若干含む黒色土。3. ソフトロームブロック・ローム粒を含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土である。遺物の出土状況や規模などから004号と同様な用途を考えることも可能であるが、一応この場では縄文時代前期の土坑としておく。

002号土坑（遺構 第375図）

BC32-09から東へ2mに位置する。プランは長軸1.61m、短軸1.48mのやや円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは32cmある。覆土は1. ローム粒を少し含む炭化粒を若干含む黒色土。2. ローム粒を多く含む暗褐色土。3. 黒色土塊・ロームブロックを少し含



第375図 東大野第2遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

む暗褐色土である。遺物は礫を中心に縄文土器片が若干含まれる程度である。礫は焼けたものでなくまた焼土もないところから、炉やそれに関連した施設ではなさそうである。時期は縄文時代前期のものであろう。

003号土坑（遺構 第375図）

BC28-44から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.24m、短辺0.78mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1mある。床面はフラットで中程に径25cmで深さ48cmの小ピットを1個検出している。壁はほとんど垂直に立ち上がる。覆土は1. 1.1~2mmのソフトローム粒と黒色土を少し含み締まりの良い暗褐色土。2. 2~3mmのソフトローム粒を多く含み締まりが良く若干明るさが増す暗褐色土。3. 5mm程のローム粒を少し含む黒褐色土。4. 5mm程のローム粒を含み締まりが悪い暗褐色土。5. ローム粒を少し含み締まりが良い明褐色土である。形態的に陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

005号土坑（遺構 第375図）

BD29-45から東へ2mに位置する。プランは長辺1.02m、短辺0.49mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは確認調査時に大部分削平しているがおおよそ1.5mある。床面はほぼフラットで壁は垂直に立ち上がる。覆土は1. ロームブロック（大）を多く含む暗褐色土。2. ローム粒・ブロック（小）を少し含む黒色土。3. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土である。やや小形ではあるが形態的に陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

006号土坑（遺構 第375図）

BD29-82から西へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長辺1.51m、短辺0.79mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.67mある。床面には一辺32cmの方形のピットが2個並んで検出された。深さはいずれも0.5m前後である。覆土は1. ローム粒を少し含む黒色土。2. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。3. 黒色土・褐色土ブロックを少し含み堆積がやや疎な暗褐色土。4. ローム粒を多く含み堆積がやや疎な暗褐色土。5. ローム粒を少し含む暗黄褐色土。6. 褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。7. ローム粒（小豆大）を多く含み堆積がやや疎な暗褐色土。8. ローム粒・ロームブロックをやや多く含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

007号土坑（遺構 第375図）

BD29-90北に1.5m、東へ1mに位置する。プランは長辺1.69m、短辺0.76mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.81mある。床面には径40~50mの方形のピットが2個並んで検出されている。深さはいずれも0.56m前後である。覆土は1. ローム粒を少し含む黒褐色土。2. ロームブロックを少し含み堆積がやや疎な暗褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. 褐色土ブロック・ローム粒を少し含む黒色土。5. ロームブロック（小）を少し含

む黒褐色土。6. ロームブロック（小）を多く含む堆積がやや密な暗茶褐色土である。形態的には006号と同様に陥穴状遺構になると思われる、同じ時期に設けた可能性が強い。遺物の検出はない。

008号土坑（遺構 第376図）

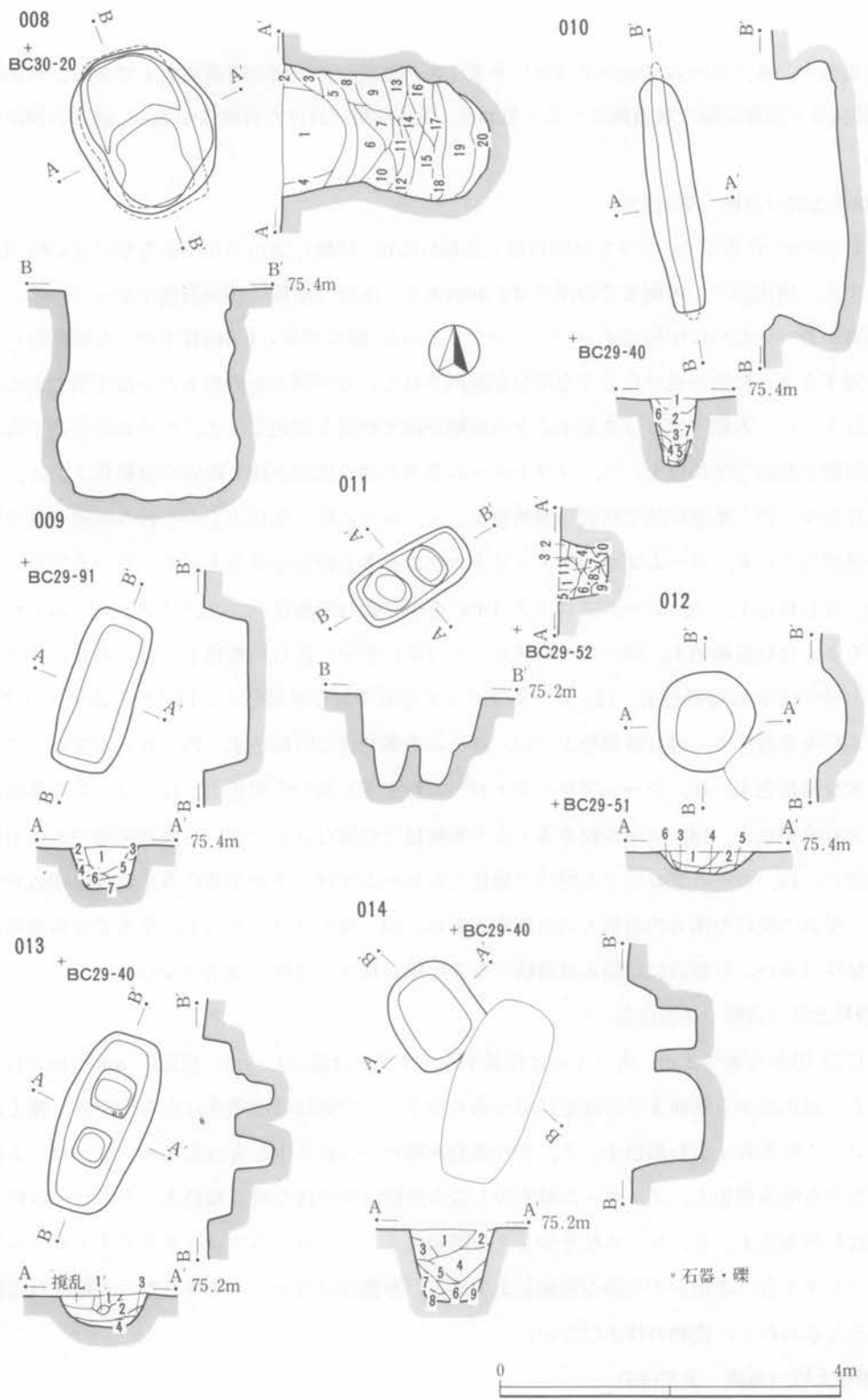
BC30-20に位置する。プランは開口部で長軸1.92m、短軸1.58mのやや長方形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは2.46mある。床面は南側で10cm前後下がっている。壁は崩落が著しいために中程でオーバーハングしている。開口部から1.5m程下がった壁部分にはほぼ一周するように熱を受けたような部分が検出されているが何のためのものかは不明である。覆土は1. ローム粒・ブロックを多く含む堆積が疎で軟弱な褐色土。2. ローム粒を若干含む堆積が疎で軟弱な黒褐色土。3. ソフトロームを多く含む堆積が疎で軟弱な黒褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積が疎で軟弱な黒褐色土。5. ローム粒・褐色土を少し含む堆積が疎で軟弱な黒褐色土。6. ロームブロック・ソフトロームを多く含む暗褐色土。7. ロームブロックを少し含む褐色土。8. ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。9. ソフトローム・ローム粒を多く含む暗褐色土。10. ロームブロック（小）を少し含む黒褐色土。11. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。12. ロームブロックを若干含む黒褐色土。13. ロームブロック・ローム粒を非常に多く含む暗褐色土。14. ロームを多く含む暗褐色土。15. ロームブロックを多く含む暗褐色土。16. ロームブロック・ローム粒を多く含む暗褐色土。17. ロームを非常に多く含む暗褐色土。18. ローム粒を多く含む堆積はこの層だけ密で硬い。貼り床面である可能性が強い。19. ロームブロックと焼けて硬化したロームブロックを非常に多く含む堆積は密で硬い。壁面の焼けた部分の崩落土の可能性もある。20. 焼土ブロック（小）を多く含む堆積は疎で粘性は強い。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

009号土坑（遺構 第376図）

BC29-91から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.9m、短辺0.8mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは51cmありフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を若干含む黒色土。2. やや茶色を帯ローム粒を少し含む黒色土。3. ローム粒を少し含む暗茶褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積はやや疎な暗茶褐色土。5. ローム粒を若干含む黒褐色土。6. ローム粒を少し含む黒褐色土。7. ロームブロックを若干・ロームブロックを多く含む堆積がやや疎な黒褐色土である。形態的にはピットを持たないが陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

010号土坑（遺構 第376図）

BC29-72から東へ1m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸2.78m、短軸0.54mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは約0.98mで中程に向かってやや深くなっている。壁は



第376図 東大野第2遺跡縄文時代土坑(2) (1/80)

崩落のためかオーバーハングしている。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。2. 褐色土ブロックとロームブロック（小）を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な暗黄褐色土。4. ローム粒・ロームブロック（小）を多く含む堆積がやや疎な黄褐色土。5. ローム粒（大豆大）を多く含む堆積が疎でサクサクな黒色土。6. ハードロームブロックの堆積した明黄褐色土。7. ローム粒を多く含む堆積が疎でサクサクな黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

011号土坑（遺構 第376図）

B C 29-52から北へ0.5m、西へ1mに位置する。012号と隣接していてこちらの土坑の方が新しい。プランは長辺1.45m、短辺0.67mのほぼ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.58mで床面には50cm×40cmの方形のピットが2個並んで検出されている。ピットの深さは44cm前後である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒を少しと炭化粒を若干含む黒褐色土。2. 炭化粒を若干含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む黒褐色土。4. ローム粒・褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。5. ローム粒を多く含む堆積がやや疎な黒褐色土。6. ローム粒を多く含む堆積はやや疎な黒色土。7. ローム粒を少し含む堆積がやや疎な黒褐色土。8. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。9. ロームブロック（小）を若干含む黒色土。10. ロームブロック（大）を少し含む黒褐色土。11. 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

012号土坑（遺構 第376図）

B C 29-51から東へ2 m、北へ1 mに位置する。011号と隣接していてこちらの方がやや古い。プランは径1.1mのほぼ円形を呈する。断面形は逆台形を呈する。検出面から床面までの深さは30cmある。覆土は1. 黒色土ブロック・ソフトロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ロームブロックをやや多く含む暗褐色土。3. ロームを少し含む暗褐色土。4. ローム粒・ブロックを少し含む暗褐色土。5. ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。6. ローム粒を若干含む暗黄褐色土である。規模や形態的な状況から判断すると貯蔵穴的な用途を持つ遺構かもしれない。遺物の検出はない。

013号土坑（遺構 第376図）

B C 29-40から南へ1.5m、東へ0.5mに位置する。014号と隣接していてこちらの方がやや新しい。プランは長辺2.11m、短辺0.98mのやや丸みがある長方形を呈する。床面には一辺40cm程の方形のピットが2個並んで検出された。検出面から床面までの深さは36cmある。ピットの深さはどちらも44cm程ある。覆土は1. ローム粒をわずかに含む黒色土。1'. 黒色土を少し含むローム粒を若干含む黒褐色土。2. ローム粒を少し含む黒褐色土。3. ローム粒・ブロックを少し含む黒褐色土。4. ロームブロック（小）・ローム粒を少し含む炭化粒を若干含む黒褐色土で

ある。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

014号土坑（遺構 第376図）

BC29-40から南へ1mに位置する。013号と隣接してこちらの方がやや古い。プランは長辺1.15m、短辺1mのやや丸みの強い方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ローム粒と褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。2. ローム粒を若干含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含むブロック（小）を若干含む黒褐色土。4. ローム粒を少し含む黒色土。5. ローム粒をやや多く含む堆積がやや疎な黒色土。6. ロームブロック（小）を少し含む堆積がやや疎な黒色土。7. ロームブロック（小）をやや多く含む黒褐色土。8. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。9. ロームブロック（小）を若干含む堆積がやや疎な暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

015号土坑（遺構 第377図）

BB30-12から東へ1m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺2.18m、短辺0.87mのやや丸みの強い長方形を呈する。検出面から床面までの深さは1.64mである。床面はほぼフラットで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. ロームブロックを多く含む褐色土。2. ロームブロックを若干含む暗褐色土。3. 褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。4. 褐色土ブロックを少し含む黒褐色土。5. ロームブロック（小）を多く含む褐色土である。堆積は全体にやや疎で軟弱である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

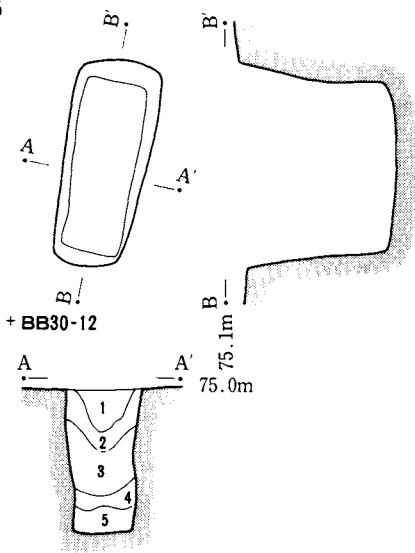
016号土坑（遺構 第377図）

BA29-89から東へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.48m、短辺0.8mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.68mある。床面はフラットで中程に小ピットが4個検出されている。形態からして逆茂木を刺していた跡とも考えられる。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含む堆積がやや疎な暗褐色土。2. ローム粒と褐色土粒を少し含む堆積は疎でサクサクな暗褐色土。3. ローム粒（大）を少し含む暗褐色土。4. ローム粒を少し含む堆積がやや疎でサクサクな暗黄褐色土。5. ロームブロック（小）を多く含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土。6. ロームブロックを少しとローム粒を若干含む堆積が疎でサクサクな暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

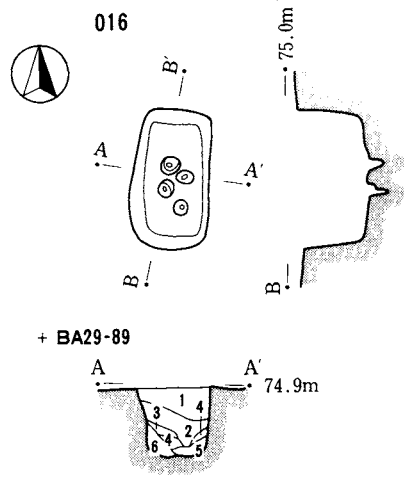
017号土坑（遺構 第377図）

BA29-77から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長辺1.88m、短辺0.93mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.74mある。床面はフラットで中程に一辺42cm前後の方形のピットを2個検出している。ピットの深さは2個とも46cm前後ある。覆土は1. 褐色土ブロックを多く含むローム粒をわずかに含む黒褐色土。2. 褐色土ブロックを少

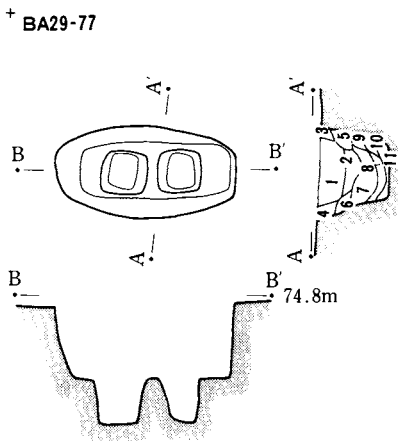
015



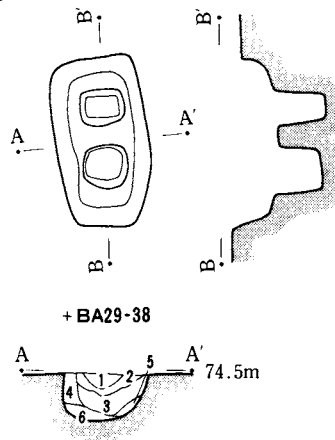
016



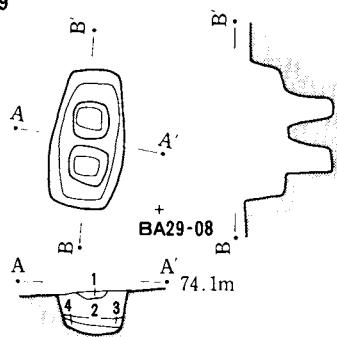
017



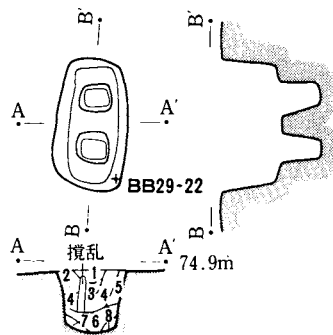
018



019



020



第377図 東大野第2遺跡縄文時代土坑(3) (1/80)

し含む黒褐色土。3. ローム粒を少し含む暗褐色土。4. 褐色土を少し含む暗褐色土。5. ロームブロック（小）とローム粒をやや多く含む暗黄褐色土。6. 堆積がやや疎な暗褐色土。7. 褐色土ブロック（小）をやや多く含むローム粒を若干含む暗褐色土。8. ローム粒を若干含む堆積がやや疎な暗褐色土。9. ローム粒（大豆大）を多く含む堆積がやや疎な暗黄褐色土。10. ローム粒（大）を少し含む堆積がやや疎な暗褐色土。11. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

018号土坑（遺構 第377図）

BA29-38から東へ0.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長辺1.74m、短辺0.97mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面の深さは38cmある。床面はフラットで中程に一辺40～50cm前後の方形のピットを2個検出している。ピットの深さは2個とも46cm前後ある。覆土は1. ロームブロックを少し含む暗褐色土。2. ローム粒・ロームブロックを少し含む暗褐色土。3. ローム粒（大豆大）を若干含む褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。ローム粒（大）とブロックを多く含む暗黄褐色土。5. ローム粒を多く含む暗褐色土。6. ロームブロック（小）を含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

019号土坑（遺構 第377図）

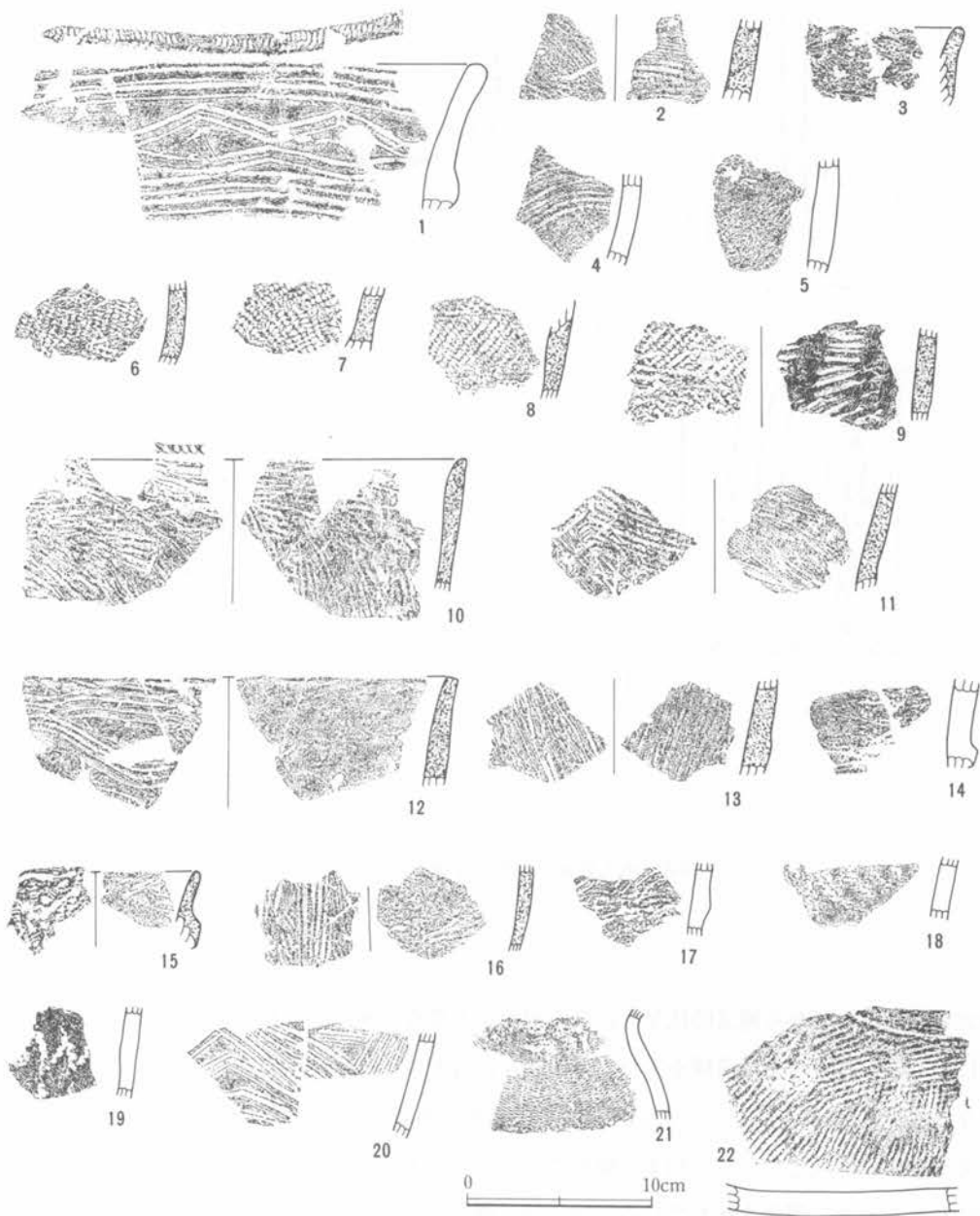
BA29-08から西へ1m、北へ0.5mに位置する。プランは長辺1.44m、短辺0.76mの丸みのある長方形を呈する。検出面から床面の深さは42cmある。床面はフラットで一辺40cm前後の方形のピットを2個検出している。ピットの深さは2個とも0.5m前後である。覆土は1. ローム粒を若干含む暗褐色土。2. ローム粒・ブロック（小）を多く含む暗黄褐色土。3. ローム粒（大豆大）を少し含む暗褐色土。4. ローム粒・ロームブロック（小）をやや多く含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

020号土坑（遺構 第377図）

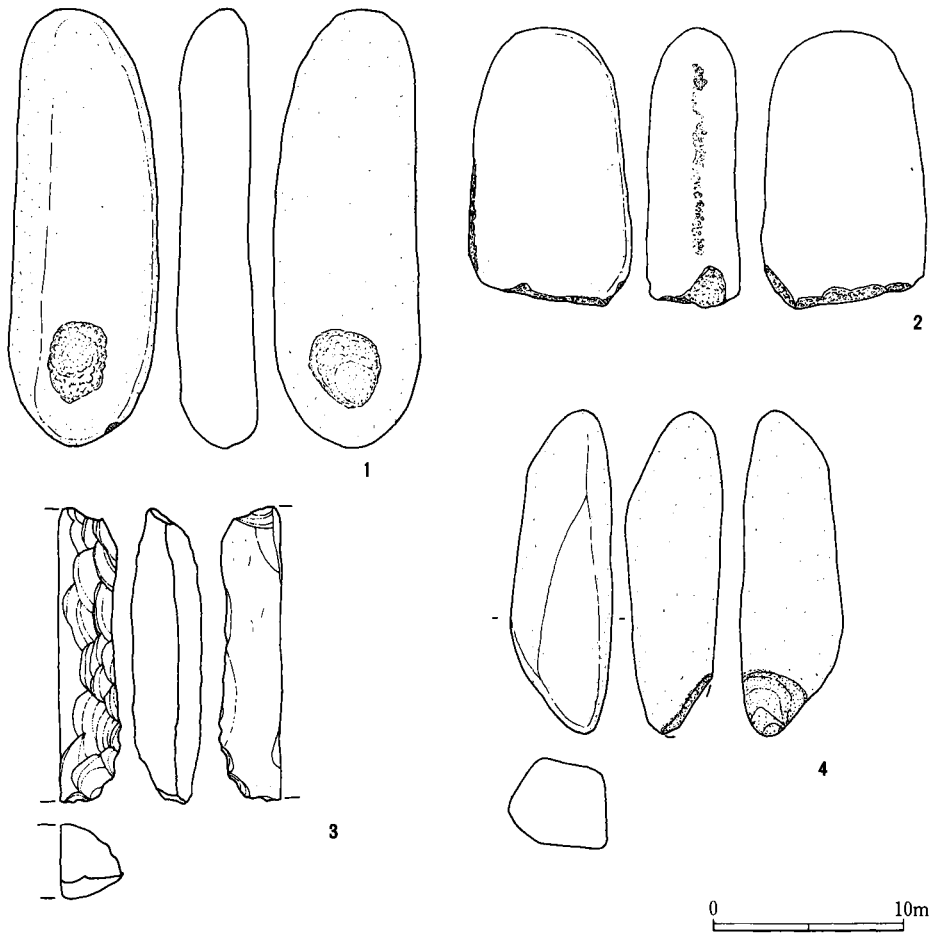
BB29-22に位置する。プランは長辺1.34m、短辺0.73mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.62mある。床面はフラットで一辺30cm前後の方形のピットを2個検出している。ピットの深さは2個とも42cm前後ある。覆土は1. 褐色土ブロックを少し含む黒色土。2. ローム粒（大豆大）を少し含む暗褐色土。3. ローム粒を若干含む暗褐色土。4. ローム粒（大豆大）を少し含む堆積がやや疎な暗黄褐色土。5. ロームを多く含む暗黄褐色土。6. 褐色土ブロックをやや多く含む堆積が疎でサクサクな黒褐色土。7. ローム粒を若干含む褐色土ブロックを少し含む暗褐色土。8. ロームブロック（小）を少し含む暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器（第378図1～22）



第378図 東大野第2遺跡出土土器(1/4)



第379図 東大野第2遺跡包含層出土石器(1/4)

本調査時に包含層から縄文時代早～前期を中心に土器片が検出された。特に前期の土器片が量的に多くみられる。また遺構からは多量の礫片に若干の土器片が検出されているのみである。1～9は004号住居跡から出土した前期前半の土器片である。1～5は浮島系と思われる一群で沈線文や条線で区画している。胎土に繊維を含むものが多い。6～9は黒浜系の土器片で胎土に繊維を含み地文に縄文を配している。10～20は縄文時代早期後半から前期の土器群で包含層から出土している。これらの時期以外の縄文土器片は全くみられなかった。

21は唯一この遺跡の包含層から出土した弥生土器片である。細かな縄文を地文に施している。

22は唯一この遺跡の包含層から出土した須恵器片で硯に転用された形跡がみられるものである。

(2) 石器・石製品 (第379図1～4)

1は粒の細かい砂岩製の敲石である。やや棒状で細長い礫の先端部と先端に近い平らな側辺部に敲潰したようなくぼみが観察される。2は砂岩製の楕円礫の片側を敲潰してスタンプ状にしたもので側辺部にも若干の敲痕が観察される。3は粘板岩製の石斧で礫片を利用して片側から主に加工している。半截の状態で遺存している。4は砂岩製の敲石で棒状の礫を利用してその先端に敲潰した様な打痕が観察される。

4. 小結

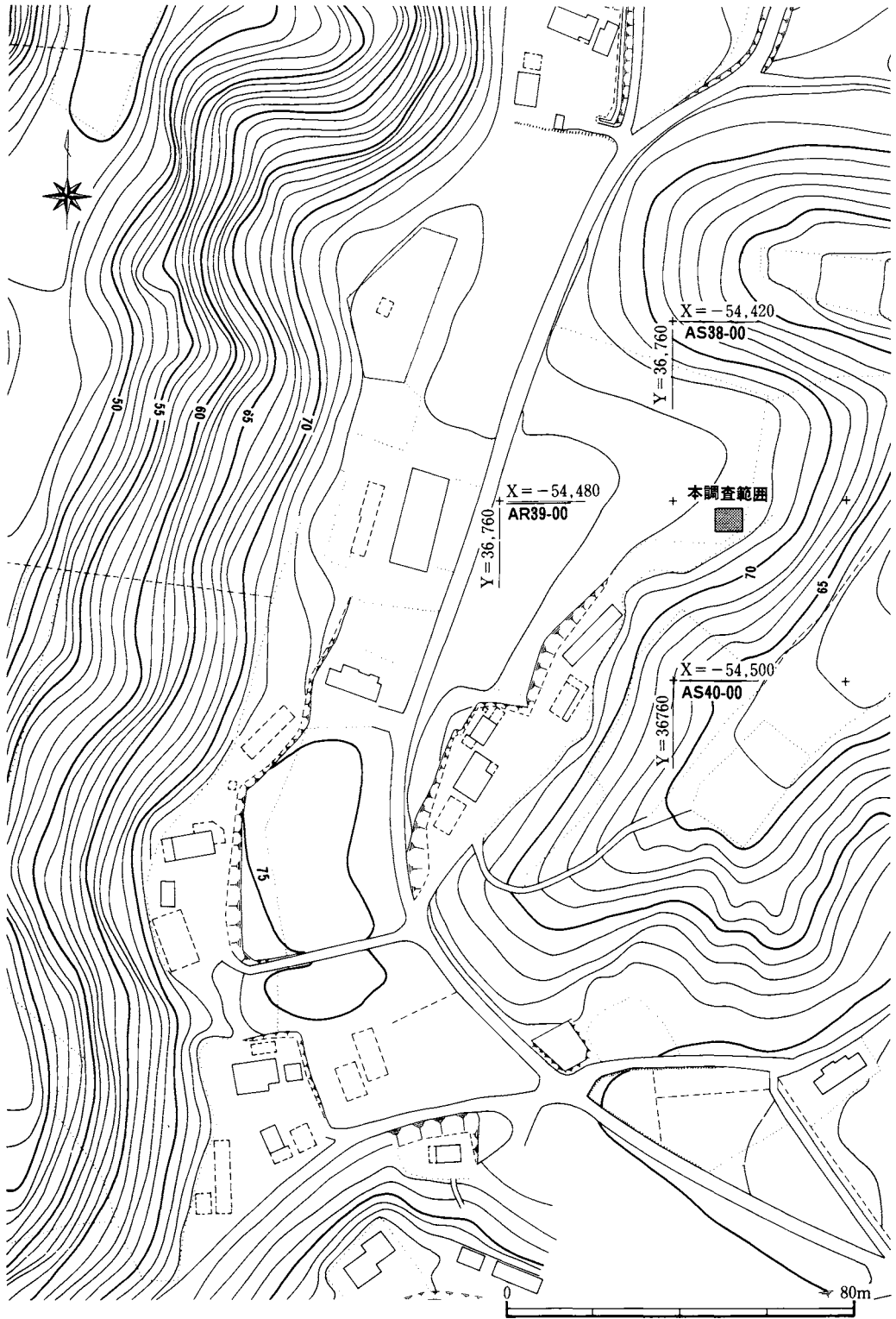
縄文時代の遺構は前期の土器片と礫片が検出された簡単な構造の住居跡と陥穴状遺構しかない単純な構成で、他の遺跡同様に狩猟採集の場と考えられる。

第 15 章

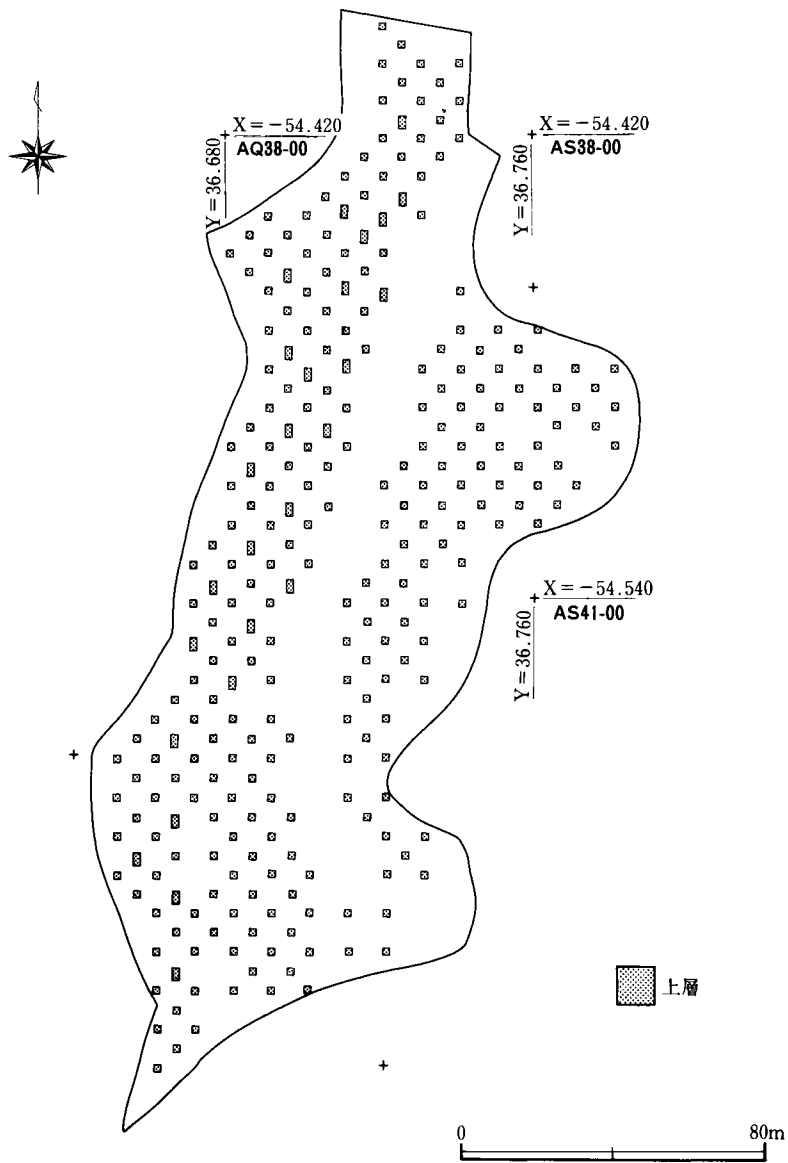
大 野 南 遺 跡

遺跡コード 201-087

調査担当者 西口 徹・高柳圭一・尾野善裕



第380図 大野南遺跡下層本調査範囲(1/1500)

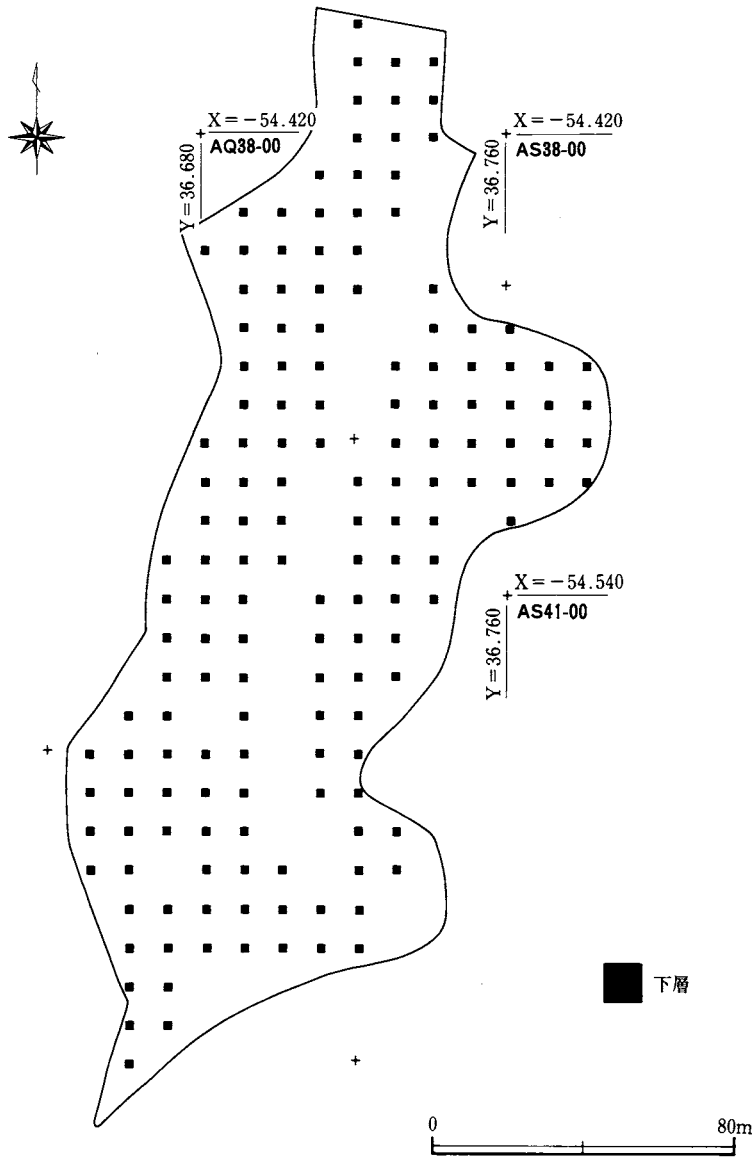


第381図 大野南遺跡上層確認調査グリッド配置図(1/2,000)

第1節 旧石器時代

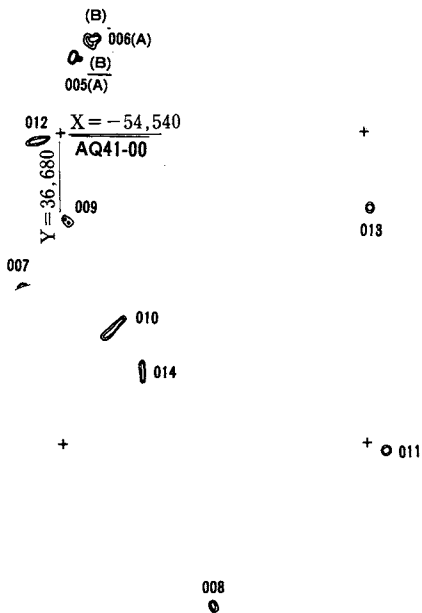
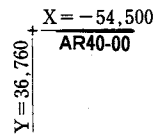
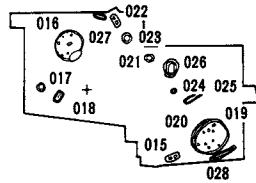
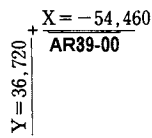
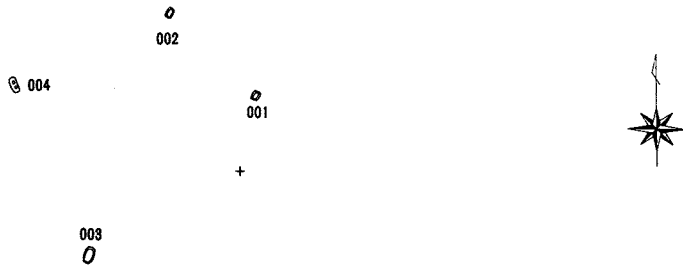
1. 層序区分

- I層 黒色土 ……耕作土で一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II b層 黄褐色土 ……新期テフラの堆積層である。

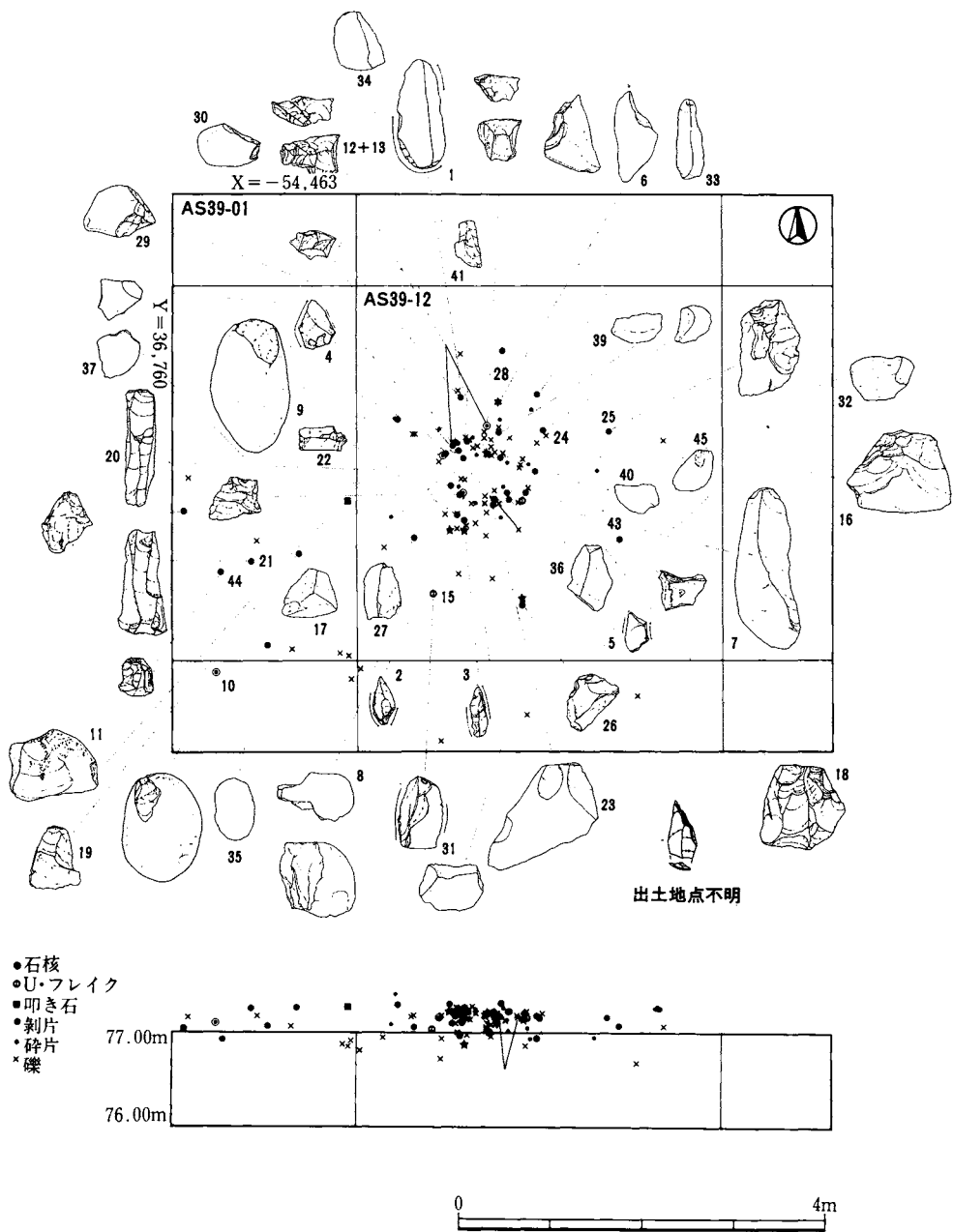


第382図 大野南遺跡下層確認調査グリッド配置図(1/2,000)

- II c 層 暗褐色土……………縄文時代の遺物の包含層である。
- III層 黄褐色土……………立川ロームのソフトローム部分に相当する。
- IV～VI層 褐色土 ………ソフトロームと第2 黒色帯の中間の層でIV～VI層の三層に分かれるが、本遺跡ではV層の第1 黒色帯が明確に認められなかった。
本層中位で始良パミスを含む層が連続して認められた。
- VII層 暗茶褐色土………第2 黒色帯に相当するが上下に分離は不可能であった。



第383図 大野南遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/1,000)



第384図 大野南遺跡第1ブロック遺物出土状況 (1/80)

2. 概要

大野南遺跡では上層の確認調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。その際に2か所

で遺物を検出した。引き続き掘張調査を実施し、広がりを確認した。また上層の本調査時にIII層下部相当のブロックを1か所検出した。

3. 第1ブロック

(1) 分布状況

A S 39-12グリットを中心に焼け礫を含め120点検出された。分布状況は3～6mの範囲に比較的まとまって分布している。中程に密な部分がみられる。石材は25種類で構成されその中で泥岩と珪質凝灰岩の比率が高い。また焼け礫と密な部分がほぼ重なっており関連性をうかがわせる。出土層位はほぼIV層に相当する。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は55点である。他に65点の礫片が見られる。いずれも焼けている。器種組成はナイフ形石器6点（内1点は出土地不明）、彫器1点、U・フレイク2点、敲き石1点、石核3点、剥片31点、碎片12点である。石材構成は泥岩①12点、珪質凝灰岩①11点、メノウ①7点、頁岩①5点、頁岩②5点が主な石材で他は2点以下で構成される。

(3) 出土遺物

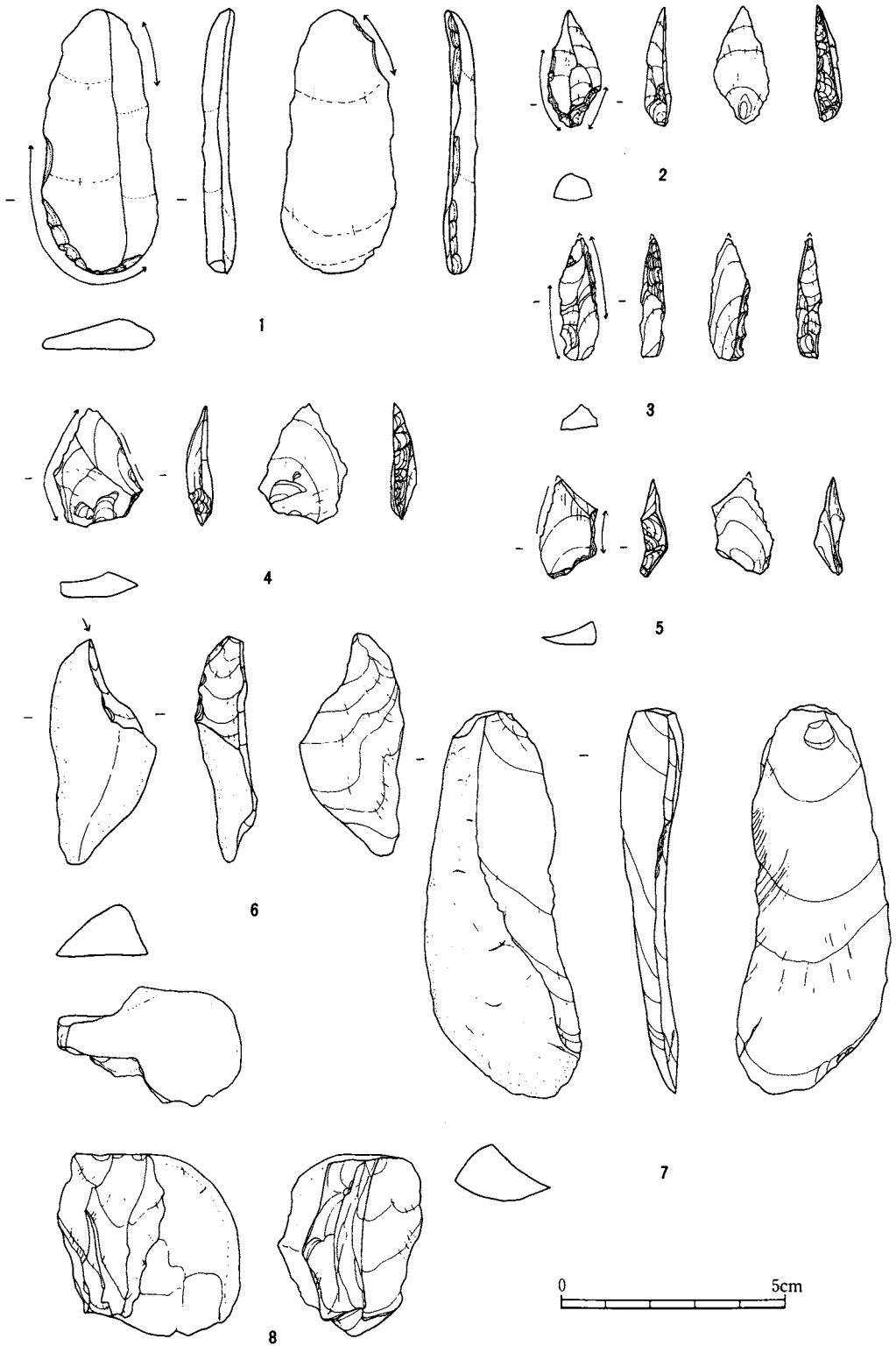
ナイフ形石器（第385図1～5）1は泥岩①製のナイフ形石器で縦長剥片の片側側辺部から基部にかけて調整が認められる。素材をそれほど大きく変形させていないのが特徴である。2は頁岩①製の切り出し形と呼ばれる小形のナイフ形石器である。小さな剥片素材を使用して基部と片側辺部分に丁寧な調整がみられる。3は流紋岩①製の切り出し形のナイフ形石器である。小さな剥片素材を使用して両側辺に丁寧な調整がみられる。4は珪質凝灰岩①製の小形のナイフ形石器である。小さな剥片素材を変形させないで基部と片側側辺部を丁寧に調整している。5は4と同様の珪質凝灰岩①製の小形のナイフ形石器である。刃部に細かな刃こぼれがみられる。

彫器（第385図6） 頁岩③製の彫器で剥片の打面部の側辺へ樋状剥離を1条施している。背部は礫面に覆われている。

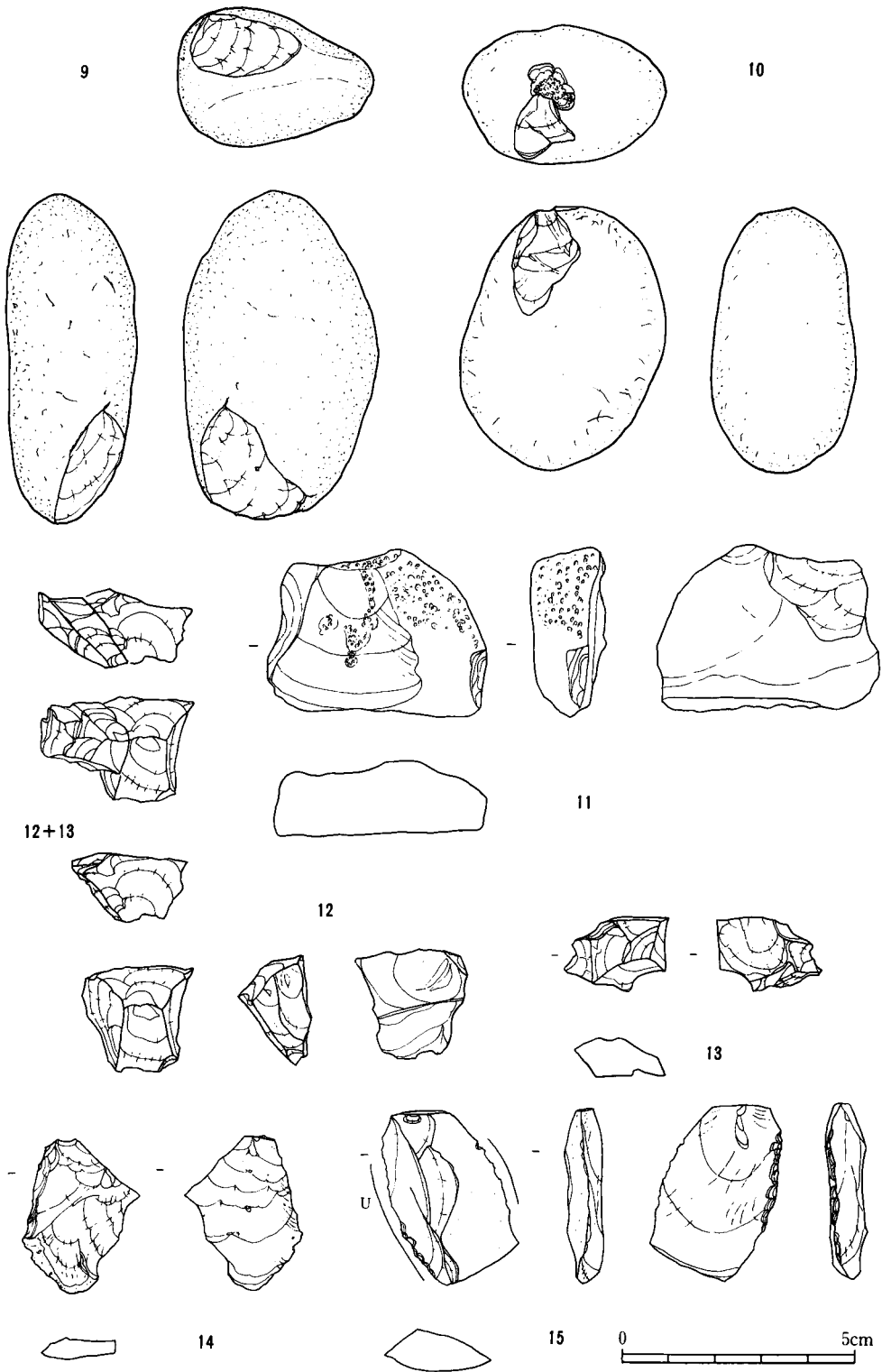
石核（第385・386図8～10・12） 8は珪質頁岩③製の石核で他に同じ石材はみられない。他の場所から持ち込まれこの場に廃棄されたと考えられる。礫面を残す。9は安山岩①製の石核で原礫をやや打欠ただけで廃棄されている。10はチャート①製の石核で同様に原礫をやや打欠ただけで廃棄されている。12は13と接合資料1を構成する珪質凝灰岩①製の石核で打面剥離の状態を観察すると小さな剥片を作出したのちに廃棄されたことがうかがわれる。

敲き石（第386図11） 凝灰岩①の大形剥片を使用している。打面部から背部にかけて細かな打痕が多くみられる。

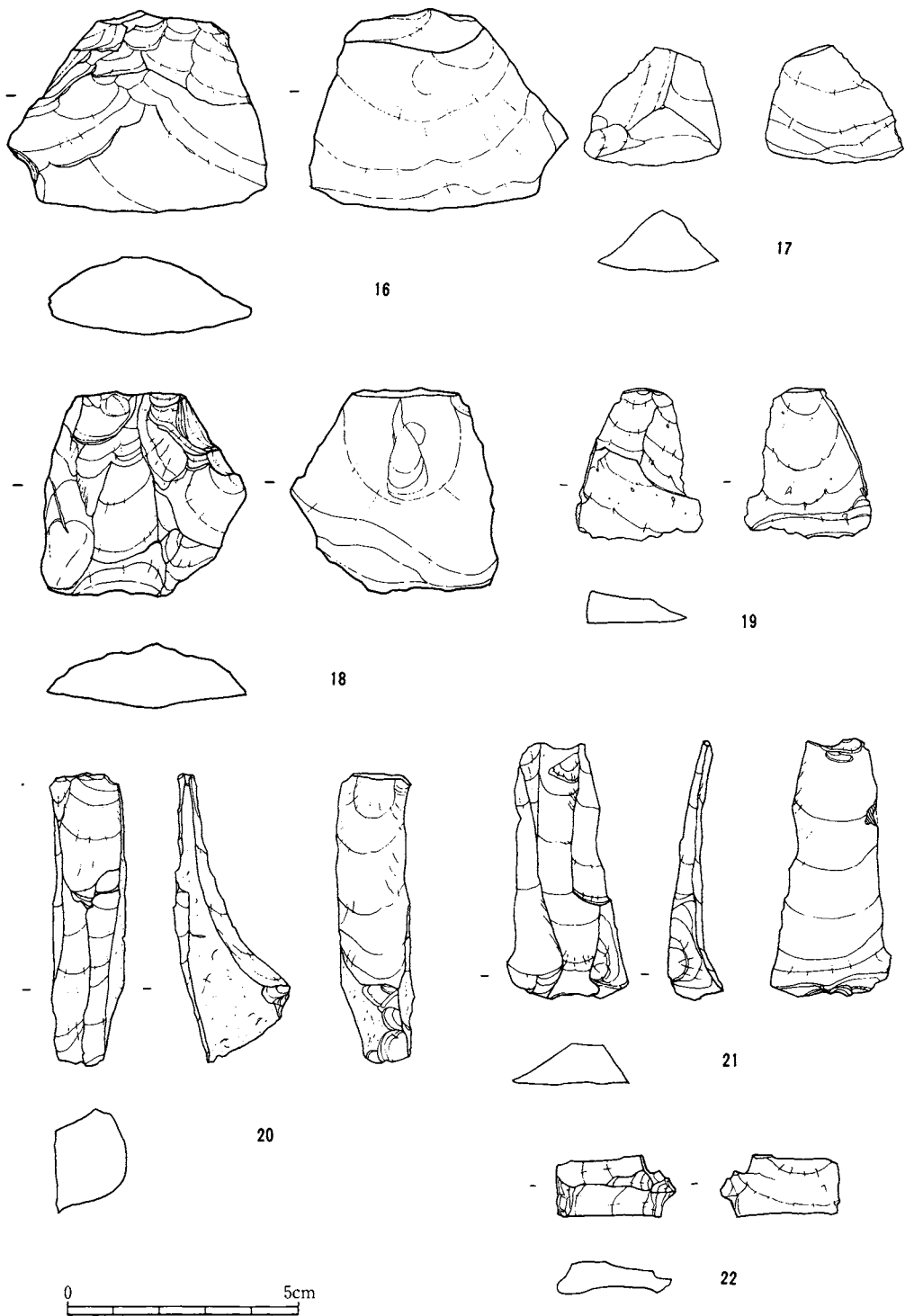
U・フレイク（第385・386図7・15） 7は頁岩①製の大型の刃器状剥片で側辺部に微細な使用痕がみられる。背部に礫面を残す。2のナイフ形石器とともに製品として持ちこんだ可能性が



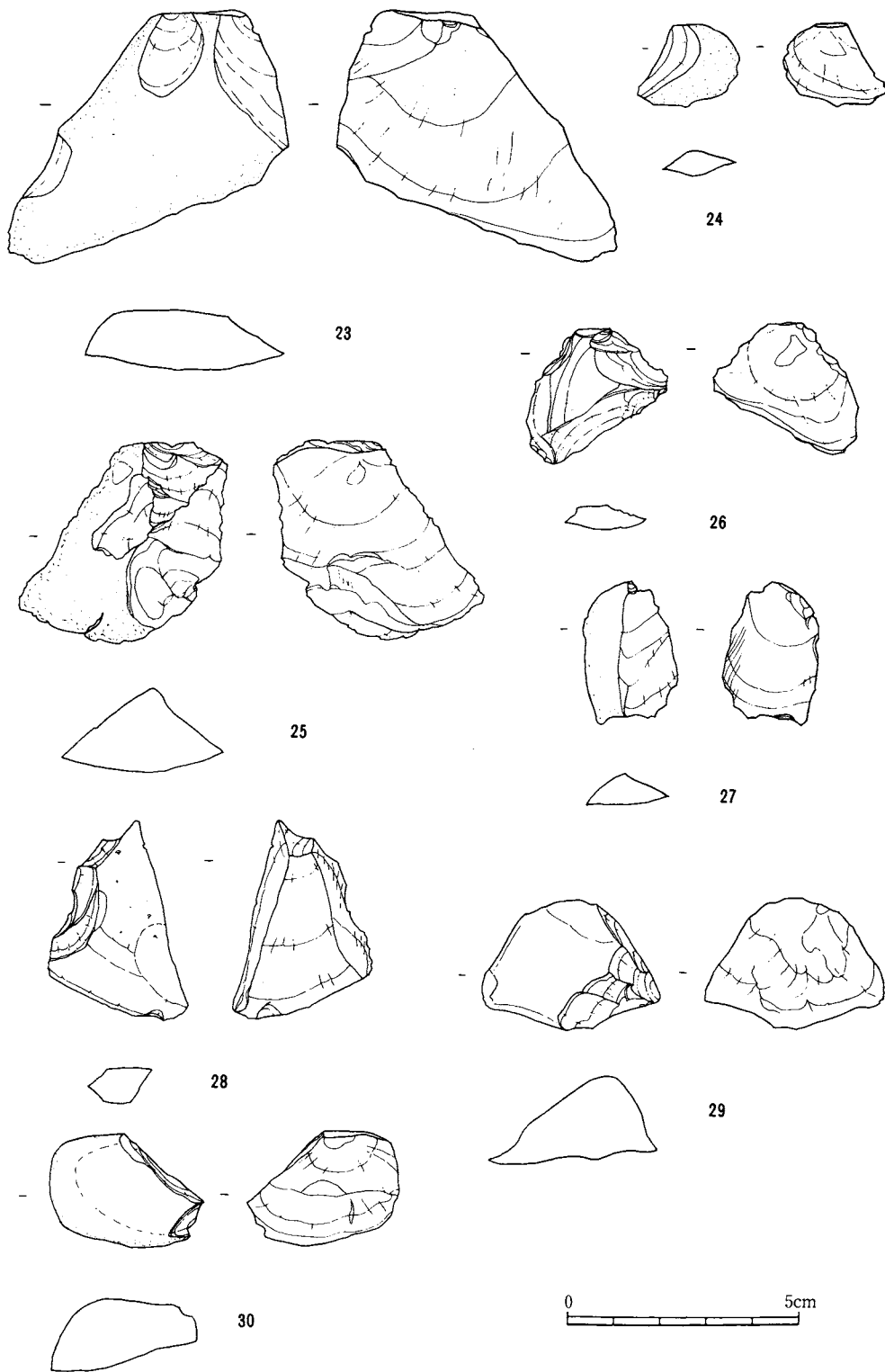
第385図 大野南遺跡第1ブロック出土石器(1)(2/3)



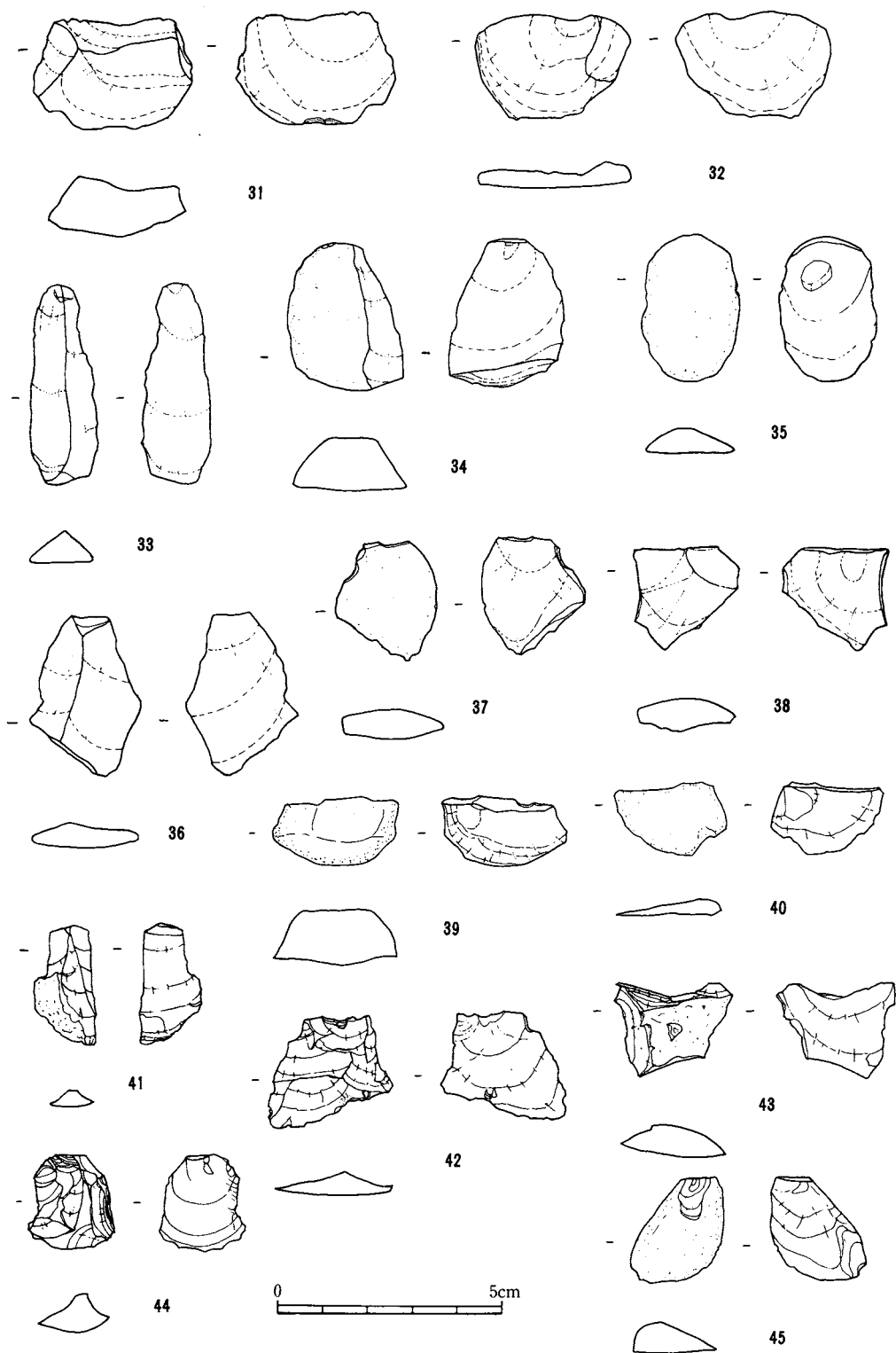
第386図 大野南遺跡第1ブロック出土石器(2)(2/3)



第387図 大野南遺跡第1ブロック出土石器(3)(2/3)



第388図 大野南遺跡第1ブロック出土石器(4)(2/3)



第389図 大野南遺跡 第1ブロック出土石器(5)(2/3)

高い。15は珪質頁岩①製の剥片の側辺部に比較的細かな剥離がみられる。これは単独の石材で他の場所から持ち込まれている可能性が高い。

剥片（第386～389図13・14・16～45）13は珪質凝灰岩①製の小剥片である。14は玄武岩①製の剥片で礫面を一部残している。16は粘板岩①製の大型剥片で背部に同方向の剥離痕が多くみられる。17はやや小振りの砂岩①製の剥片である。18は凝灰岩①製の大型剥片で背部に多方向の剥離痕がみられる。19は玄武岩②製の剥片である。20は珪質砂岩①製の縦長剥片で先端部が分厚い。21は安山岩③製の刃器状剥片である。使用痕はみられない。同一の石材もみられない。22・41・42・43はメノウ①製の小剥片である。メノウ①の石材は小形のものが多い。23は砂岩①製の大型剥片である。背部はほぼ礫面に覆われている。24と45は頁岩⑤製の剥片でいずれも小形のものである。25は3のナイフ形石器と同じ流紋岩①製の剥片である。分厚く礫面を多く残す。3とともにこの場に持ち込まれた可能性が高い。26は珪質凝灰岩①製の小剥片である。27は頁岩②製の小剥片である。28は安山岩①製の剥片である。単独の石材である。29・30・39・40は頁岩③製の小剥片である。31～40は泥岩①製の剥片である。44は頁岩④製の小剥片である。

4. 第2ブロック

(1) 分布状況

AQ38-29グリットを中心に3点検出された。石材は珪質頁岩①・②の2種類で構成される。VII層に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器類の総数は3点である。器種組成はU・フレイク3点である。石材構成は珪質頁岩①2点、珪質頁岩②1点である。

(3) 出土遺物

U・フレイク（第391図46～48）46は珪質頁岩①製の刃器状剥片で先端部が欠損している。縁辺部にやや不連続な小さな刃こぼれがみられる。47も珪質頁岩①製の縦長剥片で両側辺に不連続な剥離がみられる。48は珪質頁岩②製の縦長剥片の切断剥片で頭部が欠損している。片側縁辺に細かな刃こぼれがみられる。

5. 第3ブロック

(1) 分布状況

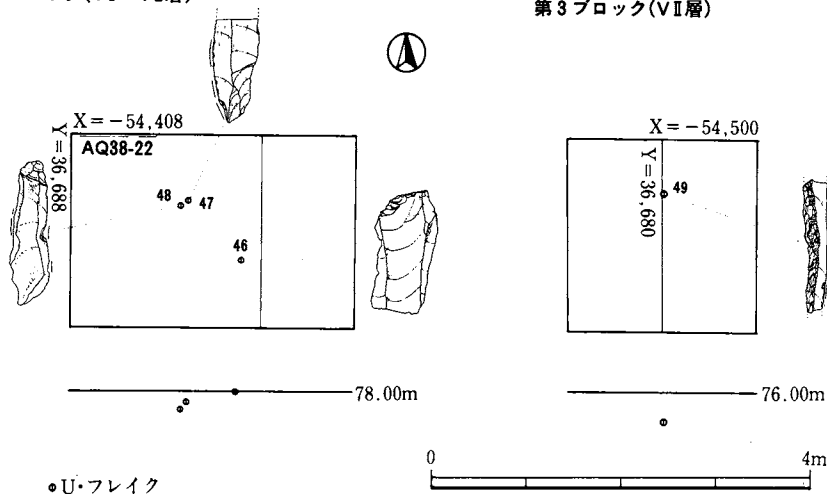
AQ41-00グリットの付近で単独出土した。石材は珪質頁岩である。VII層に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は1点である。器種組成は縦長剥片1点である。石材は珪質頁岩である。

第2ブロック(VI~VII層)

第3ブロック(VI層)



第390図 大野南遺跡第2・3ブロック遺物出土状況(1/80)

(3) 出土遺物

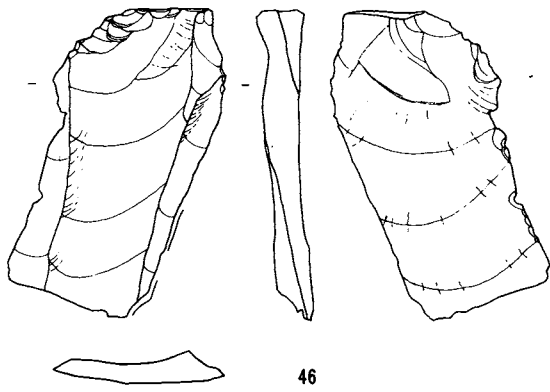
剝片(第391図49)縦長剝片の先端・頭部を切断した剝片である。細かな打面調整の跡がみられる。

6. その他の旧石器時代の遺物について(第391図50・51)

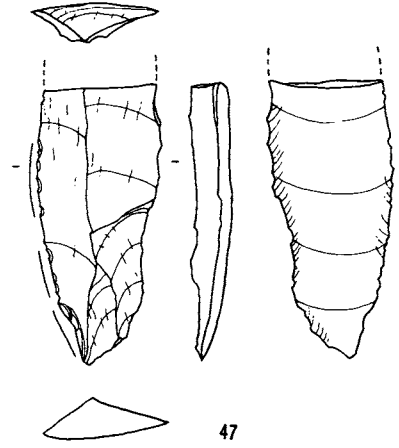
50は安山岩製のナイフ形石器で第1ブロックに属するものであるが正確な出土位置は不明である。基部が欠損している。剝片の先端を断ち切るようにして加工してある。51は遺構内の覆土から出土した剝片であるが付着した土から旧石器時代のものである可能性は高い。泥岩製の剝片である。

7. 小結

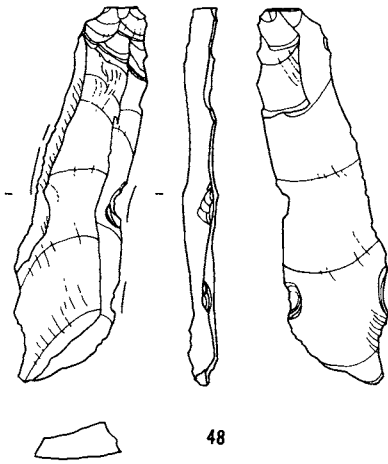
第1ブロックはIV層に位置し礫群を伴い比較的規模の大きいブロックである。石材の種類の高さや製品の多さから考えて、この場所を拠点にして数回狩猟活動を行ったと考えられる。まとまった剝片剝離や石器製作などは行われていない。東大野第2遺跡や西大野第1遺跡等の大規模ブロック群と小規模のブロックとの中間的な役割を果たすブロックといえる。第2ブロックや第3ブロックは狩猟活動(単発)の結果残されたものと考えれば第1ブロックのあり方は非常に興味深い。



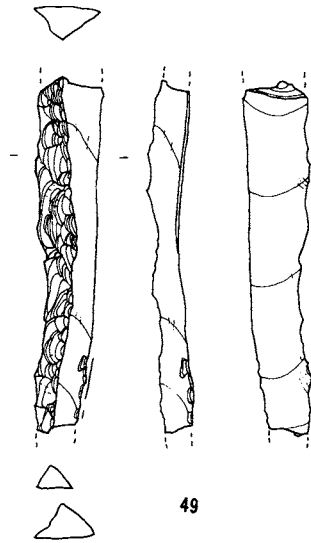
46



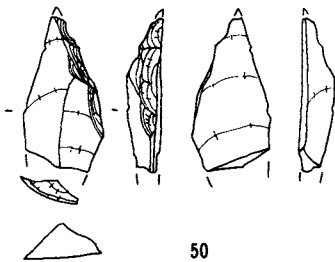
47



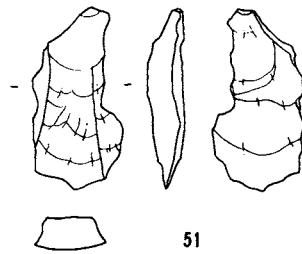
48



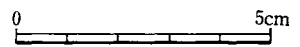
49



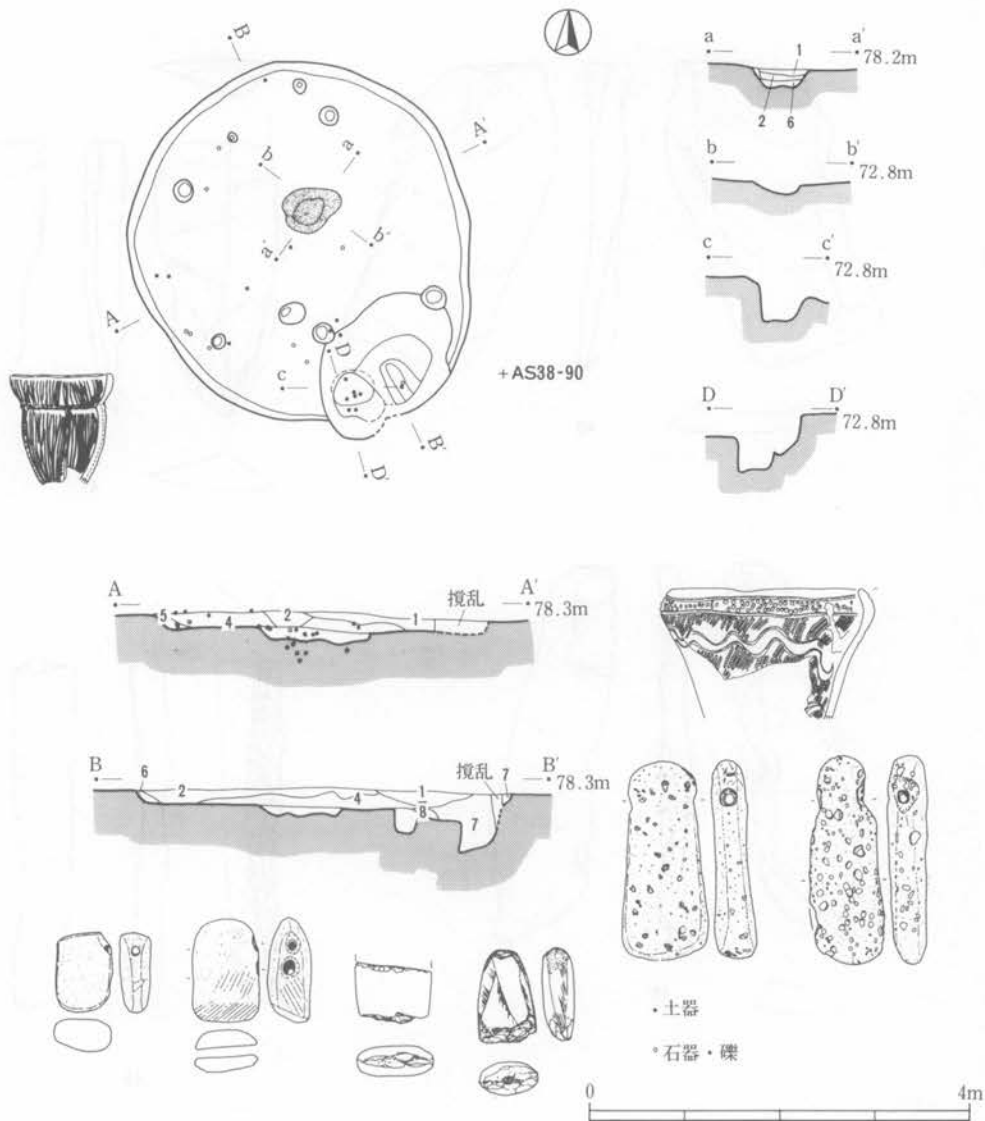
50



51



第391図 大野南遺跡 第2・3ブロック出土石器(2/3)



第392図 大野南遺跡 016号住居跡遺物出土状況(1/80)

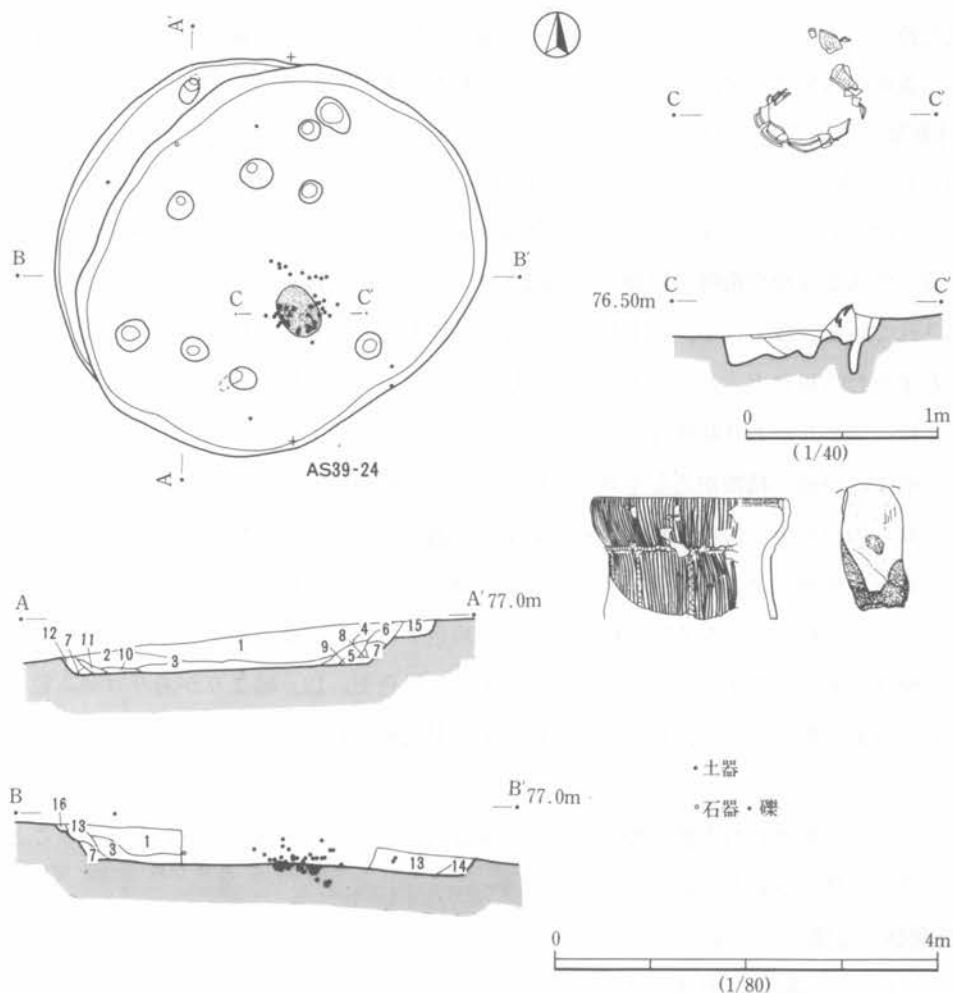
第2節 縄文時代

1. 概要

大野南遺跡では上層の確認調査をおこなった際に遺構が検出され拡張調査及び511㎡の本調査を実施した。その結果、縄文時代の住居跡3軒、縄文時代土坑25基が検出された。また遺物としては縄文時代中期の土器若干の石器が検出されている。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡



第393図 大野南遺跡019・020号住居跡

016号住居跡（遺構 第392図）

A S 38-90から北へ2 m、西へ2 mに中心が位置する。プランは長軸3.96m、短軸3.60mのほぼ楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは20cm余りでやや浅い。炉の南側周辺でやや硬化した面が観察されたが他は比較的軟弱である。また南側の壁際では土坑状の落ち込み部分が見られた。おそらく倒木痕の跡ではないかと思われる。柱穴は炉を中心にしてほぼ並んでいる。覆土は1. 締まりが弱く粘性に乏しくローム粒を多く含む暗褐色土。2. 締まりが弱く粘性が乏しくローム粒を少し含む暗褐色土。3. 堆積が疎でローム粒を微量に含む褐色土と暗褐色土の混成層。4. 粘性がありローム粒を少し含む暗褐色土。5. 締まりが強く粘性がありローム粒を少し含む暗褐色土。6. ローム粒を微量に含む暗褐色土。7. 粘性がありローム粒を微量

に含み炭化粒を若干含む黒褐色土。8. 締まりが弱く粘性が若干ある黒褐色土とロームの混成層である。遺物から他の住居跡とほぼ同時期に営まれたと考えられる。

019号住居跡（遺構 第393図）

A S 39-14から南へ2 mのところに中心が位置する。プランは長軸4.42m、短軸3.56mの楕円形を呈する。検出面から床面までの掘り込みは40cmある。床面は炉を中心として硬化面がみられる。床面の中央よりやや南側に埋甕炉が検出されている。柱穴は東壁側を除き壁の内側に沿って検出されている。覆土は1. 締まりが中程度で粘性が乏しくローム粒を少量含み焼土粒・炭化粒を若干含む暗褐色土。2. 締まりが弱く粘性が乏しくローム粒を比較的多く含む暗褐色土。3. 比較的締まりがあり粘性は乏しくローム粒を少し含み焼土粒・炭化粒を若干含む暗褐色土。4. 締まりが弱く粘性が乏しくローム粒を少し含む褐色土。5. 締まりが比較的強く粘性が乏しくローム粒を少し含む褐色土。6. 締まりが弱く粘性が乏しくローム粒を少し含む褐色土。7. ロームブロックと褐色土の混成層。8. 締まりが普通で粘性のある暗褐色土。9. 締まりがありローム粒を少し含み炭化粒を若干含む褐色土。10. 締まりがありロームブロックを含みやや粘性がある褐色土。11. ローム粒を若干含む褐色土。12. 締まりがありローム粒を若干含み粘性がある褐色土。13. ローム粒と褐色土の混成層。14. ロームと褐色土の混成層である。

遺物は炉囲いに使用された土器が曾利系で、縄文時代中期加曾利E式土器並行期であることから、この時期に使用された可能性が強い。

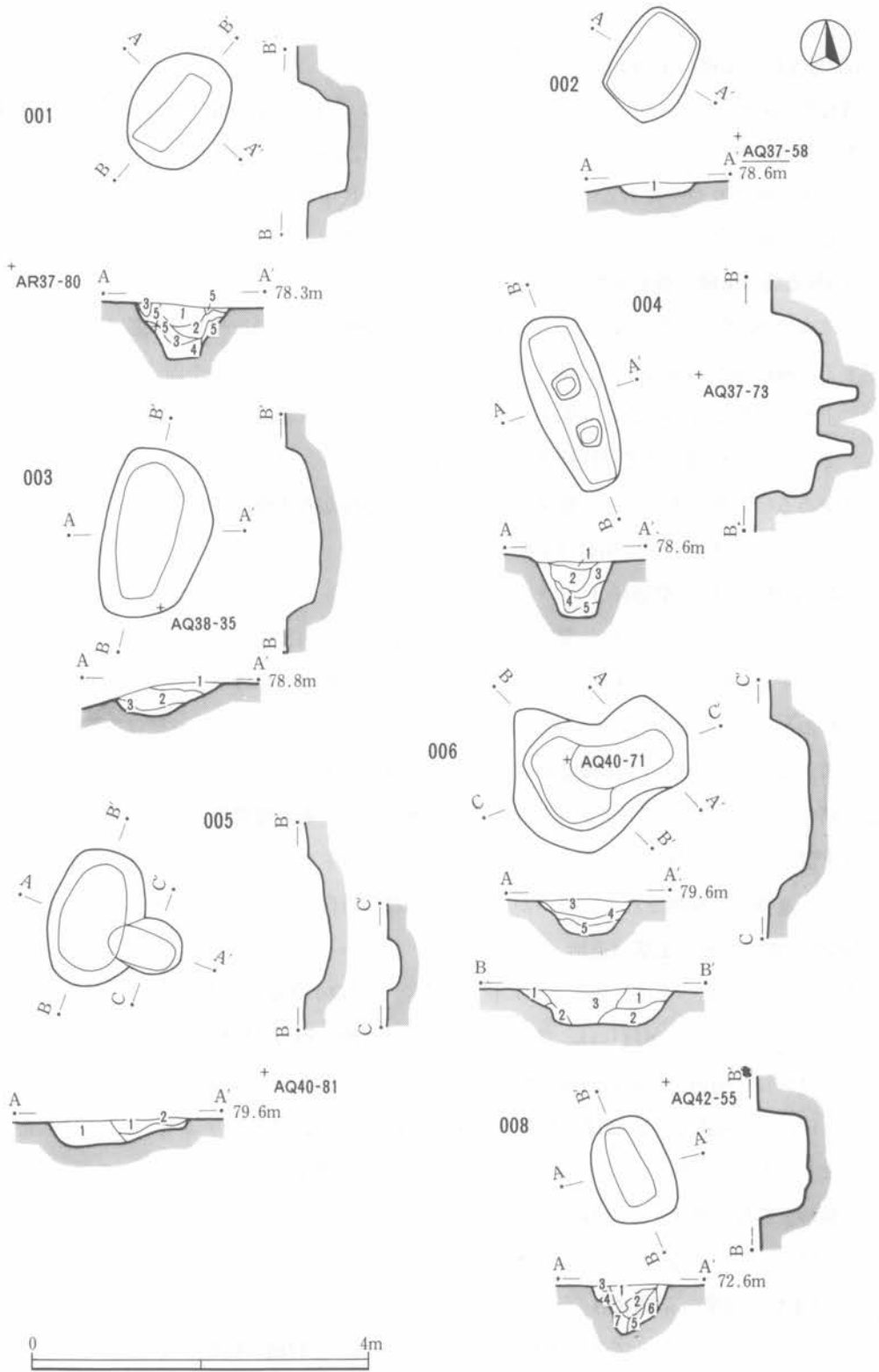
020号住居跡（遺構 第393図）

A S 39-14付近に位置し019号住居跡の北側に一部残存している。時期的には019号よりやや古い。北側の壁と床面の一部のみ残っており柱穴らしいピットも1個検出されているだけである。覆土は15. 締まりがやや弱くローム粒を少し含む褐色土。16. 締まりがあり粘性がややある黄褐色土である。

(2) 土坑

001号土坑（遺構 第394図）

A R 37-80から東へ2 m、北へ2 mに位置する。プランは長軸1.46m、短軸1.08mの楕円形を呈する。検出面からの床面までの深さは0.61mで床面はほぼフラットである。壁は崩落のためやや広がりながら立ち上がる。覆土は1. やや粘性がありやや締まりない黒褐色土。2. やや締まりがなく黄色味があった黒褐色土。3. ローム粒少して締まりがややある黒褐色土。4. ハードローム小ブロックを多く含む暗褐色土。5. ハードロームブロックとソフトローム粒混じりの暗黄褐色土。5'. ソフトローム粒多く含み締まりがややある暗黄褐色土である。遺物は伴わないが形態等から縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。



第394図 大野南遺跡縄文時代土坑(1) (1/80)

002号土坑（遺構 第394図）

A Q37-58から西へ1 m、北へ1 mに位置する。プランは長辺1.29m、短辺0.91mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは24cmある。覆土は1. 粘性がありローム粒が混ざり締まりがややある暗褐色土である。縄文時代中期頃の土器片が若干検出されていることから時期はこのころに限定されるが、用途は不明である。

003号土坑（遺構 第394図）

ほぼA Q38-35に位置する。プランは長軸1.98m、短軸1.23mのやや東側に膨らんだ楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは42cmある。床面は中央が深くやや周辺部へ向かって緩やかに上がり壁際よりやや急に立ち上がる。覆土は1. ローム粒混じりでやや締まりのある褐色土。2. ローム粒混じりで粘性締まりがある暗褐色土。3. ローム小ブロック混じりでやや締まりがある暗黄褐色土である。縄文時代中期頃の土器片が若干検出されていることから時期はこのころに限定されるが、用途は不明である。

004号土坑（遺構 第394図）

A Q37-73から西へ1.5mに位置する。プランは長辺2.12m、短辺0.88mのやや丸みの強い長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.72mある。床面はほぼフラットで中程に一辺30cmの方形のピットを2個検出している。ピットの深さはいずれも46cmある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 木の根による攪乱が若干みられる暗褐色土。2. 暗褐色ロームブロックが混ざる黒褐色土。3. ローム小ブロック混じりで締まりがややある暗褐色土。4. ローム粒・小ブロック混じりの暗褐色土。5. ソフトローム粒・小ハードロームブロック混じりの暗黄褐色土である。遺物等は検出されていないが、形態的に縄文時代の陥穴状遺構になると思われる。

005号（A）・（B）土坑（遺構 第394図）

A Q40-81から北へ2 m、西へ2 mに位置する。2個の小さな土坑からなる。（A）のほうがやや古く（B）のほうが新しい。プランは（A）は長軸0.89m、短軸0.63mの楕円形を呈する。（B）は長軸1.64m、短軸1.11mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは（A）が16 cmで（B）が32cmある。床面はどちらも鍋底状を呈する。覆土は（A）が1. ローム小粒混じりで締まりのない黒褐色土。2. ローム小ブロック混じりで締まりがある暗褐色土である。縄文時代前期の土器片が覆土中より検出されているので、時期的にはこの頃の土坑ということになるが、性格は不明である。

006号土坑（遺構 第394図）

A Q40-71に位置する。プランは不整形な形で長い場所で2.17m、短かな場所で1.11mを測る。検出面から床面までの深さは50cmある。床面はほぼフラットである。東側は覆土の状況から判断すると新しい掘り込みである可能性が強い。覆土は1. ローム小ブロック混ざりで締まりが

強い暗黄褐色土。2. ローム小ブロック主体で締まりの強い黄褐色土。3. ローム粒混じりで粘質化してぼろぼろな黒褐色土。4. 暗褐色土・ソフトローム混じりで締まりがある暗黄色土。5. ソフトローム堆積土である。遺物がないため厳密な時期は不明である。性格も不明である。

007号土坑（遺構 第394図）

A P41-57から東へ1.5mに位置する。プランは下層確認調査時に約半分消失したため不明であるが径1.17mの円形に近いと考えられる。検出面から床面までの深さは36cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は不明である。住居跡の近くで検出した21・23・24号土坑等と同様な形態をしているところから、同時期に同じ用途で使用された土坑の可能性が強い。

008号土坑（遺構 第394図）

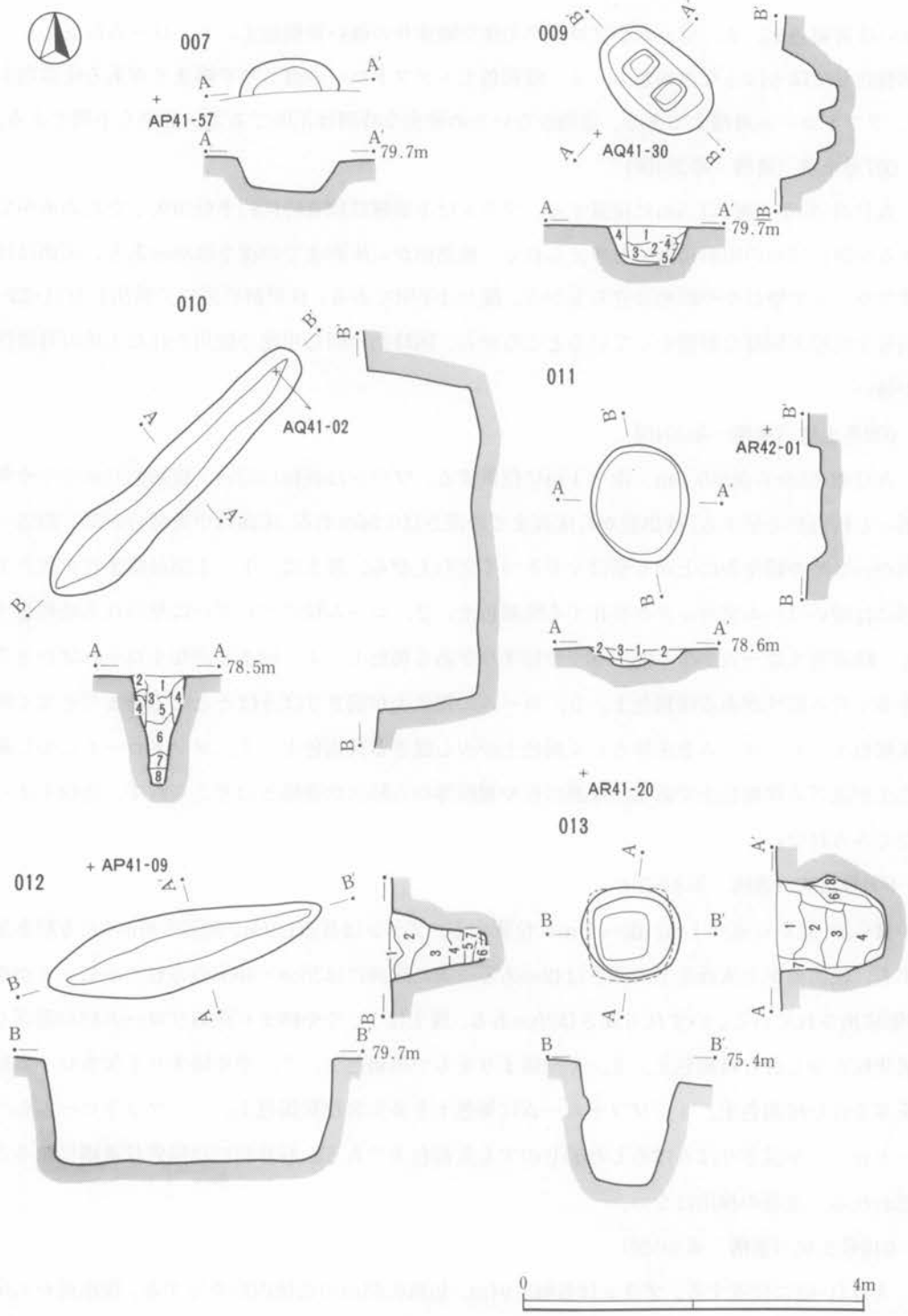
A Q42-55から西へ0.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.27m、短軸0.93mのやや角張った楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.56mある。床面は中央部分が深く周辺へ向かってやや緩やかに上がり壁はややきつく立ち上がる。覆土は 1. 上部は締まりを欠き下部には硬いロームブロックが存在する暗褐色土。2. ローム粒のがわずかに見られる暗褐色土。3. 暗褐色土ロームが少し混ざりやや締まりがある褐色土。4. 締まりがなくロームブロックを多く含む粘性がある暗褐色土。5. ロームに褐色土が混ざりぼそぼそとして締まりを欠く暗黄褐色土。6. ロームを主体として褐色土が少し混ざる黄褐色土。7. ソフトロームに少し褐色土が混ざる黄褐色土である。床面の形や規模等から陥穴状遺構とは考えられず、遺物もまったくみられない。

009号土坑（遺構 第395図）

B C29-91から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長辺1.9m、短辺0.8mの長方形を呈する。検出面から床面までの深さは42cmある。また床面には30cm×40cmの方形の小ピットが2個検出されている。いずれも深さは20cmある。覆土は1. やや締まりがありローム粒が混ざり炭化粒を少し含む暗褐色土。2. やや締まりをもつ黒褐色土。3. やや締まりを欠きローム粒を多く含む暗褐色土。4. ソフトロームに褐色土を多少含む黄褐色土。5. ソフトロームとハードロームが混ざりぼろぼろした感じのする黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

010号土坑（遺構 第395図）

A Q41-62に位置する。プランは長軸3.94m、短軸0.65mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは約1.24mある。床面は細長く壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 締まりがありローム粒を少し含む暗褐色土。2. ソフトロームに褐色土が混ざり締まりがある褐色土。3. ハードロームと褐色土が混ざる黄褐色土。4. ハードロームと若干の褐色土が混ざる黄褐色土。



第395図 大野南遺跡縄文時代土坑(2) (1/80)

5. やや締まりを欠く褐色土。6. 締まりを欠く褐色土。7. 締まりを欠く褐色土。8. やや締まりを欠きローム粒を少し混ざる黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

011号土坑（遺構 第395図）

A R42-01から西へ1.5m、南へ1mに位置する。プランは長軸1.38m、短軸1.16mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは17cmある。床面はやや凹凸がみられる。覆土は1. ロームがやや多く・黒色土ブロックがやや含まれ締まりがある暗褐色土。2. ロームをやや多く含むやや締まりを欠く褐色土。3. ソフトロームに褐色土が多く混ざる黄褐色土である。遺物等がないため時期性格とも不明であるが、他の円形の土坑と同様な用途が考えられないこともない。

012号土坑（遺構 第395図）

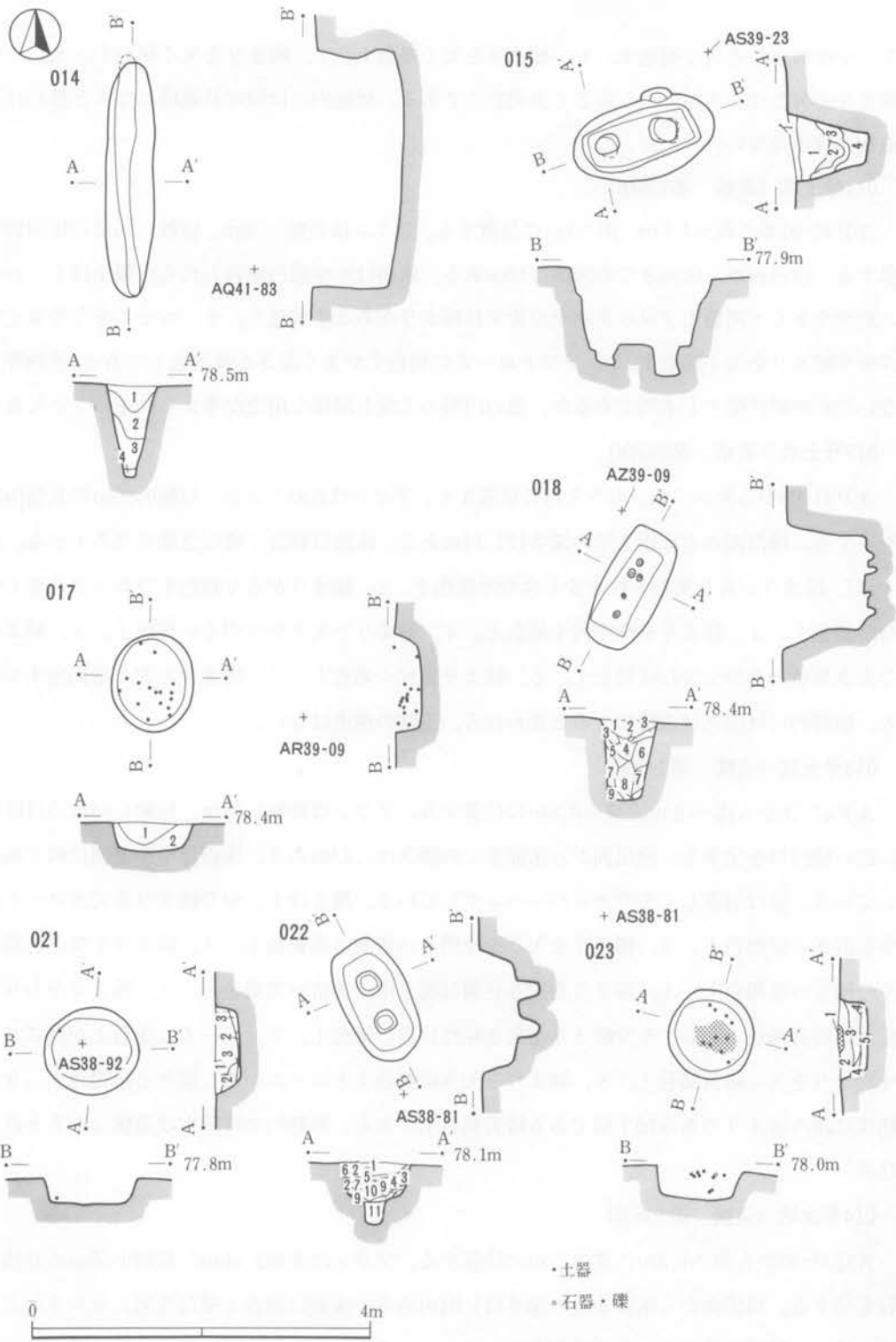
A P41-09から東へ1m、南へ1mに位置する。プランは長軸3.32m、短軸0.90mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.14mある。床面は細長く壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 締まりがあり黒色土粒を少し含む黒褐色土。2. 締まりがあり褐色土ブロックを多く含む暗褐色土。3. 締まりをやや欠く褐色土。4. 締まりを欠きやや明るい褐色土。5. 締まりを欠き黒色土を少し含む暗褐色土。6. 締まりを欠く褐色土。7. 締まりを欠く暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

013号土坑（遺構 第395図）

A R41-20から南へ2m、東へ0.5mに位置する。プランは長軸1.18m、短軸1.04mのほぼ円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.43mある。床面はやや北側に低く傾斜している。壁は崩落してややオーバーハングしている。覆土は1. やや締まりを欠きロームが少し混ざる黒褐色土。2. 締まりを欠きやや明るい色調の黒褐色土。3. 締まりを欠き色調がやや明るい黒褐色土。4. 締まりを欠き色調は覆土中一番暗い黒褐色土。5. 締まりがあり粘性に富む黄褐色土。6. やや締まりを欠き粘性に富む褐色土。7. ロームに黒色土が混ざりやや締まりを欠く暗黄褐色土。8. 締まりを欠き暗褐色土とロームが少し混ざる暗褐色土。9. 粘性に富み締まりのある粘土層である暗黄褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。

014号土坑（遺構 第396図）

A Q41-83から西へ1.5m、北へ1mに位置する。プランは長軸2.86m、短軸0.56mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.04mある。床面は細長く壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 粘質で締まりのある暗褐色土。2. ローム小ブロックを少し含む粘性で締まりのある暗褐色土。3. ロームブロック主体で粘性で締まりのある暗黄色土。4. ローム小粒を少し含む粘性がなく締まりもない黒褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物



第396図 大野南遺跡縄文時代土坑(3) (1/80)

はない。

015号土坑 (遺構 第396図)

A S 39-23から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.68m、短軸0.92mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.9mある。床面にはほぼ径30cmの円形ピットが2個検出されている。ピットの深さは浅いほうが24cm、深いほうが37cmある。壁は急激に立ち上がる。覆土は1. やや砂質でローム小粒と炭化粒を少し含む暗褐色土。2. ローム小粒をやや多く含み粘性が弱く締まりはある暗褐色土。3. サラサラで粘性と締まりがない黒褐色土。4. やや暗色がかって粘性と締まりがややない暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

017号土坑 (遺構 第396図)

A R 39-09から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.12m、短軸0.96mの円形に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは34cmある。床面はフラットで壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 締まりは普通で粘性は弱くローム粒を少し含み焼土粒と炭化粒をわずかに含む暗褐色土。2. 暗褐色土にロームブロックが混ざり粘性がややあり焼土粒・炭化粒をわずかに含む暗褐色土とロームの混成層である。覆土中に焼土粒や炭化粒を含むがこの場所で火を使用したとは考えられない。また縄文時代中期の土器片も検出されている。性格は判然としないが廃棄物処理用の土坑である可能性がある。

018号土坑 (遺構 第396図)

A R 39-09から南へ1 mに位置する。プランは長辺1.47m、短辺0.70mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.96mある。床面はフラットで中程に逆茂木を立てた跡と思われる小ピットを5個検出している。ピットの深さはいずれも10cm以下で浅い。覆土は1. 締まりがあり粘性に乏しくローム粒を少し含む褐色土。2. 締まりがあり粘性が若干ありローム粒をわずかに含む暗褐色土。3. 締まりがあり粘性が乏しくローム粒を多く含む褐色土。4. 締まりが普通で粘性が若干ありローム粒をわずかに含む暗褐色土。5. 締まりがやや弱く粘性が若干ありローム粒がやや多い褐色土。6. 褐色土とロームの混成層(やや褐色土の割合が多い)。6'. 褐色土とロームの混成層(ややロームの割合が高い)。7. 締まりが弱く粘性が若干ありローム粒が少量混ざる褐色土。8. 締まりは普通で粘性は乏しくローム粒を少し含む褐色土。9. 締まりが弱く粘性が若干ありローム小ブロックを含む褐色土とロームブロックの混成層である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

021号土坑 (遺構 第396図)

A S 38-92に位置する。プランは長軸1.13m、短軸1.01mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは32cmある。床面はフラットで壁は急激に立ち上がる。覆土は1. ハード

ロームの小ブロックを含み比較的締まりもよく粘性も若干ある褐色土。2. ハードロームの小ブロックを多く含む有機質の土で粘性が若干ある暗褐色土。3. ローム粒を少量含み締まりがあり粘性もある褐色土である。本土坑の覆土は全体にわたってハードロームの小ブロックが混ざっており意図的に埋め戻されたようである。縄文時代中期の土器片が出土しており近接する住居跡と同時期の所産と考えられ、2層が有機質の土であること等からして生活廃棄物の処理用の土坑とも考えられる。

022号土坑（遺構 第396図）

A S 38-81から北へ1m、西へ0.5mに位置する。プランは長辺1.46m、短辺0.82mのやや丸みのある長方形を呈する。検出面から床面までの深さは46cmある。床面はほぼフラットで中程に一辺25cm前後の方形のピットを2個検出している。ピットの深さはいずれも26cmある。覆土は1. ローム粒をわずかに含み粘性に乏しい暗褐色土。2. 焼土粒をわずかに含みやや粘性でやや明るい暗褐色土。3. 粘性が若干あるロームと暗褐色土の混成層。4. ローム粒が少し混ざり締まりが強く粘性がある暗褐色土。5. ローム粒をわずかに含み粘性が若干ある暗褐色土。6. 粘性が若干あるロームと褐色土の混成層。7. ローム粒をわずかに含み粘性がある褐色土。8. 粘性があるロームと褐色土の混成層。9. ローム粒を多く含み締まりがやや弱く粘性が若干ある褐色土。10. 褐色土が少量混じり粘性があるローム層。11. 暗褐色土とハードロームブロックの混成層である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

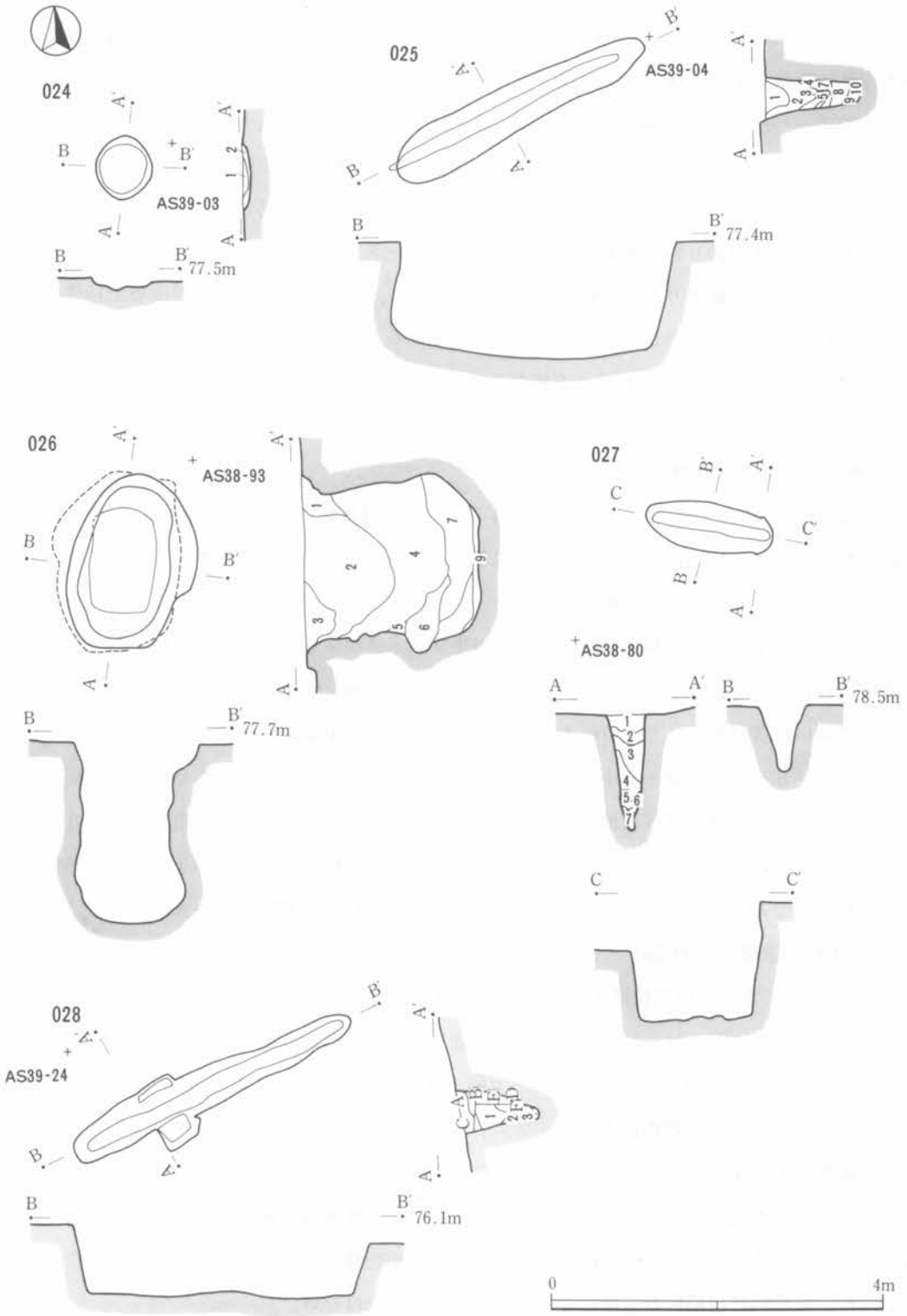
023号土坑（遺構 第396図）

A S 38-81から南へ1.5m、東へ1.5mに位置する。プランは径1mの円形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmある。床面はほぼフラットで壁は急激に立ち上がる。覆土は1. 焼土粒多く含み粘性が乏しい暗褐色土。2. 焼土粒わずかに含み粘性に乏しい暗褐色土。3. ローム粒をやや多く含み炭化粒をわずかに含み粘性が若干ある褐色土。4. やや締まりがあり粘性が若干あるロームと暗褐色土の混成層。5. ローム粒をやや多く含み炭化粒をわずかに含み締まりが強く粘性がある暗褐色土である。覆土上層にみられる焼土ブロックは廃棄された可能性が強く、017や022等と同時期・同性格の土坑である可能性が高い。

024号土坑（遺構 第397図）

A S 39-03から西へ0.5mに位置する。プランは長軸0.79m、短軸0.69mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは5cmしかない。確認調査時にソフトロームをかなり削平しており本来はもっと深い形状であったと思われる。覆土は1. ローム粒を少量含み炭化粒を多く含み粘性が若干ある暗褐色土。2. 粘性がある暗黄褐色土である。形状・規模が017・021・023等と近似していることから同時期・同性格の土坑である可能性が高い。

025号土坑（遺構 第397図）



第397図 大野南遺跡縄文時代土坑(4)(1/80)

A S 39-04から西へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸3.39m、短軸0.56mの長楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.15mある。床面はやや中央に深く傾斜している。壁はややオーバーハング気味に立ち上がる。覆土は1. ロームと褐色土の混成層でやや締まりがあり粘性が若干ある黄褐色土。2. ロームと褐色土の混成層でやや明るくやや締まりがない黄褐色土。3. ロームの小ブロックを含み締まりが弱く粘性のある褐色土。4. ロームを主体としてやや締まりがあり粘性がある黄褐色土。5. ハードロームの小ブロックを少し含み粘性がある褐色土。6. 締まりがあり粘性がある褐色土。7. ロームと褐色土の混成層で粘性のある暗黄褐色土。8. ハードロームブロックとソフトロームの混成層。9. ハードロームブロックの堆積層。10. 締まりがあり粘性で有機質の暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

026号土坑 (遺構 第397図)

A S 38-93から西へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸2.07m、短軸1.52mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは2.18mある。床面はフラットで壁はややオーバーハング気味に立ち上がる。覆土は1. ローム粒がやや多く混ざり締まりが弱く粘性がややある暗褐色土。2. ローム粒・ハードロームの小ブロックが多量に混ざり炭化粒がわずかに混ざる暗黄褐色土。3. ローム粒がやや多く混ざり締まりが弱く粘性がややある褐色土。4. やや色調の暗い暗黄褐色土。5. ロームを主体として褐色土が少量混ざり締まりがなく粘性がある黄褐色土。6. ハードローム小ブロックをやや多く含み締まりがやや弱く粘性がある褐色土。7. ローム粒がシミ状に混ざる他にハードローム粒が少し含まれ粘性がある暗褐色土。8. ローム粒がシミ状に混ざり粘性がややある暗褐色土。9. 炭化粒を少し含み締まりが強く粘性の強い灰褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

027号土坑 (遺構 第397図)

A S 38-80から東へ2 mに位置する。プランは長軸1.57m、短軸0.56mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.38mある。床面は細長くやや凹凸がみられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1. 暗褐色がシミ状に混じり締まりがあり粘性が若干ある褐色土。2. ソフト化したローム混じりの暗黄褐色土。3. ソフト化したロームが混ざり締まりがややある粘性ありの暗黄褐色土。4. ハードローム小ブロックの堆積が多くみられる黄褐色土。5. 締まりがあり粘性のある褐色土。6. ハードロームの小ブロックの堆積層で褐色土粒が少し含まれる黄褐色土。7. 4層と同じである。遺構の検出が下層確認調査時にハードローム面まで下げた段階であった。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

028号土坑 (遺構 第397図)

A S 39-24から東へ1.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸3.71m、短軸0.50mの長楕円

形を呈する。検出面から床面までの深さは0.79mある。床面は細長くフラットである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。斜面部に再堆積したローム層中で検出されたため、土層註記を含めて説明をおこなう。土層はA、ローム粒をやや多く含み粘性に乏しい褐色土（II c層の再堆積）。B、ローム粒を多く含み粘性が若干ある暗黄褐色土（II c層の再堆積）。C、B層に近似するがロームの含有率が更に高く色調もやや明るい暗黄褐色土（II c層の再堆積）。D、ハードロームのブロック主体の黄褐色土（立川ロームのハードロームの再堆積）。E、ハードロームをわずかに含み締まりがあり粘性がある褐色土。F、プライマリーな立川ロームVII層である。覆土は1、ローム粒をわずかに含み締まりがあり粘性に乏しい褐色土。2、締まりがあり粘性に乏しい褐色土。3、ハードロームを含み締まりがあり粘性もある暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物はない。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器（第398図1～28）

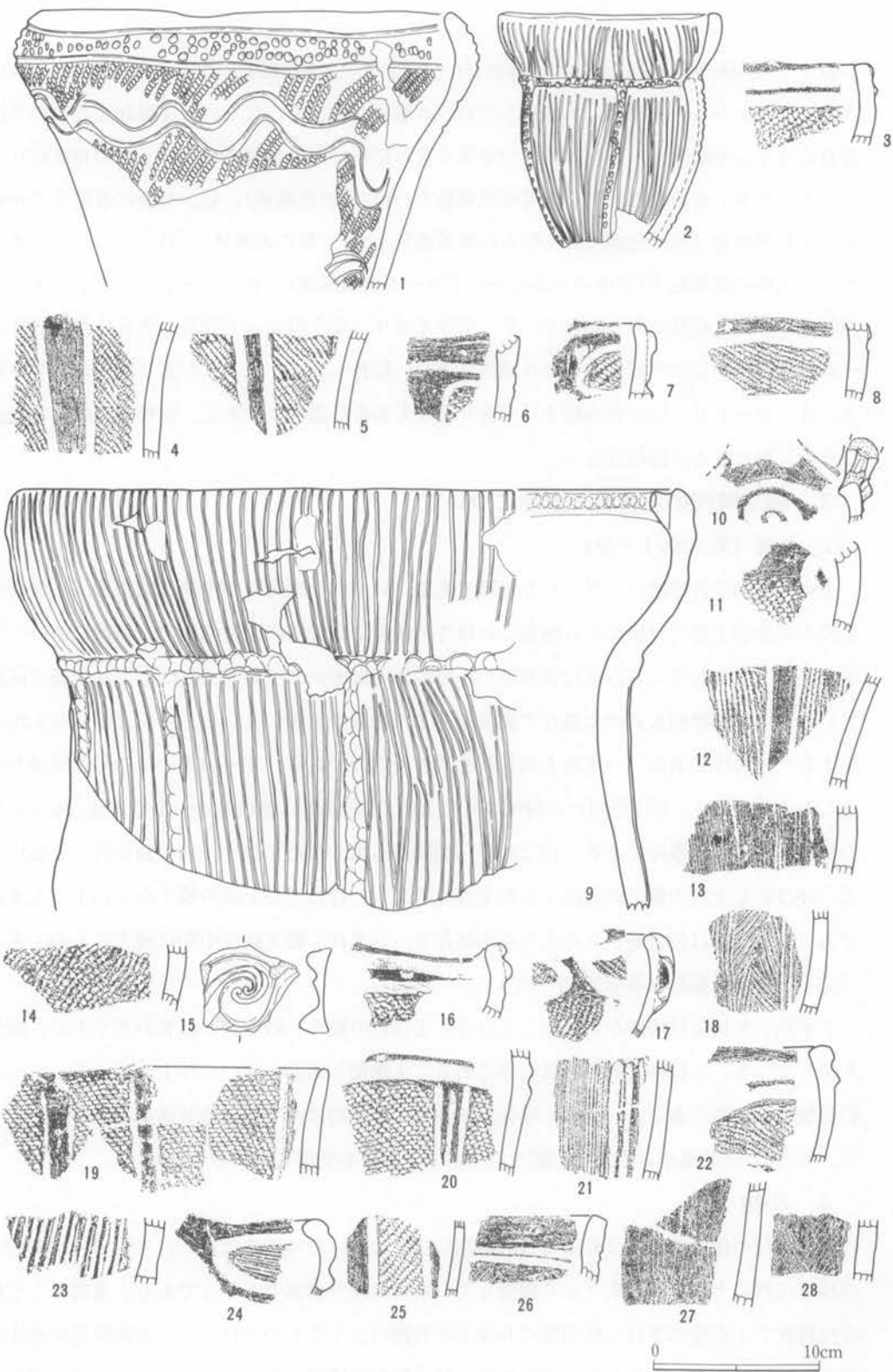
1～3は16号住居跡から出土した土器である。いずれも縄文時代中期に属する。1は加曽利E式の深鉢形土器の口縁部から胴部にかけての破片で口縁部に連続刺突文、胴部にかけては沈線と縄文で施文している。2は曾利系の小形深鉢で縦方向の沈線を地文にして粘土紐で区画している。3は加曽利E式の土器片で縄文を地文に沈線で区画している。4～8は17号土坑から出土した土器片である。いずれも加曽利E式の土器片である。9～14までは19号住居跡から出土した土器である。9は炉囲いに使用された土器で2と同様に曾利系の土器である。他はいずれも加曽利E式の土器片である。15は20号住居跡から出土した土器片、加曽利E式の土器片である。16は21号土坑の覆土から出土した土器片である。17は23号土坑の覆土から出土した土器片である。18～28は包含層から出土した土器片で、いずれも縄文時代中期に属するものである。

(2) 石器・石製品（第399図1～7）

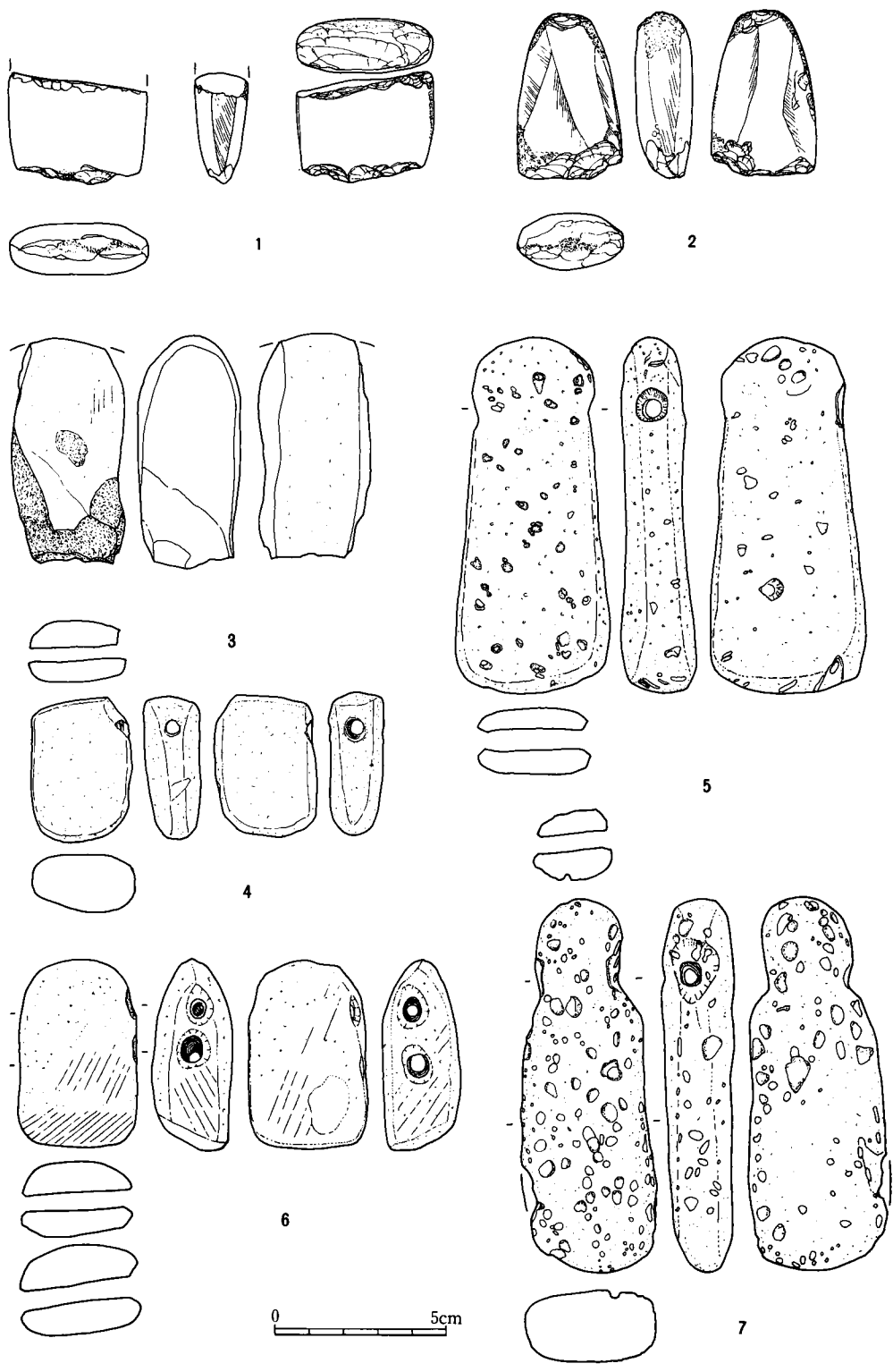
3を除いて16号住居跡から出土している。1は粒の細かい砂岩製の打製石斧である。胴部が欠損している。2は砂岩製の打製石斧である。先端部と頭部を敲いて仕上げている。5～8は軽石製の石製品である。いずれも穿孔している。形態的にみて斧状の装飾品である可能性もある。3は19号住居跡から出土した敲き石である。円礫を使用している。

4. 小結

縄文時代の住居跡2～3軒はほぼ同時期に存在していた可能性は高い。また17号や23号土坑の様な円形の土坑はゴミ穴として機能していた可能性も指摘できそうである。遺物としては16号住居跡で4点検出された軽石製の石製品が石錘のようなものではなく、装飾品等の非実用品である可能性が高い。また広い遺跡のわりには陥穴の検出が少なく、あまりこの場所での狩猟が行われなかったことを示している。



第398図 大野南遺跡出土土器(1/4)



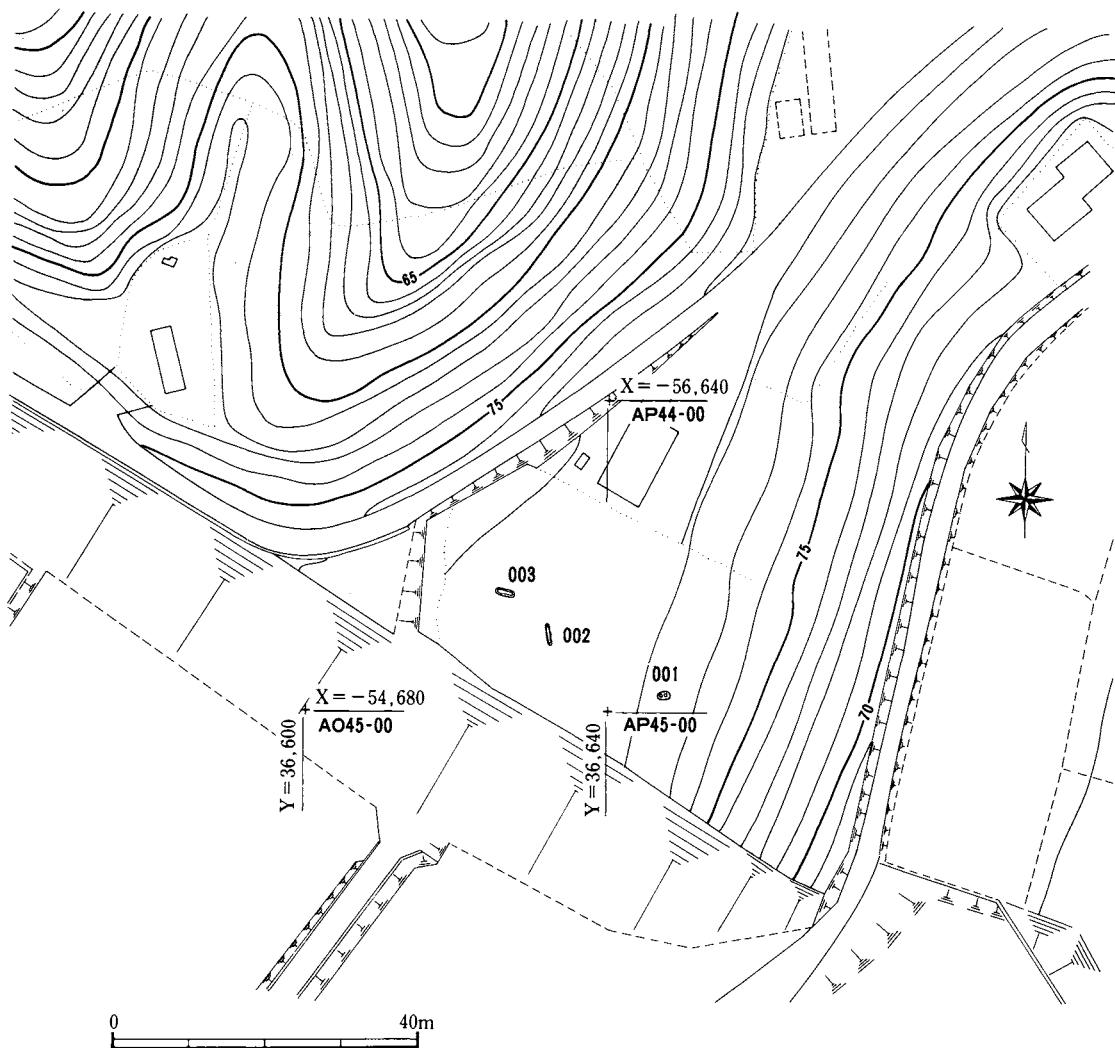
第399図 大野南遺跡出土石器(1/2)

第16章

南 大 野 第 1 遺 跡

遺跡コード 201-089

調査担当者 西口 徹・高柳 圭一



第400図 南大野第1遺跡位置図及び遺構配置図(1/1000)

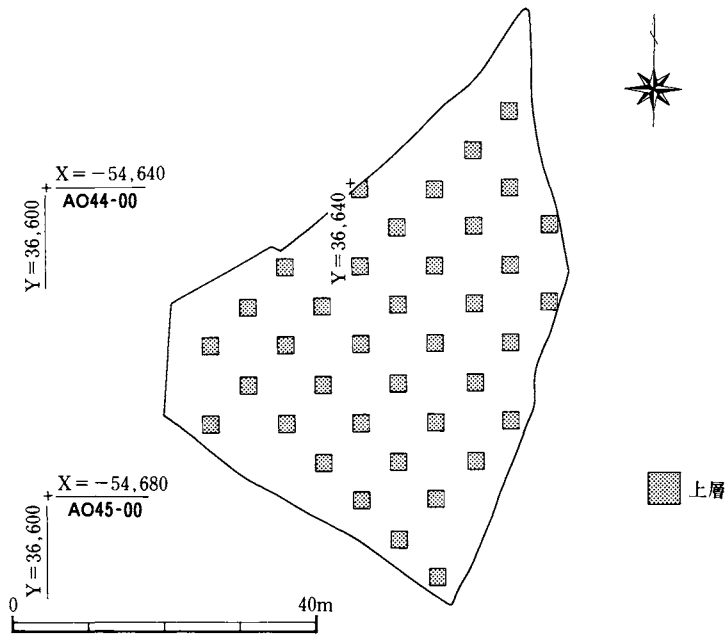
第1節 縄文時代

1. 概要

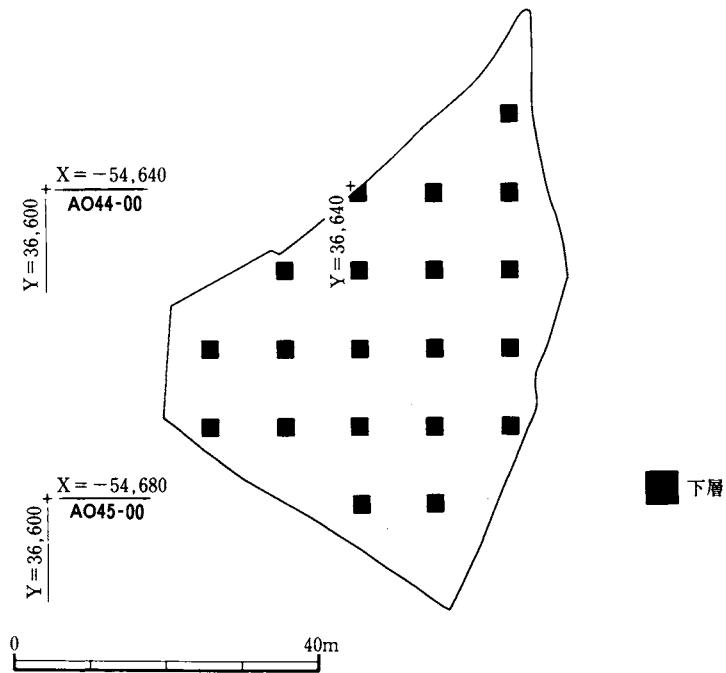
南大野第1遺跡では上・下層の確認調査をおこなった際に土坑が3基検出され、引き続きその周辺の拡張調査を実施した。他に若干の遺物がI～II層中から検出された。下層の遺物はまったく検出されなかった。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

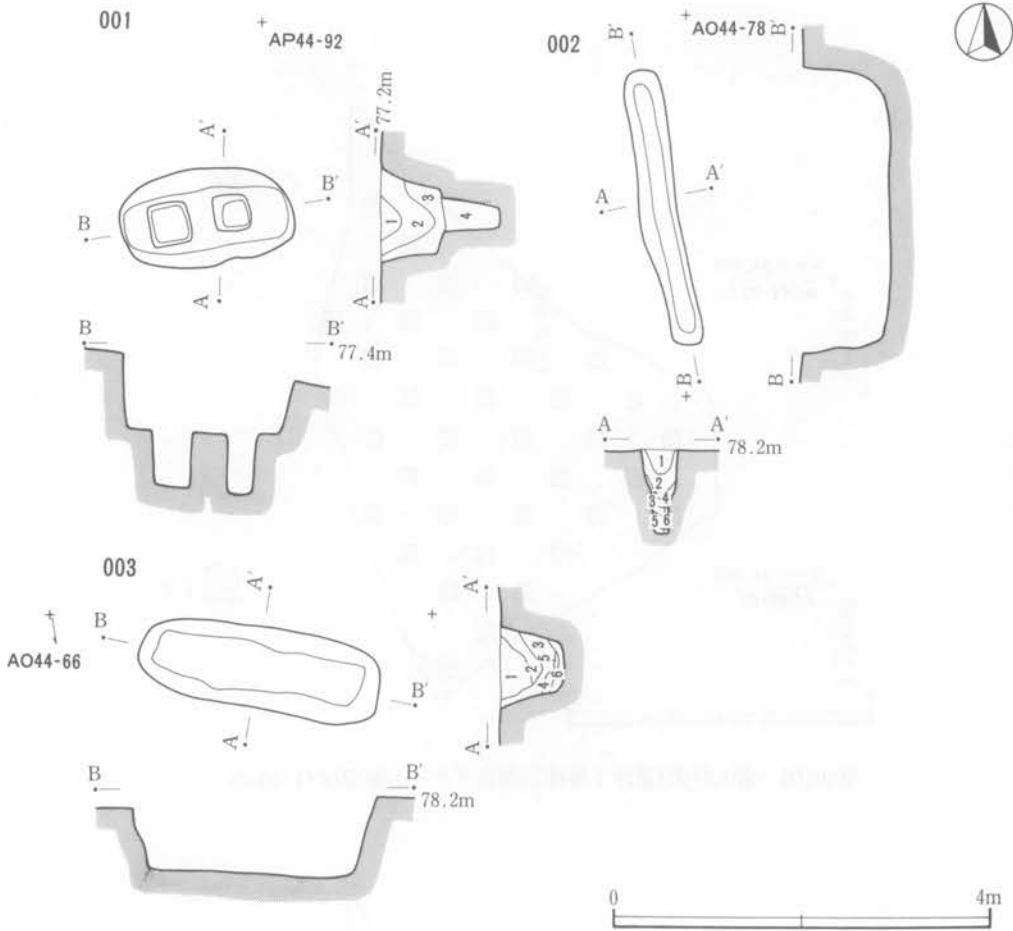
(1) 土坑



第401図 南大野第1遺跡上層確認調査グリッド配置図(1/1000)



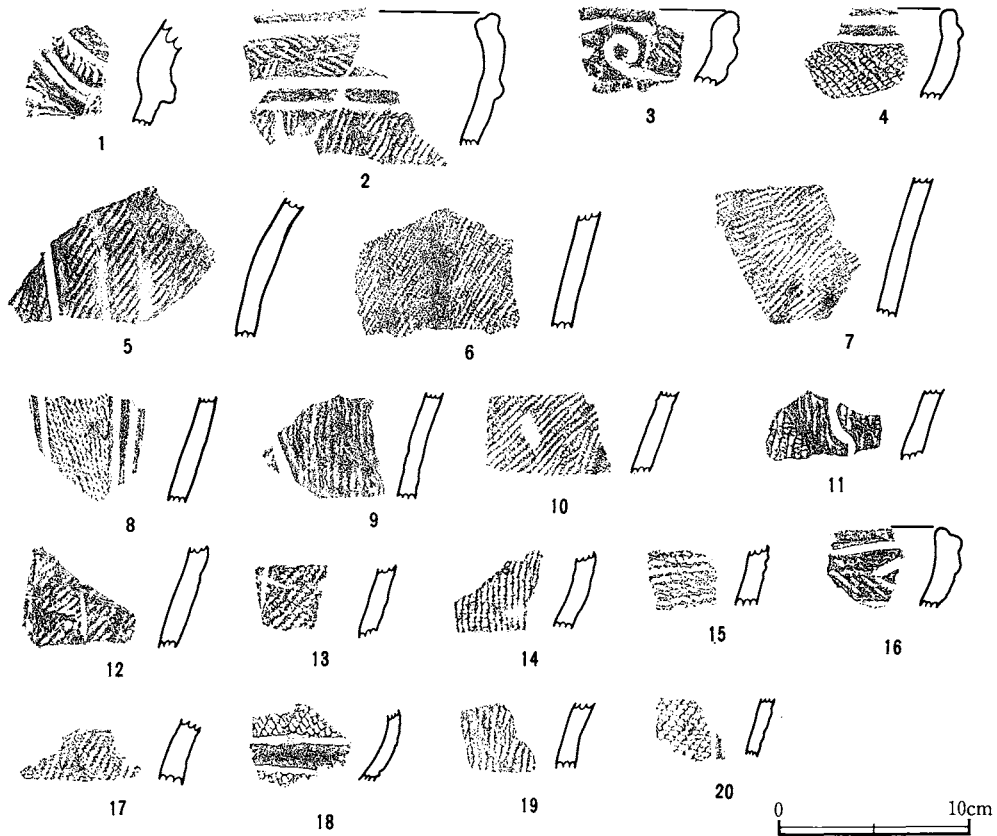
第402図 南大野第1遺跡下層確認調査グリッド配置図(1/1000)



第403図 南大野第1遺跡 縄文時代土坑(1/80)

001号土坑 (遺構 第403図)

A P44-92の南2mに位置する。プランは長軸1.78m、短軸1.04mの楕円形に近い不定形を呈する。床面はほぼフラットで40cm前後の方形ピットを2個持つ。検出面からの深さは床面で0.66mでピットの最深部で1.26mある。覆土は1. 炭化粒を多く含み締まりはほどほどで粘性がとばしい暗褐色土。2. ハードローム小ブロックを少量含み締まりはほどほど粘性が若干ある褐色土。3. ロームが縞状に混じりハードロームの小ブロックが少量含まれ締まりが強く粘性がややある黄褐色土。4. 暗褐色土とハードロームブロックの混成層である。斜面部に接してハードローム上面で検出された。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。



第404図 南大野第1遺跡包含層出土土器(1/4)

002号土坑 (遺構 第403図)

A O44-78の南に位置する。プランは長軸2.96m、短軸0.38mの長楕円形を呈する。断面はU字形で幅が非常に狭い。検出面から床面までの深さは0.94mある。覆土は1. ローム粒(1mm)少量、焼土粒(1mm未満)を微量に含みしまりがあり粘性が若干ある褐色土。2. やや明るい色調で締まりがあり粘性が若干ある褐色土。3. ハードロームブロックの堆積層。4. 締まりがやや弱く粘性がある褐色土。5. しまりほどほどで粘性がある黄褐色土。6. 有機質の黒色土でローム粒(5mm未満)を少量含みしまりがやや強く粘性がある暗褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

003号土坑 (遺構 第403図)

A O44-67からほぼ西へ2mに位置する。プランは長辺2.54m、短辺0.84mの隅丸方形に近い不整形を呈する。床面はほぼフラットである。検出面から床面までの深さは0.82mある。覆土は1. ローム粒(1~3mm)を少量含みやや締まりが強く粘性が若干ある暗褐色土。2. ローム粒(1mm前後)を少量含み締まりが強く粘性がある褐色土。3. ハードローム粒(1mm前後)

をやや多く含むロームと褐色土の混成層である暗黄褐色土。4. ハードローム粒（1～2mm）を少量含み締まりがややあり粘性がある褐色土。5. ローム粒（1～2mm）を少量含み有機質の黒色土を含み粘性がある暗褐色土。6. ハードローム粒（1mm）を少量、炭化粒を微量に含み締まりがややあり粘性が強い褐色土である。形態的には陥穴状遺構になると思われる。遺物の検出はない。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器（第404図1～20） 遺構の中からはまったく遺物は検出されなかったが、003号土坑の近くから縄文時代中期の土器片が少量検出された。1が阿玉台式の土器片でその他は加曾利E式の土器片である。1は口縁部の突帯部分に縄文を配している。その他の加曾利E式の土器片は地文に単節縄文を配して沈線による区画をしているものが多い。

4. 小結

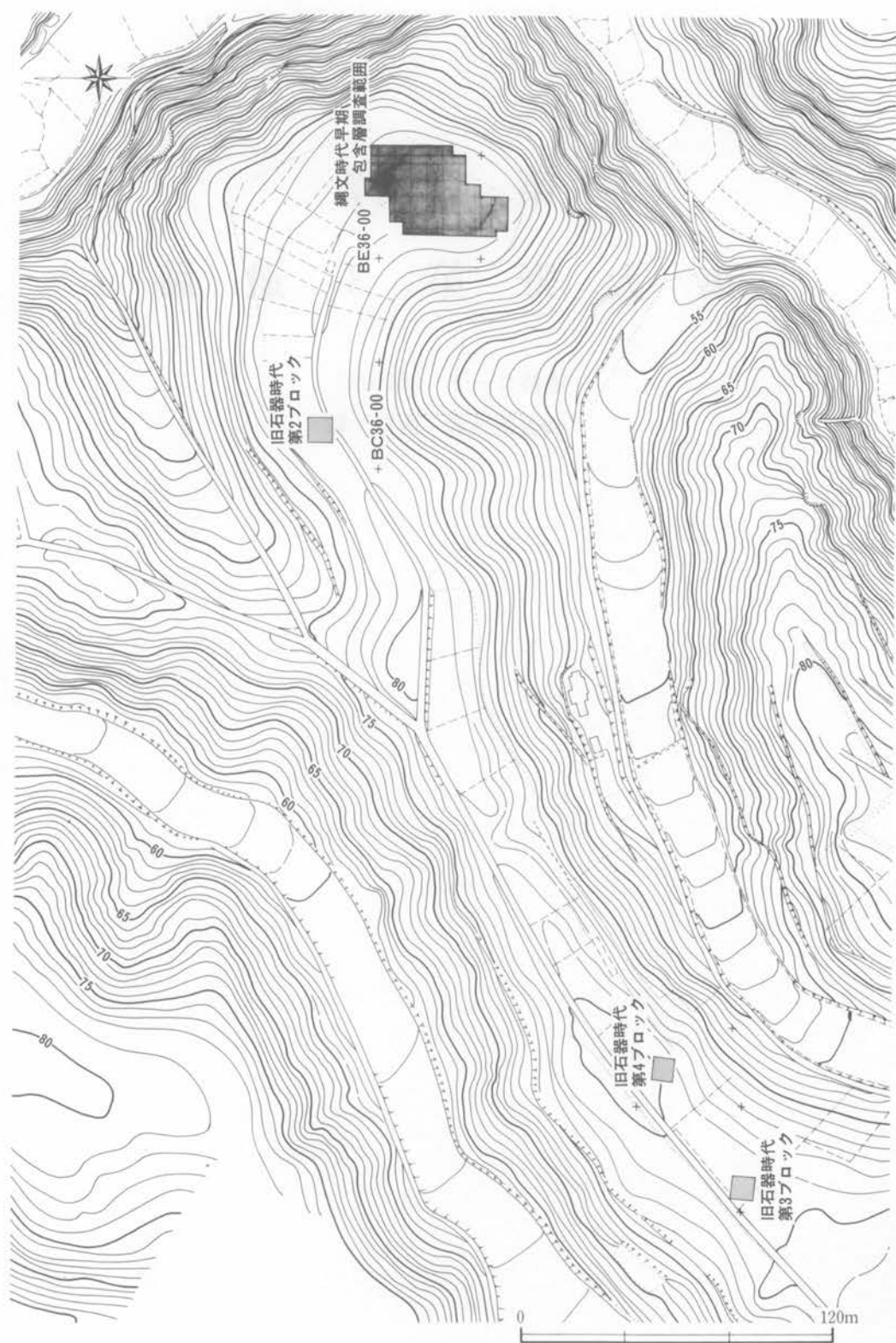
縄文時代の陥穴状遺構と思われる土坑が斜面に沿うように3基検出されており、狩猟場としての性格が強い遺跡である。003号土坑の近くからは縄文時代中期の土器片が散見されており、時期的にはこの時期に限定される可能性が強い。大野南遺跡とは細尾根を介してつながっており、関連性がありそうである。

第 17 章

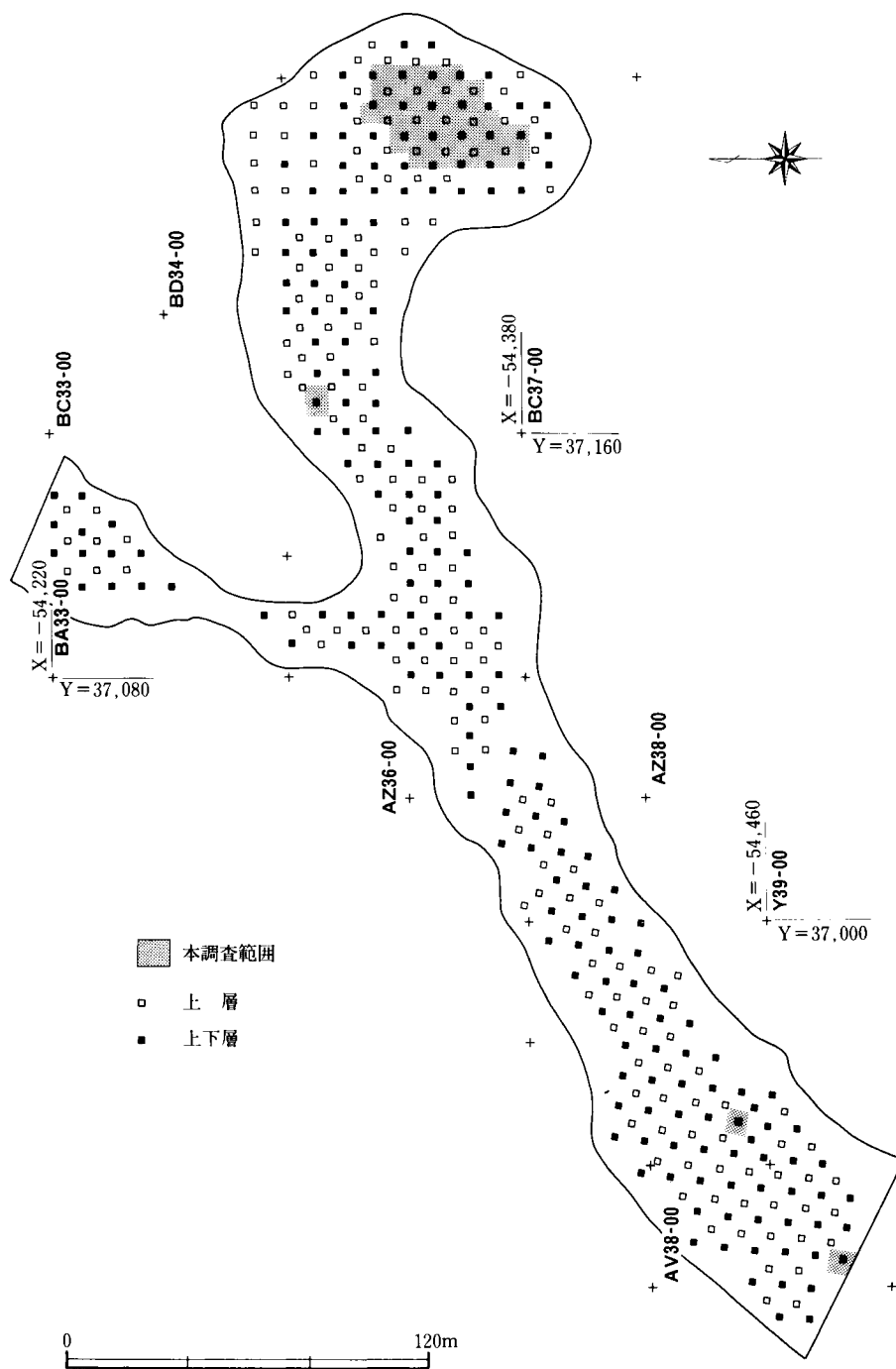
東 大 野 第 3 遺 跡

遺跡コード 201-093

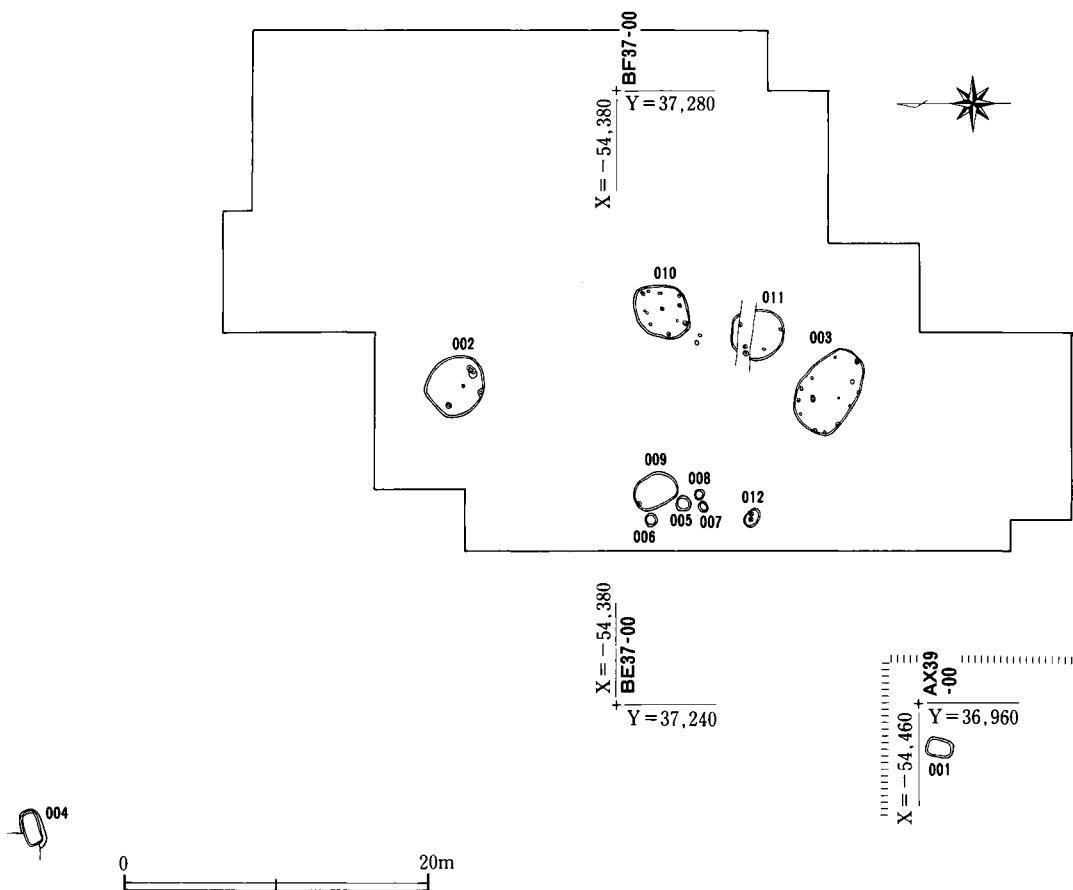
調査担当者 西口 徹



第405図 東大野第3遺跡上層及び下層本調査範囲図(1/2500)



第406図 東大野第3遺跡確認調査グリッド及び本調査範囲図(1/2500)

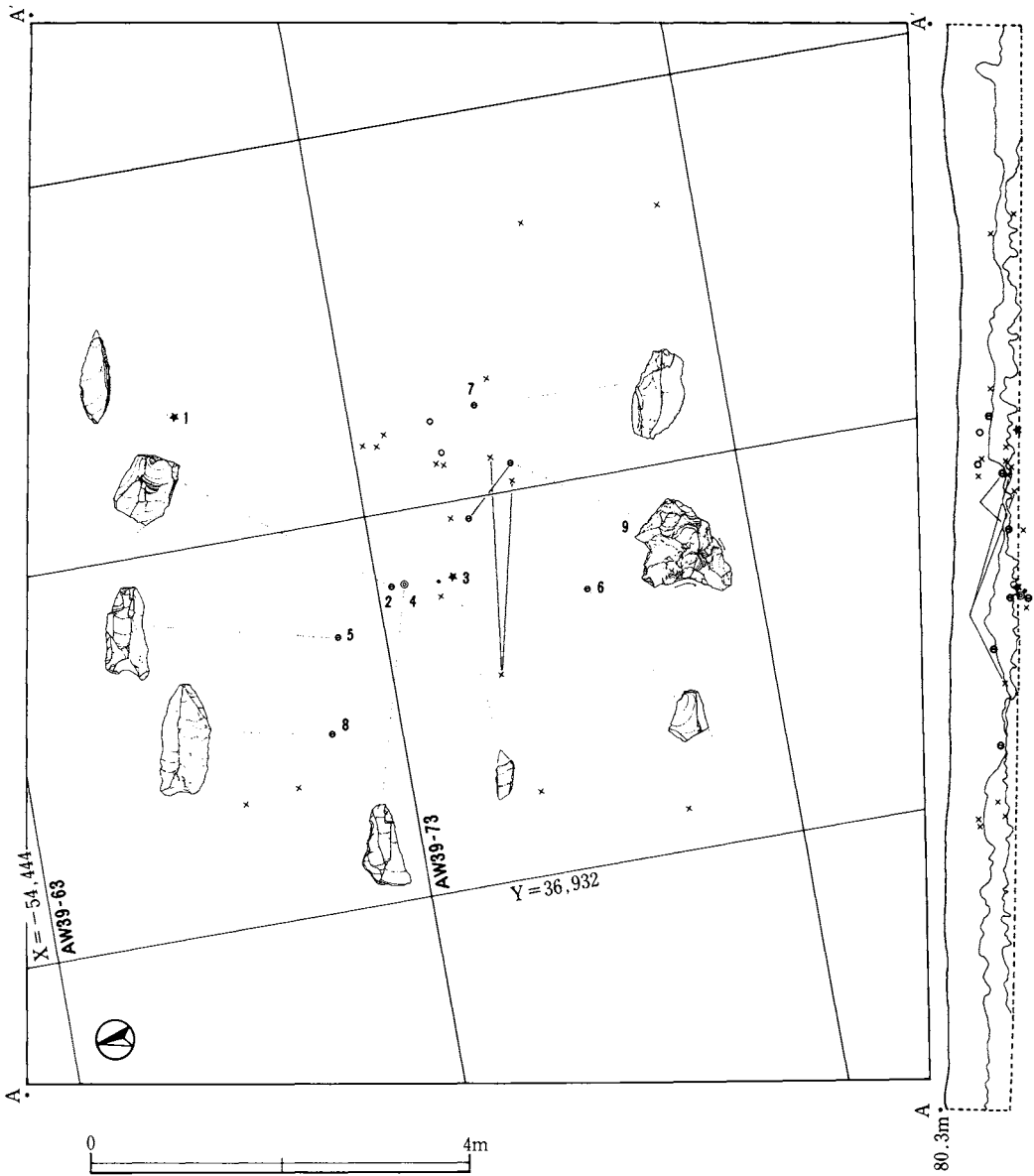


第407図 東大野第3遺跡上層本調査範囲及び遺構配置図(1/500)

第1節 旧石器時代

1. 層序区分 (第413図)

- I層 黒色土 ……耕作土で一部は腐植化している。いわゆる表土層である。
- II b層 黄褐色土 ……新期テフラの堆積層である。
- II c層 暗褐色土 ……縄文時代の遺物の包含層である。
- III層 黄褐色土 ……立川ロームのソフトローム部分に相当する。
- IV～VI層 褐色土 ……ソフトロームと第2黒色帯の中間の層でIV～VI層の三層に分かれるが本遺跡ではV層の第1黒色帯が明確に認められなかった。本層中位で始良パミスを含む層が連続して認められた。
- VII層 暗茶褐色土 ……第2黒色帯に相当するが上下に分離は不可能であった。



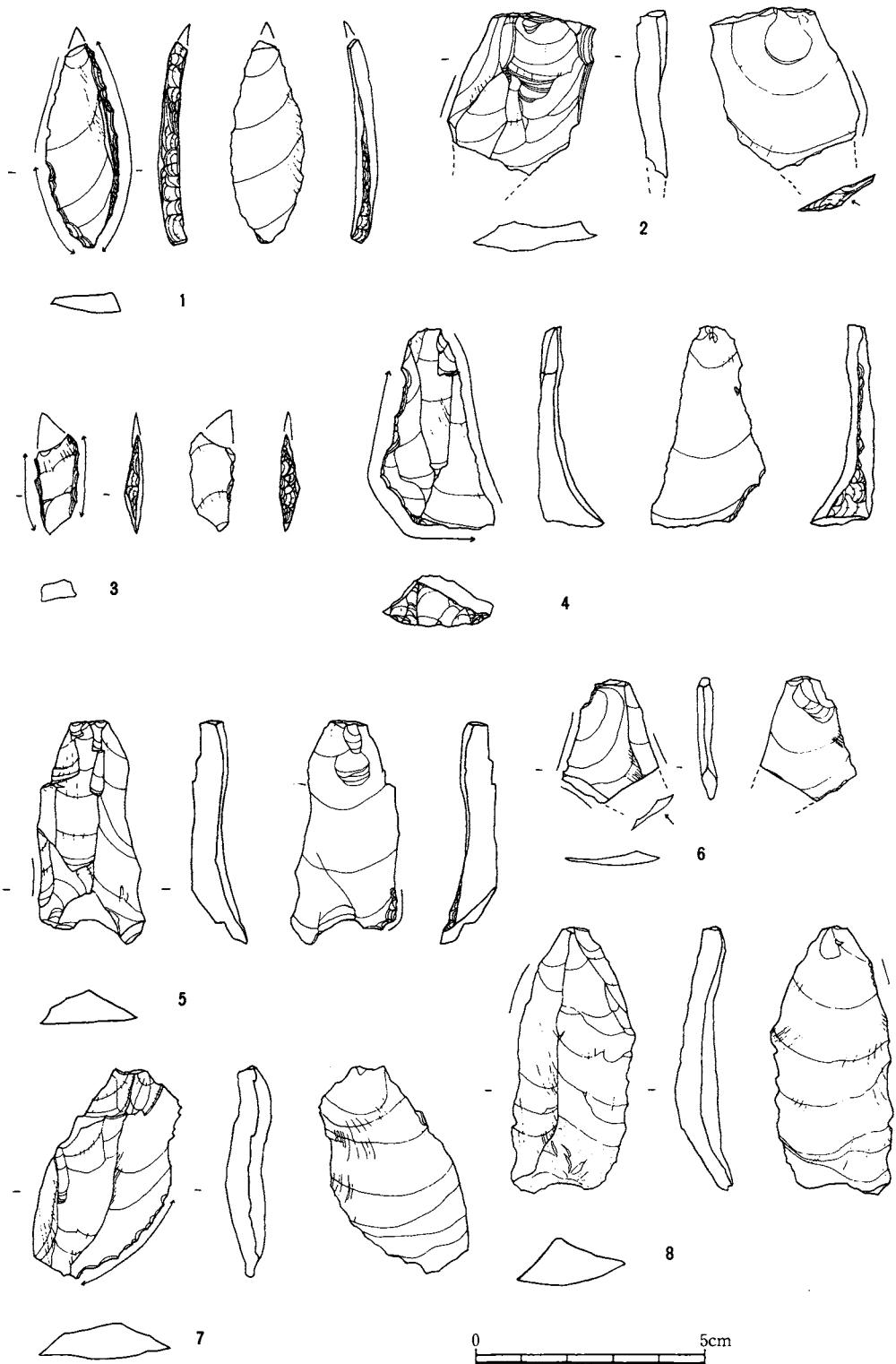
第408図 東大野第3遺跡第1ブロック遺物出土状況(1/80)

2. 概要

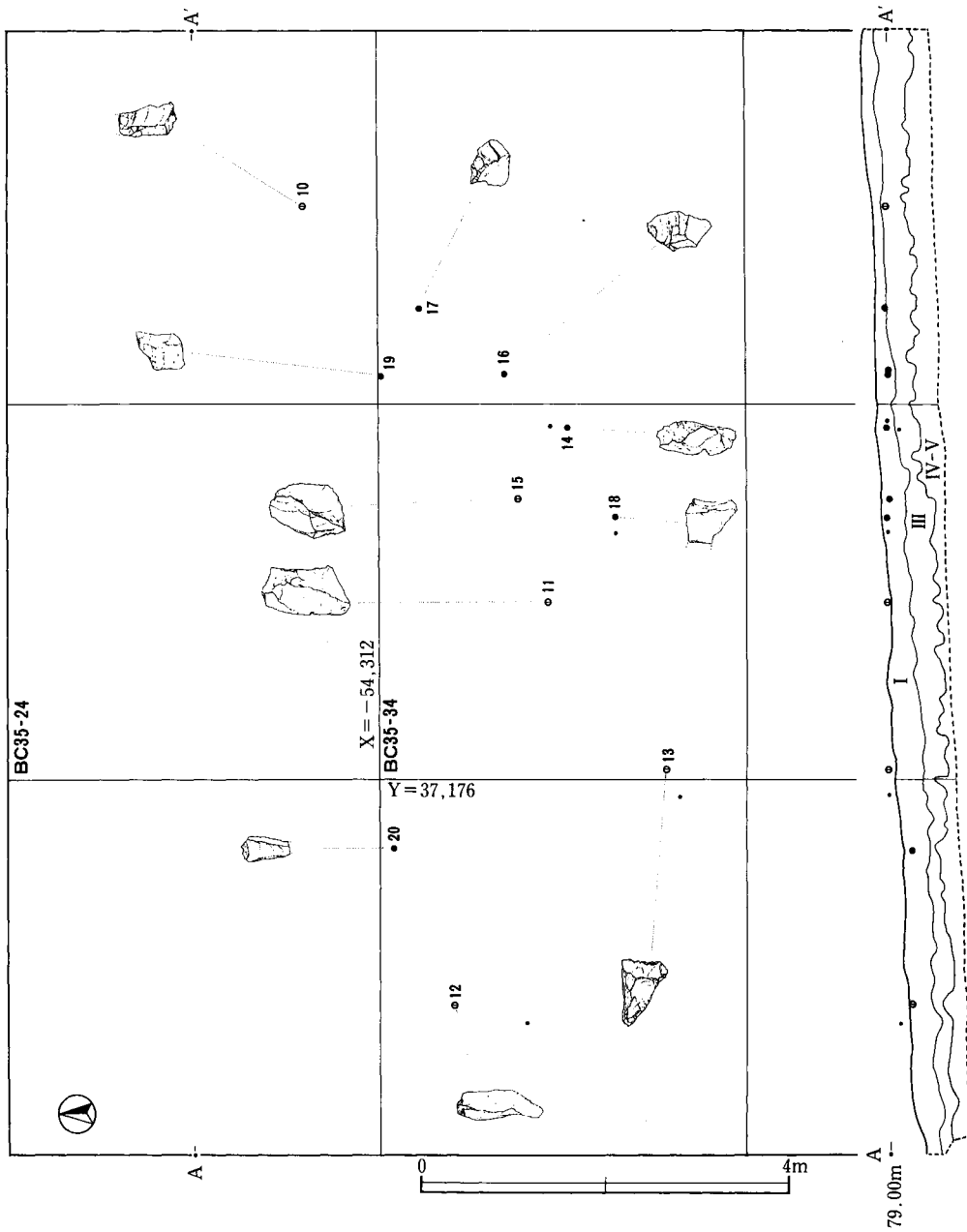
東大野第3遺跡では上層の確認調査に引き続いて下層の確認調査をおこなった。その際に3か所で遺物を検出した。本調査を実施した結果、IV層相当のブロックは2か所、VII層相当のブロックは1か所（単独出土）検出された。

3. 第1ブロック

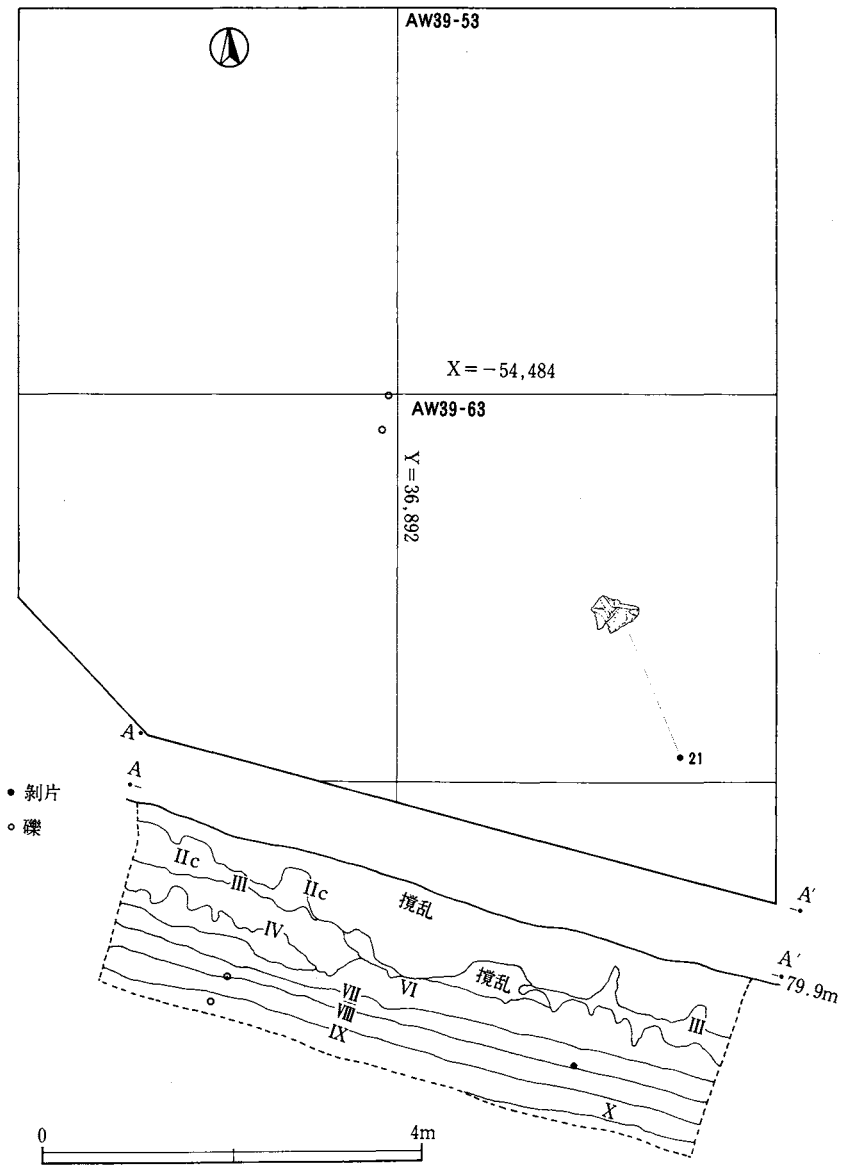
(1) 分布状況



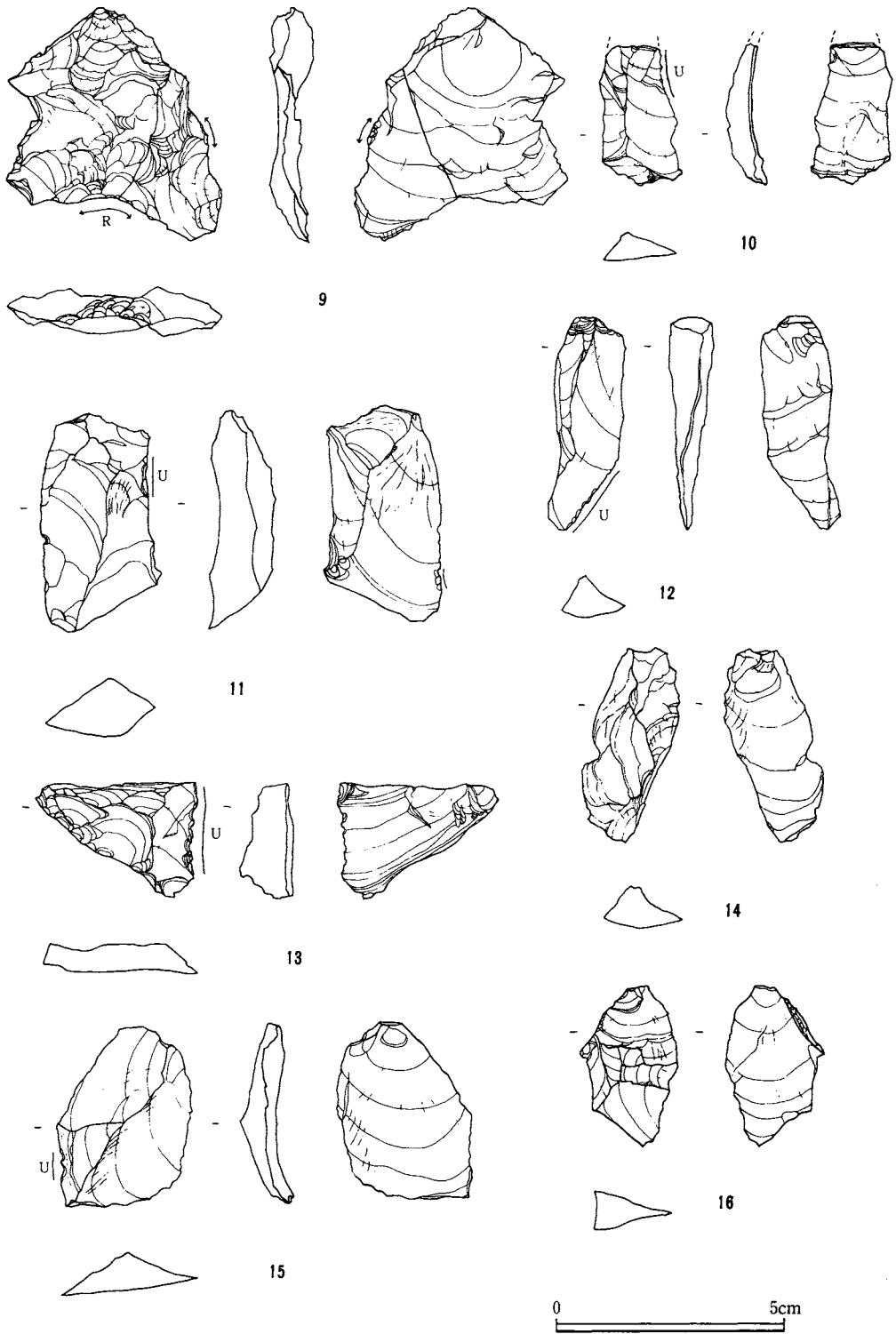
第409図 東大野第3遺跡第1ブロック出土石器(2/3)



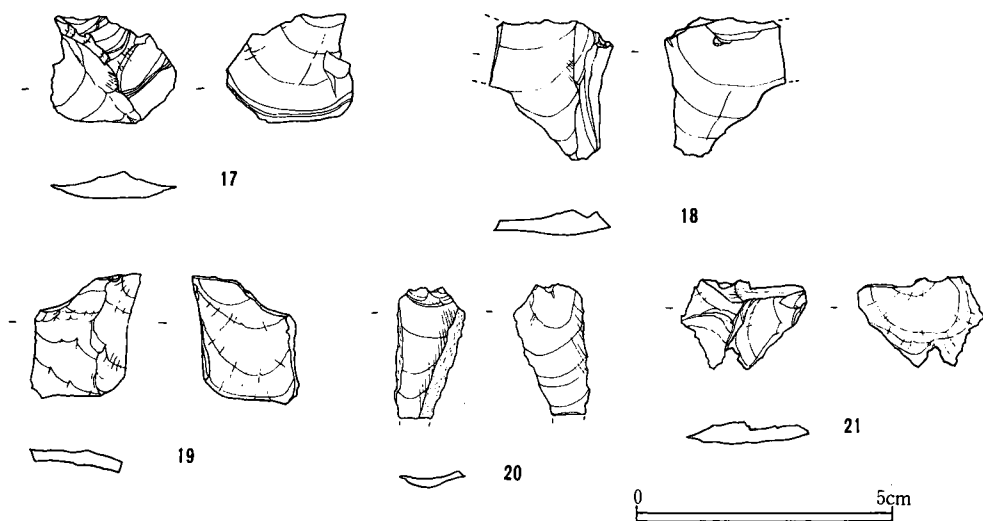
第410図 東大野第3遺跡第2ブロック遺物出土状況(1/80)



第411図 東大野第3遺跡第3ブロック出土状況(1/80)



第412図 東大野第3遺跡第1・2ブロック出土石器(2/3)



第413図 東大野第3遺跡第2・3ブロック出土石器(2/3)

AW39-73・74グリットを中心に29点検出された。分布状況は径6mの範囲に比較的散漫に分布している。やや中心に密な部分もみられる。石材はほぼ同一の珪質頁岩で構成される。また他に礫片が多数一括遺物として出土しているが、ほとんど焼け礫である。IV層を中心に検出されている。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は11点である。器種組成はナイフ形石器2点、スクレイパー1点、U・フレイク7点、碎片1点である。石材構成はほぼ同一の珪質頁岩11点である。

(3) 出土遺物

ナイフ形石器(第409図1・3) 1は縦長剥片を使用した柳葉形のナイフ形石器である。刃部には細かな刃こぼれがみられる。3は小形のナイフ形石器で先端部が折れている。

スクレイパー(第409図4) 縦長剥片の片側の基部に近い厚い部分を中心に加工してある。反対側の側片部には細かな刃こぼれが多くみられる。

U・フレイク(第409～410図2・5～9) いずれの縦長剥片にも側辺部に刃こぼれのような小剥離がみられた。

4. 第2ブロック

(1) 分布状況

BC35-14グリットを中心に17点検出された。全体の分布状況は東西6m、南北4m程の範囲に細長く散漫に広がっている。石材は第1ブロックと同様に珪質頁岩のみで構成される。第1

ブロック同様にIV層に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器類の総数は17点である。器種組成はU・フレイク5点、剥片6点、碎片4点である。石材構成は珪質頁岩のみで構成される。

(3) 出土遺物

U・フレイク（第412図10～13・15）いずれも珪質頁岩製の剥片である。特に13は著しい刃こぼれがみられる。

剥片（第412図14・16～20）19は安山岩製の剥片であり、その他は珪質頁岩製の剥片である。18は折断剥片である。

5. 第3ブロック

(1) 分布状況

AW39-63グリットから1点検出された。本調査で周りを拡張したが他の遺物は検出されなかった。安山岩製の剥片でVII層に相当する時期のものと思われる。

(2) 石器組成

検出された石器の総数は1点である。器種構成は剥片1点である。石材は安山岩である。

(3) 出土遺物

剥片（第413図21）安山岩製の不整形な剥片である。

6. 小結

第1ブロックと第2ブロックは距離が約240m程離れているが、同時期に形成されたと考えられる。石器の構成も使用痕を持つ剥片が多くを占めている点で似ている。石材的にみても同じような珪質頁岩を使用している。どちらにも石核はなく、ここでは石器製作や剥片剥離作業は行われなかったと思われる。ただ第1ブロックの方は礫群と共存し、またナイフ形石器も伴っているため、この相違が何を意味するかは興味深い。

第2節 縄文時代

1. 概要

東大野第3遺跡では上層の確認調査の結果、遺構が検出され、1,072㎡の本調査を実施した。その結果、縄文時代早期の住居跡4軒、縄文時代土坑8基が検出された。また本調査発掘区内を中心に縄文時代早期（井草Ⅰ・Ⅱ）の遺物が多数検出された。

2. 縄文時代の遺構・遺物について

(1) 住居跡

002号住居跡（遺構 第414図）

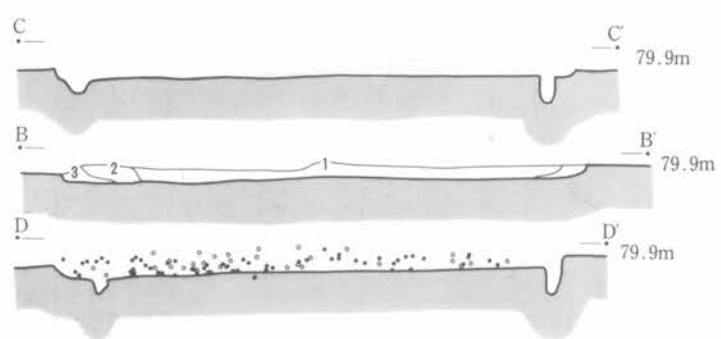
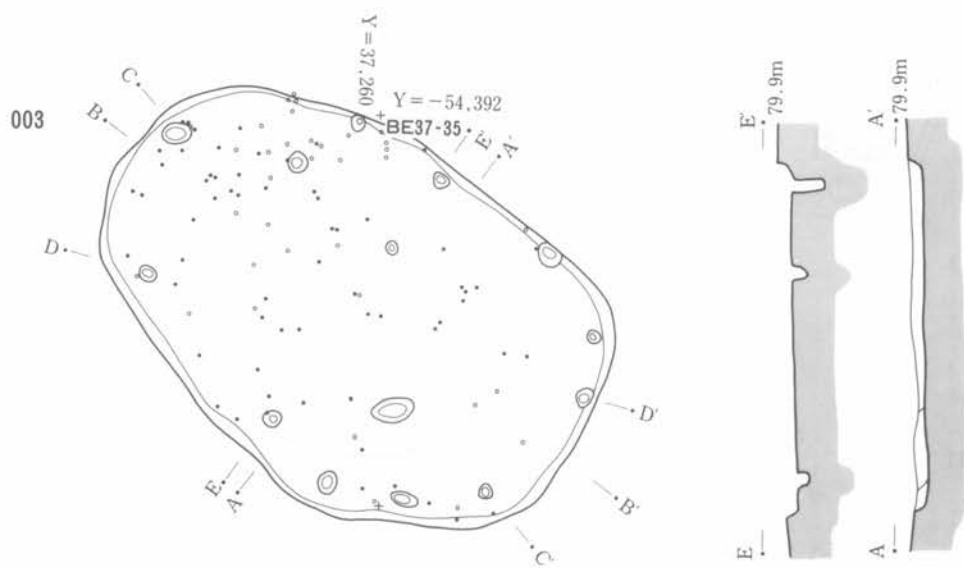
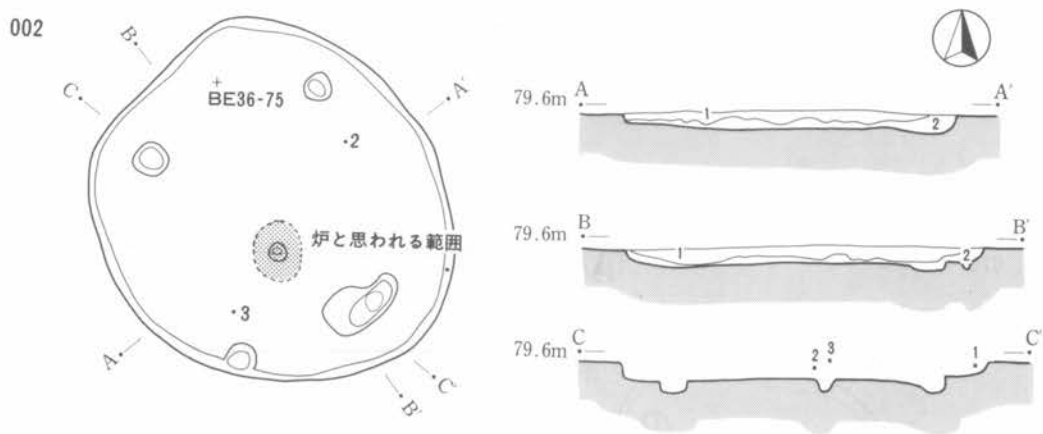
BE36-75に位置する。プランは長軸3.89m、短軸3.59mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは20cm余りでやや浅い。床面は壁際に一部硬い部分がみられたが全体にそれほど顕著ではない。床面の中程にある小ピット周辺に多少の焼土粒が観察された。短期間営まれた炉のようなものでないかと思われる。その他のピットはいずれも深さ10cm程のものである。覆土は1. ローム粒・焼土粒が混ざり締まりがある暗褐色土。2. ローム粒・焼土粒を少量含みやや締まりがある暗黄褐色土。3. ローム粒混じりでやや締まりがある黒褐色土である。この住居跡は遺物が少なく土器片が少量出土したのみである。

009号住居跡（遺構 第414図）

BE37-35から南へ2mのところを中心に位置する。プランは長軸5.56m、短軸3.63mの楕円形を呈する。検出面から床面までの掘り込みは10cmある。ピットは柱穴らしいものが壁際に沿って並んで検出されている。深いものでは20cm余り浅いものでは10cmとやや幅がある。いずれも規模は小さい。覆土中からは礫片や土器片が多数出土しているが遺物包含層の中心的な場所と近接していることとも無関係ではない。床面は全体にそれほど硬化している面は観察できなかった。また床面を精査したにもかかわらず炉等は検出できなかった。覆土は1. ローム小ブロック・焼土粒・炭化粒が少し混ざる黒褐色土。2. ローム粒・焼土粒を少し含みやや黒みを増し締まりがない暗黄褐色土。3. ローム粒・小ブロックを多く含みやや締まりがある黄褐色土。4. ローム粒・ブロックを少し含み締まりが良く粘性に富む黒褐色土である。縄文時代早期の住居跡である。

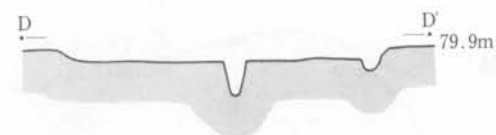
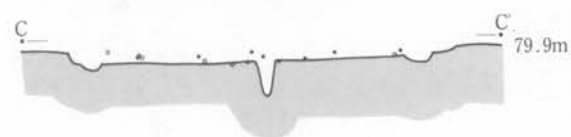
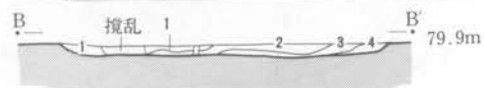
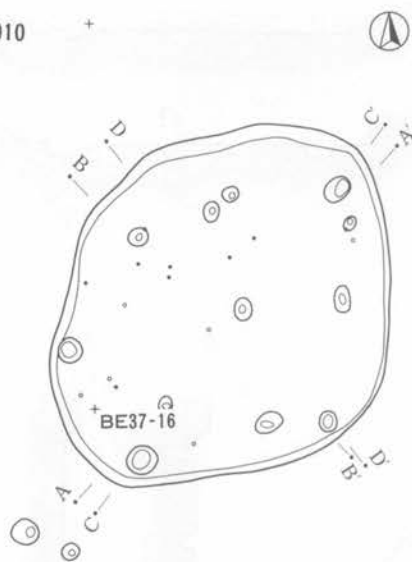
010号住居跡（遺構 第415図）

BE37-16に位置する。プランは長軸4.28m、短軸3.48mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは14cmある。ピットは柱穴らしいものが壁に近接して並んでいる他に中程に深さ40cmのものが1個みられる。周辺部のものは深さ10cm前後のものばかりである。覆土中からは多くの土器片と礫片が出土している。床面は中央部分がやや硬くなっているが硬化面として観察

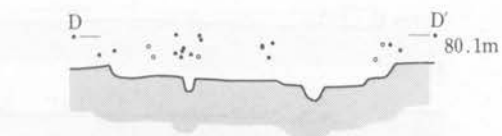
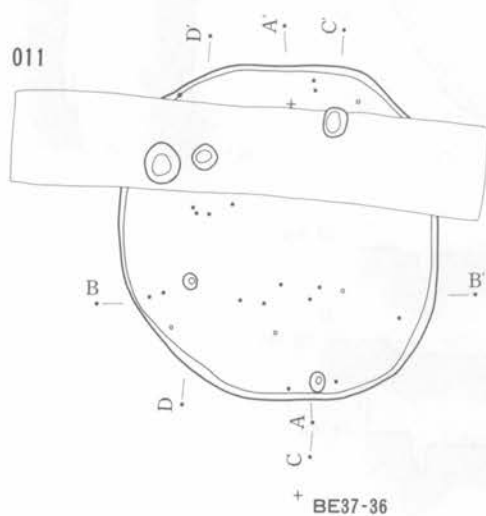


第414図 東大野第3遺跡002号・003号住居跡(1/80)

010



011



第415図 東大野第3遺跡010・011号住居跡(1/80)

できる程ではない。覆土は1. ソフトロームを少し含み締まりも粘性もない暗褐色土。2. 暗褐色土粒を少し含み締まりも粘性もややある黒褐色土。3. 締まりも粘性もある黒褐色土。4. ソフトローム粒とハードローム粒が混ざり合い締まりも粘性もややある暗黄褐色土である。縄文時代早期の住居跡である。

011号住居跡（遺構 第415図）

BE37-26から南へ1 mに位置する。プランは長軸3.42m、短軸3.36mのほぼ円形を呈する。検出面からの床面までの深さは17cmで床面はやや北側へ低く傾斜している。ピットは北西壁際を中心に検出されている。いずれも15cm前後である。床面は全体に硬くない。また炉と思われる部分は検出できなかった。遺物は南側覆土下層を中心に22点の縄文土器破片が出土した。覆土は1. ローム粒・黒色土粒混じりで締まり、粘性ともない暗黄褐色土である。縄文時代早期の住居跡である。

(2) 土坑

001号土坑（遺構 第416図）

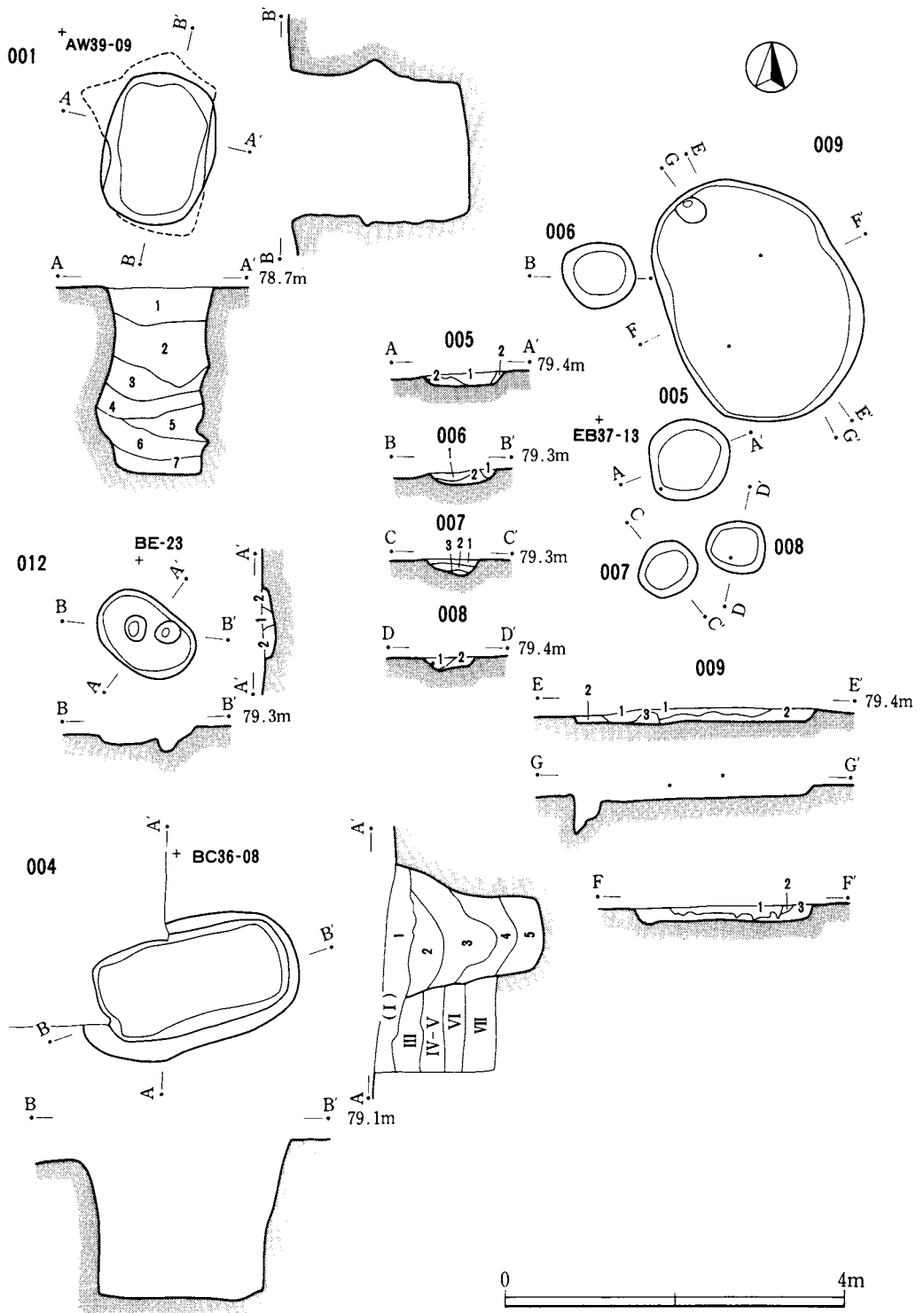
AW39-09から東へ1 m、南へ1 mに位置する。プランは長軸1.78m、短軸1.28m楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは2.06mある。壁はややオーバーハング気味に急激に立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを多く含みやや締まりがない暗褐色土。2. ソフトロームブロックとハードロームブロックの半々の混在層でやや締まりがない暗黄褐色土。3. ハードロームブロック主体でソフトローム粒が混ざり合いやや締まりある暗黄褐色土。4. ハードロームブロックが多く混ざり締まりがよい暗黄褐色土。5. ハードローム粒・ブロックが少しと暗褐色土が主体でやや締まりがあり粘質の暗褐色土。6. ハードローム主体で締まりがあり粘質の暗褐色土。7. 締まりがあり粘質な灰褐色土である。縄文時代の陥穴状遺構である。遺物はない。

004号土坑（遺構 第416図）

BC36-08から南へ1.5mに位置する。一部確認調査のため消失しているがプランはおおよそ長軸2.66m、短軸1.48mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは1.86mある。床面はほぼフラットで壁はやや外反気味に急激に立ち上がる。覆土は1. ローム小ブロックが多く混ざり締まりがない暗褐色土。2. ロームブロックが多く混ざりやや締まり粘性がある暗褐色土。3. ローム粒が混ざり締まりがありやや暗色化した暗褐色土。4. ローム粒が若干含まれ締まり粘性がある黒褐色土である。縄文時代の陥穴状遺構である。遺物はない。

005号土坑（遺構 第416図）

BE37-13から東へ1 m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.01m、短軸0.92mのほぼ円形を呈する。検出面から床面までの深さは15cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒を含み硬く締まった粘質の暗褐色土。2. ローム粒とハードロ



第416図 東大野第3遺跡縄文時代土坑(1/80)

ーム粒が混ざり硬く締まっている暗黄褐色土である。小土坑群のうちの1基である。遺物は土器の破片が少量出土している。住居跡と関連のある土坑かもしれない。

006号土坑（遺構 第416図）

B E 37-13から北へ1.5mに位置する。プランは長軸0.87m、短軸0.79mのやや不整な円形を呈する。検出面から床面までの深さは16cmある。床面はから壁際に緩やかに上がり壁もやや斜めに立ち上がる。覆土は1. ローム粒とロームブロックが混ざりやや締まりがない暗褐色土。2. ローム粒とロームブロックが混ざりやや締まりがある暗褐色土である。小土坑群のうちの1基である。遺物は土器の破片が少量出土している。住居跡と関連のある土坑かもしれない。

007号土坑（遺構 第416図）

B E 37-13から東へ1.5m、東へ1mに位置する。プランは長軸0.69m、短軸0.63mの円に近い楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは18cmある。床面はやや壁に向かって緩やかに傾斜していて、壁も引き続き傾斜してあまりはつきりと立ち上がらない。覆土は1. ローム粒・ブロック混じりでやや締まりがない暗褐色土。2. ローム粒・ブロック混じりで締まりがある暗褐色土。3. ソフトローム粒混じりのボソボソとした黒褐色土である。小土坑群のうちの1基である。遺物は土器の破片が少量出土している。住居跡と関連のある土坑かもしれない。

008号土坑（遺構 第416図）

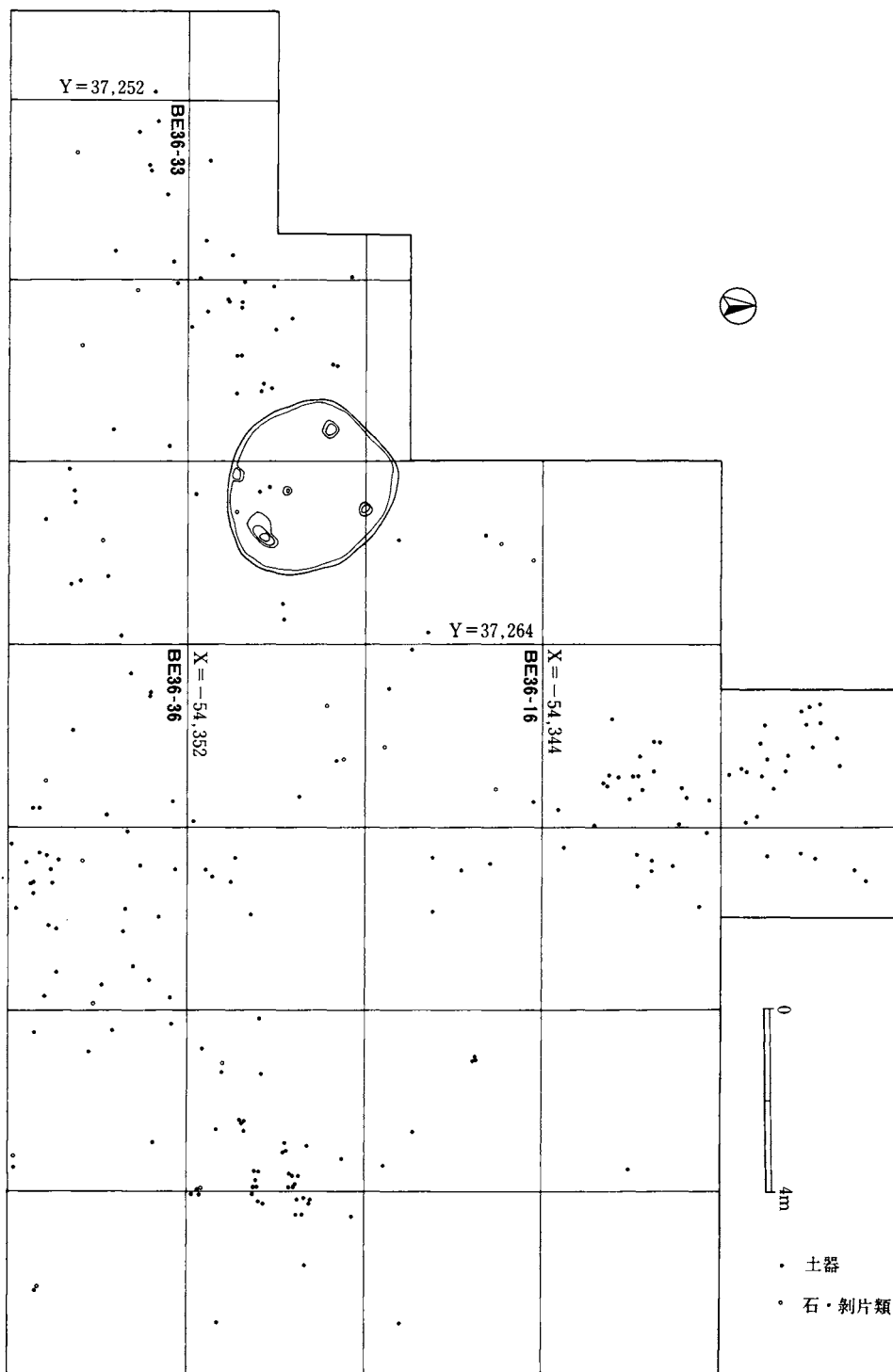
B E 37-13から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸0.71m、短軸0.63mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは15cmある。床面は中央部分が深く周辺へ向かって緩やかに上がり壁はややきつく立ち上がる。覆土は1. ローム粒・ブロック混じりでやや締まりがない暗褐色土。2. ローム粒・ブロック混じりで締まりがある暗褐色土である。小土坑群のうちの1基である。遺物は土器の破片が少量出土している。住居跡と関連のある土坑かもしれない。

009号土坑（遺構 第416図）

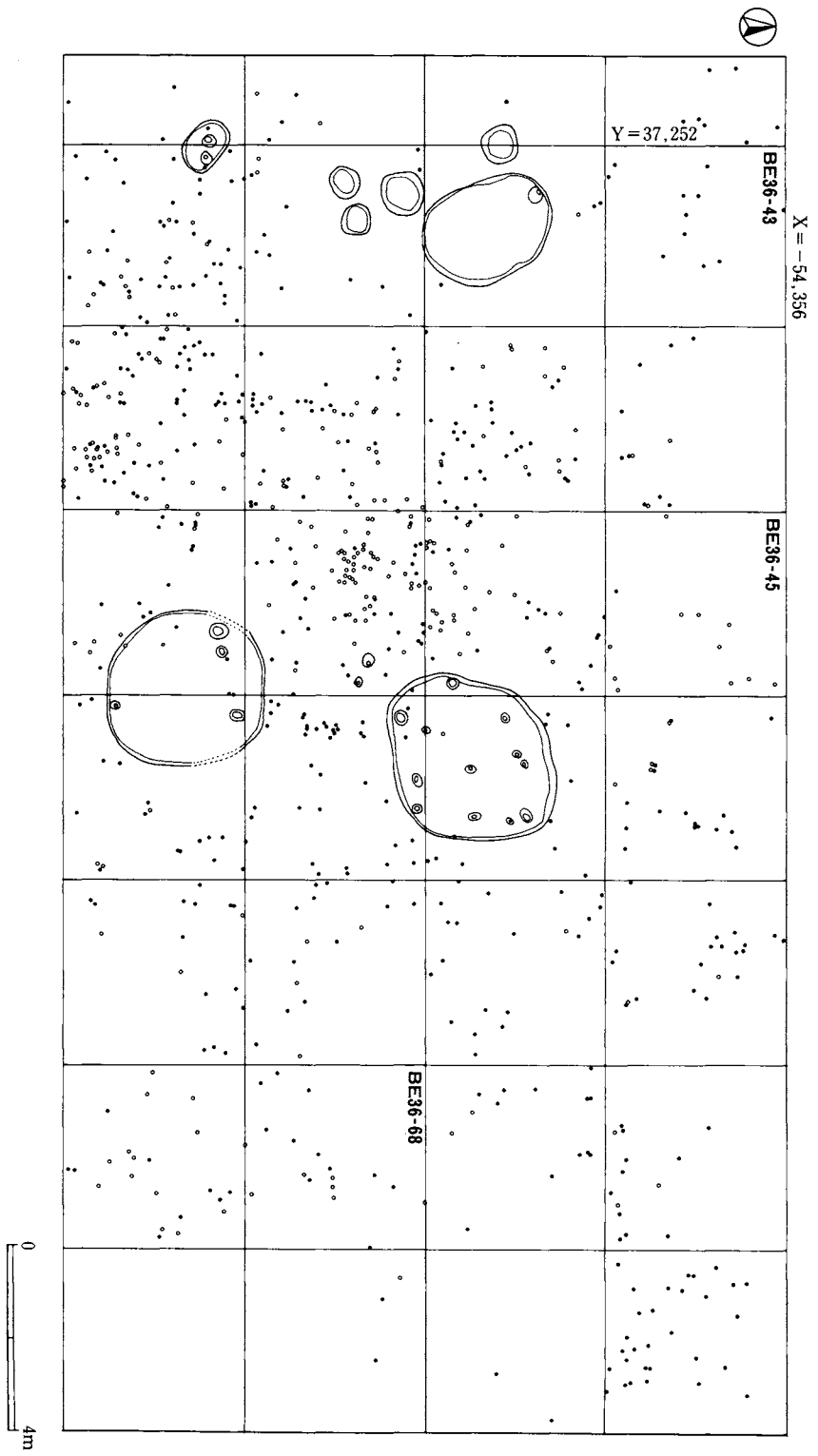
B E 37-13から東へ2 m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸2.97m、短軸2.22mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは14cmある。床面には北壁付近にピットを1個検出している。覆土は1. 若干の攪乱がみられる黒褐色土。2. ソフトロームと暗褐色土が混ざり合い締まりがよい暗褐色土。3. ソフトロームとII C層が混ざり合う暗黄褐色土である。規模等から判断して住居跡にしてもよいかもしれない。いずれにしても簡単な構造しかもちえない。遺物は2点の小破片のみである。

012号土坑（遺構 第416図）

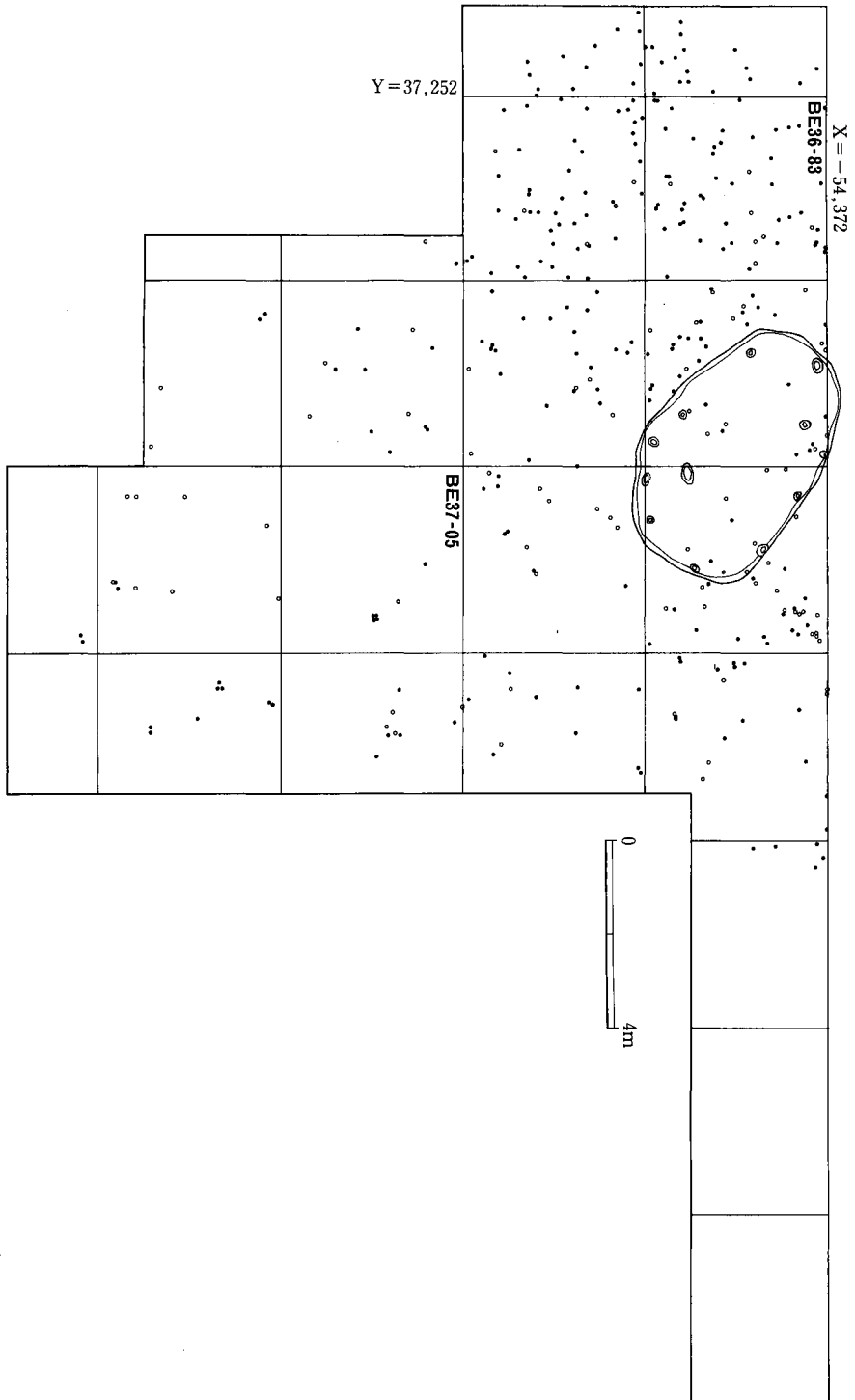
B E 37-23から南へ1 mに位置する。プランは長軸1.21m、短軸0.81mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは15cmある。床面は凹凸があり一部はピット状に窪む。覆土は1. ロ



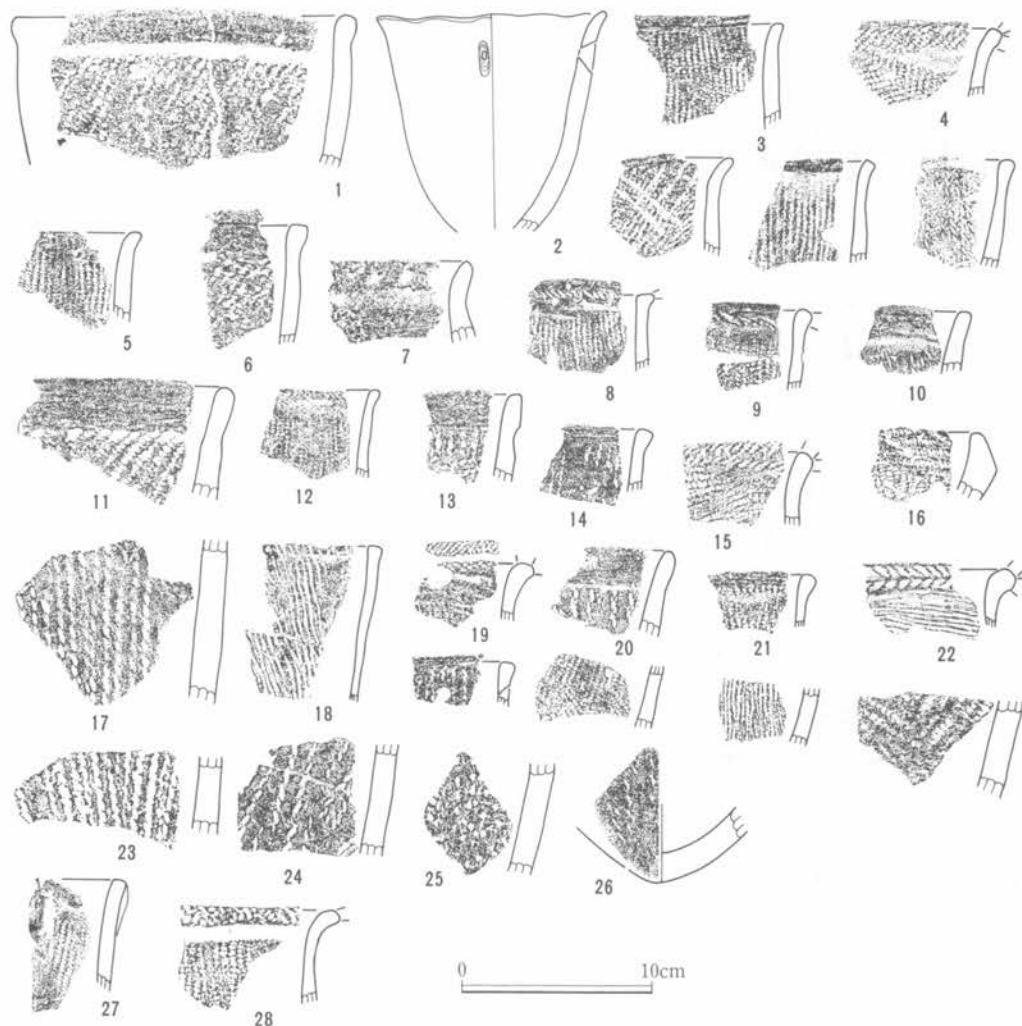
第417図 東大野第3遺跡包含層遺物出土状況(1) (1/160)



第418図 東大野第3遺跡包含層遺物出土状況(2) (1/160)



第419図 東大野第3遺跡包含層遺物出土状況(3)(1/160)



第420図 東大野第3遺跡包含層出土土器(1/4)

ーム粒が少し含み締まりがよい暗褐色土。2. ソフトローム粒混じりで締まりがあり粘性の暗黄褐色土である。遺物がなく小ピット群とやや離れているため関連性については不明である。

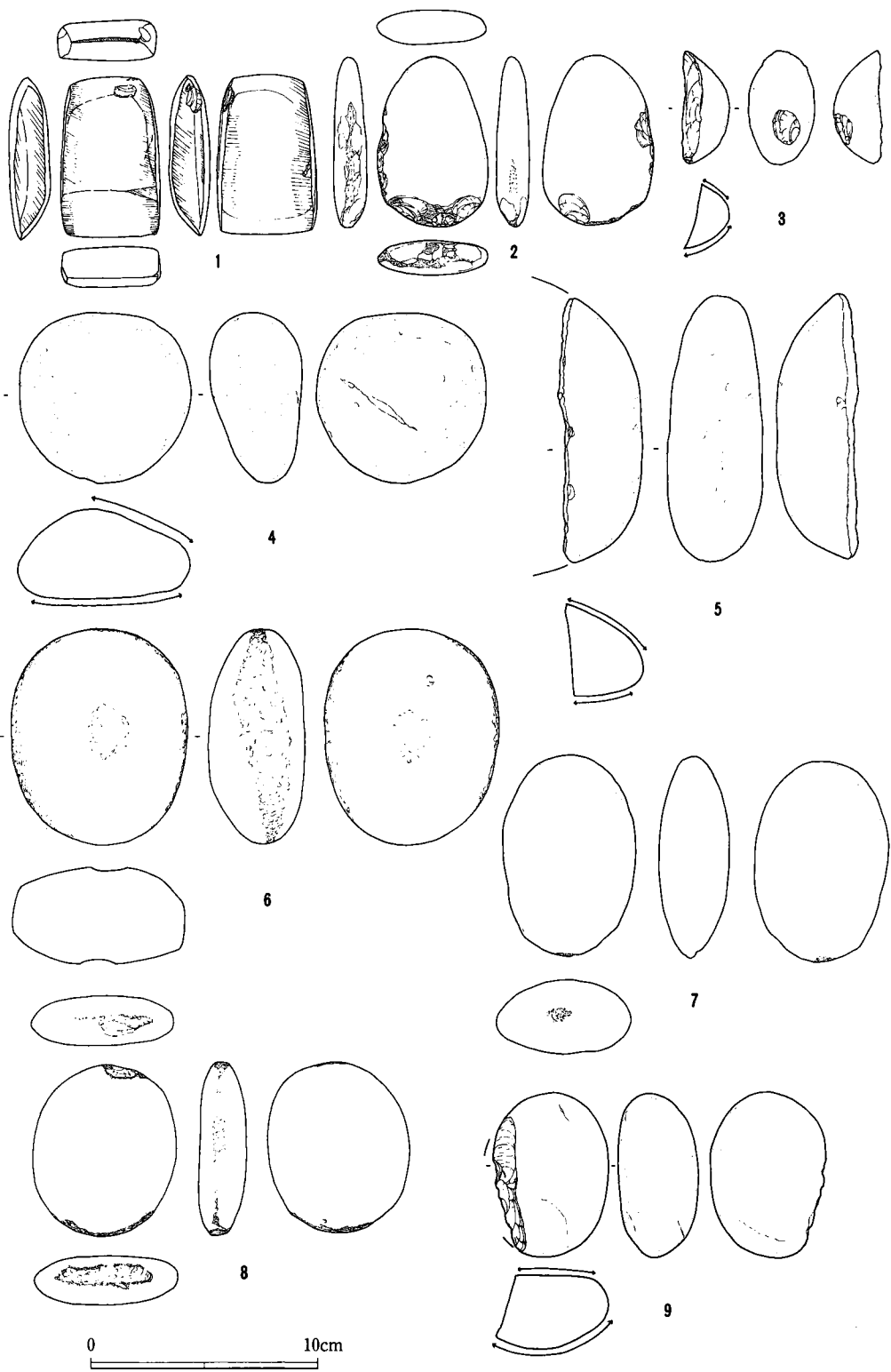
3. 縄文時代の包含層の遺物について

(1) 土器 (第420図1~28)

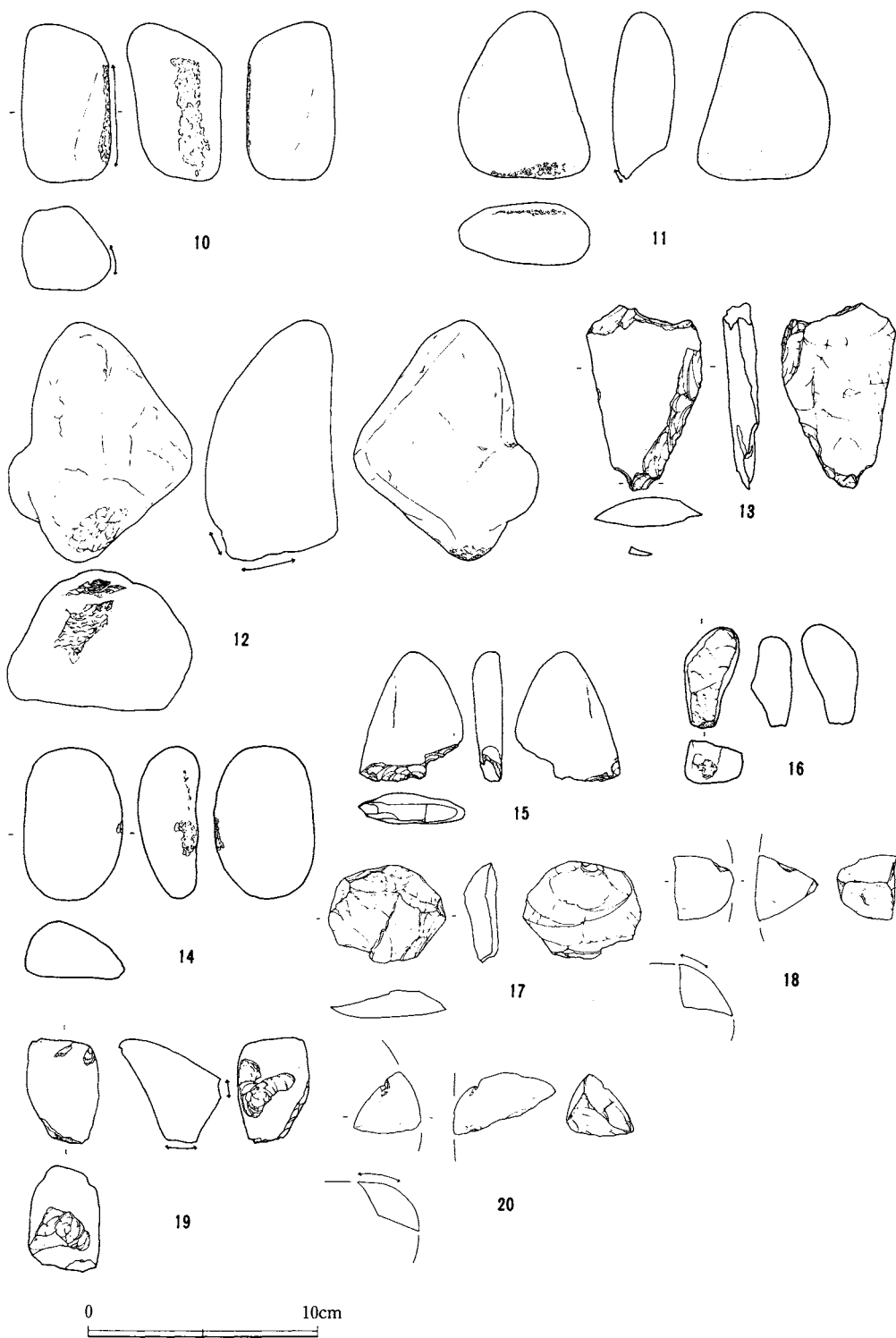
本調査時に包含層から縄文時代早期の土器片を中心に検出されている。2は無文で子母口式土器であろう。他は井草式土器の破片が大半を占める。包含層で土器片が特に集中して捨てられたような形跡はうかがわれない。

(2) 石器・石製品 (第421~424図1~41)

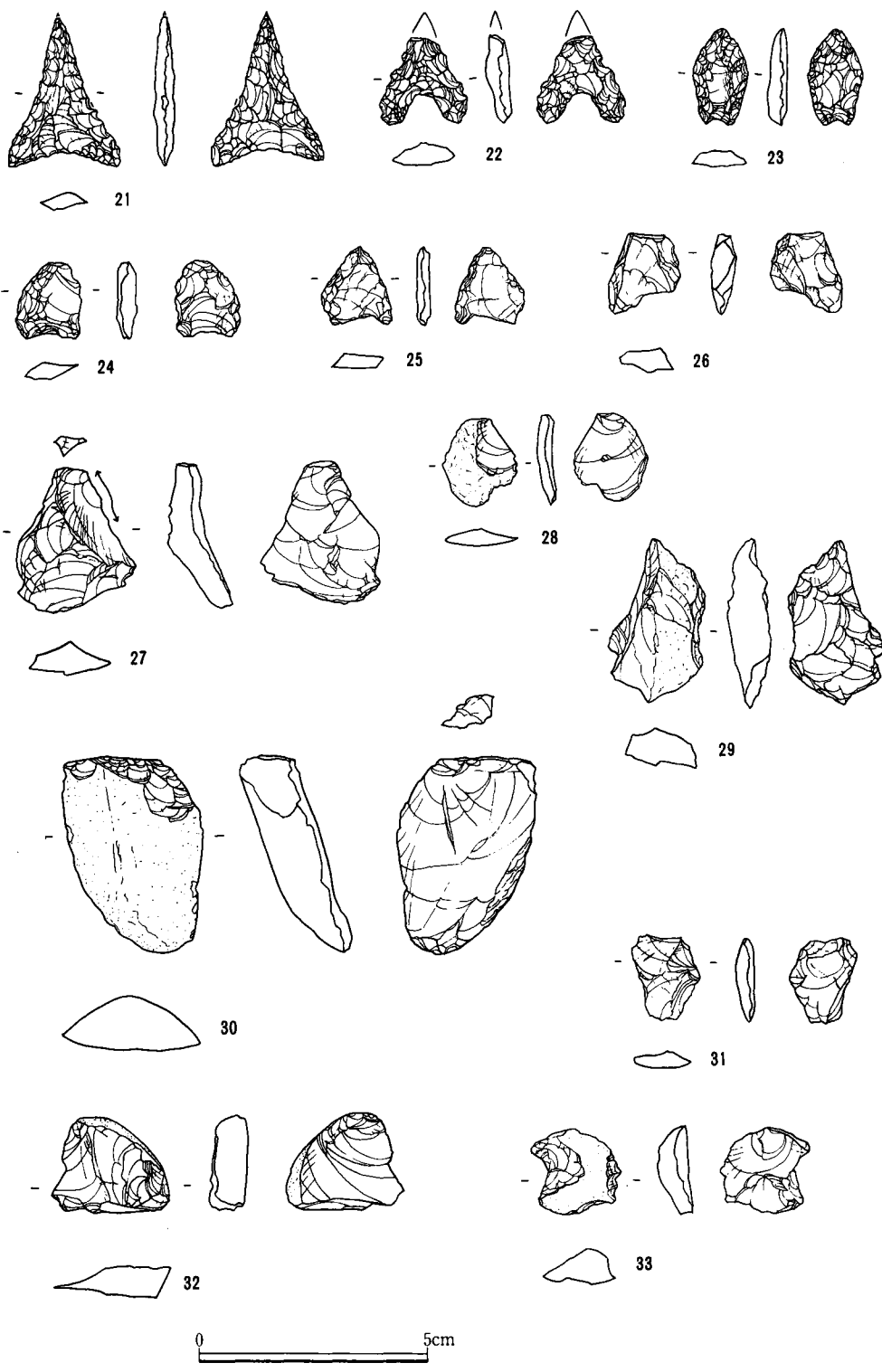
1は磨製石斧である。全面をきれいに研磨して仕上げている。2は扁平の楕円礫の刃部と側辺



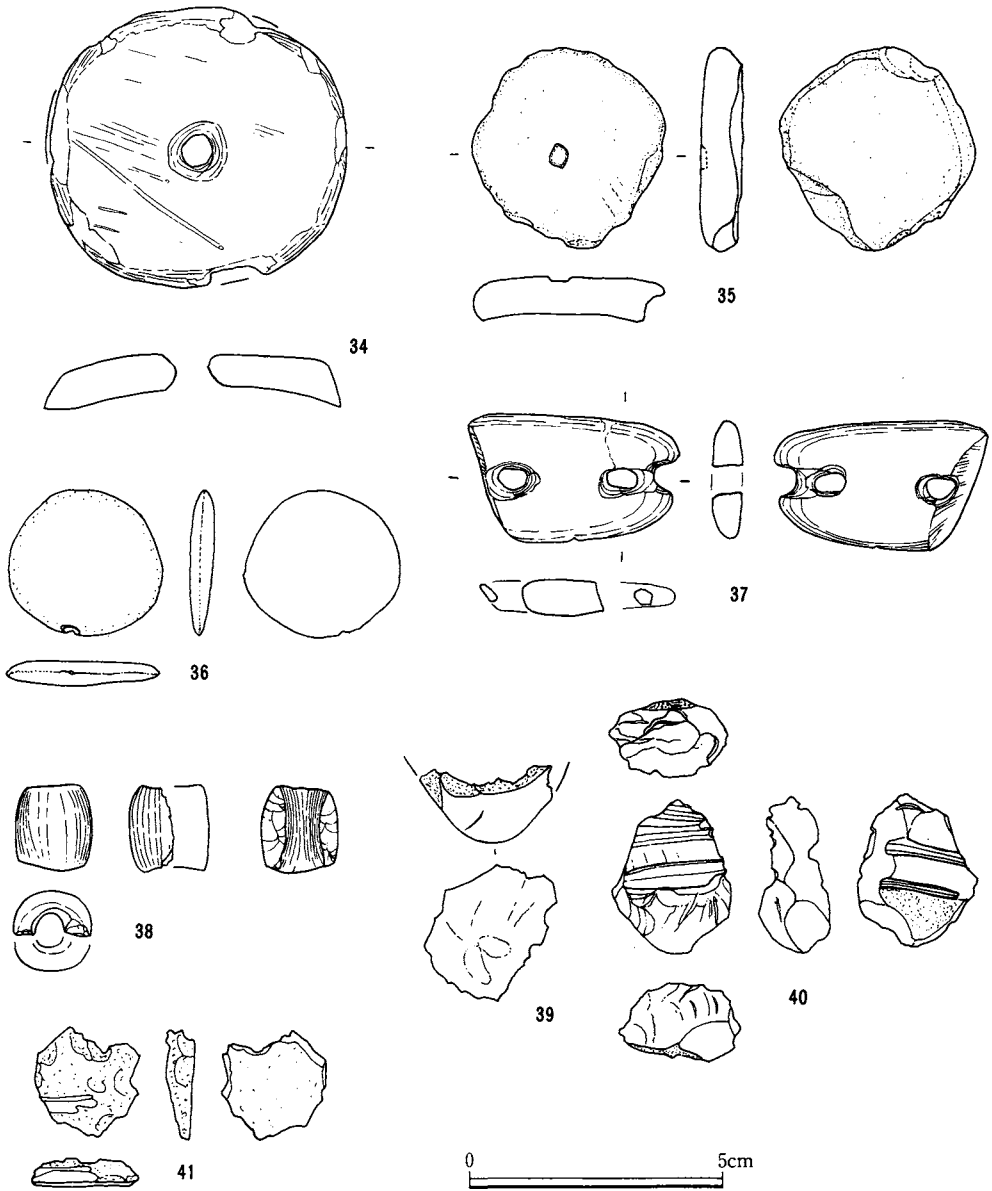
第421図 東大野第3遺跡包含層出土石器(1) (1/3)



第422図 東大野第3遺跡包含層出土石器(2) (1/3)



第423図 東大野第3遺跡包含層出土石器(3)(2/3)



第424図 東大野第3遺跡包含層出土遺物(2/3)

を調整して仕上げてある打製石斧である。3は円礫の一部打痕のみられる敲き石である。4は円礫の両面に打痕のある敲き石である。5は楕円礫の両面に打痕のみられる敲き石である。6は円礫の両面に打痕がみられる凹石である。7は楕円礫の先端に打痕のある敲き石である。8は楕円礫の両端に打痕がみられる敲き石である。9は楕円礫のほぼ全面に打痕がみられる敲き石である。10はやや角礫の側辺部に打痕のみられる敲き石である。11は礫の先端部に打痕が見られる敲き石である。12は大きな礫の先端部に打痕のみられる敲き石である。13は大きな剥片を使用したドリルである。14は楕円礫を使用した敲き石である。15～20は小円礫を使用した敲き石片である。21～23は石鏃である。24～26は石鏃未製品である。27～33は剥片である。34は土器片円板である。周辺部を磨いてある。35は穿孔されてはいないが周辺は磨かれてるので土器片円板の未製品であろう。36は石製円板になると思われる。周辺部を磨いてある。37は軟玉製の垂飾品で穴が2個みられる。38は蛇紋岩製の管玉の半欠品である。39は手づくね土器の底部である。40は表裏に竹管による沈線がみられる土製品である。あるいは土偶のようなものかもしれない。41は土器でなく土そのものが焼けたものか。

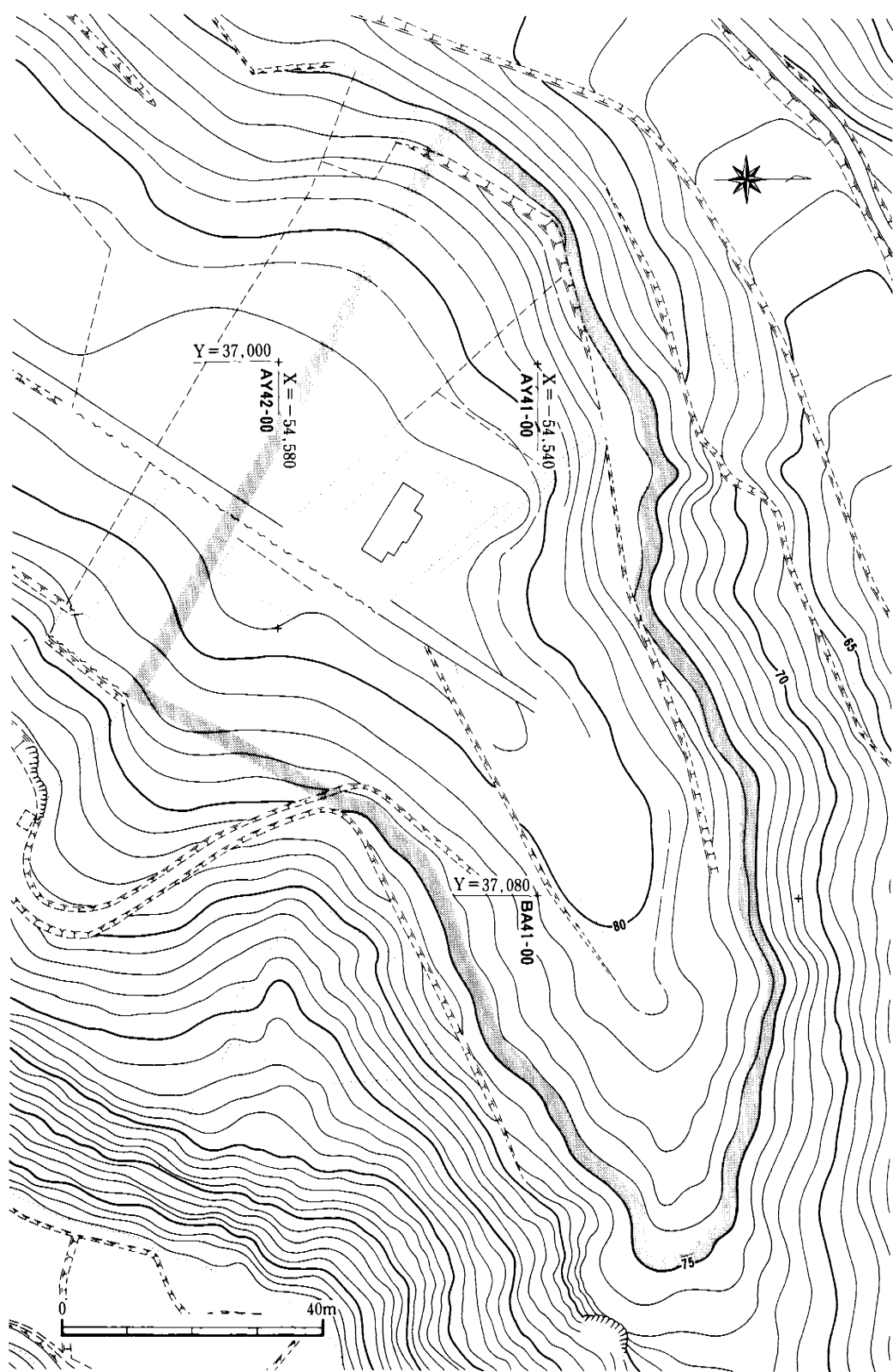
4. 小結

縄文時代早期(井草)の住居跡が4軒と土坑のほか同時期の包含層が検出された。また垂飾品等が発見されたことは非常に注目される。ただ包含層の土器片と礫の集中は局地的に見られず全体に散漫な状態で分布していた。垂飾品と管玉は約50cmくらいしか離れておらずしかも住居跡の部分からかなりはずれた位置から出土しており、墓のようなものが存在していた可能性もあるが、調査時には確認できなかった。

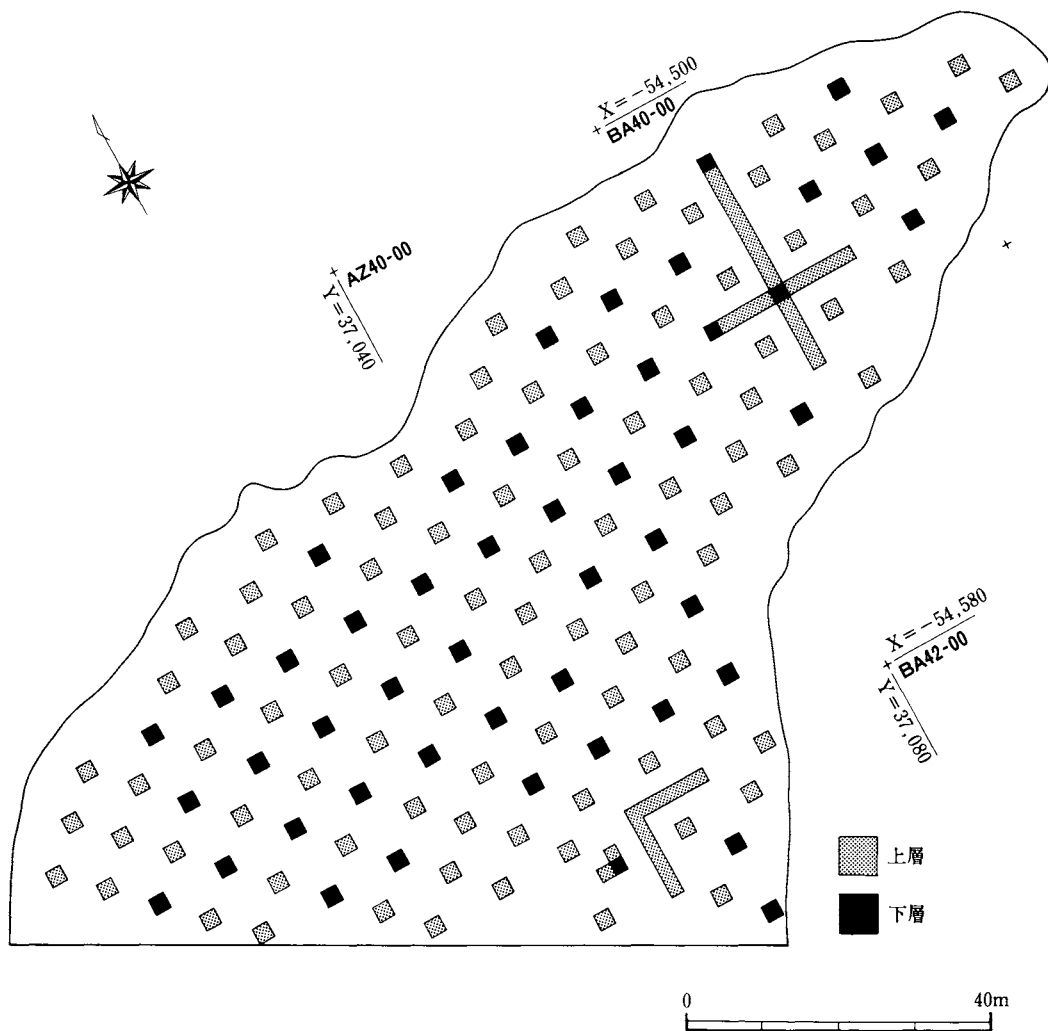
第 18 章
南 大 野 第 4 遺 跡

遺跡コード 201-091

調査担当者 西口 徹



第425図 南大野第4遺跡遺跡範囲(1/1000)



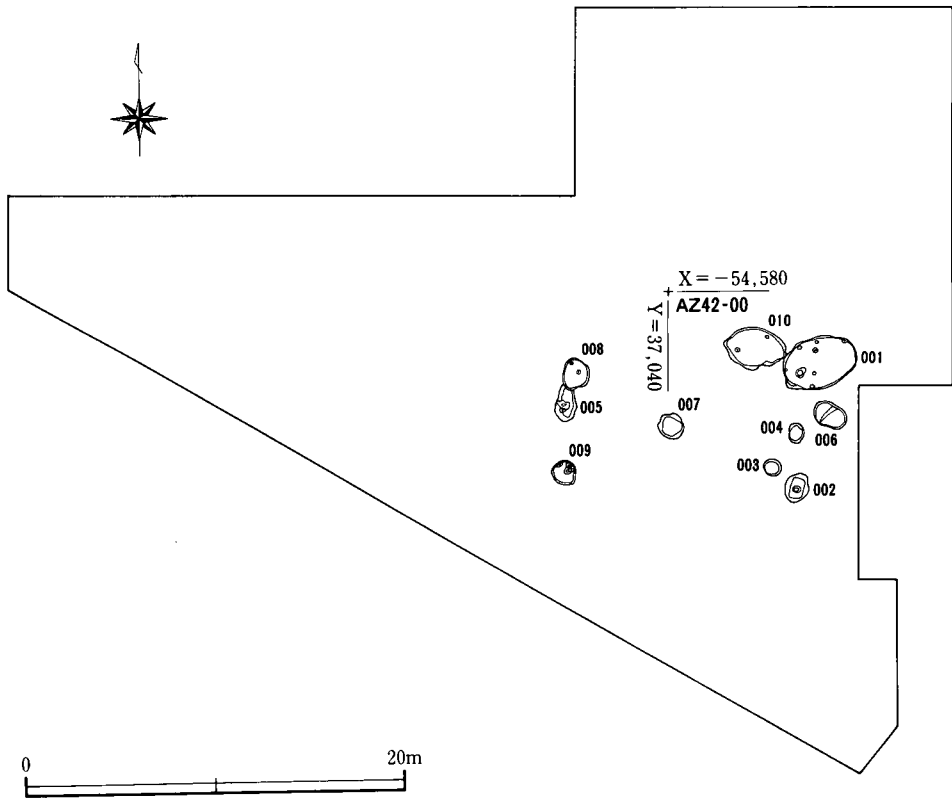
第426図 南大野第4遺跡確認調査グリッド配置図(1/1000)

第1節 縄文時代

1. 概要

南大野第4遺跡では上層の確認調査をおこなった際に縄文時代早期(稲荷台)の遺物の包含層と遺構が検出され、1,125㎡の本調査を実施した。その結果、縄文時代早期の住居跡2軒、縄文時代土坑8基が検出された。また本調査発掘区内を中心に縄文時代早期(稲荷台期)の遺物が多数検出された。

2. 縄文時代の遺構・遺物について



第427図 南大野第4遺跡本調査範囲及び遺構配置図(1/400)

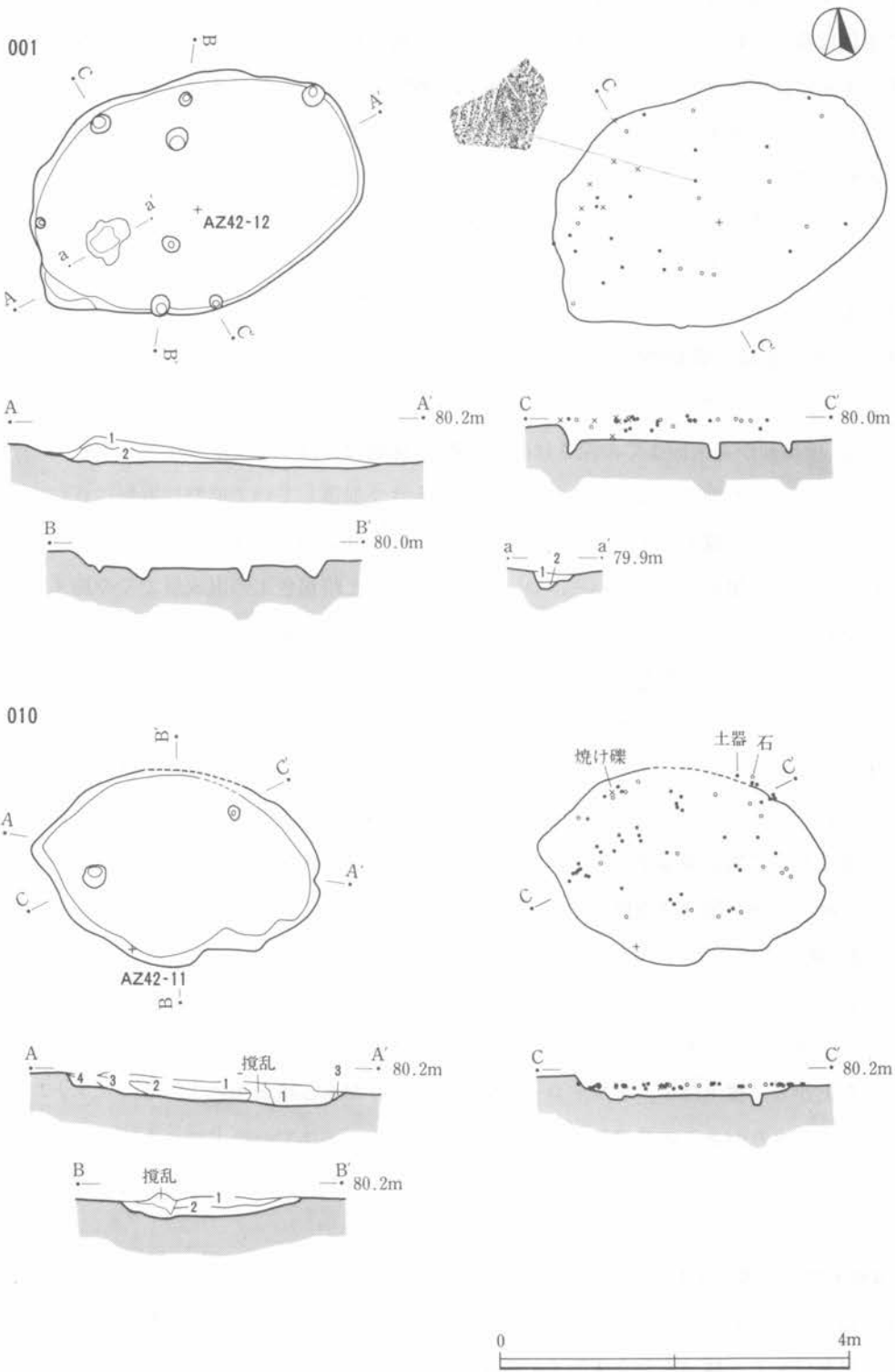
(1) 住居跡

001号住居跡 (遺構 第428図)

A Z 42-12に位置する。プランは長軸3.96m、短軸2.64mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは18cmある。ピットは柱穴らしい小ピットが壁際に並んで検出されている。またその他に中央に2個並んで検出されている。ピットの深さはいずれも10cm前後で比較的浅い。炉は西側で検出されている。床面は炉が検出された周辺部ではやや硬いが全体にはそれほど硬化していない。覆土は1. ハードローム小ブロックを若干含み焼土粒を多く含み粘性に富む暗黄褐色土。2. ソフトロームと暗褐色土が混ざりややボソボソの暗褐色土。1'. 1と同じで木の根の攪乱を受けている部分である。炉の覆土は1. 焼土粒を多く含み締まりがない暗褐色土。2. 焼土粒・ブロックと炭化粒を多く含みソフトロームブロックを含みやや締まりある暗褐色土である。炉は長期にわたって使用されたとは思えない。遺物は焼礫片と礫片が北側から、土器片が南側から出土している。いずれも小破片が多い。縄文時代早期の住居跡である。

010号住居跡 (遺構 第428図)

ほぼA Z 42-11に位置する。プランは長軸3.32m、短軸2.22mのややラグビーボールに近い楕



第428图 南大野第4遺跡 001・010号住居跡(1/80)

円形を呈する。検出面から床面までの掘り込みは20cmある。ピットは柱穴らしいものが東西壁際に1個は検出されたが、いずれも規模は小さい。覆土中からは礫片や土器片が多数出土している。床面は比較的硬いが特に硬化している面は観察できなかった。また床面を精査したにもかかわらず炉等は検出できなかった。覆土は1. 粘性がありやや締めりがなく暗黄褐色土。2. ローム粒・焼土粒を少し含み締めり粘性ともややない暗褐色土。3. ローム粒・ローム小ブロックが混ざり締めり粘性ともややある暗黄褐色土。4. ローム粒・ローム小ブロック混じりで締めり粘性ともややある暗褐色土である。縄文時代早期の住居跡である。

(2) 土坑

002号土坑 (遺構 第429図)

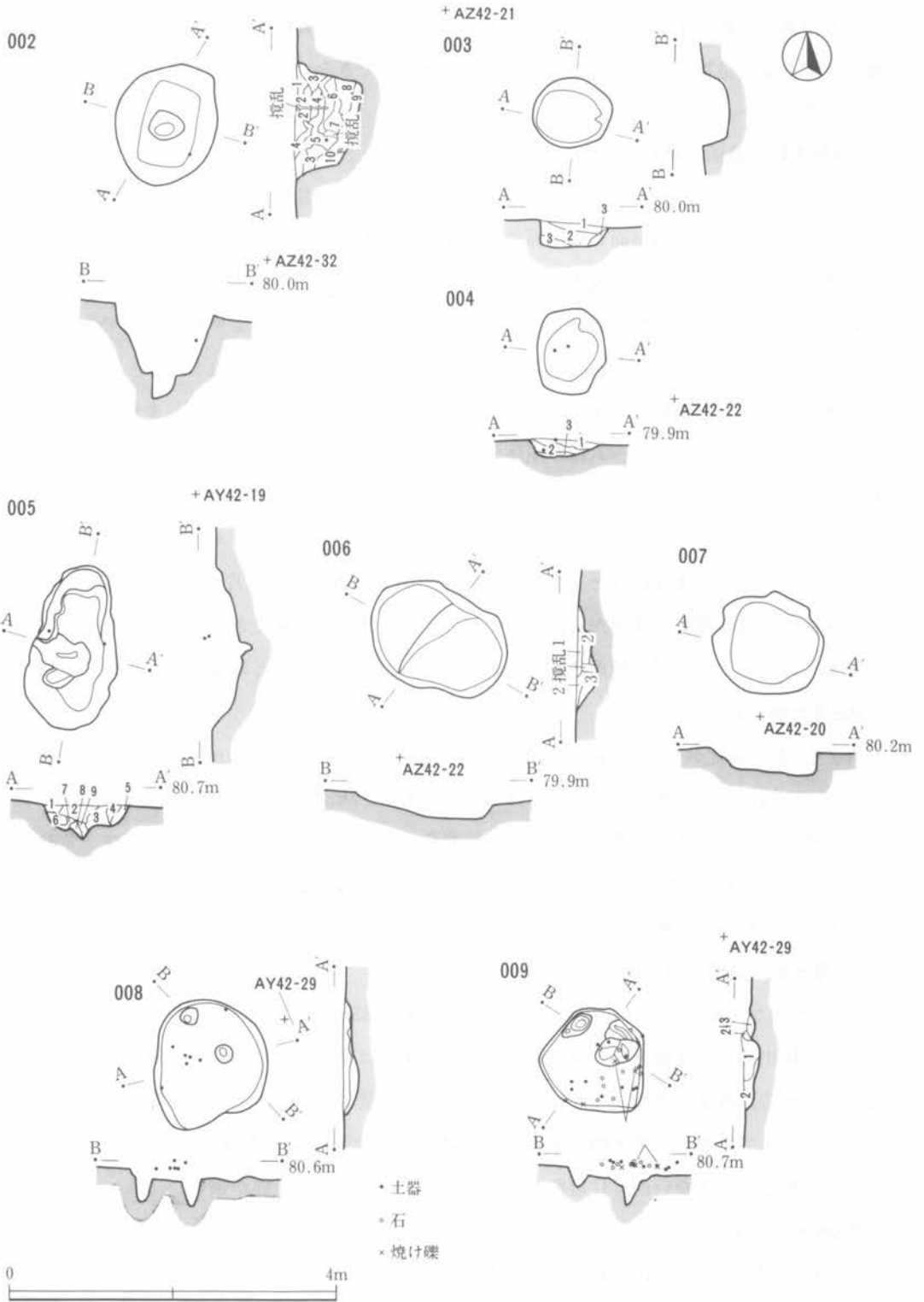
A Z 42-32から西へ1.5m、北へ1.5mに位置する。プランは長軸1.54m、短軸1.22mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは0.84mある。床面はほぼフラットで中央に1個ピットが検出された。ピットの深さは28cmある。壁はやや大きく崩落していて原型は方形に近いのではないと思われる。覆土は1. ローム粒を少し含みしまりがあり粘性はない黒褐色土。2. 締めり粘性ともない黒色土。3. ハードローム小ブロックと暗褐色土の混成層でやや締めりがなく暗黄褐色土。4. ソフトローム粒が少し混ざりやや締めりがある褐色土。4'. 4よりやや腐植化した部分。5. やや茶色味がかかった褐色土。6. ややしまりのある黒色土。7. しまりがある褐色土。8. ソフトロームと若干のハードロームが混ざりしまりがあり粘性はややない黒褐色土。9. ソフトロームとハードローム小ブロックの混成層でしまりがなく粘性がある暗黄褐色土。10. ハードロームブロックとソフトローム粒の混成層でやしまりがある暗黄色土である。覆土から遺物が少量出土しているところから、縄文時代早期よりやや新しい時期に使用された可能性の強い陥穴状遺構である。遺物はない。

003号土坑 (遺構 第429図)

A Z 42-21から東へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸0.93m、短軸0.86mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは31cmある。床面はほぼフラットで壁はやや北側が緩やかに立ち上がる。覆土は1. ソフトロームを含みしまりがある暗黄褐色土。2. ソフトロームを多く含みしまりがある暗黄褐色土。3. ソフトロームが主体でハードロームブロックを含みしまりがある黄褐色土である。遺物がなく断定はできないが住居跡と関係の深い土坑である可能性が高い。

004号土坑 (遺構 第429図)

A Z 42-22から西へ1.5m、北へ0.5mに位置する。プランは長軸1.01m、短軸0.86mの楕円形に近い形を呈する。検出面から床面までの深さは20cmある。床面はほぼフラットで壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は1. しまりがあり粘性が強い黒褐色土。2. ソフトローム粒が混ざり



第429図 南大野第4遺跡縄文時代土坑(1/80)

しまりがある暗褐色土。3. ソフトロームが主体で若干の暗褐色土が混ざりしまりがある暗黄褐色土である。遺物は土器片が2点しかない。断定はできないが住居跡と関係の深い土坑である可能性が高い。

005号土坑 (遺構 第429図)

A Y 42-19から南へ2 m、西へ1.5mに位置する。プランは長軸1.98m、短軸1.10mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは最大48cmある。床面はやや凹凸がみられ特に中央部は一段と深くなる。覆土は1. ハードローム小ブロック混じりでしまり粘性ともある暗黄褐色土。2. ソフトローム粒とハードローム粒が多く混ざりしまり粘性ともややない黒色土。3. 焼土粒とソフトローム粒が多く混ざりしまり粘性ともある黒色土。4. ソフトローム粒が多く混ざりしまり粘性がある黒褐色土。5. ソフトローム粒が主体でしまり粘性がややない暗黄色土。6. ソフトローム粒が主体でしまり粘性がややない暗黄色土。7. ソフトローム粒とハードローム小ブロックの混成層でしまり粘性ともややない黒褐色土。8. ハードローム小ブロック混じりでしまり粘性ともある暗黄褐色土。9. ソフトローム粒とハードローム小ブロックの混成層でしまり粘性ともない暗褐色土である。遺物は土器片が2点出土したのみである。床面の形状や覆土の状況からは他の土坑のように性格は判断できないが焼土粒の多い部分が認められた。この場所で使用されたものではないが、住居跡等との関連性もうかがわれる。

006号土坑 (遺構 第429図)

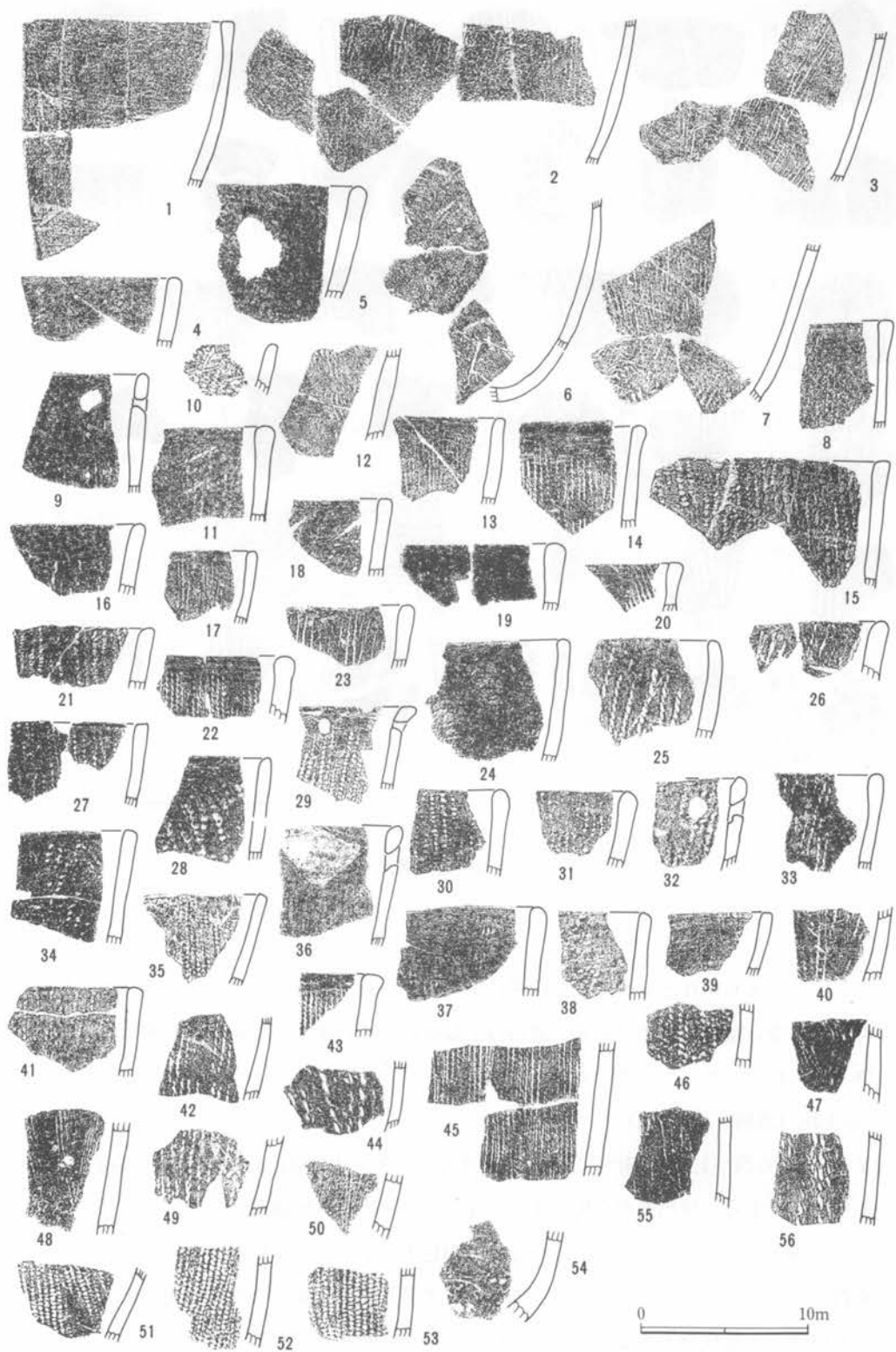
A Z 42-22から北へ1.5m、東へ0.5mに位置する。プランは長軸1.74m、短軸1.24mの楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは最大30cmある。床面は徐々に東南方向へ低く傾斜している。覆土は1. しまり粘性ともややない暗褐色土。2. ローム粒とローム小ブロックの混成層でしまりがややない暗褐色土。3. ソフトローム粒を含みしまり粘性ともややない暗黄褐色土である。遺物がなく断定はできないが、住居跡と関係の深い土坑である可能性が高い。

007号土坑 (遺構 第429図)

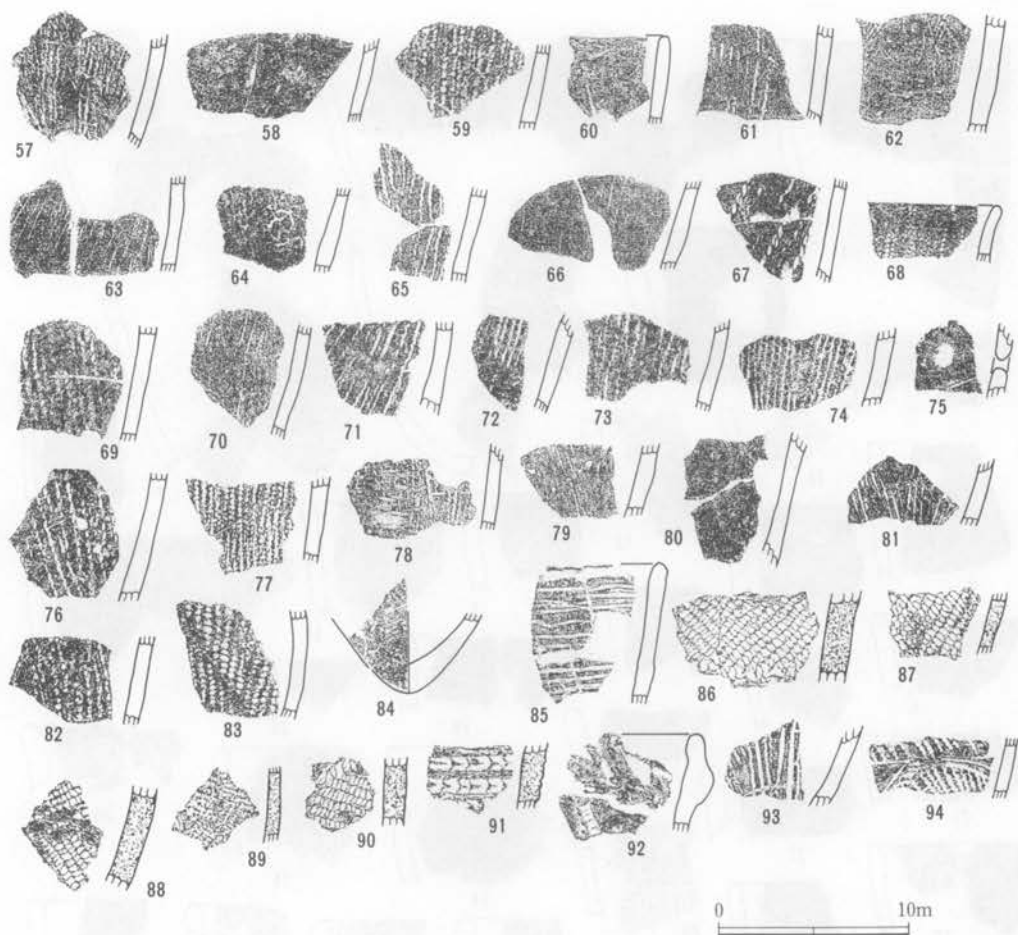
A Z 42-20から北へ1 mに位置する。プランは長軸1.35m、短軸1.18mのやや不整な楕円形を呈する。検出面から床面までの深さは26cmある。床面は東壁付近が最も深く西壁付近にかけて徐々に上がる。西壁はやや緩やかに立ち上がる。他の壁はややきつく立ち上がる。覆土はセクションを測っていないので不明であるがおおよそ003号と同じような覆土になると思われる。遺物がなく断定はできないが、住居跡と関係の深い土坑である可能性が高い。

008号土坑 (遺構 第429図)

A Y 42-19から西へ0.5m、南へ0.5mに位置する。プランは長軸1.56m、短軸1.45mの楕円形に近い形を呈する。検出面から床面までの深さは16cmある。床面には北壁付近と中央やや東よりにピットを2個検出している。床面はやや凹凸がみられる。覆土は1. ハードローム小ブ



第430図 南大野第4遺跡包含層出土土器(1) (1/4)



第431図 南大野第4遺跡包含層出土土器(2)(1/4)

ック混じりでしまり粘性ともややない暗褐色土。2. ハード小ロームブロック多く混じりでしまり粘性ともない暗黄褐色土である。遺物は土器破片が6点出土している。時期は縄文時代早期以降と思われるが性格は不明である。

009号土坑（遺構 第429図）

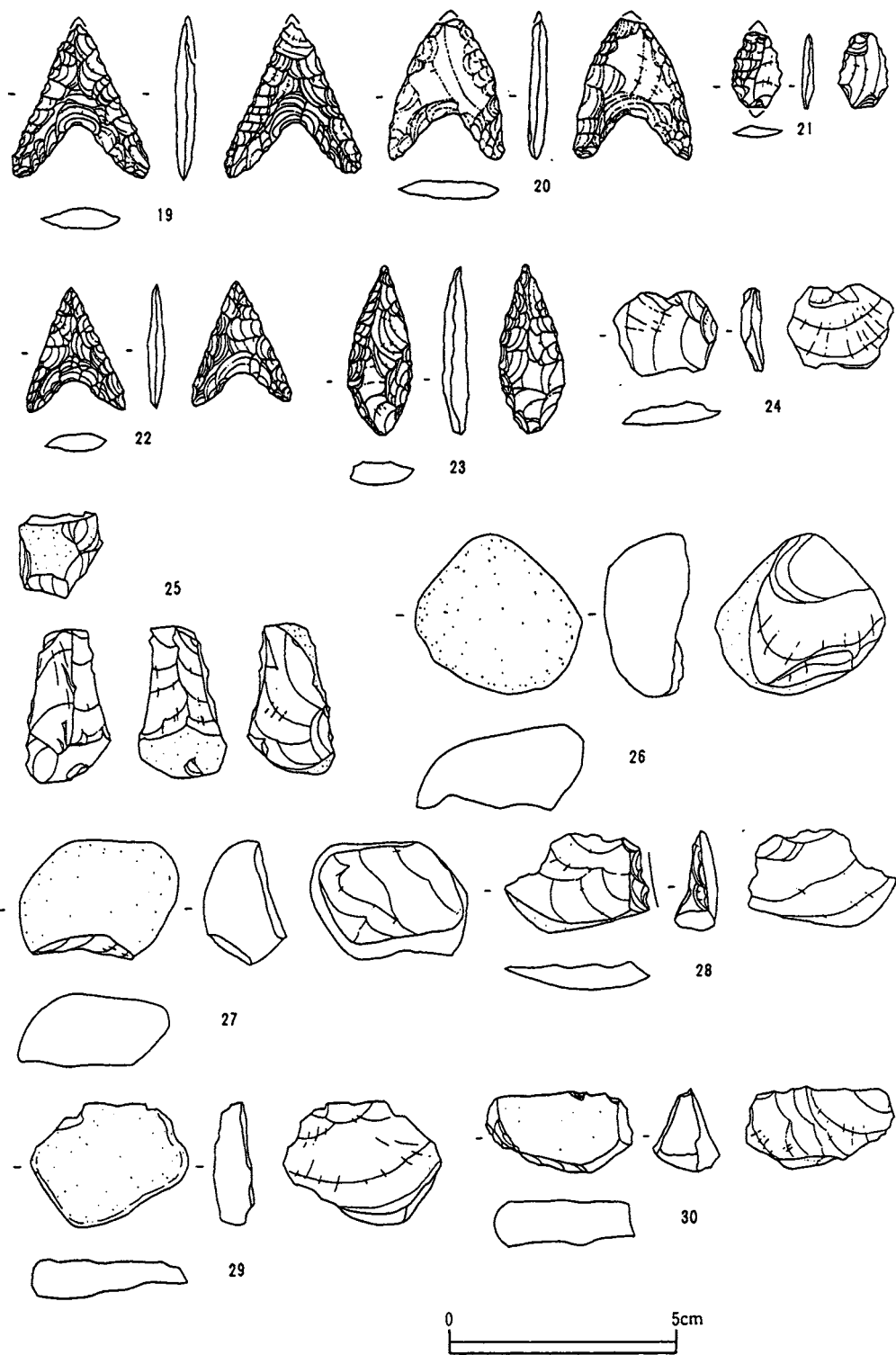
A Y42-29から西へ1.5m、南へ1.5mに位置する。プランは長軸1.32m、短軸1.23mの楕円に近い不整形を呈する。検出面から床面までの深さは5cmある。床面は凹凸があり一部はピット状に窪む。覆土は1. しまり粘性がややない刻褐色土。2. ローム粒混じりでしまり粘性のない暗褐色土。3. ローム粒とハードロームブロック混じりでしまりのない暗褐色土である。覆土中より焼礫と土器片が出土しているが遺構の性格を判断することはできない。

3. 縄文時代の包含層の遺物について

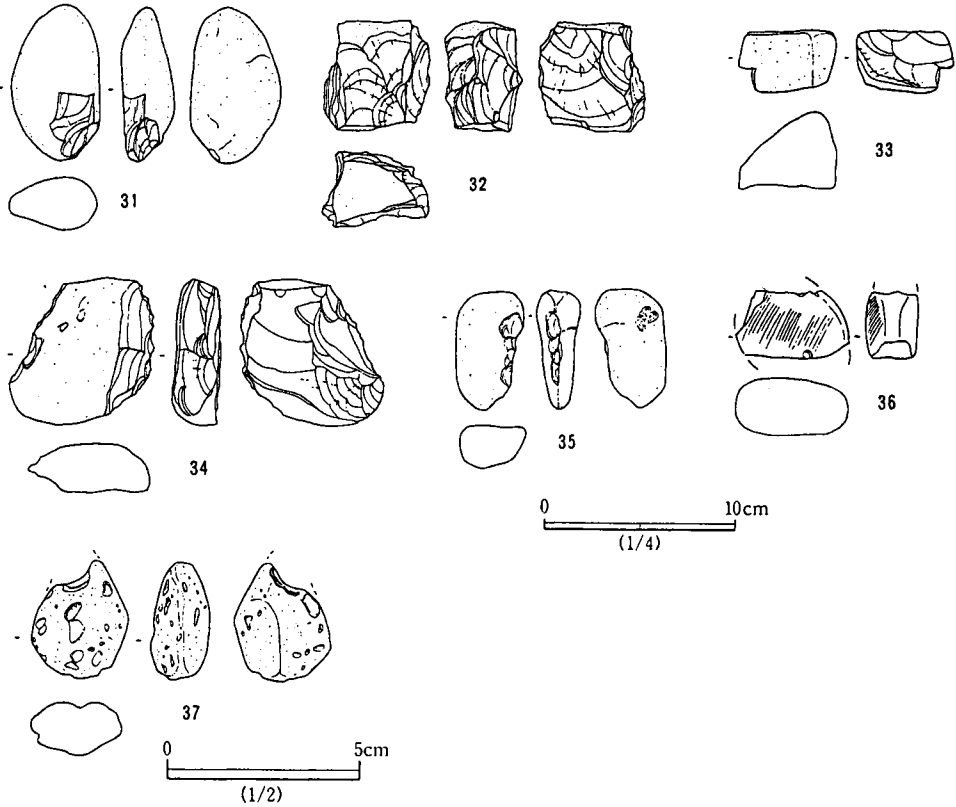
(1) 土器（第430・431図1～94）



第432図 南大野第4遺跡包含層出土石器(1)(1/4)



第433图 南大野第4遺跡包含層出土石器(2)(2/3)



第434図 南大野第4遺跡包含層出土石器(3)

本調査時に包含層からは縄文時代早期の土器片を中心に発見されている。特に稲荷台系の土器片が量的に多くみられる。1～84は早期の土器片である。口縁部から胴部の破片が多い。口唇部のやや膨らむタイプとややフラットに立ち上がるタイプに分けられる。LRのものRLのものや無節のもの等いろいろのバリエーションがみられる。85～91は前期の土器群である。浮島と黒浜の土器片である。量的には非常に少ない。92は中期の勝坂系の土器片で他にはみられなかった。93は後期の土器群である。おそらく加曾利B式の土器片である。これもほとんど他にはみられなかった。

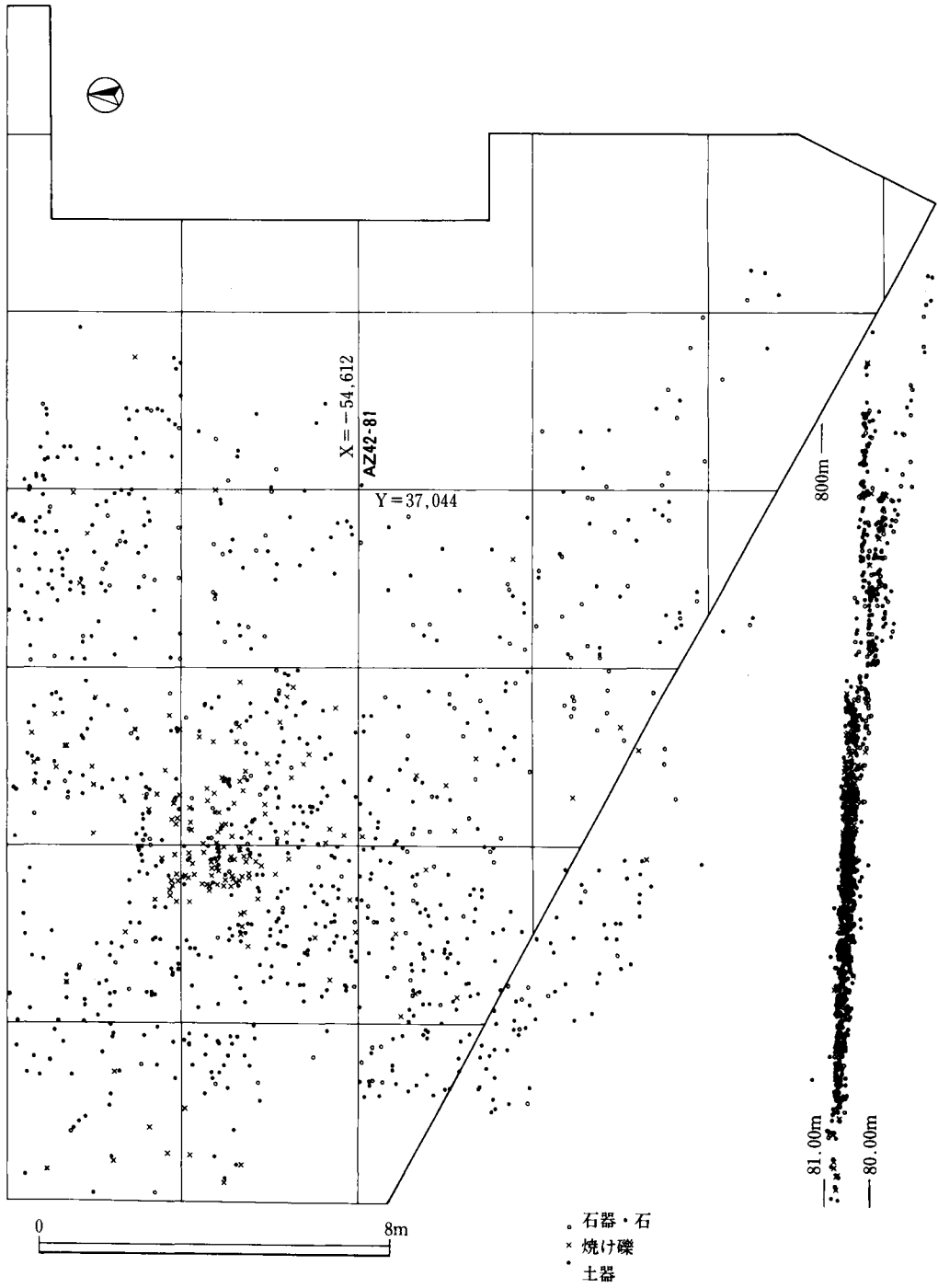
(2) 石器・石製品 (第432～434図1～37)

1は刃部と側辺部に磨きのある磨製石斧である。やや離れた位置で接合している。2は偏平の楕円礫の側辺部をやや調整した後に両面に磨きをかけた磨製石斧である。3は楕円礫の片側に調整を施し刃部の片側に磨きを入れている磨製石斧である。4も同様な磨製石斧である。5は厚めの礫にやや大きめの剥離を施してある打石斧の刃部破片である。6は厚みのある長楕円形の礫を使って刃部のみ調整した打製石斧である。半分欠けている。7～10は打製石斧片である。11は小礫の上下に打痕がみられる楔形石器である。12～18は円礫の一部に打痕のある叩き

石である。19・20・22は凹基の石鏃である。21と23は尖頭器である。24は剥片である。25～27は石核である。28はR・フレイクである。29・30は剥片である。31は叩き石である。32～34は石核である。35はR・フレイクである。36は磨石片である。37は軽石製の石製品である。用途は不明である。

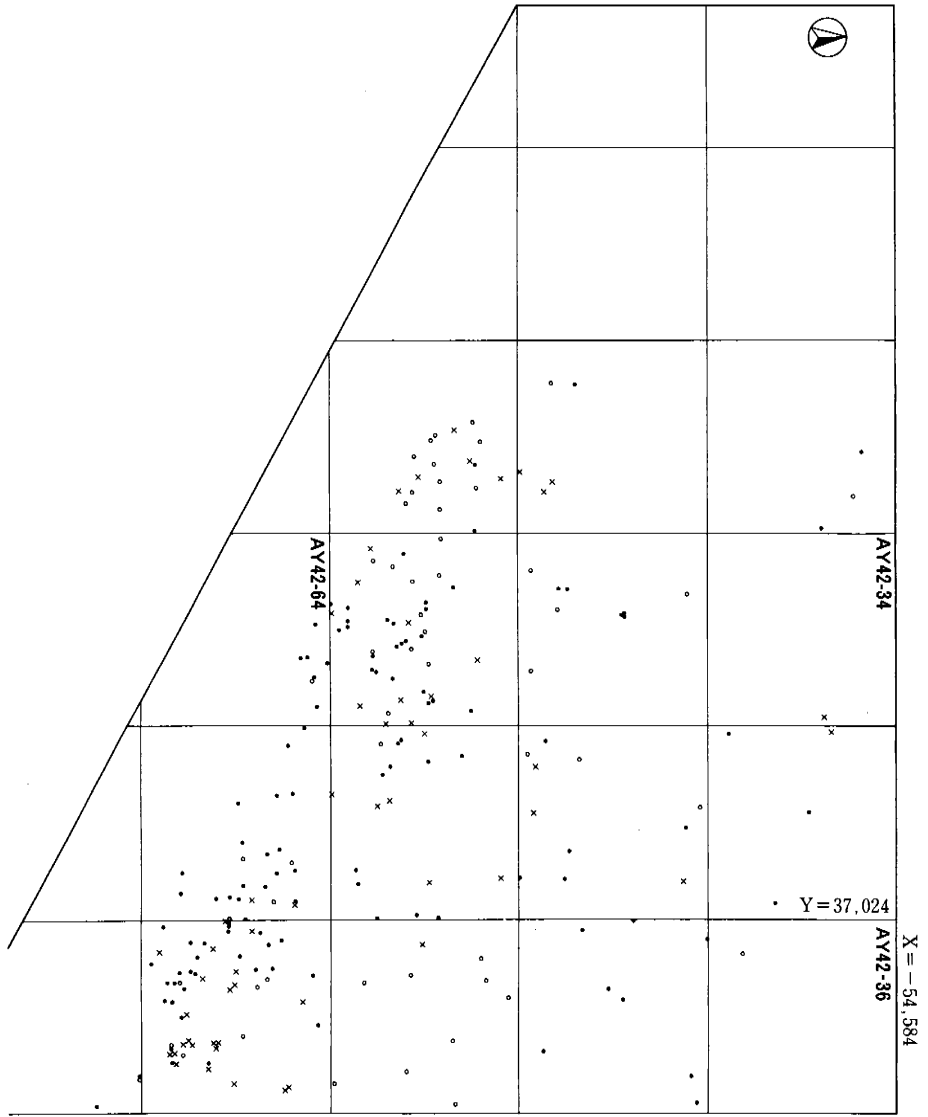
4. 小結

縄文時代早期（稻荷台期）の包含層のほか住居跡2軒と土坑だけであり、遺構数はさほど多くない。包含層は東大野第3遺跡のよりやや時期は新しくなるものの興味をひく遺跡であることには違いない。明らかに焼土を伴う礫群が北側で環状に巡っており、石器などは比較的密度の低い中程から検出されている。南側の土器片が多い部分で住居跡が検出されており、作業場と居住空間の使い分けをしている可能性がある。



第435図 南大野第4遺跡包含層遺物出土状況(1) (1/160)

81.00m —
80.00m —

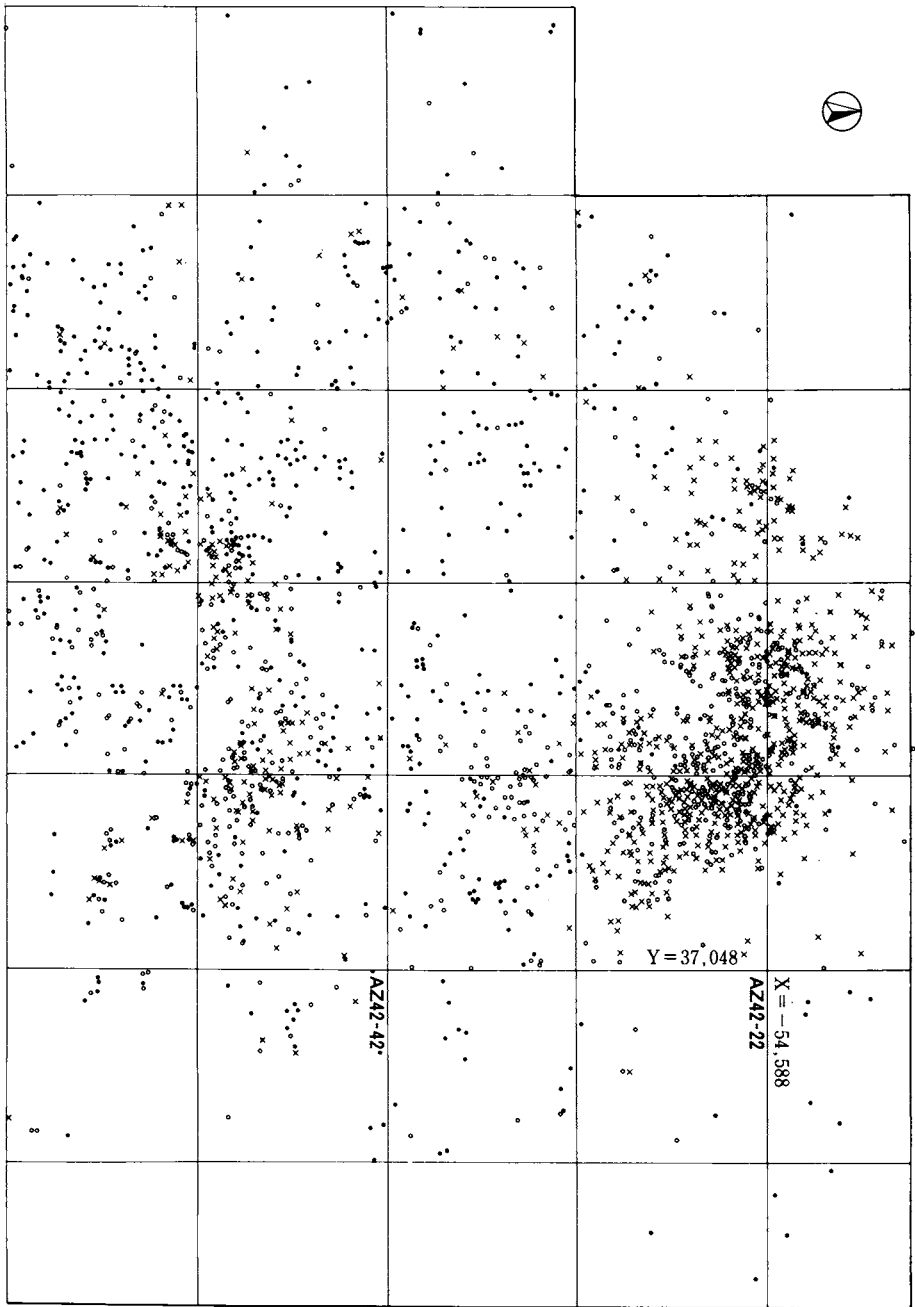


- 石器・石
- × 焼け礫
- 土器



第436図 南大野第4遺跡包含層遺物出土状況(2) (1/160)

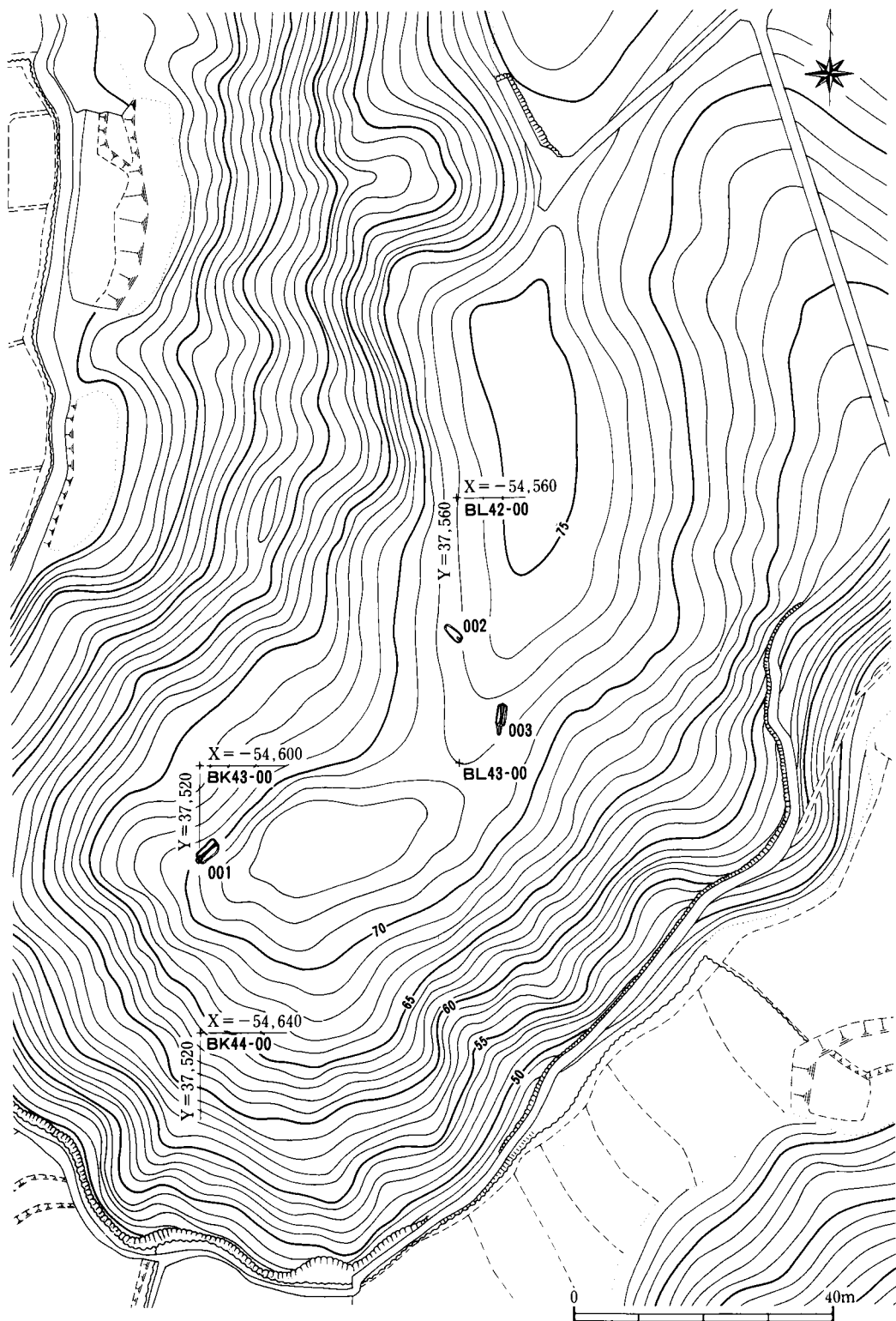
81.00m
80.00m



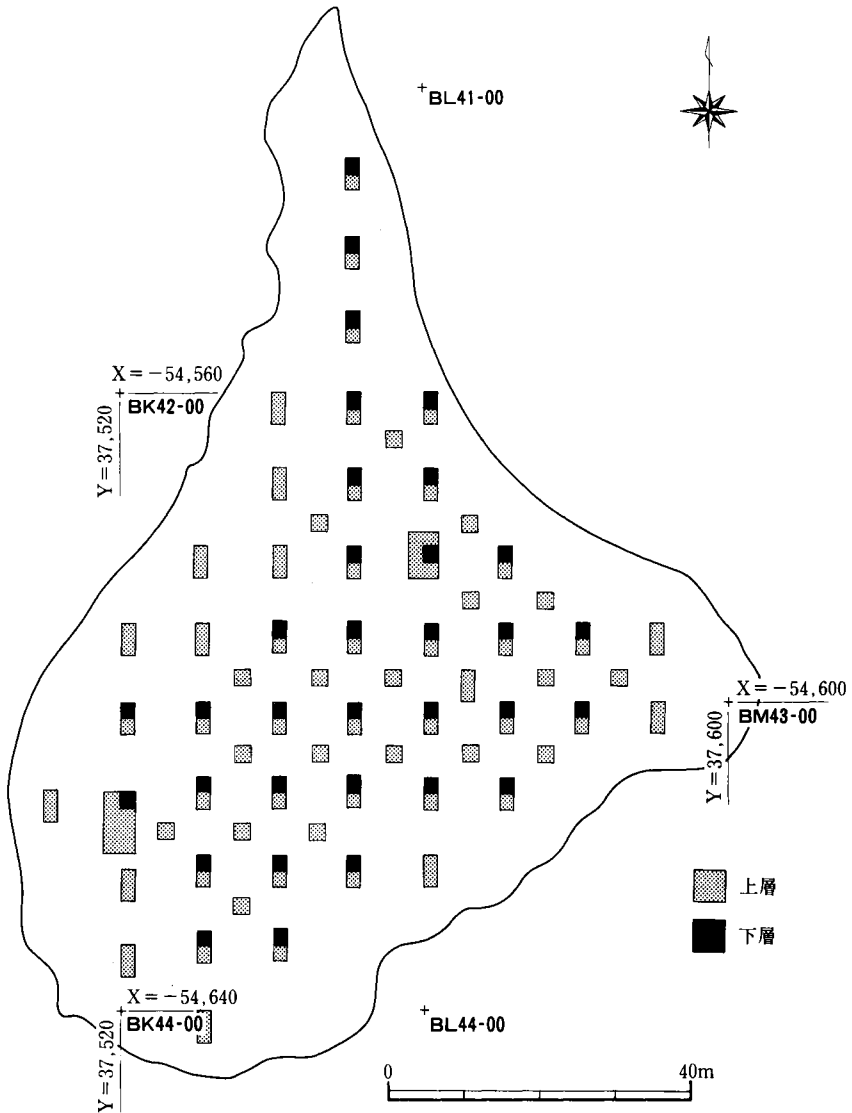
第437図 南大野第4遺跡包含層遺物出土状況(3) (1/160)

第 19 章
東 大 野 第 4 遺 跡

遺跡コード 201-096
調査担当者 西口 徹



第438図 東大野第4遺跡 位置図及び遺構配置図(1/1000)



第439図 東大野第4遺跡確認調査グリッド配置図(1/1000)

第1節 縄文時代・平安時代

1. 概要

東大野第4遺跡では上・下層の確認調査の結果、炭窯が3基検出され、引き続きその周辺の拡張調査を実施した。他に若干の遺物がI～II層中から検出された。下層の遺物はまったく検出されなかった。

2. 平安時代の遺構・遺物について

(1) 炭窯

001号炭窯跡（遺構 第440図 遺物 第441図3）

ほぼBK43-30に位置する。主軸は北東を向く。プランは長辺3.68m、短辺2.3mの長方形の本体部分と1m弱の焚き口部分からなる。床面はほぼフラットで主軸方向に約30cm幅の送風のための溝が煙道部から焚き口まで続く。壁は砂層を掘り込んで形成されていて10cm程度の厚みの焼成層として観察された。覆土は1. 炭化粒を多く含む天井壁が崩落した砂質土混じりの赤褐色土。1'. 焼土粒・炭化粒を多く含む赤褐色土。2. 焼土粒・炭化粒を多く含む天井壁が崩落した砂質土混じりの暗黄褐色土。3. 炭化材が多くやや壁材のみられる暗褐色土。4. 炭が多く堆積した暗褐色土。5. 焼土ブロック混じりの砂層の赤褐色土。6. 焼土粒混じりの砂層の赤褐色土。7. 壁崩落土主体の黄褐色土。8. 炭が堆積した層である。斜面部に向かう南側の焚き口付近にはやや炭化粒が多く検出された。遺物は3の土師器の坏の破片が炭の堆積していた下層から検出された。全体の1/5程度残存している。ロクロ整形で底部を糸切りののち底部へラ調整をおこなっている。胎土や残存状況は2次焼成のため非常に悪く土器の表面はぼろぼろである。遺構の時期は8世紀の後半以降と考えられる。他の2基の炭窯も遺物は皆無であったが、同様の時期に造られたものと思われる。

002号炭窯跡（遺構 第440図）

ほぼBL42-50に位置する。主軸は北西を向く。プランは長辺3.36m、短辺1.12mのやや細長い長方形に近い形を呈する。焚き口の部分は001号炭窯跡のようにはっきりとは検出できなかった。遺構の東側に炭が多量に分布している部分がみられたが作業場のような施設のあった可能性もある。覆土は1. 粘りのある砂や壁材が多く崩落してしまりがややある灰褐色土。2. 更に締まりのある砂の灰褐色土。3. 炭化材と焼土粒を多く含む黒褐色土。4. 砂を多く含む粘土及び炭化粒と焼土粒を若干含む灰褐色土である。壁の崩れが著しいこともあり、特にプランの北側部分が正確にでていないため、形態的にはやや疑問が残る。遺物は炭以外は検出されなかった。

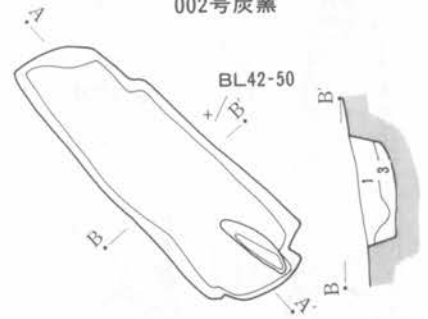
003号炭窯跡（遺構 第440図）

BL42-82から西へ1mに位置する。主軸はほぼ北を向く。プランは長辺3.3m、短辺1.42mの隅丸長方形を呈する本体部分とその床面に主軸方向に30cm幅の送風のための溝が、煙道部から焚き口に至るまで4.83mの長さで検出されている。覆土は1. 天井壁の崩落土と思われる炭化粒と焼土粒を含む砂質粘土主体の層で粘性が乏しい暗褐色土。2. 壁崩落土、ローム小ブロック、炭化材、焼土粒混じりで締まりのない黄褐色土。3. 焼土粒、炭化材を多く含む赤褐色土。4. ソフトロームの崩落土である暗黄褐色土である。001号炭窯跡よりやや細いがタイプの的には近いと思われる。遺物は炭以外は検出されなかった。

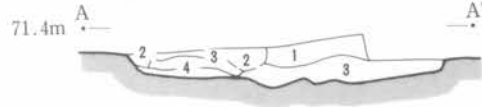
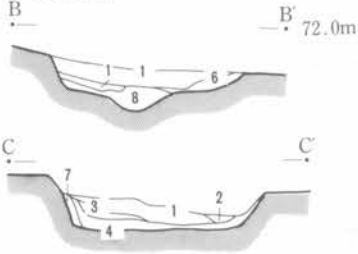
001号炭窯



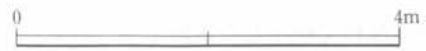
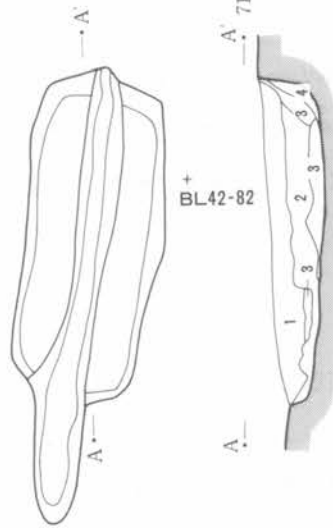
002号炭窯



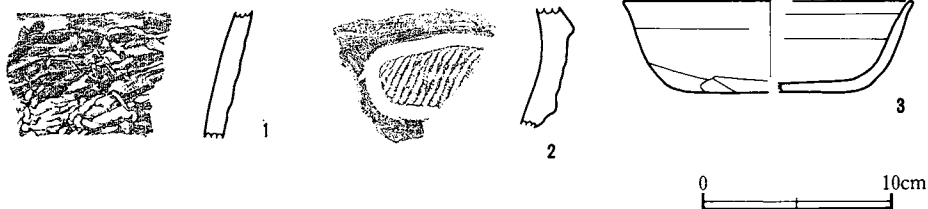
+ BK43-40



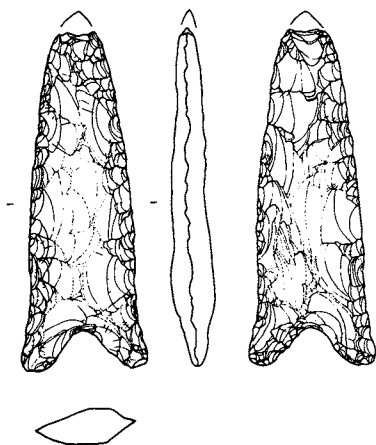
003号炭窯



第440図 東大野第4遺跡炭窯跡(1/80)



第441図 東大野第4遺跡包含層出土土器(1/4)



異形部分磨製石鎌(先端部欠損)
 旧グリット B3-98
 新グリット BK-42-98
 長×幅×厚 8.8×3.3×1.0
 (cm)
 重 さ 26.8g
 (g)
 石 材 灰色がかったチャート

第442図 東大野第4遺跡包含層出土石器(1/2)

3. 縄文時代・平安時代の包含層の遺物について

(1) 土器(第441図1~3)

確認調査時に数点の縄文時代と平安時代の土器片を検出した。1は前期後半の土器片で器面に結節縄文が施されている。同個体の破片が数点まとまって検出されている。2は中期加曽利E式の土器片で単独で出土した。RL縄文を地文に配して沈線で区画している。3は001号炭窯跡から出土した土師器坏で、似た破片がこの近くのグリットから出土している。(破片のため図示は不可能)

(2) 石器(第442図1)

確認調査時に検出された唯一の石器で縄文時代早期に見られる特殊な石器で異形部分磨製石器と呼ばれるものである。土気以外の遺跡でもこのような石器はみられない。両面とも非常に丁寧な調整によって仕上げられた後に稜の部分を摩滅させている。石鎌とするにはやや大きな石器である。

4. 小結

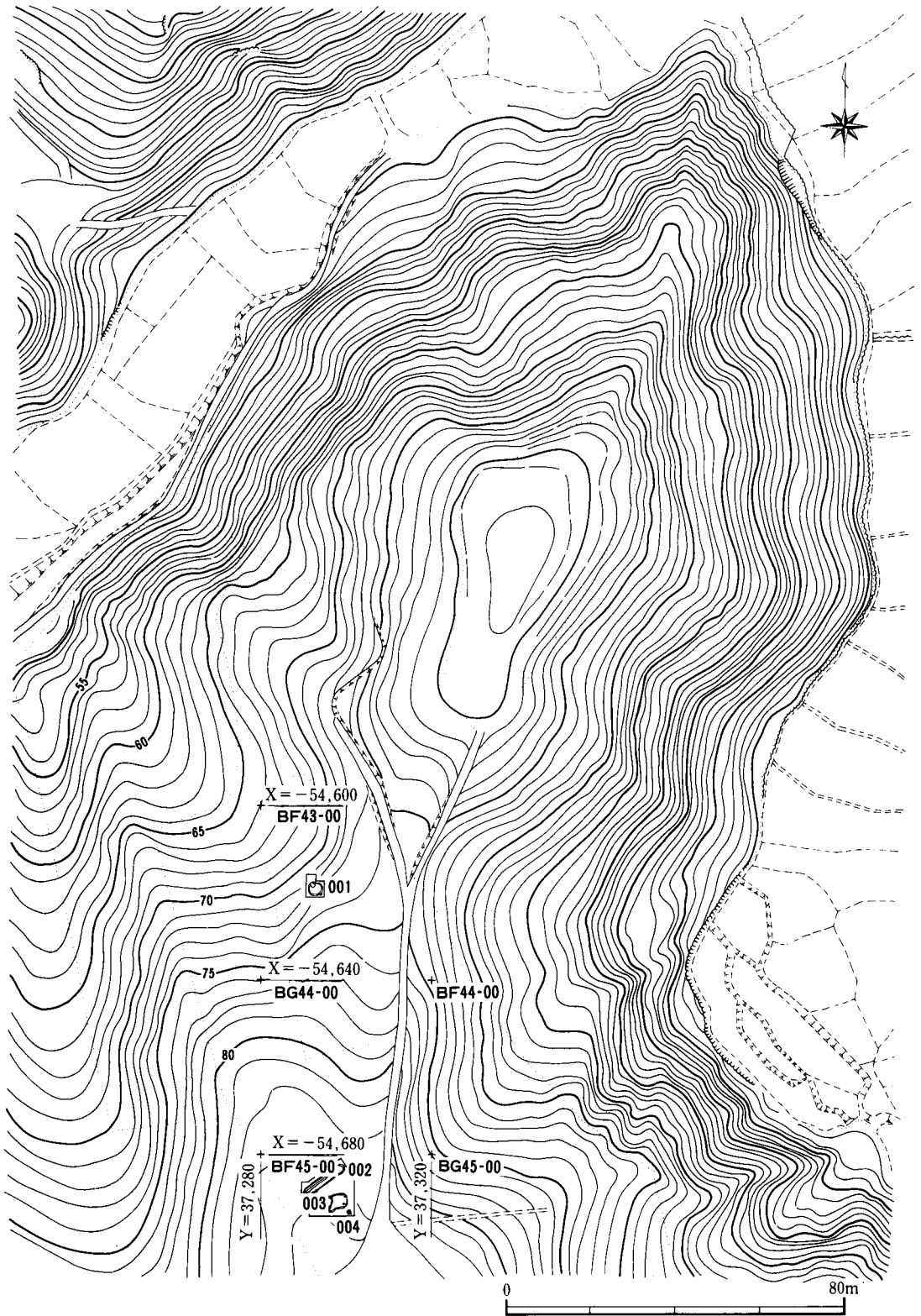
確認調査だけで終了した遺跡であったが、平安時代に属する炭窯跡が3基検出された。事業地に隣接する地域からスラグが表採でみつかっており、製鉄遺構に関連する炭窯跡である可能性もある。また対岸の南大野第5遺跡でも同時代の炭窯跡が1基検出されており、同様に関連がうかがわれる。縄文時代の石器は全国的に見ても非常に珍しいものである。

第 20 章

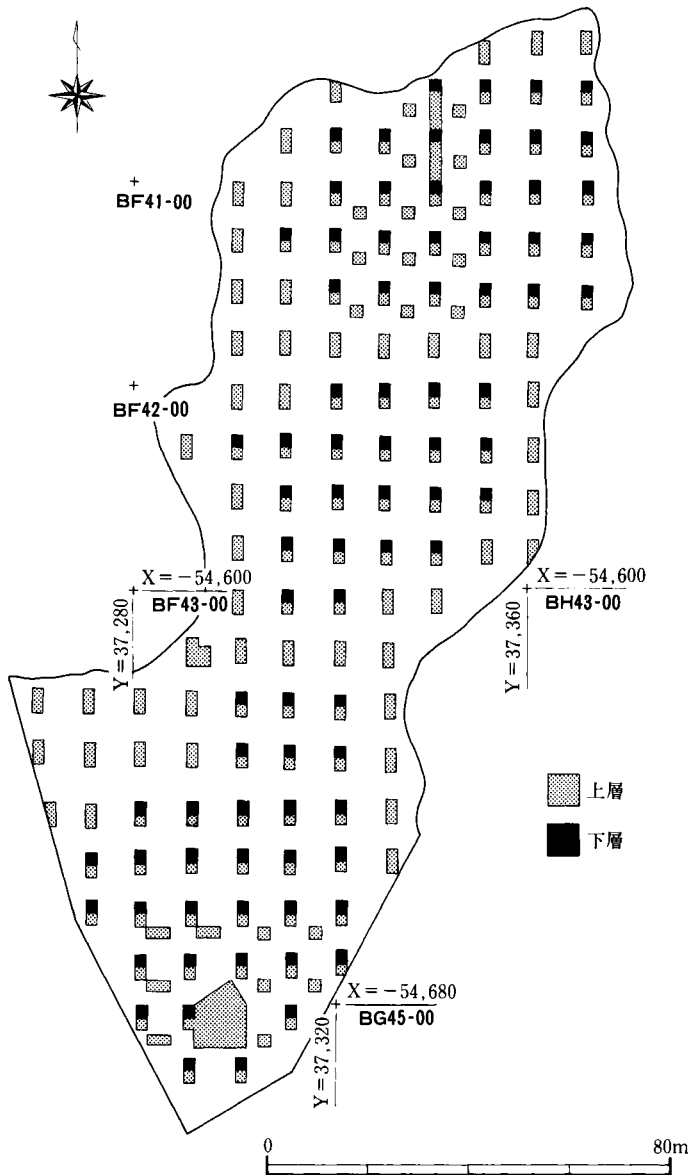
南 大 野 第 5 遺 跡

遺跡コード 201-097

調査担当者 西口 徹



第443図 南大野第5遺跡位置図及び遺構配置図(1/1500)



第444図 南大野第5遺跡確認調査グリッド配置図(1/1500)

第1節 縄文時代・平安時代

1. 概要

南大野第5遺跡では上・下層の確認調査の結果、炭窯が2基検出され、引き続きその周辺の拡張調査を実施した。その際に炭窯に伴う作業場等の遺構も検出された。他に若干の遺物がI～II層中から検出された。下層の遺物はまったく検出されなかった。

2. 平安時代以降の遺構・遺物について

(1) 炭窯跡

001号炭窯跡（遺構 第445図）

ほぼBF43-43から1m北に位置する。主軸は南東を向く。プランは径2.15m前後の円形の本体部分と90cm弱の焚き口部分からなる。床面は硬くほぼフラットである。壁はローム層の粘土を掘り込み形成されていて10cm程度の厚みの焼成層として観察できた。覆土は1. 焼土粒・炭化粒を含みソフトロームと暗褐色土粒が混ざり締まりのない暗黄褐色土。2. 煙出の部分で煤けている砂が主体でさらさらで締まりのない黒色土。3. 上が酸化焼成、下が還元焼成の天井崩落土がブロック状に埋まり締まりがややない燈褐色土。4. ソフトロームが主体の暗黄褐色土である。遺存状況は良好である。遺物等は見られないが、遺構の時期は近世以降と考えられる。明らかに他の炭窯跡とは構造が異なる。

002号炭窯跡（遺構 第445図）

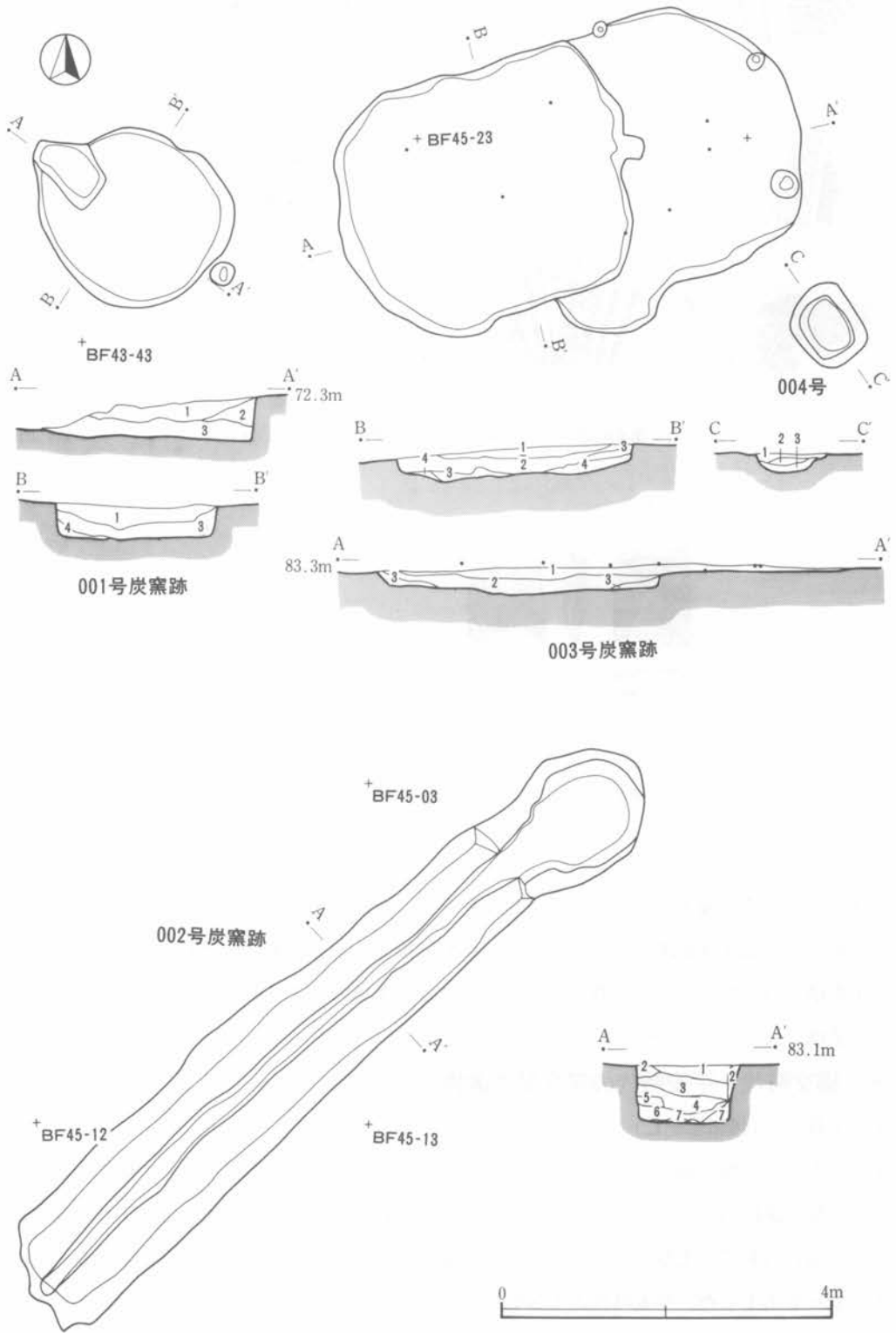
BF45-02を中心にして位置する。主軸は南西を向く。プランは長さ9.5m、幅1.4mの細長い長方形に近い形を呈する。北側の焚き口部分は丸く掘り込まれているが検出面からの深さは0.7m程で焚き口部分も煙出部分もほぼ同じである。東大野第4遺跡の001号炭窯跡と同様の送風用の溝もみられた。覆土は1. 砂混じりでやや締まりのない黒色土。2. ローム粒が混ざりやや締まりのない暗褐色土。3. 焼土・炭化粒が混ざり砂質でやや締まりのない暗褐色土。4. 砂・炭化材が多く混ざりやや締まりのない暗褐色土。5. 炭化材が多くまざる暗褐色土。6. 炭化材が主体で締まりがない炭化材堆積層。7. 締まりのない焼土堆積層である。遺物は炭以外は皆無であるが、形態上の特徴から8世紀後半の炭窯跡と思われる。

003号作業場跡（遺構 第445図）

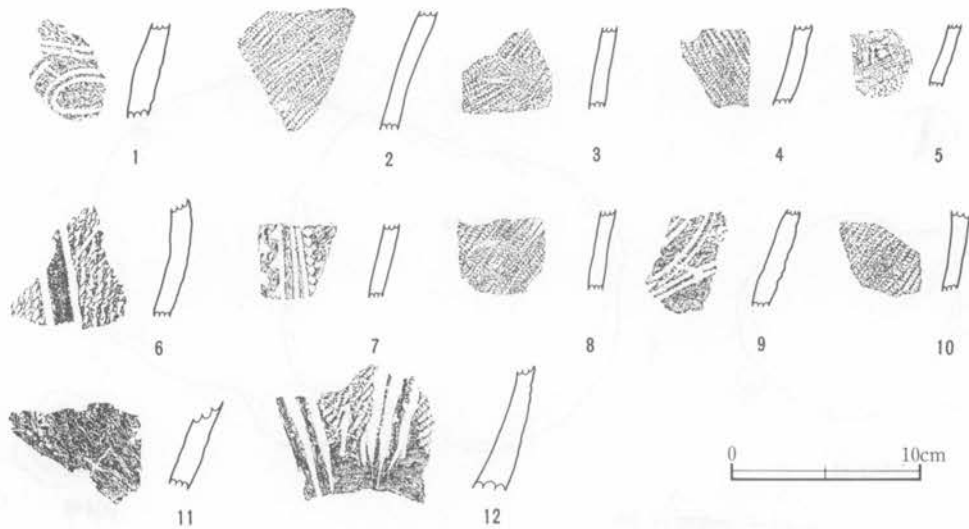
BF45-23を中心にして位置する。002号炭窯跡の南側に位置しており密接な関係が窺われる。プランは西側の長辺3.5m、短辺3mの隅丸長方形を呈する作業小屋と東側の3m程の作業場からなる。小屋の方の深さは約20cmで床面はやや中央部が下がっている。硬化面は観察できなかったのであまり長期にわたっての使用は考えられない。ピットもみられないので簡単な上屋構造であったと思われる。作業場の方は東側へややだらだらと上がり気味で床面も比較的凹凸がみられる。ピットも検出されたが上屋があるとしても非常に貧弱であろう。覆土は1. 炭化材が多くやや締まりがない炭窯の廃棄された土である黒色土。2. 若干の炭化粒を含む暗褐色土。3. 暗褐色土混じりで締まりがある暗黄褐色土。4. ローム粒を多く含む粘質の暗褐色土である。遺物は8世紀後半頃の土師器片が数点覆土1から出土している。いずれも小破片のため図示しなかった。

004号炉跡（遺構 第445図）

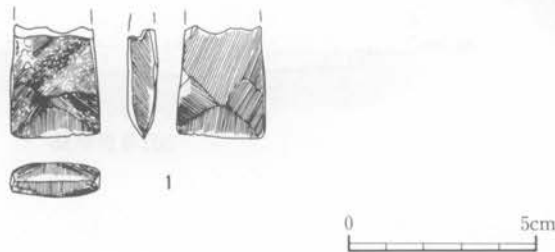
003号の1m南側に位置する。プランは長辺1m、短辺80cmの隅丸長方形で外壁を山砂を充填



第445図 南大野第5遺跡平安時代以降の遺構(1/80)



第446図 南大野第5遺跡包含層出土土器(1/4)



第447図 南大野第5遺跡包含層出土石器(1/2)

して作られている。覆土は1. 炭化粒・焼土粒を多く含む焼土堆積層。2. 灰が堆積して多くの焼土粒を含み締まりがある灰褐色土。3. 粘質で締まりがあり裏込と思われる暗褐色土である。上部構造は不明で、遺物も伴わないが隣接する作業場のかまどの役目をはたした可能性が強い遺構である。

3. 縄文時代・平安時代の包含層の遺物について

(1) 土器 (第446図1~12)

確認調査時に少量の縄文時代中期の土器片を検出した。11は早期の鶴ヶ島系の繊維土器、5と7は前期の諸磯系の土器片、1と9は後期の加曾利B式の土器片でその他はいずれも縄文時代中期の加曾利E式の土器片である。台地の先端に近い北側の平坦部に近いグリットから比較的まとまって出土した。平安時代の土師器片も数点出土しているが実測可能な破片がないため図示していない。

(2) 石器 (第447図1)

南側の確認調査時の拡張調査時に検出された唯一の石器である。小形の磨製石斧でおそらくは002号の炭窯跡に伴うものと思われる。全面を丁寧に磨いており刃部は特に丁寧に仕上げられている。頭部は欠損している。石材は蛇紋岩であろう。

4. 小結

確認調査だけで終了した遺跡であったが、平安時代に属する炭窯跡が1基とそれに関連すると思われる作業小屋跡及び作業場等が合わせて検出されている。事業地に隣接する地域からスラグが表採でみつかっており、製鉄遺構に関連する炭窯跡である可能性もある。また対岸の東大野第4遺跡でも同時代の炭窯跡が3基検出されており、同様に関連性が考えられる。また縄文時代の遺物が散布するにもかかわらず陥穴状遺構がまったく検出されなかったことは、事業地内の他の遺跡とは好対照である。

第 21 章

ま と め

1. 旧石器時代のブロック群について

土気緑の森工業団地内では20遺跡の発掘調査を行い、9遺跡40ブロックの石器群が検出された。時期は立川ロームIX層からIII層まで各時代のものがみられる。ブロックの規模から大別すると、大野第2遺跡等でみられる単独出土、小規模単独のブロック、大野遺跡でみられる2ブロックの複合したもの、あるいは大野南遺跡でみられるやや大きな単独ブロックのもの、そして西大野第1遺跡や東大野第2遺跡でみられる同時期に形成された環状ブロック群という5タイプに別れる。1ブロックは3～4mの範囲にまとまりをもつものが多くみられる。

石器の構成からみると利器としての石器が卓越するものと剥片や碎片が卓越するもの等に分れる。

石器の構成から単独のブロックでは数種類の石材で構成されることが多く、しかも第1石材の割合が50%を越えるものが多い。このことは単独1ブロックが形成される場合、短期間にしかも一時的な滞在の可能性が高い。そして第1石材の補完を他の石材で行っていた可能性が強い。また第1石材と第2石材が同じ位の比率で混在している場合（たとえば大野第1ブロック及び第2ブロック）は複数回の使用が考えられる。あるいは同じ石材でも接合しない剥片類が多く、複数回の使用が認められる場合は回帰性のブロックと考えることが可能である。さらに大きなブロック群は地域拠点型のブロックと考えることが可能である。土気緑の森工業団地内で発見されたブロック及びブロック群の多くは、旧石器時代の各時代を通じて一時使用のブロックと思われるものが多い。これらはこの時代の生活形態を如実に示していると考えられる。つまり狩猟採集行動に伴って頻繁に移動した結果残されたものの一部であろう。

ブロックの内容は石器単体、石器と剥片の複合、礫や焼土粒を伴うものなどがある。個々に分析を進めて行けばかなりの成果が期待されるが、ここでは上記のように概観するだけにとどめる。

土気緑の森工業団地内にある旧石器時代のブロック群の内容は多岐にわたっており、完全に分析することは不可能であるが、狩猟採集の場から近いことを想起させる環境にあることから、単独のブロックはそれらの行動の結果残されたものであろう。また東大野第2遺跡の中でみられる焼土や炭化物の集中地点の存在は、旧石器時代の居住空間の広がりを考える意味で非常に貴重な資料を提供していると考えられる。

2. 縄文時代早期の集落と包含層について

東大野第3遺跡では、縄文時代早期の井草I式の時期を中心にした遺物の包含層と、住居跡5軒、土坑10基が検出された。住居跡には炉のないものも多く、柱穴は壁際に小さいものが多い。遺物では垂飾品等に見るべきものが多い。垂飾品は北側で検出されていて墓があった可能性もある。南大野第4遺跡では縄文時代早期の稲荷台式を中心にした遺物の包含層

と住居跡2軒、土坑が検出されている。北側に焼土を伴う環状の焼け礫集中地点が認められ、明らかに居住空間と作業場空間の違いが認められる。どちらの調査面積も1,000㎡前後とやや小規模であるが、土器片の分布範囲はほぼ押さえていると考えられる。いずれも一時的な期間だけ居住したのではなく、数シーズン継続して使用していたと考えられる。

3. 縄文時代早期から中期の陥穴群について

土気緑の森工業団地内にある遺跡群で本調査された遺跡ではかならずこの種の土坑が検出されている。細かな分析は今後の課題としてもこの共通の事実からこれらの場所が専ら狩猟場として機能していたことを示している。また各遺跡のものをみていくといくつかのタイプに分けられ、特に床面のピットの有無が特徴である。とりわけ、大野第1遺跡や大野第7遺跡では、非常に多くの陥穴が検出されており、大規模で計画的な狩猟場であった可能性が高い。

4. 弥生時代について

この時期の遺構は大野第7遺跡で住居跡が1軒出土しているにすぎない。遺物も2遺跡で少量出ているにすぎない。

5. 古墳時代について

西大野第1遺跡で軟質砂岩を使用した横穴式石室を伴う20mの方墳が1基検出されている。また周溝内には土壙を伴う。副葬品は石室から鉄鏃が3本出土している。墳丘やその他の遺物については、すでに削平されていたり、盗掘を受けているため不明である。

6. 奈良時代から平安時代の集落について

集落と呼べる程の規模ではないが、大野第7遺跡と西大野第1遺跡で数軒単位で検出されている。特に大野第7遺跡では掘立柱建物跡や「佛」と書かれた墨書土器の存在が注目される。ただし一時期に限定すると、いずれの遺跡も小規模な集落としか考えることができないような状況である。

7. 最後に

旧石器時代のブロックと縄文時代の陥穴群を除けば、各遺跡で発見された遺構・遺物の規模は小規模で、個々に触れたとおりに狩猟採集の場あるいはその隣接地としての役割をはたした遺跡群である可能性が高い。このようなあり方は、JR土気駅前の遺跡群や市原市千原台の遺跡群などのように広範な時代にわたって連綿と受け継がれていく様相と比較すると非常に対照的である。集落として営む上で適さない条件が大きかったのかもしれない。とりわけ、村田川最上流域よりもさらに奥に入り込んだ地域に位置していたことに最大の要因があるかもしれない。

千葉県文化財センター調査報告 第253集

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第2分冊

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月31日 発行

発行 千葉県土地開発公社

編集 財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809番地2

印刷 凸版印刷株式会社

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第 3 分 冊

1 9 9 4

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第 3 分 冊

1 9 9 4

千葉県土地開発公社
財団法人 千葉県文化財センター

表 目 次

表 1	大野第 2 遺跡	旧石器時代第 1 ブロック遺物属性表	715
表 2	大野第 2 遺跡	旧石器時代第 2 ブロック遺物属性表	715
表 3	大野第 2 遺跡	縄文時代グリット出土石器属性表	715
表 4	大野第 2 遺跡	グリット出土土器観察表（縄文）	715
表 5	大野第 2 遺跡	グリット出土土器観察表（古墳）	716
表 6	大野第 3 遺跡	旧石器時代第 1 ブロック遺物属性表	716
表 7	大野第 3 遺跡	旧石器時代第 2 ブロック遺物属性表	716
表 8	大野第 3 遺跡	旧石器時代第 3 ブロック遺物属性表	716
表 9	大野第 3 遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	717
表10	大野第 3 遺跡	縄文時代グリット出土土製品属性表	717
表11	大野第 3 遺跡	遺構・グリット出土土器観察表（縄文）	718
表12	大野第 3 遺跡	グリット出土土器観察表（奈良）	718
表13	大野第 3 遺跡	遺構出土土器観察表（奈良）	719
表14	大野第 4 遺跡	旧石器時代第 1 ブロック遺物属性表	720
表15	大野第 5 遺跡	旧石器時代第 1 ブロック遺物属性表	720
表16	大野第 7 遺跡	旧石器時代第 1 ブロック遺物属性表	721
表17	大野第 7 遺跡	旧石器時代第 2 ブロック遺物属性表	721
表18	大野第 7 遺跡	旧石器時代第 3 ブロック遺物属性表	721
表19	大野第 7 遺跡	旧石器時代第 4 ブロック他遺物属性表	722
表20	大野第 7 遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	722
表21	大野第 7 遺跡	遺構出土土器観察表（縄文）	722
表22	大野第 7 遺跡	グリット出土土器観察表（奈良・平安）	723
表23	大野第 7 遺跡	遺構出土土器観察表（奈良・平安）	725
表24	大野第 7 遺跡	奈良・平安時代遺構・グリット出土石製品属性表	725
表25	大野第 8 遺跡	縄文時代グリット出土石器・石製品属性表	726
表26	大野遺跡	旧石器時代第 1 ブロック遺物属性表	727

表27	大野遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	727
表28	大野遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	727
表29	大野遺跡	旧石器時代ブロック外遺物属性表	727
表30	大野遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品属性表	728
表31	大野第9遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	729
表32	大野第9遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	729
表33	西大野第3遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	730
表34	西大野第3遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	731
表35	大野第1遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	732
表36	大野第1遺跡	縄文時代遺構出土土器観察表	733
表37	大野第1遺跡	奈良時代遺構等出土土器観察表	733
表38	大野第1遺跡	石製品・土製品計測表(縄文～奈良・平安)	734
表39	西大野第1遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	735
表40	西大野第1遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	736
表41	西大野第1遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	736
表42	西大野第1遺跡	旧石器時代第4ブロック遺物属性表	736
表43	西大野第1遺跡	旧石器時代第5ブロック遺物属性表	737
表44	西大野第1遺跡	旧石器時代第6ブロック遺物属性表	738
表45	西大野第1遺跡	旧石器時代第7ブロック遺物属性表	739
表46	西大野第1遺跡	旧石器時代第8ブロック遺物属性表	739
表47	西大野第1遺跡	旧石器時代第9ブロック遺物属性表	739
表48	西大野第1遺跡	旧石器時代第10ブロック遺物属性表	740
表49	西大野第1遺跡	旧石器時代第11ブロック遺物属性表	740
表50	西大野第1遺跡	旧石器時代第12ブロック遺物属性表	740
表51	西大野第1遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	741
表52	西大野第1遺跡	縄文時代遺構出土土器観察表	741
表53	西大野第1遺跡	奈良・平安時代遺構及び包含層出土土器観察表	741
表54	西大野第1遺跡	鉄製品・石製品計測表(古墳～奈良・平安)	745
表55	東大野第2遺跡	旧石器時代第1群遺物属性表	746
表56	東大野第2遺跡	旧石器時代第2群遺物属性表	748
表57	東大野第2遺跡	旧石器時代第3群遺物属性表	750
表58	東大野第2遺跡	旧石器時代第4群遺物属性表	751

表59	東大野第2遺跡	旧石器時代第5群遺物属性表	752
表60	東大野第2遺跡	旧石器時代第6群遺物属性表	753
表61	東大野第2遺跡	旧石器時代第7群遺物属性表	754
表62	東大野第2遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品属性表	754
表63	大野南遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	755
表64	大野南遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	756
表65	大野南遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	756
表66	大野南遺跡	旧石器時代ブロック外遺物属性表	756
表67	大野南遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器属性表	757
表68	大野南遺跡	遺構出土土器観察表(縄文)	757
表69	東大野第3遺跡	旧石器時代第1ブロック遺物属性表	758
表70	東大野第3遺跡	旧石器時代第2ブロック遺物属性表	759
表71	東大野第3遺跡	旧石器時代第3ブロック遺物属性表	759
表72	東大野第3遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品・土製品属性表	760
表73	南大野第4遺跡	縄文時代遺構・グリット出土石器・石製品属性表	762

写真図版目次

図版1	大野第2遺跡	図版80	大野第1遺跡
図版4	大野第3遺跡	図版119	西大野第1遺跡
図版14	大野第4遺跡	図版152	東大野第1遺跡
図版18	大野第5遺跡	図版154	東大野第2遺跡
図版19	大野第6遺跡	図版177	大野南遺跡
図版20	大野第7遺跡	図版187	南大野第1遺跡
図版47	大野第8遺跡	図版189	東大野第3遺跡
図版49	大野遺跡	図版200	南大野第4遺跡
図版59	大野第9遺跡	図版206	東大野第4遺跡
図版76	西大野第3遺跡	図版208	南大野第5遺跡

表1 大野第2遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
8 1	E2-03	AA7-53	0001	剥片	III層下部	3.4×3.3×1.1	9.8		珩質頁岩①	6面-右上・左上・上・左下・右
8 2	E2-13	AA7-63	0001	剥片	III層下部	4.8×1.8×5.0	6.2		珩質頁岩②	5面-右上・右上・上・左上・上
8 3	E2-13	AA7-63	0002	剥片	III層下部	6.9×7.6×2.0	128.0		珩質頁岩③	1面-上+礫面
8 5	E2-13	AA7-63	0003	小剥片	III層下部	1.8×2.1×0.8	3.8	1	珩質頁岩①	1面-上
8 4	E2-13	AA7-63	0004	剥片	III層下部	6.0×5.0×2.2	60.5	1	珩質頁岩①	3面-右上・右上・右
9 6	E2-13	AA7-63	0005	石核	III層下部	3.8×4.2×1.8	26.2		珩質頁岩①	7面-上のみ
9 7	E2-13	AA7-63	0006	剥片	III層下部	2.1×3.8×0.7	5.8		珩質頁岩②	2面-左・上
9 8	E2-13	AA7-63	0007	剥片	III層下部	7.8×5.0×2.2	83.2		珩質頁岩②	2面-左のみ

表2 大野第2遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
9 9	F2-42	AA7-97	0001	剥片	III層下部	4.7×2.2×1.8	26.8		安山岩①	3面-右・左・右
9 10	F2-42	AA7-97	0002	剥片	III層下部	4.7×2.1×0.9	6.2		安山岩②	2面-上・下
10 11	F3-01	AA8-06	0001	剥片	III層下部	3.8×3.4×0.8	12.1		砂岩①	2面-右・下
10 12	F3-02	AA8-07	0001	U-フレイク	III層下部	2.0×2.7×0.6	2.4		頁岩①	2面-右・上
10 14	F3-02	AA8-07	0002	R-フレイク	III層下部	2.9×3.3×0.9	7.8		頁岩①	3面-下・左・左
10 13	F3-02	AA8-07	0003	剥片	III層下部	2.5×2.3×0.5	5.8		粘板岩①	1面-右
10 15	F3-02	AA8-07	0004	R-フレイク	III層下部	3.1×3.4×1.8	16.5	2	砂岩②	2面-右・右上
10 16	F3-02	AA8-07	0005	石核	III層下部	6.7×5.5×3.1	137.8	2	砂岩②	

表3 大野第2遺跡 縄文時代 グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
12 20	F3-02	AA8-07	0002	打石斧	完形	9.2×7.5×2.0	141.8	砂岩	大形剥片をもちいて両側辺部分を打ち掻き抉った後叩きつづけて分銅型に仕上げている

表4 大野第2遺跡 グリット出土土器観察表(縄文)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
11 1	C5-23	Z9-23	0001	深鉢	石英細粒含む	良好	赤褐色	胴部 1/6	— — —	RL単節縄文で胴部を施文後沈線で区画、内面は磨き	
11 2	表採	表採	—	深鉢	石英砂粒細かい	良好	外暗褐色 内赤褐色	口縁部 1/8	— — —	RL単節縄文で施文後粘土の突帯で区画、胴部はRL単節縄文で施文	
11 3	F2-10	AA7-65	0001	不明	石英細粒含む	良好	赤褐色	取っ手部分	— — —	沈線による区画	
11 4	表採	表採	—	不明	粒が荒い	やや不良	茶褐色	底部	— — —		

表5 大野第2遺跡 グリット出土土器観察表 (古墳)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
11 5	E3-01	AA8-01	0001	杯	粒が細かい	良好	赤	1/8	(15.0) (8.0) (5.8)	口縁部から胴部にかけて縦方向ナデ底部にヘラけずりで仕上げ	赤色粘土を塗布
11 6	D4-14	AA8-64	0001	甕	粒が細かい	やや良好	茶褐色	口縁部 1/5	(15.0) — —	口縁部横ナデ、頸部ヘラけずりで仕上げ	
11 7	表採	表採	0001	杯	粒が荒い	やや不良	内淡褐色 外黒褐色	1/4	(12.0) (8.0) (3.5)	手づくね風で一見すると縄文土器の胎土と似ている。	

表6 大野第3遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
18 1	第1群	AA18-47	0004	R-フリヤ	IV層	3.2×4.5×1.1	15.2		珪質頁岩①	2面-右上2+礫面
18 2	第1群	AA18-37	0008	剥片	IV層	3.1×3.1×1.1	10.3		珪質頁岩①	5面-右2・左上・下・左下+礫面
18 3	第1群	AA18-47	0005	剥片	IV層	4.1×4.0×0.5	15.2	1	珪質頁岩①	3面-左・右・上
18 4	第1群	AA18-38	0013	剥片	IV層	3.1×3.8×1.6	14.8	1	珪質頁岩①	7面-上4・下・右・左
18 5	第1群	AA18-47	0003	小剥片	IV層	1.7×2.4×0.9	3.8	1	珪質頁岩①	2面-右・右
18 6	第1群	AA18-48	0010	R-フリヤ	IV層	1.3×2.7×0.5	2.1		瑪瑙①	1面-上+礫面
18 7	第1群	AA18-48	0014	R-フリヤ	IV層	2.8×1.5×0.9	3.8		珪岩①	2面-上・下
18 8	第1群	AA18-37	0006	剥片	IV層	1.8×2.2×0.6	3.2		珪質頁岩①	2面-上・下
18 9	第1群	AA18-38	0012	剥片	IV層	3.2×3.5×1.0	11.8		珪質頁岩②	礫面

表7 大野第3遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
20 10	第2群	AA19-65	0001	ハンマー ストーン	IV層	6.9×4.1×3.5	96.2		頁岩①	

表8 大野第3遺跡 旧石器時代 第3ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
20 11	第3群	AA19-87	0001	石核	IV層	4.7×6.8×3.3	85.8		珪質頁岩③	

表9 大野第3遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
49 413	003号 住居跡	003号 住居跡	0135	磨石	半欠	7.7×—×4.8	269.8	砂岩	両面ともに磨きがある。平な面には打痕が多く見られる。
49 414	004号 住居跡	004号 住居跡	0027	石核	完形	2.6×2.8×1.7	10.3	石英	多方面の剥離で小さな剥片を剥したものと思われる。
49 415	016号 土坑	016号 土坑	0012	石鏃	先端 脚欠	—×—×0.4	—	黒曜石	両面ともに丁寧に仕上げている。
49 416	D4-10	Y19-60	0001	打石斧	完形	8.6×4.4×2.1	76.8	玄武岩	全体に丁寧に仕上げ。特に両側辺は叩きつぶしてある。分銅形で刃部に一部摩滅痕有り
49 417	D4-30	Y19-80	0001	打石斧	完形	8.8×3.8×1.8	71.2	粘板岩	一部に自然面を残す。大きな調整の後に細かな調整で仕上げている。短冊形
49 418	E3-23	Z18-73	0001	打石斧	半欠	—×3.7×1.5	—	玄武岩	両側辺を丁寧に調整。刃部には剥離痕が見られる。
49 419	D4-10	Y19-60	0001	打石斧	完形	7.6×2.8×1.8	41.1	千枚岩	一部に自然面を残す。片側にやや挟りが見られる。全体に調整は細かい。
49 420	E3-23	Z18-73	0001	楔形 石器	完形	3.7×2.8×0.7	11.8	安山岩	平な小円板礫の上下に加撃痕が見られる。

表10 大野第3遺跡 縄文時代 グリット出土土製品属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	焼成 色調	調整
49 421	E4	Z19	0001	土鏃	完形	4.6×4.0×1.5	27.2	良好 赤褐色	片側に挟りを入れてある。周辺部はよく摩滅させている。
49 422	F4	Z19	0001	土鏃	半欠	—×3.1×0.9	—	良好 黒褐色	片側に挟りが見られる。周辺部はいくらか摩滅させているように見える。
49 423	E4	Z19	0001	土鏃	完形	3.8×2.8×1.0	14.2	良好 褐色	片側に挟りが見られる。周辺部はそれほど摩滅していない。
49 424	F4-34	Z19-39	0001	土鏃	完形	4.3×4.7×0.8	21.6	良好 褐色	両側に挟りが見られる。周辺部は摩滅していない。
49 425	E4	Z19	0001	土鏃	完形	4.8×5.5×1.0	35.8	良好 暗褐色	両側に挟りが見られる。周辺部はかなり摩滅している。

表11 大野第3遺跡 遺構・グリット出土土器観察表(縄文)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
23 1	002号 住居跡	002号 住居跡	0037	深鉢	石英細粒 含む	やや良	赤褐色	口縁部 ~胴部 残存	19.0 — —	LR縷文を地文に口縁 に波状の沈線。頸部から 胴部に垂下する沈線	炉囲い用の土 器のためぼろ ぼろ
26 11	003号 住居跡	003号 住居跡	0037 +36 +38	深鉢	石英砂粒 混	良好	外暗褐色 内やや暗 褐色	口縁部 ~胴部 残存	25.3 — —	RL単節縷文を地文に口 縁部には粘土紐の突帯 で渦巻模様と区画	炉囲い用の土 器のためぼろ ぼろ
26 12	003号 住居跡	003号 住居跡	0044 +42+ 2点	深鉢	石英砂粒 多く含む	良好	茶褐色	胴部破 片	— — —	RL単節縷文を地文に垂 下する。2本つづの直線と 波線の沈線による区画	接合 0042+0044+ 0045+0050
30 39	004号 住居跡	004号 住居跡	0037 +39+ 3点	深鉢	やや荒い 石英砂粒 含む	良好	暗褐色	口縁部 ~胴部 1/3	— — —	RL単節縷文を地文に口 縁部直下に渦巻と取っ 手で区画	接合 0037+0039+ 0072+0077 +0381
30 40	004号 住居跡	004号 住居跡	0189 +173 +F4	深鉢	石英砂粒 含む	やや良	茶褐色~ 赤褐色	口縁部 ~胴部 残存	23.0 — —	LR単節縷文を地文に口 縁部に渦巻と三角文で 区画。胴部は垂下する沈 線	接合0189+01 73+F4(一 括)
30 41	004号 住居跡	004号 住居跡	0094 +8 点	深鉢	石英砂粒 含む	良好	茶褐色	口縁部 ~胴部 1/8	— — —	RL縷文を地文に口縁 部を突帯で区画。頸部か ら垂下する3本の沈線で 区画	接合0094+ 0042+0167+ 0183 +0184+ 0170+0179
37 89	010号 土坑	010号 土坑	0001 +7	鉢	やや荒い 石英砂粒 含む	やや不 良	外赤褐色 内黒褐色	胴部~ 底部 1/6	— — —	RL縷文を施文後すり消 している。	
37 104	014号 土坑	014号 土坑	0004 +15+ 2点	鉢	石英粒多 く含む	やや不 良	外暗褐色 内淡褐色	頸部片	— — —	口縁部は地文なし。頸部 はRL縷文を地文に粘土 紐の張り付けによる区画	接合0004+ 0015+0001+ 0026
37 105	014号 土坑	014号 土坑	0039 +22+ 1	深鉢	石英砂粒 多く含む	やや良 好	暗褐色~ 淡褐色	口縁部 破片	— — —	LR単節縷文を地文に沈 線による渦巻と四角を配 した区画	
40 158	034号 土坑	034号 土坑	0008 +9	浅鉢	石英粒多 く含む	やや不 良	淡褐色	胴部 1/3	— — —	地文にRL縷文を配し垂 下する太い沈線で区画	
41 175	E4	Z19	0001	浅鉢	石英砂粒 含む	やや良 好	褐色	胴部~ 底部 1/4	— — —	地文にすり消しLR縷文 を施した後横方向に沈 線を配している	
41 176	F5	Z19	0001	深鉢	長石・石 英粒多く 含む	良好	外茶褐色 内黒褐色	胴部 1/3	— — —	RL縷文を施している	
41 178	C5-03	Y19-53	0001	浅鉢	石英砂粒 含む	やや良 好	暗褐色	口縁部 ~胴部 1/8	— — —	櫛状の工具を使って胴部 に糸線を施している。頸 部に横方向の沈線で区画	

表12 大野第3遺跡 グリット出土土器観察表(奈良)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
55 22	G6-33	AA20-33	0001	坏 須恵器	石英細粒 を含む	やや良 好	淡灰色	底部破 片	— — —	底部周辺にヘラ削り	
55 23	第2群	AA20	0002	鉢 須恵器	粒が細か い	良好	灰色	胴部下 片	— — —	ロクロ横ナテ整形	旧石器の第2 ブロックに混 入
55 24	G6-33	AA20-33	0001	大甕 須恵器	粒が細か い	良好	灰色	胴部片	— — —	内側螺旋模様のたたき目 外側副毛目模様のたた き目あり	001号住居の 21と同一か
55 25	G7-01	AA20-56	0001	壺 須恵器	石英微粒 粒を含む	良好	暗灰色	頸部	— — —	ロクロ使用。自然抽が見 られる。	001号住居の 10と似ている 作り
55 26	第2群	AA20	0002	壺 須恵器	粒が細か い	良好	灰色	底部	— — 9.5	ロクロ使用。自然抽が見 られる。	001号住居の 10と似ている 作り
55 27	G5	AA19	0001	壺 須恵器	粒が細か い	良好	灰色	底部	— — 9.0	ロクロ使用。自然抽が見 られる。	001号住居の 10と似ている 作り

表13 大野第3遺跡 遺構出土土器観察表 (奈良)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
53 1	001号 住居跡	001号 住居跡	0031 +58 点	甕 土師器	粒が細かい	良好	淡褐色	ほぼ完 形	22.5 7.2 27.5	胴部から底部は横方向 のへら削り。胴部から口 縁部は縦方向のへら削 り。口縁部下は横ナデ	細かな破片が 多く接合した
53 2	001号 住居跡	001号 住居跡	0012 +9 点	甕 土師器	粒が細かい	やや良 好	茶褐色	口縁部 ~胴部	— — —	口縁部横ナデ、頸部へら 削りで仕上げ	
53 3	001号 住居跡	001号 住居跡	0001 +6 点	甕 土師器	石英砂粒 含む細かい	良好	暗褐色	口縁部 ~胴部	(24.0) — —	口縁部横ナデ、頸部ナデ 胴部は縦方向へら削り	
53 4	001号 住居跡	001号 住居跡	0044 +4 点	甕 土師器	粒の大き な石英粒 を含む	やや良 好	褐色	口縁部 1/9	— — —	口縁部横ナデ、胴部へら 削り	
53 5	001号 住居跡	001号 住居跡	0028 +16 点	甕 土師器	石英砂粒 若干含む	良好	外暗褐色 内淡褐色	口縁部 ~胴部	(20.0) — —	口縁部ナデ、胴部にか けては縦方向へら削り	
53 6	001号 住居跡	001号 住居跡	0100 +8 点	甕 土師器	石英砂粒 カクセン 石含む	やや良 好	外茶色 内淡褐色	口縁部 1/3	(23.0) — —	口縁部横ナデ、胴部縦方 向のへら削り	
53 7	001号 住居跡	001号 住居跡	0023 +13 点	甕 土師器	石英砂粒 若干含む	やや良 好	褐色	胴部 1/5	— — —	頸部から胴部にかけて縦 方向のへら削り、底部に かけて横方向のへら削り	他にも接合す ると思われる 破片あり
53 8	001号 住居跡	001号 住居跡	0231 +252 +331	甕 土師器	石英粒混 じり	良好	淡褐色	口縁部 ~胴部	(20.6) — —	口縁部横ナデ、胴部にか けては縦方向のへら削り	内側は細かな 粘土塗布
53 9	001号 住居跡	001号 住居跡	0134	坏 土師器	粒が非常 に細かい	良好	淡褐色	底部~ 一部胴 部	— — (7.9)	胴部ロクロ横ナデ、底部 静止糸切り後へら調整	赤彩
54 10	001号 住居跡	001号 住居跡	0114 +22 点	壺 須恵器	粒が細かい	良好	灰色 一部自然 釉	ほぼ完 形	6.3 9.0 18.5	ロクロ使用、底部張り付 け	口縁部から胴 部に自然釉
54 11	001号 住居跡	001号 住居跡	0271 +7 点	坏 須恵器	細かな石 英と雲母 片を含む	良好	淡灰色	完形	13.0 8.4 3.9	ロクロ使用、底部へら切 り、胴部横ナデ	火だすきの跡 が見られる。
54 12	001号 住居跡	001号 住居跡	0484 +187 +235	坏 須恵器	長石・石 英砂粒が 混ざる。	良好	灰色	底 部 ~胴部 破片	— (6.0) —	ロクロ使用、横ナデ	
54 13	001号 住居跡	001号 住居跡	0407 +5 点	甕 土師器	石英大粒 含む	やや不 良	淡褐色	底部	— 7.0	底部に葉脈痕あり	
54 14	001号 住居跡	001号 住居跡	0226	壺 須恵器	石英粒含 む粒が細 かい	良好	灰色	底部	— 8.2	ロクロ使用	
54 15	001号 住居跡	001号 住居跡	0377	甕 須恵器	石英砂粒 含む	良好	灰色	胴部破 片	— — —	ロクロ使用	
54 16	001号 住居跡	001号 住居跡	0401	壺 須恵器	石英細粒 含む	良好	灰色	底部片	— — —	ロクロ使用	
54 17	001号 住居跡	001号 住居跡	0382	坏 須恵器	石英細粒 含む	良好	灰色	口縁部 破片	— — —	ロクロ使用横ナデ	
54 18	001号 住居跡	001号 住居跡	0410	甕 須恵器	粒が細かい	良好	灰色	胴部破 片	— — —	裏表ともたたき目あり	
54 19	001号 住居跡	001号 住居跡	0395	坏 須恵器	石英細粒 含む	良好	灰色	口縁部 破片	— — —	ロクロ使用横ナデ	
54 20	001号 住居跡	001号 住居跡	0326 +325	坏 土師器	石英細粒 含む	やや良 好	淡褐色	1/5	(12.0) (6.0) (4.0)	横ナデ、底部へら削り	
54 21	001号 住居跡	001号 住居跡	0195	大甕 須恵器	粒が細かい	良好	灰色	胴部破 片	— — —	内側螺旋模様のたたき目 外側刷毛目模様のたた き目あり	

表14 大野第4遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
60 1	第1	T9-34	0014	石核	IV層	4.5×3.0×2.0	25.2		黒曜石②	
60 2	第1	T9-34	0002	石核	IV層	2.7×4.0×2.4	16.2		頁岩①	
60 3	第1	T9-34	0013	石核	IV層	2.9×2.1×1.2	6.3		黒曜石③	
60 4	第1	T9-34	0004	石核	IV層	1.9×3.3×1.5	11.8		黒曜石①	
60 5	第1	T9-34	0005	台形 石器	IV層	2.7×2.1×0.8	4.8		黒曜石②	4面-上・左下3
60 6	第1	T9-34	0015	台形 石器	IV層	×1.8×0.6	(1.8)		黒曜石③	1面-右
60 7	第1	T9-34	0006	台形 石器	IV層	1.7×1.2×0.4	1.2		黒曜石①	2面-右・上

表15 大野第5遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
68 1	B4-03	AB10-58	0002	削器	III層 上部	4.6×2.6×0.7	7.8		安山岩①	5面-下3・上2

表16 大野第7遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
76 1	第1	W16-34	0008	搔器	VI層下部	3.5×3.2×1.2	15.8		珩質頁岩③	礫面+2面-上2
76 2	第1	W16-34	0021	U-フレイク	VI層下部	2.6×1.1×0.4	1.1		黒曜石①	2面-上・右
76 3	第1	W16-34	0006	剥片	VII層	5.2×2.7×1.1	14.8		珩質頁岩①	4面上3・下
76 4	第1	W16-34	0015	彫器	VI層下部	5.5×4.4×2.2	35.6		珩質頁岩②	2面-上2
76 5	第1	W16-34	0014	U-フレイク	VII層	2.9×4.5×1.1	11.8		珩質頁岩③	4面-上3・右
76 6	第1	W16-34	0013	U-フレイク	VI層下部	4.4×1.3×0.6	3.9		珩質頁岩④	3面-上・下・右
76 7	第1	W16-34	0018	剥片	VII層	5.9×5.0×1.6	36.2		珩質頁岩②	礫面
76 8	第1	W16-34	0004	U-フレイク	VII層	4.0×2.4×0.7	5.9		珩質頁岩④	3面-上2・下
77 9	第1	W16-34	0019	剥片	VII層	5.0×3.7×1.9	38.0		珩質頁岩①	礫面+3面-上2・下
77 10	第1	W16-34	0005	剥片	VII層	3.1×2.5×0.6	6.3		珩質頁岩①	2面-上2
77 11	第1	W16-34	0009	剥片	VI層下部	2.8×2.5×0.9	8.5		チャート①	6面-下3・上3
77 12	第1	W16-34	0010	剥片	VI層下部	3.1×2.9×0.9	8.8		チャート①	捩理面+3面-上3
77 13	第1	W16-35	0003	剥片	VII層	2.4×2.8×0.8	4.8		チャート①	4面-上2・下・右
77 14	第1	W16-35	0020	剥片	VII層	2.5×3.3×1.2	7.8		珩質頁岩⑥	3面-上・右

表17 大野第7遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
79 15	第2	U15-25	0037	石核	III層	6.8×5.6×2.6	62.1		粘板岩①	
79 16	第2	U15-25	0038	剥片	III層	4.6×2.0×1.3	12.2		砂岩①	捩理面+2面-上2
79 17	第2	U15-26	0008	剥片	III層	3.4×2.7×0.6	8.3		砂岩①	1面-上
79 18	第2	U15-26	0025	剥片	III層	2.2×1.8×0.6	3.9		砂岩①	2面-左・下
79 19	第2	U15-26	0009	剥片	III層	2.9×1.7×1.2	6.1		頁岩①	礫面+2面-上・右
79 20	第2	U15-26	0013	剥片	III層	1.7×2.3×0.4	2.9		緑泥片岩①	1面-上

表18 大野第7遺跡 旧石器時代 第3ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
81 21	第3	U15-85	0002	U-フレイク	III層中位	4.8×5.0×1.2	22.0		粘板岩②	2面-上・右
81 22	第3	U15-85	0005	剥片	III層中位	3.8×3.9×1.4	21.8		粘板岩②	風化面
81 23	第3	U15-86	0001	剥片	III層中位	4.5×2.5×1.8	16.3		砂岩③	4面-下3・右
81 24	第3	U15-86	0006	石核	III層中位	7.4×6.0×3.3	144.1		砂岩②	
81 25	第3	U15-86	0004	剥片	III層中位	2.6×3.0×0.8	7.1		砂岩②	1面-下

表19 大野第7遺跡 旧石器時代 第4ブロック他遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
83 26	第4	U16-23	0007	剥片	III層 中位	6.6×6.3×2.1	104.8		砂岩④	礫面+5面-上3・左2
83 27	第4	U16-23	0004	剥片	III層 中位	4.6×6.3×1.5	41.3		砂岩⑤	礫面+3面-上3
83 28	第4	U16-24	0009	剥片	III層 中位	4.2×4.5×1.5	30.4		砂岩⑤	礫面+4面-上4
83 29	第4	U16-13	0002	剥片	III層 中位	4.4×2.1×1.3	12.1		砂岩⑤	礫面+2面-上2
84 30	第4	U16-23	0008	剥片	III層 中位	4.6×3.6×2.2	38.1		砂岩④	4面-上2・右2
84 31	第4	U16-13	0001	剥片	III層 中位	4.3×2.7×2.1	21.2		泥岩①	礫面
84 32	第4	U16-23	0005	剥片	III層 中位	3.8×4.2×0.9	14.8		安山岩①	礫面+1面-下
84 33	第4	U16-23	0003	剥片	III層 中位	3.9×3.2×1.0	13.9		砂岩④	礫面
84 34	第4	U16	一括	剥片		4.3×3.6×0.8	14.8		安山岩①	礫面

表20 大野第7遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
104 1	C7	U16	0001	台石	4/5 残存	—×9.5×4.2	—	砂岩	両面とも中央部に打痕が見られる。周辺部にも打痕が見られる。
104 2	E7-12	V16-62	0001	打石斧	完形	9.8×5.7×2.6	202.0	安山岩質 砂岩	小礫を利用して周辺部を丁寧な剥離で仕上げている。刃部は比較的大きな剥離で仕上げる
104 3	F6-31	V16-36	0001	磨石	1/3 残存	—×—×4.7	—	細粒砂岩	両面とも磨かれている。割れ面にやや打痕の様なものが見られる。
104 4	C6-43	U16-43	0001	打石斧	完形	11.4×6.1×2.1	180.5	粘板岩	剥離した礫を利用して周辺部をやや荒く仕上げている。分銅形である。
105 7	F3-04	V14-69	0001	石鏃	完形	2.0×1.7×0.4	1.8	チャート	小剥片を利用して表裏とも細かな調整で仕上げている。やや凹基形
105 8	F7-32	V16-87	0540	石鏃	先脚 欠損	—×—×0.5	—	黒曜石	表裏とも細かな調整で仕上げている。やや基部が荒い調整である。凹基形
105 9	001号 方形周溝	001号 方形周溝	0003	石鏃	脚部 欠損	—×1.6×0.7	—	チャート	有基の石鏃で調整は細かいがやや彫らみがある。

表21 大野第7遺跡 遺構出土土器観察表(縄文)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
101 1	009号 住居跡 (理髪)	009号 住居跡 (理髪)	0002	深鉢	石英細粒 含む	やや良	淡褐色	口縁部 ~胴部 残存	— — —	波状口縁でLRL縄文を 地文に配し沈線で区画 している。	3、4、5、 6は同じ個体
101 2	009号 住居跡 (理髪)	009号 住居跡 (理髪)	0001	深鉢	石英砂粒 混	良好	外茶褐色 内淡褐色	口縁部 ~胴部 残存	— — —	RL単節縄文を地文に口 縁部直下に平行する沈 線	7は同じ個体
102 17	100号 住居跡	100号 住居跡	0004 + 28点	浅鉢	石英砂粒 多く含む	良好	淡褐色	2/3 残存	29.0 9.0 19.5	内外面とも磨いた後に胴 部に沈線を配し胴部に縦 方向の条線を施す	
102 20	100号 住居跡	100号 住居跡	0001 + 35点	深鉢	石英砂粒 多く含む	良好	淡褐色	底部の み欠損	30.0 — —	RLR縄文を地文に口縁 部から頸部にかけてS字 や方形に区画	
102 18	100号 住居跡	100号 住居跡	0016	深鉢	石英砂粒 含む	やや良	赤褐色	底部の み残存	— 7.0 —	RL単節縄文を地文にし て胴部にかけて縦方向に 細沈線で区画	二次焼成でポ ロポロ

表22 大野第7遺跡 グリット出土土器観察表 (奈良・平安)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
120 27	F7-32	V16-87	0079 多数	大甕 須恵器	粒が細かい	やや良好	淡灰色	ほぼ完形	25.6 10.0 46.5	内外面ともたたき目あり	細かな破片が多数接合した
120 28	D7	U16	一括	壺 須恵器	粒が細かい	良好	灰色	口縁部破片 1/3	10.0 — —	ロクロ整形	
120 29	F7-42	V16-97	0085 他	壺 須恵器	やや海綿状	良好	濃緑色	胴部破片 1/4	— — —	半分以上自然抽がかか る	
120 30	F7-32	V16-87	0108 他	壺 須恵器	粒が細かい	良好	灰色	頸部 ～胴部 1/4	— — —	ロクロ使用	
120 31	F8-33	V17-38	0001	大甕 須恵器	粒が細かい	良好	暗灰色	頸部破片 1/6	— — —	胴部にかけてたたき目が見られる	
120 32	F7-32	V16-87	0653 他	壺 須恵器	粒が細かい	良好	淡灰色	底部	— 7.5 —	ロクロ使用、自然抽が見られる	
120 33	D7	U16	一括	壺 須恵器	粒が細かい	良好	淡灰色	胴部 ～底部 1/3	— — —	ロクロ使用	
121 34	F7	V16	一括	坏 須恵器	石英・雲母粒混	やや良好	淡灰色	口縁部 ～胴部 1/6	13.5 7.5 5.5	底部付近へラ切り	
121 35	E8-12	V17-12	0001	坏 須恵器	石英・雲母粒混	良好	灰色	底部残存	— 8.8 —	底部回転系切り	
121 36	F8-21	V17-26	0004	坏 須恵器	石英粒混	良好	淡灰色	底部 1/5残存	— — —	底部へラ切り	
121 37	F8-01	V17-06	0002 他	坏 須恵器	石英・雲母粒混	やや良好	赤みがかった灰色	底部 1/3残存	— — —	底部回転系切り後へラ削り	
122 52	F7-32	V16-87	0475 多数	甕 土師器	石英・雲母粒混	良好	淡赤褐色	底部と口縁部欠損	24.0 — —	胴部下半部を中心にへラ調整	細かな破片が多数接合
122 53	F7-32	V16-87	0644 多数	甕 土師器	石英細粒混	やや良好	淡褐色	4/5残存	21.5 10.5 30.5	胴部は縦方向のへラ削り	細かな破片が多数接合
122 54	F8-01	V17-01	0075 他	甕 土師器	石英細粒混	良好	褐色	底部のみ 1/6残存	— — —	へラによる調整	
122 55	F7-32	V16-87	0075 他	甕 土師器	石英細粒少量混	良好	褐色～暗褐色	口縁部 1/3残存	— — —	胴部下へラ調整	
122 56	F7-32	V16-87	0208	甕 土師器	石英細粒少量混	やや良好	淡褐色	底部 1/4残存	— — —	底部に木葉痕あり、へラ削り	
122 57	E3-42	V14-97	0001	甕 土師器	やや粒が荒い	やや不良	淡黄褐色	底部 1/5残存	— — —	へラ削り	
122 58	E8-12	V17-12	0001	甕 土師器	石英細粒混	やや良好	黒褐色～暗褐色	底部残存	— 4.5 —	へラ削り	
122 59	F7-32	V16-87	0197 他	甕 土師器	石英細粒少量混	良好	淡褐色	口縁部 1/5残存	— — —	胴部下へラ調整	
122 60	F7-32	V16-87	0485	甕 土師器	細かな黒色砂粒混	良好	褐色	口縁部 ～胴部 1/4残	— — —	胴部下へラ調整	
122 61	F7-42	V16-97	0036 他	甕 土師器	石英細粒混	良好	淡赤褐色	胴部上半分 1/5残	— — —	へラで押しつけた様な刻み模様	
122 62	E7	V16	一括	甕 土師器	石英細粒混	良好	淡赤褐色	口縁部 1/6残存	— — —	口縁部ナデ	

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
122 63	F7-32	V16-87	0213 他	甕 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	淡褐色	底部 1/3残 存	— — —	外面へラ削り、内面磨き	
122 64	F7-32	V16-87	0488	甕 土師器	石英細粒 を含む	やや不 良	褐色～暗 褐色	底部 1/3残 存	— — —	ナデ	
122 65	F7	V16	0001	甕 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	淡褐色	底部 1/5残 存	— — —	外面へラ削り、内面磨き	
122 66	E4-12	V15-12	0001	甕 土師器	粒が細か い	良好	淡褐色	底部	— 3.6	へラ削り	
123 67	F7-33	V16-88	0043	坏 土師器	粒が細か い	良好	燈褐色	口縁部 1/5残 存	— — —	へラ磨き	
123 68	F7-32	V16-87	0205 他	坏 土師器	粒が細か い	やや不 良	淡赤褐色	口縁部 1/5残 存	— — —	ナデ、外面へラ調整	
123 69	F7-32	V16-87	0124	坏 土師器	やや粒が 荒い	やや不 良	暗褐色 ～淡褐色	1/3残 存	12.5 6.5 4.0	ナデ、外面へラ削り	
123 70	F7-32	V16-87	0483	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや不 良	暗褐色 ～淡褐色	ほぼ完 形	15.9 11.8 3.5	ナデ、外面へラ削り	
123 71	F7-43	V16-98	0001	坏 土師器	小粒混	やや良 好	淡赤褐色	1/6残 存	— 2.8	ナデ、外面へラ削り 内面磨き	二次焼成
123 72	F7-32	V16-87	0124 他	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや不 良	淡暗褐色	1/3残 存	— 3.4	ナデ、外面へラ削り	
123 73	F7-32	V16-87	0125 他	坏 土師器	粒が細か い	やや良 好	淡褐色	1/4残 存	— 3.2	ナデ、外面へラ削り 内面磨き	外側が一部煤 けている
123 74	F7-42	V16-97	0039 他	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	暗褐色	1/2残 存	— 3.0	縦方向に刻み目状のへ ラ削りあり、ナデ	内側に灯明皿 使用の煤付着
123 75	F7-33	V16-88	0119	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	燈褐色	1/6残 存	— 2.8	ナデ、外側へラ削り	二次焼成てや やボロボロ
123 76	F7-32	V16-87	0120 他	坏 土師器	石英細粒 を多く含 む	やや良 好	淡褐色	口縁部 のみ 1/2残	— 2.9	ナデ、外側へラ削り	
123 77	F7-42 43	V16-97 V16-98	0006 0001	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	淡褐色	1/5残 存	— 2.9	ナデ、外側へラ削り 内面磨き	
123 78	G5-22	W15-72	0001	坏 土師器	石英細粒 を含む	良好	淡褐色	2/3残 存	13.3 11.0 3.0	ナデ、外側へラ削り 内面磨き	内側に灯明皿 使用の煤付着
123 79	F7	V16	0001	坏 土師器	粒が細か い	良好	褐色	底部の み1/3 残存	— — —	ナデ、外面磨き 内面磨き	
123 80	F8-12	V17-17	0001	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	淡褐色	底部の み1/2 残存	— — —	底部外面へラ削り	これは7世紀 後半にかかる
123 81	F7-33	V16-88	0107	坏 土師器	粒が細か い	やや良 好	燈褐色	底部の み4/5 残存	— — —	底部外面へラ削り	
123 82	F7-32	V16-87	0246 他	高坏 土師器	石英細粒 を含む	やや不 良	茶褐色	台のみ 残存	— 8.1	ナデ、へラ削り	
124 83	F8-12	V17-17	0020	高坏 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	茶褐色	台のみ 残存	— 9.7	ナデ、へラ削り	

表23 大野第7遺跡 遺構出土土器観察表（奈良・平安）

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
118 1	001号 住居跡	001号 住居跡	0021 他	甗 土師器	石英粒を 多く含む	やや良 好	淡茶褐色	口縁部 1/3残 存	— — —	ナデ、外面胴部へラ削り	
118 2	001号 住居跡	001号 住居跡	0015	高坏 土師器	石英細粒 混	良好	淡褐色	ほぼ完 形	12.6 9.4 7.8	ナデ、外面胴部へラ削り 内面磨き	
118 3	001号 住居跡	001号 住居跡	0006	坏 土師器	石英細粒 混	良好	暗褐色	完形	10.1 7.1 3.1	底部に木葉痕あり、ナデ	燈明皿として 使用内面に煤 が付着
118 4	003号 住居跡	003号 住居跡	0020 他	甗 土師器	粒が細か い	良好	淡茶褐色	口縁1/ 6残存	— — —	ナデ、へラ調整	
118 5	003号 住居跡	003号 住居跡	0003	甗 土師器	石英細粒 混	やや不 良	暗褐色	口縁部 ~胴部 1/10	— — —	ナデ、へラ削り	
118 6	003号 住居跡	003号 住居跡	0002 他	甗 土師器	黒色細粒 多く含む	良好	茶褐色	口縁部 1/6残 存	— — —	ナデ、へラ調整	
118 7	003号 住居跡	003号 住居跡	0016 0019	坏 土師器	石英細粒 を含む	良好	淡褐色	口縁部 ~胴部 1/4	— — —	ナデ	
118 8	003号 住居跡	003号 住居跡	0041 他	坏 土師器	黒色細粒 多く含む	やや良 好	暗褐色 ~淡褐色	ほぼ完 形	13.9 11.6 3.0	ナデ、へラ削り	
118 9	003号 住居跡	003号 住居跡	0085	坏 土師器	石英細粒 を含む	やや良 好	淡褐色	底部 1/2残 存	— 11.4 —	ナデ、へラ削り	内黒土器?g とほぼ同じ
118 11	004号 住居跡	004号 住居跡	0016	坏 土師器	黒色細粒 多く含む	良好	暗褐色 ~淡褐色	4/5残 存	16.5 7.5 5.0	ロクロ底部へラ切り 内面磨き	内黒土器
118 12	004号 住居跡	004号 住居跡	0055 他	坏 須恵器	粒が細か い	良好	淡灰色	口縁部 1/5残 存	— — —	ロクロ使用	自然釉が見ら れる
118 13	004号 住居跡	004号 住居跡	0058 0059 0060	坏 土師器	石英砂粒 多く含む	良好	暗褐色	1/3残 存	13.9 7.3 4.0	回転へラ切り後底部へ ラ調整	
118 14	004号 住居跡	004号 住居跡	0013	坏 土師器	粒が細か い	良好	淡褐色	口縁部 欠損	— 8.8 —	回転へラ切り後底部へ ラ調整	『佛』という 墨書が見られ る
119 17	005号 住居跡	005号 住居跡	0004	坏 須恵器	石英細粒 少量混	やや良 好	灰色	1/5 欠損	12.3 7.3 2.6	回転糸切り後へラ削り	土器の表面が ボロボロ
119 18	005号 住居跡	005号 住居跡	0025 他	坏 土師器	石英細粒 少量混	やや良 好	淡黄褐色	口縁部 1/5残 存	— — —	ロクロ、へラ調整	へラによる刻 みが認められ る
119 23	010号 方形周溝 状遺構	010号 方形周溝 状遺構	0004 他	甗 須恵器	黒色細粒 混	良好	淡灰色	底部 1/5残 存	— — —	ロクロ、ナデ	自然釉が見ら れる
118 26	010号 方形周溝 状遺構	010号 方形周溝 状遺構	0002 他	坏 須恵器	黒色細粒 混	良好	淡灰色	口縁部 1/4残 存	— — —	ロクロ、ナデ	

表24 大野第7遺跡 奈良・平安時代 遺構・グリット出土土製品属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
104 5	E7-12	V16-62	一括	砥石	完形	11.6×6.5×3.4	243.0	粗粒砂岩	両面・両側辺とも荒く磨かれた跡が認められる。
105 6	G3-20	W14-70	0001	砥石	完形	9.3×4.0×2.7	161.0	凝灰岩	両側面とも作業面が摩滅して曲線を描く。
105 10	000号 住居跡	101号 住居跡	0061	磨石弁	完形	4.6×2.3×0.8	18.3	蛇紋岩	両面ともに磨かれている。両側面もやや丸く仕上げられている。

表25 大野第8遺跡 縄文時代 グリット出土石器・石製品属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
129 1	A2	AQ28	0086	石鏃	完形	2.8×1.5×0.5	2.9	黒曜石	丁寧な調整凹基鏃
129 2	A3	AQ28	0006	石鏃	完形	2.4×1.9×0.6	3.2	珩質頁岩	一部に主剥離面を残す丁寧な調整の凹基鏃
129 3	D1-31、 41	AQ28	0003	石鏃	完形	1.5×1.7×0.4	0.8	黒曜石	両面とも丁寧な調整の凹基鏃
129 4	A2	AQ28	0016	石鏃	完形	2.2×1.6×0.5	3.1	チャート	礫面と主剥離面を一部を残して周辺部を細かく調整して仕上げられている凹基鏃
129 5	A2	AQ28	0021	石鏃	欠損	—×1.6×0.7	—	黒曜石	厚みがあるが両面とも丁寧な調整の凹基鏃
129 6	D1-31、 41	AQ28	0002	石鏃	先端欠損	—×1.4×0.4	—	黒曜石	もともと長い石鏃を再加工したもので薄く丁寧な調整で仕上げられている
129 7	B1	AQ29	0115	石鏃	完形	2.2×1.3×0.4	2.2	チャート	両面とも丁寧な調整で仕上げられている平基鏃
129 8	B1	AQ29	0011	石鏃	完形	2.2×1.7×0.7	2.7	チャート	分厚く一部礫面も主剥離面も残した平基鏃
129 9	表採	表採	—	石鏃	一部欠損	—×1.6×0.3	—	黒曜石	全体に丁寧な調整で仕上げられている
129 10	A1	AQ28	0005	石鏃	脚部欠損	—×—×0.5	—	チャート	大きめな調整でやや荒く仕上げられている
129 11	E1-20、 30	AQ28	0001	石鏃	完形	1.6×1.3×0.4	2.1	珩質頁岩	周辺を大きめな調整で仕上げられている
129 12	B1	AQ29	0034	石鏃	先端欠損	—×1.2×0.4	—	黒曜石	周辺加工のみで仕上げられている
129 13	A3	AQ28	0008	石鏃	完形	4.0×1.1×0.4	1.9	珩質頁岩	非常に丁寧な調整が先端部から基部にわたって施されている
129 14	006号 付近	006号 付近	一括	石核	—	4.5×2.3×1.8	19.2	チャート	両極打法による打面が観察される
129 15	B1	AQ29	0158	勾玉	完形	—×1.0×0.5	(3.6)	蛇紋岩	穿孔部が欠損している。尾部に一部自然面が観察される
130 16	A2	AQ28	0052	打石斧	半欠	—×5.0×2.3	—	花崗岩	全体を剥離調整後側面を叩き潰して調整してある
130 17	B1	AQ29	0110	打石斧	完形	6.7×4.3×1.4	41.9	安山岩	礫片を周辺加工で形態を整えている。焼けているかもしれない
130 18	A1	AQ28	0090	打石斧	半欠	—×5.5×2.7	—	玄武岩	全体を剥離調整後側面を叩き潰して調整してある
130 19	A1	AQ28	0033	打石斧	完形	6.1×2.8×1.2	29.6	砂岩	小礫を分割したものを素材にして叩いて仕上げられている
130 20	B1	AQ29	0010	石核	—	3.6×4.1×2.2	42.2	頁岩	小さい剥片を剥いている。両極打法ではない
130 21	D1-31、 41	AQ28	0003	磨石片	一部残存	—×—×—	—	安山岩	裏表とも磨痕がみられる
130 22	B1	AQ29	0091	敲石	完形	6.1×4.8×1.8	60.6	砂岩	小礫を分割したものを素材として使用している
130 23	B1	AQ29	0039	敲石	完形	4.6×4.2×2.7	63.8	砂岩	小石の角を使用している

表26 大野遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
137 1	B8-41	AR33-96	0015	石核	III層下部	9.9×6.5×3.3	261.1		砂岩①	
137 2	B8-40	AR33-95	0008	剥片	III層下部	2.6×3.3×0.9	7.9		砂岩①	3面-上3
137 3	B8-40	AR33-95	0004	剥片	III層下部	3.5×4.0×1.1	10.2		砂岩①	1面-上

表27 大野遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
137 4	B9-10	AR34-15	0003	台形石器	III層下部	2.9×1.7×0.8		4.1	黒曜石①	
137 5	B9-11	AR34-16	0005	台形石器	III層下部	2.6×1.6×0.8		3.8	黒曜石①	
137 6	B9-11	AR34-16	0004	剥片	III層下部	3.4×1.9×0.6	3.9		砂岩②	2面-上2
139 7	B9-11	AR34-16	0009	石核	III層下部	8.5×8.7×5.71	297.1		砂岩①	
138 8	B9-11	AR34-16	0008	剥片	III層下部	3.0×2.4×0.7	5.3		砂岩①	1面-上
138 9	B9-11	AR34-16	0011	剥片	III層下部	6.3×6.0×2.7	77.3		砂岩①	礫面+2面-上2
138 10	B9-11	AR34-16	0012	剥片	III層下部	3.3×3.4×0.8	9.9		砂岩①	2面-上・右
139 11	B9-11	AR34-16	0014	剥片	III層下部	3.8×3.8×1.7	24.2		砂岩②	礫面

表28 大野遺跡 旧石器時代 第3ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
139 13	A4-44	AR31-49	0002	U-フレイク	VII層	5.6×4.6×1.9	32.3		黒曜石⑧	礫面+6面-上4・左2

表29 大野遺跡 旧石器時代 ブロック外 遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
139 12	A3	AR30	0001	U-フレイク	不明	3.1×3.3×1.0	9.2		黒曜石⑤	2面-左2
139 14	A7-33	AR32-83	0001	剥片	表土	3.1×2.2×1.0	5.8		頁岩③	2面-上2
139 15	016号	016号	0001	台形石器	覆土	3.1×1.5×0.7	4.0		黒曜石③	
139 16	D5-02	AS31-57	0001	剥片	表土	4.7×2.0×0.8	10.2		泥岩①	礫面+1面-上
139 17	B13-43	AR35-98	0001	台形石器	不明	2.1×1.5×0.5	3.7		黒曜石②	
139 18	A2	AR30	0001	ナイフ形石器	表土	2.6×1.1×0.8	2.4		黒曜石④	
139 19	C5-42	AS31-92	0001	ナイフ形石器	表土	×1.2×0.5			安山岩①	
139 20	C5-34	AS31-84	0001	R-フレイク	不明	5.5×4.4×0.9	18.8		黒曜石⑨	風化面+1面-右

表30 大野遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器・石製品属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
152 1	B14-03	AR36-08	0001	尖頭器	4/5 残存	—×1.9×0.9	—	砂岩	主剥離面を一部残すものの両面にわたって非常の丁寧な調整が見られる。
152 2	B10-31	AR34-36	0001	石鏃	完形	2.2×1.6×0.5	1.8	チャート	両面とも非常に丁寧な調整が見られる。平基鏃
152 3	A8-04	AR33-04	0001	石鏃	完形	2.2×1.5×4.7	1.8	安山岩	剥片を折とった後に周辺剥離で調整をしている。平基鏃
152 4	A8-02	AR33-02	0001	石鏃	片脚 欠損	1.6×—×0.3	—	珪質頁岩	主剥離面を一部残すものの両面にわたって丁寧な調整が見られる。凹基鏃
152 5	026号	026号	0001	石鏃	半欠	—×—×0.4	—	安山岩	残っている部分は表裏とも丁寧な調整で仕上げている。凹基鏃
152 6	A3	AR30	0001	ピース エスキュー	完形	2.9×3.4×1.1	11.6	珪質頁岩	両極打撃による打痕が先端部にやや多めに 見られる。
153 7	A2	AR30	0001	ピース エスキュー	完形	2.1×3.4×1.1	4.6	チャート	両極打撃による打痕が先端部に見られる。
153 8	023号	023号	0001	管玉	完形	2.6×1.6×1.6	10.3	滑石	両方向から穿孔されていてやや片側が薄く なっている。
153 9	A8-04	AR33-04	0002	磨石	完形	11.2×7.5×5.6	750.2	安山岩	磨石と叩き石の両方で使用している。
153 10	B2-43	AR30-48	0001	凹石	完形	10.4×6.3×4.4	419.2	安山岩	凹石と磨石の両方で使用している。
153 11	A8-24	AR33-24	0002	敲石	半欠	—×—×—	—	砂岩	磨石を叩き石に転用している。
153 12	B2	AR30	0001	敲石	完形	10.8×6.5×5.5	543.8	砂岩	側面に比較的細かな叩き痕が見られる。
153 13	A8-03	AR33-03	0001	敲石	半欠	—×—×—	—	砂岩	磨石の割れた物を叩き石として転用してい る。
153 14	B7-31	AR32-86	0001	敲石	完形	4.4×2.7×1.5	29.2	安山岩	側面に打痕が見られる。一部やや煤けてい る。
153 15	B2	AR30	0001	敲石	半欠	—×—×—	—	安山岩	磨石を叩き石に転用している。打石斧の可 能性もある。
153 16	B7-40	AR32-95	0001	敲石	完形	3.3×3.9×2.3	41.8	安山岩	全体に細かな打痕が見られる。全体にやや 赤化している。
153 17	A7-33	AR32-83	0001	敲石	完形	7.8×5.1×3.2	181.8	安山岩	平な面を中心に打痕が見られる。裏に多少 の磨痕も見られる。
153 18	A8-22	AR33-22	0002	磨石	一部	—×—×—	—	安山岩	やや赤化している部分が見られる。
153 19	A8-02	AR33-22	0001	敲石	半欠	—×—×—	—	砂岩	凹石の割れた物を叩き石に転用している。
153 20	A8-33	AR33-33	0001	打石斧	完形	8.7×5.4×1.2	57.8	玄武岩	横長の剥片を素材にして片面辺部の調整の み行って仕上げている。刃部に磨痕有り。
154 21	003号	030号	0001	礫器	完形	10.6×8.3×4.5	453.8	砂岩	片側から大きな剥離で打ちかいている。
154 22	A8-24	AR33-24	0002	打石斧	完形	10.2×6.8×3.6	259.8	安山岩	半裁された礫片を使って周辺加工を行い形 を整えている。
154 23	C13-30	AS35-80	0001	U-フレイク	完形	7.5×5.2×1.5	54.8	細粒砂岩	右側辺部に細かな刃こぼれが見られてい る。
154 24	A7-34	AR32-84	0003	敲石	半欠	—×—×—	—	砂岩	先端部に叩き潰した様な打痕が見られる。
154 25	B4-03	AR31-08	0001	敲石	完形	6.8×4.7×4.3	193.8	安山岩	比較的大きめの剥離痕が残っている。
154 26	B7-31	AR32-86	0001	敲石	完形	5.9×5.1×2.3	93.6	安山岩	小円礫の側辺部に集中的に打痕が見られる

表31 大野第9遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
1	B2-86	AL33-36	0001	打石斧	完形	12.1×8.2×3.3	610.0	砂岩	偏平礫の右側辺部を叩き潰している。
2	B2	AL32・33	0001	磨石	完形	10.3×8.8×3.5	556.0	安山岩	偏平礫の表裏を磨いてある。周辺部には細かな打痕が見られる。
3	C3-88	AM34-38	0001	敲石	完形	9.8×6.5×4.3	343.2	砂岩	小礫のほぼ全面に打撃面が及ぶ。
4	B4	AL34・35	0001	打石斧	完形	15.1×6.9×2.8	394.5	花崗岩	側辺部はやや大きめの剝離・刃部は細かな調整が見られる。一部礫面有り。
5	070号	070号	0001	敲石	完形	9.0×7.5×3.3	362.4	安山岩	偏平礫の両面を磨いた後一部側辺を叩き石として使用している。
6	087号	087号	0004	敲石	完形	6.3×4.5×2.5	104.2	花崗岩	小石の一部側辺部に打痕が見られる。
7	080号	080号	0068	石製品	半欠	—	—	軽石	一部に擦痕が観察できる。
8	080号	080号	0019	石織未製品	完形	2.8×2.1×0.6	3.8	チャート	一部に調整痕あり。
9	C3-21	AM33-71	0001	石織	完形	1.6×1.5×0.2	0.5	珪質頁岩	周辺加工のみで仕上げてある。
10	110号	110号	0036	石織	脚部のみ	—	—	珪質頁岩	細かな剝離で仕上げてある。

表32 大野第9遺跡 遺構出土土器観察表(縄文)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
1	080号 住居跡	080号 住居跡	0104	深鉢	石英細粒 含む	やや良	外茶褐色 内暗褐色	口縁部 ~胴部 残存	55.4 — —	口縁部RL縄文を地文に 配し粘土紐による区画	埋燻炉
2	064号 土坑	064号 土坑	0001	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外茶褐色 内茶褐色	底部 残存	— — —	RL単節縄文を地文に口 縁部直下に平行する沈 線	
3	077号 土坑	077号 土坑	0005 他	深鉢	石英砂粒 多く含む	良好	淡褐色	3/4残 存	27.8 7.0 28.2	波状口縁・口縁部から胴 部に単節縄文を胴部に 縦方向の条線を施す	遺構とは直接 関係なし

表33 西大野第3遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
193 ₁	Kトレンチ	Kトレンチ	0001	磨石斧	完形	10.8×5.3×4.0	301.2	安山岩質砂岩	礫を使用して刃部を調整後稜に丸みを持たず程度に研磨している。
193 ₂	Aトレンチ	Aトレンチ	0002	打石斧	完形	9.3×4.6×3.1	129.8	輝緑安山岩	楕円礫の片側と先端部を大きな剥離で調整してある。
193 ₃	003号	003号	0748	打石斧	完形	7.6×3.7×2.0	110.5	輝凝灰岩	礫の上下面を細かく調整することによって仕上げてある。
193 ₄	Aトレンチ	Aトレンチ	0002	打石斧	完形	9.8×5.2×2.4	129.8	安山岩	礫を分割後に側辺を調整して分銅形に仕上げている。
193 ₅	Cトレンチ	Cトレンチ	0001	敲石	完形	9.2×3.2×4.0	250.3	頁岩	礫の上下を中心に細かな打痕が見られる。
193 ₆	Hトレンチ	Hトレンチ	0001	敲石	完形	10.5×4.4×3.5	226.8	石英脈岩	礫の片側に大きな打痕と上下には細かな打痕が見られる。
194 ₇	Aトレンチ	Aトレンチ	0002	敲石	半欠	—	—	砂岩	凹石転用されたもので側辺の一部から上面にかけて細かな打痕が多く見られる。
194 ₈	表探	表探	—	敲石	完形	11.2×6.6×5.3	435.8	頁岩	先端部に細かな打痕が見られる。
194 ₉	Dトレンチ	Dトレンチ	0001	石錐	完形	5.1×2.8×0.8	7.8	珪質頁岩	刃部にかけては細かな調整で仕上げられている。
194 ₁₀	003号	003号	0360	R・F	完形	4.0×1.8×1.4	8.5	黒曜石	周辺部に細かな調整が見られる。
194 ₁₁	025号	025号	0023	石鏃	片脚欠損	—×—×0.5	—	黒曜石	両面にわたって比較的大きめの剥離調整がおこなわれている。
194 ₁₂	009号	009号	0003	石鏃	完形	2.3×2.3×0.7	3.8	珪質頁岩	やや大きめの荒い剥離で背面のみを調整してある。
195 ₁₃	026号	026号	0003	石鏃	片脚欠損	—×—×0.5	—	黒曜石	比較的荒い調整で両面を仕上げている。
195 ₁₄	003号	003号	0217	石鏃未製品	—	—×—×0.6	—	黒曜石	両面に調整が見られる。
195 ₁₅	003号	003号	0747	石鏃未製品	—	2.5×1.5×0.9	—	黒曜石	基部と片側は細かな調整が施されている。
195 ₁₆	003号	003号	0365	石鏃未製品	—	2.8×1.7×1.4	—	黒曜石	先端部から一部側辺まで調整が見られる。
195 ₁₇	003号	003号	0130	石鏃	先端残存	—×—×0.6	—	黒曜石	両面とも細かな調整が施されている。
195 ₁₈	003号	003号	0669	石鏃	片脚残存	—×—×—	—	黒曜石	片面を丁寧に調整してある。
195 ₂₀	003号	003号	0736	石鏃未製品	—	—×1.5×0.4	—	黒曜石	基部を中心に細かな調整が施されている。
195 ₂₁	B3-56	AB33-56	0001	石鏃	—	2.1×1.4×0.7	—	黒曜石	比較的荒い調整で仕上げられている。
195 ₂₂	003号	003号	0230	石鏃未製品	—	1.8×1.1×0.4	—	十勝石酷似黒曜石	一部周辺に細かな調整が施されている。
195 ₂₃	003号	003号	0656	石鏃	先端欠損	—×2.1×—	—	黒曜石	背面には全面に主剥離面には周辺に細かな調整が施されている。
195 ₂₄	B7-67	AB39-67	0001	石鏃	片脚欠損	—×—×0.5	—	黒曜石	背面のみ全面細かな調整が施されている。主剥離面は基部の挟まりのみおこなっている。
195 ₂₅	023号	023号	0003	石鏃	先端欠損	—×1.6×0.4	—	十勝石酷似黒曜石	両面とも細かな調整で仕上げられている。

表34 西大野第3遺跡 遺構出土土器観察表（縄文）

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
189 1	007号 土坑	007号 土坑	0034	深鉢	石英細粒 含む	普通	外茶褐色 内茶褐色	ほぼ完 形	32.0 7.4 39.7	波状口縁で口唇部に刺 突列点文、RL縄文を地 文に沈線で区画	二次的に焼け ている
189 2	008号 住居跡	008号 住居跡	0064	浅鉢	石英砂粒 混	やや良	外淡褐色 内褐色	胴部 ～底部 残存	— 7.8 —	LR縄文を地文に縦方向 の2条の沈線を配して区 画	
189 3	008号 住居跡	008号 住居跡	0149	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外淡褐色 内淡褐色	口縁部 ～胴部 残存	30.4 — —	口縁部～胴部には刺突 列点文RL単節縄文を地 文に口縁部直下に平行 する沈線	埋甕炉の土器
190 8	009号 土坑	009号 土坑	0006	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外暗褐色 内褐色	胴部の 一部欠 損	26.4 7.2 —	口縁部は縄文を地文に して粘土紐による凸帯 とその内側に沈線によ る区画	埋設土器
190 9	012号 土坑	012号 土坑	0001	深鉢	雲母片混	やや良	外淡褐色 内淡褐色	口縁部 ～胴部 残存	— — —	口縁部は波状口縁、口縁 部から胴部は粘土紐に よる区画と角押文	埋甕炉の土器 住居跡の炉の 可能性あり

表35 大野第1遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
240 1	E3-13	AC25-13	0001	石鏃	完形	2.4×1.3×0.4	0.8	黒曜石	鋸歯状に仕上げている。凹基鏃
240 2	D4-53	AB26-53	0001	石鏃	先端 脚人	—×—×0.4	—	黒曜石	薄く全体に丁寧に仕上げている。凹基鏃
240 3	E4-91	AC26-91	0002	石鏃	完形	1.2×1.0×0.2	0.2	黒曜石	小さな破片で細く調整することによって仕上げている。平基鏃
240 4	C4-89	AA26-89	0001	石鏃	完形	2.8×2.2×0.5	2.2	黒曜石	調整は細かい。やや鋸歯状に仕上げている。凹基鏃
240 5	D2-49	AB24-49	0001	石鏃	脚部 欠損	2.3×—×0.4	—	黒曜石	比較的大きめの剝離で調整している。
240 6	241号 住居跡	241号 住居跡	0023	石鏃	完形	1.5×1.3×0.4	0.8	チャート	周辺に細かい調整が施してある。凹基鏃
240 7	C4-50	AA26-50	0001	石鏃	完形	1.5×1.3×0.4	2.2	珪質頁岩	主剝離面を一部残すが基部の調整は細かい凹基鏃
240 8	A2トレンチ	A2トレンチ	0001	石鏃	完形	2.1×1.7×0.6	2.1	黒曜石	全体を細かい調整で仕上げている。凹基鏃
240 9	表採	表採		石鏃	完形	2.2×1.5×0.4	1.2	黒曜石	やや鋸歯状に仕上がっている。凹基鏃
240 10	G4-52	AE26-52	0001	石鏃	完形	1.4×1.3×0.4	0.8	黒曜石	周辺部にやや細かい調整を施す。やや凹基鏃
240 11	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0046	石鏃	完形	1.2×1.1×0.4	0.6	黒曜石	未製品の可能性が高い。
240 12	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0027	石鏃	脚部 欠損	1.2×—×0.3	—	黒曜石	細かな調整で仕上げている。凹基鏃
240 13	206号 土坑	206号 土坑	0001	石鏃	完形	1.9×1.4×0.5	0.9	安山岩	比較的丁寧に調整で仕上げている。やや凹基鏃
240 14	070号 土坑	070号 土坑	0002	石鏃	脚部 欠損	—×—×—	—	黒曜石	比較的大きめの調整で両面とも仕上げている。
240 15	H6-26	AF28-26	0001	Uフレイク	完形	5.2×2.8×0.7	9.6	珪質頁岩	両極打法による縦長剥片の縁辺に使用痕が見られる。
240 16	B3トレンチ	B3トレンチ	0001	Uフレイク	完形	3.7×1.3×0.6	2.2	チャート	小剥片の縁辺に微細な使用痕が見られる。
240 17	161号 土坑	161号 土坑	0005	剥片	完形	1.7×3.1×0.9	4.2	安山岩	礫面を一部残した横長剥片である。
240 18	A1-79	Y23-79	0001	磨石斧	完形	8.4×4.0×2.5	124.2	閃緑岩	礫を半裁して表裏ともに磨いてある。
241 19	F3-51	AD25-51	0001	打石斧	完形	9.8×5.5×2.8	156.4	粘板岩	礫を荒く剝離した後に両側辺を細かく叩いて分銅形に仕上げている。
241 20	001号 住居跡	001号 住居跡	0004	打石斧	頭部 欠損	—×3.8×3.1	—	粘板岩	棒状の礫をそのまま使用している。
241 21	表採	表採	—	打石斧	頭部 欠損	—×5.6×2.2	—	玄武岩	半裁礫を使用して両側辺を加工して分銅形に仕上げている。
241 22	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0027	磨石斧	完形	7.6×2.1×1.6	45.2	頁岩	小礫の先端と側面ともに良く磨かれている
241 23	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0048	打石斧	頭部 欠損	—×6.3×1.6	—	砂岩	礫を半裁したものを素材としている。
241 24	B1-91	Z23-91	0001	磨石斧	頭部 欠損	—×5.6×1.2	—	閃緑岩	偏平な礫を使用して両面とも刃部を中心に磨いてある。
241 25	105号 土坑	105号 土坑	0002	砥石	欠損	7.2×—×1.4	—	砂石	不規則・不連続の磨き痕が多く見られるところから砥石と判断した。
241 26	B1-71	Z23-71	0001	スタンプ 形石器	完形	8.2×5.7×2.9	170.8	砂岩	礫をおり先端部を平にしている。その周辺は細かな打痕が見られる。
242 27	A3トレンチ	A3トレンチ	0002	敲石	欠損	9.1×—×5.2	—	砂岩	割れた礫の先端部分にやや大きめの打痕が見られる。
242 28	B3トレンチ	B3トレンチ	0002	敲石	完形	6.4×5.3×4.9	291.5	砂岩	礫の上下に集中的に打痕が見られる。
242 29	G6-31	AE28-31	0001	敲石	完形	5.7×4.6×4.2	153.8	砂岩	小礫の上下に集中的に打痕が見られる。
242 30	A7-17	Y29-17	0002	敲石	完形	10.6×7.8×3.3	349.8	安山岩	楕円礫の側辺部を中心に打痕が見られる。

242 31	235号 土坑	235号 土坑	0002	敲石	完形	9.0×5.7×3.0	241.8	砂岩	楕円礫の中心から側辺部に向かって集中的に打痕が見られる。
242 32	241号 土坑	241号 土坑	0007	敲石	欠損	—×5.5×5.0	—	砂岩	正面と側面の一部に集中的に打痕が見られる。
242 33	A1-77	Y23-77	0002	敲石	完形	10.7×7.5×4.5	542.2	花崗岩	正面と側面の一部に打痕が見られる。凹石の転用したものである。
242 34	D5-71	AB27-71	0002	凹石	完形	8.0×7.6×3.3	337.6	花崗岩	両面とも良く磨かれていて中央部分が打痕で潰れている。磨石の転用
242 35	A3トレンチ	A3トレンチ	0002	凹石	欠損	7.9×5.0×4.3	—	凝灰岩	円礫の表面を打痕で潰している。
243 36	B1-55	Z23-55	0002	石皿	完形	10.1×8.3×8.4	480.1	安山岩	表面とも打痕による凹凸が著しい。
243 37	030号 住居跡	030号 住居跡	0022	石皿片	破片	—×—×—	—	砂岩	表面に細かな打痕が多く観察される。
243 38	B3-53	Z25-53	0001	磨石	完形	9.3×5.4×3.6	183.8	花崗岩	片側の表面が良く磨かれている。
243 39	表採	表採	—	凹石	破片	—×—×—	—	砂岩	蜂の巣状に穿孔、火切り臼の可能性あり
243 40	B2-13	Z24-13	0002	凹石	欠損	8.1×—×4.6	—	玄武岩	蜂の巣状に穿孔、火切り臼の可能性あり
243 41	244号 住居跡	244号 住居跡	0002	凹石	欠損	—×—×6.4	—	安山岩	蜂の巣状に穿孔、火切り臼の可能性あり

表36 大野第1遺跡 縄文時代 遺構出土土器観察表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
236 1	030号 住居跡	030号 住居跡	0021	浅鉢	石英細粒 含む	普通	外茶褐色 一部黒褐色	2/5	32.8 — —	口縁部に沈線と半月状 の押形文、胴部には節目 状に沈線	土器囲炉
236 4	105号 住居跡	105号 住居跡	0006	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外淡褐色 内褐色	口縁部 ~胴部 残存	37.6 — —	LR縄文を地文に沈線と 陸帯で区画	土器囲炉
236 7	106号 住居跡	106号 住居跡	セツ 20	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外褐色 内褐色	口縁部 ~胴部 残存	28.0 — —	口縁部には刺突列点文 RL縄文を地文に口縁部 に平行する沈線で区画	土器囲炉
237 14	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0043	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外赤褐色 内褐色	口縁部 欠損	— 9.6 —	RL縄文を地文にして沈 線と陸帯で区画	
237 19	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0044	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外赤い 褐色 内淡褐色	口縁部 ~胴部 残存	26.5 — —	RL縄文を地文にして沈 線と陸帯で区画	土器囲炉
237 26	197号A 住居跡	197号A 住居跡	0037	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外淡褐色 内淡褐色	胴部残 存	— — —	RL縄文を地文にして垂 下する沈線で区画	19と似た固体
237 27	223号 土坑	223号 土坑	0004	深鉢	石英砂粒 混	やや良	外茶褐色 内褐色	底部一 部破損	22.2 6.7 25.6	柳目状の条線を地文に して口縁部に平行胴部 に垂下する沈線で区画	

表37 大野第1遺跡 奈良時代 遺構等出土土器観察表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
247 1	第1土器 群	第1土器 群	0006	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	底部の み1/2	— 14.2 —	輪積み、叩き目、底部へ ら調整	
247 2	104号 住居跡	104号 住居跡	0291	土師器 皿	砂粒	やや良 好	赤褐色	完形	14.0 6.4 3.0	ナテ、回転糸切り、無調 整	
247 3	104号 住居跡	104号 住居跡	0121	土師器 皿	細かい	やや良 好	赤褐色	3/5	13.8 6.6 3.0	ロクロナテ、回転糸切 り、無調整	
247 4	104号 住居跡	104号 住居跡	0213	土師器 杯	細かい	やや良 好	淡褐色	2/5	12.5 5.0 4.7	ロクロナテ、回転糸切 り、無調理	墨書 意味不 明
247 5	104号 住居跡	104号 住居跡	0321	土師器 杯	非常に細 かい	良好	淡褐色	完形	12.9 6.0 5.0	回転糸切り、ヘラ削り	

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
247 6	104号 住居跡	104号 住居跡	0088 他	土師杯	やや細かい	やや良好	暗褐色	3/10	12.0 — 3.6	ナデ、静止糸切り	灯明皿
247 7	104号 住居跡	104号 住居跡	0322	土師杯	砂粒スコリア	良好	赤褐色	完形	12.9 6.1 4.9	手持ちへら削り、回転糸切り無調整	灯明皿
247 8	第II土器群	第II土器群	0062	須恵甕	細かい	良好	外黒灰色 内灰色	胴部 1/4	— — —	叩き目、内面螺旋状の調整	104号住居跡に近接
247 9	第II土器群	第II土器群	0014 他	須恵器	やや細かい	やや良好	外灰色 内灰色	底部 1/3	— — —	へら削り、内面は摩滅	104号住居跡に近接
247 10	104号 住居跡	104号 住居跡	0343	土師杯	細かい	良好	赤褐色	完形	14.9 6.4 4.9	ロクロ使用のナデ、底部へら削り	
247 11	104号 住居跡	104号 住居跡	0343	土師杯	やや荒い 砂粒 スコリア	良好	暗赤褐色	完形	13.9 6.0 4.5	ナデ底部へら切り後へら削り	
247 12	104号 住居跡	104号 住居跡	接2	須恵器	細かい	やや良好	褐色	1/2	13.6 6.0 4.7	ナデ、底部手持ちへら削り	
247 13	104号 住居跡	104号 住居跡	0286	土師杯	細かい	良好	黄褐色	7/10	12.8 5.3 4.3	ロクロナデ、底部へら削り	
247 14	104号 住居跡	104号 住居跡	0054	土師杯	やや細かい	良好	黄褐色	1/2	13.0 6.6 4.5	ロクロナデ、底部へら切り、手持ちへら削り	
247 15	第I土器群	第I土器群	0004	土師杯	細かい	良好	暗赤褐色	4/5	17.4 7.1 5.7	ロクロナデ、底部へら切り、へら削り	

第38 大野第1遺跡 石製品・土製品 計測表 (縄文～奈良・平安)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	特徴
248 1	001号 住居跡	001号 住居跡	0001	軽石製 石製品	半欠	6.8×3.8×3.5	—	軽石	文鎮状で紐がみられる。用途は不明。 縄文時代
248 2	第2土器群	第2土器群	0149	防錘車	半欠	5.6×—×—	—	土器片を使用	土器片の底部中央部分を穿孔している。 奈良時代
248 3	104号 住居跡	104号 住居跡	0290	防錘車	一部 欠損	4.9×4.9×1.6	—	土製	色調は赤褐色、胎土は良好である。 奈良時代
248 4	B2-80	Z24-80	0001	石製品	完形	4.0×6.1×0.8	19.8	滑石	全体に磨かれ三角に仕上げられている。紐をつけてある垂飾品と考えられる。 縄文時代のものと考えられる。

表39 西大野第1遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
257 1	F7-60	U26-60	0039	R-フレイク	III層下部	6.0×3.7×1.8	45.8		安山岩②	礫面
257 2	F7-60	U26-60	0030	ナイフ形石器	III層下部	3.4×1.7×0.7	3.8		珩質頁岩①	
257 3	F7-60	U26-60	0029	ナイフ形石器	III層下部	3.6×2.4×0.8	9.2		チャート①	
257 4	F7-60	U26-60	0020	U-フレイク	III層下部	4.6×3.4×1.8	27.2		チャート①	3面-上・右・下
257 5	F7-60	U26-60	0033	U-フレイク	III層下部	3.9×4.2×1.3	16.2		泥岩①	2面-上2
257 6	F7-60	U26-60	0041	U-フレイク	III層下部	3.7×2.3×1.2	10.0		珩質頁岩①	3面-上3
257 7	F7-60	U26-60	0009	U-フレイク	III層下部	3.6×1.5×1.0	6.4		珩質頁岩①	4-上4
257 8	F7-55	U26-55	0031	剥片	III層下部	3.3×2.8×0.9	6.2	接合1	珩質頁岩①	3-上2・右1
257 9	F7-60	U26-60	0013	石核	III層下部	5.5×8.6×3.2	176.4	接合1	珩質頁岩①	
258 10	F7-60	U26-60	0016	石核	III層下部	4.6×3.4×1.8	30.4		珩質頁岩③	
258 11	F7-60	U26-60	0032	石核	III層下部	2.3×3.0×1.8	15.8		チャート①	
258 12	F7-60	U26-60	0026	剥片	III層下部	2.4×3.1×1.9	10.3	接合2	安山岩②	礫面+2面-下2
258 13	F7-60	U26-60	0053	石核	III層下部	2.9×4.4×3.1	47.9	接合2	安山岩②	
258 14	F7-60	U26-60	0025	剥片	III層下部	2.2×2.5×1.1	6.0	接合2	安山岩②	1面-上
258 15	F7-60	U26-60	0038	剥片	III層下部	3.4×3.0×0.9	6.5		頁岩②	3面-上3
258 16	F7-60	U26-60	0031	剥片	III層下部	5.0×3.7×2.3	42.8		珩質頁岩①	3面-上3
258 17	F7-60	U26-60	0034	剥片	III層下部	2.9×3.2×0.9	5.8		チャート④	礫面+上3
258 18	F7-60	U26-60	0007	剥片	III層下部	4.7×3.1×1.1	17.8		安山岩②	礫面
259 19	F7-60	U26-60	0006	剥片	III層下部	3.4×5.6×1.8	40.2		安山岩②	礫面
259 20	F7-61	U26-61	0001	剥片	III層下部	2.3×3.1×1.1	5.8		珩質頁岩①	2面-上2
259 21	F7-60	U26-60	0003	剥片	III層下部	1.9×2.3×0.7	1.7		珩質頁岩①	礫面
259 22	F7-60	U26-60	0024	剥片	III層下部	4.8×3.6×2.3	42.3		メノウ①	礫面+2面-上2
259 23	F7-61	U26-61	0002	剥片	III層下部	2.3×3.1×1.1	5.8		珩質頁岩①	2面-右2
259 24	F7-60	U26-60	0018	剥片	III層下部	2.4×1.5×0.6	4.1		珩質頁岩③	3面-上3
259 25	F7-60	U26-60	0043	剥片	III層下部	3.5×3.9×0.9	13.6		チャート⑥	4面-上3・左1
259 26	F7-60	U26-60	0037	剥片	III層下部	3.6×4.4×2.1	23.8		チャート④	礫面+3面-上3
259 27	F7-70	U26-70	0001	剥片	III層下部	2.5×3.5×1.0	8.4		チャート⑩	礫面
259 28	F7-60	U26-60	0047	剥片	III層下部	2.4×3.6×1.4	9.8		メノウ①	礫面+2面-上2
259 29	F7-60	U26-60	0015	剥片	III層下部	3.1×3.8×1.1	9.8		珩質頁岩①	礫面
259 30	F7-60	U26-60	0023	剥片	III層下部	2.4×2.5×0.9	4.4		チャート⑦	礫面+1面-左

表40 西大野第1遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
261 31	F7-50	U26-50	0021	剥片	III層下部	4.4×5.5×1.7	27.8		珉質頁岩①	4面-上4
261 32	F7-61	U26-61	0005	剥片	III層下部	2.3×2.6×0.9	4.3		メノウ①	礫面-下2
261 33	F7-50	U26-50	0036	剥片	III層下部	3.2×4.4×1.1	12.2		珉質頁岩①	礫面
261 34	F7-51	U26-51	0009	剥片	III層下部	1.6×3.7×1.1	5.8		珉質頁岩③	3面-右3
261 35	F7-50	U26-50	0016	剥片	III層下部	2.7×2.4×1.7	9.8		珉質頁岩③	3面-下3
261 36	F7-50	U26-50	0008	剥片	III層下部	2.2×2.1×1.1	5.8		珉質頁岩③	1面-上
261 37	F7-51	U26-51	0013	剥片	III層下部	2.8×2.0×1.0	4.2		珉質頁岩③	2面-右2
261 38	F7-51	U26-51	0009	剥片	III層下部	1.6×3.7×1.1	5.8		珉質頁岩③	2面-上2

表41 西大野第1遺跡 旧石器時代 第3ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
262 39	F7-51	U26-51	0024	ナイフ形石器	III層下部	3.4×1.7×0.8	4.3		珉質頁岩①	
262 40	F7-52	U26-52	0002	削器	III層下部	4.8×2.9×0.9	10.2		珉質頁岩①	4面-上1・右1・下2
262 41	F7-51	U26-51	0015	R-フレイク	III層下部	2.7×1.5×0.5	2.8		珉質頁岩③	3面-右・下・上
262 42	F7-51	U26-51	0030	剥片	III層下部	5.3×2.5×0.7	11.4		頁岩④	礫面
262 43	F7-51	U26-51	0014	石核	III層下部	3.6×2.4×1.9	21.8		珉質頁岩③	
262 44	F7-51	U26-51	0028	石核	III層下部	2.5×3.1×2.9	19.6		珉質頁岩①	
262 45	F7-51	U26-51	0029	石核	攪乱	6.0×3.4×1.7	29.8		珉質頁岩①	
262 46	F7-50	U26-50	0046	石核	III層下部	3.3×5.1×1.9	25.2		珉質頁岩①	
262 47	F7-50	U26-50	0019	剥片	III層下部	3.6×3.0×1.5	12.2		珉質頁岩①	礫面+1面-上
262 48	F7-51	U26-51	0027	剥片	III層下部	3.3×3.6×1.9	19.0		珉質頁岩①	3面-右1・上2
262 49	F7-51	U26-51	0025	剥片	III層下部	3.0×2.0×0.4	2.6		珉質頁岩②	2面-右・上
262 50	F7-41	U26-41	0002	剥片	III層下部	2.1×1.6×0.6	0.6		珉質頁岩①	3面-左3

表42 西大野第1遺跡 旧石器時代 第4ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
264 51	E7-65	T26-65	0059	ナイフ形石器	III層下部	3.5×1.3×0.7	3.5		安山岩①	
264 52	E7-65	T26-65	0011	剥片	III層下部	2.9×3.0×0.7	7.4		安山岩③	1面-左
264 53	E7-65	T26-65	0013	剥片	III層下部	2.7×1.7×1.0	5.2	接合3	チャート②	礫面+3面-上3
264 54	E7-55	T26-55	0056	剥片	III層下部	2.9×2.8×2.9	20.2	接合3	チャート②	礫面+2面-下・左
264 55	E7-65	T26-65	0064	剥片	III層下部	3.3×2.8×0.9	8.8	接合3	チャート②	2面-上2
264 56	E7-65	T26-65	0008	石核	III層下部	2.8×3.5×3.0	39.2	接合3	チャート②	

264 57	E7-55	T26-55	0029	剥片	III層 下部	2.2×2.5×0.5	2.0	接合 3	チャート②	礫面-1面-上
264 58	E7-65	T26-65	0045	小剥片	III層 下部	2.2×2.2×0.6	2.0	接合 4	チャート⑤	2面-上2
264 59	E7-55	T26-55	0074	U-フレイク	III層 下部	4.3×4.9×1.7	34.4	接合 4	チャート⑤	3面-上2・右1
264 60	E7-65	T26-65	0033	剥片	III層 下部	3.7×3.0×1.0	10.2		珪質頁岩①	礫面+3面-上1・下2
265 61	E7-65	T26-65	0052	剥片	III層 下部	2.8×3.6×2.6	20.4	接合 5	珪質頁岩①	1面-上
265 62	E7-65	T26-65	0028	石核	III層 下部	3.0×4.2×2.1	27.8	接合 5	珪質頁岩①	
265 63	E7-65	T26-65	0055	石核	III層 下部	2.9×2.9×2.3	16.2	接合 6	珪質頁岩①	
265 64	E7-65	T26-65	0034	剥片	III層 下部	2.2×3.4×1.6	11.8	接合 6	珪質頁岩①	2面-右2
265 65	E7-64	T26-64	0001	剥片	III層 下部	2.2×2.7×0.8	4.6		安山岩③	礫面
265 66	E7-65	T26-65	0015	石核	III層 下部	2.4×3.5×3.1	21.5		珪質頁岩②	
265 67	E7-66	T26-66	0002	石核	III層 下部	3.3×6.1×1.7	30.0		珪質頁岩①	

表43 西大野第1遺跡 旧石器時代 第5ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
266 68	E7-55	T26-55	0050	ナイフ 形石器	III層 下部	3.5×1.9×1.1	5.9		珪質頁岩①	
266 69	E7-55	T26-55	0028	R-フレイク	III層 下部	5.2×4.1×1.9	31.6		安山岩①	礫面+1面-上
266 70	E7-55	T26-55	0035	R-フレイク	III層 下部	3.2×2.1×0.6	4.2		珪質頁岩①	2面-上2
266 71	E7-55	T26-55	0045	ナイフ 形石器	III層 下部	3.6×2.6×0.9	8.2		頁岩③	
266 72	E7-55	T26-55	0067	剥片	III層 下部	3.2×3.3×0.5	4.2		安山岩①	1面-右
266 73	E7-55	T26-55	0061	U-フレイク	III層 下部	3.3×3.9×1.2	11.5		珪質頁岩④	礫面+1面-左
266 74	E7-55	T26-55	0023	ピエスエ スキーユ	III層 下部	2.8×2.7×1.3	10.2		安山岩③	3面-上2・下1
266 75	E7-55	T26-55	0040	剥片	III層 下部	4.0×3.5×1.7	18.2		安山岩③	2面-上・下
266 76	E7-55	T26-55	0051	剥片	III層 下部	4.8×4.4×1.5	31.8		泥岩①	1面-右
266 77	E7-55	T26-55	0021	剥片	III層 下部	4.4×6.7×1.3	29.5		泥岩①	礫面
266 78	E7-55	T26-55	0038	剥片	III層 下部	3.8×2.5×1.0	9.8		チャート③	礫面+2面-上2
267 79	E7-55	T26-55	0070	石核	III層 下部	2.5×4.8×3.0	24.0		泥岩①	
267 80	E7-55	T26-55	0012	剥片	III層 下部	3.0×3.0×2.6	26.8	接合 7	チャート①	2面-右2
267 81	E7-55	T26-55	0057	剥片	III層 下部	3.3×3.3×2.7	33.9	接合 7	チャート①	1面-上
267 82	E7-55	T26-55	0002	石核	III層 下部	3.5×3.8×4.2	66.4	接合 8	安山岩③	
267 83	E7-55	T26-55	0062	剥片	III層 下部	4.6×4.0×1.7	30.2	接合 8	安山岩③	礫面+3面-上1・左2
267 84	E7-55	T26-55	0007	剥片	III層 下部	3.6×3.6×1.0	10.2		安山岩①	礫面+1面-右1
267 85	E7-55	T26-55	0032	剥片	III層 下部	3.0×4.2×0.8	12.1		安山岩③	礫面

268 86	E7-55	T26-55	0009	石核	III層 下部	4.5×3.2×2.2	30.2		珪質頁岩①	
268 87	E7-55	T26-55	0033	剥片	III層 下部	2.2×4.2×1.5	16.2		珪質頁岩①	礫面+1面-下
268 88	E7-55	T26-55	0017	剥片	III層 下部	4.1×3.1×0.8	9.0		珪質頁岩①	2面-上2
268 89	E7-65	T26-65	0031	U-フレイク	III層 下部	3.5×2.7×1.0	7.2		珪質頁岩①	4面-上2・右1・左1
268 90	E7-55	T26-55	0022	剥片	III層 下部	3.9×3.7×1.5	17.8		珪質頁岩①	礫面+3面-上3
268 91	E7-55	T26-55	0060	石核	III層 下部	5.5×2.8×2.0	24.2	接合 9	珪質頁岩①	
268 92	E7-65	T26-65	0003	小剥片	III層 下部	1.7×2.6×0.6	2.4		珪質頁岩①	2面-上・右
268 93	E7-55	T26-55	0054	剥片	III層 下部	3.4×4.4×0.7	7.2		頁岩⑤	風化面
268 94	E7-55	T26-55	0066	石核	III層 下部	2.8×2.1×0.9	6.2		珪質頁岩	3面-下2・右1
268 95	E7-55	T26-55	0043	石核	III層 下部	2.9×4.0×3.8	47.8		珪質頁岩①	
269 96	E7-55	T26-55	0010	剥片	III層 下部	3.0×3.6×2.0	21.0	接合 10	珪質頁岩①	
269 97	E7-65	T26-65	0063	剥片	III層 下部	3.1×3.1×2.0	10.8	接合 10	珪質頁岩①	4面-上4
269 98	E7-55	T26-55	0011	碎片	III層 下部	1.1×1.2×0.3	0.5	接合 11	珪質頁岩①	
269 99	E7-55	T26-55	0027	碎片	III層 下部	1.1×2.1×1.1	3.6	接合 11	珪質頁岩①	
269 100	E7-55	T26-55	0013	石核	III層 下部	4.2×3.2×2.1	17.0	接合 11	珪質頁岩①	
269 101	E7-55	T26-55	0008	剥片	III層 下部	3.6×3.2×1.3	14.2	接合 11	珪質頁岩①	3面-上・右・左
269 102	E7-55	T26-55	0059	R-フレイク	III層 下部	3.8×3.3×1.3	18.8	接合 12	頁岩①	3面-上3
269 103	E7-55	T26-55	0052	剥片	III層 下部	4.5×4.0×1.1	16.8	接合 12	頁岩①	礫面+2面-上2

表44 西大野第1遺跡 旧石器時代 第6ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
272 104	E7-31	T26-31	0016	石斧	X層	6.7×4.8×2.0	77.9	接合 13	粘板岩①	
272 105	E7-31	T26-31	0012	剥片	X層	2.2×2.8×0.4	3.3	接合 13	粘板岩①	3面-上2・右1
272 106	E7-31	T26-31	0014	碎片	X層	1.1×1.4×0.1	0.2	接合 13	粘板岩①	
272 107	E7-32	T26-32	0002	剥片	X層	4.9×5.8×0.9	19.4		粘板岩②	3面-上2・左1
272 108	E7-32	T26-32	0017	U-フレイク	X層	2.4×0.5×0.7	1.2		チャート⑩	2面-下2
272 109	E7-32	T26-32	0019	小剥片	X層	1.8×2.0×0.4	1.3		珪質頁岩⑧	2面-下2
272 110	E7-32	T26-32	0022	R-フレイク	IX層 下部	2.3×2.9×0.8	6.3		珪質凝灰岩 ①	3面-右2・左1
272 111	E7-32	T26-32	0013	剥片	X層	2.4×2.2×0.7	4.1		チャート⑩	2面-下・上
272 112	E7-31	T26-31	0013	剥片	X層	2.4×1.8×1.0	2.3		チャート⑩	2面-右2
272 113	E7-32	T26-32	0024	剥片	X層	2.1×2.2×0.6	3.6		閃緑岩①	礫面-1面-右
272 114	E7-32	T26-32	0015	剥片	IX層 下部	3.0×3.8×0.9	9.2		チャート⑩	2面-上2

272 115	E7-32	T26-32	0016	ピエスエ スキュー	X層	2.3×2.2×1.1	3.8		チャート⑨	2面-下2
272 116	E7-32	T26-32	0014	Uフリク	X層	1.7×1.4×0.6	0.8		黒曜石③	4面-右2・上1・左1

表45 西大野第1遺跡 旧石器時代 第7ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
273 117	E7-30	T26-30	0006	石斧	X層	4.0×2.2×1.0	11.2		玄武岩①	
273 118	E7-30	T26-30	0014	Uフリク	X層	4.5×3.9×1.1	16.0		頁岩⑨	3面-左3・上2・下1
273 119	E7-40	T26-40	0010	Rフリク	X層	4.0×1.3×0.5	2.3		珪質頁岩⑥	3面-上2・下1
273 120	E7-30	T26-30	0009	Rフリク	IX層 下部	2.1×2.1×0.5	2.3		珪質凝灰岩 ①	4面-上2・下2
273 121	E7-41	T26-41	0002	Uフリク	X層	1.7×2.5×0.9	3.6		メノウ②	3面-下2・上1
273 122	E7-41	T26-41	0004	石核	X層	1.6×2.3×1.6	5.8		メノウ②	
273 123	E7-30	T26-30	0012	石核	X層	2.8×1.4×2.5	13.0		砂岩①	
273 124	E7-40	T26-40	0008	剥片	X層	2.6×3.7×0.5	6.1		砂岩④	2面-下・左
273 125	E7-30	T26-30	0015	ピエスエ スキュー	X層	1.8×1.9×0.6	1.8		頁岩⑧	
273 126	E7-30	T26-30	0001	ピエスエ スキュー	X層	1.9×1.9×0.6	2.2		チャート⑨	
273 127	E7-31	T26-31	0005	ピエスエ スキュー	X層	2.5×2.1×0.8	3.6		メノウ②	
273 128	E7-31	T26-31	0007	剥片	X層	3.4×1.5×1.4	5.8		珪質頁岩⑥	3面-下3
273 129	E7-40	T26-40	0004	ピエスエ スキュー	X層	2.5×1.5×1.0	3.9		チャート⑩	
273 130	E7-30	T26-30	0002	ピエスエ スキュー	X層	2.6×1.8×0.6	2.1		安山岩②	

表46 西大野第1遺跡 旧石器時代 第8ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
275 131	D7-49	S26-49	0007	剥片	X層	2.3×2.7×1.0	5.8		珪質凝灰岩 ①	2面-左2
275 132	D7-49	S26-49	0002	剥片	X層	3.4×1.1×0.5	2.2		砂岩①	礫面
275 133	D7-49	S26-49	0006	剥片	X層	2.0×2.2×0.4	1.8		砂岩①	2面-上・右
275 134	D7-69	S26-69	0010	剥片	X層	6.8×4.6×2.0	57.0	接合 14	砂岩①	礫面+4面-上4
275 135	D7-49	S26-49	0004	剥片	X層	6.7×5.9×2.1	68.3	接合 14	砂岩①	礫面+3面-上3

表47 西大野第1遺跡 旧石器時代 第9ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
275 136	D7-59	S26-59	0025	ピエスエ スキュー	X層	2.9×2.3×0.7	5.1		砂岩①	
275 137	D7-59	S26-59	0019	ピエスエ スキュー	X層	2.2×1.7×0.9	3.7		砂岩①	
276 138	D7-59	S26-59	0032	小剥片	X層	1.6×2.5×0.6	2.2		砂岩①	2面-左2

276 139	D7-59	S26-59	0019	ピエスエ スキーユ	X層	2.2×1.7×0.9	3.7		砂岩①	
276 140	D7-59	S26-59	0012	ピエスエ スキーユ	X層	1.8×1.5×0.4	1.2		安山岩④	
276 141	D7-58	S26-58	0003	ピエスエ スキーユ	X層	2.4×2.4×0.7	7.9		安山岩④	
276 142	D7-59	S26-59	0008	ピエスエ スキーユ	X層	2.1×2.4×0.9	3.9		安山岩④	
276 143	D7-59	S26-59	0005	U-フレイク	X層	1.6×1.7×0.4	0.3		メノウ②	2面-下2
276 144	D7-59	S26-59	0014	ピエスエ スキーユ	X層	2.7×3.6×1.1	9.8		閃緑岩①	
276 145	D7-58	S26-58	0005	U-フレイク	X層	4.0×2.8×0.6	6.1		頁岩⑦	6面-上3・下3
276 146	D7-59	S26-59	0027	剥片	X層	2.8×3.7×0.5	5.8		粘板岩①	3面-上・下・左
276 147	D7-58	S26-58	0009	石斧片	X層	4.7×1.9×0.6	6.1		頁岩⑥	
276 148	D7-59	S26-59	0029	石核	X層	4.3×5.1×2.6	70.2		チャート⑧	
276 149	D7-59	S26-59	0048	剥片	X層	3.3×3.7×1.1	14.3		砂岩③	礫面+3面-上3
276 150	D7-58	S26-58	0008	剥片	X層	3.7×1.7×0.7	4.2		砂岩①	3面-下1・右2
276 151	D7-69	S26-69	0002	砕片	X層	1.8×1.9×0.6	3.1		閃緑岩①	
276 152	D7-59	S26-59	0030	剥片	X層	6.2×4.5×1.6	32.1		砂岩②	礫面+風化面+1面-上
276 153	D7-69	S26-69	0007	小剥片	X層	2.1×2.2×0.6	2.3	接合 15	閃緑岩①	
276 154	D7-59	S26-59	0018	小剥片	X層	2.5×1.0×1.0	1.2		頁岩⑩	
276 155	D7-69	S26-69	0006	小剥片	X層	2.6×1.9×0.6	4.2		閃緑岩①	
276 156	D7-59	S26-59	0033	石斧片	X層	2.5×4.1×0.7	9.8	接合 15	閃緑岩①	

表48 西大野第1遺跡 旧石器時代 第10ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
277 157	D7-48	S26-48	0001	U-フレイク	X層	2.1×1.6×0.5	1.8		珪質頁岩⑤	1面-左

表49 西大野第1遺跡 旧石器時代 第11ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
277 158	D7-39	S26-39	0001	石核	X層	3.1×2.9×1.4	9.2		珪質頁岩 ⑤	

表50 西大野第1遺跡 旧石器時代 第12ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
279 159	D6-08	S25-08	0002	ナイフ 形石器	VII層 下部	4.8×2.1×0.9	6.2		珪質凝灰岩 ②	
279 160	D5-98	S24-98	0001	剥片	VII層 下部	1.3×1.5×0.9	8.1		珪質凝灰岩 ②	4面-下3・上1

表51 西大野第1遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
296 ₁	C4-04	R23-04	0002	打石斧	半欠	—×5.8×2.0	—	安山岩	片面は全体に片面は礫面を残す周辺調整である。
296 ₂	B4-02	Q23-02	0001	打石斧	半欠	—×5.8×2.0	—	硬砂岩	両面とも周辺を大きく剝離して調整してある。
296 ₃	G6-40	V25-40	0002	凹石	完形	8.2×8.0×4.0	347.5	凝灰岩	円礫の周辺と中央部を叩いてある。
296 ₄	G5-62	V24-62	0002	敲石	完形	9.2×5.6×3.9	297.4	砂岩	礫の周辺部に打痕が見られる。
296 ₅	C4-02	R23-02	0001	磨石	一部欠損	—×6.1×3.7	—	安山岩	礫の全面に磨痕が見られる。
296 ₆	025号土坑	025号土坑	0001	磨石	完形	6.5×5.1×2.8	137.8	頁岩	礫の全面に磨痕が見られる。
296 ₇	F6-80	U25-80	0001	石鏃	先端欠損	—×2.0×0.6	—	粘板岩	比較的大きめの剝離で全面を丁寧に調整してある。
296 ₈	B5-29	Q24-29	0001	石鏃	完形	2.7×1.6×0.4	1.6	チャート	全面を丁寧に調整してある。
296 ₉	004号住居跡	004号住居跡	0238	石鏃	完形	2.1×1.7×0.4	2.4	頁岩	周辺調整で形を整えている。
296 ₁₀	C7-20	R26-20	0002	石鏃	先端欠損	—×1.9×0.4	—	珪質頁岩	全面を丁寧に調整してある。
296 ₁₁	D4-48	S23-48	0002	石鏃	完形	1.7×1.4×0.3	1.2	チャート	全面を丁寧に調整してある。
296 ₁₂	B4-40	Q23-40	0001	Uフレイク	完形	1.9×4.2×1.2	7.4	黒曜岩	縁辺に刃こぼれが見られる。
296 ₁₃	G5-64	V24-64	0001	Uフレイク	完形	3.3×2.1×1.2	9.0	チャート	縁辺に刃こぼれが見られる。

表52 西大野第1遺跡 縄文時代 遺構出土土器観察表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
293 ₁₄	027号住居跡	027号住居跡	0021 他	深鉢	石英細粒含む	普通	茶褐色	口縁部 4/5	— — —	波状口縁、粘土と沈線による区画、LR縄文で施文	土器囲炉
294 ₁₉	040号土坑	040号土坑	0001	深鉢	石英細粒含む	普通	茶褐色	底部と口縁部一部欠	78.0 — —	沈線による区画、RL縄文による区画	埋嚢埋葬
294 ₂₁	039号土坑	039号土坑	0001	浅鉢	細かい砂粒含む	普通	褐色	胴部一部欠損	— 10.0 10.2	黒浜式土器、底部にも施文	
295 ₂₄	001号方墳	001号方墳	0001	深鉢	細かい砂粒含む	普通	淡褐色	口縁部 胴部一部残存	— — —	縄文を施文後沈線で削り仕上げ。加曾利B式	

表53 西大野第1遺跡 奈良・平安時代 遺構及び包含層出土土器観察表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
313 ₁	002号住居跡	002号住居跡	0014	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	口縁部 ~胴部	— — —		
313 ₂	002号住居跡	002号住居跡	0767	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 ₃	002号住居跡	002号住居跡	接合 7	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 ₄	002号住居跡	002号住居跡	0606	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 ₅	002号住居跡	002号住居跡	0766	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
313 6	002号 住居跡	002号 住居跡	0818	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 7	002号 住居跡	002号 住居跡	0514	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 8	002号 住居跡	002号 住居跡	0767	須恵器 杯	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 9	002号 住居跡	002号 住居跡	0772	須恵器 皿	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	完形			
313 10	002号 住居跡	002号 住居跡	0486	須恵器 台付椀	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	脚部の み			
313 11	003号 住居跡	004号 住居跡	0154	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	口縁部			
313 12	003号 住居跡	004号 住居跡	0155	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	口縁部			
313 13	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 33	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	胴部			
313 14	004号 住居跡	004号 住居跡	0154	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	口縁部			
313 15	004号 住居跡	004号 住居跡	0645	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	口縁部			
313 16	004号 住居跡	004号 住居跡	0167	須恵器 甕	細かい	良好	外灰色 内淡灰色	口縁部			
314 17	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 37	須恵器 甕			褐色	口縁 胴部 25%	26.0 — —		
314 18	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 43	須恵器 甕			外黒褐色 内褐色	口縁 10%			
314 19	004号 住居跡	004号 住居跡		須恵器 甕	雲母		灰色	底部 40%	— — (14.2)		
314 20	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 32	須恵器 甕			褐色	口縁 胴部 15%	(23.0) (19.1) —		
314 21	004号 住居跡	004号 住居跡	0190	須恵器 壺			灰色				
314 22	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 42	須恵器 甕			外黒褐色 内褐色	口縁 10%	27.6 — —		
314 23	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 44	須恵器 甕			外暗褐色 内茶褐色	口縁 胴部 10%	20.0 — —		
314 24	004号 住居跡	004号 住居跡	0007	甕				口縁 胴部			
314 25	004号 住居跡	004号 住居跡		土師器 甕			外黒褐色 内黒褐色		10.8 — —		
314 26	004号 住居跡	004号 住居跡	0013 0015	甕				口縁 胴部 20%	(19.6) — —		
314 27	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 38	土師器 甕			褐色	口縁 胴部 10%	8.5 (7.9) —		
314 28	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 49	土師器 甕			茶褐色		24.8 — —		

315 29	004号 住居跡	004号 住居跡	0302								
315 30	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 39								
315 31	004号 住居跡	004号 住居跡	0249								
315 32	004号 住居跡	004号 住居跡									
315 33	004号 住居跡	004号 住居跡	0217								
315 34	004号 住居跡	004号 住居跡	0265								
315 35	004号 住居跡	004号 住居跡	接合 40								
315 36	004号 住居跡	004号 住居跡	0597								
315 37	004号 住居跡	004号 住居跡									
315 38	004号 住居跡	004号 住居跡	0006								
315 39	004号 住居跡	004号 住居跡									
315 40	004号 住居跡	004号 住居跡	0147								
315 41	004号 住居跡	004号 住居跡	0533								
315 42	004号 住居跡	004号 住居跡	0008	甕							
315 43	005号 住居跡	005号 住居跡	0020	甕				口縁 胴部			
315 44	005号 住居跡	005号 住居跡	0029	甕		赤褐色		口縁 胴部 30%	(25.0) — —		
315 45	005号 住居跡	005号 住居跡		甕		赤褐色	80%		— — 7.0		
315 46	025号 住居跡	069号 住居跡	0068 0025 0015	土師器 甕							
315 47	005号 住居跡	005号 住居跡	0027	ミチエ7 土器		淡褐色		口縁を 除き遺 存			
316 48	005号 住居跡	005号 住居跡	0028	高杯		外赤褐色 内黒褐色	90%		12.6 16.8 6.7		
316 49	005号 住居跡	005号 住居跡	0019	甕		赤褐色	50%		(12.6) 14.7 (10.8)		
316 50	005号 住居跡	005号 住居跡	0020	甕				口縁 25%	(13.6) — —		
316 51	005号 住居跡	005号 住居跡	0012	鉢		淡黄褐色	70%		13.0 4.0 6.4		

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
316 52	005号 住居跡	005号 住居跡	0031	甕				口縁			
316 53	007号 住居跡	007号 住居跡		杯			褐色	70%	14.4 4.5 7.6		
316 54	007号 住居跡	007号 住居跡		壺			灰色	底部	— — 13.8		
316 55	010号 住居跡	010号 住居跡		甕				口縁 胴部 (10%)			
316 56	012号 住居跡	012号 住居跡		甕			灰色	口縁 胴部	(28.8) — —		
316 57	010号 住居跡	010号 住居跡		杯				口縁	(14.0) — —		
316 58	010号 住居跡	010号 住居跡		杯					14.2 — —		
316 59	012号 住居跡	012号 住居跡		杯			暗褐色	30%	13.6 — —		
316 60	012号 住居跡	012号 住居跡		杯			外暗褐色 内褐色	70%	13.6 3.9 6.3		
316 61	012号 住居跡	012号 住居跡		須恵器 甕			外暗褐色 内茶褐色				
317 62	016号 住居跡	016号 住居跡		杯			外暗褐色 内暗褐色	60%	17.8 6.6 7.0		
317 63	021号 住居跡	065号 住居跡		甕							
317 64	029号 住居跡	073号 住居跡		須恵器 甕		普通	褐色	胴部 底部			
317 65	029号 住居跡	073号 住居跡		甕							
317 66	029号 住居跡	073号 住居跡		甕			灰色	口縁 胴部	(23.6)		
317 67	037号 住居跡	037号 住居跡		須恵器 杯			灰褐色	完形	13.0 7.0 4.0	ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	
317 68	029号 住居跡	073号 住居跡		須恵器 杯		良好	外暗褐色 内茶褐色	完形	14.2 4.5 7.2		
317 69	029号 住居跡	073号 住居跡		土師器 灯明皿			外明褐色 内暗褐色				
317 70	037号 住居跡	037号 住居跡		須恵器 杯			赤褐色	80%	13.9 7.4 3.6	回転ヘラケズリ	
317 71	A4-88	P23-88		杯	白色粒 スコリア		褐色				
317 72	A4	P23									
317 73	A4-88	P23-88		高杯			褐色	胴部			

表54 西大野第1遺跡 鉄製品・石製品 計測表 (古墳～奈良・平安)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	材質	特徴
318 1	001号 方墳	001号 方墳	0003	鉄鏃	やや 破損	—×3.0×3.0	—	鉄	先端から柄の一部にかけて残存、刃はやや錆が進む。
318 2	001号 方墳	001号 方墳	0012	鉄鏃	やや 破損	—×—×—	—	鉄	先端から柄の一部にかけて残存、刃はやや錆が進む。
318 3	001号 方墳	001号 方墳	0004	鉄鏃	やや 破損	—×—×0.4	—	鉄	1と2と比べてやや刃部が傘の様に広がる。
318 4	002号 住居跡	002号 住居跡	0004	火掻き 棒	破損	—×—×—	—	鉄	断面が円形の棒状の製品でかまど内から出土したところから火掻き棒と考えられる。
318 5	002号 住居跡	002号 住居跡	0662	釘	頭部 破損	—×—×—	—	鉄	やや断面が四角で先が折れている。
318 6	002号 住居跡	002号 住居跡	0838	釘	頭部 先端 破損	—×0.6×0.4	—	鉄	焼けてやや溶けている。断面が楕円形を呈する。
318 7	002号 住居跡	002号 住居跡	0850	釘先	破片	—×—×—	—	鉄	断面は円形に近くやや曲がっている。
318 8	002号 住居跡	002号 住居跡	0837	釘	破片	—×—×—	—	鉄	断面は円形である。6と同じ個体である可能性が高い。
318 9	001号 方墳	001号 方墳	0011	刀子	先端 欠損	—×1.6×0.3	—	鉄	断面は逆二等辺三角形を呈する。刀身の部分は錆が進んでいる。
318 10	001号 方墳	001号 方墳	0011	刀子	刀身 残存	—×1.1×0.2	—	鉄・木質	鞘の部分の木質がかなり残っている。
318 11	004号 住居跡	004号 住居跡	0210	釘	完形	4.2×1.3×0.3	4.4	鉄	全体に錆膨れが著しい。断面は四角形を呈する。頭部近くにリンク状のものが付着している。
318 12	C4-28	R23-28	0002	鉄製品	—	3.2×4.8×0.5	—	鉄	やや断面が厚く用途が不明の鉄片である。
318 13	E6-00	T25-00	0002	刀子	刀身 残存	—×1.1×0.3	—	鉄	方墳に関連した遺物である可能性もある。
318 14	004号 住居跡	004号 住居跡	0228	鎌?	一部 残存	—×4.5×0.3	—	鉄	先端と柄に近い部分がない。
318 15	037号 住居跡	037号 住居跡	0007	鉄片	一部 残存	—×—×—	—	鉄	用途不明の鉄片。断面が三角で中が中空構造である。
318 16	003号 住居跡	003号 住居跡	0166	刀子	柄残 損	—×0.9×0.4	—	鉄・木質	刀子の柄の部分で木質が多く残っている。
318 17	C5-22	R24-22	0005	刀子	刀身 残存	—×1.1×0.3	—	鉄	錆膨れが全体に進み残りが悪い。
318 18	037号 住居跡	037号 住居跡	0007	刀子	ほぼ 完形	—×—×0.5	—	鉄	断面が菱形を呈する。残りの状態は良好である。
318 19	002号 住居跡	002号 住居跡	0817	紡錘車	一部 破損	5.0×4.8×0.5	—	鉄	円形を呈していると思われるが炭や木質と錆膨れのため元の形を復元するしかない。
318 20-	002号 住居跡	002号 住居跡	0844	砥石	破片	—×—×—	—	凝灰岩	全面に砥石として使用した跡が伺われる。

表55 東大野第2遺跡 旧石器時代 第1群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
329 1	第1群	第1群 1ブロック	0115	剥片	IX層	2.3×2.7×1.4	7.8	接合 1	安山岩①	
329 2	第1群	第1群 1ブロック	0141	剥片転 用石核	IX層	2.6×3.7×1.4	12.8	接合 1	安山岩①	
329 3	第1群	第1群 1ブロック	0120	剥片	IX層	3.6×4.4×1.2	14.2		安山岩①	礫面+1面-上
329 4	第1群	第1群 1ブロック	0143	剥片	IX層	3.5×3.7×0.4	4.2		安山岩①	2面-上2
329 5	第1群	第1群 1ブロック	0095	剥片	IX層	3.7×2.5×1.6	12.2		安山岩①	4面-下3・上1
329 6	第1群	第1群 1ブロック	0139	剥片	IX層	3.3×3.6×1.1	13.8		安山岩①	礫面+1面-右
329 7	第1群	第1群 1ブロック	0121	剥片	IX層	5.6×4.6×1.9	46.0		安山岩①	礫面+7面-上4・左3
330 8	第1群	第1群 2ブロック	0102	剥片転 用石核	IX層	5.6×4.1×2.3	42.0	接合 2	安山岩①	
330 9	第1群	第1群 2ブロック	0144	碎片	IX層	1.4×1.8×0.6	1.2	接合 2	安山岩①	
330 10	第1群	第1群 2ブロック	0166	碎片	IX層	1.8×1.8×0.5	0.8	接合 2	安山岩①	
330 11	第1群	第1群 2ブロック	0163	R-フレイク	IX層	5.1×3.6×1.5	18.8		安山岩①	礫面+3面-上2・右1
330 12	第1群	第1群 2ブロック	0100	剥片	IX層	2.6×3.8×1.2	10.5		安山岩①	2面-左・上
330 13	第1群	第1群 2ブロック	0157	削器	IX層	6.4×5.6×1.5	42.2	接合 3	安山岩①	礫面+2面-上2
330 14	第1群	第1群 2ブロック	0155	小剥片	IX層	1.7×3.1×0.4	0.8	接合 3	安山岩①	1面-左
331 15	第1群	第1群 2ブロック	0114	剥片	IX層	3.3×2.4×0.6	4.2	接合 4	泥岩①	礫面+2面-上2
331 16	第1群	第1群 2ブロック	0167	小剥片	IX層	2.6×2.2×0.5	2.1	接合 4	泥岩①	1面-上
331 17	第1群	第1群 2ブロック	0152	剥片	IX層	2.8×2.5×0.8	4.8	接合 4	泥岩①	礫面+1面-右
331 18	第1群	第1群 2ブロック	0128	剥片	IX層	3.4×2.3×0.6	4.1	接合 4	泥岩①	礫面+2面-上・右
331 19	第1群	第1群 2ブロック	0153	剥片	IX層	3.4×2.6×0.7	5.8	接合 4	泥岩①	3面-上2・右1
331 20	第1群	第1群 2ブロック	0097	剥片	IX層	3.2×2.4×0.7	3.0	接合 4	泥岩①	1面-上
331 21	第1群	第1群 2ブロック	0099	剥片	IX層	3.9×4.3×1.2	19.4	接合 4	泥岩①	礫面
331 22	第1群	第1群 2ブロック	0165	剥片	IX層	3.6×2.5×0.8	4.1	接合 4	泥岩①	礫面+2面-上2
331 23	第1群	第1群 2ブロック	0105	剥片	IX層	5.5×4.3×1.3	29.9	接合 4	泥岩①	礫面+2面-上2
331 24	第1群	第1群 2ブロック	0147	剥片	IX層	5.0×4.3×1.4	25.5	接合 4	泥岩①	礫面+2面-左・上
332 25	第1群	第1群 2ブロック	0151	剥片	IX層	3.2×1.6×0.6	1.7		泥岩①	3面-上・右・下
332 26	第1群	第1群 2ブロック	0148	小剥片	IX層	1.8×1.5×0.8	1.2	接合 5	泥岩①	1面-上
332 27	第1群	第1群 2ブロック	0150	剥片	IX層	3.7×2.5×1.4	9.8	接合 5	泥岩①	1面-上
332 28	第1群	第1群 2ブロック	0146	剥片	IX層	3.0×4.5×0.8	8.8		泥岩①	1面-上
332 29	第1群	第1群 2ブロック	0154	剥片	IX層	2.0×4.3×1.2	6.8		泥岩①	1面-上
332 30	第1群	第1群 2ブロック	0145	剥片	IX層	1.8×4.0×0.8	3.2		泥岩①	1面-上
332 31	第1群	第1群 2ブロック	0156	敲石	IX層	8.7×6.1×3.2	253.0		砂岩①	

334 32	第1群	第1群 3ブロック	0074	剥片	IX層	2.6×3.1×1.5	10.2	接合 6	安山岩①	2面-右・左
334 33	第2群	第2群 ブロック	0111	剥片	IX層	2.9×4.0×0.5	5.2	接合 6	安山岩①	4面-上3・左1
334 34	第1群	第1群 3ブロック	0035	剥片	IX層	3.6×3.1×0.9	8.5	接合 6	安山岩①	2面-上2
334 35	第1群	第1群 3ブロック	0123	小剥片	IX層	1.4×2.6×0.7	1.8	接合 6	安山岩①	2面-上2
334 36	第1群	第1群 3ブロック	0107	小剥片	IX層	2.1×3.6×0.8	4.4	接合 6	安山岩①	3面-上3
334 37	第1群	第1群 3ブロック	0033	剥片	IX層	2.2×2.4×1.0	4.8	接合 6	安山岩①	1面-上
334 38	第1群	第1群 3ブロック	0129	剥片	IX層	2.1×2.4×1.0	3.2	接合 6	安山岩①	2面-上2
334 39	第1群	第1群 3ブロック	0112	小剥片	IX層	2.1×1.9×0.5	1.0	接合 6	安山岩①	2面-上2
334 40	第1群	第1群 3ブロック	0110	剥片	IX層	2.0×2.9×0.7	3.8	接合 6	安山岩①	3面-上・左・下
335 41	第1群	第1群 3ブロック	0127	剥片	IX層	3.3×2.1×0.8	4.2	接合 7	安山岩①	礫面+1面-左
335 42	第1群	第1群 3ブロック	0090	剥片	IX層	4.1×4.3×1.8	25.0	接合 7	安山岩①	礫面+1面-上
335 43	第1群	第1群 3ブロック	0077	Rフレイク	IX層	4.8×3.8×1.8	28.1		珪質頁岩①	3面-上3
338 44	第1群	第1群 4ブロック	0024	ナイフ 形石器	IX層	5.4×3.1×1.0	14.1		安山岩②	1面-下
338 45	第1群	第1群 4ブロック	0084	石刃	IX層	7.4×3.1×1.4	32.4		安山岩①	礫面+3面-上3
338 46	第1群	第1群 4ブロック	0082	Uフレイク	IX層	5.6×5.7×1.1	25.8		安山岩①	礫面+3面-上3
338 47	第1群	第1群 4ブロック	0059	剥片	IX層	3.8×3.6×0.8	9.8		安山岩①	2面-上・左
338 48	第1群	第1群 4ブロック	0094	剥片	IX層	6.4×4.8×1.4	31.4		安山岩①	2面-上・右
338 49	第1群	第1群 4ブロック	0081	剥片	IX層	3.8×3.4×1.4	9.2		安山岩①	礫面+1面-右
338 50	第1群	第1群 4ブロック		剥片	IX層	2.2×3.9×1.1	9.1		安山岩①	2面-下2
338 51	第1群	第1群 4ブロック	0111	剥片	IX層	2.9×4.0×0.5	5.2		安山岩①	2面-上2
338 52	第1群	第1群 4ブロック	0001	剥片	IX層	2.9×4.0×0.8	4.2		安山岩①	2面-左2
338 53	第1群	第1群 4ブロック	0079	石核	IX層	4.5×5.0×3.6	86.2		流紋岩①	
338 54	第1群	第1群 4ブロック	0078	剥片	IX層	2.7×3.8×0.9	9.8		安山岩①	礫面+3面-上3
339 55	第1群	第1群 4ブロック	0083	剥片	IX層	4.1×4.7×1.2	19.8	接合 8	安山岩①	1面-右
339 56	第1群	第1群 4ブロック	0080	剥片	IX層	2.0×3.7×0.4	3.2	接合 8	安山岩①	1面-上
339 57	第1群	第1群 4ブロック	0060	石核	IX層	2.5×5.1×2.5	41.0		珪質頁岩 ②	
339 58	第1群	第1群 4ブロック	0058	石核	IX層	3.9×4.6×3.6	80.5		頁岩①	
339 59	第1群	第1群 5ブロック	0061	石核	IX層	2.5×3.8×1.8	12.9		黒曜石①	
339 60	第1群	第1群 5ブロック	0086	剥片	IX層	7.0×4.2×3.2	1.3	接合 9	安山岩①	礫面+3面-上・上・右
339 61	第1群	第1群 5ブロック	0012	剥片	IX層	3.1×3.9×1.2	11.9	接合 9	安山岩①	礫面+1面-左
339 62	第1群	第1群 5ブロック	0043	Rフレイク	IX層	2.7×3.5×2.2	9.7		黒曜石①	風化面+1面-上
339 63	第1群	第1群 5ブロック	0061	剥片	IX層	2.3×2.6×0.6	4.8		安山岩①	4面-上4

339 64	第1群	第1群 5ブロック	0119	剥片	IX層	3.8×4.8×1.0	17.2		安山岩①	礫面+1面-上
339 65	第1群	第1群 5ブロック	0020	U-フレイク	IX層	2.2×1.8×0.4	3.1		黒曜石①	2面-上・右
340 66	第1群	第1群 5ブロック	0087	砕片	IX層	1.6×2.0×0.6	1.4	接合 10	安山岩①	3面-上1・右2
340 67	第1群	第1群 5ブロック	0014	砕片	IX層	1.3×2.2×0.5	1.0	接合 10	安山岩①	1面-上
340 68	第1群	第1群 5ブロック	0068	石核	IX層	3.5×8.2×2.4	62.2	接合 10	安山岩①	
340 69	第1群	第1群 5ブロック	0018	剥片	IX層	3.0×3.2×0.7	2.8	接合 10	安山岩①	3面-上2・下1
340 70	第1群	第1群 5ブロック	0047	R-フレイク	IX層	3.7×4.1×1.6	22.2	接合 10	安山岩①	3面-上・下・右
340 71	第1群	第1群 5ブロック	0045	剥片	IX層	5.0×2.9×2.0	9.7	接合 11	安山岩①	5面-上4・左1
340 72	第1群	第1群 5ブロック	0088	小剥片	IX層	3.2×1.6×0.8	2.1	接合 11	安山岩①	1面-上
341 73	第1群	第1群 5ブロック	0070	砕片	IX層	3.7×6.6×1.0	20.6		安山岩①	礫面+3面-上3
341 74	第1群	第1群 5ブロック	0022	剥片	IX層	3.1×4.6×0.4	5.9		砂岩①	3面-下3
341 75	第1群	第1群 7ブロック	0134	石核転 用U-F	IX層	3.9×6.8×2.5	52.0		メノウ①	
341 76	第1群	第1群 6ブロック	0064	剥片	IX層	3.2×3.7×1.5	11.8		安山岩①	2面-上・左
341 77	第1群	第1群 7ブロック	0136	R-フレイク	IX層	3.9×4.8×1.3	21.7		安山岩①	3面-上1・右2
341 78	第1群	第1群 7ブロック	0008	剥片	IX層	3.2×2.9×0.7	4.2		安山岩①	3面-上2・下1
341 79	第1群	第1群 7ブロック	0132	U-フレイク	IX層	3.7×4.4×1.1	16.2		珪質頁岩①	1面-上
341 80	第1群	第1群 7ブロック	0135	剥片	IX層	2.4×4.7×0.6	6.2		安山岩①	1面-上
341 81	第1群	第1群 7ブロック	0067	U-フレイク	IX層	3.2×3.9×1.3	14.1		黒曜石①	1面-下
341 82	第1群	第1群 7ブロック	0066	剥片	IX層	2.4×3.4×1.5	10.1		黒曜石①	3面-上2・下1

表56 東大野第2遺跡 旧石器時代 第2群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
343 83	第2群	第2群 8ブロック	0060	U-フレイク	IX層	2.6×5.0×2.2	25.6	接合 12	黒曜石①	1面-右
343 84	第2群	第2群 9ブロック	0019	U-フレイク	IX層	3.4×3.8×1.4	12.2	接合 12	黒曜石①	摂理面+2面-上・右
343 85	第2群	第2群 10ブロック	0093	剥片	IX層	1.9×2.7×1.3	8.2	接合 12	黒曜石①	4面-上4
343 86	第2群	第2群 9ブロック	0112	砕片	IX層	1.8×1.1×0.5	0.8	接合 12	黒曜石①	
343 87	第2群	第2群 8ブロック	0004	剥片	IX層	3.3×3.4×1.1	10.4	接合 12	黒曜石①	3面-上2・下1
343 88	第2群	第2群 8ブロック	0017	剥片	IX層	2.1×2.1×0.6	4.2	接合 12	黒曜石①	2面-上・下
343 89	第2群	第2群 10ブロック	0028	砕片	IX層	1.7×1.8×0.5	1.2	接合 12	黒曜石①	
343 90	第2群	第2群 8ブロック	0013	砕片	IX層	2.4×2.1×0.5	2.2	接合 12	黒曜石①	2面-上・左
343 91	第2群	第2群 8ブロック	0065	剥片	IX層	2.7×3.2×0.6	4.8	接合 12	黒曜石①	2面-右2
343 92	第2群	第2群 8ブロック	0005	R-フレイク	IX層	5.2×3.9×1.6	20.1		黒曜石①	3面-右2・下1
343 93	第2群	第2群 9ブロック	0020	剥片	IX層	1.9×3.4×0.7	4.2		黒曜石①	3面-左・下・右

343 94	第2群	第2群 10ブロック	0124	剥片	IX層	2.4×2.0×0.8	4.1		黒曜石①	4面-上3・下1
343 95	第2群	第2群 10ブロック	0088	小剥片	IX層	1.9×2.3×0.7	1.9		黒曜石①	2面-右2
343 96	第2群	第2群 8ブロック	0012	U-フレイク	IX層	4.3×5.7×0.9	11.5		黒曜石①	風化面+1面-上
343 97	第2群	第2群 9ブロック	0027	小剥片	IX層	1.7×2.2×0.7	2.2		黒曜石①	3面-上2・下1
344 98	第2群	第2群 10ブロック	0056	剥片	IX層	4.2×3.2×0.8	7.8		安山岩①	礫面+2面-上・左
344 99	第2群	第2群 10ブロック	0095	剥片	IX層	4.7×3.4×0.9	8.5		安山岩①	2面-左2
344 100	第2群	第2群 10ブロック	0028	剥片	IX層	2.3×2.7×0.7	2.9		黒曜石①	3面-上1・下2
344 101	第2群	第2群 10ブロック	0032	剥片	IX層	3.8×1.2×0.7	3.0		珩質頁岩④	2面-上2
344 102	第2群	第2群 10ブロック	0126	剥片	IX層	3.9×3.9×0.9	10.0		珩質頁岩④	拱理面+3面-上2・右1
344 103	第2群	第2群 10ブロック	0058	剥片	IX層	2.6×2.3×0.9	5.0		珩質頁岩④	5面-上3・左1・下1
344 104	第2群	第2群 10ブロック	0068	R-フレイク	IX層	2.5×1.9×1.0	5.9		珩質頁岩④	2面-左・下
344 105	第2群	第2群 10ブロック	0025	石核	IX層	3.0×2.8×2.7	19.8		珩質頁岩④	
344 106	第2群	第2群 10ブロック	0034	剥片	IX層	2.5×3.1×1.0	7.2		メノウ①	礫面+1面-上
344 107	第2群	第2群 10ブロック	0080	剥片	IX層	3.0×3.3×1.4	12.2		メノウ①	礫面+3面-上3
344 108	第2群	第2群 10ブロック	0073	R-フレイク	IX層	3.2×3.1×1.0	9.1		メノウ①	1面-上
344 109	第2群	第2群 10ブロック	0103	剥片	IX層	3.5×3.2×1.1	9.5	接合 14	メノウ①	3面-上・左・右
344 110	第2群	第2群 10ブロック	0094	剥片	IX層	2.9×4.6×1.1	10.8	接合 14	メノウ①	礫面+3面-左2・上1
344 111	第2群	第2群 10ブロック	0115	剥片	IX層	2.2×2.6×0.7	3.9		メノウ①	3面-上2・下1
344 112	第2群	第2群 8ブロック	0110	U-フレイク	IX層	3.1×3.5×0.8	5.7		珩質頁岩①	3面-上3
345 113	第2群	第2群 10ブロック	0038	剥片	IX層	3.8×2.0×0.9	4.7	接合 15	安山岩①	礫面+1面-上
345 114	第2群	第2群 10ブロック	0041	碎片	IX層	2.1×1.4×0.6	0.8	接合 15	安山岩①	礫面+1面-上
345 115	第2群	第2群 10ブロック	0051	剥片	IX層	3.0×3.4×0.9	7.2	接合 16	安山岩①	礫面+2面-上・左
345 116	第2群	第2群 10ブロック	0064	剥片	IX層	3.5×3.5×1.4	20.6	接合 16	安山岩①	礫面+2面-左2
345 117	第2群	第2群 10ブロック	0049	碎片	IX層	1.6×2.2×0.7	1.5	接合 16	安山岩①	2面-下・上
345 118	第2群	第2群 10ブロック	0050	剥片	IX層	3.1×2.1×1.0	4.0	接合 16	安山岩①	礫面+2面-左・上
345 119	第2群	第2群 10ブロック	0069	小剥片	IX層	2.4×2.2×0.5	1.2	接合 16	安山岩①	1面-上
345 120	第2群	第2群 10ブロック	0040	剥片	IX層	3.9×3.1×1.2	9.8	接合 16	安山岩①	礫面+3面-右3
345 121	第2群	第2群 10ブロック	0048	小剥片	IX層	2.5×1.9×1.3	4.1	接合 16	安山岩①	礫面+2面-左・右
346 122	第2群	第2群 8ブロック	0001	石核	IX層	4.3×6.1×3.8	129.2		頁岩①	

表57 東大野第2遺跡 旧石器時代 第3群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
348 123	第3群	第3群 11ブロック	0091	U-フレイク	IX層	3.3×5.1×1.0	23.8		黒曜石①	風化面+1面-上
348 124	第3群	第3群 11ブロック	0015	U-フレイク	IX層	3.6×3.3×1.1	9.8		黒曜石①	風化面+2面-上2
348 125	第3群	第3群 11ブロック	0082 0062	剥片	IX層	2.4×1.6×0.8	2.2	接合 17	黒曜石①	1面-上
348 126	第3群	第3群 11ブロック	0087	剥片	IX層	1.9×3.2×1.2	4.1	接合 18	安山岩①	礫面+1面-上
348 127	第3群	第3群 11ブロック	0084	砕片	IX層	1.1×2.2×0.5	1.0	接合 18	安山岩①	礫面+1面-上
348 128	第3群	第3群 11ブロック	0075	剥片	IX層	5.1×4.6×0.8	14.1		安山岩①	礫面+3面-右2・上1
348 129	第3群	第3群 11ブロック	0078	剥片	IX層	3.8×3.1×1.3	12.3		メノウ①	2面-上2
348 130	第3群	第3群 11ブロック	0086	砕片	IX層	1.1×1.0×0.6	0.1	接合 19	安山岩①	1面-左
348 131	第3群	第3群 11ブロック	0077	小剥片	IX層	2.9×1.5×0.8	1.1	接合 19	安山岩①	2面-下2
348 132	第3群	第3群 11ブロック	0076	剥片	IX層	4.9×3.8×1.6	24.8	接合 19	安山岩①	6面-上4・下1・右1
348 133	第3群	第3群 11ブロック	0074	小剥片	IX層	2.3×2.2×0.3	1.2	接合 19	安山岩①	3面-上2・左1
348 134	第3群	第3群 11ブロック	0016	剥片	IX層	5.0×7.3×1.2	27.4		メノウ②	礫面+2面-右2
349 135	第3群	第3群 12ブロック	0026	石核	IX層	3.1×4.6×2.7	32.3		安山岩①	
349 136	第3群	第3群 12ブロック	0001	剥片	IX層	3.8×2.4×0.6	6.2	接合 20	安山岩①	礫面+1面-上
349 137	第3群	第3群 12ブロック	0044	砕片	IX層	2.0×1.8×0.3	0.5	接合 20	安山岩①	礫面+1面-上
349 138	第3群	第3群 12ブロック	0011	石核	IX層	3.8×4.1×2.7	40.2		安山岩①	
349 139	第3群	第3群 12ブロック	0007	U-フレイク	IX層	4.4×4.4×1.2	17.8	接合 21	安山岩①	2面-右・上
349 140	第3群	第3群 12ブロック	0030	剥片	IX層	4.4×2.3×0.8	5.8		安山岩①	礫面+1面-下
349 141	第3群	第3群 12ブロック	0049	剥片	IX層	3.6×3.8×1.0	13.2	接合 21	安山岩①	2面-右・左
349 142	第3群	第3群 12ブロック	0028	剥片	IX層	4.5×3.7×1.3	22.8		安山岩①	礫面
349 143	第3群	第3群 12ブロック	0019	剥片	IX層	1.7×2.8×0.5	3.9		黒曜石①	1面-上
349 144	第3群	第3群 12ブロック	0023	小剥片	IX層	2.8×1.6×0.7	3.9		黒曜石①	3面-上3
350 145	第3群	第3群 12ブロック	0010	R-フレイク	IX層	5.0×4.6×1.8	32.2		安山岩①	礫面+2面-上・左
350 146	第3群	第3群 12ブロック	0003	剥片	IX層	2.7×3.6×0.8	4.2		安山岩①	3面-上1・右2
350 147	第3群	第3群 12ブロック	0004	剥片	IX層	2.6×4.5×1.5	13.6		安山岩①	3面-上1・下2
350 148	第3群	第3群 12ブロック	0072	剥片	IX層	3.1×4.1×1.1	18.8		安山岩①	礫面+2面-上2
350 149	第3群	第3群 12ブロック	0042	剥片	IX層	3.1×4.1×1.1	21.8		安山岩①	3面-上2・下1
350 150	第3群	第3群 12ブロック	0013	U-フレイク	IX層	2.8×4.0×1.2	13.6		安山岩①	礫面+2面-上2
350 151	第3群	第3群 12ブロック	0070	剥片	IX層	2.9×4.7×1.0	14.2		安山岩①	3面-左・右・下
350 152	第3群	第3群 12ブロック	0048	剥片	IX層	4.4×4.1×1.3	20.8		安山岩①	礫面+1面-上
350 153	第3群	第3群 12ブロック	0022	剥片	IX層	2.7×5.6×0.6	8.1		安山岩①	1面-右

352 154	第3群	第3群 13ブロック	0062	石核	IX層	4.2×4.0×2.1	23.5	接合 22	安山岩①	
352 155	第3群	第3群 13ブロック	0058	剥片	IX層	3.9×2.0×1.4	10.3	接合 22	安山岩①	礫面+4面-上2・右1・左1
352 156	第3群	第3群 13ブロック	0054	碎片	IX層	2.1×1.1×1.3	0.8	接合 22	安山岩①	1面-上
352 157	第3群	第3群 13ブロック	0063	剥片	IX層	2.9×3.8×1.3	7.8	接合 22	安山岩①	礫面+3面-上2・下1
352 158	第3群	第3群 13ブロック	0061	碎片	IX層	1.6×2.1×0.9	2.1	接合 22	安山岩①	礫面
352 159	第3群	第3群 13ブロック	0064	剥片	IX層	2.4×3.2×0.7	5.8	接合 22	安山岩①	礫面+2面-左2
352 160	第3群	第3群 13ブロック	0068	剥片	IX層	2.8×3.5×1.5	13.0	接合 22	安山岩①	2面-下2
352 161	第3群	第3群 13ブロック	0055	剥片	IX層	2.8×3.5×1.5	7.8		チャート①	5面-上3・下2
353 162	第3群	第3群 13ブロック	0037	剥片	IX層	5.0×7.3×1.2	27.4		メノウ②	礫面+右2
353 163	第3群	第3群 13ブロック	0051	剥片	IX層	2.6×3.6×1.1	13.2	接合 23	メノウ①	4面-右3・左1
353 164	第3群	第3群 13ブロック	0039	剥片	IX層	4.0×4.3×1.3	20.8		安山岩①	礫面+3面-右1・下2
353 165	第3群	第3群 13ブロック	0053	剥片	IX層	3.0×1.5×0.8	3.7		黒曜石①	風化面+2面-上2
353 166	第3群	第3群 13ブロック	0050	剥片	IX層	2.2×2.1×0.5	3.7	接合 23	メノウ①	1面-上
353 167	第3群	第3群 13ブロック	0056	剥片	IX層	3.0×2.5×1.1	8.1		黒曜石①	3面-下2・上1
353 168	第3群	第3群 13ブロック	0060	剥片	IX層	5.0×2.9×1.8	22.5		メノウ①	3面-上2・下1

表58 東大野第2遺跡 旧石器時代 第4群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
355 169	第4群	第4群 14ブロック	0099	石核	IX層	4.5×6.5×2.7	39.8		珪質頁岩①	
355 170	第4群	第4群 14ブロック	0094	石核	IX層	6.0×6.1×3.4	102.0	接合 24	珪質頁岩①	
355 171	第4群	第4群 14ブロック	0092	剥片	IX層	2.3×4.0×1.7	13.8	接合 24	珪質頁岩①	3面-右3
355 172	第4群	第4群 14ブロック	0095	剥片	IX層	2.9×1.7×0.7	1.8	接合 25	珪質頁岩①	2面-上・右
355 173	第4群	第4群 14ブロック	0096	剥片	IX層	4.8×2.8×0.7	6.2	接合 25	珪質頁岩①	3面-右・下・上
355 174	第4群	第4群 14ブロック	0090	剥片	IX層	3.8×3.3×1.6	10.5		珪質頁岩①	礫面+上・右
355 175	第4群	第4群 14ブロック	0089	剥片	IX層	2.4×2.7×0.9	2.2		珪質頁岩①	2面-下2
356 173	第4群	第4群 14ブロック	0093	剥片	IX層	6.0×2.9×2.0	27.4	接合 26	珪質頁岩①	礫面+1面-上
356 177	第4群	第4群 14ブロック	0091	剥片	IX層	2.8×2.5×1.1	5.8	接合 26	珪質頁岩①	礫面+2面-上・右
356 178	第4群	第4群 14ブロック	0097	剥片	IX層	4.3×5.3×2.0	30.8		珪質頁岩①	礫面+1面-上
356 179	第4群	第4群 14ブロック	0088	剥片	IX層	3.9×3.1×0.5	5.6		珪質頁岩①	礫面+2面-右・上
356 180	第4群	第4群 15ブロック	0072	小剥片	IX層	1.9×2.5×1.5	5.1	接合 27	メノウ①	1面-右
356 181	第4群	第4群 15ブロック	0065	剥片	IX層	3.0×3.7×1.0	10.2	接合 27	メノウ①	礫面+2面-下・右
356 182	第4群	第4群 15ブロック	0066	剥片	IX層	2.6×4.5×1.7	19.2	接合 27	メノウ①	3面-下2・上1
356 183	第4群	第4群 15ブロック	0022	剥片	IX層	3.6×3.8×1.0	22.5		安山岩①	礫面+2面-左2

356 184	第4群	第4群 15ブロック	0086	剥片	IX層	3.9×4.9×1.4	30.2		安山岩①	礫面+2面-上2
357 185	第4群	第4群 15ブロック	0073	石核	IX層	5.6×5.0×1.8	53.8		安山岩①	礫面+5面-下1・上2・右2
357 186	第4群	第4群 16ブロック	0108	剥片	IX層	3.2×3.3×0.7	7.2		安山岩①	礫面+1面-右
357 187	第4群	第4群 16ブロック	0039	剥片	IX層	4.4×3.8×0.7	10.8		安山岩①	2面-上2
357 188	第4群	第4群 15ブロック	0002	R-フレイク	IX層	4.7×6.1×1.1	30.8		安山岩①	礫面+3面-上3
357 189	第4群	第4群 15ブロック	0084	剥片	IX層	2.3×4.3×1.7	21.8		安山岩①	礫面
357 190	第4群	第4群 16ブロック	0016	剥片	IX層	3.9×4.8×1.1	17.6		安山岩①	礫面+1面-左
357 191	第4群	第4群 16ブロック	0050	剥片	IX層	7.4×4.6×1.0	36.8		安山岩①	礫面
357 192	第4群	第4群 16ブロック	0041	U-フレイク	IX層	6.8×3.7×1.2	31.5		安山岩①	礫面+1面-左
357 193	第4群	第4群 17ブロック	0009	剥片	IX層	2.7×4.1×0.7	7.9		安山岩①	2面-上2
357 194	第4群	第4群 17ブロック	0010	剥片	IX層	4.3×3.1×1.8	17.8		黒曜石①	3面-右2・上1
358 195	第4群	第4群 17ブロック	0111	剥片	IX層	5.2×5.8×1.3	36.0		メノウ①	礫面+2面-左・上
358 196	第4群	第4群 17ブロック	0008	剥片	IX層	2.9×3.4×1.1	5.8		メノウ①	4面-左2・上2
358 197	第4群	第4群 17ブロック	0007	剥片	IX層	2.8×3.5×0.9	3.9		メノウ①	3面-右3
358 198	第4群	第4群 17ブロック	0011	剥片	IX層	2.0×2.6×0.6	3.8		黒曜石①	1面-上

表59 東大野第2遺跡 旧石器時代 第5群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
360 199	第5群	第5群 18ブロック	0099	剥片	IX層	4.2×4.2×1.0	16.0		安山岩①	礫面
360 200	第5群	第5群 18ブロック	0064	剥片	IX層	4.2×4.6×1.8	24.4		安山岩①	礫面+1面-上
360 201	第5群	第5群 18ブロック	0100	剥片	IX層	4.9×4.1×0.6	13.8		安山岩①	礫面+1面-上
360 202	第5群	第5群 18ブロック	0112	剥片	IX層	3.9×5.1×1.3	19.8		安山岩①	礫面+2面-右2
360 203	第5群	第5群 18ブロック	0072	剥片	IX層	2.8×2.6×0.5	4.1	接合 28	安山岩①	礫面+1面-上
360 204	第5群	第5群 18ブロック	0080	剥片	IX層	2.1×1.8×0.5	2.1	接合 28	安山岩①	礫面+1面-上
360 205	第5群	第5群 18ブロック	0105	剥片	IX層	3.5×2.1×0.8	4.0		黒曜石①	3面-左3
360 206	第5群	第5群 18ブロック	0089	剥片	IX層	3.5×4.9×1.0	10.8		安山岩①	2面-右2
360 207	第5群	第5群 18ブロック	0116	U-フレイク	IX層	4.5×3.2×1.0	6.2		珪質頁岩 ①	礫面+1面-上
360 208	第5群	第5群 18ブロック	0070	剥片	IX層	5.2×6.0×1.8	46.0		安山岩①	礫面
361 209	第5群	第5群 19ブロック	0035	石核	IX層	2.9×4.5×2.1	26.2		安山岩①	
361 210	第5群	第5群 20ブロック	0030	剥片	IX層	2.6×2.7×0.6	6.1	接合 29	安山岩①	2面-左・右
361 211	第5群	第5群 20ブロック	0057	剥片	IX層	2.8×2.5×0.5	2.0	接合 29	安山岩①	2面-左・右
361 212	第5群	第5群 20ブロック	0058	剥片 >石核	IX層	8.7×9.0×2.8	178.2	接合 29	安山岩①	
361 213	第5群	第5群 20ブロック	0021	剥片	IX層	3.6×6.1×1.3	18.2		安山岩①	礫面+3面-上・右・左

362 214	第5群	第5群 20ブロック	0025	剥片	IX層	3.9×3.1×1.1	10.8		安山岩①	礫面+1面-上
362 215	第5群	第5群 20ブロック	0010	剥片	IX層	2.2×4.4×0.8	9.8		安山岩①	2面-上1・左1
362 216	第5群	第5群 20ブロック	0013	石核	IX層	5.6×6.0×2.1	62.3		安山岩①	
362 217	第5群	第5群 21ブロック	0015	石核	IX層	4.0×4.4×3.0	39.3		メノウ①	
362 218	第5群	第5群 21ブロック	0068	剥片	IX層	3.4×3.3×0.8	7.2		安山岩①	礫面
362 219	第5群	第5群 20ブロック	0022	剥片	IX層	4.3×2.5×0.8	4.8		安山岩①	礫面+1面-上
362 220	第5群	第5群 21ブロック	0069	剥片 >石核	IX層	7.7×3.6×1.6	56.2		安山岩①	
363 221	第5群	第5群 20ブロック	0011	剥片	IX層	3.3×4.2×1.8	28.2	接合 30	安山岩①	礫面+1面-上
363 222	第5群	第5群 20ブロック	0005	剥片	IX層	2.3×2.2×0.6	4.5	接合 30	安山岩①	1面-上
363 223	第5群	第5群 20ブロック	0008	剥片	IX層	2.6×2.8×1.0	6.4	接合 30	安山岩①	2面-上2
363 224	第5群	第5群 20ブロック	0028	石核	IX層	3.3×5.8×2.0	52.5	接合 30	安山岩①	

表60 東大野第2遺跡 旧石器時代 第6群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
365 225	第6群	第6群 22ブロック	0110	U-フレイク	IX層	3.9×4.8×2.0	19.7		メノウ②	2-右2
365 226	第6群	第6群 22ブロック	0093	U-フレイク	IX層	4.1×2.9×1.0	7.9		黒曜石①	4面-上2左2
365 227	第6群	第6群 22ブロック	0115	剥片	IX層	3.0×4.8×1.1	15.4		安山岩①	礫面+3面-上2・左1
365 228	第6群	第6群 23ブロック	0072	剥片	IX層	3.1×1.7×0.7	4.1		メノウ①	礫面+2面-下2
365 229	第6群	第6群 23ブロック	0085	R-フレイク	IX層	4.3×4.0×0.9	13.8	接合 31	安山岩①	礫面+2面-上2
365 230	第6群	第6群 23ブロック	0132	剥片	IX層	4.8×4.5×1.7	32.2	接合 31	安山岩①	礫面+2面-上2
365 231	第6群	第6群 23ブロック	0080	剥片	IX層	3.5×4.1×0.7	10.2		メノウ①	礫面
365 232	第6群	第6群 23ブロック	0082	剥片	IX層	4.5×3.6×1.0	11.5		安山岩①	礫面+2面-上2
366 233	第6群	第6群 24ブロック	0022	剥片	IX層	4.1×2.9×2.5	8.7	接合 32	安山岩①	2面-右・上
366 234	第6群	第6群 24ブロック	0036	砕片	IX層	2.1×2.0×0.8	2.4	接合 32	安山岩①	1面-左
366 235	第6群	第6群 24ブロック	0021	剥片	IX層	4.0×3.7×1.0	16.2		安山岩①	礫面
366 236	第6群	第6群 24ブロック	0032	剥片	IX層	4.2×3.9×1.1	17.8		安山岩①	礫面+1面-右
366 237	第6群	第6群 24ブロック	0028	剥片	IX層	2.5×3.5×1.2	13.8		安山岩①	礫面+1面-上
366 238	第6群	第6群 24ブロック	0029	剥片	IX層	3.7×3.1×1.0	12.2		安山岩①	礫面+2面-上2
366 239	第6群	第6群 25ブロック	0048	剥片	IX層	3.4×4.2×0.8	12.4		安山岩①	礫面
366 240	第6群	第6群 26ブロック	0006	剥片	IX層	6.2×4.3×1.5	35.2	接合 33	安山岩①	礫面+1面-上
366 241	第6群	第6群 26ブロック	0005	剥片	IX層	2.2×2.7×0.9	3.8	接合 33	安山岩①	礫面+1面-上
367 242	第6群	第6群 26ブロック	0058	剥片	IX層	3.6×4.0×1.5	12.5		安山岩①	礫面
367 243	第6群	第6群 26ブロック	0059	剥片	IX層	3.7×3.9×1.0	12.2		安山岩①	礫面+1面-右

367 244	第6群	第6群 26ブロック	0061	剥片	IX層	4.7×3.2×1.8	19.1		安山岩①	礫面+4面-上1・左2・下1
367 245	第6群	第6群 26ブロック	0055	U-フレイク	IX層	3.6×3.9×1.1	11.5		安山岩①	礫面+調整面+2面-左・右

表61 東大野第2遺跡 旧石器時代 第7群遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
369 246	第7群	第7群 27ブロック	0068	石核	IX層	4.3×6.3×1.7	35.8		メノウ①	
369 247	第7群	第7群 27ブロック	0069	剥片	IX層	6.4×4.4×1.3	28.2		安山岩①	礫面+3面-上1・下2
369 248	第7群	第7群 27ブロック	0071	剥片	IX層	4.6×4.7×1.2	22.2		安山岩①	5-上5
369 249	第7群	第7群 27ブロック	0051	剥片	IX層	2.2×4.9×0.8	5.4		安山岩①	2面-左1・上1
369 250	第7群	第7群 27ブロック	0067	剥片	IX層	6.0×5.0×2.5	42.8		安山岩①	6面-上3・下3
369 251	第7群	第7群 27ブロック	0072	剥片	IX層	4.2×5.1×0.9	13.8		安山岩①	礫面
370 252	第7群	第7群 28ブロック	0007	剥片	IX層	2.4×3.2×0.9	6.3		メノウ①	3面-上3
370 253	第7群	第7群 28ブロック	0005	剥片	IX層	4.3×2.7×1.5	12.0		メノウ①	3面-左2・上1
370 254	第7群	第7群 28ブロック	0011	台形 石器	IX層	2.7×2.0×0.9	3.2		黒曜石①	1面-左
370 255	第7群	第7群 28ブロック	0053	U-フレイク	IX層	4.1×4.0×1.1	17.2		黒曜石①	2面-下2
370 256	第7群	第7群 28ブロック	0050	剥片	IX層	3.6×4.0×1.2	18.2		安山岩①	礫面+2面-上・右
370 257	第7群	第7群 28ブロック	0010	剥片	IX層	3.7×3.5×1.4	17.8		安山岩①	礫面+3面-上3
370 258	第7群	第7群 28ブロック	0009	剥片	IX層	6.2×5.7×1.5	40.5		安山岩①	礫面
370 259	第7群	第7群 28ブロック	0027	R-フレイク	IX層	4.9×4.2×1.6	29.5		安山岩①	礫面
370 260	第7群	第7群 29ブロック	0062	剥片	IX層	4.2×5.0×1.2	25.2		安山岩①	礫面
370 261	第7群	第7群 29ブロック	0045	剥片	IX層	3.5×4.6×1.7	24.2		安山岩①	礫面+4面-下3・上1
371 262	第7群	第7群 29ブロック	0064	剥片	IX層	3.1×2.8×0.6	4.8		黒曜石①	風化面
371 263	第7群	第7群 29ブロック	0096	剥片	IX層	3.3×3.8×0.6	5.8	接合 34	安山岩①	礫面+2面-上2
371 264	第7群	第7群 29ブロック	0065	剥片	IX層	2.9×4.4×0.9	7.9	接合 34	安山岩①	礫面+1面-上
371 265	第7群	第7群 29ブロック	0093	剥片	IX層	3.7×4.8×1.1	15.6		安山岩①	礫面+2面-上・下
371 266	第7群	第7群 29ブロック	0097	剥片	IX層	3.1×4.3×0.9	9.4		安山岩①	2面-上・左

表62 東大野第2遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器・石製品属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
379 1	004号 土坑	004号 土坑	0072	敲石	完形	16.8×5.6×3.0	531.8	安山岩質 砂岩	長楕円形の扁平な礫の先端部に近い平な表面に集中的に打痕が見られる。
379 2	D2-82	BD28-32	0001	敲石	完形	11.2×6.3×3.4	426.4	安山岩質 砂岩	両側縁と先端部に打痕が見られる。
379 3	013号 土坑	013号 土坑	0001	打石斧	半欠	11.1×-×2.7	—	粘板岩	周辺部を片側から比較的丁寧に調整してある。
379 4	002号 土坑	002号 土坑	0025	敲石	完形	12.2×4.1×3.8	265.4	頁岩	棒状の礫の先端部に打痕が見られる。

表63 大野南遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
385 1	D4-12	AS39-12	0031	ナイフ 形石器	IV層	6.0×2.6×0.7	10.1		泥岩①	2面-上2
385 2	D4-12	AS39-12	0032	ナイフ 形石器	IV層	2.7×1.2×0.6	2.3		頁岩①	3面-上3
385 3	D4-12	AS39-12	0104	ナイフ 形石器	IV層	2.8×0.8×0.5	1.9		流紋岩①	3面-上2・下1
385 4	D4-12	AS39-12	0078	ナイフ 形石器	IV層	2.6×2.0×0.5	3.8		珩質凝灰岩 ①	2面-上2
385 5	D4-12	AS39-12	0002	ナイフ 形石器	IV層	2.2×1.2×0.5	1.8		珩質凝灰岩 ①	1面-上
385 6	D4-12	AS39-12	0064	彫器	IV層	4.9×2.3×1.1	13.7		頁岩③	礫面+1面-上
385 7	D4-12	AS39-12	0028	刃器状 剥片	IV層	8.6×3.5×1.4	29.7		頁岩①	礫面+1面-上
385 8	D4-12	AS39-12	0039	石核	IV層	4.0×4.1×3.2	53.6		珩質頁岩①	
386 9	D4-12	AS39-12	0045	石核	IV層	4.3×7.1×3.1	115.0		安山岩②	
386 10	D4-21	AS39-21	0001	石核	IV層	5.7×4.5×3.2	108.8		チャート①	
386 11	D4-11	AS39-11	0001	敲石	IV層	3.6×4.8×1.6	36.1		凝灰岩②	
386 12	D4-12	AS39-12	0103	石核	IV層	2.3×2.4×1.5	7.2	接合 1	珩質凝灰岩 ①	
386 13	D4-12	AS39-12	0089	剥片	IV層	1.6×2.2×0.8	4.8	接合 1	珩質凝灰岩 ①	
386 14	D4-11	AS39-11	0007	剥片	IV層	3.3×2.5×0.4	4.3		玄武岩①	2面-上・右
386 15	D4-12	AS39-12	0034	U-フレイク	IV層	3.7×3.0×0.9	8.2		珩質頁岩①	礫面-左3
387 16	D4-12	AS39-12	0026	剥片	IV層	4.4×5.6×1.7	40.3		粘板岩①	6面-上6
387 17	D4-12	AS39-12	0085	剥片	IV層	2.6×3.0×1.4	10.0		砂岩①	4面-左2・上1・下1
387 18	D4-12	AS39-12	0022	剥片	IV層	4.4×4.5×1.4	28.4		凝灰岩①	5面-下2・上2・右1
387 19	D4-11	AS39-11	0002	剥片	IV層	3.3×2.8×0.7	5.9		玄武岩②	3面-上3
387 20	D4-12	AS39-12	0012	剥片	IV層	6.3×1.2×2.2	17.6		珩質砂岩①	3面-上3
387 21	D4-11	AS39-11	0003	刃器状 剥片	IV層	5.5×2.7×1.0	11.9		安山岩③	5面-上4・左1
387 22	D4-12	AS39-12	0095	小剥片	IV層	1.3×2.6×0.7	3.8		メノウ①	3面-右3
388 23	D4-12	AS39-12	0011	剥片	IV層	5.5×5.2×1.3	32.4		砂岩①	礫面+2面-上2
388 24	D4-12	AS39-12	0062	小剥片	IV層	1.8×2.2×0.5	3.1		頁岩⑤	礫面+1面-左
388 25	D4-12	AS39-12	0069	剥片	IV層	4.3×3.8×1.8	23.9		流紋岩①	礫面+3面-下・上・右
388 26	D4-12	AS39-12	0002	剥片	IV層	2.8×3.1×0.5	4.2		珩質凝灰岩 ①	4面-右4
388 27	D4-12	AS39-12	0036	剥片	IV層	3.1×2.0×0.7	4.1		頁岩②	礫面+1面-上
388 28	D4-12	AS39-12	0067	剥片	IV層	4.2×3.0×0.7	12.2		安山岩①	3面-左2・上1
388 29	D4-12	AS39-12	0049	剥片	IV層	2.8×3.9×1.7	17.8		頁岩③	礫面+4面-右4

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
388 30	D4-12	AS39-12	0087	剥片	IV層	2.4×3.4×1.5	13.5		頁岩③	礫面+2面-右2
389 31	D4-12	AS39-12	0004	剥片	IV層	2.5×3.5×1.4	9.8		泥岩①	3面-上3
389 32	D4-12	AS39-12	0024	剥片	IV層	2.4×3.5×0.5	4.2		泥岩①	1面-上
389 33	D4-12	AS39-12	0065	剥片	IV層	4.4×1.5×0.7	5.1		泥岩①	2面-上2
389 34	D4-12	AS39-12	0088	剥片	IV層	3.3×2.6×1.2	10.7		泥岩①	礫面+1面-左
389 35	D4-11	AS39-11	0005	剥片	IV層	3.2×2.2×0.6	5.9		泥岩①	礫面
389 36	D4-12	AS39-12	0041	剥片	IV層	3.5×2.4×0.5	4.5		泥岩①	3面-上3
389 37	D4-12	AS39-12	0006	剥片	IV層	2.6×2.2×0.6	4.3		泥岩①	礫面
389 38	D4-12	AS39-12	0048	剥片	IV層	2.2×2.4×0.6	3.9		泥岩①	1面-上
389 39	D4-12	AS39-12	0057	小剥片	IV層	1.5×2.8×1.2	7.3		頁岩③	1面-上
389 40	D4-12	AS39-12	0081	小剥片	IV層	1.6×2.5×0.3	2.2		頁岩③	礫面
389 41	D4-12	AS39-12	0086	小剥片	IV層	2.6×1.3×0.3	1.8		メノウ①	礫面+3面-上3
389 42	D4-12	AS39-12	0075	剥片	IV層	2.4×2.7×0.5	4.1		メノウ①	3面-上3
389 43	D4-12	AS39-12	0017	剥片	IV層	2.1×2.6×0.7	4.9		メノウ①	礫面+2面-上・左
389 44	D4-11	AS39-11	0009	小剥片	IV層	2.1×1.8×0.8	3.8		頁岩④	3面-右2・左1
389 45	D4-12	AS39-12	0082	小剥片	IV層	2.3×2.0×0.7	3.9		頁岩⑤	礫面+1面-上

表64 大野南遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
391 46	B3-22	AQ38-22	0001	U-フレイク	VII層	6.1×4.3×0.7	12.2		珪質頁岩①	3面-上3
391 47	B3-22	AQ38-22	0002	U-フレイク	VII層	5.4×2.4×0.8	8.6		珪質頁岩②	3面-下3
391 48	B3-22	AQ38-22	0003	U-フレイク	VII層	7.2×2.6×0.7	7.8		珪質頁岩①	3面-上1・下2

表65 大野南遺跡 旧石器時代 第3ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
391 49	B6-00	AQ41-00	0003	U-フレイク	VII層	6.8×1.3×0.7	7.2		珪質頁岩②	1面-下1

表66 大野南遺跡 旧石器時代 ブロック外遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
391 50	D4-22	AS39-22	0005	ナイフ 形石器	不明	—×1.6×0.7	—		安山岩	2面-上2
391 51	007号 土坑	007号 土坑	0001	剥片	—	3.5×1.8×0.7	4.2		泥岩①	3面-下3

表67 大野南遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	材質	特徴
399 1	016号 住居跡	016号 住居跡	0003	磨石斧	半欠	4.3×6.1×2.4	123.5	硬砂岩	磨製石斧の割ったものを叩き石として再利用している。
399 2	016号 住居跡	016号 住居跡	0011	磨石斧	完形	7.1×4.6×2.5	145.6	硬砂岩	磨製石斧を叩き石として再利用している。
399 3	019号 住居跡	019号 住居跡	0001	敲石	破片	— × — × —	—	安山岩	割れた礫片を叩き石として利用している。
399 4	016号 住居跡	016号 住居跡	0020	石製品	完形	15.0×6.8×3.3	70.2	軽石	板状の軽石に穿孔している。斧形の石製品
399 5	016号 住居跡	016号 住居跡	0016	石製品	完形	6.3×4.3×2.5	12.0	軽石	板状の軽石に2箇所穿孔が見られる。斧形石製品
399 6	016号 住居跡	016号 住居跡	0002	石製品	完形	7.9×5.3×3.6	30.2	軽石	板状の軽石に穿孔している。斧形の石製品
399 7	016号 住居跡	016号 住居跡	0008	石製品	完形	10.1×5.5×3.2	39.5	軽石	板状の軽石に穿孔している。斧形の石の製品

表68 大野南遺跡 遺構出土土器観察表 (縄文)

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	胎土	焼成	色調	遺存度	法量cm 口・底・高	製作手法	備考
398 1	016号 住居跡	016号 住居跡	0001	深鉢	石英砂粒混	やや良	淡褐色	口縁部 ~ 胴部 残存	— — —	口縁部沈線と刺突文、胴部にかけては波状の沈線とRL縄文	
398 2	016号 住居跡	016号 住居跡	0002	深鉢	石英砂粒混	良好	外茶褐色 内淡褐色	口縁部 ~ 胴部 残存	— — —	曾利系土器、櫛目状の沈線、張り付け粘土紐による区画	
398 9	019号 住居跡	019号 住居跡	0001	深鉢	石英砂粒多く含む	良好	淡褐色	2/3 残存	— — —	曾利系土器、櫛目状の沈線、張り付け粘土紐による区画	

表69 東大野第3遺跡 旧石器時代 第1ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
409 1	C7-14	AW39-14	002	ナイフ 形石器	III層 下	4.8×1.6×0.5	3.9	—	珉質頁岩	2面—下右
409 2	C7-23	AW39-23	0007	U-フレイク	IV層	3.6×3.2×0.6	7.9	—	〃	6面—下3・右2・左
409 3	C7-23	AW39-23	0010	ナイフ 形石器	IV層	2.6×1.0×0.4	1.2	—	〃	2面—上・右
409 4	C7-23	AW39-23	0008	スクレ イパー		4.3×2.2×1.1	6.4	—	〃	4面—下4
409 5	C7-23	AW39-13	0005	U-フレイク		4.8×2.3×0.7	7.8	—	〃	5面—上・下4
409 6	C7-23	AW39-23	0013	U-フレイク	IV層	2.6×2.1×0.3	2.0	—	〃	2面—下2
409 7	C7-24	AW39-24	0008	U-フレイク	IV層	4.5×2.9×0.8	9.1	—	〃	4面—下4
409 8	C7-13	AW39-13	0002	U-フレイク	IV層	5.7×2.8×0.9	6.7	—	〃	3面—下3
412 9	C7-23	AW39-23	0012	U-フレイク		5.2×4.7×1.0	14.1	—	〃	14面—上2・下4・右4・左4
412	C7-24	AW39-24	0010	U-フレイク				—	〃	

表70 東大野第3遺跡 旧石器時代 第2ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
412 10	I3-75	BC35-75	0005	U-フレイク		3.2×1.7×0.6	1.5	—	珪質頁岩	4面-上・下3
412 11	I3-84	BC35-84	0011	U-フレイク		4.8×2.6×1.2	16.2	—	〃	4面-上2・下2
412 12	I3-83	BC35-83	0007	U-フレイク		4.6×1.5×0.9	6.2	—	〃	3面-下3
412 13	I3-84	BC35-84	0012	U-フレイク		2.5×3.6×1.1	6.5	—	〃	6面-上6
412 14	I3-84	BC35-84	0005	フレイク		4.2×1.8×0.9	5.2	—	〃	3面-右3
412 15	I3-84	BC35-84	0006	U-フレイク		3.9×3.0×0.8	8.3	—	〃	5面-右5
412 16	I3-85	BC35-85	0006	フレイク		3.5×2.1×0.8	4.3	—	〃	6面-下2・右3・左1
412 17	I3-84	BC35-84	0004	フレイク		2.2×2.5×0.5	2.2	—	〃	4面-下4
413 18	I3-84	BC35-84	0009	フレイク		2.8×2.3×0.5	2.8	—	〃	3面-下2・右1
413 19	I3-83	BC35-83	0007	フレイク		2.5×1.9×0.3	2.1	—	安山岩	3面-下3
413 20	I3-83	BC35-83	0004	フレイク		2.6×1.3×0.12	1.8	—	珪質頁岩	節理+1面-下

表71 東大野第3遺跡 旧石器時代 第3ブロック遺物属性表

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	層位	長×幅×厚(cm)	重(g)	接合	母岩	背面構成
413 21	B8-13	AV40-13	0001	フレイク		1.8×2.5×0.4	1.8		安山岩	4面-上・下・右2

表72 東大野第3遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器・石・土製品属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
421 ₁	K5-45		0005	磨石斧	完形	7.2×4.4×1.8	155.4	頁岩	周辺部、刃部ともよく磨かれている石斧である。
421 ₂	K5-27		0014	打石斧	完形	7.5×4.9×1.5	123.5	砂岩	刃部を中心にたたいて調整してある。
421 ₃	K5-05		0035	敲石	破片	—×—×—	—	輝緑岩	小礫の一部に打痕が見られる。
421 ₄	K5-65		0015	敲石	完形	7.5×7.6×2.1	185.3	凝灰質砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
421 ₅	K5-44		0030	敲石	半欠	—×—×—	—	凝灰岩	礫の一部に打痕が見られる。
421 ₆	K5-65		0014	凹石	完形	9.4×7.8×4.2	224.4	凝灰質砂岩	叩き石と磨石にも使用されている。
421 ₇	K5-54		0003	敲石	完形	8.7×6.0×3.3	95.5	砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
421 ₈	K5-15		0016	敲石	完形	7.5×6.3×2.0	98.6	凝灰質砂岩	礫の両端に特に集中して打痕が見られる。
421 ₉	K5-05		0047	敲石	一部欠損	7.2×—×3.6	—	砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₀	K5-34		0008	敲石	完形	6.9×3.9×4.1	102.5	凝灰質砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₁	K5-54		0013	敲石	完形	7.5×5.8×2.8	88.4	凝灰質砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₂	K5-05		0038	敲石	完形	10.3×8.0×6.1	221.5	砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₃	K5-55		0005	ドリル	ほぼ完形	8.0×5.0×1.5	80.4	頁岩	表裏から調整を施している。
422 ₁₄	K5-28		0002	敲石	完形	6.6×4.3×2.7	65.4	凝灰質砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₅	K5-44		0013	敲石片	破片	—×—×—	—	凝灰質砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₆	表採	表採	—	敲石片	破片	—×—×—	—	頁岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₇	K5-55		0009	剥片	完形	4.3×5.2×1.4	35.4	頁岩	逆方向の剥離が見られる。
422 ₁₈	K5-34		0001	敲石片	破片	—×—×—	—	凝灰質砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₁₉	K5-64		0006	敲石	一部欠損	4.6×3.1×4.4	23.6	砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
422 ₂₀	K5-44		0024	敲石片	破片	—×—×—	—	砂岩	礫の一部に打痕が見られる。
423 ₂₁	K5-57		0001	石鏃	完形	3.3×2.5×0.5	3.8	安山岩	両面とも丁寧に調整してある。
423 ₂₂	K4-65		0005	石鏃	頭部欠損	—×—×0.5	—	黒曜石	両面とも丁寧に調整してある。
423 ₂₃	K5-25		0018	石鏃	完形	2.1×1.2×0.5	1.2	黒曜石	両面とも丁寧に調整してある。
423 ₂₄	K5-35		0021	石鏃未製品	完形	1.7×1.4×0.4	1.6	安山岩	周辺部を調整してある。
423 ₂₅	K5-23		0008	石鏃未製品	完形	1.7×1.5×0.3	1.3	安山岩	周辺部を調整してある。
423 ₂₆	K5-56		0006	石鏃未製品	欠損	—×—×—	—	安山岩	周辺部を調整してある。
423 ₂₇	I3-74		0004	剥片	完形	3.1×2.6×1.1	6.2	チャート	一部に刃こぼれが見られる。
423 ₂₈	K5-06		0001	剥片	完形	3.5×2.1×0.9	8.1	安山岩	一部に刃こぼれが見られる。
423 ₂₉	K5-14		0017	剥片	完形	1.9×1.6×0.4	0.9	安山岩	石鏃の素材の可能性がある。

図版 番号	旧グリット	新グリット	遺物 番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
423 30	表採	表採	—	剝片	完形	4.2×3.1×1.2	7.2	頁岩	背部は礫面に覆われる。
423 31	K5-07		0006	剝片	完形	1.8×1.5×0.4	2.2	安山岩	石鏝の素材の可能性はある。
423 32	K5-05		0010	剝片	完形	2.1×2.5×0.9	3.6	チャート	石鏝の素材の可能性はある。
423 33	K5-20		0008	剝片	完形	1.8×1.9×0.8	1.1	チャート	石鏝の素材の可能性はある。
424 34	K5-14		0015	土器片 円板	一部欠 損	5.6×5.8×0.7	—	土器	土器片の再利用
424 35	K5-33		0046	土器片 円板	完形	3.9×3.7×0.8	10.8	土器	土器片の再利用
424 36	K5-45		0001	石製 円板	完形	2.7×3.0×0.5	6.1	玄武岩	やや周辺部を磨いている。
424 37	K4-98		0004	垂飾品	完形	4.2×2.6×0.7	22.6	滑石	片側に抉りが入っている。2個の穿孔が見られる。
424 38	K4-98		0008	管玉	半欠	1.7×1.5×1.5	—	蛇紋岩	半分に欠けている。
424 39	K5-64		0003	小形 土器	底部の み	— × — × —	—	土器	ミニチュア土器の底部のみ。
424 40	K5-44		0027	土製品	完形	2.9×2.3×1.4	7.8	土製品	棒状の工具で意図的な意匠を施している。用途は不明。あるいは土偶の様なものが。
424 41	K5-55		0007	土製品	完形	2.1×2.0×0.5	2.2	土製品	一部に工具痕の様なものも見られるが40程ははっきりとした意図が同われない。

表73 南大野第4遺跡 縄文時代 遺構・グリット出土石器・石製品属性表

図版番号	旧グリット	新グリット	遺物番号	器種	状態	長×幅×厚(cm)	重(g)	石材	調整
435 1	B3-28 B3-39	AZ42-28 AZ42-39	0007 0058	磨石斧	一部欠損	11.2×—×3.0	—	頁岩	刃部と側辺を磨いてある。かなり離れた部分で接合する。
435 2	B3-39	AZ42-39	0016	磨石斧	完形	7.8×3.7×1.3	58.8	安山岩	刃部と側辺を磨いてある。両側辺は調整を施している。
435 3	B3-38	AZ42-38	0023	磨石斧	完形	6.8×3.1×1.9	60.2	玄武岩	刃部は使用のための磨痕がある。片側辺に調整のための剥離が見られる。
435 4	B3-65	AZ42-65	0015	磨石斧	完形	6.2×3.5×1.9	43.8	玄武岩	刃部は使用のための磨痕がある。片側辺に調整のための剥離が見られる。
435 5	B3-97	AZ42-97	0008	打石斧	半欠	—×4.1×2.7	—	花崗岩	礫を交互剥離で両面とも調整している。礫面を残している。
435 6	B3-44	AZ42-44	0001	打石斧	半欠	10.1×—×3.0	—	粘板岩	扁平の礫を使用して刃部に調整を施している。半分欠損している。
435 7	B3-88	AZ42-88	0037	打石斧片	破片	—×—×—	—	粘板岩	全体の形態は不明である。周辺に細かな調整を施している可能性がある。
435 8	B3-88	AZ42-88	0024	打石斧片	破片	—×—×—	—	粘板岩	全体の形態は不明である。周辺に細かな調整を施している可能性がある。
435 9	B3-98	AZ42-98	0022	打石斧片	破片	—×—×—	—	砂岩	全体の形態は不明である。周辺に細かな調整を施している可能性がある。
435 10	B3-88	AZ42-88	0049	打石斧片	破片	—×—×—	—	粘板岩	全体の形態は不明である。周辺に細かな調整を施している可能性がある。
435 11	B3-38	AZ42-38	0021	楔形石器	完形	5.6×2.3×1.3	26.2	砂岩	小礫の上下に打撃による剥離が見られる。
435 12	C3-70	BA42-70	0034	敲石	完形	6.3×4.5×3.7	103.0	凝灰岩	小礫の周辺部を中心に打痕が見られる。
435 13	C3-21	BA42-21	0180	敲石	完形	6.4×3.4×2.4	80.8	砂岩	小礫の周辺部を中心に打痕が見られる。
435 14	C3-21	BA42-21	0302	敲石	完形	5.9×3.9×2.0	64.2	砂岩	小礫の周辺部とやや片面を中心に集中的に打痕が見られる。
435 15	B3-28	AZ42-28	0009	敲石	完形	7.4×5.3×3.0	131.8	砂岩	礫の両面と周辺部にやや散漫に打痕が見られる。
435 16	B3-45	AZ42-45	0007	敲石	完形	3.8×3.8×2.0	36.8	砂岩	小礫の先端に打痕が見られる。
435 17	C3-20	BA42-20	0010	敲石	完形	4.7×3.3×1.4	26.2	砂岩	小礫の先端を中心に打痕が見られる。
435 18	C3-21	BA42-21	0150	敲石	完形	6.4×3.1×3.5	87.2	砂岩	小礫の周辺の一部に集中的に打痕が見られる。
436 19	B3-38	AZ42-38	0026	石鏃	ほぼ完形	—×3.0×0.5	—	チャート	先端部をほんの少し欠損しているが両面とも細かな調整で仕上げられている。凹基鏃
436 20	B3-56	AZ42-56	0009	石鏃	ほぼ完形	—×2.6×0.4	—	安山岩	先端部をほんの少し欠損している。両面ともやや剥片の面を残す。凹基鏃
436 21	B3-58	AZ42-58	0003	尖頭器	欠損	—×1.1×0.3	—	黒曜岩	片面に非常に丁寧な調整を施している。
436 22	B3-69	AZ42-69	0005	石鏃	完形	2.7×2.1×0.4	1.8	チャート	全体に非常に丁寧な調整を施している。
436 23	C3-41	BA42-41	0117	尖頭器	完形	3.7×1.3×0.5	3.8	チャート	全体に非常に丁寧な調整を施している。
436 24	B3-68	AZ42-68	0020	剥片	完形	1.8×2.3×0.4	3.2	頁岩	打面転移の見られる薄目の剥片である。
436 25	C3-21	BA42-21	0154	石核	完形	3.3×1.9×1.9	12.5	頁岩	四方から小剥片を剥ぎ取った形跡が伺われる。
436 26	B3-59	AZ42-59	0139	剥片	完形	3.4×3.6×1.9	25.8	泥岩	小礫を分割した剥片である。
436 27	B3-79	AZ42-79	0082	剥片	完形	2.6×3.3×1.7	19.8	頁岩	小礫を分割した剥片である。
436 28	B3-79	AZ42-79	0079	R717	完形	2.1×3.2×0.8	5.2	頁岩	縁辺にやや大きめの調整が見られる。
436 29	表採	表採	—	剥片	完形	2.7×3.4×0.8	9.8	チャート	小礫を分割した剥片である。

436 30	C3-21	BA42-21	0027	剥片	完形	1.8×3.3×1.4	7.7	頁岩	両極打撃による剥片である。
437 31	C3-21	BA42-21	0149	叩き石	完形	6.0×3.5×2.0	47.8	安山岩	礫の一端を打ち欠いている。あるいは石核とすべきかもしれない。
437 32	C3-21	BA42-21	0145	石核	完形	4.2×4.2×3.0	69.2	泥岩	小さな剥片をいろいろな方向から剥ぎ取っている。
437 33	B3-59	AZ42-59	0024	石核	完形	2.3×3.8×3.1	42.4	泥岩	礫面を残している。
437 34	B3-59	AZ42-59	0119	石核	完形	5.7×5.6×1.9	94.2	頁岩	礫面を残している。比較的小さな剥片を剥ぎ取っている。
437 35	B3-88	AZ42-88	0087	R-7レイク	完形	4.7×2.7×1.7	28.4	砂岩	片側辺に打撃による剥離が見られる。
437 36	C3-20	BA42-20	0001	磨石片	破片	— × — × —	—	砂岩	片面に磨痕が見られる。
437 37	B3-82	AZ42-82	0053	軽石	欠損	3.0×2.5×1.5	2.1	軽石	軽石製の石製品である。用途は不明。穿孔されていた可能性もある。装飾品かも知れない。

報告書抄録

フリガナ	トケミドリノモリコウギョウダンチゾウセイニトモノウマイゾウブンカサイチョウサホウコクシヨ
書名	土気緑の森工業団地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査研究報告
シリーズ番号	第253集
編集者名	西口 徹
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2
発行年	西暦 1994年3月31日

所載遺跡一覧

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
オオノダイニ 大野第2	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1210-23 ほか	201	064	35	140	19850705- 19851031	10,000	工業団地 造成
				30	13			
				56	52			
オオノダイサン 大野第3	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1200-5 ほか	201	065	35	140	19851217- 19860214	13,000	工業団地 造成
				31	13			
				09	50			
オオノダイヨン 大野第4	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1200-12 ほか	201	067	35	140	19860121- 19860308 19861117- 19870203	14,000	工業団地 造成
				31	13			
				10	41		4,200	工業団地 造成
オオノダイゴ 大野第5	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1210-20 ほか	201	068	35	140	19860203- 19860228 19870108- 19870206	3,600	工業団地 造成
				31	14			
				11	01		590	工業団地 造成
オオノダイロク 大野第6	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1210-2 ほか	201	069	35	140	19860303- 19860317	4,200	工業団地 造成
				31	13			
				08	52			
オオノダイナナ 大野第7	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1210-20 ほか	201	070	35	140	19860217- 19860327 19860401- 19860831	26,000	工業団地 造成
				30	13			
				59	41		7,900	工業団地 造成
オオノダイハチ 大野第8	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1215-4 ほか	201	072	35	140	19860120- 19860131	4,000	工業団地 造成
				30	14			
				43	17			

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因			
		市町村	遺跡番号								
オオノ 大野	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1215-3 ほか	201	073	35	140	19860901-	15,600	工業団地 造成			
				30	14	19861018					
				41	19	19861028-			670	工業団地 造成	
						19861115				10,600	工業団地 造成
						19870204-				2,320	工業団地 造成
		19870228									
						19870420-					
						19870520					
オオノダイキョウ 大野第9	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1293ほか	201	074	35	140	19870310-	12,000	工業団地 造成			
				30	14	19870327					
				41	14	19870521-			11,000	工業団地 造成	
						19870804					
ニシオオノダイサン 西大野第3	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1391-1 ほか	201	075	35	140	19871027-	4,500	工業団地 造成			
				30	13	19880114					
				23	52	19880118-			180	工業団地 造成	
						19880130					
オオノダイイチ 大野第1	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1202-32 ほか	201	076	35	140	19870401-	80,200	工業団地 造成			
				30	13	19870910					
				45	52	19870911-			24,000	工業団地 造成	
						19880329					
ニシオオノダイチ 西大野第1	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1206-28 ほか	201	079	35	140	19880316-	7,000	工業団地 造成			
				30	13	19880329					
				51	44	19880406-			4,500	工業団地 造成	
						19880805				30,500	工業団地 造成
						19890118-				12,498	工業団地 造成
						19890329					
						19890401-					
		19900330									
ヒガシオオノダイ イチ 東大野第1	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1217-21 ほか	201	081	35	140	19880406-	3,400	工業団地 造成			
				30	14	19880530					
				52	36	19880601-			700	工業団地 造成	
						19880618					
ヒガシオオノダイ ニ 東大野第2	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1217-31 ほか	201	082	35	140	19880620-	18,000	工業団地 造成			
				30	14	19881130					
				42	34	19881201-			7,610	工業団地 造成	
						19890228					
オオノミナミ 大野南	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1350ほか	201	086	35	140	19890701-	8,000	工業団地 造成			
				30	14	19890831					
				29	17	19890901-			5,500	工業団地 造成	
						19891016				511	工業団地 造成
						19891017-					
		19891031									
ミナミオオノダイ イチ 南大野第1	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1200-34	201	087	35	140		2,000	工業団地 造成			
				30	14	19891001-					
				23	14						
						19891031					

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 〃 〃 〃	東経 〃 〃 〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ヒガシオノダイ サン 東大野第3	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1309ほか	201	093	35	140	19900402-	31,100	工業団地 造成
				30	14	19900831		
				33	30	19900901- 19901023		
ミナミオノダイ ヨン 南大野第4	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1195-5 ほか	201	091	35	140	19901024-	7,500	工業団地 造成
				30	14	19901116		
				28	31	19901124- 19901219		
ヒガシオノダイ ヨン 東大野第4	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1172-2 ほか	201	096	35	140	19901221-	5,000	工業団地 造成
				30	14	19910116		
				25	49			
ミナミオノダイ ゴ 南大野第5	チバシオオキドチョウ 千葉市大木戸町1172-28 ほか	201	097	35	140	19910117-	13,400	工業団地 造成
				29	14	19910212		
				19	39			

所載遺跡別遺構・遺物一覧

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
大野第2	包蔵地	旧石器	遺物集中地点	2ヶ所	石核・剥片	
大野第3	包蔵地 集落跡	旧石器	遺物集中地点	3ヶ所	敲石・石核・剥片	
		縄文	住居跡 土坑	4軒 29基	深鉢形土器・土器片 土器片鏃・石斧・石鏃	
		奈良	住居跡	1軒	土師器・須恵器	火だすきの跡が見られる須恵器杯がある
大野第4	包蔵地	旧石器	遺物集中地点	1ヶ所	台形石器・石核・剥片	
		縄文	土坑	14基	早期～後期土器片少量	
		不明	粘土採掘坑	1ヶ所		
大野第5	包蔵地	旧石器	遺物出土地点	1ヶ所	削器	
		縄文			中期～後期土器片少量	
大野第6	包蔵地	縄文			中期土器片少量	
大野第7	包蔵地	旧石器	遺物集中地点	4ヶ所	削器・Uフレイク・石核・剥片	
		集落跡	縄文	住居跡 土坑	2軒 84基	早期～中期土器片・石斧・石鏃
		弥生	住居跡 土坑50基	1軒		
		奈良・平安	住居跡 方形周溝状遺構 掘立柱建物跡 遺物包含層	5軒 2基 4棟 1ヶ所	須恵器・土師器・墨書土器磨石斧	「佛」と書かれた杯が出土している。
大野第8	包蔵地	縄文	焼土遺構	9基	石鏃・礫・垂飾品・前期～中期土器片	
		不明	溝	1条		
大野	包蔵地	旧石器	遺物集中地点	2ヶ所	ナイフ形石器・石核・剥片	
	集落跡	縄文	住居跡 土坑	1軒 50基	中期深鉢・早期～後期土器片・石鏃・磨石・融石・垂飾品	
大野第9	集落跡	縄文	住居跡 土坑	3軒 108基	中期深鉢・前期～後期土器片・石鏃・磨石	
西大野第3	集落跡	縄文	住居跡 土坑 石鏃等工房跡	2軒 24基 1ヶ所	中期深鉢・前期～後期土器片・石鏃・磨石・石斧	
大野第1	集落跡	縄文	住居跡 小堅穴 土坑	8軒 1基 236基	前期～中期土器片・石鏃・石斧	
		奈良・平安	住居跡 掘立柱建物跡	1軒 4棟	土師器（杯・鏃・甗）	
西大野第1	包蔵地	旧石器	遺物集中地点 炭化物集中地点	10ヶ所 1ヶ所	ナイフ形石器・石核・削器・剥片	離れた調査区の遺物が接合
		集落跡	縄文	住居跡 土坑	3軒 70基	
		古墳	方墳	1基	鉄鏃	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
東大野第1	包蔵地	奈良・平安	住居跡 溝 土坑	12軒 1条 5基	須恵器・土師器・墨書	「佛」他1点の墨書土器が出土	
		縄文	土坑	11基	中期土器片少量・石鏃・石斧		
東大野第2	包蔵地	旧石器	遺物集中地点 焼土検出ヶ所 炭化物検出ヶ所	29ヶ所 2ヶ所 2ヶ所	ナイフ形石器・石核・削器・剥片	ブロックが環状に巡る	
		集落跡	縄文	住居跡 土坑	1軒 37基		前期の土器片・礫
大野南	包蔵地	旧石器	遺物集中地点	1ヶ所	ナイフ形石器・石核・削基・剥片・礫		
		集落跡	縄文	住居跡 土坑	3軒 25基		中期深鉢形土器・軽石製石製品
南大野第1	包蔵地	縄文	土坑	3基	中期の土器片少量		
東大野第3	包蔵地	旧石器	遺物集中地点	3ヶ所	ナイフ形石器・削器・剥片・礫		
		集落跡	縄文	住居跡 小堅穴 土坑	4軒 1軒 7基		ペンダント状の石製品・管玉・磨石斧・有孔円版・早期（井草式）土器片
南大野第4	集落跡	縄文	住居跡 土坑	2軒 8基	早期（稻荷台）土器片・石斧・石鏃・礫群	環状礫群が認められる	
東大野第4	包蔵地	縄文			異形磨製石器		
		生産地	平安	炭窯	3基		土師器片
南大野第5	包蔵地	縄文			前期～後期土器片少量	製鉄関連の炭窯の可能性が ある	
		生産地	平安	炭窯 作業場跡	1基 1軒		炭・土師器片・磨石斧
		近現代		炭窯	1基		

写 真 图 版

写真図版目次

大野第 2 遺跡	図版 1
大野第 3 遺跡	4
大野第 4 遺跡	14
大野第 5 遺跡	18
大野第 6 遺跡	19
大野第 7 遺跡	20
大野第 8 遺跡	47
大野遺跡	49
大野第 9 遺跡	59
西大野第 3 遺跡	76
大野第 1 遺跡	80
西大野第 1 遺跡	119
東大野第 1 遺跡	152
東大野第 2 遺跡	154
大野南遺跡	177
南大野第 1 遺跡	187
東大野第 3 遺跡	189
南大野第 4 遺跡	200
東大野第 4 遺跡	206
南大野第 5 遺跡	208

調査前全景

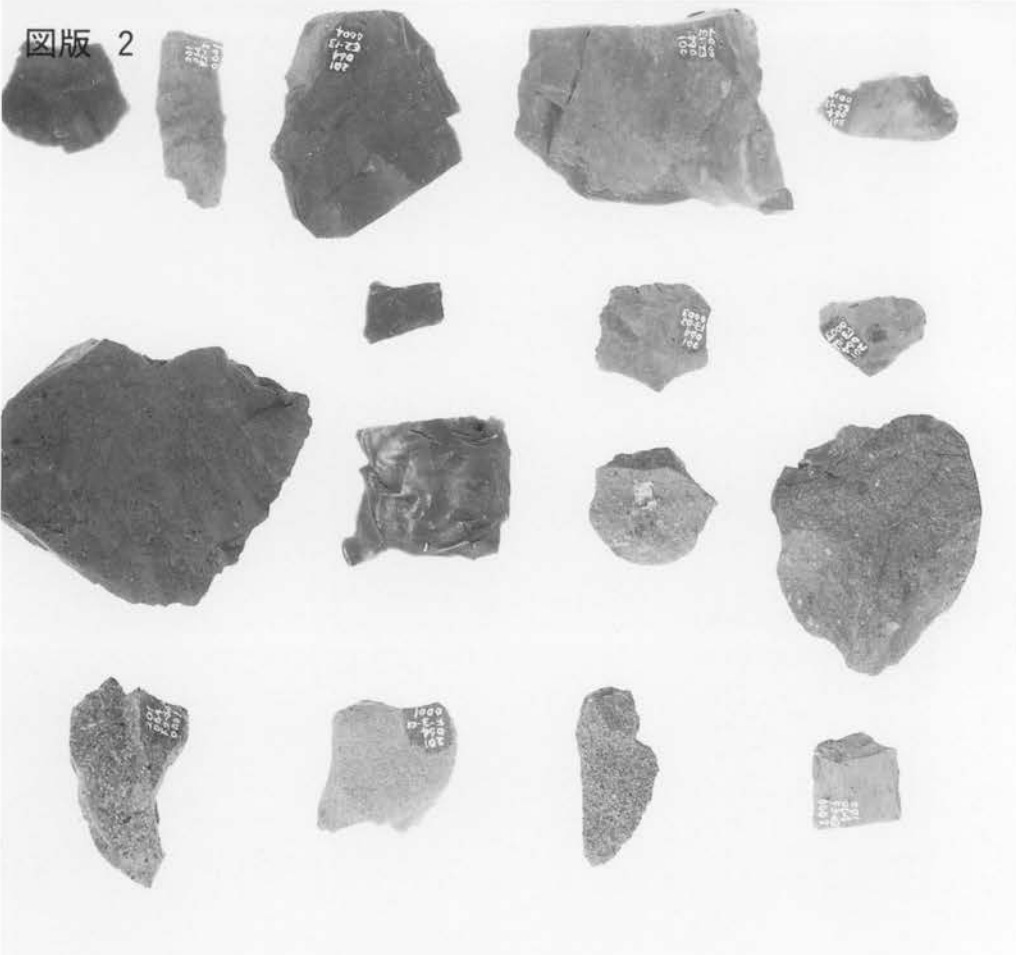


第1ブロック
遺物出土状況

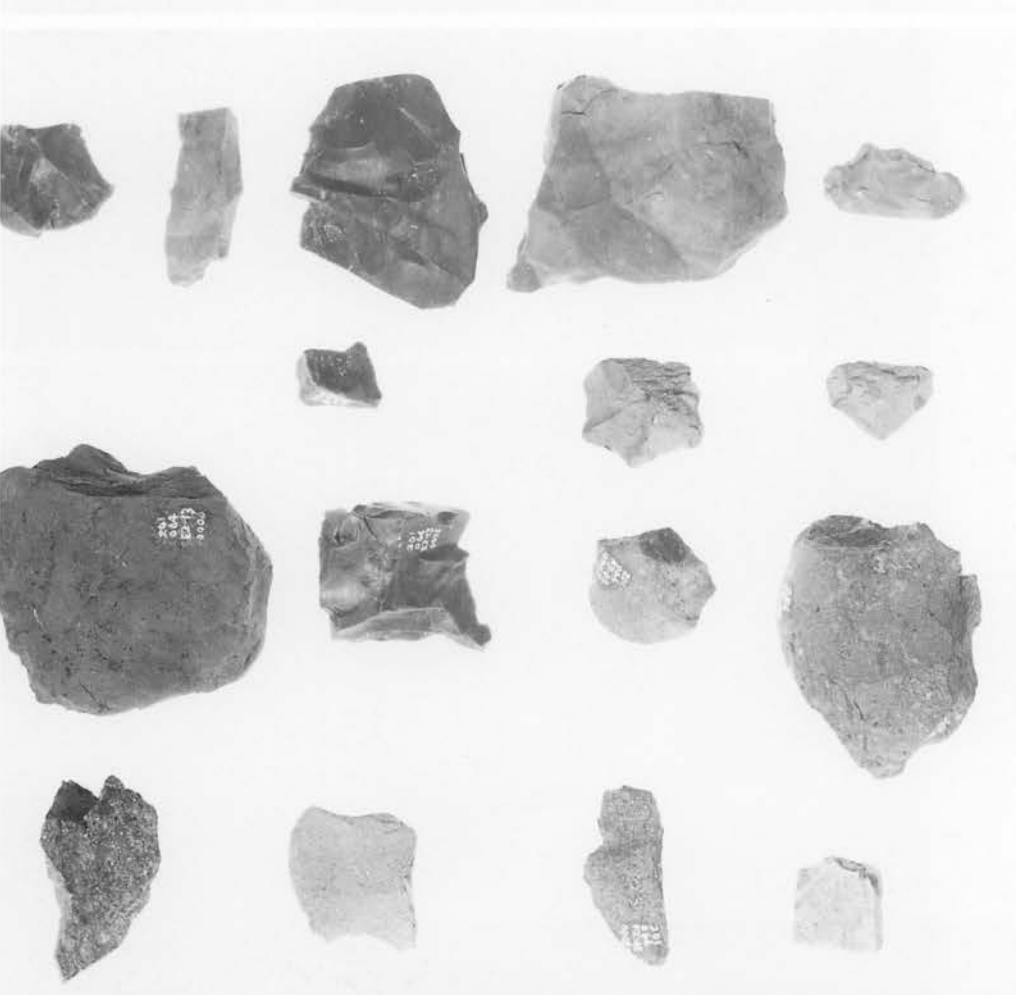


第2ブロック
遺物出土状況





第1ブロック
第2ブロック
出土石器 (表)



同上 (裏)



包含層出土土器及び石器

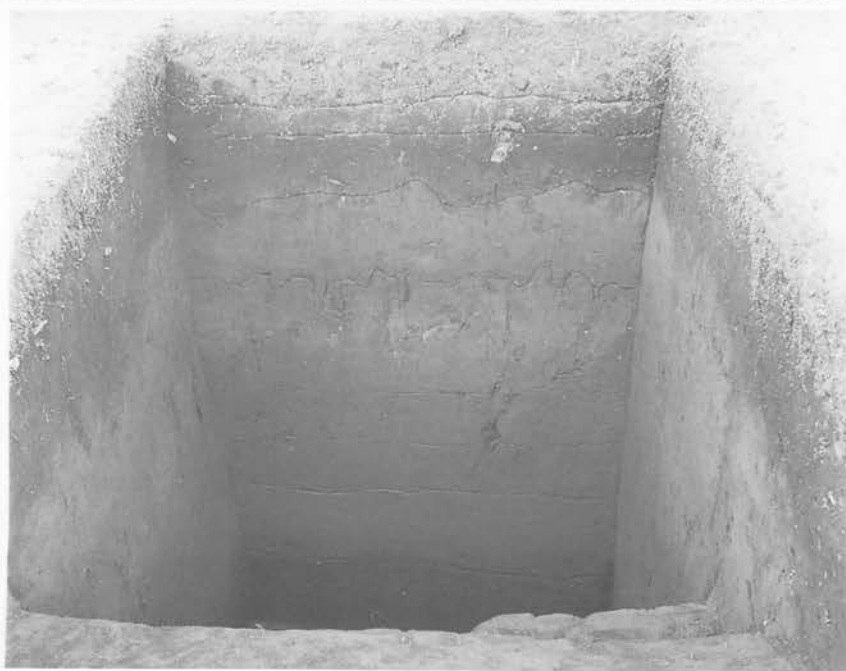


大野第3遺跡

調査前全景



遺構検出状況



土層断面

大野第3遺跡



第1ブロック
出土状況



第2ブロック
出土状況



第3ブロック
出土状況



第1・2・3ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)

002号住居跡



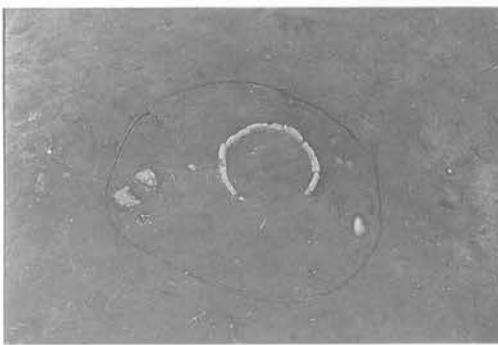
(左) 同上炉断面
 (右) 炉囲土器
 出土状況

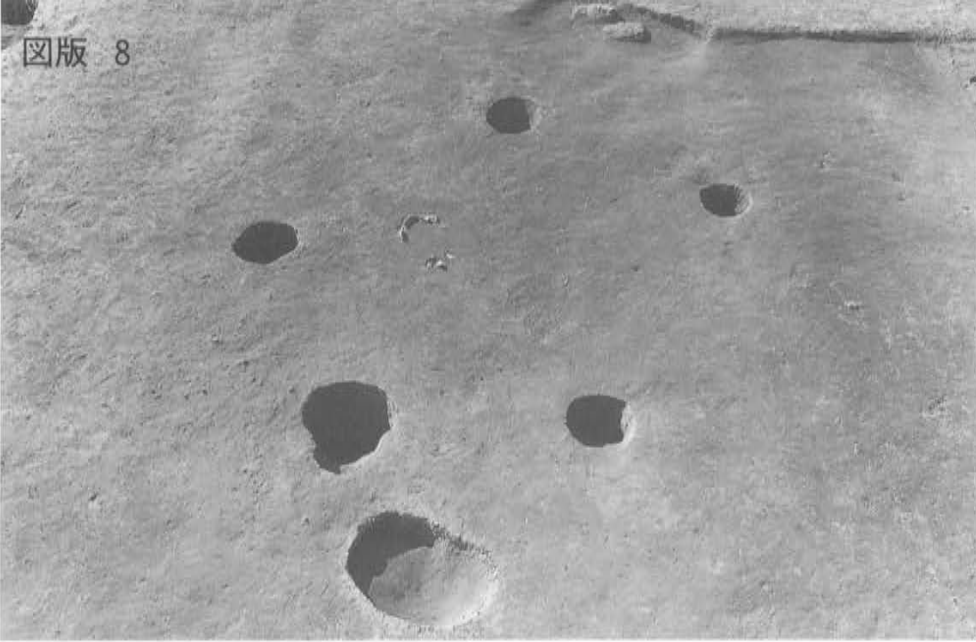


縄文時代
 003号住居跡



同上 炉囲土器
 出土状況





004号住居跡



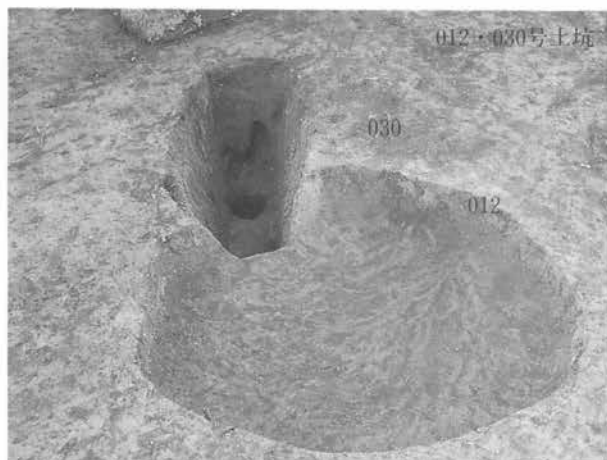
同上 炉囲土器
出土状況



008～020号土坑



010号土坑遺物出土状況



图版 10

大野第3遺跡



001号住居跡



同上断面



同上カマド内遺物
出土状況





002号住居跡-1



包含層出土遺物



004号住居跡-40



003号住居跡-11



001号住居跡-1



001号住居跡-8



大野第4遺跡

上層遺構
検出状況



下層確認



第1ブロック
遺物出土状況



第1ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)

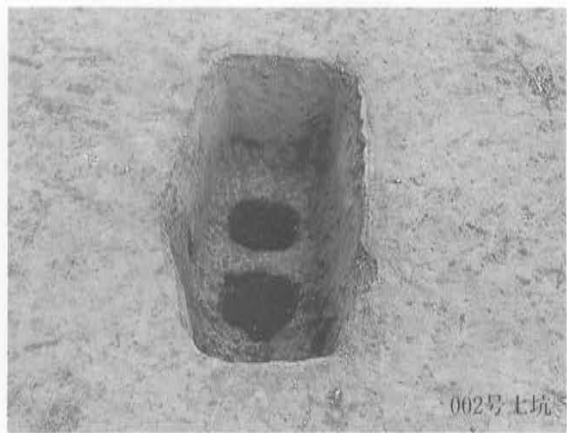


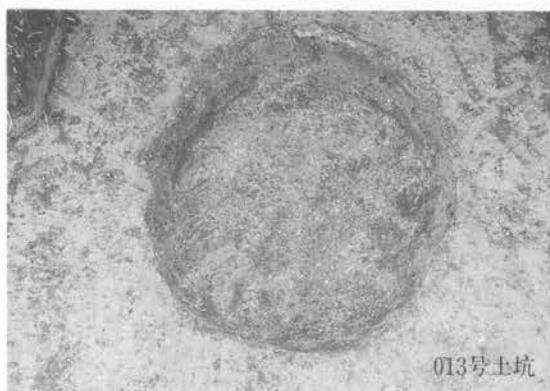
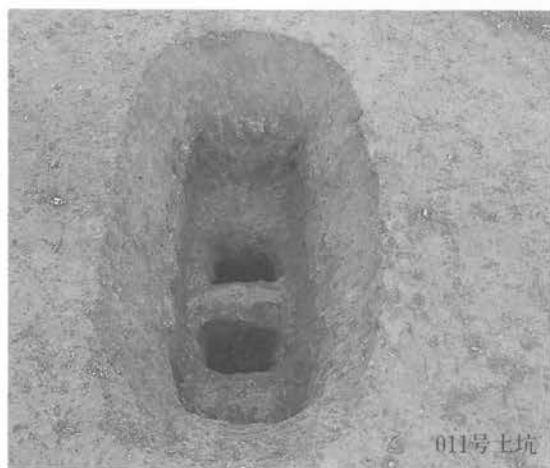
出土土器 (左)
016号土坑 (右)

縄文時代



図版 16
大野第4遺跡







大野第5遺跡

調査前全景



遺物出土状況



出土石器(表)



同上(裏)

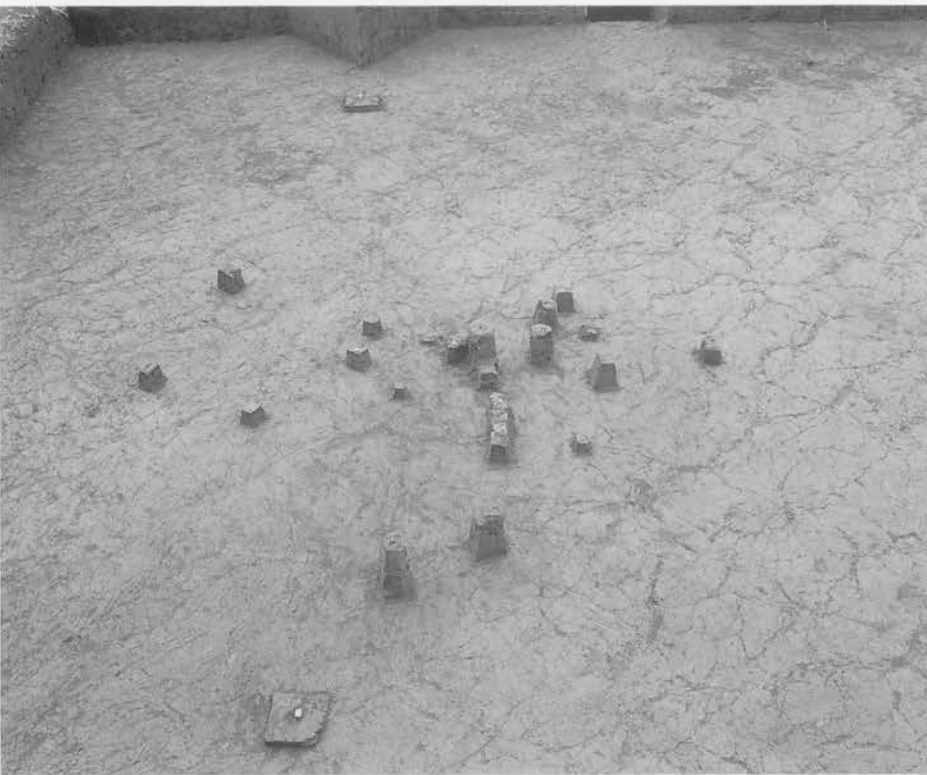
大野第 6 遺跡



調査前全景



確認調査終了時全景



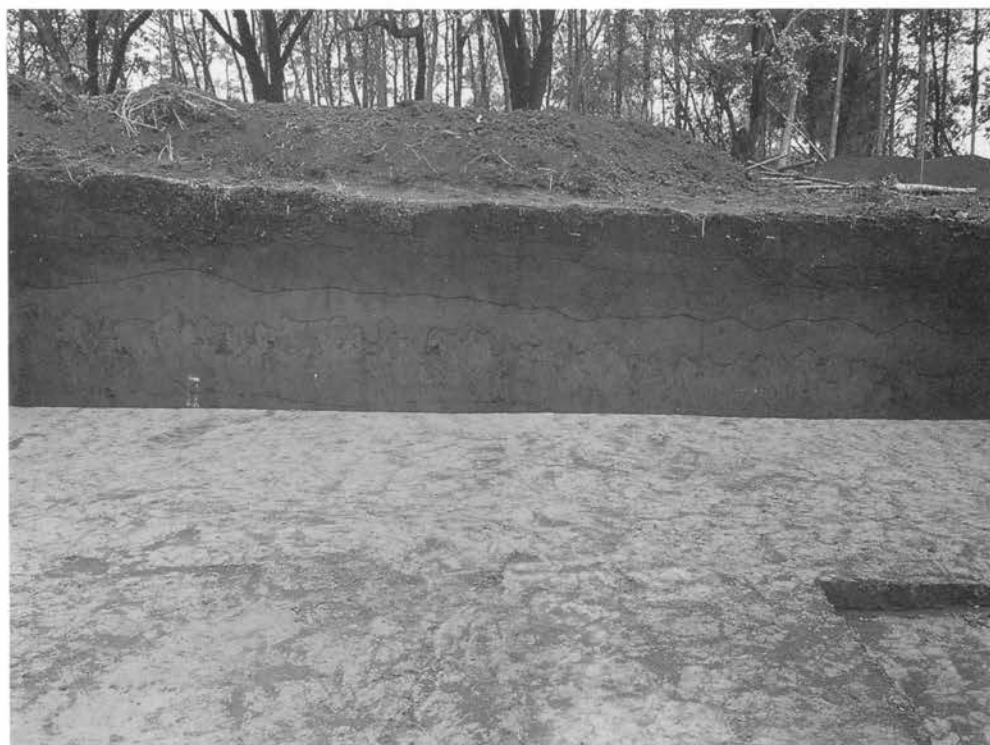
第1ブロック
遺物出土状況



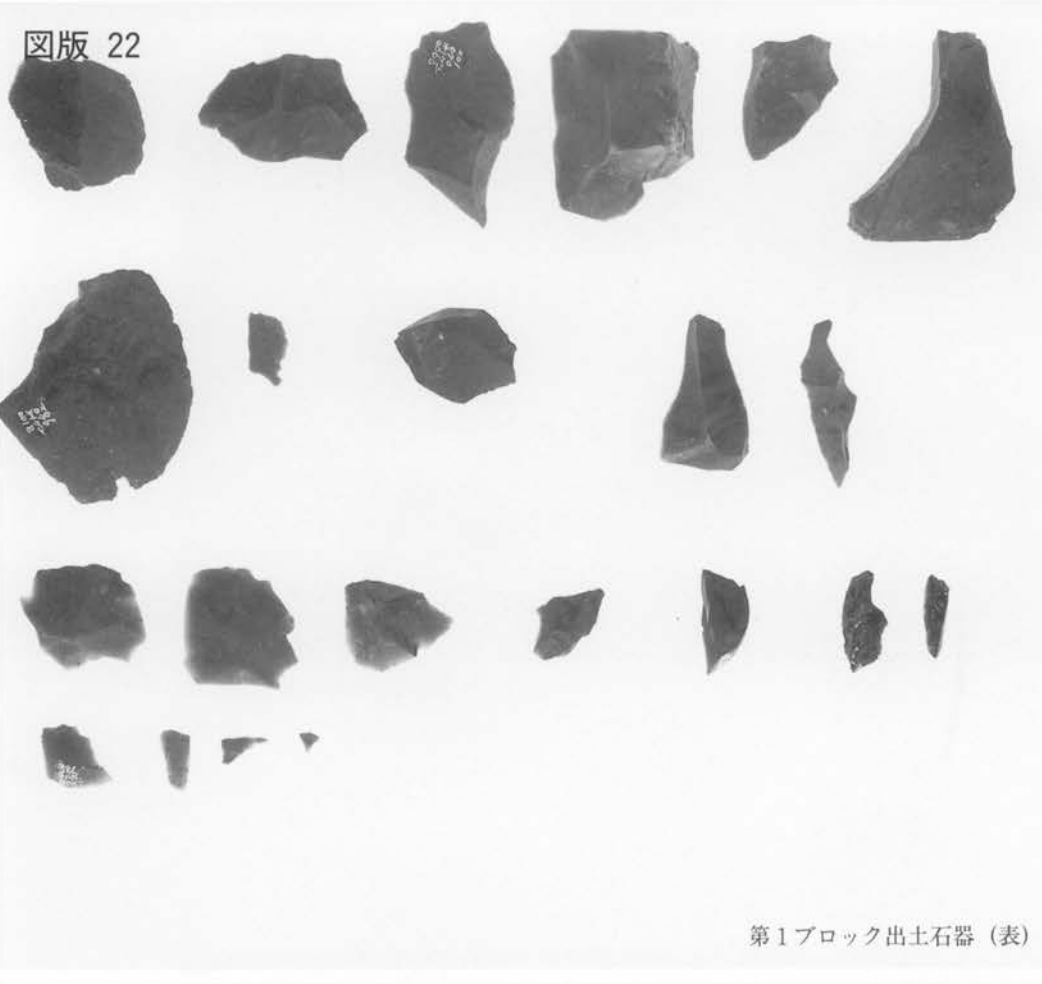
同上
土層断面



第2ブロック遺物出土状況



同上土層断面



第1ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)

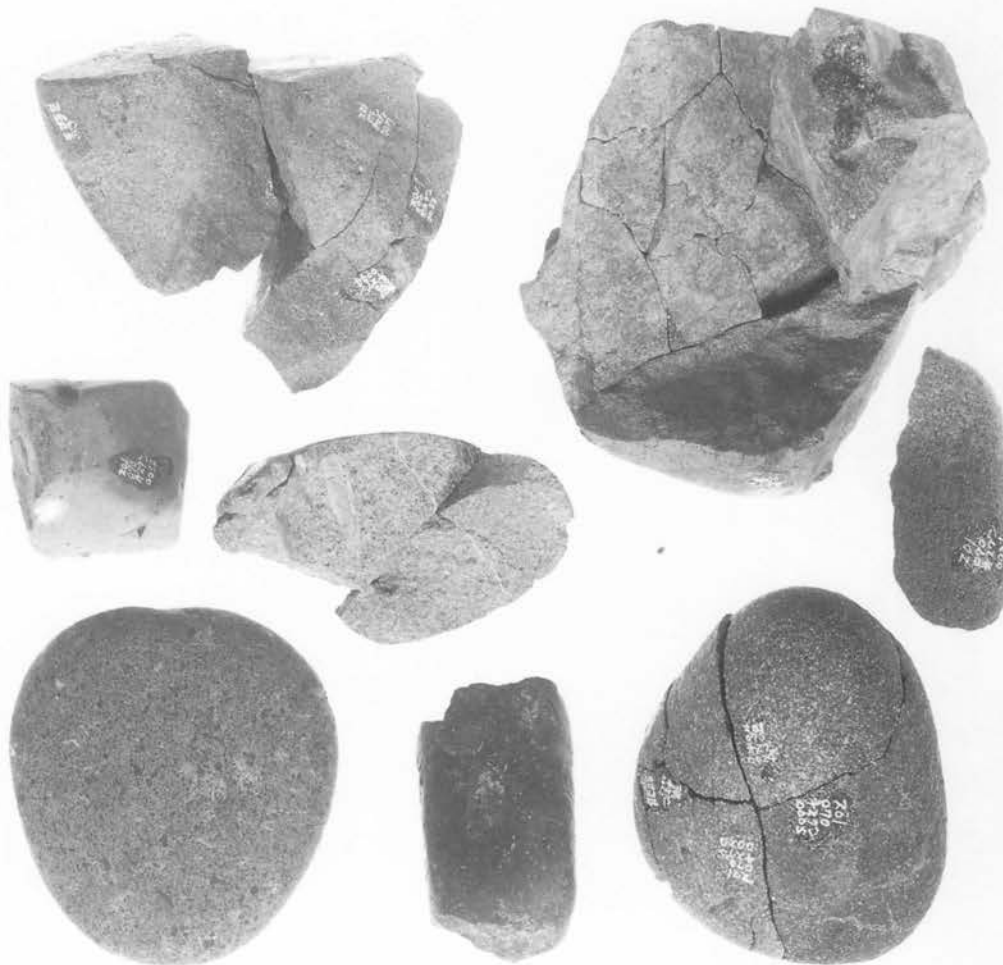
大野第7遺跡



第2ブロック出土石器(表)



同上(裏)



同上出土礫



第3ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)



第4ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)



009号住居跡埋燗炉



100号住居跡全掘



同上遺物出土状況



013号土坑



014号土坑



015号土坑



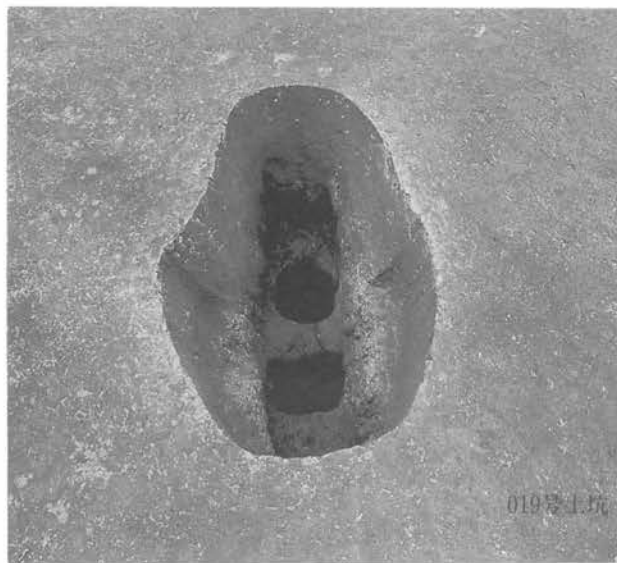
016号土坑



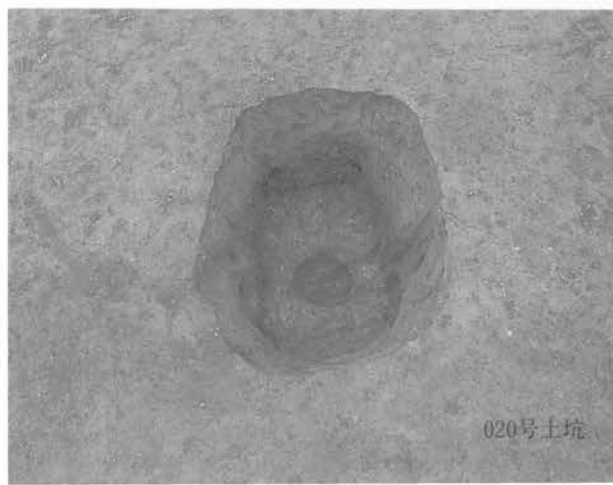
017号土坑



018号土坑



019号土坑



020号土坑



021号土坑



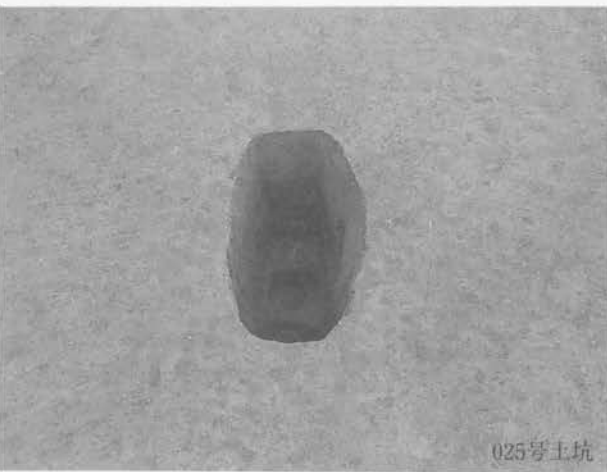
022号土坑



023号土坑



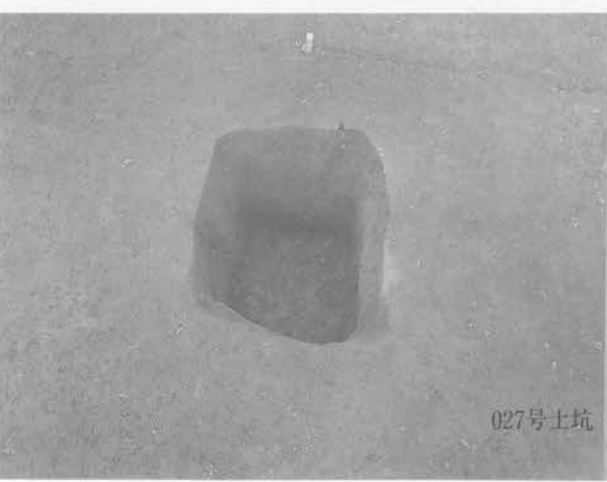
024号土坑



025号土坑



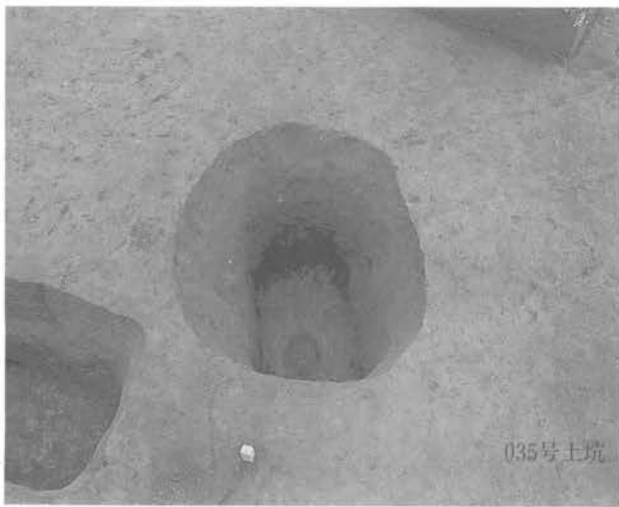
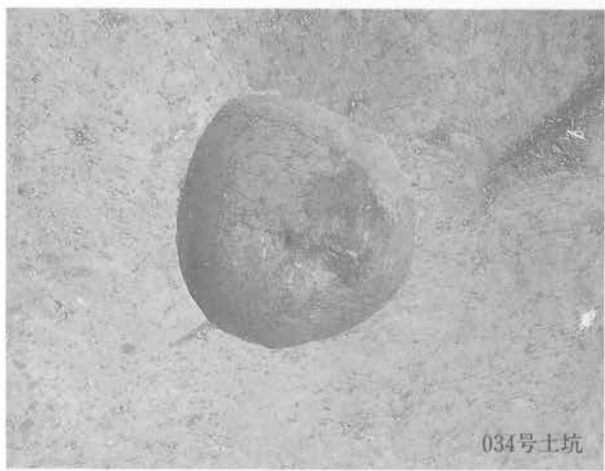
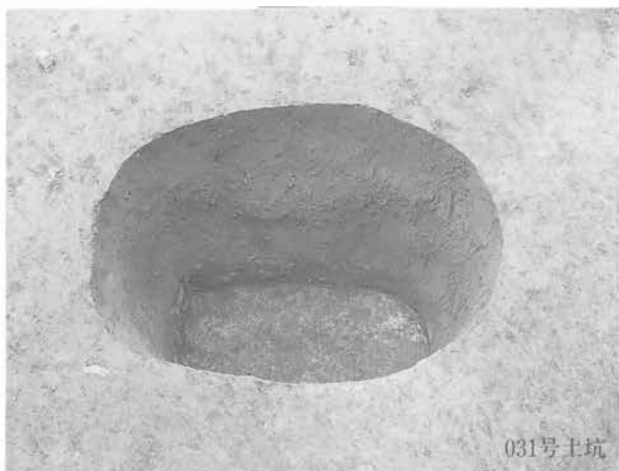
026号土坑



027号土坑



028号土坑





038号土坑



039号土坑



040号土坑



041号土坑



042号土坑



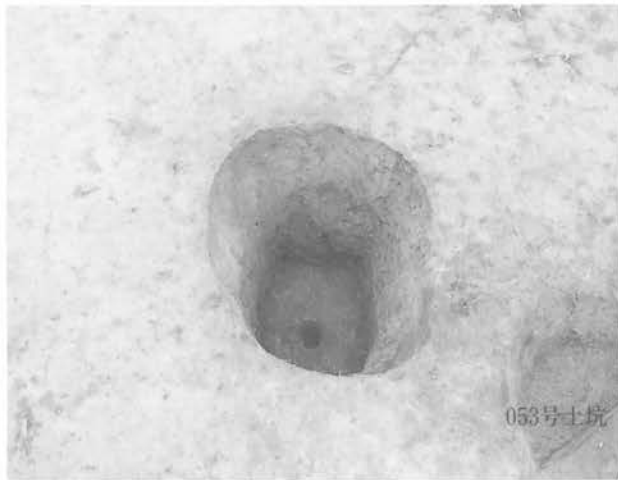
043号土坑



044号土坑



045号土坑



図版 32
大野第7遺跡



055号土坑



056号土坑



057号土坑



058号土坑



059号土坑



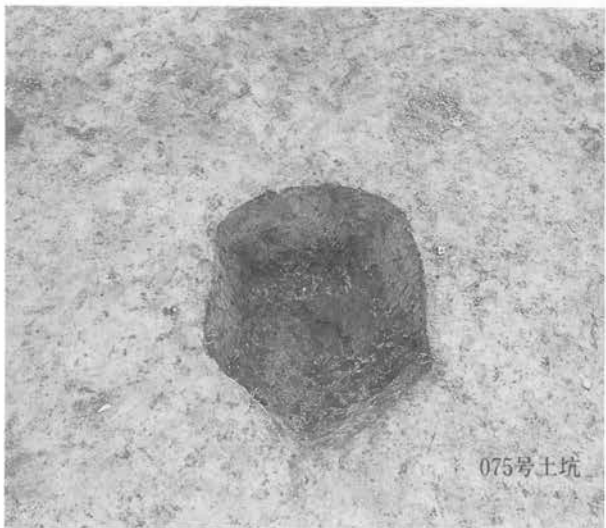
060号土坑



061号土坑



062号土坑



图版 34
大野第7遺跡



076号土坑



077号土坑



078号土坑



079号土坑



080号土坑



081号土坑



082号土坑



083号土坑



084号土坑



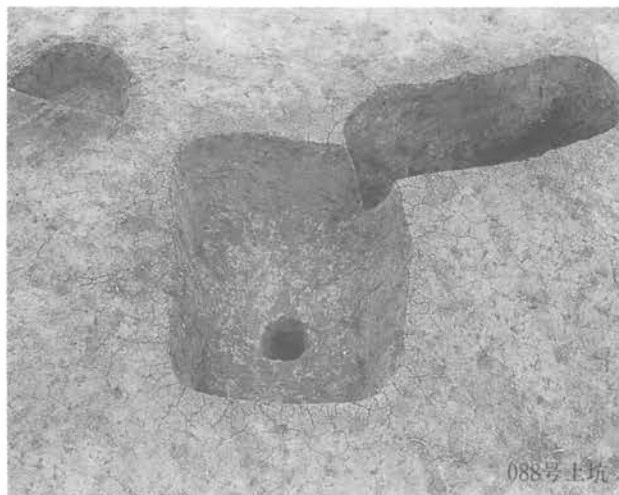
085号土坑



086号土坑



087号土坑



088号土坑



089号土坑



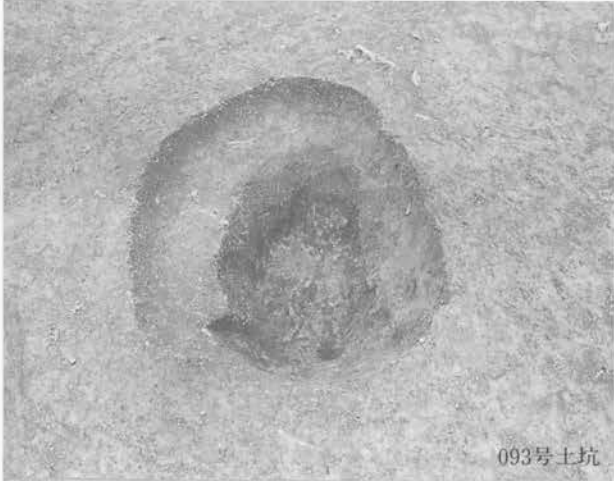
090号土坑



091号土坑



092号土坑



093号土坑



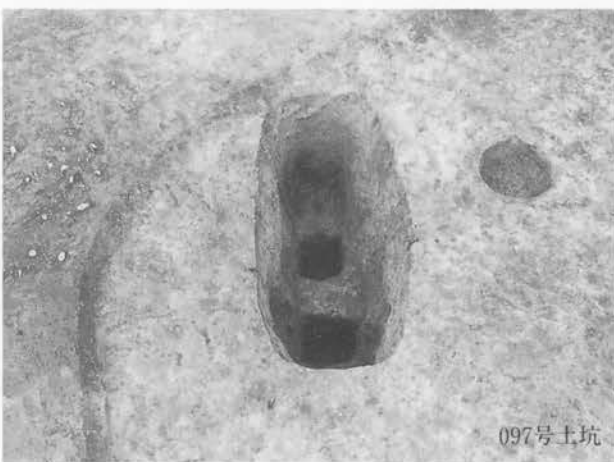
094号土坑



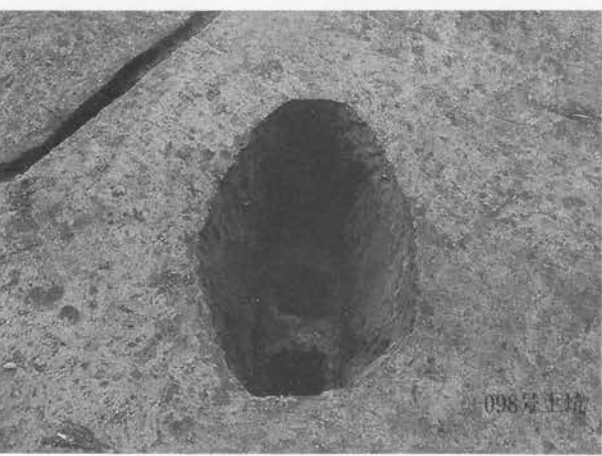
095号土坑



096号土坑



097号土坑

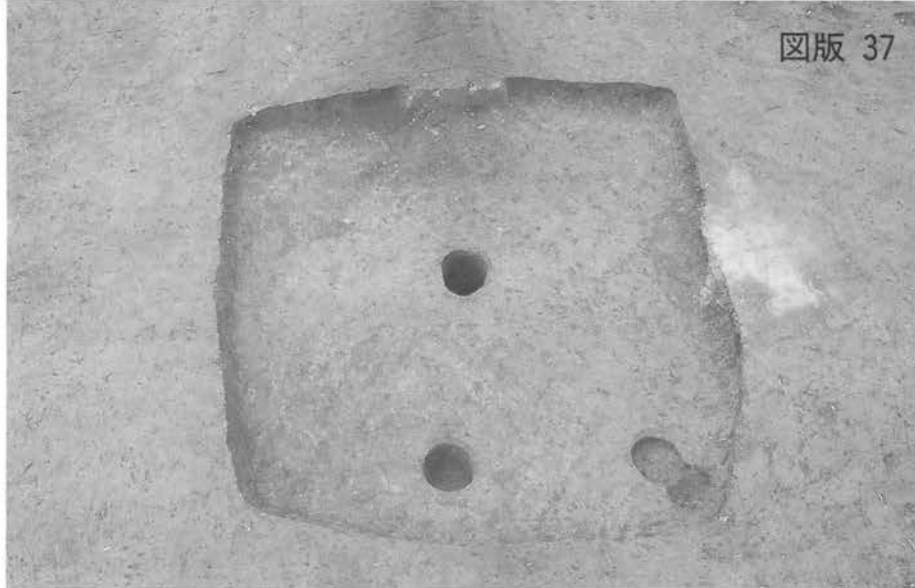


098号土坑



099号土坑

001号住居跡全掘



002号住居跡全掘



003号住居跡全掘





003号住居跡
炭化材出土状況



(左上) 003号住居跡カマドセクション (正面)

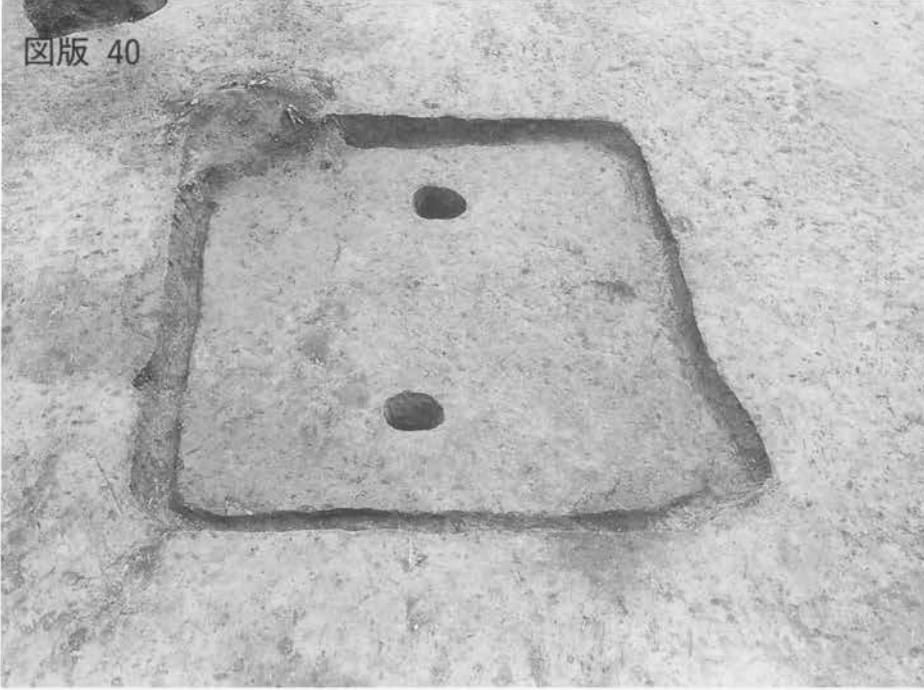
(右上) 同上 カマドセクション (横)

(右下) 同上 カマド掘り方



- (上) 004 (B) 号住居跡全掘
- (中) 同上 カマドセクション (横)
- (下) 004 (A) 号住居跡全掘

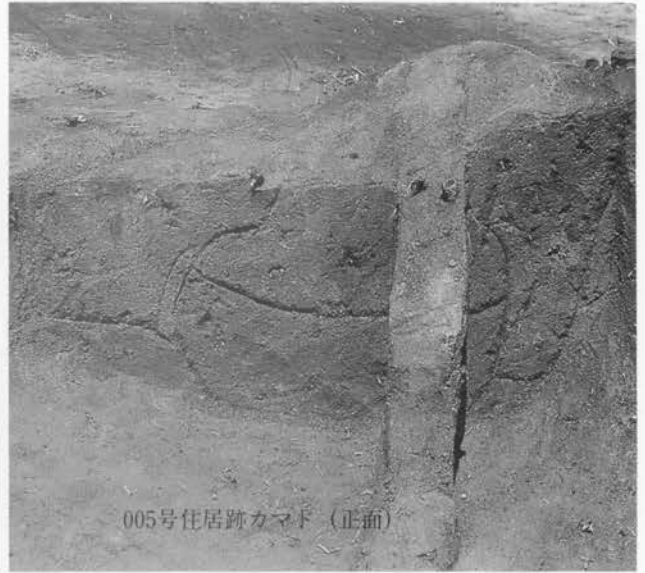




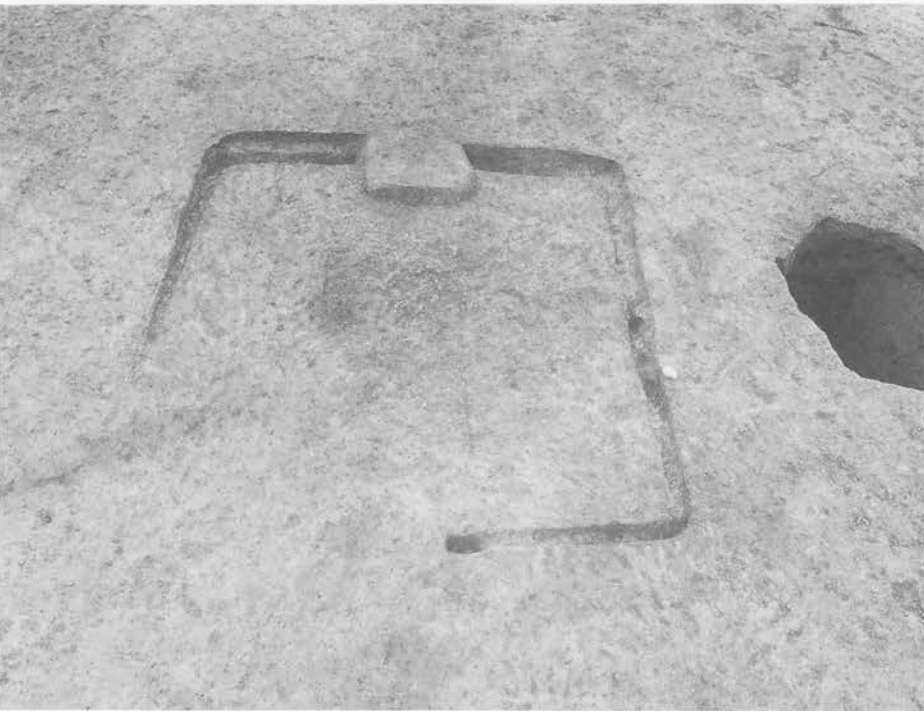
005号住居跡全掘



005号住居跡カマド (横)



005号住居跡カマド (正面)



101号住居跡全掘



006号掘立柱
建物跡全掘



007号掘立柱
建物跡全掘



008号掘立柱
建物跡全掘



012号掘立柱建物跡検出状況



012号掘立柱建物跡柱穴断面1-1



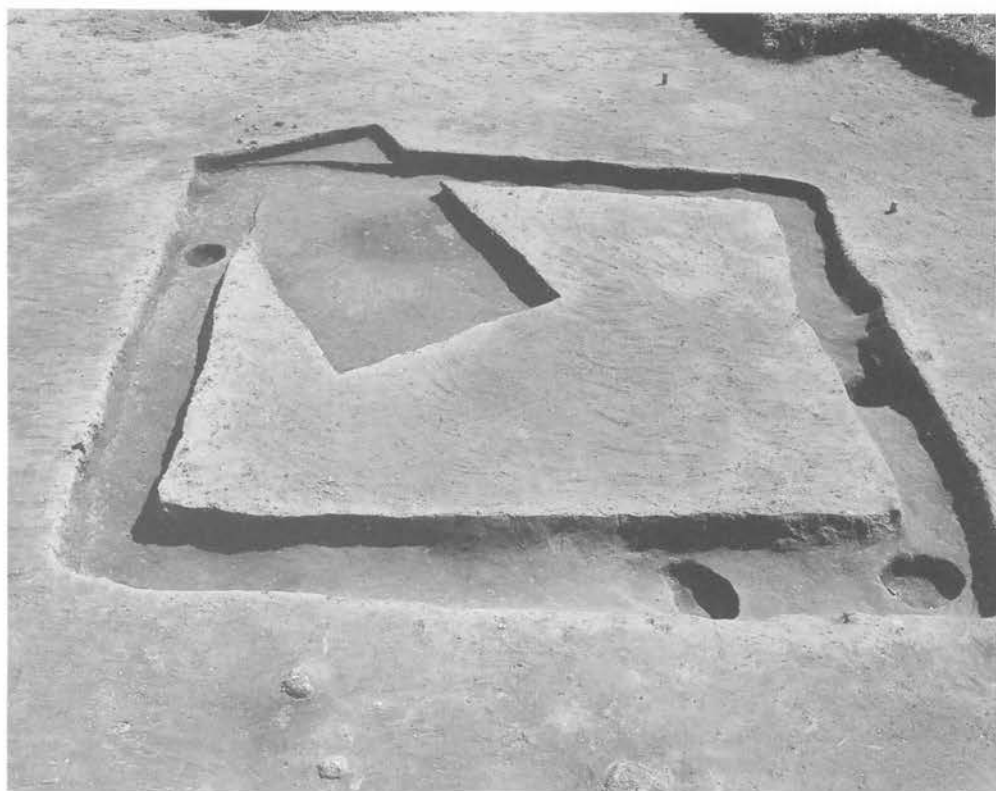
同左C-C'



012号掘立柱建物跡全掘



010号方形周溝



011号方形周溝



大野第7遺跡

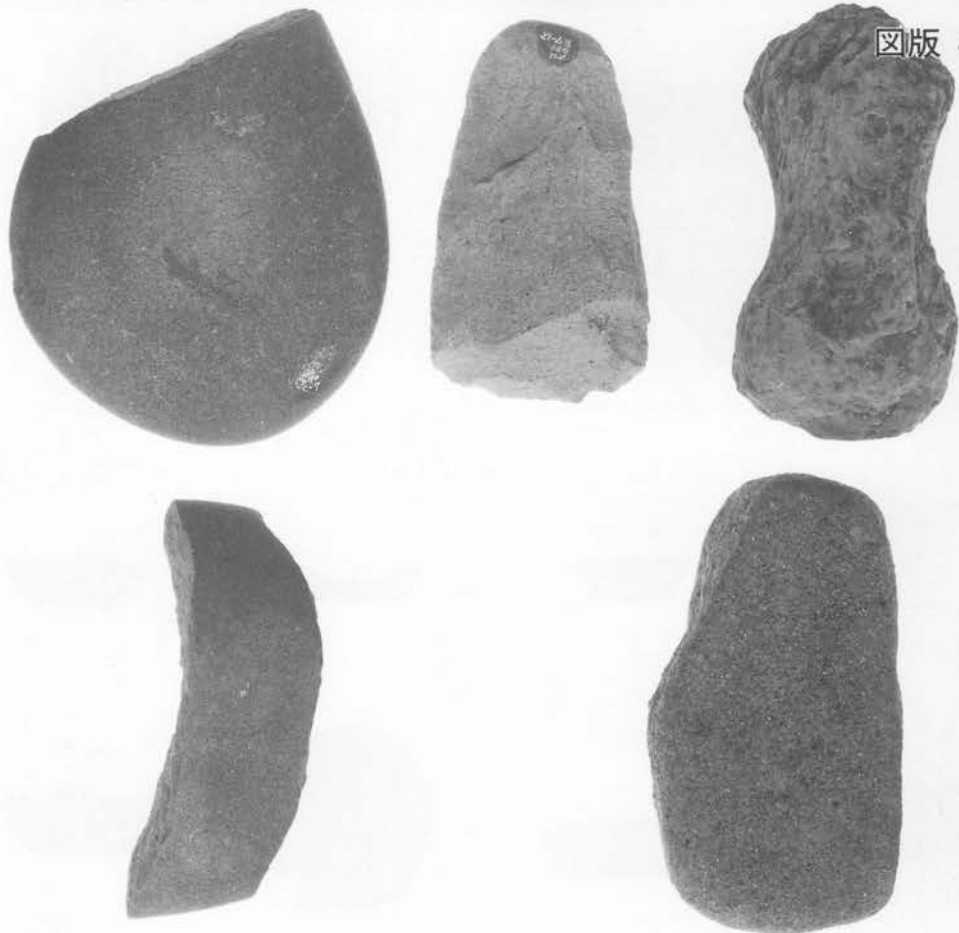
U16-87区遺物出土状況



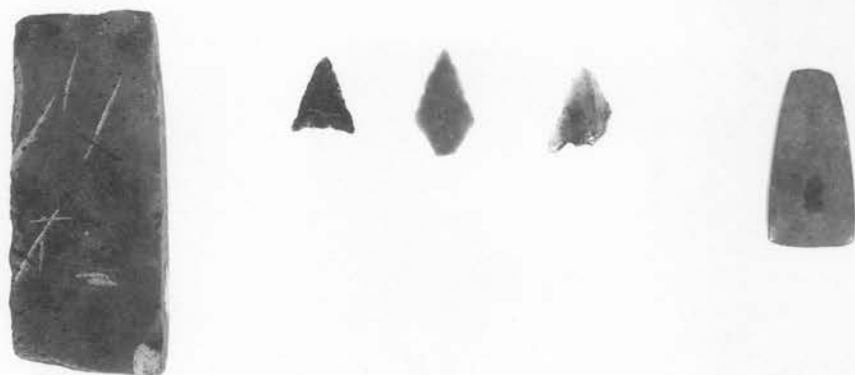
同上



同上



出土石器



出土石器・石製品



100号住居跡-17



100号住居跡-20



2



3



14



17



11



8



14



13



27



52



53



70



69

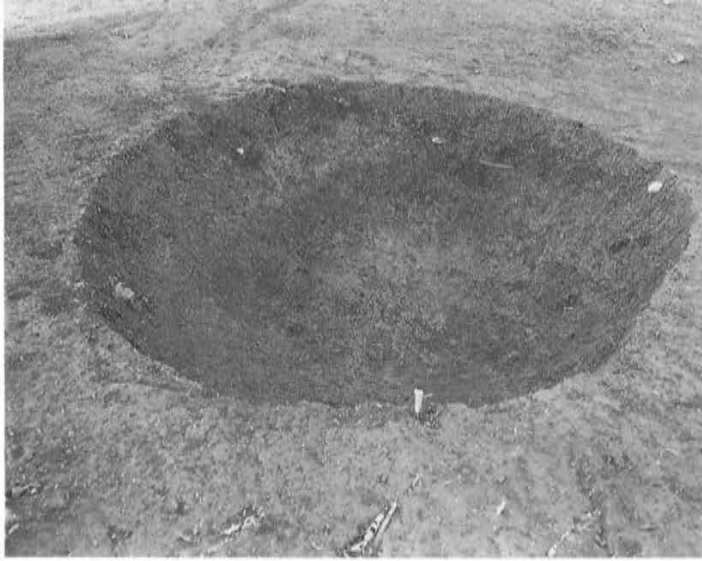


73

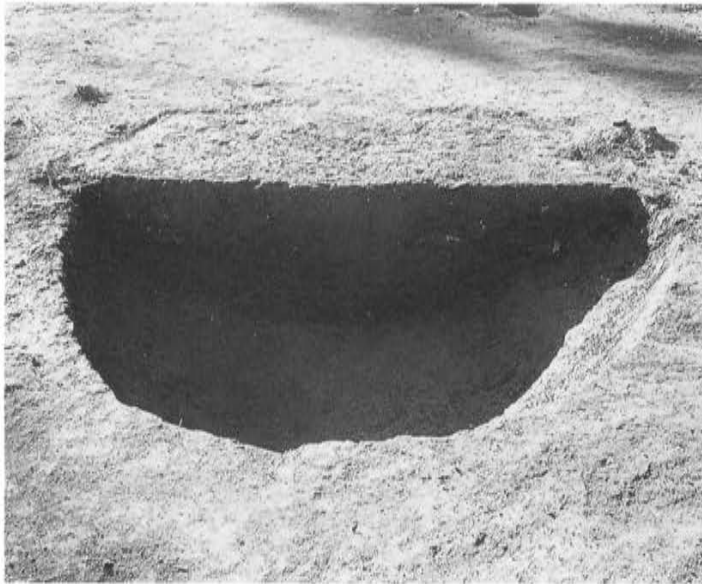


72

大野第 8 遺跡



004号土坑全掘



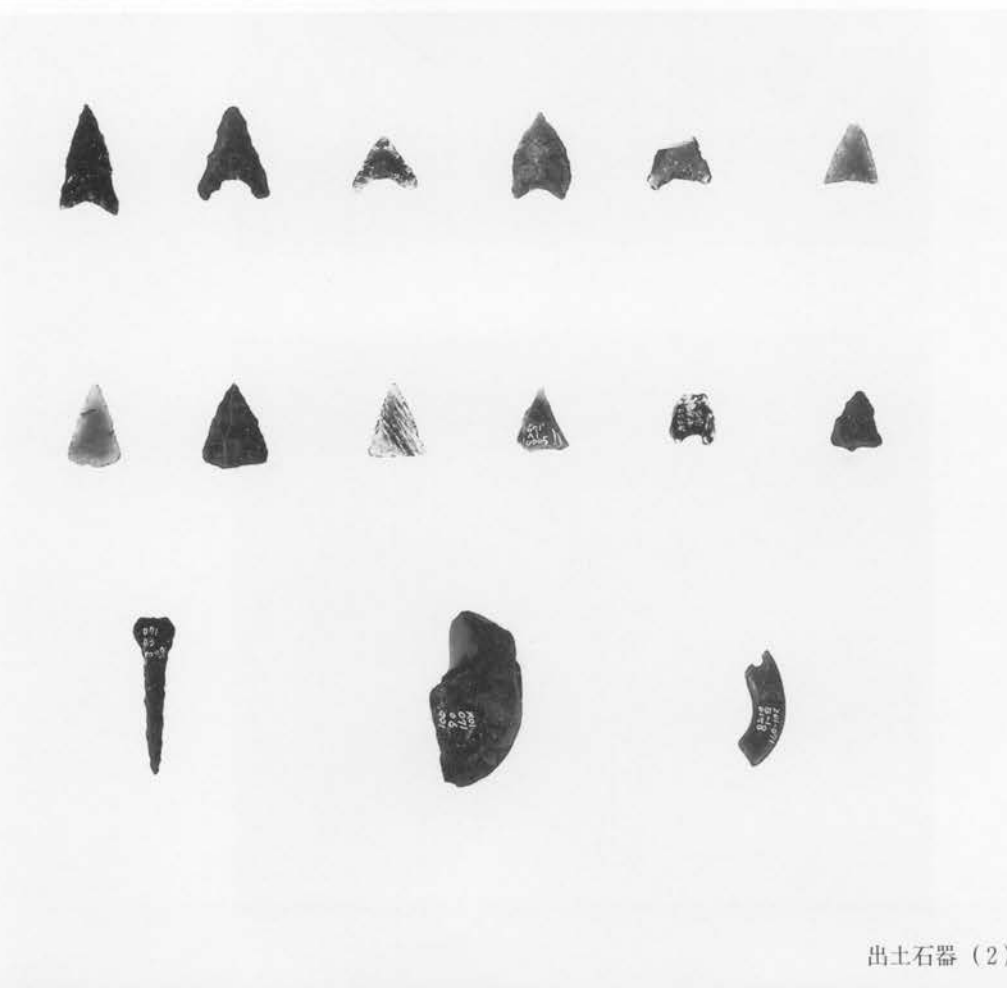
同上 断面

008号土坑全掘





出土石器 (1)



出土石器 (2)

調査前全景



土層断面



第2ブロック
遺物出土状況

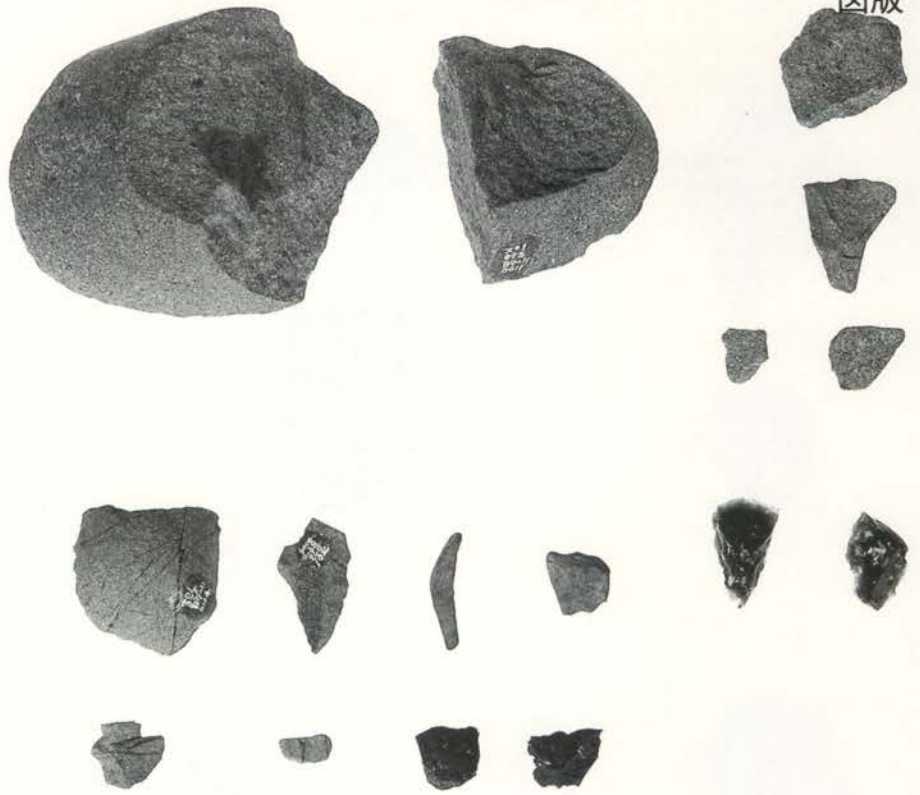




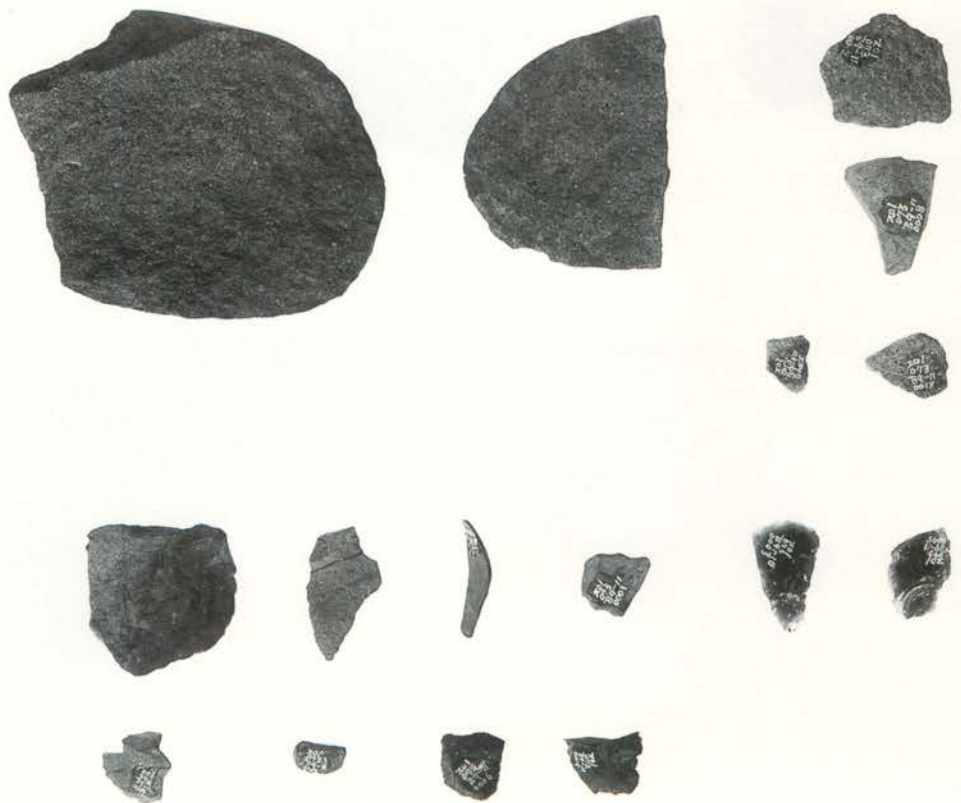
第1ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)



第2ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)



第3ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)



出土土器

AR-49
単独出土及び
土層断面

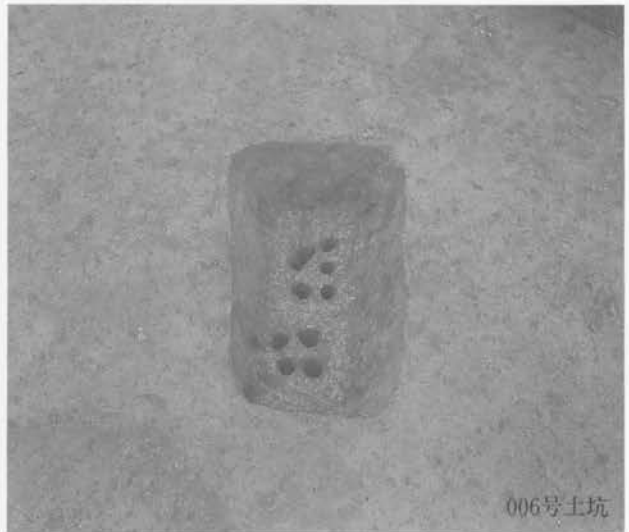
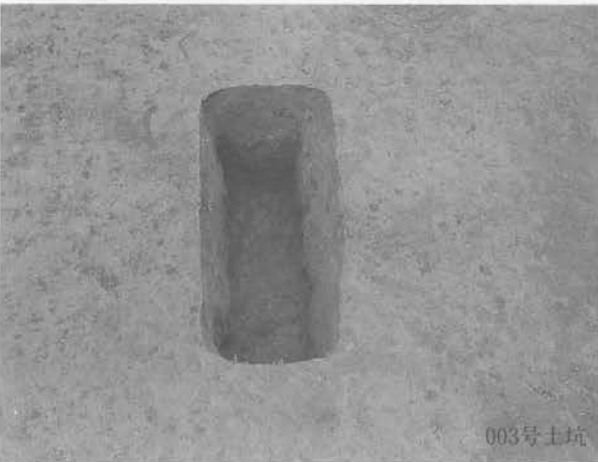
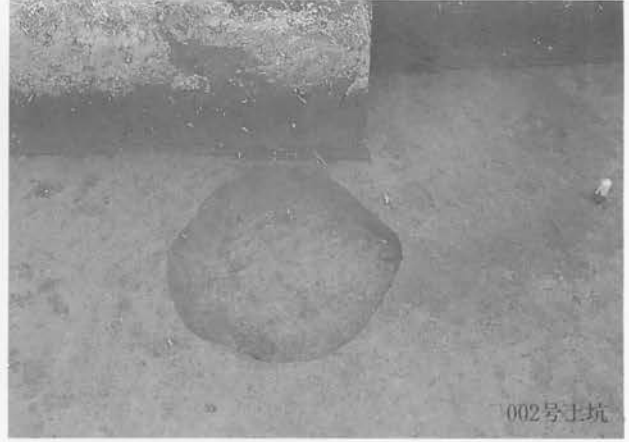


同上 出土状況



011号住居跡
全掘



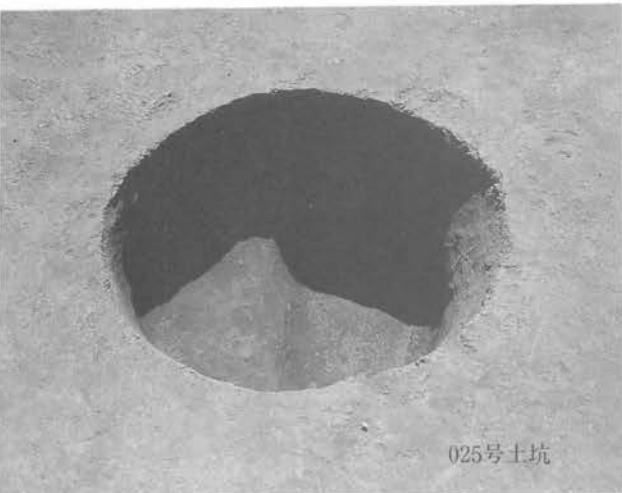




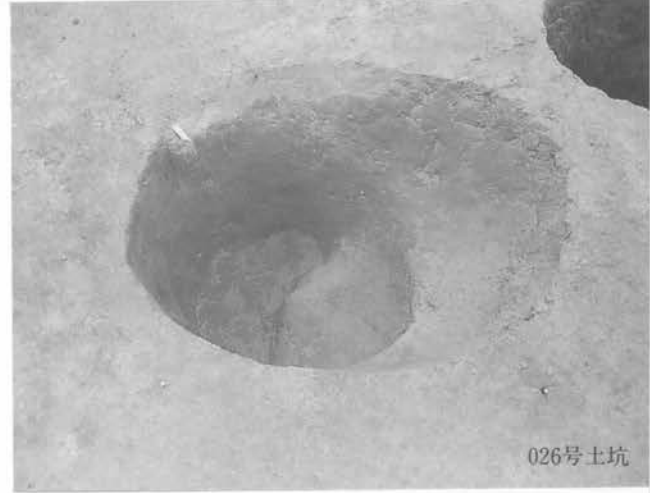
023号土坑断面



023号土坑



025号土坑



026号土坑



027号土坑遺物出土



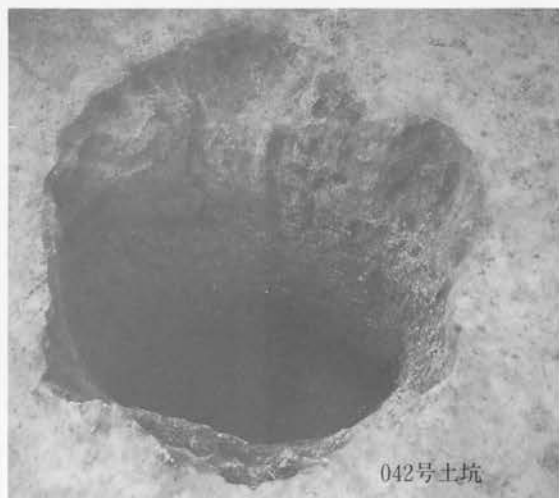
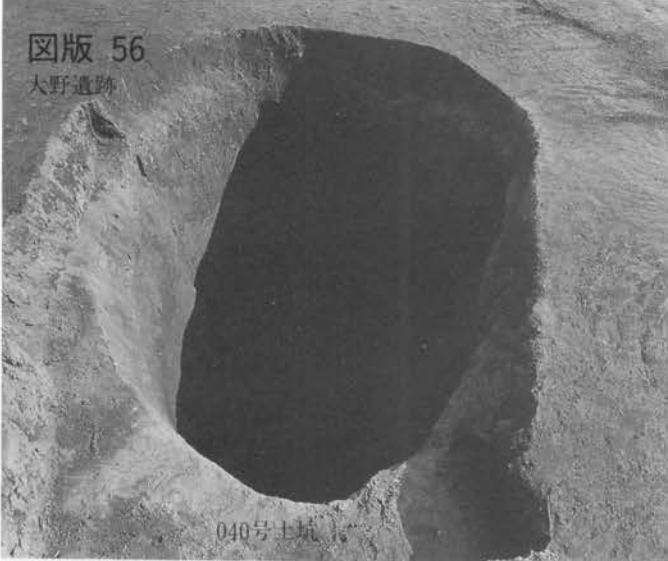
027号土坑



030号土坑



039号土坑





050号土坑



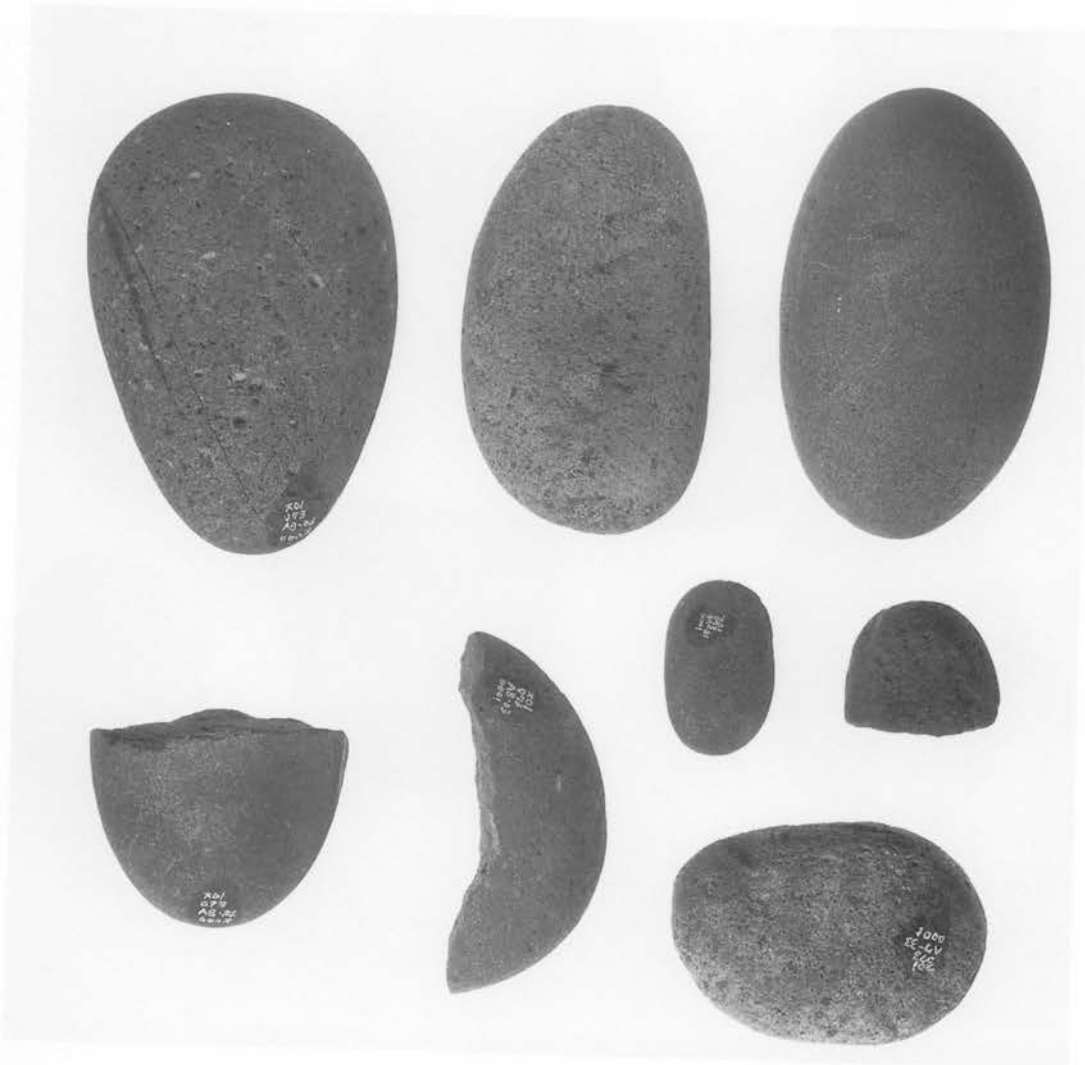
051号土坑



出土石器 (1)



出土石器（2）及び管玉



出土石器（3）

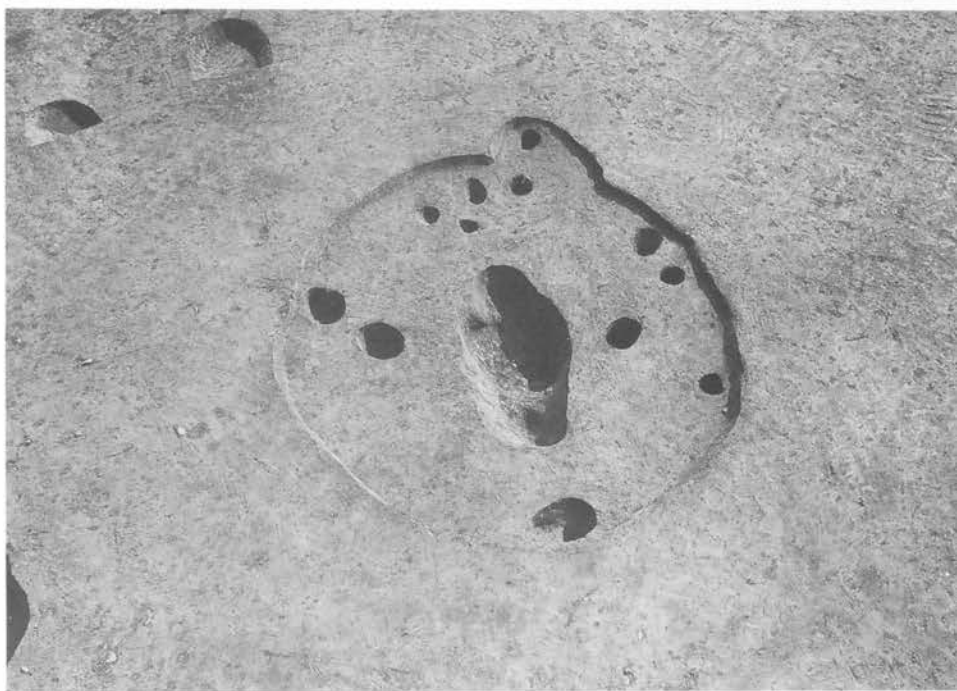
080号住居跡
埋甕炉



同上
全掘



100号住居跡
全掘





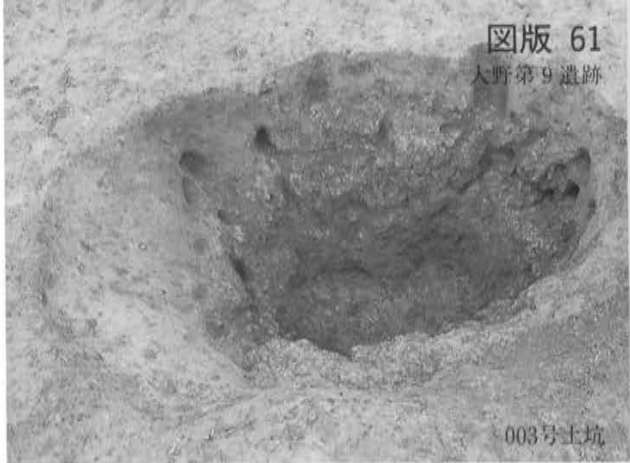
110号住居跡
遺物出土状況



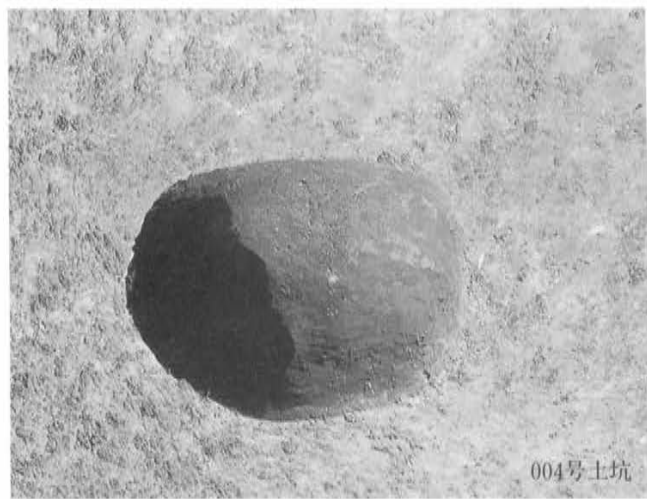
同上
全掘



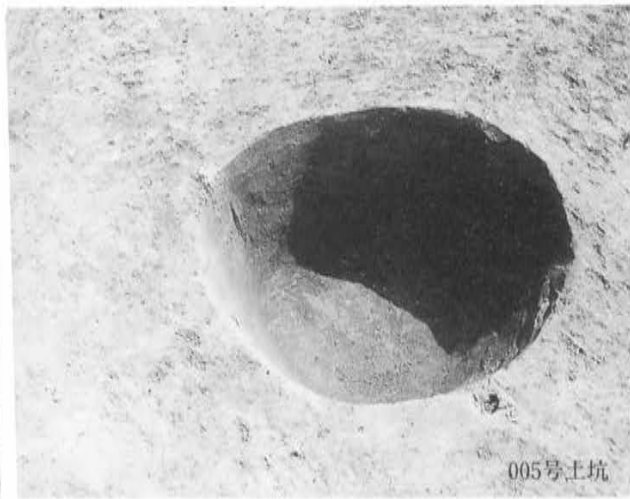
002号土坑



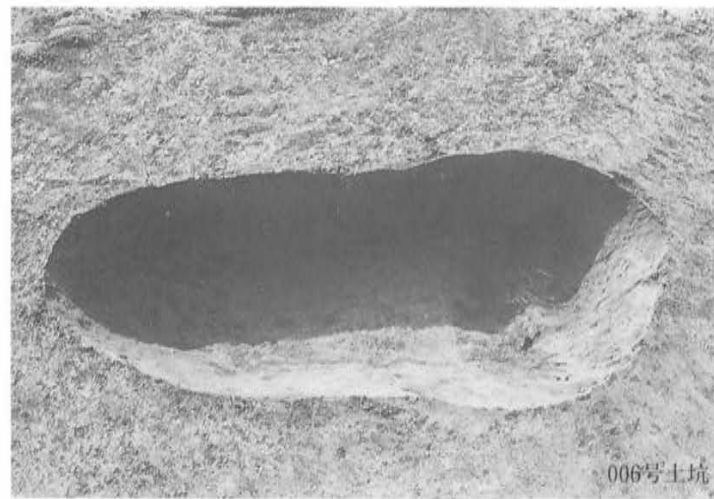
003号土坑



004号土坑



005号土坑



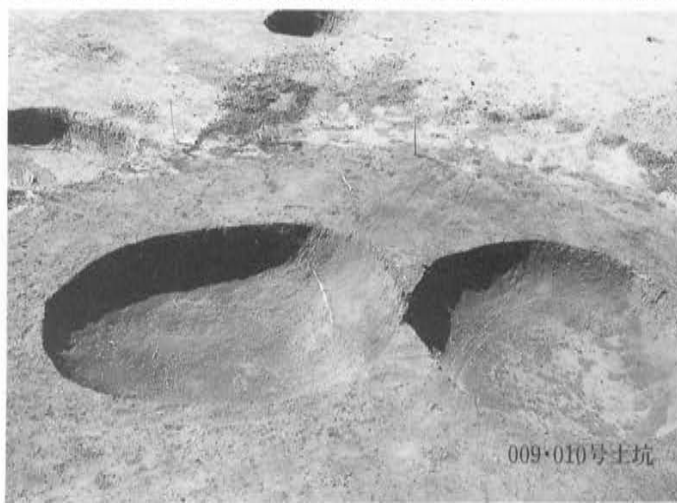
006号土坑



007号土坑



008号土坑



009・010号土坑



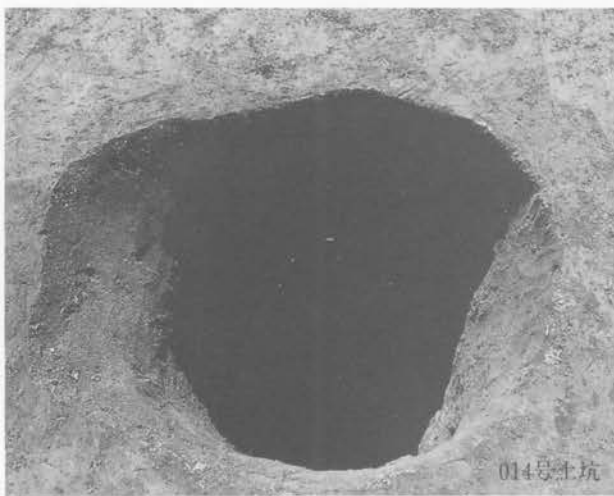
011号土坑



012号土坑



013号土坑



014号土坑



015号土坑



016号土坑



017号土坑



018号土坑



019号土坑



020号土坑



021号土坑



022号土坑



023号土坑



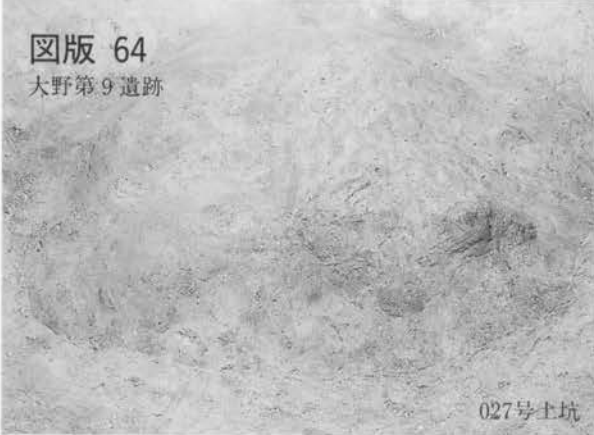
024号土坑



025号土坑



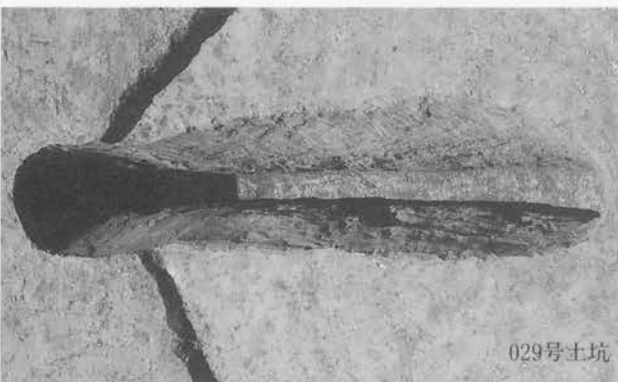
026号土坑



027号土坑



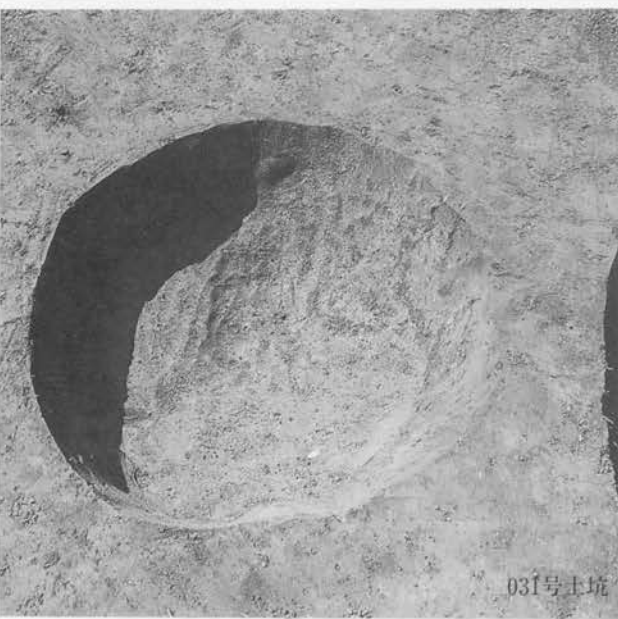
028号土坑



029号土坑



030号土坑



031号土坑



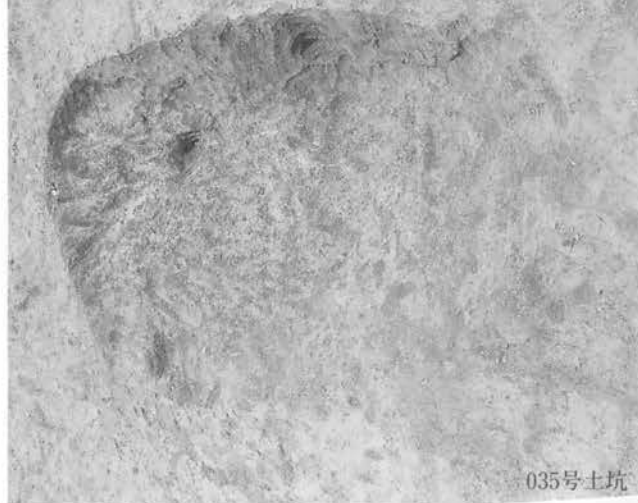
032号土坑



033号土坑



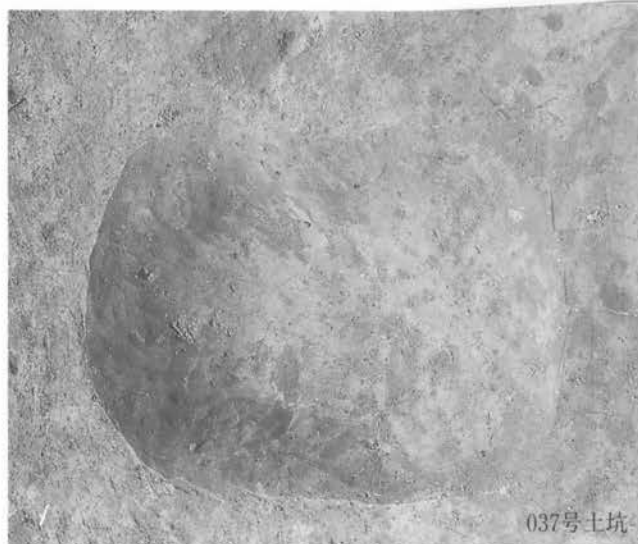
034号土坑



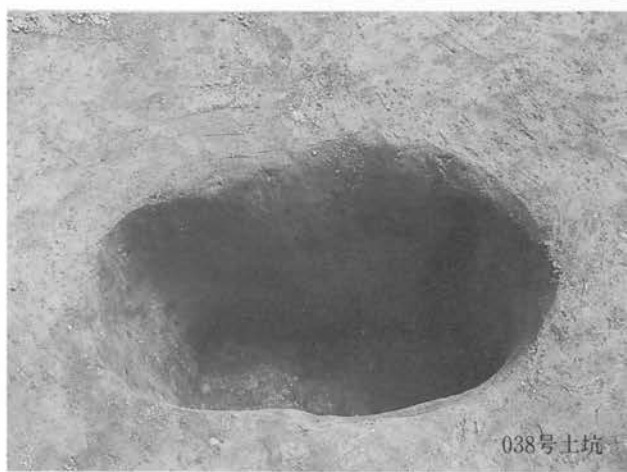
035号土坑



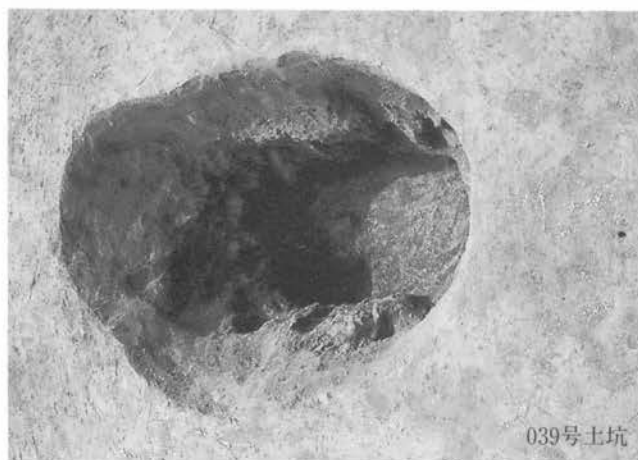
036号土坑



037号土坑



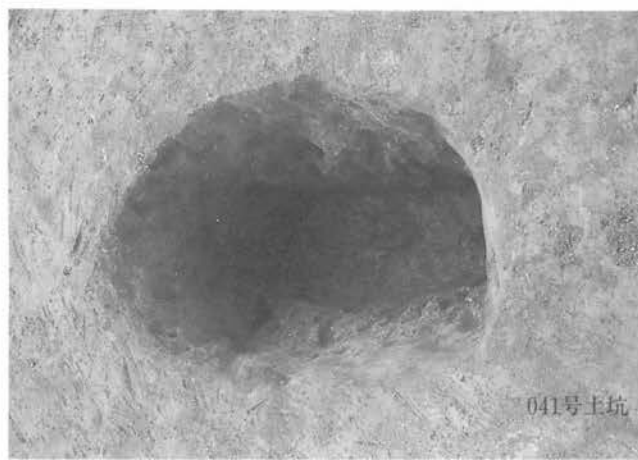
038号土坑



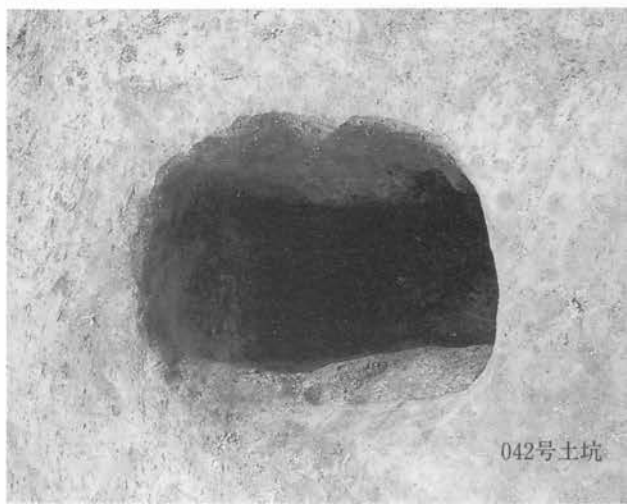
039号土坑



040号土坑



041号土坑



042号土坑



043号土坑



044号土坑



045号土坑



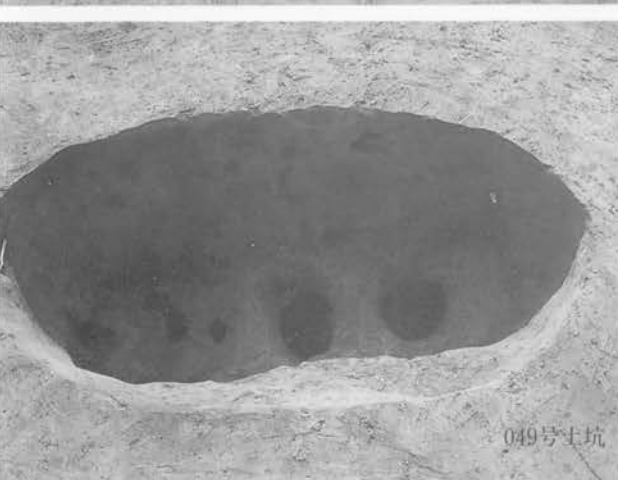
046号土坑



047号土坑



048号土坑



049号土坑



050号土坑



051号土坑



052号土坑



053号土坑



054号土坑



055号土坑



056号土坑



057号土坑



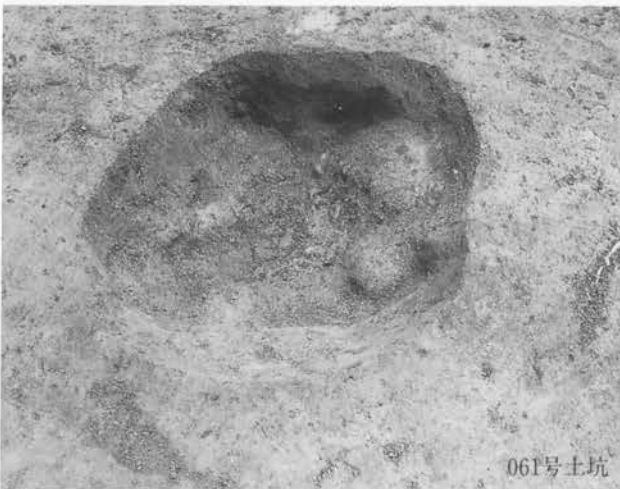
058号土坑



059号土坑



060号土坑



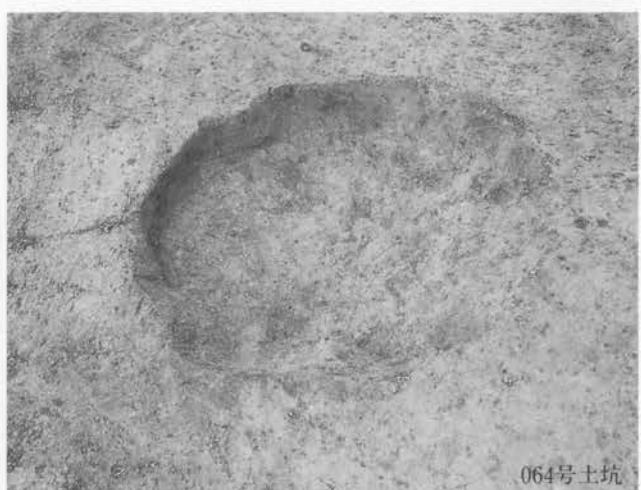
061号土坑



062号土坑



063号土坑



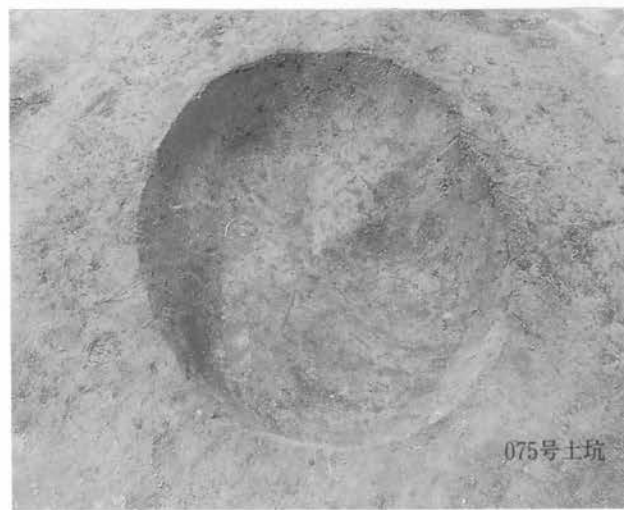
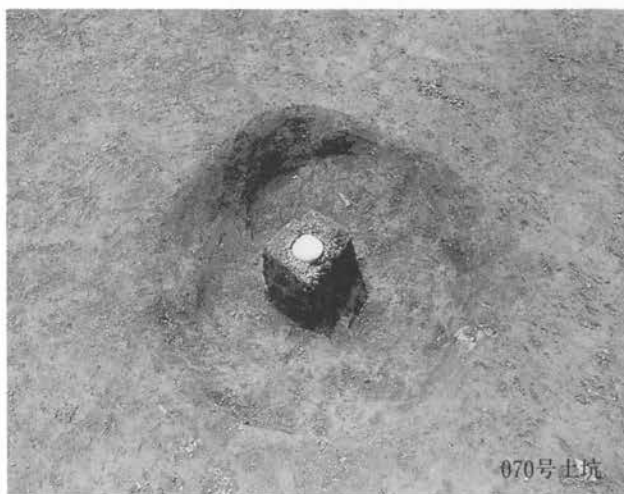
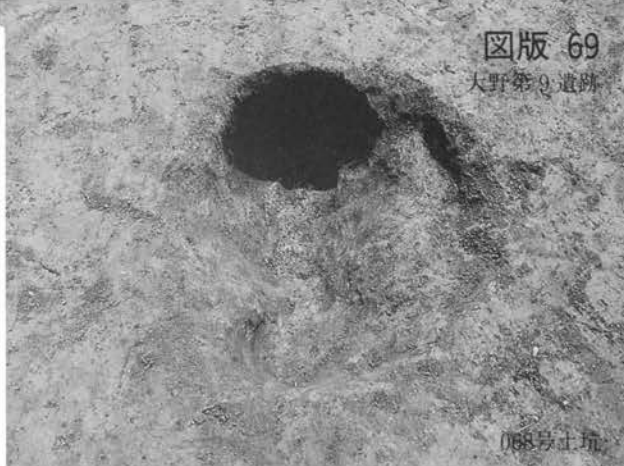
064号土坑



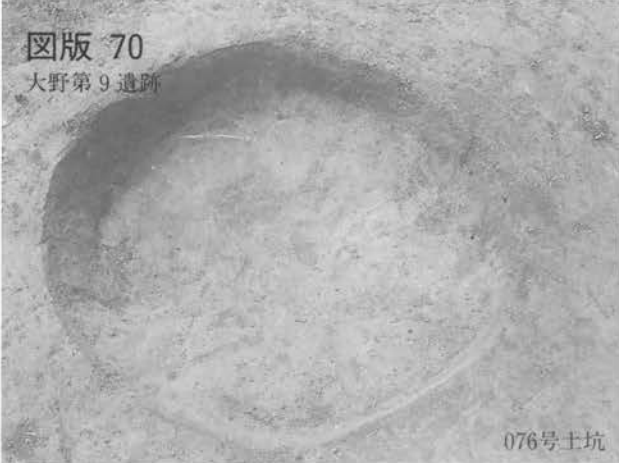
065号土坑



066号土坑



图版 70
大野第9遺跡



076号土坑



077号土坑遺物出土状況



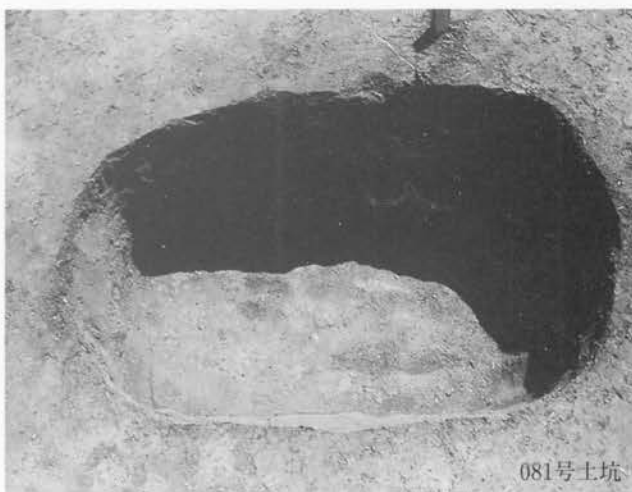
077号土坑



078号土坑



079号土坑



081号土坑



082号土坑



083号土坑



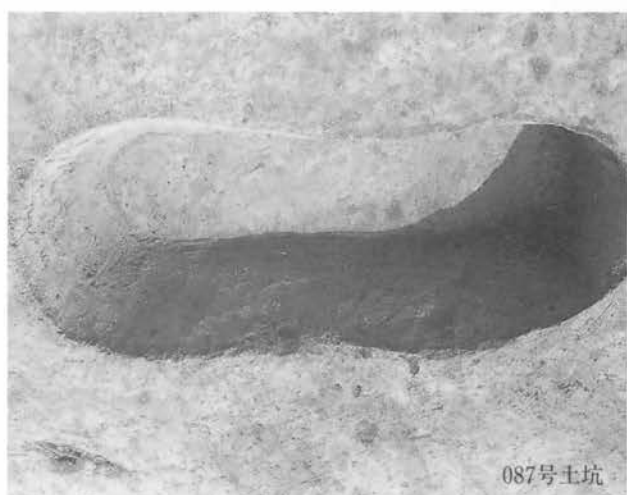
084号土坑



085号土坑



086号土坑



087号土坑



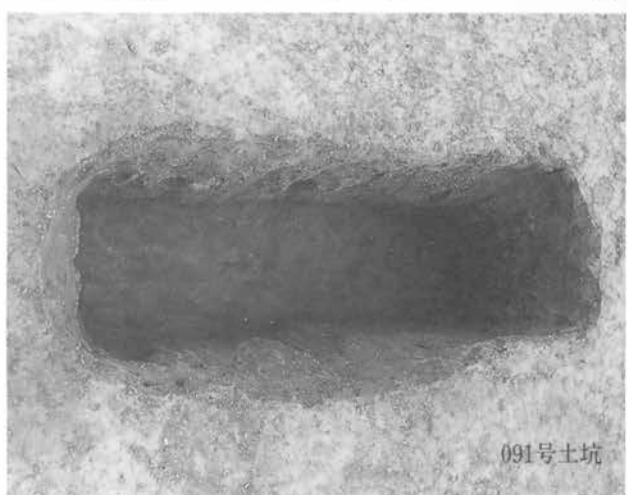
088号土坑



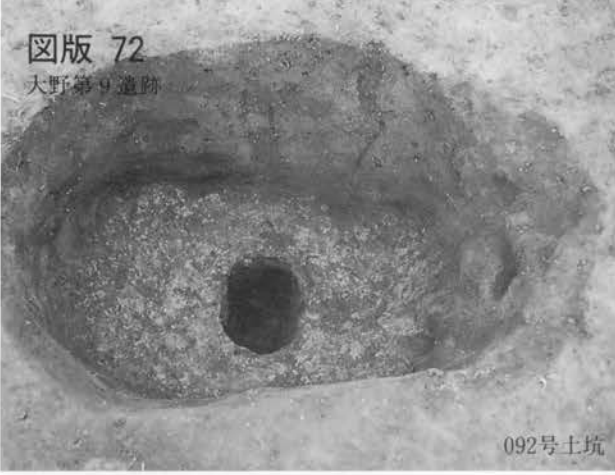
089号土坑



090号土坑



091号土坑



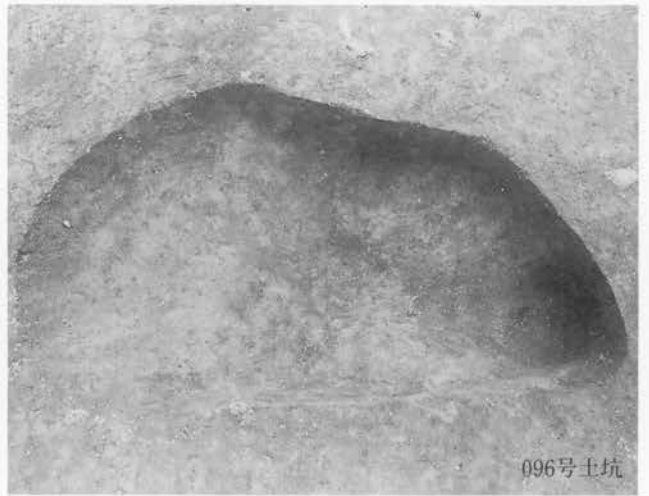
092号土坑



094号土坑



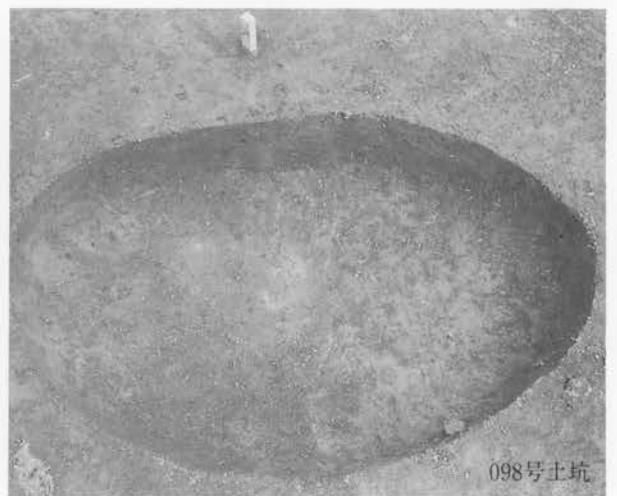
095号土坑



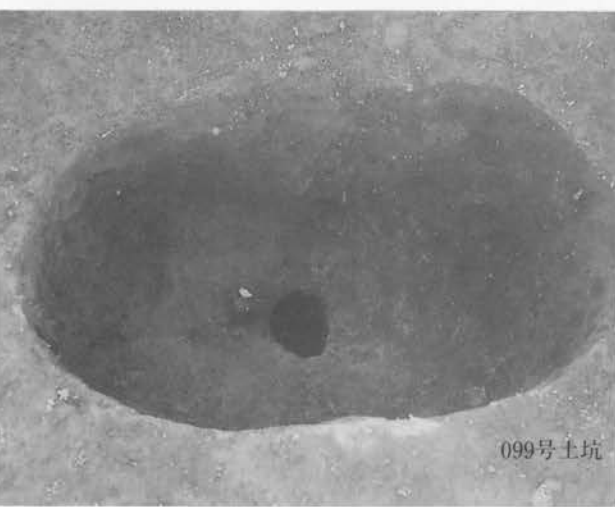
096号土坑



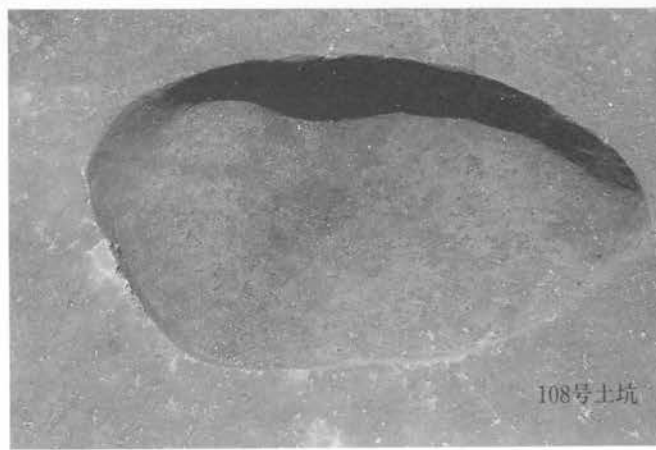
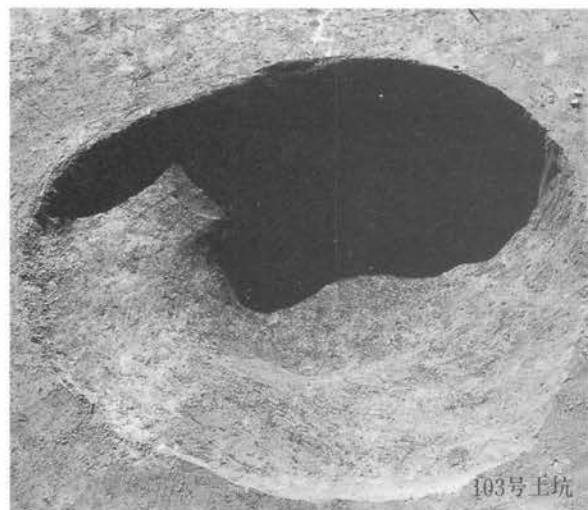
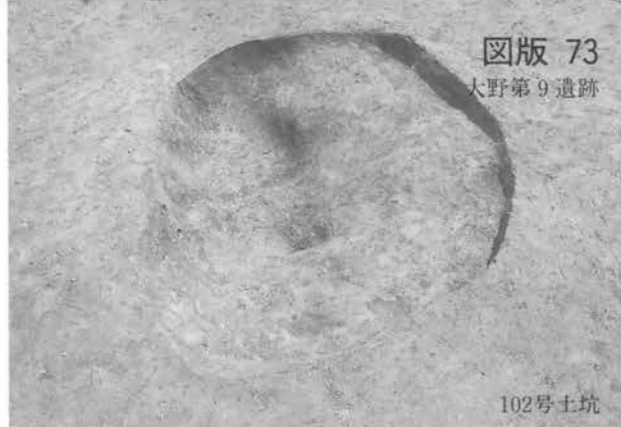
097号土坑



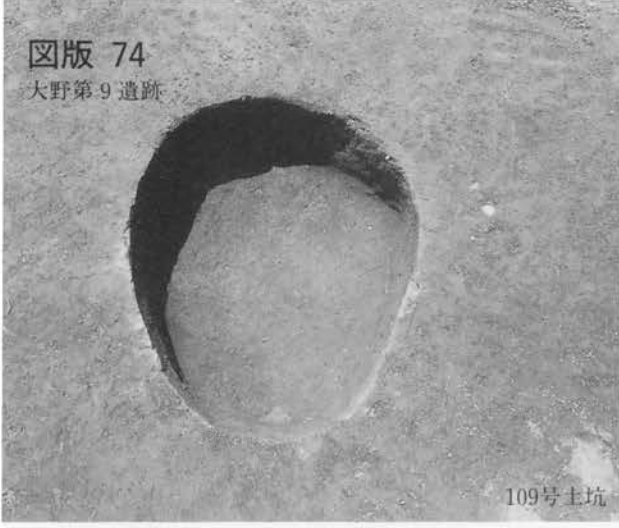
098号土坑



099号土坑



图版 74
大野第9遺跡



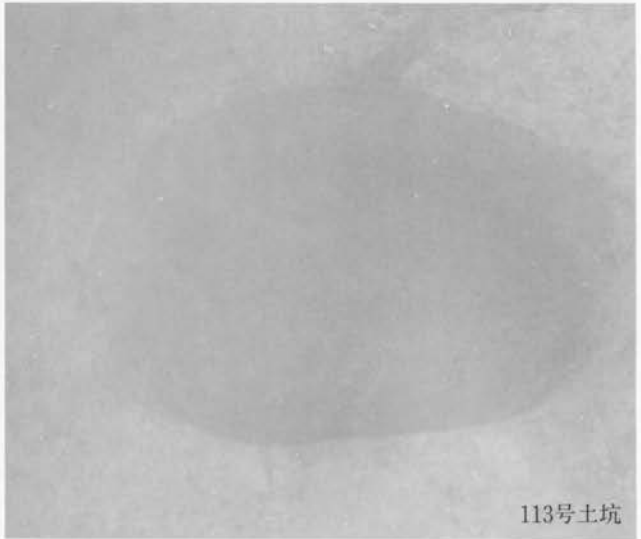
109号土坑



111号土坑



112号土坑



113号土坑



包含層出土遺物



115号土坑出土遺物



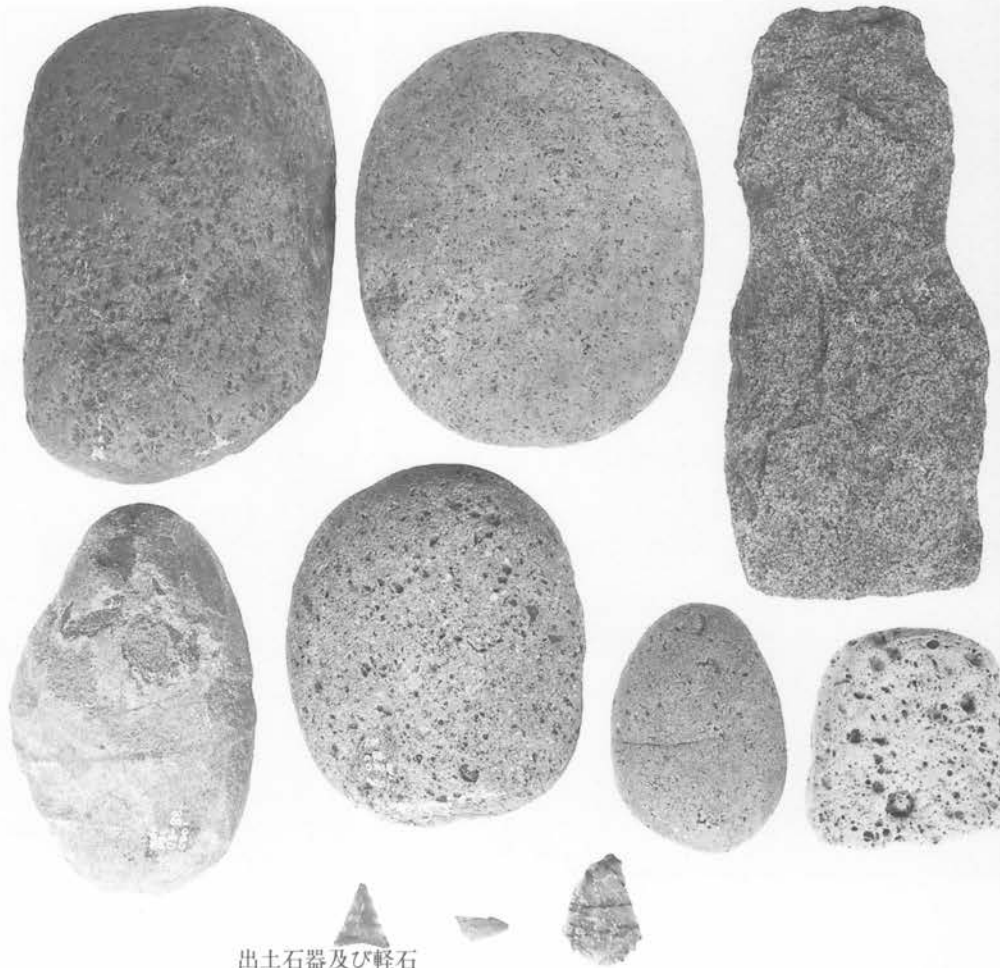
080号住居跡-1



079号土坑-3



080号住居跡-2



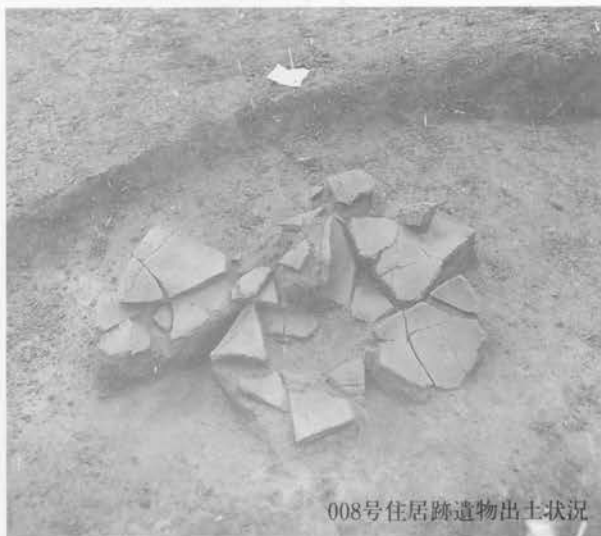
出土石器及び軽石



008号住居跡
遺物出土状況



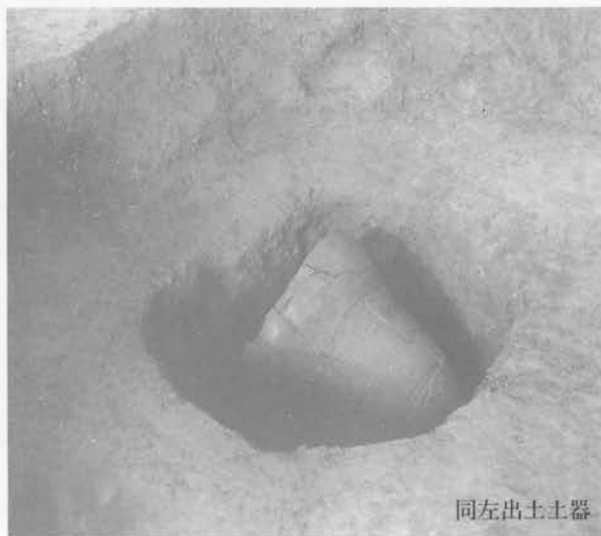
012号埋藏品



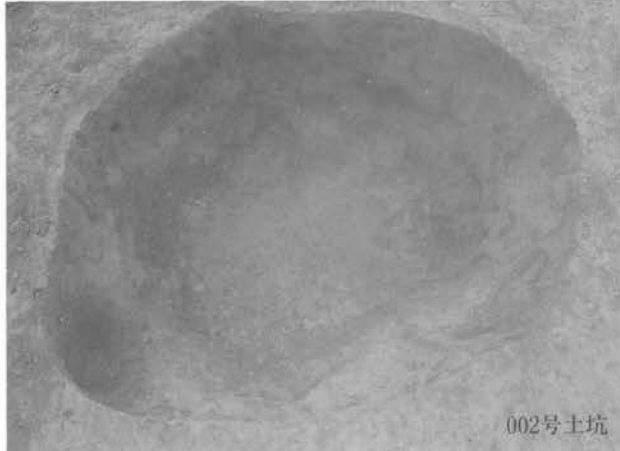
008号住居跡遺物出土状況



007号小竪穴



同左出土土器



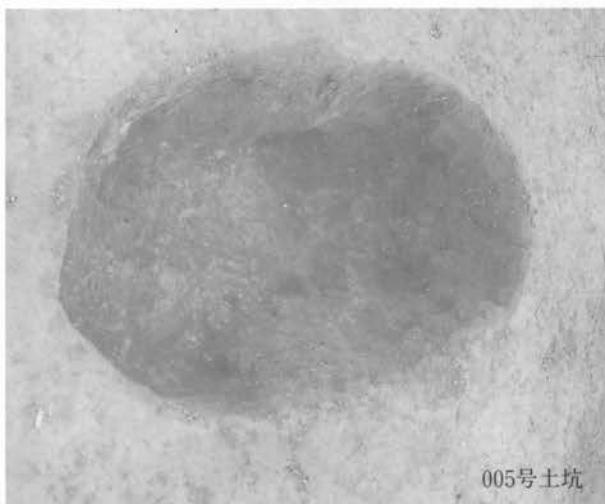
002号土坑



009号土坑出土土器



015土坑



005号土坑

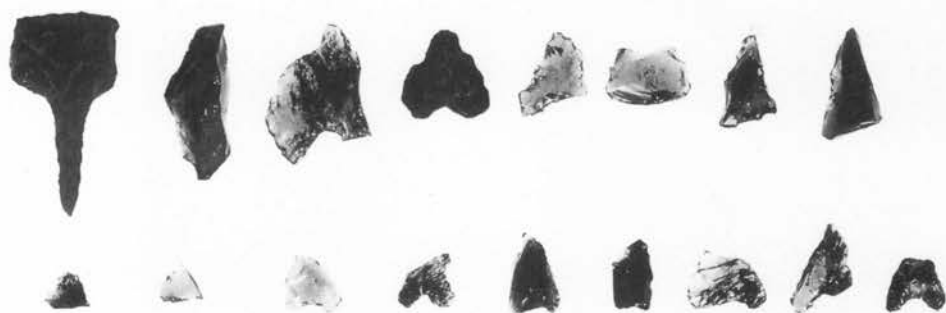


石器工房跡(3号)





出土石器(1)



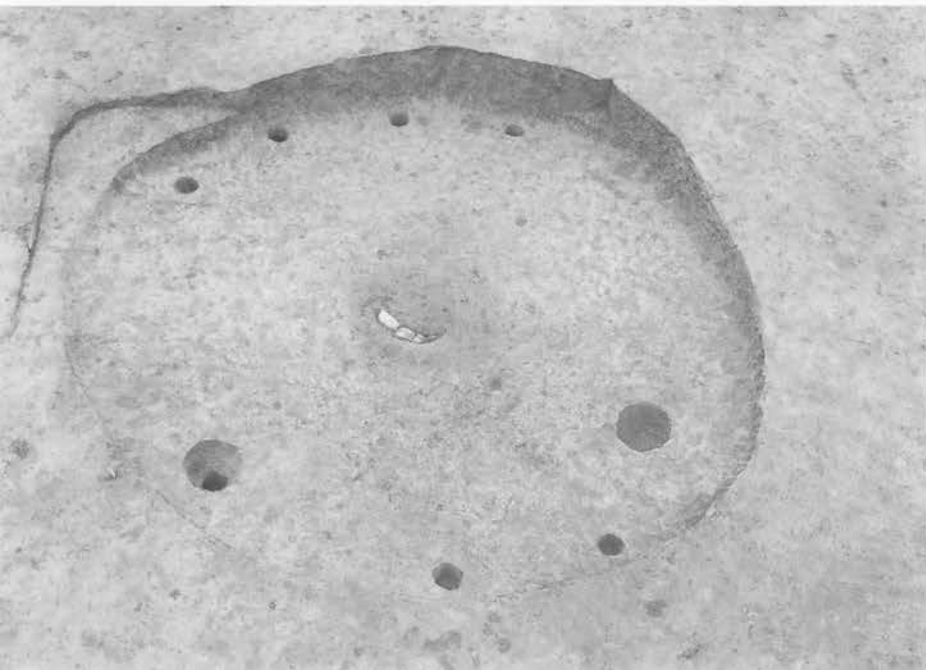
出土石器(2)



調査前風景



001号住居跡
全掘



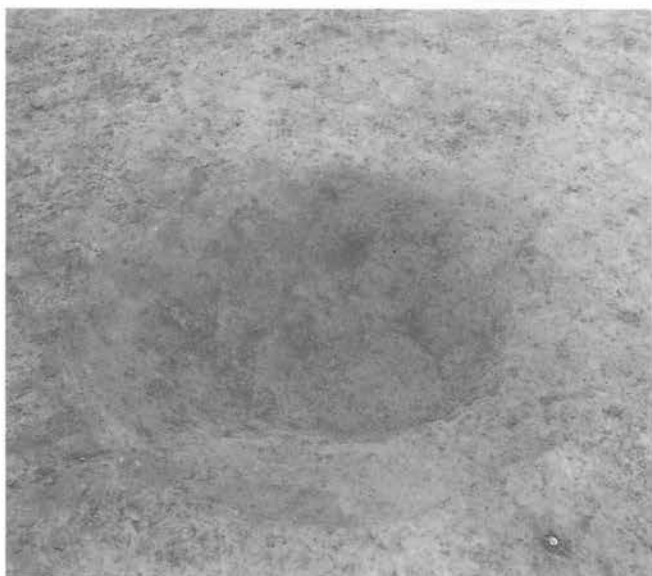
030号住居跡
全掘



(左上) 030号住居跡 埋設土器

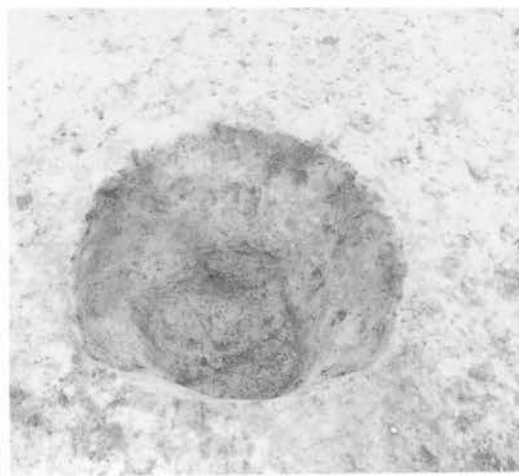
(右上) 030号住居跡 埋設土器

(左) 030号住居跡炉



105号住居跡

同上 炉

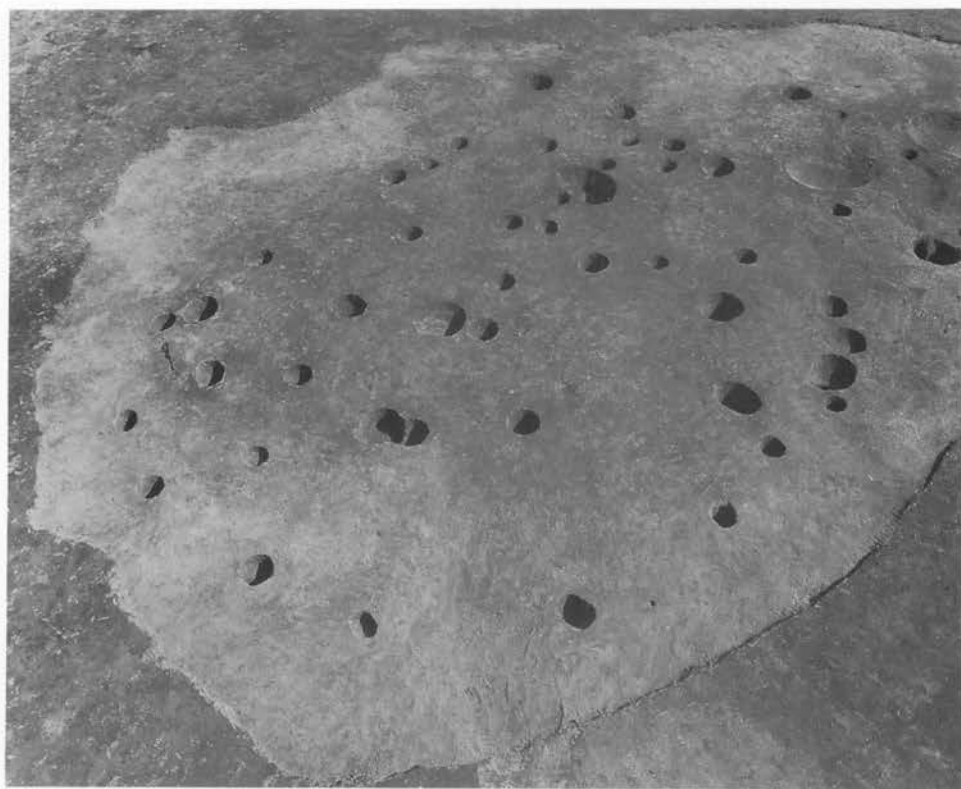




106号住居跡全掘

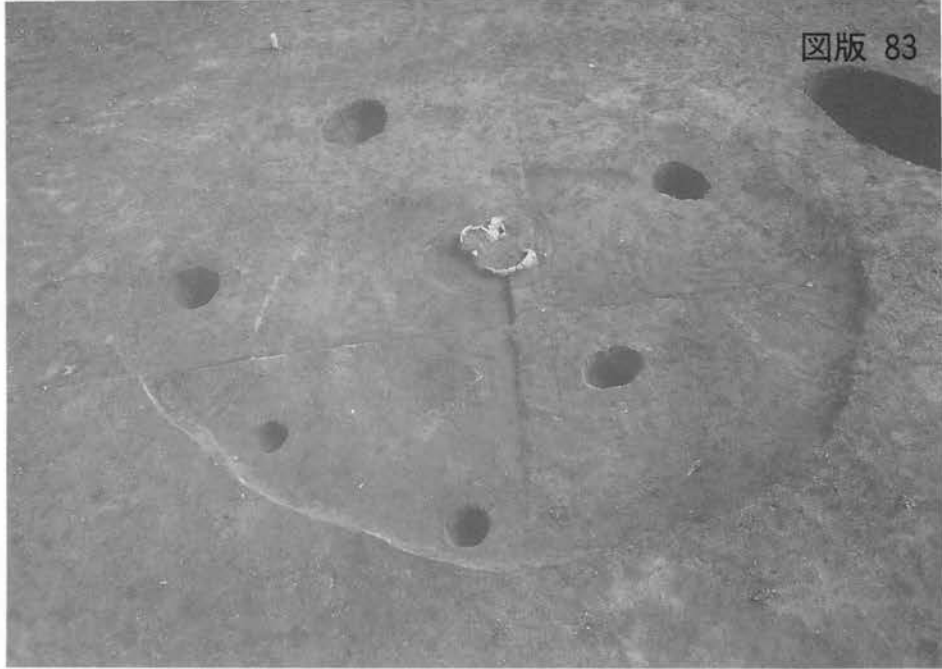


同左 炉



197(A)号住居跡 全掘

大野第1遺跡



241号住居跡
全掘

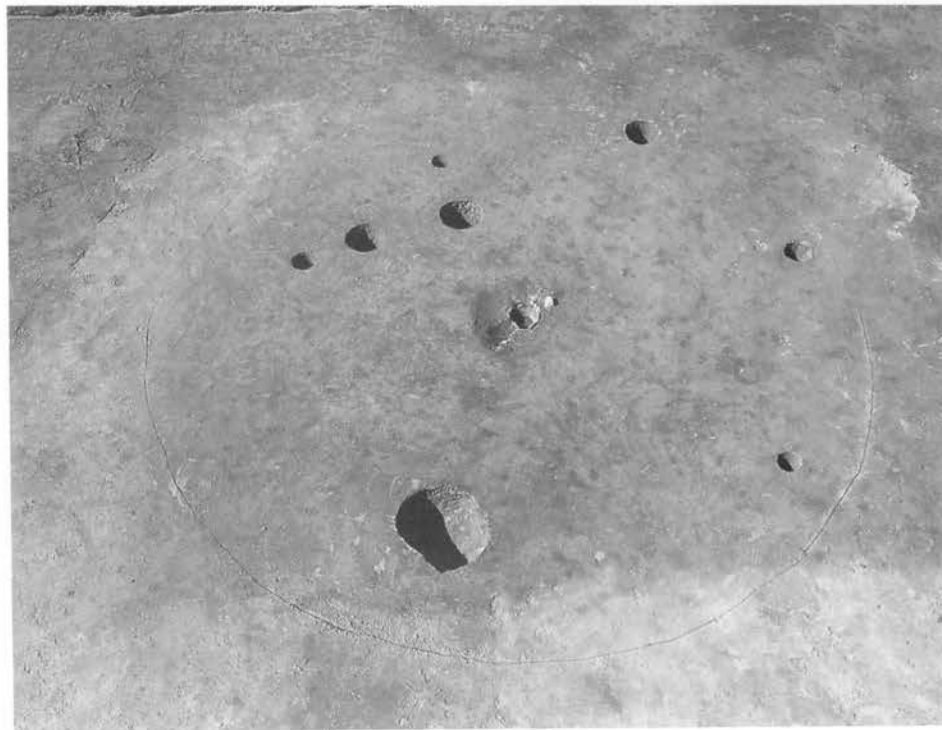


同上 埋竈炉



244号住居跡埋竈炉

244号住居跡
全掘

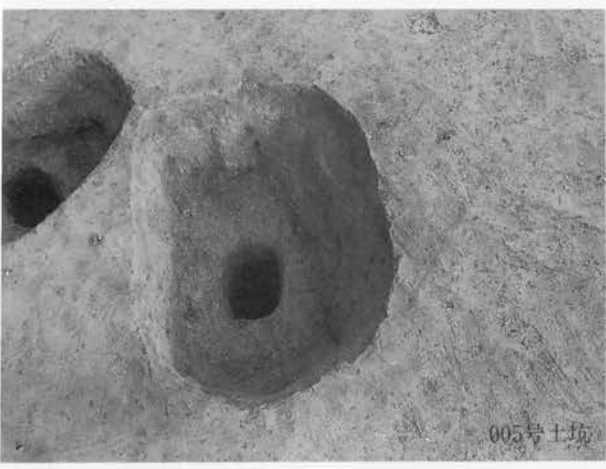




002・003号土坑



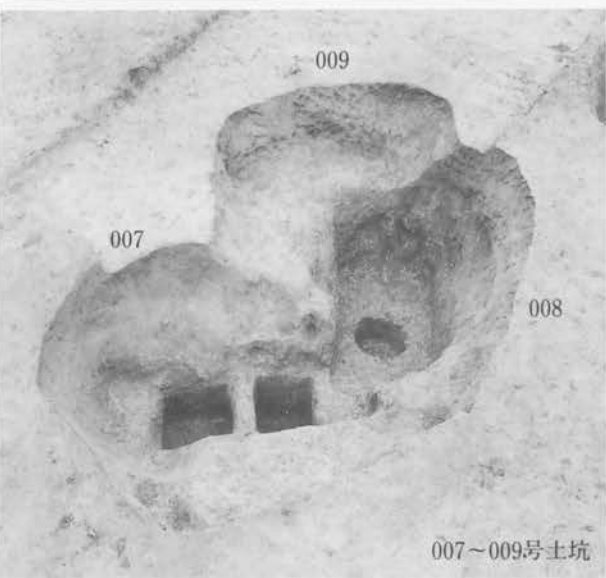
004号土坑



005号土坑



006号土坑



007~009号土坑



010号土坑



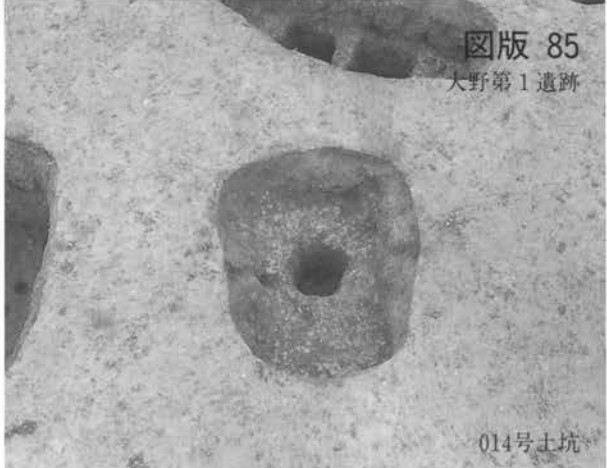
011号土坑



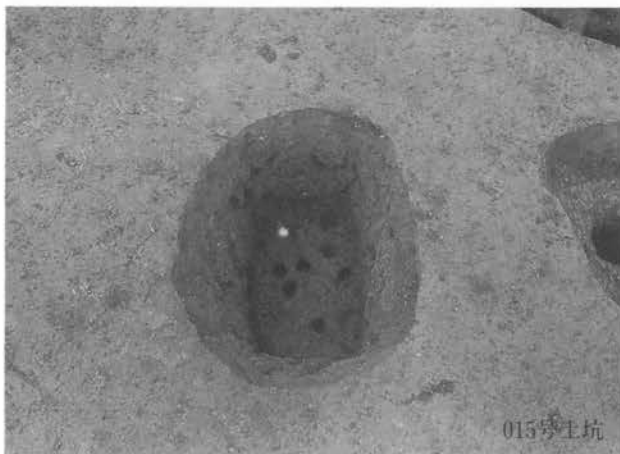
012号土坑



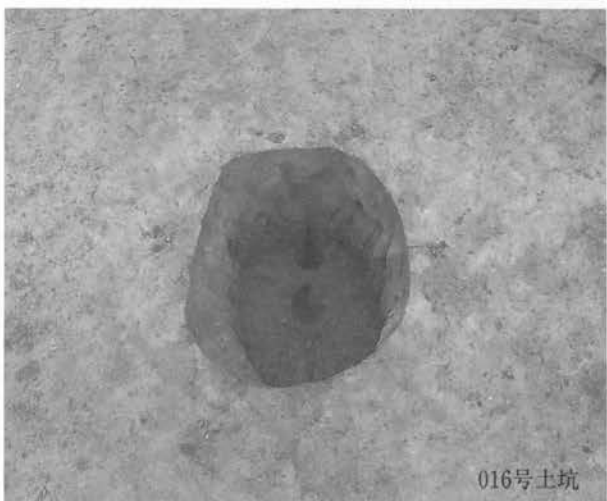
013号土坑



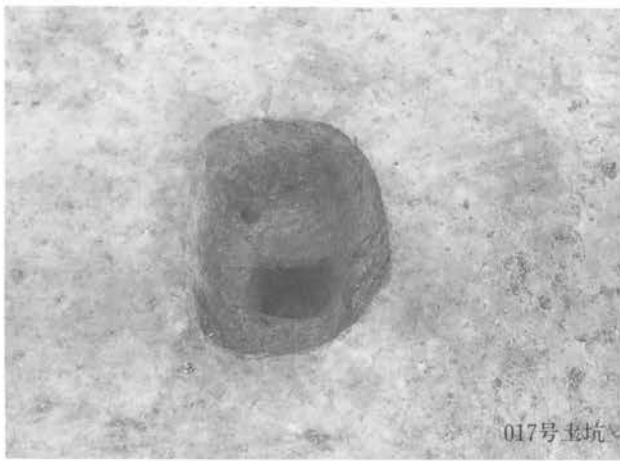
014号土坑



015号土坑



016号土坑



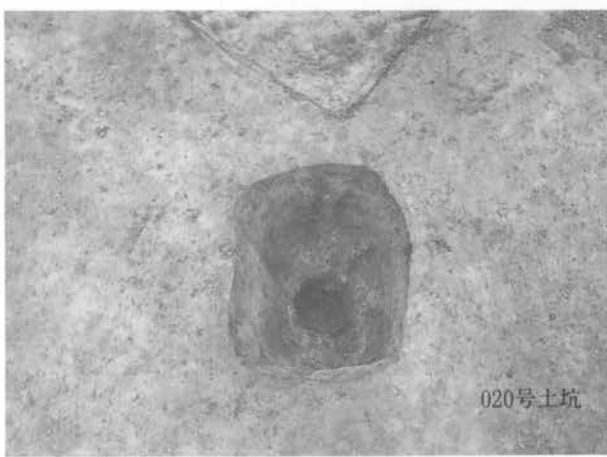
017号土坑



018号土坑



019号土坑



020号土坑



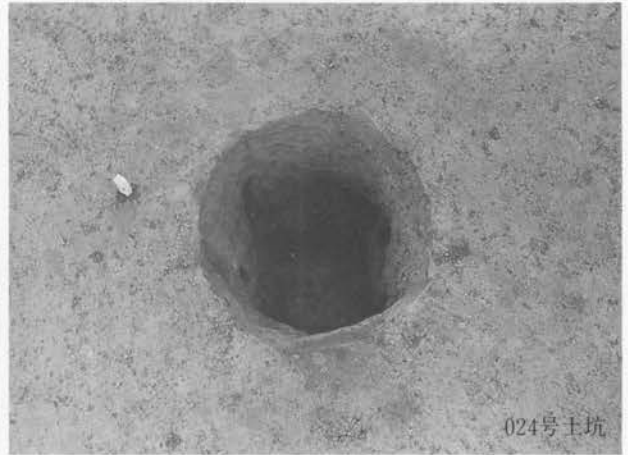
021号土坑



022号土坑



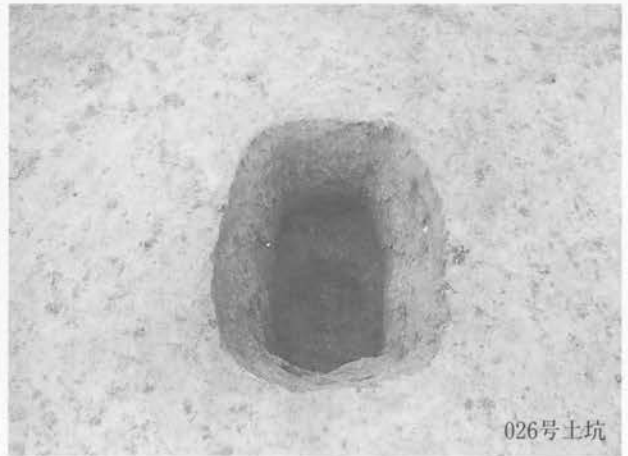
023号土坑



024号土坑



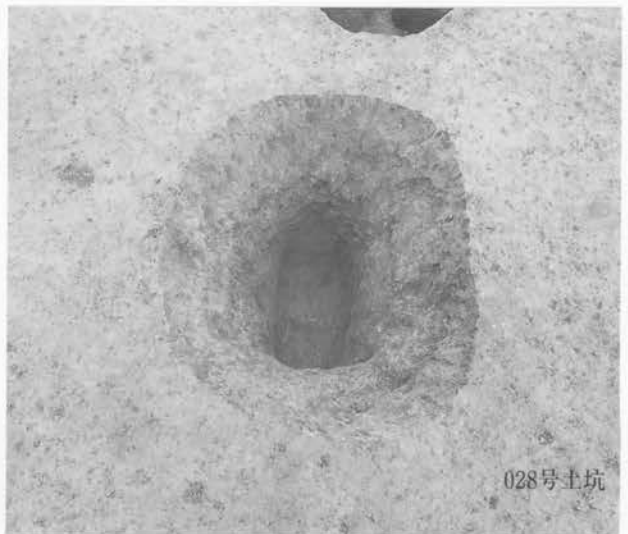
025号土坑



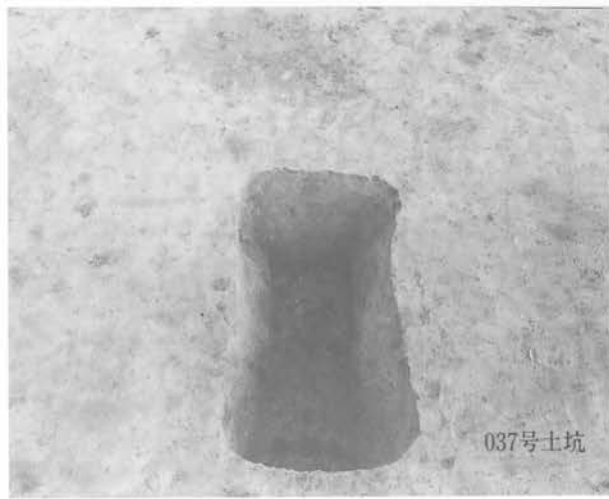
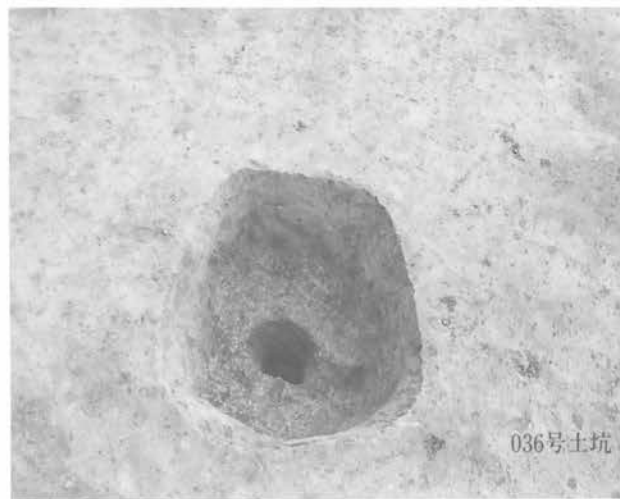
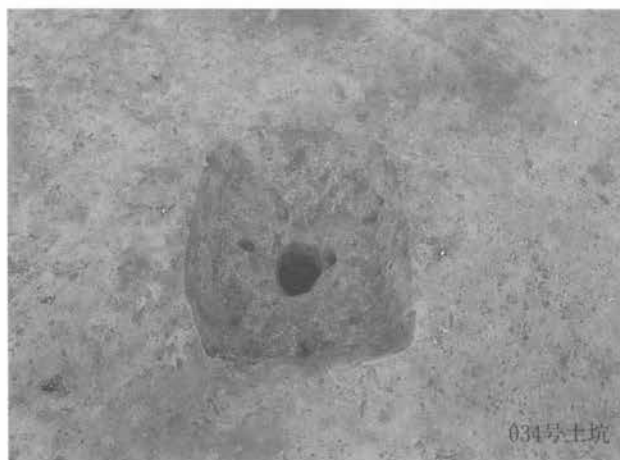
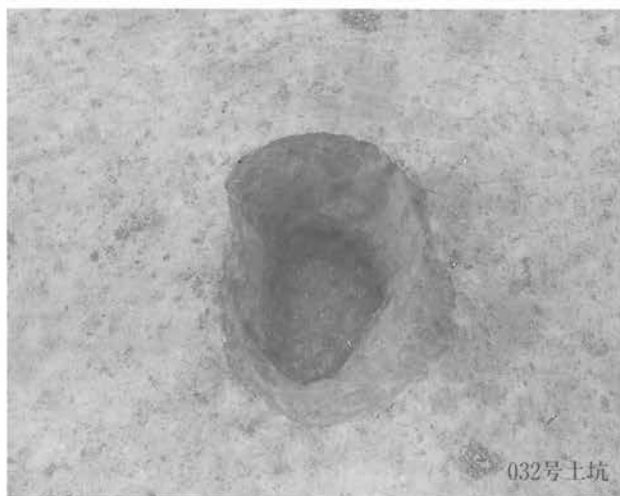
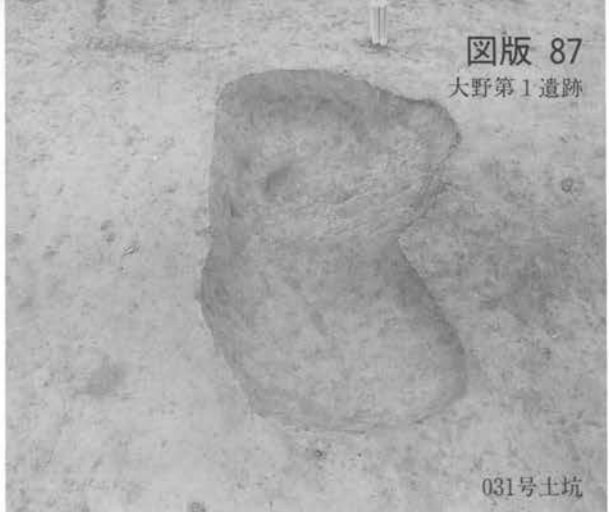
026号土坑

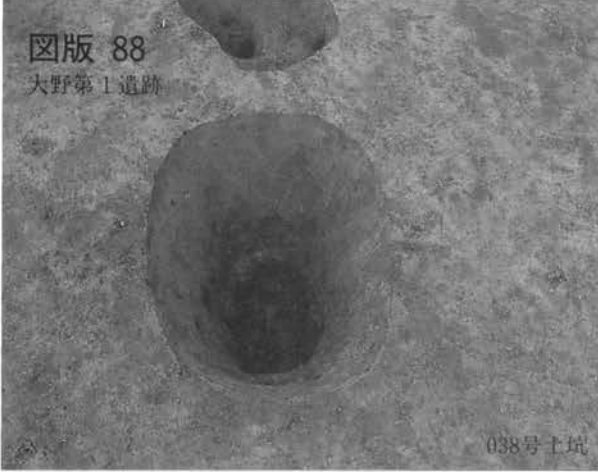


027号土坑

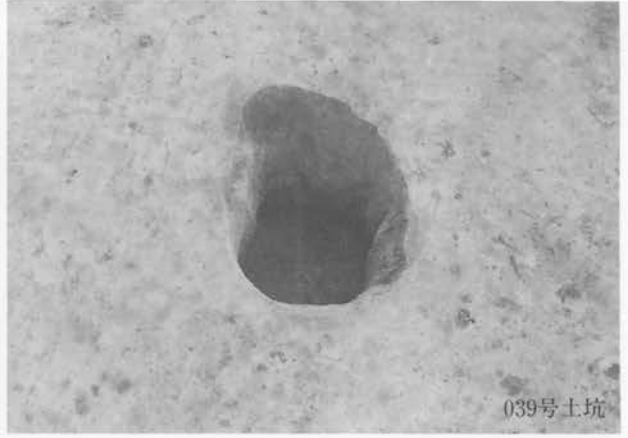


028号土坑

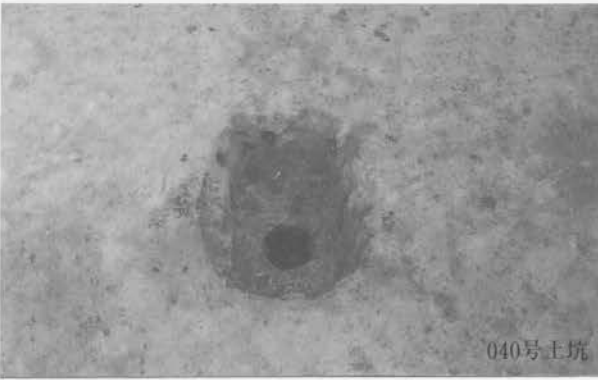




038号土坑



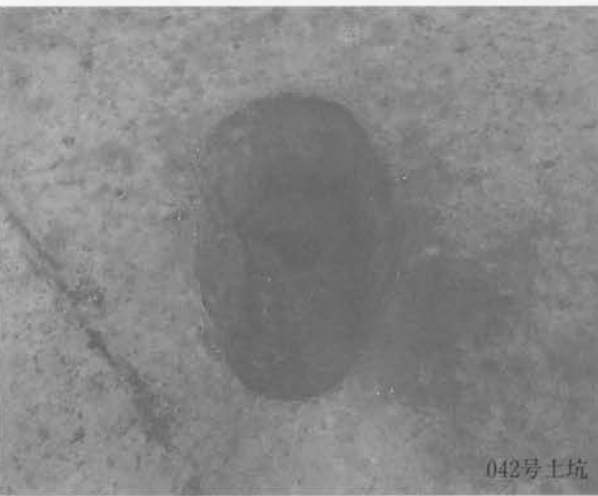
039号土坑



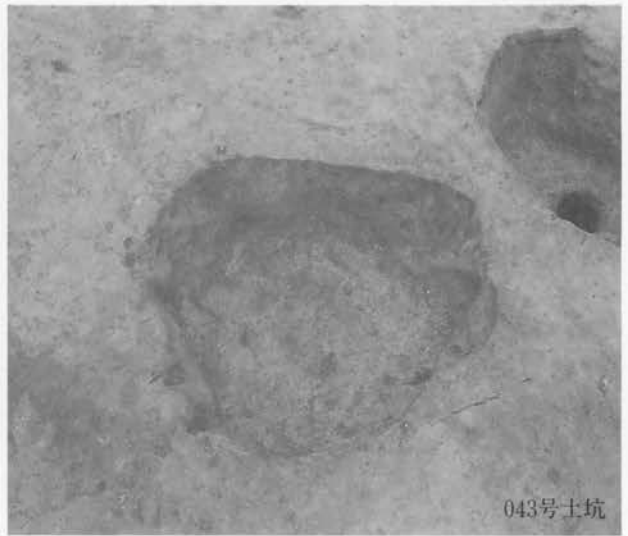
040号土坑



041号土坑



042号土坑



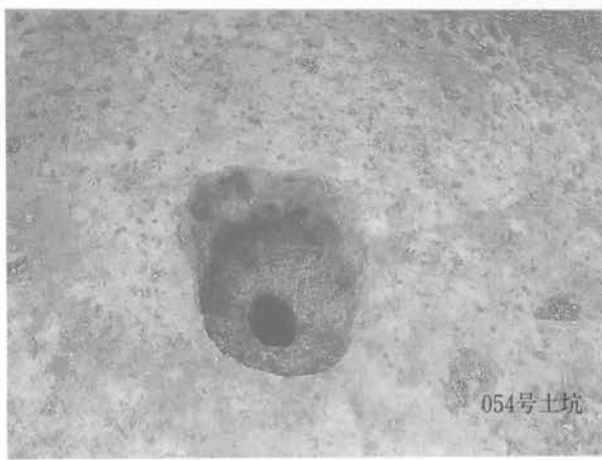
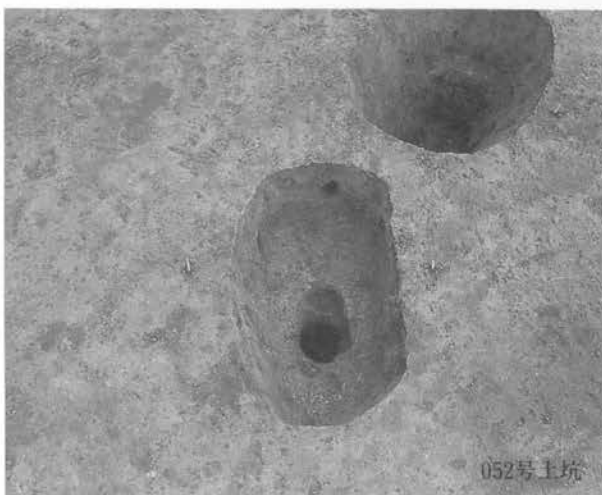
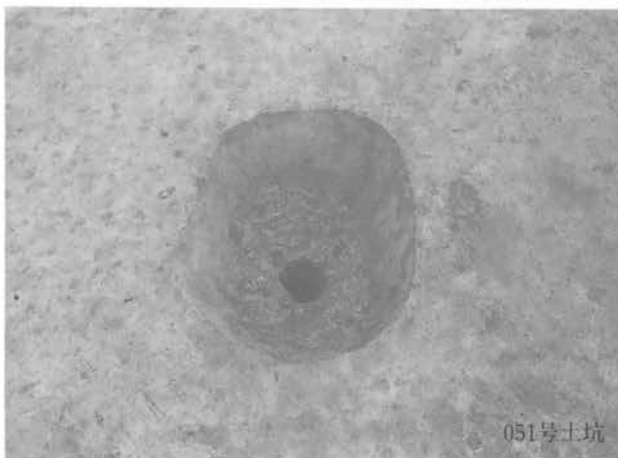
043号土坑



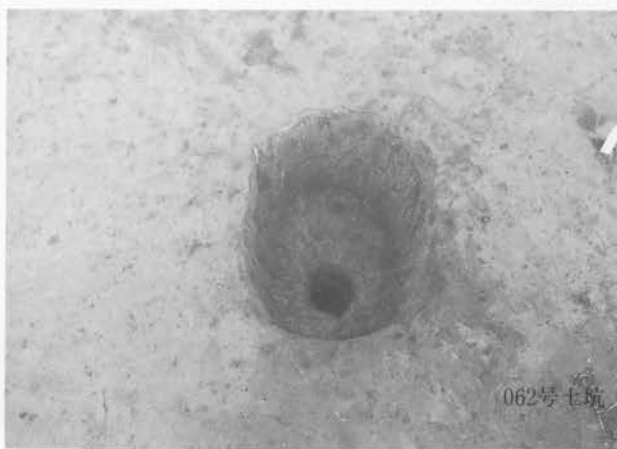
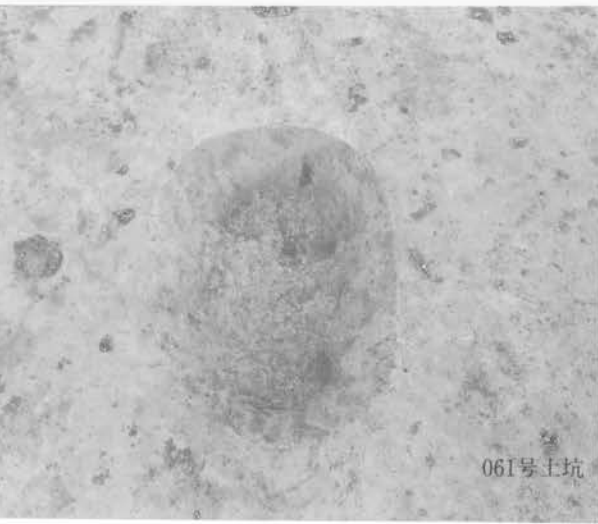
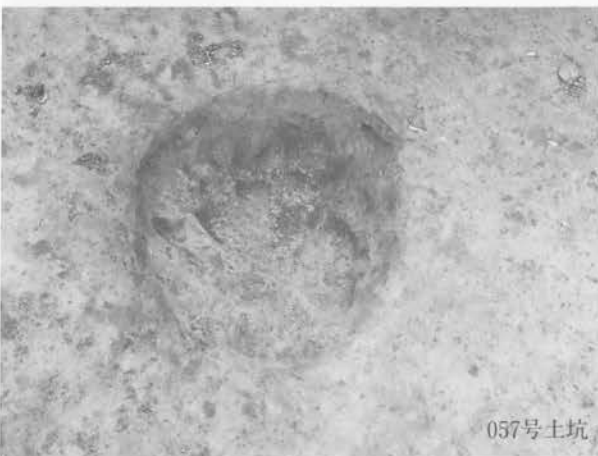
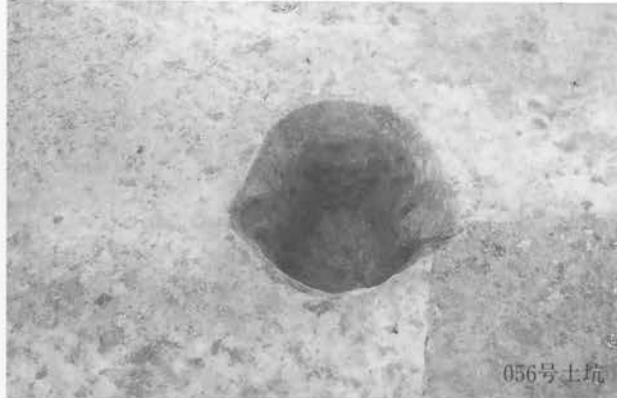
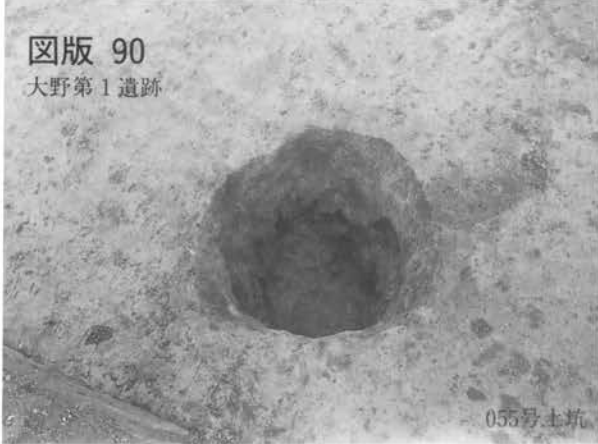
044・045号土坑

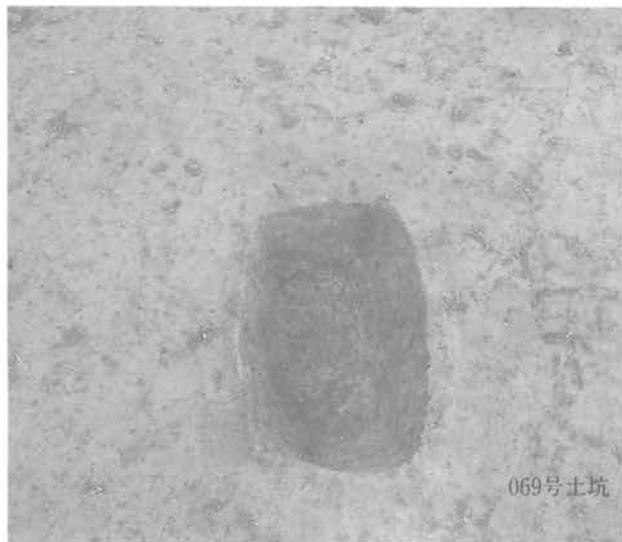
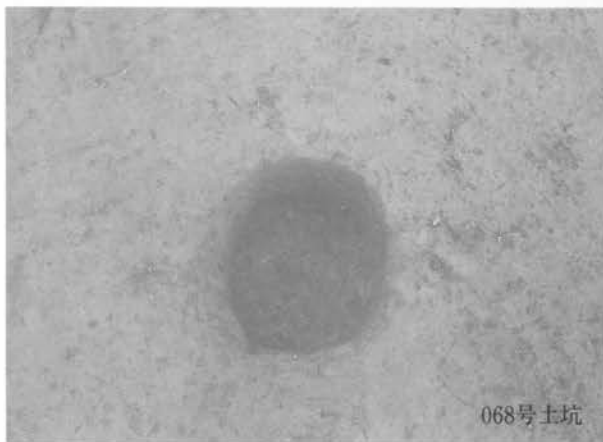
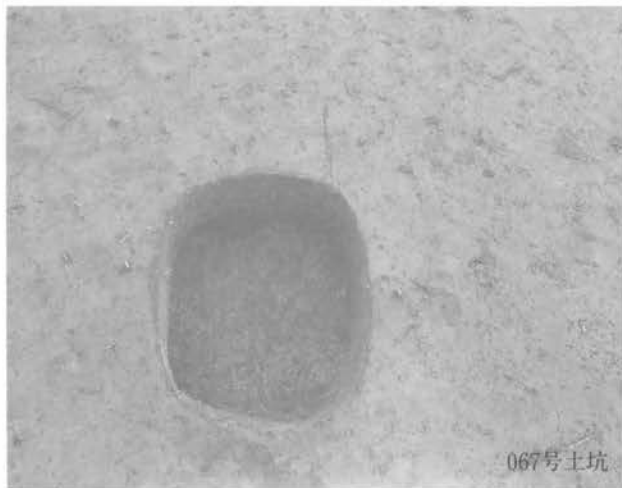
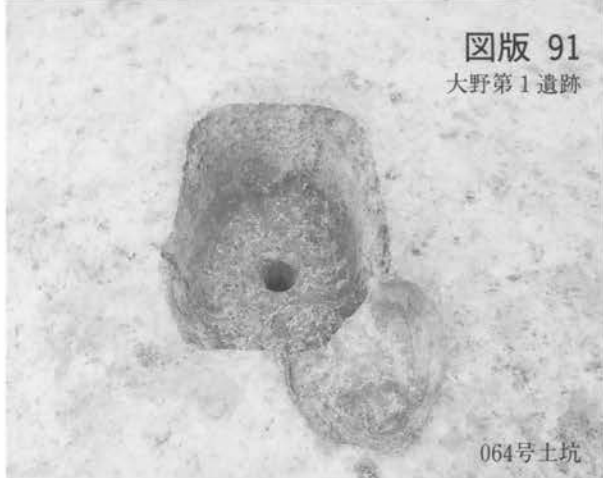


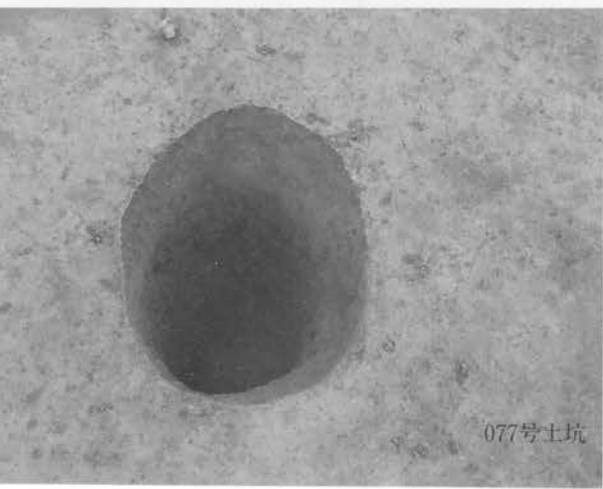
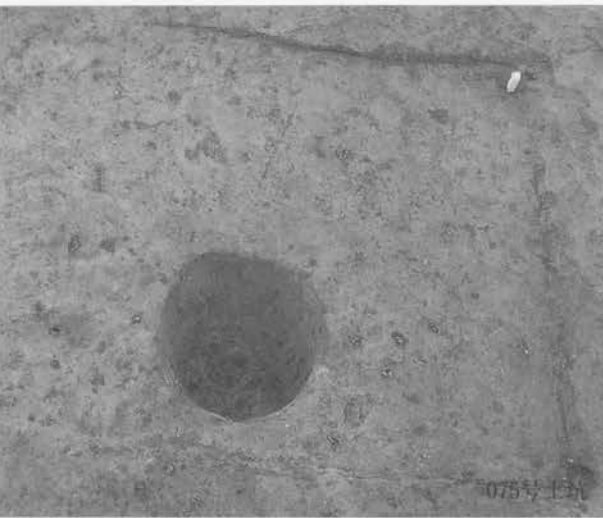
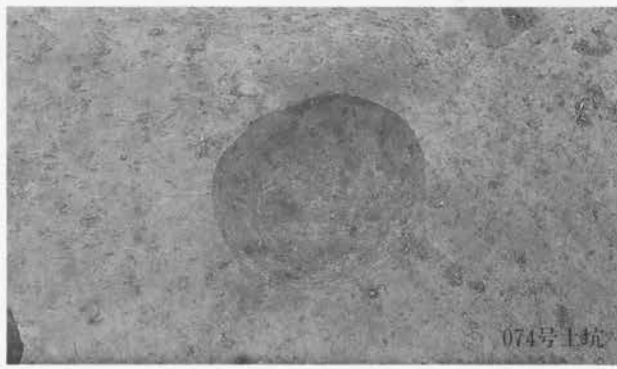
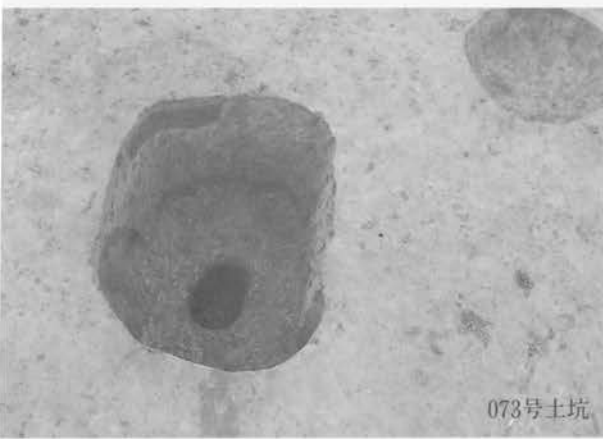
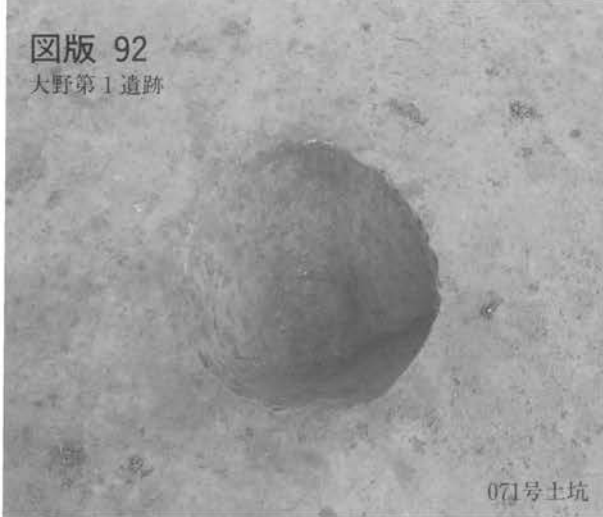
046号土坑

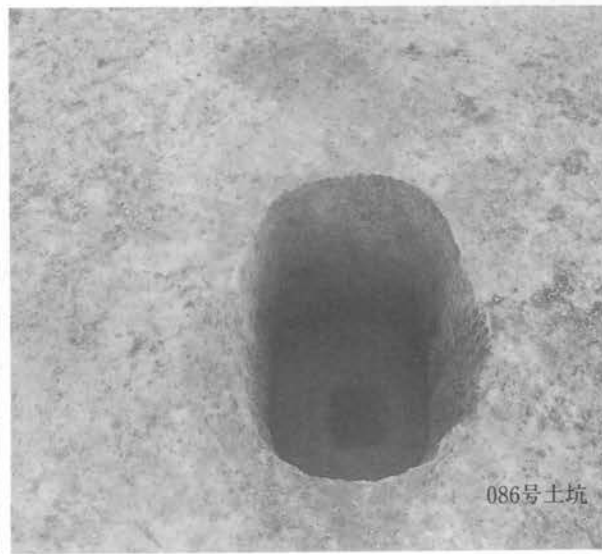
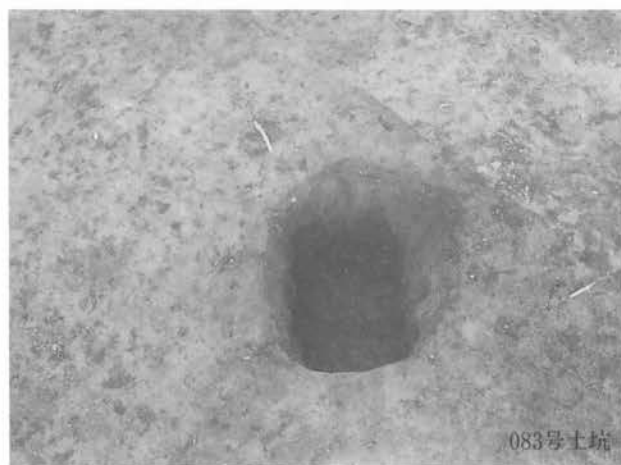
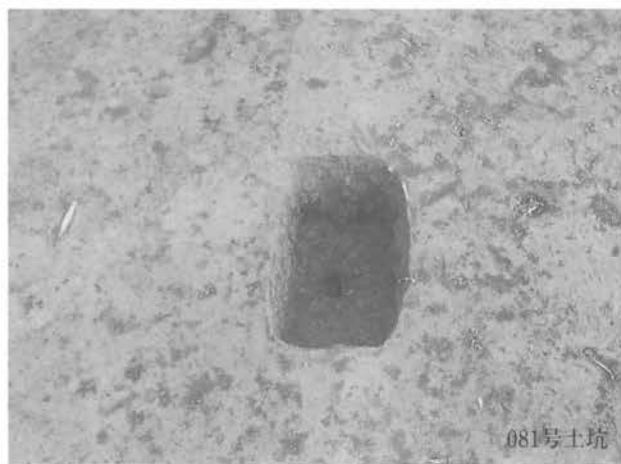
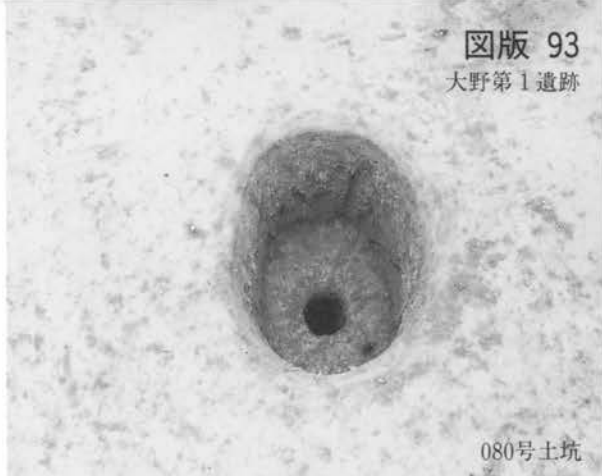
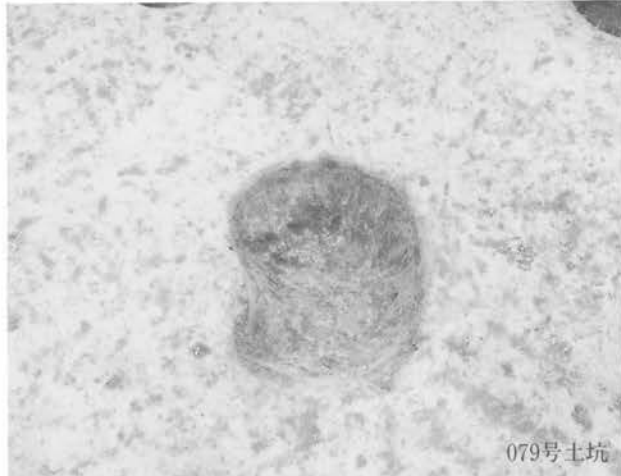


図版 90
大野第1遺跡

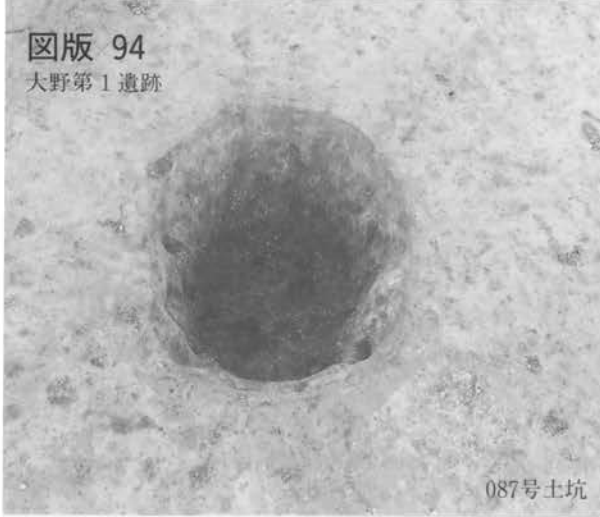




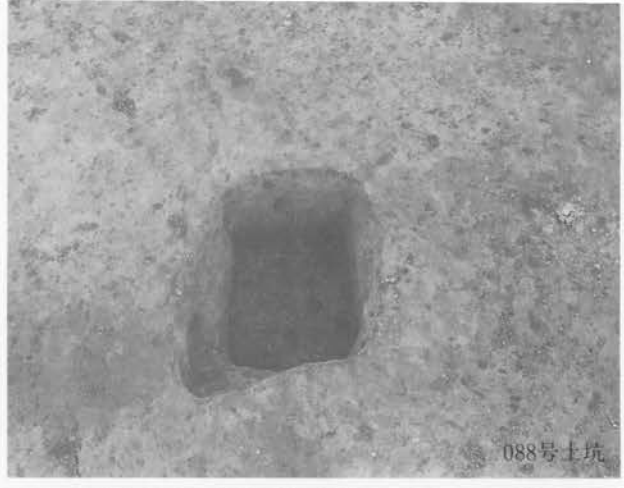




图版 94
大野第1遺跡



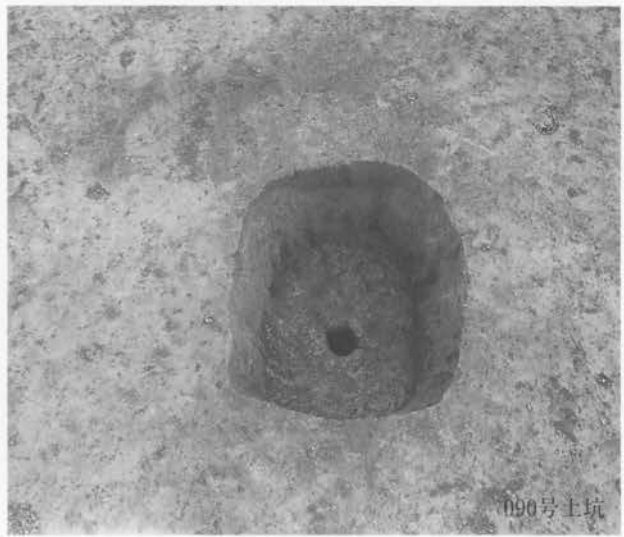
087号土坑



088号土坑



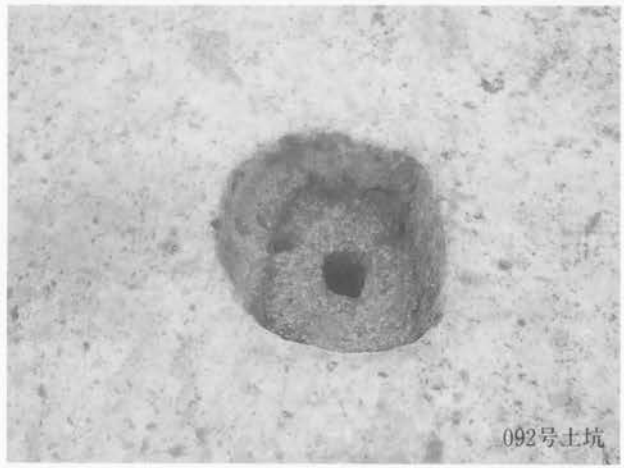
089号土坑



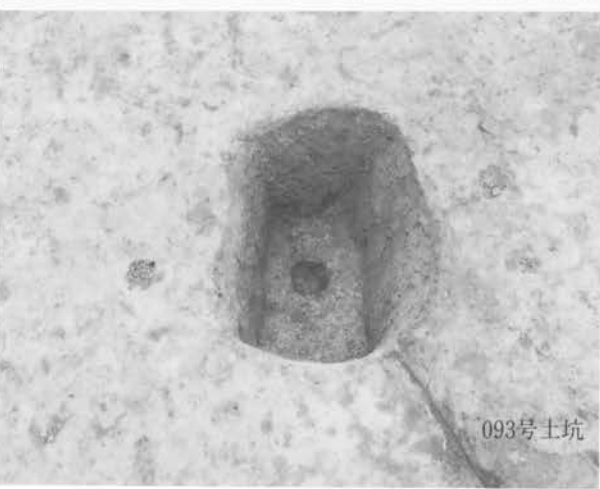
090号土坑



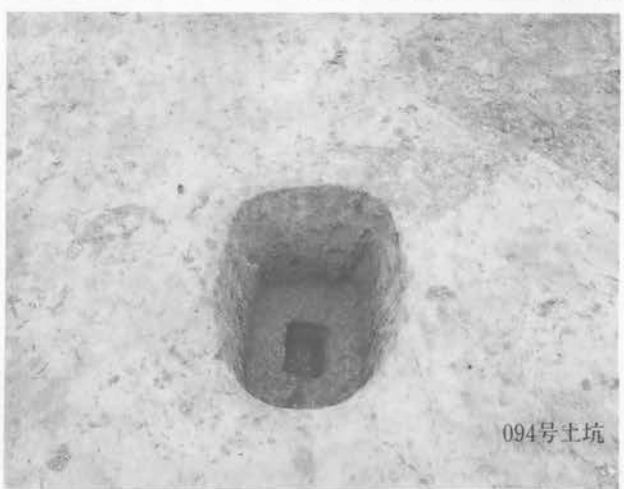
091号土坑



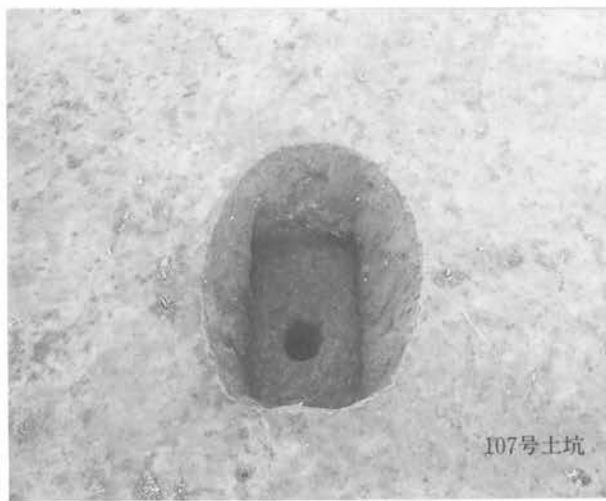
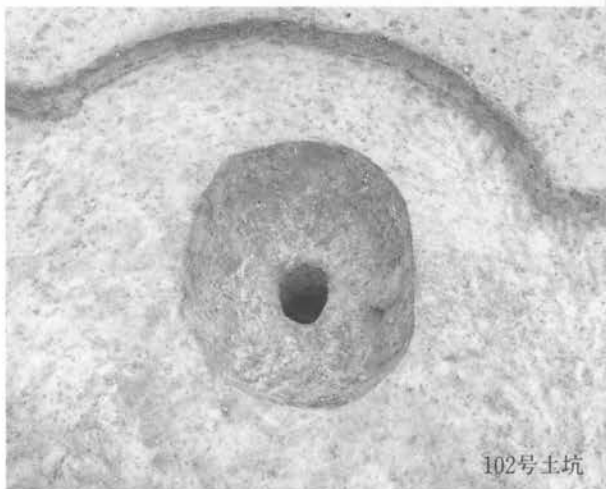
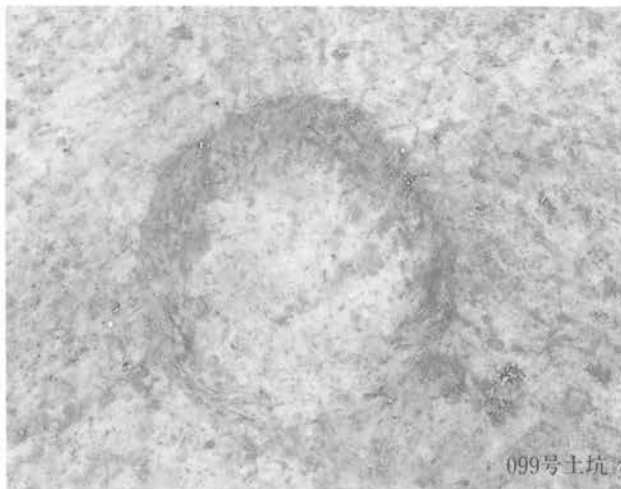
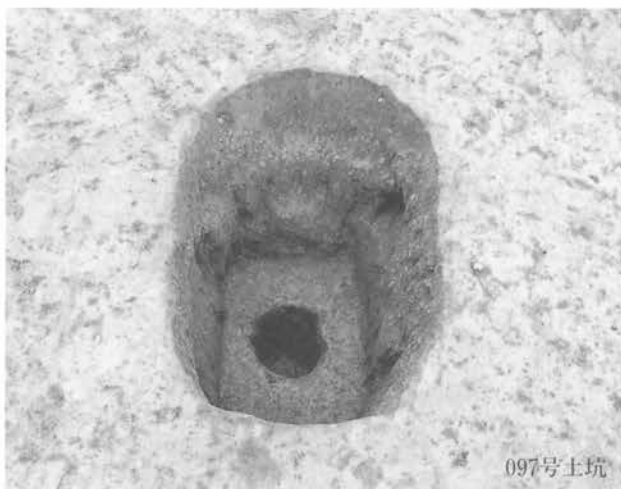
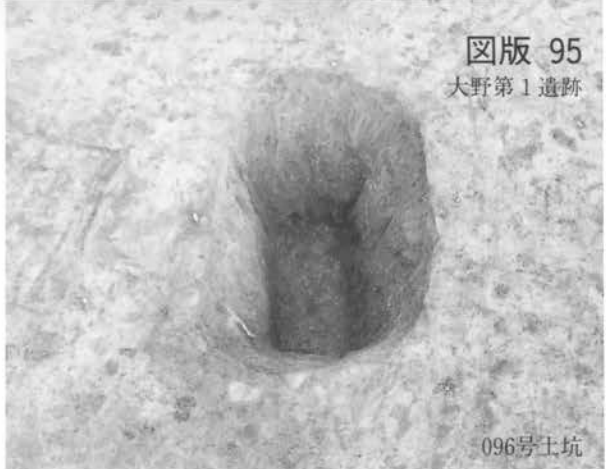
092号土坑



093号土坑

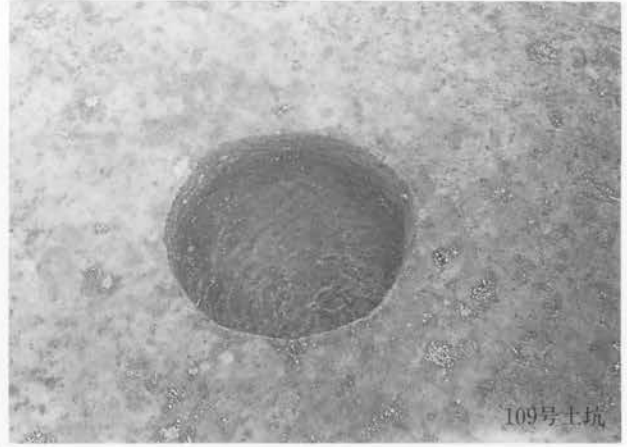


094号土坑

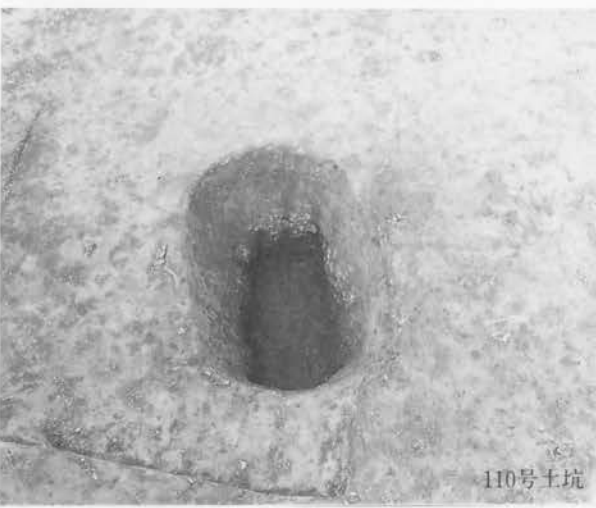




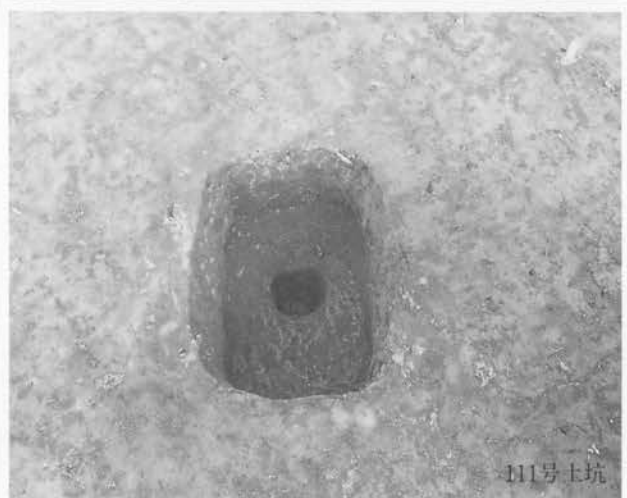
108号土坑



109号土坑



110号土坑



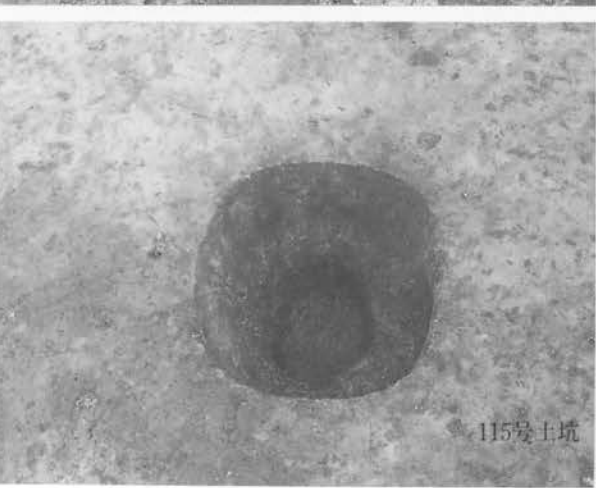
111号土坑



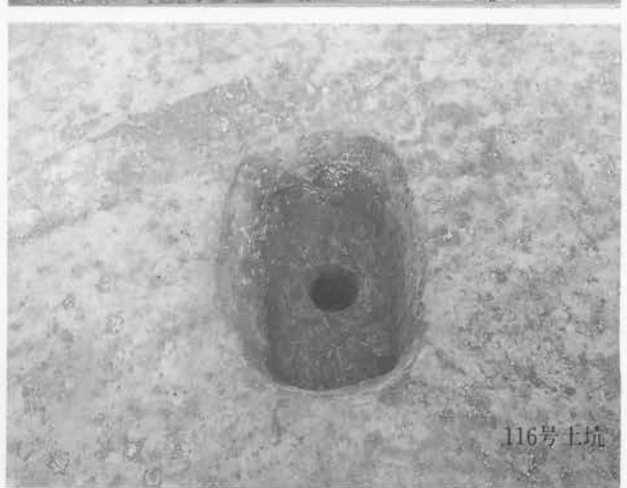
112号土坑



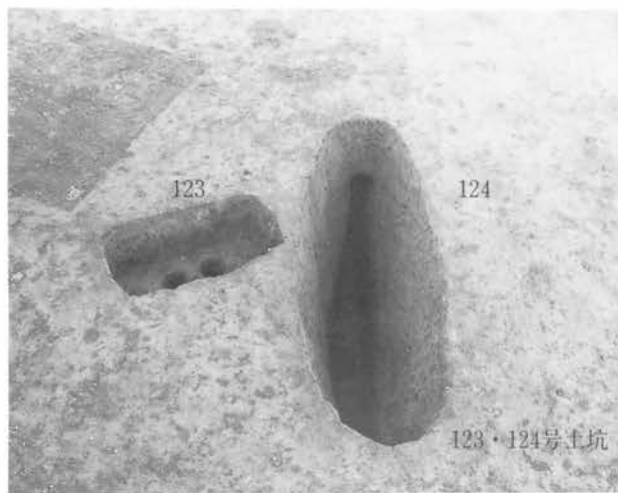
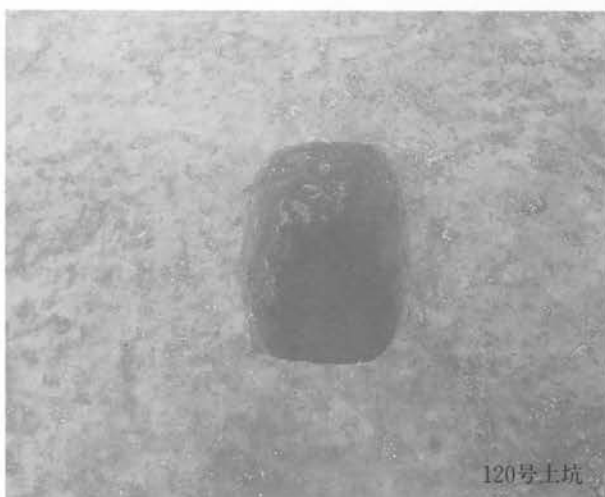
114号土坑



115号土坑



116号土坑





126号土坑



127号土坑



128号土坑



129号土坑



130号土坑



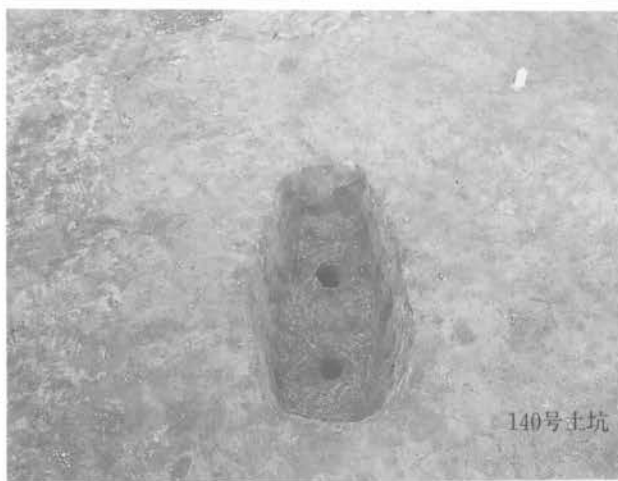
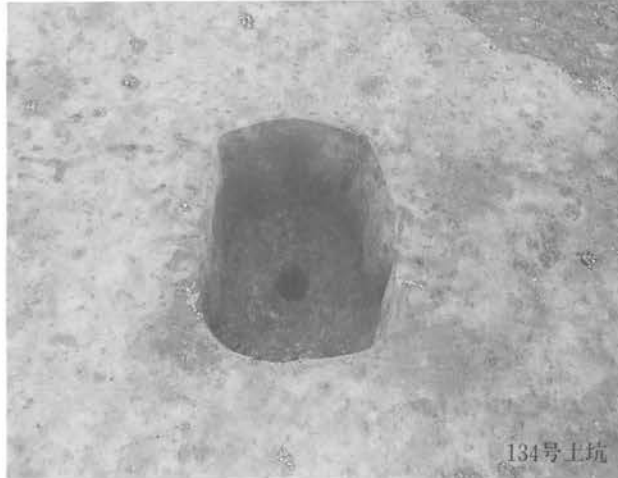
131号土坑



132号土坑



133号土坑

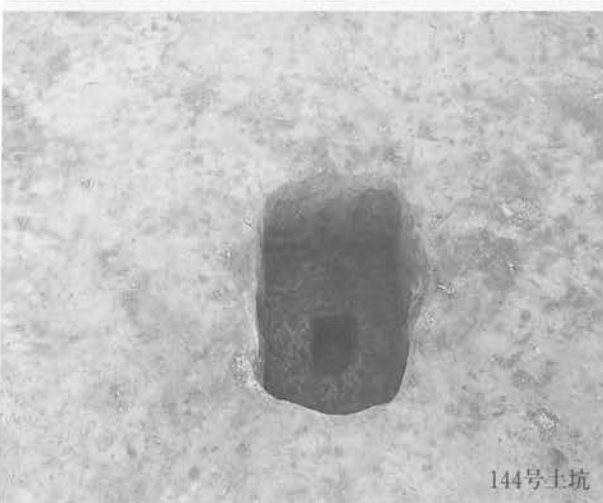




142号土坑



143号土坑



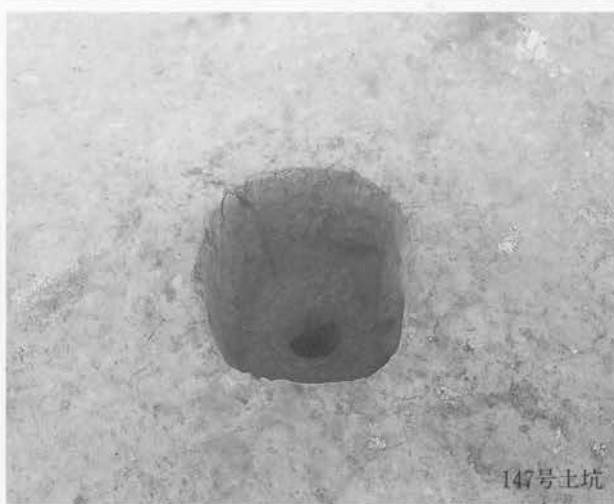
144号土坑



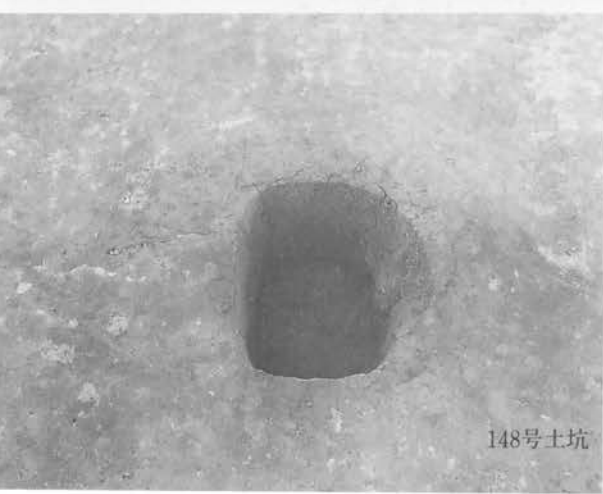
145号土坑



146号土坑



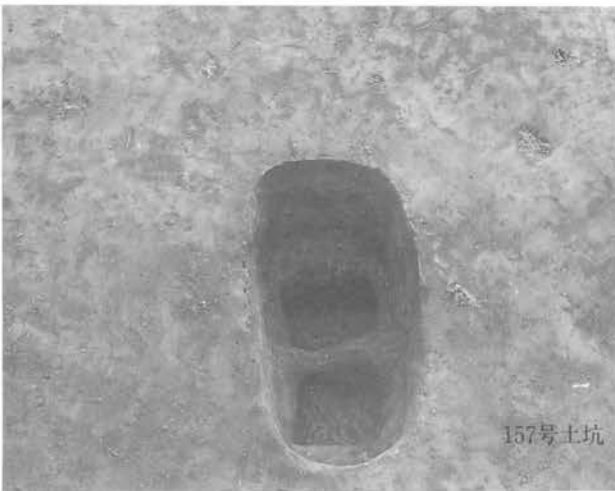
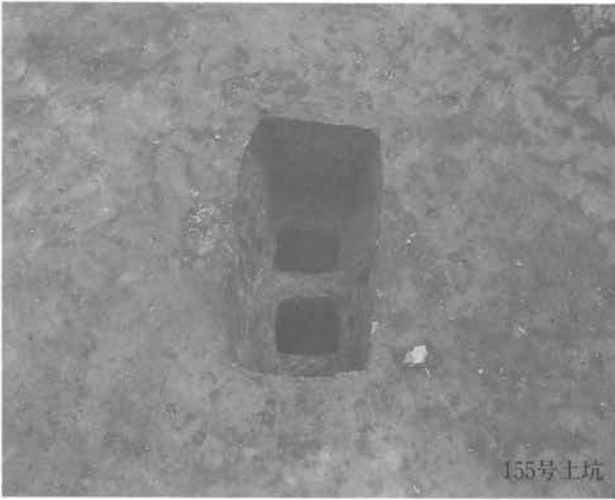
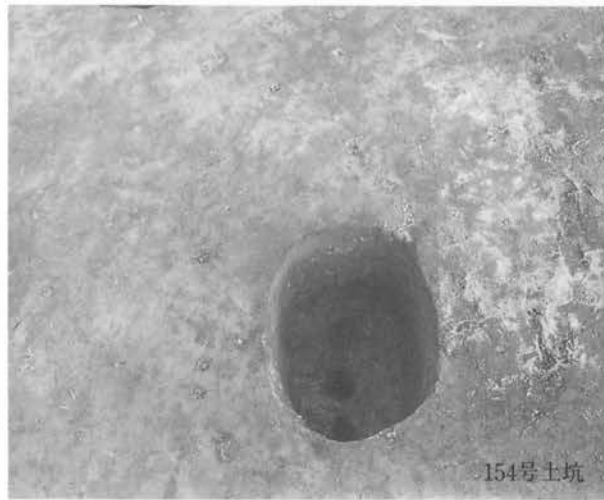
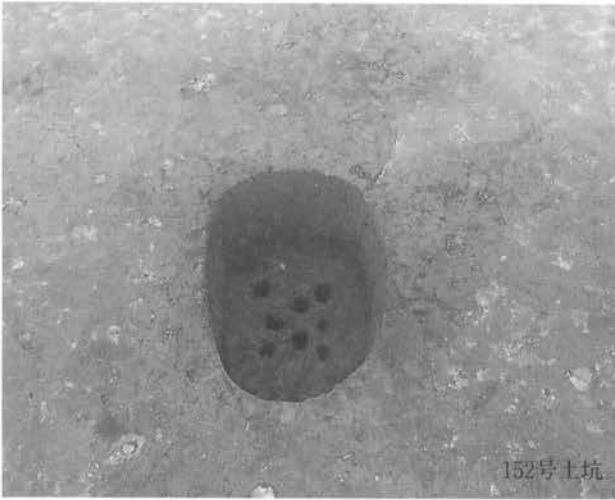
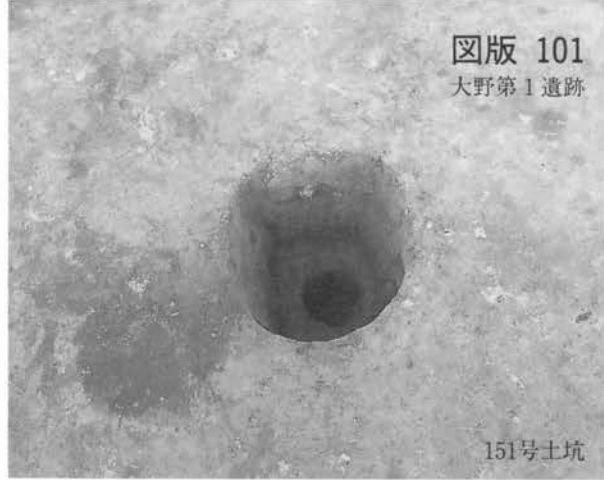
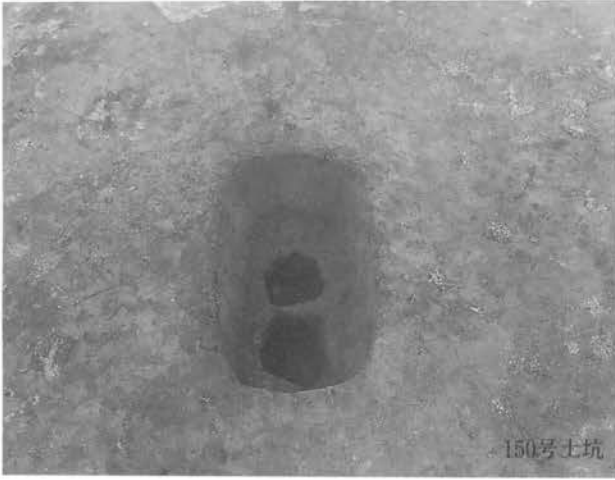
147号土坑

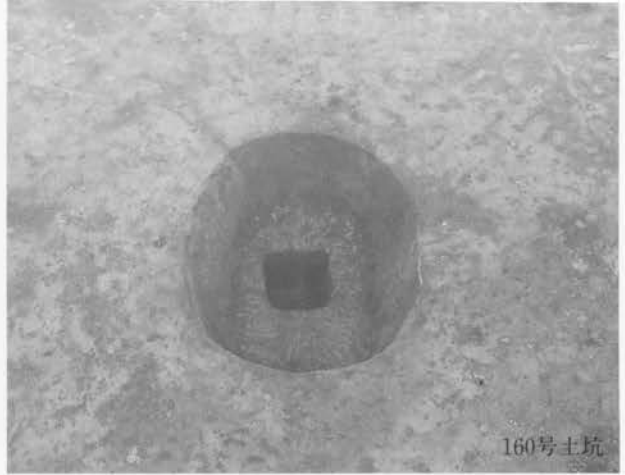


148号土坑



149号土坑







167号土坑



168号土坑



169号土坑



170号土坑



171号土坑



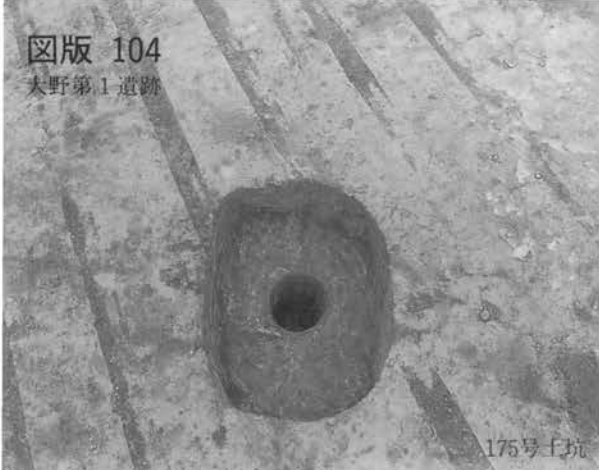
172号土坑



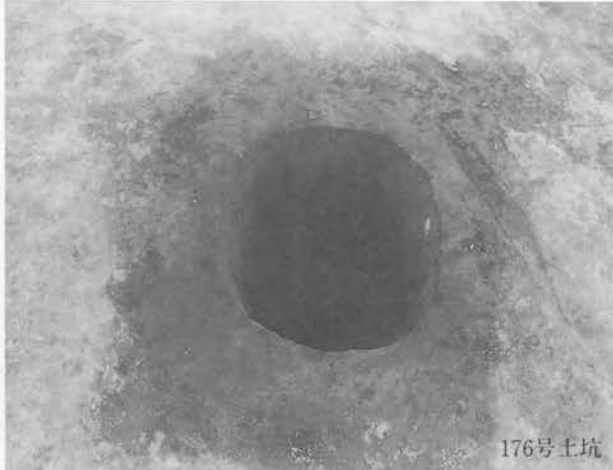
173号土坑



174号土坑



175号土坑



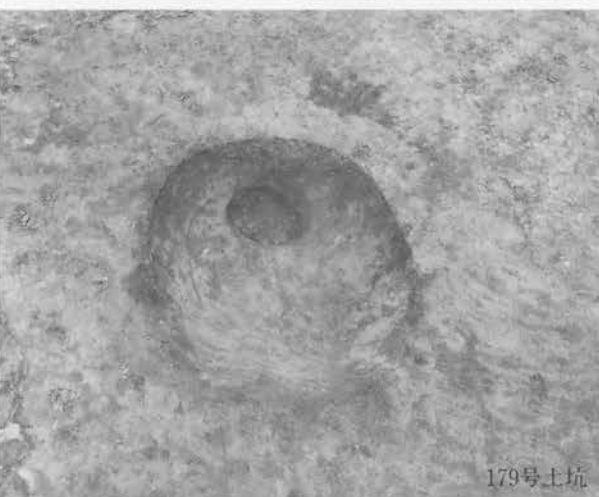
176号土坑



177号土坑



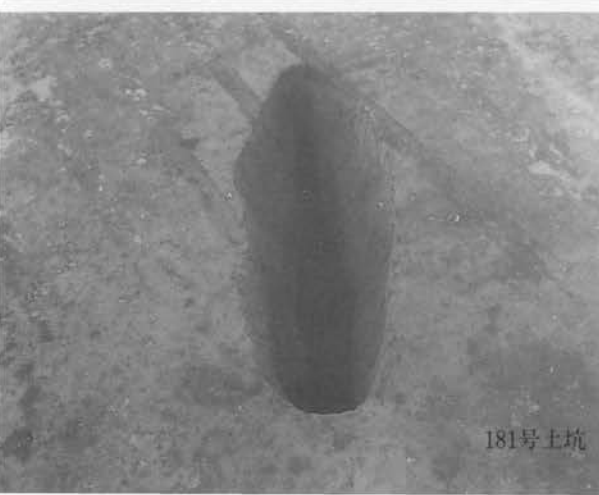
178号土坑



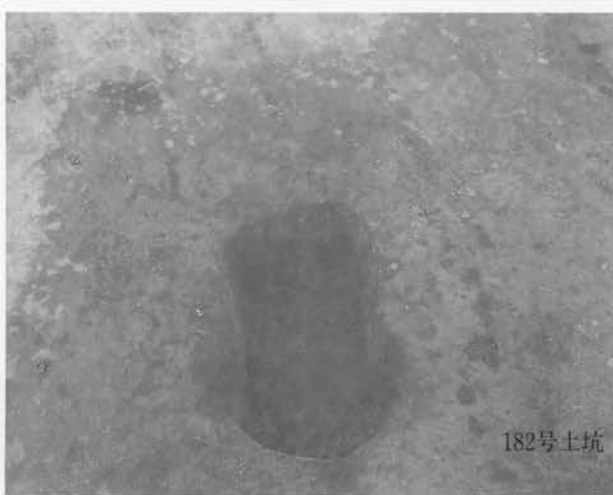
179号土坑



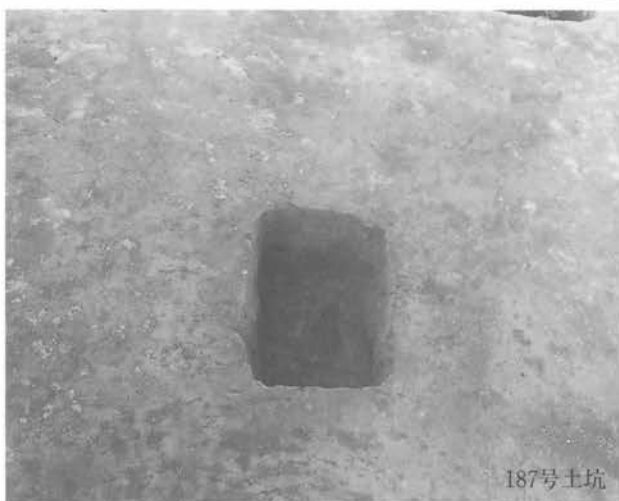
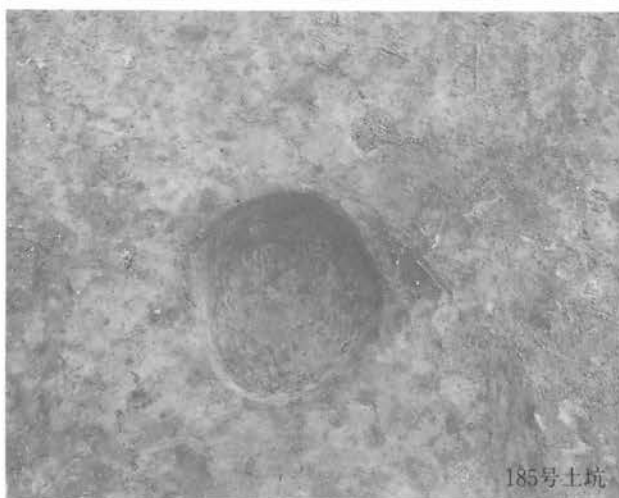
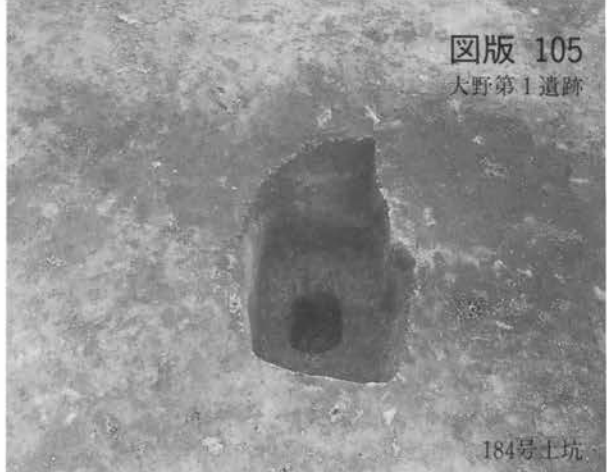
180号土坑



181号土坑

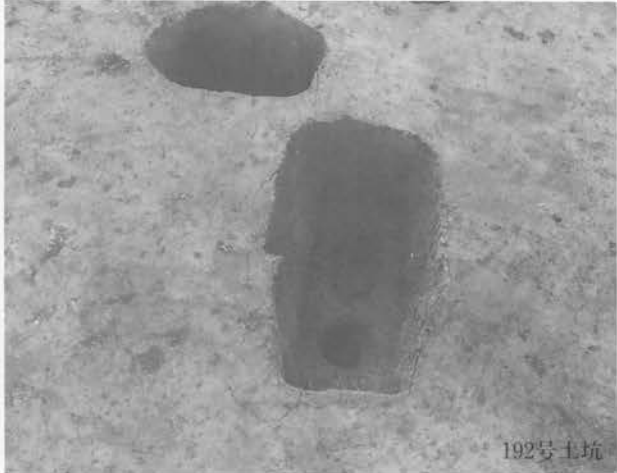


182号土坑

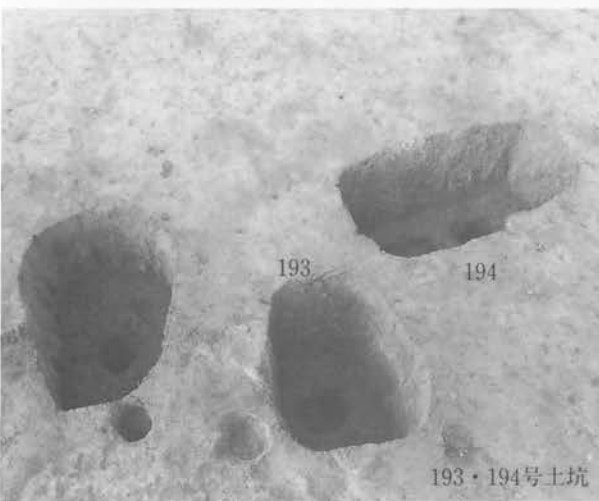




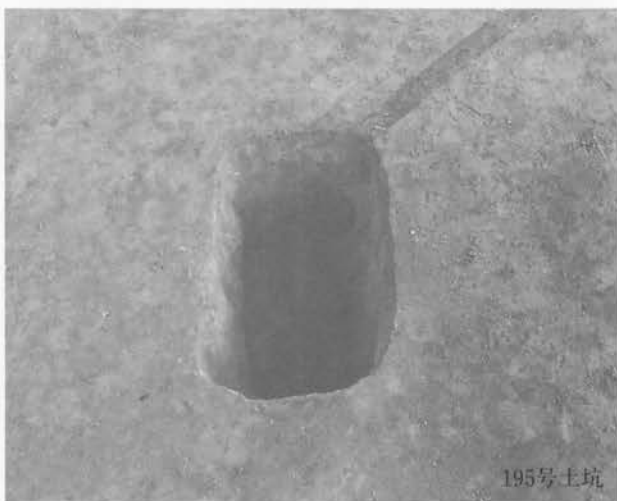
191号土坑



192号土坑



193・194号土坑



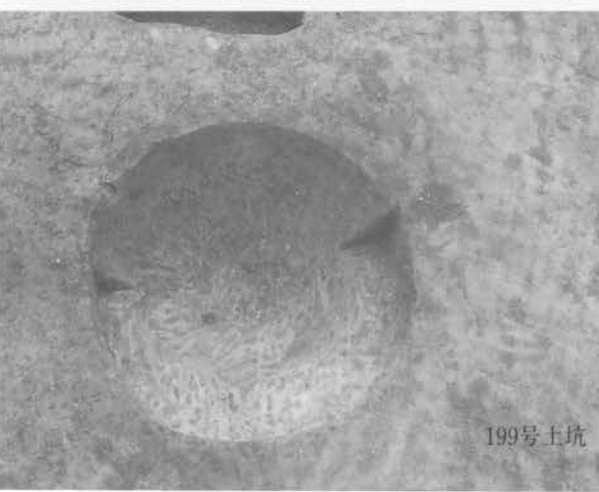
195号土坑



196号土坑



198号土坑

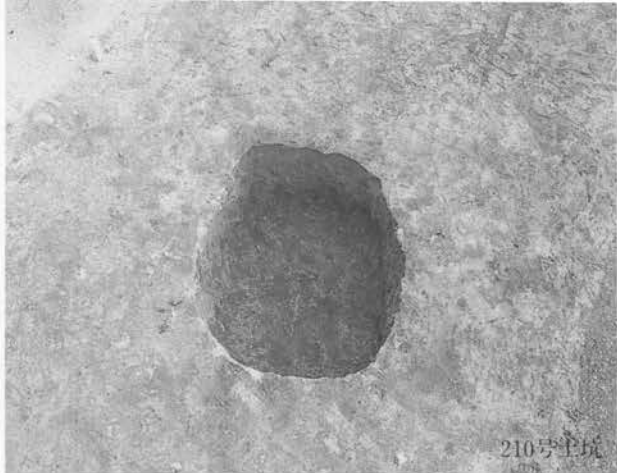
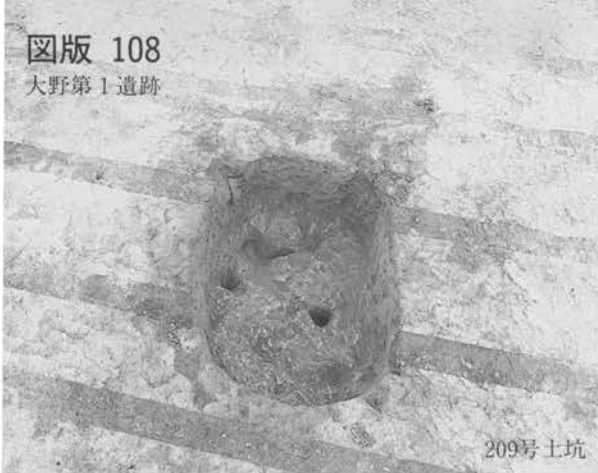


199号土坑



200号土坑



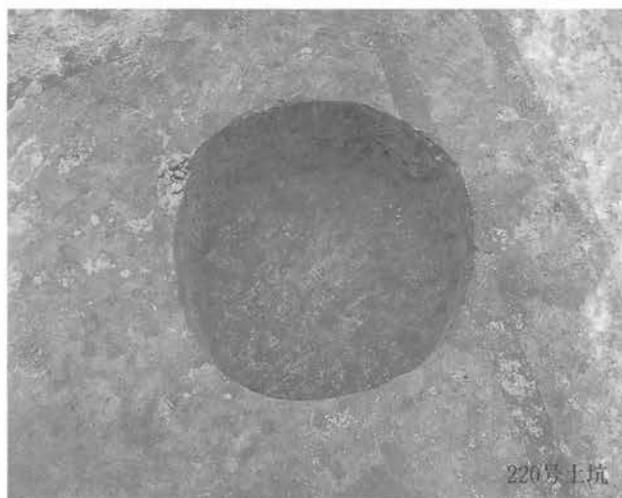




218号土坑



219号土坑



220号土坑



221号土坑



222号土坑



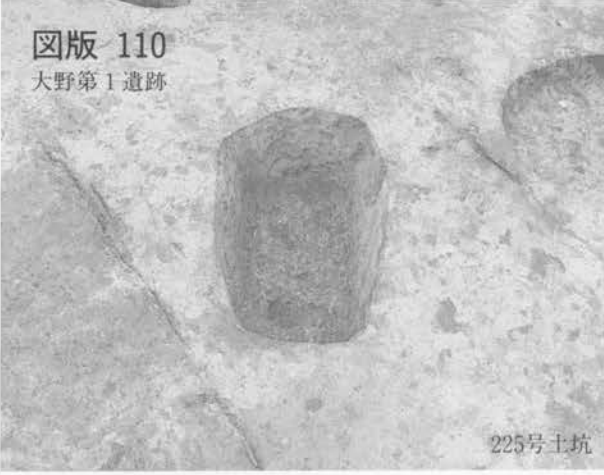
223号土坑出土土器



223号土坑



224号土坑



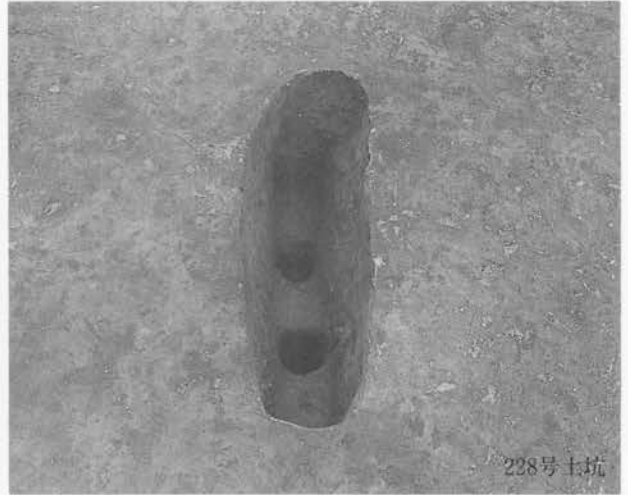
225号土坑



226号土坑



227号土坑



228号土坑



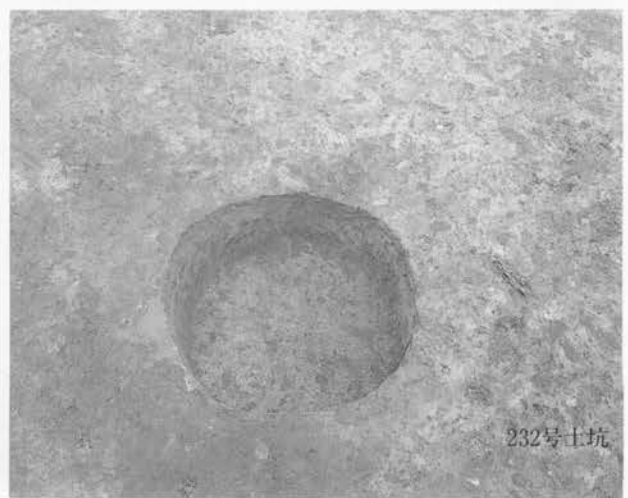
229号土坑



230号土坑



231号土坑



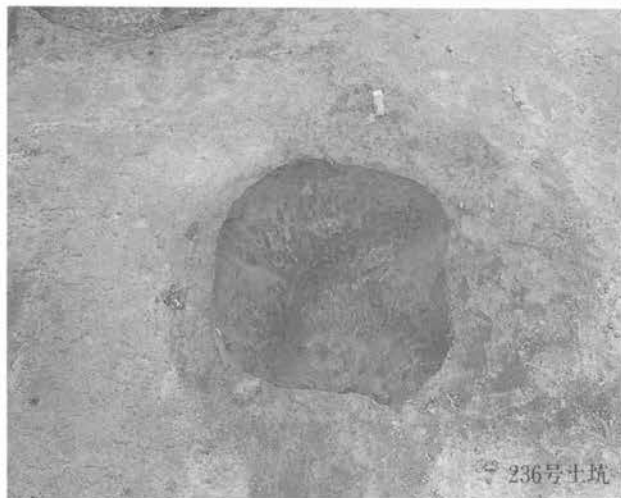
232号土坑



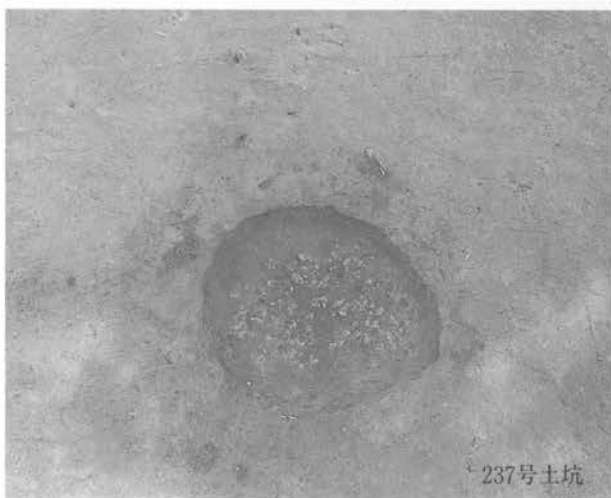
233号土坑



234・235号土坑



236号土坑



237号土坑



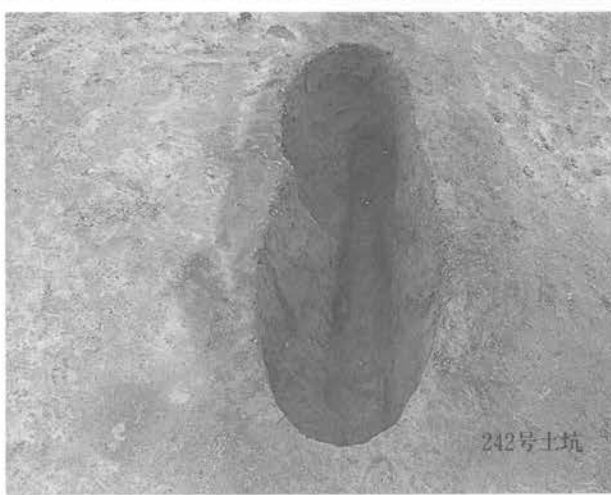
238号土坑



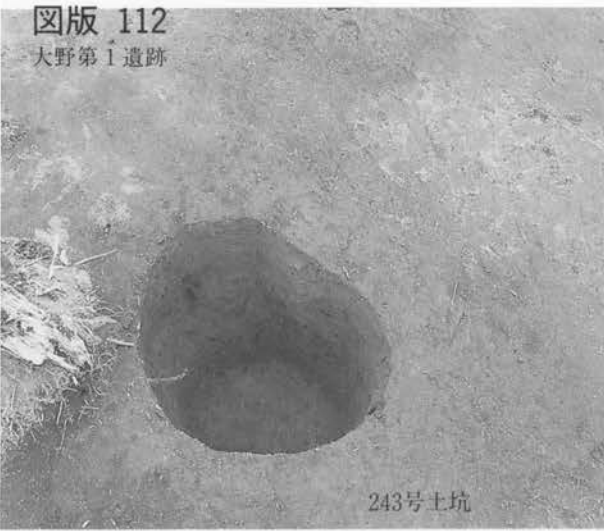
239号土坑



240号土坑



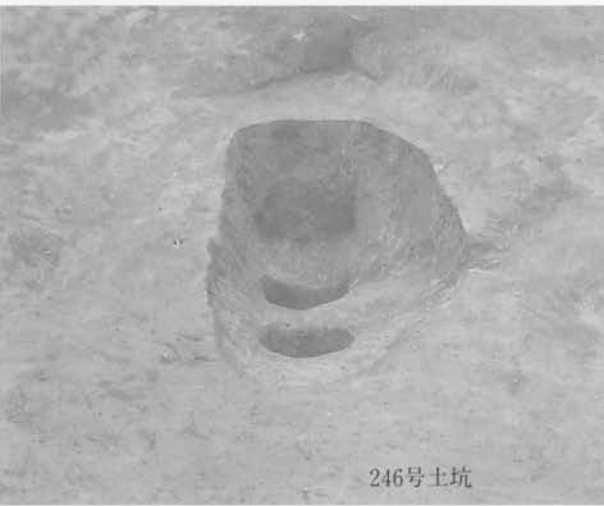
242号土坑



243号土坑



245号土坑



246号土坑



247号土坑



030号住居跡-1



105号住居跡-4



106号住居跡-7



197号住居跡-14



197号住居跡-19



197号住居跡-26



223号土坑-27



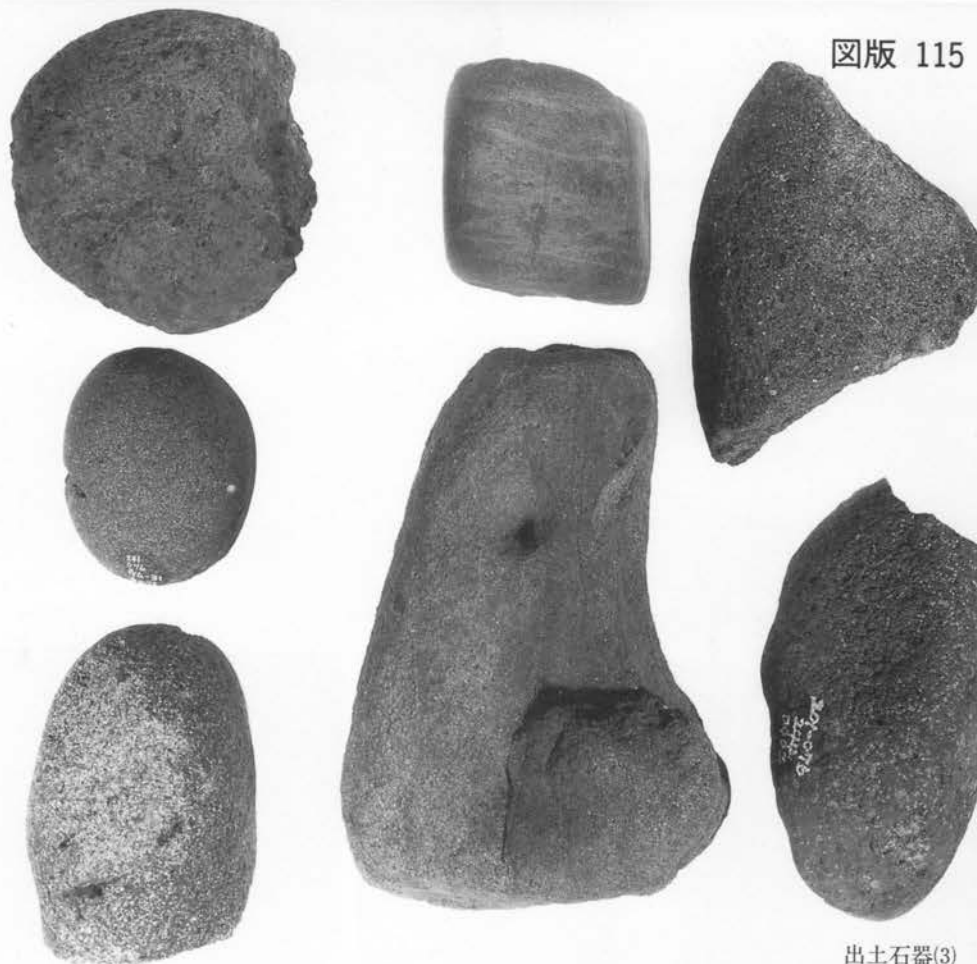
244号土坑-28



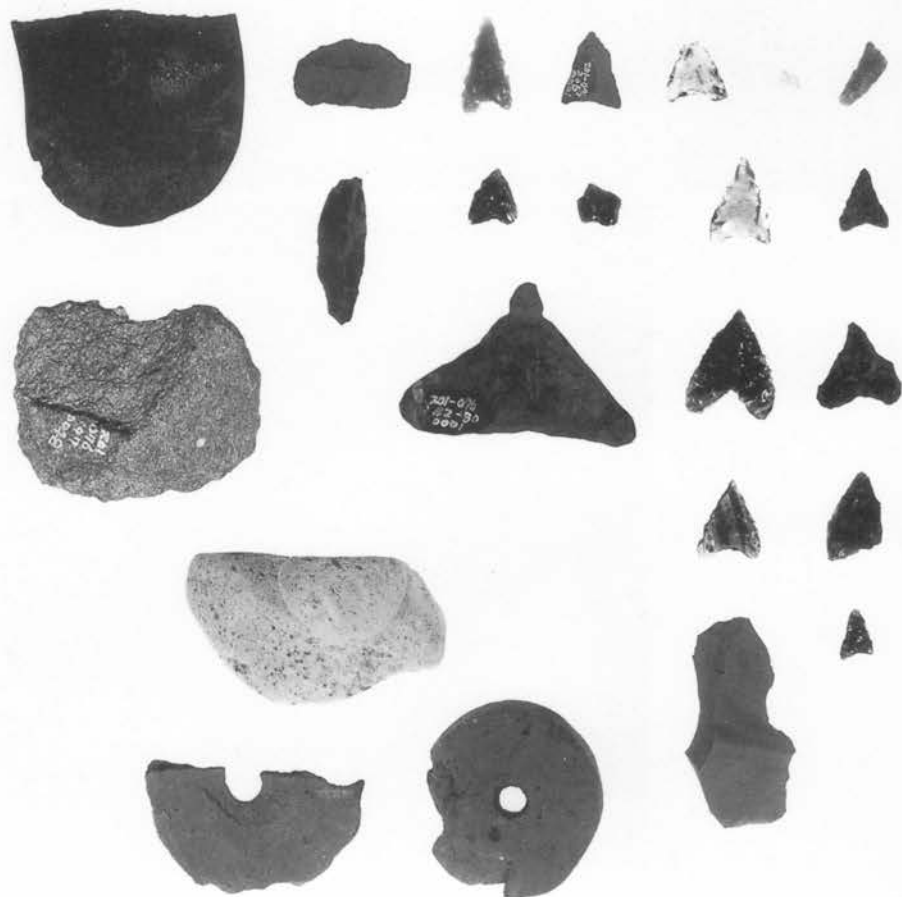
出土石器(1)



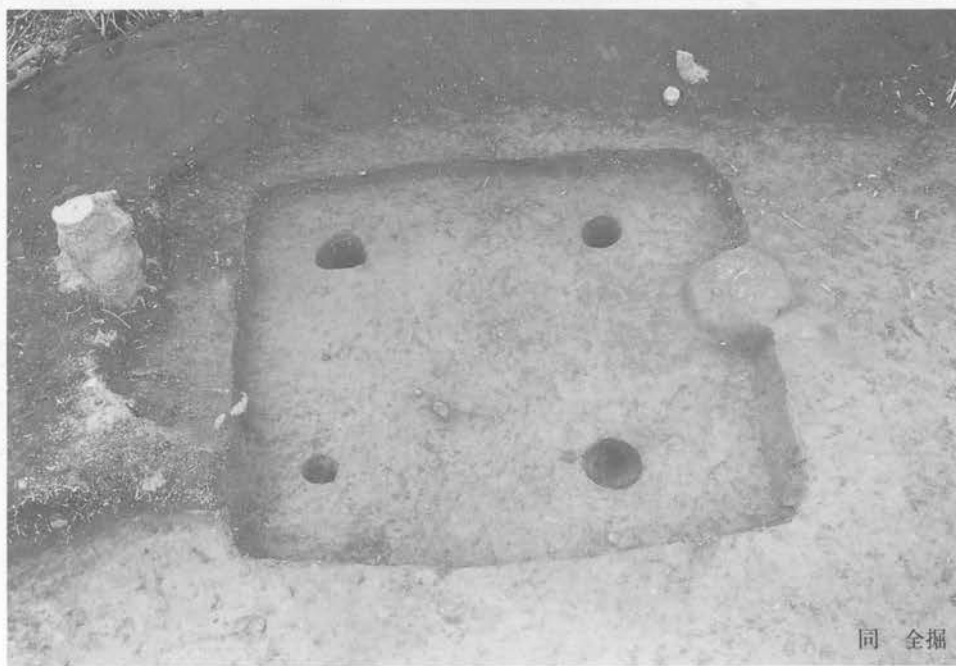
出土石器(2)



出土石器(3)



出土石器(4)及び軽石・紡錘車



100号掘立柱建物跡
検出状況



同上全掘



101号掘立柱建物跡
全掘





13



7



11



6



14



12



6



2



1



10



4

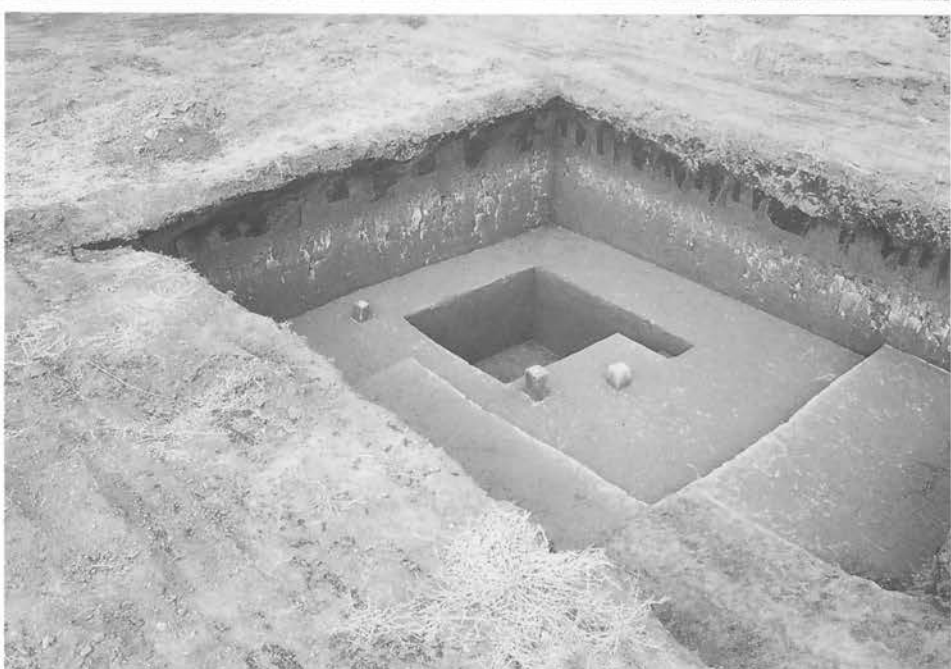


15

IX-X層 (E区)
遺物出土状況



IX-X層 (E区)
遺物出土状況
(検出当初)



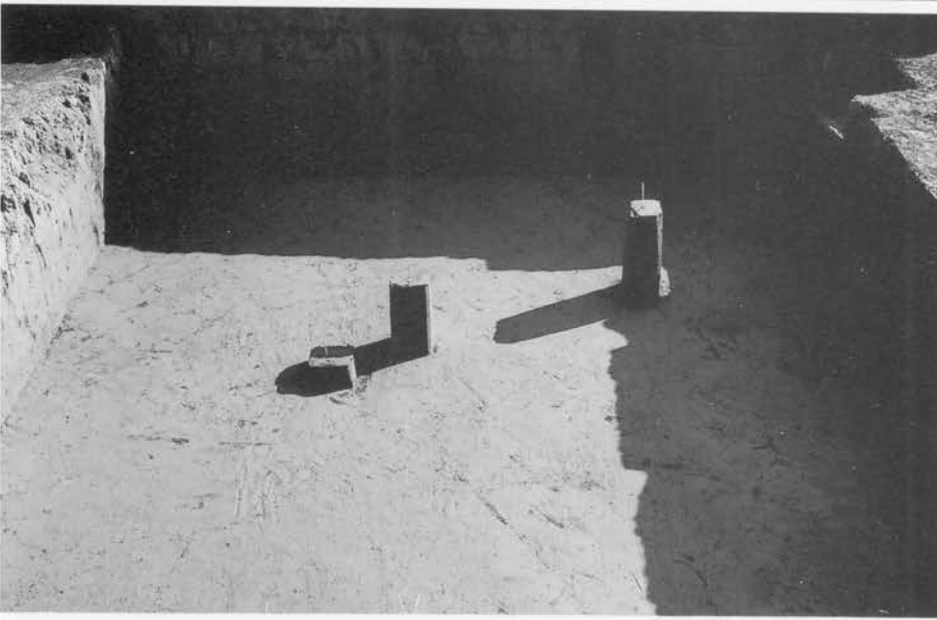
IV-VI層 (F区)
遺物出土状況





西大野第1遺跡

IV-VI層 (F区)



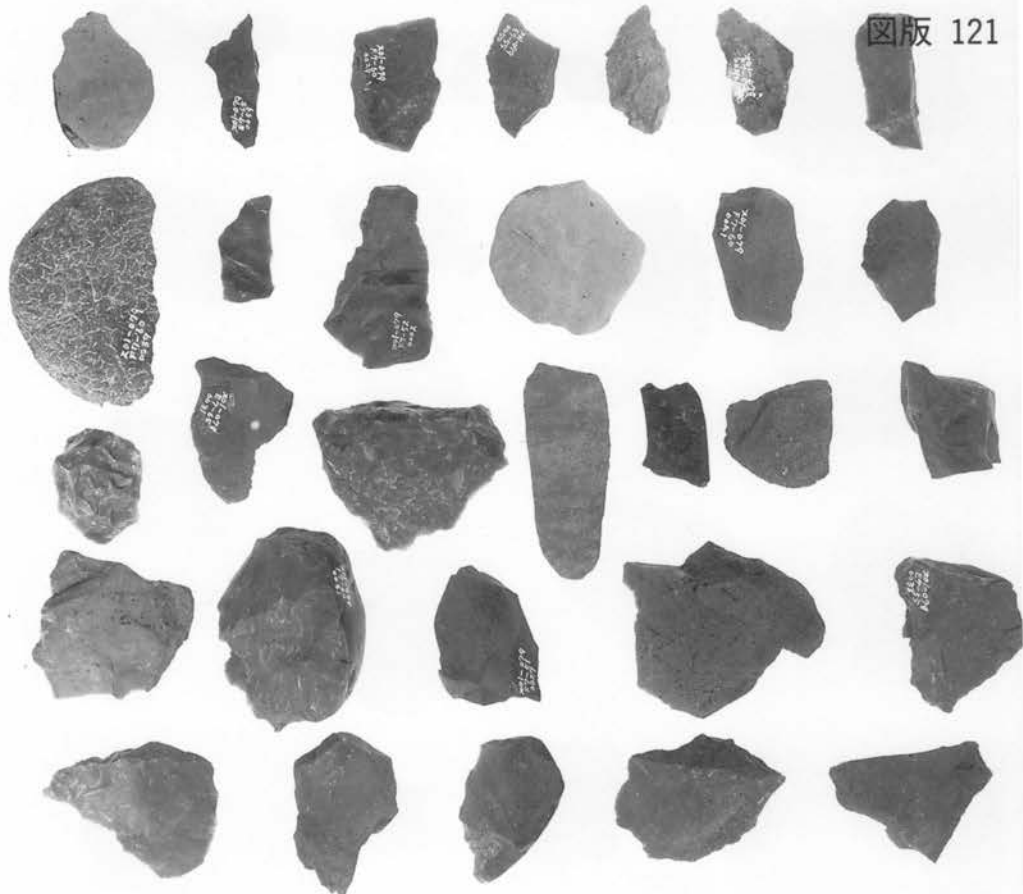
IX-X層 (D区)

遺物出土状況

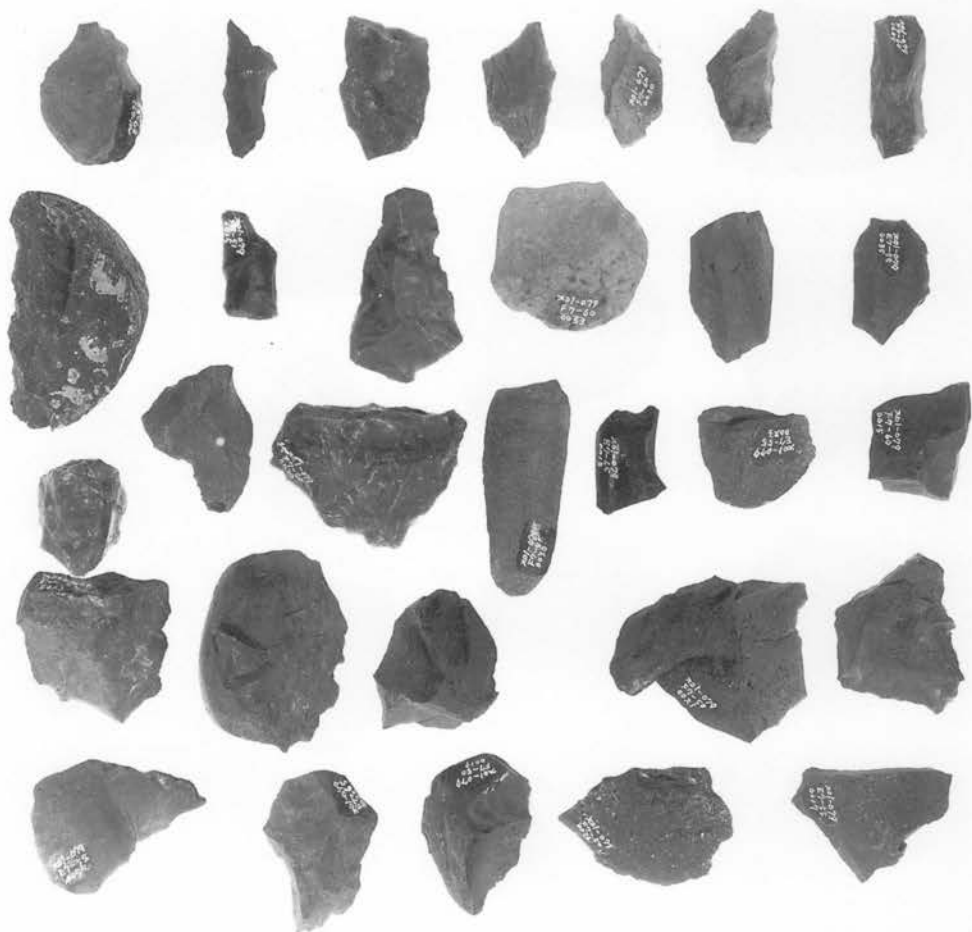


IX層

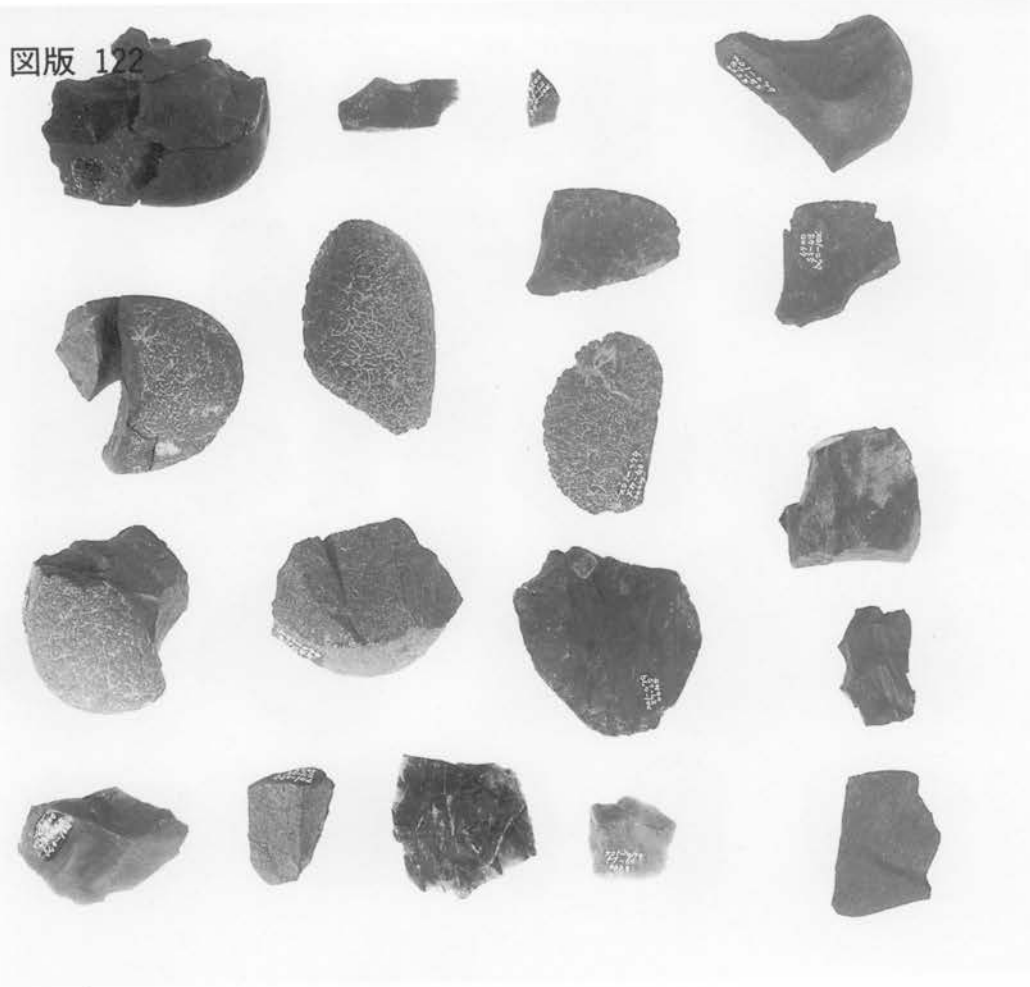
炭化材出土状況



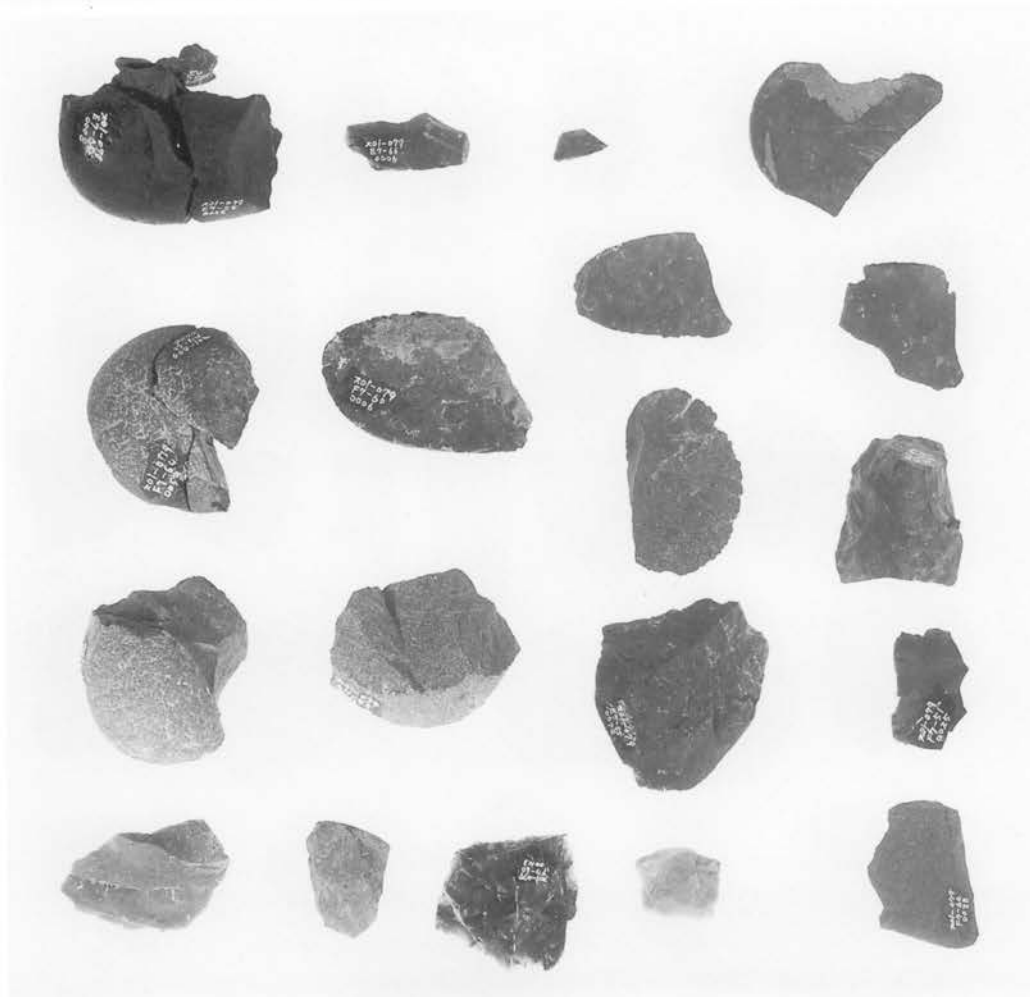
(E・F区)
IV~VI層
出土石器(表)



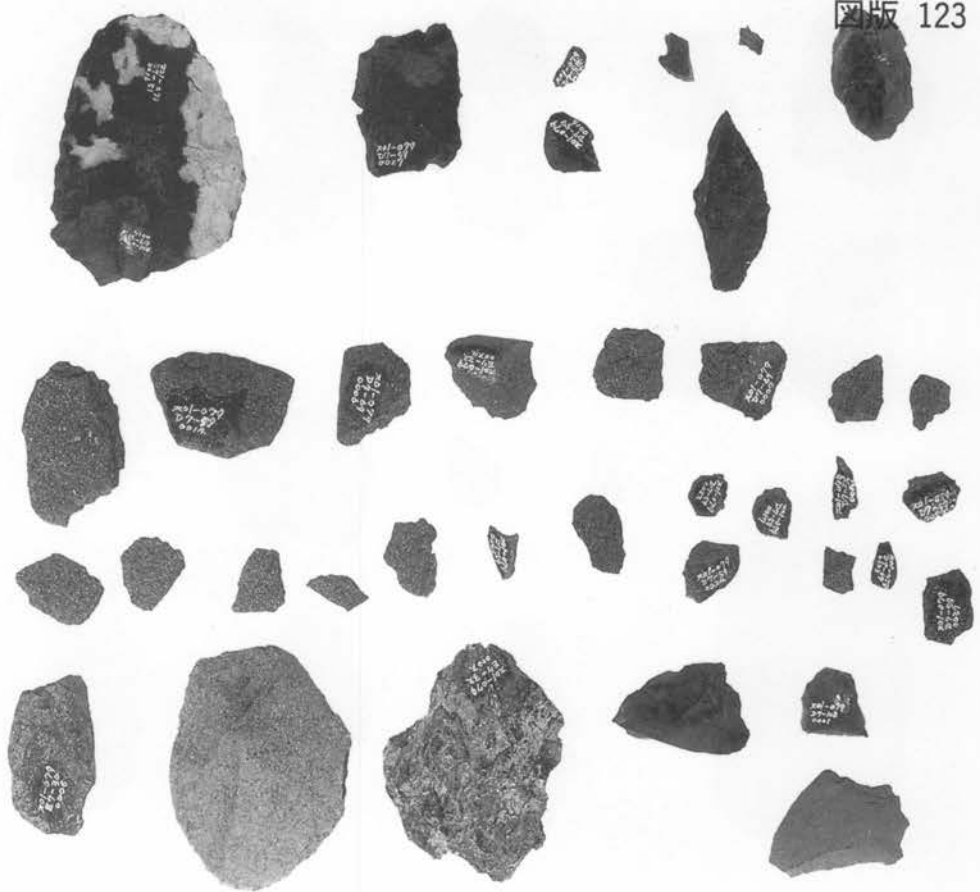
同上(裏)



(E・F区)
IV~VI層
出土石器(表)



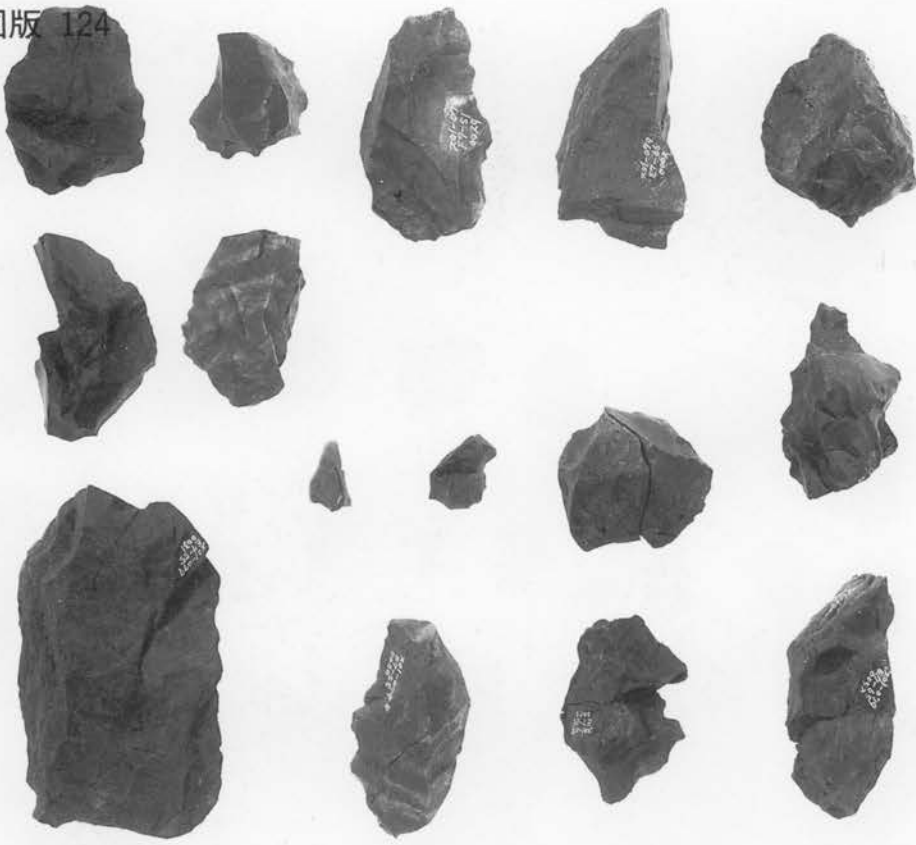
同上(裏)



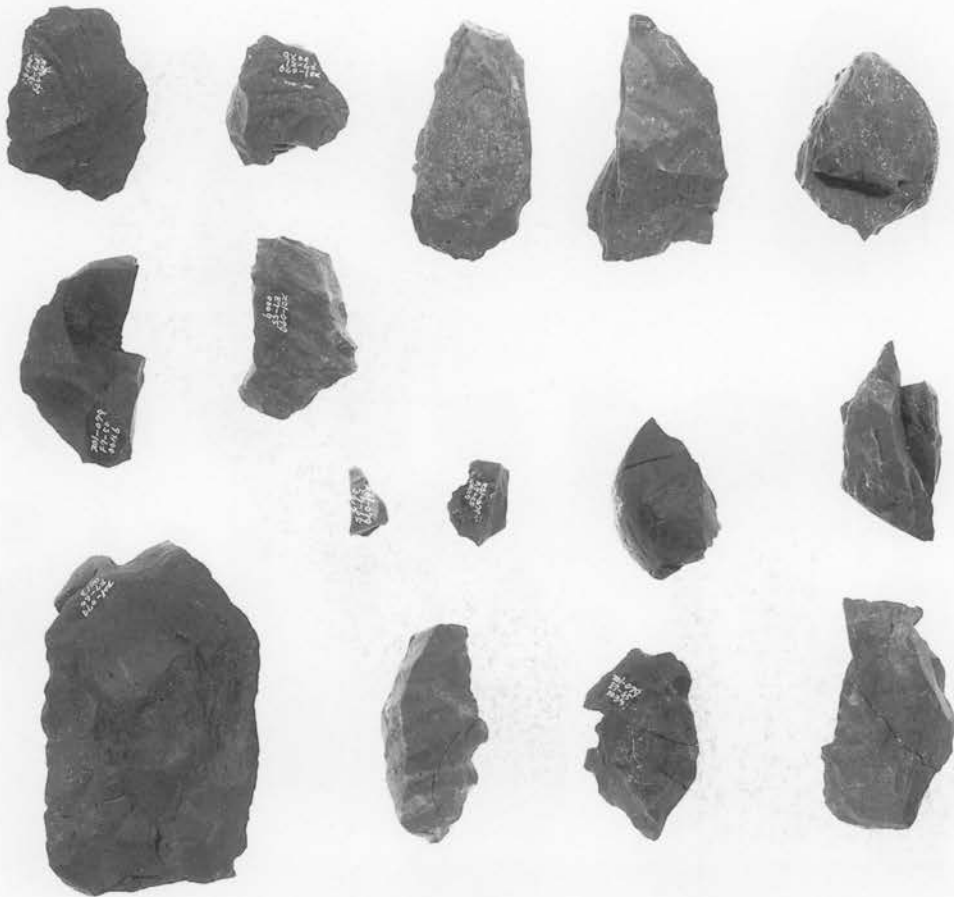
IX層～X層
出土石器（表）



同上（裏）



IX～X層出土石器（表）

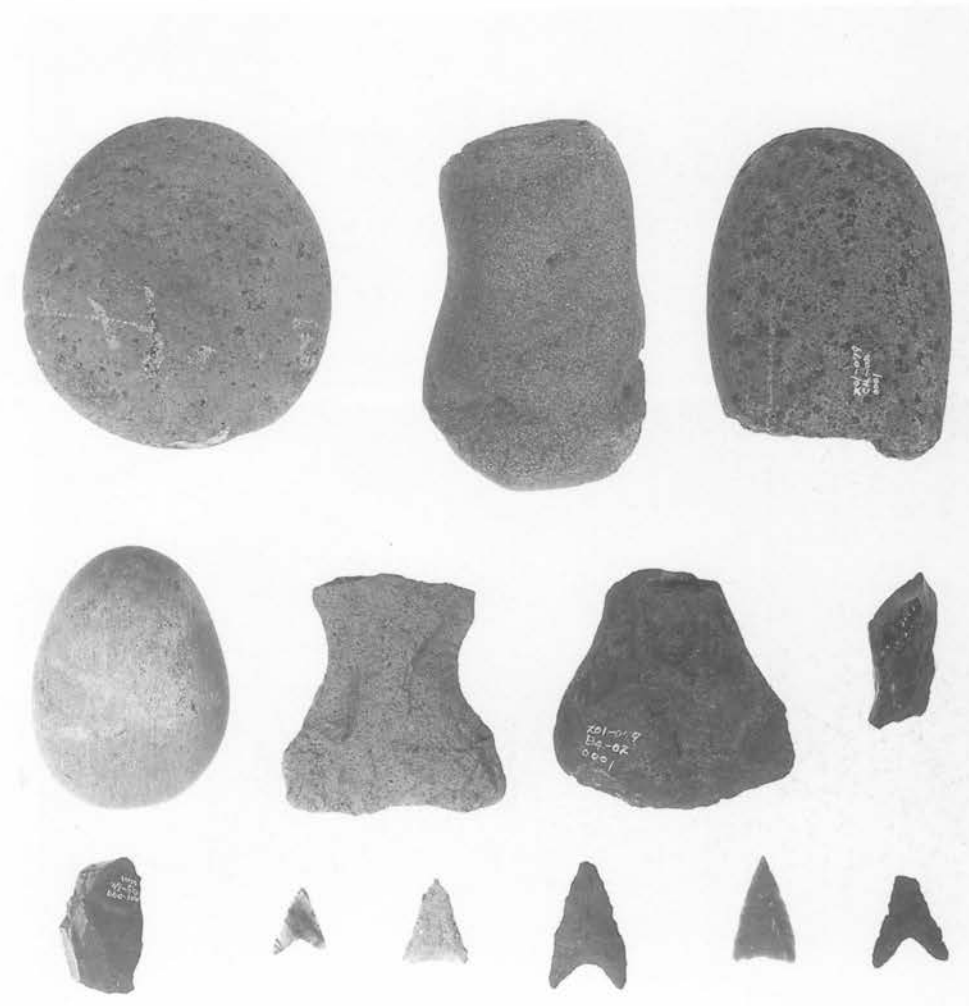
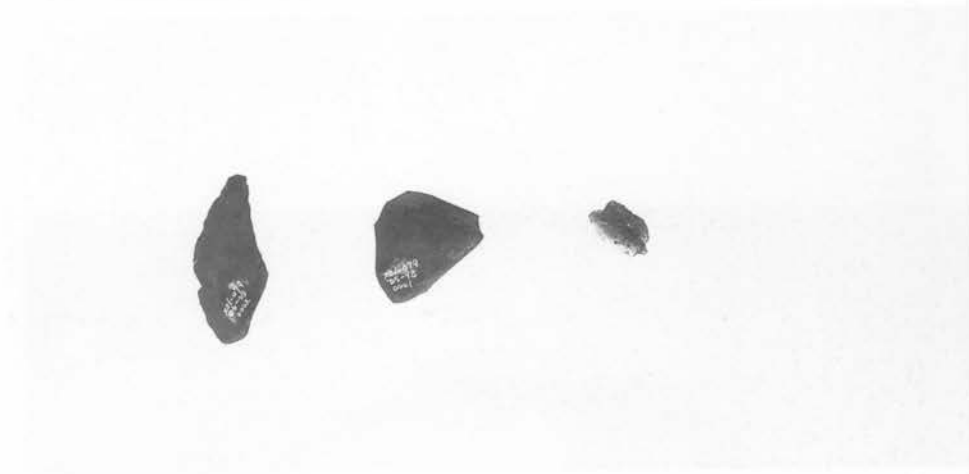


同上（裏）

(C区)
IX層～X層
出土石器(表)



同上(裏)



出土石器



045号住居跡
遺物出土状況



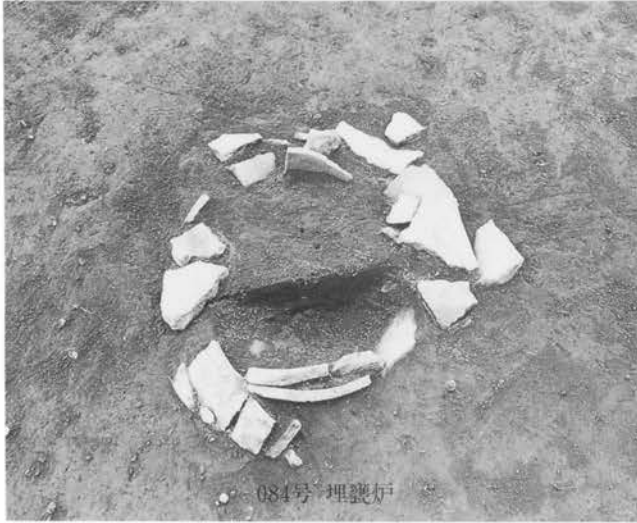
045号住居跡
全掘



071号住居跡
遺物出土状況

西大野第1遺跡

071号住居跡
全掘



084号埋護炉



071号住居跡炉



084号址付近



084号址炉セクション



013号土坑



016号土坑



017号土坑



018号土坑



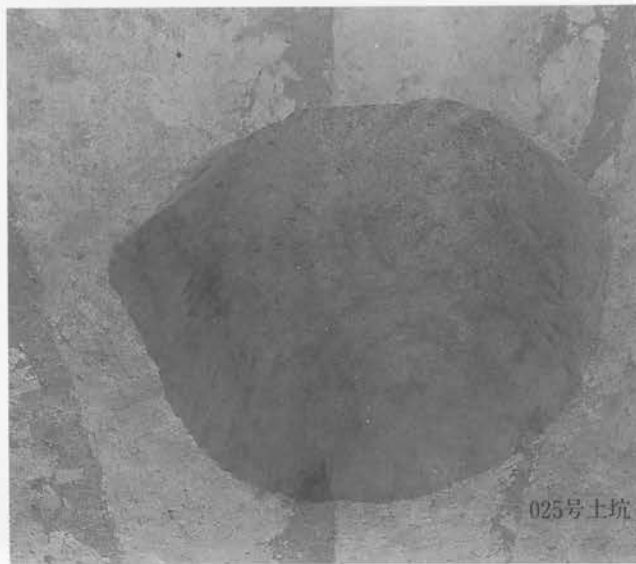
019号土坑



020号土坑



022号土坑



025号土坑



026号土坑



027号土坑



028号土坑



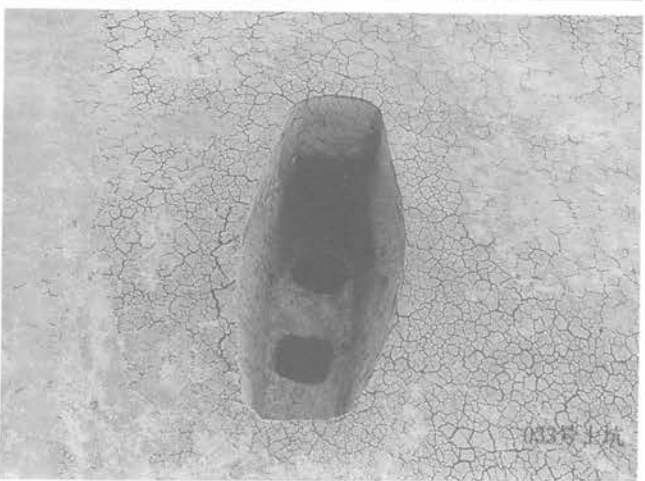
029号土坑



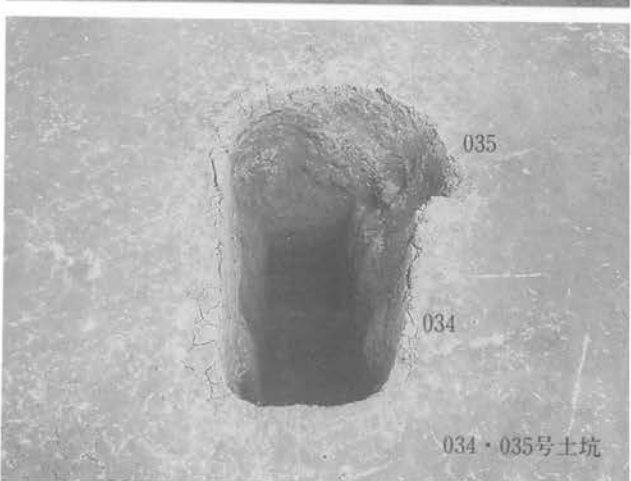
030号土坑



032号土坑

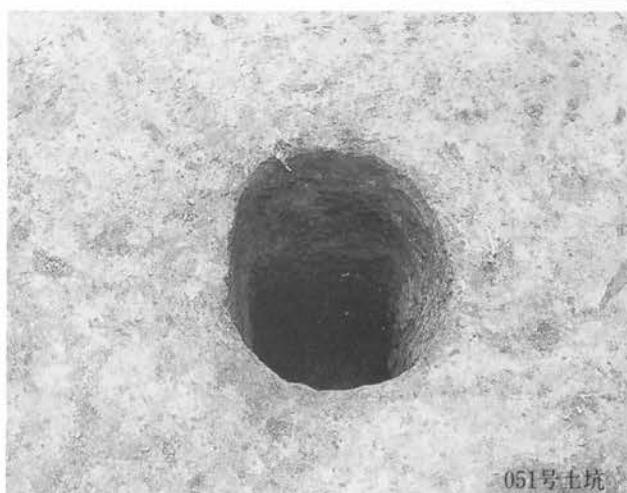
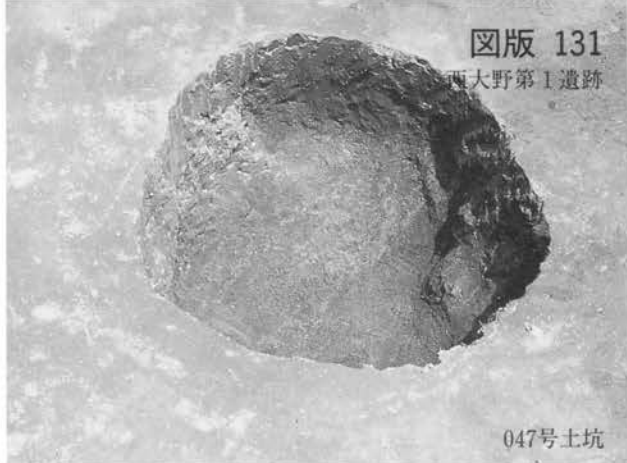


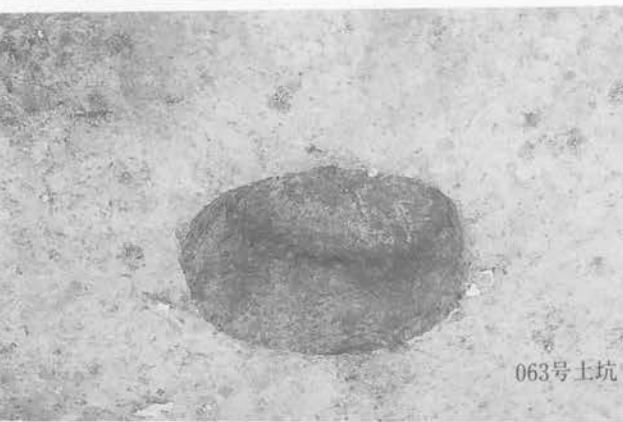
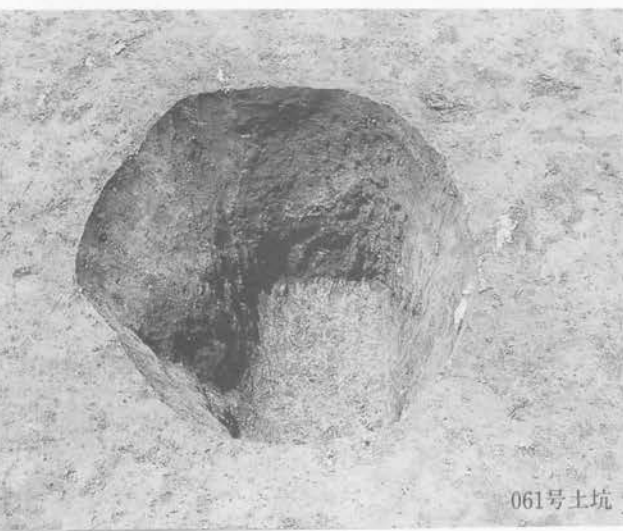
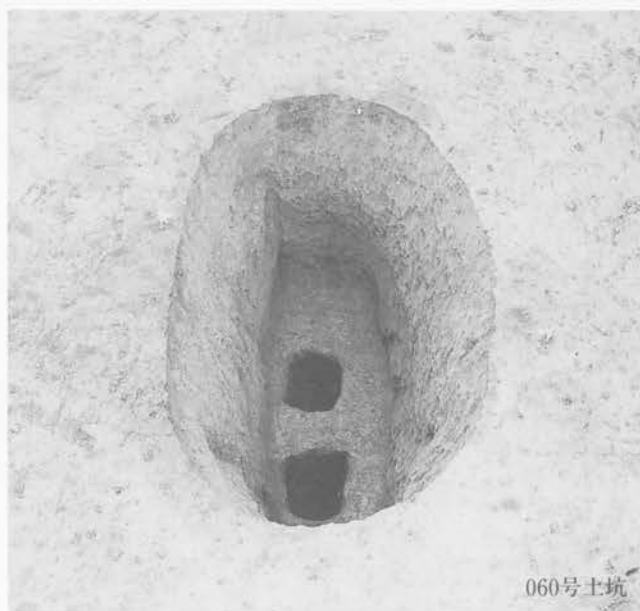
033号土坑



034・035号土坑







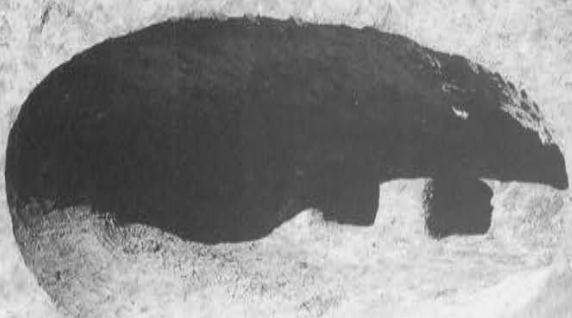




078号土坑



079号土坑



080号土坑



081



082

081・082号土坑



084号土坑



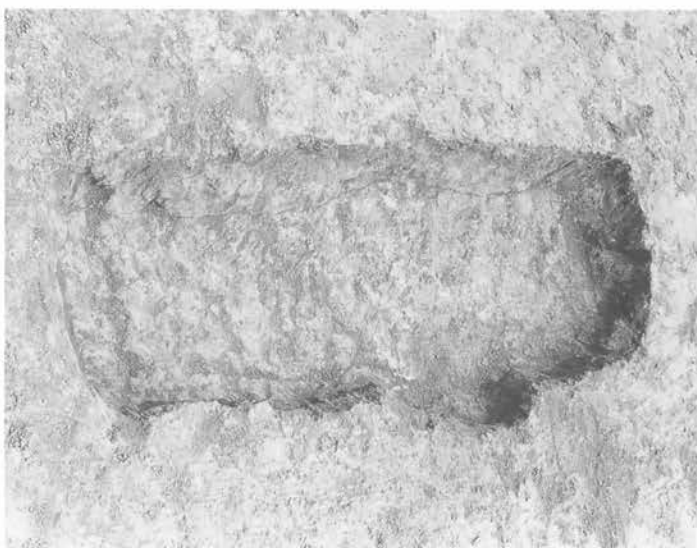
085号土坑



086号土坑



087号土坑



088号土坑



002号住居跡遺物出土状況



同上全掘



同上床面下掘方



003号住居跡遺物出土状況



同上全掘



004号住居跡遺物出土状況

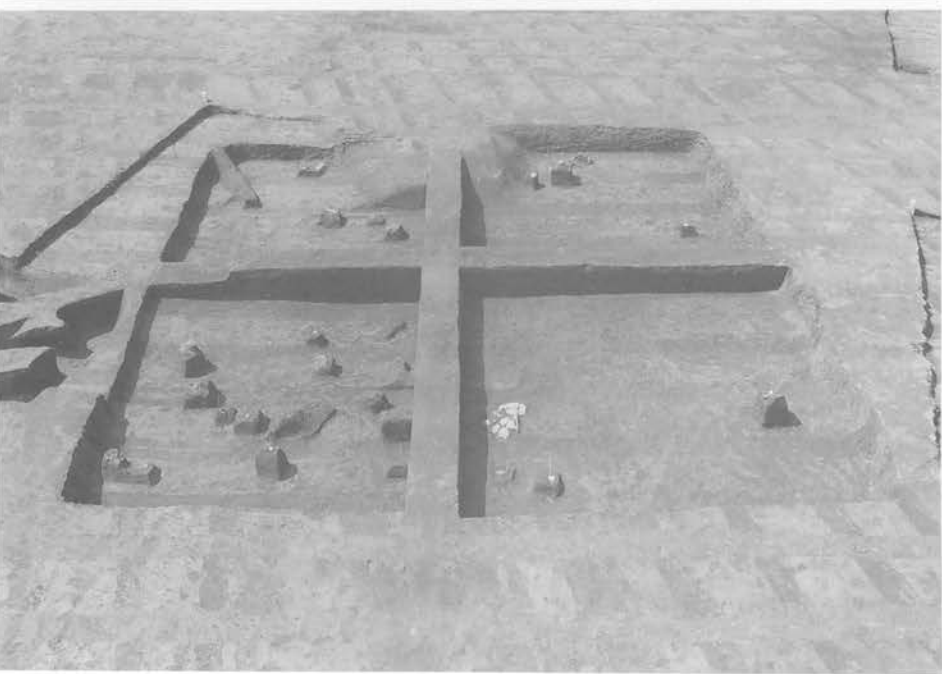
西大野第1遺跡



004号住居跡炭化材出土状況



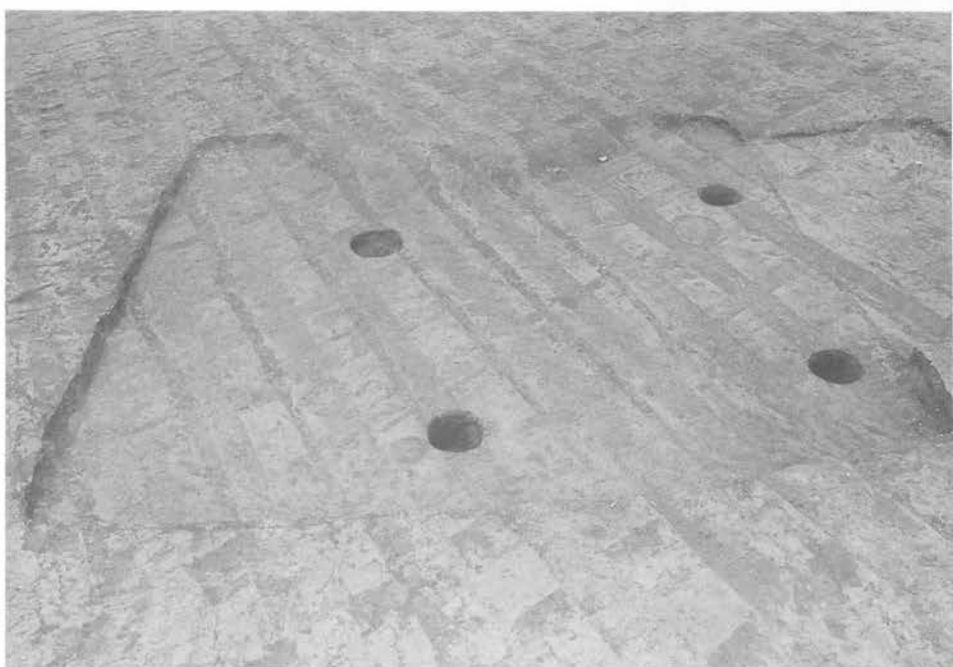
同上全掘



005号住居跡遺物出土状況



005号住居跡全掘



006号住居跡全掘



同上カマド完掘



007号住居跡全掘



012号住居跡全掘



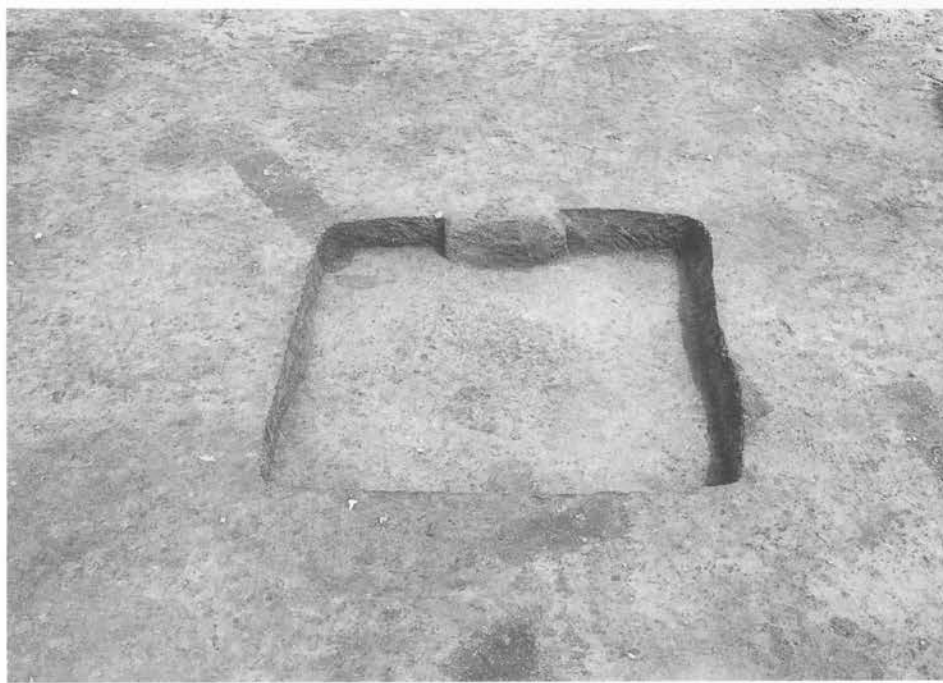
023号住居跡全掘



037号住居跡全掘



065号住居跡遺物出土状況



同上全掘

065号住居跡
全掘



078号住居跡カマド全掘



065号住居跡 カマド断面(正面)



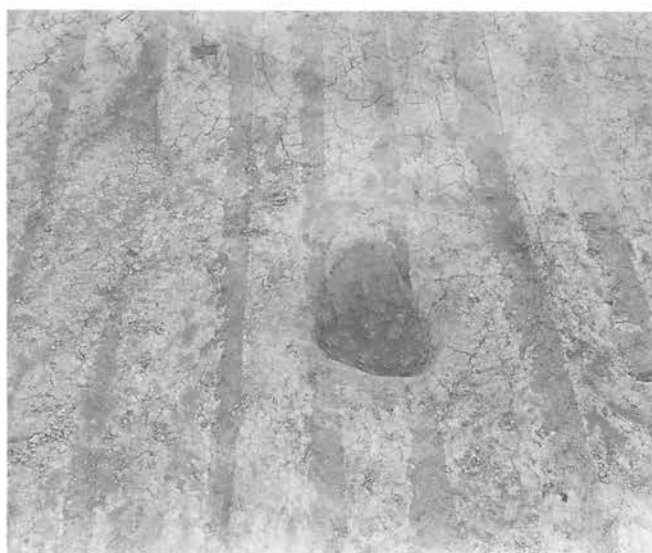
同上 全掘



同左 遺物出土状況



041号土坑



031号土坑

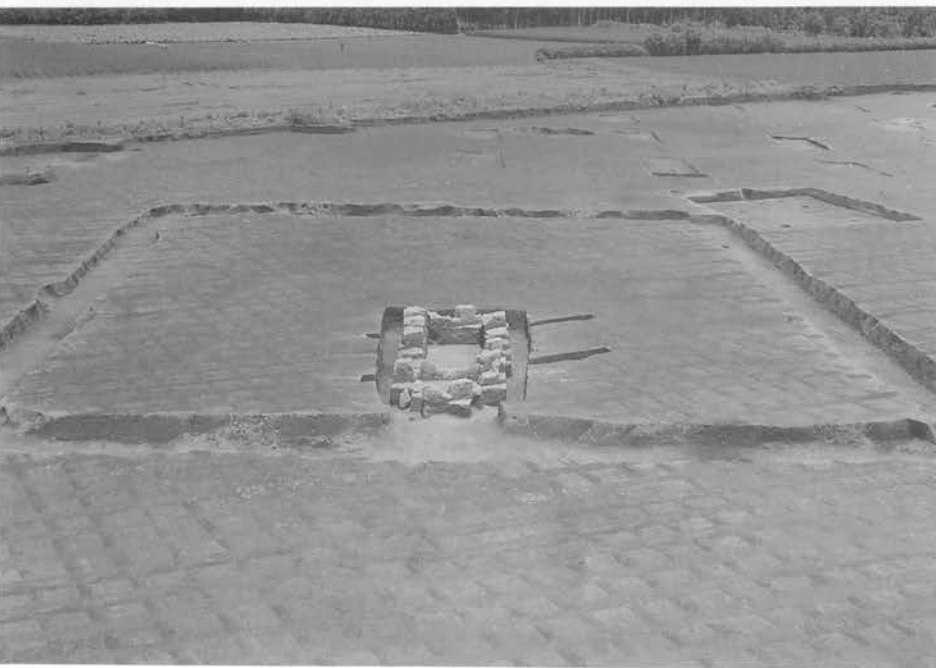


西大野第1遺跡

1号墳
横穴式石室
(正面)



同上(横)



同上全掘



001号方墳周溝



002号住居跡



002号住居跡



同上



同上



同上



同上



同上



同上



同上





004号住居跡出土遺物



004号住居跡



004号住居跡



同上



同上



同上



同上



同上



007号住居跡



007号住居跡



005号住居跡



005号住居跡



同上



同上



025号住居跡



029号住居跡



同上



007号住居跡





039号土坑



包含層



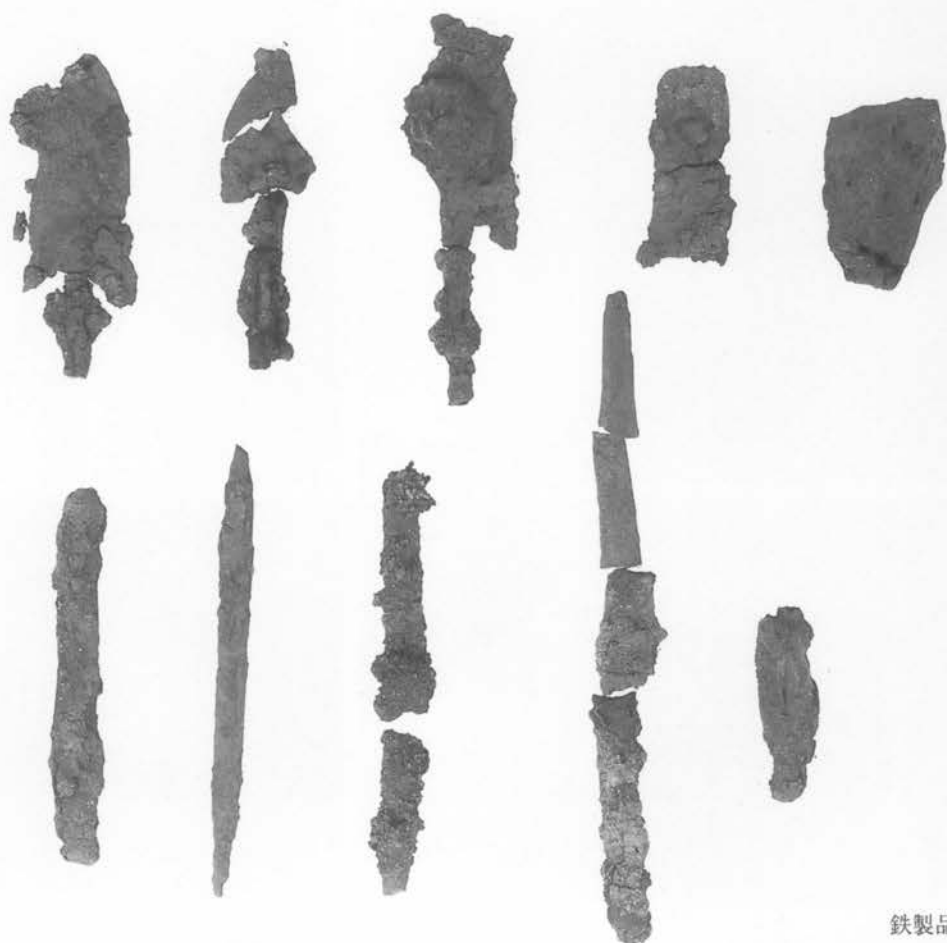
040号土坑



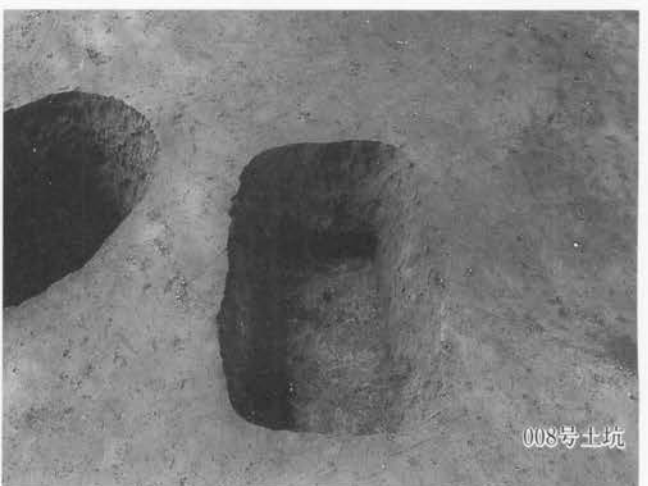
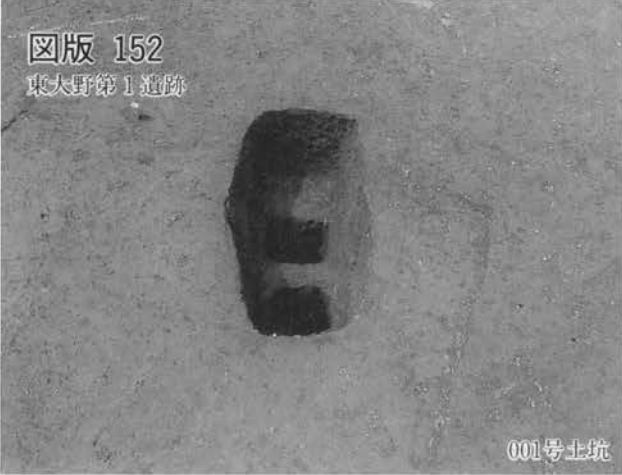
同上



包含層 墨書土器



鉄製品







東大野第2遺跡

第1群



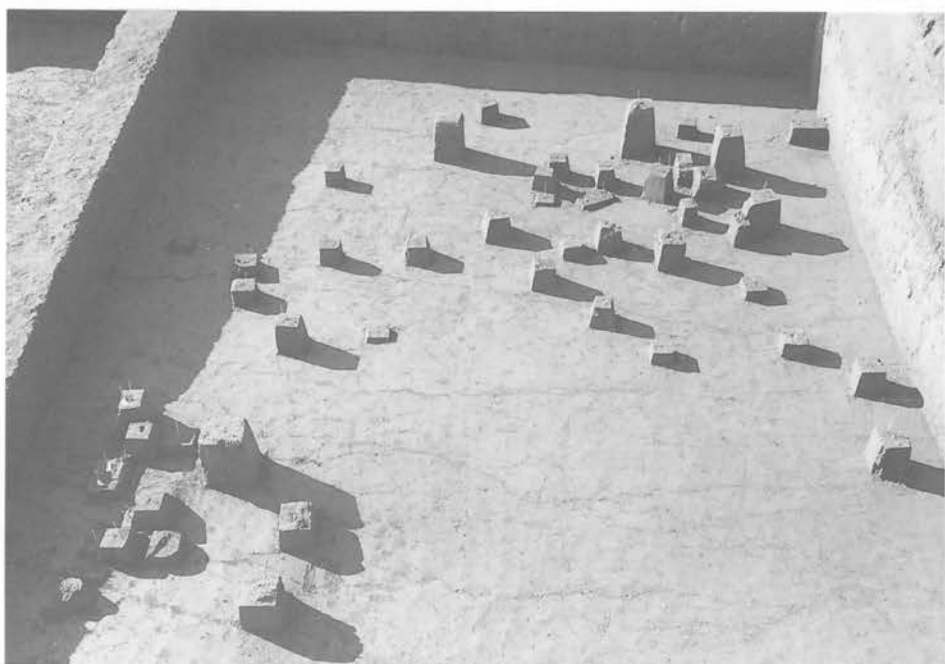
第2群



第3群



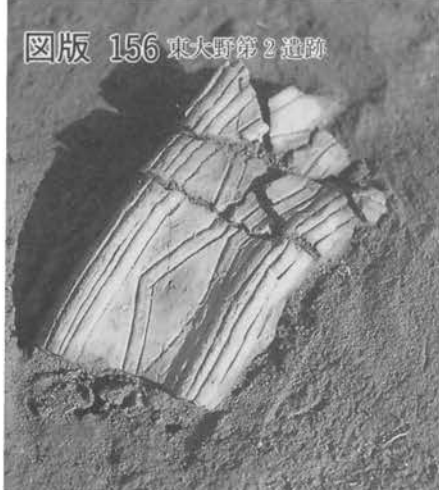
第4群



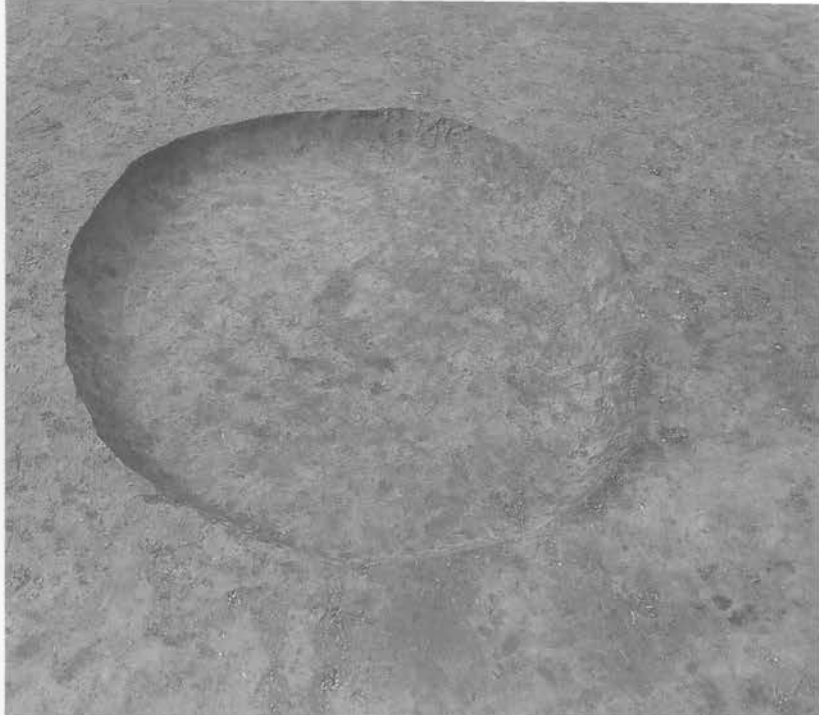
第5群



第6群



001号土坑遺物出土狀況(上)



004号住居跡
全掘(右)



001号土坑



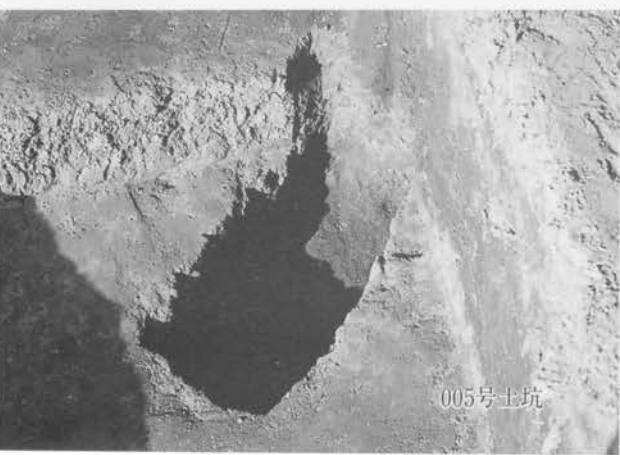
003号土坑



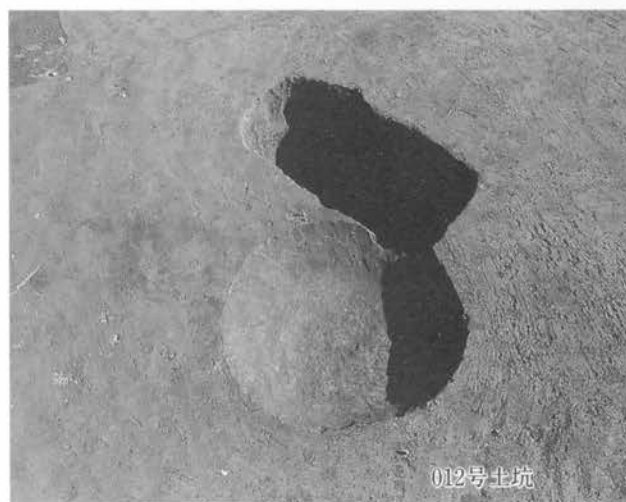
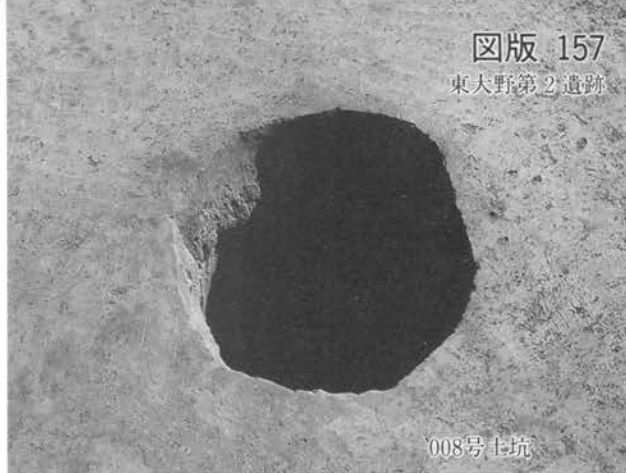
002号土坑



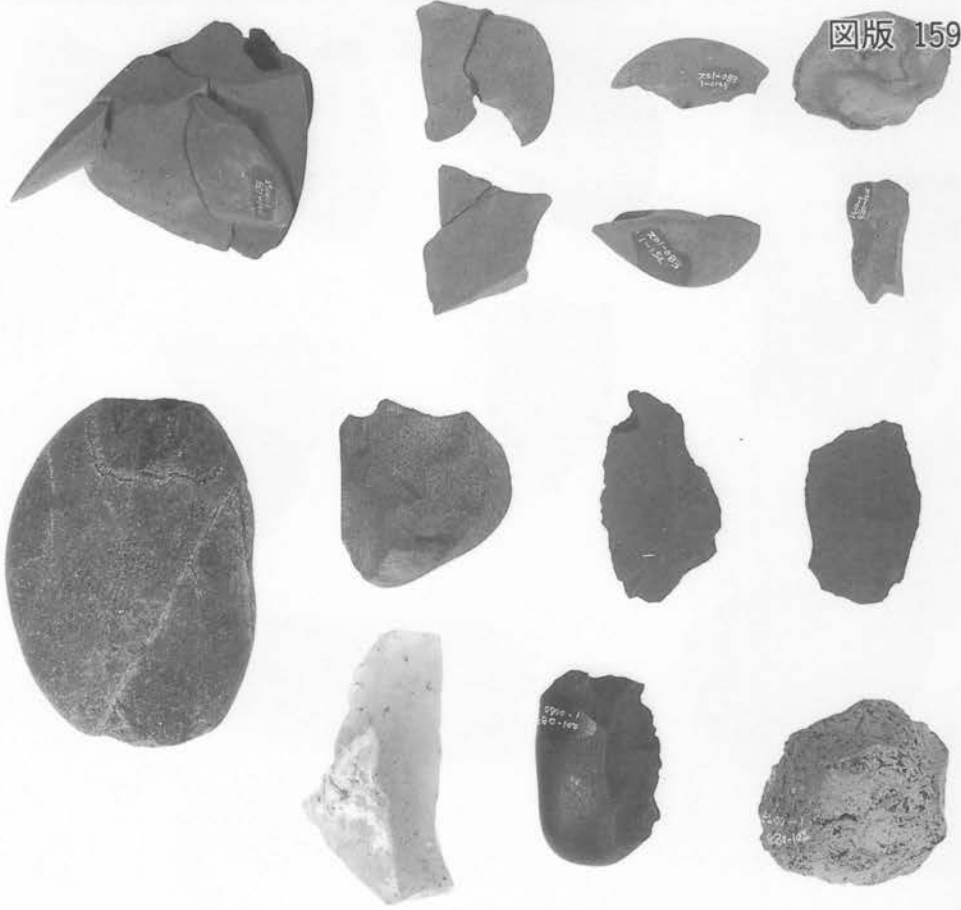
006号土坑



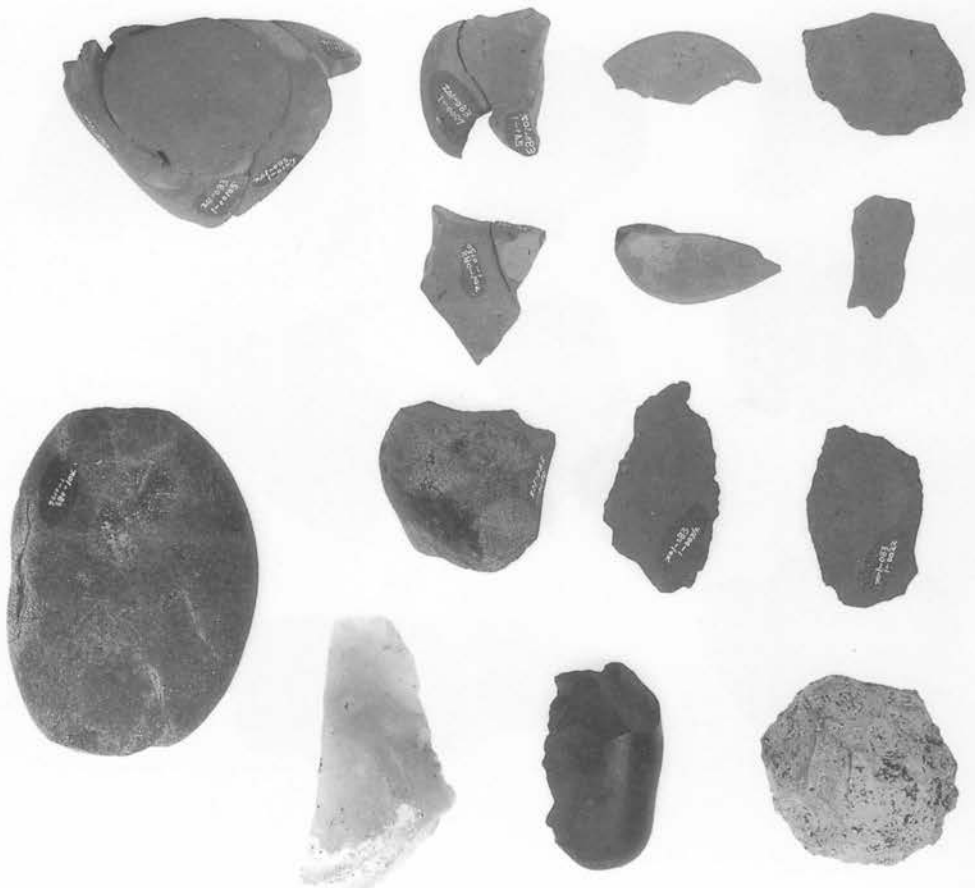
005号土坑



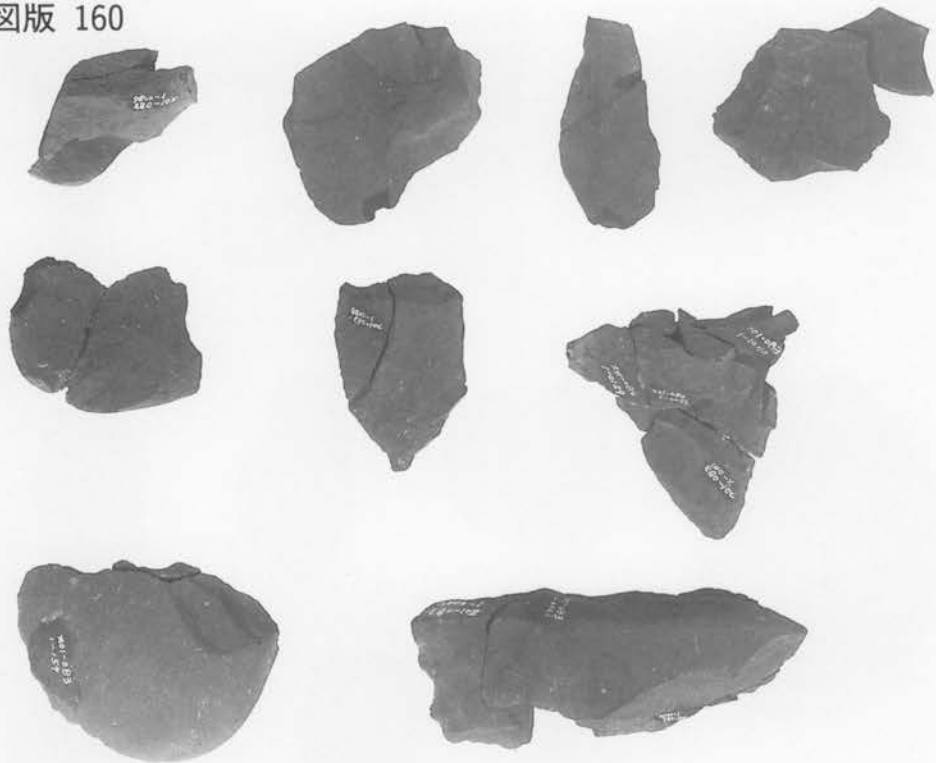




第1群-泥岩(接合)・メノウ・その他石材(表)



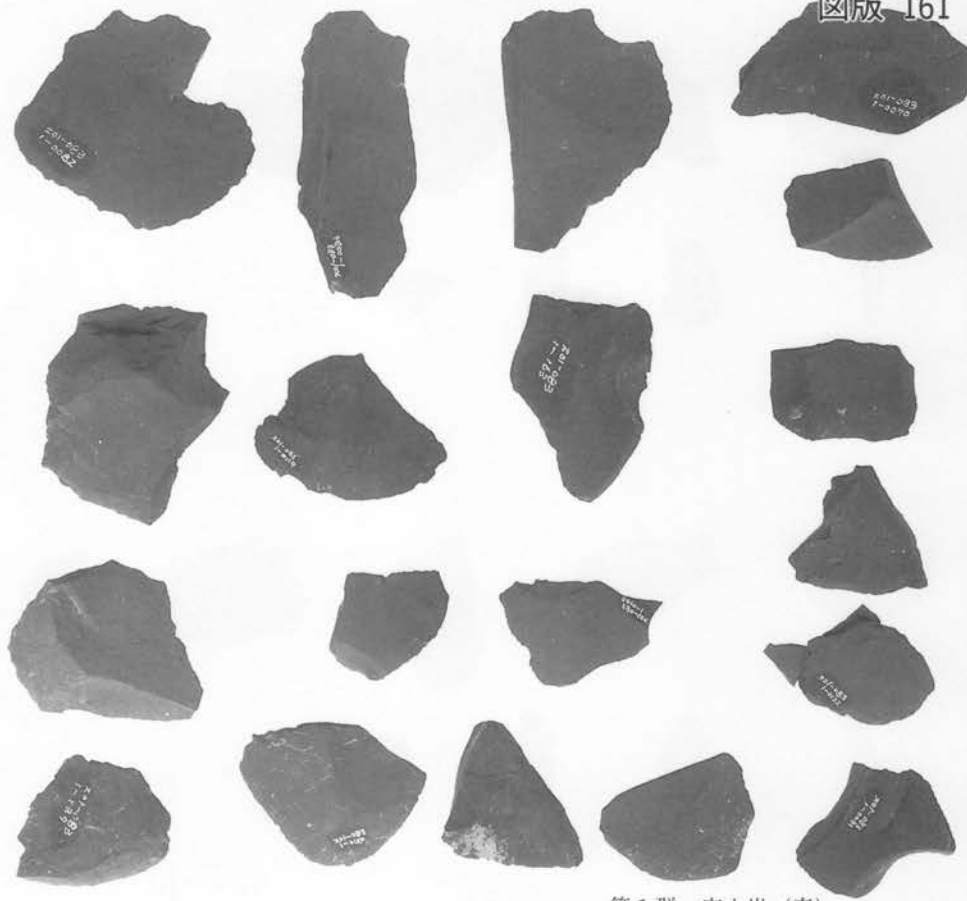
同上(裏)



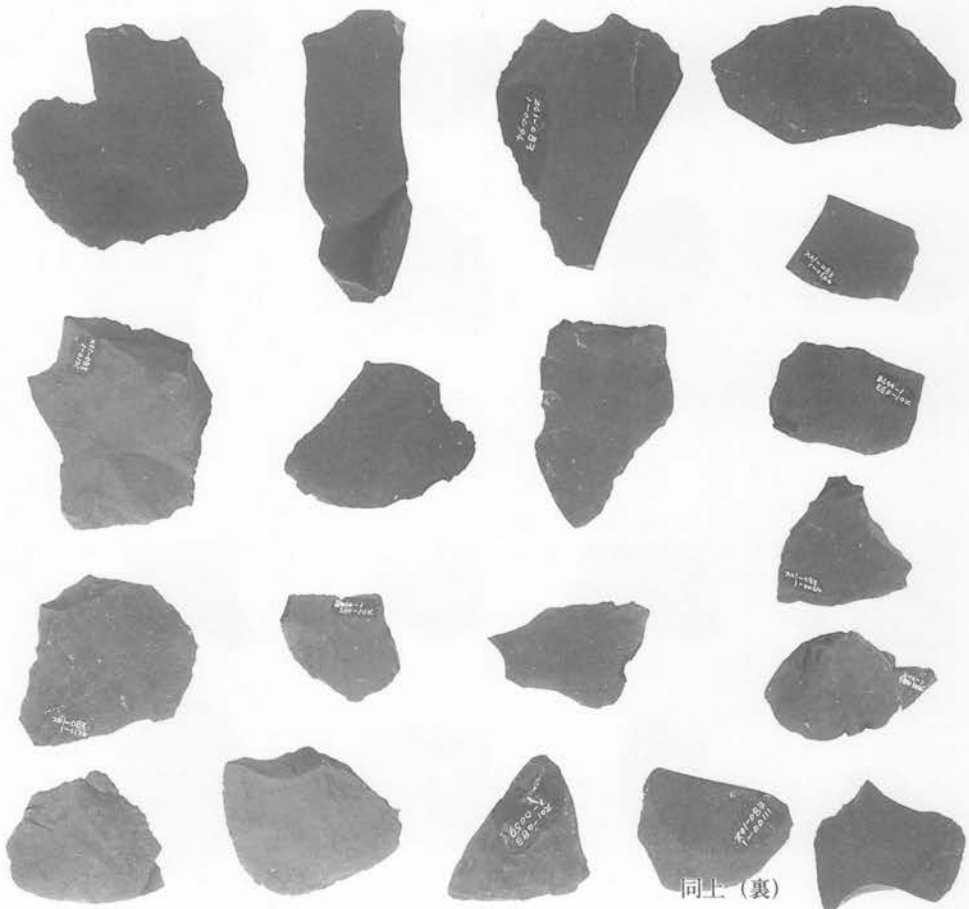
第1群-安山岩(接合)(表)



同上(裏)



第1群-安山岩 (表)



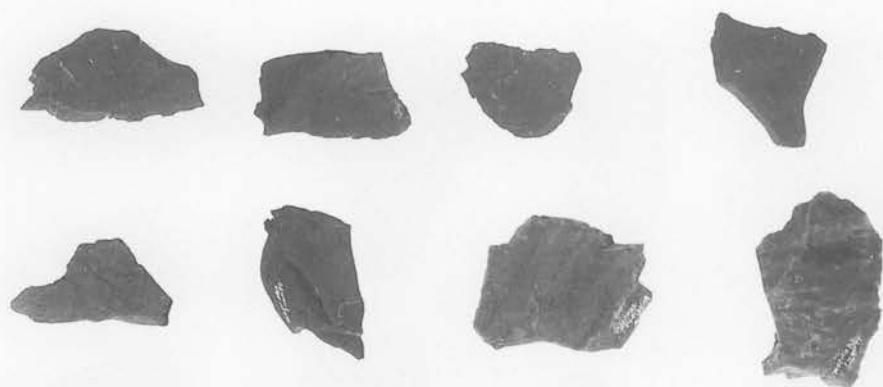
同上 (裏)



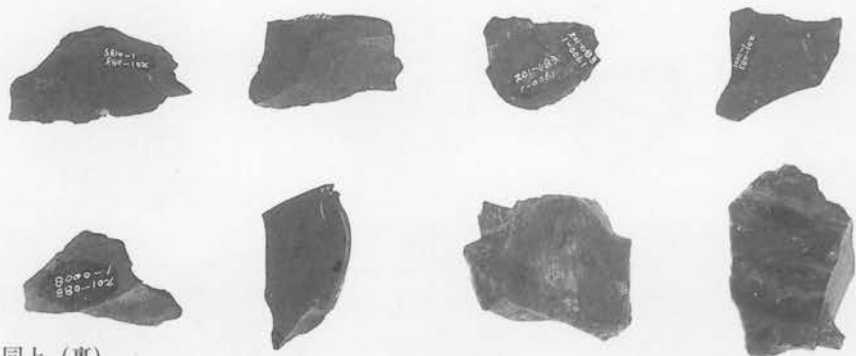
第1群-黒曜石(表)



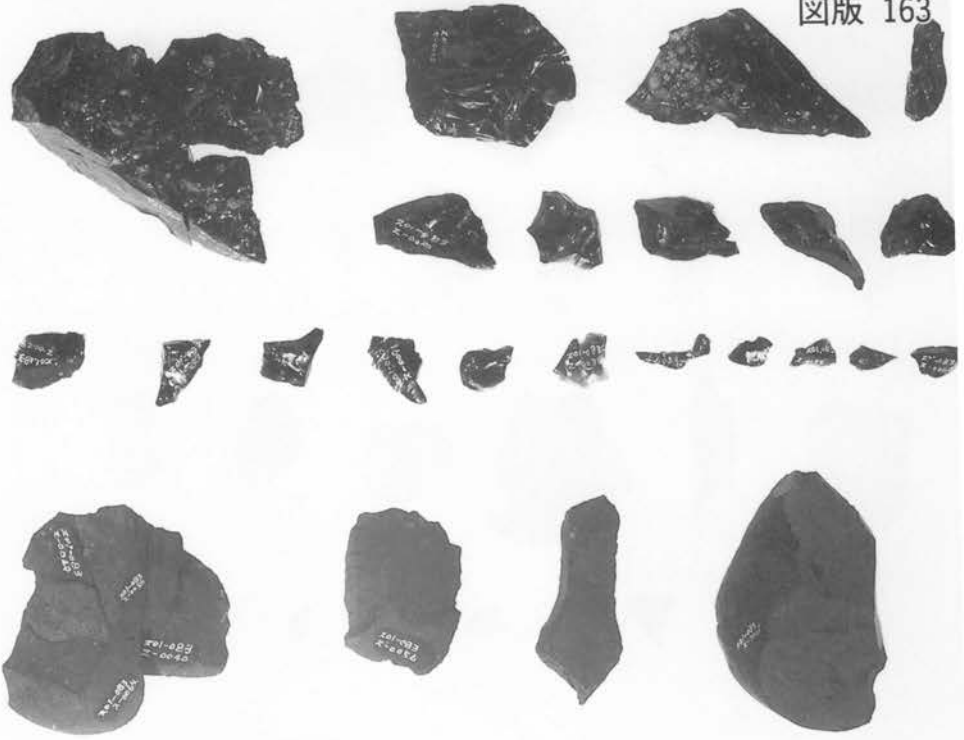
同上(裏)



第1群-安山岩2・珪質頁岩その他(表)



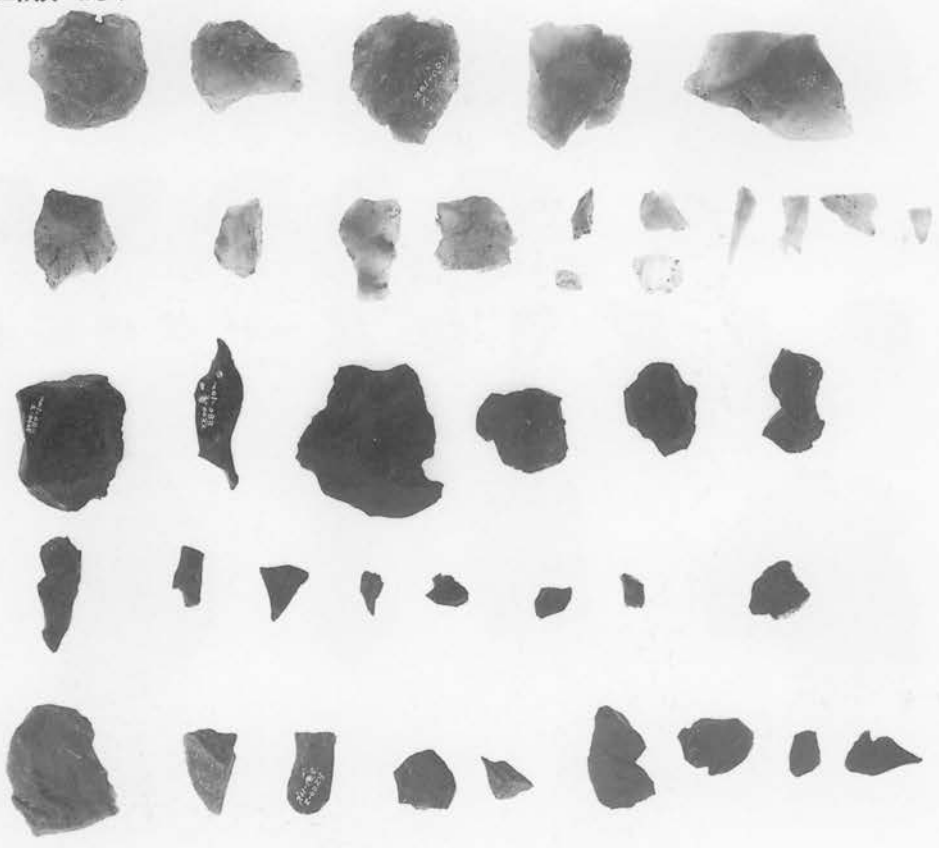
同上(裏)



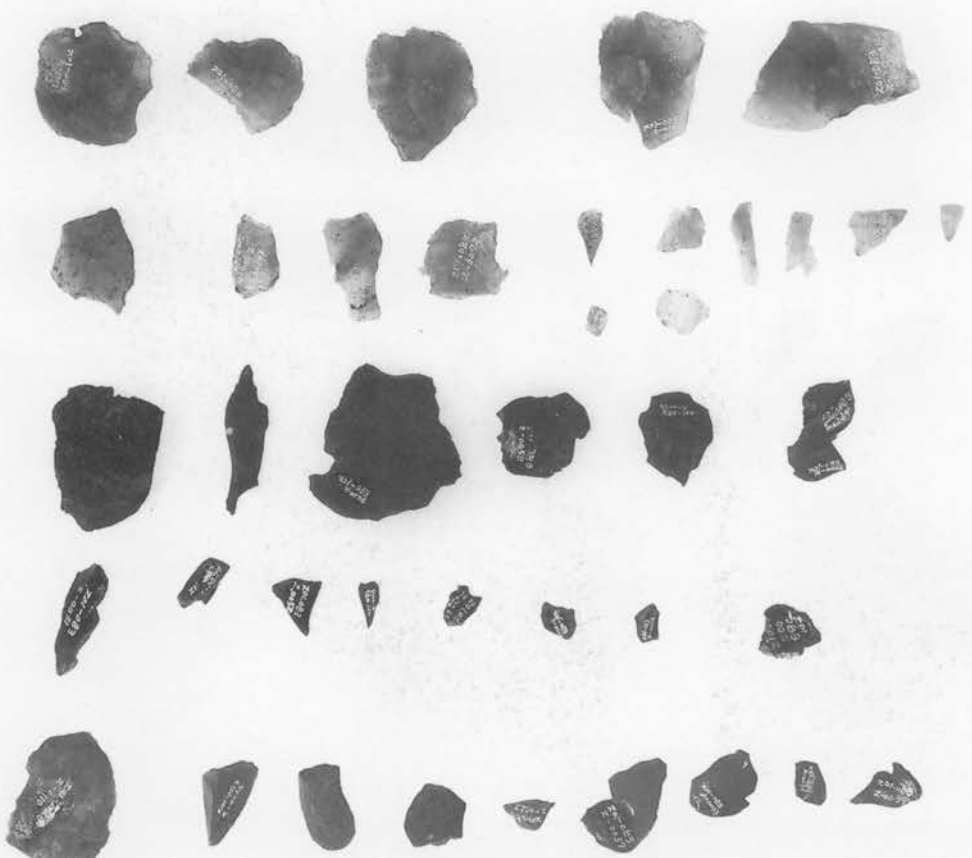
第2群-黒曜石・安山岩・頁岩 (表)



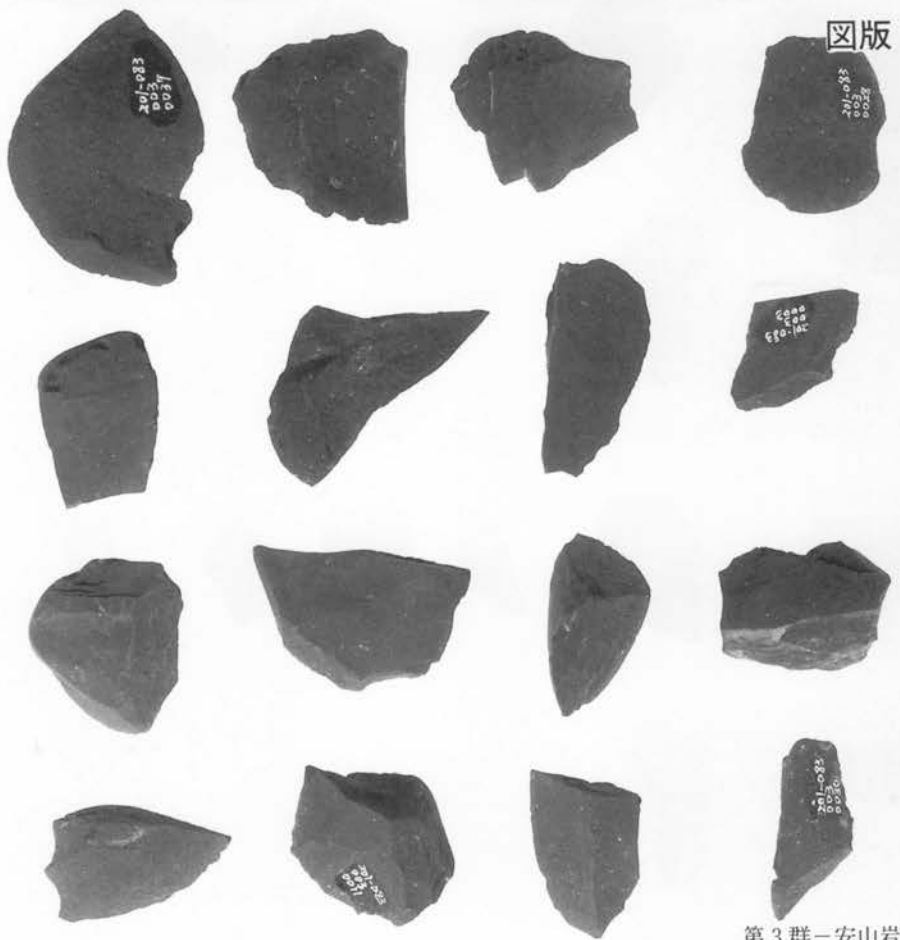
同上 (裏)



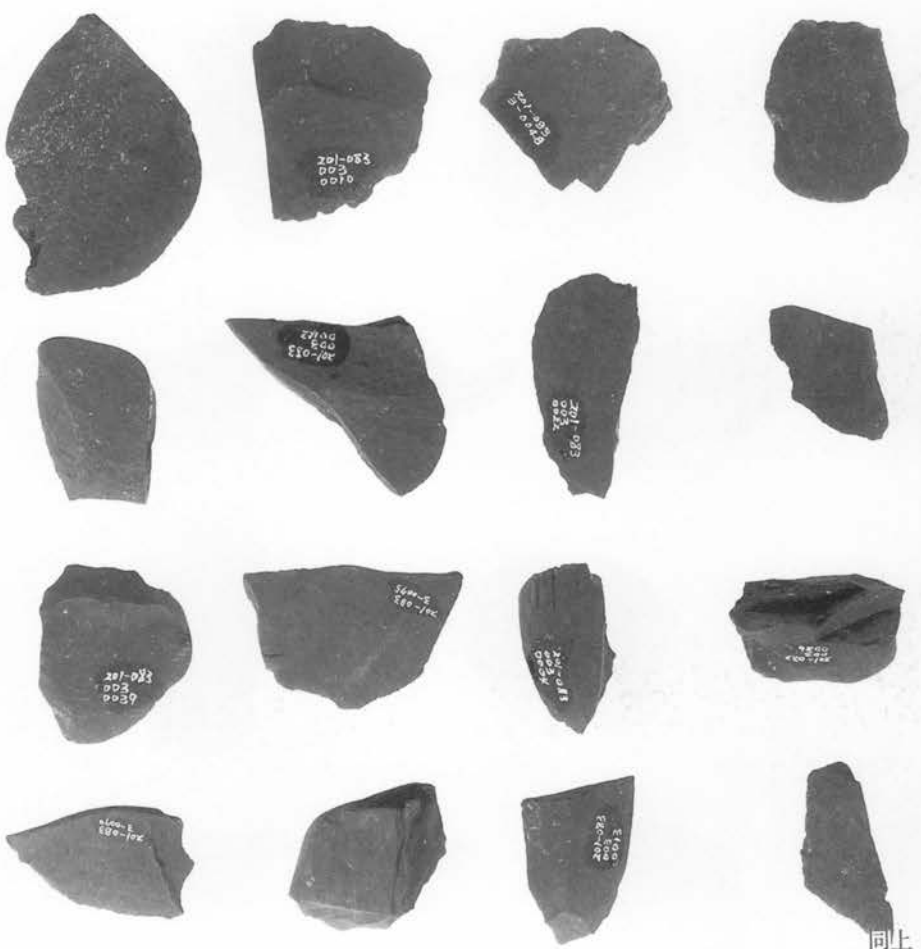
第2群-メノウ・安山岩その他(表)



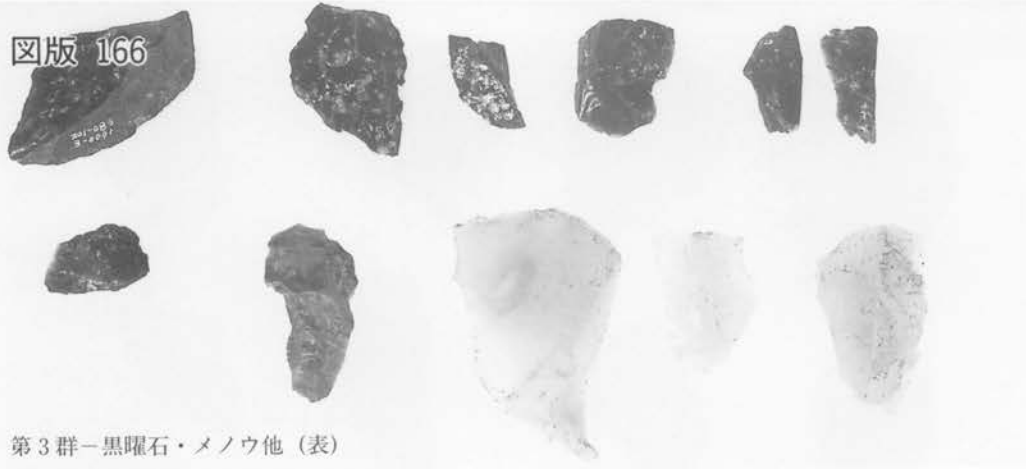
同上(裏)



第3群-安山岩 (表)



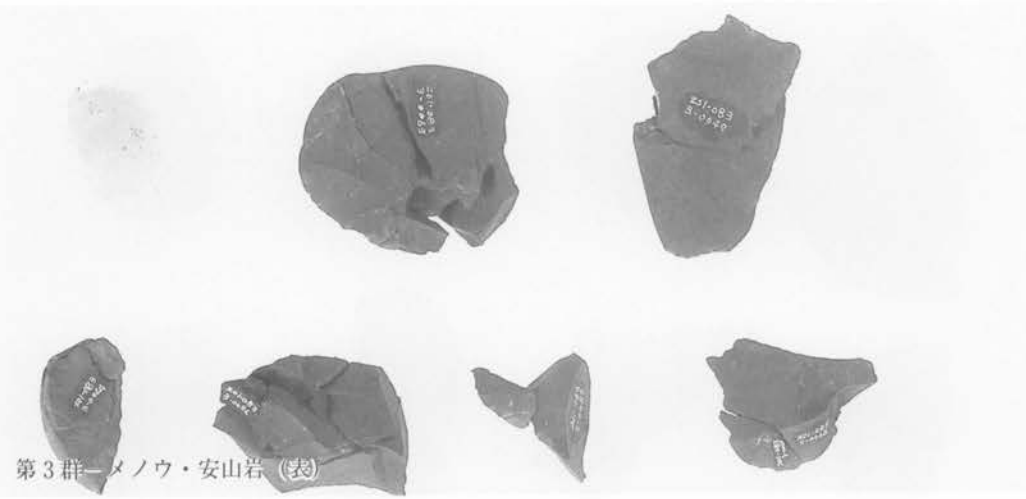
同上 (裏)



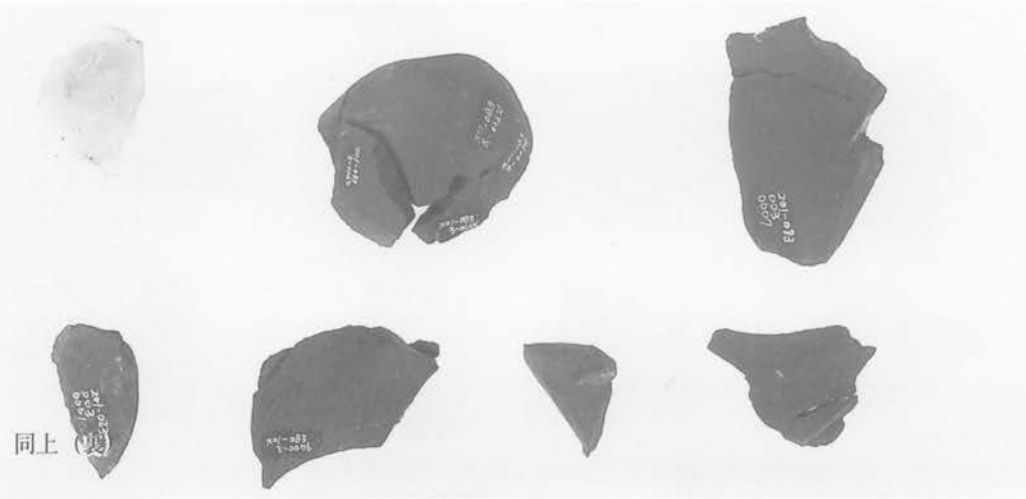
第3群-黒曜石・メノウ他 (表)



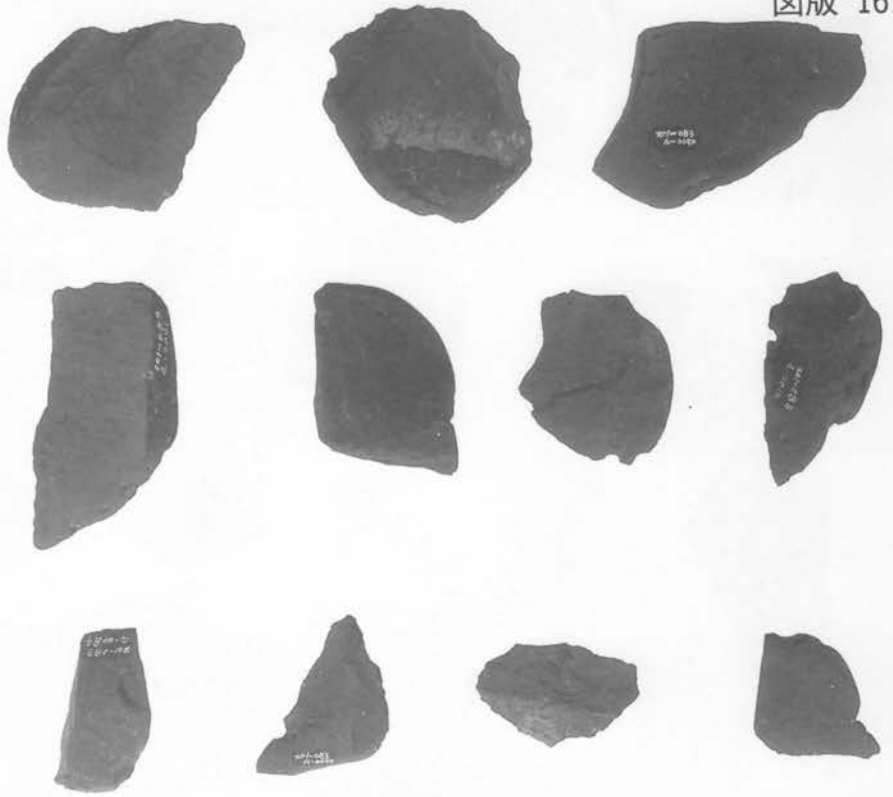
同上 (裏)



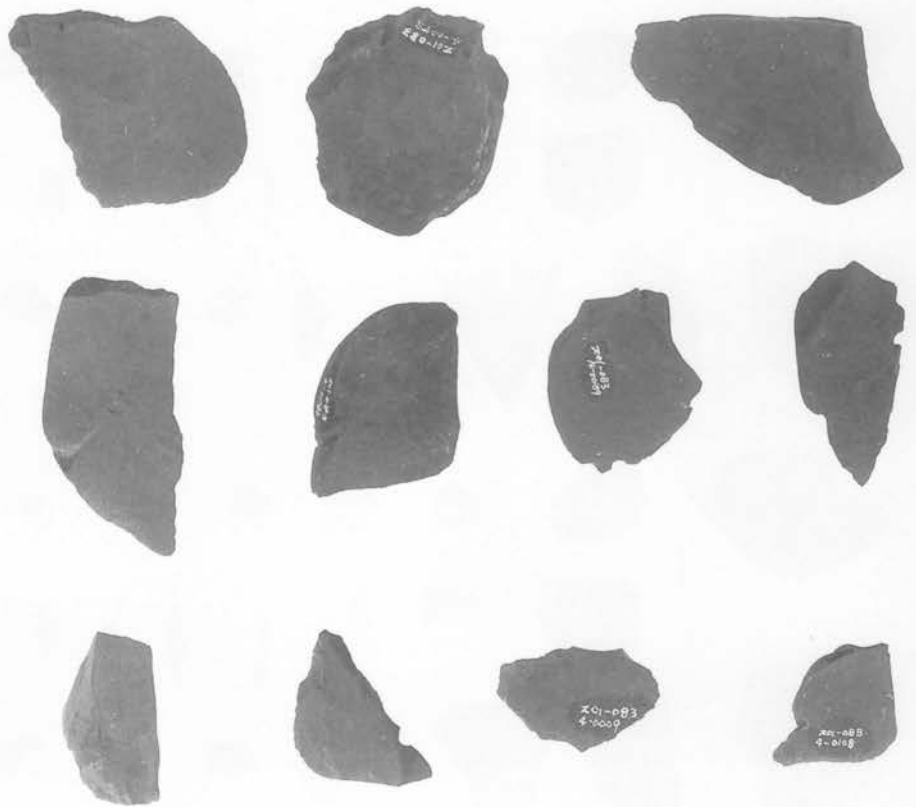
第3群-メノウ・安山岩 (表)



同上 (裏)



第4群-安山岩 (表)



同上 (裏)

第4群-メノウ・珪質頁岩 (表)



同上 (裏)



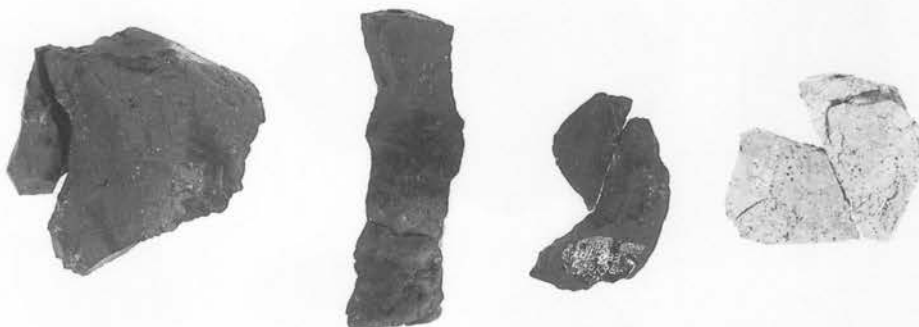
第4群-黒曜石他



同上 (裏)



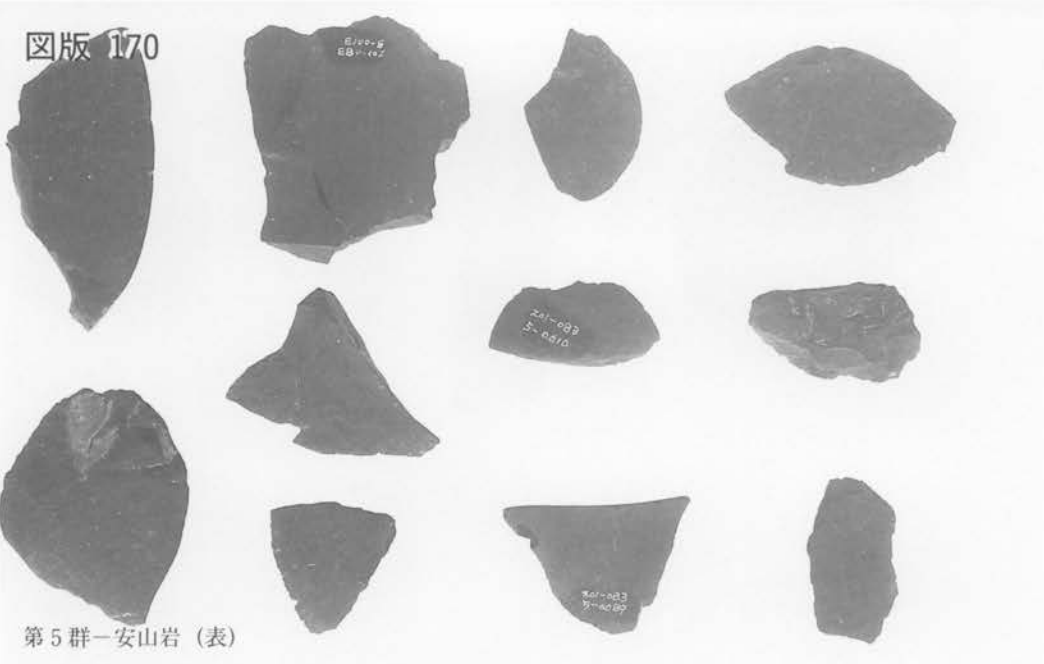
第4群一接合(表)



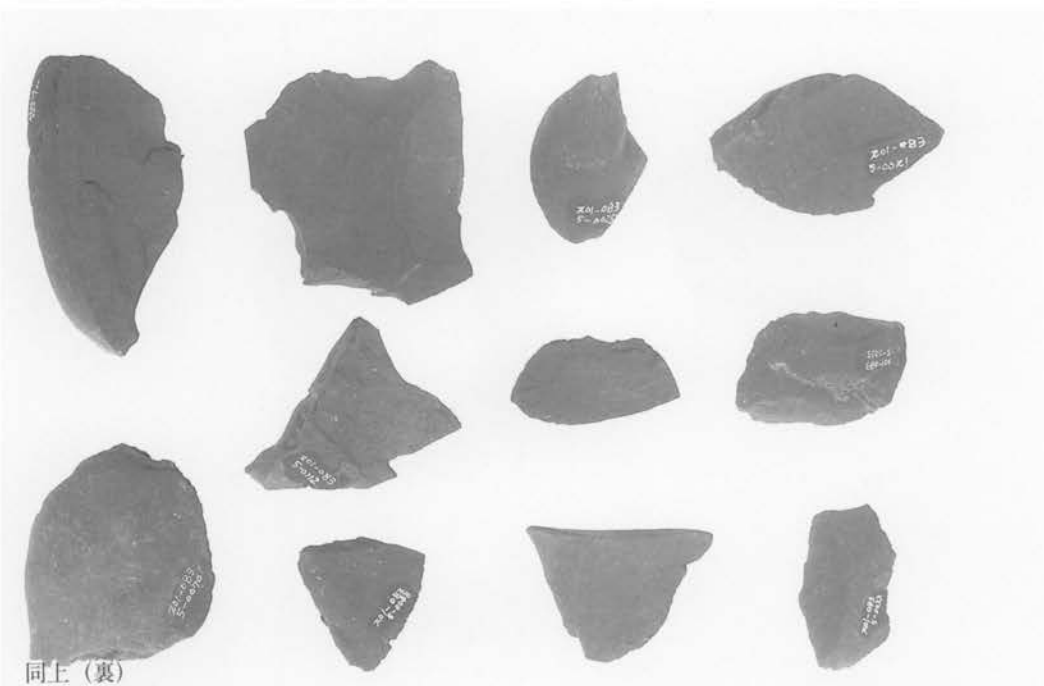
同上(裏)



第4群一安山岩 小剥片・碎片



第5群-安山岩 (表)



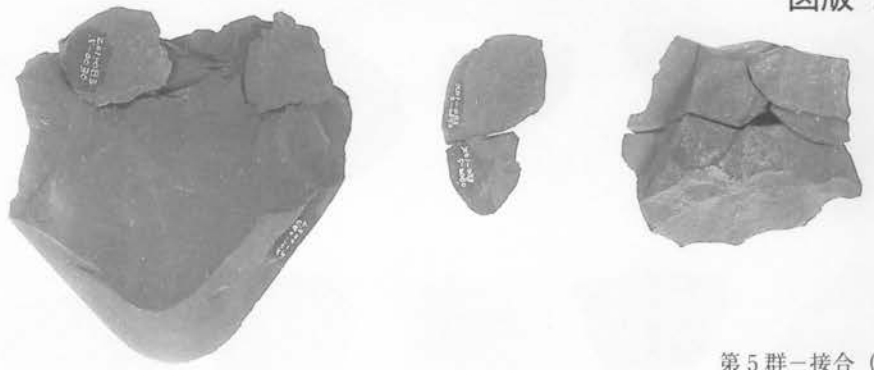
同上 (裏)



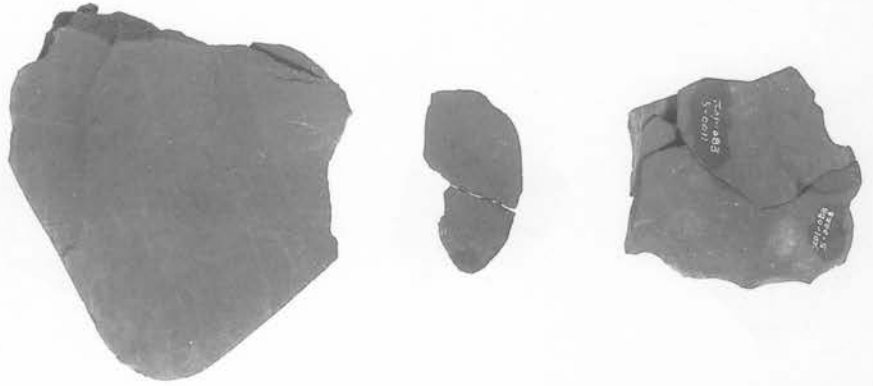
第5群-その他 (表)



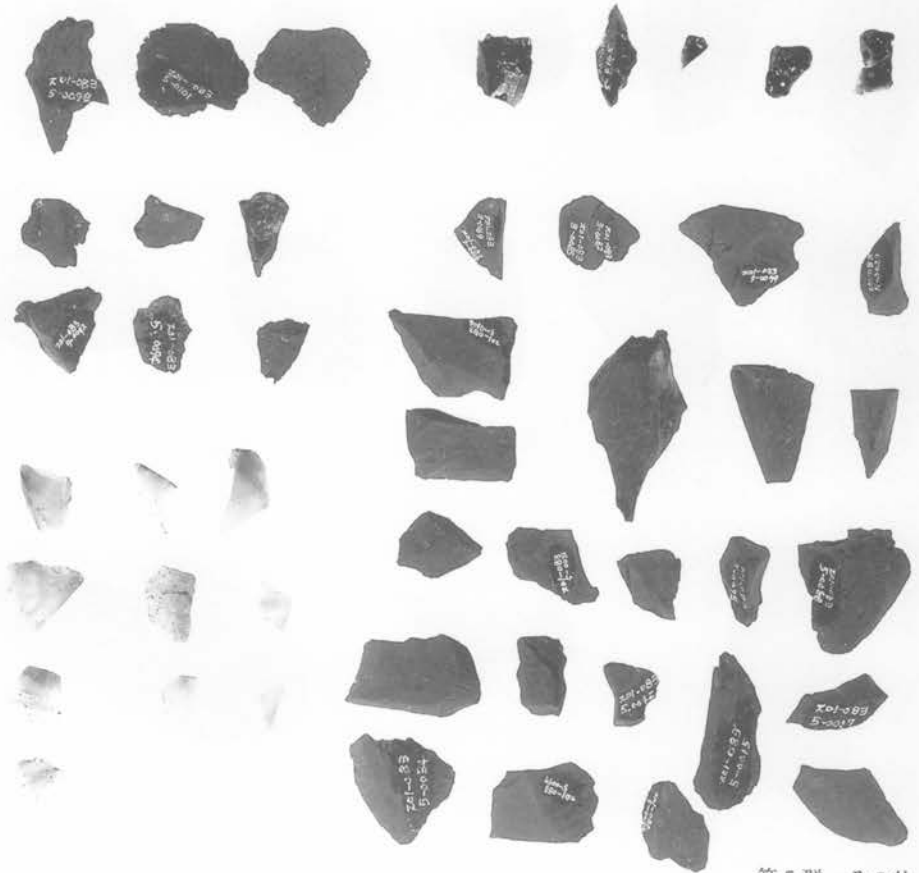
同上 (裏)



第5群-接合(表)



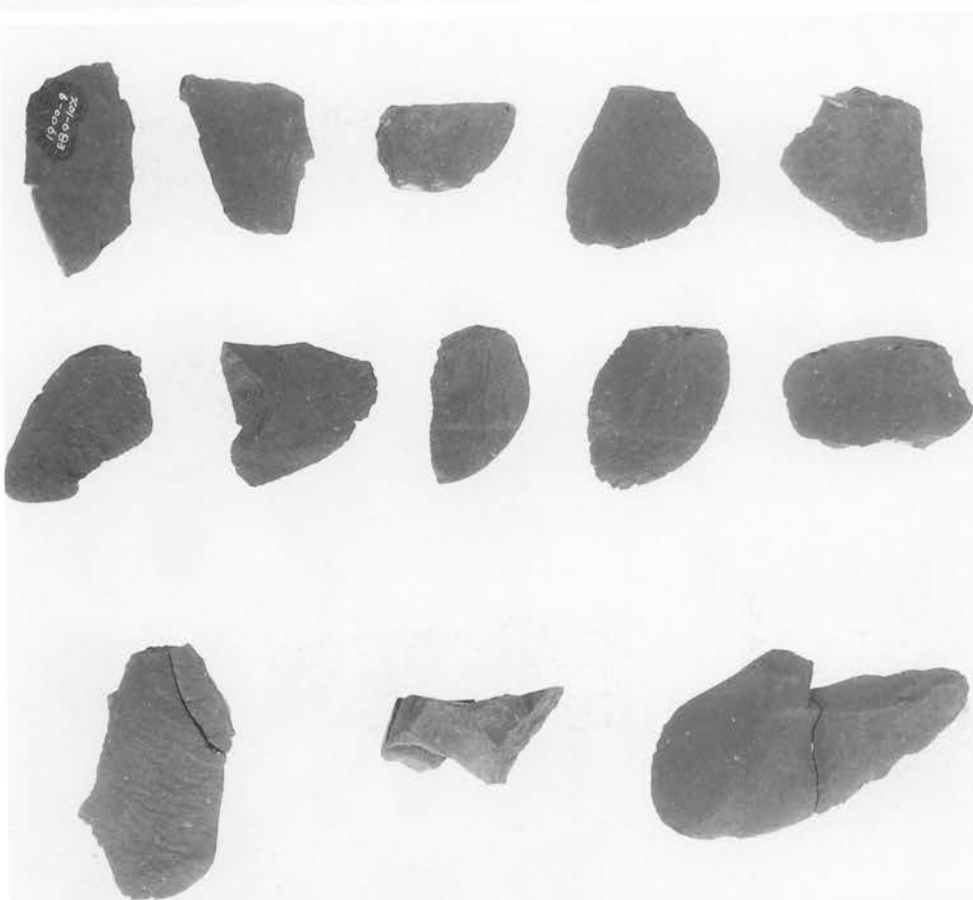
同上(裏)



第5群-その他



第6群-安山岩 接合 (表)



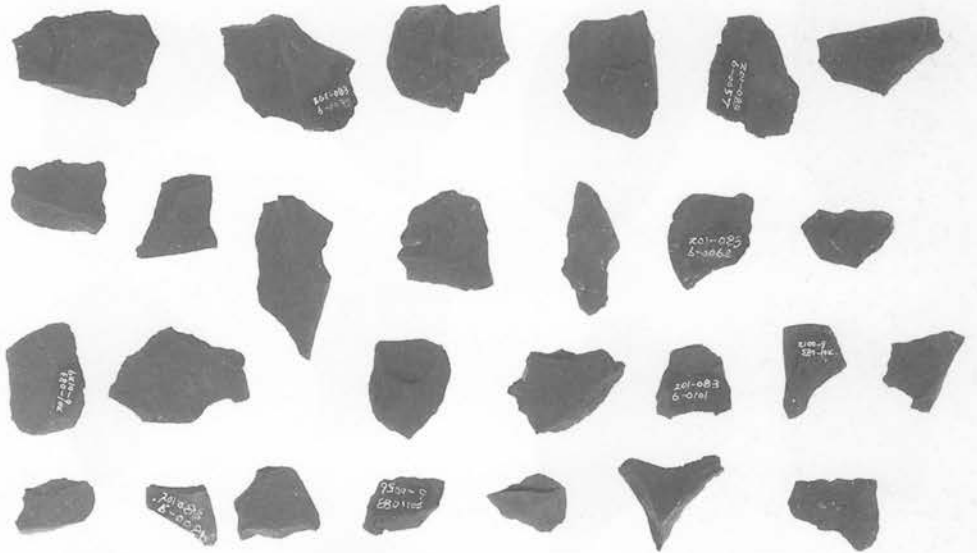
同上 (裏)



第6群-メノウ・黒曜石(表)



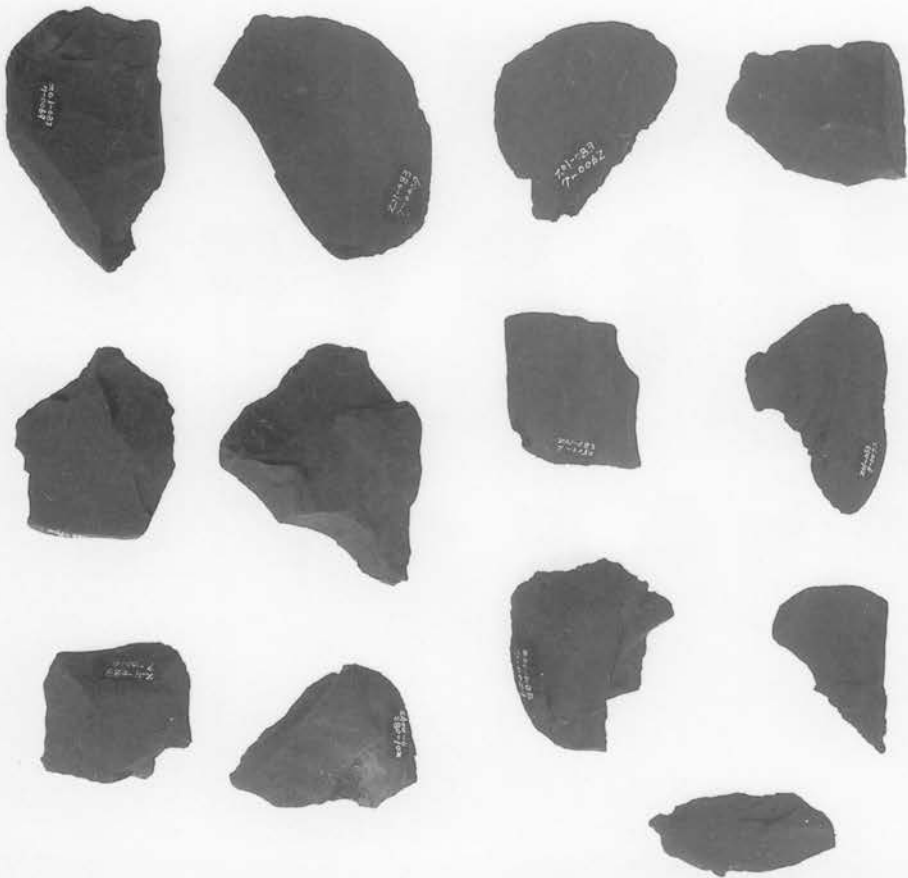
同上(裏)



第6群-安山岩 小剥片・碎片



第7群—安山岩 (表)



同上 (裏)



第7群-メノウ (表)



同上 (裏)



第7群-黒曜石 (表)

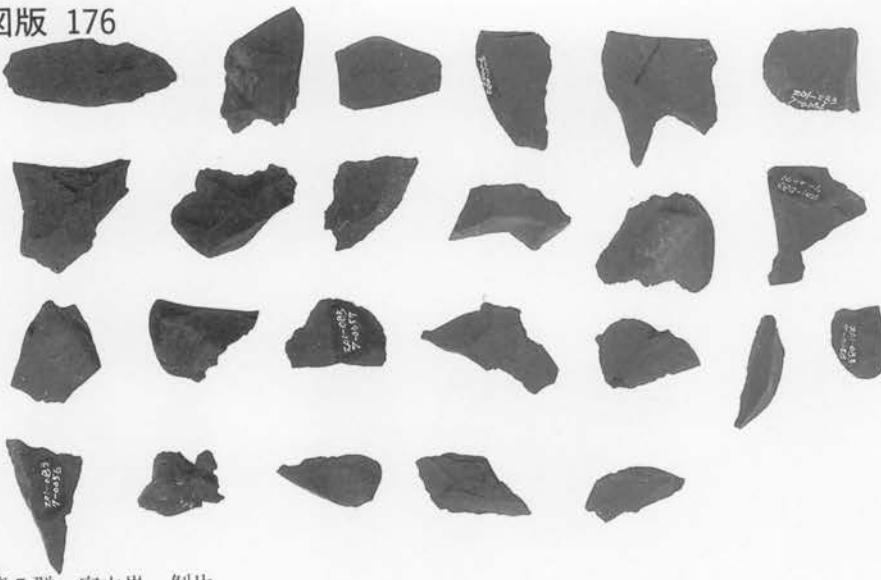


同上 (裏)



第7群-安山岩 (表)

同左 (裏)



第7群-安山岩 剥片



出土石器

大野南遺跡

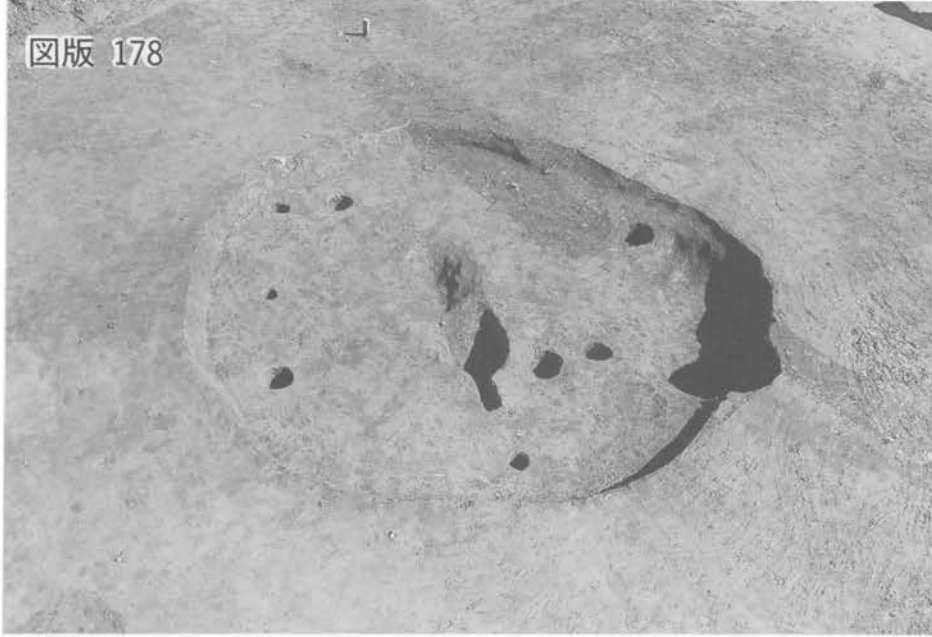


AQ37-73出土状況
土層断面



第1ブロック
遺物出土状況

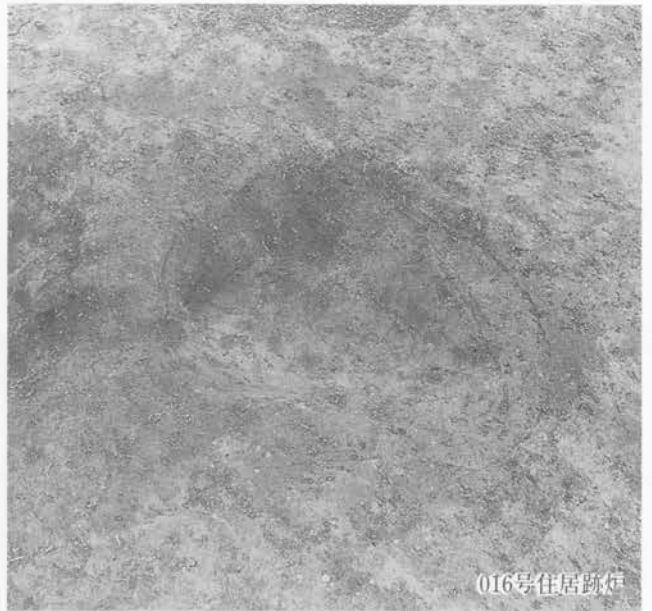
大野南遺跡



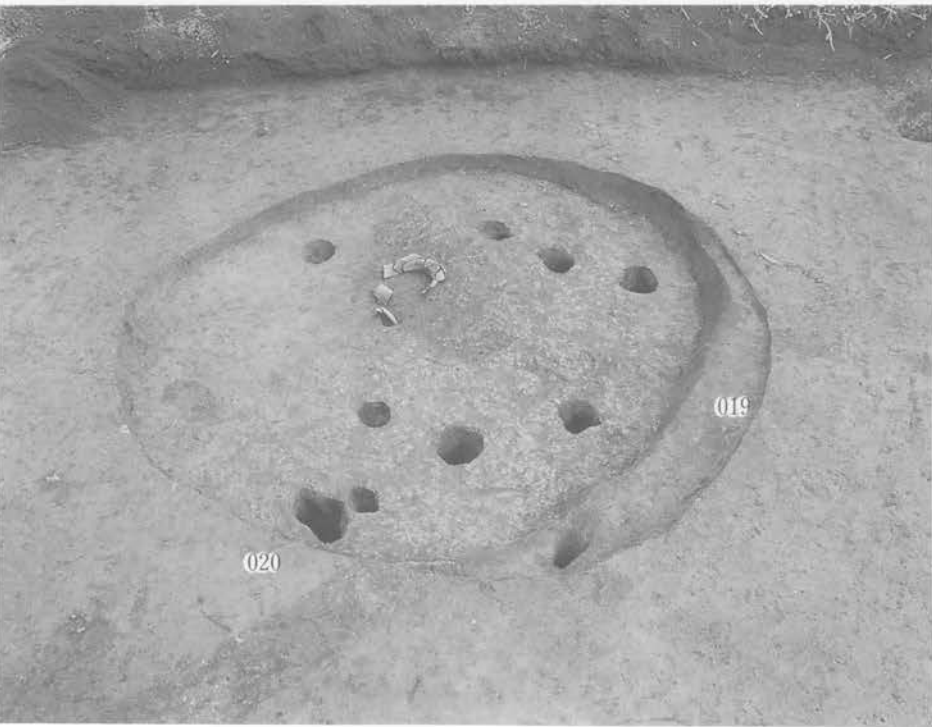
016号住居跡
全掘



019号住居跡土器碎片



016号住居跡土



019・020号住居跡
全掘



001号土坑断面



001号土坑



002号土坑



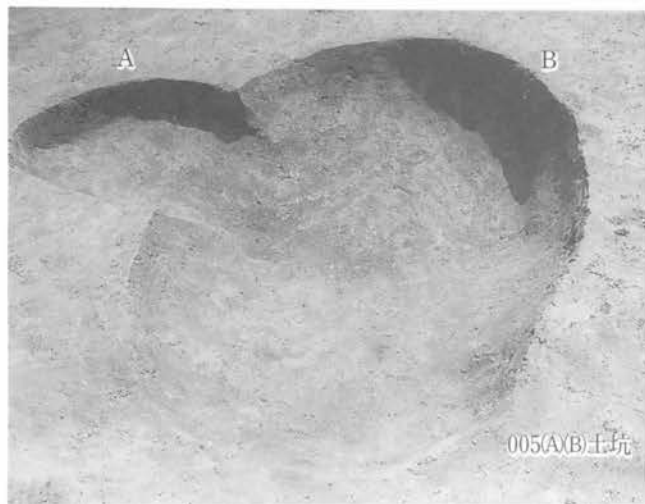
003号土坑



004号土坑断面



004号土坑



005(A/B)土坑



006号土坑



007号土坑



008号土坑



009号土坑



010号土坑



012号土坑



011号土坑



013号土坑



014号土坑



015号土坑



017号土坑



018号土坑断面



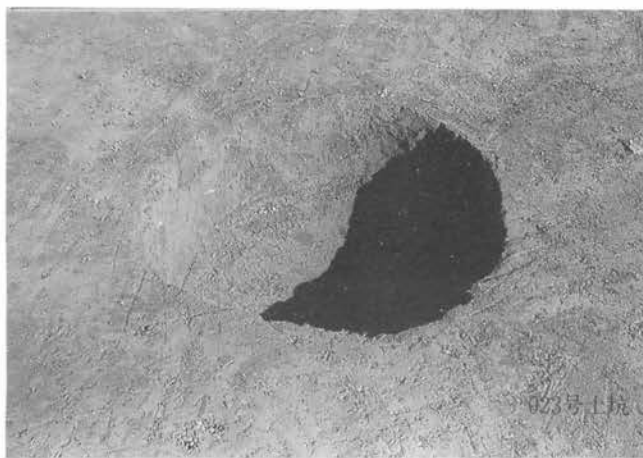
018号土坑



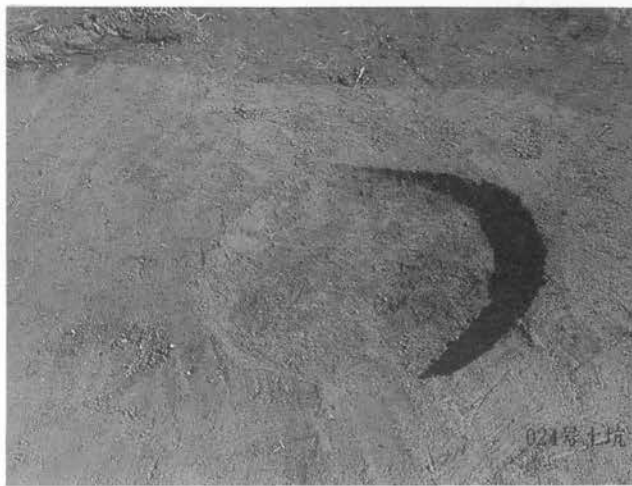
021号土坑



022号土坑



023号土坑



024号土坑



025号土坑



027号土坑



026号土坑断面



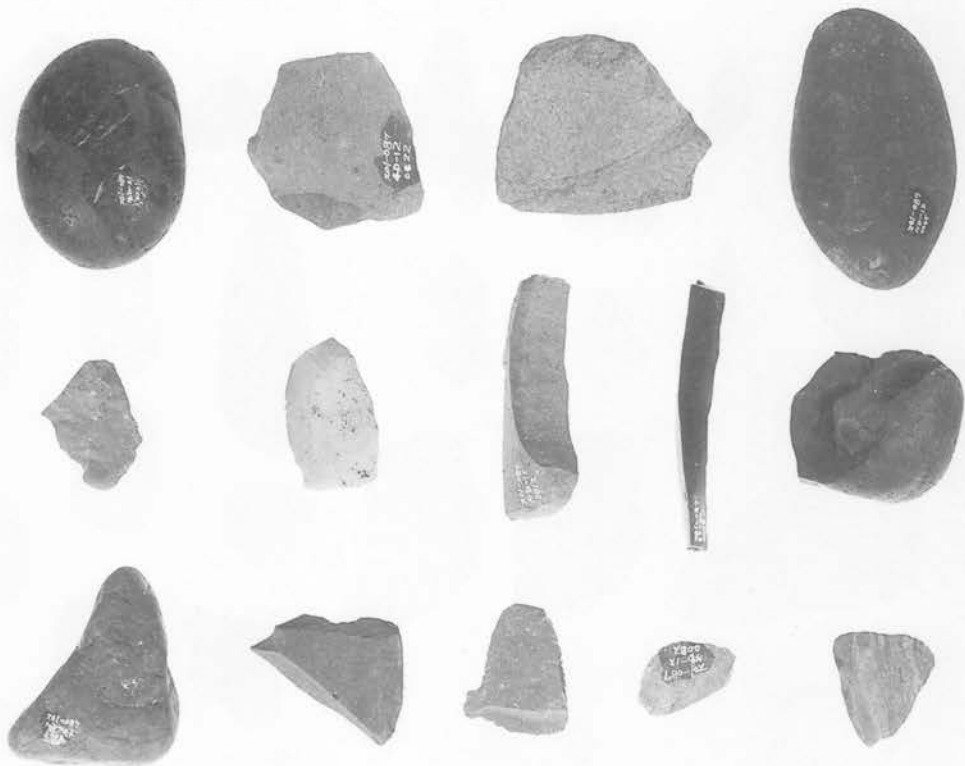
026号土坑



028号土坑



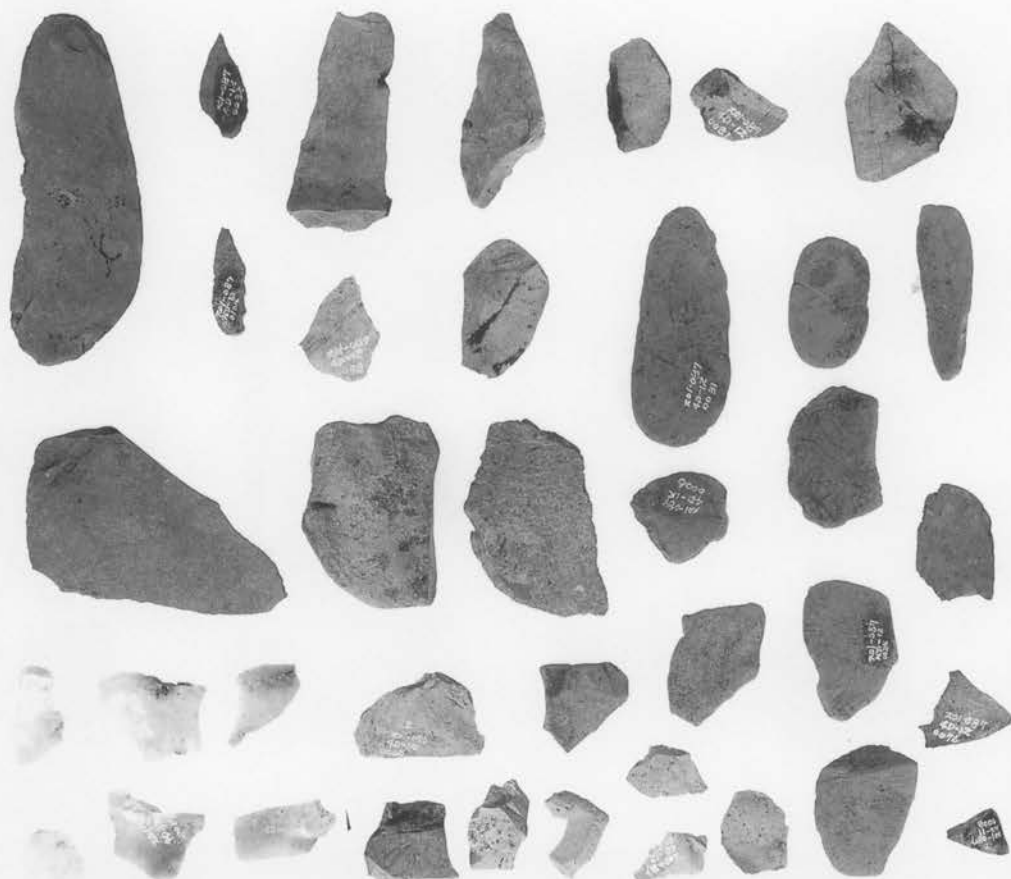
第1ブロック出土石器(1) (表)



同上 (裏)



第1ブロック出土石器(2) (表)



同上(裏)



第1ブロック出土礫



AQ37-73区出土石器



019号住居跡

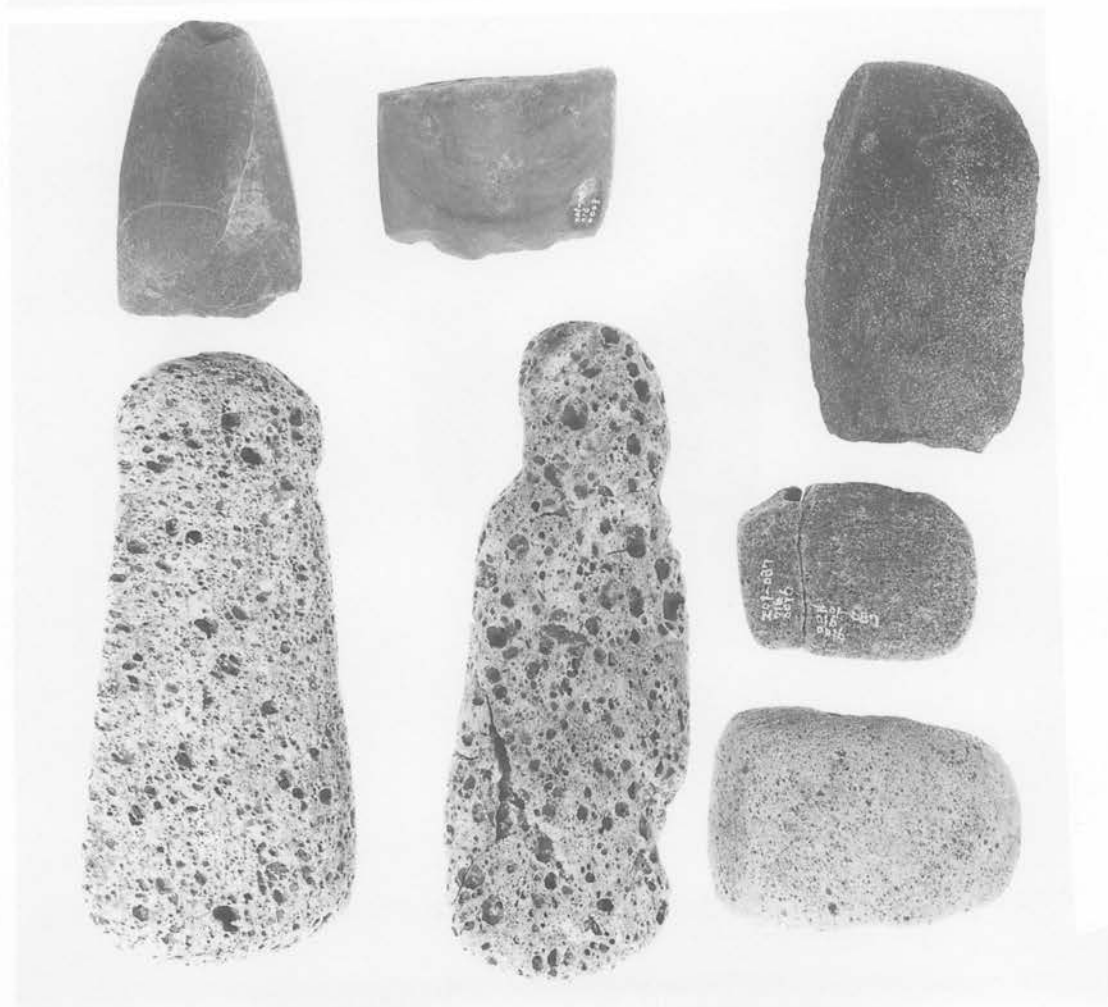


016号住居跡



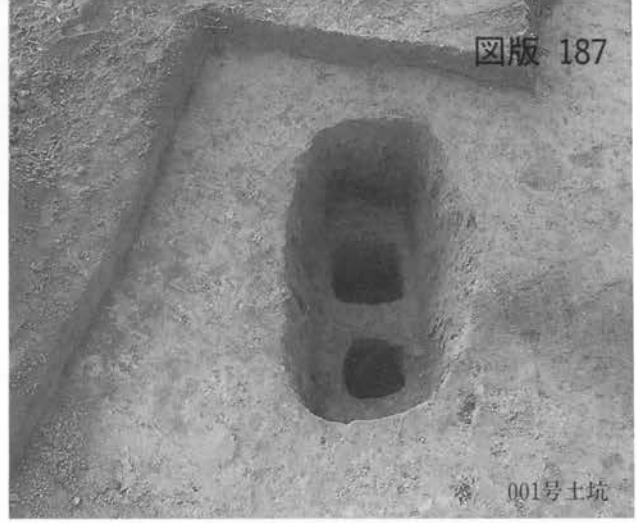
016号住居跡

出土石器及び軽石製品（下）

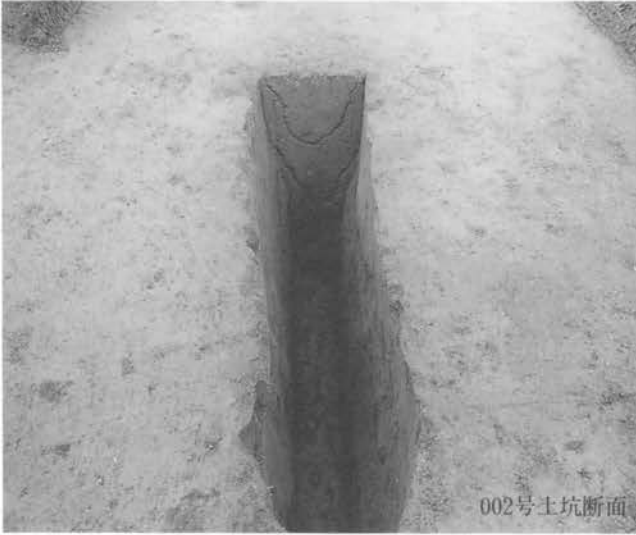




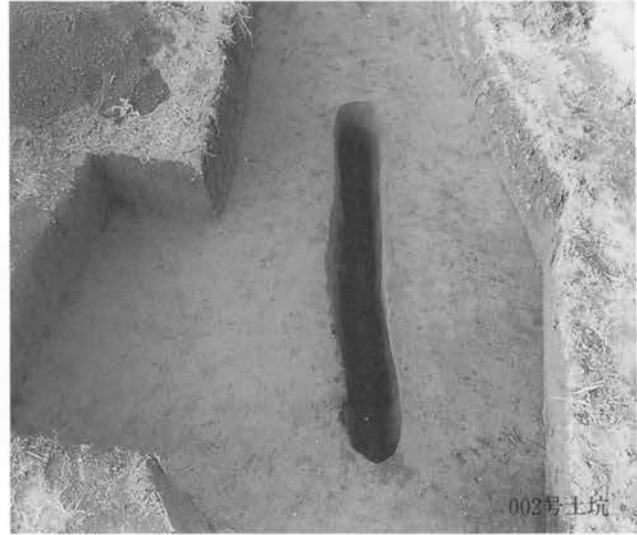
001号土坑断面



001号土坑



002号土坑断面



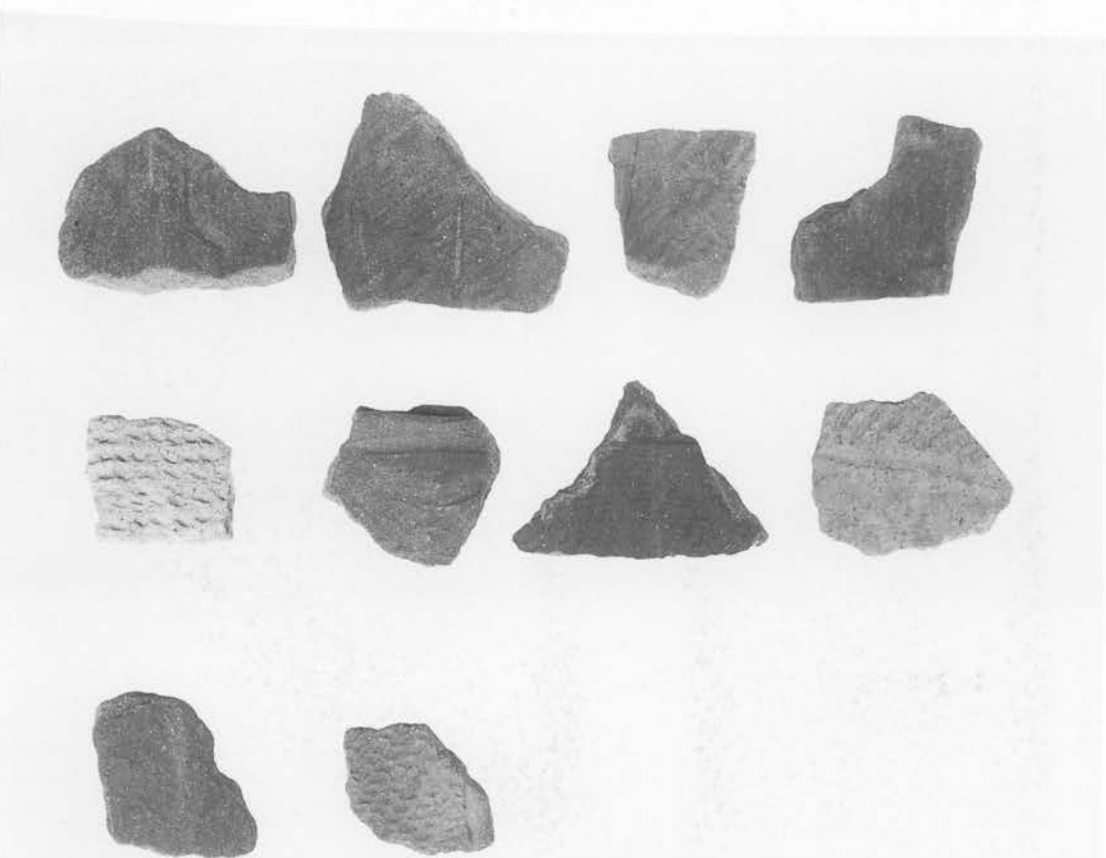
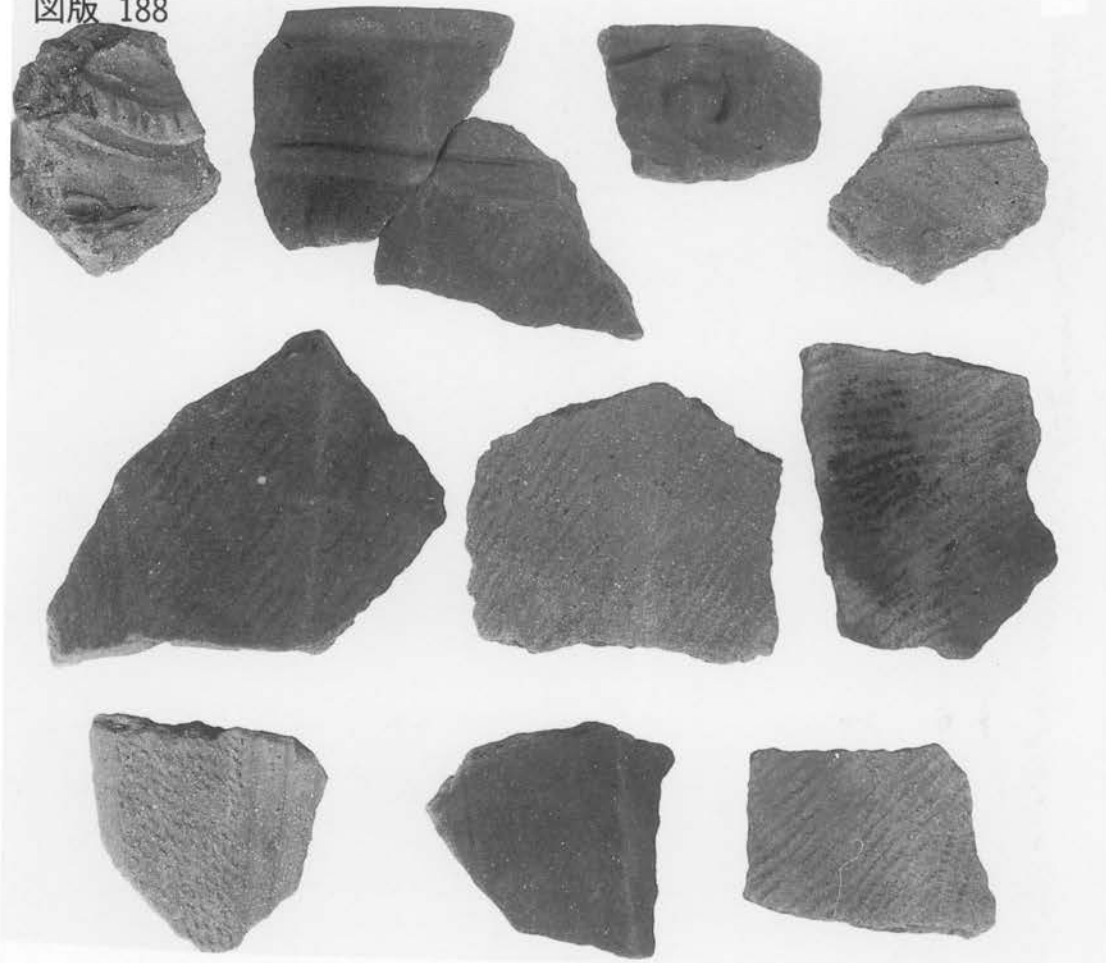
002号土坑



003号土坑断面



003号土坑





第1ブロック
遺物出土状況



第2ブロック
遺物出土状況



第3ブロック
(単独出土)
遺物出土状況



第1ブロック出土石器 (表)



同上 (裏)



第2ブロック出土礫



第2・3ブロック出土石器(表)





東大野第3遺跡

002号住居跡
断面



同上全掘



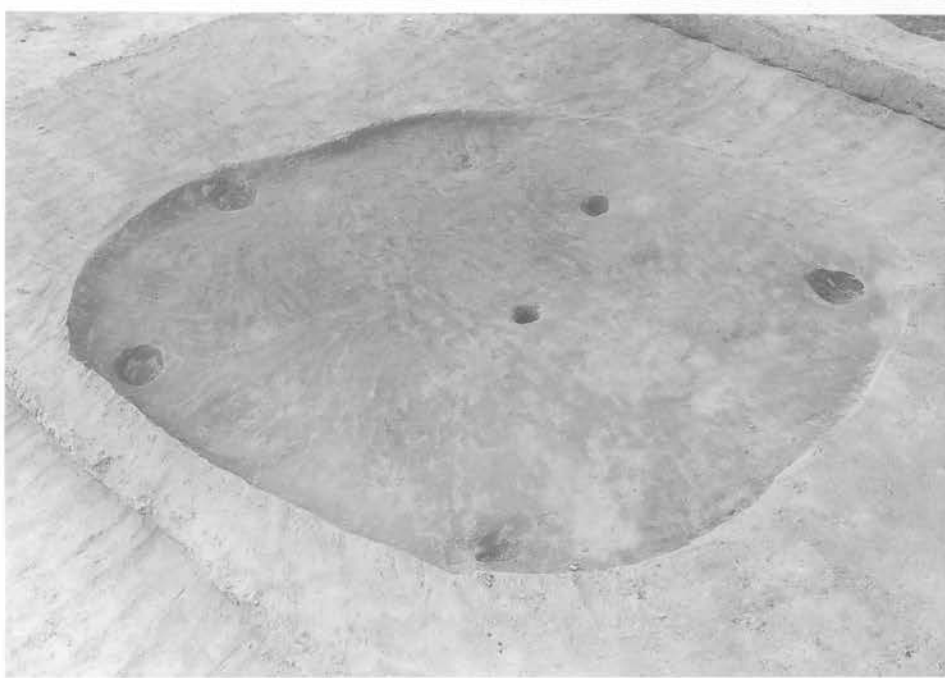
003号住居跡
遺物出土状況



003号住居跡
全掘



010号住居跡
遺物出土状況



同上全掘



011号住居跡
断面



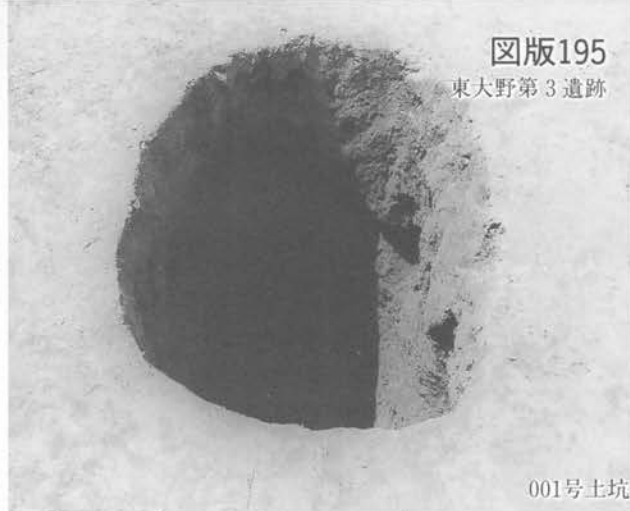
同上
遺物出土状況



同上全掘



001号土坑断面



001号土坑



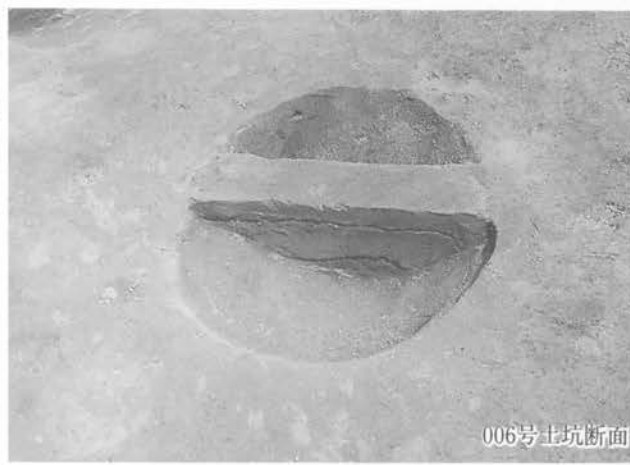
004号土坑



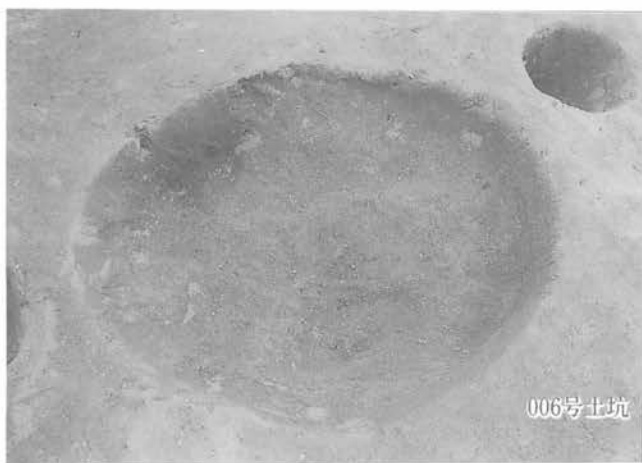
005号土坑断面



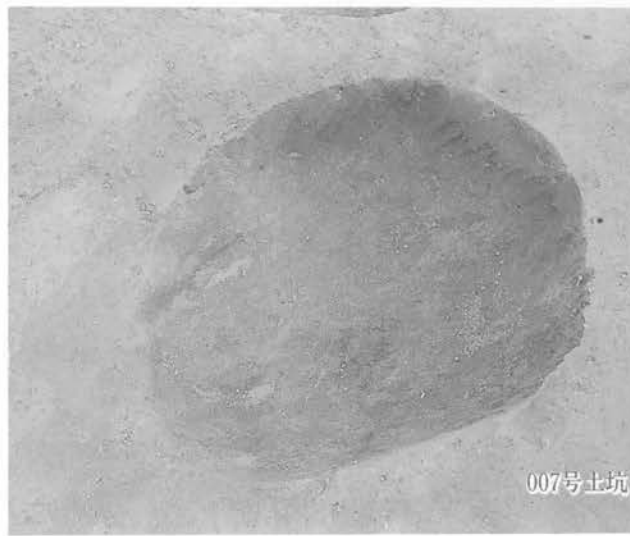
005号土坑



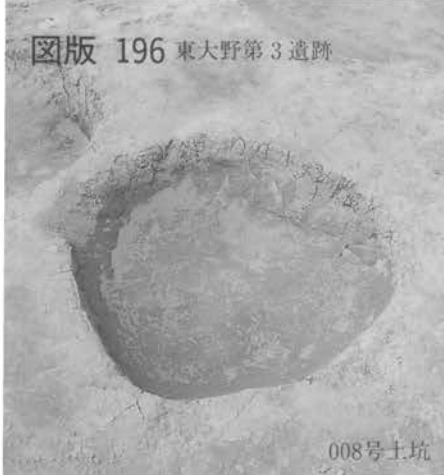
006号土坑断面



006号土坑



007号土坑



008号土坑



009号土坑断面



009号土坑



012号土坑



石臼出土状況



同左



磨石斧出土状況



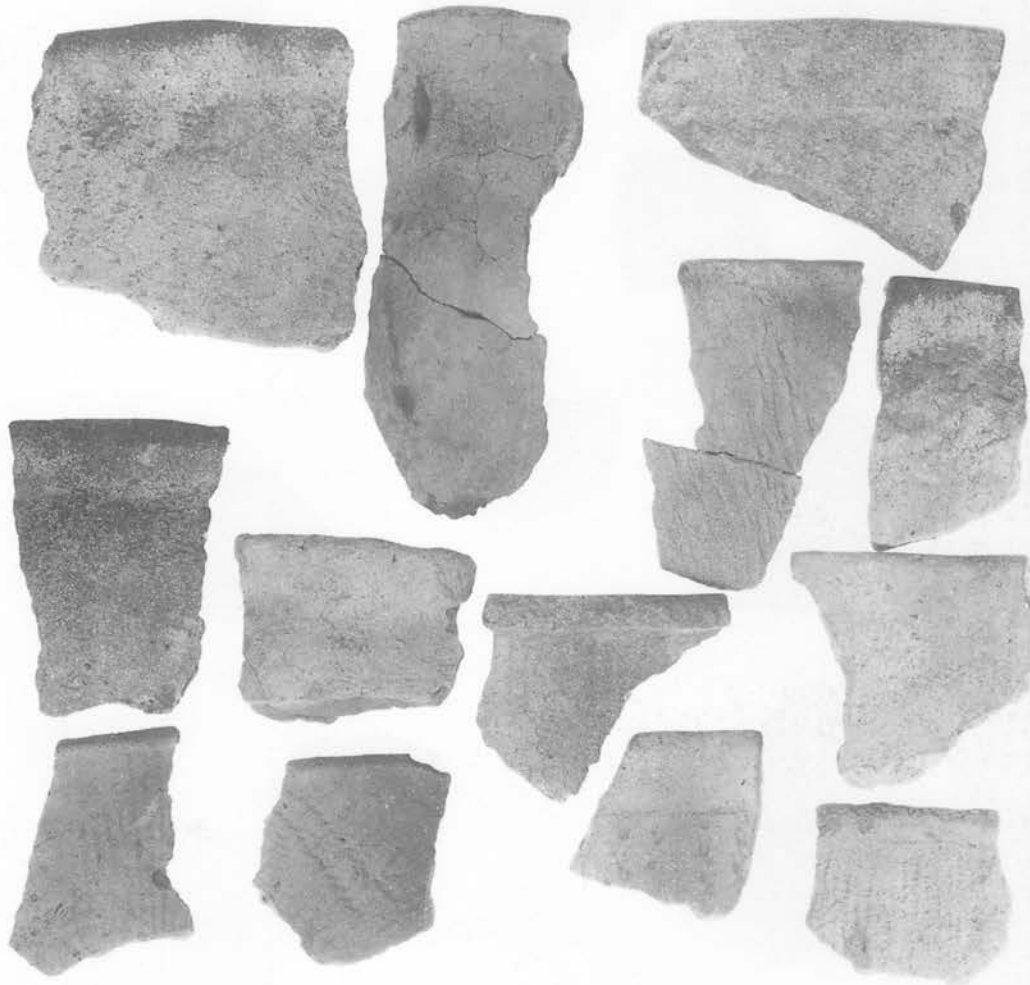
垂飾品出土状況

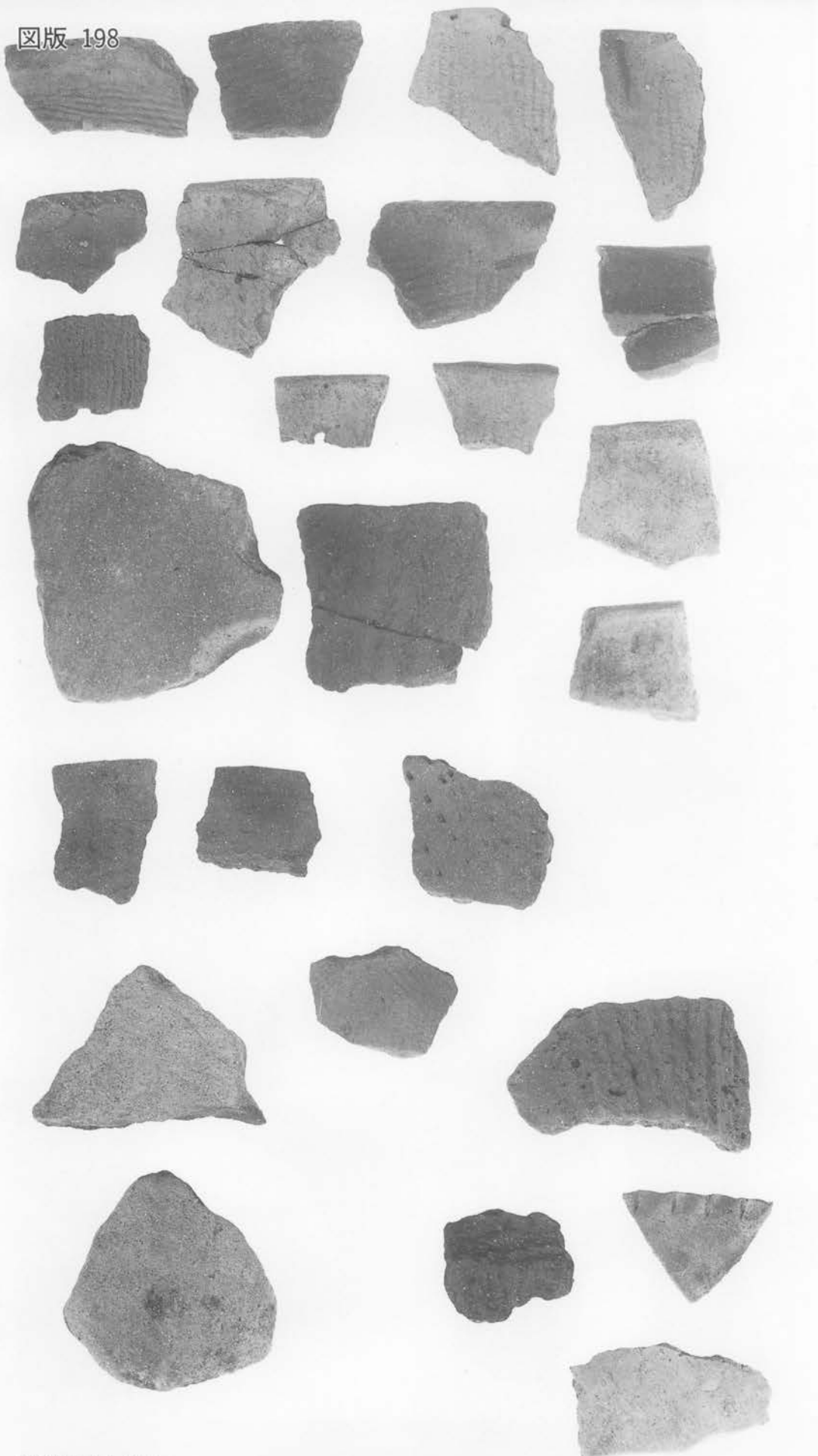


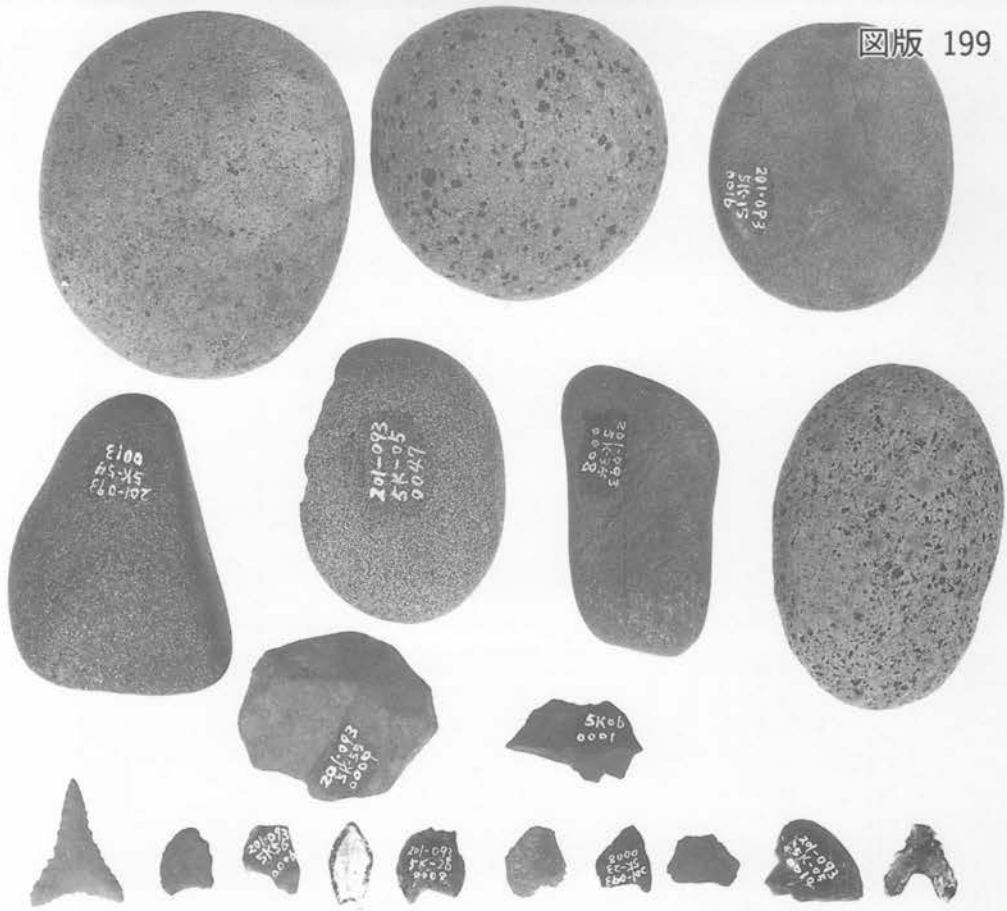
管玉出土状況



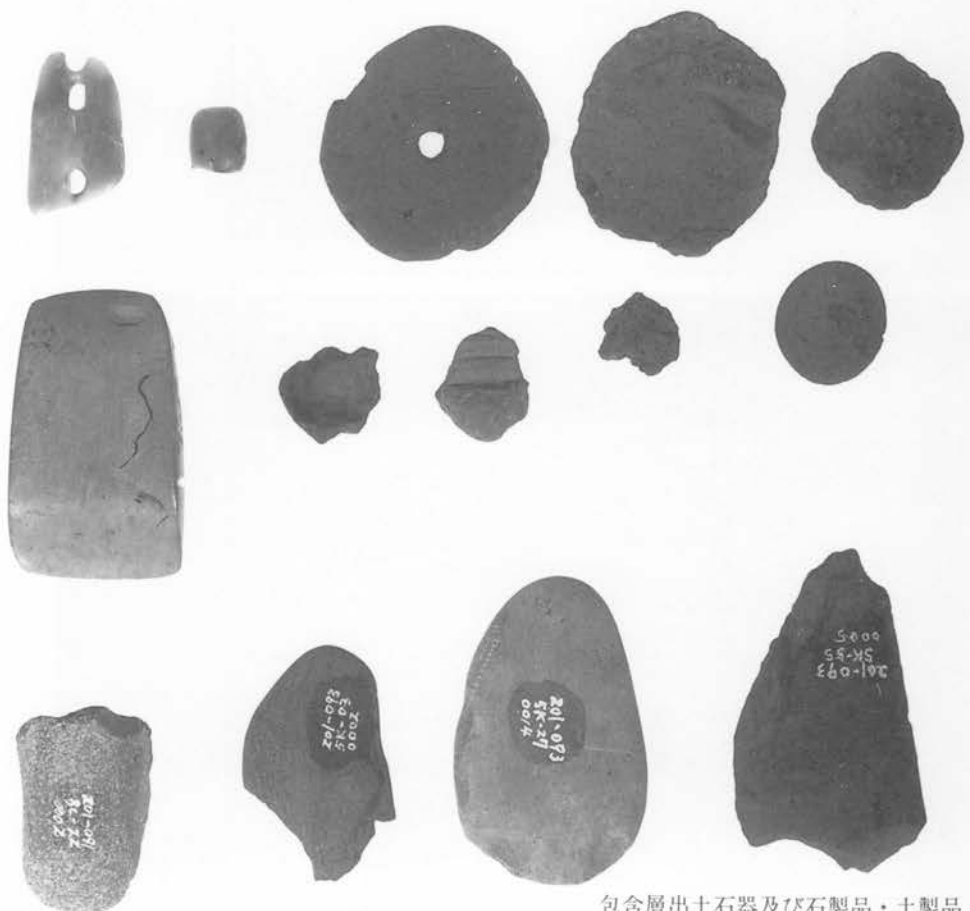
(右) 包含層
遺物出土状況
(下) 包含層出土土器







包含層出土石器



包含層出土石器及び石製品・土製品



001号住居跡
遺物出土状況



同上全掘



包含層（南側）
遺物出土状況

010号住居跡
遺物出土状況



同上全掘



包含層（西側）
遺物出土状況





002号土坑



003号土坑



004号土坑



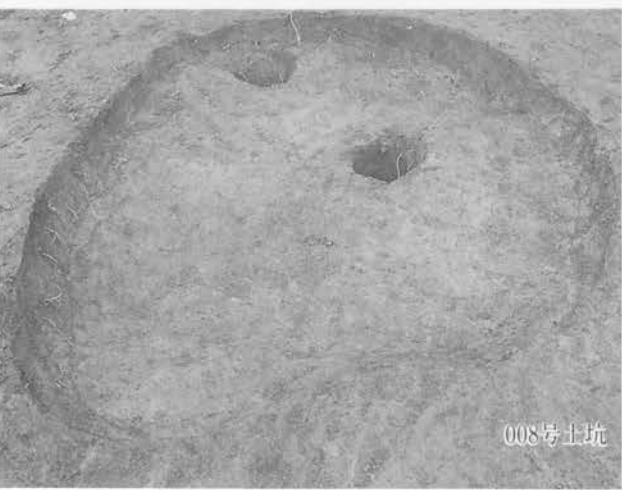
005号土坑



006号土坑



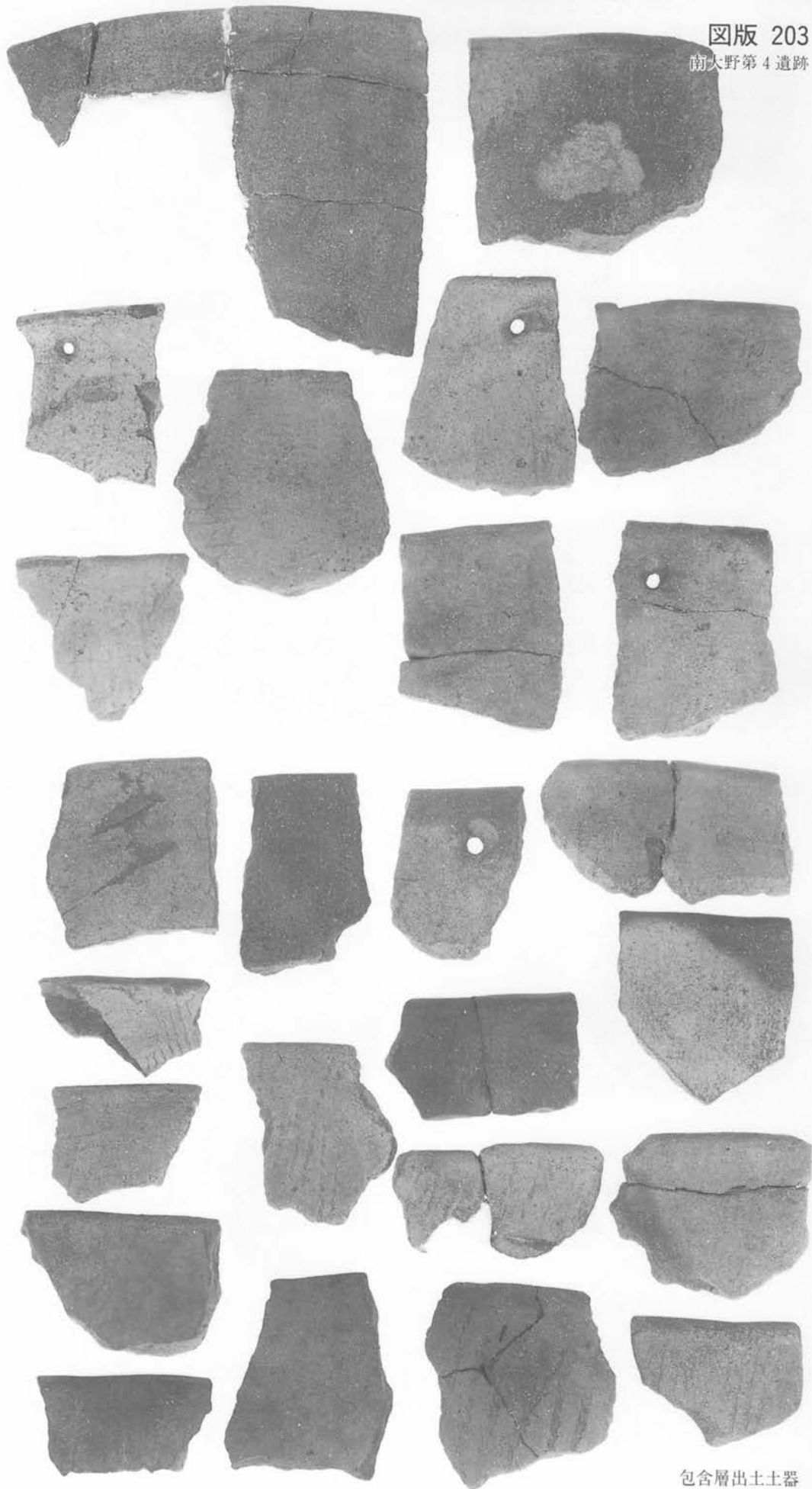
007号土坑

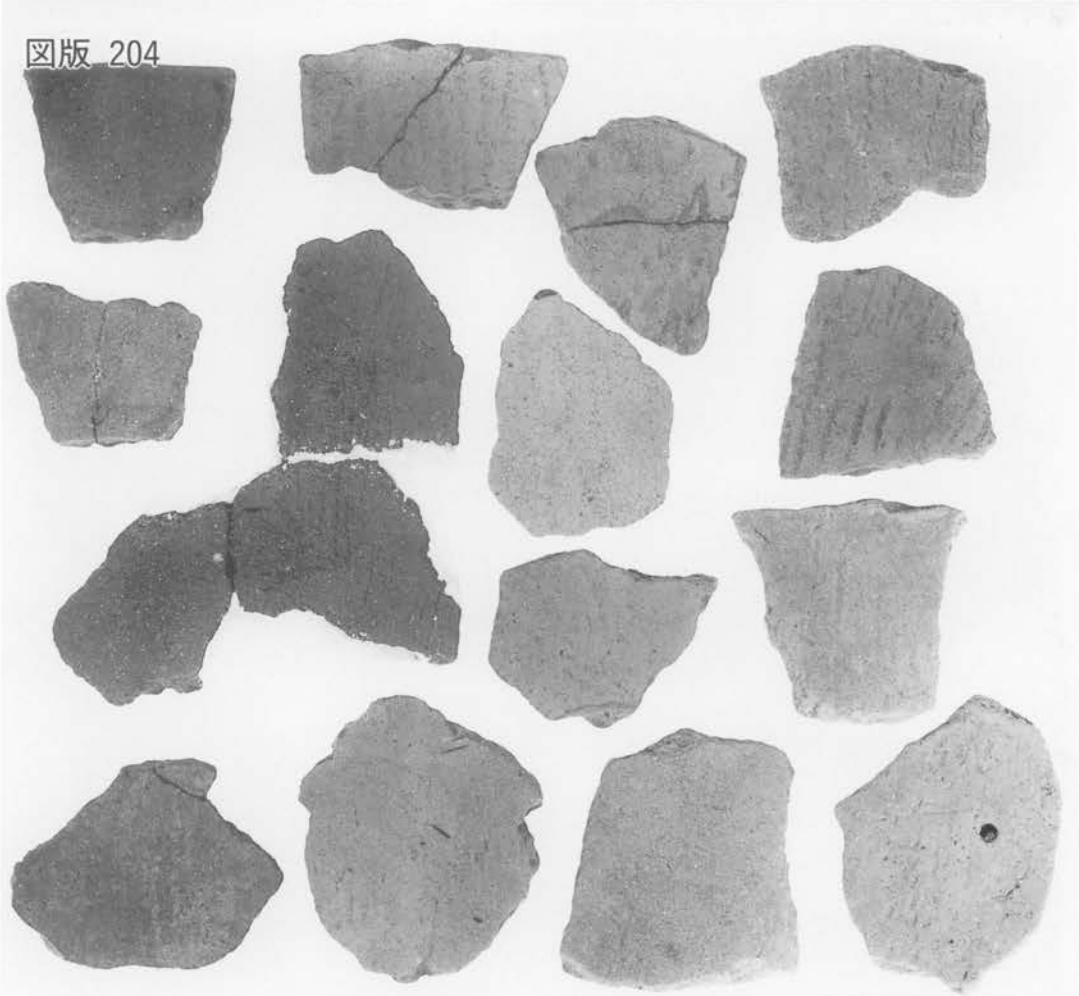


008号土坑



009号土坑



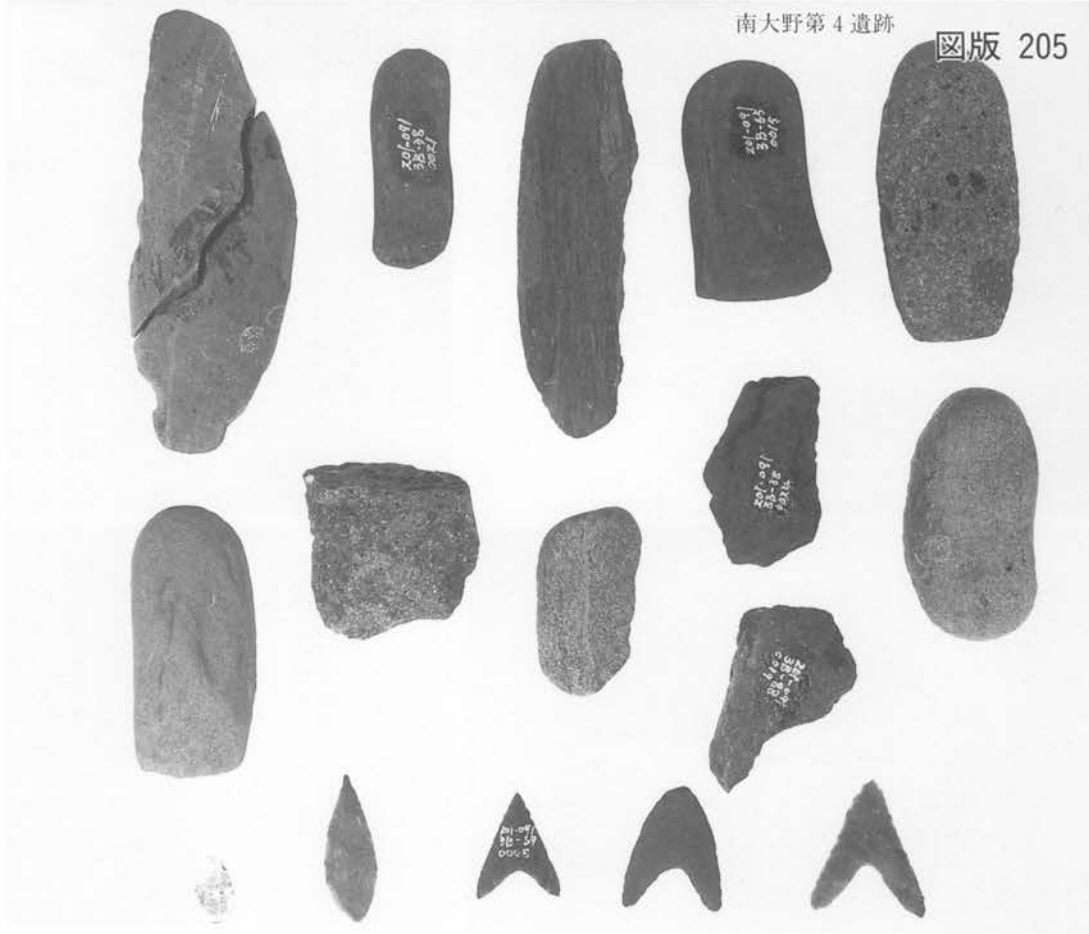


南大野第4遺跡

包含層出土土器



包含層出土土器





001号炭窯検出状況



同左炭窯断面



同上築口付近



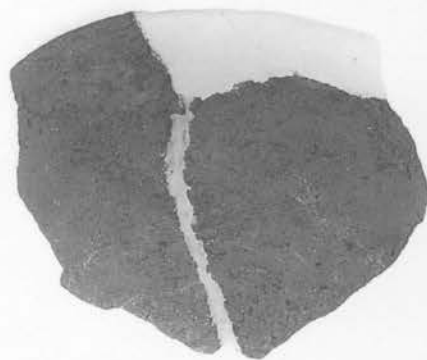
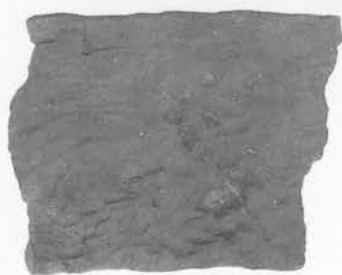
002号炭窯全掘



003号炭窯断面



003号炭窯全掘





001号炭窯全掘



002号炭窯全掘



002号炭窯断面



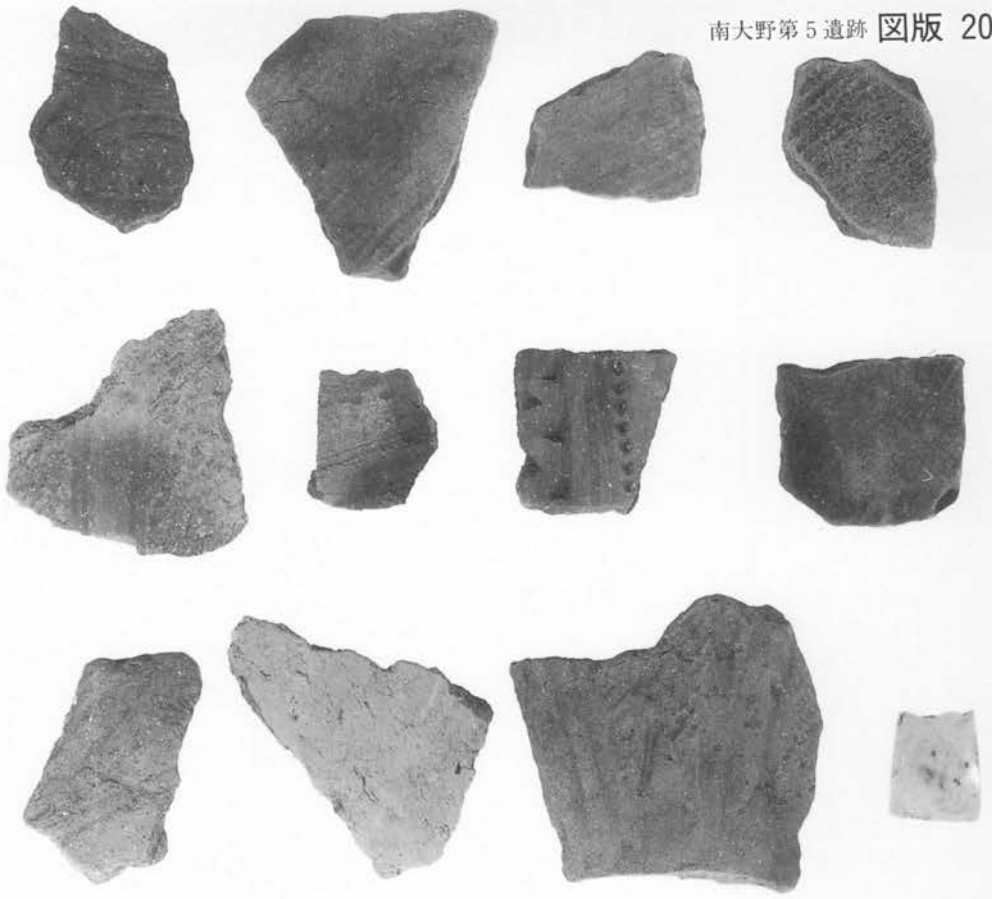
同上焚口付近



004号カマド



003号炭焼き作業場跡



包含出土土器及び石器

千葉県文化財センター調査報告第253集

土気緑の森工業団地内発掘調査報告書

第3分冊

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月31日 発行

発行 千葉県土地開発公社

編集 財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809番地2

印刷 凸版印刷株式会社
